

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター年報

平成 29 年 度



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

ま え が き

東京都健康長寿医療センターの平成29年度の事業・活動内容をまとめた「地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター年報 平成29年度」が完成しましたのでお届けいたします。

当センターは、平成21年4月より地方独立行政法人として運営を始めました。私達の基本理念は、「高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者のQOLを維持向上させるための研究を通じて高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担う」ことであります。

地方独立行政法人の運営におきましては、東京都議会の承認を経て中期目標および中期計画を定め、さらに年度毎に年度計画を作成し、提供する医療の質の向上、研究の進展および業務、財務内容の改善を図っております。

第1期（平成21～24年度）における独法評価委員会でいただいた評価やご指摘を踏まえて定められた第2期（平成25～29年度）の中期計画は、第1期に引き続き、上記基本理念を踏まえた取り組みを継続するとともに、1）都民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上、2）業務運営の改善とその効率化、3）財務内容の改善、という目標への取り組みをさらに深めるとともに、センター運営におけるリスク管理を強化することあります。

平成29年度は第2期の最終年度であり、これまでに独法評価委員会や運営協議会、研究所外部評価委員会でいただいた評価やご指摘も踏まえて定めました平成29年度計画に従って、医療、研究、業務および財務内容の改善を図りました。平成29年度は、平成25年6月に新施設に移転したメリットを生かした成果が現れ、より充実した医療が提供でき、より発展性の高い研究が進展した年度であったと考えております。同時に、平成30年から始まる地方独立行政法人としての第3期に向け、計画の立案と、それを可能とする体制の構築などを並行して進めました。平成29年度の実績・成果の詳細は、本年報に記述されております。ご高覧いただき、ご意見、ご批判をいただければ幸甚に存じます。

これからも、より一層高齢者への医療、研究に邁進いたしますと共に、業務・財務内容の改善を図っていきたいと考えておりますので、今後ともこれまでと同様のご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30年9月

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

理事長 井藤 英喜

目 次

まえがき

第一部 概要	1
1 概要	3
2 沿革	4
3 施設概要	6
(1) 建物の概要	6
(2) 建物断面図	6
4 基本理念及び運営方針	7
(1) 基本理念	7
(2) 運営方針	7
(3) 患者権利章典	7
5 組織	8
(1) 組織図	8
(2) 経営企画局の分掌事務	9
(3) 事務局	10
6 職員	14
(1) 職員構成	14
(2) 看護部配置状況	14
(3) 幹部職員一覧	15
(4) 非常勤職員	17
7 予算	18
8 センターにおける会議・委員会	19
(1) 地方独立行政法人東京都健康 長寿医療センター運営協議会	19
(2) 会議	19
(3) 各種委員会	20
9 指定・許可・学会認定	25
(1) 指定・許可状況	25
(2) 各種学会認定状況	25
(3) 各種学会施設認定に伴う指導医等一覧	26
10 平成29年度業務実績の全体的な概要	27
(1) 総括と課題	27
(2) 事業の進捗状況及び特記事項	28

第二部 病院部門	33
I 平成29年度運営報告	33
内科総括	35
総合診療科	38
膠原病・リウマチ科	39
腎臓内科・血液透析科	40
糖尿病・代謝・内分泌内科	41
循環器内科	42
呼吸器内科	43
消化器内科	45
神経内科・脳卒中科	46
血液内科	48
感染症内科	49
精神科	50
もの忘れ外来	52
緩和ケア内科	53
外科総括	55
外科	56
血管外科	57
心臓外科	58
脳神経外科	59
呼吸器外科	60
整形外科・脊椎外科	61
皮膚科	62
泌尿器科	63
眼科	64
耳鼻咽喉科	65
歯科口腔外科	66
救急診療部	67
麻酔科	68
中央手術室	69
特定集中治療室	70
リハビリテーション科	72
リハビリテーション科（理学療法担当）	75
リハビリテーション科（作業療法担当）	76
リハビリテーション科（言語聴覚担当）	77
リハビリテーション科（臨床心理担当）	78
放射線診療科	79
放射線治療科	80

内視鏡科	81	高齢者健康増進事業支援室	409
化学療法科	82	研究情報管理室	411
臨床検査科	83	東京都介護予防推進支援センター	412
輸血・細胞療法科	85		
病理診断科	86	II 長期縦断研究等	415
薬剤科	90	SONIC研究	417
栄養科	92	虚弱 (frailty) の予防戦術の解明を目的 とした長期縦断研究	419
臨床工学科	93	高齢期の健康と自立の維持と要介護予防 のための新たな検診システムの開発	421
認知症支援推進センター	94	都市高齢者の社会・経済・健康格差を 乗り越える研究	423
認知症疾患医療センター	96	東日本大震災被災者支援プロジェクト	425
臨床研究推進センター	99		
臨床試験管理センター	102	III 普及活動等	431
高齢者バイオリソースセンター	103	1 新聞・雑誌・テレビ等	433
高齢者健康増進センター	104	2 プレス発表	436
がん相談支援センター	105	3 老年学・老年医学公開講座等	437
看護部	106	4 友の会	438
医療連携室	118		
在宅医療・福祉相談室 (医療福祉相談)	121	第四部 補助金等	439
老年学情報センター	124	研究補助金・助成金等受入状況	441
養育院・渋沢記念コーナー	126	1 受託研究	441
研究活動	129	2 共同研究	441
病院部門課題研究費で行われた研究	210	3 奨学寄附	442
		4 国庫補助	444
II 統計	213	5 民間助成金	445
		6 受託事業	447
第三部 研究部門	271	7 学術指導	448
I チーム研究等	271	8 科学研究費	448
チーム研究	273	9 日本医療研究開発機構委託研究開発	452
老化機構研究チーム	274	10 研究委託費	454
老化制御研究チーム	283		
老化脳神経科学研究チーム	296		
老年病態研究チーム	305		
老年病理学研究チーム	316		
神経画像研究チーム	328		
社会参加と地域保健研究チーム	343		
自立促進と介護予防研究チーム	364		
福祉と生活ケア研究チーム	388		
研究支援施設等			
トランスレーショナルリサーチ推進室	403		
アイソトープ施設	405		
実験動物施設	406		

第一部 概 要

1 概 要

■名称	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
■所在地	東京都板橋区栄町35番2号
■電話	03-3964-1141 (病院部門代表) 03-3964-3241 (研究部門代表)
■設立団体	東京都
■開設年月日	平成21年4月1日
■役員	理事長 井藤 英喜 理事 許 俊鋭 監事 中町 誠 鶴川 正樹

〈病院部門〉

■診療規模	医療法定床 550床 (一般520床、精神30床) 外来 平均814人/日 (平成29年度実績)
■診療科目	[内科系] 内科、リウマチ科、腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、血液内科、感染症内科、緩和ケア内科、精神科 [外科系] 外科、血管外科、心臓外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科口腔外科、救急科、麻酔科 【その他部門】 リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科 ※臨床研修指定病院 (医師法、歯科医師法) ※診療科以外にも、臨床検査科、病理診断科を設置

■施設基準等の届出関係

・ 歯科外来診療環境体制加算	・ 移植後患者指導管理料	・ 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	・ 補助人工心臓
・ 一般病棟入院基本料	・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)	・ 植込型補助人工心臓 (非拍動流型)
・ 精神病棟入院基本料	・ 夜間休日救急搬送医学管理料	・ 運動器リハビリテーション料 (I)	・ 腹腔鏡下小切開腎摘出術
・ 超急性期脳卒中加算	・ がん治療連携計画策定料	・ 呼吸器リハビリテーション料 (I)	・ 腹腔鏡下小切開腎部分切除術、
・ 診療録管理体制加算1	・ 認知症専門診断管理料	・ がん患者リハビリテーション料	・ 腹腔鏡下小切開腎摘出術、
・ 医師事務作業補助体制加算1	・ 薬剤管理指導料	・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 腹腔鏡下小切開腎 (尿管) 悪性腫瘍手術
・ 急性期看護補助体制加算	・ 医療機器安全管理料1	・ 医療保護入院等診療料	・ 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・ 療養環境加算	・ 歯科治療総合医療管理料	・ 透析液水質確保加算2	・ 腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	・ 磁気による膀胱等刺激法	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 無菌治療室管理加算1, 2	・ 在宅植込型補助人工心臓 (非拍動流型) 指導管理料	・ CAD/CAM冠	・ 膀胱水圧拡張術
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検 (単独)	・ 胃瘻造設術 (内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 検体検査管理加算 (I)	・ 経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)	・ 輸血管管理料I
・ 栄養サポートチーム加算	・ 検体検査管理加算 (IV)	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・ 輸血適正使用加算
・ 医療安全対策加算1	・ 植込型心電図検査	・ 経カテーテル大動脈弁置換術	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 感染防止対策加算1	・ 時間内歩行試験	・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ 患者サポート体制充実加算	・ ヘッドアップティルト試験	・ 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術	・ 麻酔管理料 (I)
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・ 神経学的検査	・ 両室ベising機能付き植込型除細動器移植術及び両室ベising機能付き植込型除細動器交換術	・ 放射線治療専任加算
・ 総合評価加算	・ 補聴器適合検査	・ 大動脈バルーンパンピング法 (IABP法)	・ 外来放射線治療加算
・ 病棟薬剤業務実施加算1	・ 内服・点滴誘発試験		・ 高エネルギー放射線治療
・ データ提出加算	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影		・ 定位放射線治療
・ 退院支援加算 (加算1)	・ CT撮影及びMRI撮影		・ 病理診断管理加算2
・ 認知症ケア加算1	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算		・ 口腔病理診断管理加算2
・ 特定集中治療室管理料3	・ 外来化学療法加算1		・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 地域包括ケア病棟入院料1	・ 無菌製剤処理料		
・ 緩和ケア病棟入院料			
・ 高度難聴指導管理料			
・ 糖尿病合併症管理料			
・ がん性疼痛緩和指導管理料			
・ がん患者指導管理料1, 2, 3			

■救急告示

昭和40年3月18日 (更新平成21年8月1日)

〈研究部門〉

■研究体制	○老化メカニズムと制御に関する研究 ・ 老化機構研究チーム (分子機構研究、老化バイオマーカー研究、プロテオーム研究) ・ 老化制御研究チーム (健康長寿ゲノム探索研究、分子老化制御研究、生体環境応答研究) ・ 老化脳神経科学研究チーム (自律神経機能研究、記憶神経科学研究、神経生理研究) ○重点医療に関する病因・病態・治療・予防の研究 ・ 老年病態研究チーム (血管医学研究、生活習慣病研究、運動器医学研究)
-------	---

- ・老年病理学研究チーム
(高齢者がん研究、神経病理学研究(高齢者ブレインバンク))
- ・神経画像研究チーム
(脳機能研究、PET画像診断研究)
- 高齢者の健康長寿と福祉に関する研究
 - ・社会参加と地域保健研究チーム
(社会参加・社会貢献の促進に関する研究、老化・虚弱の一次予防と地域保健に関する研究)
 - ・自立促進と介護予防研究チーム
(筋骨格系の老化予防の促進に関する研究、介護予防の促進に関する研究、認知症・うつ予防と介入の促進に関する研究)
 - ・福祉と生活ケア研究チーム
(在宅療養支援方法の開発に関する研究、要介護化の要因解明と予測に関する研究、終末期ケアのあり方の研究)

構内配置図



2 沿革

明治 5. 10. 15	養育院創立	11. 5. 2	本院医療施設、定員731名で認可
5. 12. 1	病室建築に着手	16. 10. 1	医療保護法による医療保護施設として府知事より認可
6. 2. 3	病室を建築し、嘱託医師入所者の医療業務を開始	17. 3. 18	医療保護施設として定員763名
8. 4. 8	東京府下生活困窮者の伝染病治療をはじめ	20. 4. 13	米空軍B29による大空襲により、病院焼失
10. 6. 7	東京府下生活困窮者の無料診療、施薬開始	20. 9. 25	板橋の元陸軍造兵廠工員宿舎を借り、病院として再発足
22. 11. 26	出獄罹病者診療のための収容開始	22. 7. 24	医務課を廃止、付属病院開設
37. 10. 7	ハンセン氏病患者収容室、結核患者病室設置	33. 3. 31	附属病院建設工事竣工(470床)
大正 3. 10. 24	肺結核・痲疾患者の隔離治療のため板橋分院を開始	44. 1.	美濃部都知事、1,000床の老人専門病院建設の意向表明
4. 12. 27	板橋分院に一病棟増設、定員33名	44. 3. 1	老人病院建設準備室設置
昭和 5. 10. 1	本院医療施設、病院として開設許可	45. 7.	老人病院建設工事着工
8. 2. 9	本院作業室の一部を改造、高齢患者の病後静養室開設	45. 10.	老人病院開設準備委員会設置
11. 4. 10	外来診療所を開所、救護法による患者診療の実施	47. 4.	東京都老人総合研究所開所(研究部門)
		47. 4. 1	村上元孝病院長就任
		47. 4.	新附属病院及び「老人総合研究所」開設
		47. 6. 1	外来診療開始
		47. 6. 7	旧病院より新病院へ入院患者を移送

47.	8.	31	第1回養育院附属病院運営協議会開催 (現在の病院は、昭和47年に竣工したものであり、この時より一般市民も利用できる高齢者医療の専門病院という形で運営されている。)	11.	10.	18	国際高齢者年記念講演会開催
				11.	10.	29	第6回東京都老年学会開催
				12.	1.		区西北部二次保健医療圏等医療連携協議会の開催
				12.	4.	1	老人医療センターホームページを開設
53.	6.	1	病院防災工事開始	12.	10.		地域連携会の開設
53.	8.	20	第11回国際老年学会の事務局となる	12.	10.	13	第7回東京都老年学会開催
54.	5.	11	精神科病棟開設	13.	1.		高血圧外来、不整脈外来、めまい外来の開設
56.	10.		財団法人東京都老人総合研究所に改組	13.	2.		東洋医学外来の開設
(研究部門)				13.	4.	1	高齢者施策推進室は福祉局に統合となる
59.	1.	4	「老年学情報センター」開設	13.	12.		老人医療センター院内LAN稼働
59.	4.	1	村上元孝病院長は名誉院長となる	13.	12.	18	第8回東京都老年学会開催
59.	4.	2	豊倉康夫病院長就任	14.	4.		地域福祉財団と統合し、新たに財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所として発足 グループ研究制に組織改正 (研究部門)
59.	9.		米国国立老化研究所 (NIA) との間で研究協力に関する協定の締結 (研究部門)	14.	9.	21	老人医療センター30周年記念式典開催
59.	12.	1	事務室医事課における医事事務の電算化を実施	14.	10.	1	林泰史院長就任
60.	12.	3	血液科病棟においてクリーンルーム (2床) を開設	14.	11.	29	第9回東京都老年学会開催
61.	4.	1	「老人医療センター」と名称を変更	15.	7.	16	オーダーメイド医療実現化プロジェクト参画
62.	4.	1	臨床研修病院の指定を受ける	15.	9.		SARS診療協力医療機関に指定
63.	3.	25	MR棟竣工	15.	10.	15	第10回東京都老年学会開催
63.	3.		中華人民共和国北京老年病医療研究中心との研究交流事業に関する協定に調印 (研究部門)	15.	12.	8	高齢者いきいき外来の開設
63.	9.		ソビエト連邦医学アカデミー老年学研究所との間で研究協力覚書の交換 (研究部門)	16.	5.	24~26	病院機能評価受審
			(現ウクライナ医学アカデミー老年学研究所)	16.	8.	1	「福祉局」と「健康局」が統合され「福祉保健局」となる
63.	10.	5	結核病棟を廃止、普通病棟とする	16.	8.	23	病院機能評価認定
				16.	11.	5	第11回東京都老年学会開催
平成元.	1.	20	村上元孝名誉院長逝去	18.	1.	12	東京都老年学会と東京都保健医療学会が統合され東京都福祉保健医療学会として開設
	2.	4.	1	17.	4.		コア研究体制に組織改正 (研究部門)
	2.	4.	1	18.	4.	1	井藤英喜院長就任
	2.	7.	1	18.	7.	13	東京都が発表した「行財政改革実行プログラム」の中で、老人医療センターと老人総合研究所は、地方独立行政法人への移行を目指すことに決定。
	2.	7.	2	18.	11.	2	平成18年度東京都福祉保健医療学会開催
	2.	8.	6	19.	5.	31	福祉保健局が「板橋キャンパス再編整備基本構想」を公表。
	2.	9.		21.	4.	1	東京都老人医療センターと東京都老人総合研究所が統合し、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターとして新たに発。外来化学療法室の開設
	3.	2.	15	23.	1.		新施設建設着工
	3.	4.	1	23.	9.		緩和ケア内科の開設
	3.	4.	1	24.	1.		救急診療部の開設
	4.	7.	4	24.	2.		東京都認知症疾患医療センターの指定を受ける
	5.	4.	2	24.	3.		東京都大腸がん診療連携協力病院の指定を受ける
	6.	5.	31	25.	3.		在宅医療連携病床の新設
	6.	6.	11	25.	6.		新施設開設
	6.	7.	1	25.	12.		災害拠点病院指定
	7.	3.	30	27.	4.	1	井藤英喜理事長、許俊鋭センター長就任 事務部門の組織改正 (事務部長の設置、4課から3課体制に改編)
	7.	6.	10	27.	7.	1	認知症支援推進センターの設置
	8.	3.	15	27.	7.	1	臨床試験管理センターの設置、治験管理センター (治験事務局) の廃止
	8.	4.	10	28.	1.	1	がん相談支援センターの設置
	8.	9.	28	28.	4.	1	医療戦略室の設置
	9.	4.	1	29.	6.	12	第10,000例目の病理解剖を実施
	9.	4.	2	29.	10.		ICU・CCUの再編・SCUの開設
	9.	7.	16				
	9.	7.	16				
	9.	9.	1				
	9.	9.	1				
	9.	10.	8				
	9.	12.	1				
	9.	12.	10				
	10.	10.	8				
	10.	10.	8				
	11.	1.	11				
	11.	4.	1				
	11.	5.					
	11.	7.	26				
	11.	9.	30				
	11.	10.	4				

3 施設概要

(1) 建物の概要 (平成30年3月31日現在)

構造 - 鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造)

規模 - 地下2階、地上12階、塔屋1階

面積 - 延61,619.45㎡

(2) 建物断面図

	緩和ケア内科		
	西病棟	東病棟	
12F			
11F	血液内科 化学療法科	精神科	
10F	神経内科 脳卒中科	神経内科 脳卒中科 脳神経外科 皮膚科	
9F	糖尿病・代謝・内分泌内科 歯科口腔外科 腎臓内科 総合診療科	総合診療科 呼吸器内科 感染症内科	
8F	消化器内科	膠原病・リウマチ科 消化器内科	
7F	外科 血管外科 耳鼻科咽喉科 泌尿器科	外科 血管外科 眼科	
6F	整形外科 脊椎外科 在宅医療連携病床 リハビリテーション科	整形外科 脊椎外科 リハビリテーション科	
5F	循環器内科	循環器内科 心臓外科 呼吸器外科 心臓リハ	実験動物施設
4F	特定集中治療室 (ICU/CCU・SCU) ペインクリニック	血管造影室 中央滅菌材料室 病理診断科	副所長室(自然科学系) 老化機構研究チーム 老年病態研究チーム 老年病理学研究チーム
3F	リハビリテーション科 血液透析科(透析センター)	医局 当直室	老化機構研究チーム 老化制御研究チーム 老化脳神経科学研究チーム 老年学情報センター
2F	外来診療部門 認知症疾患医療センター 養育院・渋沢記念コーナー 食堂、売店	化学療法科 臨床検査科 輸血・細胞療法科 術前検査センター	臨床試験管理センター 臨床研究推進センター 経営企画局 看護部
1F	総合受付 外来診療部門 喫茶	内視鏡科 臨床検査科(採血・採尿) 医療連携室 在宅医療・福祉相談室	放射線診断科 救急診療部 医療サービス推進課 防災センター
MB		電話交換機室	高齢者バイオリソースセンター
B1	放射線治療科	薬剤科 栄養科 病理診断科	リネン、倉庫 中央監視室 電気室、機械室
	外来棟	病棟	研究棟

4 基本理念及び運営方針

(1) 基本理念

センターは、高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者のQOLを維持・向上させるための研究を通じて、高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担う。

(2) 運営方針

ア 病院運営方針

- ・患者さま本位の質の高い医療サービスを提供します。
- ・高齢者に対する専門的医療と生活の質（QOL）を重視した全人的包括的医療を提供します。
- ・地域の医療機関や福祉施設との連携による継続性のある一貫した医療を提供します。
- ・診療科や部門・職種の枠にとらわれないチーム医療を実践します。
- ・高齢者医療を担う人材の育成及び研究所との連携による研究を推進します。

イ 研究所運営方針

- ・東京都の高齢者医療・保健・福祉行政を研究分野で支えます。
- ・地域の自治体や高齢者福祉施設と連携して研究を進めます。
- ・国や地方公共団体、民間企業等と活発に共同研究を行います。
- ・諸外国の代表的な老化研究機関と積極的に研究交流を行います。
- ・最先端技術を用いて老年病などの研究を行います。
- ・研究成果を公開講座や出版によりみなさまに還元します。

(3) 患者権利章典

患者さまは、人間として尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は、患者さまと医療提供者とが、信頼関係に基づいてともに作り上げていくものです。

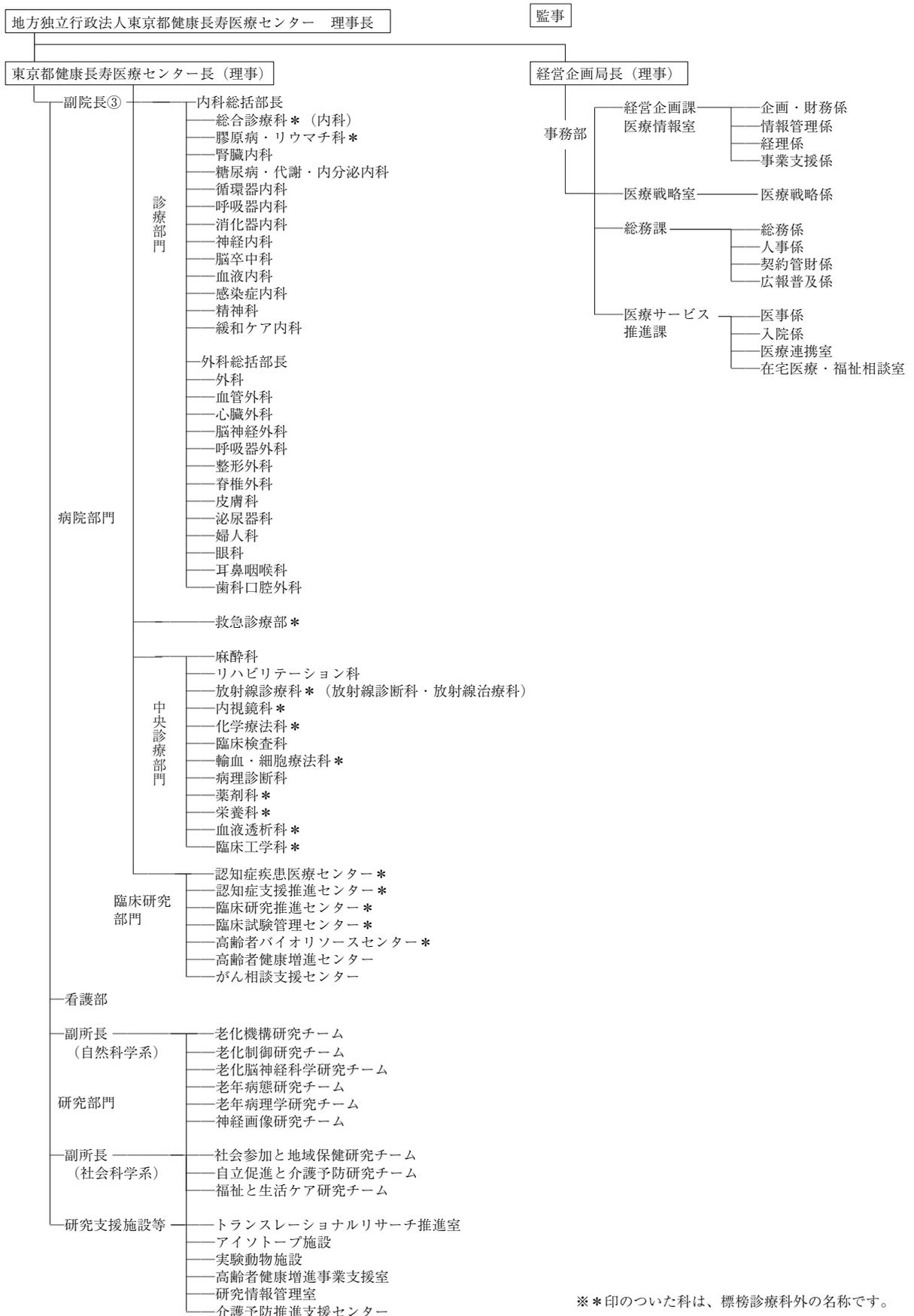
当センターは、このような考え方に基づき「患者権利章典」を制定し、これを守り、患者さま中心の医療を実践していきます。

患者さまもこの趣旨をご理解いただき、自らの意思と責任で医療に参加して下さるようお願いいたします。

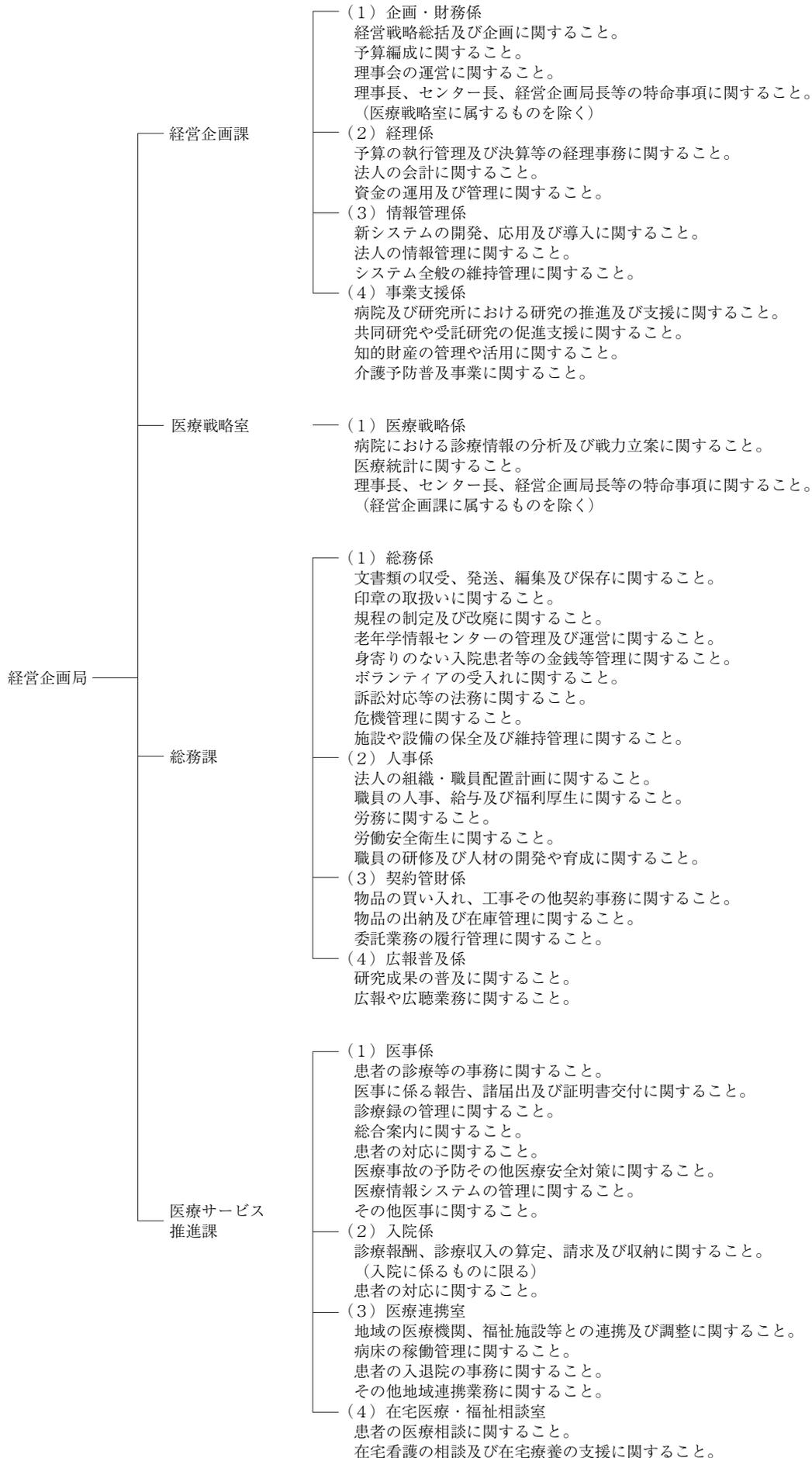
- 1 だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 2 だれもが、一人の人間として尊重され、医師や看護師など医療提供者との相互協力のもとで医療を受ける権利があります。
- 3 病気や検査、治療について、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明を受ける権利があります。
- 4 治療方法などを自分の意思で選択する権利があります。
- 5 自分の診療記録の開示を求める権利があります。
- 6 診療の過程で得られた患者さまの個人情報や療養中のプライバシーが守られる権利があります。
- 7 研究途上にある医療に関し、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたうえで、その医療を受けるかどうかを決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでもその医療を拒否する権利があります。
- 8 良質な医療を実現するためには、医師をはじめとする医療提供者に対し、患者さま自身の健康に関する情報をできるだけ正確に提供する責任と義務があります。
- 9 納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについて、十分理解できるまで質問する責任と義務があります。
- 10 すべての患者さまが適切な医療を受けられるようにするため、患者さまには、他の患者さまの治療や病院職員による医療提供に支障を与えないよう配慮する責任と義務があります。

5 組織

(1) 組織図 (平成30年3月31日現在)



(2) 経営企画局の分掌事務 (平成30年3月31日現在)



(3) 事務局

ア 経営企画局事務部

(ア) 経営企画課

経営企画課は、理事長のトップマネジメントを補佐する役割を担い、課内はもとより総務課、医療サービス推進課及び医療戦略室と情報を共有し綿密に意思疎通を図りながら、センター第二期中期計画及び年度計画の達成に向け、病院及び研究所の円滑な業務運営をサポートした。

また、平成30年度から始まる第三期中期期間の計画を策定するとともに、センターが抱える諸課題の解決に向けて果敢に取り組んだ。

① 経営改善に向けた取組

センター経営の改善・効率化を図るため、経営戦略会議及び病院運営会議等の各種会議において、センターの収支、実績等の報告及び分析を行い、課題点と改善策の検討を行った。検討にあたり、より実効性ある経営改善につなげるため、原価計算及び他病院とのベンチマーク比較、年度計画の進捗状況に関する各診療部門からのヒアリングなどを実施した。

また、病院における経営改善活動として、当院の病院機能に適した患者にさらに来院いただくためのワーキンググループや医療材料費のさらなる適正化に向けたワーキンググループを通して、現場の課題洗い出しや解決に向けた取組を推進した。

さらに、平成30年度予算の策定にあたり予算要求部署へのヒアリングを行うとともに、当初予算明細書を作成し、より厳格な予算管理体制を構築した。

② 電子カルテ等各種システムの維持管理

現行の電子カルテ医療情報システム等の各種システム、財務会計システム及び人事給与システムが安定的に稼働するようサポートするとともに、情報セキュリティ対策の徹底に努めた。また、平成31年1月1日に予定している次期医療情報システム導入に向けて、業者の選定、現場へのヒアリング、ワーキングの準備等を行い、着実に業務を推進した。

③ 経営状況の把握と効率的な会計処理方法の検討

適時の経営判断に資するため、月次決算などの充実を図り、財務内容の把握をきめ細かく行うとともに、より効率的な会計処理方法の検討や財務会計システムの適切な運用に努めた。

また、法人が抱えるリスクを洗い出し、適法性、合理性及び効率性の観点から適切な内部監査を実施したほか、会計監査人及び監事監査の指摘や意見について適切に対応した。

④ 研究活動の推進に向けた取組

研究活動の推進に向けて、研究関係諸会議（研究推進会議、研究所幹部会議、外部評価委員会、研究不正防止委員会、利益相反委員会、職務発明審査会、研究審査委員会、研究部門倫理委員会、研究員等選考委員会等）を運営するとともに、研究員の採用、協力研究員・研究生・連携大学院生の受入や、平成27年度に構築した研究費不正使用防止対策のもと、研究費の受入・執行（契約・検査を含む。）等の諸手続きを行った。その他、基礎研究の成果の臨床応用に向けて、トランスレーショナルリサーチ研究の推進に取り組んだ。

(イ) 総務課

① 人材確保及び人材養成

高齢者医療を安定的・継続的に提供するため必要な法人の人材として、平成29年度は医師21名、研究員4名、看護師96名、医療技術員17名、事務11名を採用した。看護師採用については7対1看護導入を受け積極的に行い、修学資金貸与、保育料の助成制度等の看護師確保対策・離職防止対策を実施した。

医療従事者及び研究者の育成については、医科・歯科研修医50名、都立看護学校を始め計32施設から764名の実習生及び研修生を受け入れたほか、連携大学院や大学・研究機関から学生や研究者を受け入れた。

② 契約状況

平成29年度の契約状況は、物品の買入れ325件、修理・修繕18件、印刷製本168件、委託328件、物品借り入れ72件、工事6件で、合計917件であった。

③ 施設・設備の維持・管理と環境整備

施設・設備に不具合が生じた際には、必要性・緊急性なども考慮しながら順次改善を図っている。また、新施設稼働から5年経過したこともあり、経年劣化への対応や消耗部品の交換など、計画的に修理・補修を行い、施設を最善の状況に保つよう留意している。さらに、光熱水費等についても、使用量の管理と適切な需給契約締結により、省エネルギーの実現と経費節減に向けた対策を実施している。

④ 災害・危機管理対策の実施

災害拠点病院としての任務を果たすために、迅速かつ効果的な医療提供が円滑にできるよう体制強化を図った。7月には区西北部医療圏内の東京都災害拠点病院と連携し、トリアージの基本を学ぶため、東京都トリアージ研修を実施するとともに、内閣府、厚生労働省DMAT事務局、東京都福祉保健局主催の平成29年度大規模地震時医療活動訓練に参加した。また、大規模災害訓練に向け、机上訓練を実施するとともに、10月には、東京都立板橋看護専門学校の学生を模擬患者役とし、首都直下型地震を想定した大規模災害訓練を実施した。さらに12月には、DMATが東京都災害拠点病院NBC訓練に参加し、核・生物、化学物質など特殊災害対応について知識の習得を行った。

⑤ 国際交流の推進

韓国、台湾、ノルウェー、アメリカ、タイなどから視察を受け入れた。

⑥ 診療内容及び研究成果の広報普及

診療内容及び研究成果についてマスコミ等へ情報提供するほか、理解・利用してもらうために、区等から共催・後援を得て、老年学・老年医学公開講座等の講演会を都内各地で開催した。また、小学5年生～中学3年生を対象としたサイエンスカフェを開催した。

さらに、センター（法人、病院、研究所）のホームページ、「糸でんわ」、「研究所NEWS」、各種パンフレット等を活用し広く都民に情報の提供を行った。職員向けには「ひだまり」を発行した。

老年学・老年医学公開講座	年間4回開催
サイエンスカフェ	年間1回開催
科学技術週間参加行事	年間1回開催
「糸でんわ」	年間6回発行
「研究所NEWS」	年間6回発行
「ひだまり」	年間4回発行

(ウ) 医療サービス推進課

高齢者の急性期病院として、医療資源の有効活用と健全な病院経営を目指し、在院日数の短縮と病床稼働率の確保を組織的な目標として掲げている。在院日数の短縮について、退院調整チームの活用や各病棟別の在院患者一覧表による管理体制の実施により、平成29年度平均在院日数は12.1日、病棟稼働率は85.9%であった。診療録の開示については、156件の開示請求交付申請があった。

院内の医療安全管理対策については、安全管理委員会等の事務局として、院内各診療科・各部門との協力体制により年度活動計画を策定し、安全管理講演会の開催、各種研修会・勉強会及び医療安全推進週間を設定し、安全管理体制の徹底と職員の医療安全に対する意識の向上に取り組んだ。

セカンドオピニオンについては血液内科を中心に40件の申請があった。

さらに、医療問題に迅速に対応するため、平成23年度よりオンラインによるレポート登録システムを導入し、平成29年度は2,911件の報告があった。

なお、医療サービス推進課は次の委員会の事務局となっている。

特定感染症予防対策委員会、感染症対策小委員会、診療委員会、クリニカルパス推進委員会、保険委員会、医療安全管理委員会、医療品安全管理委員会、病歴委員会、個人情報保護推進委員会、事例検討会議、院内事故調査委員会、リスクマネジメント推進会議、患者サービス向上委員会、医療連携推進委員会、がん診療推進委員会、DPC・原価計算経営管理委員会

① 患者動向

平成29年度の外来患者数は、1日平均814人と1人の減だった。入院患者は1日平均472人と8人の減となり、病棟稼働率85.9%で1.5ポイントの減であった。平均在院日数は12.1日と目標値15日以内をクリアする結果となった。

② 診療報酬等の動き

診療報酬収入は、年間で127億4百万円(室料除く)と前年度と比較して、3億2千7百万円、2.6%増となった。また、査定率は、年度平均で0.30%であった。

10年間の患者数等の推移

年度	入院患者数		外来患者数	
	1日平均(人)	病床利用率(%)	1日平均(人)	対前年伸率(%)
20	544	86.4	674	△ 6.1
21	505	88.7	671	△ 0.4
22	501	88.1	682	1.6
23	488	85.7	701	2.7
24	481	84.5	711	1.4
25	441	79.7	703	△ 1.1
26	445	80.8	753	7.1
27	474	86.2	802	6.5
28	480	87.4	815	1.6
29	472	85.9	814	△ 0.1

③ DPCについて

平成21年7月から、DPC実施病院として診療報酬請求を開始した。平成23年10月より入院計算業務の直営化にともないDPCコーディングは病院職員が行うこととした。また、DPC対策として、診療情報管理士によるDPCコーディング精度の向上、術前検査センターの活用、外来化学療法法の活用、クリニカルパスの見直し、DPC・原価計算経営管理委員会で診療科のDPC分析等を実施した。

(エ) 医療戦略室

医療情報システムなどに蓄積されている情報やDPCデータを用いて経営指標に合わせたデータ抽出および分析、診療報酬改定にかかわる収益調査・分析や対策立案を行った。

また、増収増益やコスト削減、医療安全、医療の質向上などに活用できるデータ抽出など、必要に応じて定量的に判断できる形式で、継続的に比較できるよう整理した。さらに、各種データをもとに各種会議にて報告と検討を行い、病院経営改善につなげた。

① 原価計算

科別の原価計算を行い、毎年度行う病院幹部と各診療科とのヒアリングに活用するとともに、計算手法の改善を検討した。

② 医療の質評価

今年度も「全国自治体病院協議会」による医療の質評価事業に引き続き参加し、データ提供を行った。

③ 地域包括ケア病棟（継続案件）

地域包括ケア病棟の安定稼働を目的とし、継続的なフォローを行ってきた。年間の稼働率は88.5%となっており、増収につながっていると考えている。また、DPC期間Ⅲ及びⅢ超えの割合も、年間平均37.1%から35.0%と2.1ポイントの減少となった。

④ ICU/CCUの再編およびSCU（脳卒中ケアユニット）の設置

集中治療室の人員、設備を効率的に活用するため、平成29年10月よりSCU（脳卒中ケアユニット）を開設した。従来のICU/CCU14床を、SCU 6床、ICU/CCU 8床に分割することにより、集中治療室全体の利用率向上と脳卒中患者の受入を図った。

⑤ 医療マネジメントスクールの開催

職員の経営意識とリーダーシップを高め、組織活性化を図るため、医療マネジメントにかかるケース勉強会を実施した。講師は外部でビジネススクールの講師等も務めているセンター医師が担当し、「ハーバードビジネススクールのケース・メソッド（翻訳版）」を教材として、ディスカッション形式の勉強会とした。主な対象は中間管理層（ミドルマネジャー）として募集形式にて参加者を募り、全4回を開催し、延べ参加者は105人であった。（そのうち皆勤者は7人であった。）

6 職員

(1) 職員構成（職種と定数）

（平成30年3月31日現在）

職 種			職 種			
	種	計画数		種	計画数	
事務系	一般事務	80	医療技術	薬剤師	35	
	計	80		診療放射線技師	29	
福祉	福祉（MSW）	11		歯科衛生士	1	
	心理	8		歯科技工士	1	
	福祉技術（ST）	4		理学療法士	17	
	計	23		作業療法士	8	
医師	医師	121		臨床検査技師	43	
	歯科医師	3		栄養士	7	
	計	124		医療技術（臨床工学技士）	13	
研究員	研究員	88		視能訓練士	2	
	計	88		技能	1	
				計	157	
				看護	看護師	481
					計	481
					計	953

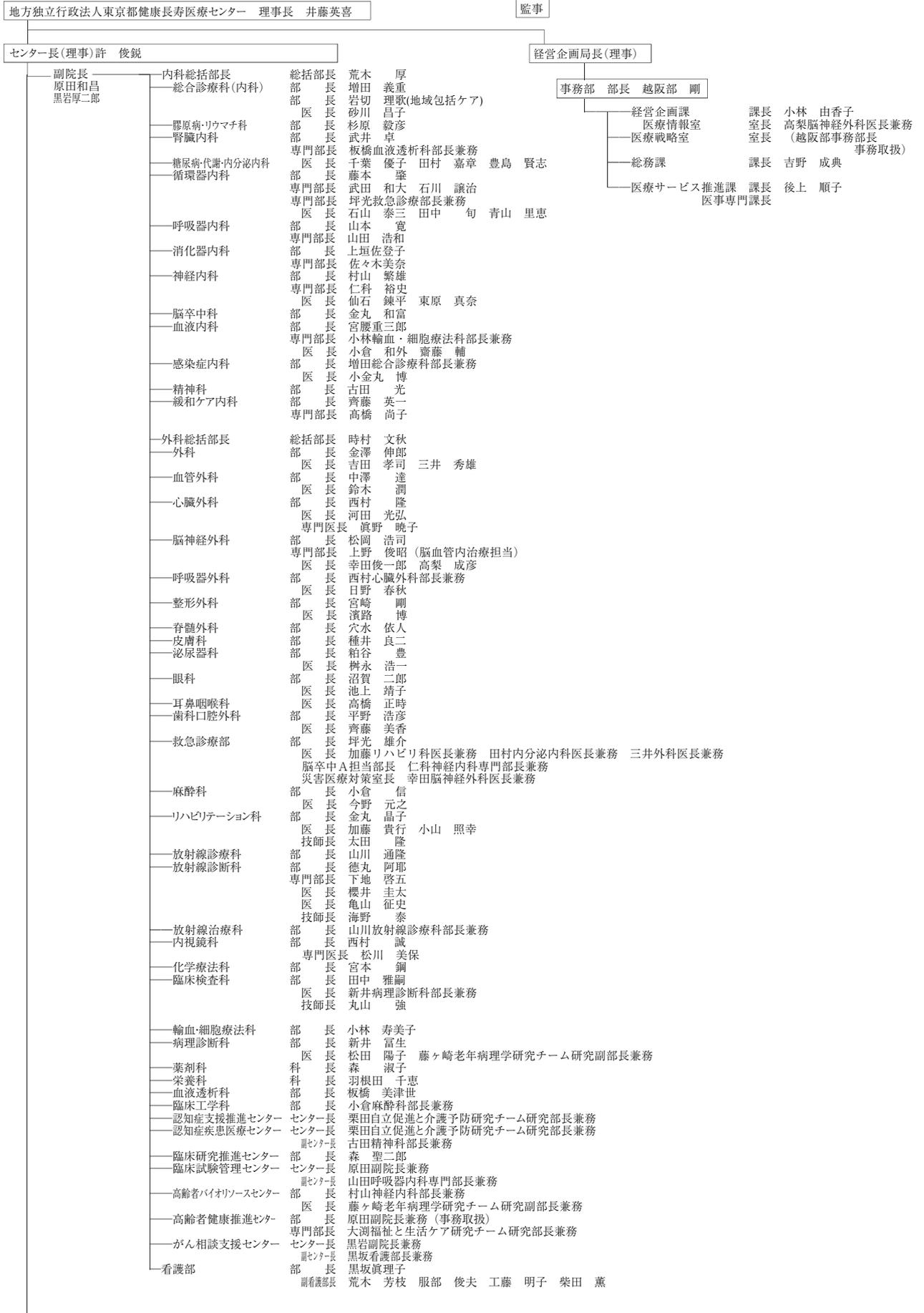
※ 役員は含んでいない。

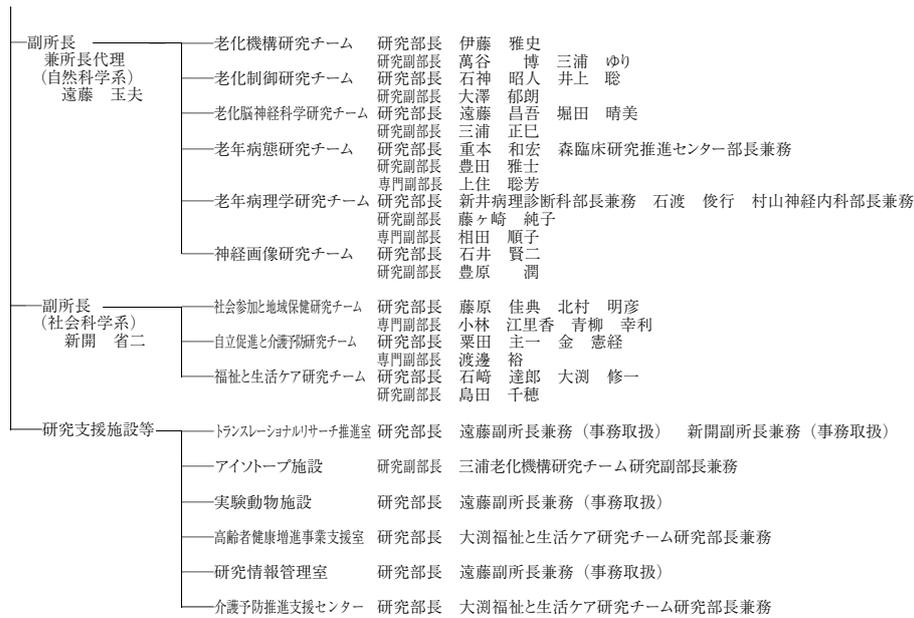
(2) 看護部配置状況

平成30年3月31日現在

病棟・診療科	定床数	現 員				夜勤体制 （準-深）
		管理職	看護師長	看護師	計	
5東 循環器内科、心臓外科、心臓リハ	37		1	23	24	3-3
5西 循環器内科	37		1	24	25	3-3
6東 整形外科、脊椎外科、リハビリ科	38		1	21	22	3-3
6西 整形外科、脊椎外科、内科系診療科、 リハビリ科、在宅医療連携病床	37		1	21	22	3-3
7東 外科、血管外科、眼科	37		1	22	23	3-3
7西 外科、血管外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科	38		1	22	23	3-3
8東 膠原病・リウマチ科、消化器内科	38		1	23	24	3-3
8西 消化器内科	38		1	23	24	3-3
9東 総合診療科、感染症内科、呼吸器内科、 緩和ケア科	38		1	22	23	3-3
9西 糖尿病・代謝・内分泌内科、歯科口腔外科、 腎臓内科、総合診療科	38		1	21	22	3-3
10東 神経内科、脳卒中科、脳神経外科、皮膚科、 内科系診療科	37		1	23	24	3-3
10西 神経内科、脳卒中科	37		1	22	23	3-3
11東 精神科	30		1	16	17	2-2
11西 血液内科、化学療法科	36		1	23	24	3-3
12階 緩和ケア内科	20		1	20	21	3-3
特定集中治療室（ICU/CCU）	8		1	28	29	4-4
SCU	6		1	15	16	2-2
手術室			1	24	25	
外来			1	20	21	
内視鏡				2	2	
救急外来			1	19	20	
在宅看護			1	1	2	
看護部		5	7	1	13	
再 掲	リスクマネージャー		1		1	
	病床管理担当		1		1	
	感染管理認定看護師		1		1	
	皮ふ・排泄ケア認定看護師		1		1	
	認知症看護認定看護師		1		1	
	緩和ケア認定看護師		1		1	
	糖尿病認定看護師		0	1	1	
研修教育担当		1		1		
合 計	550	5	28	436	469	

(3) 幹部職員一覧 (平成30年3月31日現在)





(4) 非常勤職員

地方独立行政法人への移行に伴い、新たに「非常勤スタッフ等就業規則」を制定し「非常勤スタッフ」、「臨時スタッフ」及び「シニアスタッフ」に整理した。適用範囲は、いずれも常時勤務することを要しない、所定勤務時間が週38時間45分以内かつ1年以内の契約期間により雇用される職員となる。

都の非常勤職員設置要綱の規定により設置されていた顧問医、専門医、研修医及び旧研究所の非常勤研究員を「非常勤スタッフ」とし、非常勤職員設置要綱により設置されていた医療技術員及び同臨時職員設置要項により設置されていた臨時職員（医療技術員および事務職員）を統合し、「臨時スタッフ」とした。

平成25年3月、これまで非常勤としていた「シニアスタッフ」については、都の再任用職員と同様の位置付けであり、勤務条件等は常勤職員に準ずる旨を明確にするため、同規則の適用範囲から除外し、新たに「シニアスタッフ就業規則」を制定した。

○非常勤スタッフ

高度に専門的な業務等に従事するために採用された常勤以外の職をいう。

非常勤医員は次4つに区分される。勤務日数の上限はいずれも月16日以内である。

- ・顧問医……業務内容：困難手術執刀、診療指導。大学教授相当であること。
- ・専門医……業務内容：外来診療、手術執刀、読影等。医歴5年以上であること。
- ・麻酔科医…業務内容：麻酔業務。麻酔科医であること。
- ・研究医……業務内容：臨床研究、診療。

研修医は、次の3つに区分され、勤務時間はいずれも週38時間45分（フルタイム）である。

- ・専門臨床研修医……業務内容：専門臨床研修
- ・初期臨床研修医……業務内容：初期（医科）臨床研修
- ・歯科臨床研修医……業務内容：歯科臨床研修

非常勤研究員は、次の2つに区分され、勤務日数の上限はいずれも月16日以内である。

- ・チーム研究員……業務内容：チーム研究業務。研究歴5年以上であること。
- ・受託研究員……業務内容：受託研究業務。

○臨時スタッフ

緊急若しくは臨時の業務への従事、事務・技術の補助的業務への従事又は常勤職員の欠員の補充等のために採用された常勤以外の職をいう。

- ・医療技術員……業務内容：医療技術の提供等
- ・事務・技術系…業務内容：一般事務、医療事務、看護助手、医療技術補助等。

○シニアスタッフ

定年を迎えた職員の知識・経験・技術の活用を図る目的で期間を定めて雇用する者をいう。

非常勤職員配置状況

(平成30年3月31日現在)

種別	科目	総合診療科(内科)	膠原病・臓器内科	糖尿病・代謝・内分泌内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	神経内科	血液内科	感染症科	精神科	緩和ケア科	外科	血管外科	心臓科	脳神経科	呼吸器科	整形外科	皮膚科	泌尿科	眼科	耳鼻科	救急科	歯科	麻酔科	放射線科	放射線科	内視鏡科	化学療法科	病理科	薬剤科	血液科	臨床検査科	認知症支援推進センター	臨床研究推進センター	臨床試験管理センター	バイオリソルスセンター	看護部	研究部	経営企画	総務課	医療サービス推進課	総計						
専門医		2	3	2	20	5	5	9	2	3	2	3	4	7	8	3	8	2	6	5	5	3	15	2	15	2	1	1	4		3			1	1							152							
研修医		2	3	2	4	3	2	3	6	2	1	1					1	1		6	1	2	2	1	1				3													48							
研究員																																							97					97					
医療技術				6							5	4									3	1	2	3	3				4	1	5	6		2	1	2	2	40	5				95						
事務				2	1			1																									3	2		1	37	23	9	13	29	128							
総計		2	5	5	14	24	0	7	8	16	2	2	9	6	4	4	7	8	3	9	1	2	15	7	7	7	16	4	5	17	2	1	5	9	10	6	3	2	3	3	2	4	1	77	125	9	13	29	520

7 予算（平成29年度）

（単位：千円）

区 分	金 額
収入	
営業収益	18,285,073
医業収益	13,299,265
研究事業収益	49,870
運営費負担金収益	2,802,900
運営費交付金収益	1,980,170
補助金収益	27,672
雑益	125,196
営業外収益	106,646
寄附金	700
財務収益	240
雑収益	105,706
資本収入	496,000
運営費交付金	－
長期借入金	496,000
その他の資本収入	－
受託研究等外部資金収入	684,417
計	19,572,136
支出	
営業費用	18,007,531
医業費用	14,463,678
給与費	7,657,913
材料費	4,436,648
委託費	1,007,592
設備関係費	760,204
経費	543,152
研究研修費	58,169
研究事業費用	1,478,408
給与費	998,561
材料費	39,926
委託費	78,659
設備関係費	116,076
経費	61,267
研究研修費	183,919
一般管理費	2,065,445
営業外費用	－
臨時損失	－
資本支出	1,741,593
建設改良費	983,900
長期借入金償還金	757,693
その他の支出	－
受託研究等外部資金支出	620,171
計	20,369,295

8 センターにおける会議・委員会

(平成30年3月31日現在)

(1) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター運営協議会

- 目的：外部有識者による意見や助言を受け、都民ニーズに応えた業務運営を実施するため
- 審議事項：センターの事業内容及び運営方針、その他運営上必要な事項に関する事
- 構成委員：以下のとおり

(敬称略)

氏名	所属
折 茂 肇	公益財団法人骨粗鬆症財団 理事長
鈴 木 隆 雄	桜美林大学 老年学総合研究所 所長
新 田 國 夫	一般社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会 会長
秋 山 正 子	株式会社ケアーズ 白十字訪問看護ステーション 統括所長 暮らしの保健室 室長
坂 本 健	板橋区長
尾 崎 治 夫	公益社団法人東京都医師会 会長
高 橋 清 輝	公益社団法人豊島区医師会 会長
増 田 幹 生	一般社団法人東京都北区医師会 会長
水 野 重 樹	公益社団法人板橋区医師会 会長
金 子 治	公益社団法人東京都板橋区歯科医師会 会長
小 山 寿 雄	一般社団法人練馬区医師会 会長
植 木 浩	患者代表
粉 川 貴 司	東京都福祉保健局高齢社会対策部長
稲 葉 薫	東京都福祉保健局施設調整担当部長
井 藤 英 喜	東京都健康長寿医療センター 理事長
許 俊 鋭	東京都健康長寿医療センター センター長
越 阪 部 剛	東京都健康長寿医療センター 経営企画局長(代) 事務部長

(2) 会議

ア 理事会

- メンバー：理事長、センター長、経営企画局長、監事
- 理事長が必要と認めたとき開催

イ 常務会

- メンバー：理事長、センター長、経営企画局長
- 理事長が必要と認めたとき開催

ウ 経営戦略会議

- メンバー：理事長、センター長、経営企画局長、副院長、副所長、看護部長、事務部長、経営企画課長、総務課長、医療サービス推進課長、医事専門課長
- 毎月第1、第3木曜日開催

エ 病院運営会議

- メンバー：センター長、経営企画局長、副院長、内科総括部長、外科総括部長、看護部長、事務部長、経営企画課長、総務課長、医療サービス推進課長、医事専門課長
- 毎月第1、第3月曜日開催

オ 病院幹部会

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、経営企画局長、副院長、各診療部門長・技師長、各診療部門専門部長、各臨床研究部門長、看護部長、副看護部長、事務部長、経営企画課長、総務課長、医療サービス推進課長、医事専門課長
- 毎月第4火曜日開催

カ 経営改善委員会

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長（オブザーバー）、経営企画局長、副院長、内科総括部長、外科総括部長、看護部長、化学療法科部長（オブザーバー）、DPC原価計算経営管理委員会委員長、リハビリテーション科技師長、放射線診断科技師長、臨床検査科技師長、薬剤科長、栄養科長、事務部長、経営企画課長、総務課長、医療サービス推進課長、医療戦略室長
- 毎月第2、第4月曜日開催

キ 研究推進会議

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、副所長、自然科学系研究部長、社会科学系研究部長、事務部長（オブザーバー）、経営企画課長
- 毎月第1、第3木曜日開催

ク 研究所幹部会議

- メンバー：センター長、副所長、各研究部長、各研究専門部長、各研究副部長、各研究専門副部長、経営企画課長
- 毎月第1、第3木曜日開催

ケ トランスレーショナルリサーチ推進会議

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、副院長、副所長、病理診断科部長、臨床研究推進センター部長、老年病理学研究チーム研究部長、神経画像研究チーム研究部長、社会科学系研究部長、看護部長、経営企画課長
- 原則、隔月の第3木曜日

(3) 各種委員会

名 称	目的・所掌事項
安全衛生委員会	○職員の危険及び健康障害を防止するため基本となるべき対策に関すること ○労働災害の原因及び再発防止対策で安全及び衛生に関わるものに関すること ○その他職員の危険及び健康障害の防止に関すること
広報委員会	○広報広聴等に関すること ○院内刊行物の編集及び発行に関すること ○地域連携関係やホームページ等対外的広報の企画・管理・運用に関すること
指名業者選定委員会	○指名業者、見積り参加業者の選定
仕様書策定委員会	○医療機器・一般備品・特定保険材料の契約に係る仕様内容等の審査に関すること
備品等整備委員会	○備品整備計画の策定に関すること ○備品の購入及び賃借に関すること
図書委員会	○図書室の管理、運営に関する事項についての調査・審議に関すること
ボランティア委員会	○ボランティアの募集、活動内容・支援、ボランティアに対する感謝状授与・決定、行事の開催及び参加、その他ボランティアが関与する患者サービスに関すること

名 称	目的・所掌事項
特 定 感 染 症 予 防 対 策 委 員 会	○MRSAその他耐性菌感染対策に関する事 ○B型・C型肝炎の予防に関する事 ○エイズその他特定感染症に関する事 ○院内感染防止に関する事 ○その他特定感染症に関する必要な事項
感染症対策小委員会	○特定感染症予防対策委員会の定める方針に基づき、院内感染の対策にかかるサーベイランス及び対策・企画・教育に関する事
診 療 検 討 委 員 会	○外来診療の運営・外来サービスに関する事 ○病棟・病床の運営・稼働・病棟サービスに関する事 ○中央診療部門における診療等の運営に関する事（他の委員会の所掌に属するものを除く） ○特定疾患に関する診療体制の検討に関する事 ○その他センターにおける診療の円滑な運営・外来・病棟に関する事
救 急 部 会	○センターが目指す救急外来のあり方を明確にし、センター全体で救急外来の体制を強化し、円滑かつ効率的な運営を図るための諸問題について検討する事
手 術 室 運 営 部 会	○各科手術に関する運営上の問題点に関する事 ○手術室の改善、修理、環境等に関する事 ○共同手術機器及び手術備品の購入等に関する事 ○その他手術室の運営に関する事
特 定 集 中 治 療 室 運 営 部 会	○特定集中治療室に関する運営上の問題点、特定集中治療室の施設及び機材・環境等、特定集中治療室の整備計画、その他特定集中治療室の運営に関する事
ク リ ニ カ ル パ ス 推 進 委 員 会	○クリニカルパスの作成・推進
薬 事 委 員 会	○医薬品の選定及び管理に関する事 ○医薬品情報の交換に関する事 ○その他薬事に関し必要と認める事項
診 療 材 料 委 員 会	○診療材料の選定・管理等に関する事
NST・栄養委員会	○患者の栄養評価、栄養療法に関する事 ○給食運営に関する事 ○栄養基準に関する事 ○栄養指導に関する事 ○その他委員会の目的達成に関する事
血 管 再 生 治 療 委 員 会	○血管再生治療に関する事
保 険 委 員 会	○保険診療の適切な実施に関する事 ○査定減対策・請求漏れ対策など診療報酬の確保に関する事 ○保険診療上の疑義の検討に関する事 ○保険診療に係る研修、指導の実施及び情報の提供に関する事 ○その他保険診療の実施につき必要な事項の検討に関する事
医 療 安 全 管 理 委 員 会	○医療安全対策の指針等の策定及び推進、重大問題への対策・報告、医療事故・医事紛争への対応等
医 療 機 器 安 全 管 理 委 員 会	○医療機器の保守点検・安全使用に関する体制整備
医 療 ガ ス 安 全 ・ 管 理 委 員 会	○医療ガスの安全・管理に関する事
病 歴 委 員 会	○病歴並びにこれに関する帳票類、資料の様式、運用及び管理に関する事 ○疾病分類に関する事 ○医療統計に関する事 ○その他病歴管理に関し必要と認められる事

名 称	目的・所掌事項
臨床検査委員会	○臨床検査の適正化に関すること ○臨床検査の精度管理に関すること ○その他臨床検査に関する必要な事項
輸血・細胞療法委員会	○輸血及びそれにより発生する事項全般に関すること
研修管理委員会	○臨床研修医の人格の涵養 ○医療安全への配慮の育成
研修管理小委員会	○研修プログラムの作成、研修医の採用時における研修希望・状況の評価・研修指導体制、その他研修に関すること
歯科臨床研修管理委員会	○歯科臨床研修カリキュラム等に関すること ○歯科臨床研修医等に関すること ○歯科臨床研修医の指導方法、研修評価に関すること ○その他、歯科臨床研修に関すること
放射線安全委員会	○放射線管理区域において放射線障害を防止するための対策に関すること ○放射線管理区域内の施設維持・管理に関すること ○その他放射線障害予防規定の変更に関すること
個人情報保護推進委員会	○個人情報の取得、利用、安全管理 ○個人情報保護の自己評価 ○取扱いに関する苦情 ○その他個人情報の取扱いに関すること
事例検討会議	○重大な医療事故発生時の、事故等の発生原因を調査及び究明に関すること ○再発防止策の検討に関すること ○事故等の発生時の適切な対応方法等の協議に関すること
院内事故調査委員会	○重大な医療事故発生時の、事故調査及び対応策全般に関すること
情報システム委員会	○情報システム全般の導入、構築、運用に関すること ○情報セキュリティに関すること
リスクマネジメント推進会議	○医療安全管理の推進に関する対応策の検討に関すること
患者サービス向上委員会	○質の高い医療の提供、快適な療養環境の整備、効率的な医療サービスの提供、その他・患者サービスの向上に関すること
がん診療委員会	○センターにおけるがん診療推進に関する審議 ○がん診療推進にあたり関連する部署との調整 ○がん診療推進の運用及び管理
行動制限最小化委員会	○行動制限患者の検討 ○行動制限に関する指示、技術等の検討 ○「行動制限マニュアル」の継続的な見直し・改善 ○医療従事者への教育・指導・相談
DPC・原価計算経営管理委員会	○DPCに関すること ○各診療科毎に適正コーディングを図ること ○症例検討問題事例の検証に関すること ○診療報酬請求後における患者毎の問題点検証に関すること
緩和ケア委員会	○保険診療の適切な実施、DPCコーディングの適正、症例毎の検討、他病院との症例比較、情報提供、保険診療上の疑義の検討等
医療の質評価委員会	○センターにおける医療の質の評価指標に関すること

名 称	目的・所掌事項
臨床試験審査委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○病院部門及び研究部門における医療、研究部門に従事する職員の行う人間を対象とする医療、医学的研究・医学教育等に関し、倫理上の配慮を求められる事項 ○治験の実施の適否に関する事 ○治験の経過、実施状況、継続の適否に関する事 ○その他治療の実施に関し必要な事項に関する事等 ○製造販売後調査の適否に関する事 ○製造販売後調査の経過に関する事 ○製造販売後調査実施中の試用の中止又は試用方法の変更に関する事 ○その他製造販売後調査実施に関し必要な事項に関する事
研究所外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○研究所で行われるテーマ研究、長期縦断等研究の評価を行うこと ○評価結果に意見を付して、センター長及び研究推進会議に報告すること ○その他、センター長が必要と認める事項
研究所内部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○研究所で行われるテーマ研究、長期縦断等研究の評価を行うこと ○評価結果に意見を付して、研究所外部評価委員会に報告すること ○その他、理事長が必要と認める事項
研究不正防止委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○不正行為・不正使用の防止に係る研究環境の整備・改善に関する事 ○不正行為・不正使用の防止に係る倫理教育及び啓発活動に関する事 ○その他、不正行為・不正使用の防止及び対策に関する事
利益相反委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○利益相反マネジメントに係る規程等の制定・改廃の審議に関する事項 ○利益相反による弊害を抑えるための施策の策定に関する事項 ○利益相反に係る審査・回避要請等に関する事項 ○利益相反マネジメントのための調査に関する事項 ○利益相反マネジメントに係る教育研修の実施に関する事項 ○外部からの利益相反の指摘への対応に関する事項 ○その他、センターの利益相反マネジメントに関する重要事項
職務発明審査会	○職務発明の認定、特許を受ける権利・特許権の承継、審査請求・権利化手続の是非、著作権、商標権、ノウハウ、成果有体物等に関する審議
海外渡航審査会	○出張、特別休暇による海外渡航予定者（研究に従事する職員）の申請内容等の適否を審査すること
幹部研究職員候補者選考委員会	○研究部長、研究専門部長、研究副部長、研究専門副部長を採用する場合の候補者の選考
研究員等候補者選考委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○研究員・非常勤研究員・技術員採用候補者、研究助手等から研究員への任用候補者の評価と採否に関する意見具申 ○その他、センター長が必要と認めること
国外研究員候補者選考委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○国外研究員候補者選考における評価及び招聘推薦順位の付与 ○その他センター長が必要と認めること
研究審査委員会	○外部団体との受託研究（提案公募型受託研究を含む。）、共同研究、受託事業及び奨学寄付金の受入れ審査
研究部門倫理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○理事長から諮問された研究計画について、倫理指針等に基づき倫理的・科学的観点から調査・審議・審査を行い、その結果を報告すること ○人を対象とする医学的研究等に関する倫理上の重要事項について調査審議すること
研究機器整備委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○研究に必要な備品等の物品の選定、リース物品の調整 ○研究に利用している高額機器類の保守の選定、保守の基準の調整 ○その他、センター長が必要と認めること
研究所研究シーズ選定・編集委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○研究シーズの選定・編集について ○その他、センター長が必要と認める事項
介護予防主任運動指導員等修了試験委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○介護予防主任運動指導員養成事業等に係る修了試験問題及び正答の作成 ○介護予防主任運動指導員養成事業等に係る修了試験の運営 ○修了試験の合否判定基準の決定及び合否判定 ○その他、修了試験の実施にあたり必要なこと

名 称	目的・所掌事項
広 報 委 員 会 老 人 研 部 会	○研究所の広報普及に関する事業に資するため、研究NEWS編集・発行・老人研友の会等を所掌する。
環 境 安 全 委 員 会	○研究所における研究活動に伴い発生する環境の汚染と破壊を防止し、生活環境の安全確保を図るとともに、ひいては地球環境保全維持に努める。
バイオハザード実験 安 全 委 員 会	○バイオハザード実験安全要綱・安全管理規則の制定・改廃、安全主任者の選出・推薦に関すること ○実験施設・設備の設定、実験計画の適合性、実験に係わる教育訓練、実験従事者の健康管理、事故発生の際の必要な処置・改善策に関すること ○その他、安全確保に関して必要な事項に関すること
組 換 え D N A 実 験 安 全 委 員 会	○組換えDNA実験安全要綱の制定・改廃、安全主任者の選出・推薦に関すること ○実験施設・設備の認定、実験計画の適合性、実験に係わる教育訓練、実験従事者の健康管理、事故発生の際の必要な処置・改善策に関すること ○その他、安全確保に関して必要な事項に関すること
短寿命放射性薬剤 臨 床 利 用 委 員 会	○PET診断の製造方法、品質管理方法、人体に対する使用目的・使用方法、投与による副作用及び放射性被曝に関すること ○その他、PET診断の安全性確保と臨床利用に必要な事項に関すること
動 物 実 験 委 員 会	○動物実験計画の適合性、実施状況及び結果に関すること ○施設等及び実験動物の飼養保管状況に関すること ○動物実験・実験動物の適正な取扱い、教育訓練の内容等に関すること ○動物実験に係る自己点検・評価に関すること ○その他、動物実験等の適正な実施のための必要事項に関すること
研 究 所 情 報 管 理 委 員 会	○TMIGネットワークの情報セキュリティ運用に関する監査・監督 ○TMIGネットワーク及び情報資産の使用計画・予算に関する提言・助言 ○その他、TMIGネットワーク及び情報資産の運用に必要な事項に関すること
放 射 線 安 全 委 員 会	○放射線管理区域における放射線障害の防止対策等に関すること
研 究 所 アイソトープ 委 員 会	○研究所アイソトープ施設の円滑な運営とその効率化、施設内外の放射線安全の確保

9 指定・許可・学会認定

(1) 指定・許可状況

指 定 ・ 許 可 年 月 日	事 項	根拠法令等
昭和5. 10. 1	開設許可	医療法第7条
25. 5. 4	生活保護法指定医療機関	生活保護法第49条
37. 4. 16	結核予防法指定医療機関（医療機関指定書第4251号）	結核予防法第36条第1項
40. 3. 18	救急病院告示医療機関	厚生省「救急病院等を定める省令」
45. 6. 1	保健医療機関指定	保健医療機関及び保険薬局並びに保険医及び保険薬剤師の登録に関する省令
45. 6. 1	国民健康保険法療養取扱機関	国民健康保険法第37条第3項
46. 4. 10	東京都以外の区域の保険者に係る療養の給付を担当する旨の申し出について（46養病医第556号）	国民健康保険法第37条第5項
48. 12. 1	地公災東京都支部協定医療機関	地方公務員災害補償法第26条（都立病院との協定に準ずる）
52. 1. 1	被爆者一般疾病医療機関（指定番号 原病176） 東京都職員共済組合契約医療機関 心身障害者（児）医療費助成制度にもとづく同意医療機関 特殊疾病対策医療費助成制度にもとづく契約医療機関 公害医療機関	原子爆弾被爆者の医療等に関する法律 共済組合との契約による心身障害者の医療費の助成に関する条例 東京都医療費助成実施要綱及び厚生事務次官通知 公害健康被害補償法第20条（全健保適用医療機関）
54. 10. 7	心臓循環器（CCU）救急医療事業協力医療施設	都 心臓循環器（CCU）救急医療実施要綱（衛生局）
61. 6. 1	紹介型病院の承認	厚生省告示第177号
62. 3. 16	病院群による臨床研修を行う病院	医師法第16条の2第1項
平成9. 12. 1	エイズ診療拠点病院	都 エイズ診療協力病院運営要綱（衛生局）
15. 11. 1	救急救命士再教育（病院実習）実施医療機関	救急救命士の再教育（病院実習）に関する協定書
15. 11. 19	臨床研修病院	医師法第16条の2第1項
19. 1. 31	指定自立支援医療機関（精神通院医療）	障害者自立支援法第59条第1項
19. 4. 1	指定自立支援医療機関（免疫）	障害者自立支援法第59条第1項
19. 7. 10	東京都肝臓専門医医療機関	東京都難病患者等に係る医療費等の助成に関する規則
21. 1. 30	東京都脳卒中急性期医療機関	東京都脳卒中急性期医療機関設置要綱第3の3
21. 4. 1	開設許可（東京都健康長寿医療センター）	医療法第7条
24. 2. 9	東京都認知症疾患医療センター	東京都認知症疾患医療センター運営事業実施要綱（福祉保健局）
24. 3. 22	東京都大腸がん診療連携協力病院	東京都大腸がん診療連携協力病院設置要綱（福祉保健局）
25. 12. 19	東京都災害拠点病院	東京都災害拠点病院設置運営要綱（福祉保健局）
26. 4. 23	臨床修練指定病院	外国医師等が行う臨床修練に係る医師法第17条等の特例等に関する法律第2条第4号
27. 1. 1	難病医療費助成指定医療機関	難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項

(2) 各種学会認定状況

日本内科学会認定教育特殊施設	日本老年歯科医学会認定研修歯科診療施設
日本老年医学会認定施設	日本感染症学会認定研修施設
日本消化器病学会認定医制度認定施設	日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設	日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設
日本神経学会認定教育施設	日本腎臓学会専門医制度研修施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本手外科学会研修施設
日本呼吸器学会認定医制度認定施設	日本脳卒中学会専門医制度研修教育病院
日本血液学会認定血液研修施設	心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本糖尿病学会認定教育施設	腹部ステントグラフト実施施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設	日本精神神経学会精神科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設	臨床栄養士研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本脳神経外科学会専門医研修プログラム研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	日本脳神経外科学会専門医研修プログラム関連施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設	胸部ステントグラフト実施施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設	日本核医学会専門医教育病院
日本麻酔科学会認定研修施設	日本脈管学会認定研修指定施設
日本リウマチ学会教育施設	日本眼科学会専門医制度眼科研修プログラム施行施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関	日本緩和医療学会認定研修施設
日本リハビリテーション医学会研修施設	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本病理学会研修認定施設	日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本臨床細胞学会教育研修施設	日本臨床細胞学会施設

日本高血圧学会専門医認定研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本気管食道科学会専門医研修施設 日本臨床検査医学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設認定 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本老年精神医学会専門医制度認定施設	呼吸器外科専門医関連施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 植込型補助人工心臓実施施設 日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設 日本内科学会認定医教育病院 経カテーテルの大動脈弁置換術実施施設 (TAVI) 日本核医学会 PET撮像施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間末梢幹細胞採取認定施設 補助人工心臓治療関連学会協議会IMPELLA実施施設
---	---

(3) 各種学会施設認定に伴う指導医等一覧

(平成30年3月31日現在)

学会名	指導医等名 (卒業年次)		
日本内科学会	井藤 英喜 (S45)	村山 繁雄 (S54)	金丸 和富 (S58)
	森 聖二郎 (S58)	荒木 厚 (S58)	宮腰重三郎 (S59)
	原田 和昌 (S60)	小林寿美子 (S61)	砂川 昌子 (H1)
	岩切 理歌 (H1)	加藤 貴行 (H2)	武田 和太 (H2)
	宮本 鋼 (H3)	仁科 裕史 (H3)	山田 浩和 (H4)
	上垣佐登子 (H5)	坪光 雄介 (H5)	石川 譲治 (H6)
	武井 卓 (H7)	千葉 優子 (H7)	板橋美津世 (H8)
	田村 嘉章 (H8)	藤本 肇 (H8)	石山 泰三 (H8)
	杉原 毅彦 (H9)	山本 寛 (H9)	西村 誠 (H9)
	潮 靖子 (H10)	小倉 和外 (H10)	田中 旬 (H10)
	仙石 鎌平 (H11)	広吉 祐子 (H12)	東原 真奈 (H13)
	小金丸 博 (H13)	豊島 堅志 (H16)	村田 哲平 (H17)
	大庭 和人 (H18)	鳥羽 梓弓 (H18)	松川 美保 (H18)
	本山 りえ (H19)	伊賀 祥子 (H20)	大川 庭熙 (H21)
根本 佳子 (H22)	十菱 千尋 (H22)	小寺 玲美 (H22)	
齋藤 義弘 (H23)	土田真吏奈 (H24)		
日本老年医学会	井藤 英喜 (S45)	荒木 厚 (S58)	森 聖二郎 (S58)
	宮腰重三郎 (S59)	原田 和昌 (S60)	砂川 昌子 (H1)
	岩切 理歌 (H1)	宮本 鋼 (H3)	千葉 優子 (H7)
	田村 嘉章 (H8)	藤本 肇 (H8)	山本 寛 (H9)
	潮 靖子 (H10)	豊島 堅志 (H16)	青山 理恵 (H17)
日本消化器病学会	黒岩厚二郎 (S54)	金澤 伸郎 (H1)	齊藤 英一 (H1)
	上垣佐登子 (H5)	潮 靖子 (H10)	松川 美保 (H18)
日本消化器内視鏡学会	金澤 伸郎 (H1)	齊藤 英一 (H1)	上垣佐登子 (H5)
	吉田 孝司 (H7)	西村 誠 (H9)	潮 靖子 (H10)
日本神経学会	村山 繁雄 (S54)	金丸 和富 (S58)	加藤 貴行 (H2)
	仁科 裕史 (H3)	仙石 鎌平 (H11)	広吉 祐子 (H12)
	東原 真奈 (H13)	本山 りえ (H19)	
日本循環器学会	許 俊鋭 (S49)	原田 和昌 (S60)	武田 和太 (H2)
	西村 隆 (H4)	坪光 雄介 (H5)	石川 譲治 (H6)
	石山 泰三 (H8)	藤本 肇 (H8)	眞野 暁子 (H8)
	河田 光弘 (H9)	田中 旬 (H10)	青山 理恵 (H17)
日本呼吸器学会	村田 哲平 (H17)	鳥羽 梓弓 (H18)	
	山田 浩和 (H4)	山本 寛 (H9)	日野 春秋 (H14)
日本血液学会	宮腰重三郎 (S59)	小林寿美子 (S61)	岩切 理歌 (H1)
	宮本 鋼 (H3)	小倉 和外 (H10)	齋藤 輔 (H10)
日本糖尿病学会	井藤 英喜 (S45)	荒木 厚 (S58)	森 聖二郎 (S58)
	千葉 優子 (H7)	田村 嘉章 (H8)	豊島 堅志 (H16)
	大庭 和人 (H18)	小寺 玲美 (H22)	
日本超音波医学会	許 俊鋭 (S49)	上垣佐登子 (H5)	石川 譲治 (H6)
	田中 旬 (H10)		
日本外科学会	許 俊鋭 (S49)	黒岩厚二郎 (S54)	金澤 伸郎 (H1)
	齊藤 英一 (H1)	中澤 達 (H3)	西村 隆 (H4)
	吉田 孝司 (H7)	三井 秀雄 (H8)	河田 光弘 (H9)
	鈴木 潤 (H12)	日野 春秋 (H14)	根元 洋光 (H18)
	村田 知洋 (H22)		
日本整形外科学会	時村 文秋 (S61)	穴水 依人 (H3)	宮崎 剛 (H5)
	濱路 博 (H7)	正田奈緒子 (H15)	金高 正和 (H18)
日本眼科学会	沼賀 二郎 (S59)	池上 靖子 (S61)	外山 琢 (H16)
	寺田裕紀子 (H18)	山本 裕樹 (H19)	高尾 博子 (H21)
日本耳鼻咽喉科学会	高橋 正時 (H15)	西尾 綾子 (H17)	大野 慶子 (H19)
	粕谷 豊 (H2)	高橋 尚子 (H5)	榊永 浩一 (H11)
日本泌尿器科学会	吉田 香苗 (H21)		
	種井 良二 (S62)	宮澤理恵子 (H21)	
日本皮膚科学会	小倉 信 (S57)	鄭 仁熙 (H18)	廣瀬 佳代 (H18)
	山田 浩和 (H4)	宮崎 剛 (H5)	杉原 毅彦 (H9)
日本リウマチ学会	伊賀 祥子 (H20)		
	山川 通隆 (S54)	徳丸 阿耶 (S60)	下地 啓五 (H10)
日本医学放射線学会	櫻井 圭太 (H14)		

学会名	指導医等名(卒業年次)		
日本リハビリテーション医学会	村山 繁雄 (S54)	小山 照幸 (S60)	金丸 晶子 (S61)
	加藤 貴行 (H2)	正田奈緒子 (H15)	
日本病理学会	新井 富生 (S59)	松田 陽子 (H10)	
日本臨床細胞学会	新井 富生 (S59)	松田 陽子 (H10)	
日本高血圧学会	原田 和昌 (S60)	石川 讓治 (H6)	青山 理恵 (H17)
	村山 繁雄 (S54)	金丸 和富 (S58)	砂川 昌子 (H1)
日本認知症学会	仁科 裕史 (H3)	古田 光 (H8)	筒井 卓実 (H18)
	仙石 鍊平 (H11)	広吉 祐子 (H12)	
	武田 和大 (H2)	坪光 雄介 (H5)	藤本 肇 (H8)
日本心血管インターベンション学会	青山 理恵 (H17)	村田 哲平 (H17)	
日本消化器外科学会	黒岩厚二郎 (S54)	金澤 伸郎 (H1)	齊藤 英一 (H1)
日本臨床検査医学会	新井 富生 (S59)		
日本内分泌学会	千葉 優子 (H7)	田村 嘉章 (H8)	
日本老年精神医学会	古田 光 (H8)	粟田 圭一 (S59)	藤原 佳典 (H5)
日本老年歯科医学会	平野 浩彦 (H2)	齊藤 美香 (H7)	渡邊 裕 (H6)
日本透析医学会	武井 卓 (H7)	板橋美津世 (H8)	
日本腎臓学会	武井 卓 (H7)	板橋美津世 (H8)	
日本手外科学会	時村 文秋 (S61)		
日本脳卒中学会	村山 繁雄 (S54)	仙石 鍊平 (H11)	本山 りえ (H19)
	許 俊鋭 (S49)	西村 隆 (H4)	中澤 達 (H3)
日本心臓血管外科学会	鈴木 潤 (H12)		
日本精神神経学会	古田 光 (H8)	筒井 卓実 (H18)	松井 仁美 (H21)
日本脳神経外科学会	松岡 浩司 (S56)	上野 俊昭 (H1)	幸田俊一郎 (H6)
	高梨 成彦 (H14)		
日本脈管学会	中澤 達 (H3)	河田 光弘 (H9)	鈴木 潤 (H12)
	青山 理恵 (H17)	村田 哲平 (H17)	
日本アレルギー学会	山田 浩和 (H4)		
日本口腔外科学会	森 美由紀 (H18)	渡邊 裕 (H6)	
日本大腸肛門病学会	金澤 伸郎 (H1)		
日本肝臓学会	上垣佐登子 (H5)		
日本医師会産業医	増田 義重 (S58)	森 聖二郎 (S58)	宮腰重三郎 (S59)
	小山 照幸 (S60)	砂川 昌子 (H1)	齊藤 英一 (H1)
	山田 浩和 (H4)	穴水 依人 (H3)	田村 嘉章 (H8)
	小金丸 博 (H13)	中澤 達 (H3)	
日本病態栄養学会	井藤 英喜 (S45)	荒木 厚 (S58)	砂川 昌子 (H1)
日本臨床腫瘍学会	宮腰重三郎 (S59)		
日本胸部外科学会	許 俊鋭 (S49)		
日本呼吸器内視鏡学会	山本 寛 (H9)		
日本顎咬合学会	齊藤 美香 (H7)		

10 平成29年度業務実績の全体的な概要

(1) 総括と課題

第二期中期目標期間の最終年度となる平成29年度は、これまでの事業成果を踏まえて、必要な取組を継続するとともに、重点医療をはじめ、高齢者の急性期医療及び救急医療の提供、老年学・老年医学研究の推進、高齢者医療・介護を支える専門人材の育成など、法人として安定的な経営基盤の確立を図った。

平成29年度の主な取組は、下記のとおりである。

ア 組織運営

理事会や経営戦略会議を定期的及び随時開催し、法人運営の重要事項を審議・決定するとともに、病院部門、研究部門の幹部職員で構成する会議等を通じて、事業運営の検討や情報の共有を図った。

また、外部有識者で構成する運営協議会を開催し、法人運営に関する意見や助言を受けるとともに、研究活動の妥当性について、外部評価委員会からの評価を受けるなど、透明性及び都民ニーズに的確に対応した法人運営を行った。

イ 病院運営

病院幹部職員で構成する病院運営会議において、病院運営に関する課題の把握や検証を行い、改善すべき事項や新たに取り組むべき事業の検討を行うとともに、中間ヒアリング及び期末ヒアリングにより、各診療科の診療実績の検証や課題の把握を行った。

また、平成30年度診療報酬改定の動向等を踏まえつつ、引き続き三つの重点医療を中心に高度な治療の提供や積極的な救急患者の受入れ等を推進するとともに、地域との連携強化のために「かか

りつけ医紹介窓口」を開設し、病状が安定している患者の紹介元医療機関等への返送、地域医療機関等への逆紹介を推進した。

さらに、急性期脳卒中患者に対するより適切な医療提供体制を確立するため、平成29年10月からSCU（脳卒中ケアユニット）を開設するなど、重症度の高い患者の積極的な受入れ及びICU/CCUの機能強化を図った。

ウ 研究所運営

研究所幹部職員で構成する研究推進会議において、定期的に研究所運営や研究支援に関する意見交換を行うとともに、外部評価委員会、内部評価委員会及び中間ヒアリングにより、各研究の進捗管理と評価を実施した。

また、9億円を超える外部研究資金を獲得して研究を着実に実施するとともに、トランスレーショナルリサーチを推進した。

さらに、長年にわたって積み重ねてきた健康長寿の疫学研究の成果を「健康長寿新ガイドライン」として平成29年6月に策定・発表したほか、老年学・老年医学公開講座等を通じて都民に対する研究成果の還元に努めるとともに、研究成果の実用化に向け、特許権の新規出願を行った。

エ 経営改善

地域医療機関との連携強化や救急患者の積極的な受入れ等による新規患者の確保に努めるとともに、退院支援の強化を図り、平均在院日数の短縮や病床利用率の向上を推進したほか、新たな施設基準の取得や外部研究資金の積極的な獲得に努め、収入の確保に取り組み、医業収益は平成28年度と比較して約3.1億円増加した。

(2) 事業の進捗状況及び特記事項

以下、中期計画及び年度計画に記された主要な事項に沿って、平成29年度の事業進捗状況を記す。

ア 高齢者の特性に配慮した医療の確立と提供、地域連携の推進

(ア) 3つの重点医療の提供

センターの重点医療である①血管病医療、②高齢者がん医療、③認知症医療について、医療体制の充実を図ることなどにより、高齢者への負担が少ない治療方法を積極的に推進した。

① 血管病医療への取組

急性期脳卒中患者に対するより適切な医療提供体制を確立するため、ICU/CCUを再編し、平成29年10月にSCUを6床新設し、運用を開始した。

また、ハイブリッド手術室や血管造影室において、関連診療科が連携して大動脈瘤治療を始めとする高齢者の様々な症例に対してステントグラフト内挿術など、高度かつ多様な治療を提供した。

さらに、急性期治療後の早期の回復や血管病予防の徹底を図るため、患者の状態に応じた疾患別リハビリテーションを早期に実施するとともに、急性期脳血管障害や手術症例等の患者を中心に土曜日リハビリを実施するなど、急性期病院としてのリハビリ実施体制の強化に努めた。

② 高齢者がん医療への取組

NBI内視鏡や超音波内視鏡によって診断した早期食道がんや早期胃がん、早期大腸がんに対し、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、低侵襲な内視鏡下粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に行った。

また、悪性腫瘍に対する保険収載PETを積極的に行い、目標の300件を大幅に超える542件の検査を実施したほか、新規化学療法の積極的導入を推進し、目標の900件を大幅に超える1,017件の外来化学療法を実施した。

さらに、東京都がん診療連携協力病院として、がん相談支援センターにおいて院内外のがん患者やその家族、地域住民や医療機関から電話・面談により生活全般にわたる様々ながん相談に対応した。

③ 認知症医療への取組

病院と研究所が一体となって認知症診断の精度向上に向けた取組を推進したほか、MRIや脳血流SPECT等を着実に実施し、認知症の早期診断に積極的に取り組んだ。

また、認知症患者に対するケア体制の整備を進め、精神科・緩和ケア病棟を除く全病棟において認知症ケア加算の算定を継続するとともに、DASC-21を原則全入院患者に施行するなど、センターにおける認知症対応力の向上に努めた。

さらに、東京都認知症疾患医療センターとして、もの忘れや認知症に係る専門医療相談を行ったほか、認知症多職種協働研修を開催し、人材育成に努めるなど、地域における認知症医療の向上に取り組んだ。また、東京都認知症支援推進センターとして、島しょ地域への直接訪問による研修実施や各地域の認知症疾患医療センターの支援等を行い、都内全域における認知症対応力の向上に貢献した。

(イ) 急性期医療の取組（入退院支援の強化）

入院早期の患者・家族との面談や多職種によるカンファレンスを実施し、患者の状況に応じた退院支援に努めるとともに、地域包括ケア病棟において、急性期治療を経過し、病状が安定した患者を中心に、自宅や介護施設等への復帰に向けた治療やリハビリ、退院支援を実施した。

また、東京都脳卒中急性期医療機関（t-PA治療が可能な施設）として、24時間体制で脳卒中患者の受入れを行うとともに、ICU/CCUを再編し、急性期脳卒中患者に対応するSCUを新設し、脳卒中の患者を積極的に受け入れた。

さらに、脳卒中地域連携パスを活用して回復期を担う病院や診療所、介護保険施設、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等への円滑な退院調整を行うことで、患者やその家族が退院後も安心して治療を受けられるよう、医療連携体制の強化に取り組んだ。

(ウ) 救急医療の充実

「断らない救急」をスローガンに積極的な救急患者の受入れを行い、患者受入数が10,000人を超えるとともに、救急業務の発展充実に貢献した功績が評価され、東京消防庁から感謝状を授受した。

また、急性期脳卒中患者に対するより適切な医療提供体制を確立するため、平成29年10月からSCU（脳卒中ケアユニット）を開設するなど、脳卒中患者を積極的に受け入れた。

さらに、朝カンファレンス等を通じて救急患者症例の検討を行い、救急医療に携わる当直医や研修医、看護師の育成に努めた。

(エ) 地域連携の推進

各診療科の特徴などをまとめた「診療科案内」を作成し、地域の医療機関への配布やホームページを通じた広報活動に努めたほか、医療の機能分化、地域との連携強化のために「かかりつけ医紹介窓口」を開設し、医師と協力して、病状が安定している患者の紹介元医療機関等への返送、地域医療機関等への逆紹介を推進した。

また、地域医療連携システム（C@RNAシステム）の活用及び広報活動を推進し、WEBを通じた連携医からの放射線検査や超音波検査等の受入強化に取り組んだ。

さらに、東京都災害拠点病院として、トリアージ研修会や大規模災害訓練などを実施したほか、センターのDMAT（災害派遣医療チーム）については内閣府が主催する大規模地震時医療活動訓練に参加するなど、年間を通して計画的にセンターの災害対応力を高める取組を行った。

(オ) 安心かつ信頼できる質の高い医療の提供

「フレイル外来」において、外来患者のフレイル、認知機能などの評価を行い、その原因となる疾患の包括的な治療と栄養、運動などの生活指導を実施するとともに、外科手術前のフレイル評価を行うことにより、手術適応の決定や合併症、在院日数の予測に役立てるなど、高齢者の特性に合わせた最適な医療の提供を推進した。

また、退院後を見据えて、患者に対し服薬の自己管理教育を行うとともに、ポリファーマシーに対する取組を強化するための症例検討を行い、処方の適正化(減薬を含む)に努めた。

さらに、クリニカルパス推進委員会を中心として、術前検査センターの更なる活用やクリニカルパスの適用疾患の拡大などに努め、医療の標準化と効率化を推進した。

この他、現場の潜在的リスクや課題の把握、患者確認方法が正しく実施されているかを評価するため、医療安全管理委員会のメンバー等で医療安全ラウンドを実施し、医療安全管理体制の強化に努めるとともに、医療安全管理講演会、院内感染対策講演会について、悉皆研修として全職員の参加を促し、未受講者に対してはビデオ上映会の開催やDVDの貸出し等によりフォローアップするなど、職員の医療安全に対する意識の向上に努めた。

(カ) 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上

外来エリアの診察順番表示モニターを活用して、「かかりつけ医紹介窓口」の案内など患者・家族へのお知らせ等を表示し、積極的な情報発信を行った。

また、インフォームド・コンセントやセカンドオピニオン外来等を通じ、患者やその家族が治療の選択・決定を医療者とともに主体的に行うことができるよう支援した。

さらに、ご意見箱に寄せられた要望・苦情や患者満足度調査の結果について、病院運営会議や病院幹部会にて報告・検討を行い、患者サービスの向上を図った。

イ 高齢者の健康の維持・増進と活力の向上を目指す研究

(ア) トランスレーショナルリサーチの推進（医療と研究の連携）

全5件の研究助成課題を採択し、研究費の執行管理を行うとともに、進捗状況の把握や技術支援、関連分野の情報提供を行うなど臨床応用に向け支援した。

また、難治性であるMPO-ANCA関連血管炎における状態評価の判定補助として有用性が見込まれる検査キットが製品化に至った。

さらに、研究内容を広く多方面に発信するなど積極的に成果還元した結果、共同・受託研究の更なる拡大につながり、外部資金獲得額は独法化以来過去最高を記録した。

(イ) 高齢者に特有な疾患と生活機能障害を克服するための研究

膵がんに関する研究として、抗がん剤の効果減弱の解明や転移減少を動物実験で成功させるとともに、より悪性化した前立腺がんの診断、治療の新しい標的となるPSFを発見した。

また、認知機能に関する研究結果から、手足を擦るという簡便な方法が認知症予防に有効である可能性を提唱し、パンフレットやTV放映等で一般都民への普及還元を行った。

さらに、高齢者の健康増進に関わる甲状腺・副甲状腺を支配する神経への微弱な電気刺激によってホルモン分泌を制御する新規バイオエレクトロニクス医療に関する技術を確立し、特許を申請した。

(ウ) 活気ある地域社会を支え、長寿を目指す研究

東京都の委託研究事業「認知症と共に暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業」において、社会支援にアクセスできず孤立している高齢者が数多くいることを明らかにするとともに、社会支援のコーディネーションとネットワークによる介入を実施したところ、社会支援の利用が促進され、認知症の本人の視点に立った地域づくりが促進されることが確認された。この結果を踏まえて、コーディネーションとネットワークの手引書を作成した。

また、コホート研究の知見を踏まえて、健康長寿新ガイドラインにおいて「1日1回以上の外出」、「週1回以上の友人・知人との交流」、「月1回以上の社会参加」などの重要性を提示するとともに、老人保健健康増進等事業においては、認知症当事者参画の下で「本人にとってのよりよい暮らしガイド」及び「本人の声を起点とした認知症地域支援体制づくりガイド」を作成した。

さらに、全国的に普及しているDASC-21のさらなる社会還元を目指し、英語版、韓国語版、フランス語版、スペイン語版を作成した。

この他、発災直後からのセンターの支援内容をまとめて東日本大震災被災者支援プロジェクトの報告書を作成し、「復興を見つめて」として発行、広く成果還元・普及を図った。

(エ) 先進的な老化研究の展開・老年学研究におけるリーダーシップの発揮

筋ジストロフィー症の原因タンパク質FKTN、FKRP、TMEM5の複合体の酵素活性の検出に成功し、この複合体形成がマンノースリン酸化以降の連続した糖鎖伸長反応の効率化に関わることを示した。

また、遺伝性認知症疾患の国際多施設共同研究（DIAN）を推進し、国内施設で登録された症例

のPET検査を実施した。

さらに、高齢者ブレインバンク事業における拠点的な役割を担う施設として、死後脳リソースや髄液、血清などバイオリソースの構築に尽力した。また、蓄積したリソースを試料提供するなど共同研究を推進した。

(オ) 研究成果・知的財産の活用

長年の健康長寿の疫学研究成果として、食生活、体力・身体活動、社会参加などのテーマ別に日々の生活指針となる「健康長寿新ガイドライン－健康長寿のための12か条－」を策定・発表し、研究成果の社会還元を図った。また、より一層の社会還元に向けて専門職・研究者向けの解説書「エビデンスブック」と地域住民や一般向けの普及啓発資料として分野別に分かりやすくまとめたリーフレットを刊行した。

また、プレス発表や老年学・老年医学公開講座等のイベント活動をとおして、積極的に当センターの研究成果の普及やPRに取り組んだ。

ウ 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

都職員の派遣解消計画を踏まえ、医師や看護師の人材確保に引き続き努めたほか、総合内科専門医等の認定医や糖尿病療養指導士等の資格取得支援を積極的に行い、センター職員の確保や育成に取り組んだ。

また、連携大学院からの学生や大学・研究機関からの研究者を積極的に受け入れ、次代を担う研究者の養成に取り組んだ。

さらに、認定医等の資格取得支援や研修派遣等を積極的に実施し、医療専門職の専門的能力の向上を図ったほか、たんぽぽ会主催による地域の訪問看護師との勉強会の開催や認知症支援推進センターにおける医療専門職等に対する認知症対応力向上に向けた研修会等の開催など、地域の医療・介護を支える人材の育成に努めた。

エ 地方独立行政法人の特性を活かした業務の改善・効率化

経営戦略会議や病院運営会議、研究推進会議等において、センターの諸課題について迅速かつ十分な審議及び改善策の検討を行ったほか、医療戦略室が中心となり、入退院支援の強化など、診療報酬改定等を踏まえてより戦略的な病院経営を行うための取組・検討を行った。

また、職員提案制度を通じて、全職員が積極的かつ自由にセンター運営について発言できる機会を設けるとともに、一部の提案については実行に移すことにより、改善活動を促進する職場風土の醸成に努めた。加えて、病院運営、経営改善等に大きく功労のあった部署・職員を表彰する職員表彰制度を実施するなど、職員のモチベーション向上につながる取組を推進した。

さらに、会計監査人監査や内部監査を実施し、改善が必要である事項については迅速かつ適切に対応したほか、研究費の適正な執行や事務処理ルールをまとめた「研究費使用等ハンドブック2017」の発行や研究不正防止研修会及び事務処理方法説明会の開催、モニタリングの実施など研究活動における不正防止対策に取り組むなど、内部管理を適切に実施した。また、病院部門の臨床試験審査委員会及び研究部門倫理委員会において適切な審査を行うとともに、研究に携わる職員を対象とした悉皆研修を実施するなど、高齢者医療や研究に携わる職員の倫理の徹底を図った。

この他、研究所については、外部評価委員会において、第二期中期計画期間における最終評価として、目標達成状況、研究成果とその普及・還元、第三期への研究継続の必要性・妥当性等についての評価を受け、平成30年3月「外部評価委員会評価報告書」として取りまとめ、ホームページ上に公表した。

オ 財務内容の改善

地域連携の推進や救急患者の積極的な受入れなどにより新規患者の確保に努めるとともに、入院早期より退院支援を必要とする患者を把握し、患者・家族との面談及び多職種カンファレンスの実施に努めるなど退院支援の強化を図り、平均在院日数の短縮や病床利用率の向上を推進した。

また、「経皮的な中隔心筋焼灼術」、「脳卒中ケアユニット入院医療管理料」など、新たな施設基準の取得に積極的に取り組むとともに、保険請求における請求漏れや査定を減らすための対策として、全職員を対象とした研修会の開催や他病院との勉強会等を実施したほか、未収金対策

として、未収金回収担当者を複数人配置し体制強化を図るなど、収入の確保に努めた。

さらに、公的研究費（科研費等）への応募や産学公連携活動（共同研究・受託研究・受託事業等）を推進し、外部研究資金獲得金額、研究員一人あたりの外部資金獲得金額が過去最高を記録した。

この他、医療戦略室を中心に電子カルテデータやDPCデータ等を活用した診療情報の分析や施設基準の取得に伴う経済効果の検証を行うなど、より精度の高い収支改善策の検討及び実施に取り組んだ。また、更なる初診料算定患者、紹介患者の獲得及び逆紹介の促進、材料費の効率化及び管理体制の見直しなどに向けてワーキンググループを立ち上げ、現状の課題・方策等について検討した。

カ その他業務運営に関する重要事項（センター運営におけるリスク管理）

医療事故調査制度や医療法の改正に基づき、死亡事例における院内での病理解剖の推進や死亡時画像診断の適切な運用に努めるとともに、医療事故発生時の対応策等を検討するための体制を整備するなど組織的な医療安全対策に取り組んだ。

また、ストレスチェックの実施やハラスメントの防止に関する要綱の制定、事務部門におけるノー残業デーの実施など、職員が働きやすい健全かつ安全な職場環境の整備に努めた。

さらに全職員を対象とした情報セキュリティ及び個人情報保護合同研修を実施し、情報セキュリティに対する職員の意識向上と管理方法の徹底を図った。

この他、東京都災害拠点病院として、トリアージ研修会や大規模災害訓練などを実施したほか、センターのDMAT（災害派遣医療チーム）については内閣府が主催する大規模地震時医療活動訓練に参加するなど、センターの災害対応力を高める取組を行った。

第二部 病院部門

I 平成29年度運営報告

1 人員体制

〈部長〉

荒木厚（内科総括部長）、
 増田義重（総合内科部長）、
 岩切理歌（総合内科部長、包括ケア病棟担当）、
 藤本肇（循環器内科部長）、
 石川譲治（循環器内科専門部長）、
 武田和大（循環器内科専門部長）、
 坪光雄介（救急診療部部長）、
 村山繁雄（神経内科部長）、
 金丸和富（脳卒中科部長）、
 仁科浩史（神経内科専門部長）、
 上垣佐登子（消化器内科部長）、
 佐々木美奈（消化器内科専門部長）、
 西村誠（内視鏡科部長）、
 宮腰重三郎（血液内科部長）、
 宮本鋼（化学療法科部長）、
 小林寿美子（輸血・細胞療法科）、
 武井卓（腎臓内科部長）、
 板橋美津世（血液透析科部長）、
 山本寛（呼吸器内科部長）、
 山田浩和（呼吸器内科専門部長）、
 杉原毅彦（膠原病・リウマチ科部長）、
 齊藤英一（緩和ケア内科部長）、
 古田光（精神科部長）

〈医長〉

石山泰三（循環器内科医長）、
 田中旬（循環器内科医長）、
 青山里恵（循環器内科医長）、
 仙石錬平（神経内科医長）、
 東原真奈（神経内科医長）、
 松川美保（内視鏡科専門医長）、
 千葉優子（糖尿病・代謝・内分泌内科医長）、
 田村嘉章（糖尿病・代謝・内分泌内科医長）、
 豊島堅志（糖尿病・代謝・内分泌内科医長）、
 砂川昌子（総合内科医長）、
 小金丸博（感染症内科医長）、
 小倉和外（血液内科医長）、
 齋藤輔（血液内科医長）

〈常勤〉

（循環器内科）杉江正光、十菱千尋、根本佳子、
 村田哲平、大川庭熙、齋藤義弘、（消化器内科）潮
 靖子、藤井悠子、（神経内科）広吉祐子、本山里え、
 （糖尿病・代謝・内分泌内科）大庭和人、小寺玲
 美、（膠原病・リウマチ科）伊賀祥子、土田真吏奈、

楠田岳、馬場洋行、（呼吸器内科）佐塚まなみ、（精
 神科）筒井卓実、松井仁美、市橋雅典、久保田真
 由

〈人事異動〉

平成29年度の入職者は平成29年4月1日付けで
 循環器内科医長に青山里恵、糖尿病・代謝・内分
 泌内科医長に豊島堅志、血液内科医長に齋藤輔、
 感染症内科医長に小金丸博を迎えた。

平成29年度に新たに赴任した常勤医師は、4月
 1日付けで循環器内科の村田哲平、膠原病・リウ
 マチ科の楠田岳、馬場洋行、糖尿病・代謝・内分
 泌内科の大庭和人である。

シニアレジデントからは4月より呼吸器内科に
 佐塚まなみ、消化器内科に藤井悠子が常勤として
 採用となった。

2018年3月31日付けで緩和ケア内科の高橋尚子、
 総合内科の砂川昌子、循環器内科の根本佳子、齋
 藤義弘、膠原病・リウマチ科の楠田岳、馬場洋行、
 久保田真由、市橋雅典が退職した。これまでセン
 ターの診療の発展に貢献された先生方に感謝の意
 を表す。

2 診療活動・実績

（1）外来部門

	H28	H29	対前年比
延外来患者数	116,041	117,013	100.8%
初診算定外来者数	4,340	4,006	92.3%
1日平均外来患者数	477.5	479.6	100.4%

（2）救急部門

	H28	H29	対前年比
救急外来受診数	5,423	5,608	103.4%

内科系の外来患者数は延外来患者数、1日の平
 均外来患者数は昨年度と同様であったが、初診算
 定外来患者数はやや減少した。これは呼吸器内科
 などの人員不足による診療縮小の影響が大きい。

内科外来自体は、内科系スタッフの中で、指導
 医とシニアレジデントの2人が主として担当し、
 シニアレジデントの外来の教育を兼ねて行ってい
 る。

救急外来は二次救急として24時間体制で行った。
 日勤帯は常勤医の医師が指導医として3週に1回
 担当し、ジュニアレジデント1年目と2～3年目
 までの医師の3人体制で救急外来を担当した。救
 急外来受診患者数は昨年度に比べ、微増を示した。

昨年度から開始したフレイル外来は、身体機能

や認知機能などを総合的に評価する外来であるが、外科の術前評価も加わり、昨年と同様に延570人が受診した。

(3) 入院

	H28	H29	対前年比
内科延入院患者数	112,382	111,262	99.0%
内科新規入院患者数	5,619	5,667	100.9%
救急科入院数	2,166	2,120	97.9%
内科退院患者数	7,515	7,610	101.3%
病床利用率	94.3	93.4	-
内科在院日数	16.0	15.6	-
転入出込在院日数	13.0	12.8	-

内科系の新規入院患者と退院患者は昨年度と比べて同様であった。昨年度と同様の入院患者数を今年度も維持できたことは内科各科が分担して、多くの救急患者を診療した結果である。特に、日中の救急外来や当直帯で、指導医、常勤医またはシニアレジデント、ジュニアレジデントの3人体制で、多くの救急患者を診ていただいたことに感謝したい。

内科の体制では、呼吸器内科の人員が減少したが、総合内科等の協力もあり、9階東病棟の診療を維持することができた。

今年度は転出入込みの在院日数が12.8日と昨年度と比べて短縮し、病床利用率も93.4%と高い数字を維持できた。在院日数の短縮は退院支援カンファや地域包括ケア病床の利用によってもたらされたと考えられる。

「地域包括ケア病棟」は総合内科岩切先生を中心に、内科病棟から在宅復帰のための患者を受け入れた。地域包括ケア病棟も高い病床利用率を維持し、在院日数の短縮、患者・家族の負担の軽減、経営の効率化に貢献した。また、薬剤科と協力しながらポリファーマシー対策に取り組んでいる。

「在宅医療支援病床」は砂川先生が担当した。

3 研修・教育活動

研修医は新たにジュニアレジデント10名が4月より研修を開始し、2年目と合わせて計20名が研修を行った。研修医は、所属の科のカンファとともに、モーニングカンファ、昼のクルズス、病院CC、病院CPC、研修医CPCなどプラネックス研修などに参加し、幅広い研修が行われた。今年度から田中旬先生を中心にJMECCの研修も1回行うことができた。

病院CCは研修医教育のために毎週木曜日に行われ、ジュニアレジデントが発表し、シニアレジデントまたは若手医師がコメンテーター、指導医

が指導する3人体制で行っている。活性化のために、今年度から他科の指導医がジュニアレジデントやコメンテーターの発表を評価し、採点するという方式を取り入れた。

モーニングカンファはレジデントが夜間の一般内科救急患者の症例の検討を救急診療部の坪光先生、田村先生、加藤先生などの指導のもとに行った。昼のクルズスは千葉先生が管理し、毎週1回、内科のみならず、全科の先生が講義を行った。

レジデントと多くの指導医がプラネックス研修に参加した。研修医のリクルート活動として、レジナビ(年3回)に参加し、高齢医学セミナー(年1回)を行った。マッチングの試験には定員の約5倍の医学生が応募するようになり、第一希望者もここ3年間2倍を超えるようになっている。

レジデントとして研鑽を積まれた医師は以下の通りである。ジュニア1年目は鶴田優希、北郷萌、熊川義人、小笹静佳、馬場口紘成、小沢理音、堀千紗、梅田百希、東京大学からのたすき掛けで遠藤遼、梅田由貴が研修した。ジュニア2年目は、宮一佑依、高木美貴、石滝公一、塩満恵子、池田久美、三原現、水上翔太、原田丈太郎、東京大学からのたすき掛けで木谷貴博、樋口陽が研修し、無事ジュニアレジデントを修了した。

シニアレジデントは(当院1年目)橘靖子、白石朋敬、山中法子、高田和典、伊藤瑛佑、豊島弘一、廣田旭亮、(当院2年目)眞喜志直子、武村拓哉、館鼻彩、全秀剛(リハビリ科)(当院3年目)二見崇太郎、山岡巧弥、野中敬介、渋谷茉莉、斎藤陽子である。

当センターの内科専攻医プログラム(研修医マニュアル、指導医マニュアルを含む)を作成し、定員8人で提出した。また、新しい制度における老年病専門医も次年度から開始することになり、そのプログラムも作成し、提出した。

新しい専門医制度における来年度の内科専攻医は3人となった。これは、内科全体の志望者が減ったことと大学における専攻医の囲い込みが影響したものと思われる。旧制度のシニアレジデント志望者を合わせると8人となり、今年度と同様な人数を確保することができた。

4 学会発表・論文発表

今年度の内科系学会への学会発表数は165、誌上発表数200と減少したが、研修医の発表数は38と昨年度より増加した。内科地方会または内科学会総会への発表は5となった。来年度以降も病院CCを利用し、指導医が学会発表を促すことが必要である。

研修に関しては今後、負担が増えることが予想

されるが、引き続き内科各科の先生方のご協力をお願いしたい。

5 今後の課題

今後の課題として老年医学を含めた臨床研究の推進と医師の確保を挙げたい。

当センターの内科はこれまで日本の老年医学をリードしてきており、内科各科はその専門分野の研究だけでなく、老年医学の研究をも推進していくことが必要である。救急患者が増加し、在院日数も短くなり、臨床のdutyが多くなった現状においては、効率的に臨床研究を進める対策を練る必要がある。

一つは病院全体のデータベースの構築である。新しい電子カルテにおいて、内科各科の診療情報、検査データ、高齢者総合機能評価に関する情報やフレイル外来の情報、病理などの情報ができるだけ容易に取り出すことができるようなシステムを作ることが望まれる。

次に内科系各科が他の内科とチームを組んで、さらに研究所の部門も加えて研究体制を組むことが必要である。研究所だけでなく病院における研究計画を支援する体制も望まれる。老年医学における運動、栄養、フレイル、転倒、ポリファーマシー、社会サポートなどの研究は内科各科が協力して行うことができるテーマである。

さらに、シニアレジデントや若手医師の教育の中に研究の方法、統計、倫理、論文の書き方など入れることが必要であり、次年度から研究所の先生と相談しながら行っていきたいと考えている。

内科各科が安定した診療を維持し、研究活動や教育活動を推進させるためには、若手の医師をさらに確保することが大切である。内科専攻医を確保する対策としては、ホームページにより、内科各科の研修の特徴を宣伝することや大学との関係を密にして情報を得て、大学と当センターを組み合わせた研修を提案していくことが必要である。また、将来、当センターを研修し、優秀な専攻医には海外での研修や研究所における研究の機会を与え、学位もとれるようなしくみも作ることが望まれる。

新しい専門医制度においても、内科各科の医師が総合内科専門医、内科系Subspecialityの専門医、老年病専門医、研修指導医などの資格をとり、診療だけでなく、教育または研究に一層取り組み、大学や他の病院と連携することが大切であると思われる。

1 人員体制

平成29年度総合診療科の運営に関与した医師は、常勤医：増田義重部長、岩切理歌部長、砂川昌子医長、大川庭熙で、研修医：豊島弘一、伊藤瑛佑、廣田旭亮、全秀剛、館鼻彩、白石朋敬、橘靖子、山中法子、水上翔太、三原現、梅田百希、北郷萌、熊川義人、小笹静佳、馬場口紘成が科の運営に協力した。

地域包括ケア病棟は、岩切理歌部長が担当した。

在宅医療連携病床（平成28年6月まで7西病棟、同年7月から6西病棟）は砂川昌子医長が担当した。

2 診療活動・実績

平成29年度、総合診療科は9東病棟38床を呼吸器内科、感染症内科と共に運用した。また、内科外来の運営を行った。

1年間で入院患者は転科例を含めて195名で、発熱を主訴とする緊急入院患者が多く、各種感染症127例（呼吸器74、尿路10、インフルエンザ等9、消化管・胆道系7、皮膚・軟部組織・骨・関節8、敗血症16、結核3）であった。また、種々の内科系入院が68例、呼吸器系疾患9例、内分泌系9例、消化器系疾患14例、神経系疾患14例、血液系4例、その他18例であった。死亡16例（剖検2例）であった。

外来業務として、内科外来3単位を担当した。

ローテーションする後期研修医の総合診療研修も担当した。

地域包括ケア病棟

平成28年10月に地域包括ケア病棟として正式に開設された。急性期疾患が安定し、自宅退院が可能な患者を全科から受け入れ、担当医は変更せず病棟のみ変わるというシステムで運営されている。また、在宅医療連携病床としての役割も果たし、地域医療に貢献している。

地域包括ケア病棟の施設基準として、6ヶ月累計在宅復帰率70%以上、看護必要度10%以上、リハビリ単位数2.0単位/日以上と定められているが、医療戦略室、リハビリ科、病棟・在宅看護師、医療相談室の尽力により、在宅復帰率は常に85%前後でキープし、施設基準をクリアすることが出来ている。

疾患別では、気道感染症、筋骨格系疾患、尿路感染症が多く、脳血管障害、循環器疾患がそれに続いている。病棟開設2年目となり、外科系の患者の利用率も増加している。

今年度は、ポリファーマシーチームの活動の基点となり、週1回カンファレンスを行い、ポリ

ファーマシー対策に取り組んでいる。

在宅医療連携病床

在宅医療との連携強化のため、平成25年3月在宅医療連携病床を旧8階西病棟に開設した。

当初板橋区のみで連携開始、6月新施設移転後に9階西病棟で二次医療圏の在宅医療機関に連携を拡大し在宅療養患者を受け入れている。

平成27年7月から7階西病棟に、平成28年7月から6階西病棟に移動している。

主に東京都区西北部（板橋区、豊島区、北区、練馬区）の在宅医療機関と訪問診療を受ける在宅療養患者を医療連携室にて登録・管理している。

連携医作成の患者登録シートと診療情報提供書は電子カルテに取り込み情報共有している。

連携医の希望を受け、数日～最大2週間（14泊15日）の入院期間で、原疾患の病状評価や、レスパイトを行っている。入院は予約制で、レントゲン、心電図、血液検査や、病状評価に必要な画像検査などで精査し、院内の専門診療科受診により今後の治療方針を検討している。

持参薬使用を原則とするが、投薬調整や減薬も行っている。

<平成29年度実績>

在宅登録医療機関数：105か所

登録患者数：190名

入院患者数：のべ49名（実質37名）

転帰：のべ42名自宅退院（老人ホーム1名含む）

5名転科（外科1名、神経内科3名、総合内科1名）、2名転院

3 研修・教育活動、その他

総合診療科では、毎週月曜に感染症内科と合同で入院患者の治療方針について臨床カンファレンスを行い、研修医に対して高齢者医療の学びの場としている。

在宅医療連携病床では、顔の見える地域連携を目指しており、板橋区医師会「サバイバーシップ研究会」、板橋区在宅呼吸ケア研究会、としま医会連などに砂川が参加している。

・老年医学セミナー

岩切理歌：当院におけるポリファーマシーチームの発足と現状。9月7日、2017

・糸でんわ

岩切理歌：お薬を安全かつ有効に使っていただくために

1 人員体制

常勤として土田真吏奈、馬場洋行、楠田岳、伊賀祥子が勤務。後期研修医は不在であった。

2 診療活動・実績

(1) 外来

専門外来 杉原；月曜午前午後 水曜日午前午後、金曜日午前、伊賀；火曜日午前 午後、土田；水曜日午前午後、楠田；木曜午前午後、非常勤として松本；火曜日午前午後、小宮；金曜日午前午後。

外来は関節リウマチが中心、今年度は大型血管炎（高安動脈炎と巨細胞性動脈炎）の症例数が増加した。また、若年者の多いSLE患者も増えてきている。以前より症例数の多いANCA関連血管炎、強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎の患者も継続してフォロー。

(2) 病棟

8東病棟、膠原病・リウマチ科で20床。消化器内科18床で運営した。一般内科入院も受け入れし、病床利用率は100%を超えることが多かった。難治性の病態や重症の膠原病患者の入院も多く、集中治療室管理を必要とする患者が例年より多かった。主な症例は、関節リウマチ、関節リウマチ関連間質性肺炎、大型血管炎（高安動脈炎と巨細胞性動脈炎）、ANCA関連血管炎、皮膚筋炎あるいは筋炎関連間質性肺炎、全身性エリテマトーデスであった。

入院症例についてのカンファレンスは火曜日、木曜日に実施、膠原病、リウマチ疾患の症例の検討を通して、文献検索と診断と治療に関連するエビデンスの確認を行った。

(3) 厚生労働省 難治性血管炎の大型血管炎分科会の班員として、血管炎の診療ガイドライン作成に従事した。

3 研修・教育活動

当院は日本リウマチ学会の教育指定病院。杉原は日本リウマチ学会認定専門医、指導医、評議員として学会関連の仕事、教育目的の総説の作成、臨床研究業務に従事した。今年度は高齢者関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎の診療、教育活動に特に重点をおいた。

当科で研修をした初期研修医2名が、病院C.Cで発表した症例を、2018年4月の日本リウマチ学会で症例報告した。また、当科の馬場医師は臨床

業務とともに臨床研究に従事し、間質性肺炎合併関節リウマチについて日本リウマチ学会で報告した。また、楠田医師がrat-bite-feverによる化膿性関節炎の症例をワークショップで発表した。

1 人員体制

平成29年度は常勤医2名(武井卓、板橋美津世)、後期研修医2名(橋靖子・山中法子)、初期研修医(10名が1-2ヶ月ローテーション)が診療を行った。また非常勤医師(湯村和子、清水章、斎藤誉子、鶴田悠木、櫻井裕子、西山ゆり)が透析センター、外来の診療および病理診断に当たった。

2 診療活動・実績

(1) 外来

外来は腎臓内科一般、特に高齢者の腎障害を中心に診療を行っている。腎炎・血管炎にも力を入れ、紹介を頂いている。また膠原病腎症特設外来(国際医療福祉大学湯村和子教授)として膠原病に合併する腎症に対する専門外来を継続している。

透析センター(17床)は、平成29年度より火木土クールの午後枠を増設した。それにより外来維持透析患者数の増加がみられている。また外来透析患者の質的向上を目指し平成28年度開始したフットケア回診、フレイル・栄養評価をに加え、平成29年度はエルゴメータを導入し運動療法を取り入れた。

(2) 病棟

病棟診療(10床)は、主な入院目的は腎炎・血管炎膠原病腎の加療、保存期腎不全教育、透析導入、透析合併症である。リツキササン治療と腎生検入院のクリニカルパスを導入し、在院日数が前年度と比較し1.1日短縮した。平成29年度の病床利用率は109.3%であり、平成28年度の96.4%、平成27年度の53.7%を上回った。

腎生検は他科依頼の症例に対しても施行し検体採取のみにとどまらず、当院病理診断科および日本医大病理診断学清水章教授を交え組織診断まで首尾一貫して行っている。

透析センターでの治療法はHD、ECUM、OHDF、オフラインHDF、CHDF、血漿交換、吸着療法及び関連診療として血管再生・末梢血幹細胞移植のためのリンパ球分離である。血液透析新規導入は44例(前年度43例)であった。他科入院の維持透析は延べ195例と前年度の142例に比較して増加した。

3 研修・教育活動

当院は日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設に認定されている。研修医の学会報告を推進している(平成29年度日本腎臓学会東部

会に初期研修医1例、後期研修医2例発表、日本透析医学会に後期研修医1例発表、日本老年医学会関東甲信越地方会に後期研修医1例発表した)。病棟カンファレンスを週1回、透析カンファレンスを週1回、腎病理カンファレンスを月1回、透析部門スタッフ対象の透析診療セミナーは週1回行っている。また実習生・見学生(8名)の受け入れを行った。

1 人員体制

糖尿病・代謝・内分泌内科は4月より、東京医科歯科大学より医長の豊島堅志先生、北里大学より大庭和人先生が赴任し、シニアレジデントとして館鼻彩先生が加わった。常勤7名（荒木厚、千葉優子、田村嘉章、豊島堅志、小寺玲美）とシニアレジデント2名（山岡巧弥、館鼻彩）で9階西病棟26床を担当した。外来部門では上記医師7名の他に、理事長の井藤英喜先生、臨床研究推進センター部長の森聖二郎先生、非常勤専門医師の服部明德先生によって診療を行った。

2 診療活動・実績

〔入院〕糖尿病・代謝・内分泌内科の病棟は9階西病棟で21床から26床に戻し、歯科・口腔外科、腎臓内科と共同で病棟運営を行った。当科は糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、内分泌疾患、低血糖などの患者の他、多くの内科救急患者を担当した。退院患者数は519人（昨年度484人）となり、昨年度より増加した。転入込みの在院日数は15.1日と昨年度の16.2日より短縮することができた。病床利用率は96.5%であり、病床数の増加により昨年より減少したが、高値を維持できた。

当科は医師、看護師、栄養士、薬剤師などのチーム医療による糖尿病教育と治療を行っている。入院患者の医師による糖尿病教室は毎週月曜日の午後に行われている。週2回が多職種による退院支援カンファレンスなどにより在院日数を短縮することができた。

診療内容に関しては入院患者および外来患者に対して、フレイル外来を利用し、認知機能やフレイルの評価を含めた高齢者総合機能評価（CGA）を行って、治療方針を決めることを行っており、医療の質の向上を図っている。とくに入院では、詳細な認知機能、ADL、社会的状況などのCGAの情報に基づいてカンファレンスを行い、2型糖尿病患者のインスリン離脱、治療の単純化、ポリファーマシー対策、心身機能の進行予防対策を講じ、退院後の生活を考慮した高齢者医療を行っている。

また、持続血糖モニター（CGM）によって、低血糖や血糖の変動性を評価しながら薬物の選択を行っている。外来にCGM外来を週1日（金曜日）開始した。FGM外来も開始に向けて準備中である。インスリンポンプによる治療（CSⅡ）も継続している。こうした外来診療の専門性が高くなったことより、看護師を含めた診療体制の強化が必要で

ある。

〔外来〕外来患者数は1日65.9人、初診算定患者数187人と軽度増加し、延外来患者数は16,089人と昨年度の15,908人と比べて増加した。透析予防外来は年間45人であり、医師、栄養士、看護師による集約的な腎症進行予防の指導が行われた。フットケア外来も年間614人と増加した。

〔患者教育・患者会活動〕医師、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師、事務部門が協力し、糖尿病患者を対象に糖尿病教室を年3回開催した。

糖尿病の患者会活動にも力を入れており、育寿会をサポートし、糖尿病教室、バス旅行などの活動を行なった。また、運動指導士の小池日登美さんや松木重村さんの協力のもとに、年2回のノルディックウォーキングの会や運動教室（月1回）を開催した。

3 研修・教育活動

糖尿病・代謝・内分泌内科は毎週月曜日の午後5時30分より臨床カンファレンスを行い、患者の治療方針の詳細な検討とレジデントの教育を行っている。毎週金曜日の午前8時30分より最新の英語論文のジャーナルクラブ、水曜日の午前8時30分からADAの糖尿病の教科書のジャーナルクラブを行っている。

院内の職員の糖尿病教育および糖尿病療養指導士（J-CDE）の受験対策のために、「糖尿病療養指導のための勉強会」を糖尿病認定看護師の小林美奈子と当科医師が担当し、開催している。J-CDEの数は着実に増えて18名となり、新たに院内にCDEの会を作り、症例検討などの研修を行い、糖尿病の教育体制の充実を図った。

4 その他

世界糖尿病デー行事として、11月11日午前に糖尿病相談、血糖測定を多職種で行い、約40名が参加した。11月14日にはノルディックウォーキングの会を開催した。同日午後、東京都糖尿病協会による第53回糖尿病週間講演会が開催され、荒木が基調講演「認知症やフレイル（虚弱）を防ぐための糖尿病の療養方法」を行った。

1 人員体制

〈副院長〉原田和昌
 〈部長〉藤本肇
 〈専門部長〉坪光雄介、石川譲治、武田和大
 〈医長〉石山泰三、田中旬、青山里恵
 〈常勤〉村田哲平、杉江正光、十菱千尋、大川庭熙、
 根本佳子、鳥羽梓弓、斎藤義弘
 〈非常勤医師〉桑島巖、鈴木康子、安佐里、
 山本文、鈴木歩
 〈研修医〉二見崇太郎、両角愛

病棟は、循環器内科・心臓外科・呼吸器外科で5階東西病棟を運営している。従前より日本循環器学会教育施設・日本心血管インターベンション学会研修施設という教育施設認定を受け、診療面では東京都CCUネットワーク/大動脈スーパーネットワーク支援施設に加盟している。体制面では青山里恵医師・村田哲平医師を新たに常勤スタッフとして迎え入れ、経皮的中隔心筋焼灼術(PTSMA)をはじめとする新技術の導入や診療体制の強化を図った。

2 診療活動

	H28	H29	対前年	対前年比
延外来患者数	32,556	33,357	+801	102.5%
延入院患者数	23,153	24,129	+976	104.2%
新入院患者数	1,151	1,396	+245	121.3%
平均在院日数	16.8	13.7	-3.1	81.5

対前年比では外来患者数・入院患者数ともに増加し、平均在院日数は短縮した。しかし初診患者についてはさらに増やすよう努力が必要と考えている。救急患者や紹介患者を断らずに積極的に受け入れること、新しい治療法の積極的な導入に取り組むこと、そして従来から行っている治療について近隣施設以上に質の高い医療を心掛けていくことが重要である。

主な検査・治療件数は心臓カテーテル検査797件、カテーテルインターベンション治療312件(うち緊急63件)、ペースメーカー植え込み術88件(うち新規66件)、電気生理検査8件、カテーテルアブレーション28件であった。特にカテーテルアブレーションにおいては心房細動に対するアブレーション治療を開始した。まだ症例数は多くないが、現時点では良好な初期成績を得ており、今後さら

に症例数を伸ばしていきたいと考えている。

3 研修・教育活動

毎朝8時よりCCUで症例検討カンファを行い、月曜17:30からクリニカル・カンファ、ジャーナル・クラブを、水曜17:00よりカテーテル・カンファを開いている。また別紙のとおり、学会・研究会での発表が非常に多いが、必ず発表前にカンファの場で予行を行い、全員の目で発表内容を検討するようにしている。

1 人員体制

平成29年4月からは、杉崎緑医師、濱谷広頌医師の退職、野木森智江美医師の休職に伴い、佐塚まなみ医師が新たに常勤医となり、2年間の初期研修を終えて当院での専門研修を開始したばかりの高田和典医師とともに入院患者の診療に活躍した。外来については、山本が週6～8コマ、山田専門部長が週4～5コマの外来を担当せざるを得ない状態であった。片岡愛医師が月曜午前の1コマ、村野陽子医師が火曜日午前午後計2コマ、臼井裕医師が水曜日午前1コマ、齋藤朗医師が金曜日午前午後2コマ、望月英明医師が金曜日午後1コマの外来をそれぞれ継続して担当した。片岡医師、村野医師は水曜日午前の気管支鏡検査にも参加した。

2 診療活動・実績

平成29年度は病床数を20床とし、初診・救急患者の受け入れ制限を実施した。平成29年度退院(転科を含む)症例は計378例(男性249例、女性129例)で、平成28年度の646例と比べて大幅に減少した。平均年齢は79.0歳であった。緊急入院は41.0%を占め、平成28年度より5.5%上昇した。死亡退院は22例で、剖検ありが3例、剖検なしが19例であった。死亡退院は全退院の5.8%であった。緊急入院症例の増加を背景として、初診の受け入れ制限を行った関係で予約入院が減少したことが考えられる。患者平均在院日数は昨年度より短縮し、17.0日(▼1.4日)となった。病床利用率は77.6%であり、平成28年度の111.8%と比較して大幅に低下したが、設定病床数(20床)が病棟担当医師数に対して不相応に多かったことがその原因と考えられる。

気管支鏡検査台帳に基づく、平成29年度の気管支鏡検査施行症例数(病棟実施実績分を含む)は117例で、昨年度の161例を大きく下回った(▼44例)。このうち、63例でTBLB/TBB、38例でEBUS-GS、16例でEBUS-TBNAがそれぞれ施行されていた。国立がん研究センターで行われている技術を吸収・移植することでGS併用例が増加し、診断率の向上にも寄与している。

当院入院患者の疾患内訳は下記の通りであった。入院患者数の大幅な減少に反して、肺癌症例は昨年度193例と比較し小幅な減少(▼10例)にとどまった。間質性肺炎は主病名、COPD・気管支喘息は副傷病名のことが多かった。

原発性肺癌	183
神経内分泌癌	47
腺癌	81
扁平上皮癌	47
大細胞癌	0
非小細胞癌・組織型不明	8
原発性肺癌の疑い	48
胸膜中皮腫	6
悪性リンパ腫	1
COPD	134
間質性肺炎	101
気腫合併肺線維症	22
気管支喘息	47
肺結核症	5
慢性呼吸不全	54
肺炎・気管支肺炎・気管支炎	126
肺膿瘍・肺化膿症	2
非結核性抗酸菌症	11
気管支拡張症	8
肺真菌症	7
アレルギー性気管支肺アスペルギルス症/真菌症	2
気胸	22
膿胸	4
胸水貯留	27
放射線肺臓炎	6
サルコイドーシス	3
睡眠時無呼吸症候群	6
インフルエンザ	2
じん肺症	2

高齢者肺癌に対する治療は従来の細胞障害性抗癌剤に限らず、分子標的薬や血管内皮細胞増殖因子モノクローナル抗体 (bevacizumab、ramucirumab) を用いた治療を行うことが多くなったほか、免疫チェックポイント阻害剤のnivolumabやpembrolizumabを用いた治療を行う機会も多かった。高齢者のADL、QOLを損ないにくい有用な治療選択肢と言えるが、適応症の拡大による免疫関連有害事象(irAE)への院内規模での対応が急務となった。そこで、キャンサーボード主催の院内講演会で知見の共有を図ったほか、定期的に開催されるようになったirAEマネージメント連絡会を通じて情報を発信した。

病棟担当医が1名+レジデントの体制となったため、初診・救急の受け入れを制限した。とくに佐塚医師は新人レジデントの教育や、人員の異動が激しい病棟看護師の教育やその業務支援、病棟や救

急外来における診療のリスク管理、院内他科からの随時のコンサルト業務の補助まで行ってくれた。また、一部の患者様の外来診療も担当し、山本、山田専門部長の負担軽減に尽力してくれた。初診の受け入れ制限の影響で、平成29年度の初診料算定外来患者数は236人から72人へ、延外来患者数も10,521人から9,372人へとそれぞれ減少した。一日平均外来患者数は38.4人/日(▼4.9人/日)に減少した。しかし、平成30年3月の外来診察患者数は山本が395名(平成29年3月は416名)、山田専門部長が189名(同192名)と、ほぼ前年度と変わらず、今後も継続して外来負担の軽減に策を要すると思われた。化学療法は概ね外来で行うようになっており、平成29年度は年間199件の外来化学療法を行っていた。

平成29年度はこれまでも増して多くの皆様のご理解とご協力を頂き、なんとか診療を継続することができた。まず、東大呼吸器外科の中島淳教授には、これまで通り週1回の外来診療や呼吸器外科手術でご支援を頂いたほか、常勤医の日野春秋医長には、原発性肺癌の診断・治療、難治性気胸の治療、診断困難な胸膜疾患の診断等で大変ご尽力いただいた。放射線治療科の山川通隆部長にも、例年どおり根治的胸部放射線照射や骨転移に対する緩和的放射線照射、脳転移に対する全脳照射等でご尽力いただいた。脳転移症例の一部は脳神経外科のご協力を仰ぎ、症状コントロールや全脳照射、γナイフ(東大病院や日赤医療センターへの依頼)などでご加療いただいた。9階東病棟を共有する総合診療科・感染症科の先生方(増田義重部長、岩切理歌部長)には、これまで同様、緊急入院症例を中心に入院患者の御診療いただくことが多く、また、他の内科系診療科の多くの先生方から度重なるご助力を賜った。9階東病棟の5床が緩和ケア内科の定床となったことで、これまで以上に緩和ケアチームとの連携はシームレスなものとなった。緩和ケアチームへの依頼件数も、平成27年度は39件であったが、平成28年度は64件、平成29年度は73件と、年々その関係性は深いものとなっている。齊藤英一部長、高橋尚子専門部長には一方ならぬご助力を賜った。

平成26年10月からスタートした、医師事務作業補助者による事前問診は外来初診担当医の負担軽減に引き続き貢献した。

9階東病棟では症例に応じて退院支援カンファを行っている。本カンファには、医師、看護師、MSW、医事課、薬剤科、栄養科の各担当者も合同で意見を交え、退院へ向けての積極的な方向付けを行っている。在宅酸素療法指導管理、在宅持続陽圧呼吸療法指導管理を行っている患者数はおよそ100名程度で推移している。

3 研修・教育活動

- 呼吸器内科カンファ：毎週火曜日17:00-
- 退院支援カンファ：症例に応じ適宜
- 呼吸器病理示説：年4回、病理診断科と合同で、気管支鏡検査の生検検体や手術検体に関して、病理組織検討会を開催した(平成29年4月14日、平成29年8月14日、平成29年12月8日、平成30年2月16日)。
- 病棟勉強会
間質性肺炎(平成29年11月16日)：講師 佐塚まなみ
- 院内講演会
 1. 高齢医学セミナー 高齢者呼吸器疾患の最前線 肺癌の分子標的治療と個別化医療への展開(平成29年7月29日)：講師 山本寛
 2. 感染症の勉強会、板橋ぜんそく管理勉強会(平成29年10月11日)：講師 感染症内科 小金丸博医師、帝京大学医学部附属病院呼吸器・アレルギー内科 山口正雄教授、座長 山田浩和
 3. キャンサーボード院内講演会 免疫チェックポイント阻害薬を知ろう(平成29年11月22日)：講師 山本寛
- お昼のクルズス
 1. 胸部レントゲンの読み方(平成29年5月31日)：講師 山本寛
 2. 成人肺炎診療ガイドライン2017～人生の最終段階における医療の意思決定プロセスを考える(平成30年1月30日)：講師 山本寛
- 外部講習会
 1. 第58回臨床呼吸機能講習会(平成29年8月24日～8月26日、横浜、佐塚医師)
 2. 呼吸器画像が読めるようになる会 第7回教育セミナー(平成29年8月26日、東京、高田医師)
 3. 第7回肺聴診セミナー(平成29年10月17日、東京、高田医師)
 4. 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 第51回気管支鏡講習会(平成29年12月2日、東京、佐塚医師)
 5. 日本緩和医療学会 第32回緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会(平成30年2月24日、千葉、山本)
 6. 第65回臨床呼吸器カンファレンス(平成30年3月8日、東京、佐塚医師、高田医師)
- 専門医取得
野木森智江美：日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
佐塚まなみ：日本内科学会総合内科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本老年医学会老年病専門医

(文責：山本寛)

1 人員体制

〈部長〉 上垣佐登子
 〈常勤〉 潮靖子、藤井悠子
 〈非常勤〉 佐々木美奈、野口三四朗、秦弘恵、
 剛崎有加、松岡順子
 〈研修医〉 シニア：武村拓哉、廣田旭亮
 ジュニア：木谷貴博、宮一佑衣、
 樋口陽、熊川義人、梅田由貴、
 小笹静佳、遠藤遼、馬場口紘成、
 小沢理音、堀千紗、梅田百希、

消化器内科と内視鏡科は、8階西病棟の37床と8階東病棟の18床の計55床を担当している。

常勤医師として潮医師、藤井医師、上垣、内視鏡科の西村医師と松川医師を中心に外来・病棟・検査業務を行った。4月で佐々木医師が退職され、非常勤医師となった。

後期研修医では、武村医師と、本年度から当科の後期研修医として廣田医師が加わった。

初期研修医は、合計11人の先生が、1～2ヵ月毎のローテーションで当科を研修された。

後期研修医の藤井医師、武村医師も上級医のもと、病棟業務だけでなく外来及び検査業務も行った。

初期研修医では、多くの研修医の先生方には病棟を中心に、検査にも参加し活躍頂いた。

検査の面では、水曜日に野口医師、また金曜日には秦医師、剛崎医師に検査を手伝って頂いた。今年から非常勤医となった佐々木医師には水、木の両日で外来、および検査・処置でご協力頂いている。

2 診療活動・実績

外来業務は、月曜日に松川医師、上垣、火曜日に西村医師と藤井医師、水曜日に佐々木医師と潮医師、木曜日に佐々木医師と上垣、金曜日に西村医師と武村医師と、各曜日の外来体制で行った。その他、胃癌大腸癌検診で2次検診希望の方のための外来なども行った。医師数の減少もあったが、外来患者数も増加傾向となった。

病棟での診療業務は、看護師の大きな協力体制により、安全に行うことを目標に行ってきた。悪性疾患や複数の併存疾患の方も多く、全人的治療が強く求められるケースにおいては、他科医師や多職種でのチームとしての治療も心がけた。

検査に関しては、月曜～水曜日を内視鏡下粘膜

下層剥離術の処置日とし、その他超音波内視鏡下穿刺術や逆行性内視鏡下膵胆管造影術は症例ごとにflexibleに1週間を通じて行い、適切な治療方針を検討し治療を行った。ラジオ波焼灼療法や肝生検は、病棟の処置室で水曜日を中心に行った。

当院は高齢者の方も負担なく大腸内視鏡検査検査がうけられるように、ご希望に応じて外来でも入院でも対応可能としている。また日数も前処置の必要性に応じて日帰り～2泊3日のパスまで運用可能な状態である。鎮静下での内視鏡検査は、2016年から導入され、希望者も増加し順調である。

疾患の内訳としては胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌等を含めた悪性腫瘍の治療の一方、胆道感染症、イレウス、出血性病変による吐血などの緊急対応が必要な患者が多い状況は変わらなかった。

年間で、下部内視鏡検査のなかで、病棟における大腸内視鏡検査パスは本年度も900例を超え、約半数を占めた。80歳以上の鎮静上部内視鏡パスも150例を超えていた。上下部の内視鏡下粘膜下層剥離術もさらに増加し、パスでの対応も安全に行っている。今年度は大腸癌に対しての金属ステント留置術症例も増加していた。

胆道感染症も多く、緊急での逆行性内視鏡下膵胆管造影術も変わらず多いが、パスを活用し迅速に対応した。総胆管結石に対して採石を行うとともに、悪性腫瘍での閉塞性黄疸に対しては金属ステント留置を行っている。

肝臓癌に対しては、腹部超音波室での造影超音波検査を行い、血管造影術下での塞栓療法及び動注療法やラジオ波による焼灼などを行った。

内視鏡治療を中心に、高齢者に対して負担が少ない治療を行えるよう、協力している。入院患者数の増加により、効率的に入院日数を短縮し対応しているが、平均在院日数は今年も約7日で高い回転率での運営を継続している。

3 研修・教育活動

検査・手技が多い当科では、マンパワーが必要な処置もあり協力して検査を行ってきた。毎週カンファランスを行い、症例の共有を行っている。実際に後期研修医も含めてかなりの検査を実際に行える環境を目指している。内視鏡検査・処置に関しては、当院でかなりの内容が学ぶことが可能となった。研修医でも検査・処置を一緒に学べ、また常勤医でも手技の上達を目指せるよう、更なる環境づくりを引き続き行っていきたい。

1 人員体制

平成29年度は、常勤医として、村山、金丸、仁科、仙石、東原（8月より海外研修）、本山、広吉、また、兼任で砂川（在宅診療部）、石井、石橋（PETセンター）、その他、外来非常勤（江口、山崎、森本、神経心理：武田、てんかん：松平）が臨床体制を敷いた。その他後期研修医2名、前期研修医1-2名の体制で、常勤の神経学会専門医は7人体制である。神経変性疾患から脳梗塞まで、幅広い専門的な対応が可能となっている。

2 診療活動・実績

病棟：10階西病棟37床、10階東病棟7床の合計44床。脳梗塞超急性期のtPA治療等は集中治療室（11月よりSCU6床）で診療している。脳卒中ユニットSCUは脳神経外科とともに運営し、24時間対応で急性期脳卒中診療を行うとともに、リハビリテーション科との協力により急性期リハビリにも積極的に取り組んでいる。慢性期脳梗塞再発予防治療として、抗血小板剤や脳塞栓に対する抗凝固療法を行っている。平成29年度の新入院患者数は589人、転入患者数355人。初診外来患者数は702人である。入院では脳梗塞など脳卒中急性期が多く227人、うちtPA治療は24人で行っている。神経変性疾患ではパーキンソン病および関連疾患が多く（パーキンソン病 56人）、パーキンソン検査パス入院を設けている。また、アルツハイマー病などの変性型認知症には認知症入院パスを設けている（アルツハイマー型認知症など認知症入院 59人）。今年度も神経難病のレスパイト入院を継続した。胃瘻チューブ交換短期入院パスも継続した。神経・筋疾患については、電気生理学的検査・適応決定の上生検を行っている。肺炎・尿路感染症・脱水症などの内科疾患にも対応している。病棟では、毎朝のモーニングカンファ、月曜日問題症例回診、水曜日研修医回診、金曜日新患回診を行い、問題症例は週1回の症例カンファで討論している（村山）。

外来：神経内科外来は予約制であり、月曜日から金曜日まで常勤スタッフおよび石井、石橋（研究所神経画像研究チーム）、吉野（吉野内科クリニック）、江口、山崎、森本が、初診・再来患者診療を行った。救急対応は、救急外来、また、毎日設けている神経内科外来予約外診療（予約新患にも対応）にて行っている。毎週月曜日（井原）、水曜日午後（交代制）には“物忘れ外来”も担当。ま

た、てんかん外来（松平）、神経心理外来（武田）も継続している。その他、眼瞼痙攣を対象にボツリヌス治療を行っている（金丸）。神経心理検査は常勤（小幡）・非常勤（瀬川）心理士が対応している。

検査：筋電図、末梢神経伝導速度、誘発電位など電気生理学的検査（東原）、神経・筋生検（仁科）、匂い検査・皮膚生検（仙石）、頸部ドップラー（本山）、脳脊髄液バイオマーカー検査（tau、A β 42）（金丸）を行っている。神経・筋はバイオリソースセンター組織リソース、脳脊髄液はバイオマーカーリソースとして蓄積を継続している（平成29年度、髄液検体数 149）。病理診断は神経病理専門医（村山）が行っている。

放射線検査として、CTおよびMRIが24時間対応可能で、神経放射線専門医が対応している。問題症例は、研究所に依頼しPET検査を積極的に行っている（石井・石橋）。

死亡患者の剖検許可をご遺族より得て高齢者ブレインバンクに登録することに加え、生前同意を得る努力も行っており、臨床・画像・病理連関に基づき、診療に生かす努力を高齢者ブレインバンク・バイオバンクプロジェクトとして行っている（村山）。

在宅診療：板橋区医師会神経難病の在宅往診診療を行っている（金丸）。

3 研修・教育・研究活動

検討会：毎日朝8時30分より、夜間当直時間帯に入院した脳卒中急性期を含む救急入院症例の検討を行っている。神経内科入院中の問題症例については、毎週火曜日に症例検討会を行い診断および治療方針の検討を行っている。死亡例については、高齢者ブレインバンクと共同でブレインカッピングおよび臨床病理検討会（CPC）を行い診療レベルの向上に努めている。また、月1回、精神科・放射線科・リハビリテーション科と合同で物忘れカンファを行っている。脳卒中患者の治療には、発症早期にリハビリテーション科に依頼しリハビリテーションを導入、リハビリテーション科との検討会を定期的に行い、リハビリ継続が必要なケースは積極的にリハビリテーション科転科をすすめ、ADL・QOLの改善を目指している。また、板橋区医師会の共催を得て、当センター神経内科・脳卒中科セミナーを開催し、病診連携への貢献も継続している。

学会発表：国内学会として、神経学会総会・関

東地方会、神経病理学会総会・関東地方会、Neuromuscular Conference、Spinal Cord Club、脳卒中学会、認知症学会、自律神経学会、パーキンソン病・運動障害疾患 kongress に発表を行っている。

国際学会として、American Academy of Neurology, International Parkinson and Movement Disorder Society, Alzheimer Association International Conference に発表を行っている。

またオールジャパン研究として、JALPAC, JACCALS, JAMSAC, JADNI に協力している。

1 人員体制

〈血液内科部長〉宮腰重三郎
 〈血液内科医長〉小倉和外 齊藤輔
 〈血液内科 移植コーディネーター〉赤川順子
 〈輸血細胞療法科部長 血液内科専門部長〉
 小林寿美子

2017年9月より血液内科医長として齊藤輔先生が着任した。

血液内科は主に血液造血組織に関する疾患を扱っている。病床数は完全無菌室36床、例年通り入院患者の90%以上が血液疾患症例であり、このうち約半数が急性骨髄性白血病を中心とした急性白血病と骨髄異形成症候群であった。今年度は入院患者の80%以上が移植関連の症例が占めていた。

2 診療活動・実績

〈外来〉延べ外来患者数は若干減少したが、造血幹細胞移植目的での紹介が多く、セカンドオピニオン外来も昨年と同様であった。紹介患者の大部分は区西北部医療圏の地域連携での患者である。大学病院など公的病院、一般病院での高齢者血液悪性疾患患者の受け入れは十分といえず、当科が受け皿となっているのが現状は例年と変わりはなかった。

〈入院〉前年度に比較し、延べ入院患者数、病床利用率は昨年より若干増加し、前年21例であった移植件数は増加し、計25例であった。平均在院に数も短縮した。移植に関しては、特に70歳代の移植症例が増加している。多剤耐性菌のブレイクスルーがないように細心の注意を払い、ブレイクスルーは認めなかった。新施設は11階西病棟に36床の無菌病室（管理加算-1：3000点/日対応 14個室、管理加算-2：2000点/日 対応の多床室22ベッド）病院情報局による骨髄異形成症候群の症例数別ランキングでは前回同様全国5位であった。

また、2017年1月に骨髄バンク認定採取病院になり、さらに2017年4月日本造血細胞移植学会認定の移植認定病院となった。このことにより非血縁者間臍帯血移植以外にも骨髄バンクからの骨髄移植や末梢血幹細胞移植が可能となった。さらに本年度より新規業務として骨髄バンクドナー8症例を受け入れ開始し、細胞採取ならびに処理を実施し昨年度よりもバンク関連業務の拡大につながった。

3 研修・教育活動

例年と同様に新臨床研修制度を充実させるため、骨髄標本読み会を通して、血液疾患に対する理解を深めている。特に骨髄標本読み会においては、大型モニターを利用し、同時に多くの先生とディスカッションできるように工夫をしている。血液悪性疾患の治療にはコメディカルの協力が不可欠である。このため血液疾患の特性、治療上の留意点など、さらに理解を深めてもらうため定期的に病棟カンファランスを開催している。病棟薬剤師、栄養士の方々も参加してもらった。血液悪性疾患についてのカンファランスを行った。

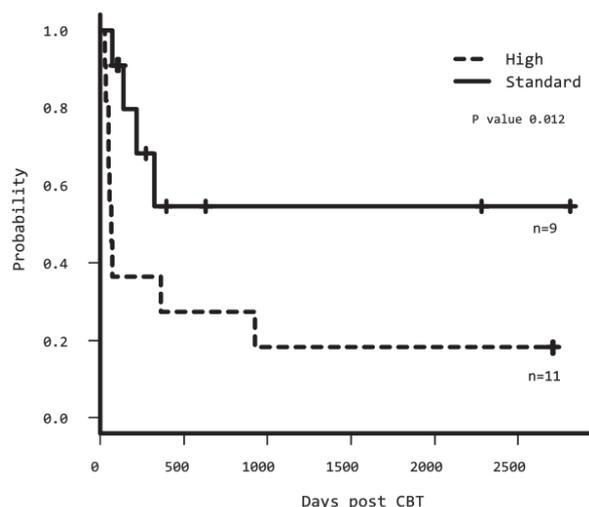
回診も強化し、週3回の回診と毎日朝の移植症例回診を充実させた。

高齢者血液疾患や高齢者移植の講演を精力的に行った。

研究面では、高齢者血液悪性疾患に対する造血幹細胞移植の安全性確立に関して、移植後合併症をいかに減少させるかに注力し、その成果を学会で発表した。移植関連死亡は減少傾向にあり、当院での70歳代の移植成績も、70歳未満の年齢層と遜色がなくなりつつある。

図1に70歳代の臍帯血移植の生存率を示す。特に本結果は移植前処置の工夫をした結果、若年層と比較して遜色のないデータとなっている。

図1：70歳代の臍帯血移植全生存率



1 人員体制

今年度の科の運営に関与した医師は、常勤医：増田義重部長、小金丸博医長（2017年4月1日着任）、研修医：水上翔太、三原現、梅田百希、北郷萌、熊川義人、小笹静佳、馬場口紘成が科の運営に協力した。

2 診療活動・実績

平成28年度、感染症内科は、9東病棟38床を総合診療科、呼吸器内科と共に運用。内科外来の運営を行った。

1年間で入院患者は転科例を含めて144名で、発熱を主訴とする緊急入院患者が多く、各種感染症108例（呼吸器60、尿路14、インフルエンザ等9、消化管・胆道系6、皮膚・軟部組織・骨・関節3、敗血症・血流感染症14、結核4）であった。また、種々の内科系入院が36例（呼吸器系疾患10、内分泌系7、消化器系疾患4、神経系疾患6、その他9）であった。死亡16例（剖検2例）であった。

外来業務として、感染症外来4単位、内科外来1単位を担当した。

インフルエンザ予防接種は、ワクチン供給が遅れ、職員に対しては患者接触の多い部署から段階的に行った。患者に対する接種は十分なワクチンが確保できず、12月中旬より、予約制で行った。ワクチン不足のため、板橋看護学校学生への接種協力は出来なかった。

インフルエンザ流行期は、内科系・外科系の順で個室を利用し、インフルエンザ患者の入院に対応した。担当は入院病棟の医師へお願いした（外科系病棟は後期研修医に持ち回りで担当医をお願いした）。混乱はなく運用可能であった。

外来患者に対しても、肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）の予防接種を行った。

病院全体の院内感染対策に取り組んでいるが、特定感染症予防対策委員会、感染症対策小委員会の運営を担っている。新施設移転後は、電子カルテを利用して、血液培養陽性に対しては原則全例診療録に所見を記載し、担当医の診療の一助となるように努めた。また、週一回の血液培養陽性例、抗菌薬の長期投与例、コンサルト例を中心とした全病棟のICT回診を行うほか、症例の相談に応じながら、院内感染対策、適正抗菌薬使用の知識普及に努めた。

国の政策として抗菌薬耐性対策が重視され、薬剤科と協力して、抗菌薬適正使用チーム（AST）

の立ち上げを行った。

新施設移転後は、クロストリジウム・デフィシル腸炎は明らかに減少した。ウェルシュ菌による散発下痢症の流行が見られ、対応を行った。

1 人員体制

〈部長〉古田光

〈常勤医員〉筒井卓実、久保田真由、松井仁美、
市橋雅典

〈非常勤医員〉上田諭、松本健二

〈臨床心理士〉

〈常勤〉扇澤史子、岡本一枝、今村陽子

〈非常勤〉市川幸子、高岡陽子、西垣綾峰、
堀内隆裕

今年度は2016年度とくらべ実質2人減の常勤5人体制に戻った。常勤医師としては古田光、筒井卓実、久保田真由、松井仁美、市橋雅典が勤務を継続した。2018年3月末で久保田真由医師および市橋雅典医師が退職した。2017年4月より、3月まで常勤医師として勤務した松本健二医師が、非常勤医師としてもの忘れ外来での診療を開始した。また、老人医療センター時代に長く当院精神科に勤務した上田諭医師（現東京医療学院大学教授）が2017年4月より非常勤医師として精神科外来診療を開始した。松井医師が2017年9月～2018年3月産休を取得した。

2017年5月～6月豊島病院シニアレジデント斎藤雅史医師が当科で研修を行った。同じく豊島病院シニアレジデント長谷川裕美医師が2017年9月～2018年4月研修を行い大きな戦力となった。

例年通り、院内初期臨床研修医計8名（池田久美、石滝公一、塩満恵子、高木美貴、原田丈太郎、樋口陽、三原現、宮市佑衣）が豊島病院神経科の協力を得て、精神科で研修を行った。

2017年4月非常勤臨床心理士として堀内隆裕が勤務を開始した。非常勤臨床心理士の市川幸子、西垣綾峰が2018年4月で退職した。

2 診療活動・実績

〔1〕外来

常勤医5名と非常勤医1名で外来診療にあたった。2017年度の総初診患者数は再初診も含め計363名（男性131名、女性232名）、平均年齢は77.8±9.7歳（26-91歳）であった。医師の減少に伴い初診患者数は減少した。外来初診患者の初診時主診断はICD-10分類で、F0（認知症・せん妄を含む器質性精神疾患）が58.4%、F1（アルコール依存等精神作用物質による障害）2.5%、F2（妄想性障害を中心とする統合失調症圏）6.9%、F3（うつ病など気分障害）14.6%、F4（身体表現性障害、適応障害

などの神経症圏）9.4%、F5（不眠症や摂食障害等）3.0%、F7・F8（精神遅滞や発達障害）0.3%、Gコード（てんかんや薬剤性パーキンソンニズムなどの神経系の疾患）2.2%であった。器質性精神障害が初診患者の半数以上を占め、気分障害圏、神経症圏、統合失調症圏が次ぐという例年同様の傾向であった。初診時になんらかの認知症疾患の病名があった患者は166名で初診全体の45.7%であった。認知症の原因疾患としてはアルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症が多かった。他病院からの紹介患者が52.6%と約半数で、院内紹介が20.9%となんらかの紹介のある患者の割合が73.6%であった。初診患者の居住地は板橋区が55.1%と半数以上であった。その他は豊島区（9.4%）、練馬区（12.1%）、北区（8.8%）が多く区西北部二次医療圏の患者で85.4%を占め、地域に根付いた精神科となっていることがうかがわれた。区西北部医療圏の地域拠点型認知症疾患医療センターに指定されていることも区西北部医療圏の患者が多い一因と考えられる。

〔2〕入院

定数30床+定数外の保護室2床の閉鎖病棟で、看護基準10：1の体制を継続した。有料個室1室の運用を継続した。

2017年度の新規入院患者はのべ260名（男性88名、女性172名）で、2016年実績を下回った。平均年齢は80.0±7.0歳（51-95歳）であった。64.2%が医療保護入院で入院した。退院時主診断のICD-10分類は、F0（認知症・せん妄を含む器質性精神疾患）が68.5%、F1（アルコール依存等精神作用物質による障害）1.5%、F2（妄想性障害を中心とする統合失調症圏）5.0%、F3（うつ病など気分障害）25.0%と、F0圏の患者の割合が今までで一番高かった。退院時に何らかの認知症性疾患の診断のあった患者は172名と総入院患者の66.2%を占めた。認知症性疾患の内訳は、アルツハイマー型認知症29.7%、脳血管障害を伴うアルツハイマー型認知症もしくはアルツハイマー型認知症と血管性認知症の合併が8.7%、血管性認知症6.4%、前頭側頭型認知症4.47%、レビー小体型認知症41.9%、その他（PSP等）が8.7%で、初めてレビー小体型認知症が最多となった。

2017年度の平均在院日数は2016年度よりやや延長し34.7日であったが、引き続き10:1看護体制で求められる40日を下回ることができた。病床利用率は81.6%と2016年度より微減した。精神保健福祉士が入院前から患者に関わり、入院中、退院後と

一貫して支援していること、多職種での退院支援に向けたカンファランスを毎週行い、連携を濃密に行った。病棟看護師がユマニチュードの院内研修を受け、認知症患者に対するより良い看護を実践した。

駒井作業療法士の退職に伴い、週1回の集団回想療法以外のその他の集団精神療法を臨床心理士を中心とした運営とした。定年退職したPSW資格を持つ看護師もボランティアで運営に関わってくださった。ボランティアによる音楽療法(4回/月)、看護師を中心とした「転ばん体操」(研究所に協力してもらいメニューを決めた転倒予防のための筋力アップ体操)(土日祝日も含めほぼ毎日)を継続した。ECTの総施行件数は309件と前年度より20件以上増加した。PEPPERによる認知症患者のレクリエーションの効果の研究にフィールドを提供しスタッフがBPSDの評価に協力した。

[3] コンサルテーションリエゾン

■入院中他科コンサルテーションリエゾン

2017年度精神科に診察依頼のあった他病棟入院中患者は計223名(男性101名、女性122名)で、2016年度より減少した。患者の平均年齢は76.0±13.6歳(22-98歳)であった。64歳以下の非高齢者の割合は15.7%であった。精神科主診断内訳はF0(認知症・せん妄を含む器質性精神疾患)が53.4%、F1(アルコール依存等精神作用物質による障害)3.1%、F2(妄想性障害を中心とする統合失調症圏)4.5%、F3(うつ病など気分障害)14.8%、F4(身体表現性障害、適応障害などの神経症圏)7.6%、F5(不眠症や摂食障害等)1.8%であった。認知症、せん妄などの器質性精神障害の割合は2016年度より低く、精神科リエゾンチームの活動の効果と考えられた。引き続き骨髄移植および臍帯血移植前評価、心移植の適応の評価等の移植前評価が30件以上あった。今年度は医師及び心理士がVADに関するカンファにも参加した。

■精神科リエゾンチーム

2016年7月から開始した精神科リエゾンチームラウンドを今年度も継続した。白取認知症看護認定看護師、精神科筒井医師、精神科心理士、精神科病棟薬剤師、認知症センター精神保健福祉士で構成するチームが週1回緩和ケア病棟を除く全病棟の回診を行った。2017年度はのべ257名(男性128名、女性129名)の入院患者に対して介入を行った。相談者のほとんどは病棟の看護師だったが、病棟薬剤師や担当医師からの依頼もあった。依頼元病棟別では、11西病棟から8例、10東病棟から24例、10西病棟から23例、9東病棟から37例、9西病棟から17例、8東病棟から24例、8西病棟から14例、7東病棟から13例、7西病棟から8例、6東病棟

から34例、6西病棟から11例、5東病棟から21例、5西病棟から18例、ICUから5例だった。介入対象者の平均年齢は84.0±8.0歳(49-103歳)で、相談内容は、不穏・帰宅関連行動などの活動性の亢進に関するものが173名、過鎮静・食事摂取不良などに関するものが34名、精神科の既往があったことでの相談が6名、その他の相談が44名だった。相談があった者の要介護度は「なし」から「要介護5」まで順に56名、4名、13名、26名、44名、53名、23名、17名だった。面接による暫定診断は認知症/せん妄が210名、うつ病/統合失調症が5名、精神的診断なしが20名で入院前と同じ場所に退院した患者は123名いた。

[4] 緩和ケアチーム

松井医師の産休に伴い、2017年9月～2018年3月は久保田医師が緩和ケアチームの一員として活動した。

3 研修・教育活動

精神神経学会、老年精神医学会、認知症学会、認知症ケア学会等で医師、コメディカルらが発表を行うとともに、地域医師会や福祉職員、認知症介護者を対象とした勉強会の講師をつとめた。首都大学看護学部学生の実習を病棟および精神科外来・もの忘れ外来で受け入れた。認知症看護認定看護師の実習を病棟・外来で受け入れた。2016年度から開始した東京医科歯科大学医学部6年生の学外実習の受け入れを継続した。東京都立板橋看護専門学校の精神看護学講義を引き続き担当した。認知症支援推進センターの島しょ地域の認知症対応力向上に向けた支援事業に医師、臨床心理士を派遣した。認知症疾患医療センターとの共催で行動制限最小化委員会の勉強会を2回開催した。今年度の行動制限最小化委員会勉強会のテーマは「暴力」とし、第2回では講師として神戸市立医療センター精神科大谷恭平医師及び、CVPPPインストラクター看護師2名を迎え、「せん妄のCVPPP」の研修を行い非常に好評であった。

1 人員体制

もの忘れ外来では引き続き精神科・神経内科・研究所の協力態勢で診療を行った。精神科・神経内科常勤医師のほか、研究所社会参加と地域保健研究チーム研究部長藤原佳典医師、研究所自立促進と介護予防研究チーム栗田圭一医師が診療を継続、2017年4月より精神科の常勤から非常勤医師となった松本健二医師がもの忘れ外来診療を開始した。

2 診療活動・実績

もの忘れ外来では区西北部二次保健医療圏患者の優先診療を継続した。初診患者（再初診含む）は844名で、平均年齢 80.2 ± 7.7 歳（33-97歳）であった。（男性259名、平均年齢 78.9 ± 7.6 歳；女性585名、平均年齢 80.8 ± 7.7 歳）。患者居住地域は板橋区60.4%、豊島区12.8%、北区8.8%、練馬区12.4%と区西北部4区在住の患者で94.4%を占めた。他医療機関からの紹介患者は78.1%、院内他科からの依頼は6.2%であった。初診時診断は、正常または健常12.8%、軽度認知障害（MCI）19.8%、アルツハイマー型認知症38.4%、脳血管障害を伴うアルツハイマー型認知症3.3%、血管性認知症4.3%、レビー小体型認知症4.9%、前頭側頭葉変性症1.2%、正常圧水頭症0.4%、アルコール関連認知症0.8%、他の認知症4.7%、認知症以外の精神疾患2.3%、認知症以外の神経疾患0.6%であった。

精神科・神経内科ともに人員が減ったため予約待機期間が長くなり、最終的に2～2.5ヶ月程度になってしまった。引き続き認知症専門相談室でトリアージを行い、緊急性の高い患者は個別での対応を行った。認知症初期集中支援チーム、認知症疾患医療センターアウトリーチ事業、板橋区おとしより専門相談事業と連携した受診調整も行った。

今年度より東京都公安委員会からの依頼による臨時適正検査を開始した。

3 その他

2017年度も引き続き東京都認知症疾患医療センター運営事業の委託を受け活動した。患者・家族のサポート事業として、認知症はじめて講座、認知症センター家族交流会、私たちが話そう会、外来回想療法を継続した。教育研修機関として、院内外の医師、医学生、看護師、看護学生、臨床心理士学生、PSW学生等の研修を受け入れた。詳細は認知症疾患医療センターの項を参照のこと。

1 人員体制

〈部長〉齊藤英一

〈医師〉加登大介（非常勤）、宮本千文（非常勤）

〈臨床心理士〉山下範恵、道家木綿子、小野恵理香

〈音楽療法士〉進藤雅子

〈園芸療法士〉近藤範孫

2 診療活動・実績

（1）病棟

12階緩和ケア病棟は80%弱の病床利用率で、前年度に比べて院内からの転入が30～40%程度増えている。緩和ケア病棟からの自宅等への退院率は20%弱で、他院後は当科外来に通院して頂いたり地域の在宅支援診療所と連携し在宅緩和ケアを受ける体制も整えている。

緩和ケア外来や救急外来からの一般病床への緊急入院も増加した。

	平成28年度	平成29年度
入院者数	232	237
病床利用率 (%)	74.0	79.0

緊急入院と在宅療養支援

限られた病床数とスタッフのために、緊急入院は紹介元での対応を原則としているが、緩和ケア外来に定期的に通院していたり緩和ケア病棟の入院退院を繰り返している患者については、上記のように緊急対応の体制が整いつつある。

入院中の在宅療養支援や在宅支援診療所、訪問看護ステーションとの連携、病棟看護師による在宅訪問により、緊急時の相談先や入院先を保障しながら望む場所での療養を支えている。

また入院審査会を終えているが即座の緩和ケア病棟入院を希望していない待機者が150名前後となっている。これらの方々については病棟師長、MSW、臨床心理士が協力して定期的な電話相談や必要に応じて外来受診を調整している。

多職種チームケアについては、多職種カンファレンスを定期開催し、リハビリやMSW、栄養士との情報共有に努めると共に、新たに臨床心理士や音楽療法士、園芸療法士が病棟のケアチームに加わった。とりわけ臨床心士の増員は病棟、外来、緩和ケアチームでの活動を充実させている。ご覧ティアの組織が進み、定期的な活動が始まった。

（2）緩和ケア病棟入院相談外来

相談外来は年度末には月曜から金曜まで拡大した結果、前年度よりも15%ほど増えている。

同時に入院相談外来は、がん相談支援センターと併せて必ずしも入院相談だけの働きではなく、今後の過ごし方や療養の場を相談する働きも強めている。さらに入院相談から緩和ケア外来への受診者も増加し、早期からの緩和ケア介入が可能となっている。

院内からの紹介や緩和ケアチームで介入している患者については臨時で相談を持つことで相談までの待ち時間や転棟までの待機日数も縮小した。

ア 緩和ケア病棟入院相談件数

	院内	院外
相談件数	204	553
内受診に至った件数	175	277
未受診	29	276

※未受診理由：患者死亡 概要説明のみ希望 状態悪化 他院へ入院 本人希望せず など

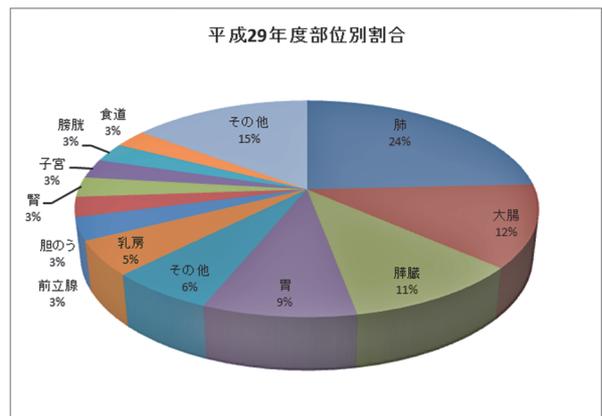
イ 平均待機日数

	院内	院外
申し込み～受診	15.5	17.7
受診～入院	19.9	14.4

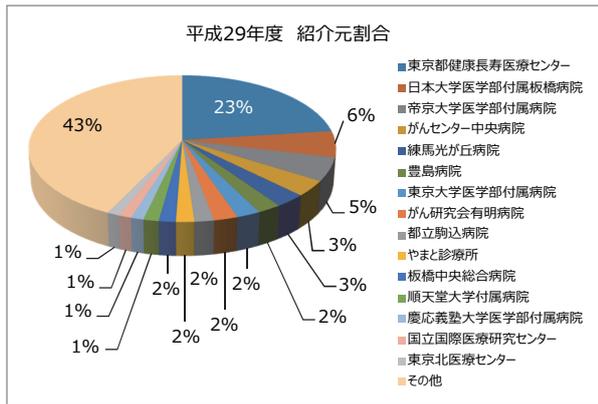
ウ 平均年齢

院内：80.2歳 院外：74.8歳

エ 疾患別相談件数



オ 紹介元医療機関



(3) 緩和ケア内科外来

症状マネジメントと意思決定支援を中心に開いている緩和ケア外来も先に述べたように受診者数が増えている。相談外来で症状マネジメントが必要な患者が緩和ケア外来に繋がったり、抗がん治療中の患者の支持療法や意思決定支援に受診する患者も少なくない。紹介元との連携も緩和ケア外来の大切な働きである。緩和ケア外来に通院している患者の緊急入院や臨時の外来もあった。また緩和ケアチームで介入した患者の退院後の主科受診に合わせて緩和ケア外来での併診も行われている。

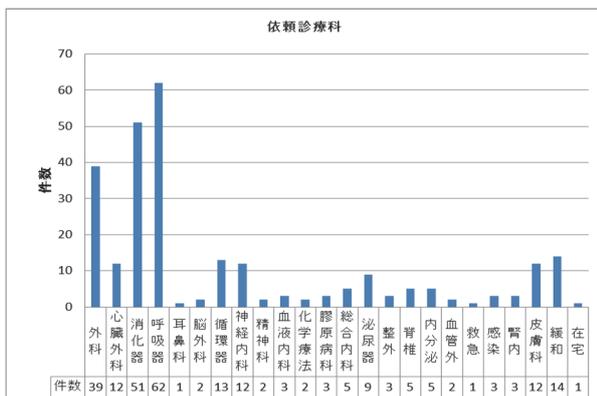
3 緩和ケアチーム

緩和ケアチームの働きが充実したのも大きな変化だった。回診とカンファレンスを定期的に行き、患者家族、病棟看護師、医師、MSWと緩和ケアチームへの依頼を職種や部署を限定しないようにした。相談件数や介入数、またチームからの緩和ケア病棟への転棟数も増加した。医師の退任があったが必要に応じた介入を続けている。

ア 緩和ケアチーム依頼件数

依頼総数	327
がん	274
非がん	53

イ 診療科別依頼件数



ウ 依頼目的

第1依頼目的	件数
症状緩和	166
意思決定支援	14
療養環境調整	54

エ 転記

転記	件数
自宅退院	76
死亡退院	60
転院	14
PCU入棟	72
不変	16
軽快	16
その他	0

4 研修・教育活動

以下を開催した。

(1) 事例検討会（センター全職員を対象）

①平成29年6月13日（火）3階A会議室

参加者：41名（院外12名：（豊島病院緩和ケア病棟・王子生協病院緩和ケア病棟・駒込病院緩和ケア病棟）

テーマ：エンドオブライフ

②『虹の会』（遺族会）開催

平成29年10月28日（土）

午前の部：10時～12時

午後の部：14時～16時

参加人数：遺族38組（参加者：52名）、

スタッフ26名

茶話会、主催者からのあいさつ、写真撮影、アイオリンの演奏会など

③がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会

平成29年11月18日（土）、19日（日）

参加者：17名（院内：15名、院外2名）

(2) 研修医師受け入れ

(3) 次年度開催の緩和ケア研修会の準備委員会の発足

1 人員体制

平成29年度の外科系診療体制は、外科、血管外科、心臓外科、脳神経外科、呼吸器外科、整形外科、脊椎外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科の12科であった。また当然ながら手術を支える麻酔科、中央手術室と密接に連携をとって診療にあたっている。

人事異動

本年度新たに赴任された外科系の先生は（以下敬称略）、平成29年4月、上野俊昭（脳神経外科部長）、眞野暁子（心臓外科医長）、永田卓士（泌尿器科）、若松喬、藤巻圭介（外科）、10月、中村伸哉（整形外科）、大和志匡（脊椎外科）、11月、池上靖子（眼科医長）、平成30年1月、毛利香織（耳鼻咽喉科）の各先生方である。

退職された先生は平成29年9月末、長沼英俊（整形外科）、上園茂仁（脊椎外科）、10月末、青木彩（眼科医長）、12月末、加藤倫子（心臓外科医長）、平成30年3月末鈴木潤（血管外科医長）、高木泰介、若松喬（外科）、金子奏一郎（整形外科）の先生方であった。

2 診療活動・実績

当院は従来、高齢者の特性に配慮した医療の充実と重点医療の提供を目指している。新病院への移転後、電子カルテ導入、病棟・病床数の変更、新手術室など、多くの新しい診療体制が導入されたが5年目を迎え、順調に取扱い患者数も増加している。

本年度の中央手術室の利用件数は4666件と昨年度（4683件）とほぼ同等であった。眼科の手術室利用件数が158件減少しており、眼科以外の診療科の手術室利用件数が伸びていた。

内訳は、眼科（2140件）を筆頭に、外科（539件）、整形外科（341件）、血管外科（279件）、泌尿器科（261件）、脳神経外科（241件）、脊椎外科（130件）、心臓外科（86件）、耳鼻咽喉科（86件）、皮膚科（54件）、呼吸器外科（42件）、歯科口腔外科（9件）の順であった。眼科が158件、泌尿器科が63件、心臓外科が17件と減少したが、脳神経外科94件、外科63、整形外科23件、耳鼻咽喉科13件と増加した診療科もあった。

3 研修・教育活動

平成29年度は、新たに10名の初期研修医を受け

入れた。当センターの初期研修プログラムでは内科研修が主体であるが、外科系各科での研修も行っていただいた。特に初期研修2年目の先生方は麻酔科、外科、整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻科、帝京大学形成外科、帝京大学産婦人科、帝京大学外傷センターでの研修を行っていただいた。

地域連携の一環としては、平成29年度の地域連携ニュースに口腔機能支援センターのご案内（5月 歯科口腔外科）、補聴器外来の開設（9月 耳鼻咽喉科）、食道癌に対する胸腔鏡補助下手術（11月 外科）、脳血管内治療科のご紹介（1月 脳神経外科）を載せ、アピールを行った。

高齢者に対する専門病院としての地位を確固たるものとするべく、各職員が日々努力しているのはいうまでもない。外科系各診療科では安全確実、適切な手術、診療を行うことにより、患者さまへ満足できるサービスを提供したいものと考えている。そのために、新たな人材の育成、日々の診療を行いながらの新しい技術の習得・研鑽に努めていきたいと考えている。

1 人員体制

〈副院長〉黒岩厚二郎

〈部長〉金澤伸郎

〈医長〉吉田孝司、三井秀雄（救急部兼務）

〈常勤医〉飯塚童一郎、若松喬、高木泰介、
藤巻圭介

外科と血管外科は独立した科となっているが、臨床では血管外科と合同で病床管理、当直を行っている。人員体制としては、前年度末に中里医師が退職し、4月より若松医師、藤巻医師が新たに着任し、外科は8人体制で業務を行った。

2 診療活動・実績

外科外来は、月曜から金曜まで消化器外科を中心に一般外科、乳腺・内分泌外科など幅広く診療に当たっている。専門外来は木曜に内視鏡下胃瘻造設に対応するためPEG専門外来、及びストマケア・スキンケア外来を行い、皮膚・排泄ケア認定看護師とともに人工肛門管理に加え、褥瘡の処置・指導を行っている。また、がん検診からの受け皿として、便潜血外来を月曜から木曜までの週4日間開設している。術前検査センターも活用し、術前検査を外来で施行する頻度が高まり入院期間が短縮されている。DPCが導入されたこともあり、外来での検査が増加傾向にある。

外科・血管外科で当直も含め、24時間、365日、2名でのon call体制を取っており、緊急手術も含めた救急医療に対応している。

外科の年間延べ入院患者数は前年比較で若干増加したが、手術件数は若干減少した。消化器内科・内視鏡科の人員配置による内視鏡下手術数の減少以外に、毎年数例ある食道癌の手術が1例も無かったこと、胃全摘、ESDなどの上部消化管手術が数を減らしたことが原因だった。低侵襲手術である腹腔鏡下手術は順調に例数を重ねており、胃・大腸における、腹腔鏡手術の占める割合は増加傾向にある。昨年度に引き続き、周辺開業医の訪問など、顔の見える医療連携を目的とした活動を行った。胃癌に対する腹腔鏡下胃全摘術、ヘルニアに対する腹腔鏡下ヘルニア根治術といった新しい手術手技も導入し、症例も順調に増えつつある。

他科の外来・入院患者への検査、治療にも積極的に対応しており、依頼があれば、リンパ節生検やCV（ポートも含めた）挿入術などは、曜日にかかわらず迅速に対応している。毎週に行われる褥

瘡回診、栄養療法のためのNST回診にも積極的に参加している。東京都がん診療連携協力病院としての対象となっている大腸がん、胃がんに関しては、連携医療機関との連携も積極的に行い、東京都医療連携手帳の活用も行っている。また、他科との連携も密に取っており、消化器内科・内視鏡科・病理とのがん化学療法看護認定看護師と共同で、がん患者に対するカウンセリングを行っている。

11月に当センターで初めて開催された緩和ケア研修会においては、金澤がファシリテーターとして協力し、外科医2名が研修に参加した。

年度末には、第3回となる、消化器フォーラムを内視鏡科、循環器内科と共同で開催した。

3 研修・教育活動

外科カンファランスは毎週火曜、木曜に行い、画像診断技術の向上に努めるとともに、カンファランスにより治療方針の決定を行っている。又、術中、術後写真も用いた術後症例検討会も同時に行っている。がん検診からの受け皿として、定期的な検診を行っている。がん検診からの受け皿として、定期的な検診を行っている。がん検診からの受け皿として、定期的な検診を行っている。

院外研修は特に若手医師に学会発表を奨励し、日本外科学会による外科専門医修得や論文作成などにも力を入れている。また、腹腔鏡下手術の技術獲得を目的として、腹腔鏡手術手技研修会などへの参加を促し、手技向上を図った。

院内活動では、病院研修の一環として、初期研修医に対する様々なシミュレーション研修の指導を行った。

1 人員体制

〈血管外科部長〉中澤達

〈血管外科医長〉鈴木潤

〈血管外科医員〉根元洋光

〈外科医員〉飯塚童一郎、若松喬、高木泰介、
藤巻圭介

病棟は引き続き外科・血管外科が合同で診療する体制となっている。専属常勤医師は、中澤達、鈴木潤、根元洋光の3人、外科の協力により合計7名であった。

東京大学血管外科非常勤医も血管外科手術に参加し、術後管理は外科と共同で行う体制である。

また、時間外・緊急手術は外科、血管外科合わせた当番制となっており、どちらの手術も参加することになっている。

2 診療活動・実績

新入院患者数は232人、転入患者49人であった。血管内治療とバイパス手術を同時に行うハイブリッド手術も増加した。

低侵襲で比較的入院日数の少ない下肢静脈瘤レーザー治療、閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療（バルン拡張・ステント留置）が貢献して、平均在院日数は8.2日となった。

血管外科外来は火曜、水曜、金曜に行っている。血管外科ブースの隣の血管検査室機能が充実し、初診患者の同日に血管生理機能検査を実現している。

地域の方々向け、血管病セミナーを院内で4回（4月11日、7月18日、9月29日、12月22日）行った。

受講者の初診受診率は50%程度と高率であった。近隣開業医を個別訪問し患者紹介の促進を行った。

3 研修・教育活動

外科・血管外科カンファランスは毎週火曜・木曜に行い、内視鏡写真・レントゲン検査の読影・診断技術の向上に努めるとともに、カンファランスにより治療方針の決定を行っている。また、術中、術後写真も用いた術後症例検討会も同時に行っている。

中澤が東京大学医学部臨床指導医の称号を得て、医学部学生に血管外科の病院実習として受け入れ指導を行っている。また、東京大学血管外科非常勤講師として、東京大学でも実習を行っている。

これらの教育活動は、東京大学医学生の中に当院の血管外科の認知度を上げる狙いがあり、東京大学と協力型臨床研修病院の当院で共同研修を行う「たすきがけ型方式」での卒後臨床研修リクルートの一翼を担っている。

院外研修は特に若手医師に学会発表を奨励し、心臓血管外科専門医取得や論文作成などにも力を入れている。また、血管内治療の技術獲得を目的として、他病院の治療手技見学を積極的に行い技術のレベルアップを図っている。

1 人員体制

〈センター長〉許俊鋭
 〈部長〉西村隆
 〈医長〉河田光弘
 〈専門医長〉眞野暁子
 〈医員〉村田知洋
 〈顧問〉小野稔（東京大学心臓外科）
 〈非常勤〉竹谷剛（三井記念病院心臓外科）
 齋藤綾（東邦大学佐倉病院）
 縄田寛（東京大学心臓外科）
 木下修（東京大学心臓外科）
 三浦純男（三井記念病院心臓血管外科）
 山本真由（帝京大放射線医学講座）

病棟は循環器内科と同じフロアの5階東病棟と特定集中治療室にて入院患者さまのケアを行う体制の中で診療を行なっている。急性心筋梗塞やうっ血性心不全の緊急症例、胸部大動脈破裂や急性大動脈解離の緊急症例にも対応している。

2 診療活動・実績

平成29年度は、経皮的ポンプカテーテル（IMPELLA）実施施設の認定を受けて、一昨年度に認定された経カテーテル的大動脈弁植込み術（TAVI）実施施設、植込型補助人工心臓植込み実施施設に加えて、更なる低侵襲治療、超重症心不全治療を行う事ができる体制となった。また、TAVIに関しては、従来用いていたバルーン拡張型人工弁に加えて、形状記憶合金による自己拡張型人工弁も使用可能となり、治療の幅が一層広がっている。

平成29年度の手術症例のうち、補助人工心臓装着術（VAD）は5例、ステントグラフト移植術（TEVAR）は8例、経カテーテル的大動脈弁植込み術（TAVI）は22例に施行した。急性大動脈スーパーネットワークに緊急大動脈支援病院として参加しており、非手術症例も含め深夜帯を含む緊急手術も積極的に受け入れている。また、2機種以上のステントグラフト指導医を取得できたため、解離性大動脈瘤や胸部大動脈瘤破裂に対する緊急ステントグラフト移植術も施行できる体制となった。一方、90歳を超える症例に対する大動脈全弓部人工血管置換術も積極的に行っている。できるだけ低侵襲で行う手術を目指しており、特にオープンステントグラフトの導入によって、手術時間の短縮と輸血量の軽減を図っている。

外来診療に関しては、手術日以外の週3日行っており、基本的には術後のフォローアップと、術前の手術説明もしくは他科からのコンサルトへの対応で、週20～30名の患者さまの診療を行っている。

3 研修・教育活動

術前検討会は麻酔科・ME・手術室・輸血部、集中治療室、病棟看護師、栄養科、リハビリテーション科と共に水曜日に実施している。

TAVIについてはハートチーム（＝心臓外科・循環器内科・麻酔科・リハビリテーション科・手術室・集中治療室・病棟看護師・エコー技師・ME・放射線技師・コーディネータら）として火曜日に、病棟カンファランス、VADカンファランスは金曜日に、それぞれ多職種によるディスカッションを行っている。

全症例をNational Clinical Databaseへ登録することを基本とし、術前死亡率・有病率を算出し、客観的なリスク評価を行いながら、全国規模のデータベースとの比較検討により、自科の長期成績、診療内容について客観的なチェックを行っている。

4 その他

ステントグラフト内挿術による大動脈瘤の治療（TEVAR）、人工心臓を使用しないオフポンプバイパス手術（OPCAB）、内科的治療抵抗性の重症心不全の治療としての体外設置型・植込型補助人工心臓治療、オープンステントを用いた大動脈全弓部置換術等を行い、良好な成績をおさめている。

1 人員体制

脳神経外科は常勤医師4名で構成され、内訳は、松岡浩司脳神経外科部長、上野俊昭脳神経外科専門部長（平成29年3月31日まで非常勤医として血管内手術に参加し、月1回の外来診療を担当した。4月1日三田病院より転入して現職）、幸田俊一郎医長、高梨成彦医長である。全員が日本脳神経外科学会専門医であり、上野、高梨は脳血管内治療専門医でもある。非常勤医は、8月より、西山恭平（神経内科医）が外来診療と当直業務を担当し、滝澤嗣人ほか東京大学脳神経外科医局に籍を置く複数名の非常勤医で、毎週末1日の当直業務を担当した。

脳神経外科外来は、平日午前中は一般外来、午後は特殊外来として頭痛・水頭症・めまい・脳腫瘍等の外来を開業している。入院業務は、10階東病棟に定床数15床で、皮膚科、神経内科との混合病棟であった。平成29年5月8日より、病棟に内科病床が加わり、脳神経外科の定床数が18床に増床された。10月1日4階のICU病棟が改変され、SCU病床が6床で独立した。

毎週月、水、金曜日午前8時30分から常勤医師全員による回診と症例検討、火、木曜日に部長回診、毎週金曜日午後3時からの脳卒中カンファレンス（神経内科、リハビリテーション科合同）に参加した。全身麻酔の手術前後と重要症例については、随時検討会を行った。定時の手術日は毎週火曜（開頭術）、木曜午後（血管内手術）の2日で、必要時はその他の週日に定時手術を追加し、随時の緊急手術を行った。SCU開設後は、脳卒中の救急入院はSCUを優先させ、大手術後の患者は原則として特定集中治療室で術後管理を行った。

2 診療活動・実績

平成29年度脳神経外科の延入院人数は389名であった。内訳は脳血管障害225名（脳出血72、くも膜下出血/脳動脈瘤76、脳梗塞77）、脳腫瘍13名、頭部外傷93名（外傷性頭蓋内出血39、慢性硬膜下血腫54）、水頭症20名、その他38名であった。脳腫瘍、脳出血、水頭症は前年度並み、慢性硬膜下血腫と脳血管障害が増加し、とりわけ、脳動脈瘤患者の入院は倍増した。

中央手術室における手術件数は総数172件で、ハイブリッド室で実施した低侵襲の血管内手術が83件（脳動脈瘤等のコイル塞栓術33、頸動脈狭窄症に対するステント留置術26、その他24）と全手術

の48%を占めて、重点医療「血管病変」治療の促進に貢献した。手術室手術は、脳脊髄腫瘍摘出術4件、脳動脈瘤・動静脈奇形の開頭術3件、脳内出血の開頭血腫除去術2件、急性期脳梗塞の減圧開頭術1件、頸動脈内膜剥離術1件、水頭症シャント術等9件、外傷性頭蓋内出血（急性硬膜下血腫等）の減圧開頭血腫除去術5件、慢性硬膜下血腫穿頭血腫除去術54件、その他10件であった。

脳卒中ホットラインを運用して、24時間の脳卒中救急患者受入れ態勢を強化した。東京都脳卒中救急搬送体制によるtPA患者の受入れに協力し、必要に応じて急性期再開通療法を行った。

3 研修・教育活動

松岡浩司が板橋看護学校の脳神経外科の講義（年3回）を担当した。毎週金曜日午後抄読会を開催した。

東京大学脳神経外科と帝京大学脳神経外科の専門研修プログラムに研修、連携施設として参加登録した。初期研修医、梅田由貴（J2）が脳神経外科で研修した。

1 人員体制

〈部長代理〉西村隆

〈医長〉日野春秋

〈医員〉栗原知多流（海外留学中）

〈顧問〉中島淳（東京大学呼吸器外科）

〈非常勤〉似鳥純一（東京大学呼吸器外科）

安楽真樹（東京大学呼吸器外科）

2 診療活動・実績

当科は平成25年10月から呼吸器外科手術を本格的に開始し、毎週火曜日（木曜日）に手術を行っている。担当する病棟は主に5階東病棟と術後管理を行う集中治療室だが、呼吸器内科など他科からの紹介を随時受け、各診療科のフロアでも診療を行っている。主な対象疾患としては、原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍といった腫瘍性病変を対象としている。また、高齢者特有な良性疾患として、続発性気胸、膿胸、感染性肺疾患（アスペルギルス、抗酸菌症など）、胸部外傷に対しても各診療科と連携して積極的に外科的な治療を行っている。これら以外にも、各診療科からの肺病変（孤立性結節、間質性肺炎など）やリンパ節腫大、胸膜肥厚、原因不明な胸水貯留などの診断依頼に対しては、胸腔鏡手術で生検を行うなど迅速に対応するようにしている。また、近年では、検診等で発見される小型肺癌に対しては、術前に放射線科と協力して、CTガイド下マーキングを行い、積極的な縮小手術を安全に行っている。

平成29年度の手術症例数は原発性肺癌20例、転移性肺腫瘍1例、縦隔腫瘍5例、続発性気胸2例、良性肺疾患2例、膿胸・感染性肺疾患6例、胸膜・リンパ節生検6例、その他2例の計44症例でした。原発性肺癌手術症例の平均年齢は75.5歳（57-85歳）、80歳以上の症例は20例中7例（35%）を占めた。

（参考：全国平均80歳以上の症例割合は12.1%）

また、胸腔鏡手術は14例（70%）で施行できており、高齢者に対しては特に低侵襲手術を行うようにしている。外来診療は、非常勤医師を含めて週に3回行っており、基本的には術後の経過観察と、術前精査及び手術説明、他科からのコンサルトへの対応で、週15名程度の診療を行っている。

3 研修・教育活動

術前・術後カンファレンスは、毎週火曜日に顧問の中島医師、もしくは非常勤似鳥医師と行って

いる。また、最近では呼吸器内科との合同カンファレンスを毎週金曜日に行うようになった。症例検討では、外科治療の適応検討のみならず、化学療法や放射線治療、緩和医療などの適応についても幅広く議論するようにしている。今後は、学術研究の発表や抄読会なども開催し、教育的な面でも、活動を行っていく予定である。数ヶ月ごとには、病理診断部との合同カンファレンスを開催し、病理学的な側面からも症例を検討し、見直すようにしている。検査部門では、毎週水曜日（金曜日）には、気管支鏡検査を呼吸器内科と共同で行っている。肺癌のみならず、炎症性疾患、その他確定診断のつかない呼吸器疾患に対して、適切な診断や治療ができるように協力し、また研修医への教育的な指導等も行っている。

4 その他

これまで当科における手術症例については、データベースを作成している。現在、東京大学医学部附属病院呼吸器外科とその関連施設と連携して、後ろ向きのデータ集計を行っている。その中で、当センターが中心となって「高齢者肺癌切除症例の手術成績に関する多施設後ろ向き観察研究」を行っている。その研究成果に関しては、すでに国内外の学会にて発表を行っており、随時学術雑誌へ投稿を行っている。

また、手術症例の中でも、稀少症例や、臨床意義のある治療経験に関しては、臨床研究として取り上げていき、これらの成果については、学会発表、英文論文作成まで行っている。

1 人員体制

平成28年度は、整形外科は時村(外科総括部長)、宮崎、濱路、金高、金子、長沼の6名と脊椎外科の穴水、上園の合計8名体制でスタートした。10月1日より、長沼の後任として中村が、上園の後任として大和が赴任した。8名は、外来・病棟・手術・勉強会などすべて協力して活動した。非常勤医としては例年通り、石橋、小泉、村木が外来を担当し、税田、三浦、山本(前整形外科部長)が手術指導を担当した。

2 診療活動・実績

新病院移転後、5年目となり、新たに開設した人工関節センターも2年目を迎えた。金高が人工関節手術関連のクリニカルパスを作製し、スムーズな病棟業務と手術患者の早期退院に大きく貢献し、人工関節手術の大幅な件数増加につながっている。新任医師の赴任に際しても大きな混乱はなかった。予定入院が多く、さらに緊急入院も加わり、有料個室も高い稼働率を維持している。

整形外科・脊椎外科外来は処置室以外に4ブースの割り当てがあり、合計5部屋で診療を行った。外来は月曜から金曜日まで水曜日を除き、再診2列、初診1列、処置1列の計4ブースないし5ブースで診察を行った。ブロック等の処置患者で混雑し、ブースが不足した際は処置室をさらにカーテンで区切って使用した。内科のブースを使用させていただくこともあった。処置内容は例年通り、関節内注射・仙骨硬膜外ブロックが主で、ギプス巻きも時に行った。専門外来としては脊椎外来(穴水、上園→大和)、人工関節外来(宮崎、濱路、金高)、股関節外来・膝外来(濱路)、ロコモ外来(石橋)、骨粗鬆症外来(時村)を行った。

平成27年度延外来患者数は15744名(整形外科11499名、脊椎外科4245名)、初診外来患者数は1141名(整形外科1034名、脊椎外科107名)、1日平均外来患者数は整形外科47.1名、脊椎外科92.3名で、前年度とほぼ同レベルであった。

病棟は6東病棟38床と6西病棟18床の合計56床を定床として利用した。

入院患者は例年通り、変形性膝関節症、変形性股関節症、腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、手根管症候群などが主体であった。延入院患者数は15477名、新規入院患者数は717名といずれも前年より軽度増加した。

平均在院日数は19.2日と短縮することができたが、病床利用率は75.9%と軽度低下した。

手術は合計491件であり、昨年度に続き増加した。内訳は大腿骨頸部骨折関連93件(人工骨頭置換術36件、観血的整復内固定術57件[ガンマネイル49件、ピンニング8件])、人工膝関節置換術88件、人工股関節置換術60件、脊椎関連手術109件(頸椎手術28件、胸椎手術5件、腰椎手術68件、椎体形成術6件など)、手外科関連手術74件(手根管開放術33件)、その他の骨折手術57件等であった。人工関節手術件数の推移は以下の通り[82件(H26)→106件(H27)→143件(H28)→148件(H29)]。

3 研修・教育活動

例年通り、月曜夕方の術前カンファレンス、抄読会、水曜朝および夕方のレントゲンカンファレンス、病棟カンファレンス、外来カンファレンス以外に、有志で火曜・金曜午前8時から8時30分まで自主勉強会を行った。

研究に関しては、東大整形外科関連施設で行う、清潔整形外科手術部位感染に関する臨床研究に参加し、現在も継続している。平成26年度以来、現在もトランスレーショナルリサーチ：骨代謝イメージングNaF-PET研究を継続し、症例数を伸ばしている。学会発表は、時村、穴水、宮崎、濱路が行った。

論文は、時村、穴水、宮崎、濱路が作成した。

臨床研究、論文作成、学会発表は次年度も積極的にを行う予定である。

4 その他

時村・宮崎が日本学術振興会科学研究費を獲得。

- 1) 2017-2019年度 基盤研究C 整形外科領域における手術部位感染予防に関する多施設共同研究(時村文秋[研究代表者]、宮崎剛)
- 2) 2015-2017年度 基盤研究C 骨メカニカルストレス応答における骨細胞-破骨細胞の細胞間制御メカニズムの解明(宮崎剛[研究代表者]、時村文秋)
- 3) 2015-2017年度 基盤研究A 身体不活動で生じる炎症を介する運動器障害とその救済の分子機構(宮崎剛[分担研究者])

1 人員体制

平成29年度は種井良二、宮澤理恵子の常勤医師2名で当センターの皮膚科外来受診患者や入院患者の診療、他科入院患者の診察・往診、研修医の指導などの業務に従事した。

2 診療活動・実績

平成29年度も光線治療器具のナローバンドUVB照射装置が処置室で十分に稼働することができ、当科でのアトピー性皮膚炎、乾癬、掌蹠膿疱症などの治療に大きな前進をもたらした。また、乾癬治療では生物学製剤が極めて有効な治療成績を示しており、使用症例の2例では寛解が維持されている。

当院の皮膚科受診患者は湿疹や皮膚掻痒症、蕁麻疹や痒疹、足・爪白癬やカンジタ症、帯状疱疹や単純性疱疹、丹毒・蜂巣炎、薬疹・中毒疹、皮膚壊疽・血行障害・褥瘡、熱傷、皮膚良性・悪性腫瘍、疥癬、膠原病・血管炎、角化異常症、爪の疾患、皮膚の加齢徴候、アレルギー性皮膚炎が主な対象疾患である。例年通り連携病院、高齢者保健施設、他科入院中の患者の診療や生検依頼が非常に多く、専門医による視診やダーモスコピーあるいは皮膚生検により、診断を確定（種井は皮膚病理報告書を病理専門医と共同作成している）し、内服・外用・光線療法や手術による治療でこれに対応した。

入院は10階東病棟にお世話になっている。また、地域包括病棟の6階西病棟にも自宅・施設退院前の患者さんを多く受け入れていただいた。主な入院対象疾患は帯状疱疹のパス治療、丹毒・蜂巣炎の点滴治療、皮膚癌・癌前駆症や皮膚良性腫瘍の手術、類天疱瘡のステロイド全身投与治療、熱傷・褥瘡の治療、皮膚壊疽・血行障害の精査と治療、薬疹・中毒疹や重症湿疹・痒疹などの原因検索や治療であり、例年通り帯状疱疹や類天疱瘡あるいは褥瘡などの疾患では病診連携や救急依頼での入院症例が多くみられた。

また、毎週水曜日に執り行なわれている褥瘡ラウンドでは宮澤医師が中心メンバーとして参加して、各科入院中患者の褥瘡の評価・治療に尽力した。

3 研修・教育活動

皮膚科の短期研修を希望する研修医8名（池田久美先生、水上翔太先生、塩満恵子先生、木谷貴

博先生、石滝公一先生、赤尾佑衣先生、三原現先生、恒矢美貴先生）に皮膚科診療の基本的な取り組みかた（発疹の診方、各種検査や治療の方法）・手技（皮膚生検や皮膚外科）などについて宮澤・種井が指導医となり研修指導を実施した。

院内・院外の研修・教育活動として種井がお昼のクルズスで「知っておきたい高齢者の皮膚疾患」を、宮澤が板橋看護学校で「皮膚科看護」の講義を各々行った。

4 その他

種井は平成29年度も日本皮膚科学会東京支部選出の代議員を務めている。

1 人員体制

〈部長〉粕谷豊

〈常勤〉榊永浩一、永田卓士、吉田香苗

泌尿器科は粕谷部長および榊永医長、永田医員、吉田医員の4名で腎臓癌、尿路上皮癌、前立腺癌、前立腺肥大症、尿路結石、排尿障害の診療にあった。

平成29年度の人事面では、吉田先生が産休より復帰、方波見医師が4月より東京通信病院に移動し、新たに国立長寿医療センターより永田医師が3年ぶりに復帰し4人体制で泌尿器科疾患の診断・治療を行うことが出来た。

2 診療活動・実績

(1) 外来

新病院に移行してから外来を2列に増やした結果、外来延べ患者数14739名で一昨年より約450名弱ほど増加し、1日平均患者数は73.4人であった。この結果新患率、外来収益も良好であった。

(2) 入院

手術件数は307件でやや減少、腎・腎尿管悪性腫瘍手術が15症例（小切開）と増加、うち1例は腎腫瘍をラパロ化下で行った。膀胱癌はPDDを使用したTUR-Btを新たに導入（新規機材は研究資金で調達）・前立腺癌の腹腔鏡下小切開根治的前立腺拡大全摘術が11例で、経尿道的手術も103例と例年通りで推移した。

病床利用率は88.2%で昨年より8%改善、平均在院日数は8.3日で昨年より0.1日延長したこれは尿路上皮癌の化学療法を積極的に導入した為と考えられる。全体を通して、入院収益・入院診療単価改善している。

3 研修・教育活動

榊永・吉田・永田先生に老人研究所の伊藤先生（前立腺癌のバイオマーカー）/堀田先生（過活動膀胱の治療）とまた東京大学泌尿器科教室と排尿機能の共同研究を行っている。

1 人員体制

〈部長〉沼賀二郎

〈医長〉池上靖子

〈常勤〉外山琢、寺田裕紀子、山本裕樹、
高尾博子、植沙織（ORT）、
佐野友弘（ORT）

〈非常勤医師〉新家眞、太田良枝、本庄恵、
青木彩、坂田礼

〈研修医〉平野慎一郎、吉谷栄人、野田拓也、
長谷川愛、武斯斌

2 診療活動・実績

[1] 外来

	H28	H29	対前年	対前年比
延外来患者数	19014	18087	-927	95.1%
初診外来者数	1147	1083	-64	94.4%
1日平均外来患者数	78.2	74.1	-4.1	94.8%

[2] 外来手術件数（レーザー治療）

	H28	H29	対前年	対前年比
マルチカラー	389	310	-79	79.7%
ヤグ	170	175	5	102.9%

[3] 入院

	H28	H29	対前年	対前年比
延入院患者数	4480	4179	-301	93.3%
新規入院患者数	2295	2194	-101	95.6%
病床利用率	76.7	71.6	-5.1	93.4%
1日平均入院患者数	12.3	11.4	0.9	92.7%

[4] 入院手術件数（中央手術室）

	H28	H29	対前年	対前年比
白内障関連	1803	1650	-153	91.5%
硝子体関連	70	95	25	135.7%
緑内障関連	6	13	7	216.7%
外眼部関連	75	76	1	101.3%
硝子体注射	362	336	-26	92.8%

今年度の硝子体関連手術件数は病院開設以来の最高件数であった。

3 研修・教育活動

スタッフは時間があるかぎり東大病院、眼科専門外来（ぶどう膜、糖尿病網膜症、黄斑）に参加し、研修を行った。

1 人員体制

〈医長〉高橋正時
 〈医員〉大野慶子、西尾綾子(～29年12月)、
 毛利香織(30年1月～)
 〈非常勤医師〉岸本誠司、奥野秀次、杉浦むつみ
 角卓郎、川島慶之
 〈非常勤聴力検査技師〉船田美佐子

耳鼻咽喉科の平成29年度の診療体制は、常勤医師3名で診療にあたった。平成30年1月に西尾綾子から毛利香織へ診療体制の変更があった。その他、外来担当非常勤医2名、手術指導担当非常勤医3名と非常勤聴力検査技師1名で構成された。病棟は7階西病棟の4床を運用した。主に中耳炎・副鼻腔炎の手術パス入院症例と顔面神経麻痺・突発性難聴パス入院症例が多かった。また、低侵襲手術の導入により入院日数の大幅な削減を継続しており、今後手術症例の増加に努める予定である。

2 診療活動・実績

(1) 外来

平成29年度は、延べ外来患者数、初診外来患者数とも増加しており特に初診外来患者の増加が顕著であった。紹介状を持参し来院する患者専用の地域連携枠を使用した患者が増えたことが要因と考えられた。また、平成28年度より新たに開設した補聴器外来も週3日から4日に増設しさらなる患者増加が期待されている。

	H29	H28	対前年	対前年比
延外来患者数	8031	7725	306	104%
初診外来者数	587	542	45	108%
1日平均外来患者数	32.9	31.8	1.1	103%

(2) 入院

入院患者数は、病棟体制、人員体制の大幅な変更により入院、手術件数が大幅に増加した。低侵襲手術により在院日数は引き続き減少した。地域連携への取り組みの強化が手術症例を含めた入院患者の増加につながっているものとする。

	H28	H27	対前年	対前年比
延入院患者数	912	752	160	121%
新規入院患者数	125	97	28	129%
退院患者数	127	98	29	129%
病床利用率	62.5	48.5	14.0	129%
平均在院日数	6.1	6.6	0.5	108%

3 研修・教育活動

毎週月曜日、水曜日、金曜日の外来終了後に紹介患者の症例検討会を行い、臨床技術の向上、症例のブラッシュアップを行っている。また、臨床研究のデータ蓄積のためのカンファレンスも同時に行っており、質の高い診療を目指す。

4 その他

超高齢社会の到来により、今後増加すると思われる加齢性難聴、高齢者平衡障害に対するアプローチとして、補聴器外来の充実、難聴、平衡障害の他覚的精密検査枠の拡大を目指してきた。その成果により外来聴覚検査を大幅に増加することが可能となり、ABR検査枠増加、平衡機能検査枠の増加、補聴器適合検査を施行することができるようになった。今後も質の高い聴平衡覚診療を実現させ、超高齢者のQOLを向上させることを目標に診療を行う予定である。

1 人員体制

〈歯科口腔外科部長〉平野浩彦
 〈歯科口腔外科医長〉斉藤美香
 〈常勤〉森美由紀
 〈非常勤〉田坂彰規、高野智史、
 〈初期研修医〉奥村拓真、小田哲也
 〈歯科衛生士〉常 勤：田村有華、高橋恵子
 非常勤：五十嵐麻奈三、森山規子

2 診療活動・実績

(1) 運営方針

以下を目標とした。

① 周術期口腔管理を充実化させる

該当科への対応をきめ細かく行い、周術期口腔管理概要を再周知した。病棟への歯科衛生士派遣を積極的に行った。これまでの周術期口腔管理に実施状況データをまとめ課題の抽出を行った。

② 医療連携を強化する

板橋区歯科医師会(板橋区口腔保健センター)、豊島区歯科医師会(あぜりあ歯科診療所：豊島区口腔保健センター)と患者紹介・逆紹介を施設入所患者、在宅療養患者を中心に実施した。特に認知症患者の受け入れを積極的に行った。

③ 歯科口腔機能センターの創設

(Tokyo Metropolitan Geriatric Oral Health Center：GOC)

口腔機能の維持回復するためのノウハウを効率的に地域で推進するための機関として、研究所部門口腔関連研究グループと病院部門歯科口腔外科がソフト面で統合したセンターを設置し、5回の研修会を実施した。

- ・第1回 2017年5月21日(日曜日)『高齢者の口腔と栄養』参加者：142人
- ・第2回 2017年7月9日(日曜日)『認知症の人を支援する考え方』参加者：132人
- ・第3回 2017年9月9日(土曜日)『オーラルフレイルの科学と臨床』参加者：122人
- ・第4回 2017年11月25日(土曜日)『在宅医療における食と口腔』参加者：78人
- ・第5回 2017年12月10日(日曜日)第7回認知症の人の食支援研究会併催『認知症の食支援』参加者：136名

(2) 患者数：平成29度の患者数を表に示す。

	患者数		前年度比
	2016年	2017年	
初診	1,763	1,943	(10.2%増)
再診	10,223	10,788	(5.5%増)

(3) 医療連携(東京都関係研修会講師)

- ・東京都歯科衛生士会研修会(平野浩彦)2017年4月9日
 - ・東京都福祉局栄養士研修会(平野浩彦)2017年9月25日
 - ・東京都歯科医師会研修会(平野浩彦)2017年11月29日
- 東京都歯科医師会および豊島区歯科医師会主催の周術期口腔機能管理連携事業に参画した。

3 研修・教育活動

(1) 臨床研修

- ア 奥村拓真、小田哲也、が臨床研修を行った。
- イ 臨床研修歯科医第20期生として7名の応募があり、千代侑香が選考された。

(2) 院内研修

- ・忘れ外来家族交流会：平野浩彦「口腔ケアと認知症」2017年9月12日
- ・高齢者看護エキスパート研修会：平野浩彦「高齢者の口を支える視点：オーラルフレイル」2018年3月19日
- ・栄養士研修会：平野浩彦「高齢者の口をどう診る？：その口食べられますか？」2018年3月29日

4 その他

今後の課題と展望

- ア 自己収支比率の改善を図る。
- イ 周術期口腔管理を充実する。
- ウ 臨床研修を充実する。
- エ 歯科衛生士の育成を図る。

1 人員体制

〈部長〉坪光雄介（循環器内科専門部長）
 〈医長〉加藤貴行（リハビリテーション科医長）
 〈医長〉田村嘉章（糖尿病・代謝・内分泌内科医長）
 〈医長〉三井秀雄（外科医長）
 〈医長〉幸田俊一郎（脳神経外科医長, 救急科専門医,
 災害医療対策室長, DMATメンバー）
 〈部長〉仁科裕史
 （神経内科専門部長, 脳卒中A担当部長）

「断らない救急医療」の徹底を重要課題とし、救急診療部を平成24年1月に新設、救急診療部の核となる医師（各科の主力メンバー）を配置している。日中の救急外来診療には、当番医（指導医1名、初期・後期研修医2～3名）に加えて毎日（月～金曜日）帝京大学医学部附属病院救命救急センターより非常勤医師を派遣して頂いており、診療の大きな力となっている。

救急医療のさらなる充実に向けて取り組みを行っている。

2 診療活動・実績

当センターは救急告示医療機関であり、東京都の二次救急医療機関に指定されている。休日・全夜間問わず積極的な救急の受け入れを行なっている。加えて区西北部保険医療圏内における東京ルール事案（受入困難症例）の受け入れ、または受け入れ調整を行う「地域救急医療センター」としての役割も担っている。また高齢者だけに限らず、若い年代層においても救急患者の受け入れを積極的に行なっている。

夜間当直帯の内科系救急患者を円滑に受け入れるために、毎日救急病床4病床を確保（月替わりで各病棟から1病床、合計4病床）、優先的に救急患者の受け入れを行っている。翌日には朝カンファランスにての症例の検討を踏まえ、より専門性の高い病棟への振り分けを病床担当看護師長らとともに行なっている。

救急診療部開設当時（平成24年1月）は、救急患者数は約7,000名程度であったが、新病院移転（平成25年6月）3年目には1万人を突破、5年目となる昨年（平成29年度）は救急患者総数10,218名、救急車受入台数4,497件に達し、いずれも過去最高を記録した。お断り率（電話相談除く）は前年度に比べ12.0%を微増した。その原因として病床稼働率も上がり昨年より病床満床にてお断りする

事例の増加、専門医師不在にてお断りする事例が多かった事などが挙げられる。救急患者をよりお断りしないためには、いままで以上に医療連携室と連携を強固にして退院促進を図ることや、専門医師不在（整形外科など）にてお断りしないよう当直医師の確保が課題であると考えている。

3 研修・教育活動

「朝カンファランス」

毎朝8時より夜間当直帯入院症例についての検討を行っている。当直した初期研修医より、主訴、バイタルサイン、血液検査、画像所見などをもとに何を鑑別診断として挙げ、最終暫定診断に至ったかをプレゼンテーション、指導・教育を行なっている。また、当直研修医が直接に診察していない、専門当直の診察した科（循環器内科・神経内科・外科症例）においても、指導医を通して症例を提示し解説を加えている。

「テルモメディカルプラネックス研修」

外科、麻酔科、救急診療部のメンバーを中心に毎年6月（平成29年度は6月24日土曜日）に1年目初期研修医を対象とした、総合医療トレーニング施設（テルモメディカルプラネックス）において医療環境を再現した空間で、実践的なトレーニング研修を行なっている。

内容：

- ①縫合（手洗い・ガウンテクニック・豚皮を用いた縫合術：消毒、局麻、縫合、結節縫合、埋没縫合）
- ②中心静脈カテーテル挿入（シュミレーター（模擬人形）を用いた超音波ガイド下にて内頸静脈より中心静脈カテーテル挿入）
- ③気管切開（豚気管を用いたミニトラック：トラヘルパー挿入術の実践、および気管切開）
- ④気管内挿管（模擬人形）麻酔科医指導
- ⑤シムマン（模擬人形）を用いたシミュレーション（急変時対応）研修

	H27	H28	H29
救急患者受入総数（名）	10,102	9,860	10,218
救急車受入台総数（台）	4,371	4,399	4,497
救急患者お断り率（%）	9.7	11.1	12.0

1 人員体制

【常勤】

〈部長〉小倉信

〈医員〉今野元之、廣瀬佳代、鄭仁熙、
江口彩子

【非常勤】相川和之、脊山雅子、縄田瑞木、
仁多健剛、木ノ内万里子、室屋充明、
上田雄司、榊原舞花、筒井富美、
桑島謙

《東大大学院》露嵯仁志、服部貢士、

《東大後期研修医》五十嵐健史

平成29年度は、井上哲医師に代わり江口彩子医師が常勤採用され、またさらに荏原病院で初期研修を終えた榊原舞花医師が、7月より後期研修医として採用された。当科では専門研修プログラムを策定していないため、東京大学病院麻酔科のプログラムに参入させて頂いた。非常勤には、術前検査センターを通った症例の外来診察と麻酔説明を相川医師（毎週火曜日）に、一般手術麻酔を脊山、縄田、木ノ内医師（以上週3日）、および仁多医師（毎週水木曜）に、心臓麻酔指導を露嵯・服部医師に、室屋医師には経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）の指導を、それぞれ引き続きお願いした。上記以外に心臓外科緊急手術に対応するため週末のオンコール待機として東大桑島医師およびフリーランスの筒井医師にも応援を依頼した。東大後期研修医は毎週月・木曜日に1名ずつが派遣された。

2 診療活動・実績

（1）手術麻酔

H29年度の麻酔科関与手術件数は1691件と、前年比83件の増加であった【表1】。

表1. 麻酔科関与手術件数

H27	H28	H29	対前年	対前年比
1,603	1,608	1,691	+83	+5.2%

（2）術前評価

麻酔科が行う術前評価のうち、術前検査センターからのコンサルト（カルテ診察・外来診察）は対前年比45件の減少であった【表2】。

表2. 術前検査センター症例を麻酔科が評価した件数

H27	H28	H29	対前年	対前年比
370	436	391	-45	-10.3%

（3）ペインクリニック外来

本年度も毎週月・金にペインクリニック外来を開き、その初診枠は、各科の術前評価外来枠と共通で運用した。いずれも小倉が担当した。新規患者は29年度も増加を示した【表3】。

表3. ペインクリニック外来件数

	H28	H29	対前年	対前年比
延べ患者数	1,420	1,457	+37	+2.6%
初診料算定患者数	28	32	+4	+14.2%

3 研修・教育活動

（1）本年度麻酔科を回った初期研修医は、池田久美（H29/4/3～5/9）、石滝公一（同5/10～6/6）、三原現（同6/7～7/4）、木谷貴博・水上翔太（同7/5～8/1）、赤尾佑衣（同8/2～8/29）、樋口陽（同8/30～9/26）、原田丈太郎（同9/27～10/24）、恒矢美貴（同10/25～11/21）、塩満恵子（同12/20～H30/1/23）の各医師である。

（2）院内での教育活動は例年通り、初期研修医対象に気管挿管、中心静脈カテーテル挿入実習を、看護師対象に静脈注射講習を計3回行った。さらに4～6月、9～11月は東大医学部医学科6年生が毎週木曜日に1名ずつ中央手術室に訪れ麻酔科臨床実習が行われた。

（3）院外では、4～7月に板橋看護専門学校において手術麻酔等に関する講義を行った。

4 その他

昨年度開始された経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）は、年度内に21例が行われた。またバルーン大動脈弁形成術（BAV）が1例行われた。

今後、専攻医の採用を想定して、当科でも機構専門医を目指す専門研修プログラムを毎年策定することとした。平成29年度は、2018年開始のプログラムを策定し認可された。

1 人員体制

中央手術室の運営方針は手術室運営部会で検討されるが、日々の運営は小倉麻酔科部長を中心に、麻酔科と手術室看護師により行われている。

手術は昨年から稼働した9A室を含む一般手術室9室+ハイブリッド手術室の全10室を利用している。電子カルテシステム、手術室管理システム、映像管理システムなどの理システムが導入されているが、日常の手術室管理においては、看護師が非常に大きな役割を担っている。看護師は熊谷看護師長を中心に日々の業務を担当した。手術材料については、日中は、SPDがその大半を管理し、手術用物品の効率的運用と看護師の管理業務の負担軽減が計られている。また手術用医療機器の維持管理に関しては、臨床工学士が担当している。

2 診療活動・実績

移転後5年目を迎え、特に大きな混乱もなく、手術も順調に行われた。平成29年度の中央手術室の利用件数は4666件とほぼ平成28年度同様であった(表)。例年通り、眼科(2140件)を筆頭に、外科(539件)、整形外科(341件)、精神科(309件)、血管外科(279件)、泌尿器科(261件)、脳神経外科(241件)、脊椎外科(130件)、循環器内科(116件)、心臓外科(86件)、耳鼻咽喉科(86件)、皮膚科(54件)、呼吸器外科(42件)、消化器内科(14件)、麻酔科(11件)、神経内科(3件)と続いていた。眼科が158件、泌尿器科が63件、心臓外科が17件減少したが、脳神経外科94件、外科63、整形外科23件、精神科23件、耳鼻咽喉科13件と増加した診療科もあった。

年間の救急手術件数は228件と昨年(204件)に比べ24件増加した。脳外科(81件)と外科(62件)が多く、次いで心臓外科(21件)、整形外科・脊椎外科(16件)、泌尿器科(12件)、循環器内科(12件)血管外科(9件)、眼科(8件)、耳鼻咽喉科(4件)の順であった。

平成29年度の手術室運営部会は、奇数月の6回、開催され、手術室に関する報告、審議などを行った。内容は、手術件数の数え方について(正確には手術室利用件数として表記することとした)、手術室入室基準の変更、約束指示の追加、入室時のカルテ立ち上げ方法の確認、事例検討会報告(患者誤認、過剰輸血)、シングルユース製品についての確認、9B室の利用枠変更、手術室安全チェックリストの修正、ガーゼカウントのルール確認等で

あった。

手術室の円滑な運用開始のため、麻酔科及び各診療科、手術室看護師、コメディカル、事務方等多くの部門に協力をいただいております、今後さらに各科、各部門の協力を得て、手術室の安全と効率的運用を目指していく予定である。

表. 科別手術室利用件数 (単位: 件)

区 分	平成28年度	平成29年度
外科	476	539
血管外科	282	279
脳神経外科	147	241
整形外科	318	341
脊椎外科	128	130
泌尿器科	324	261
眼科	2298	2140
耳鼻咽喉科	70	86
精神科	286	309
麻酔科	5	11
循環器内科	115	116
皮膚科	60	54
心臓外科	103	86
呼吸器外科	38	42
歯科口腔外科	7	9
消化器内科	12	14
神経内科	7	3
リハビリ	0	0
合 計	4683	4666

特定集中治療室（特治）は本年度大幅な再編が行われた。従来特治では、CCU（冠動脈疾患ユニット）、ICU（集中治療ユニット）、SCU（脳卒中ユニット）、RCU（呼吸器疾患ユニット）が共同で治療を行っていたが、特治の効率的な利用と脳卒中患者さんの増加に対応するための病床検討が行われた結果、10月より特治14床を8床に減、SCUとして6床を新たに独立させることとなった。また特治にはCCU、ICU、RCUの患者さんが主として入室することとなったが、脳卒中以外の脳神経外科、神経内科の患者さんは必要に応じて特治を利用することとなった。特治の減床に伴い、特に混雑時には状態の安定した患者さんは早期に一般病棟に戻れるように、また満床時にさらに重症の患者さんが生じた場合には、主治医と相談のうえで、状態が安定している患者さんを病棟へ移動するなど、各病棟に協力をいただいた。

1. 人員体制

特定集中治療室は、室長は藤本循環器内科部長（CCU担当）、副室長は金澤外科部長（ICU担当）、金丸脳卒中科部長、松岡脳神経外科部長（IHSCU担当）、山本呼吸器内科部長（RCU担当）、がそれぞれ務め、藤本室長が特治専任医師である。

入室患者さんは担当科の主治医が受け持ち医となり、病態により副室長ないし他科専門医の協力を得ながら重症患者の治療にあたっている。看護体制は2：1看護であり、定期的にカンファレンスや勉強会を行い、業務に関する専門的な知識や技術の習得に努めている。また薬剤師1名が特治担当となり、薬剤の使用状況の把握や安全管理に努めている。

本年度6月より当直体制が変更された。ICUには常に医師が在室している必要があるため、従来はICU当直医師がやむをえずICUを離れる際には、必ず他の当直医に応援を要請し、代理医師がICUにいる体制であったが、新たに特治当直を1系列新設し、特治当直はICU内でのみ業務を行うこととした。

2. 診療活動・実績

平成29年度の入室患者数は974例と昨年度に比較して12.8%減少した。内訳はCCU：304例、ICU：497例、SCU：169例、RCU：4例であり、年間平均病床利用率は57.9%、重症度、医療・看護必要度は79.7%であった（表）。この患者数減少の理由と

しては特治ベッド数減少の影響が大きいですが、同時に状態の落ち着いた患者さんは早めに一般病棟へと転出したこともある。これは、重症度、医療・看護必要度の評価において処置の有無に重きが置かれているため、複数の疾患を合併し経過観察が必要な患者さんは重症と評価されにくくなったためでもある。また例年と同様に季節による変動があり、冬季は心臓・血管疾患、呼吸器感染症などが増加し利用率が高く、春、秋には低下した。

CCU症例は、急性心筋梗塞、狭心症、心不全、不整脈などが主であり、虚血性心疾患の適応症例には緊急冠動脈インターベンション治療が行われた。昨年度同様東京都CCUネットワークに参画し、当番日には特治に空床を確保して、ホットライン要請に応えられるよう努めた。

ICUの入室者は、外科、血管外科、心臓外科を始め、外科系各科の術後管理目的が大半を占めたが、特に心臓外科手術症例の在室が増加した。これは重症心不全で体外型並びに埋め込み型補助人工心臓症例の術後管理が増加したためである。

SCU症例は、急性期脳卒中患者とともに、癱攣重積や脳神経外科術後管理の患者であった。急性期脳卒中では、脳梗塞24例に対してtPA療法が行われ、またtPA困難症例に対しても、適応があれば脳外科による血管内治療が積極的に行われるようになったが、10月以降は独立したSCUで受け入れることとなった。またRCUは呼吸器患者の新規受け入れが困難であったため大きく減少した。

特治の運営に関しては、今年度はSCUの開設に向けICU・SCU設置検討ワーキングが新たに設置され、毎月開催された。このワーキングでSCU病床の割り振りや運営方法、また特治の運営基準について関係各科とともに検討が行われた。

3. 研修・教育活動

今年度は心肺蘇生に対する知識、技術の習得を目指して講習会に参加し、看護師が8件の受講・認定を取得した。さらに1名が呼吸療法士認定を取得したほか、集中ケア認定看護師研修、補助人工心臓研修、集中治療セミナーなどに積極的に参加し、特治の看護体制の充実に努めている。

平成29年度 特定集中治療室入室実績表

単位：人

29年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
CCU	31	17	17	20	33	29	26	22	28	26	21	34	304	
ICU	外科	25	19	15	14	20	25	13	16	19	24	25	12	227
	血管外科	7	2	6	5	1	3	3	5	5	4	2	4	47
	心臓外科	9	6	1	8	5	5	7	5	7	7	7	5	72
	呼吸器外科	4	2	3	4	6	1	5	4	3	4	1	2	39
	整形外科	1	1	1	0	1		2	1	3	0	0	0	10
	泌尿器科	2	2	1	1	1	2	3		3	0	2	2	19
	消化器内科	2	2	1	4	3	2	2	2	1	3	4	6	32
	感染・血液他	6	2	0	6	4	2	4	3	5	5	10	4	51
SCU	脳外科	10	14	10	9	12	10	9	8	3	6	11	12	114
	神経内科	9	3	1	5	8	3	4	3	4	4	7	4	55
RCU			0	1				1	1	1	0	0	4	
合計	106	70	56	77	94	82	78	70	82	84	90	85	974	
病床利用率	60.2%	42.7%	37.0%	42.0%	57.9%	48.1%	64.6%	67.1%	77.5%	47.3%	74.6%	75.4%	57.9%	
看護重症度	73.6%	87.5%	83.7%	84.8%	75.9%	77.1%	79.7%	81.4%	87.3%	78.5%	76.0%	76.1%	79.70%	

1 人員体制

職員構成は、常勤医師4名（他に後期研修医1名）、理学療法士（PT）常勤19名、作業療法士（OT）常勤8名、言語聴覚士（ST）常勤5名、臨床心理士（CP）常勤5名（他に非常勤1名）であった。中堅となるST1名が途中退職したが、若い世代も経験を積んで成長し、明るく活気に満ちた職場を築いている。産休育休に入る者・職場復帰する者がいる職場であるが、業務に支障を来さないように取り組んだ。

【医師】

常勤：金丸晶子、小山照幸、加藤貴行、正田奈緒子

後期研修医：齊藤陽子

【理学療法士】太田隆、寺澤泉、高山祐子、榎本洋司、江淵貴裕、熊木陽平、藤本静香、川澄晃子、中嶋梨江、池田光範、小宮山潤、篠山絵里奈、山口真依、樋口和奏、大町梨奈、塚本原太、工藤卓人、木村和哉、田嶋真由美

【作業療法士】本田拓也、秋元美穂、増田典子、板倉彩、奥野由佳、榎戸理沙、高橋佳子、澁野由希奈

【言語聴覚士】田中春奈、齋藤尚子、西山千香子、加藤茉由子、植村ほのか

【臨床心理士】常勤：菅原康宏、河地由恵、岩本美由紀、平岡共、牧田彩加

【医師事務補助】松橋直美

2 診療活動・実績

リハビリテーション（以下リハビリ）科外来は、院内の他科入院症例のリハビリ診療、および、院内他科や他院からの紹介を中心とした通院での‘外来診療’がある。

また、数床あるリハビリ科病床では、短期の入院リハビリも実施した。

【リハビリ科外来】

2017年度のリハビリ外来の初診は、1,815件であった。その内訳は、院内他科入院中が1,593件、当院に入院していない症例の初診（他院からの紹介など）が222件であった。1,815件中、リハビリ処方したのは1,621件で、残りの194件は診察と医師によるリハビリなどの指導であった。

初診1,815件の疾患内訳は、中枢病変（脳血管・神経変性疾患等）557件、廃用症候群（膠原病・消化器疾患・感染症などによるADL低下症例など）210件、脊椎疾患5件・運動器（骨関節など）209件（整形外科入院症例を除く）、心大血管431件、呼吸器206件、悪性疾患160件、その他43件であった。

火曜日午前中の装具診療では、述べ139件で、脳血管障害後遺症・リウマチ・脳性麻痺後遺症などによる変形に対し補装具処方や装具の再調整などを実施した。適宜、補装具士・担当理学療法士・外来看護師らと協力し、補装具に関連した創部や皮膚の管理も実施した。

火曜日午後のボトックス外来では、延べ45件に対しボトックス施注を実施した。PT・OTと共同で、ボトックス外来とは別枠で施注前評価などを実施し、施注後のリハビリも実施した。

高齢者いきいき外来の活用を図るため、2014年9月より、新たに高齢者いきいき外来の初診枠を、月午後・火と木の午前に設定している。2017年度の高齢者いきいき外来の初診は94件であった。

理学療法では、新規件数は2,153件（整形外科病棟の処方件数含む、入院2,110件・外来43件）で、その内訳をみると、運動器リハビリ（骨折等）629件、脳血管等リハビリ576件、廃用症候群のリハビリ209件、心大血管リハビリ417件、呼吸器リハビリ174件、がん69件、その他79件であった。

作業療法の新患件数は981件（入院908件・外来73件）で、その内訳は、運動器リハビリ137件、脳血管等リハビリ541件、廃用症候群のリハビリ105件、心大血管リハビリ53件、呼吸器リハビリ64件、がん15件、その他66件（その内MCIが14件）であった。また、スプリント作製は25件、ボトックス33件であった。

言語聴覚療法は、新患件数543件（入院514件・外来29件）で、脳血管等431件、廃用症候群80件、摂食嚥下28件、がん4件であった。疾患別リハビリを実施しながら、並行して嚥下介入を行った症例は277例であった。また、STはNSTチームとして、嚥下障害例の評価を延べ75件実施した。リハビリ訓練内容内訳は（重複あり）、失語107件、高次脳機能199件、嚥下280件、構音・音声141件、精神賦活147件であった。

臨床心理療法の新患件数は717件（入院588件・外来129件）で、その内訳は、運動器リハビリ48件、脳血管等リハビリ318件、廃用症候群65件、心大血管128件、呼吸器27件、がん6件、いきいき外来新

規症例の評価件数94件、MCI研究での新規介入18件、その他107件であった。また、実施した心理検査の内訳は、心理検査（極めて複雑）5件、心理検査（複雑）640件、心理検査（容易）18件、発達知能検査（極複雑）12件、発達知能検査（複雑）60件、発達知能検査（容易）431件であった。これらの心理検査を用いて、高次脳機能を評価しながら、認知面のリハビリ介入に取り組んだ。

リハビリ科で退院先に出すリハビリ訓練サマリーは639件であった。

【リハビリ科病床】

2017年度は、6東と6西に数床ずつでスタートした。しかし、2017年末頃から、6東病棟ではなく10東病棟の数ベッドに変更となった。

入院症例50例の疾患内訳は、脳卒中等（神経変性疾患含む）が28例、廃用8例、運動器2例、脊髄1例、呼吸器1例、その他10例であった。

入院元は、自宅から23例、施設から4例、他院から10例、院内他科からの転科13例（神経内科・脳外科5例、その他の科8例）であった。

当科からの退院先は、自宅退院29例、他院への転院13例、老健施設・老人ホーム3例、院内他科への転科5例であった。

2017年度の平均在院日数は15.9日であった。

【脳卒中ケアユニット（SCU）】

2017年10月よりSCUが稼働し、脳卒中のほぼ全例がSCUを経由する形となった。その結果、リハビリ必要症例の把握が容易となり、早期に脳卒中症例へのリハビリ評価介入ができるようになった。

【地域包括ケア病棟】

2016年7月より6西病棟が地域包括ケア病棟となり、2017年度地域包括ケア病棟の入院患者数は月平均32.7人、そのうちリハビリを実施した症例数は月平均20.6人で、約63%にリハビリを提供した。また、一症例当たりの一日子リハビリ単位数は2.3単位であった。地域包括ケア病棟では、リハビリ科としてのリハビリ実施だけでなく、在宅復帰につなげるため、看護スタッフ（看護師・看護助手）に対し、積極的にリハビリ指導を行った。地域包括ケア病棟看護師が、より積極的にリハビリの視点を持った看護を実践できるようになることが、当面の目標である。在宅生活への復帰を目指し、病棟・退院支援チーム・医療相談室・在宅看護部門との連携を積極的にすすめた。病棟ケア指導を行った症例は、月平均11.6症例で入院患者の約35%に実施した。

【院内ラウンドや他科に関連した活動】

1) 廃用防止ラウンド：

2014年1月より廃用防止を目的に、リハビリ科で“廃用防止ラウンド”を開始した。2017年度の“廃用防止ラウンド”は、5西と9東の2病棟で週1回実施した。ラウンド対象は、原則ラウンド前1週間に入院した症例とした。

当初のラウンドメンバーは、リハビリ科医師・リハビリ科後期研修医・PT・OTであったが、ST・歯科医・歯科衛生士・病棟担当管理栄養士・病棟看護師も参加するようになり、経口摂取面や栄養面もチームとして検討を行った。身体機能評価を行い、評価表（電子カルテ内文書）に記載し、病棟でのアプローチが望ましい症例は病棟へ情報をフィードバック、リハビリ科でのリハビリが望ましい場合はリハビリ処方を行った。

2017年度のラウンド回数は50回、410例（5西168例・9東242例）をリストアップした。そのうち、ラウンド前にリハビリ依頼があったのは37例であった。実際に診察したのは337例、リハビリ適応ありとしたのは106例、ラウンドに絡んでリハビリ処方した症例は116例であった。

2) NSTラウンド：

リハビリ科（医師・言語聴覚士）が当番制で週1回のNSTラウンドに参加し、院内の栄養サポートに努めた。NSTでピックアップされる症例について、ベッドサイドでの摂食嚥下評価をST・栄養士・リハビリ科医師が適宜実施した。

3) 経口摂取開始チャートの運用：

リハビリ科医師・ST・栄養士・摂食嚥下認定看護師が中心となり作成した経口摂取開始チャートの円滑運用に向けて、e-ラーニング教材を作成しその院内悉皆研修を企画・実施している。2017年度は、経口摂取開始チャートの改定、および、新たなe-ラーニング教材を作成し、病棟看護師などへの啓蒙教育活動を継続した。

4) TAVIのリハビリプログラムの運用：

2016年度にリハビリ科医・PTを中心に、病棟（医師・看護師・ME）と情報共有しやすいリハビリチャートを作成し、電子カルテで運用を開始している。2017年度は、21例（平均年齢85.1歳、男10：女11例）にプログラムを実施した。

外来通院可能症例においては、退院後も一定期間、外来リハビリを実施した。

5) 緩和ケア病棟のリハビリ：

必要に応じ実施し、病棟カンファランスにリハビリ科スタッフが参加している。

3 研修・教育活動

リハビリ科全体研修：リハビリ科内のリスク担当が中心となり、

- リハビリ科の緊急時対応練習（痰づまりを想定&BLS練習）：2017/5/11
 - ライン管理に関する勉強会：2017/6/26
 - リハビリ科の緊急時対応練習（トイレでの意識消失を想定&BLS練習）：2018/1/30
- を実施した。

健康増進センターでの「BLS・AED講習会」：リハビリ科医師が担当し年間12回実施した（小山照幸）。

ADL介助法の研修：看護・ケア技術の向上に貢献するため、理学療法士が講師となり、新入看護職員・看護助手に対するADL介助法の研修を行った。

看護師向けの嚥下研修：言語聴覚士が講師となり、看護師向けの嚥下研修を実施した。嚥下を考える際に、ADLや姿勢の問題も避けては通れないことから、理学療法士・作業療法士も協力して、実習という形での指導も行った。

認知症センター家族交流会：理学療法士が家族向けに「自宅のできる転倒予防や筋力維持」についての講演を行った。

板橋看護学校におけるリハビリテーション教育：リハビリ科医師・リハビリ病棟看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が分担して、リハビリテーション講義を行った。

リハビリ科内での情報・技量伝達：外部研修を受けてきた職員は、スタッフ間で伝達講習を実施した。

カンファランス・勉強会

1. リハビリ病棟カンファランス：毎週金曜日に、医師・看護師・リハビリスタッフ・薬剤師でリハビリ科入院症例の検討会を実施
2. MCIカンファランス（週1回）：医師とリハビリ科各部門の代表メンバーが参加し、MCI研究の進捗状況と問題点、症例検討など
3. 高次脳機能の勉強会（毎週火曜日）：CP・OT・リハビリ科医師
4. 神経内科・脳外科・SCUとの脳卒中カンファランス（毎週金曜日）：リハビリ科医師・神経内科医師・脳外科医師・病棟看護師・PT・OT・ST・CP・MSWで、情報交換とリハビリを含めた方針の検討
5. 心臓外科・VADカンファランス（毎週金曜日）：心臓外科医・看護師（病棟やICU）・ME・PT・リハビリ科医等で症例検討
6. SCU朝のケースカンファランス：SCU看護師長、

医師（脳外科・神経内科・リハビリ科）、PT、MSWが参加

7. 研修医のための朝カンファランス：平日朝8時より実施、リハビリ科医師（加藤貴行・救急部兼務）も協力してカンファランス運営を実施

4 その他

一般向け講演会

リハビリテーション科主催で“**健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦**”を、当センター3階会議室を使用し2017年度は3回実施した。

- 第9回健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦：2017年4月22日開催 ①「脳卒中、認知症予防と高血圧」センター顧問 桑島巖 ②「心身レクササイズ」余暇問題研究所 山崎律子（リハ科非常勤） ③「いきいき外来について」リハ科 加藤貴行
 - 第10回健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦：2017年7月29日開催 ①「運動と健康長寿」リハビリ科 小山照幸 ②「脳も！体も！心身レクササイズ」リハビリ科 牧田彩加 ③「心身レクササイズ（運動レクササイズ）」余暇問題研究所 山崎律子（リハビリ科非常勤） ④「いきいき外来について」リハビリ科 加藤貴行
 - 第11回健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦：2017年11月11日開催 ①「頭の健康寿命を延ばす歩き方」センター研究所 大淵修一 ②「実践！心身レクササイズ」余暇問題研究所 山崎律子（リハ科非常勤） ③「高齢者いきいき外来」リハ科 加藤貴行
- 各回とも100前後多くの来場を得ている。講演会で実施しているアンケートをもとに、多くの人に興味を持っているテーマを選ぶようにしている。2018年度は、ある程度厳選して講演会を企画していく方針である。

1 人員体制

理学療法部門では新規採用者1名を含め、18名で新年度を迎えた。4月に1名が育休明けで復帰、1名が産休に入った。年度途中で1名が退職、年度末で1名が退職した。

地域包括ケア病棟に1名のPTを引き続き専従配置、10月から開始となった脳卒中ケアユニットにPT1名を専任で配置した。

2 活動内容・実績

平成29年度、入院患者の理学療法処方件数は2,041件（男性902名、女性1,039名、平均年齢79.7歳）であった。

入院患者の年間理学療法実施件数は27,426件であり、このうち病室・病棟での実施数は5,229件（19.1%）と病棟で2割程度の訓練を実施しており、急性期、重症の患者への介入を多く行っている。

診療科別処方件数では、循環器内科からの処方が448件（22.0%）と最も多く、次いで神経内科・脳卒中科の333件（16.3%）、整形外科の324件（15.9%）、脳神経外科の116件（5.7%）と続き、その他、脊椎外科、膠原病・リウマチ科、呼吸器内科からの依頼が多かった。

疾患別処方件数では、脳梗塞が最も多く、281例（13.8%）であり、次いで心不全255例（12.5%）、腰部脊柱管狭窄症の124例（6.1%）、大腿骨頸部骨折118例（5.8%）が上位を占めた。

また高齢者特有のいわゆる廃用性機能障害（廃用症候群）が199例（9.8%）と多いのも例年の通りであった。

年度末までに理学療法を終了した1,997例を見ると実施期間は平均20.8日であり、その中でも881例（44.1%）が15日以下の実施期間で終了していた。

理学療法終了時の患者の機能レベルは、「歩行自立」が1,122例（56.2%）であり、多くの患者が歩行自立の状態を終了していた。「寝たきり」で終了した患者は334例（16.7%）であった。

終了後の動向では、自宅退院が1,120例（56.1%）転院が641例（32.1%）であった。転院先は回復期リハビリテーション病棟を持つ病院が多く、引き続きリハビリテーションを継続できる環境への転院であった。

急性期のリハビリテーションの充実を図るためリハビリテーション科では、理学療法士1名と他のリハビリテーション専門職1名の2名体制で隔週での土曜日勤務を行っている。

地域包括ケア病棟では専従PTが必要単位数の管理や病棟でのケア指導を行っている。

脳卒中ケアユニットでは、専任のPTが毎朝のケースカンファレンスに参加し、情報の収集・提供を行っている。

外来患者の処方件数は64件、実施件数は366件であった。急性期、高齢者を対象とした当センターでは外来での理学療法は少ない状況である。

3 研修・教育活動

（1）職員の知識・技術の向上

職員の知識・技術の向上のため、日本理学療法士協会が行う学会や研修会への参加、福祉保健局が行う専門研修への参加も例年通り行った。

また、これらの研修会に参加した職員による伝達講習を行い、知識・技術の共有を図っている。

新規採用職員については経験を積んだ理学療法士を指導者として割り当て、OJTとして臨床指導を行っている。

（2）研修生・実習生

平成29年度、理学療法士養成校からの実習生は臨床実習4校4名、評価実習2校2名であった。

（3）教育活動

例年通り、板橋看護専門学校に講師派遣を行った。院内では、作業療法士とともに、新規採用看護師に対し、患者の体位交換・移乗介助法の講義、実技指導を毎年実施している。

4 その他

昨年同様「廃用防止ラウンド」でリハビリテーション科医師とともに、入院患者の廃用予防のための早期介入を行っている。

理学療法部門では、入院中の訓練・指導だけでなく退院後のADLの維持・向上につなげるよう、自主トレーニング指導にも力を入れている。

また、診療報酬につながらない業務として、血液内科での幹細胞移植前の運動機能評価や緩和ケア病棟入院患者への介入などを行い、患者サービス向上に努めている。

転院や退院に際して、継続したリハビリテーションが行えるよう経過報告書を必要に応じ作成し、転院先のリハビリテーション部門やケアマネジャーなどに情報提供している。平成29年度、理学療法部門での作成件数は639件であった。

1 人員体制

平成29年度4月からは作業療法士常勤8名でスタートした。7月には1名が産休に入り、7名体制となった。内訳は固有職員が7名である。

2. 活動内容・実績

作業療法では、リハビリテーション科医師と整形外科医師の依頼に基づいて、上肢機能や日常生活動作、認知機能の評価と訓練、およびスプリントの作成や自助具の導入、家屋評価、ボツリヌス療法における作業療法などを行っている。

平成29年度診療状況は、新規患者が入院908名、外来73名の合計981名であった。

前年度と比べ、外来患者数はわずかに増加したが、入院患者数はやや減少した。

作業療法取扱い数（延べ数）は11,738名（前年度比8.4%減）、診療実績は21,732単位（前年度比6.2%減）であった。

算定区分別で見ると、脳血管疾患Ⅰが最も多く541名（55.1%）、続いて、運動器疾患Ⅰの137名（14.0%）、廃用症候群Ⅰの105名（10.7%）、呼吸器疾患Ⅰ64名（6.5%）、心大血管疾患Ⅰの53名（5.4%）、がん患者リハビリ15名（1.5%）の順であった。

緩和ケア病棟における処方数は50件、取り扱い数は864件、診療実績は1551単位であった。

疾患別では、「脳卒中その他脳疾患、脳外傷」がもっとも多く476名だった。次いで、廃用症候群などを含む「その他」が195名、「呼吸・循環器疾患」が113名、「リウマチを含む骨関節疾患」が102名、「脊髄損傷とその他の脊髄疾患」が47名、「神経筋疾患」が40名、「脳性麻痺を含む小児疾患」が6名、「切断」が2名であった。

骨関節疾患やボツリヌス療法などの疾患に対して行なうスプリントの作成は26件であった。また、平成26年度から行っている廃用ラウンドに引き続き参加した。

院内研究活動として、平成26年度から行なっているMCIおよび軽度認知症を対象とした集団リハビリテーションプログラムでは、新たに15名を加えて実施した。当科で開発した自宅で行える体操のDVD教材の効果検証を昨年度から引き続き他機関と協力して行った。

3. 研修・教育活動

職員の知識や技術の向上のため、作業療法士協会主催の研修会への参加、都立施設の理学療法士・

作業療法士会が行う自主研修会などに参加した。

学会発表としては、第54回日本リハビリテーション医学会学術集会にて、当科で行っているMCIおよび軽度認知症に対する取り組みについてのポスター発表と第51回日本作業療法士学会にて、ボツリヌス療法における作業療法についての症例報告と当科で行っている廃用ラウンドの取り組みにおけるポスター発表を行った。

学生に対する臨床実習指導では、3名の実習生を受け入れ、指導した。

院外における教育活動としては、板橋看護専門学校の外來講師を務めた。

院内では新規採用職員に向けた、新人研修を実施した。看護研修では、他職種と協力し、移乗方法の指導や自助食器の紹介や食事姿勢など、食事動作に関する講義を行った。

1 人員体制

2017年度は5人体制で業務を開始し、年度途中に1名退職したため、11月以降は4人体制で業務を継続した。

2 診療活動・実績

当院言語聴覚部門では、脳梗塞や脳出血といった脳血管障害、脳・神経変性疾患、脳腫瘍などにより生じた言語機能障害及びその他の高次脳機能障害、音声・構音障害、嚥下障害などに対する評価・訓練・指導のほか、廃用症候群に対する同様の介入を実施した。2017年度の新来、再来を含めたべ診療件数は5698件で、前年度6266件から前年比約91%と減少が認められた（以後、比率における約は省略）。入院患者のべ件数は4999件（前年度5436件、比92%）、摂食機能療法を除いた訓練単位数7713単位（前年度8393単位、比92%）とそれぞれ1割程度減少した。外来患者のべ件数は699件（前年度830件、比84%）、訓練単位数1606単位（前年度1868単位、比86%）と、過年度に続いて減少傾向であった。処方数は入院患者が514名（前年度487名、比106%）と増加した反面、外来患者は29名（前年度33名、比88%）と減少した。

入院患者の内訳は、脳血管疾患等を対象とした訓練実績6702単位（前年度7181単位、比93%）、そのうち早期加算の算定対象は5238単位と78%を占めた。廃用症候群を対象とした訓練実績は892単位（前年度1208単位、比74%）、同早期加算対象は589単位と66%を占めた。上記から、引き続き急性期患者が診療対象の大部分を占めている状況が確認された。他、がんのリハビリテーションは延べ80名（119単位）、摂食機能療法は156件算定された。

言語障害の種類は、失語症その他高次脳機能障害、運動障害性構音障害、精神活動低下に伴う言語機能の低下、摂食・嚥下障害、難聴、音声障害と多様であり、かつ高齢患者を多く受け入れている当院の特性から、既往も含めて障害が重複している例が多く見られた。さらに、発症直後の意識障害や、認知症に伴う情動異常が合併している場合もあり、集中的な機能回復訓練にとられない柔軟な対応が度々必要とされた。

リハビリ訓練以外の院内活動としては、リハビリテーション科全体で実施している廃用防止ラウンドへの参加（週1回の回診）と、栄養サポートチームへの参加（週1回の回診と、依頼時に摂食・嚥下機能の評価）を継続した。また、2015年度に

NSTとして作成した経口摂取開始フローチャートの運用の支援を継続した。

3 研修・教育活動

院外講師活動としては、前年度に引き続き板橋看護専門学校講師を務めた。また、板橋区失語症会話パートナー養成入門講座へ講師補佐として参加した。院内では、1年目の看護師を対象とした研修にて講師を務め、またリハビリテーション科新規採用職員を対象とした勉強会にて言語聴覚士業務について紹介を行った。加えて、リハビリテーション科主催の軽度認知機能障害（MCI）に関する講演会の企画・運営に携わった。

自己啓発としては、院内の各種勉強会への参加、院外の関連学会への参加及び研究発表を行い、治療技術の向上に努めた。

4 その他

地域活動として、2010年度より参加している板橋リハビリテーションネットワークST部会（旧：板橋地域言語聴覚士連絡会）へ引き続き参加し、板橋区周辺地域の病院や老人保健施設等の言語聴覚士との連携強化を図り、情報の共有化を行った。

1 人員体制

リハビリテーション科の臨床心理部門には、5名の固有職員が在籍している。そのうち1名は、育休明けで11月から復帰し、もう1名は、2月から産休・育休に入った。ここ数年、産休代替の非常勤職員が1名配置されている。

なお、当部門の職員1名は被災地支援に関連した研究所業務のコーディネータおよび事務責任者である^{※1}。兼務研究員として研究所の「福祉と生活ケア研究チーム」に所属している。

2 診療活動・実績

臨床心理では、理解・判断、記憶、注意機能等の高次脳機能評価および機能回復・向上を目的とする認知面の訓練を基本としつつ、対人的交流や日常の諸活動へのかかわり、身体を動かす心地よさや健康づくりの大切さを実感してもらうため、病識、意欲、情緒、会話等への働きかけを重視しながらリハビリテーションを実施している。

対象疾患は、脳血管障害、中枢神経疾患、廃用症候群など多岐にわたる。外来では、退院後に復職を目指す患者さんに対する訓練も行っている。

平成29年度の診療実績をみると、医師からの処方箋は717件（入院588、外来129）、延べ取扱件数は5,736名（入院4,849名、外来887名）であり、ともに昨年度実績を大きく下回った。一方、加算の対象となる心理検査の取扱件数は1,169件であり、昨年度実績を上回った。産休・育休あるいは看護休暇等への対応がなされる一方で、心疾患の患者さんに対する術前・術後の評価が昨年度から始まり、さらに、MCI研究の対象者の増加に伴う検査処方数が大幅に増えているという実態が、そのまま反映された数字となった。

平成29年度は、高齢者いきいき外来の受診数が94名であり、すべての受診者に定型評価を実施した。そのうち、軽度認知障害圏にあると判断され、平成26年度から取り組んでいるMCI研究に対する協力が得られた15名に対しては、介入研究前後の定型評価を追加して実施した。さらに、認知リハビリテーション群に割り振られた8名に対しては、当科の心理職が独自に作成した教材を用いて認知機能トレーニングを実施した（第5期参加者：H29.5月開始）。

一方、平成26年度から継続フォローしているMCI研究への協力者については、今年度、第1期参加者（H26.12月開始）が24カ月後評価まで、第

2期参加者（H27.6月開始）が24カ月後評価まで、第3期参加者（H27.12月開始）が24カ月後評価まで、そして、第4期参加者（H28.8月開始）12カ月後評価行われた。さらに、平成30年4月ですべての評価を終了する予定になっていた第1期参加者を含め、研究への参加者全員の評価期間が延長されることになり、次年度以降も、MCI研究に関連した検査処方数の定量的な自然増加に対応しなければならない。

また、今年度も、葛飾区と共同でDVD教材「わくわくホームレクササイズ」による介入研究が行われた。その研究の一環として、6月6日、7月25日、1月30日、3月20日の計4回、当科の心理士2名が葛飾区シニア活動支援センターで認知機能評価・運動機能評価等を実施した。

そのほか、MCI研究関連の業務として地域の高齢者向けにリハビリ講演会を年3回開催しているが、運営メンバーとして心理から1名派遣した。

なお、心理教材研究会が中心となり平成28年度に製本化されたホームワーク用プリント教材「わくわくホームワーク」は、現在、内部的な利用に止まっており、対外的なものとしては活用されていない。

ここ数年の間に、日常業務だけではなく、科内の研究業務や地域支援を推進する役割として、リハビリテーション科の心理職へのニーズは増大している。

3 研修・教育活動

心理職としての知識や技術の向上のため、日本心理臨床学会や高次脳機能障害学会、日本老年行動科学会などに参加・発表した。これらの学会に参加した職員による伝達講習も行った。部門内でも、定期的な症例検討会および文献抄読会も開催し、相互研鑽にも努めた。

その他、被災地支援として2名の職員が派遣され、講演などを行った。

※1 被災地支援に関連した研究所業務の内容については、研究所の年報（「東日本大震災被災者支援プロジェクト」）を参照のこと。

放射線診断科

部長 徳丸 阿耶

1 人員体制

〈常勤医師〉徳丸阿耶（部長）
 下地啓五（専門部長）
 櫻井圭太（医長）
 亀山征史（医長）
 飯島健（医員）
 石川浩二（後期研修医）

〈非常勤医〉15名

2 診療活動・実績

（1）核医学診断

FDG-PETの年間検査総数は527件で前年度比97%と微減を認めた。このうち重点医療の癌診断に有用とされるFDG-PET検査（腫瘍）は488件で前年比110%と増加を認めた。新施設移行後、研究所PETセンターと、病院の画像センター所属の医師、技師、看護師の協力のもと、病院内外への診療的意義を広める努力が積み重ねられている。

保険外（研究目的）のPETの検査総数は全体としては544件（前年537件）で前年度比101%とほぼ同等であった。アルツハイマー病診断に有用なアミロイド-PETは123件（前年97件）で前年度比127%の増加、アルツハイマー病、嗜銀顆粒性認知症などの病因の一つとなるタウ沈着を評価するPET（脳タウ）は42件（前年41件）で、前年とほぼ同等であった。アミロイド、タウPETは、他に追従を見ない当センター独自、かつ高精度の認知症診断技術開発に直結する検査の活用が順調に軌道に乗ったことが示された。病因に迫るこれらの先端的検査手技の有用性は、根本治療薬開発治験にも欠かせないツールとなっており、PETセンター、認知症センターとの協力、カンファレンスなどを通じた良好な協力関係のもとに臨床および研究、治験が施行されている。

RI検査の総検査数2,515件（前年2,621件）でRI検査全体としては前年度比3%の微減であった。このうち脳血流SPECTは1,018件（前年1,225件）で前年度比84%の減少、MIBG心筋交感神経シンチグラフィの検査数は321件（前年353件）で前年度比91%の微減、パーキンソン症候群、レビー小体型認知症の疾患の診断で有用な脳ドーパミントランスporterシンチグラフィの検査数は390件（前年333件）で前年比117%と増加が認められた。新病院に移設後、認知症診療、パーキンソン病診療

における重要性が認知され、核医学検査件数は引き続き高い水準を維持している。

（2）放射線診断

年間CT検査総数は17,725件（前年17,173件）で、前年度比103%と微増を認めた。

年間MR検査総数は、7756件（前年7,860件）で、前年度比98.5%とほぼ同数であった。このうち重点医療の認知症診断に寄与する認知症関連MRIは1,885例で前年とほぼ同数であった。

かかりつけ医（地域の主治医）の先生方が各種画像診断をインターネットで24時間いつでも予約できるシステム（地域医療連携システム）の運用2年目となった。電話で待たされることなく土日・祝日を含む時間外にも検査内容の選択、患者情報などの入力だけで予約が可能なオンライン連携システムを無料で地域の医療機関に提供している。かかりつけ医（地域の主治医）の先生方と連携・協力して診療を行う地域医療連携枠を活用したMRI検査数は138件（前年196件）、CT検査数は120件（前年106）件である。うちオンライン予約は、全体で23.5%、MRI検査の39%を占めるまでになり、利便性の周知が高まっている。

（3）CT、MRI、RIの診断については、それぞれ翌診療日までに実施検査の90%、92%、79%の画像診断報告書を作成し、最終的にCT、MRIで99%、RI、PETでは100%のレポート作成が達成され、臨床診断、研究に貢献している。

3 研修・教育活動

徳丸は東邦佐倉医療センター放射線科客員教授、帝京大学医学部非常勤講師として大学院生および医学部生に対し、神経放射線診断の基礎及び応用について講義を行っている。また多施設共同研究の中央読影において、認知症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症など早期診断研究に供されるMR画像の質的診断を行っている。日本神経病理学会関東地方会神経画像コンサルタント、日本神経放射線学会評議員、NR懇話会世話人等。

下地は生理学研究所と基礎生物学研究所を中核機関とする先端バイオイメージング支援プラットフォームに参画し、北海道大学、東北大学、国立精神・神経医療研究センター、名古屋大学、九州大学など全国各地の研究機関と脳画像解析に関連した共同研究や技術支援を行っている。

櫻井は名古屋市立大学大学院総合認知症学特論にて講師として大学院生に画像診断の講義を行っている。また日本神経病理学会関東地方会や名古屋

神経病理アカデミーにおいて神経放射線画像コンサルタントとして、神経病理診断が得られた症例の画像診断を積極的に行い、東海神経放射線勉強会、NR懇話会、ニューロイメージングカンファレンス世話人。難知性疾患政策研究事業神経変性疾患領域における基盤的調査研究班、大脳皮質基底核変性症剖検例における臨床像の解明および臨床診断基準の妥当性検証～多施設共同研究に参画している。

亀山は、東京大学神経内科、慶応大学放射線科などとの共同研究、PETセンターとの懸け橋の人材として先端技術を臨床に役立てるべき尽力している。

常勤医師と後期研修医は火曜日に行われる神経内科、認知症カンファレンス、水曜日に行われる病理解剖スライドカンファレンス、木曜日に行われる臨床各科と病理診断科によるCPCカンファレンスへの参加を継続している。

4 その他

放射線診断科は、病院のスタンダードを守る砦である。

新病院移設後、そのスタンダードレベルを上げることに関心してきたが、重点医療のがん診断における画像診断の意義は大きく、できるだけ遅滞なく検査を施行し、また翌診療日までに診断レポートを提出することに努めている。さらに、最新検査機器を育て、十全に機能させることが望まれる。

画像検査の重要性が増すとともに検査件数の増加があるが、対応する機械、人員には限界があり、予約待ちの増加が課題となっており、常勤技師、放射線科専門看護師、常勤医師の増員が課題となる。高齢者救急病院として、救急における緊急検査に可及的対応を重ねているが、十全な対応維持のためにも、医療スタッフの充実、高磁場MRの増設が昨年に引き続いての課題となる。

重点医療の認知症診断において、当センターもの忘れ外来、関係各科、ブレインバンクのレベルの高さは言を俟たない。画像診断もまた、今日の認知症診断においては欠かせない重要診断ツールとなっている。早期の正確な診断は、その後の治療、介護、看護の適切な介入に直結するものであり、保険収載されている診断技術の洗練とともに、最新鋭の診断技術との連携を経て、最新の正確な診断技術を提供することが、本院放射線診断科の役割である。

放射線治療科	部長 山川 通隆
--------	----------

1 人員体制

〈放射線診療科部長〉山川通隆

〈放射線診療科部長〉山川通隆が兼務

2 活動内容・実績

●診療実績 () 内の数字は前年度実績

平成29年度は、施設基準が満たされ、放射線治療料の10割保険請求を維持できている。放射線治療専任加算(330点)、外来放射線治療加算(100点/日)、定位放射線治療(63,000点)の請求も維持できている。

年間のべ治療患者数は、高エネルギーX線:2,090人(1,977人)、4,252件(4,366件)、高エネルギー電子線:103人(182人)、103件(182件)、放射線治療管理料:160例(172例)であった。前年度よりもX線治療患者が若干の増加であったが、電子線治療患者が前々年度なみに減少した。

平成29年度の放射線治療症例数は130例(131例)とほぼ同様であった。性別は男性71例、女性59例であった。

症例の内訳は、肺癌28例、乳癌19例、血液がん18例(うち白血病7例、悪性リンパ腫11例)、泌尿器系癌13例(うち膀胱癌6例、前立腺癌4例、腎癌3例)、皮膚癌10例、食道癌7例、頭頸部癌6例(うち喉頭癌3例)、胃・肝・膵癌6例、大腸癌4例、その他であった。肺癌、血液がん、皮膚癌、食道癌が前年度よりも減少し、乳癌、泌尿器系癌、胃・肝・膵癌が増加した。そのうち、骨転移がのべ42例(28例)と増加したが、脳転移は6例(21例)と減少した。緩和ケア内科からの依頼が22例(11例)と増加した。

年齢は、後期高齢者:67例(51.5%)、前期高齢者:49例(37.7%)、非高齢者:14例(10.8%)と、非高齢者の比率が減少した。90歳以上の超高齢者は10例(7.7%)であった。

造血幹細胞移植前処置の全身照射(30,000点)は5例(13例)と前年よりも減少した。

しばらく行われなかった肺癌の定位放射線治療(63,000点)も平成29年度は3例(2例)に施行し、合計59例となった。

3 研修・教育活動

松井技師が、放射線治療専門放射線技師に認定された。山川は、日本医学放射線学会研修指導者として認定が更新された。

4 その他

東京都がん診療連携協力病院に認定されており平成28年4月1日～平成32年3月31日)、必要な放射線治療を提供している。

1 人員体制

内視鏡科の人員体制は常勤医師として西村誠と松川美保が、また非常勤医師として倉岡賢輔と宮下薫が内視鏡検査全般や治療内視鏡として内視鏡下粘膜下層剥離術（ESD）・超音波内視鏡（EUS）・超音波内視鏡下穿刺術（EUS-FNA）・内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）・消化管ステント留置術などを行っている。外来、内視鏡診療および入院診療を消化器内科と共同して行っており院内コンサルトや緊急内視鏡にも夜間、休日問わず対応している。ESDに関しては過去最高の年間139例を達成し、例年100例を超える症例数をこなせるようになってきている。EUS-FNAもESDと並んで当科の診療業務の大きな柱の一つとなっており、膵腫瘍のみならず腹腔内や縦隔リンパ節、胃粘膜下腫瘍の穿刺目的の紹介も増加している。ERCPも200件をコンスタントにこなせており、他院からの紹介も増えている。医師事務として齋藤宏子が外来問診の介助や外来業務、内視鏡室業務の運営改善、データ整理などに貢献している。

内視鏡科・消化器内科ともに消化器内科の後期研修医である武村拓也と廣田旭亮、および初期研修医に対して内視鏡業務のトレーニングおよび消化器内科全般の研修、消化器癌の化学療法の教育を行っている。

2 診療活動・実績

外来診療は初診患者のみならず腹痛や消化管出血などの予約外患者を診ており、必要なものに対しては当日に緊急入院・緊急内視鏡を行っている。他院からの紹介患者に対して上部・下部内視鏡、EMR、EUS、EUS-FNA、ERCP、消化管ステントなどを行っている。昨年度の休日緊急内視鏡検査は42件であり、消化管出血、異物除去、イレウス管挿入等に対して、交代制で対応している。

入院診療は消化器内科と合同で8階西、8階東病棟合計56床で診療を行っている。各種検査入院や内視鏡後のクリティカルパス入院のみならず切除不能消化器癌患者の化学療法目的入院、および緩和治療目的入院も増加傾向であり、当科の目指す早期癌から進行癌までの継続した医療を提供できている。新規入院患者数は平成28年度2,037人から平成29年度2,058人へ増加している。

3 研修・教育活動

初期研修医に対しては消化器救急疾患症例や消化器癌内視鏡治療や化学療法症例を中心に担当させている。治療内視鏡に助手として積極的に参加させて、治療に参加しているという実感が得やすいようにしている。また後期研修医に対しては実際内視鏡を行うハンズオントレーニングを行っている。上部内視鏡から開始し、その後下部内視鏡、治療内視鏡を教育している。現状では、1年で上下部内視鏡検査を習得でき、緊急内視鏡にも対応できるようトレーニングされている。初期・後期研修医には年に2回開催される内視鏡学会地方会で発表し、また地方会の後には内視鏡学会発行のProgress of Digestive Disease誌に投稿してもらい論文作成の指導を行っている。国際学会にも積極的に参加しており、スタッフはDDW、UEGWに、後期研修医では、武村拓也、廣田旭亮がAPDWに参加し、ポスター発表を行った。

西村が臨床修練指導医であることから海外医師の見学も受け入れており、2017年にはRavinder Ogra（アメリカ）がESD見学を行い、Rafael Monici（ブラジル）に対して医師免許を発行してハンズオントレーニングを行った。

4 その他

診療では平成29年からESD・ERCP症例がさらに増加傾向であり、指導医の元に若手医師のスキル向上も進んでいる。研究所とのトランスレーションリサーチも順調であり、科研費（基盤C）の研究として西村と松川がEUS-FNA検体による膵腫瘍と膵嚢胞における次世代シーケンサー解析、エクソソームの解析を伊藤研究室（老化機構研究チーム）・病理診断科の松田陽子医長、新井富生部長とともに行った。

今後、慶應大学矢作研究室とともに切除不能膵癌に対するdsRNA製剤のEUSガイド下注入療法の多施設共同医師主導型治験が開始となる予定であり、準備を進めている。

1 人員体制

〈部長〉宮本鋼

〈医員〉橘盛昭

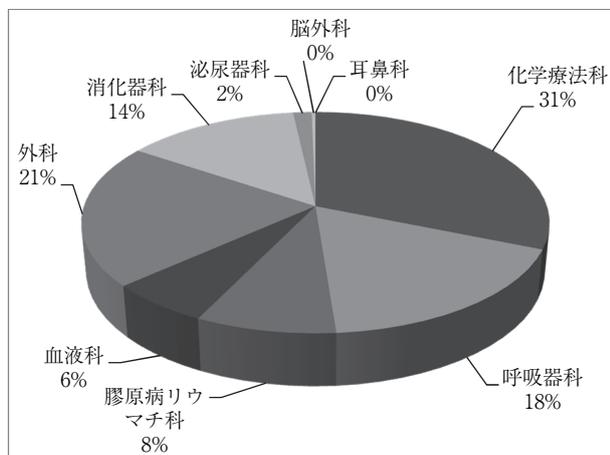
2 診療活動、実績

化学療法科は外来部門である外来化学療法室および11階西病棟を中心に運営されている。11階西病棟に10床を擁し、血液悪性疾患を対象として入院加療を行っている。

外来化学療法室においては、呼吸器科、リウマチ膠原病内科、血液科、外科、消化器科、脳外科、泌尿器科による御協力を頂き運用した。関係各位に深く御礼申し上げる。運用の実績としては年間患者総数1017名であり昨年度より約8.8%の増加が見られた。内訳は下記の如くである。

平成26年度の診療報酬改定により、外来化学療法加算の適応が点滴のみに縮小されたため、総数は減少傾向にあったが、近年は改善傾向が見られている。

化学療法科単独での外来については半期実績で延外来患者数1538人であり、前年より25%の増加であり着実な成長が見られた。半期実績で延初診患者数は41人であり、前年より51%の増加であり順調な増患が見られた。当科の性質上、院内紹介による初診患者は多数受け入れているが総数は不明である。化学療法科単独での入院加療については半期実績で延入院患者数2036人であり、前年より34%の増加であり着実な成長が見られた。病床利用率は95.1%、平均在院日数21.9日であり効率的な運用ができたが、病床利用率の増加に伴い入院期間が伸びており、今後検討を要すると考えられた。全体として目覚ましい発展を示している。



3 研修、教育活動

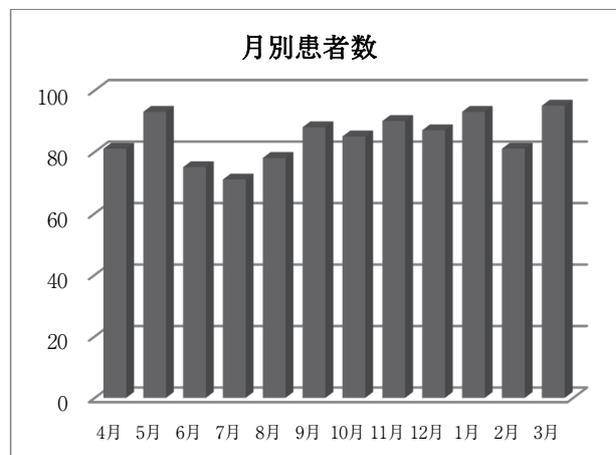
ベットのサイドカンファレンスを血液内科と月曜正午より共同運営している。

近年の悪性リンパ腫、骨髄腫対象の薬物療法は長足の進歩を遂げ、その開発スピードは目を見張るものがある。当科に於いても適時導入しているが、その適応の判断は時に困難な場合もあり、悪性リンパ腫、骨髄腫専門カンファレンスを外部の専門家と共に木曜午後に運営している。

別紙のごとく研修医の方は、学会発表を必須のものとして指導している。

4 今後の展望

外来化学療法は、平成26年度に保険診療的側面においては大きな転換点を経験した。しかしながらその存在意義は悪性疾患患者管理において非常に大きい。平成29年度では、28年度に引き続き増患の傾向が確認され、後ますます増大していくであろう。次年度においては、スタッフの充実と外来ベッドの増床を計画している。高額な抗腫瘍薬も次々に認可、使用開始されており、これからも安全かつ的確な化学療法の施行を第一に運用していく。



1 人員体制

法人移行後、臨床検査科の安定運営を確保するために当初予定より早期に都派遣職員の解消を行い、法人固有の職員採用を実施してきた。28年度末に1名の都派遣職員の派遣を解消した。29年度中に固有職員9名の退職があり、4名の経験者採用を行った。また、職員の負担軽減のため、中央採血室に非常勤1名を採用した。その結果、平成29年度末は臨床検査科では、固有30名（輸血・細胞療法科職員含）、非常勤職員6名となり臨床検査部長、臨床検査医長（病理診断科部長兼務）、生理部門担当（循環器内科専門部長兼務）、超音波検査室長（循環器医長兼務）が在籍している。2018年1月31日丸山強技師長が退職した。2018年3月31日田中雅嗣臨床検査科部長が定年退職した。

地方独立行政法人化以降、臨床検査科では40代職員（いわゆる中堅職員）が不足しており、経験者採用も積極的に実施し年齢構成のバランスを保つよう努力しているが、人材確保に苦慮している状況が続いている。

平成30年度採用に向けても新卒・既卒を問わず広く人材を集めていく予定である。

また一方では、地方独立行政法人化に移行した際採用された若手固有職員育成が実りつつあり、各種認定試験などにも積極的に取り組み技術と知識の向上に努めてきた。

2 診療活動・実績

地方独立行政法人化9年目となり、更なる経営努力を実践している。

臨床検査部門は診療支援部門として365日24時間体制の緊急検査の報告時間短縮、安全対策、検査精度の向上など日頃から業務改善を実施している。さらに、組織一丸となって『患者サービスの向上』、『収入増策』、『コスト削減策』などの重点課題に取り組んでいる。

その取り組みとして、今年度は臨床検査システムと生化学・免疫自動分析装置の更新を実施した。

臨床検査システムにおいては検体受付から報告までの工程管理を強化し、検査漏れや遅れをリアルタイムに確認しながら業務を行えるようにしTATの短縮に貢献できるようにした。また、前回値チェック機能も強化することで、自動登録（承認）機能も取り入れて業務の効率化を進めている。

また、生化学・免疫自動分析装置においては、生化学免疫の連結型分析装置にすることで従来の

搬送システムをなくすことができた。

その結果、以前は搬送システムにより職員の動線が分断されていたが、動線を考慮した機器配置を行いスリム化することができた。

患者サービス向上では、患者様に不愉快な思いをさせない接遇を心がけてきた。特に、外来採血室においては待ち時間短縮と患者間違い防止に注力し、各職員の採血技術向上に努めている。また、混雑時の応援体制の強化と非常勤職員を採用し、待ち時間に対する患者クレームは対応した。

コスト削減では、試薬や物品について適正在庫管理を徹底し、不良在庫削減とSPD調達品への移行を行ってきた。また、診療材料や消耗品についても検査精度に問題がなければ適宜安価な物に切り替えを行ってコスト抑制に努めている。さらに、部門ごとに管理していた物品も業務に支障のない範囲で一元管理を行い、無駄な在庫の縮減に努めている。

臨床検査技師の分野においても専門性を求められる中で、ベテラン職員による若手技師への技術指導と知識の向上など人材育成にも力を注ぎ、各職員が認定資格取得を目指して研鑽している。また、それぞれの分野で専門性を発揮し、チーム医療の充実に寄与している。ICTやNST活動、糖尿病療養指導、移植療法や血管再生治療など臨床検査技師が関わる分野も拡大し、積極的な臨床支援を実施している。

人材育成としては、血液および骨髄細胞の形態判読能力向上と、検査精度の充実に図るため、毎週合同で骨髄標本の顕微鏡観察を主体とした症例検討会を血液内科医師の指導のもと実施し、全担当職員が必ず参加している。

さらにチーム医療として実際に、化学療法科、薬剤科、病理診断科などとも密に連絡を取り合い患者サービスの向上に取り組んでいる。

生理検査部門においても定期的な内部勉強会を実施し、検査技術だけでなく知識的部分の向上を図っている。特に需要の高い超音波検査については、検査可能な人材の育成に努力し、職員同士が協力しあって技術習得を行ってきている。

検査実績では、検体系の件数はほぼ横這いから微増であるが、生理検査部門においては職員の退職により減少した。

超音波検査は、新たに経験採用を行い、検査枠の確保と検査件数の増加に努めている。今後も臨床からの要望に応えられるよう人材育成を含め体制の整備が急務である。

3 研修・教育活動

定期的な検査科全体での勉強会の他、部門内でも勉強会を実施している。また、各学会や研修会に参加できるよう勤務調整の他、参加費等の援助も行っている。

1 人員体制

〈医師〉小林寿美子、小倉和外
 〈常勤〉谷田部元野、阿部真愛、額賀さおり、
 小菅隆雄

当科のスタッフは、医師2名(2名とも認定医)、
 常勤臨床検査技師4名の計6名体制である。

2 活動内容・実績

主な業務内容は、1) 輸血関連検査(血液型検査・不規則抗体検査・交差適合試験)、2) 輸血用血液製剤の管理、3) 移植細胞の管理、4) 自己血貯血と管理である。平成29年度(平成29年4月～平成30年3月)の輸血実績は、赤血球製剤(自己血除く)3,333件(6,663単位)、濃厚血小板1,367件(14,410単位)、新鮮凍結血漿767件(1,783単位)で前年度に比較して血小板以外は使用量の減少であった。自己血輸血の計画、採血実施、保管、運用を継続中である。平成29年度の自己血輸血の実績は、163例(312単位)で対前年比較ではやや減少傾向にあった。自己血貯血の実施は週3回から4回に依頼日を拡大して今後も年齢に関係なく高齢者対応を行っている。

1) 当科の最大の目標である安全な輸血療法の実施に向けて、1) 適応に合致する輸血療法の実施、2) 人為的ミスの排除、3) 輸血療法による副作用への対策を柱として、現状の把握と改善策の具体化を常に心がけている。1) については輸血療法の適応について担当医との協議を行い、また当院での適正な輸血療法の指針を具体的に提案し、輸血・細胞療法委員会で審議の上、院内に周知している。安全な輸血医療の実践のための輸血・細胞療法委員会は、年6回実施している。2) については輸血用血液およびアルブミン製剤を輸血・細胞療法科が一元的管理を行い、製剤の品質管理を徹底している。ABO不適合の移植患者では、移植後使用する血液製剤が製剤種毎に血液型が異なるため、システム化し製剤毎の血液型不適合輸血を防止に努めている。また輸血委員会が中心となり平成29年度も廃棄率の徹底と準備使用率の低下は2年連続でほぼ100%に達成が維持されている。3) については輸血副作用の情報収集につとめ、事後処理が適切に行えるよう必要な情報を担当医に速やかに提供する体制を整えている。このような業務管理により、血液製剤の使用および管

理の適正性が評価され、診療報酬の輸血管理料I及び輸血適正使用加算を継続中である。平成30年3月末には日本骨髄バンク認定採取施設(末梢血幹細胞採取、DLI採取、骨髄採取)を取得し以降、骨髄バンクカテゴリーIIを取得し、1年間で11件の採取を行った。

3 細胞採取プロセッシング

さらに細胞プロセッシング業務として、造血幹細胞移植での細胞採取に参画し細胞処理業務を行った。血液内科との連携のもと、骨髄移植は5例(メジャー不適合2例、マイナー不適合1例、同型2例)に実施、本年度より新規業務として骨髄バンクドナー8症例を受け入れ開始し、細胞採取ならびに処理を実施し昨年度よりもバンク関連業務の拡大につながった。また臍帯血移植保存管理は14例で対前年と比較して1例の増加であった。

4 研修・教育活動

- 1) 研修医の研修では、当直時間帯における血液型検査、血液製剤の適正使用について教育を行った。年度初めには全員への啓蒙を実施した。
- 2) 平成29年度も看護師を対象にした輸血勉強会を2回実施し、血液製剤の適正使用、取り扱い時の注意点などについて啓蒙した。
- 3) 平成29年度に採用された臨床検査科職員を中心に輸血関連検査等の研修を実施し、当直時にも対応できる体制を整え新システムのコンピュータに対応可能な教育を随時行なっている。
- 4) 東京都職員輸血分野別検討会で行われた都立病院・東京都医療公社施設全技師対象の輸血精度管理事業「輸血凝集サーベイ」に参加した。
- 5) 臨技臨床検査精度管理調査に参加した。
- 6) 都内医療大学より実習生を3名受け入れ研修教育活動を実施した。
- 7) 前年度に発足した院内輸血セミナーを年2回実施し啓蒙活動を充実させた。

1 人員体制

〈部長〉新井富生
 〈医長〉松田陽子、藤ヶ崎純子（兼務）
 〈常勤医師〉関敦子（平成30年1月31日まで）
 〈後期研修医〉野中敬介、柿崎元恒、坂下泰浩
 〈非常勤医師〉熊坂利夫、坂本啓、倉田盛人、濱松晶彦
 〈技師等〉鈴木明美、木下真由美、白幡浩人、
 江坂四季音、浜島裕理、今泉雅之、木曾有里、
 児島宏哉、木村勇里、緑川広紀
 〈非常勤〉岸律子

2 診療活動・実績

(1) 生検・手術、細胞診、術中迅速検体、免疫染色、電子顕微鏡検査

検査種類	H28	H29	対前年	対前年比
生検・手術検体	3336	3441	+105	103.1%
細胞診	1757	1798	+41	102.3%
術中迅速	58	86	+28	148.3%
免疫染色	635	752	+117	118.4%
電子顕微鏡	40	41	+1	102.5%

細胞診の件数に増加がみられた。

(2) 病理解剖

	H28	H29	対前年	対前年比
解剖数	82	66	-16	80.5%
院内剖検率	12.7%	9.6%	-3.1%	75.6%

前年度に比べ病理解剖数・院内剖検率がともに減少した。

(3) 慰霊祭

平成28年度病理解剖例を慰霊する目的で、平成29年10月19日に慰霊祭が板橋区立グリーンホールにて執り行われた。

3 研修・教育活動

(1) 研修医教育体制

当センター病理診断科は日本専門医機構から、基幹病院として承認されている。「東京都健康長寿医療センター病理研修プログラム」に則り、現在後期研修医2名（後期研修2年目、5年目）が研修中である。

(2) オルガンコントロール・スライドカンファレンス

当センターにおいて病理解剖された症例は全例

オルガンコントロール(肉眼所見カンファレンス)を金曜日午後に、スライドカンファレンス(組織所見を含めたカンファレンス)を水曜日夕方に行っている。平成29年度のオルガンコントロールは31回(第1417~1447回)、スライドカンファレンスは40回(第1620~1659回)実施した。

(3) 臨床病理検討会(CPC)

別表に示す通り、CPCを16回(第798~813回)開催した。16回のCPCには、公開CPC4回、雑誌掲載CPC3回、豊島病院との合同CPC2回が含まれる(別表参照)。

(4) Weekly review、細胞診と組織診の対比の会

病理診断に関わる知識・技能の向上を目的として、典型例・診断困難例・稀有例などを木曜日午後、病理医が全員集まって鏡検する検討会を開催した。また、細胞検査士が中心となり細胞診と組織診の対比の勉強会を月1回開催した。

(5) 消化器CPC

主に消化器内科、内視鏡科、外科と合同で消化器疾患の生検・手術症例に関する検討会を10回(第515~524回)開催した(別表参照)。

(6) EUS-FNA検討会

超音波内視鏡下穿刺吸引法(endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration, EUS-FNA)による膵、胃、リンパ節などの検体が提出されるようになったため、診断能力向上と穿刺術へのフィードバックを目的として、病理診断科、内視鏡科、消化器内科が協力して検討会を9回開催した(別表参照)。

(7) 呼吸器病理供覧会

高齢者の呼吸器疾患の診療の向上のために、病理診断科、呼吸器内科、呼吸器外科共同で検討会を4回実施した(別表参照)。

(8) 腎臓カンファレンス

高齢者腎疾患の診療の向上のため、病理診断科、腎臓内科共同で検討会を9回開催した(別表参照)。

4 その他

昭和35年(1960年)12月1日にY-1として始まった当センターの病理解剖が平成29年4月18日に病理解剖Y-10000に達した。これを記念して、平成29年9月16日に病理解剖1万体制記念行事を3階第3会議室で開催した。当日は91名が参加された。

記念式典において参加者全員で黙禱を捧げたあと、井藤英喜理事長、許俊鋭センター長のご挨拶をいただいた。そのあと、記念講演会を開催した。

講師と演題は以下の通りである。当センター名誉院長小澤利男先生「老衰死について」、当センター名誉院長・公益財団法人骨粗鬆症財団理事長折茂肇先生「病理解剖が医学・医療に於いて果たした役割について」、大森赤十字病院顧問(当センター元副院長)山之内博先生「33年間のbrain cutting」、東京医科歯科大学分子病態検査学分野教授(元当センター病理診断科部長)沢辺元司先生「センター病理解剖例の教育・研究利用について：ANATOMYからGeriatric EWASまで」、自治医科大学名誉教授・黒須病院外科(前当センター消化

器外科医長)金澤暁太郎先生「40年以上剖検例の腸を診て」。

また、同日144頁からなる「東京都健康長寿医療センター病理解剖1万体制記念誌」を刊行した。この記念誌には、病理解剖1万体制の概要、病理解剖例を用いた研究業績目録、記念誌に寄せて投稿された原稿が掲載されている。

さらに、12月14日には萬年徹先生(三井記念病院名誉院長、元当センター神経内科医長、元東京大学神経内科学教授)による講演会が開催された。

CPC (Clinico-Pathological Conference : 臨床病理検討会)

CPC番号	実施日	剖検番号	年齢	性別	臨床診断	病理診断
798	2017/4/13	Y-9945	79	男性	左下葉肺扁平上皮癌, 肺炎, 糖尿病, 高脂血症, 慢性閉塞性肺疾患, 便秘症	肺扁平上皮癌, 間質性肺炎, 肺膿瘍, びまん性肺胞傷害
799	2017/5/11	Y-9933	80	女性	腸炎, 播種性血管内凝固, 脳梗塞, 2型糖尿病	びまん性肺胞傷害, 肺胞性肺炎, 偽膜性腸炎, 急性期多発性脳梗塞, 非細菌性血栓性心内膜炎, 糖尿病性腎症
800	2017/6/8	Y-9947	46	男性	再生不良性貧血, 急性細菌性腸炎(横行結腸), 敗血症, 肺炎, 肺炎アスペルギルス症, 脳幹部出血性梗塞	脳幹出血, 頭頂部限局性硬膜下血腫, 再生不良性貧血, 大量輸血後状態, 血鉄症(肝, 脾, 膵, 骨髄), 深在性真菌症, 左肺梗塞(上葉), 横行結腸炎, 出血傾向
801	2017/6/22	Y-9922	89	女性	悪性関節リウマチ	悪性関節リウマチ, 関節リウマチ関連間質性肺炎, 肺胞性肺炎, 肺うっ血・水腫, 経皮的冠動脈形成術, 総腸骨動脈ステント留置後状態, 良性腎硬化症, 偽膜性腸炎, 脳梗塞
802	2017/7/13	Y-9917	76	男性	クロイツフェルト・ヤコブ病	FTLD-TDP(前頭側頭葉変性症)
803	2017/7/27	Y-9956	86	男性	肺癌の疑い, 転移性肺癌, 腎不全, 内臓逆位, 心不全, 頸椎症性脊髄症の疑い	完全内臓逆位, 膵癌, 腎盂腎癌術後, 水腎症, 陳旧性小脳梗塞
804	2017/9/14	Y-9924	95	男性	多発性脳梗塞, 前立腺癌, 慢性閉塞性肺疾患, 高血圧症	前立腺癌治療後, 肺動脈血栓+出血性肺梗塞, 肺膿瘍, 肺うっ血, 急性胆嚢炎・胆管炎, 総胆管結石, 嗜銀顆粒性認知症, 脳梗塞, 老人性全身性アミロイドーシス, 陳旧性心筋梗塞
805	2017/9/28	Y-9920	99	女性	大動脈弁狭窄症, うっ血性心不全, 多臓器不全	高度大動脈弁狭窄症, 老人性全身性アミロイドーシス, 誤嚥性肺炎, 腔水症, 肺うっ血, うっ血肝
806	2017/10/12	Y-9979	76	男性	胃癌	胃癌術後再発, 気管支肺炎, 髄外造血, 膵萎縮
807	2017/11/9	Y-9976	72	男性	劇症型心筋炎, 急性呼吸窮迫症候群, 胃癌, 播種性血管内凝固, 腎不全	〔劇症型心筋炎〕(心筋びまん性壊死・線維化), びまん性肺胞傷害, ヘルペス感染, サイトメガロウイルス感染
808	2017/11/27	Y-10000	86	男性	パーキンソン症候群	〔敗血症〕, 肝膿瘍, レビー小体病, 多発性脳梗塞, 前立腺癌, 内腸骨動脈瘤, 幽門側胃切除術後, るい瘦

CPC 番号	実施日	剖検番号	年齢	性別	臨床診断	病理診断
809	2018/1/11	Y-9999	81	女性	間質性肺炎、顕微鏡的多発血管炎	間質性肺炎、びまん性肺胞傷害、腎萎縮〔顕微鏡的多発血管炎の既往〕、ステロイド性骨粗鬆症
810	2018/1/25	Y-9978	81	男性	悪性リンパ腫の疑い、糖尿病、高血圧症	血管内大細胞型B細胞性リンパ腫、両側巣状融合性肺炎、尿路感染症
811	2018/2/8	Y-9998	86	男性	CO ₂ ナルコーシス、薬剤性腎障害、結核性腹膜、ペースメーカー挿入後、誤嚥性肺炎疑い	結核性腹膜炎、陳旧性肺結核・結核性胸膜炎、Oxalate nephropathyを伴う終末腎
812	2018/3/1	豊島病院症例	76	女性	悪性リンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
813	2018/3/8	Y-9969	71	女性	うっ血性心不全	感染性心内膜炎、Bentall手術術後状態

消化器CPC

回	実施日	検討症例
515	2017/4/3	腸リンパ腫、大腸癌、大腸癌
516	2017/5/1	虫垂癌、大腸癌、直腸癌
517	2017/6/5	大腸癌、大腸癌
518	2017/7/3	骨盤内腫瘍、胃リンパ腫、胆嚢癌、直腸カルチノイド
519	2017/9/4	胃リンパ腫
520	2017/10/2	食道癌、膵癌、大腸癌
521	2017/11/6	膵癌、直腸癌
522	2017/12/4	食道癌、自己免疫性肝炎、直腸GIST
523	2018/2/5	大腸癌、胆嚢癌
524	2018/3/5	胃GIST、総胆管癌

EUS-FNA検討会

回	実施日	検討症例
19	2017/5/11	悪性リンパ腫疑い、悪性リンパ腫疑い、GIST疑い、GIST、膵腺癌（神経内分泌癌への分化を伴う）
20	2017/8/17	膵腺癌、GIST疑い
21	2017/9/7	扁平上皮癌のリンパ節転移、胃癌疑い、GIST
22	2017/10/5	GIST、サルコイドーシス疑い、膵腺癌
23	2017/11/30	膵腺癌（扁平上皮癌への分化を伴う）、膵腺癌、膵嚢胞性病変
24	2017/12/28	膵腺癌、GIST
25	2018/1/25	膵嚢胞性病変、膵腺癌
26	2018/3/1	膵腺癌、悪性リンパ腫
27	2018/3/15	膵腺癌、膵嚢胞性病変

呼吸器病理供覧会

回	実施日	検討症例
5	2017/4/14	骨肉腫・軟骨肉腫成分を有する肺癌肉腫、扁平上皮癌、肺腺癌特殊型、抗酸菌感染症を伴った肺腺癌
6	2017/8/10	非小細胞癌、MTX関連リンパ増殖性疾患が疑われた症例、間質性肺炎、扁平上皮癌、関節リウマチ経過中に発症した器質性病変
7	2017/12/8	徐々に増大したすりガラス様陰影を示す病変、縦隔リンパ節の類上皮細胞性肉芽腫（サルコイドーシス疑い）、肺癌の全身転移、前立腺癌の縦隔リンパ節転移
8	2018/2/14	間質性肺炎、化学療法後縮小を示した肺癌、分子標的薬が有効であったは腺癌（EGFR変異あり、ALK変異なし、PD-L1陽性率<1%）、肺腺癌術後急速な経過で膿瘍形成がみられた症例、サルコイドーシス

腎臓カンファレンス

回	実施日	検討症例
7	2017/4/5	Oxalate nephropathy, 顕微鏡的多発血管炎
8	2017/5/31	IgA腎症
9	2017/7/5	慢性腎臓病
10	2017/9/6	ANCA関連血管炎
11	2017/10/4	腎TMAの検討、微小変化+糖尿病性変化、尿細管間質性腎炎
12	2017/12/6	間質性腎炎、急速進行性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群
13	2017/12/28	IgA腎症
14	2018/2/7	IgA腎症、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、全身性エリテマトーデス
15	2018/3/7	糖尿病性腎症および腎硬化症の混在、IgA腎症、腎硬化症

1 人員体制

平成29年度は、採用2名、退職4名と育児休業中1名の前年度より2名少ない33名（固有33名）により運営した。

2 活動内容・実績

（1）調剤

外来院内処方箋取扱枚数は4,535枚（前年度比1.6%増）、院外処方箋発行率は96.8%（同0.1%減）と大きな変化はなかった。入院処方箋も前年度とほぼ同じの131,746枚（同0.2%増）であった。

注射セット出しも同様に、入院と外来合わせて104,617枚（同0.7%増）と前年度と比較してほぼ同じであった。

また、看護師の業務負担軽減策の1つとして、内服定期処方の薬剤科での配薬セットを全病棟対象に継続して行った。

（2）薬剤管理指導

29年度は、昨年10月より稼働したSCUにもICUと併任で薬剤師を配置し、入院全病棟で業務を展開した。更に病棟薬剤師の病棟での業務時間を拡大し、業務内容の充実を図った。その結果、実施患者数及び指導件数は増加した。薬剤管理指導料算定件数は、区分②特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）が使用されている患者（380点）が8,291件、区分③ハイリスク薬を使用していない患者（325点）が6,575件の合計15,043件（前年度比1.2%減）と前年度ほぼ同じであった。

また、一昨年10月より運用開始となった地域包括ケア病棟での活動を中心に、ポリファーマシー対策や退院後の服薬アドヒアランス維持に寄与すべく退院指導に注力し、退院時薬剤情報管理指導料算定件数は3,619件（前年度比5.8%増）と過去最高となり、前記の指導料と麻薬加算を合わせて年間約5,600万円を算定した。

（3）病棟薬剤業務

29年度も病棟薬剤師の職能を十分に発揮し、医師や看護師等の業務負担軽減及び薬物療法の有効性・安全性の向上に資することを目的とした病棟薬剤業務を継続して行った。各病棟において、1週間当たり20時間相当以上の業務時間を確保し、処方内容や相互作用のチェック、持参薬確認、医薬品に関する医師や看護師からの相談応需、処方提案などを行っている。結果として、他の医療ス

タッフへの迅速な医薬品情報提供の体制の強化、医薬品の適正使用及びリスクマネージメントを推進させると同時に年間約2,300万円の診療報酬を計上した。

（4）医薬品安全管理

薬剤科では、医薬品の安全管理対策として疑義照会に力を入れており、医療事故や副作用等の防止を図っている。29年度の疑義照会により処方変更となった例は1,928件であり、その中でも重要な事例については、日本病院薬剤師会へプレアボイドとして304件を報告した。また、定期的に発行する「クスリのリスク」では複数回ある事例や特に注意を要する事例などを取り上げ、院内全体に向けて注意喚起を促している。

がん化学療法のリスク管理においては、当センターはがん化学療法レジメンを登録制としており、更に電子カルテ導入により支持療法も含めたオーダーをシステム化している。薬剤科はがん化学療法レジメンの事務局を兼務しており、29年度は新規登録18件、合計458件のレジメン内容のチェック、管理運営を行い、個々の抗がん剤オーダーに対しては、全例臨床検査値の確認、セット及び混合調製を実施している。また、免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策として、初回の免疫抑制・化学療法施行前の患者に対して全例既往感染者のスクリーニング、抗体検査の実施状況の確認及び必要に応じた検査依頼業務を行っている。29年度は186件と前年度とほぼ同じであった。

その他に持参薬確認業務を原則全ての入院患者を対象に行っている。現在予定入院患者は薬剤科窓口で、それ以外の入院患者は各病棟で担当薬剤師が対応し、術前検査センターからの持参薬確認業務と合わせて月平均約820件の持参薬確認業務を行っている。

（5）医薬品管理

29年度末での採用医薬品数は1,569品目と前年度より30品目増加した。年間出庫金額は薬価ベースで14億6,930万円（前年度比4.4%増）であった。前年度と比較し薬効別出庫金額占有率では、抗悪性腫瘍剤の占有率が5.4%増加し32.4%となった。高薬価な新規分子標的薬の採用及び使用量の増加による影響と考えられる。

（6）医薬品情報（DI）

院内への医薬品情報提供は、毎月の薬事委員会

結果報告、院内副作用情報、隔月発行の薬局ジャーナル等、各部署へのお知らせにより行っている。また、院内採用医薬品集は、毎月の採用・採用中止薬品の情報を盛り込んだ最新版を院内LANに載せて提供している。更に、院内副作用報告は年間11例あり、その内5例を医薬品医療機器総合機構へ重篤・未知な副作用として報告した。

29年度の後発品導入は9品目で、前年度の55品目よりもかなり減少したが、後発医薬品使用割合は86.4%と前年度の85.9%からやや上昇した。後発医薬品指数は病院収益に大きく関わるため、今後も引き続き積極的に後発品の導入を行っていく予定である。また、院外処方箋発行率の増加推進に伴い、採用薬の品目数を増加させることなくこれらの使用を可能とするため、院外処方専用登録を行っている。

(7) 無菌製剤（抗がん剤混合調製、TPN及び末梢点滴の混合調製）

抗がん剤の混合調製は、外来及び全病棟の全患者を対象に行っており、29年度の抗がん剤混合調製件数は4,869件（前年度比14.1%増）と増加した。全病棟を対象にしたTPN混合調製業務及び11階西病棟の末梢点滴の混合調製業務の合計件数は、2,543件（同1.0%減）とほぼ同じであった。

(8) 外来がん患者指導業務

29年度も一昨年度より開始した薬剤師による「がん患者指導管理料3」の算定を発展させた。現在4診療科まで拡充し、指導件数は671件（前年度比12.4%増）と増加したが、算定件数は1患者6回までの制限がある為186件（同8.4%減）とやや減少した。また、経口抗がん剤を含む化学療法施行患者に対しては、コンプライアンス確認と副作用モニタリングを兼ねた電話による患者サポートのべ年間42件行った。今後も引き続き対象診療科の拡大と指導内容の充実を図っていく予定である。

(9) 医薬品安全管理業務

29年度もハイリスク薬及び規制医薬品の適正使用の推進及び適正在庫管理を目的とした医薬品安全管理点検業務を入院病棟は2週間に1回、外来部門は毎月1回にと頻回に実施した。更にICU及び手術室には薬剤師が出向き麻薬、毒薬及び向精神薬などの重点規制医薬品の補充及び使用実績の確認業務を行っている。また、点検時に入院病棟や外来部門における医薬品の種類、在庫量などを見直し、品目数及び数量の削減を検討し実施した。

3 研修・教育活動

(1) 長期実務実習受け入れ

薬学6年制に伴い、22年度より1期11週間（年間3期）の長期実務実習が開始された。29年度は第1期4名、第2期4名、第3期4名と合計12名の実習生を受け入れた。30年度以降も継続して学生受け入れ、教育活動にも更に力を入れる予定である。

(2) 各種認定取得について

29年度末現在の主な認定取得状況は、NST専門療法士4名、日本糖尿病療養指導士1名、老年薬学会認定薬剤師1名、認定実務実習指導薬剤師9名、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師3名、日本病院薬剤師会認定指導薬剤師4名、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師15名、日本臨床薬理学会認定CRC1名、日本医療薬学会認定薬剤師1名、がん薬物療法認定薬剤師3名、外来がん治療認定薬剤師1名、感染制御認定薬剤師2名、抗菌化学療法認定薬剤師1名、精神科薬物療法認定薬剤師1名、骨粗鬆症マネージャー2名、公認スポーツファーマシスト2名、管理栄養士1名となっている。

今後も、高度化・複雑化する薬物療法に対応する人材を養成し、薬剤業務の充実を図って行く。

4 その他

(1) 多岐にわたるチーム医療

29年度は以前より参画していた栄養サポートチーム（NST）、感染制御チーム（ICT）、緩和ケアチーム（PCT）に加え、一般病棟に入院する患者の精神状態を把握し早期に精神科専門医療を提供することを目的とし29年度より本格稼働した精神科リエゾンチーム（PLT）へ参画した。また、世界的に急務とされる薬剤耐性（AMR）対策の骨格を担う抗菌薬適正使用の推進を目的とした抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の設立やラウンド主催など他職種との協働連携体制の強化に鋭意した。

(2) ポリファーマシー対策

世界でも類を見ない超高齢社会の日本において、過剰投薬に係る医療費高騰や薬剤副作用が問題となっており、各診療科と協力しポリファーマシー対策を開始した。2017年8月より6東西病棟における8剤以上使用患者を対象（平均10.3剤/人）として、医師2名（総合内科、循環器内科）、薬剤師4名で週1回カンファレンスを行った。1剤以上減薬した症例は276件中102件（約37%）であった。

1 人員体制

〈科長〉羽根田千恵

平成29年度は、常勤8名、非常勤7名で運営した。

2 活動内容・実績

臨床栄養管理推進と患者サービスの向上を図ることを目的に、治療食の調整等食事療養業務、入院時の臨床栄養管理及び栄養食事指導に努めた。

(1) 栄養食事指導

個別指導は、入院及び外来患者とその家族を対象に実施し、入院982件、外来2,924件の計3,906件で前年度に比較して4%増であった。対象疾患は、糖尿病が1,820件47%と最も多く、心臓・高血圧症、腎臓病の順であった。昨年度より増設された指導項目のがんは145件、摂食・嚥下は48件、低栄養が26件と増加した。集団指導は、糖尿病食について加算116名、非加算24名が受講した。

(2) 治療食の調整等入院時食事療養業務

1日当たり給食数は1,118食であり、内訳は、一般治療食566食(51%)、特別治療食552食(49%)であった。前年度と比較し、特別治療食の割合が増えている。これに伴い、特別食加算の算定率も27%と1.6%増加した。特別治療食の内訳では、塩分エネルギー調整食が20.7%と最も多く、2番目が嚥下調整食12.6%だった。

嚥下調整食は年々需要が増えており、29年度は「やわらか食ハーフ」を新たに食事基準へ加え、摂取量の落ちている患者への細かな対応が組合わせによって可能となり、食数も増加した。

また、きざみやブレンダーなどの再加工食は、1日当たりで総食数の27%を占め、患者の病状や嗜好等に配慮した禁止・個別対応食は、30%といずれも前年度より大きく増加した。

上記のような食数の変化は、前年度より力を入れている病棟活動による患者への適切な特別食への変更提案や個別対応の結果から増加していると考えられる。

(3) 臨床栄養管理について

入院患者へ、医師、看護師と共に栄養状態等の評価を行い、栄養状態・食形態を個別に考慮した「栄養管理計画書」を作成し、栄養改善が必要な患者には、病棟担当の管理栄養士が医師や看護師と連携して栄養管理の提案を行った。また、禁食中の患者に対して摂食嚥下機能に即した経口摂取

開始のためのプロトコルを作成し、啓蒙活動を前年度に引き続き行った。この結果、禁食率は16%と低割合を維持することができた。

29年度のNST回診件数は321件であった。10日以上禁食患者をスクリーニングに加えるなど、入院中の低栄養患者の発掘とその早期対策の一助となれることを目指し、今後も継続していく。

3 研修・教育活動

(1) 研修

高齢患者を中心とした臨床栄養管理が実践できることを目標に局研修・各種学会研修やその他の研修に参加した。

(2) 各種認定取得

29年度末の主な認定取得状況は、日本糖尿病学会認定糖尿病療養指導士9人、日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士6人、日本病態栄養学会認定管理栄養士5人、日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士1人となっており、今後も、専門・高度化する臨床栄養に対応する人材を養成し、治療に貢献していく。

(3) 実習生の受け入れ

大学院生(臨床研究)の受け入れ、大学生の受け入れとして2大学の研修を行った。

4 その他

前年度は、医療安全の一環として、食物アレルギー確認の院内運用方法を確立した。入院予約票による確認の導入とアレルギー未確認患者には卵・そば・チーズ・ピーナッツを除去した食事での確認できるまでは対応することを徹底した。院内他部門や調理業務受託業者の協力を頂き、初めて実現できた運用である。今後も適切な運用管理に努めていく。

当センターの患者は、平均年齢が78歳の急性期高齢者であり、原疾患による栄養調整はもとより、合併症や加齢による摂食嚥下問題を有する患者も多い。病棟担当管理栄養士が、カンファレンスの参加やラウンドを行うことにより、患者の病態把握に努め、適切な時期に食事内容や形態の提案を行えるよう体制を強化している。さらには、患者や家族に入院中の食事内容の説明及び調理方法を説明し、退院後の栄養管理に繋がるよう、努力している。今後とも、多職種と連携し、管理栄養士が中核となり患者の栄養管理に取り組み発展させて行きたい。

1 人員体制

〈部長〉麻酔科部長 小倉信兼任

〈主任技術員〉高岡祐子

〈次席〉石井正晃

〈主任〉本田博一・小澤直人

〈主事〉新谷剛・若杉卓矢・和田智至

村野井一樹・柴村真希・梶真悠子

小川将太郎・益山春香・菅原美希

玉田史織・佐藤優

〈非常勤〉太田莉子・奥山麻衣子・吉田誠徳

4月小澤直人が主任昇任、奥山麻衣子、太田莉子が非常勤入職も6月太田莉子が一身上の都合で退職。10月益山春香が入職、12月小川将太郎が一身上の都合で退職。3月末常勤14名、非常勤2名。

2 診療活動・実績

1) 当直体制の確立

開心術後、経皮的心肺補助、補助人工心臓稼働時の1名当直および、非当直日に2名のオンコール体制としていたが、10月から1名体制で正式に開始。特定集中治療室での管理業務だけでなく、院内での機器トラブル、補助循環管理、EMコール対応をおこなっている。

2) 透析センターの完全2クール制への貢献

透析センターは5月から火・木・土の午後の透析を開始し、完全2クール制となった。透析の患者管理、業務について医師看護師と連携を図り、治療数増加へ貢献している。特殊血液浄化についても例年通り、腹水濾過濃縮や血漿交換、持続血液透析濾過、血漿交換、エンドトキシン吸着療法について緊急依頼に迅速に対応している。

3) バンクドナーを含めた末梢血幹細胞業務

血液内科依頼となる末梢血幹細胞採取や、骨髓濃縮処理を行っていたが、今年度からドナー患者からの採取業務も対応することとなった。

4) 手術室・補助循環業務

手術室では心臓外科手術、自己血回収システムの操作、トラブル対応等に従事した。補助人工心臓管理認定士が中心となり体外式補助人工心臓(VAD)についてはリハビリや検査などの移動時に同行し、安全な管理ができるようにや、患者、スタッフへの教育につとめている。植込型補助人工心臓についても、患者や家族への機器トレーニングや看護師機器管理教育をおこない、適正管理に貢献した。VAD外来では看護師と共に、状態管理をおこない、毎日定期連絡で常に患者の変化に

対応している。

5) 血管撮影室・ハイブリット室業務

循環器内科依頼である心臓カテーテル業務にもなるカテーテル検査、血管内超音波(IVUS)操作、ロータブレータ、体外式ペースメーカーについて医師の指示の下、対応。新業務として、光干渉断層法OCTの操作や肺静脈隔離術(PVI)における呼吸器や麻酔深度測定装置(BIS)対応を開始。TAVI時にはME3名以上従事させている。

6) MEセンター業務

中央管理機器の適正管理と修理対応。院内修理品を増やし、院外修理時についても事務と連携し適正修理が行われるようにサポートしている。

7) 特殊業務

循環器科依頼の和温療法、消化器内科依頼のラジオ波焼灼術、神経内科依頼の呼吸器装着患者の転院時の搬送同行など他科からの緊急依頼について適正に対応している。

3 研修・教育活動

第54回 人工臓器学会 鳥取

2017年9月 菅原美希：「当院における体外式VADの日常管理と課題点

〈実習〉東京工科大学 臨床工学科4名

〈院内研修〉医療機器等について 計65回開催

4 その他

主任試験に新谷剛・和田智至合格。

雑誌掲載：高岡祐子Phase3「部門別マネジメントのツボ」6月～9月連載

臨床工学科業務実績件数

業務内容／年度	27年度	28年度	29年度
総件数	4655	3804	5052
透析関連			
入院透析	2063	2202	3108
外来透析	2592	1602	1944
腹水濾過	8	1	4
幹細胞採取・骨髓濃縮	10	12	16
手術関連			
心臓外科症例	116	103	84
TAVI		7	21
自己血回収術	90	73	58
特治関連			
体外式VAD(述日数)	164	681	359
植込型VAD(述日数)	0	595	1235
PCPS・ECMO	29	121	209
血液浄化	520	615	423
心臓カテーテル	504	593	826
ラジオ波焼灼術	9	17	11
和温療法	10	41	14
呼吸器使用者(日数)	3654	3545	3354

1 設置の目的

認知症支援推進センターは、東京都から委託を受け、都内全体の認知症ケアに携わる医療専門職等の認知症対応力の向上を図るための研修の拠点として設置したものである。(平成27年4月1日設置、3年度目)

2 人員体制

〈医師〉栗田圭一（センター長、研究所部長）
 〈常勤〉畠山啓（精神保健福祉士・社会福祉士）
 宮前史子（研究員）
 岩本貴子（事務）
 岩田裕香（事務）

〈非常勤・その他〉事務等

※島しょ地域の認知症対応力向上研修の実施、その他必要に応じて認知症疾患医療センターの職員等と連携して実施した。

3 活動内容・実績

(1) 研修会の開催

- ① 認知症サポート医フォローアップ研修
 認知症の診断・治療・ケア・連携等に関する最新知識の講義、対応困難事例の検討などの実践的な研修を実施した。

開催日	研修内容	受講者数
7月29日	認知症医療の専門家に望むこと他	197名
9月9日	認知症診療と高齢者の総合機能評価他	165名
12月17日	認知症初期集中支援チームにおける認知症サポート医の役割他	158名
2月17日	認知症の医療と身体疾患の管理他	132名

- ② 認知症疾患医療センター相談員研修
 認知症疾患医療センターの相談員として求められる資質（相談業務にあたっての必要な知識、アウトリーチ活動にあたっての留意点、困難事例、地域連携に関する意見交換等）向上のための実践的な研修を実施した。

開催日	研修内容	受講者数
11月17日	相談業務にあたっての留意点、困難事例のグループ討議等 講義：3題（アセスメント等） 事例検討・講義（演習）：選択制事例（尿臭による住民苦情他2題） 講義（演習）（福祉制度他2題）	69名

- ③ 認知症支援コーディネーター研修

認知症支援コーディネーターとして求められる資質（診断・治療・ケア等の知識・アセスメント力・連携等）向上のための実践的な研修を実施した。

開催日	研修内容	受講者数
8月28日	認知症支援のコーディネーション（グループワーク含む。）他	180名
1月19日	認知症の人の家族介護者の支援のあり方と社会資源（グループワーク含む。）他	175名

- ④ 島しょ地域の認知症対応力向上研修

島しょ地域における認知症の人と家族を支える体制作りを進めるため、住民、介護・医療・行政専門職を対象に、各島の地域特性に応じた研修及び初期集中支援チーム員研修・テストを実施した。

訪問日	訪問先	研修内容及訪問者
5月8日 ～ 5月13日	小笠原村	・DASC ・介護者の心理と介護うつ予防 ・認知症の人へのケアとサポートの基本 ・その他事例検討会・初期集中支援チーム員研修等 （訪問者：医師外4名）
9月27日 ～ 9月28日	利島村	・回想法体験講座 ・介護者の心理と介護うつ予防他 ・その他事例検討会等 （訪問者：医師外4名）
11月8日 ～ 11月9日	御蔵島村	・DASC ・その他事例検討会・初期集中支援チーム員研修等 （訪問者：医師外2名）
12月7日 ～ 12月8日	青ヶ島村	・認知症はじめて講座 ・その他よろず相談会等 （訪問者：医師外2名）
1月11日 ～ 1月12日	神津島村	・DASC ・その他事例検討会・初期集中支援チーム員研修等 （訪問者：医師外3名）

- ⑤ 看護師認知症対応力向上研修Ⅱ【新規事業】
 病院に勤務する指導的役割の看護職員として必要な個々の認知症の特徴や症状に対する実践的な対応等の取得に資する研修を実施した。

開催日	研修内容	修了者数
7月17日	・認知症ケアに関する知識	215名
9月3日	・認知症の退院調整と地域連携	216名
11月28日	・認知症のチームケアと情報共有 ・事例・グループワーク 認知症患者の尊厳を守るためのチームケア推進他2題	120名

(2) 認知症疾患医療センター運営事業等の評価検討の実施（会議の開催）

① かかりつけ医・認知症サポート医フォローアップ研修ワーキンググループ

平成29年度に地域拠点型認知症疾患医療センターが実施した「東京都かかりつけ医認知症対応力向上研修」及び平成29年度に認知症支援推進センターが実施した「東京都認知症サポート医等フォローアップ研修」の評価検証並びに平成30年度研修計画の検討を行う会議を開催した。

開催日	委員構成	出席者数
2月7日	学識経験者（1名） 関係団体（2名） 拠点型認知症疾患医療センター（12名） 計15名	13名

② 看護師認知症対応力向上研修ワーキンググループ

平成29年度の東京都における看護師向けの認知症対応力向上研修の評価検証並びに平成30年度の東京都における看護師向けの認知症対応力向上研修の検討を行う会議を開催した。

開催日	委員構成	出席者数
2月27日	関係団体（1名） 拠点型認知症疾患医療センター（12名） 計13名	13名

③ 認知症多職種協働研修ワーキンググループ

平成29年度の東京都認知症多職種協働研修の評価検証並びに平成30年度の東京都における認知症多職種協働研修の検討を行う会議を予定したが、降雪により中止した。

開催予定日	委員構成	
1月23日	関係団体（1名） 拠点型認知症疾患医療センター（12名） 計13名	中止

④ 各種研修テキストの増刷・管理

地域拠点型認知症疾患医療センターの研修に使用するテキストの増刷・管理及び配布を行った。

<研修テキストの増刷>

- ・かかりつけ医認知症対応力向上研修 1,000部
- ・看護師認知症対応力向上研修 2,000部
- ・認知症多職種協働研修 800部

(3) 認知症疾患医療センター運営事業等の評価検討の実施

- ① 平成28年度の認知症支援コーディネーター及び認知症アウトリーチチームの活動実績を分析し、今後の役割について評価結果をまとめた報告書を作成した。
- ② 認知症コーディネーターの月別実績報告の分析を行った。
- ③ 認知症アウトリーチチームが訪問支援を行った際の訪問台帳の分析を行った。
- ④ 認知症疾患医療センターの月別実績報告の分析を行った。

(4) その他の取組み

- ① 都における医療従事者向けの認知症対応力向上研修について、平成30年度以降の検討を都と協力して実施した。
- ② 関係団体等が実施する研修への協力を行った。
- ③ 認知症疾患医療センター相談員の情報交換ツールの運用及び管理を行った。

1 設置目的

認知症疾患医療センターは、東京都から平成24年2月9日付で指定を受け、二次医療圏毎に1ヶ所設置される地域拠点型認知症疾患医療センターであり、区西北部（豊島区・北区・板橋区・練馬区）を主な活動圏域として設置したものである。平成29年4月1日付で指定の更新（4ヵ年）を行い、6年目を迎えたところである。

本事業は、保健医療・介護機関等と連携を図りながら、認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、身体合併症と行動・心理症状への対応、専門医療相談等を実施するとともに、地域の保健医療・介護関係者への研修等を行うことにより、地域において認知症について進行予防から地域生活の維持などに必要となる医療を提供できる機能体制の構築を図ることを目的としている。

2 人員体制

- 〈医師〉栗田圭一（センター長、研究所部長）
古田光（副センター長、精神科部長）
- 〈常勤〉畠山啓（認知症支援推進センター本務、
次席/精神保健福祉士・社会福祉士）
齋藤久美子（認知症疾患医療センター専従/
精神保健福祉士・社会福祉士）
白取絹恵（看護部/認知症看護認定看護師）
扇澤史子（精神科次席/臨床心理士）
岡本一枝（精神科主任/臨床心理士）
今村陽子（精神科主任/臨床心理士）
- 〈非常勤〉佐伯恵美（精神保健福祉士）
先崎安津子（社会福祉士）
山口智子（社会福祉士）（平成29年10月まで）
佐々木優子（事務）
- 〈派遣〉三好幸子（事務）

認知症疾患医療センターに設置される認知症専門相談室では、精神保健福祉士（以下「PSW」）専従1名の他、PSW・社会福祉士4名、認知症看護認定看護師1名、専任を含む臨床心理士（以下「CP」）3名、事務職1名で相談業務を行い、関係機関との連携や、連携協議会の運営等については、認知症支援推進センターを事務局とし対応している。もの忘れ外来の受診前相談とインターク、近隣医療機関からの受診・入院相談も積極的に対応した。また、全入院患者に対し地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート（DASC）を実施した。派遣社員1名を採用して、配布・回

収、集計を行った。

3 活動内容・実績

（1）専門外来
もの忘れ外来のページを参照のこと。

（2）専門医療相談

もの忘れ外来受診を希望する患者家族や未受診・他医療機関に通院する患者家族に対し、相談内容に応じて介護相談や心理相談、社会資源の情報提供等を行った。実績（いずれも件数・人数は述べ）については下記のとおりである。

相談件数は、16,025件（電話相談：11,249件、面接相談：3,873件、訪問26件、その他877件）、相談内容の内訳は、受診・受療に関わる援助5,734件と最も多く、続いて転院・入所に关わる援助5,718件、関係機関との連絡調整に関わる援助が4,074件と続いている。また、区高齢者主管課や地域包括支援センター等、地域の医療機関から緊急性が高いと判断された相談についても、救急当番医と連携し、適切な対応を行った。関係機関別の連携内訳は、区高齢者主管課等（地域包括支援センター含む）（891件）、ケアマネジャー（860件）、精神科病院（676件）、介護保険施設（520件）、一般病院（344件）、かかりつけ医（108件）の順になっている。

（3）認知症疾患医療・介護連携協議会の開催

地域の認知症疾患に関する医療及び介護の連携体制強化のために認知症疾患医療・介護連携協議会を組織し開催した。主に認知症疾患医療センターの実績報告、アウトリーチ事業及び各研修の説明と報告、国と都の動向の情報提供、各区医師会及び行政機関からの認知症対策の取り組みの報告など情報交換及びかかりつけ医認知症研修の内容検討など3回開催した。

開催日	内容	主な参加者
7月26日	第1回区西北部認知症疾患医療・介護連携協議会（医療部会）	区医師会代表者及び認知症疾患医療センター代表者等
11月13日	第2回区西北部認知症疾患医療・介護連携協議会（医療部会）	区医師会代表者及び認知症疾患医療センター代表者等
3月9日	第3回区西北部認知症疾患医療・介護連携協議会	区医師会代表者 区高齢者主管課代表職員及び認知症疾患医療センター代表者等

(4) 普及啓発

認知症疾患医療センターの周知活動や認知症に関する普及啓発を行った。関係機関及び地域住民に対して、事業の周知を目的に作成したリーフレットや都作成のパンフレットを配布した。また、家族介護者（ケアラー）支援として、①家族教室（心理教育）、②家族会（相互交流、ピアカウンセリング）の提供を行った。

○家族教室「認知症はじめて講座」の開催

「病気の知識と治療編」と「ケア・サポート編」の2つの講座を毎月開催した。もの忘れ外来や精神科等に受診し、認知症と診断された患者・患者家族が参加するもので、前者は精神科医師による講義、後者はコメディカルスタッフが、認知症に対するケアと利用できるサービスについて講義を行っている。年24回開催し、参加者総数は、189人であった。

○当事者の会「私たちが話そう会」の開催

認知症あるいはMCIと診断された方が、認知症と共に生きる上で抱える生活上の困りごとや悩みを相談できるサポートグループとして、「私たちが話そう会」を毎月開催した。予定管理や探し物、服薬管理等の生活障害や記憶障害に起因する不安や悩みをグループで共有し、心理職から具体的な助言などを行っている。年12回開催し、参加者総数は、40人であった。

○家族交流会の開催

もの忘れ外来・精神科・神経内科等を受診している患者家族を対象に、医師等の講義と交流会を開催した。参加者総数は、76人であった。

開催日	講義内容	担当
4月11日	精神科医にきく認知症Q&A	古田医師
5月9日	介護経験者と語ろう	介護経験者
6月13日	誰でもが抱えている排泄のお話 パート3	野島看護師 白取看護師
7月11日	生活習慣病と認知症－生活習慣病のコントロール－	田村医師
8月8日	介護うつ	岡本CP
9月12日	認知症と食支援	平野歯科医師
10月10日	介護者のリラクゼーション	小幡CP
11月14日	自宅でできる転倒予防や筋力維持	藤本理学療法士
12月12日	認知症の経過で見られる病気や気をつける症状	仁科医師
1月9日	もしものときに役立つ、医療とお金のまめ知識	齋藤PSW
2月13日	高齢者の低栄養の見つけ方	羽根田管理栄養士
3月13日	暮らしの困りごとをへらす	今村CP

○院内勉強会の開催

専門的な知識・経験を有する医師・看護師等の育成を目指し、院内の研修会を開催した。参加総数は、178人であった。

開催日	講義内容
7月4日	認知症をもつ患者さんとのコミュニケーションを考えよう！
10月3日	DASC-21を知って認知症ケアに活かそう
12月5日	せん妄の評価、予防ケアについて
3月6日	せん妄の知識と薬物療法～せん妄と薬、ケアの関係について学ぼう～

○かかりつけ医認知症研修

高齢者が日頃より受診する診療所等の主治医（かかりつけ医）に対し、適切な認知症診療の知識・技術や患者とその家族を支える知識と方法の習得と支援体制の構築を図るための研修会を、圏域4区医師会、地域連携型認知症疾患医療センター協力の元に開催した。

開催日	内容他	修了者数
12月1日	かかりつけ医の役割・診断治療・連携と制度（講義）、症例のグループワーク	46名
1月20日		33名
1月31日		57名
2月1日		32名

○認知症多職種協働研修

患者が状態に応じて適切な医療・介護・福祉の支援を受けることができるよう、認知症の人の支援に携わる専門職や行政関係者を対象として、認知症ケアに関わる多様な職種や支援者の視点を相互に理解し、認知症の人が必要な支援を役割分担し、かつ統合的に提供できるようにすることを学ぶため板橋区板橋地域を対象とした研修会を開催した。ファシリテーターとして、同地域の地域包括支援センター職員が参加した。また、豊島区西部地域を対象とした豊島区認知症多職種協働研修（12月12日開催）においては、当センターが運営をサポートした。

開催日	内容他	修了者数
12月9日	認知症の地域包括ケア多職種協働の重要性（講義）多職種協働支援の視点について（グループワーク）	40名

○看護師認知症対応力向上研修

急性期医療に関わる一般病院の看護師が、入院から退院後の在宅生活まで視野に入れた認知症ケアについての知識を学ぶことで、認知症の人が病院で治療を受けること、退院後にもとの生活に戻

ることができることを促進するために研修会を開催した。講師は、内容によって各職種が担当し、グループワークでは、認知症専門相談室のスタッフがファシリテーターとして参加した。

開催日	内容他	修了者数
7月21日	認知症に関する知識、認知症ケアに関する知識、認知症の人の在宅生活に関する知識	71名
10月20日	知識	50名

○認知症地域カンファランス

平成24年度より、実際に今困っている事例を挙げて多職種で意見交換を行う認知症地域カンファランスを開催している。参加者は、アウトリーチ事業を運営する板橋区・豊島区の行政関係職員、地域包括支援センター職員、周辺の精神科病床を有する医療機関PSW等が中心であった。

開催日	内容他	参加者数
5月10日	糖尿病を患う認知症独居高齢者の支援体制づくりについて	30名
7月12日	地域の負担感が増し、本人、家族、地域の関係性の再構築を求められているケース	36名
9月13日	介護抵抗感が強くサービス導入に至っておらず、本人家族との関係性構築に難渋しているアルツハイマー型認知症のケース	32名
11月8日	在宅生活継続を希望する本人と介護疲弊し入院を希望する家族との間の調整が求められる混合型認知症のケース	32名
1月10日	浪費と自動車運転を続けており地域が対応に苦慮しているアルツハイマー型認知症のケース	35名
3月14日	生活支援を要するが本人の抵抗感が強く生活環境が悪化しているアルツハイマー型認知症が疑われるケース	30名

○講師等派遣

板橋区や東京都福祉保健財団、各区医師会等からの依頼により、研修会等へ講師派遣を行った。区西北部医療圏内の会議・研修会等への参加件数は、20件であった。

(5) 認知症アウトリーチチーム事業

平成25年度よりモデル事業として開始し、平成27年度より認知症疾患医療センター事業に移行された。区市町村が配置する認知症支援コーディネーターと、認知症疾患医療センター等の医療機関に配置する認知症アウトリーチチームが協働して、認知症の疑いのある人を把握・訪問し、状態に応じて適切な医療・介護サービスに結びつける等の

取り組みを行っている。区西北部医療圏内の認知症支援コーディネーターを配置する板橋区と豊島区が対象となっている。

対象者7人、訪問回数7回であった。職種別にみると医師1回、PSW7回、CP7回となっている。

医療機関の知識や技術を地域で活かすことでよりよい支援に繋がり、受診困難者が早期に受診することができた。また、未受診患者の家族等に対して、具体的なアドバイスを行うことにより、介護負担が軽減したケースもあった。例年に引き続き、認知症専門相談室スタッフ間でケースカンファレンスを繰り返し行ったことで、どのスタッフでも訪問支援ができる体制を整えた。また、認知症初期集中支援チームのバックアップを目的に、板橋区内の初期集中支援チーム員会議に、スタッフが参加し、チーム員と共に対象者の支援方法等について協議した。

(6) 精神科リエゾンチームの一員として

カンファレンスに参加し、各病棟をラウンドして病棟における認知症ケアの実施状況を把握するとともに患者家族及び病棟職員に対し助言等を行った。詳細は、精神科のページを参照のこと。

(7) 入院患者の認知症日常生活自立度の把握

65歳以上の入院患者に対し問診票（DASC）を配布・回収を行った。12,039枚配布し、回収率95%（11,379枚回収）であった。その内、認知症日常生活自立度Ⅲ以上は2,741件、同Ⅱは1,135件であった。同Ⅲ以上の患者は、認知症ケア加算の対象候補として、精神科リエゾンチーム及び各病棟へ情報の提供を行った。多職種間でその情報を共有することで、個々の状態に合ったケアの提供に繋がった。

(8) その他

葛しよ地域の認知症対応力向上に向けた支援を認知症支援推進センターと連携して実施した。詳細は、認知症支援推進センターを参照のこと。

(認知症疾患医療センター係長 畠山啓)

1 人員体制

〈部長〉森 聖二郎
 〈シニア〉佐藤 裕子
 〈非常勤研究員〉周 赫英
 〈非常勤職員〉福島 信子、山本 明子、
 片貝 悦子

2 診療研究活動・実績

高齢者の運動器疾患は認知症とも密接な因果関係があるにも関わらず、定義と診断法の科学的根拠は乏しく、発症メカニズムも未解明であることから、当センターでは主要テーマとして骨・筋疾患予防（発症予防、早期診断・治療、転倒・骨折予防）に有効なオーダーメイド医療の実現化を目指した研究を行っている。具体的には以下に述べるプロジェクトを推進している。

（1）疾患関連遺伝子研究-1：バイオバンク・ジャパン構築

平成15年度から29年度にかけて「オーダーメイド医療の実現プログラム」の協力医療機関として「バイオバンクの構築と臨床情報データベース化－DNAサンプルおよび臨床情報の収集－」を実施した（中核機関：東京大学医科学研究所）。本プログラムで当センターは「骨粗鬆症」を疾患テーマとして担当し、現在までに報告されている74種類の骨粗鬆症関連遺伝子上に存在する979種類のSNP（非同義置換SNPが858種類、サイレントSNPが121種類）の中から、バイオバンク・ジャパンに登録され脊椎骨折情報を有する441例の女性を対象に、脊椎骨折罹患率と有意に関連する4 SNPsを選定し、遺伝子多型リスクスコア（genetic risk score; GRS）を開発した。本研究は論文化され（Bone Rep 5: 168-172, 2016）、第6回アジア太平洋骨粗鬆症会議（Singapore, November 4-6, 2016）において口頭発表した演題「GENETIC RISK SCORE BASED ON THE PREVALENCE OF VERTEBRAL FRACTURE IN JAPANESE WOMEN WITH OSTEOPOROSIS」は最優秀口演賞（The Best Oral Communication Award）を受賞した。また、バイオバンク・ジャパン臨床情報解析研究グループの研究成果として14編の論文がJ. Epidemiolにアクセプトされ（J Epidemiol 27: S2-S106, 2017）、BioBank Japan Cooperative Hospital Groupの一員として共著者に加わった。

（2）疾患関連遺伝子研究-2：骨折リスク予測システム開発

本プロジェクトは中期計画第一期（平成21～24年度）から第二期（平成25～29年度）にかけて取り組んできた主要プロジェクトである。第一期では骨粗鬆症関連遺伝子の探索が主要テーマであり、骨密度を指標にした候補遺伝子アプローチによって7種類の既知遺伝子（THSD4, THSD7A, CA8, CA10, PBX1, TGFB1, ER2）上に存在する遺伝子多型と骨粗鬆症との関連を明らかにした。並行して我が国では初となるGWAS（genome wide association study）を、バイオバンク・ジャパン試料を用いて実施し、骨粗鬆症新規遺伝子としてFONGのクローニングに成功した。この間、国内外でも活発に骨粗鬆症関連遺伝子の探索が進んだため、第二期ではその臨床応用を主要テーマに設定した。まずは当センター連続剖検例のDNAサンプルを用いて、我が国の高齢者で脊椎骨折に強く関連するSNPとしてTGFB1, FONG, THSD7Aを同定、大腿骨骨折に強く関連する遺伝子としてER2, WRNを同定した。さらにバイオバンク・ジャパン試料を用いて、現在までに報告されている70種類以上の骨粗鬆症関連遺伝子上に存在する約1000種類の非同義置換SNPの中から、脊椎骨折ならびに大腿骨骨折に強く関連するSNPを4種類ずつ選定し、それらのSNPを用いたGRS（genetic risk score）を開発した（Bone Rep 5: 168-172, 2016; J Bone Miner Metab 34: 685-691, 2016）。現時点では横断研究のレベルであるが、現在、バイオバンク・ジャパンに登録された骨粗鬆症患者に付随する縦断データを活用して、これらのGRSの骨折予測能力の検証を実施している。

（3）疾患関連遺伝子研究-3：ワーファリン維持量決定システム開発

文科省科学技術試験研究委託事業「がん薬物療法の個別適正化プログラム」から資金を得て、平成23～27年度（症例数が足りず研究期間を2年間延長）の5年間の計画で、CYP2C9及びVKORC1の遺伝子型および臨床情報を用いた「ワルファリン維持用量予測式」の臨床における有用性を評価する前向き全国研究を実施した。ちょうど新規抗凝固薬（NOAC）が臨床導入される時期と重なり、登録症例が当初予定1000例から大幅に落ち込み、最終的に200例に届かなかった。結果として本予測式で決定したワーファリン維持用量を処方することにより、目標INR到達率が有意に改善し、かつ

到達までの日数が有意に短縮するというデータは得られたものの、症例数が足りず論文化するには至らなかった。

(4) 疾患関連遺伝子研究-4: Geriatric E-WAS

当センター連続剖検2400例のDNAサンプルを用いて、高齢者に見られる各種疾患について全エクソン非同義置換遺伝子多型の関連解析を行うことを目的に、平成23年度からセンター内外の研究施設からなるコンソーシアムを設立した。老化制御研究チーム（現在は当センター臨床検査科）の田中雅嗣先生をリーダーとして、内部からは病理診断科、老年病理学（高齢者がん）、高齢者ブレインバンク、外部からは東京医科歯科大学、三重大学、埼玉医科大学、自治医科大学、慶応大学、G&Gサイエンス株式会社が参加した。平成28年度は、13種類の主要な生活習慣病について疾患感受性遺伝子およびSNPを同定するため、合計16,000例についてエクソームアレイの解析を行った。その成果として、心筋梗塞、高血圧、心房細動、大動脈瘤、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血、慢性腎臓病・高尿酸血症、肥満・メタボリックシンドローム、2型糖尿病、脂質異常症に関する9論文がアクセプトされた（Oncotarget 8: 80492-80505, 2017; Mol Med Rep 16: 5823-5832, 2017; Oncotarget 8: 45259-45273, 2017; Oncotarget 8: 43068-43079, 2017; Oncotarget 8: 38950-38961, 2017; Oncotarget 8: 39296-39308, 2017; Int J Mol Med 39: 1477-1491, 2017; Int J Mol Med 39: 1091-1100, 2017; Oncotarget 8: 33527-33535, 2017）。さらに平成29年度は、400例以上の百寿者DNAサンプルを用いた関連解析によって、長寿遺伝子に関する2論文がアクセプトされた（J Gerontol A Biol Sci Med Sci 72: 309-318, 2017; J Gerontol A Biol Sci Med Sci 73: 588-595, 2018）。

(5) 血清バイオマーカー研究：血清マイオカイン測定の実用性の確立

骨粗鬆症・サルコペニア・フレイルの予後予測への臨床応用を目指して、神経筋シナプス活動を反映する新規バイオマーカーとして期待される血中分泌型MuSKの機能的意義を明らかにする研究を実施した。平成28年度は、ウサギモノクローナル抗体を使用した第2世代の血中分泌型MuSK測定系を確立し、マウスモノクローナル抗体を使用した第1世代で測定したサンプルの再検討を行った。その結果、第1世代で問題となっていたゼロデータが解消され、また測定結果は第1世代と同様の傾向を示しており、さらに測定感度が向上したため、統計学的な有意差がより明確に示される

ようになった。しかしながら、高齢者では年齢と血清MuSK値との間に有意な正相関が認められることが明らかとなり、草津コホートサンプルならびにバイオバンク・ジャパン骨粗鬆症サンプルを用いた解析では、骨格筋量、筋力、骨密度、フレイル予後、脊椎骨折などの指標との相関関係が、年齢補正すると消失することが明らかとなった。そこで平成29年度は、国立栄養研サンプルならびに当センター運動・栄養介入コホートのサンプルを用いて改めて解析したところ、血清MuSK値は運動介入で有意に増加すること、また血清MuSK値は日常身体活動量、歩数、最大酸素消費量と有意に正相関することが明らかとなった。以上の研究によって、血清MuSK値は何らかの骨格筋機能を反映する指標となりうる可能性は示された。一方で、高齢者と非高齢者においてはバイオマーカーとしての変動の意義が異なることがわかり、臨床導入を目指して次期中期計画においても臨床研究と基礎研究の両輪で研究を継続する必要がある。

(6) 早老症プロジェクト－早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究－

平成27年度～29年度にかけて、「早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究」という研究課題で厚労科研難治性疾患等政策研究事業が採択された。同時に「早老症ウェルナー症候群の全国調査と症例登録システム構築によるエビデンスの創生」という研究課題でAMED難治性疾患実用化研究事業に採択された。当研究班では「ウェルナー症候群の診断・診療ガイドライン2012年版」を発行しているが、現在ガイドライン2018年版の発行に向けて改訂作業に入っている。また2018年2月16日～18日に我が国で初となる早老症候群に関する国際会議「International Meeting on RECQ Helicases and Related Diseases 2018」を開催した。

3 その他

当センターは軸足を病院部門に置き、研究所部門（老年病態研究チーム）を兼務するという研究スタイルをとっており、両者の橋渡し研究を推進することを主たる職責としている。

当センターが管轄する「オーダーメイド医療事務局」には4名のメディカル・コーディネーターが勤務しており、各種臨床研究に伴うインフォームド・コンセント取得と臨床情報収集・管理を行っている。また旧病院研究室は、新施設移転に伴い正式に「臨床研究推進センター」の下部組織に組み入れられ、管轄する研究室では当センターの研究業務を遂行すると同時に、現在、病理診断科、神経内科、皮膚科、歯科口腔外科、糖尿病・代謝・

内分泌内科の医師が研究業務を遂行している。なお平成29年度は、Aging、Clinica Chimica Acta、European Journal of Clinical Investigation、Journal of Bone and Mineral Metabolism、Journal of Atherosclerosis and Thrombosis、Geriatrics and Gerontology International、日本老年医学会雑誌、日本臨床栄養学会雑誌から依頼されて投稿論文の査読を行った。

1 人員体制

〈センター長〉原田和昌（兼務）
 〈副センター長〉山田浩和（兼務）
 〈センタースタッフ〉吉岡まみ（兼務）
 田村光世（兼務）
 嶋村眞壽美
 橋本美和
 遠藤洋美
 大嶋優江（非常勤）
 土屋公子（非常勤）
 野口一美（非常勤）

今年度は常勤事務職員の兼務により、自立した組織運営に近づいた。また、CRCは非常勤職員を含め4名となり、より多くの研究支援が可能となった。

2 活動内容・実績

平成29年2月28日に「個人情報の保護に関する法律」の改正に伴い「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が改正された。また、臨床研究に関する不適正事案が続けて発生したこともあり、臨床研究に係る制度の在り方に関する検討がなされ、一定の範囲の臨床研究には法規制が必要とされた。これにより、平成29年4月14日に臨床研究法が公布された。こうした国の動きに対応するため、倫理委員会の審査機能を充実させるべく、新たな外部委員を加え、より適切に判断できる体制にした。さらに、厚生労働大臣が認定する臨床研究審査委員会を設置するため、規程の整備を行った。研究者に対しては、研究倫理研修を開催し、継続して教育・研修が受講できる体制を整備した。さらに、最新の国の動向の共有化のために、その分野の専門家を招聘し、研修を行った。

臨床試験審査委員会は、改めて治験審査委員会と倫理委員会に分割して実施することとした。これは臨床研究法の施行を考慮した結果である。また、研究倫理と病院倫理を明確にすべく、病院倫理に関する規程を整備し、生命倫理審査委員会、未承認新規医薬品等評価委員会、高難度新規医療技術評価委員会を設置した。

治験・受託研究等支援実績

- (1) 治験実施件数 18件
 (新規受託件数：4件、継続件数：14件)
 (2) 受託研究実施件数 83件

(新規受託件数：21件、継続件数：62件)
 (3) 研究実施件数 283件
 (新規実施件数：59件、継続件数：224件)

治験審査委員会審議件数

【治験】新規審査：4件、継続審査：367件
 その他（報告等）：111件
 【受託研究】迅速審査：21件

倫理委員会審議件数

新規審査：59件（迅速審査含）
 継続審査：141件（迅速審査含）
 その他（報告等）：122件

3 研修・教育活動

倫理指針では、研究の実施に先立ち、教育・研修を受けることが義務付けられている。このため、研究倫理研修を定期的に開催している。

平成29年度 第1回 研究倫理研修

【日時】平成29年4月11日 17：30～18：30

【講師】東京大学医学部附属病院
 臨床研究支援センター
 センター長 山崎 力 先生

【演題】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について

平成29年度 第2回 研究倫理研修

【日時】平成29年7月12日 17：30～18：30

【講師】国立国際医療研究センター
 臨床研究センターデータサイエンス部
 部長 三上 礼子 先生

【演題】

改正倫理指針について

平成29年度 第3回 研究倫理研修

【日時】平成29年9月13日 17：30～18：30

【講師】新星総合法律事務所
 弁護士 児玉 安司 先生

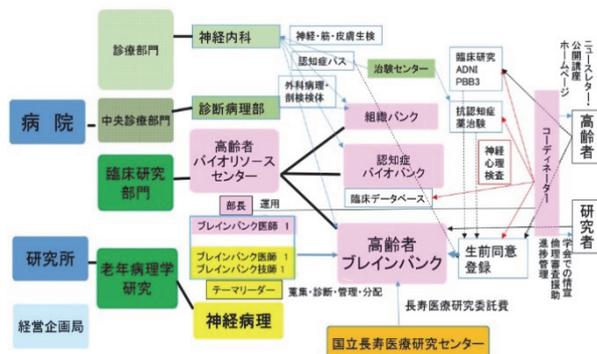
【演題】

臨床研究法について

1 人員体制

〈部長〉村山繁雄（兼務 神経内科部長）
 〈医長〉藤ヶ崎純子（兼務 老年病理学研究チーム研究副部長）
 〈医師〉松原知康
 〈臨床心理士〉小幡真希
 〈臨床検査技師〉石橋久美子

この他、非常勤研究員または兼務として約10名が活動している。バイオリソースセンターは、神経内科、研究所神経病理学テーマとの連携により、活動を行っている。



2 診療活動・実績

当センターにおける開頭剖検に加わり、半脳凍結を原則として脳リソースの蓄積を拡充した。高齢者バイオリソースセンターでは、脳リソースの全てに対して神経病理診断を行っており、世界的にも高い評価を得ている。蓄積した脳リソースは高齢者ブレインバンクを通じて医学研究のために役立てられる。高齢者ブレインバンクでは、昨年度と同様、新学術コホート・生体試料支援プラットフォーム、(<http://cohort.umin.jp/>)と当センターブレインバンク (<http://www.mci.gr.jp/brainbank/>) の2箇所のwebサイトを通じて、リソース提供を希望する研究者から申請計画の受付を行い、脳リソースを主とする試料提供を行った。申請計画は、外部学術委員による学術審査、各施設における倫理審査を経た後、Skypeを用いたネットカンファレンスを行うことにより、リソース利用希望者の要望に沿った、より有効な形での提供が実現された。平成29年度のバイオリソース共同研究数(高齢者ブレインバンク含む)は42件であった。論文発表数は805、学会発表数は1,933に達した。

剖検の際には、全身臓器の部分凍結も貴重な試料となるため、今年度も継続的に蒐集を行った。

髄液についても蓄積を継続し、認知症に関連する検査結果と紐付けしてデータベース化することで、バイオバンクの構築準備を進めた。

高齢者ブレインバンク事前登録のコーディネーター部門を強化するために、臨床心理士（非常勤）を雇用して体制の充実を図った。ドナー登録（事前登録）希望者にはコーディネーターを介して説明・同意取得が行われる。今年度は、44件の高齢者ブレインバンク新規登録数があった。

さらに、ブレインバンク事業を全国規模に拡大するため、高齢者ブレインバンクを中核とするブレインバンクネットワークの構築を進めており、大阪大学、徳島大学を始め、日本の各地に拠点を形成するために出張支援を行った。

3 研修・教育活動

高齢者ブレインバンクと共同で毎週、剖検例についてブレインカッティングおよび臨床病理検討会（CPC）を行い、若手医師の診療レベルの向上と神経病理学的解釈のトレーニングを図っている。また、連携大学院生および研究生を多数受け入れ随時、教育的指導を行っている。

日本神経学会総会・関東地方会、日本神経病理学会総会・全国地方会、日本認知症学会、運動障害学会、自律神経学会、神経感染症学会、日本神経科学会、TOBIRA等において、高齢者バイオリソースセンターの活動報告、リソース研究発表を行い、NPO、POを含む研究者教育・広報活動を行った。

4 その他

国際神経病理学会（2018年、東京）に連携させて、国際ブレインバンクシンポジウム（海外研究者を招聘）の開催を企画している。

1 人員体制

〈部長〉原田和昌副院長

〈副部長〉大淵修一（研究所）

〈医員〉杉江正光

〈非常勤〉高橋哲也（順天堂大学保健医療学部教授）

奈良雄那（日本健康寿命延伸協会）

2 診療活動・実績

高齢者健康増進センターは平成23、24年度、「経済産業省 医療介護周辺サービス産業創出調査事業」への参画を通して、地域在住高齢者を対象に健康増進の取り組みを実施し、平成25年の日本再興戦略:戦略市場創造プラン『国民の「健康寿命」の延伸』の施策に合致した健康寿命の延伸事業を行っている。施策に基づき健康寿命延伸産業の「創出と育成」を実施し、健康寿命延伸効果を可視化する評価法を企業と共同特許申請を終え、現在も共同研究を継続実施している。実施モデルはフレイル高齢者を対象に「有酸素及びレジスタンス運動」「遠赤外線低温サウナ」「高齢者健康寿命総合評価（特許第6281690号）」を実施。「有酸素及びレジスタンス運動」「遠赤外線低温サウナ」共に健康寿命延伸効果が認められ、また一人当たり26万/年の社会保障費抑制効果も認められ、様々な学会にてその効果を報告し、更にはメディアにも取り上げられた。本事業のニーズは非常に高く、新規参加を希望される高齢者が続出しているが、運営日数の制限から既に天井効果を示し、現在新規参加は中止として運営している。本事業は、内閣官房健康医療戦略室や厚労省、経産省、また神奈川県庁や広島県呉市、東京都東村山市、群馬県南牧村を始めとする自治体や北海道釧路市、埼玉県三郷市、熊本県熊本市などの医療機関、更にはマレーシア、韓国からの視察も受け入れている。

3 研修・教育活動

健康増進センターは毎週月・火・木に運営を行っており、民間事業者と委託型運営における「安全性・効率化・マニュアルの最適化」、また健康増進センタープログラムに関する「介入効果・研究・解析・新規開発共同研究」に関する勉強会及びカンファレンスを実施している。また、毎月1回、健康増進センター利用者を対象としたBLS実習を、民間事業者スタッフも含めて、リハビリテーション科小山照幸医師より指導を実施して頂いている。

更には高齢者健康増進センターでは患者主催に

よる「健康増進する友の会」が発足し、フレイル予防に向けた活動だけでなく、食事会、旅行などの活発な患者会（平均年齢80歳）が行われ社会的フレイル対策の一端を担う活動も実施されている。

4 その他

群馬県富岡市の医療機関が本モデルを導入した実績がある。

今後の展望：

1. 利用者の署名活動より1000名の署名が行われ、健康増進センター週5日運営拡張と有料化の実施の希望が表明されている。利用される都民の声に応えるべく有料化の実施と運営の拡張を早々に実施したい。
2. 本モデルは高齢社会を支えるモデルとして注目されており、様々な企業や団体から当高齢者健康増進センターと連携の上、国の補助事業への申請を打診されており、サポート体制を整え協力していきたい。
3. 本モデルの病院HPでの広報普及体制がない現状があり動画で広報普及を行っていただきたい。

（文責：杉江 正光）

1 人員体制

平成28年4月1日より、副院長 黒岩(がん相談支援センター長)、看護部長 黒坂(同副センター長)、MSW 中馬(専従相談員)、看護師 松崎(専任相談員)、MSW 川口(専任相談員)、MSW 瀬川(専任相談員)の6名体制で運用を開始した。また、看護師 最上(がん性疼痛認定看護師)、看護師 岸(化学療法認定看護師)をサポートとして配置。その他薬剤科や歯科衛生士等の協力を得ながら相談支援の充実を図った。

2 診療活動・実績

東京都がん診療連携協力病院として平成28年度4月1日よりがん相談支援センターを開設した。患者・家族のほか、地域住民を対象に、がんに関する治療や療養生活全般、地域の医療機関などについての相談支援、がんに関する情報提供・啓発を行うことを目的としている。

平成29年度相談件数は946件。前年と比較し34件増加。毎月平均78件程度で推移した。相談内容は、緩和ケア相談・不安精神的苦痛・意志決定に関する相談・療養上の相談が上位を占めている。

広報活動は、院内外来エリア・病棟にポスターを掲示。呼吸器内科外来診察室にはリーフレットを設置した。地域住民に向けて、ホームページ掲載、板橋区区報に患者サロン情報の掲載を行った。

がん患者への情報提供や交流の場として、患者サロン「おれんじの会」を2回(7月・3月)開催した。ミニ勉強会と茶話会の2部構成で、7月は薬剤師、3月は歯科衛生士が勉強会の講師を務めた。

3 研修・教育活動

専従・専任相談員、サポートの認定看護師とともに定期的にミーティングを実施し、相談内容の確認やケース相談を行った。

MSW瀬川・川口が国立がん相談員基礎研修(3)を修了した。基礎研修(1)(2)はMSW岩上・曳地が修了した。その他、がん相談員就労支援研修に中馬・曳地が参加した。

4 課題

平成29年度は①院内外来診療との連携、②「おれんじの会」の充実、の2点を中心に取り組んだ。①に関して、がん相談支援センターがどのような役割を担っているのかを院内で引き続き周知が必要な状況である。医師・外来看護師との連携、が

ん相談支援センタースタッフ間の密な情報共有を積極的に実施できる体制構築が喫緊の課題である。今後、広報活動の強化、外来医師に向けた説明会の実施、外来看護師との連携を、具体的に取り組む。

②に関して、平成30年度は3回開催予定。アンケート結果に基づき、患者の生活に根ざした講義内容の工夫、患者同士が語り合える機会の充実が課題である。がん告知後から患者・家族の不安に寄り添えるがん相談支援センターを目指していきたいと考える。

(文責：次席 中馬 かつら)

1 人員体制

〈部長〉黒坂眞理子

〈副看護部長〉荒木芳枝、服部俊夫
工藤明子、柴田薫

平成29年度は、看護師定数473名。採用者数は、新人看護師45名、経験者看護師49名、東京都職員
の派遣解消は30名であった。

4月1日スタート時点での看護師数は465.8名
(都派遣77.8名、固有388名)と欠員スタートとな
った。しかし、4月以降に育児休暇からの復帰や
経験者採用で欠員を解消できた。また、非常勤職
員は、看護師31.8名、看護助手36名で欠員を補うた
めに適宜採用を行った。

看護師退職率は9.01%と昨年度よりやや下降傾
向で、退職理由は「転職」「転居」「介護」「育児専
念」等様々な理由であった。

新人看護師の採用にあたり、看護大学や専門学
校への訪問、合同就職説明会への参加、春・夏の
インターンシップや病院見学の受け入れを地道に
行い、採用に繋げることができた。また、看護部
ホームページの看護師Diaryを更新し、看護部の
活動をアピールした。

2 診療活動・実績

(1) 看護部の目標への取り組み

看護部では、急性期の高齢者専門病院として病
院経営を意識しながら、患者さんから安全・安心、
信頼が得られる質の高い看護の提供を目指した。

目標は「患者満足度の向上」「安全な看護の提供」
「職務満足度の向上」「病院経営の向上」とし、目
標達成に向けて取り組んだ。

患者満足度を向上させるために、治療方針や病
状説明時の患者・家族への支援、認知症やせん妄
患者への対応力向上、多職種協働による早期退院
への支援等に力を入れた。また、患者に安全な看
護ケアを提供するために患者誤認防止と転倒・転
落防止に対する取り組みを強化した。今年度もっ
とも注力した内容は、職務満足度を向上させるた
めに、「魅力ある職場環境の改善」に向けて各部署
で問題点と対策を検討し、課題解決に取り組み一
定の成果を得ることができた。

(2) 看護師定着のための取り組み

前年度より看護部と事務部とでWGを設置して、
看護師定着に向けた改善策について検討した。

4月から業績向上・人材育成に寄与した職員にポ

イントを与え手当が支給されることになった。

また、超過勤務について職員アンケートを実施
した結果を基に検討し、適切に超過勤務が取得で
きるよう考え方を提示した。以上の2点について
導入後アンケートを実施し、一定の効果は得られ
たが、更に課題も出ており今後も取り組みを行う。

3 研修・教育活動

(1) 看護実習の受け入れ

都立看護専門学校1校、看護大学7校の老年看
護学の実習を受け入れ、年間を通して殆どの病棟
で実習指導に尽力した。また、認定看護師教育課
程(認知症看護・慢性心不全看護)や実習指導者
研修等の実習も受け入れた。

平成29年度は、東京都訪問看護教育ステーショ
ン事業の病院研修を7名受け入れ、訪問看護師と
病棟看護師や認定看護師との顔の見える関係が図
れて、今後の連携強化に繋がった。

(2) 各種認定の取得

主な認定取得状況は、3学会合同呼吸療法士2
名、糖尿病療養指導士3名、ストーマリハビリテ
ーション学会認定ストーマサイトマーキング算定
者1名など各診療科の特殊性を考慮し該当する教
育機関・学会に派遣し認定を取得できた。

(3) 学会発表

日本看護学会や老年看護学会などの学会にて、
看護研究や委員会活動のまとめを17件発表した。

●委員会活動

1. 教育委員会

活動内容: キャリアラダーに基づき、院内研修
を企画・運営した。看護部運営会議における研修
サマリーによる研修状況の報告、OJTと連動し研
修の成果を活かすようにした。

また、経験者採用職員の定着に向けて「1ヶ月
フォローアップ研修」を実施した。

(1) 新人看護職員臨床研修

新人看護職員に対して、入職後3ヶ月間の「新
人看護職員臨床研修」を実施した。病棟では、プ
リセプターおよび教育担当者が中心となり、病棟
全体で新人を育成する体制を整備し実践した。集
合研修では、基本的な技術の習得に加えメンタル
チェックや新人同士で現状や思いを共有するサポ
ートカンファレンスを4回実施した。

新人看護師の離職率は、3.7%であった。

(2) 院内研修

ベーシックコースは、認定看護師や看護記録委

員等を講師とし、研修を企画し、円滑な研修の運営を図った。研修後サマリーにて、研修状況を情報共有すると共にOJTの強化点を明示した。

ジェネラルコースでは、「リーダーシップ」「看護倫理」「実地指導者」研修など外部講師による知識の付与を図った。

看護研究では研究的視点の醸成・知識付与と研究活動を支援し、学会等での発表につなげた。

安全管理や感染対策研修は、短時間で効果の高い演習を取り入れた研修とした。

成果：キャリアラダーの臨床実践能力の到達目標に沿って、レベルⅠ47名、レベルⅡ42名、レベルⅢ40名が修了した。レベルⅣの研修生は、各部署において後輩指導や問題解決においてリーダーシップを発揮している。今年度は、発表をポスターセッションで行い、看護部全体で成果を共有した。院内研修で事例研究、看護研究含め学会等で10題の発表を行った。

2. 看護記録監査委員会

活動内容：看護記録の質の向上を目指し、看護記録監査を実施した。更に重症度、医療・看護必要度監査の適正評価、適正記録のために、必要度の監査に取り組んだ。また、看護記録の効率化の検討を行い、テンプレートの作成、チェックリストの作成に取り組んだ。

(1) 重症度、医療・看護必要度監査

緩和ケア、特定集中治療室、精神科を除いて委員会が必要度の監査を実施した。

結果の正答率を各部署の傾向をフィードバックした。

(2) 看護記録監査

委員会内で2事例の監査をグループで実施し、結果をフィードバックした。

監査のポイントと「看護プロフィール」の書き方について委員会で提示した。MEDIS用の監査票を作成した。

(3) 記録の効率化

テンプレートの作成3件、入院時必要書類のチェックリスト1件作成し、記録時間の効率化を図った。

来年度カルテシステム更新に伴う、看護記録システムの見直し、監査表の見直しと共に診療報酬改定に対応した必要度の適正評価の精度の向上および記録の充実を図っていく。

3. 実習指導者委員会

活動内容：実習環境の向上に向け、実習生の満足度調査を行った。実習生の目標達成度や指導で迷ったことなど委員会で共有し、指導に関する学

習会で知識・スキルを共有した。

実習指導マニュアルの見直し、修正を行った。

1. 実習生満足度調査

アンケート実施。満足度 98.7%であった。

2. ミニ講座

「感染症看護」「認知症看護」について2回実施した。参考度85%は肯定的な満足度 99%であった。

3. 実習指導者のスキルアップ学習会

ナースプラザ「実習指導者研修」および「認定看護管理者ファーストレベル」受講者から計5回受伝達講習を実施、実習指導についてスキルアップを目指した。また、都立看護専門学校主催のワークショップ参加者からの伝達により、情報共有を図った。

4. 看護の質向上委員会

活動内容：高齢者看護の質向上とサービス向上を目的として取り組んだ。

(1) 患者家族への説明(IC)のフォローアップ
医師・看護師用にポスターを作成し各部署に掲示してIC同席・未同席後のフォローアップ率向上に取り組んだ。同席率は47.4%、未同席後のフォローアップ率は54.4%であった。

(2) 接遇自己点検の実施

接遇自己点検を2回(10月、2月)に実施した。1回目の自己点検後に実施率が低い項目は、「大きな声で笑っていないか」「私的な会話をしていないか」であった。これに対してポスターを作成し改善に取り組んだ。2回目の自己点検では、それぞれ7.6%、18.0%改善が見られた。

(3) 看護倫理検討

告知に関する事例、治療拒否に関する事例、家族対応に関する事例の共通事例を作成し、全部署で検討した。様々な分析結果がありそれを共有することで理解が深まった。

5. 看護システム・パス委員会

活動内容：看護支援システムとクリニカルパスの効果的運用を行うことで医療安全の確保と看護の質向上を目的に取り組んだ。

(1) 看護支援システム

セキュリティチェックを行い電子カルテPCのデスクトップ上にあるファイル管理を徹底した。また離席時にスクリーンセーバーをかけることや患者の個人情報保護の意識向上に取り組んだが、100%の実施率にはならず継続して取り組んでいくことが必要であった。

(2) クリニカルパス

クリニカルパス作成方法とバリエーション入力の学

習会を各部署で行った。次年度はバリエーション入力100%が課題である。

6. 看護部感染対策委員会

活動内容：衛生的な環境の提供、交差感染防止対策の強化、医療関連感染の低減、看護師の職業感染防止対策の推進に向けて取り組みを行った。

(1) 衛生的な入院環境の提供

汚染を可視化するため環境のATP測定、清掃タイミングなどのルール化や、清潔な部分と、排泄物を扱う部分について、調査・介入を行った。ATP測定は前期と後期に実施し、測定値が低下した状態を維持のため、取組み、患者教育も含めた整理整頓の視点を養うことができた。

*C.difficile*の新規検出率を指標としたが、全体で0.31(1000人当たり)と前年度を下回った。

(2) 交差感染防止対策の強化

手指衛生実施の強化及びMRSA新規検出のサーベイランスを実施した。3か月ごとの推移を確認した。コメディカルへの手指衛生サーベイランスを実施し、フィードバックし、実施率が向上した。

看護部全体の手指衛生実施回数は、前年度を上回り、MRSA新規検出率は0.52(1000人当たり)で前年度を下回った。

(3) 医療関連感染サーベイランス

手術部位感染サーベイランスに加え、中心静脈関連血流感染サーベイランスを開始した。

手術部位感染サーベイランスでは、外科医師、麻酔科医師、臨床工学士、検査技師、薬剤師、看護師で構成するサーベイランスチーム会議を再開し、SSI発生率やプロセスサーベイランスの結果の共有と新たな取組みなど話しあった。

中心静脈関連血流感染サーベイランスは、デバイスの使用が多い病棟をターゲットとして実施し、当センターのベースラインを確認した。毎年継続しプロセスについての確認や介入を検討している。

(4) 看護師の職業感染防止対策の推進

空気感染対策で使用されるN95マスクが顔にフィットしていることの確認(フィットテスト)や、着用毎のユーザーシールチェックについて、知識と技術の確認を行った。

3日間で計208名の医師・看護師・コメディカルに、フィットテストを実施し、その場で個別にユーザーシールチェックの指導を実施した。

また、空気感染対策にかかわる医療者全員に、N95マスクに関するe-ラーニングを実施し、知識の習得を確認した。

7. リスクマネジメント看護分科会

活動内容：平成29年度は、安全な看護の提供を

目指し下記の3点について取り組みを行った。

(1) 与薬に関する患者誤認件数減少

平成29年度の与薬に関する患者誤認件数は、16件であった。

その要因として、ネームバンドと配薬ケースの患者名の照合不足からの誤認と投与直前にネームバンドでフルネームの確認ができていなかったことから発生した。確認行為のシミュレーションでは実施できていても実際の患者への確認行為ができていないことが明らかになり、次年度に向け課題が残った。どのような場面においても、いつでも決められたルールを守る体制作りが必要である。

(2) 排泄介助時の転倒・転落による骨折件数を指標にあげ、発生は11件であった。

骨折が発生した要因として、転倒転落アセスメントシートスコアの3日目から7日目の評価に記入漏れがあったこと、また、アセスメントスコアシートの評価項目が高齢者に対応したものとしては不足があったことも要因にあがった。転倒転落アセスメントシートの項目の見直しを図るとともに、看護計画の立案・修正についても取り組んだ。

(3) 持参薬の自己管理継続件数率

自己管理を推進する取組を新たに開始した。内服自己管理に向けてアセスメントシートの内容を見直し、退院支援につながる、内服自己管理継続率は79.2%であった。

8. 褥瘡・栄養サポート委員会

活動内容：褥瘡対策および栄養サポートに関する知識・技術の向上、院内褥瘡・スキン-ケアの発生予防、栄養状態の維持改善を目標に取り組んだ。

(1) 褥瘡発生防止対策

① 褥瘡に関するデータ集計と分析

院内褥瘡発生率は0.92%と前年度の1.0%を下回り目標は達成できた。そのうち、医療関連機器圧迫創傷(医原性)の発生率は0.03%と、昨年度の0.3%より更に下回る結果となっている。治癒軽快維持率は、持ち込み褥瘡は97%、院内発生褥瘡は95%であった。褥瘡ハイリスクケア加算は1,062件で、昨年度の1,004件を上回った。

② 褥瘡チームラウンド

褥瘡チームラウンドは年間で15回実施、述べ21名に対し実施した。多職種カンファレンスは100%実施している。

(2) 禁食患者に対する経口摂取開始への取組み
誤嚥性肺炎で入退院を繰り返す患者や、入院中に誤嚥性肺炎を発症する患者に対し、オーラルヘルスアセスメントツール(OHAT)を用いたケアの統一と実践による経口摂取移行に取り組んだ。その結果、経口摂取移行率は50.8%となり、昨年度

の63.2%を下回る結果となった。この原因について分析評価を行い、次年度の課題にしていく。

(3) スキンケアに関するデータ集計と分析

院内発生率は0.5%であり昨年度の0.6%より下回る結果となった。治癒軽快維持率は97.7%であり、昨年より2.3%低下した。その為、簡易マニュアルを作成し、更なる予防ケアと治療的ケアの充実を図るため次年度の課題とした。

9. 緩和ケアリンクナース委員会

活動内容：緩和ケアの推進を図り、より質の高い看護を提供することを目的に緩和ケアに関する勉強会、「生活のしやすさに関する質問票」の記入率向上、緩和ケアラウンドを実施した。

(1) 緩和ケアの看護の質の向上

「緩和ケアについて」「疼痛アセスメント」「疼痛治療の非薬物・薬物的アプローチ」「エンドオブライフケア」などをテーマに緩和ケア認定看護師やがん性疼痛看護認定看護師、がん専門看護師による勉強会を行い知識の向上に努めた。また、リンクナース委員の病棟ラウンドを1年間を通して行った。その結果、年度当初と比較して看護職員の緩和ケアに関する困難感は21.8%減少し知識は21.2%向上した。

(2) 生活のしやすさに関する質問票について

実施率は17.7%向上した。その結果、緩和ケアチームの依頼件数も7.5%向上し、緩和ケアの質の高い看護を提供することができた。

10. 退院支援チーム

活動内容：退院支援加算1の算定にて重要と考えられる、リンクナースへの教育体制の構築、退院支援内容の強化に取り組んだ。事例検討・地域連携セミナー開催・学習会・ラダーにて評価を実施。退院支援実践能力の向上につなげた。

(1) 退院支援記録の強化

入院から退院までの退院支援体制の周知と看護師の認識について現状把握し、退院支援記録に対するワンデー調査を実施した。退院支援に必要な情報について共通理解を推進した。

(2) 病院と地域を結ぶ看護ケアセミナー開催

“病院から地域へ円滑な地域連携を目指して”をテーマに11月に板橋区医師会在宅医療センター在宅看護部長、3月に高島平介護センター所長を講師に講演会を開催、参加者は131名、137名であった。

(3) ラダーの作成

退院支援教育に必要な内容8項目を基に3つのステップに分け段階的に取り組むツールを作成した。リンクナースが退院支援に取り組む上での強

みや弱みについての把握につながった。

11. 認定看護師・専門看護師連絡会

活動内容：連絡会主催の勉強会、地域医療機関を対象にした勉強会「たんぼぼ会」に取り組んだ。

(1) 連絡会主催勉強会

連絡会には、認定看護師16名10分野、専門看護師2名2分野がメンバーとして所属しており、年4回の勉強会を開催、近隣の連携病院も含め計242名の参加があった。「看護を語る会」では、看護部長をはじめ、経験年数が様々な看護師に語ってもらった。参加者は46名であり、アンケートからは「看護師という仕事の素晴らしさを再認識できた」「自分が大切にする看護について改めて考える機会になった」などの感想があった。

(2) 「たんぼぼ会」開催

今年度は、参加者を二次保健医療圏の訪問看護ステーションに拡大させ、第1部は勉強会、第2部は交流会と2部構成で会を開催した。1回目は、皮膚・排泄ケア認定看護師と糖尿病看護認定看護師による「フットケアについて」の勉強会を行い、11施設19名の参加があった。2回目は、摂食・嚥下障害看護認定看護師2名による「誤嚥予防のためのケア」について行い、7施設9名の参加となった。次年度も有意義な会にするために検討を重ね開催していく。

12. 認知症ワーキング

活動内容：認知症ケアの質向上を目的に勉強会・事例検討会の開催、リエゾンチームラウンドに同行することにより看護職員のアセスメント能力向上に取り組んだ。また、認知症・せん妄患者の看護計画検討を行った。

(1) 認知症看護の質向上を図る

「DASC-21の活用」「せん妄ケア」「認知症の症状：前頭葉機能障害」などの学習会を実施した。また、ワーキングメンバー全員がリエゾンチームラウンド同行を行った。その結果、年度当初と比較して看護職員の認知症・せん妄に関する知識・技術の自己チェックは、知識面で「よく理解している」が52.3%から81.7%、技術面では「よくできている」が63.5%から79.5%に向上した。

(2) 認知症・せん妄患者の看護計画検討

看護計画を立案する際のアセスメントについて検討した。検討した内容を次年度は事例集として作成していく。

1 平成29年度 看護部院内研修実績

コース名	対象者	研修名	研修日	時間 (H)	総時間数 (H)	人数	小計 (H)			
ベーシックコース	レベルⅠ 平成29年 4月採用者 45名	看護部概要Ⅰ、Ⅱ	4/4	1.5H	1.5	45	8.4	レベルⅠ 総時間数 145.5時間		
		看護倫理Ⅰ(1回目)4月	4/4	1H	1	45	5.6			
		看護方式・災害看護	4/5	3H	3	45	16.9			
		医療安全Ⅰ(安全)4月	4/6,12	4H×2	8	45	45.0			
		医療安全Ⅰ(感染)4月	4/6,12	4H×2	8	45	45.0			
		看護記録Ⅰ第1・2回4月	4/20,21	2	16	45	90.0			
		高齢者理解Ⅰ(高齢者概論、各論)	4/14	4H	4	45	22.5			
		高齢者理解Ⅰ(皮膚・排泄)	5/12	1	8	45	45.0			
		トランスファー	5/18	2H	2	45	11.3			
		看護必要度	4/21	4H	4	45	22.5			
		EBMに基づいた看護技術	5/12	4H	4	45	22.5			
		電子カルテ操作研修(3Gに分けて)	4/24	1	8	45	45.0			
		救急蘇生法(2回に分けて)	5/22	2H×2	4	45	22.5			
		病棟体験研修	4/7,10,11	1(3日間)	24	45	135.0			
		めざす看護師像	4/14	3H	3	45	16.9			
	事例検討Ⅰ(看護実践の振り返り)発表	1/12	6H	6	44	33.0				
	高齢者看護Ⅰ認知機能障害	12/13	3.5H	3.5	44	19.3				
	高齢者看護Ⅰ摂食・嚥下障害	11/10	4H	4	45	22.5				
	高齢者看護Ⅰフィジカルアセスメント	11/10	1	8	45	45.0				
	メンバーシップ(業務中断・優先順位)	7/14	4H	4	45	22.5				
	看護記録Ⅰ第3回9月	9/16	1	8	45	45.0				
	医療安全Ⅰ(安全)2回目9月	9/14	4H	4	46	23.0				
	看護倫理Ⅰ(2回目)12月	12/13	3H	3	44	16.5				
	静脈注射	1/30	4H	4	44	22.0				
	サポートカンファレンス第1回4月	4/27	1H	1	45	5.6				
	サポートカンファレンス第2回5月	5/22	1H	1	45	5.6				
	サポートカンファレンス第3回12月	12/13	1H	1	44	5.5				
	レベルⅡ	卒後 2年目 48人	事例検討Ⅱ	5/23	1.5H	1.5	47		8.8	レベルⅡ 総時間数 46.5時間
			事例検討Ⅱ発表	12/14	7H	7	45		39.4	
			高齢者看護Ⅱ(認知障害)	7/7	4H	4	48		24.0	
			高齢者看護Ⅱ(皮膚・排泄ケア)	7/7	4H	4	48		24.0	
			高齢者看護Ⅱ(コミュニケーション)	11/29	4H	4	47		23.5	
			医療安全Ⅱ(安全管理)	6/20	4H	4	48		24.0	
			医療安全Ⅱ(感染管理)	10/5	4H	4	48		24.0	
			退院支援Ⅱ	5/23	6H	6	47		35.3	
看護記録Ⅱ			6/20	4H	4	48	24.0			
看護倫理Ⅱ			11/29	4H	4	47	23.5			
レベルⅢ	卒後 3年目 42人	リーダーシップ	3/8	4H	4	47	23.5	レベルⅢ 総時間数 42時間		
		事例研究	6/9	7H	7	42	36.8			
		事例研究Ⅲ発表	2/9	1	8	41	41.0			
		高齢者看護Ⅲ(認知機能障害)	10/13	4H	4	42	21.0			
		高齢者看護Ⅲ(緩和ケア)	9/14	4H	4	42	21.0			
		医療安全管理Ⅲ(安全管理)	6/29	4H	4	42	21.0			
		医療安全Ⅲ(感染管理)	6/29	3H	3	42	15.8			
		看護記録Ⅲ	9/29	1	8	42	42.0			
看護倫理Ⅲ	6/29	1H	1	42	5.3					
ジェネラルコース	レベルⅣ 卒後 4年目 以上	リーダーシップⅢ	1/11	2H	2	41	10.3	レベルⅣ 総時間数 150時間		
		キャリア形成	5/29	1H	1	42	5.3			
		看護研究第1～8回	5/11,6/19,7/12,9/10,11/11,12/8,1/25	1(8日間)	64	12	96.0			
		看護研究発表会	3/9	2H	2	12	3.0			
		高齢者看護Ⅳ(スキルアップ研修)第1回	7/25	2.5	2.5	25	7.8			
		高齢者看護Ⅳ(スキルアップ研修)第2回	9/26	3H	3	18	6.8			
		高齢者看護Ⅳ(スキルアップ研修)第3回	10/31	2.5H	2.5	22	6.9			
		看護記録Ⅳ-2 監査 第1回	9/14	1	8	22	22.0			
		看護記録Ⅳ-2 監査 第2回	11/27	4H	4	22	11.0			
		看護倫理	10/17	1	8	20	20.0			
	リーダーシップⅣ(チームリーダー)第1回	6/2	1	8	24	24.0				
	リーダーシップⅣ(チームリーダー)第2回	1/31	3H	3	21	7.9				
	リーダーシップⅣ(実地指導者)第2回	5/31	1	8	27	27.0				
	リーダーシップⅣ(実地指導者)第3回	9/7	2H	2	27	6.8				
	リーダーシップⅣ(実地指導者)第4回2月	2/2	2H	2	24	6.0				
	リーダーシップⅣ(実地指導者)第1回3月	3/14	1	8	34	34.0				
	リーダーシップⅣ(教育担当者)	3/1	1H	1	12	1.5				
	高齢者看護エキスパート研修第1.2.3回	1/29,2/19,3/19	1(3日間)	24	12	36.0				
経験者採用	経験者採用職員研修4月	4/4,5	1(2日間)	16	30	60.0				
	経験者採用職員研修5・6・8・9・11・1月	各月1日	7H	7	19	16.6				
	高齢者看護(スキンケア・認知機能・緩和ケア)	7.10.11月	1.5H	4	35	17.5				
	高齢者看護(退院調整)10月	10/31	4H	4	13	6.5				
	静脈注射2回目1月	1/30	4H	4	4	2.0				
フォローアップ研修	5/30,3/2	1H	2	35	8.8					
看護助手	看護助手 研修	採用時研修		1	4	14	7.0	看護助手 総時間数 63時間		
		医療制度の概要、病院機能と組織の理解、接遇	6/20,7/12,14	3H×3	9	12	13.5			
		安全管理、感染管理	9/27,11/8,20	2H×3	9	12	13.5			
		スキンケア	11/28,30,12/19	3H×3	9	15	16.9			
		フォローアップ(移動、食事介助)	10/11	2H	2	4	1.0			
マスターコース	マネジメント コース	主任昇任研修(固有)	6/6	4	8	11	11.0	マネジメント コース 総時間数 37時間		
		主任研修	9/5,10/3,12/5	3H,2H×2	7	29	25.4			
		主任昇任前研修	3/23	1	1	10	1.3			
		所属長昇任前	3/23	1	1	4	0.5			
		新任所属長	5/2	3	3	8	3.0			
		看護マネジメント研修	5/25,6/22,7/27,10/26,11/30,3/8	17	17	40	85.0			
						合計	1918.7			

2 平成29年度 看護部院外研修派遣実績

研修内容		対象者数 (人)	研修日数 (日)	延べ人数 (人)
中央	主任パワーアップ研修 (第1回1名) 10/25・11/28、(第3回2名) 10/27、12/2	3	2	6
	転入職員 局間異動 4/10	1	1	1
福祉保健局研修	認定看護管理者教育課程 (ファーストレベル) 9/4～3/9 (29日間)	2	29	58
	認定看護管理者教育課程 (ファーストレベルフォローアップ研修) 10/27	3	1	3
	都立看護専門学校運営会議全体会「ワークショップ」 12/2	8	1	8
	病院看護師・助産師の看護専門学校体験研修 10/16～10/18 板橋看護専門学校	1	3	1
	東京都神経難病医療ネットワーク研修 都立神経病院「神経難病看護」 第1回 7/26、第3回 10/27	2	1	2
	東京都退院支援強化研修 7/3	2	0.5	1
	東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅰ 7月21日、10月20日	9	1	9
	東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅱ 7月17日	2	1	2
	病院幹部マネジメント研修 (看護) 12/25	2	1	2
	院内教育担当者 6/8、6/9、7/24、7/25、12/21、12/22	2	6	12
	看護記録監査者 5/31、6/5、6/12、7/3、7/10、9/19	2	6	12
	「看護系主任」Cクラス 5/15、5/16、6/15、7/7、10/24、10/25、2/7	2	7	14
	看護倫理入門 Aクラス 6/19	3	1	3
	看護倫理入門 Bクラス 12/18	1	1	1
	病院経営本部研修	効果的な資料作成 ～基礎編～ 9/27	1	1
効果的な資料作成 11/16		1	1	1
人材育成リーダー 9/7、9/8、9/14、9/15、10/11、2/16		2	6	12
看護倫理リーダー 10/12、10/13、10/27、2/15		2	5	10
エキスパートコース (公開) 「看護研究発表会・記念講演」 2/20		1	1	1
リスクマネジメント (リーダー養成) 9/1、9/4/		1	2	2
「病院経営」 第1回 7/26 第2回 9/26		3	0.4	3
組織支援力向上 (看護1級職) 11/7		1	1	1

研修内容		対象者数 (人)	研修日数 (日)	延べ人数 (人)
看護協会・ナースプラザ研修	医療安全管理者養成研修 5/29・30・31、6/12・14・15・20	1	7	7
	医療安全管理者養成研修 フォーアップ研修 1/23	1	1	1
	実習指導者育成研修（40日間） ナースプラザ 災害支援ナース養成研修 6/30	2	40	80
	認定看護管理者教育課程（ファーストレベル） 東京都看護協会 10/30～12/14	1	17	17
	第33回人工臓器学会 教育セミナー 7/15～7/16	7	2	14
	医療安全管理者研修 5/29～5/31、6/12、6/14～6/15、6/20	1	7	7
	感染対策セミナー 7/18	2	1	2
	新任管理職研修～自信を持ってマネジメントを始める編～ 7/20～7/21	1	2	2
	退院支援強化研修	1	7	7
	退院支援強化研修管理監督者 9/12	1	1	1
	第28回ストーリーナビリテーション講習会 10/7～10/9	1	3	3
	訪問看護研修（板橋区医師会） 東京都訪問看護教育ステーション事業	5	1	5
	日本救急看護学会「トリアージナース育成研修会」 9/17～18	1	2	2
	救急自動車同乗研修 10/16	1	1	1
	医療安全に関するワークショップ 12/4～12/8	1	5	5
	看護計画に関する記録基準の確立 1/24	2	1	2
	認定看護管理者教育課程（ファーストレベル） 地域医療機能推進機構 1/11～2/16	1	26	26
	第13回東京都退院調整看護師の会 2/3	1	1	1
	在視点から見る！退院支援・退院調整 1/31	1	1	1
	高齢者のELNEC-J研修 1/19～1/20	1	2	2
	トリアージナース育成研修会 2/4～2/5	1	2	2
	第3回ELNEC-Jクリティカルケアカリキュラム 指導者養成プログラム 2/10～2/11	1	2	2
	第6回慢性心不全看護認定看護師教育課程 フォローアップ研修 3/22	1	1	1
		94	214	358

3 平成29年度 学会派遣実績

NO	学会名称	開催日	対象者数 (人)	研修日数 (日)	延べ人数 (人)
1	第6回日本感染管理ネットワーク	5月19日～20日	1	2	2
2	日本認知症ケア学会	5月26日～27日	1	2	2
3	第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	6月2日・3日	1	2	2
4	第27回日本臨床腫瘍学会	7月27日～29日	1	3	3
5	日本老年看護学会第22回学術集会	6月14日～16日	8	2	16
6	第62回日本透析医学会学術大会	6月16日～18日	2	2	4
7	第48回日本看護学会 看護教育	8月3日・4日	1	2	2
8	日本地域看護学会	8月5日・6日	1	2	2
9	第21回日本看護管理学会学術集会	8月19日・20日	5	2	10
10	第16回日本感染看護学会学術集会	8月26日・27日	2	2	4
11	第48回日本看護学会 慢性期看護学術集会	8月31日～9月1日	2	2	4
12	第55回日本人工臓器学会大会	9月1日～2日	4	2	8
13	第22回板橋区医師会医学会	9月2日	6	1	6
14	日本看護学会 急性期看護学術集会	9月7日～8日	1	2	2
15	第14回日本循環器看護学会学術集会	9月9日～10日	2	2	4
16	第23回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術集会	9月15日～16日	1	2	2
17	第22回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	9月16日～17日	2	2	4
18	第28回日本在宅医療学会学術集会	9月17日～18日	1	2	2
19	第48回日本看護学会 精神看護	9月27日～28日	1	2	2
20	第19回日本救急看護学会学術集会	10月6日～7日	1	2	2
21	第41回日本死の臨床研究会年次大会	10月7日～8日	1	2	2
22	第21回心不全学会学術集会	10月12日～13日	1	2	2
23	第56回全国自治体病院学会in千葉	10月19日～20日	1	2	2
24	第20回日本腎不全看護学会学術集会	10月21日～22日	1	2	2
25	第31回日本手術看護学会年次大会	11月3日～4日	3	2	6
26	第12回医療の質・安全学会学術集会	11月25日～26日	6	2	12
27	第18回日本クリニカルパス学会学術集会	12月1日～2日	5	2	10
28	第40回日本造血細胞移植学会総会	2月1日～3日	1	3	3
29	日本がん看護学会学術集会	2月3日～4日	5	2	10
30	第46回人工心臓と補助循環懇話会学術集会	2月9日～10日	2	2	4
31	第16回日本フットケア学会学術集会	2月9日～11日	1	3	3
32	第48回日本心臓血管外科学会学術集会	2月19日～21日	1	3	3
33	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2月22日～23日	1	2	2
34	第35回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	2月23日～24日	1	2	2
35	第43回日本脳卒中学会学術大会	3月15～18日	1	3	3
合計			75	74	149

4 平成29年度 研修生受け入れ実績

	研修内容	受入数	実習日数	延人数	主催施設
タイ 要支援高齢者のための介護サービス開発プロジェクト 6月13日	講義・施設見学	15	1	15	JICA 佐久大学
ブラジル 日系研修生受け入れ事業	講義・施設見学	11	1	11	JICA 佐久大学
ニューハンプシャー大学 2月16日 Family Nurse Practitioner コース責任者 准教授 見学研修	講義・施設見学	1	1	1	首都大学東京
東京都訪問看護教育ステーション事業 訪問看護師の病院研修 8月7日～9月25日	臨地実習	7	1	7	東京都福祉保健局 板橋区医師会
認定看護師教課程「認知症看護」 9月11日～10月13日	臨地実習	2	22	44	山梨県立大学 看護実践開発研究センター
認定看護師教育課程「慢性心不全看護」 1月9日～2月13日	臨地実習	2	25	50	北里大学看護キャリア開発 ・研究センター
東京都ナースプラザ実習指導者研修 2回目 9月6日	病院見学実習	3	1	3	東京都ナースプラザ
東京都ナースプラザ実習指導者研修 3回目 11月14日	病院見学実習	3	1	3	東京都ナースプラザ
合計		44	53	133	

5 平成29年度 看護実習生受け入れ実績

学校名	学生数	実習日数	延人数	実習科目
東京都立板橋看護専門学校	36	5	180	基礎実習Ⅰ
	36	10	360	基礎実習Ⅱ
	36	10	360	老年看護Ⅰ
	84	11	924	老年看護Ⅱ
	44	11	484	統合
首都大学東京	10	10	100	高齢者看護
東京女子医科大学	7	12	84	統合Ⅰ・Ⅱ
	48	7	336	老年看護
了徳寺大学	20	10	200	基礎看護学
帝京平成大学	40	8	320	基礎看護学Ⅰ
	60	9	540	基礎看護学Ⅱ
帝京科学大学	15	4	60	精神看護学実習Ⅱ
	40	8	320	基礎看護学Ⅱ
	10	9	90	基礎看護学統合実習
日本医療科学大学	36	4	144	基礎看護学Ⅰ-①
	30	10	300	基礎看護学Ⅰ-②
	24	12	288	基礎看護学Ⅱ
	24	12	288	高齢者看護学
文京学院大学	18	8	144	老年者看護
	3	12	36	統合アドバンス1クール
	1	8	8	統合アドバンス1クール
合計	622	190	5566	

6 平成29年度 看護体験受け入れ実績

行事名	開催日	体験者数	体験日数	延人数	主催施設
一日看護体験（高校生）	7月21・28日	3	1	3	東京都ナースプラザ
一日看護体験（社会人）	7月21日	1	1	1	東京都ナースプラザ
看護インターンシップ夏期	8月1日～8月10日	13	1	14	当センター看護部
看護インターンシップ春期	3月5日～3月16日	91	1	96	当センター看護部
合計		108	4	114	

7 平成29年度 講師派遣実績

	講師名	科目（講義内容）	時間数	回数	施設名
1	荒木 芳枝	看護管理と研究（看護管理）	2時間 2クラス	3回	東京都立板橋看護専門学校
3	白取 絹恵	高齢者看護方法論 「認知症ケアに関する最新の知識およびケアの実際」	3時間	1回	了徳寺大学看護学科
4	白取 絹恵	「介護・医療の基礎知識 からだとこころの理解（後半）」	3時間	1回	平成28年度福祉用具相談員指定講習会
6	白取 絹恵	「認知症の人とのコミュニケーション」	3時間	1回	ナースプラザ研修講師
7	白取 絹恵	東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅰ	4時間	2回	東京都福祉保健局 高齢社会対策部在宅支援課
8	白取 絹恵	東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅱ	8.5時間	1回	東京都福祉保健局 高齢社会対策部在宅支援課
9	白取 絹恵	東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅲ	8.25時間	1回	東京都福祉保健局 高齢社会対策部在宅支援課
10	白取 絹恵	ELNEC-JG in 埼玉県看護協会ファシリテーター	8時間	2回	埼玉県看護協会
11	白取 絹恵	国立ハンセン病療養所認知症高齢者看護研修	4時間	1回	国立ハンセン病療養所
12	白取 絹恵	看護部特別研修講師 「認知症に関するツールの活用と看護の実際」	2時間	1回	和歌山県立医科大学附属病院
13	野島 陽子	中年のための健康講座「排尿ケア」	1時間	1回	板橋区医師会 板橋区文化会館
14	野島 陽子	「高齢者の脆弱皮膚」	3時間	2回	東京都ナースプラザ
15	野島 陽子	「頻尿・失禁ケア」	2時間	1回	板橋区保健所
16	野島 陽子	下部尿路症状の排尿ケア講習会演習	2時間	1回	板橋区保健所
17	野島 陽子	ストーマケアについて	1時間	1回	世田谷区
18	野島 陽子	「WOCN対象 高齢者のストーマケア」	4時間	1回	ホリスター株式会社
19	野島 陽子	東京ストーマリハビリテーション講習会 演習講師	4時間	1回	東京ストーマリハビリテーション
20	木村 陽子	高齢者の健康障害時の看護 「認知障害・認知症のある高齢者の看護」	8時間	2回	東京都立板橋看護専門学校
21	木村 陽子	荏原病院認知症疾患センター 「東京都認知症対応力向上研修」ファシリテーター	3時間	3回	東京都保健医療公社 荏原病院
22	木村 陽子	准看護師卒後教育講習会 「認知症・せん妄の理解とケア」	1.5時間	1回	公益社団法人 東京都医師会
23	木村 陽子	東京都神経難病ネットワーク研修 ジェネラルコース神経難病看護「認知症患者の看護」	4時間	1回	東京都立神経病院
24	木村 陽子	認知症看護研修	1.5時間	1回	板橋区医師会病院
25	出崎 奈美	老年看護学 「高齢者の健康障害時の看護（感染症）」	2時間 2クラス	2回	東京都立板橋看護専門学校
26	出崎 奈美	標準予防対策と冬期に流行する感染症対策	2時間	1回	社会福祉法人浴風会
27	出崎 奈美	医療安全管理 感染管理について	1.5時間	1回	日本医療科学大学
28	出崎 奈美	感染症対策「吐物処理」ほか	1.5時間	1回	東京都八王子福祉園
29	出崎 奈美	病院で遭遇する感染症と感染防止対策	1時間	1回	東京都リハビリテーション病院
30	片岡 佑佳理	転倒・転落事故防止リスクアセスメント 第1・2回	7時間	2回	東京都ナースプラザ
31	今野 真希	糖尿病重症化予防フットケア	4時間	1回	日本糖尿病教育・看護学会共催
32	亀井 めぐみ	老年看護学「高齢者の健康障害時の看護（褥瘡）」	2時間 2クラス	2回	東京都立板橋看護専門学校
33	荒木 健太郎	治療論Ⅱ「リハビリテーション」	2時間 2クラス	3回	東京都立板橋看護専門学校
34	松崎 弘美	老年看護学「高齢者の健康障害時の看護」	2時間 2クラス	1回	東京都立板橋看護専門学校
35	石堂 正枝	実習指導者研修「指導案」演習講師	2.5時間	2回	東京都ナースプラザ
36	杉山 純子	緩和ケア認定看護師教育課程「臨死期のケア」	3時間	1回	神奈川県看護協会
37	杉山 純子	臨死期のケア	1.5時間	1回	社会福祉法人小茂根の郷
38	蛸原 大作	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	8回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
39	蛸原 大作	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC ACLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	7回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
40	石川 峻	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	5回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
41	石川 峻	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC ACLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	6回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
42	武藤 直美	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	4回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
43	武藤 直美	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC ACLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	4回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
44	鎌塚 尚生	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	2回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター

	講師名	科目（講義内容）	時間数	回数	施設名
45	鎌塚 尚生	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC ACLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	3回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
46	吉村 秀平	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	3回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
47	宮本 有花里	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	6回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
48	市堀 豊美	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC ACLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	4回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
49	張替 絹代	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	6回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
50	鹿島田 美奈子	公開講座第42回城北ブロック糖尿病教室	2時間	1回	東京都糖尿病協会
51	今野 真希	公開講座第42回城北ブロック糖尿病教室	2時間	1回	東京都糖尿病協会
52	河野 春奈	公開講座第42回城北ブロック糖尿病教室	2時間	1回	東京都糖尿病協会
53	庄司 安子	手術室看護セミナー	4.5時間	1回	医学の友社
54	川野 真理恵	米国集中治療医学会FCCS Japan10月奈良コース	17時間		一般財団集中治療医療安全協議会
55	細萱 順一	ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム看護師教育プログラム	8時間	2回	ELNEC-J クリティカルケア カリキュラム開発研究会（京都大学）
56	細萱 順一	成人看護学Ⅰ・学部	4時間	1回	京都大学

8 平成29年度 著書（執筆）実績

	著者名	論文名（執筆内容）	書名	出版社
1	黒坂 真理子	高齢患者と家族への看護	ナース専科 2018年2月号 第1特集 エキスパートの実践と課題解決に学ぶ 「高齢患者と家族への看護」 Part 1 「患者・家族を丸ごとささえる 高齢患者の看護の実際」 Part 2 「高齢患者・家族を支える看護のために必要な知識」	(株)エスエムエス
2	鉄谷 祥子	どうやってセルフマネジメントを意識してもらう？ ～うっ血性心不全患者・家族へのケア～		
3	新名 由利子	患者・家族が希望する自宅生活を実現するには？ ～嚥下障害患者・家族へのケア～		
4	白取 絹江	認知症患者の思いを知るには？ ～認知症患者・家族へのケア～		
5	最上 由紀子	がん終末期にある患者・家族にできることは？ ～不可逆的なせん妄を合併した患者・家族へのケア～		
6	野島 陽子	患者・家族が安心した生活を自宅でするためにできることは ～褥瘡患者・家族へのケア～		
7	加納 江利子	地域包括ケアシステム		
8	有馬 由加里	フレイル・サルコペニア		
9	白取 絹江	「急性期病院における認知症ケアの重要性」	認知症の人の「思い」から つくるケア 在宅ケア・ 介護施設・療養型病院編	インター メディカ
10	白取 絹江	「コラム・多職種協働のポイント」	認知症の心理アセスメント はじめの一步	医学書院
11	白取 絹江	「高齢患者と家族への看護・認知症患者の思いを知るには？～認知症患者・家族へのケア～	ナース専科	(株)エスエムエス
12	野島 陽子	「高齢者の尿失禁について インタビュー」	女性セブン	小学館
13	木村 陽子	急性期病院への入院から退院までの支援	認知症の人の「思い」から つくるケア：急性期病院 編	インター メディカ
14	細萱 順一	「ナースングスキル」新規コンテンツ制作と既存 コンテンツの修正		ELSEVIER(株)
15	細萱 順一	インターネットシンポジウム「ICUにおけるチーム 医療で展開するPADマネジメント」		ファイザー(株)
16	黒坂 真理子 工藤 明子	特集 病院機能評価の最新報告 ケアプロセス 評価を看護の質の向上につなげる 実践報告 東京都健康長寿医療センターの取組 「受診準備およびサーベイヤーとの双方向の作 業で質改善につなげる	看護管理 第27巻 第9号	医学書院

9 平成29年度 学会発表実績

NO	研究者名	演題名	学会名称	年月日	発表形式
1	木村 陽子	急性期精神科における機能低下が不可逆な認知症患者の医療とケアの選択支援	第18回認知症ケア学会大会	平成29年5月27日	示説
2	白取 絹恵	ランチョンセミナー 「高齢者の尊厳を守る排尿ケア」	第26回 日本創傷オストミ-失禁管理学会学術集会	平成29年6月3日	シンポジスト
3	野島 陽子	ランチョンセミナー 「高齢者の尊厳を守る排尿ケア」	第26回 日本創傷オストミ-失禁管理学会学術集会	平成29年6月3日	シンポジスト
4	野島 陽子	第30回 日老年泌尿器科学会 ポスターセッション	第30回日老年泌尿器科学会	平成29年6月9日10日	座長
5	幸田 留美子	経口摂取開始チャート導入の取組みが何をもたらしたか	第59回老年医学会	平成29年6月14日	示説
6	木村 陽子	地域包括ケアシステムにおける急性期医療とは何か	老年看護学会第22回学術集会	平成29年6月14日	シンポジスト
7	上村 大輔 西川 由花 伊東 美緒	高齢者が認識しやすいピクトグラムを用いて安静度別リハビリプログラムを提示した効果	老年看護学会第22回学術集会	平成29年6月14日	示説
8	館山 愛 三崎 春奈	急性期病院から回復期リハビリテーション病院への退院サマリーのあり方	老年看護学会第22回学術集会	平成29年6月14日	示説
9	西川 つぐみ	せん妄ケアの実態調査とケア方法の検討	老年看護学会第22回学術集会	平成29年6月14日	示説
10	吉澤 佑美	高齢透析患者と透析室スタッフにおいてBDHQ質問シートを用いた食事摂取状況の検討	第62回日本透析医学会学術集会	平成29年6月16日	示説
11	草尾 由香	高齢透析患者に対するフットケアの成果	第62回日本透析医学会学術集会	平成29年6月16日	示説
12	後藤 彩美	誤嚥性肺炎患者の早期経口摂取の必要性～口腔内の変化から～	第22回板橋区医師会医学会	平成29年9月2日	口頭
13	杉山 純子	認知症を併発するがん患者における疼痛評価の状況	第22回日本緩和医療学会	平成29年6月23日	示説
14	藤村 眞紀	高齢者夫婦の自宅療養に向けた介入～ストレングスモデルを用いて	第22回板橋区医師会医学会	平成29年9月2日	口頭
15	福田 婿子	術後せん妄を発症した患者との関わりを通してリアリティオリエンテーションの実践	第22回板橋区医師会医学会	平成29年9月2日	口頭
16	永田 恭子	自己注射が導入された高齢糖尿病患者の心理・行動的反応の変遷と看護援助	第22回板橋区医師会医学会	平成29年9月2日	口頭
17	高崎 有理奈	補助人工心臓装着患者の心理と効果的な介入	第22回板橋区医師会医学会	平成29年9月2日	口頭
18	鹿島田 美奈子	IADLが低下しつつある高齢糖尿病患者に対するフットケア外来が果たす役割～3事例のケアからの考察	第22回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	平成29年9月16日	示説
19	今野 真希	「交流集会」[ピロ]から始める看護外来開設事後アンケートからみえた現状と問題点	第22回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	平成29年9月16日	示説
20	出崎 奈美	委員1年目でも役割を理解して実践能力が高まる！～感染委員ラダーの試み～	全国自治体病院学会発表	平成29年10月19日	示説
21	前沢 知美 出崎 奈美 工藤 明子	感染管理ベストプラクティスの遵守に向けた取り組み	全国自治体病院学会発表	平成29年10月19日	示説
22	黒木 優 梅原 久徳 山宮 翔 服部 俊夫	クリティカルインディケーター及びアウトカムの入力推進の取組み	第18回日本クリニカルバス学会学術集会	平成29年12月1日	示説
23	幸田 留美子	急性期病院における経口摂取の取組み	第21回 病態栄養学会	平成30年1月12日	示説
24	山田 由香理 佐野 真理子 飯野 君江 山田 理子	交換ノートを活用した肺がん患者における終末期の意思決定支援 第二報	第32回日本がん看護学会学術集会	平成30年2月4日	口頭
25	酒井 真野	高齢者肺がん患者の意思決定支援を支える看護介入	第32回日本がん看護学会学術集会	平成30年2月4日	口頭
26	鹿島田 美奈子	高齢糖尿病患者に対してフットケア外来が果たした役割	フットケア学会	平成30年2月9日	口演
27	鉄谷 祥子	ハートチームの役割『重症心不全患者の在宅療養を支えるために必要な地域連携』	第21回日本心不全学会学術集会	平成29年10月13日	シンポジスト
28	中島 成巳	移植時の提供食品における細菌混入の検証と栄養管理の緩和の可能性	日本造血細胞移植学会	平成30年2月1日	示説

1 29年度の活動

○平成29年度実績について

紹介率 70.8% (平成28年度71.8%)
 返送・逆紹介率 76.5% (平成28年度70.7%)
 紹介状受取件数 12,405件 (平成28年度12,748件)
 新入院患者数 13,135名 (平成28年度13,179名)
 初診料算定患者数 15,907名 (平成28年度15,298名)

初診料算定患者数は、昨年度比9.6%増となった。
 かかりつけ医相談窓口の開設に伴い、逆紹介率は増加した。

○センターのPRのため、医療機関への訪問、連携ニュースの発行、製薬会社と共催にて各種セミナー、公開CPCの開催（日本医師会生涯教育制度における単位取得）連携医療機関数の増加や連携医数の確保に努めた。

連携医療機関数 714医療機関 (平成28年度697機関)

各診療科セミナー開催数 13回 (平成28年度15回)

参加者数 724名 (平成28年度842名)

内容 (抜粋)

平成29年 4月10日 (月) 循環器セミナー

東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所 平原 佐斗司 先生

「心不全の緩和ケア ～悲がん疾患の緩和ケアの視点から～」

平成29年 7月 3日 (月)

神経内科・脳卒中科連携セミナー

国際医療福祉大学医学部 神経内科 教授/福岡山王病院 神経内科 赤松 直樹 先生

「てんかん治療はこう変わる - 最近の抗てんかん薬を中心に -」

平成29年 7月 5日 (水) 消化器セミナー

国家公務員共済組合連合会虎の門病院 肝臓内科 部長 鈴木 文孝 先生

「C型肝炎治療の成績と今後の展開 ～インターフェロンフリー治療の最新データを踏まえて～」

平成29年 9月 7日 (木) 老年医学セミナー

東京大学医学部附属病院

老年病科 教授 秋下 雅弘 先生

「ポリファーマシーへの対応」

平成30年 3月13日 (火) 高齢者ブレインバンク 神経内科・脳卒中科医療連携セミナー
 文京認知神経化学研究所 所長 武田 克彦 先生

「左利きの神経心理学」等

公開CPC開催数 5回開催 (平成28年度 5回)

参加者数146名 (平成28年度 167名)

内容 (抜粋)

平成28年 7月14日 (木)

豊島病院・東京都健康長寿医療センター合同公開CPC「骨髄移植後の真菌血症から感染性心内膜炎を来し、緊急僧帽弁人工弁置換術を行ったが救命しえなかった症例」

病理診断：全身アスペルギルス症、急性骨髄性白血病 (化学療法後、臍帯血移植後)

平成28年11月24日 (木)

「歩行困難及び意識障害を認め、誤嚥窒息後人工呼吸器管理となり多発深部静脈血栓症をきたした2型糖尿病の一例」

病理診断：腓体部癌、pulmonary tumor thrombotic microangiopathy (PTTM)

○救急外来患者増加を目指し、救急部会、当直体制検討委員会の事務局として活動している。

救急患者受入総数10,218人 (平成28年度9,860人)

救急車受入件数は4,497台 (平成28年度4,399台)

断り率 12.0% (平成28年度11.1%)

断り率の増加は、専門医不在、病床満床等のためと思われる。

○病床利用率(病院全体)85.9%(平成28年度87.4%)

平均在院在院日数(病院全体)12.1日 (平成28年度12.3日)

○連携病院の協力体制の強化、後方病床確保のため継続して医師派遣を行っている。

○7月11日に、板橋区医師会と「板橋区医師会・東京都健康長寿医療センター医療連携連絡会議」を開催した。今後のより一層の連携強化について意見交換を行った。

○11月1日に、板橋区医師会、豊島病院との医療連携懇親会を開催した。これは、両病院の医師と板橋区医師会の医師と顔が見える連携として企画している。

○2月23日に健康文化会(小豆沢病院グループ)との医療連携会議を東京都健康長寿医療センターにて開催した。両病院の密接な連携結果を確認するとともに今後の更なる連携を模索することを確認し合った。また小豆沢病院地域連携室

と定期的な連絡会を設けている。

- 慈誠会グループとは、継続して毎月WGを開催している。29年度は、食形態の情報共有のため、関連病院の栄養科と当センター栄養科との勉強会を開催した。
- 救急関連として、6月、11月に区西北部地域救急会議、7月、12月に区西北部脳卒中地域連携パス合同会議、また、3月に板橋区大腿骨頸部骨折懇話会に参画し連携の強化と情報収集を行った。
- 定期的に地域連携脳卒中パスWGを継続して開催した。連携病院は、4施設から6施設に拡大した。
4月17日「地域連携パス講演会（症例検討会）」を開催。65名の参加があった。
- 例年どおり板橋区医師会共催、板橋区後援にて一般住民対象の中老年のための健康講座を9月9日（土）に板橋区立文化会館小ホールにて開催した。参加人数は238名であった。
「いつまでも元気に歩こう！～膝・股関節・骨のお話～」
- 第21回板橋区医師会医学会
9月2日（土）及び3日（日）板橋区立文化会館で開催。15演題を提出した。

- 東京都在宅難病患者一時入院事業実績
44件（平成28年度28件）
- 在宅医療連携病床実績
47件（平成28年度52件）
- 連携ニュースでは、当センター各診療科の取り組みを紹介するとともに連携医療機関、連携医の紹介を行った。
- 平成29年度職員表彰
事務部長賞「かかりつけ紹介窓口の開設による逆紹介普及活動の取り組み」
- 平成29年度職員提案
優秀賞「紹介元医療機関への適正報告」

2 29年度からの新規活動

- センターにおける急性期治療が終了し、かかりつけ医をお持ちでない患者さんへ今後安心して通院していただける医療機関をご案内させていただく窓口かかりつけ医紹介窓口を8月より開設した。窓口対応件数は、530件であった。
- 区西北部地域連携脳卒中パス研修会を開催した。参加者は、84名であった。

3 地域連携事業の実績

（単位：人）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
CT検査	110	123	146	115	127
MR検査	191	226	250	213	191
RI検査	54	31	36	26	27
超音波検査	7	9	8	27	23
その他（骨密度など）	4	15	13	15	28
PET	23	32	42	34	30
胃カメラ	—	6	1	1	1
計	389	442	496	431	427

4 「医療連携室」の構成（平成29年3月31日現在）



5 医療連携室の構成員

役 職	構 成 員	
室 長	室長	吉澤 聖子
室 員	主任	宮澤 翔太
室 員	主事	安藤 玲奈
室 員	主事	古江 智広

6 連携担当医

診療科	連携担当医		診療科	連携担当医	
膠原病・リウマチ科	部長	杉原 毅彦	外 科	部長	金澤 伸郎
腎 臓 内 科	部長	武井 卓	血 管 外 科	部長	中澤 達
糖尿病・代謝・内分泌内科	総括部長	荒木 厚	心 臓 外 科	部長	西村 隆
循 環 器 内 科	部長	藤本 肇	脳 神 経 外 科	部長	松岡 浩司
呼 吸 器 内 科	部長	山本 寛	呼 吸 器 外 科	部長	西村 隆
消 化 器 内 科	部長	上垣 佐登子	整 形 外 科	総括部長	時村 文秋
神 経 内 科	部長	村山 繁雄	脊 椎 外 科	部長	穴水 依人
脳 卒 中 科	部長	金丸 和富	皮 膚 科	部長	種井 良二
血 液 内 科	部長	宮腰 重三郎	泌 尿 器 科	部長	粕谷 豊
総合診療科・感染症内科	部長	増田 義重	眼 科	部長	沼賀 二郎
精 神 科	部長	古田 光	耳 鼻 咽 喉 科	医長	高橋 正時
リハビリテーション科	部長	金丸 晶子	緩 和 ケ ア 内 科	部長	齊藤 英一
救 急 診 療 部	部長	坪光 雄介	歯 科 口 腔 外 科	部長	平野 浩彦
内 視 鏡 科	部長	西村 誠	放 射 線 診 療 科	部長	山川 通隆
化 学 療 法 科	部長	宮本 鋼			

MSW病棟担当制は7年目を迎え、前年度に引き続き積極的に早期介入・早期退院、在院日数の短縮に努めた1年であった。具体的には、毎週の病棟カンファレンスへの参加だけでなく、毎日病棟ラウンドの実施。医師・看護師・コメディカル・事務員等スタッフとの情報共有、方針協議を日々積極的に行い、早期退院、在院日数の短縮、安定的なベッド稼働に繋がるようチーム医療の構築に努めた。更に、入院前からの介入を目指して、外来及び入院受付スタッフ、医療連携室等と密に連携を取り、病床管理看護師から毎日の朝会で緊急入院患者の情報収集を行うなど入院前及び入院時からの早期介入を遂行している。

「退院支援加算1」開始から2年目を迎え、積極的なコスト算定に努めた。これは、保険医療機関における退院支援の積極的な取組みや医療機関間の連携等を推進するため平成28年度診療報酬改定に伴い評価、新設されたものである。算定要件としては入院後3日以内に患者の状況を把握し、7日以内に患者・家族の意向確認を行い、同じく7日以内に4者（病棟看護師・病棟専任MSW・在宅看護師・専従の社会福祉士）間でカンファレンスを実施することが要件。また、施設基準としても退院支援部門の設置、十分な経験を有する専従の社会福祉士の配置、専任の社会福祉士は1人2病棟までという規定。「退院支援加算1」の取得には算定基準・施設基準共に高いハードル設定だが、退院時に600点/件の加算が取得可能なことから、病棟・在宅看護師等と連携・協働し軌道に乗せることに邁進した。その結果、平成29年度は2,742件のコスト算定を達成し、前年度より644件増であった。

また、「退院支援加算1」には、20医療機関と年3回面会し情報共有を行うことも条件として挙げられており、それらをクリアするため地域の関係機関と密な連携を図るシステム構築にも努めてきた。

更に、医療機関間の連携における評価として「地域連携診療計画加算」（300点/退院時に1回）も新設された。これに伴い、速やかな退院支援を推し進める目的から【脳卒中地域連携パス】を立ち上げ、近隣の回復期リハビリテーション病院4病院と病病連携システムを構築。10月からは更に2病院が追加され計6病院となった。

「リハビリテーションはなるべく早く、多く」という目的を実現するため、比較的重度の方でも回復が見込める方を対象とし、連携機関と協力。

また10月よりSCU（脳卒中ケアユニット）が稼働開始となった事もあり、実件数は、65件と前年度より35件増加。平均在院日数19.5日で転院となっている。

また、専従MSWによるセンター全体における長期入院患者の管理を開始して2年目となった。これは、入院が長期化している理由を解明し、今後の方向性を各診療科部長及び主治医等に確認し速やかな退院支援を推し進めるものである。管理開始後より長期入院患者数は徐々に減り始め、「40日越え」から現在は「25日越え」まで短縮して管理を行っている。今後も、専任MSW及び医師・看護師等多職種で協働しながら長期入院患者数の削減に努めていく予定である。

7日間ルール（早期退院支援）及び返送ケースも、通常の退院支援に加え各病棟担当MSWが退院支援を行っている。保存的加療、社会的入院、一般的内科治療等に該当する患者は7日間ルール、その他は通常退院調整として病棟と協議しながら早期にスクリーニングを行い、連携病院への効率的な退院促進を進めている。

7日間ルール及び返送ケースの調整件数は115件/年であった。

院外においては、慈誠会グループ及び小豆沢病院、その他赤羽リハビリテーション病院、東京腎泌尿器センター大和病院等との積極的な連携体制の構築に取り組み、後方連携病院獲得に努めた。慈誠会グループと毎月第4金曜日に開催している連携会議は今年度も引き続き行われ、患者情報、空床情報、病院機能に関する情報共有を行い毎月顔の見える連携を図り信頼関係を築いている。

慈誠会グループとの連携強化に努めた結果、当センターで退院調整に苦慮しているケース（膠原病・リウマチ科患者、長期療養目的の透析患者、生活保護等）の受入れに尽力して頂き、対応の実現に至った。当センターは高齢者の急性期病院にも関わらず後方連携病院がないことから、慈誠会グループとの連携強化は在院日数の短縮化に重要な役割を果たしている。慈誠会グループに限らず、先に挙げた小豆沢病院、赤羽リハビリテーション病院、東京腎泌尿器センター大和病院等とも今後より一層の連携を図る必要があると考える。

地域包括ケア病棟は、運用開始2年目を迎えた。相談室は、受け入れ窓口としてスムーズな院内転棟を心掛け、他職種と協働しながら円滑な運営に努めている。入棟後、自宅退院支援に時間が要するケースに対して、スムーズに退院出来るようケ

アマネジャー・訪問診療医・訪問看護ステーションなど地域関係者との連携に努めている。平均在宅復帰率は86.7%であり、今後も在宅復帰率70%以上の退院支援を心掛ける。

相談室は医療・介護・保健・福祉の現状を確認し、患者、家族のニーズを把握しながら、高齢者にとってわかりやすい情報提供を行うよう独自に医療・福祉情報紙『ごぞんじですか』を作成している。制度及び医療機関情報は常に変化しているので、定期的に更新・改訂を行い常に最新情報をわかりやすく提供出来るよう工夫している。

平成29年度MSWは、奥村真木、中馬かつら、清水義尉、津川晴奈（年度途中より育休復帰）、川口東子、竹原史穂（年度途中より産休入り）、徳山由実、瀬川寿行、岩上香菜子、黒岩愛、西山亜矢子、非常勤 勝治朋美（産休代替/年度途中退職）、曳地圭子（産休代替）計11名体制で4月よりスタートした。

〈相談業務〉

① 相談業務件数：相談業務総件数は92,099件であった。

新規相談の紹介経路としては、院内では医師（1,318件）看護師（321件）他院内職員（51件）であった。院外では患者・家族等（322件）医療機関・介護保険施設等（283件）ケアマネジャー（39件）区役所・保健所等（2件）となっている。患者・家族からの相談の中には、未受診の療養上相談も含まれている。

② 診療科別：循環器科（11.7%）、消化器内科（14.1%）、神経内科（13.4%）、整形外科（10.4%）、外科（9.6%）、膠原病・リウマチ科（6.3%）、緩和ケア（7.0%）、脳神経外科（4.8%）、内分泌科（4.0%）、呼吸器内科（3.1%）の順である。

緩和ケア病棟入院相談業務は3名（兼任）配置。相談件数は757件で、前年度より112件増加している。院内からの相談件数が前年度より3ポイント増加し、27%を占めている。院外相談の主な紹介元医療機関は、日本大学医学部付属板橋病院（50件）、帝京大学医学部付属病院（50件）、国立がん研究センター中央病院（30件）、練馬光が丘病院（28件）、東京大学医学部付属病院（23件）を始め、その他多数の医療機関から相談があった。

また、がん相談支援センターは、中馬かつら（専従相談員）、川口東子・瀬川寿行（専任相談員）、その他看護師が専任相談員として担当した。平成29年度相談件数は946件。毎月78件前後の相談件数で推移。相談内容としては、緩和ケア相談・不安精神的苦痛・意志決定に関する相談・

療養上の相談が多かった。がん患者が交流できる場として患者サロン「おれんじの会」を年度2回開催した。ミニ勉強会と茶話会の2部構成とし、患者同士の交流や、医療者へ気軽に質問できるように配慮した。

③ 相談の特徴及び内容：当センターは急性期医療の病院であるため、退院に伴う相談が最も多く78%（内、転院・施設入所の相談が85%自宅退院に向けての相談が6.9%）であった。次いで療養上の相談が5.0%、福祉制度の相談が4.5%、経済相談が0.8%である。

転院相談では、長期療養可能な療養型病院をはじめ、急性期医療を継続して行える一般病院、回復期リハビリテーション病院、認知症専門病院、緩和ケア病棟など様々なニーズに応じて情報提供を行った。

医療療養型病院では要医療患者（IVH、吸引頻回、酸素療法、インスリン注射、難病など）の受け入れが可能であるが、一方、気管切開、レスピレーター、NIPPU、BIPAPなどの呼吸器類装着、感染症、重度の褥瘡、薬価の高い薬及び注射、輸血等がある場合は転院調整に際してリスク要因となり受け入れ可能な医療機関は極端に少なく、待機期間が長い、個室対応などで経済的負担が大きいなど厳しい現状が続いている。

また、介護療養型病床の減少傾向は続き、要介護4以下・抑制帯・センサー等の必要性がある方、要介護状態ではあるが医療行為のない方の転院がより困難になっている。入院時に、病棟で早期に介護保険認定の有無に関する確認を行う、抑制帯の必要性について検討・協議し、不要が確認された場合には外してもらうなど、病棟と密に連携を図りながら転院に関するリスク要因の軽減に努めている。そして、随時各医療機関に問い合わせ、最新の受入れ条件及び待機情報を係内で共有し、転院先の確保に努めた。

在宅退院への援助は、ケース内容（点滴・酸素・吸引など医療行為がある患者で手技指導が必要な場合）により同室の在宅看護相談看護師と協力しながら進めている。特に要医療、要看護の患者が自宅退院する際には患者、家族、在宅訪問医、訪問看護ステーション、ケアマネジャー等地域関係者と退院前合同カンファレンスを開催し、安心して在宅療養へ移行出来るよう情報共有を行っている。

相談ケースで身寄り・同居家族がいない「単身独居」患者の入院の場合（特に東京ルール・救急入院等）、病気の重症度、障害の有無、判断能力によって異なるが、入院に必要な物品の間

題、入院中の療養上の問題、経済的な問題、退院先の選択・手続き、転院時同行等MSWの関わりが必要となるケースが多い。高齢世帯、家族力が脆弱なケース及び保険未加入の外国人に関しては、地域包括支援センター、ケアマネジャー、福祉事務所等地域関係機関との連携が重要であり、MSW介入と同時に各関係機関に相談を掛けて連携を図っている。

〈その他の業務〉

- ・緩和ケア委員会事務局
- ・がん診療委員会（6回／年）
- ・退院支援チーム参加（12回／年）
- ・医療社会事業説明会（1回／年）
- ・医療社会事業従事者研修（4回／年）
- ・東京都脳卒中地域連携パス合同会議（4回／年）
- ・板橋区在宅療養懇話会（4回／年）
- ・板橋区脳卒中懇話会SW部会（3回／年）
- ・板橋区大腿骨頸部骨折パス地域連携会議（2回／年）
- ・北区・板橋区MSW勉強会（6回／年）
- ・慈誠会グループとの連携会議（12回／年）
- ・慈誠会SW部会参加（3回／年）
- ・地域医療機関への挨拶・訪問（年平均40カ所）
- ・看護部院内研修講師（2回／年）
- ・看護部実習生対応

老年学情報センターは、健康長寿医療センター職員用図書館として、臨床・教育・調査・研究を、資料の収集・提供及び学会発表の補助で支援している。

図書委員会については、次年度の購読誌選定について、希望調査での部署別持ち点への研究発表数の反映方法の提案、購読誌の利用頻度の評価、職員の購読誌希望調査の実施・集計等の作業を行った。

各診療科・研究チーム等の研究活動の活発さを専門誌コレクションに反映すること、そして、研究発表の活発さの支援。この両輪を今後も情報センターの重点として考えていきたい。図書委員会では、ほかに、雑誌の選定プロセスや支払い形式の見直しについて問題提起を行った。

看護部の院内研修では、ベーシックコース及びジェネラルコースにおいて、看護師を対象に文献検索・文献入手、事例検討・看護研究の発表のためのスライド作成について講義を行った。一部の看護研究グループに対しては学会ポスター発表に関わって、データの解析やグラフ表現についてアドバイスをを行った。

また、病院部門・研究部門の研究活動支援の一環として、学会ポスター原稿の作成補助、大判プリンター操作補助などを行っている。

●運営報告

①資料の収集・整理

雑誌（職員用専門誌 オンライン含む）

平成29年度 (単位：誌)

外国雑誌	101	冊子14 オンライン 87	+シュプリング・メド ライン・コレクション 約400誌パッケージ
国内雑誌	54	冊子のみ	
計	155		

●文献の入手

都立系医学研究所図書室・病院図書室との協力

(単位：誌)

		都医学研	都立（公社等） 病院	計
平成28年度	複写依頼	8	0	8
	複写受付	16	82	98
平成29年度	複写依頼	19	3	22
	複写受付	22	47	69

図書

※厚生統計協会刊行の統計類除く (単位：冊)

職員用図書 一般向け図書

	購入	寄贈	計
平成28年度	66	15	81
	129	6	135
平成29年度	57	42	99
	140	13	153

②蔵書数（平成30年3月31日現在）

図書	14,926	冊数
雑誌	469	タイトル数（オンラインジャーナル契約誌含む）
一般向け図書	1,796	冊数

※この他に、老人総合研究所・老人医療センター・健康長寿医療センター発行資料、厚生統計類を所蔵している。

③利用状況

貸出

(単位：件)

	平成28年度	平成29年度
専門図書	50	84
雑誌その他	238	232
一般向け図書	491	512
計	779	828

大学医学部図書館等との協力

(単位：件)

		大学医学部 図書館等	病院図書室等	計
平成28年度	複写依頼	2,959	0	2,959
	複写受付	0	28	28
	紹介状発行	0	0	0
平成29年度	複写依頼	3,480	0	3,480
	複写受付	0	19	19
	紹介状発行	0	0	0

その他の文献入手・・・取り寄せ申込者（職員）への案内

(単位：件)

平成28年度	当室所蔵	319
	WEB公開	1,028
	入手不能	229
平成29年度	当室所蔵	429
	WEB公開	662
	入手不能	258

●学会・研究会

宮本孝一：一般対象のヘルスリテラシー教材プラン. 第34回医学情報サービス研究大会（枚方）2017.8.26-27

宮本孝一：高齢者を対象にした健康情報サービスの特殊性.第34回医学情報サービス研究大会（枚方）2017.8.26-27

宮本孝一：出力重視・出力支援：情報出力のための情報入手-購読誌選定と学会ポスター発表支援.第34回医学情報サービス研究大会（枚方）2017.8.26-27

平成25年度の新施設建設に際し、円筒スペースの2階に『養育院・渋沢記念コーナー』が設置された。1階ホールの養育院幾星霜の図（山口晃）、養育院記念中央広場、渋沢栄一銅像、庭園、屋上庭園とともに、患者等の来訪者に特徴ある癒し空間を提供している。このコーナーは、明治5年の「養育院」開設から現在の「東京都健康長寿医療センター」に至る歴史を紹介している。また、センター各部門の催しの広報、患者・家族のための医療・健康情報を提供している。さらに、飲食のできる読書と癒しの空間を提供し、診察予告表示板（コンピューター連動で、外来診察患者受付番号が表示される）があり、外来患者の待ち時間を過ごす場ともなっている。

平成29年度の「養育院・渋沢記念コーナー」の利用状況、関連のボランティア活動について報告する。

開設以来、毎日100名前後に利用され、ノートに寄せられた感想をみても、快適な場所として好評を得ている。来院見学者への当センターの説明の場、新人職員の教育の場としての機能も果たしている。平成29年にはボランティアが常駐している約4時間だけでも毎日平均73名、伸べ18,000名/年の利用者がいた。より多くの方にご参加いただけるように新設した「ミニギャラリー青淵」、「患者様は語り部」などは、新しい試みである。

1) 歴史展示・櫻園通信

- ・当院の歴史資料とパネル、渋沢の墨跡、各種写真が展示され、歴史ビデオ、講演スライドも供覧している。
- ・展示物を解説した冊子「ようこそ養育院・渋沢記念コーナーへ」を無料配布している。
- ・歴史案内「櫻園通信（おうえんつうしん）」の作成、配布は継続し、従来の1～43号に加えて今年度は以下の号を発行した。
- 44. 渋沢栄一健康法 坂本屈伸道：宮本孝一
- 45. 斉藤家と養育院：宮本孝一
- 46. 渋沢栄一・養育院・慰霊協会による松平定信公の顕彰：稲松孝思
- 47. 養育院の原資・松平定信の七分積金について：稲松孝思
- 48. 画期的だった養育院附属病院のリハビリテーション：山本信行

これらは、センターホームページにもPDF版を掲載した。

2) 患者様は語り部

患者さんのいろいろな思いを原稿にいただき、宮本の編集でまとめて配布している。元副院長桑島巖の発案で、これまでに7名からの14の原稿を頂いている。お気軽にお申し出ください。

- 1号 益野碧：ポルトガルを歩く. H27.3
- 2号 益野碧：ポルトガルを歩く2. H27.3
- 3号 山岸美代子：青酸カリ持参の通勤一軍需工場での敗戦. H27.10
- 4号 山岸美代子：跡継ぎを失った人形師の父. H28.11
- 5号 益野碧：ポルトガルを歩く3. H28.5
- 6号 益野碧：ポルトガルを歩く4. H29.3
- 7号 益野碧：ポルトガルを歩く5. H29.3
- 8号 山岸美代子：90歳、太極拳を教えています H29.9
- 9号 百瀬武浩：昭和25年・26年、中学演劇部養育院へ. H29.10
- 10号 福島満治：卓球指導で元気はつらつ！ H29.11
- 11号 竹田忠：5分で人の輪が生まれるー魔法のバラ. H29.12
- 12号 丸谷優子：写真のような植物画ーボタニカルアートの世界. H30.2
- 13号 田村房夫：へんてこな日本の雅称「卒寿」はひどい. H30.3
- 14号 益野碧：スペイン見てある記. H30.6

3) なるほど！からだラウンジ

- ・疾患や治療法の理解を深めることに役立つ図書や、生活全般に役立つ老年学の知見に関する図書の貸出。(ボランティアがいる昼前後の時間帯のみ)
- ・熱中症やヒートショック対策、健康食品の使用上の注意など、公的機関作成パンフ類の展示。
- ・認知症、脱水などの健康状態の自己チェックシートへの配布。
- ・骨格模型を用いて、「サルコペニア」の解説を展示。
- ・電子血圧計の設置。

4) 広報

- ・公開講座など、当院主催、共催講演会の広報。
- ・治験の募集案内。
- ・がん相談支援センター案内とリーフレット設置。

5) 読書の愉しみ

- ・手続き不要の図書貸出コーナー（小説など）。

- ・職員の出版した一般向け図書紹介と購入案内。
- ・寄贈図書の受け入れ。

6) 電子メディアでの情報提供

- ・有料インターネットパソコンに、ネット上の健康情報サイトや渋沢栄一・養育院関連情報へのリンク集を設置。
- ・講演などの映像を視聴。

7) 快適空間づくり

- ・センター施設や眺望写真の展示。
- ・自然・風景、野鳥（元職員、宮本孝提供）、東北地震復興などの写真展示、スライドショー放映。
- ・皆様の写真作品展示。「棚上ミニギャラリー青淵」設置。利用者やOB・OGが提供したものもある。
- ・お雛様、七夕、正月飾り、クリスマスなどの季節の展示。
- ・「おしゃべり&つぶやき帖」：利用者の自由意見などのノート設置。
- ・「大人の塗り絵」「数独」提供。

8) 記念コーナー維持ボランティア活動

約30人のボランティアが日替わりで10～14時に待機、本の貸し出し、展示の説明などをおこなっている。また、養育院関連の歴史資料のリスト整備、櫻園通信の発行などに協力頂いている。

- ・夏冬、年2回の維持ボランティア交流会で、展示、運営上の問題などを相談、懇親会を行う。
- ・船形磨崖碑見学会（6/18）
- ・石神井学園、萩山実務学校（養育院関連）訪問。

9) 講演会開催

養育院・渋沢記念講演会（センター3階大会議室）2017.11.23

[内容]

- ・吉田政博（板橋区教育委員会）：板橋区の加賀藩下屋敷のすべて
- ・稲松孝思（当センター顧問）：各地の渋沢栄一銅像に見る足跡
参加者約150名と盛会であった。

10) 「ヒポクラテスの木」について

- ・2012年に東大から分与されたヒポクラテスの木の実生苗を育成。2014年センター玄関巨石門脇に移植。医育機関のシンボルとして育成。2018年6月現在、約6メートルに成長。本年より4-5個連なる特徴的な集合果をつけている。
- ・患者会・育寿会より寄贈された「プラタナス」苗を、新設された駐車場の緑地に移植。
- ・板橋看護専門学校の庭にも別系統のヒポクラテスの木が育っている。

- ・ギリシャのヒポクラテスの原木、ヒポクラテスの儀式の写真をコーナーに展示している。

11) 養育院中央記念広場

- ・渋沢栄一銅像：板橋区有形文化財に登録、板橋区教育委員会が解説板を設置。
- ・養育院本院碑：養育院を語り継ぐ会により設置。
- ・徳川家光、家斉墓前の石灯籠2基あり。

12) 「養育院史」に関する業績

- ・稲松孝思：養育院の最も古い史跡：明治6年に建立の大雄寺の養育院『義葬乃塚』について。第118回日本医史学会。（京都）2017.6.10.
- ・宮本孝一：高齢者を対象にした健康情報サービスの特殊性。第34回医学情報サービス研究大会（枚方）2017.8.26-27
- ・宮本孝一：一般対象のヘルスリテラシー教材プラン。第34回医学情報サービス研究大会（枚方）2017.8.26-27
- ・稲松孝思：今日の医療・社会福祉事業を切り開いた源流（渋沢栄一と東京養育院の活動）。シンポジウム－山田方谷（気学・陽明学者）と渋沢栄一（論語と算盤）にみる医療・福祉思想の源流に学ぶ。賢人を語りつなぐ会。（瀬戸内市）2017.10.7-8
- ・稲松孝思：養育院と解剖—2017年の連続剖検例10000例に至る道。東京都健康長寿医療センター病理解剖1万体制記念誌。病理診断科・高齢者バイオリソースセンター。p94-95。平成29年。
- ・楽翁記念会の講演集拝借し、複製、展示。
- ・養育院月報戦後編全12巻出版（不二出版）。2017総目録と解説に寄稿（p25-35）

[内容]

- ・稲松孝思、中村弘、湊與志孝、河西量次：「養育院」を語る形あるもの
- ・佐藤廣昭：養育院本院（板橋）罹災と練馬分院について
- ・上島康生：養育院東村山分院の果たした役割
- ・細川修：養育院千葉分院における障害者教育の拡充
- ・河西量次：私にとっての昭和47年

13) コーナーの問題点

- ・昼食時間帯に、利用者集中。この時間帯の職員の利用は制限している。
- ・採光、日照時間帯のブラインドの調整。
- ・天蓋の着色。
- ・センターと無関係な住民の使用。
- ・空いている時間帯の職員使用の推進。
- ・展示スペース、ディスプレイの充実。
- ・「養育院開設150周年」記念行事予定。

研究活動

理事長 井藤 英喜	129
センター長 許 俊鋭	132
副院長 原田 和昌	134
副院長 黒岩厚二郎	138
総合診療科	139
膠原病・リウマチ科	139
腎臓内科・血液透析科	141
糖尿病・代謝・内分泌内科	142
循環器内科	154
呼吸器内科	161
神経内科・脳卒中科	162
血液内科	165
感染症内科	166
精神科・もの忘れ外来	167
外科	169
血管外科	170
心臓外科	170
脳神経外科	174
呼吸器外科	174
整形外科・脊椎外科	175
皮膚科	177
泌尿器科	177
眼科	177
耳鼻咽喉科	178
歯科口腔外科	179
麻酔科	184
リハビリテーション科	184
リハビリテーション科（理学療法担当）	188
リハビリテーション科（作業療法担当）	189
リハビリテーション科（言語聴覚担当）	189
リハビリテーション科（臨床心理担当）	189
放射線診断科	190
放射線治療科	194
消化器内科・内視鏡科	195
化学療法科	196
臨床検査科	196
輸血・細胞療法科	198
病理診断科	199
薬剤科	204
栄養科	204
臨床研究推進センター	205
臨床試験管理センター	207
高齢者バイオリソースセンター	207
高齢者健康増進センター	208

■研究活動

理事長 井藤 英喜

●雑誌論文

1. Atsushi Araki, Yukio Yoshimura, Takashi Sakurai, Hiroyuki Umegaki, Chiemi Kamada, Keiko Kamada, Satoshi Iimuro, Yasuo Ohashi, Hideki Ito : Low intakes of carotene , vitamin B2, pantothenate and calcium predict cognitive decline among elderly patients with diabetes mellitus : The Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. *Geriatrics & Gerontology International* 2017 ; 17(8) : 1168-1175
2. Yasuyoshi Ouchi, Horomi Rakugi, Hidenori Arai, Masahiro Akishita, Hideki Ito, Kenji Toba, Ichiro Kai, on behalf of Joint Committee of Japan : Redefining the elderly as aged 75 years and older : Proposal from the Joint Committee of Japan Gerontological Society and the Japan Geriatrics Society. *Geriatrics & Gerontology International* 2017 ; 17(7) : 1045-1047
3. Nakazawa H, Ikeda K, Shinozaki S, Kobayashi M, Ikegami Y, Fu M, Nakamura T, Yasuhara S, Yu YM, Martyn JAJ, Tompkins RG, Shimokado K, Yorozu T, Ito H, Inoue S, Kaneki M : Burn-induced muscle metabolic derangements and mitochondrial dysfunction are associated with activation of HIF-1 α and mTORC1 : Role of protein farnesylation. *Scientific reports* 2017 ; 7(1) : 6618
4. Murayama H, Shinkai S, Nishi M, Taniguchi Y, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Yoshida H, Fujiwara Y, Ito H : Albumin, hemoglobin, and the trajectory of cognitive function in community-dwelling older Japanese : a 13-year longitudinal study. *Journal of Prevention of Alzheimer's Disease* 2017 ; 4(2) : 93-99
5. Yoshiaki Tamura, Yoshiyuki Kimbara, Takuya Yamaoka, Ken Sato, Yuki Tsuboi, Remi Kodera, Yuko Chiba, Seiji Mori, Yoshinori Fujiwara, Aya Tokumaru, Hideki Ito, Takashi Sakurai, Atsushi Araki : White Matter Hyperintensity in Elderly Patients with Diabetes mellitus is associated with cognitive impairment, functional disability, and a high glycoalbumin/glycohemoglobin ratio. *Frontiers in Aging Neuroscience* 2017 ; 9 : 220
6. Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi S, Harada K, Kyo S, Ito H : Femoral muscle mass related to physical frailty components in community-dwelling older people. *Geriatrics & Gerontology International* 2017 ; 17(10) : 1636-1641
7. Masamitsu Sugie, Kazumasa Harada, Tetsuya Takahashi, Marina Nara, Joji Ishikawa, Teruyuki Koyama, Hunkyung Kim, Jun Tanaka, Hajime Fujimoto, Shuichi Obuchi, Stephan von Haehling, Syunei Kyo, Hideki Ito : Relationship between skeletal muscle mass and cardiac function during exercise in community-dwelling older adults. *European Society of Cardiology Heart Failure* 2017 ; 4(4) : 409-416
8. Naito E, Yoshida Y, Kunihiro S, Makino K, Kasahara K, Kounoshi Y, Aida M, Hoshi R, Watanabe O, Igarashi T, Miyazaki K, Ito H : Effect of Lactobacillus casei strain Shirota-fermented milk on metabolic abnormalities in obese pre-diabetic Japanese men : a randomised, double-blind, placebo-controlled trial. *Bioscience of microbiota, food and health* 2018 ; 37(1) : 9-18
9. Marina Nara, Masamitsu Sugie, Tetsuya Takahashi, Teruyuki Koyama, Shuichi Obuchi, Kazumasa Harada, Shunei Kyo, Hideki Ito : Japanese version of Montreal Cognitive Assessment cut-off score to clarify improvement of mild cognitive impairment after exercise training in community-dwelling older adults. *Geriatrics & Gerontology International* 2018 ; 18(6) : 833-838
10. Chika Horikawa, Chiemi Kamada, Shiro Tanaka, Sachiko Tanaka, Atsushi Araki, Hideki Ito, Satoshi Matsunaga, Kazuya Fujihara, Yukio Yoshimura, Yasuo Ohashi, Yasuo Akanuma, and Hirohito Sone, Japan Diabetes Complications Study Group : Meat intake and incidence of cardiovascular disease in Japanese patients with type 2 diabetes : analysis of the Japan Diabetes Complications Study (JDACS). *European journal of nutrition* 2017 ; [Epub ahead of print]
11. 樂木宏実, 山本浩一, 荒木 厚, 横手幸太郎,

井藤英喜, 荒井秀典, 大石 充, 小林一貴, 櫻井 孝, 田村嘉章, 林登志雄, 赤坂 憲, 伊東範尚, 小黒亮輔, 杉本 研, 鷹見洋一, 武田昌生, 竹屋 泰, 樋口勝能, 前川佳敬, 日本老年医学会「高齢者の生活習慣病管理ガイドライン」作成ワーキング: 高齢者高血圧診療ガイドライン2017. 日本老年医学会雑誌 2017; 54(3): 236-298

12. 山岡巧弥, 田村嘉章, 小寺玲美, 坪井由紀, 佐藤 謙, 千葉優子, 森 聖二郎, 井藤英喜, 荒木 厚: 高血糖高浸透圧症候群 (HHS) を発症した高齢者の背景因子と臨床的特徴の検討. 日本老年医学会雑誌 2017; 54(3): 349-355
13. 日本老年医学会「高齢者の生活習慣病管理ガイドライン」作成ワーキング (荒木 厚, 横手幸太郎, 荒井秀典, 千葉優子, 井藤英喜): 高齢者脂質異常症診療ガイドライン2017. 日本老年医学会雑誌 2017; 54(4): 467-490
14. 吉村幸雄, 井藤英喜, 吉村英悟, 鎌田智英実, 奥村亮太, 秦野佑紀, 鈴木太朗, 堀江寿美, 高谷浩司, 大見英明: 地域在住高齢女性における移動販売車利用者の栄養および食品摂取状況について. 日本老年医学会雑誌 2018; 55(1): 51-64

●総説

1. 井藤英喜: 特集「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標-新しい考え方と栄養指導のあり方」特集にあたって. 臨床栄養 2017; 130(7): 1019
2. 井藤英喜: 特集「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標-新しい考え方と栄養指導のあり方」高齢者糖尿病の特徴. 臨床栄養 2017; 130(7): 1020-1025
3. 井藤英喜: 糖尿病学会と老年医学会が本邦初の「高齢者糖尿病診療ガイドライン」を作成. 日本医事新報2017; 4866: 8-9
4. 羽田勝計, 井藤英喜, 荒木 厚, 稲垣暢也: Special Talking 『高齢者糖尿病診療ガイドライン2017』作成にあたって. Diabetes Journal 2017; 45: 87-94
5. 井藤英喜: 高齢者糖尿病医療の現況と展望. 日本臨床 2017; 75(11): 1653-1659
6. 荒木 厚, 井藤英喜: 糖尿病介入研究と動脈硬化 7 J-EDIT: 総合的多因子介入と生活習慣改善による糖尿病大血管症の改善. 動脈硬化予防 2017; 16(4): 38-45
7. 井藤英喜: よりよい生活習慣の実践で健康寿命の延伸を. Aging & Health 2018; 26(4): 4
8. 荒木 厚, 井藤英喜: 「高齢者糖尿病診療ガイドライン2017」を踏まえた治療の要点と展望. 日

本老年医学会雑誌 2018; 55(1): 1-12

●学会・研究会発表

1. Shunei Kyo, Hideki Ito, Mitsuru Ono: How to manage end-stage heart failure in the super-aged society. The 8th Asia Aging Innovation Forum (Singapore) 2017.4.25-26
2. 井藤英喜: 「教育講演 健康長寿」最近のエビデンス. 東京都健康長寿医療センター高齢者口腔機能支援センター研修会 (東京) 2017.5.21
3. 荒木 厚, 井藤英喜: シンポジウム 高齢者糖尿病治療について-高齢者糖尿病診療ガイドラインを中心に-高齢者糖尿病の食事療法. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会 (名古屋) 2017.5.18-20
4. 荒木 厚, 井藤英喜: 高齢者糖尿病の食事療法の課題と展望-日本老年医学会から. シンポジウム「これからの食事療法の展望-関連学会からの提言」. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会 (名古屋) 2017.5.18-20
5. 小寺玲美, 千葉優子, 山岡巧弥, 田村嘉章, 石川讓二, 森聖二郎, 井藤英喜, 荒木厚: 糖尿病患者の軽度認知機能障害と身体機能との関連. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会 (名古屋) 2017.5.18-20
6. 井藤英喜: 高齢者糖尿病診療ガイドラインの概要. シンポジウム「糖尿病と認知症-高齢者糖尿病の治療ガイドライン」第59回日本老年医学会学術集会 (名古屋) 2017.6.14-16
7. 横手幸太郎, 粟田主一, 荒木 厚, 井藤英喜: 認知機能・ADLの評価と手法. シンポジウム「糖尿病と認知症-高齢者糖尿病の治療ガイドライン」. 第59回日本老年医学会学術集会 (名古屋) 2017.6.14-16
8. 荒木 厚, 井藤英喜: 糖尿病におけるフレイル-身体活動量、栄養、脳白質統合性との関連. シンポジウム「糖尿病と認知症-高齢者糖尿病の治療ガイドライン」. 第59回日本老年医学会学術集会 (名古屋) 2017.6.14-16
9. 金澤伸郎, 黒岩厚二郎, 新開省二, 石崎達郎, 吉田孝司, 三井秀雄, 荒木 厚, 井藤英喜, 許俊鋭: フレイルと手術適応-術前リスク評価としての位置づけ-. シンポジウム「高齢者外科手術の限界」. 第59回日本老年医学会学術集会 (名古屋) 2017.6.14-16
10. 板橋美津世, 武井 卓, 櫻井裕子, 鶴田悠木, 湯村和子, 許 俊鋭, 井藤英喜: 高齢慢性腎臓病患者におけるクレアチニンとシスタチンCを用いた推定糸球体濾過量の相違. 第59回日本老年医学会学術集会 (名古屋) 2017.6.14-16

11. 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 奈良毬那, 河合 恒, 藤本 肇, 大瀨修一, 小山照幸, 許 俊鋭, 井藤英喜: 通院高齢者のフレイル対策を目的とするようセンターの「高齢者健康増進センター」が開発したコンビネーション・トレーニングの包括的フレイルへの有効性. 第59回日本老年医学会学術集会(名古屋) 2017.6.14-16
 12. 小寺玲美, 千葉優子, 山岡巧弥, 田村嘉章, 石川讓二, 森聖二郎, 井藤英喜, 荒木厚: 糖尿病患者の軽度認知機能障害と身体機能について. 第59回日本老年医学会学術集会(名古屋) 2017.6.14-16
 13. 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 奈良毬那, 小山照幸, 藤本 肇, 大瀨修一, 金 憲経, 許 俊鋭, 井藤英喜: 地域在住高齢者におけるフレイル関連因子とpeak VO₂との関連. 第59回日本老年医学会学術集会(名古屋) 2017.6.14-16
 14. 奈良毬那, 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 大瀨修一, 小山照幸, 許 俊鋭, 井藤英喜: 地域在住高齢者の運動参加頻度がフレイル関連指標に及ぼす影響. 第59回日本老年医学会学術集会(名古屋) 2017.6.14-16
 15. 周赫英, 森聖二郎, 山賀政弥, 竹本稔, 小寺玲美, 田村嘉章, 千葉優子, 荒木厚, 井藤英喜, 横手幸太郎: ウェルナー症候群に合併する骨粗鬆症の臨床的特徴に関する研究. 第59回日本老年医学会学術集会(名古屋) 2017.6.14-16
 16. 石崎達郎, 光武誠吾, 寺本千恵, 山岡巧弥, 清水沙友里, 井藤英喜: 後期高齢者の受診医療機関数と多剤処方との関連. 第59回日本老年医学会学術集会(名古屋) 2017.6.14-16
 17. Tatsuro Ishizaki, Seigo Mitsutake, Takuya Yamaoka, Sayuri Shimizu, Hideki Ito: Association between Individual Chronic Diseases and Polypharmacy among Elderly Patients in Japan. International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) 2017 (San Francisco) 2017.7.23-27
 18. 大庭和人, 千葉優子, 館鼻彩, 山岡巧弥, 小寺玲美, 豊島堅司, 田村嘉章, 森聖二郎, 井藤英喜, 荒木厚: 高浸透圧高血糖状態とケトアシドーシスを呈した高齢2型糖尿病の一例. 第55回日本糖尿病学会関東甲信越地方会(新潟) 2018.1.20
- 東京都健康長寿医療センター研究所編著: 健康長寿新ガイドライン エビデンスブック. 東京都健康長寿医療センター研究所 東京 2017
3. 井藤英喜: 刊行によせて. 井藤英喜, 許 俊鋭顧問, 東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿ガイドライン委員会, 東京都健康長寿医療センター研究所編著: 健康長寿新ガイドライン エビデンスブック. 東京都健康長寿医療センター研究所 東京 2017 i 頁
 4. 井藤英喜: 生活習慣病 1. 3本の矢(食事、身体活動、社会参加)は生活習慣病の管理にも健康長寿にもあてはまる. 井藤英喜, 許 俊鋭顧問, 東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿ガイドライン委員会, 東京都健康長寿医療センター研究所編著: 健康長寿新ガイドライン エビデンスブック. 東京都健康長寿医療センター研究所 東京 2017 p17-109
 5. 井藤英喜, 新開省二, 高橋龍太郎監修: 復興を見つめて - 東京都健康長寿医療センター東日本大震災被害者支援プロジェクト5年半の取り組み. 東京法規出版 東京 2018
 6. 井藤英喜: はじめに. 井藤英喜, 新開省二, 高橋龍太郎監修: 復興を見つめて - 東京都健康長寿医療センター東日本大震災被害者支援プロジェクト5年半の取り組み. 東京法規出版 東京 2018 p2-4
 7. 井藤英喜監修, 伊東美緒, 木村陽子編集: 認知症の人の「想い」からつくるケア 急性期病院編. インターメディカ 東京 2017
 8. 井藤英喜: 監修者のことば. 井藤英喜監修, 伊東美緒, 木村陽子編集: 認知症の人の「想い」からつくるケア 急性期病院編. インターメディカ 東京 2017 p2-3
 9. 井藤英喜監修, 伊東美緒, 木村陽子編集: 認知症の人の「想い」からつくるケア 在宅ケア 介護施設療養型病院編. インターメディカ 東京 2017
 10. 井藤英喜 監修者のことば. 井藤英喜監修, 伊東美緒, 木村陽子編集: 認知症の人の「想い」からつくるケア 在宅ケア 介護施設 療養型病院編. インターメディカ 東京 2017
 11. 日本老年医学会, 日本糖尿病学会[高齢者糖尿病の治療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会(井藤英喜, 荒木 厚, 櫻井 孝, 横手幸太郎, 羽田勝計, 稲垣暢也 鈴木 亮, 綿田裕孝)]: 日本老年医学会, 日本糖尿病学会編著: 高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017. 南江堂 東京 2017
 12. 井藤英喜: 高齢者糖尿病の特徴. 稲垣暢也編集: 高齢者における糖尿病治療薬の使い方-新たな

●単行書・報告書

1. 井藤英喜監修: 平成29年度版 要介護認定申請者のための介護と保健ガイドブック. 一般社団法人日本保健情報コンソシウム 東京 2017
2. 井藤英喜, 許 俊鋭顧問, 東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿ガイドライン委員会,

- カテゴリー別目標値への適切な対応のために、フジメディカル出版 大阪 2017 p12-17
13. 井藤英喜：健康長寿に関するエビデンス。一般社団法人東京内科医会広報部編集：第30回日本臨床内科医学会記念誌。一般社団法人東京内科医会 東京 2017 p142-150
 14. 磯部光章, 門脇 孝, 田中俊博, 春日雅人, 永井良三, 山下俊一, 安藤譲二, 和泉 徹, 井藤英喜, 稲垣暢也, 小室一成, 澤 芳樹, 清野 進, 高本眞一, 福井次矢, 堀 正二, 松本万夫, 山科 章, 横手正之, 学術会議臨床医学委員会, 循環器・内分泌・代謝分科会報告：超高齢社会における生活習慣病の研究と医療体制。日本学術会議 東京 平成29年(2017年)9月29日
 15. 井藤英喜：尿に出る糖よりも、血中の糖の量(血糖値)が問題。その【血糖値】は、薬物療法だけでは下がらない。血糖値にググッと効く生活習慣。主婦の友社編集 東京 2018 p14-20
 16. 井藤英喜：高齢者糖尿病(監修), 門脇 孝, 小室一成, 宮地良樹：日常診療に活かす診療ガイドライン UO-TO-DATE 2018→2019。メディカルレビュー社 大阪 2018 p1005-1011
 17. 日本糖尿病学会・日本老年医学会(高齢者糖尿病の治療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会 日本糖尿病学会：羽田勝計【代表委員】, 稲垣暢也, 鈴木 亮, 綿田祐孝, 日本老年医学会：井藤英喜【代表委員】, 荒木 厚, 櫻井 孝, 横手幸太郎, 日本糖尿病学会・日本老年医学会編：高齢者糖尿病治療ガイド2018。文光堂 東京2018
- corrected transposition of great arteries. Journal of Vascular Medicine & Surgery 2017 ; 5(6) : 349 DOI : 10.4172/2329-6925.1000349 (Open access journal)
4. Kohno H, Matsumiya G, Sawa Y, Ono M, Saiki Y, Shiose A, Yamazaki K, Matsui Y, Niinami H, Matsuda H, Kitamura S, Nakatani T, Kyo S : The Jarvik 2000 left ventricular assist device as a bridge to transplantation : Japanese Registry for Mechanically Assisted Circulatory Support. The Journal of heart and lung transplantation 2018 ; 37(1) : 71-78
 5. Nara M, Sugie M, Takahashi T, Koyama T, Sengoku R, Fujiwara Y, Obuchi S, Harada K, Kyo S, Ito H : Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment cut-off score to clarify improvement of mild cognitive impairment after exercise training in community-dwelling older adults . Geriatrics & gerontology international 2018 [Epub ahead of print]
 6. 村上倫子, 増澤 徹, 小沼弘幸, 西村 隆, 許 俊鋭：薄小型補助人工心臓用磁気浮上カスケードポンプのインペラ浮上特性。ライフサポート 2017 ; 29(2) : 56-62
 7. 村上倫子, 増澤 徹, 小沼弘幸, 西村 隆, 許 俊鋭：作動流体粘度が磁気浮上補助人工心臓のポンプ特性およびインペラ浮上性能に与える影響。ライフサポート 2017 ; 29(3) : 94-99
 8. Chinzei K, Shimizu A, Mori K, Harada K, Takeda H, Hashizume M, Ishizuka M, Kato N, Kawamori R, Kyo S, Nagata K, Yamane T, Sakuma I, Ohe K, Mitsuishi M : Regulatory Science on AI-based Medical Devices and Systems. Advanced Biomedical Engineering 2018 ; 7 : 118-123

センター長 許 俊鋭

●雑誌論文

1. Kyo S : Chisato Nojiri : Female Cardiac Surgeon, CEO of Venture Company , Developer of Implantable LVAD With Magnetic Levitation Mechanism. Artificial organs 2017 ; 41(5) : 407-410
2. Sugie M, Harada K, Takahashi T, Nara M, Ishikawa J, Koyama T, Kim H, Tanaka J, Fujimoto H, Obuchi S, von Haehling S, Kyo S, Ito H : Relationship between skeletal muscle mass and cardiac function during exercise in community-dwelling older adults. ESC heart failure 2017 ; 4(4) : 409-416
3. Mano A, Nishimura T, Murata T, Kawata M, Tanaka J, Takeda K, Ishikawa J, Fujimoto H, Harada K, Kyo S : Jarvik 2000 implantation in anatomical right ventricle on patients with

●総説

1. 許 俊鋭：巻頭言「補助循環の最近の進歩と近未来の展望2017」。Clinical Engineering 2017 ; 28(8) : 633
2. 許 俊鋭：高齢者のための医療は治す医療から支える医療へ。東京都医師会報「元気がいいね」2017 ; 104 : 6-7

●学会・研究会発表

1. 板橋美津世, 武井 卓, 橘 靖子, 山中法子, 櫻井裕子, 鶴田悠木, 湯村和子, 許 俊鋭, 井藤英喜：高齢腎臓病患者における推定糸球体濾過量の評価。日本腎臓学会誌 2017 ; 59(3) 319
2. 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 奈良毬那, 小

- 山照幸, 藤本 肇, 大淵修一, 金 憲経, 許 俊鋭, 井藤英喜: 地域在住高齢者におけるフレイル関連因子とpeak VO₂との関係. 日本老年医学会雑誌 2017; 54 Suppl: 160
3. 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 奈良毬那, 河合 恒, 藤本 肇, 大淵修一, 小山照幸, 許 俊鋭, 井藤 英喜: 通院高齢者のフレイル対策を目的とする当センターの「高齢者健康増進センター」が開発したコンビネーション・トレーニングの包括的フレイルへの有効性. 日本老年医学会雑誌 2017; 54 Suppl: 154
 4. 板橋美津世, 武井 卓, 櫻井裕子, 鶴田悠木, 湯村和子, 許 俊鋭, 井藤英喜: 高齢慢性腎臓病患者におけるクレアチニンとシスタチンCを用いた推定糸球体濾過量の相違. 日本老年医学会雑誌 2017; 54 Suppl: 138
 5. 金澤伸郎, 黒岩厚二郎, 新開省二, 石崎達郎, 吉田孝司, 三井秀雄, 荒木 厚, 井藤 英喜, 許俊鋭: 高齢者外科手術の限界 フレイルと手術適応 術前リスク評価としての位置づけ. 日本老年医学会雑誌 2017; 54 Suppl: 89
 6. 奈良毬那, 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 大淵修一, 小山照幸, 許 俊鋭, 井藤 英喜: 地域在住高齢者の運動参加頻度がフレイル関連指標に及ぼす影響. 日本老年医学会雑誌 2017; 54 Suppl: 161
 7. 村田知洋, 河田光弘, 加藤倫子, 西村 隆, 許 俊鋭: Stanford B型急性大動脈解離破裂に対しTEVARにて救命し得た高齢者の1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 2017; 174: 11
 8. 河田光弘, 村田知洋, 加藤倫子, 眞野暁子, 西村 隆, 許 俊鋭: 胸腹部大動脈から両総腸骨動脈人工血管置換術後、全下行大動脈が治療対象となり、段階的TEVARが安全で有効であった. 人工臓器 2017; 46(2): S-157
 9. 眞野暁子, 西村 隆, 河田光弘, 加藤倫子, 村田知洋, 十菱千尋, 田中 旬, 武田和大, 石川讓治, 藤本 肇, 鉄谷祥子, 有馬由加里, 石井正晃, 本田博一, 小澤 直人, 村野井一樹, 原田和昌, 許俊鋭: 機能的左室にJarvik 2000を植え込み適切に管理し得た修正大血管転移症患者の一例. 人工臓器 2017; 46(2): S-134
 10. 佐藤 太, 増澤 徹, 長 真啓, 信太宗也, 大野 康平, 西村 隆, 許 俊鋭: 磁気浮上型体外循環血液ポンプの血液適合性向上のための浮上インペラ振れ回り運動解析. 人工臓器 2017; 46(2): S-131
 11. 菅原美希, 西村 隆, 本田博一, 村野井一樹, 小澤直人, 石井正晃, 関 祐子, 土田真吏奈, 村 知洋, 河田光弘, 許 俊鋭: 長期使用型遠心ポンプTERUMO社製キャピオックスカスタムパックEBS心肺キットSLタイプの使用報告. 人工臓器 2017; 46(2): S-96
 12. 河田光弘, 村田知洋, 西村 隆, 許 俊鋭: 肺結核治療中に発症した、急性期大動脈解離(Stanford A)、右鎖骨下動脈起始異常に対して、緊急手術にて救命し得た93歳女性. 日本老年医学会雑誌 2017; 54(4): 636
 13. 河田光弘, 伊藤卓也, 西村 隆, 許 俊鋭: 胆嚢炎併存、亜急性期大動脈解離(Stanford A)に対して、術前準備を計画的に行い、上行弓部大動脈置換術を無輸血で合併症無く施行し得た78歳女性. 日本老年医学会雑誌 2017; 54(4): 605
 14. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 西村 隆, 許 俊鋭: 高齢者の心臓血管手術: 90歳代A型急性大動脈解離における間歇的静脈圧増強逆行性脳灌流法の有用性. 日本臨床外科学会雑誌 2017; 78巻増刊: 395
 15. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 西村 隆, 許 俊鋭: ここまで来た日本の補助人工心臓: 当院における60歳以上の補助人工心臓治療の現状. 日本臨床外科学会雑誌 2017; 78巻増刊: 384
 16. 村田知洋, 河田光弘, 西村 隆, 許 俊鋭: 偽腔閉塞型のStanford A型大動脈解離保存加療退院後に偽腔開存にて手術に至った1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 2017; 175: 29
 17. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 西村隆, 許俊鋭: 慢性腎機能低下のある下行大動脈嚢状瘤急速拡大に対して、造影剤腎症を回避しTEVARを有効に施行し得た91歳女性の術後2年間のfollow up. 第67回 日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京) 2018.3.3
- 講師等院外活動 (講演・放送等)
1. Shunei KYO, Hideki ITO, Minoru Ono: How to Manage End-stage Heart Failure in the Super-aged Society. "FUTURE OF INTEGRATED CARE: HOUSING, HEALTH & COMMUNITIES". AAIF 2017. (シンガポール) 2017. 4. 25-26
 2. 許 俊鋭: シンポジウム「医療機器利用者からの声」. 医療機器安全のための医療産業研修2017 (東京) 2017.5.6
 3. 許 俊鋭: 70歳からの心臓手術最新事情 - 高齢者に優しい低侵襲手術とは -. ベネッセ地域医療セミナー. (東京) 2017.5.7
 4. 許 俊鋭: 医療安全管理者のあり方. 医療安全基礎講座2017(第10周年) - 医療安全の基本. (東

- 京) 2017.7.5
5. 許 俊鋭：シンポジウム2「高齢者DTの現状と将来」. 第36回日本心臓移植研究会. (秋田) 2017.10.14
 6. 許 俊鋭：(シンポジウム Ⅲ) 医療安全教育へ倫理をどう進めるべきか - 病院長の立場から - 医療安全教育セミナー(実践編)2017. (東京) 2017.10.22.
 7. 許 俊鋭：重症心不全の外科治療：心臓移植と補助人工心臓治療について. 第41回東京電機大学ME公開講座. (東京) 2017.11.14
 8. 許 俊鋭：(鼎談1)脳死移植法成立後20年の軌跡(心臓移植). 第9回東大病院移植医療シンポジウム-脳死法案成立後20年の軌跡、そしてこれからの20年-. (東京) 2017.12.9
 9. 許 俊鋭：EL01：教育講演「チームで進める医療機器の安全管理」. 4回日本医療安全学会学術総会. (東京) 2018.2.17
 10. 許 俊鋭：教育講演「重症心不全に対する補助人工心臓治療」. 第34回日本医工学治療学会. (埼玉) 2018.3.17
 11. 許 俊鋭：「重症心不全の治療戦略」- 自宅復帰・社会復帰を如何に実現するか? -. 東京大学医学部重症心不全治療開発講座10周年記念報告会. (東京) 2018.3.31

●単行書・報告書

1. 許 俊鋭, 安原 洋, 粕田晴之, 小野哲章, 戸畑裕志 編集：臨床工学技士のための周術期管理学研メディカル秀潤社 東京 2018
2. NPO法人医工連携推進機構編集(許 俊鋭、立石哲也)：医療機器への参入のためのガイドブック 第2版. 薬事日報社 東京 2017
3. 石塚真由美, 大江和彦, 加藤進昌, 河盛隆造, 許 俊鋭, 清水昭伸, 武田英明, 鎮西清行, 永田恭介, 橋爪 誠, 原田香奈子, 光石 衛, 森健策, 山根 隆志：「AI を活用した医療診断システム・医療機器等に関する課題と提言2017」PMDA 科学委員会 ホームページ (<https://www.pmda.go.jp/files/000224080.pdf>)

●その他

1. 許 俊鋭：第67回日本老年医学会関東甲信越地方会会長 (東京) 2018.3.3

副院長 原田 和昌

●雑誌論文

1. 弓倉 整, 水野重樹, 大野安実, 野村周三, 三浦直久, 山口武兼, 中島英樹, 畑 明宏, 金丸和富,

- 石川讓治, 原田和昌, 畑中裕己, 上妻 謙, 須磨健, 奥村恭男, 平山 篤志, 福島崇夫, 田城孝雄：東京都板橋区における脳卒中と抗凝固薬の関係(第2報). 日本医師会雑誌 2017；146(7)：1423-1428
2. 白石泰之, 香坂 俊, 原田和昌, 宮本貴庸, 谷本周三, 飯田 圭, 酒井哲朗, 宮崎哲郎, 矢川真弓子, 松下健一, 降旗修太, 佐藤直樹, 福田恵一, 山本 剛, 長尾 建, 高山守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会：急性非代償性心不全における急性期の血圧変動と予後への影響. ICUとCCU 2017；41 (別冊)：S95-S101
 3. 藤本 肇, 小宮山 浩大, 及川 恵子, 朴沢 英成, 原田 和昌, 中村 正人, 代田 浩之, 山本 剛, 長尾 建, 高山 守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会：救急要請された冠攣縮性狭心症発作の日内分布についての検討 東京都CCUネットワーク・コホート研究. ICUとCCU 2017；41 (別冊)：S104-S105
 4. Toba A, Ishikawa J, Harada K：Orthostatic hypotension and association of arterial compliance in elderly patients with hypertension：a pilot study. Blood pressure monitoring 2017；22(5)：274-278
 5. Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi S, Harada K, Kyo S, Ito H：Femoral muscle mass relates to physical frailty components in community-dwelling older people. Geriatrics & gerontology international 2017；17(10)：1636-1641
 6. Sugie M, Harada K, Takahashi T, Nara M, Ishikawa J, Koyama T, Kim H, Tanaka J, Fujimoto H, Obuchi S, von Haehling S, Kyo S, Ito H：Relationship between skeletal muscle mass and cardiac function during exercise in community-dwelling older adults. ESC heart failure 2017；4(4)：409-416
 7. Ishikawa J, Yamanaka Y, Toba A, Watanabe S, Harada K：Gender-Adjustment and Cutoff Values of Cornell Product in Hypertensive Japanese Patients. International heart journal 2017；58(6)：933-938
 8. Matsushita K, Harada K, Miyazaki T, Miyamoto T, Kohsaka S, Iida K, Tanimoto S, Yagawa M, Shiraiishi Y, Yoshino H, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M：Effect of Heart Failure Secondary to Ischemic Cardiomyopathy on Body Weight and Blood Pressure. The American Journal of cardiology 2017；120(9)：1589-1594

9. Toba A, Kariya T, Aoyama R, Ishiyama T, Tsuboko Y, Takeda K, Fujimoto H, Shimokado K, Harada K : Impact of age on left ventricular geometry and diastolic function in elderly patients with treated hypertension. Blood pressure 2017 ; 26(5) : 264-271
10. Aoyama R, Ishikawa J, Harada K, Tukada Y : Tuberculous pericarditis treated with steroid in a dialysis patient. BMJ Case Reports 2017 ; doi:10. 1136/bcr-2017-220562 [Epub Ahead of print]
11. Shiraishi Y, Kohsaka S, Abe T, Harada K, Miyazaki T, Miyamoto T, Iida K, Tanimoto S, Yagawa M, Takei M, Nagatomo Y, Hosoda T, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M, Tokyo CCU Network Scientific Committee : Impact of Triggering Events on Outcomes of Acute Heart Failure. The American journal of medicine 2018 ; 131(2) : 156-164

●総説

1. 原田和昌 : 【動脈硬化性病変とフレイルの関連性】 高齢者心不全とフレイル、サルコペニア. Arterial Stiffness : 動脈壁の硬化と老化 2017 ; 23 : 20-21
2. 原田和昌 : 高齢者心不全の疫学と特徴 「高齢心不全患者の治療に関するステートメント」を踏まえて. Aging & Health 2017 ; 26(3) : 6-9
3. 原田和昌, 安齊 俊久, 今井 靖, 絹川 弘一郎 : 高齢者心不全のトータルマネージメント. Therapeutic Research 2018 ; 29(1) : 9-16
4. 原田 和昌, 阿部雅紀, 安齊俊久, 長谷部直幸 : CKD/透析患者の心血管合併症とその対策. 臨床医のための循環器診療 2018 ; 28 : 3-18
5. 原田和昌 : 研究室紹介(244) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター循環器内科. 血圧 2017 ; 24(8) : 78-79
6. 原田和昌 : 症例に学ぶ 医師が処方を決めるまで 高齢者の慢性心不全. 日経ドラッグインフォメーション(プレミアム版) 2017 ; 5 : 22-25

●学会・研究会発表

1. 原田和昌 : SESSION III-II 脳梗塞、認知症、Atheromatous EmbolizationさらにCholesterol Crystal. TCIF 2017 (大阪) 2017.4.22
2. 鳥羽梓弓, 原田和昌 : 高齢者の心不全. 第59回日本老年医学会学術集会シンポジウム (名古屋) 2017.6.14
3. 根本 佳子, 石川 譲治, 二見 崇太郎, 十菱 千尋, 田中 旬, 武田 和夫, 原田 和昌 : 超高齢者

心不全の急性期治療. 第65回日本心臓病学会学術集会シンポジウム (大阪) 2017.9.29

4. 原田和昌 : 高齢者心不全治療の新しい考え方をステートメントをふまえて. 第28回日本老年医学会東海地方会教育企画 (名古屋) 2017.9.30
5. 石川 譲治, 原田 和昌 : POST-SPRINTの日本人高血圧治療戦略 だれを対象に、どの降圧薬で、どこまで降圧するか SPRINT研究における外来血圧は日常診療の外来血圧のどのレベルに相当するのか? 第65回日本心臓病学会学術集会シンポジウム (大阪) 2017.10.1
6. 原田和昌 : ランチョンセミナー. フレイルな高齢高血圧患者の治療を考える. 第40回日本高血圧学会総会 (松山) 2017.10.20
7. 石川譲治, 原田和昌 : 高齢高血圧患者のフレイルおよび認知機能障害の診断と低血圧に関する問題について. 第40回日本高血圧学会総会会長特別企画 (松山) 2017.10.20
8. 原田和昌 : ランチョンセミナー. フレイル、低栄養、併存症を考慮した超高齢者の心不全治療. 第3回日本心臓リハビリテーション学会九州地方会 (鹿児島) 2017.10.29
9. 石川 譲治, 原田 和昌 : 併存疾患における最新至適高血圧治療を探る. 第82回日本循環器学会シンポジウム (大阪) 2018.3.25

●講師等院外活動 (講演・放送等)

1. 原田和昌 : 循環器医からみる高齢者における消化管疾患マネージメント. 板橋区医師会学術講演会 (板橋) 2017.4.4
2. 原田和昌 : 心房細動と心不全の不思議な関係. 不整脈合併心不全患者を考える会 (徳島) 2017.4.5
3. 原田和昌 : 超高齢者心不全治療の新しい考え方をステートメントをふまえて. 循環器セミナー - 心不全緩和を考える - (東京) 2017.4.10
4. 原田和昌 : 心血管イベントを考慮した糖尿病治療 - EMPA-REG心不全アウトカムをふまえて. T2DM Leaders Forum (北海道) 2017.4.12
5. 原田和昌 : 高齢者における心血管イベントを抑制する糖尿病治療とは. 益田市医師会学術講演会 (島根) 2017.4.14
6. 原田和昌 : 高齢者心不全患者の治療に関するステートメントの解説. 副都心サーキュレーションセミナー (東京) 2017.4.19
7. 原田和昌 : 健康長寿を考慮した脂質治療 - 循環器疾患と ω 3脂肪酸 -. 循環器疾患講演会 - 将来の展望と課題 - (東京) 2017.4.20
8. 原田和昌 : 心血管イベントを考慮した糖尿病治

- 療 - EMPA-REG心不全アウトカムをふまえて - T2DM Forum in 渋谷 (東京) 2017.4.26
9. 原田和昌: 超高齢者心不全治療の新しい考え方. Samsca Heart Forum 2017 in 福島 (福島) 2017.4.27
 10. 原田和昌: 心血管イベントを考慮した糖尿病治療 - EMPA-REG心不全アウトカムをふまえて - T2DM Forum in Chiba (千葉) 2017.5.12
 11. 原田和昌: 高齢者心房細動のトータルマネジメント - 低体重・フレイルを考える. 上都賀郡市医師会講演会 (栃木) 2017.5.16
 12. 原田和昌: 超高齢者心不全治療の新しい考え方. 次世代循環器医師の和歌山心不全勉強会 (和歌山) 2017.5.18
 13. 原田和昌: 高血圧. 第14回メトロポリタン循環器内科研修連絡会 (東京) 2017.5.20
 14. 原田和昌: 循環器疾患を予防出来る糖尿病治療とは. 本庄市児玉郡医師会学術講演会 (埼玉) 2017.5.26
 15. 原田和昌: 環器疾患を予防できる糖尿病治療とは. 第5回心疾患プリベンションセミナー (東京) 2017.5.31
 16. 原田和昌: 高齢者心不全患者の管理に関するステートメントについて. 第79回オホーツク心臓勉強会 (北海道) 2017.6.2
 17. 原田和昌: 循環器疾患を予防出来る糖尿病治療とは. T2DM Forum in NARA (奈良) 2017.6.3
 18. 原田和昌: 超高齢者AFにおける抗凝固療法 - 低体重とフレイルを考える. Total Management of Cardiovascular disease Forum (群馬) 2017.6.5
 19. 原田和昌: 超高齢者AFにおける抗凝固療法 - 低体重とフレイル. 指宿医師会学術講演会 (鹿児島) 2017.6.6
 20. 原田和昌: 超高齢者AFにおける抗凝固療法 - 低体重とフレイルを考える. 入間地区の在宅医療を考える会 (埼玉) 2017.6.7
 21. 原田和昌: 超高齢者心不全治療の新しい考え方. 慢性心不全治療を考える会 (大阪) 2017.6.8
 22. 原田和昌: 超高齢者心不全の新しい考え方. KURUME-48Heart Failure (久留米) 2017.6.12
 23. 原田和昌: 高齢者のDMとフレイル. 第5回大橋カルディオロジー (東京) 2017.6.14
 24. 原田和昌: 高尿酸血症は心不全患者の予後を規定する. 循環器医療連携セミナー (東京) 2017.6.19
 25. 原田和昌: 心血管イベントを考慮した糖尿病治療 - EMPA-REG心不全アウトカムをふまえて - T2DM Forum in Nagasaki (長崎) 2017.6.27
 26. 原田和昌: 超高齢者のAF - 低体重とフレイルを考える - 高齢者心房細動のトータルケアを考える会 (愛知) 2017.7.5
 27. 原田和昌: 心血管イベントを考慮した糖尿病治療 - EMPA-REG心不全アウトカムをふまえて - T2DM Forum in East Tokyo (東京) 2017.7.12
 28. 原田和昌: 超高齢者AFにおける抗凝固療法. 第12回分子血管研究会 (東京) 2017.7.27
 29. 原田和昌: 超高齢者AFにおける抗凝固療法. 抗凝固療法を考える会 (東京) 2017.7.28
 30. 原田和昌: 高齢者心不全の最新治療. 東京都健康長寿医療センター 高齢医学セミナー2017 (東京) 2017.7.29
 31. 原田和昌: 高齢者心房細動のトータルマネジメント - 低体重・フレイルを考える - 糖尿病と心房細動 (東京) 2017.8.2
 32. 原田和昌: 循環器医からみる高齢者における消化管疾患マネジメント. 大塚製薬招聘社内勉強会 (東京) 2017.8.9
 33. 原田和昌: 知って得する上手な血圧とのつきあい方 - 健康長寿は血圧コントロールから - 平成29年度健康講習会 (東京) 2017.8.16
 34. 原田和昌: 健康寿命を考慮した脂質治療 - 循環器疾患と ω 3脂肪酸 - 北区医師会学術講演会 (東京) 2017.8.23
 35. 原田和昌: 循環器医からみる高齢者における消化管疾患マネジメント. 手技と治療を考える - Total Managementの展望 - (東京) 2017.9.4
 36. 原田和昌: 高齢者心不全と心-腎-貧血 - 鉄欠乏連関. 第10回旭循環器サマーセミナー (千葉) 2017.9.6
 37. 原田和昌: 心腎連関とAF. 生活習慣病治療戦略 (東京) 2017.9.7
 38. 原田和昌: 疾病と治療 I 循環器: 血圧異常. 板橋看護学校講義 (東京) 2017.9.13
 39. 原田和昌: 高齢者心房細動のトータルマネジメント - 低体重・フレイルを考える - プライマリーケア医のための循環器疾患懇話会 (群馬) 2017.9.13
 40. 原田和昌: フレイルと健康寿命. 高齢者Total Care Management Seminar (兵庫) 2017.9.14
 41. 原田和昌: 循環器医からみる高齢者における消化管疾患マネジメント. 循環器・消化器内科学術講演会 (東京) 2017.9.15
 42. 原田和昌: 超高齢者のAF - 低体重とフレイルを考える - APHRS2017/JHRS2017 ランチョンセミナー (神奈川) 2017.9.16
 43. 原田和昌: 超高齢者AFにおける抗凝固療法 - 低体重とフレイルについて - Sakurayama

- Thrombosis Academy 2 (愛知) 2017.9.19
44. 原田和昌：高齢高血圧患者の治療戦略－SPRINTサブ解析を踏まえて－. 第8回糖尿病と心血管セミナー (山口) 2017.9.21
 45. 原田和昌：高齢者心不全の薬物治療を考える. 板橋区医師会学術部学術講演会 (東京) 2017.9.26
 46. 原田和昌：超高齢者AF患者における抗凝固療法－低体重とフレイルを考える－. 第2回心房細動のトータルケアを考える会－心不全・高血圧：CHADS2－ (茨城) 2017.9.27
 47. 原田和昌：超高齢者心不全の新しい考え方. 高齢者心不全を考える会 (佐賀) 2017.10.2
 48. 原田和昌：高齢者の脂質異常はどこまで治療すべきか. サノフィ株式会社社内レクチャー (東京) 2017.10.3
 49. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 多摩Heart Forum (東京) 2017.10.5
 50. 原田和昌：高齢心不全患者の治療戦略－ステートメントを踏まえて－. 第95回臨床心臓研究会 (北海道) 2017.10.6
 51. 原田和昌：高齢者心不全の薬物治療を考える. 心不全学術講演会－慈誠会人間ドック会館クリニック (東京) 2017.10.10
 52. 原田和昌：フレイルと低体重を考慮した高齢者AFの抗凝固療法. Anticoagulation Therapy In Elderly Patients With NVAf Meeting in Kagoshima (鹿児島) 2017.10.26
 53. 原田和昌：超高齢者AF患者における抗凝固療法－フレイルと低体重－. 第7回北さがみエンボリズム研究会 (神奈川) 2017.10.31
 54. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 心不全治療Expert Meeting in 東葛 (千葉) 2017.11.7
 55. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法－低体重とフレイルについて－. 地域医療連携を考える会 (宮城) 2017.11.9
 56. 原田和昌：超高齢者AFのマネジメント－健康寿命の延長と脳卒中予防－. 全国学術講演会 (福岡) 2017.11.12
 57. 原田和昌：超高齢者AF患者における抗凝固療法－フレイルと低体重－. 第6回Cardiac Network Meeting (東京) 2017.11.16
 58. 原田和昌：高齢者心房細動のトータルマネジメント－低体重・フレイルを考える－. 夷隅医師会学術講演会 (千葉) 2017.11.21
 59. 原田和昌：AF Begets Heart Failure and Vice Versa. 心房細動Webセミナー－心不全と心房細動－ (東京) 2017.11.22
 60. 原田和昌：健康寿命を考慮した脂質治療－循環器疾患と ω 3脂肪酸－. ロトリガWeb講演会 (東京) 2017.11.27
 61. 原田和昌：フレイルと低体重を考慮した超高齢者AFにおける抗凝固療法. Kochi DOAC Forum (高知) 2017.12.4
 62. 原田和昌：フレイルと低体重を考慮した超高齢者AFにおける抗凝固療法. 大崎地区学術講演会－県北抗血栓療法カンファランス－ (宮城) 2017.12.6
 63. 原田和昌：高齢の動脈硬化性疾患患者においてFHを診断し治療するには－PCSK9阻害薬の使用例から－. 城北心血管summit (東京) 2017.12.7
 64. 原田和昌：高齢心不全治療のパラダイムシフト. セミナーカルジオロジー2017 (東京) 2017.12.9
 65. 原田和昌：心房細動患者の未来について考える. 心房細動とフレイル. DOAC Forum 2017 for the Future (東京) 2017.12.9
 66. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法－低体重とフレイルを考える－. 第18回県北脳卒中研究会 (栃木) 2018.1.16
 67. 原田和昌：高齢者心不全における降圧の重要性－SPRINT, EMPA-REG OUTCOMEを踏まえて－. 第19回心臓・腎高血圧内科学会懇話会 (愛知) 2018.1.20
 68. 原田和昌：超高齢者のAF－低体重とフレイルを考える－. DOAC Forum in MIYAZAKI (宮崎) 2018.1.26
 69. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 大塚製薬双方向e講演会 (東京) 2018.1.30
 70. 原田和昌：『都市部の緊急課題「高齢者心不全管理」を科学的に考察する』. ハートケアネットワーク－心不全診療システム構築を目指して－ (東京) 2018.2.1
 71. 原田和昌：健康長寿を考慮した脂質治療－循環器疾患と ω 3脂肪酸－. ω 3脂肪酸web講演会 (東京) 2018.2.5
 72. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 第7回心不全最前線治療研究会－高齢者心不全を考える－ (大阪) 2018.2.8
 73. 原田和昌：高齢者心不全治療と管理の新しい考え方. 第13回鹿沼新しい医療を学ぶ会 (栃木) 2018.2.14
 74. 原田和昌：高齢者心房細動のトータルマネジメント－低体重・フレイルを考える－. 心房細動トータルマネジメント－フレイルを中心に－ (千葉) 2018.2.16
 75. 原田和昌：高齢者心房細動のトータルマネジメント－低体重・フレイルを考える－. 栃木不整脈疾患治療フォーラム2018 (栃木) 2018.2.21

76. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法－低体重・フレイルについて－. 学術講演会in Nagaoka (新潟) 2018.2.22
77. 原田和昌：循環器疾患を予防できる糖尿病治療とは. T2DM Forum in 大曲 (秋田) 2018.2.26
78. 原田和昌：超高齢社会における包括的心不全管理－診療連携システム構築を目指して－. (座談会)「Medical View Point」(東京) 2018.2.27
79. 原田和昌：健康長寿を考慮した脂質治療－循環器疾患と ω 3脂肪酸－. ロトリガWeb講演会 (東京) 2018.3.6
80. 原田和昌：高齢者の心房細動と心不全. 第2回日本人の脳・心血管疾患治療を考える会 (東京) 2018.3.7
81. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法－低体重とフレイルについて－. 高齢者AFのトータルケア in Niigata (新潟) 2018.3.12
82. 原田和昌：高齢高血圧患者の治療戦略－SPRINTサブ解析を踏まえて－. 北区医師会学術講演会 (東京) 2018.3.14
83. 原田和昌：心血管イベントを考慮した糖尿病治療－EMPA-REG心血管アウトカムをふまえて－. 2型糖尿病(T2DM)フォーラムin長野 (長野) 2018.3.20
84. 原田和昌：循環器疾患を予防できる糖尿病治療とは. 糖尿病合併症を考える (埼玉) 2018.3.26
85. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 高齢者心不全治療勉強会 (大阪) 2018.3.29
86. 原田和昌：(解説) 心臓外科手術の急性左室機能不全に対する強心薬レボシメンダンの予防投与は、やはり死亡率を低下しなかった (CHEETAH試験). ケアネットCLEAR! ジャーナル四天王-674 2017.5.8 <http://www.carenet.com/news/clear/journal/43889>
87. 原田和昌：(解説) 心不全の鉄補充治療において、経口剤ではフェリチンが上昇せず運動耐容も改善しない. ケアネットCLEAR! ジャーナル四天王-701 2017.7.27 <http://www.carenet.com/news/clear/journal/44340>
88. 原田和昌：医療費で損しない方法SP. 名医とつながる! たけしの家庭の医学. テレビ朝日 2017.6.6
89. 原田和昌：長寿世界一「香港」名医とつながる! たけしの家庭の医学. テレビ朝日 2017.8.8
90. 原田和昌：心臓を元気にする科 心臓の硬化を防ぐ「心臓やわらか物質」の正体とは? 名医とつながる! たけしの家庭の医学. テレビ朝日 2017.8.22
91. 原田和昌：血管の老化を防ぐ科 ○○を鍛えようと血管が若返る! 血管の老化との深い関係が

確認された筋肉とは? 名医とつながる! たけしの家庭の医学. テレビ朝日 2018.2.27

●単行書・報告書

1. 原田和昌：第1章心臓カテーテル検査の歴史と現在の標準的手法. グロスマン・ベウム心臓カテーテル検査・造影・治療法 (原書第8版) 南江堂 東京 2017 p2-20
2. 新田大介, 原田和昌: 第2章シネアンジオグラフィ, 放射線安全性, 造影剤. グロスマン・ベウム心臓カテーテル検査・造影・治療法 (原書第8版) 南江堂 東京 2017 p21-58
3. 原田和昌：症例に学ぶ 医師が処方を決めるまで 高齢者慢性心不全. 日経DIクイズ 日経BP社 東京 2017 p43-49
4. 原田和昌：虚血性心疾患. 高齢者総合診療ノート第2版 日本医事新報社 東京 2017 p296-301
5. 原田和昌：2017年概説－心不全. 脳・心・腎血管疾患クリニカル・トライアル Annual Overview2018. ライフサイエンス出版 東京 2018 p33-34
6. 原田和昌：超高齢者心房細動の治療と管理. 最新医学別冊 診断と治療のabc 134 最新医学社 東京 2018 p182-188
7. 原田和昌：なぜ海女さんの血管年齢は11歳も若いのか? 野草だより9・10月号 野草酵素 東京 2017 p6
8. 原田和昌：クスリに頼らない高血圧・糖尿病の治し方. サンデー毎日 毎日新聞出版 東京 2017 p20-25

副院長 黒岩 厚二郎

●学会・研究会発表

1. 金澤伸郎, 黒岩厚二郎, 新開省二, 石崎達郎, 吉田孝司, 三井秀雄, 荒木 厚, 井藤英喜, 許 俊鋭: シンポジウム15 (教育企画) 高齢者外科手術の限界 フレイルと手術適応 術前リスク評価としての位置づけ. 第30回日本老年学会総会・第59回日本老年医学会学術集会 (名古屋) 2017.11.10
2. 吉田孝司, 金澤伸郎, 高木泰介, 飯塚童一郎, 三井秀雄, 黒岩厚二郎: 当院における90歳以上の胃癌、大腸癌手術症例の検討. 第25回日本消化器関連学会週間 JDDW2017 (福岡) 2017.10.14
3. 三井秀雄, 黒岩厚二郎, 金澤伸郎, 中澤達, 吉田孝司, 鈴木潤, 飯塚童一郎, 中里徹矢, 根本洋光, 高木泰介: 75歳以上高齢者大腸癌患者に

- 対するmFOLFOX6の忍容性に関する検討. 第117回外科学会総会(横浜) 2017.4.28
4. 三井秀雄, 高木泰介, 吉田孝司, 金澤伸郎, 黒岩 厚二郎: 80歳以上高齢者大腸癌患者に対するmFOLFOX6の治療成績. 第25回日本消化器関連学会週間 JDDW2017(福岡) 2017.10.14

総合診療科

●雑誌論文

1. Yoshitomo Morinaga, Norihiko Akamatsu, Junichi Matsuda, Hiroko Tateno, Takeshi Tomaru, Ai Tanaka, Sayuri Morita, Makoto Nakamura, Hideaki Kato, Megumi Annaka, Yoshishige Masuda, Yasutomo Itakura, Takashi Inamatsu, Katsunori Yanagihara
Diagnostic utilities of a fully automated molecular test for toxigenic *Clostridium difficile*
J Infect Chemother 24; 88-91, 2018.

●学会発表

1. 岩切理歌: 総合内科における常時内服している薬剤についての検討. 第30回日本老年医学会総会. 名古屋, 6月16日, 2017
2. 岩切理歌: 病院・実地医科でポリファーマシーをどう捉えるか. 板橋区医師会館, 3月19日, 2017
3. 小笹静佳, 岩切理歌, 潮靖子, 小金丸博, 増田義重: *Edwardsiella tarda*による胆嚢胆管炎の加療後, 化膿性脊椎炎を発症した高齢男性の一例. 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 3月3日, 2018.
4. 矢作和規, 野口穰, 古川友子, 浅見諒子, 小金丸博, 増田義重, 稲松孝思, 吉田敦, 井口成一, 鶴澤豊, 菊池賢: 肝硬変患者の血液培養より *Vibrio metschnikovii* が分離された1例. 第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 岐阜, 2月10日, 2018.
5. 野口穰, 矢作和規, 古川友子, 浅見諒子, 小金丸博, 増田義重, 稲松孝思, 鈴木弘倫, 岡本友紀, 鶴澤豊, 井口成一, 吉田敦, 菊池賢: 血液培養よりST耐性 *Nocardia farcinica* を検出した1例. 第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 岐阜, 2月9日, 2018.
6. 浅見諒子, 野口穰, 古川友子, 矢作和規, 小金丸博, 吉田敦, 井口成一, 鶴澤豊, 菊池賢, 増田義重, 稲松孝思: 血液培養より *Streptobacillus notomytis* が分離された1例. 第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 岐阜, 2月9日, 2018.
7. 浅見諒子, 野口穰, 古川友子, 小金丸博, 吉田敦, 増田義重, 稲松孝思, 高木明子, 御手洗聡:

- Mycobacterium lentiflavum* 分離例の微生物的・臨床的検討. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 第64回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会. 東京, 11月1日, 2017.
8. 三原 現, 仁科裕史, 東原真奈, 仙石鍊平, 金田大太, 金丸和富, 村山市繁雄, 増田義重: 気腫性腎盂腎炎による敗血症で梗塞をきたした49歳女性例. 第632回 内科学会関東地方会, 東京, 5月13日, 2017.

●院外活動

- ・ 岩切理歌: ポリファーマシーを見つめて～医療連携への期待～. 大日本住友製薬 医療情報サイト. 2月13日, 2017

膠原病・リウマチ科

●原著

1. Watanabe H, Sada KE, Matsumoto Y, Harigai M, Amano K, Dobashi H, Fujimoto S, Usui J, Yamagata K, Atsumi T, Banno S, Sugihara T, Arimura Y, Matsuo S, Makino HJ, Yamagata K, Atsumi T, Banno S, **Sugihara T**, Arimura Y, Matsuo S, Makino H; For Japan Research Committee of the Ministry of Health Labour, Welfare for Intractable Vasculitis (JPVAS) Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health Labour, Welfare of Japan. Association between reappearance of myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody and relapse in antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: Subgroup analysis of nationwide prospective cohort studies. *Arthritis Rheumatol*. 2018 May 22. doi: 10.1002/art.40538. [Epub ahead of print]
2. **Sugihara T**, Diagnosis and treatment of rheumatoid arthritis: toward the best practice. Management of elderly rheumatoid arthritis. *Clin Calcium*. 2018;28(5):649-654.
3. Kawasaki A, Yamashita K, Hirano F, Sada KE, Tsukui D, Kondo Y, Kimura Y, Asako K, Kobayashi S, Yamada H, Furukawa H, Nagasaka K, **Sugihara T**, Yamagata K, Sumida T, Tohma S, Kono H, Ozaki S, Matsuo S, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Tsuchiya N. Association of ETS1 polymorphism with granulomatosis with polyangiitis and proteinase 3-anti-neutrophil cytoplasmic antibody positive vasculitis in a

- Japanese population. J Hum Genet. 2018 Jan;63(1):55-62
4. Utsunomiya M, Dobashi H, Odani T, Saito K, Yokogawa N, Nagasaka K, Takenaka K, Soejima M, **Sugihara T**, Hagiwara H, Hirata S, Matsui K, Nonomura Y, Kondo M, Suzuki F, Tomita M, Kihara M, Yokoyama W, Hirano F, Yamazaki H, Sakai R, Nanki T, Koike R, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M. Optimal regimens of sulfamethoxazole-trimethoprim for chemoprophylaxis of Pneumocystis pneumonia in patients with systemic rheumatic diseases: results from a non-blinded, randomized controlled trial. Arthritis Res Ther. 2017 Jan 18;19(1):7.
 5. Yamazaki H, Hirano F, Takeuchi T, Amano K, Kikuchi J, Kihara M, Yokoyama W, **Sugihara T**, Nagasaka K, Hagiwara H, Nonomura Y, Sakai R, Tanaka M, Koike R, Nanki T, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M. Simplified Disease Activity Index remission at month 6 is an independent predictor of functional and structural remissions at month 12 during abatacept treatment in patients with rheumatoid arthritis: A multi-center, prospective cohort study in Japan. Mod Rheumatol. 2017 Sep;27(5):787-794.
 6. 杉原毅彦 リウマチ性多発筋痛症 日本内科学会雑誌106巻10号 2017年

●総説

1. 杉原毅彦 巨細胞性動脈炎 臨床脈管学 316-317 2017
 2. 杉原毅彦 巨細胞性動脈炎 医学のあゆみ263巻6号 491-494 2017
 3. 杉原毅彦 リウマチ性疾患と動脈硬化 乾癬性関節炎 炎症と免疫 2017年5月号
 4. 杉原毅彦 関節リウマチ診療におけるフレイルの意義 Modern Physician Voi.38, 571-574 2017
 5. 杉原毅彦 高齢発症RA患者におけるACPAマルチコホート解析 リウマチ科59巻3号 2018 306-310
 6. 杉原毅彦 高齢者医療ハンドブック 内科増刊号 免疫機能 Vol 121 2018
- Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan, and the Japan Agency for Medical Research and Development (AMED). Characteristics and Treatment Outcomes of Giant Cell Arteritis with Large-Vessel Lesions in a Nationwide, Retrospective Cohort Study in Japan American College of Rheumatology 2017 (ACR2017), San Diego. Nov 5th, 2017
2. 杉原毅彦 臨床疫学研究に基づく大型血管炎の新知見 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会シンポジウム 品川2018.4.28
 3. 杉原毅彦 高齢発症関節リウマチに対する treat-to-target の実践における生物学的製剤の重要性第62回日本リウマチ学会総会・学術集会イブニングセミナー 品川2018.4.27
 4. 杉原毅彦 高齢関節リウマチに対する treat-to-target と骨粗鬆症が治療成績に及ぼす影響 – CRANE コホートにおける検討 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会 シンポジウム 品川2018.4.28
 5. 杉原毅彦 高齢関節リウマチの治療最適化 日本リウマチ学会ランチセミナー 福岡 2017.4.21
 6. 馬場洋行, 楠田岳, 土田真吏奈, 伊賀祥子, 杉原毅彦 間質性肺炎合併高齢発症関節リウマチに対する低疾患活動性を目標とした治療の有効性と安全性の検討 日本リウマチ学会 品川 2018.4.27
 7. 杉原毅彦 Meet the Expert 高齢者のリウマチ性疾患の治療 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会 品川2018.4.26
 8. 鶴田優希, 土田真吏奈, 楠田岳, 伊賀祥子, 杉原毅彦 血球減少と肝機能障害で発症し、自己免疫性肝炎との鑑別が問題となった全身性エリテマトーデスの1例第62回日本リウマチ学会総会・学術集会品川2018.4.28
 9. 北郷萌, 馬場洋行, 楠田岳, 土田真吏奈, 伊賀祥子, 杉原毅彦 両側腎動脈狭窄で再発した高齢者高安動脈炎に対してトシリズマブを使用した1例 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会品川2018.4.28
 10. 楠田岳, 土田真吏奈, 馬場洋行 伊賀祥子, 杉原毅彦 化膿性関節炎, 反応性関節炎, 敗血症, 紫斑で発症した Streptobacillus notomytis による rat-bite fever 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会 W-27-3
 11. 杉原毅彦 高齢者の関節リウマチ診療のポイント ひがし東京リウマチ研究会2017.5.16
 12. 杉原毅彦 高齢関節リウマチの診断と治療

●学会発表

1. Sugihara T, Hasegawa H, Uchida H, Yoshifuji H, Nakaoka Y, Watanabe Y, Amiya E, Konishi M, Arimura Y, Isobe M, and for the Research

- 大田川崎リウマチ懇話会 2017.6.9
13. 杉原毅彦 高齢発症関節リウマチの治療戦略
新潟リウマチ性疾患懇話会2017.7.1
 14. 杉原毅彦 高齢発症関節リウマチの治療毛呂
山リウマチ性疾患病診連携の会2017.7.12
 15. 杉原毅彦 高齢発症関節リウマチに対する薬
剤選択 膠原病学術講演会 御茶ノ水 2017.
7.20
 16. 杉原毅彦 高齢者関節リウマチ診療のポイン
トRA Clinical lecture in Hokkaido札幌 2017.
8.18
 17. 杉原毅彦 高齢関節リウマチに対するT2T実践
Biologics expert seminar 東京2017.8.27
 18. 杉原毅彦 高齢関節リウマチの診断と治療
埼玉東部リウマチサミット2017.11.21
 19. 杉原毅彦 高齢発症関節リウマチの治療戦略
アドバイザーボード会議2018.2.17
 20. 杉原毅彦 高齢発症関節リウマチの治療イン
ターネットシンポジウム 2018.2.14
 21. 杉原毅彦 大型血管炎の治療2017 up-to-data自
己免疫セミナー 2017.10.31
 21. 杉原毅彦 巨細胞性動脈炎の診断と治療
Actemra forum in 城北 2017.11.22
 22. 杉原毅彦 巨細胞性動脈炎の治療について
神奈川若手リウマチ性疾患Evidence検証会
2018.3.2
 23. 杉原毅彦 巨細胞性動脈炎の治療について
日本大学医学部 2018.3.6
 24. 杉原毅彦 後期高齢者における高齢発症関節
リウマチの治療 第14回生物学的製剤を考え
る会 2018.3.9
 25. 杉原毅彦 大型血管炎の診断と治療Autoimmune
disease seminar 2018.5.24
 26. 杉原毅彦 高齢関節リウマチの診断と治療
第30回臨海リウマチ性疾患談話会2018.3.3
 27. 杉原毅彦 高齢発症関節リウマチの治療戦略
神戸西リウマチ性疾患連携の会 2018.2.15
 28. 杉原毅彦 高齢者のリウマチ性疾患 第59回
日本老年医学会学術集会 教育講演7 2017年
6月14日

腎臓内科・血液透析科

日本腎臓学会CKDガイドライン委員(板橋美津世)および難治性血管炎に関する調査研究班員(板橋美津世)として活動した。

「成人ならびに高齢者ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療研究」「加齢による腎臓の形態および機能変化の臨床研究」「高齢慢性腎臓病患者の腎超音波検査による病態把握研究」「高齢者にお

ける推定糸球体濾過量の評価の研究」「高齢CKD患者の重症度分類の分布と予後研究」「高齢透析患者の運動療法・栄養療法の研究」など施行し、成果が得られたものに関しては学会ないし論文として発表した。

●原著論文

1. Iwabuchi Y, Moriyama T, Itabashi M, Takei T, Nitta K. Rituximab as a Therapeutic Option for Steroid-Sensitive Minimal Change Nephrotic Syndrome in Adults. Contrib Nephrol. 2018;195:12-19.
2. Takura T, Takei T, Nitta K. Socioeconomics of Administering Rituximab for Nephrotic Syndrome. Contrib Nephrol. 2018;195:110-119.

●総説

1. 武井卓【高齢者のCKD-保存期から透析まで-】
高齢者の腎機能の正しい評価方法(総説/特集)
Geriatric Medicine (0387-1088)55巻12号
Page1323-1328
2. 板橋美津世【高齢者のCKD-保存期から透析まで-】
高齢者血液透析の実際 透析開始の適否
判定(提言)を踏まえて(解説/特集) Geriatric
Medicine (0387-1088)55巻12号 Page1353-1356

●学会抄録

1. 齋藤誉子, 板橋美津世, 赤沼郁子, 染谷真由, 吉澤佑美, 草尾由香, 渡邊敏子, 梶真悠子, 柴村真希, 新谷剛, 和田智至, 高岡裕子, 杉江正光, 武井卓: 心肺運動負荷試験(CPX)で運動耐容能を評価しながら運動療法を施行し得た高齢透析患者. 第6回 日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
2. 橋靖子, 山中法子, 齋藤誉子, 高橋尚子, 齋藤英一, 板橋美津世, 武井卓: 透析の負担と予後を考慮し緩和治療を行った高齢担癌患者の2症例. 第67回関東甲信越地方会. 東京, 3月, 2018.
3. 柿崎元恒, 松田陽子, 湯村和子, 野中敬介, 関敦子, 橋靖子, 板橋美津世, 武井卓, 新井富生. 顕微鏡的多発血管炎の診断13年後に間質性肺炎の急性増悪をきたし死亡した一剖検例. 第22回血管病理研究会 東京 11月, 2017.
4. 赤尾佑衣[宮一], 板橋美津世, 新井富生, 武井卓: 若年女性のTINU症候群の一例 第47回日本腎臓学会東部会. 横浜, 10月, 2017
5. 橋靖子, 山中法子, 板橋美津世, 武井卓, 松田陽子. 長期安定な経過であったが、間質性肺炎が急性増悪し死亡した顕微鏡的多発血管炎の剖検例. 第47回日本腎臓学会東部会. 横浜, 10月,

- 2017
6. 武井卓：膜性腎症 Up To Date 膜性腎症に対するリツキシマブ治療(ワークショップ) 第47回日本腎臓学会東部会. 横浜, 10月, 2017
 7. 山中法子, 板橋美津世, 橋靖子, 松田陽子, 新井富生, 武井卓. IgA腎症と特発性膜性腎症を合併した一例：第47回日本腎臓学会東部会. 横浜, 10月, 2017
 8. 岩渕裕子, 武井卓, 藤井照大, 宮部陽永, 井野文美, 清水阿里, 森山能仁, 新田孝作：小児期と成人期発症ステロイド依存性微小変化型ネフローゼ症候群におけるリツキシマブ治療の相違. 第60回日本腎臓学会. 仙台, 6月, 2017；免疫吸着療法(IAPP)が有効であった重症筋無力症(MG)の一例：第61回日本透析医学会. 6月, 2016.
 9. 板橋美津世, 武井卓, 橋靖子, 山中法子, 櫻井裕子, 鶴田悠木, 湯村和子, 許俊鋭, 井藤英喜：高齢腎臓病患者における推定糸球体濾過量の評価. 第60回日本腎臓学会. 仙台, 6月, 2017
 10. 武井卓, 橋靖子, 山中法子, 櫻井裕子, 鶴田悠木, 湯村和子, 板橋美津世：高齢慢性腎臓病患者の腎超音波検査による病態の検討：第60回日本腎臓学会. 仙台, 6月, 2017.
 11. 板橋美津世, 武井卓, 橋靖子, 山中法子, 櫻井裕子, 鶴田悠木, 湯村和子, 許俊鋭, 井藤英喜：高齢慢性腎臓病患者におけるクレアチニンとシスタチンCを用いた推定糸球体濾過量の相違. 第59回日本老医学会. 名古屋, 6月, 2017
 12. 武井卓, 鶴田悠木, 櫻井裕子, 湯村和子, 板橋美津世：高齢慢性腎臓病患者の腎超音波検査による病態の検討. 第59回日本老医学会. 名古屋, 6月, 2017
 13. 赤尾佑衣[宮一], 板橋美津世, 武井卓. ぶどう膜炎発症時の尿検査で発見されたTINU症候群の1例. 日本内科学会関東東部会 東京. 5月 2017年
 14. 吉澤佑美, 草尾由香, 赤沼郁枝, 寺島伸世, 小暮早可恵, 渡邊敏子, 羽根田千恵, 武井卓, 板橋美津世：高齢透析患者と透析室スタッフにおけるBDHQ質問シートを用いた食事摂取状況の検討. 第61回日本透析医学会. 横浜, 6月, 2017
 15. 板橋美津世, 橋靖子, 梶真悠子, 大谷将太郎, 柴村真希, 新谷剛, 和田智至, 高岡 祐子, 櫻井裕子, 鶴田悠木, 武井卓. 高齢透析患者における導入時のダイアライザーII型とIV型の比較検討. 第61回日本透析医学会. 横浜, 6月, 2017
 16. 橋靖子, 板橋美津世, 武井卓：アプリンジンにより神経障害を呈した透析患者の一例. 第61回日本透析医学会. 横浜, 6月, 2017

17. 草尾由香, 寺島伸世, 吉澤佑美, 赤沼郁枝, 小暮早可恵, 渡邊敏子, 鹿島田美奈子, 佐藤優, 和田智至, 武井卓, 板橋美津世. 血液透析患者における体重と骨密度の関連. 第61回日本透析医学会. 横浜, 6月, 2017
18. 鶴田悠木, 菊地勘, 鶴田幸男, 櫻井裕子, 板橋美津世, 武井卓, 土谷健, 新田孝作：血液透析患者における体重と骨密度の関連. 第61回日本透析医学会. 横浜, 6月, 2017

●講師等院外活動

1. 板橋美津世：急速に腎機能が低下したとき考えること. 第6回板橋区膠原病・リウマチ性疾患連携の会. 板橋. 10月 2017.
2. 板橋美津世：ANCA血管炎のリツキシマブ治療. 城北Nephrology Expert Meeting. 東京, 8月, 2017.

糖尿病・代謝・内分泌内科

今年度も当科スタッフと多くの共同研究者によって盛んに研究を行い、その結果、誌上発表126、学会発表42、講演その他は105で総発表数は276となり、昨年(271)と同様に国内外に多くの発表を行うことができた。

主たる研究のテーマは糖尿病と認知機能、フレイル・サルコペニアである。とくに、糖尿病における血糖変動と脳白質病変(田村)、生活習慣病の遺伝子解析(森)、糖尿病における低栄養と認知機能低下(荒木)の論文が英文誌に、高齢者における高浸透圧高血糖状態の論文が日老医誌に掲載された(山岡)。

当科が関与したガイドラインとして、日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会による「高齢者糖尿病診療ガイドライン2017」が5月に、「高齢者糖尿病治療ガイド」が2月に刊行され、血糖コントロール目標に関しては英文誌に掲載された。「フレイル診療ガイド2018年版」も3月に刊行された。

●雑誌論文

1. Tamura Y, Kimbara Y, Yamaoka T, Sato K, Tsuboi Y, Koderu R, Chiba Y, Mori S, Fujiwara Y, Tokumaru AM, Ito H, Sakurai T, Araki A. White Matter Hyperintensity in Elderly Patients with Diabetes Mellitus Is Associated with Cognitive Impairment, Functional Disability, and a High Glycoalbumin/Glycohemoglobin Ratio. *Front Aging Neurosci* 2017 Jul 6;9:220.

2. Glycemic targets for elderly patients with diabetes. Japan Diabetes Society (JDS)/Japan Geriatrics Society (JGS) Joint Committee on Improving Care for Elderly Patients with Diabetes. **J Diabetes Investig** 8: 126-128, 2017.
3. Horikawa C, Yoshimura Y, Kamada C, Tanaka S, Tanaka S, Matsunaga S, Hanyu O, Araki A, Ito H, Tanaka A, Ohashi Y, Akanuma Y, Sone H. Is the Proportion of Carbohydrate Intake Associated with the Incidence of Diabetes Complications?—An Analysis of the Japan Diabetes Complications Study. **Nutrients** 9(2), 113, 2017.
4. Araki A, Yoshimura Y, Sakurai T, Umegaki H, Kamada C, Kamada K, Iimuro S, Ohashi Y, Ito H; the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Research Group. Low intakes of carotene, vitamin B2, and calcium predict cognitive decline among elderly patients with diabetes mellitus: the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. **Geriatric Gerontol Int** 17:1168-1175, 2017.
5. Ueki K, Sasako T, Okazaki Y, Kato M, Okahata S, Katsuyama H, Haraguchi M, Morita A, Ohashi K, Hara K, Morise A, Izumi K, Ishizuka N, Ohashi Y, Noda M, Kadowaki T; J-DOIT3 Study Group. Collaborators: Haneda M, Iwashima Y, Suda T, Tamasawa N, Daimon M, Satoh J, Takebe N, Ishigaki Y, Watanabe T, Satoh H, Kasai K, Aso Y, Ishibashi S, Katayama S, Ishikawa SE, Kakei M, Namai K, Hashimoto N, Suzuki Y, Onishi S, Yokote K, Matsuda M, Masuzawa M, Hayashi Y, Saito S, Ogihara N, Ishihara H, Tajima N, Utsunomiya K, Shimada A, Itoh H, Kawamori R, Watada H, Hayashi M, Mori Y, Shiba T, Isogawa A, Sakura H, Odawara M, Tobe K, Tsukamoto K, Yamauchi T, Teramoto T, Hirata Y, Uchimura I, Ogawa Y, Yoshino G, Hirose T, Kajio H, Atsumi Y, Shimada A, Oikawa Y, Araki A, Ueki A, Ohno A, Kitaoka M, Fujita Y, Moriya T, Tojo T, Shichiri M, Suzuki D, Toyoda M, Hamano K, Komi R, Terauchi Y, Kuzuya N, Yamada M, Takamura T, Imura M, Tanaka H, Hayashi M, Kato Y, Itoh M, Suzuki A, Nakayama M, Sano T, Nakashima E, Sumida Y, Yano Y, Tanaka T, Murata K, Kashiwagi A, Maegawa H, Kono S, Inagaki N, Kosugi K, Yasuda T, Yoshimasa Y, Kishimoto I, Sato T, Hosoi M, Yamasaki T, Matsuhisa M, Shimomura I, Taniguchi A, Kuroe A, Kurose T, Ohara T, Sakaguchi K, Namba M, Kaku K, Fujiwara M, Shimizu I, Ono K, Ebisui O, Tanizawa Y, Okada Y, Natori S, Kodera T, Sato N, Ide M, Yamada K, Umeda F, Natori S, Eto T, Mimura K, Hiramatsu S, Inoue T, Takei R, Ogo A, Eguchi K, Kawasaki E, Koide Y, Araki E, Jinnouchi H, Yamamoto H, Motoyoshi M, Hiyoshi T, Tanaka Y, Momoki T, Sato K, Yoneyama A, Ito K, Sobajima H, Ikegami H, Ikeda M, Ikeda H, Takahashi K, Makino H, Ueda Y, Nakazato M. Effect of an intensified multifactorial intervention on cardiovascular outcomes and mortality in type 2 diabetes (J-DOIT3): an open-label, randomised controlled trial. **Lancet Diabetes Endocrinol** 2017 Dec;5(12):951-964.
6. Horikawa C, Kamada C, Tanaka S, Tanaka S, Araki A, Ito H, Matsunaga S, Fujihara K, Yoshimura Y, Ohashi Y, Akanuma Y, Sone H; Japan Diabetes Complications Study Group. Meat intake and incidence of cardiovascular disease in Japanese patients with type 2 diabetes: analysis of the Japan Diabetes Complications Study (JDACS). **Eur J Nutr** 2017 Dec 8. doi: 10.1007/s00394-017-1592-y. [Epub ahead of print]
7. Toyoshima K, et. al., Increased plasma proline concentrations are associated with sarcopenia in the elderly. **PLoS One** 2017 Sep 21;12(9): e0185206.
8. Mabuchi S, Suzuki R, Sasaki M, Nakamura M, Izumimoto N, Hakamada T, Toyoshima K, Abe Y, Kaneko E, Shimokado K, Case report of severe iron deficiency anemia caused by proton pump inhibitor in an elderly patient. **Geriatr Gerontol Int** 17(4):662-663, 2017.
9. Mabuchi S, Ouchi S, Suzuki R, Sasaki M, Nakamura M, Izumimoto N, Hakamada T, Toyoshima K, Abe Y, Kaneko E, Shimokado K, Case report of an undisintegrated magnesium oxide tablet in the stool in an elderly patient taking food thickener. **Geriatr Gerontol Int** 17(12):2615-2616, 2017.
10. Mori, S., Zhou, H., Yamaga, M., Takemoto, M., Yokote, K.: Femoral osteoporosis is more common than lumbar osteoporosis in patients with Werner syndrome. **Geriatr. Gerontol. Int** 17: 854-856, 2017.
11. Honma, N., Saji, S., Mikami, T., Yoshimura, N.,

- Mori, S., Saito, Y., Murayama, S., Harada, N.: Estrogen-related factors in the frontal lobe of Alzheimer's disease patients and importance of body mass index. **Sci Rep** 7(1): 726, 2017.
12. Tanisawa, K., Arai, Y., Hirose, N., Shimokata, H., Yamada, Y., Kawai, H., Kojima, M., Obuchi, S., Hirano, H., Yoshida, H., Suzuki, H., Fujiwara, Y., Ihara, K., Sugaya, M., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Sato, N., Muramatsu, M., Higuchi, M., Liu, Y.W., Kong, Q.P., Tanaka, M.: Exome-wide association study identifies CLEC3B missense variant p.S106G as being associated with extreme longevity in east Asian populations. **J Gerontol A Biol Sci Med Sci** 72: 309-318, 2017.
 13. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of five genetic variants as novel determinants of type 2 diabetes mellitus in Japanese by exome-wide association studies. **Oncotarget** 8: 80492-80505, 2017.
 14. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of TNFSF13, SPATC1L, SLC22A25, and SALL4 as novel susceptibility loci for atrial fibrillation by an exome-wide association study. **Mol Med Rep** 16: 5823-5832, 2017.
 15. Nishi, K., Luo, H., Nakabayashi, K., Doi, K., Ishikura, S., Iwahara, Y., Yoshida, Y., Tanisawa, K., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Muramatsu, M., Tanaka, M., Sakata, T., Shirasawa, S., Tsunoda, T.: An alpha-kinase 2 gene variant disrupts F-actin localisation in the surface of colorectal cancer spheroids. **Anticancer Res** 37: 3855-3862, 2017.
 16. Zaw, K.T.T., Sato, N., Ikeda, S., Thu, K.S., Mieno, M.N., Arai, T., Mori, S., Furukawa, T., Sasano, T., Sawabe, M., Tanaka, M., Muramatsu, M.: Association of ZFH3 gene variation with atrial fibrillation, cerebral infarction, and lung thromboembolism: an autopsy study. **J Cardiol** 70: 180-184, 2017.
 17. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of C21orf59 and ATG2A as novel determinants of renal function-related traits in Japanese individuals by exome-wide association studies. **Oncotarget** 8: 45259-45273, 2017.
 18. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of 12q24.1, ACAD10, and BRAP as novel genetic determinants of blood pressure in Japanese individuals by exome-wide association studies. **Oncotarget** 8: 43068-43079, 2017.
 19. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of eight genetic variants as novel determinants of dyslipidemia in Japanese by exome-wide association studies. **Oncotarget** 8: 38950-38961, 2017.
 20. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of rs7350481 at chromosome 11q23.3 as a novel susceptibility locus for metabolic syndrome in Japanese individuals by an exome-wide association study. **Oncotarget** 8: 39296-39308, 2017.
 21. Dechamethakun, S., Sato, N., Ikeda, S., Sawabe, M., Mori, S., Yamada, Y., Tanaka, M., Muramatsu, M., Arai, T.: Association of macrophage capping protein (CAPG) Arg335 His polymorphism and cancer susceptibility in the elderly Japanese. **J. Gerontol Geriatr Res** 6(2): 417, 2017.
 22. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of six polymorphisms as novel susceptibility loci for ischemic or hemorrhagic stroke by exome-wide association studies. **Int J Mol Med** 39: 1477-1491, 2017.

23. Yamada, Y., Sakuma J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Yoshida, H., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of EGFLAM, SPATC1L, and RNASE13 as novel susceptibility loci for aortic aneurysm in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Int J Mol Med* 39: 1091-1100, 2017.
 24. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of STXBP2 as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget* 8: 33527-33535, 2017.
 25. Matsuda, Y., Tanaka, M., Sawabe, M., Mori, S., Muramatsu, M., Naka-Mieno, M., Furukawa, T., Arai, T.: Relationship between pancreatic intraepithelial neoplasias, pancreatic ductal adenocarcinomas, and single nucleotide polymorphisms in autopsied elderly patients. *Genes Chromosomes Cancer* 57: 12-18, 2018.
 26. Tanisawa, K., Hirose, N., Arai, Y., Shimokata, H., Yamada, Y., kawai, H., Kojima, M., Obuchi, S., Hirano, H., Suzuki, H., Fujiwara, Y., Ihara, K., Taniguchi, Y., Shinkai, S., Sugaya, M., Highuchi, M., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Sato, N., Muramatsu, M., Tanaka, M.: Inverse association between height-increasing alleles and extreme longevity in Japanese women. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci* 73: 588-595, 2018.
 27. 河合恒, 大淵修一, 藤原佳典, 平野浩彦, 渡邊裕, 荒木厚, 小山照幸, 杉江正光, 小島基永, 中田晴美, 鈴木隆雄. コーディネーターのかかわりによって私的統制を強めない住民協働の介護予防の推進効果. *老年社会科学*39(2): 155-155, 2017.
 28. 山岡巧弥, 田村嘉章, 小寺玲美, 坪井由紀, 佐藤 謙, 千葉優子, 森聖二郎, 井藤英喜, 荒木厚. 高血糖高浸透圧症候群 (HHS) を発症した高齢者の背景因子と臨床的特徴の検討. *日本老年医学会雑誌* 54(3):349-355, 2017.
 29. 荒木厚, 井藤英喜:「高齢者糖尿病診療ガイドライン2017」を踏まえた治療の要点と展望. *日本老年医学会雑誌*55:1-12, 2018.
- 雑誌論文 (商業誌等)
1. 荒木厚: 高齢者診療の特徴と注意点. *内科* 119:25-30, 2017.
 2. 荒木厚: 高齢者糖尿病における合併症の特徴. *最新医学*72:27-32, 2017.
 3. 荒木厚: 高齢者糖尿病とフレイル、サルコペニア. *日本臨床*75(11): 1646-1652, 2017.
 4. 荒木厚: 高齢者糖尿病における配合剤の意義と注意点. *糖尿病の最新治療*8 (1) :36-40, 2017.
 5. 荒木厚: 高齢者の耐糖能異常 (糖尿病). *成人病と生活習慣病*47(1) :81-86, 2017.
 6. 荒木厚: 糖尿病のいろいろな疑問に答える. *クレデンシャル*102(3) :6-11, 2017.
 7. 荒木厚: 高齢者2型糖尿病のマネジメント – ⑥脳卒中. *Islet Equality* 6(1):2-4, 2017.
 8. 荒木厚: 高齢者2型糖尿病のマネジメント – ⑦うつ病、疼痛. *Islet Equality* 6(2):2-4, 2017.
 9. 荒木厚: 高齢者2型糖尿病のマネジメント – ⑧低血糖. *Islet Equality* 6(3):2-4, 2017.
 10. 荒木厚: 高齢者糖尿病診療に必要なADL評価法と認知機能検査法. *Pharma Medica* 35(4):25-30, 2017.
 11. 荒木厚: フレイルを考慮した高齢者の医療 – 糖尿病を中心に. *BIO Clinica* 32(5):470-473, 2017.
 12. 荒木厚: 高齢糖尿病患者の血糖コントロール目標. *SRL宝函*38(1) :4-10, 2017.
 13. 荒木厚: サルコペニアと糖尿病. *食と医療* 1:112-119, 2017.
 14. 金丸晶子, 荒木厚: 高齢者内科疾患のリハビリテーション. *治療*99 :682-688, 2017.
 15. 荒木厚: 高齢者糖尿病の食事療法 – 考え方と実際の注意点. *臨床栄養*130 :1040-1045, 2017.
 16. 荒木厚: 実践しよう! フレイル対策. *CARE WORK* 280 :3-7, 2017.
 17. 小寺玲美, 千葉優子, 荒木厚: 高齢者の過栄養. *Geriatric Medicine* 55:737-741, 2017.
 18. 荒木厚: 序文. 特集: 高齢者の糖尿病治療の現在と未来 – 高齢者糖尿病の診療ガイドラインを踏まえて. *Geriatric Medicine* 55:855, 2017.
 19. 荒木厚: 高齢者糖尿病における合併症と老年症候群. *Geriatric Medicine* 55:857-868, 2017.
 20. 豊島堅志, 荒木厚: 高齢者糖尿病とうつ (うつ傾向・うつ病) の関係について教えて下さい. *Geriatric Medicine* 55:915-916, 2017.
 21. 荒木厚: 高齢者糖尿病の食事療法. *食と医療* 2:82-88, 2017.
 22. 荒木厚: 高齢者糖尿病の特徴. *月刊糖尿病* 9(9):10-18, 2017.
 23. 荒木厚: J-EDIT: 高齢者2型糖尿病の強化療法.

- 動脈硬化予防16(4):51-57, 2017.
24. 荒木厚：高齢者の糖尿病。5つのポイントに注意しようーガイドラインを踏まえて。月刊ケアマネジメント12月号：20-24, 2017.
 25. 荒木厚, 佐藤幸人, 秋下雅弘, 荒井秀典. フレイルと各疾患およびポリファーマシーとの関連座談会. **Geriatric Medicine** 55(6): 647-654, 2017.
 26. 羽田勝計, 井藤英喜, 荒木厚, 稲垣暢也：「高齢者糖尿病診療ガイドライン2017」作成にあたって. **DIABETES JOURNAL** 45(3):13-20, 2017.
 27. 瀬川郁夫, 阿古潤哉, 荒木厚, 刈尾七臣, 鈴木亮：高齢者循環器疾患の治療の行方ー年齢別目標値設定の是非. **臨床医のための循環器診療**26：3-19, 2017.
 28. 山内敏正, 小川純人, 荒木厚, 津下一代. 高齢化にも対応した糖尿病の実地診療. **Medical Practice** 34(9): 1404-1419, 2017.
 29. 横手幸太郎, 荒木厚, 羽田勝計：高齢者糖尿病の包括的管理. **Cardio-Renal Diabetes** 6(4): 16-25, 2017.
 30. 荒木厚：糖尿病ー高齢者の新対策. **NHKテキスト きょうの健康**10月号. 355：33-49, 2017.
 31. 荒木厚：糖尿病ー高齢者の新対策. **NHKテキスト きょうの健康**2月号. 359: 70-77, 2018.
 32. 荒木厚：糖尿病60代からの食事術. 50歳からの糖尿病対策. **栄養と料理**83(12):81-87, 2017.
 33. 大西由紀子, 荒木厚, 能登洋, 大杉満：(座談会)現場でのエビデンスを活かした糖尿病診療とは？**内科**121(1)：133-141, 2018.
 34. 荒木厚：認知機能障害と糖尿病. **日本臨床**76(増刊号1): 294-300, 2018.
 35. 荒木厚：高齢者糖尿病の治療のポイント. **診断と治療**106: 275-280, 2018.
 36. 荒木厚：高齢者のフレイル・サルコペニアや認知機能低下を防ぐための低栄養対策. **日本医師会雑誌**146(12)：RS309-310, 2018.
 37. 荒木厚:高齢期に必要な生活習慣病管理. **Aging & Health** 27(1):6-9, 2018.
 38. 荒木厚：高齢者糖尿病の薬物療法. **Pharma Tribune**10(3): 5-10, 2018.
 39. 荒木厚：高齢期の糖尿病に注意しようー低血糖や衰弱にも気をつけて. 東京法規出版, 1-8, 2018.
 40. 荒木厚：フレイルを考慮した高齢者医療. **漢方のめぐみ**60(2): 39-73, 2018.
 41. 荒木厚：内分泌・代謝機能. 高齢者医療ハンドブック. **内科**121：586-591, 2018.
 42. 大野安実, 千葉優子, 小寺玲美, 新井富生, 櫻井圭太, 橋爪貴史, 松田陽子, 金田大太, 佐々木美奈, 原田和昌：Clinical Pathological Conference：歩行困難および意識障害を認め、誤嚥窒息後人工呼吸器管理となり、多発深部静脈血栓症を来した2型糖尿病の1例 **Geriatric Medicine** 55(5)：557-266, 2017.
 43. 田村嘉章：糖尿病合併症予防. 認知症. **内科**121(1):117-119, 2018.
 44. 田村嘉章. 高齢者糖尿病のGLP-1受容体作動薬の使い方 **Geriatric Medicine** 55(8): 901-904, 2017.
 45. 千葉優子：高齢者糖尿病における多剤併用の問題とその対策について教えてください. **Geriatric Medicine** 55(8): 923-926, 2017.
 46. 千葉優子：病態に合った血糖コントロールや服薬管理を実践 認知症の人の「想い」からつくるケアー急性期病院編 **インターメディカ**7月号, 122-123, 2017.
 47. 森聖二郎: 血中IGFBP-1は骨粗鬆症性骨折の新規バイオマーカーか？ 最新研究情報. **Aging&Health** 25 (80), 4, 2017
 48. 森聖二郎: 総合診療医に求める骨粗鬆症の診療, 内分泌専門医の立場から. **Gノート** 4 (1), 101-107, 2017
 49. 森聖二郎: 低アルブミン血症では骨粗鬆症のリスクが高い. 最新研究情報. **Aging&Health** 26 (81), 27, 2017
 50. 森聖二郎: サルコペニアは脆弱性骨折のリスクファクターか？ 最新研究情報. **Aging&Health** 26 (81), 27, 2017
 51. 森聖二郎: 骨の老化. 老化と生体恒常性. **CLINICAL CALCIUM**, 27, 917-923, 2017
 52. 森聖二郎: 老化細胞を死滅させると寿命が延長する？ 最新研究情報. **Aging&Health** 26 (82), 31, 2017
 53. 森聖二郎: 高齢男性では動物性蛋白摂取が大腸骨近位部骨折の予防に有効. 最新研究情報. **Aging&Health** 26 (83), 31, 2017
 54. 森聖二郎: 骨粗鬆症とdipeptidyl-peptidase 4 (DPP4) の密接な関係. 最新研究情報. **Aging &Health** 26 (83), 31, 2017
 55. 森聖二郎: 転倒. **すぐに使える高齢者総合診療ノート改訂第2版** (日本医事新報社) (大庭建三編集), 190-194, 2018
 56. 森聖二郎: 巻頭言ー和文原著論文の存在意義ー. **日本臨床栄養学会雑誌** 39 (4), 223, 2018
 57. 森聖二郎: 高齢男性の転倒には低テストステロン血症も関係している？ 最新研究情報. **Aging &Health** 26 (84), 27, 2018
 58. 森聖二郎: ウェルナー症候群. **産科と婦人科**, 印刷中

●単行書，報告書

1. 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017. 日本老年医学会・日本糖尿病学会（編・著），南江堂，東京，1-161，2017.
2. 荒木厚：糖尿病と認知症. **糖尿病におけるmultimorbidity**. 松岡健平（編），南山堂，東京，pp164-170，2017.
3. 荒木厚：高齢者、特に認知症における薬剤管理. **高齢者糖尿病診療ハンドブック**. 横手幸太郎（監修），栗林伸一、岩岡秀明（編集），中外医学社，東京，pp108-119，2017.
4. 荒木厚：第14章高齢者糖尿病. **糖尿病専門医研修ガイドブック改訂第7版 - 日本糖尿病学会専門医取得のための研修必携ガイドブック**，日本糖尿病学会（編），診断と治療社，東京，pp380-387，2017.
5. 荒木厚：第7章高齢者糖尿病（7-2-6）. **糖尿病専門医研修ガイドブック改訂第7版 - 日本糖尿病学会専門医取得のための研修必携ガイドブック**，日本糖尿病学会（編），診断と治療社，東京，pp169-170，2017.
6. 荒木厚：知っておきたい高齢者糖尿病のABC. ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，pp2-12，2017.
7. 荒木厚：認知症のスクリーニング検査はどう行う？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，pp103-106，2017.
8. 荒木厚：うつ傾向やうつ病にはどう対応する？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，pp140-144，2017.
9. 荒木厚：フレイルにはどう対応する？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，pp149-154，2017.
10. 荒木厚：高齢者総合機能評価（CGA）をどう活用する？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，pp160-166，2017.
11. 荒木厚：メトホルミン. ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，pp200-203，2017.
12. 荒木厚：高齢者の低血糖. **高齢者における糖尿病治療薬の使い方 - 新たなカテゴリー別目標値への適切な対応のために**，稲垣暢也（編集），フジメディカル出版，東京，pp40-44，2017.
13. 荒木厚：生活習慣病とフレイル - 糖尿病を中心として. **健康長寿新ガイドラインエビデンスブック**，東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会（編・著），社会保険出版社，東京，pp91-95，2017.
14. 荒木厚：老年症候群. **新スタンダード栄養・食物シリーズ12 臨床栄養学**，飯田薫子，近藤和雄，脊山洋右，丸山千寿子（編集），東京化学同人，東京，pp. 316-322，2017.
15. 荒木厚：糖尿病と転倒との関係は？ **日本転倒予防学会認定転倒予防指導士公式テキストQ&A**，武藤芳照、奥泉宏康、北湯口純（編著），日本転倒予防学会（監修），新興医学出版社，東京，pp48-49，2017.
16. 荒木厚：高齢者の特徴とその診察時の注意点. **すぐに使える高齢者総合診療ノート第2版**，大庭建三（編・著），日本医事新報社，東京，pp2-9，2017.
17. 荒木厚（監修）：シニアの糖尿病 - 長寿のための12の対策. **別冊NHKきょうの健康**，NHK出版，pp1-95，2017.
18. 荒木厚、府川則子、羽根田千恵、西本博子、西郷友香：60歳からの血糖コントロールごはん. 女子栄養大学出版部，東京，pp1119，2018.
19. **高齢者糖尿病治療ガイド2018**，日本糖尿病学会・日本老年医学会（編・著），文光堂，東京，pp1-93，2018.
20. 荒木厚、田村嘉章. CQ24. フレイルは糖尿病と関連するか？ CQ25. 低血糖はフレイルのリスクを上昇させるか？ **フレイル診療ガイド2018年版**. pp45-48，2018.
21. 荒木厚、田村嘉章. CQ26. 糖尿病にフレイルが合併すると予後に影響するか？ **フレイル診療ガイド2018年版**. p180-189，2018.
22. 東原真奈、荒木厚：神経障害を見逃さず適切に治療するには？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，pp92-97，2017.
23. 府川則子、荒木厚：食事療法ではどう対応する？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，pp244-248，2017.
24. 松木重村、荒木厚：効果的な運動療法をどう行う？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，pp249-260，2017.
25. 千葉優子：誤嚥性肺炎はどうして起こる？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，pp47-51，2017.

26. 千葉優子：足への関心が低いとどうなる？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，p62-66, 2017.
 27. 千葉優子：転倒や骨折はどう予防する？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，p155-159, 2017.
 28. 千葉優子：高齢者の糖尿病経口薬 各論 スルホニル尿素(SU)薬. ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，p198-199, 2017.
 29. 千葉優子：インスリンの自己注射をどう活用する？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，p227-231, 2017.
 30. 小寺玲美、千葉優子：重症低血糖をどう防ぐ？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，p20-24, 2017.
 31. 小寺玲美、千葉優子：肝がんを早期に発見するには？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，p188-192, 2017.
 32. 坪井由紀、千葉優子：シックデイにはどう対応する？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，p31-36, 2017.
 33. 田村嘉章：肥満・メタボリックシンドロームはいくつまで減量する？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，p82-86, 2017.
 34. 田村嘉章：認知症では注射薬をどう使用する？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，p135-139, 2017.
 35. 田村嘉章：高齢者の糖尿病経口薬 各論 グリニド薬. ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，p208-209, 2017.
 36. 田村嘉章、鉦裕和：在宅ではどう対応する？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，p261-266, 2017.
 37. 山岡拓弥、田村嘉章：高血糖高浸透圧症候群（HHS）の診断はなぜむずかしい？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，p14-19, 2017.
 38. 山岡拓弥、田村嘉章：蜂窩織炎はそのような症例でおこる？ ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた：患者さんを支える43のヒント. 荒木厚、稲垣暢也（編集），南山堂，東京，p57-61, 2017.
 39. 森聖二郎：ウェルナー症候群に合併する骨粗鬆症に関する最新知見. 平成29年度厚生労働科学研究費補助金，難治性疾患等政策研究事業，早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究，分担研究報告書.
- 学会発表
1. 荒木厚：（シンポジウム）高齢者の生活習慣病管理. 認知機能やADLを考慮した高齢者糖尿病の薬物治療. 第1回日本老年薬学会学術大会. 東京，5月14日，2017.
 2. 荒木厚：認知機能低下とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 第5回日本老年医学会プレスセミナー. 東京，5月8日，2017.
 3. 荒木厚：（シンポジウム12）高齢者糖尿病治療について－高齢者糖尿病診療ガイドラインを中心に－. 高齢者糖尿病の食事療法. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会. 名古屋，5月19日，2017.
 4. 荒木厚：（シンポジウム29）これからの食事療法の展望－関連学会からの提言. 高齢者糖尿病の食事療法の課題と展望－日本老年医学会から. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会. 名古屋，5月20日，2017.
 5. 荒木厚：（ランチョンセミナー）フレイルを考慮した高齢者糖尿病の薬物療法. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会. 名古屋，5月20日，2017.
 6. 荒木厚：（シンポジウム6）糖尿病と認知症－高齢者糖尿病の治療ガイドライン－. 糖尿病におけるフレイル－身体活動量、栄養、脳白質統合性との関連. 第59回日本老年医学会学術集会. 名古屋，6月15日，2017.
 7. 荒木厚：（ランチョンセミナー）高齢者糖尿病の転倒・骨折を防ぐために. 第59回日本老年医学会学術集会. 名古屋，6月15日，2017.
 8. 荒木厚：（教育講演）高齢者糖尿病患者の栄養管理. 第21回日本病栄養学会年次学術集会. 京都，1月13日，2018.
 9. 荒木厚：（合同パネルディスカッション）日本栄養療法協議会「生活習慣病とサルコペニア」. 糖尿病とサルコペニア. 第21回日本病栄養学会年次学術集会. 京都，1月13日，2018.
 10. 荒木厚：高齢者の栄養とフレイル－生活習慣病を中心に. 第101回（公社）日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム. 東京，2月25日，2018.

11. 荒木厚：(臨床医が知っておくべき糖尿病の基礎)：糖尿病患者における認知機能とADLの評価法。第52回糖尿病学の進歩。福岡，3月2日，2018。
12. 荒木厚：(シンポジウム)糖尿病患者のサルコペニア・フレイル－私たちにできる早期発見と介入法。(基調講演)糖尿病患者におけるサルコペニア・フレイル。第16回日本フットケア学会年次学術集会。福岡，2月10日，2018。
13. 荒木厚：(特別講演)認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療。第71回長北医学会。萩，10月22日，2017。
14. 荒木厚：(ランチョンセミナー司会)梅垣宏行：高齢糖尿病患者の治療戦略。第59回日本老年医学会学術集会。名古屋，6月14日，2017。
15. 荒木厚：J-EDIT研究における栄養素と認知機能の関連。糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ研究会第2回大会。東京，11月3日，2017。
16. 荒木厚：(イブニングセミナー座長)門脇孝。高齢者糖尿病の病態と治療。第67回日本老年医学会関東甲信越地方会。東京，3月3日，2018。
17. 横手幸太郎、栗田主一、荒木厚、井藤英喜：(シンポジウム6)糖尿病と認知症－高齢者糖尿病の治療ガイドライン－。認知機能・ADLの評価と手法。第59回日本老年医学会学術集会。名古屋，6月15日，2017。
18. 鈴木秀一、居森真、Amir Goren、宮尾益理子、水野有三、梅垣宏行、小沼富男、横手幸太郎、櫻井孝、荒木厚、横野浩一。日本人高齢2型糖尿病患者における身体機能低下に関連する特徴や治療実態に関する調査。第60回日本糖尿病学会学術集会。名古屋，5月20日，2017。
19. 岩切理歌、島崎良知、瀧川美和、板倉泰朋、大川庭熙、砂川昌子、森淑子、増田義重、荒木厚：総合内科入院患者における常時内服している薬剤についての検討。第59回日本老年医学会学術集会。名古屋，6月16日，2017。
20. 島崎良知、岩切理歌、板倉泰朋、大川庭熙、砂川昌子、瀧川美和、森淑子、増田義重、荒木厚：ポリファーマシーの現状調査と今後の展望。第59回日本老年医学会学術集会。名古屋，6月16日，2017。
21. 府川則子、羽根田千恵、本田佳子、荒木厚。腎機能低下を有する高齢患者を対象としたたんぱく質摂取量の検討。第21回日本病栄養学会年次学術集会。京都，1月12日，2018。
22. 飯塚あい、鈴木宏幸、藤原佳典、荒木厚：認知機能障害が生じた後も囲碁の技術が保持されていた一例。第67回日本老年医学会関東甲信越地方会。東京，3月3日，2018。
23. 田村嘉章、下地圭吾、石川譲治、櫻井孝、荒木厚：(シンポジウム2)糖尿病と認知症－研究センター－。高齢糖尿病患者における白質病変と認知症の関連(DTIを含む)。第59回日本老年医学会学術集会。名古屋，6月14日，2017。
24. 田村嘉章、山岡巧弥、小寺玲美、石川譲二、千葉優子、下地啓五、森 聖二郎、徳丸阿耶、荒木厚：高齢糖尿病患者におけるフレイル診断と白質病変の統合性異常との関連。第60回日本糖尿病学会学術集会。名古屋，5月18日，2017。
25. 山岡巧弥、田村嘉章、小寺玲美、千葉優子、石川譲治、森 聖二郎、荒木厚：高齢糖尿病患者における栄養、身体活動、社会サポート、うつとフレイルとの関連。第60回日本糖尿病学会学術集会。名古屋，5月20日，2017。
26. 山岡巧弥、田村嘉章、小寺玲美、千葉優子、石川譲治、森 聖二郎、荒木厚。フレイル高齢糖尿病患者の身体活動、栄養、うつ、社会サポートと関連する。第59回日本老年医学会学術集会。名古屋，6月15日，2017。
27. 大庭和人、田村嘉章、館鼻彩、山岡巧弥、小寺玲美、豊島堅志、千葉優子、石川譲治、森聖二郎、藤田泰典、伊藤雅史、田中雅嗣、井藤英喜、荒木厚：高齢糖尿病患者における血中GDF15値測定の意義の検討。第32回日本糖尿病合併症学会。東京，10月27日，2017。
28. 大庭和人、千葉優子、館鼻彩、山岡巧弥、小寺玲美、豊島堅志、田村嘉章、森聖二郎、井藤英喜、荒木厚：高浸透圧高血糖状態とケトアシドーシスを呈した高齢2型糖尿病の1例。第55回日本糖尿病学会関東甲信越地方会。新潟，1月20日，2018。
29. 小寺玲美、千葉優子、山岡巧弥、田村嘉章、石川譲治、森聖二郎、井藤英喜、荒木厚。糖尿病患者の軽度認知機能障害と身体機能との関連。第60回日本糖尿病学会学術集会。名古屋，5月18日，2017。
30. 小寺玲美、千葉優子、山岡巧弥、田村嘉章、石川譲治、森 聖二郎、井藤英喜、荒木厚。糖尿病患者における軽度認知機能障害と身体機能について。第59回日本老年医学会学術集会。名古屋，6月15日，2017。
31. Toyoshima K: Increased Plasm Proline Concentration Is Associated With Sarcopenia of Elderly People the 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics, San Francisco, September 24, 2017.
32. 豊島弘一、豊島堅志、松本健二、山岡巧弥、小寺玲美、大庭和人、田村嘉章、千葉優子、古田光、荒木厚：認知機能低下を契機に診断された

- 特発性副甲状腺機能低下症の1例. **第67回日本老年医学会関東甲信越地方会**. 東京, 3月3日, 2018.
33. 舘鼻彩、豊島堅志、北郷萌、山岡巧弥、小寺玲美、大庭和人、田村嘉章、千葉優子、森聖二郎、荒木厚: デスマプレシン点鼻薬から口腔内崩壊錠へ変更することでコントロールが改善した高齢尿管症患者の1例. **第66回日本老年医学会関東甲信越地方会**. 川越, 9月30日, 2017.
34. 金澤伸郎、黒岩厚二郎、新開省二、石崎達郎、吉田孝司、三井秀雄、荒木厚、井藤英喜、許俊英: (シンポジウム15) 高齢者外科手術の限界. フレイルと手術適応 - 術前リスク評価としての位置づけ. **第59回日本老年医学会学術集会**. 名古屋, 6月16日, 2017.
35. 周赫英、森聖二郎、山賀政弥、竹本稔、小寺玲美、田村嘉章、千葉優子、荒木厚、井藤英喜、横手幸太郎: ウエルナー症候群に合併する骨粗鬆症の臨床的特徴に関する研究. **第59回日本老年医学会学術集会**. 名古屋, 6月16日, 2017.
36. 石川譲治、鳥羽梓弓、田中甸、田村嘉章、藤原住典、荒木厚、原田和昌. 高齢高血圧患者におけるBody Mass Indexと認知機能障害の関連. **第6回臨床高血圧フォーラム**. 岡山, 5月13日, 2017.
37. 鳥羽梓弓、石川譲治、鈴木歩、齋藤義弘、二見崇太郎、田中甸、田村嘉章、荒木厚、原田和昌. 起立性血圧変動とフレイルの関連. **日本高血圧学会総会**. 愛媛, 10月22日, 2017.
38. 石川譲治、鳥羽梓弓、田中甸、田村嘉章、荒木厚、原田和昌. 高齢糖尿病患者におけるフレイルの有病率. **第59回日本老年医学会学術集会**. 名古屋, 6月16日, 2017.
39. 飯塚あい、石川譲治、鳥羽梓弓、田中甸、田村嘉章、千葉優子、安永正史、藤原佳典、原田和昌、荒木厚. フレイル外来受診者における運動機能分析装置(zaRitz)の得点と体幹バランス、起立移動能力の関連. **第59回日本老年医学会学術集会**. 名古屋, 6月16日, 2017.
40. Yoshihiro Saito, Joji Ishikawa, Ayumi Toba, Aymi Suzuki, Yoshiaki Tamura, Atsushi Araki, and Kazumasa Harada. Smaller body mass index is associated with mild cognitive impairment in elderly hypertensive patients. American Heart Association's Scientific Sessions. Anaheim, CA, USA, November, 2017.
41. 樋口陽: 意識障害で救急搬送された高齢者の症例. **第5回高齢者診療マスタークラス(GMC)**. 東京, 9月27日, 2017.
42. 河合恒、大淵修一、藤原佳典、平野浩彦、渡邊裕、荒木厚、小山照幸、杉江正光、小島基永、中田晴美、鈴木隆雄: (合同シンポジウム11) 当事者主体の地域包括ケアを目指して. コーディネーターのかかわりによって私的社会的抑制を強めない住民協働の介護予防の推進効果. **第59回日本老年医学会学術集会**. 名古屋, 6月14日, 2017.
- 講演、その他
1. 荒木厚: 糖尿病, 脂質異常症, 甲状腺疾患. **杏林大学医学部加齢医学講座M4講義**. 東京, 12月17日, 2017.
 2. 荒木厚: 高齢者糖尿病の新しい治療戦略. **2017年老年医学サマーセミナー**. 軽井沢, 8月4日, 2017.
 3. 荒木厚: (発言) 認知症の予知と重篤化阻止. **第34回糖尿病Up・Date賢島セミナー**. 志摩, 8月26日, 2017.
 4. 荒木厚: (基調講演) 高齢者のフレイル・サルコペニアや認知機能低下を防ぐための低栄養対策. **食健康サミット2017**. ライフステージにおける食生活と健康 - 健やかな高齢社会の実現に向けた日本型食生活と運動. 東京, 11月9日, 2017.
 5. 荒木厚: (基調講演) 認知症やフレイル(虚弱)を防ぐための糖尿病の療養方法. **第53回糖尿病週間講演会**. 東京, 11月11日, 2017.
 6. 荒木厚: (特別講演) 腎機能と認知機能を考慮した高齢者糖尿病治療. <大学院特別講義> **WORLD KIDNEY DAY 2018シンポジウム**. 新潟, 3月1日, 2018.
 7. 荒木厚: (特別講演) 認知機能低下とフレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. **第19回女性医療研究会**. 和歌山, 4月26日, 2017.
 8. 荒木厚: (特別講演) 認知機能やADLを考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標. **第10回札幌糖尿病・脂質代謝研究会**. 札幌, 5月1日, 2017.
 9. 荒木厚: (特別講演) 認知機能低下やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. **第18回京都糖尿病動脈硬化研究会**. 京都, 6月3日, 2017.
 10. 荒木厚: 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の療養指導. **第13回宮城県糖尿病看護研究会**. 仙台, 6月4日, 2017.
 11. 荒木厚: (特別講演) フレイルと認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. **第10回多摩糖尿病先端医療研究会**. 立川, 6月7日, 2017.
 12. 荒木厚: (特別講演) 認知機能低下やフレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. **第34回南区医師会中京病院病診連携糖尿病勉強会**. 名古屋, 6

- 月20日, 2017.
13. 荒木厚：(特別講演) 認知機能とADLを考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて. **むつ下北医師会学術講演会**. むつ, 6月23日, 2017.
 14. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. **第5回富山市糖尿病治療地域連携の会**. 富山, 6月29日, 2017.
 15. 荒木厚：(座長) 斎藤充. 生活習慣病関連骨粗鬆症の病態からみた治療薬の選択. TAISHO TOYAMA Medical Symposium. 東京, 7月1日, 2017.
 16. 荒木厚：(特別講演) 認知機能低下を考慮した高齢者糖尿病治療. **杉並区糖尿病医療連携会・杉並区医師会物忘れ相談医研修会合同講演会**. 東京, 7月4日, 2017.
 17. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者の糖尿病治療. **第41回鳥取県糖尿病談話会**. 鳥取, 7月8日, 2017.
 18. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて-. **高齢者の糖尿病を考える会**. 盛岡, 7月12日, 2017.
 19. 荒木厚：認知機能とADLを考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標. **第20回熊本糖尿病フォーラム**. 熊本, 7月14日, 2017.
 20. 荒木厚：(特別講演) 認知症とADL低下を考慮した高齢者糖尿病治療. **淀川糖尿病治療セミナー**. 大阪, 7月14日, 2017.
 21. 荒木厚：認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療と療養指導. **第5回糖尿病看護実践力開発セミナー**. 福岡, 7月16日, 2017.
 22. 荒木厚：フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療について. **高齢者医療フォーラム in Kawassumi**. 名古屋, 7月19日, 2017.
 23. 荒木厚：糖尿病と老年症候群. **第12回横浜生活習慣病フォーラム**. 横浜, 7月22日, 2017.
 24. 荒木厚：(特別講演) 老年症候群を考慮した高齢者糖尿病の管理. **第20回糖尿病治療を考えるフォーラム**. 名古屋, 7月23日, 2017.
 25. 荒木厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. **サルコペニアと糖尿病を考える会**. 福岡, 7月28日, 2017.
 26. 荒木厚：認知機能低下を考慮した高齢者糖尿病の治療. **糖尿病と併存疾患を考える会 - 糖尿病と認知症**. 浜松, 8月30日, 2017.
 27. 荒木厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. **鳥取県東部医師会学術講演会**. 鳥取, 8月30日, 2017.
 28. 荒木厚：(特別講演) 認知症とADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療. **学術講演会 - 高齢者糖尿病を考える -**. 西宮, 9月1日, 2017.
 29. 荒木厚：(糖尿病全国Web講演会) サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. Takeda Diabetes Academy. 東京, 9月7日, 2017.
 30. 荒木厚：(特別講演座長) 秋下雅弘：ポリファーマシーへの対応. **老年医学セミナー**. 東京, 9月7日, 2017.
 31. 荒木厚：フレイルを考慮した高齢者医療. **東京都医師会平成29年度生活習慣病講演会**. 東京, 9月9日, 2017.
 32. 荒木厚：(座長) DSP Symposium - 超高齢社会を取り巻く3疾病 糖尿病・高血圧・認知症. 東京, 9月24日, 2017.
 33. 荒木厚：「高齢者糖尿病診療ガイドライン2017」を踏まえた薬物療法のポイント. **K-netカンファレンス**. 東京, 9月22日, 2017.
 34. 荒木厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. **高齢者糖尿病治療ガイドフォーラム**. 津, 9月29日, 2017.
 35. 荒木厚：(特別講演) 認知症とADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて-. **相模原医療連携フォーラム - 高齢者の糖尿病治療を考える**. 相模原, 10月3日, 2017.
 36. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. **医療法人社団日高会日高病院地域医療支援病院講演会 - 第3回AOZORAセミナー**. 高崎, 10月5日, 2017.
 37. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて-. **第16回小樽糖尿病・循環器カンファレンス**. 小樽, 10月6日, 2017.
 38. 荒木厚：超高齢社会における糖尿病治療最前線 - メタボ対策からフレイル予防の栄養へのパラダイムシフトを目指して. **アボットニュートリションライフセミナー**. 東京, 10月10日, 2017.
 39. 荒木厚：(特別講演) 認知機能低下を考慮した高齢者糖尿病の治療. **第5回かわぐち糖尿病セミナー**. 川口, 10月11日, 2017.
 40. 荒木厚：(特別講演) 認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. **高齢者糖尿病治療セミナー2017 - 高齢者糖尿病における血糖管理のあり方を考える**. 横浜, 10月18日, 2017.
 41. 荒木厚：(基調講演座長) 内潟安子：糖尿病のある人生を支えるために - 糖尿病療養指導士に求められること. **第18回城北CDEセミナー**. 東京, 10月21日, 2017.

42. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて-。美波セミナー in 千葉。千葉, 11月1日, 2017.
43. 荒木厚：(インターネット講演会) 認知症とADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて。糖尿病インターネット講演。東京, 11月8日, 2017.
44. 荒木厚：(特別講演) サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療。Takeda Diabetes Forum。町田, 11月14日, 2017.
45. 荒木厚：(特別講演) 高齢者糖尿病と老年症候群 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて。高齢者糖尿病治療Update。名古屋, 11月16日, 2017.
46. 荒木厚：(特別講演座長) 小椋祐一郎：糖尿病網膜症と加齢黄斑変性症 - 最近の眼科診療の進歩。第7回城北糖尿病合併症研究会。東京, 11月17日, 2017.
47. 荒木厚：(特別講演) 高齢者糖尿病と老年症候群 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて。学術講演会 - 高齢者糖尿病の実臨床を考える。東京, 11月18日, 2017.
48. 荒木厚：(座長) 守屋辰美：慢性合併症を有する糖尿病患者を少なからず診療している時代のSGLT2阻害薬の役割。区西北部糖尿病治療研究会。東京, 11月20日, 2017.
49. 荒木厚：(特別講演) 認知症とADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて。高齢糖尿病健康寿命フォーラム。高松, 11月21日, 2017.
50. 荒木厚：(特別講演) 認知症とADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて-。第10回富士・富士宮インクレチン研究会。富士, 11月22日, 2017.
51. 荒木厚：(特別講演) 認知症とADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて-。中越糖尿病フォーラム - 高齢者糖尿病の治療を考える。長岡, 11月29日, 2017.
52. 荒木厚：(特別講演座長) 山田実：サルコペニア：予防と改善。老年医学セミナー。東京, 11月30日, 2017.
53. 荒木厚：(座長とパネリスト) AGE-DM (Approach for geriatric diabetes management)。東京, 12月2日, 2017.
54. 荒木厚：(Web講演) フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療。Kowa Web Conference。東京, 12月6日, 2017.
55. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療。第16回倉敷チーム医療研究会。倉敷, 12月10日, 2017.
56. 荒木厚：(特別講演) 高齢者糖尿病と老年症候群 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて。甲信越エリア 糖尿病フォーラム。東京, 12月16日, 2017.
57. 荒木厚：糖尿病と認知症/フレイル。JJDI 臨床力をさらに磨きたい医師のための実践につながる糖尿病治療 Update集中セミナー。川崎, 12月16日, 2017.
58. 荒木厚：高齢者糖尿病の栄養管理。病院・福祉施設等給食施設従事者研修会。佐倉, 1月18日, 2018.
59. 荒木厚：認知症を防ぐための生活習慣と食事。ベネッセ共催セミナー。東京, 1月21日, 2018.
60. 荒木厚：(Web講演) 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえた薬物療法のポイント。糖尿病領域Web講演会。東京, 1月23日, 2018.
61. 荒木厚：(特別講演) 認知機能低下を考慮した高齢者糖尿病治療。南加賀糖尿病セミナー。小松, 2月2日, 2018.
62. 荒木厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療。糖尿病病診連携学術講演会。浜松, 2月6日, 2018.
63. 荒木厚：認知症とADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて-。沼津内科医会学術講演会。沼津, 2月16日, 2018.
64. 荒木厚：(座長) 竹屋泰、羽生春夫、稲葉雅章。BRIDGE Forum 2018 - 超高齢社会における糖尿病患者のトータルケア。東京, 2月18日, 2018.
65. 荒木厚：糖尿病治療における早期治療の重要性。城北プライマリーケア懇話会。東京, 2月20日, 2018.
66. 荒木厚：認知機能低下とフレイルを考慮した高齢者糖尿病治療。高齢者診療カンファレンス - 高齢化社会における地域医療を考える。東京, 2月22日, 2018.
67. 荒木厚：(日医生涯教育協力講座セミナー) サルコペニア、フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療。超高齢社会における高齢者のトータルケア - 高齢者の健康寿命延伸に向けて。山形, 2月24日, 2018.
68. 荒木厚：(特別講演) 認知症とADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて-。第26回市原糖尿病懇話会・第14回市原市糖尿病対策推進会

- 議講演会. 市原, 3月6日, 2018.
69. 荒木厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. **横浜青葉糖尿病地域連携セミナー**. 横浜, 3月7日, 2018.
 70. 荒木厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて-. **南大阪糖尿病シンポジウム**. 堺, 3月8日, 2018.
 71. 荒木厚：(特別講演) 認知機能低下を考慮した高齢者糖尿病の治療.**可茂地区糖尿病地域連携セミナー**. 美濃加茂, 3月14日, 2018.
 72. 荒木厚：高齢者糖尿病における薬物治療について. **板橋区医師会学術部学術講演会. ポリファーマシーを考える**. 東京, 3月19日, 2018.
 73. 荒木厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. **第4回中河内糖尿病治療フォーラム**. 大阪北区, 3月19日, 2018.
 74. 荒木厚：フレイル・サルコペニアを考慮した高齢者糖尿病の治療 - 高齢者糖尿病診療ガイドライン2017を踏まえて. **第7回さくらフォーラム**. 福岡, 3月31日, 2018.
 75. 千葉優子：栄養代謝疾患第一回. **板橋看護専門学校講義**. 東京, 11月17日, 2017.
 76. 千葉優子：栄養代謝疾患第二回. **板橋看護専門学校講義**. 東京, 11月24日, 2017.
 77. 千葉優子(司会)：高齢者糖尿病診療ガイドラインに則した治療の留意点. **アイリス糖尿病懇話会**. 東京, 11月20日, 2017.
 78. 千葉優子：高齢者の転倒・寝たきり予防改善のためのアクアフィットネスの意義と効果(高齢者の運動処方概論). **平成29年度第5回メデイカルアクアフィットネスインストラクター(転倒・寝たきり予防改善)講習会**. 東京, 2月3日, 2018.
 79. 千葉優子：高齢者糖尿病治療の取り組み. **Diabetes Management Seminar**. 東京, 3月17日, 2018.
 80. 千葉優子：東京都健康長寿医療センターにおける高齢者糖尿病治療UPDATE. **Meet The Expert 薬局合同勉強会**. 東京, 3月23日, 2018.
 81. 小寺玲美：高齢者糖尿病診療ガイドラインに即した治療の留意点. (座長) 千葉優子：**第2回アイリス糖尿病懇話会**. 東京, 11月24日, 2017
 82. 田村嘉章：Vitamin D and Geriatric Syndrome: A study in Frailty Clinic. **第4回25(OH)D3を考える会**. 東京, 9月2日, 2017.
 83. 田村嘉章：高齢者糖尿病のマネジメント. **生活習慣病カンファレンス**. 東京, 9月7日, 2017.
 84. 田村嘉章：高齢者糖尿病の診かた-フレイル外
来から学ぶこと. **中河内糖尿病セミナー**. 大阪, 10月21日, 2017.
 85. 豊島堅志：高齢者の生活習慣病. **高齢者医療研修会**. 名古屋, 6月14日, 2017.
 86. 豊島堅志：サルコペニア・フレイルを考慮した糖尿病診療. **老年医学セミナー**. 東京, 11月25日, 2017.
 87. 山岡卓也：当院における高浸透圧高血糖症候群の臨床的特徴について. **第7回城北糖尿病合併症研究会**. 東京, 11月17日, 2017.
 88. 森聖二郎：臨床医学各論：栄養障害と肥満、メタボリック症候群. **国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成29年4月21日(東京)
 89. 森聖二郎：臨床医学各論：糖尿病の発症機序. **国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成29年4月28日(東京)
 90. 森聖二郎：臨床医学各論：糖尿病と合併症. **国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成29年5月12日(東京)
 91. 森聖二郎：臨床医学各論：脂質代謝と脂質代謝異常症. **国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成29年5月26日(東京)
 92. 森聖二郎：臨床医学各論：加齢性疾患、骨粗鬆症. **国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成29年6月2日(東京)
 93. 森聖二郎：臨床医学各論：内分泌疾患. **国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成29年6月30日(東京)
 94. 森聖二郎：甲状腺疾患と骨粗鬆症. **気仙沼市医師会附属高等看護専門学校講義**. 平成29年11月17日(気仙沼)
 95. 森聖二郎：糖尿病と高脂血症. **気仙沼市医師会附属高等看護専門学校講義**. 平成29年11月18日(気仙沼)
 96. 森聖二郎：甲状腺疾患と骨粗鬆症. **板橋看護専門学校講義**. 平成29年12月1日(東京)
 97. 森聖二郎：糖尿病と高脂血症. **板橋看護専門学校講義**. 平成29年12月14日(東京)
 98. 森聖二郎：生活習慣病診療における骨粗鬆症への対応. **骨粗鬆症治療Updateセミナーin徳島**. 平成29年8月31日(徳島)
 99. 森聖二郎：生活習慣病診療における骨粗鬆症への対応. **東京都内科医会講演会～健康寿命と骨折予防セミナー**. 平成29年9月15日(東京)
 100. 森聖二郎：正しい知識で予防しよう糖尿病. **板橋健康福祉センター糖尿病予防講座**. 平成29年11月20日(東京)
 101. 森聖二郎：内科医から見た骨粗鬆症診療の現状と将来展望. **第3回整形外科医のためのナレッジセミナー**. 平成29年11月30日(東京)

●メディア出演：

1. 荒木厚：糖尿病 高齢者の新対策① 加齢の影響と血糖目標. きょうの健康, Eテレ。10月2日, 2017.
2. 荒木厚：糖尿病 高齢者の新対策②血糖値の急変に注意. きょうの健康, Eテレ。10月3日, 2017.
3. 荒木厚：糖尿病 高齢者の新対策③食事・運動・薬のポイント. きょうの健康, Eテレ。10月4日, 2017.
4. 荒木厚：糖尿病 高齢者の新対策④老化に伴う合併症. きょうの健康, Eテレ。10月4日, 2017.

●論文査読

当科医師は以下の雑誌の査読を行った。

1. 荒木厚：Journal of Diabetes Investigation、Diabetology International、Geriatrics and Gerontology International、Metabolism、Scientific Report、日本老年医学会雑誌、Geriatric Medicine
2. 森聖二郎：Aging、Clinica Chimica Acta、European Journal of Clinical Investigation、Journal of Bone and Mineral Metabolism、Journal of Atherosclerosis and Thrombosis、Geriatrics and Gerontology International、日本老年医学会雑誌、日本臨床栄養学会雑誌
3. 田村嘉章：Geriatrics and Gerontology International

循環器内科

●雑誌論文

1. 弓倉整, 水野重樹, 大野安実, 野村周三, 三浦直久, 山口武兼, 中島英樹, 畑明宏, 金丸和富, 石川讓治, 原田和昌, 畑中裕己, 上妻謙, 須磨 健, 奥村恭男, 平山篤志, 福島崇夫, 田城孝雄：東京都板橋区における脳卒中と抗凝固薬の関係(第2報). 日本医師会雑誌 2017;146(7):1423-1428
2. 白石泰之, 香坂 俊, 原田和昌, 宮本貴庸, 谷本周三, 飯田圭, 酒井哲朗, 宮崎哲郎, 矢川真弓子, 松下健一, 降旗修太, 佐藤直樹, 福田恵一, 山本剛, 長尾建, 高山守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会：急性非代償性心不全における急性期の血圧変動と予後への影響. ICUとCCU 2017;41(別冊) :S95-S101
3. 藤本肇, 小宮山浩大, 及川恵子, 朴沢英成, 原田和昌, 中村正人, 代田浩之, 山本剛, 長尾建, 高山守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会：救急要請された冠攣縮性狭心症発作の日内分布についての検討 東京都CCUネットワーク・コホート研究. ICUとCCU 2017;41(別冊) :S104-

S105

4. Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi S, Harada K, Kyo S, Ito H: Femoral muscle mass relates to physical frailty components in community-dwelling older people. Geriatr Gerontol Int. 2017;17(10):1636-1641.
5. Matsushita K, Harada K, Miyazaki T, Miyamoto T, Kohsaka S, Iida K, Tanimoto S, Yagawa M, Shiraishi Y, Yoshino H, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M. Effect of Heart Failure Secondary to Ischemic Cardiomyopathy on Body Weight and Blood Pressure. Am J Cardiol. 2017;120(9):1589-1594.
6. Shiraishi Y, Kohsaka S, Abe T, Harada K, Miyazaki T, Miyamoto T, Iida K, Tanimoto S, Yagawa M, Takei M, Nagatomo Y, Hosoda T, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M; Tokyo CCU Network Scientific Committee. Impact of Triggering Events on Outcomes of Acute Heart Failure. Am J Med. 2018;131(2):156-164.
7. Ishikawa Y, Ishikawa J, Ishikawa S, Kajii E. Available from: sciencedirect.com Progression from prehypertension to hypertension and risk of cardiovascular disease. Journal of Epidemiology 2017; 27: 8-13
8. Sugie M, Kazumasa H, Takahashi T, Nara M, Ishikawa J, Koyama T, Kim Hunkyung, Tanaka J, Fujimoto H, Obuchi S, Stephan von haehling, Kyo S, Ito H. Relationship between skeletal muscle mass and cardiac function during exercise in community-dwelling older adults. ESC Heart Fail 2017;4:409-416.
9. Ishikawa J, Yamanaka Y, Toba A, Watanabe S, Harada K. Gender-adjustment and cutoff values of Cornell product in hypertensive Japanese patients. International Heart Journal 2017; 58:933-938.
10. Toba A, Ishikawa J, Harada K. Orthostatic hypotension and Association of Arterial Compliance in Elderly Patients with Hypertension ~a pilot study~ Blood Pressure Monitoring 2017; 22: 274-278.
11. Aoyama, R, Ishikawa, J, Harada, K, Tukada, Y. Tuberculous pericarditis treated with steroid in a dialysis patient BMJ Case Rep. 2017 Aug 1;2017. doi: 10.1136/bcr-2017-220562.
12. Akiko Mano, Takashi Nishimura, Tomohiro Murata, Mitsuhiro Kawata, Jun Tanaka, Kazuhiro Takeda, Joji Ishikawa, Hajime

- Fujimoto, Kazumasa Harada and Shunei Kyo. Jarvik 2000 Implantation in Anatomical Right Ventricle on Patient with Corrected Transposition of Great Arteries. *J Vasc Med Surg* 2017; 5: 349.
13. Rie Aoyama, Hitoshi Takano, Yasuhiro Kobayashi, Mitsunobu Kitamura, Kuniya Asai, Yasuo Amano, Shin-ichiro Kumita, Wataru Shimizu Evaluation of myocardial glucose metabolism in hypertrophic cardiomyopathy using 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography. *PLoS ONE* 12(11): e0188479. [tps://doi.org/10.1371/journal.pone.0188479](https://doi.org/10.1371/journal.pone.0188479)
 14. 村田哲平 日本集中治療医学会雑誌 短報「好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に多枝閉塞の急性心筋梗塞を発症し心停止に至ったが社会復帰した一例」
 15. 鳥羽梓弓、假屋太郎、青山里恵、石山泰三、坪光雄介、武田和大、藤本肇、下門顕太朗、原田和昌 Impact of age on left ventricular geometry and diastolic function in elderly patients with treated hypertension *Blood pressure* 2017年26巻264-271頁
 16. 鳥羽梓弓、石川讓治、原田和昌 Orthostatic Hypotension and Association of Arterial Compliance in Elderly Patients with Hypertension ~a pilot study~ *Blood pressure monitoring* 2017年22巻5号274-278頁
 17. Komiyama K, Nakamura M, Tanabe K, Niikura H, Fujimoto H, Oikawa K, Daida H, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M; Tokyo CCU Network Scientific Committee. In-hospital mortality analysis of Japanese patients with acute coronary syndrome using the Tokyo CCU Network database: Applicability of the GRACE risk score. *J Cardiol.* 2018 Mar;71(3):251-258.
- で 高齢者慢性心不全. 日経DIクイズ 日経BP社 東京 2017 p.43-49
4. 原田和昌：虚血性心疾患. 高齢者総合診療ノート第2版 日本医事新報社 東京 2017年 p.296-301
 5. 原田和昌：2017年概説－心不全. 脳・心・腎血管疾患クリニカル・トリアル Annual Overview2018. ライフサイエンス出版 東京 2018 p.33-34
 6. 原田和昌：超高齢者心房細動の治療と管理. 最新医学別冊 診断と治療のabc 134 最新医学社 東京 2018 p.182-188
 7. 原田和昌：なぜ海女さんの血管年齢は11歳も若いのか？野草だより9・10月号 野草酵素 東京 2017 p.6
 8. 原田和昌：クスリに頼らない高血圧・糖尿病の治し方. サンデー毎日 毎日新聞出版 東京 2017年 p.20-25

●総説

1. 原田和昌：【動脈硬化性病変とフレイルの関連性】 高齢者心不全とフレイル、サルコペニア. *Arterial Stiffness：動脈壁の硬化と老化* 2017; 23:20-21
2. 原田和昌：高齢者心不全の疫学と特徴 「高齢心不全患者の治療に関するステートメント」を踏まえて. *Aging & Health* 2017;26(3):6-9
3. 原田和昌, 安齊俊久, 今井靖, 絹川 弘一郎：高齢者心不全のトータルマネージメント. *Therapeutic Research* 2018;29(1):9-16
4. 原田 和昌, 阿部雅紀, 安齊俊久, 長谷部直幸：CKD/透析患者の心血管合併症とその対策. *臨床医のための循環器診療* 2018;28:3-18
5. 原田和昌：研究室紹介(244) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター循環器内科. *血圧*2017;24(8):78-79
6. 原田和昌：症例に学ぶ 医師が処方を決めるまで 高齢者の慢性心不全. 日経ドラッグインフォメーション(プレミアム版) 2017;5:22-25石川讓治 特集「見直し！ 高齢者高血圧治療－SPRINT試験の衝撃から」「検証！ SPRINT試験の血圧測定環境は診察室血圧のどのレベルか？」週刊「日本医事新報」No.4847、3月3週号
7. 石川讓治 患者さんからよく尋ねられる内科診療のFAQ 循環器内科 「最近、上の血圧が160ぐらいあるのですけど薬を飲んだ方がいいですか？」 臨床雑誌「内科」120巻3号（2017年9月増大号）
8. 石川讓治 Efficacy of self-monitored blood

●単行書

1. 原田和昌：第1章心臓カテーテル検査の歴史と現在の標準的手法. *グロスマン・ベイム心臓カテーテル検査・造影・治療法(原書第8版)* 南江堂 東京 2017年 p.2-20
2. 新田大介, 原田和昌：第2章シネアンギオグラフィ, 放射線安全性, 造影剤. *グロスマン・ベイム心臓カテーテル検査・造影・治療法(原書第8版)* 南江堂 東京 2017年 p.21-58
3. 原田和昌：症例に学ぶ 医師が処方を決めるま

pressure, with or without telemonitoring, for titration of antihypertensive medication (TASMINH4): an unmasked randomized controlled trial. ケアネット CLEAR! ジャーナル四天王コメント

●学会・研究会発表

1. 原田和昌：SESSION III-II脳梗塞、認知症、Atheromatous EmbolizationさらにCholesterol Crystal. TCIF 2017（大阪）2017.4.22
2. 原田和昌：高齢者心不全治療の新しい考え方をステートメントをふまえて. 第28回日本老年医学会東海地方会教育企画（名古屋）2017.9.30
3. 原田和昌：ランチョンセミナー. フレイルな高齢高血圧患者の治療を考える. 第40回日本高血圧学会総会（松山）2017.10.20
4. 原田和昌：ランチョンセミナー. フレイル、低栄養、併存症を考慮した超高齢者の心不全治療. 第3回日本心臓リハビリテーション学会九州地方会（鹿児島）2017.10.29
5. Fujimoto H, Komiyama K, Oikawa K, Harada K, Daida H, Nakamura M, Takayama M. The impact of acute heart failure on the elderly unstable angina pectoris patients -Tokyo CCU Network Cohort Analysis- The 82nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Mar 23, 2018, Osaka
6. Komiyama K., Fujimoto H, Oikawa K, Harada K, Daida H, Nakamura M, Takayama M. Development of TOMIN (Tokyo CCU Network Myocardial Infarction) SCORE to predict in-hospital mortality for patients with myocardial infarction. The 82nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Mar 23, 2018, Osaka
7. 藤本肇、両角愛、根本佳子、大川庭熙、十菱千尋、杉江正光、村田哲平、青山里恵、田中甸、石川譲治、武田和大、坪光雄介、原田和昌 「非保護左主幹部を責任病変とする区お礼狭心症患者に対する経皮的冠動脈形成術の安全性と短期・中期成績について」第65回日本心臓病学会学術集会 2017年9月30日 大阪
8. 小宮山浩太、中村正人、田邊健吾、藤本肇、代田浩之、高山守正 「GRACEスコアリスクによるヒアリスク急性肝症候群の検討」第65回日本心臓病学会学術集会 2017年9月30日 大阪
9. 石川譲治、田村嘉章、藤原佳典、荒木厚、原田和昌 高齢高血圧患者における認知機能障害とBMIの関連 第6回臨床高血圧フォーラム、2017年5月13日、岡山
10. 小寺玲美、千葉優子、山岡巧弥、田村嘉章、石川譲治、森聖二郎、井藤英喜、荒木厚 糖尿病患者の軽度認知機能障害と身体機能との関連 第60回糖尿病学術集会 2017年5月18-20日、愛知
11. 田村嘉章、山岡巧弥、小寺玲美、石川譲治、千葉優子、下地啓五、森聖二郎、徳丸阿耶、荒木厚 高齢糖尿病患者におけるフレイル診断と白質病変の統合性異常との関連 第60回糖尿病学術集会 2017年5月18-20日、愛知
12. 小寺玲美、千葉優子、山岡巧弥、田村嘉章、石川譲治、森聖二郎、井藤英喜、荒木厚 糖尿病患者の軽度認知機能障害と身体機能について日本老年医学会 2017年6月、名古屋
13. 山岡巧弥、田村嘉章、小寺玲美、千葉優子、石川譲治、森聖二郎、荒木厚 フレイルは高齢糖尿病患者の身体活動量、栄養、うつ、社会サポートと関連する 日本老年医学会 2017年6月、名古屋
14. 石川譲治、鳥羽梓弓、田中甸、田村嘉章、荒木厚、原田和昌 高齢高血圧患者におけるフレイルの有病率 日本老年医学会 2017年6月、名古屋
15. 田村嘉章、下地啓五、石川譲治、櫻井孝、荒木厚 高齢糖尿病患者における白質病変と認知機能の関連（DTIを含む）日本老年医学会 2017年6月、名古屋
16. 荒木厚、田村嘉章、石川譲治、下地啓五、井藤英喜 糖尿病におけるフレイル -身体活動量、栄養、脳白質統合性との関連 日本老年医学会 2017年6月、名古屋
17. 飯塚あい、石川譲治、鳥羽梓弓、田中甸、田村嘉章、千葉優子、安永正史、藤原佳典、原田和昌、荒木厚 フレイル外来受診者における運動機能分析装置（zaRitz）の得点と体幹バランス、起立移動能力の関連 日本老年医学会 2017年6月、名古屋
18. 石川譲治、原田和昌 POST-SPRINTの日本人高血圧治療戦略 ～だれを対象に、どの降圧薬で、どこまで降圧するか～ SPRINT研究における外来血圧は日常診療の外来血圧のどのレベルに相当するのか？ 第65回日本心臓病学会、2017年10月1日、大阪
19. 根本佳子 石川譲治 二見崇太 十菱千尋、田中甸 武田和大 原田和昌 高齢化を迎えたこれからのCCU医療「超高齢者心不全の急性期治療」第65回日本心臓病学会、2017年9月30日、大阪
20. 二見崇太郎、加藤倫子、田中甸、石川譲治、坪光雄介、武田和大、藤本肇、原田和昌 親水性

- ポリマーコーティングによる冠動脈末梢塞栓症 第65回日本心臓病学会、2017年10月1日、大阪
21. 石山泰三、両角愛、大川庭熙、石川譲治、坪光雄介、藤本肇、原田和昌 「心不全で入院加療中に感染症によるDICを発症した高齢者の一例」 第66回日本老年医学会関東甲信越地方会 2017年9月30日 埼玉
 22. Futami S, Ishikawa J, Jubishi C, Nemoto Y, Tanaka J, Tsuboko Y, Takeda K, Fujimoto H, Harada K. Cognitive function in patients with heart failure is related to distribution of body water and cardiac diastolic function. The 21st Annual Scientific Meeting of the Japanese Heart Failure Society, Oct 14, 2017, Akita
 23. 石川譲治、原田和昌 高齢高血圧患者におけるフレイルと認知機能障害の診断と低血圧に関する問題について 会長特別企画 フレイル高齢者の降圧療法の諸問題 日本高血圧学会、2017年10月20日
 24. 鈴木歩、石川譲治、鳥羽梓弓、原田和昌 待合血圧 医師による診察室血圧と家庭血圧との比較 日本高血圧学会、2017年10月20日
 25. 起立性血圧変動とフレイルの関連 鳥羽梓弓、石川譲治、齋藤義弘、二見崇太郎、田中甸、田村嘉章、荒木厚、原田和昌 日本高血圧学会、2017年10月22日
 26. 大庭和人、田村嘉章、舘鼻彩、山岡巧弥、小寺玲美、豊島堅志、千葉優子、石川譲治、森聖二郎、藤田泰典、伊藤雅史、田中雅嗣、井藤英喜、荒木厚 高齢糖尿病患者における血中GDF15値測定の意義の検討 第32回糖尿病合併症学会 2017年10月27日-29日、東京
 27. 山本文、十菱千尋、田中甸、石川譲治、原田和昌 急性動脈閉塞症発症を契機に心房細動と右房内血栓を認めた一例 日本超音波医学会第29回関東甲信越地方会学術集会 2017年11月12日、東京
 28. 伊藤瑛佑、青山里恵、二見崇太郎、大川庭熙、村田哲平、石川譲治、坪公雄介、武田和弘、藤本肇、原田和昌 診断に苦慮した左前下行枝に有意狭窄を有するたこつぽ型心筋症の一症例 老年医学会関東甲信越地方会、東京、2018年3月3日
 29. 飯塚あい、鈴木宏幸、藤原佳典、石川譲治、田村嘉章、千葉優子、荒木厚 認知機能障害が生じた後も囲碁の技術が保持されていた1例 老年医学会関東甲信越地方会、東京、2018年3月3日
 30. Joji Ishikawa, Kazumasa Harada 日本循環器病学会シンポジウム 並存疾患における最新至適高血圧治療を探る Points to keep in mind for treatment of the elderly hypertensive patients with mild cognitive impairment and frailty 第82回日本循環器病学会学術集会2018年3月25日 大阪
 31. Futami S, Ishikawa J, Jubishi C, Suzuki S, Morozumi A, Saito Y, Nemoto K, Okawa T, Tanaka J, Ishiyama T, Tsuboko T, Takeda K, Fujimoto H, Harada K. Prevalence and determinant of cognitive impairment in elderly patients with heart failure -A pilot study in a geriatric hospital- 4th Annual Meeting of Euro Heart Failure, Apr 29, 2017, Paris.
 32. Saito Y, Ishikawa J, Toba A, Suzuki A, Tamura T, Araki A, Harada K. Smaller body mass index is associated with mild cognitive impairment in elderly hypertensive patients. Joint Scientific Sessions Hypertension AHA Council of Hypertension and American Society of Hypertension, Sep. 14, 2017, San Francisco
 33. Ishikawa J, Yamanaka Y, Watanabe S, Harada K. Cornell product in electrocardiogram is more strongly related to reduced LV regional wall motion than Sokolow-Lyon voltage. Joint Scientific Sessions Hypertension AHA Council of Hypertension and American Society of Hypertension, Sep. 15, 2017, San Francisco
 34. 演者：青山 里恵、中村 有希、久保田 芳明、時田 美和、時田 祐吉、塚田 弥生、浅井 邦也、清水 涉 骨粗鬆症患者における脊椎変形は心機能に影響するか？ 59回日本老年医学会学術集会、日時：2017年6月16日(金)、場所：名古屋国際会議場
 35. 青山里恵、高野仁司、久保田芳明、太良修平、時田祐吉、高木元、塚田弥生、浅井邦也、清水涉、山口博樹、猪口孝一 骨髄増殖性疾患患者における冠攣縮と血管内皮機能について 65回日本心臓病学会学術集会、日時：2017年10月1日、場所：大阪国際会議場
 36. 青山里恵、田中甸、石川譲治、武田和弘、藤本肇、原田和昌、村田知洋、河田光弘、眞野暁子、西村隆、許俊鋭 低心機能の僧帽弁置換術後stuck valveによるショック症例に対してBTD目的に体外設置型補助人工心臓(LVAD)を使用し救命できた1例
 37. 第45回日本集中治療医学会学術集会、日時：2018年2月21日、場所：幕張メッセ
 38. 伊藤瑛佑、青山里恵、二見崇太郎、大川庭熙、齋藤義弘、佳子、村田哲平、田中甸、石山泰三、石

- 川譲治, 坪光雄介, 武田和大, 藤本肇, 原田和昌
 診断に苦慮した左前下行枝に有意狭窄を有する
 たこつぼ型心筋症の1症例 第67回日本老年
 医学学会関東甲信越地方会、2017年3月3日、場
 所：東京都健康長寿医療センター
39. 青山里恵 - 高齢者がんと循環器疾患・血栓症
 を考える - Cardio-Oncology Seminar 2017.9.20
 (東京)
 40. 青山里恵, 高野仁司, 小林靖弘, 汲田伸一郎, 清
 水渉 HCMにおけるRI検査の応用 第5回東
 京HOCMフォーラム, 2017.10.4
 41. 村田哲平「急性期深部静脈血栓症に経カテーテ
 ル血栓溶解療法を行いバルーン拡張術、血栓吸
 引術を追加し有効であったの1例」村田哲平
 CVIT関東地方会 2017年5月6日
 42. 「当院における ALLI(acute lower limb
 ischemia)に対する12年間の治療成績の検討」
 村田哲平 CVIT総会 2017年7月7日
 43. 日本循環器学会 2018年3月24日「当院におけ
 る ALLI(acute lower limb ischemia)に対する
 12年間の治療成績の検討」村田哲平
 44. 村田哲平 循環器内科研究会 2017年11月20
 日 「当院循環器内科でのトロンボモジュリン
 の使用経験」
 45. 村田哲平 東京都循環器研究会 2018年2月24
 日 「左冠動脈主幹部病変と重症大動脈弁狭窄
 症に対してPCI, TAVIを施行した高齢者の一
 例」
 46. 鳥羽梓弓, 石川譲治, 鈴木歩, 二見崇太郎, 田
 中甸, 田村嘉章, 荒木厚, 原田和昌 起立性血
 圧変動とフレイルの関連 017年10月22日
 第40回日本高血圧学会総会
 47. 鳥羽梓弓, 原田和昌 シンポジウム：高齢者心
 不全 017年6月14日 第59回日本老年病学会
 学術集会
 48. 二見 崇太郎 「大動脈弁狭窄症を基礎疾患と
 した心不全患者のエンドオブライフケア-オ
 キシコドン皮下注射を使用した3症例の検討-」
 6月24日 第22回日本緩和医療学会学術大会
 49. 二見崇太郎 不定愁訴による頻回の救急外来
 受診を契機として肝内門脈シャントによる高
 アンモニア血症の診断に至った1例 9月2日
 第22回板橋区医師会医学会
 50. 二見崇太郎 高齢社会と急性期病院における
 心不全のend of life care 4月10日 院内研究
 会「循環器セミナー～心不全緩和を考える～」
 51. 二見崇太郎 アドリアマイシン心筋症と収縮
 性心膜炎 - 病態評価に難渋した1例 - 5月24
 日 城北循環器カンファランス
 52. 二見崇太郎 心筋肥厚を来した高齢者におい
 て念頭に入れておくべき心疾患 9月28日 院
 内公開CPC
 53. 根本佳子, 石川譲治, 二見崇太郎, 十菱千尋, 田
 中甸, 武田和大, 原田和昌：超高齢者心不全の
 急性期治療. 65回日本心臓病学会学術集会シン
 ポジウム (大阪) 2017.9.29
 54. 根本佳子, 石川譲治, 齋藤義弘, 二見 崇太郎,
 大川庭熙, 村田哲平, 田中甸, 青山里恵, 石山
 泰三, 武田和大, 坪光雄介, 藤本肇, 原田和昌
 「ペースメーカー植え込み術後にたこつぼ型
 心筋症様の壁運動以上をきたした心サルコイ
 ドーシスの1例」 第247回日本循環器学会関東
 甲信越地方会 2018.2.10 東京
 55. 大川庭熙, 二見崇太郎, 根本佳子, 石川譲治,
 齋藤義弘, 村田哲平, 田中甸, 青山里恵, 石山
 泰三, 武田和大, 坪光雄介, 藤本肇, 原田和昌
 閉塞性肥大型心筋症ならびに高度石器化を伴
 う僧房弁狭窄症に感染性心内膜炎を発症した
 一例 第246回日本循環器学会関東甲信越地方
 会 2017年12月2日 東京
 56. 大川庭熙, 石山泰三, 坪光雄介, 藤本肇, 原田
 和昌 高齢者に潜む原因不明の「心不全におけ
 る悪性中皮腫の可能性について 第30回日本
 老年医学会学術集会 2017年6月15日 名古屋
 57. 鈴木歩心臓核医学講演会2018年3月16日東京都
 健康長寿医療センター「A-SPECTとD-SPECT
 の違いについて」
 58. Komiyama K, Tanabe K, Fujimoto H,
 Takahayama M. Validation of clinical scoring
 system for predicting inhospital mortality in
 non ST segment Elevation myocardial
 infarction. ESC Congress 2017. Aug. 2017.
- 講師等院外活動（講演・放送等）
1. 原田和昌：循環器医からみる高齢者における消
 化管疾患マネージメント. 板橋区医師会学術講
 演会 (板橋) 2017.4.4
 2. 原田和昌：心房細動と心不全の不思議な関係.
 不整脈合併心不全患者を考える会 (徳島)
 2017.4.5
 3. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え
 方-ステートメントをふまえて- 循環器セミナ
 ー～心不全緩和を考える～ (東京) 2017.4.10
 4. 原田和昌：心血管イベントを考慮した糖尿病治
 療 ~EMPA-REG心不全アウトカムをふま
 えて~. T2DM Leaders Forum (北海道) 2017.4.12
 5. 原田和昌：高齢者における心血管イベントを抑
 制する糖尿病治療とは. 益田市医師会学術講演
 会 (鳥根) 2017.4.14
 6. 原田和昌：高齢者心不全患者の治療に関するス

- テートメントの解説. 副都心サーキュレーションセミナー (東京) 2017.4.19
7. 原田和昌:健康長寿を考慮した脂質治療～循環器疾患と ω 3脂肪酸～. 循環器疾患講演会-将来の展望と課題- (東京) 2017.4.20
 8. 原田和昌:心血管イベントを考慮した糖尿病治療～EMPA-REG心不全アウトカムをふまえて～. T2DM Forum in 渋谷 (東京) 2017.4.26
 9. 原田和昌:超高齢者心不全治療の新しい考え方. Samsca Heart Forum 2017 in 福島 (福島) 2017.4.27
 10. 原田和昌:心血管イベントを考慮した糖尿病治療-EMPA-REG心不全アウトカムをふまえて-. T2DM Forum in Chiba (千葉) 2017.5.12
 11. 原田和昌:高齢者心房細動のトータルマネジメント-低体重・フレイルを考える. 上都賀郡市医師会講演会 (栃木) 2017.5.16
 12. 原田和昌:超高齢者心不全治療の新しい考え方. 次世代循環器医師の和歌山心不全勉強会 (和歌山) 2017.5.18
 13. 原田和昌:高血圧. 第14回メトロポリタン循環器内科研修連絡会 (東京) 2017.5.20
 14. 原田和昌:循環器疾患を予防出来る糖尿病治療とは. 本庄市児玉郡医師会学術講演会 (埼玉) 2017.5.26
 15. 原田和昌:循環器疾患を予防できる糖尿病治療とは. 第5回心疾患プリベンションセミナー (東京) 2017.5.31
 16. 原田和昌:高齢者心不全患者の管理に関するステートメントについて. 第79回オホーツク心臓勉強会 (北海道) 2017.6.2
 17. 原田和昌:循環器疾患を予防出来る糖尿病治療とは. T2DM Forum in NARA (奈良) 2017.6.3
 18. 原田和昌:超高齢者AFにおける抗凝固療法～低体重とフレイルを考える. Total Management of Cardiovascular disease Forum (群馬) 2017.6.5
 19. 原田和昌:超高齢者AFにおける抗凝固療法～低体重とフレイル. 指宿医師会学術講演会 (鹿児島) 2017.6.6
 20. 原田和昌:超高齢者AFにおける抗凝固療法～低体重とフレイルを考える. 入間地区の在宅医療を考える会 (埼玉) 2017.6.7
 21. 原田和昌:超高齢者心不全治療の新しい考え方. 慢性心不全治療を考える会 (大阪) 2017.6.8
 22. 原田和昌:超高齢者心不全の新しい考え方. KURUME-48Heart Failure (久留米) 2017.6.12
 23. 原田和昌:高齢者のDMとフレイル. 第5回大橋カルディオロジー (東京) 2017.6.14
 24. 原田和昌:高尿酸血症は心不全患者の予後を規定する. 循環器医療連携セミナー (東京) 2017.6.19
 25. 原田和昌:心血管イベントを考慮した糖尿病治療～EMPA-REG心不全アウトカムをふまえて～. T2DM Forum in Nagasaki (長崎) 2017.6.27
 26. 原田和昌:超高齢者のAF～低体重とフレイルを考える～. 高齢者心房細動のトータルケアを考える会 (愛知) 2017.7.5
 27. 原田和昌:心血管イベントを考慮した糖尿病治療～EMPA-REG心不全アウトカムをふまえて～. T2DM Forum in East Tokyo (東京) 2017.7.12
 28. 原田和昌:超高齢者AFにおける抗凝固療法. 第12回分子血管研究会 (東京) 2017.7.27
 29. 原田和昌:超高齢者AFにおける抗凝固療法. 抗凝固療法を考える会 (東京) 2017.7.28
 30. 原田和昌:高齢者心不全の最新治療. 東京都健康長寿医療センター 高齢医学セミナー2017 (東京) 2017.7.29
 31. 原田和昌:高齢者心房細動のトータルマネジメント～低体重・フレイルを考える～. 糖尿病と心房細動 (東京) 2017.8.2
 32. 原田和昌:循環器医からみる高齢者における消化管疾患マネジメント. 大塚製薬招聘社内勉強会 (東京) 2017.8.9
 33. 原田和昌:知って得する上手な血圧とのつきあい方-健康長寿は血圧コントロールから-. 平成29年度健康講習会 (東京) 2017.8.16
 34. 原田和昌:健康寿命を考慮した脂質治療-循環器疾患と ω 3脂肪酸-. 北区医師会学術講演会 (東京) 2017.8.23
 35. 原田和昌:循環器医からみる高齢者における消化管疾患マネジメント. 手技と治療を考える～Total Managementの展望～ (東京) 2017.9.4
 36. 原田和昌:高齢者心不全と心腎-貧血-鉄欠乏関連. 第10回旭循環器サマーセミナー (千葉) 2017.9.6
 37. 原田和昌:心腎関連とAF. 生活習慣病治療戦略 (東京) 2017.9.7
 38. 原田和昌:疾病と治療 I 循環器:血圧異常. 板橋看護学校講義 (東京) 2017.9.13
 39. 原田和昌:高齢者心房細動のトータルマネジメント-低体重・フレイルを考える-. プライマリケア医のための循環器疾患懇話会 (群馬) 2017.9.13
 40. 原田和昌:フレイルと健康寿命. 高齢者Total Care Management Seminar (兵庫) 2017.9.14
 41. 原田和昌:循環器医からみる高齢者における消化管疾患マネジメント. 循環器・消化器内科学術講演会 (東京) 2017.9.15

42. 原田和昌：超高齢者のAF～低体重とフレイルを考える～. APHRS2017/JHRS2017 ランチョンセミナー（神奈川）2017.9.16
43. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法－低体重とフレイルについて－. Sakurayama Thrombosis Academy 2（愛知）2017.9.19
44. 原田和昌：高齢高血圧患者の治療戦略～SPRINTサブ解析を踏まえて～. 第8回糖尿病と心血管セミナー（山口）2017.9.21
45. 原田和昌：高齢者心不全の薬物治療を考える. 板橋区医師会学術部学術講演会（東京）2017.9.26
46. 原田和昌：超高齢者AF患者における抗凝固療法－低体重とフレイルを考える－. 第2回心房細動のトータルケアを考える会－心不全・高血圧: CHADS2－（茨城）2017.9.27
47. 原田和昌：超高齢者心不全の新しい考え方. 高齢者心不全を考える会（佐賀）2017.10.2
48. 原田和昌：高齢者の脂質異常は どこまで治療すべきか. サノフィ株式会社社内レクチャー（東京）2017.10.3
49. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 多摩Heart Forum（東京）2017.10.5
50. 原田和昌：高齢心不全患者の治療戦略～ステートメントを踏まえて～. 第95回臨床心臓研究会（北海道）2017.10.6
51. 原田和昌：高齢者心不全の薬物治療を考える. 心不全学術講演会－慈誠会人間ドック会館クリニック（東京）2017.10.10
52. 原田和昌：フレイルと低体重を考慮した高齢者AFの抗凝固療法. Anticoagulation Therapy In Elderly Patients With NVAf Meeting in Kagoshima（鹿児島）2017.10.26
53. 原田和昌：超高齢者AF患者における抗凝固療法－フレイルと低体重－. 第7回北さがみエンボリズム研究会（神奈川）2017.10.31
54. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 心不全治療Expert Meeting in 東葛（千葉）2017.11.7
55. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法－低体重とフレイルについて－. 地域医療連携を考える会（宮城）2017.11.9
56. 原田和昌：超高齢者AFのマネジメント－健康寿命の延長と脳卒中予防－. 全国学術講演会（福岡）2017.11.12
57. 原田和昌：超高齢者AF患者における抗凝固療法～フレイルと低体重～. 第6回Cardiac Network Meeting（東京）2017.11.16
58. 原田和昌：高齢者心房細動のトータルマネジメント～低体重・フレイルを考える～. 夷隅医師会学術講演会（千葉）2017.11.21
59. 原田和昌：AF Begets Heart Failure and Vice Versa. 心房細動Webセミナー－心不全と心房細動－（東京）2017.11.22
60. 原田和昌：健康寿命を考慮した脂質治療－循環器疾患と ω 3脂肪酸－. ロトリガWeb講演会（東京）2017.11.27
61. 原田和昌：フレイルと低体重を考慮した超高齢者AFにおける抗凝固療法. Kochi DOAC Forum（高知）2017.12.4
62. 原田和昌：フレイルと低体重を考慮した超高齢者AFにおける抗凝固療法. 大崎地区学術講演会－県北抗血栓療法カンファランス－（宮城）2017.12.6
63. 原田和昌：高齢の動脈硬化性疾患患者においてFHを診断し治療するには－PCSK9阻害薬の使用例から－. 城北心血管summit（東京）2017.12.7
64. 原田和昌：高齢心不全治療のパラダイムシフト. セミナーカルジオロジー2017（東京）2017.12.9
65. 原田和昌：心房細動患者の未来について考える. 心房細動とフレイル. DOAC Forum 2017 for the Future（東京）2017.12.9
66. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法－低体重とフレイルを考える－. 第18回県北脳卒中研究会（栃木）2018.1.16
67. 原田和昌：高齢者心不全における降圧の重要性～SPRINT, EMPA-REG OUTCOMEを踏まえて～. 第19回心臓・腎高血圧内科学会懇話会（愛知）2018.1.20
68. 原田和昌：超高齢者のAF～低体重とフレイルを考える～. DOAC Forum in MIYAZAKI（宮崎）2018.1.26
69. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 大塚製薬双方向e講演会（東京）2018.1.30
70. 原田和昌：『都市部の緊急課題「高齢者心不全管理」を科学的に考察する』. ハートケアネットワーク－心不全診療システム構築を目指して－（東京）2018.2.1
71. 原田和昌：健康長寿を考慮した脂質治療～循環器疾患と ω 3脂肪酸～. ω 3脂肪酸web講演会（東京）2018.2.5
72. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 第7回心不全最前線治療研究会～高齢者心不全を考える～（大阪）2018.2.8
73. 原田和昌：高齢者心不全治療と管理の新しい考え方. 第13回鹿沼新しい医療を学ぶ会（栃木）2018.2.14
74. 原田和昌：高齢者心房細動のトータルマネジメント～低体重・フレイルを考える～. 心房細動トータルマネジメント～フレイルを中心

- に～(千葉) 2018.2.16
75. 原田和昌：高齢者心房細動のトータルマネージメント～低体重・フレイルを考える～. 栃木不整脈疾患治療フォーラム2018 (栃木) 2018.2.21
 76. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法～低体重・フレイルについて～. 学術講演会in Nagaoka (新潟) 2018.2.22
 77. 原田和昌：循環器疾患を予防できる糖尿病治療とは. T2DM Forum in 大曲 (秋田) 2018.2.26
 78. 原田和昌：超高齢社会における包括的心不全管理－診療連携システム構築を目指して－. (座談会)「Medical View Point」(東京) 2018.2.27
 79. 原田和昌：健康長寿を考慮した脂質治療～循環器疾患と ω 3脂肪酸～. ロトリガWeb講演会(東京) 2018.3.6
 80. 原田和昌：高齢者の心房細動と心不全. 第2回日本人の脳・心血管疾患治療を考える会(東京) 2018.3.7
 81. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法～低体重とフレイルについて～. 高齢者AFのトータルケア-in Niigata- (新潟) 2018.3.12
 82. 原田和昌：高齢高血圧患者の治療戦略～SPRINTサブ解析を踏まえて～. 北区医師会学術講演会(東京) 2018.3.14
 83. 原田和昌：心血管イベントを考慮した糖尿病治療～EMPA-REG心血管アウトカムをふまえて～. 2型糖尿病(T2DM)フォーラムin長野(長野) 2018.3.20
 84. 原田和昌：循環器疾患を予防できる糖尿病治療とは. 糖尿病合併症を考える(埼玉) 2018.3.26
 85. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 高齢者心不全治療勉強会(大阪) 2018.3.29
 86. 原田和昌：(解説)心臓外科手術の急性左室機能不全に対する強心薬レボシメندانの予防投与は、やはり死亡率を低下しなかった(CHEETAH試験). ケアネットCLEAR!ジャーナル四天王-674 2017.5.8
<http://www.carenet.com/news/clear/journal/43889>
 87. 原田和昌：(解説)心不全の鉄補充治療において、経口剤ではフェリチンが上昇せず運動耐容能も改善しない. ケアネットCLEAR!ジャーナル四天王-701 2017.7.27
<http://www.carenet.com/news/clear/journal/44340>
 88. 原田和昌：医療費で損しない方法SP. 名医とつながる!たけしの家庭の医学. テレビ朝日 2017.6.6
 89. 原田和昌：長寿世界一「香港」名医とつながる!たけしの家庭の医学. テレビ朝日 2017.8.8

90. 原田和昌：心臓を元気にする科 心臓の硬化を防ぐ「心臓やわらか物質」の正体とは? 名医とつながる!たけしの家庭の医学. テレビ朝日 2017.8.22
91. 原田和昌：血管の老化を防ぐ科 ○○を鍛えようと血管が若返る!血管の老化との深い関係が確認された筋肉とは? 名医とつながる!たけしの家庭の医学. テレビ朝日

呼吸器内科

●雑誌論文

1. Sazuka M, Yamamoto H, Usuki C, Hamaya H, Kataoka A, Hanaoka-Murano Y, Hino H, Yamada H. Four Elderly Cases Developing Takotsubo Cardiomyopathy Associated with Flexible Bronchoscopy. J Jpn Soc Respir Endoscopy. 39:333-342, 2017.
2. 濱谷広頌, 山本寛, 津田泰成, 望月英明, 佐塚まなみ, 野木森智江美, 山田浩和, 新井富生. 悪性リンパ腫に対する化学療法後, 胸水貯留により発症した肺多形癌の一剖検例. THE LUNG perspectives 25:2-5, 2017.
3. 野木森智江美, 山本寛, 野中敬介, 佐塚まなみ, 濱谷広頌, 山田浩和. 無治療にて自然退縮を認めた高齢者肺扁平上皮癌の1例. 日老医誌 54: 555-559, 2017.
4. 佐塚まなみ, 山本寛, 日野春秋, 関敦子, 山田浩和, 新井富生. 心転移の鑑別にFDG-PETが有効だった肺扁平上皮癌の1例. 日呼吸誌 7:15-19, 2018.
5. 佐塚まなみ, 山本寛, 小林寿美子, 籠尾南海夫, 下地啓五, 加藤貴行, 東原真奈, 櫻井圭太, 新井富生, 高田忠幸. 間質性肺炎急性増悪の治療経過中に発熱・意識障害をきたした1例. 内科 121:167-180, 2018.

●学会・研究会発表

1. 日野春秋, 西村隆, 濱谷広頌, 野木森智江美, 佐塚まなみ, 関敦子, 似鳥純一, 山田浩和, 新井富生, 山本寛, 中島淳: 高齢者肺癌術前の気管支鏡検査の現状. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 長崎, 6月5日, 2017.
2. 佐塚まなみ, 日野春秋, 関敦子, 野木森智江美, 濱谷広頌, 山田浩和, 新井富生, 山本寛: 心転移の診断にFDG-PETが有効だった肺扁平上皮癌の1症例. 第225回日本呼吸器学会関東地方会. 東京, 7月8日, 2017.
3. 高田和典, 佐塚まなみ, 野木森智江美, 野中敬介, 山田浩和, 新井富生, 山本寛: 間質性肺炎

の経過観察中、肺結節と頸部リンパ節腫脹を契機に診断されたIgG4関連疾患の1例. 第638回日本内科学会関東地方会. 東京, 12月9日, 2017.

4. 日野春秋、佐塚まなみ、山本寛、高田和典、村野陽子、柿崎元恒、山田浩和、西村隆、中島淳：術前診断に難渋した高齢者サルコイドーシス合併肺癌の1例. 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 3月3日, 2018.
5. 佐塚まなみ、村野陽子、高田和典、豊島弘一、野中敬介、野木森智江美、濱谷広頌、片岡愛、山田浩和、山本寛：肺扁平上皮癌に対してpembrolizumabが奏功した高齢者の1例. 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 3月3日, 2018.

●講師など院外活動（講演・放送等）

1. 山本寛：高齢者喘息の考え方とその対処法. 第3回Primary Care世田谷United. 東京, 6月14日, 2017.
2. 山本寛：その肺炎 治す？治さない？. 日経メディカル 2017年6月号: 032, 2017.
3. 山本寛：高齢者に多い誤嚥性肺炎. 産経新聞. 7月4日版, 2017.
4. 山本寛：軽度認知機能障害を有しせん妄を生ずる高齢者に対するニボルマブ外来投与の経験. Hongo I-O Seminar. 東京, 7月5日, 2017.
5. 山本寛：当院におけるnivolumab投与の実際－高齢者への投与にあたって留意すること. Lung Immuno-Oncology Clinical Web Seminar. 東京, 8月3日, 2017.
6. 山田浩和：(座長) 山口正雄：救急受診時のぜんそく診断、急性期治療、入院加療、慢性期の流れから、重症喘息の管理と治療. 板橋ぜんそく管理勉強会. 東京, 10月11日, 2017.
7. 山本寛：(座長) 長瀬洋之：変わりゆくCOPD治療の考え方. 城北地区呼吸器疾患学術講演会. 東京, 11月15日, 2017.
8. 山本寛：硬膜下血腫による長期休薬中も改善を維持しpembrolizumabを再投与できた高齢者の症例. 板橋ICI Conference. 東京, 12月7日, 2017.
9. 山本寛：当院におけるnivolumab投与の実際－高齢者への投与にあたって留意すること. Clinical Hospital Web conference for NSCLC. 東京, 1月11日, 2018.
10. 山本寛：命を守る！肺炎最新情報 かぜと区別し早期発見. NHK「きょうの健康」. 1月15日放送, 2018.
11. 山本寛：命を守る！肺炎最新情報 高齢者に多い誤えん性肺炎. NHK「きょうの健康」. 1月22

日放送, 2018.

12. 山本寛：もしもわたしが肺がんになったら－高齢者が「がん」と上手に付き合うためのヒント－. 第149回老年学・老年医学公開講座. 東京, 2月5日, 2018.
13. 山本寛：(座長) 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 3月3日, 2018.
14. 山本寛：仕事や趣味、日常の時間を少しでも長く－高齢者の肺がん、生活機能重視の治療を. 時事メディカル<https://medical.jiji.com/topics/515>, 3月4日, 2018.

●単行書・報告書

1. 山本寛：命を守る！肺炎最新情報 かぜと区別し早期発見. NHKテキスト「きょうの健康」2018年1月号: 34-37, 2018.
2. 山本寛：命を守る！肺炎最新情報 高齢者に多い誤えん性肺炎. NHKテキスト「きょうの健康」2018年1月号: 38-41, 2018.

神経内科・脳卒中科

●論文

1, 英文論文

- 1) Nara M, Sugie M, Takahashi T, Koyama T, Sengoku R, Fujiwara Y, Obuchi S, Harada K, Kyo S, Ito H. Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment cut-off score to clarify improvement of mild cognitive impairment after exercise training in community-dwelling older adults. Geriatr Gerontol Int. 2018 Feb 2.

2, 日本語論文

- 1) 恩田亜沙子、小松鉄平、仙石鍊平、河野優、井口保之. 治療反応性の発汗障害を認めた亜急性脊髄連合変性症の1例. 神経内科616-620 2017.05.

3, 和文総説

- 1) 仙石鍊平. 嗅覚障害はパーキンソン病の進行とともに増悪するか? 「No」の立場から(解説) Frontiers in Parkinson Disease 10(3), 135-137, 2017
- 2) 仙石鍊平. パーキンソン病と類縁疾患 良くなる、良くするパーキンソン病 セミナー 日常診療に必要な具体的知識とその活用 パーキンソン病の認知機能障害(解説/特集) Medical Practice 35(3), 379-383, 2018
- 3) 本山りえ、木下真幸子. 日常診療で増えてきた高齢者のてんかんSeminar 2. 薬剤関連てんかん発作：予防と対処法(特集) Geriatric Medicine 56(3), 229-235, 2018

4. 翻訳

- 1) 仙石錬平. 第8章 前頭側頭型認知症. アルツハイマー病認知症疾患臨床医のための実践ガイド. 朝倉書店, pp89-98, 2017

5. 書籍

- 1) 東原真奈. 針筋電図での異常所見. 宇川義一編. 臨床神経生理検査入門 神経症状の客観的評価 東京: 中山書店; 2017, pp12-28
- 2) 東原真奈, 荒木厚. 神経障害を見過ごさずに適切に治療するには? 荒木厚, 稲垣暢也編. ケースに学ぶ高齢者糖尿病の診かた. 東京: 南山堂; 2017.
- 3) 東原真奈, 園生雅弘. 神経救急・集中治療のための電気生理学的検査. 篠原幸人監修, 永山正雄, 濱田潤一, 三宅康史編. 神経救急・集中治療ハンドブック第2版. 東京: 医学書院; 2017.

●1. 学会発表 (国外)

1. Murayama S, Motoyama R, Shimizu T, Nakano Y, Fujigasaki J, Sengoku R, Sato K, Takao M: Neuropathological study of two cases with false positive real time quack-induced conversion result of cerebrospinal fluid for prion protein. 93st American Association of Neuropathologists. Garden Grove, CA USA, 2017.6.8-11
2. Murayama S, Sengoku R, Shibukawa M, Kanemaru K, Sato N, Yanagisawa K: Annual Report of Biobank of aging research, a joint project of Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology (TMGHIG) and National Center of Gerontology and Geriatrics (NCGG). Alzheimer's Association International Conference (AAIC 2017). London, England, 2017. 7. 16-20
3. Sengoku R, Shibukawa M, Yamazaki M, Eguchi K, Higashihara M, Kaneda D, Nishina Y, Kanemaru K, Murayama S: Where Are The Main Lesions That Cause Orthostatic Hypotension In Parkinson's Disease ? 21st International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders. Vancouver Convention Centre, Vancouver, Canada 2017. 6.4-8
4. Shibukawa M, Sengoku R, Yamazaki M, Nishina Y, Kanemaru K, Murayama S : Catecholamine levels and cardiac MIBG scintigraphy in patients with Parkinson disease without and with orthostatic hypotension. International Society for Autonomic Neuroscience 2017. Winc Aichi, Nagoya, Japan 2017.8.30-9.2
5. Murayama S: The establishment of the next generation brain bank and biobank system for aging research. Advanced School of Neuroscience: the epigenome in aging and neurodegenerative diseases: current state and approaches for a new path to gene discovery and understanding disease mechanism. August 30 to September 6, 2017, San Paulo.
6. Murayama S, Sengoku R., Takada T, Matsubara T, Yamazaki M, Kobayashi M, Sakashita Y, Shibukawa M, Morimoto S, Motoyama R, Hiroyoshi Y, Higashihara M, Nishina Y, Kanemaru K, Yanagisawa K, Saito Y: The Brain Bank for Aging Research Project, Tokyo, Japan. 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan, 2017.9.16-21
7. Kanemaru K, Sengoku R, Nishina Y, Murayama S. Relationship between cerebral amyloid angiopathy and CSF biomarkers in Alzheimer's disease. 23th World Congress of Neurology 2017, Kyoto 2017.9.16-21
8. Sengoku R, Shibukawa M, Morimoto S, Motoyama R, Sunakawa M, Kaneda D, Nishina Y, Kanemaru K, Murayama S: The color of the iris in patients with neuronal intranuclear hyaline inclusion disease will change. 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan, 2017.9.16-21
9. Yamazaki M, Sengoku R, Kanemaru K, Murayama S: Validation of the simple smell identification test for evaluation of olfactory dysfunction in patients with Parkinson's disease. 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan, 2017.9.16-21
10. Higashihara M, Sonoo M, Imafuku I, Fukutake T, Sengoku R, Murayama S. Neuralgic Amyotrophy: Different clinical pictures in Japan. 23th World Congress of Neurology 2017, Kyoto 2017.9.16-21
11. Shibukawa M, Sengoku R, Yamazaki M, Nishina Y, Kanemaru K, Murayama S. Evaluation of orthostatic hypotension in Parkinson disease by measuring the catecholamine level and using a cardiac MIBG scintigraphy. 23th World Congress of Neurology 2017, Kyoto 2017.9.16-21
12. Motoyama R, Morimoto S, Tanaka J, Murayama S: Transthoracic echocardiography

- is useful to detect right-to-left shunt in the elderly. 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan 2017.9.16-21
13. Murayama S: The Japanese Brain Bank Network and α -synucleinopathy; The spread of Lewy body pathology in the peripheral autonomic nervous system. Seoul National University Hospital Brain Bank Symposim. Seoul, Korea, 2017.12.1
 14. Murayama S: Lewy body pathology includes olfactory cells in Parkinson's and related diseases. Seoul National University Hospital Brain Bank Symposim. Seoul, Korea, 2017.12.1
- 2. 学会発表 (国内)
1. 村山繁雄: Atheromatous Embolization の源流を探る～大動脈血管内視鏡の挑戦～Session I 「Atheromatous Embolizationの概念は大動脈内視鏡でどう変わるか」 I-I 大動脈内視鏡で同定される大動脈プラークの臨床的意義. THE 11th TRANS CATHETER IMAGING FORUM, 大阪, 2017.4.21-22
 2. 村山繁雄: アルツハイマー病の神経病理診断基準. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
 3. 小林万希子, 平田秀爾, 能重 歩, 村山繁雄: 家族性脊髄小脳変性症の家系に発生した、経過2年の進行性筋力低下を示した43歳男性剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
 4. 白石朋敬, 仙石鍊平, 土田真吏奈, 高田忠幸, 徳丸阿耶, 金丸和富, 村山繁雄: 誤嚥性肺炎で入院し、急速な意識障害を呈し死亡したパーキンソン病の90歳女性剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
 5. 本山りえ, 中野雄太, 藤ヶ崎純子, 仙石鍊平, 石井賢二, 佐藤克也, 村山繁雄: RT-QuIC法陽性で孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病 (sCJDMV2K) が疑われた前頭側頭型変性症 (FTLD-TDP) の一剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
 6. 渋川茉莉, 仙石鍊平, 高梨成彦, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 徳丸阿耶, 金丸和富: 特発性正常圧水頭症神経病理検索システムの構築. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
 7. 金田大太, 高田忠幸, 中野雄太, 石井賢二, 徳丸阿耶, 金丸和富, 仙石鍊平, 島田 齊, 佐原成彦, 須原哲也, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄: 進行性核上性麻痺の臨床画像病理関連. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
 8. 中野雄太, 渋川茉莉, 小林万希子, 高田忠幸, 仙石鍊平, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: 徐々に拡大する広範脳梗塞を呈した真性多血症86歳男性剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
 9. 金田大太, 高田忠幸, 中野雄太, 石井賢二, 徳丸阿耶, 金丸和富, 仙石鍊平, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄: 歩行障害と認知症を呈し、病理学的に嗜銀顆粒性変化と進行性核上性麻痺様変化 (PSP-like change) を認めた86歳男性解剖例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
 10. 村山繁雄, 仙石鍊平, 小幡真希, 森島真帆, 高田忠幸, 中野雄太, 藤ヶ崎純子, 齊藤祐子: 高齢者ブレインバンク年次報告. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
 11. 山崎幹大, 仙石鍊平, 中野雄太, 徳丸阿耶, 金丸和富, 村山繁雄: 大脳皮質基底核症候群を呈し、剖検でアルツハイマー病と診断された1例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
 12. 仙石鍊平. パーキンソン病はどこから始まる. 第16回釧路ニューロサイエンスワークショップ, 釧路, 2017.06.30
 13. Murayama S, Saito Y: Pathogenic mechanism on propagation of alpha-synuclein, a pathological point of view. 第60回日本神経化学学会大会, 仙台, 2017.9.7-9
 14. Obata M, Murayama S, Takao M, Akatsu Y, Saito Y: 2016 Annual Report of Japanese Brain Bank for Neuroscience Research. The 40th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, 千葉市, 2017.7.20-23
 15. 小幡真希, 仙石鍊平, 新井富生, 金丸和富, 村山繁雄: ブレインバンクプロジェクトと在宅医療. 第22回板橋区医師会医学会, 東京, 2017.9.2
 16. 村山繁雄 (特別講演): 全身疾患としてのレビー小体病、いつ、どこから、どこまで?. 第17回近畿神経変性疾患研究会, 大阪市, 2017.11.10
 17. 村山繁雄 (教育講演): プリオン病の神経病理 Update. 第35回日本神経治療学会総会. さいたま市, 2017.11.16-18
 18. 小幡真希: 死後脳提供ドナー登録者の意識調査研究－病理解剖後にブレインバンク登録したことが高齢遺族のグリーフケアに与える影響 (予備的研究)－. 日本心理臨床学会第36回秋季大会, 横浜市, 2017.11.18-21
 19. 村山繁雄: 「Alzheimer's disease: phenotypic variability and its molecular backgrounds」

- Neuropathological variations in Alzheimer's disease. 第36回日本認知症学会NINPRO-JSDR2017 Joint International Symposium, 金沢市, 2017.11.24-26
20. 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 下地啓五, 亀山征史, 村山繁雄, 齊藤祐子: 認知症を呈する白質脳症: 画像の観点から. 第36回日本認知症学会, 金沢市, 2017.11.24-26
 21. 仙石鍊平 Neuro CPC 75歳言語症状で発症したブレインバンクドナー登録後に長期間フォローした91歳男性剖検例. 第36回日本認知症学会, 金沢市, 2017.11.24-26
 22. 小幡真希, 畠山幸子, 松原知康, 坂下泰浩, 小林万希子, 高田忠幸, 東原真奈, 仙石鍊平, 仁科裕史, 広吉祐子, 森島真帆, 金丸和富, 古田光, 新井富生, 村山繁雄: 「ブレインバンク」ドナー登録者の意識 - 高齢遺族のグリーフケアにかかる予備的研究 -. 第36回日本認知症学会, 金沢市, 2017.11.24-26
 23. 金丸和富, 金丸晶子, 仁科裕史, 仙石鍊平, 村山繁雄: レビー小体病における認知機能低下とCSFバイオマーカーとの関連. 第36回日本認知症学会, 金沢市, 2017.11.24-26
 24. 金丸和富, 仙石鍊平, 仁科裕史, 村山繁雄. レビー小体型認知症における脳アミロイドアンギオパチーと脳脊髄液バイオマーカーとの関連. 第43回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018, 3, 16
 25. 山崎幹大, 白石朋敬, 仙石鍊平, 小林万希子, 新井富生, 村山繁雄: 脳幹病変で発症後, 約1ヶ月の急速な経過で亡くなった血管内大細胞型B細胞リンパ腫の81歳男性剖検例. 第221回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017.6.3
 26. 渋谷茉莉, 仙石鍊平, 高田忠幸, 金丸和富, 最勝寺純子, 新井富生, 村山繁雄: 皮膚生検でLewy小体病理を認め, 剖検でパーキンソン病と確定診断しえた86歳男性例. 第116回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.7.1
 27. 白石朋敬, 仙石鍊平, 山崎幹大, 小林万希子, 藤ヶ崎純子, 新井富生, 村山繁雄: 脳幹病変で発症し, 約1ヶ月の経過で急速に進行し死亡した血管内大細胞型B細胞性リンパ腫の81歳男性剖検例. 第116回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.7.1
 28. 村山繁雄: (教育講演) 剖検における神経・筋病理の検索法, 高齢者ブレインバンクの経験より. 第91回Neuromuscular Conference (NMC), 東京, 2017.7.29
 29. 白石朋敬, 仙石鍊平, 仁科裕史, 久保田暁, 清水潤, 園生雅弘, 金丸和富, 村山繁雄: 約7年の経過で球症状と筋力低下が緩徐に進行し, ミトコンドリア異常を伴う多発筋炎の診断に至った72歳女性例. 第222回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017.9.2.
 30. 山崎幹大, 小林万希子, 櫻井圭太, 川嶋乃里子, 仙石鍊平, 村山繁雄: 66歳で発症し経過17年の意味性認知症, 83歳男性剖検例 - 臨床・画像・病理. 第223回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017.12.2.
 31. 村山繁雄 (教育講演): オールジャパンプレインバンクネットワークと神経病理専門研修コースの創設 - 広島拠点の構築に向けて. 第8回日本神経病理学会 中国・四国地方会, 広島市, 2017.12.9
 32. 小幡真希, 畠山幸子, 木村有希, 松原知康, 坂下泰浩, 小林万希子, 高田忠幸, 山崎幹大, 東原真奈, 広吉祐子, 仙石鍊平, 仁科裕史, 石井賢二, 金丸和富, 古田光, 新井富生, 村山繁雄: 高齢者ブレインバンクプロジェクトと地域医療との連携. 第13回東京都福祉保健医療学会, 東京, 2017.12.14
 33. 白石朋敬, 松原知康, 仙石鍊平, 高田忠幸, 山崎幹大, 坂下泰浩, 小林万希子, 藤ヶ崎純子, 多胡哲郎, 豊原 潤, 石井賢二, 金丸和富, 村山繁雄: 18F-THK5351 PETで錐体路に沿った集積を認めた膠芽腫の一部剖検例. 第117回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.12.16
 34. 白石朋敬, 坂下泰浩, 仁科裕史, 仙石鍊平, 石井賢二, 徳丸阿耶, 金丸和富, 村山繁雄: V1801変異Creutzfeldt-Jakob病の86歳女性剖検例-18F THK5351PETによる検討. 第224回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2018.3.3
 35. 高田忠幸, 広吉祐子, 坂下泰浩, 松原知康, 山崎幹大, 仙石鍊平, 金丸和富, 村山繁雄: 息切れ, 易疲労感で発症し, 急速に呼吸困難が進行した筋萎縮性側索硬化症の一例. 第118回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2018.3.17

血液内科

- ① 朝日新聞 患者を生きる 2017年10月13日
- ② 朝日新聞 高齢者の貧血 2017年9月6日
- ③ 宮腰重三郎: 高齢者の貧血: 日本臨床 増刊号 貧血学 最新の診断・治療動向. 151-155, 2017
- ④ 宮腰重三郎: 高齢者の貧血: 最新醫學別冊 診断と治療のABC 貧血症: 177-185, 2017
- ⑤ Ueda Y, Ogura M, Miyakoshi S, Suzuki T, Heike Y, Tagashira S, Tsuchiya S, Ohyashiki K, Miyazaki Y. Phase 1/2 study of the WT1 peptide cancer vaccine WT4869 in patients

with myelodysplastic syndrome. *Cancer Sci.*;108(12):2445-2453.2017

- ⑥ Terakura S, Kuwatsuka Y, Yamasaki S, Wake A, Kanda J, Inamoto Y, Mizuta S, Yamaguchi T, Uchida N, Kouzai Y, Aotsuka N, Ogawa H, Kanamori H, Nishiwaki K, Miyakoshi S, Onizuka M, Amano I, Fukuda T, Ichinohe T, Atsuta Y, Murata M, Teshima T.: GvHD prophylaxis after single-unit reduced intensity conditioning cord blood transplantation in adults with acute leukemia. *Bone Marrow Transplant.* Sep;52(9):1261-1267.2017
- ⑦ Ogura K, Akagawa J, Kobayasi S, Miyakoshi S.: Comparison of TBI and TMG as conditioning regimen for CBT inpatients aged over 70 years 第79回日本血液学会学術集会
- ⑧ Ogura K, Akagawa J, Saito T, Kobayasi S, Miyakoshi S.: Comparison of Flu/Mel/TBI and Flu/mel/TMG as conditioning regimen for CBT in elderly patients.: 第40回日本造血細胞移植学会総会
- ⑨ 田中達郎、鷺足ひろみ、森 淑子、赤川順子、齊藤 輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎: 高齢者造血幹細胞移植におけるタクロリムスの初期投与量の検討;第40回日本造血細胞移植学会総会
- ⑩ 赤川順子、小山照幸、齊藤 輔、小倉 和外、小林寿美子、宮腰重三郎: 臍帯血ミニ移植後の高齢患者における身体機能の変化: 第40回日本造血細胞移植学会総会
- ⑪ 伊藤真紀、羽根田千恵、赤川順子、齊藤 輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎: 同種造血幹細胞移植患者への栄養食事指導～独居高齢者2症例を通して～: 第40回日本造血細胞移植学会総会
- ⑫ 馬場口紘成、小林寿美子、堀 千沙、齊藤 輔、小倉和外、宮腰重三郎: 臍帯血移植後に胸水中にHHV6が検出された難治性胸水の一例: 第40回日本造血細胞移植学会総会
- ⑬ 堀 千沙、小林寿美子、小倉和外、関 敦子、新井富生、宮腰重三郎: CBT後に乳頭筋断裂による急性左心不全を発症し冒険にてAspergillus udagawae感染が原因と考えられた一例: 第40回日本造血細胞移植学会総会
- ⑭ 宮腰重三郎: 高齢者の造血幹細胞移植～DICを見据えて～: 第40回日本造血細胞移植学会

感染症内科

●雑誌論文

1. Kiyasu Y, Akiyama D, Kurihara Y, Koganemaru H, Hitomi S. Pericarditis caused by *Campylobacter fetus* subspecies *fetus* associated with ingestion of raw beef liver. *J Infect Chemother* 23; 833-836, 2017.
2. Yoshitomo Morinaga, Norihiko Akamatsu, Junichi Matsuda, Hiroko Tateno, Takeshi Tomaru, Ai Tanaka, Sayuri Morita, Makoto Nakamura, Hideaki Kato, Megumi Annaka, Yoshishige Masuda, Yasutomo Itakura, Takashi Inamatsu, Katsunori Yanagihara Diagnostic utilities of a fully automated molecular test for toxigenic *Clostridium difficile* *J Infect Chemother* 24; 88-91, 2018.

●総説

1. 小金丸博, 酒井俊, 柳川徹: 歯科医院のための内科学講座 全身管理・全身疾患を見据えた補綴治療のススメ(第14回) 「えっ, HIV……, ですか……, ひえ~, 助けて~」。補綴臨床第50巻: 342-356, 2017.

●学会発表

1. 小笹静佳, 岩切理歌, 潮靖子, 小金丸博, 増田義重: *Edwardsiella tarda*による胆嚢胆管炎の加療後, 化膿性脊椎炎を発症した高齢男性の一例. 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 3月3日, 2018.
2. 矢作和規, 野口穰, 古川友子, 浅見諒子, 小金丸博, 増田義重, 稲松孝思, 吉田敦, 井口成一, 鶴澤豊, 菊池賢: 肝硬変患者の血液培養より *Vibrio metschnikovii*が分離された1例. 第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 岐阜, 2月10日, 2018.
3. 野口穰, 矢作和規, 古川友子, 浅見諒子, 小金丸博, 増田義重, 稲松孝思, 鈴木弘倫, 岡本友紀, 鶴澤豊, 井口成一, 吉田敦, 菊池賢: 血液培養よりST耐性 *Nocardia farcinica*を検出した一例. 第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 岐阜, 2月9日, 2018.
4. 浅見諒子, 野口穰, 古川友子, 矢作和規, 小金丸博, 吉田敦, 井口成一, 鶴澤豊, 菊池賢, 増田義重, 稲松孝思: 血液培養より *Streptobacillus notomytis*が分離された1例. 第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 岐阜, 2月9日, 2018.
5. 浅見諒子, 野口穰, 古川友子, 小金丸博, 吉田敦, 増田義重, 稲松孝思, 高木明子, 御手洗聡:

- Mycobacterium lentiiflavum*分離例の微生物的・臨床的検討. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 第64回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会. 東京, 11月1日, 2017.
6. 三原 現, 仁科裕史, 東原真奈, 仙石鍊平, 金田大太, 金丸和富, 村山市繁雄, 増田義重: 気腫性腎盂腎炎による敗血症で梗塞をきたした49歳女性例. 第632回 内科学会関東地方会, 東京. 5月13日, 2017.

●講師等院外活動（講演・放送等）

1. 小金丸博、稲松孝忠：療養病床・慢性期医療における感染制御. 一般社団法人日本感染症学会主催 平成29年度院内感染対策講習会. 東京, 1月12日, 2018.

●単行書・報告書

1. 小金丸博：I 総論編, 高齢者の感染症. 東京都感染症マニュアル2018. 監修・東京都新たな感染症対策委員会 東京都福祉保健局. pp40-41, 2018.
2. 小金丸博：I 総論編, 高齢者施設等における感染症対応および予防策. 東京都感染症マニュアル2018. 監修・東京都新たな感染症対策委員会 東京都保健福祉局. pp55-57, 2018.

精神科・もの忘れ外来

●学会・研究会発表

1. 古田光ら 第36回日本認知症学会 レビー小体型認知症に対する維持電気けいれん療法第36回認知症学会, 金沢, 11月24日, 2017.
2. 古田光：シンポジウム16「せん妄診療における抗精神病薬批判をどう捉えるか？」一般科入院高齢患者のせん妄の薬物療法について、第27回日本臨床精神神経薬理学会, 松江, 11月3日, 2017.
3. 古田光ら・DASC-21を用いた一般病床入院患者における認知症の実態調査. 第30回日本総合病院精神医学会, 富山, 11月17日, 2017.
4. 筒井卓実、田中博之、飛鳥井望、急性冠症候群後の心血管イベント発生に心的外傷後ストレス症状が与える影響、第30回日本総合病院精神医学会, 富山, 11月17日, 2017.
5. 扇澤史子, 古田 光, 岡本一枝, 今村 陽子, 市川 幸子, 高岡 陽子, 竹部 裕香, 西垣 綾峰, 畠山 啓, 筒井 卓実, 松井 仁美, 市橋 雅典, 松本 健二, 久保田 真由, 栗田 主一: ADのスクリーニングに寄与する簡便な記憶評価法の有用性の検討 - HDS-R終了後の3語再生と

- WMS-R論理的記憶Iの相関より. 第32回老年精神医学会, 名古屋, 6月16日, 2017.
6. 扇澤史子, 古田光, 松本健二, 畠山啓, 木村陽子, 山本輝美, 今村陽子, 岡本一枝, 久保田真由, 白取 絹恵, 栗田 主一: FTDのBPSDに対する多職種アプローチ - 切れ目ないケアを目指して. 第22回板橋区医師会学会, 板橋区, 9月2日, 2017.
7. 扇澤史子, 岡本一枝, 今村陽子, 市川幸子, 竹部裕香, 高岡陽子, 西垣綾峰: 認知機能および生活機能における正常範囲からアルツハイマー型認知症の重症度別の特徴 - 物忘れ外来初診患者のHDS-R、MMSE、DASC-21の得点分布の比較より. 日本心理臨床学会第36回秋季大会, 横浜, 11月19日, 2017.
8. 扇澤史子, 古田光, 岡本一枝, 今村陽子, 畠山啓, 筒井卓実, 松井仁美, 市橋雅典, 久保田真由, 栗田主一: 正常範囲, MCI, アルツハイマー型認知症の認知機能と生活機能の重症度別の特徴. 第36回日本認知症学会学術集会, 金沢, 11月25日, 2017.
9. 今村陽子, 扇澤史子, 岡本一枝, 古田 光, 市川幸子, 竹部裕香, 高岡陽子, 西垣綾峰, 筒井卓実, 松本健二, 松井 仁美, 久保田真由, 市橋雅典, 栗田 主一: 初期のアルツハイマー型認知症における模写課題の誤りの質的検討 第32回老年精神医学会名古屋, 6月16日, 2017.
10. 岡本一枝, 古田光, 扇澤史子, 今村陽子, 市川幸子, 高岡陽子, 竹部裕香, 西垣綾峰, 筒井卓実, 松井仁美, 市橋 雅典, 松本健二, 久保田由美, 酒井 遼, 栗田主一: アルコールによる認知機能障害についての検討 - HDS-R及びMMSEを用いた健常者、アルツハイマー型認知症との比較検討. 第32回老年精神医学会, 名古屋, 6月16日, 2017.
11. 今村陽子, 扇澤史子, 岡本一枝, 市川幸子, 高岡陽子, 西垣綾峰: 初期認知症における模写課題の誤りの質的検討 - アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症・正常加齢との比較を通して. 日本心理臨床学会第36回秋季大会, 横浜, 11月19日, 2017.
12. 岡本一枝, 扇澤史子, 今村陽子, 市川幸子, 竹部裕香, 高岡陽子, 西垣綾峰: アルツハイマー型認知症の重症度による前頭葉機能の検討 - Frontal Assessment Battery (FAB) を用いた検討と日常生活の障害についての一考察. 日本心理臨床学会第36回秋季大会, 横浜, 11月19日, 2017.
13. 市川幸子, 扇澤史子, 岡本 一枝, 今村 陽子, 竹部裕香, 高岡陽子, 西垣綾峰: Frontal

Assessment Battery (FAB) の得点分布における認知症疾患別の比較 - MCI、AD、DLB、FTDを対象として. 日本心理臨床学会第36回秋季大会, 横浜, 11月19日, 2017.

●雑誌論文

1. 扇澤史子, 栗田圭一, 古田光, 岡本 一枝, 今村陽子, 白取絹恵, 畠山啓, 齋藤久美子, 千田亜希子, 佐々木優子, 井藤佳恵, 須田潔子, 筒井卓美, 松井 仁美, 山邊義彬, 市橋雅典, 市川幸子, 竹部裕香, 松下正明: 家族介護者が高齢者に物忘れ外来受診を促す理由についての検討 - 正常範囲、軽度認知障害および主な認知症の比較. 生存科学28 (1) : 163-170, 2017.
2. 扇澤史子, 栗田圭一, 古田光, 岡本 一枝, 今村陽子, 白取絹恵, 畠山啓, 齋藤 久美子, 千田 亜希子, 佐々木 優子, 井藤 佳恵, 須田 潔子, 筒井 卓美, 松井 仁美, 山邊 義彬, 市橋 雅典, 市川 幸子, 竹部 裕香, 松下 正明: 認知症本人による認知機能障害・生活機能障害・行動心理症状についての自覚的体験内容と受診ニーズの特徴. 生存科学28 (1) : 171-177, 2017.

●講師等院外活動 (講演・放送等)

1. 古田光: 認知症とともにより良く過ごすためにベネッセの医療・介護セミナー 板橋区, 5月20日, 2017.
2. 古田光: 知っておきたい医療と治療の話. 板橋区認知症と初めて診断された家族のための講座 板橋区, 6月30日, 2017.
3. 古田光: 認知症の本人の気持ちと支え方. ベネッセの地域医療セミナー「認知症の方に寄り添うケア」, 板橋区, 9月10日, 2017.
4. 古田光: 認知症医療の地域連携~薬物療法も含めて~かかりつけ医のための認知症セミナー, 出雲市, 9月28日, 2017.
5. 古田光: 高齢期のうつとその対策: 高齢期ころ豊かに~百寿者からのメッセージ~, 第147回老年学・老年医学公開講座, 文京区, 10月3日, 2017.
6. 古田光: 地域拠点型認知症疾患医療センターとして~当院の取り組み~. 第4回認知症サミットTOKYO23, 新宿区, 11月14日, 2017.
7. 古田光: こうやって防ごう付き合おう認知症. 板橋老人クラブ連合会講演会, 板橋区, 11月22日, 2017.
8. 古田光: 認知症の地域連携: 第7回 岸病院認知症疾患医療センター研修会, 桐生市, 1月30日, 2018.
9. 古田光: 若年性認知症と診断されたら. 板橋若

- 年性認知症講演会, 板橋区, 1月13日, 2018.
10. 古田光: 知っておきたい認知症のこと ~認知症とともにより良く過ごすために~ シニアのための無料セミナー, さいたま市, 2月23日, 2018.
11. 古田光, 談話サロン: 高齢期のうつ病について, 西東京市, 2月3日, 2018.
12. 筒井卓実: リスクマネジメント 東京都健康長寿医療センターにおける転倒と薬物, 板橋区, 7月3日, 2017.
13. 筒井卓実: 東京都看護協会 都民公開講座 認知症との向き合い方, 新宿区, 2月3日, 2018.
14. 筒井卓実: 板橋区講演会「知っておきたい高齢者のうつ病と対応」, 板橋区, 2月14日, 2018.
15. 扇澤史子: 認知症の認知症を持つ人への接し方. 板橋区おとしより保健福祉センター 認知症の方を介護する家族支援プログラム講座. 板橋区, 7月7日, 2017.
16. 扇澤史子: HDS-RとMMSEを中心とした神経心理学的における認知症アセスメント - 生活障害のサポートに役立つ見立てを目指して. 東京都認知症疾患医療センター相談員研修, 板橋区, 11月17日, 2017.
17. 扇澤史子: 認知症の家族介護者のこころを支えるために大切なこと. 高島平プロジェクト第12回コーディネーター・サポートワーカー研修, 板橋区1月17日, 2018.
18. 扇澤史子: 認知症介護家族者のこころを支えるために - 知っておきたい支援のポイント. 日本医科大学武蔵小杉病院専門職向け公開講座, 1月25日, 2018.
19. 扇澤史子: 認知症のアセスメントの実際. 板橋区包括職員対象フォローアップ研修. 板橋区, 2月22日, 2018.
20. 今村陽子: 「閉じこもり・認知症予防教室」認知症予防専門プログラム. 板橋区, 6月9日, 7月26日, 8月30日, 9月8日, 9月13日, 11月8日, 2017. 1月12日, 1月17日, 2018. (全8回)

●単行書・報告書

1. 筒井卓実: 2018.2.28総合医学社救急・集中治療最新ガイドライン2018-'19「急性ストレス障害 (ASD)・心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の指針」
2. 古田光: chapter1.section2身近な人が気付きやすい変化と症状の進行, 井藤英喜 (監修) 伊東美緒 (編), 認知症の人の「想い」からつくるケア 在宅ケア介護施設療養型病院編、Pp 48-53, インターメディカ, 東京, 2017
3. 古田光: chapter2.section1認知症の診断・治療,

- chapter4実践の知恵⑫, 井藤英喜 (監修) 伊東美緒木村陽子 (編), 認知症の人の「想い」からつくるケア 急性期病院編, Pp.40-45, Pp.48-53, Pp.136-137, インターメディカ, 東京, 2017
4. 古田光: 第1章診療のためにまず知るべきこと、診断の流れ: 問診から他疾患との鑑別まで, 上田諭 (編), 認知症はこう診る - 初回面接・診断からBPSDの対応まで, Pp.21-36, Pp.55-57, Pp.59-62, 医学書院, 東京, 2017.
 5. 扇澤史子: 第2章急性期病院に入院する患者の身体状態と求められる支援 Section 2 本人・家族への支援, 井藤英喜 (監修) 伊東美緒 木村陽子 (編), 認知症の人の「想い」からつくるケア 急性期病院編, インターメディカ, 東京, Pp.46-50, 2017
 6. 扇澤史子: 第4章病棟での認知症ケア Section 3 病棟スタッフの葛藤と心理的な疲弊への対策, 井藤英喜 (監修) 伊東美緒 木村陽子 (編), 認知症の人の「想い」からつくるケア 急性期病院編, インターメディカ, 東京, Pp.146-151, 2017
 7. 扇澤史子: 生活障害への対処 - 薬以外でこれだけできる 家庭内でできること, 上田諭 (編), 認知症はこう診る - 初回面接・診断からBPSDの対応まで, 医学書院, 東京, Pp.114-125, 2017.
 8. 扇澤史子: 老いのさまざまな形, 原田誠一 (編), 精神医療からみたわが国の特徴と問題点, 中山書店, 東京, Pp.144-149, 2017.
 9. 扇澤史子: 認知症早期発見・早期診断推進事業におけるアウトリーチ事例 - 本人・家族の抱える困難に向き合う支援, 野村俊明・青木紀久代・堀越勝 (監修) 北村伸・野村俊明 (編), 暮らしの中の心理臨床 5 認知症, 福村出版, 東京, pp.85-90, 2017.

外科

研究活動では臨床研究を中心に、特に高齢者における化学療法の忍容性や、切除術を遂行するに当たっての問題点や工夫について検討、報告した。若手医師による症例報告も行った。院外活動としては、医学の友社主催の看護セミナーの講演を、手術室看護師とも連携をとって行った。

●雑誌論文

1. 金翔哲, 三井秀雄, 吉田孝司, 金澤伸郎, 黒岩厚二郎, 松田陽子, 橋本佳和, 松岡弘芳, 正木忠彦, 杉山政則. 術前に存在診断し腹腔鏡下に切除しえた小腸リンパ管腫の1例. 日本消化器外科学会雑誌50: 745-753, 2017

2. 吉田孝司, 三井秀雄, 金澤伸郎, 黒岩厚二郎. 術前診断が可能であった大腿ヘルニア内虫垂嵌頓の1例. 日本臨床外科学会雑誌72: 1013-1017, 2017

●学会・研究会発表

1. 金澤伸郎, 黒岩厚二郎, 新開省二, 石崎達郎, 吉田孝司, 三井秀雄, 荒木厚, 井藤英喜, 許 俊鋭. シンポジウム15 (教育企画) 高齢者外科手術の限界 フレイルと手術適応 術前リスク評価としての位置づけ. 第30回 日本老年学会総会・第59回 日本老年医学会学術集会 (名古屋) 2017.11.10
2. 金澤伸郎, 野島陽子, 吉田孝司, 三井秀雄, 飯塚童一郎, 高木泰介, 黒岩厚二郎. 高齢者の人工肛門管理. 第72回 日本大腸肛門病学会学術集会 (福岡) 2017.11.10
3. 吉田孝司, 高木泰介, 飯塚童一郎, 三井秀雄, 金澤伸郎, 黒岩厚二郎. 当院における胃GIST手術症例の検討. 第72回 日本消化器外科学会総会 (金沢) 2017.7.22
4. 吉田孝司, 金澤伸郎, 高木泰介, 飯塚童一郎, 三井秀雄, 黒岩厚二郎. 当院における90歳以上の胃癌、大腸癌手術症例の検討. 第25回 日本消化器関連学会週間 JDDW2017 (福岡) 2017.10.14
5. 三井秀雄, 黒岩厚二郎, 金澤伸郎, 中澤達, 吉田孝司, 鈴木潤, 飯塚童一郎, 中里徹矢, 根本洋光, 高木泰介. 75歳以上高齢者大腸癌患者に対するmFOLFOX6の忍容性に関する検討. 第117回 外科学会総会 (横浜) 2017.4.28
6. 三井秀雄. 術前診断し腹腔鏡にて切除した胃神経鞘腫の1例. 第30回 日本内視鏡外科学会総会 (京都) 2017.12.9
7. 三井秀雄, 高木泰介, 吉田孝司, 金澤伸郎, 黒岩厚二郎. 80歳以上高齢者大腸癌患者に対するmFOLFOX6の治療成績. 第25回 日本消化器関連学会週間 JDDW2017 (福岡) 2017.10.14
8. 高木泰介, 三井秀雄, 吉田孝司, 金澤伸郎, 黒岩厚二郎. 顕微鏡的多発血管炎が原因と考えられる腸重積の1例. 第54回 日本腹部救急医学会総会 (新宿) 2018.3.8
9. 藤巻圭介, 若松喬, 高木泰介, 飯塚童一郎, 吉田孝司, 三井秀雄, 根元洋光, 鈴木潤, 中澤達, 金澤伸郎, 黒岩厚二郎. 壊死性筋膜炎を契機に診断された上行結腸癌の1例. 第60回 都立・公社病院外科研究会 (東京) 2017.10.6

●講師等院外活動 (司会・講演)

1. 金澤伸郎. シンポジウム09 高齢者に対する栄養療法 (司会). 第33回 日本静脈経腸栄養学会

- 学術集会 (横浜) 2018.2.23
2. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護 ver.4」(東京) 2017.7.1
 3. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護 ver.4」(北海道) 2017.7.9
 4. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護 ver.4」(名古屋) 2017.8.26
 5. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護 ver.4」(神戸) 2017.9.10
 6. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護 ver.4」(福岡) 2017.10.21
 7. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「手術室看護セミナー 外科編」(東京) 2017.11.25
 8. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「手術室看護セミナー 外科編」(大阪) 2017.12.10
 9. 金澤伸郎. フレイルと手術適応を考える. 消化器フォーラム (当センター) 2018.2.28

血管外科

●雑誌論文

1. 中澤達. 複合血管スクリーニングで死亡リスク7%低下: VIVA試験 CLEAR!ジャーナル四天王 CareNet Web, 2017.
2. 中澤達. 破裂性腹部大動脈瘤の血管内治療は死亡率・コストでも有利/「IMPROVE試験」3年評価 CLEAR!ジャーナル四天王 CareNet Web, 2017.
3. 中澤達. 心大血管手術後のリハビリテーション 大動脈解離・大動脈瘤 Monthly Book MEDICAL REHABILITATION, No. 218, 35-40 2018.
4. 中澤達. 深部静脈血栓症、カテーテル血栓溶解療法併用の効果 CLEAR!ジャーナル四天王 CareNet Web, 2018.
5. 中澤達. PAD患者の跛行症状にGM-CSF製剤を皮下注しますか? CLEAR!ジャーナル四天王 CareNet Web, 2018.
6. Nemoto Y, Hosoi Y, Hoshina K, Nunokawa M, Kubota H, Watanabe T. In Situ Reconstruction with Extended Debridement in Patients with Mycotic Abdominal Aortic Aneurysms. Ann Vasc Dis. 25;10(2):159-163. 2017.
7. Nemoto Y, Hoshina K, Kobayashi M, Kimura M, Yamamoto S, Watanabe T, Ohshima M. Morphological Changes and Device Migration After Stent Graft Insertion - Clinical Application of an Image-Based Modeling System and Analysis With Geometric Parameters. Circ J. 25;82(1):176-182. 2017.

●単行本・報告書

1. 中澤達. 大動脈・末梢血管疾患 2017年概説. 脳・心・腎血管疾患クリニカル・トリアル Annual Overview 2018. 47-50, 臨床研究適正評価教育機構 ライフサイエンス出版. 東京, 2018.

●学会発表

1. 中澤達. データからみる高齢者急性期病院の経営戦略とは ~医療マネジメント教育の取り組み~. 第24回DPCマネジメント研究会学術大会 (東京) 2017.9.3

●講師等院外活動 (講演など)

1. 中澤達. 超高齢多死時代に向けて ~家族の“後悔しない決め方”. 第16回将来医療構想勉強会 (東京) 2017.6.30
2. 中澤達. マジックと精神医学であなたの思い込みをはずす ~認知行動療法ACT入門. 第17回将来医療構想勉強会(東京) 2017.12.1

心臓外科

●雑誌論文

1. Sawa Y, Matsumiya G, Matsuda K, Tatsumi E, Abe T, Fukunaga K, Ichiba S, Kishida A, Kokubo K, Masuzawa T, Myoui A, Nishimura M, Nishimura T, Nishinaka T, Okamoto E, Tokunaga S, Tomo T, Tsukiya T, Yagi Y, Yamaoka T. Journal of Artificial Organs 2017: the year in review: Journal of Artificial Organs Editorial Committee. J Artif Organs. 2018 Mar;21(1):1-7.
2. Naito N, Nishimura T, Iizuka K, Takewa Y, Umeki A, Ando M, Ono M, Tatsumi E. Rotational speed modulation used with continuous-flow left ventricular assist device provides good pulsatility. Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2018 Jan 1;26(1):119-123.
3. Naito N, Nishimura T, Iizuka K, Fujii Y, Takewa Y, Umeki A, Ando M, Ono M, Tatsumi E. Novel Rotational Speed Modulation System Used With Venoarterial Extracorporeal Membrane Oxygenation. Ann Thorac Surg. 2017 Nov;104(5):1488-1495.
4. Mano A, Nishimura T, Murata T, Kawata M, Tanaka J, Takeda K, Ishikawa J, Fujimoto H, Harada K, Kyo S. Jarvik 2000 implantation in anatomical right ventricular on patient with corrected transposition of great arteries. J Vasc Med Surg 2017;5:349.

5. Seki A, Yoshida A, Matsuda Y, Kawata M, Nishimura T, Tanaka J, Misawa Y, Nakano Y, Asami R, Chida K, Kikuchi K, Arai T. Fatal fungal endocarditis by *Aspergillus udagawae*: an emerging cause of invasive aspergillosis. *Cardiovasc Pathol*. 2017 May;28:14-17.
6. D. Akiyama, T. Nishimura, K. Iizuka, T. Mizuno, T. Tsukiya, Y. Takewa, M. Ono, E. Tatsumi. Accurate Quantitative Evaluation of Aortic Insufficiency During LVAD Support by Thermodilution Analysis. *J Heart Lung Transplant*. 2018; 37(4):382.
7. K. Iizuka, D. Akiyama, Y. Takewa, T. Tsukiya, T. Mizuno, T. Nishimura, E. Tatsumi. Electrocardiogram-synchronized Rotational Speed Modulation System Can Reduce the Recirculation Due to Aortic Insufficiency in LVAD Support. *J Heart Lung Transplant*. 2018; 37(4): 266.
8. 村上倫子、増澤徹、小沼弘幸、西村隆、許俊鋭 薄小型補助人工心臓用セルフベアリングモータの改良日本AME学会雑誌 Vol26 No1 P102-108 2018
9. 村上倫子、増澤徹、小沼弘幸、西村隆、許俊鋭 作動流体粘度が磁気浮上補助人工心臓のポンプ特性およびインペラ浮上性能に与える影響 ライフサポート学会誌 Vol29 No3; P94-99 2017

●総説

1. 西村隆：在宅補助人工心臓治療の現状と今後 医工学治療 Vol29 No2 P102-105 2017
2. 西村隆：カテーテルタイプ補助人工心臓 - IMPELLAの将来展望 - *Clinical Engineering* Vol28 No8 P647-651 2017
3. 西村隆：体外設置型補助人工心臓：ニプロ 医学のあゆみ Vol262 No1 P49-54 2017
4. 西村隆：巻頭言 「種を蒔け！」人工臓器 Vol46 No3 P127 2017
5. 西村隆：人工心臓・人工肺研究 UPDATE 体外循環と補助循環 2017年7月号 19～22頁
6. 西村隆：外科的治療で治す 「人工心臓を用いて」 *Heart View* Vol22 No4 P83-87 2018
7. 西村隆：補助人工心臓、心臓移植 *MEDICAL REHABILITATION* No218 P23-28 2018
8. 西村隆：高齢者における心臓血管外科手術の意義 *Geriatric Medicine* Vol56 No4 P321-324 2018
9. 西村隆、山岡哲二：ABMC6・APSAO2017 人工臓器 Vol47 No1 P1～2 2018

●学会・研究会

1. Takashi Nishimura, Daichi Akiyama, Minoru Ono, Yoshiaki Takewa, Masahiko Ando, Akihide Umeki, Mamoru Arakawa, Yuichiro Kishimoto, Satoru Kishimoto Kazuma Date, Noritsugu Naito, Eisuke Tatsumi: (Symposium) Control of LVADs: The Native Heart Load Control System. 44th European Society for Artificial Organs (ESAO) (Vienna) 2017.9.7-9
2. Takashi Nishimura, Yoshiaki Takewa, Masahiko Ando, Akihide Umeki, Mamoru Arakawa, Yuichiro Kishimoto, Satoru Kishimoto, Kazuma Date, Noritsugu Naito, Daichi Akiyama, Kei Iizuka, Eisuke Tatsumi: (Keynote Lecture) Current situation of Native Heart Load Control System. The 2017 International Society for Mechanical Circulatory Support (ISMCS) Conference (Arizona) 2017.10.16-18
3. Takashi Nishimura: (Invited Lecture) Registry Report on VAD Treatment in Japan. The 6th Asian Biomaterials Congress (Thiruvananthapuram) 2017.10.25-26
4. Takashi Nishimura: Clinical situation on VAD treatment in Japan. IFAO session 55th JSAO annual meeting (Tokyo) 2017.9.2
5. Mano A, Wissman S, Kilic A, Lampert BC, Smith SA, Whitson B, Hasan AK: Impact of change in body mass index on outcomes after left ventricular assist device implantation in obese patients. The 37th Annual Scientific Session of the International Society for Heart and Lung Transplantation (ISHLT) (San Diego) 2017.4.4-7
6. Daichi Akiyama, Takashi Nishimura, Minoru Ono, Yoshiaki Takewa, Masahiko Ando, Akihide Umeki, Mamoru Arakawa, Yuichiro Kishimoto, Satoru Kishimoto Kazuma Date, Noritsugu Naito, Eisuke Tatsumi: ECG-synchronized rotational speed change system has preventive effect on right heart failure during continuous-flow left ventricular assist device support. American Society for Artificial Internal Organs (ASAIO) 63th annual conference (Chicago) 2017.6.21-24
7. Daichi Akiyama, Takashi Nishimura, Minoru Ono, Yoshiaki Takewa, Masahiko Ando, Akihide Umeki, Mamoru Arakawa, Yuichiro Kishimoto, Satoru Kishimoto Kazuma Date,

- Noritsugu Naito, Eisuke Tatsumi: ECG-synchronized rotational speed change system has preventive effect on right heart failure during continuous-flow left ventricular assist device support. 44th European Society for Artificial Organs (ESAO) (Vienna) 2017.9.7-9
8. Masuzawa T, Ohno K, Satoh R, Osa M, Nishimura T, Kyo S: RELATIONSHIP BETWEEN FLUID FORCE FLUCTUATION AND IMPELLER DESIGN FOR MAGNETICALLY LEVITATED CENTRIFUGAL PUMPS. 44th European Society for Artificial Organs (ESAO) (Vienna) 2017.9.7-9
 9. Daichi Akiyama, Takashi Nishimura, Minoru Ono, Yoshiaki Takewa, Masahiko Ando, Akihito Umeki, Mamoru Arakawa, Yuichiro Kishimoto, Satoru Kishimoto Kazuma Date, Noritsugu Naito, Eisuke Tatsumi: Development of accurate quantification method of aortic insufficiency during LVAD by thermodilution technique. The 2017 International Society for Mechanical Circulatory Support (ISMCS) Conference (Arizona) 2017.10.16-18
 10. Kei Iizuka, Daichi Akiyama, Yoshiaki Takewa, Tomonori Tsukiya, Toshihide Mizuno, Takashi Nishimura, Eisuke Tatsumi: Electrocardiogram-Synchronized Rotational Speed Modulation System Can Reduce the Recirculation Due to Aortic Insufficiency in LVAD Support. The 2017 International Society for Mechanical Circulatory Support (ISMCS) Conference (Arizona) 2017.10.16-18
 11. 西村隆: (シンポジウム) 災害医療における人工臓器. 日本医工学治療学会 第33回学術大会 (松江) 2017.4.8
 12. 西村隆: (教育講演) よくわかる講座「補助循環」. 日本医工学治療学会 第33回学術大会 (松江) 2017.4.8
 13. 西村隆: (パネルディスカッション) これからのMCSに対する期待 臨床ニーズから開発への提言. 第46回人工心臓と補助循環懇話会学術集会 (熱海) 2018.2.10
 14. 西村隆: (パネルディスカッション) 循環器系人工臓器の新規導入における臨床上的問題点. 第55回日本人工臓器学会大会 (東京) 2017.9.3
 15. 西村隆: (委員会企画「集中治療専門医に必要な最新の補助循環法の管理を学ぶ」補助人工心臓の適応と管理. 第45回日本集中治療医学会学術集会 (幕張) 2018.2.22
 16. 西村隆: (教育講演) 補助循環を理解する. 日本医工学治療学会 第34回学術大会 (大宮) 2018.3.18
 17. 眞野暁子, 西村隆, 河田光弘, 村田知洋, 十菱千尋, 田中甸, 武田和夫, 石川譲治, 藤本肇, 鉄谷祥子, 有馬由加里, 石井正晃, 本田博一, 小澤直人, 村野井一樹, 原田和昌, 許俊鋭: 機能的左室にJarvik 2000を植え込み適切に管理し得た修正大血管転移症の一例. 第55回日本人工臓器学会 (東京) 2017.9.3
 18. 河田光弘, 西村隆, 許俊鋭: Willis動脈輪形成不全、腕頭動脈と左総頸動脈解離を伴う巨大上行弓部大動脈瘤/術中A型急性大動脈解離発症に対して間歇的静脈圧増強逆行性脳灌流法が有用であった89歳女性. 第45回日本血管外科学会学術総会 (広島) 2017.4.19-21.
 19. 河田光弘, 村田知洋, 加藤倫子, 西村隆, 許俊鋭, 二見崇太郎, 両角愛, 鈴木歩, 鳥羽梓弓, 根本佳子, 齋藤義弘, 大川庭熙, 十菱千尋, 杉江正光, 田中甸, 石山泰三, 石川譲治, 坪光雄介, 武田和夫, 藤本肇, 原田和昌, 小山照幸, 金丸晶子: 心移植適応年齢を超えた拡張相肥大型心筋症、僧帽弁閉鎖不全症、三尖弁閉鎖不全症、CRT-D植込み術後の重症心不全に対してbridge to recovery 目的に体外設置型LVADを使用して僧帽弁置換術、三尖弁輪形成術を安全に施行し得た1例. 第3回日本心筋症研究会 (岐阜) 2017.4.22.
 20. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 西村隆, 許俊鋭: 胸部大動脈瘤破裂に対し緊急TEVAR施行後、PISと思われる急性肺障害を発症した93歳女性. 第21回大動脈ステントグラフト研究会 (奈良) 2017.7.29
 21. 河田光弘, 村田知洋, 加藤倫子, 眞野暁子, 西村隆, 許俊鋭: 胸腹部大動脈から両総腸骨動脈人工血管置換術後、全下行大動脈が治療対象となり、段階的TEVARが安全で有効であった. 第55回日本人工臓器学会 (東京) 2017.9.3
 22. 河田光弘, 村田知洋, 加藤倫子, 眞野暁子, 西村隆, 許俊鋭: 体外設置型から植込型LVADに移行目前に、脳出血で死亡した拡張相肥大型心筋症の64歳男性. 第21回日本心不全学会学術集会 (秋田) 2017.10.12-14
 23. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 西村隆, 許俊鋭: 脳梗塞既往、BCA、LCCA解離、左VA単独起始、高齢者A型急性大動脈解離に対し、IPA-RCP法が有効であった1例. 第25回日本血管外科学会関東甲信越地方会. (東京) 2017.10.28.
 24. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 西村隆, 許俊

- 鋭：(パネルディスカッション) 当院における60歳以上の補助人工心臓治療の現状.Current status of left ventricular assist device therapy for patients over 60 years of age in our hospital. 第79回 日本臨床外科学会総会(東京) 2017.11.23-25.
25. 河田光弘、村田知洋、眞野暁子、西村隆、許俊鋭：(ワークショップ) 90歳代A型急性大動脈解離における間歇的静脈圧増強逆行性脳灌流法の有用性.Efficacy of intermittent pressure-augmented retrograde cerebral perfusion (IPA-RCP) for acute aortic dissection type A in a nonagenarian. 第79回 日本臨床外科学会総会(東京) 2017.11.23-25.
26. 河田光弘、村田知洋、眞野暁子、西村隆、許俊鋭：弓部分枝3本解離、左上肢、下半身灌流障害を認めた高齢者A型急性大動脈解離に対するIPA-RCP法の有用性. 第37回 東京CCU研究会(東京) 2017.12.2.
27. 河田光弘、村田知洋、眞野暁子、西村隆、許俊鋭：胸部ステントグラフト内挿術後の動脈stiffness, brachial-ankle pulse wave velocityの変化について第13回東京都福祉保健医療学会(東京) 2017.12.14.
28. 河田光弘、村田知洋、眞野暁子、西村隆、許俊鋭：弓部分枝病変のある高齢者A型急性大動脈解離に対するIPA-RCPの有用性.Efficacy of intermittent pressure-augmented retrograde cerebral perfusion (IPA-RCP) for acute aortic dissection type A with diseased aortic arch vessels in octogenarian. 第48回 日本心臓血管外科学会学術総会(三重) 2018.2.19-21.
29. 河田光弘、村田知洋、眞野暁子、西村隆、許俊鋭：Destination therapyを見据えて当院における60歳以上補助人工心臓治療経験第33回 東京都循環器研究会(東京) 2018.2.24
30. 河田光弘、村田知洋、眞野暁子、西村隆、許俊鋭：慢性腎機能低下のある下行大動脈囊状瘤急速拡大に対して、造影剤腎症を回避しTEVARを有効に施行し得た91歳女性の術後2年間のfollow up. 第67回 日本老年医学会関東甲信越地方会(東京) 2018.3.3.
31. 眞野暁子、西村隆、河田光弘、村田知洋、十菱千尋、田中旬、武田和大、石川譲治、藤本肇、鉄谷祥子、有馬由加里、石井正晃、本田博一、小澤直人、村野井一樹、原田和昌、許俊鋭：機能的左室にJarvik 2000を植え込み適切に管理し得た修正大血管転移症の一例. 第55回日本人人工臓器学会(東京) 2019.9.3
32. 眞野暁子、西村隆、村田知洋、河田光弘、許俊鋭：(シンポジウム) 当院における60歳以上の高齢者に対する左心補助人工心臓の経験. 第6回 Destination Therapy研究会(東京) 2017.9.4
33. 眞野暁子、西村隆、村田知洋、河田光弘、田中旬、藤本肇、原田和昌、許俊鋭：拡大のない左室にHeartMate IIを植え込み適切に管理し得た拡張相肥大型心筋症の一例. 日本循環器病学会第246回関東甲信越地方会、(東京)
34. 村田知洋、河田光弘、加藤倫子、西村隆、許俊鋭：StanfordB型急性大動脈解離破裂に対しTEVARにて救命し得た高齢者の1例. 第174回胸部外科学会関東甲信越地方会(東京) 2017.6.3
35. 村田知洋、河田光弘、西村隆、許俊鋭：偽腔閉塞型のStanfordA型大動脈解離保存加療退院後に偽腔開存にて手術に至った1例. 第175回胸部外科学会関東甲信越地方会(東京) 2017.11.11
36. 村田知洋、河田光弘、西村隆、許俊鋭：急性大動脈解離(Stanford A, DeBakeyIIIbR)に対しTEVARにて治療し得た1例. 第176回日本胸部外科学会関東甲信越地方会(東京) 2018.3.10
37. 村田知洋、河田光弘、眞野暁子、加藤倫子、西村隆、許俊鋭：僧帽弁機械弁stuck, DCM, TR, 重症心不全に対してBTD目的に体外設置型LVADを使用し, 救命し得た1例. 第244回日本循環器学会関東甲信越地方会(東京) 2017.6.10
38. 村田知洋、河田光弘、眞野暁子、西村隆、許俊鋭：植込型補助人工心臓手術後, 遠隔期に脳出血を合併した症例. 第247回日本循環器学会関東甲信越地方会(東京) 2018.2.10
39. 村田知洋、河田光弘、眞野暁子、西村隆、許俊鋭：左房粘液腫に対して摘出術を行った超高齢者の1例. 第22回板橋区医師会医学会(東京) 2017.09.02
40. 村田知洋、河田光弘、眞野暁子、西村隆、許俊鋭：当院における60歳以上の補助人工心臓治療の現状. 第33回東京都循環器研究会(東京) 2018.2.24
41. 村田知洋、河田光弘、眞野暁子、西村隆、許俊鋭：心臓移植年齢を超えた重症心不全, 拡張相肥大型心筋症, 高度僧帽弁閉鎖不全症の治療経験. 城北心不全フォーラム2017(東京) 2017.11.17
42. 中田淳、Stefan Sack、高山守正、西村隆、戸田宏一：心原性ショックに対する機械的補助循環デバイス治療戦略“米国におけるIMPELLAコホートと本邦におけるVA-ECMOコホートの比較を通じて”. 2017CVIT学術集会(京都) 2017.7.6-8
43. 荒川衛、西村隆、中田はる佳、畑中雄介、物部真一郎、山口敦司：(シンポジウム) モバイルア

プリ活用による、より良い植込型補助人工心臓在宅管理の取り組み、課題と今後の展望. 第55回日本人工臓器学会大会（東京）2017.9.3

44. 秋山大地、西村隆、飯塚慶、水野敏秀、築谷朋典、武輪能明、小野稔、巽英介：左心補助人工心臓における心拍同期型回転数制御システムが右心機能へ及ぼす影響. 第55回日本人工臓器学会大会（東京）2017.9.3
45. 秋山大地、西村隆、飯塚慶、水野敏秀、築谷朋典、武輪能明、小野稔、巽英介：熱希釈法を用いた補助人工心臓装着患者における大動脈閉鎖不全定量法の開発. 第55回日本人工臓器学会大会（東京）2017.9.3
46. 菅原美希、西村隆、本田博一、村野井一樹、小澤直人、石井正晃、関祐子、土田真吏菜、村田和洋、河田光弘、許俊鋭：長期使用型遠心ポンプTERUMO社製キャピオックスカスタムパックEBS心肺キットSLタイプの使用報告. 第55回日本人工臓器学会大会（東京）2017.9.3
47. 佐藤遼大、増澤徹、長真啓、信太宗也、大野康平、西村隆、許俊鋭：磁気浮上型体外循環血液ポンプの血液適合性向上のための浮上インペラ振れ回り運動解析. 第55回日本人工臓器学会大会（東京）2017.9.3
48. 柴健次、増澤徹、西村隆、巽英介、岸上兆一：補助人工心臓用経皮電送システムの実用化に向けた課題. 第46回人工心臓と補助循環懇話会学術集会（熱海）2018.2.10

●講演等院外活動（講演・放送等）

1. 西村隆：補助人工心臓治療適応・成績および体制. 第11回JACVASセミナー（東京）2019.9.2
2. 西村隆：人工心臓・人工肺研究UPDATE. 第33回日本人工臓器学会教育セミナー（東京）2017.7.15
3. 西村隆：特別講演 重症心不全に対する補助人工心臓治療の現状と将来. 第3回山口県循環器疾患研究会（宇部）2017.7.28
4. 西村隆：EVAHEART LVAS. 獨協医科大学EVAHEART植込みトレーニング講演会（栃木）2017.5.30
5. 西村隆：植込型補助人工心臓治療の現状と期待. 重症心不全治療セミナー（新潟）2018.2.5
6. 西村隆：NIPRO VAS システムならびに植込み手術、臨床成績. 第18回補助人工心臓研修コース（東京）2017.5.13
7. 西村隆：急性循環不全症例に対するVAD治療戦略第19回補助人工心臓研修コース（東京）2017.12.2

脳神経外科

学会研究活動は、脳血管障害、脳腫瘍、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫などに関するテーマについて、臨床的および基礎的な検討を行っている。脳神経外科学会総会・コンgres・地方会、日本脳神経血管内治療学会、老年脳神経外科学会、老年病学会、板橋区医師会、などで活動している。NCDの脳神経外科手術全症例登録事業に参画した。平成30年1月1日からは、Japan Neurosurgical Database (JND) 研究事業に移行した。

●雑誌論文

1. Ueno T. Does treatment for unruptured cerebral aneurysm decrease in incidence rate of subarachnoid hemorrhage? *Interventional Neuroradiology*. Budapest, Hungary. 23: 268, 2017.
2. 上野俊昭 “DPCデータの示す西北部医療圏における脳卒中治療の現状.” 板橋区医師会医学会誌 22: 202, 2017.

●学会・研究会発表

1. Ueno T. Does treatment for unruptured cerebral aneurysm decrease an incidence rate of subarachnoid hemorrhage? The 14th Congress of the World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology, Budapest, Hungary, 2017.
2. 上野俊昭. 未破裂脳動脈瘤の治療がくも膜下出血発症率に与える影響についての考察. 第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 東京, 2017.
3. 上野俊昭. DPCデータの示す西北部医療圏における脳卒中治療の現状. 第22回板橋区医師会医学会, 板橋, 2017.
4. 上野俊昭. 急性期脳卒中 - 区西北部と道北部の比較 -. 第3回道北 Neuro IVR 研究会, 旭川, 2018.
5. 上野俊昭. 脳血管内治療における保険請求の基礎知識. The 26th Intravascular Neurosurgery Winter Seminar, 長野, 2018.

呼吸器外科

●雑誌論文

1. Hino H, Nishimura T, Usuki C, Sazuka M, Ito T, Seki A, Nitadori JI, Yamada H, Arai T, Yamamoto H, Nakajima J. Salvage surgery for primary lung cancer after chemotherapy in

●学会活動・研究会発表

- 80歳以上高齢者肺癌手術成績の臨床的検討
～多施設共同研究の解析より～
日野春秋、西村隆、佐野厚、吉田幸弘、深見武史、古畑善章、田中真人、唐崎隆弘、高橋剛史、川島光明、桑野秀規、長山和弘、似鳥純一、安樂真樹、佐藤雅昭、中島淳（2017年5月18日第34回日本呼吸器外科学会総会@福岡）
- Prognostic Impact on Lung Cancer Surgery in Octogenarian: Japanese Multicenter Retrospective analysis
Haruaki Hino, Takashi Nishimura, Atsushi Sano, Yukihiro Yoshida, Takeshi Fukami, Yoshiaki Furuhashi, Makoto Tanaka, Takahiro Karasaki, Tsuyoshi Takahashi, Mitsuki Kawashima, Hidenori Kuwano, Kazuhiro Nagayama, Jun-ichi Nitadori, Masaki Anraku, Masaaki Sato, Jun Nakajima（2017年5月29日25th ESTS annual meeting @ Innsbruck, Austria）
- 高齢者肺癌術前の気管支鏡検査の現状
日野春秋、西村隆、濱谷広頌、野木森智江美、佐塚まなみ、片岡愛、杉崎緑、村野陽子、関敦子、似鳥純一、山田浩和、新井富生、山本寛、中島淳（2017年6月9日第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会@長崎）
- 特発性間質性肺炎急性増悪に関する剖検例を用いた検討
日野春秋、西村隆、関敦子、新井富生、中島淳（2017年9月2日第22回板橋区医師会医学会@板橋区立文化会館）
- 特発性間質性肺炎急性増悪に関する剖検症例を用いた検討
日野春秋、西村隆、中島淳（2017年9月29日第70回日本胸部外科学会定期学術集会@札幌）
- 高齢発症の胸腺腫合併重症筋無力症に対して、胸腺摘除とOPCABGの同時手術を施行した1例
日野春秋、似鳥純一、村田知洋、関敦子、河田光弘、新井富生、西村隆、中島淳（2017年11月25日第79回日本臨床外科学会総会@東京国際フォーラム）
- 前縦隔に進展した頸部異所性胸腺腫の1切除例
日野春秋、似鳥純一、大野慶子、岸本誠司、高橋正時、柿崎元恒、新井富生、西村隆、中島淳（2018年2月24日第37回日本胸腺研究会@名古屋）
- 術前診断に難渋した高齢者サルコイドーシス合併肺癌の1例

日野春秋、佐塚まなみ、山本寛、高田和典、村野陽子、柿崎元恒、松田陽子、山田浩和、新井富生、中島淳（2018年3月3日第67回日本老年医学会関東甲信越地方会@東京都健康長寿医療センター）

整形外科・脊椎外科

●雑誌論文

- Akira Koshiishi, Hiroshi Hamaji, Yasuhiro Wada**, Kimiteru Ito, Kei Wagatsuma, Kenji Ishii, **Masakazu Kanetaka, Soichiro Kaneko, Shigehito Uezono**, Naoko Shoda, **Yorito Anamizu, Fumiaki Tokimura, and Tsuyoshi Miyazaki**: Revision with locking plate and sliding inlay bone graft for hypertrophic nonunion after combined treatment of Ender nails and teriparatide for atypical femoral stress fracture: A unique case report. J Orthopedics Rheumatol. 2017 December; Volume: 4, Issue: 2 (2017; 4(2): 6) doi: 10.13188/2334-2846.1000034
- 木幡一博, 田尻康人, 安藤祐加里, 山田浩司, 安部博昭, 中嶋香児, 岡崎裕司, **時村文秋**: 清潔整形外科手術で四肢の手術部位によって手術部位感染頻度が異なるか 日本骨・関節感染症学会雑誌(1881-9893)31巻 Page43-47
- 濱路博, 金高正和**: 85歳超の高齢大腿骨頸部骨折に対するセメントレス人工骨頭ステム Excia®の初期固定性の検討 日本人工関節学会誌 47: 525-526, 2017

●学会・研究会発表

- Koji Yamada, Koji Nakajima, Kazuhiro Kohata, **Fumiaki Tokimura, Tsuyoshi Miyazaki**, Tatsuro Karita, Hiroyuki Oka, Yasuhiro Tajiri, Hiroshi Okazaki. Spinal instrumentation surgery, a well-known but neglected orthopaedic procedure deserving more attention on perioperative care. the 2018 Annual Meeting of the American Academy of Orthopaedic Surgeons. New Orleans, Louisiana, USA. 2018. 3.6-10
- Miyazaki T, Tokimura F**, Sawada Y. Oseocyte-specific Cas knockout mice exhibit decreased bone mass through RANKL expression. 20th International Conference on Enzymology and Molecular Biology. London, UK. 2018.3.05-07.
- Yamada K, **Miyazaki T**, Shinozaki T, Oka H, **Tokimura F**, Tajiri Y, Okazaki H. Spinal

- instrumentation surgery, a well-known but neglected orthopaedic procedure deserving more attention on perioperative care. 36th Annual Meeting of the European Bone and Joint Infection Society. Nantes, France. 2017.9.7-9
- 4) 長沼英俊、宮崎剛、時村文秋、穴水依人、濱路博、金高正和、金子奏一朗、上園茂仁：エンダー釘とテリパラチド投与による治療後にロッキングプレートと骨移植による再手術を行った非定型大腿骨骨折の1例 第30回日本臨床整形外科学会学術集会, 東京, 2017.7.16-17
 - 5) 木幡一博、中嶋香児、時村文秋、三上容司、田尻康人、金井宏幸、松本卓也、岡崎裕司、荻田達郎、山田浩司 清潔整形外科手術の術後死亡リスク ～8907件の解析結果～ 第90回日本整形外科学会学術総会 2017.5.18-21 仙台
 - 6) 木幡一博、中嶋香児、時村文秋、三上容司、田尻康人、金井宏幸、松本卓也、岡崎裕司、荻田達郎、中元秀樹、山田浩司 手術で手術部位によってSSI %は異なるか？ ～多施設共同 SSI データベース結果報告～ 第90回日本整形外科学会学術総会 2017.5.18-21 仙台
 - 7) 木幡一博、中嶋香児、時村文秋、三上容司、田尻康人、金井宏幸、松本卓也、岡崎裕司、荻田達郎、中元秀樹、山田浩司 清潔整形外科手術後高齢者（65歳以上）の尿路感染のリスクについて ～多施設共同 SSI データベース解析結果～ 第90回日本整形外科学会学術総会 2017.5.18-21 仙台
 - 8) 中嶋香児、木幡一博、桃山現、宮崎剛、山川聖史、金井宏幸、竹下祐次郎、原由紀則、山田浩司、吉井祥二、安部博昭 清潔整形外科手術の術後30日以内再入院のリスク ～8912件の解析結果～ 第90回日本整形外科学会学術総会 2017.5.18-21 仙台
 - 9) 中嶋香児、山田浩司、金子雅子、木幡一博、荻田達郎、濱路博、三上容司、金井宏幸、穂積高弘、田島佑輔、田中栄 脊椎インスト手術では非インスト手術と比べてSSIや各種合併症（尿路感染、呼吸器感染）の発生率が増加する第90回日本整形外科学会学術総会 2017.5.18-21 仙台
 - 10) 中元秀樹、中嶋香児、大庭紗希、佐藤敏秀、宮崎剛、秋山宏一郎、桃山現、金井宏幸、田中栄、山田浩司 清潔整形外科手術の手術部位感染リスク ～若年者・高齢者の相違～ 第90回日本整形外科学会学術総会 2017.5.18-21 仙台
 - 11) Koji Nakajima, Koji Yamada, Hiroaki Abe, Akiro Higashikawa, Yujiro Takeshita, Yasuhito Tajiri, Hiroyuki Kanai, Takahiro Hozumi, Kazuhiro Kohata, Fumiaki Tokimura Thoracic and cervical instrumentation spinal surgery as a risk for SSI in posterior spinal surgery. 第46回日本脊椎脊髄病学会 2017.4.13 English Presentation Award Session
 - 12) 中元秀樹、中嶋香児、山田浩司、安部 博昭、穂積高弘、竹下祐次郎、東川昌郎、國谷崇、唐司寿一、穴水依人、三好光太、渡邊健一、増田和浩 脊椎インストゥルメンテーション手術のSSI リスク ～多施設共同 SSI データベース1156例の解析結果～ 第46回日本脊椎脊髄病学会 2017.04.13-15 札幌
 - 13) 中元秀樹、山田浩司、中嶋香児、安部 博昭、穂積 高弘、竹下祐次郎、三好光太、東川昌郎、唐司寿一、穴水依人、國谷崇、渡邊健一、増田和浩 脊椎手術の SSI リスクファクター ～多施設共同 SSI データベース2465例の解析結果～ 第46回日本脊椎脊髄病学会 2017.04.13-15 札幌
 - 14) 木幡一博、山田浩司、田尻康人、安部博昭、時村文秋、中嶋香児、安藤裕加里、岡崎裕司 清潔整形外科手術における正常体温維持の術後主要合併症予防効果について 第40回日本骨・関節感染症学会、2017.6.16-17 東京
 - 15) 木幡一博、山田浩司、田尻康人、安部博昭、時村文秋、中嶋香児、安藤裕加里、岡崎裕司 清潔整形外科手術で四肢の手術部位によってSSI%が異なるか 第40回日本骨・関節感染症学会、2017.6.16-17 東京
 - 16) 木幡一博、山田浩司、田尻康人、安部博昭、時村文秋、中嶋香児、安藤裕加里、岡崎裕司 清潔整形外科手術における主要術式別の術後の合併症について 第40回日本骨・関節感染症学会、2017.6.16-17 東京
 - 17) 中嶋香児、山田浩司、田尻康人、安藤裕加里、木幡一博、時村文秋 清潔整形外科手術における主要術式別の術後の合併症について 第40回日本骨・関節感染症学会、2017.6.16-17 東京
 - 18) 中嶋香児、山田浩司、時村文秋、佐々木了、田尻康人、山川聖史、木幡一博 清潔整形外科手術で手術部位感染の臨床所見は感染の深達度で異なるか？ 第39回日本骨関節感染症学会 2016.7.8 岡山
 - 19) 木幡一博、山田浩司、佐々木了、田尻康人、山川聖史、時村文秋、中嶋香児、荻田達郎 高齢者の清潔整形外科手術後尿路感染のリスクについて～多施設共同SSIデータベース解析結果～ 第39回日本骨関節感染症学会 2016.7.9 岡山

皮膚科

平成29年度の皮膚科研究活動では、種井が当院での「高齢者アトピー性皮膚炎の臨床的・病理組織学的研究」の研究成果を英文教書の分担執筆者としてまとめた。また、宮澤はケースレポート“A case of MPO-ANCA-positive cutaneous polyarteritis nodosa with livedo racemose arising from immune-deposit-positive necrotizing vasculitis”を英文雑誌に投稿中である。

●著書(分担執筆)

1. Tanei R. Senile atopic dermatitis. In:Katayama I, Murota H, Satoh T, editors. Evolution of atopic dermatitis in the 21st century. 2018. Springer, Singapore. P.229-248.

●雑誌論文

1. 種井良二. 在宅医療における痒みの対処. 日臨皮会誌 2018, 35:20-28.
2. 種井良二. Skin aging - 乾皮症に対するケア-. MB Derma 2018, 267:42-50.

●学会・研究会発表

1. 種井良二. 在宅医療における痒みの対処(ステロイド少量内服治療を含めて). 第33回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会、神戸、2017.4.23
2. 種井良二、長谷川康子. 高齢者のアトピー性皮膚炎病変部の家塵ダニアレルゲン局在についての解析. 第466回日本皮膚科学会大阪地方会-片山一朗教授退官記念地方会-、大阪、2018.3.10

●講師等院外活動

1. 種井良二. 高齢者のアトピー性皮膚炎の話題. 東京都皮膚科医会学術講演会、東京、2017.7.27
2. 沼賀二郎. 眼科新薬を基礎・臨床から学ぶ会 第5回(大塚製薬) 座長(東京) 6月14日
3. 沼賀二郎. 第3回網膜疾患を考える会 座長(東京) 8月30日
4. 沼賀二郎. 緑内障を考える会 @Ilebuluro(大塚製薬) 座長(東京) 11月18日
5. 沼賀二郎. 第7回 症例に学ぶOCT研究会 座長(東京) 12月6日
6. 沼賀二郎. 「理想の周術期、抗炎症薬」 中野HOYA(株)社内講演会(東京) 2月16日
7. 沼賀二郎. 第10回城北網脈絡膜研究会 座長(東京) 2月21日
8. 沼賀二郎. 緑内障・白内障アップデート 座長(東京) 2月28日

9. 沼賀二郎. より良い緑内障治療をして目指して(参天製薬) 座長(東京) 3月28日
10. 山本裕樹. 「緑内障点眼を切り替えるメリット」 緑内障を考える会(大塚製薬、千寿製薬)(東京) 11月18日
11. 山本裕樹. 「Acute syphilitic posterior placoid chorioretinitisを疑い駆梅療法が奏功した1例」 第10回城北網脈絡膜疾患研究会(アルコンファーマ)(東京) 2月21日

泌尿器科

1. 国立長寿医療研究センターにおけるPVPの治療経験 Author:野宮正範(国立長寿医療研究センター 泌尿器科), 西井久枝, 永田卓士, 吉田正貴: Japanese Journal of Endourology (2186-1889)30巻3号 Page217(2017.11)なし
2. PVPの治療経験 過活動膀胱症状の改善効果についてAuthor:永田卓士, 野宮正範, 大菅陽子, 野尻佳克, 吉田正貴Source:日本泌尿器科学会総会 105回Page OP76-5(2017.04)なし慢性膀胱虚血ラットモデルにおけるタダラフィルの膀胱微小血管内皮保護作用 Author:野宮正範, 吉田正貴, 山口脩, 澤田智史, 永田卓士, 大菅陽子Source:日本泌尿器科学会総会 105回 Page OP34-4(2017.04)
4. Gamma-glutamyltransferase activity in exosomes as a potential marker for prostate cancer. Kawakami K, Fujita Y, Matsuda Y, Arai T, Horie K, Kameyama K, Kato T, Masunaga K, Kasuya Y, Tanaka M, Mizutani K, Deguchi T, Ito M.BMC Cancer. 2017 May 5;17(1):316.

眼科

沼賀は内因性ぶどう膜炎の臨床研究、術後炎症に対する薬物療法、また新薬の評価及び新しい臨床応用についての検討。池上はパターンスキャン光凝固、閾値下凝固やナビラス(眼底写真上の決められたスポットを自動で凝固するシステム)の網膜光凝固術前後の網膜機能形態の変化を網膜感度計(MP3)を使用し検討。外山は90歳以上の超高齢者に対する白内障手術の視力予後、麻酔方法と認知症についての臨床研究。山本は網膜硝子体手術に関する臨床研究。寺田はヘルペス性前部ぶどう膜炎の多施設後ろ向き研究。高尾は加齢黄斑変性症の臨床研究。

●雑誌論文

1. Honjo M, Numaga J, Hara T, Asaoka R.
The association between structure-function relationships and cognitive impairment in elderly glaucoma patients.
Sci Rep. 2017 Aug 2;7(1):7095. (原著)
2. Sakata R, Numaga J.
Fungal endophthalmitis in an elderly woman: differing responses in each eye.
Int Med Case Rep J. 2017 Jun 8;10:189-192 (原著)
3. Nakahara H, Kaburaki T, Tanaka R, Matsuda J, Takamoto M, Ohtomo K, Okinaga K, Komae K, Numaga J, Fujino Y, Aihara M
Monoclonal immunoglobulin heavy chain gene rearrangement in Fuchs' uveitis.
BMC Ophthalmol. 2018 Mar 9;18(1):74. (原著)
4. 望月學、鴨居功樹、寺田裕紀子.
HTLV-1 ぶどう膜炎.
日本内科学会雑誌. 2017;106(7): 1410-1416(原著)
5. 宮田和典、寺田裕紀子他：
前眼部手術のsustainabilityを考える 今日のデータを明日のために.
日本眼科学会雑誌. 2017; 121(3): 249-291(原著)
6. 永井瑞希、寺田裕紀子、青木彩、松田順子、井上賢治.
脊髄炎がみられたサルコイドーシス眼病変の1例
眼科臨床紀要. 2017; 10(6): 466-470(原著)
7. 小溝崇史、寺田裕紀子、森洋斉、子島良平、宮田和典.
0.1%ブロムフェナクナトリウム点眼液のNd:YAGレーザー後囊切開術後の炎症抑制効果.
あたらしい眼科. 2017; 34(9): 1318-1322(原著)
8. 山田梨佳、山添克弥、久須見有美、神田敦宏、齋藤航、石田晋、堀田一樹.
ステロイド治療と卵巣腫瘍摘出により視機能改善を示した癌関連網膜症の1例.
眼科臨床紀要 10(11) 913-917 2017 (原著)

●単行書・報告書

1. 寺田裕紀子：「高齢者で注意すべき眼科疾患」
KeynoteR・A :vol.5, no.1、先端医学社(東京)、page 2-5 (2017.1)
2. 寺田裕紀子：「ぶどう膜の病気」眼科ケア2017春季増刊 目の病気ビジュアルBOOK、メディカ

出版(東京)、page102-119 (2017.3-4)

●学会・研究会発表

1. 田中理恵、蕪城俊克、高本光子、中原久恵、小前恵子、白濱新多朗、沼賀二郎、藤野雄次郎
黄斑部に細菌性網膜下膿瘍をきたし抗菌薬全身投与により加療した1例
第51回日本眼炎症学会(大阪)2017年7月14日.
2. 吉谷栄人、外山琢、山本裕樹、高尾博子、寺田裕紀子、青木彩、沼賀二郎
白寿を迎えて白内障手術を受けられた2症例
第791回東京眼科集談会(東京)2018年8月23日
3. 野田拓也、寺田裕紀子、沼賀二郎、宮田和典、望月學
10年以上の長期経過を追ったHTLV-1 ぶどう膜炎の臨床像
第71回日本臨床眼科学会(東京)2017年10月13日
4. 山本裕樹「XY1の挿入の仕方」動画提供
第41回日本眼科手術学会 学術総会 京都(HOYA)2018年1月26日~28日
5. 高尾博子、清水公子、東恵子、井上達也、小畑亮
近視性脈絡膜新生血管に対する抗VEGF療法における無再発期間
第71回日本臨床眼科学会(東京)2017年10月14日
6. 山田梨佳、榮木悠、加藤寛彬、山添克弥、堀田一樹
網膜色素変性症に合併した黄斑分離症に対して硝子体手術を行った1例
第41回日本眼科手術学会学術総会(京都)2018年1月26日

耳鼻咽喉科

●原著

1. 大野慶子、木村百合香、高橋正時、三輪好、本庄需、西尾綾子、岸本誠司：胸鎖乳突筋皮弁を用いて閉鎖した気管食道瘻の1例. 日本気管食道科学会報 69: 33-37, 2018
2. Ohno K, Kimura Y, Matsuda Y, Takahashi M, Honjyou M, Arai T, Tsutsumi T: Increased number of IgG4-positive plasma cells in chronic rhinosinusitis. Acta Otolaryngol 137: 186-190, 2017.
3. 本庄需、大野慶子、木村百合香：高齢者専門急性期病院における気管切開術の検討. 気管食道科学会会報 68: 222-227, 2017.
4. 木村百合香、大野慶子、岸本誠司、小林一女：

誤嚥リスクと対応 神経変性疾患における上気道狭窄への対応 一期的な誤嚥防止術の適応はあるか？(解説) 日本気管食道科学会会報 68: 101-103, 2017

●総説

1. 高橋正時: 【耳鼻咽喉科医に必要な認知症の知識-認知症と高次脳機能障害】 認知症と耳鼻咽喉科診療 認知症患者のみかた JOHNS 34巻 303-305, 2018

●国内学会発表

1. 大野慶子, 木村百合香, 高橋正時, 三輪好, 本庄需, 西尾綾子, 岸本誠司: 胸鎖乳突筋弁を用いて閉鎖した気管食道瘻の1例. 第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会 広島, 2017年5月
2. 西尾綾子, 大野慶子, 三輪好, 高橋正時: 東京都健康長寿医療センター受診高齢者における聴力検査結果の検討. 第33回御茶の水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会 東京, 2017年12月

●国際学会発表

1. Ohno K, Kimura Y, Matsuda Y, Takahashi M, Honjyou M, Arai T, Tsutsumi T: Increased Number of IgG4-positive Plasma Cells in Chronic Rhinosinusitis. Rhinology World Congress in conjunction with 36th Congress of International Society of Inflammation and Allergy of the Nose and 18th Congress of the International Rhinologic Society, Sep 2017.

●研究助成金

1. 文部科学省研究費補助金 若手研究(B): 「Slc26a4ヘテロマウスの病態生理解析」課題番号 17K16896 研究代表者 西尾綾子
2. 大野慶子: IgG4関連疾患の鼻粘膜病変の病態解析. 平成29年度東京都健康長寿医療センター病院部門研究費.

●マスコミ、取材

1. 高橋正時 伴走介護 File 6 加齢で耳が遠くなる..を放っておかない. 女性セブン 8月24・31日号
2. 高橋正時 親を寝たきりにしない9つの処方箋 6 高齢者が補聴器を嫌がる理由. 夕刊フジ 10月11日
3. 高橋正時 親を寝たきりにしない9つの処方箋 7 補聴器を買う前に耳鼻科に行こう. 夕刊フジ 10月12日

歯科口腔外科

●学会・研究会発表

(国内)

- 1) 平野浩彦、シンポジウム「オーラルフレイル」座長、第4回フレイル・サルコペニア学会大会、2017/10/14、京都
- 2) 平野浩彦、市民公開講座「オーラルフレイル」、第4回フレイル・サルコペニア学会大会、2017/10/15、京都
- 3) 平野浩彦、教育講演3: ケアをするうえで知っておくべきオーラルフレイルの話: 認知症の人の食支援の視点; ささいな口の不具合の気づき、第18回日本認知症ケア学会、2017/5/27、沖縄
- 4) 平野浩彦、支部組織・地域保健医療福祉検討委員会シンポジウム(併催 2017年度 支部長会)、地域歯科医療から学会の役割を再考する、日本老年歯科医学会第28回学術大会、2017/6/16、名古屋
- 5) 平野浩彦、シンポジウム「高齢者におけるサルコペニア - 基礎から介護予防まで -」第30回老年学会総会、2017/6/15、名古屋
- 6) 平野浩彦、基調講演「オーラルフレイル」日本歯科医療管理学会、2017年9月10日、東京
- 7) 平野浩彦、櫻井孝、栗田主一、櫻井薫、高野直久、深井稜博、武井典子、大塚礼、山田律子、渡邊裕、野原幹司、枝広あや子、認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究、脳とこころの研究 第二回公開シンポジウム「脳を考える」国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)、2017年11月30日、東京
- 8) 森美由紀、奥村拓真、日置沙希、齊藤美香、相田順子、大鶴洋、山口雅庸、平野浩彦、双極性障害を有する患者に対し口底癌の切除手術を施行した1例. 第28回 日本老年歯科医学会 総会・学術大会 2017/6/14-6/16 名古屋
- 9) 森美由紀、小田哲也、奥村拓真、齊藤美香、平野浩彦. 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死においてテリパラチド製剤投与後に腐骨除去を施行した一例: 第22回 板橋区医師会医学会 東京都
- 10) 森美由紀、小田哲也、奥村拓真、齊藤美香、平野浩彦. 菌性感染症を原因として敗血症性肺塞栓症から急性膿胸を発症した1例: 第62回 公益社団法人 日本口腔外科学会総会・学術大会 2017年10月20日(金)~22日(日) 京都市
- 11) 奥村拓真、日置沙希、森美由紀、齊藤美香、平野浩彦. 当科で経験した骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の1例第22回 板橋区医師会医学会 板橋区立文化会館: 平成29年9月2日(土)

- 12) 奥村拓真、小田哲也、森美由紀、斉藤美香、平野浩彦、デノスマブ・レナリドミドにより発症した多発性骨髄腫における骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の1例22回 板橋区医師会医学会 板橋区立文化会館：平成29年9月2日（土）
- 13) 須磨紫乃、渡邊裕、平野浩彦、枝広あや子、白部麻樹、本川佳子、木村藍、松下健二、荒井秀典、櫻井孝 アルツハイマー型認知症（AD）とレビー小体型認知症（DLB）の食行動特性の比較検討. 第28回日本老年歯科医学会学術大会 2017/6/14 名古屋市
- 14) 本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、田中弥生、平野浩彦、渡邊 裕、要介護高齢者における自発摂食力評価と入院・死亡との関連.第5回日本在宅栄養管理学会学術集会 2017/7/1-2 名古屋
- 15) 枝広あや子、平野浩彦、渡邊裕、介護保険施設の経口摂取支援に関する研修効果.第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2017/9/15-16 千葉
- 16) 平野浩彦、シンポジウム：認知症の食支援.第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2017/9/15-16 千葉
- 17) 本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、井原一成、田中弥生、金憲経、藤原佳典、大淵修一、河合恒、平野浩彦、渡邊裕、オーラルフレイルと食事・栄養の関わり. 第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会 2017/10/14-15 京都
- 18) 本川佳子、渡邊裕、平野浩彦、枝広あや子、本橋佳子、白部麻樹、三上友里江、大須賀洋祐、佐久間尚子、宇良千秋、稲垣宏樹、小川まどか、金憲経、新開省二、栗田主一. 高島平Study (6) 大都市在住高齢者における 認知機能と栄養指標との関連. 第76回日本公衆衛生学会総会 2017/10/31-11/2 鹿児島
- 19) 本橋佳子、渡邊裕、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、三上友里江、大須賀洋祐、平野浩彦、金憲経、北村明彦、藤原佳典、大淵修一、石崎達郎、新開省二、栗田主一. 高島平Study (7) 大都市部在住高齢者における口腔への関心に関連する因子の検討. 第76回日本公衆衛生学会総会2017/10/31-11/2 鹿児島
- 20) 三上友里江、渡邊裕、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、本橋佳子、大須賀洋祐、平野浩彦、金憲経、北村明彦、藤原佳典、大淵修一、石崎達郎、新開省二、栗田主一. 高島平Study (8) 都市部在住高齢者の外出頻 度の減少と口腔機能低下との関連.第76回日本公衆衛生学会総会 2017/10/31-11/2 鹿児島
- 21) 渡邊裕、本川佳子、枝広あや子、平野浩彦、田中弥生特別養護老人ホーム入所要介護高齢者の食欲と死亡との関係：1年間の縦断調査 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会 2018/2/23 横浜
- 22) 本川佳子、枝広あや子、平野浩彦、田中弥生、渡邊裕、地域在住高齢者のフレイル重症度と栄養関連指標の検討. 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会2018/2/23 横浜
- 23) 本川佳子、枝広あや子、平野浩彦、白部麻樹、大淵修一、河合恒、田中弥生、渡邊裕、地域在住高齢者のフレイル重症度と食品摂取多様性の関わり.第37回食事療法学会 2018/3/4 沖縄
- 24) 金憲経、小島成実、藤野健、大須賀洋祐、吉田祐子、渡邊裕、井原一成、平野浩彦、都市部在住の後期高齢女性における認知機能低下の関連要因 -2年後の分析結果より- 第59回老年医学会学術集会 2017/06/14-16 名古屋
- 25) 本川佳子、枝広あや子、村上正治、白部麻樹、田中弥生、河合恒、大淵修一、平野浩彦、渡邊裕、地域在住高齢者における咀嚼機能と栄養素・食品群別摂取量および低栄養との関わり 第59回老年医学会学術集会 2017/06/14-16 名古屋
- 26) 本橋佳子、平野浩彦、櫻井孝、櫻井薫、市川哲雄、高野直久、深井獲博、武井典子、大塚礼、山田律子、田中弥生、野原幹司、渡邊裕、枝広あや子、認知症高齢者に対する口腔管理と経口摂取支援に関するGL作成の試み 予備文献検索 第28回老年歯科医学会学術集会2017/06/14-16、名古屋
- 27) 堀部耕広、渡邊裕、平野浩彦、枝広あや子、本川佳子、白部麻樹、大淵修一、大神浩一郎、上田貴之、櫻井薫、Frailtyへの移行に咀嚼機能の低下が及ぼす影響第28回老年歯科医学会学術集会2017/06/14-16、名古屋
- 28) 松原ちあき、白部麻樹、渡邊裕、尾花三千代、本川佳子、村上正治、枝広あや子、平野浩彦、古屋純、一地域在住高齢者の唾液中潜血に関連する因子の検討 第28回老年歯科医学会学術集会 2017/06/14-16名古屋
- 29) 釘宮嘉浩、渡邊裕、平野浩彦、本川佳子、堀部耕広、小野高裕、上田貴之、櫻井薫都市部在住高齢者の咀嚼機能および食品摂取の多様性の低下と認知機能との関係 第28回老年歯科医学会学術集会2017/06/14-16 名古屋
- 30) 森下志穂、渡邊裕、平野浩彦、枝広あや子、本川佳子、白部麻樹、村上正治、糸田昌隆、介護老人保健施設退所後の在宅療養継続に影響する因子の検討 第28回老年歯科医学会学術集会 2017/06/14-16 名古屋
- 31) 白部麻樹、平野浩彦、枝広あや子、小原由紀、

- 森下志穂, 本川佳子, 村上正治, 村上浩史, 高城大輔, 渡邊裕, アルツハイマー型認知症高齢者の嚥下機能低下に関連する予知因子の検討 第28回老年歯科医学会学術集会 2017/06/14-16 名古屋
- 32) 五十嵐憲太郎, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 梅木賢人, 伊藤誠康, 河相安彦, 小野高裕, 都市部在住高齢者のフレイルと口腔機能低下との関連に関する検討 第28回老年歯科医学会学術集会2017/06/14-16 名古屋
- (海外)
- 1) Jun Yasuda, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Ayako Edahiro, Maki Shirobe, Keiko Motokawa, Shuichi Awata. Role of the mini nutritional assessment-short form as a predictor for 30-month mortality in nursing home in Japan. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics. 2017/7/23-27 San Francisco, California.
- 2) Yutaka Watanabe, Hidenori Arai, Hirohiko Hirano, Yuki Ohara, Ayako Edahiro, Hiroyuki Shimada, Takeshi Kikutani, Takao Suzuki. Identifying oral function as an indexing parameter for detection of Mild Cognitive Impairment in elderly people. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics 2017/7/23-27 San Francisco, California.
- 3) Maki Shirobe, Rena Nakayama, Yuki Ohara, Endo Keiko, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Chiyoko Hakuta. Effect of the Professional Oral Health Care Including Removal of Body Hypersensitivity among Older People Requiring Long-term Care. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics 2017/7/23-27 San Francisco, California.
- 4) Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Masaharu Murakami, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Maki Shirobe, Jun Yasuda. Relationship Between Sarcopenia and Chewing Ability in Japanese Community-Dwelling Elderly. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics 2017/7/23-27 San Francisco, California.
- 5) Ayako Edahiro, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Yuki Ohara, Keiko Motokawa, Maki Shirobe, Jun Yasuda. Eating Dysfunction Accompanying Deterioration of AD on the Basis of Functional Assessment Staging. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics 2017/7/23-27 San Francisco, California.
- 6) Motokawa, Ayako Edahiro, Maki Shirobe, Jun Yasuda, Hirohiko Hirano, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Yutaka Watanabe, Relationship Between Frailty and Dietary Among Older Adults. Keiko The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics 2017/7/23-27 San Francisco, California.
- 7) Hirano Hirohiko, Symposium: Oral Frailty, Oral Frailty Concept, 3RD ASIAN CONFERENCE FOR FRAILTY AND SARCOPENIA, 2017/28/10, Korea
- (1) 原著
- 1) Takagi D, Watanabe Y, Edahiro A, Ohara Y, Murakami M, Murakami K, Hironaka S, Taniguchi Y, Kitamura A, Shinkai S, Hirano H. Factors affecting masticatory function of community-dwelling older people: Investigation of the differences in the relevant factors for subjective and objective assessment. Gerodontology 2017/9
- 2) Ohara Y, Yoshida N, Kawai H, Obuchi S, Yoshida H, Mataka S, Hirano H, Watanabe Y. Development of an oral health-related self-efficacy scale for use with older adults. Geriatr Gerontol Int. 2017/10
- 3) Tokudome Y, Okumura K, Kumagai Y, Hirano H, Kim H, Morishita S, Watanabe Y. Development of the Japanese version of the Council on Nutrition Appetite Questionnaire and its simplified versions, and evaluation of their reliability, validity, and reproducibility. J Epidemiol. 2017/11
- 4) Tanaka T, Takahashi K, Hirano H, Kikutani T, Watanabe Y, Ohara Y, Furuya H, Tsuji T, Akishita M, Iijima K. Oral Frailty as a Risk Factor for Physical Frailty and Mortality in Community-Dwelling Elderly. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2017/11
- 5) Horibe Y, Watanabe Y, Hirano H, Edahiro A, Ishizaki K, Ueda T, Sakurai K, Relationship between Masticatory Function and Frailty in Community-Dwelling Japanese Elderly. Aging Clin Exp Res 2017/12
- 6) Motokawa K, Watanabe Y, Edahiro A, Shirobe M, Murakami M, Kera T, Kawai H, Obuchi S, Fujiwara Y, Ihara K, Hirano H, Frailty severity and dietary variety in Japanese older persons:

A cross-sectional study Journal of Nutritional Health and Aging 2018/3

- 7) Watanabe Y, Arai H, Hirano H, Morishita S, Ohara Y, Edahiro A, Murakami M, Shimada H, Kikutani T, Suzuki T, Oral function as an indexing parameter for mild cognitive impairment in elderly people Geriatr Gerontol Int. 2018/1
 - 8) Kera T, Kawai H, Hirano H, Kojima M, Watanabe Y, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S, Comparison of body composition and physical and cognitive function between older Japanese adults with no diabetes, prediabetes and diabetes: A cross-sectional study in community-dwelling Japanese older people Geriatr Gerontol Int 2018/3
 - 9) 金憲経, 小島 成実, 金美芝, 吉田祐子, 平野浩彦, 吉田英世, 地域在住高齢者における要介護状態と関連する要因の検討, 板橋区医師会医学学会誌(1342-9795)19巻 Page185-187(2015.03)
 - 10) 小山照幸, 大淵修一, 河合恒, 藤原佳典, 吉田英世, 平野浩彦, 荒木厚, 杉江正光, 小島基永, 中田晴美, 鈴木隆雄都市在住高齢者の受療行動について, 板橋区医師会医学学会誌(1342-9795)20巻 Page239-242(2016.03)
 - 11) 橋本和明, 竹内武昭, 中村祐三, 井原一成, 大淵修一, 平野浩彦, 藤原佳典, 河合恒, 小島基永, 端詰勝敬
都市部高齢者の不眠症状とその関連因子
不眠研究(1881-4468)2017巻 Page19-23(2017.10)
 - 12) 白部麻樹, 中山玲奈, 平野浩彦, 小原由紀, 遠藤圭子, 渡邊裕, 白田千代子,
 - 13) 顔面および口腔内の過敏症状を有する要介護高齢者の口腔機能および栄養状態に関する実態調査. 日本公衆誌 2017/7
 - 14) 森下志穂, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 小原由紀, 後藤百合, 柴田雅子, 長尾志保, 三角洋美, 通所介護事業所利用者に対する口腔機能向上および栄養改善の複合サービスの長期介入効果. 日衛学誌 2017/8
 - 15) 本川佳子, 田中弥生, 菅洋子, 細山田洋子, 枝広あや子, 平野浩彦, 渡邊裕, 認知症グループホームにおける認知症重症度と栄養状態の関連. 日本在宅栄養管理学会誌 2017/10
- (2) 総説
- 1) Ohara Y, Yoshida N, Kawai H, Obuchi S, Mataka S, Hirano H, Watanabe Y. Response to comments on: Development of an oral health-related self-efficacy scale for use with older adults. Geriatr Gerontol Int. 2018/3
 - 2) 森美由紀「臨床栄養 第130巻 第4号」2017年4月1日発行 医歯薬出版株式会社 歯と口をもっと知ろう！ - 栄養から歯科につなぐための基礎知識 口の粘膜疾患の基礎知識
 - 3) 森美由紀「PROGRESS IN MEDICINE 2017 10月号」第37巻第10号2017年10月10日発行 特集 歯科との連携をどうする - 高齢者の生活をさせるために - 6. 骨粗鬆症治療を円滑に進めるための歯科治療
 - 4) 森美由紀, 看護技術 2017VOL.63.No.14メヂカルフレンド社 第1特集 周術期のオーラルマネジメント Part3周術期オーラルマネジメントの実際③心臓外科手術を受ける患者
 - 5) 宮崎秀夫, 森田学, 深井稜博, 安藤雄一, 眞木吉信, 村上伸也, 桃井保子, 平野浩彦, 相田潤, 葭原明弘, 山賀孝之, 町田 達哉, 多田紗弥夏, 内藤徹, 伊藤加代子, 花田信弘, 野村義明, 高齢者のオーラルセルフケアに関する学会提言 2017年2月28日一般社団法人日本口腔衛生学会, 高齢者のオーラルセルフケア検討委員, 口腔衛生学会雑誌(0023-2831)67巻2号 Page94-117(2017.04)
 - 6) 平野浩彦【認知症と栄養-基礎知識から栄養管理の実践、予防まで】 認知症の口腔ケア、臨床栄養(0485-1412)131巻1号 Page43-50(2017.07)
 - 7) 平野浩彦【高齢者のフレイル対策】 いまなぜオーラルフレイルが注目されるのか：地域保健(2424-0826)48巻4号 Page28-31(2017.07)
 - 8) 平野浩彦, 枝広あや子, 歯科医師の認知症対応力向上に向けて 最近の認知症を取り巻く動向、日本歯科医師会雑誌(0047-1763)70巻4号 Page305-314(2017.07)
 - 9) 平野浩彦 今日からできる認知症の予防 口から見える認知症、板橋区医師会医学学会誌(1342-9795)19巻 Page93-100(2015.03)
 - 10) 平野浩彦【認知症と歯科医療】 認知症の口を支える基礎知識、日本口腔インプラント学会誌(0914-6695)30巻4号 Page235-244(2017.12)
 - 11) 伊東美緒, 平野浩彦, 高城大輔, 【認知症患者さんを不安にさせない対応をユマニチュードに学ぶ! 歯科でよくある“困った”場面でどう振る舞う?】 歯科衛生士(0911-9574)42巻1号 Page44-58(2018.01)
 - 12) 平野浩彦, いまなぜオーラルフレイルが注目されるのか、保健つるみ(0913-9281)41号 Page3-5(2018.03)

(3) 著書等

- 1) 平野浩彦 (編) オーラルフレイルQ&A ー口からはじまる健康長寿 患者さんへの“ベストアンサー”、医学情報社 (2017/12/1)
- 2) 平野浩彦 (共著) よくわかる高齢者歯科学 永末書店 (2018/1/30)
- 3) 平野浩彦 (共著) 疾患を有する高齢者の口腔健康管理 口腔保健協会 (2017/8/1)

●テレビ・新聞

- 1) 平野浩彦 口の機能低下オーラルフレイル 50代から顔の筋トレ 滑舌・食べこぼし…高齢者ご注意 「歯科で定期チェックを」2017/11/2付 日本経済新聞 夕刊
- 2) 平野浩彦 「口の周りにご飯粒」 それでも気にならない人の末路 日経スタイル 2017/11/18
- 3) 平野浩彦 広がるオーラルフレイル かむ力の低下は衰えのサイン 朝日新聞 2018年1月10日
- 4) 平野浩彦 主治医が見つかる診療所[口の中を鍛えて健康に！若々しくなる(秘)テク大公開](テレビ東京) 2018年 2月1日
- 5) 平野浩彦 ニュース シブ5時(NHK総合) 2018年3月30日(金) 16:50~18:00

●研修会、大学講義など

- 1) 平野浩彦 今なぜオーラルフレイルが注目されるのか、東京都歯科衛生士会研修会、2017年4月9日、東京
- 2) 平野浩彦 認知所の人の口を支えるために、浜松医療センター研修会、2017年5月18日、浜松
- 3) 平野浩彦 高齢者歯科学、日本大学松戸歯学部講義、2017年6月27日、松戸
- 4) 平野浩彦 東京歯科大学衛生士専門学校同窓会研修会、認知症の人の口を支える基礎知識、2107年7月2日、東京
- 5) 平野浩彦 認知症の口を支える基礎知識、東京医科歯科大学口腔保健学部講義、2017年7月10日、東京
- 6) 平野浩彦 今なぜオーラルフレイルが注目されるのか、ハイジア研修会、2017年7月16日、博多
- 7) 平野浩彦 認知症の人の食を支える基礎知識、在宅歯科医療連携室研修会上越歯科医師会、2017年8月5日、上越市
- 8) 平野浩彦 高齢者口腔保健の新しい視点：オーラルフレイルーいまなぜフレイルが注目されるのかー日大松戸歯学部同窓会研修会、2017年9月2日、東京

- 9) 平野浩彦 認知症の食を支える視点、九州歯科大学大学院講義、2017年9月22日、小倉
- 10) 平野浩彦 認知症対応力向上研修会、神奈川県歯科医師会研修会、2017年9月24日、横浜
- 11) 平野浩彦 東京都福祉保健局栄養士研修会、2017年9月25日、東京
- 12) 平野浩彦 認知症対応力向上研修会、福岡県歯科医師会、2017年10月1日、博多
- 13) 平野浩彦 認知症の口を支える視点、北、滝野川歯科医師会研修会、2017年10月18日、東京
- 14) 平野浩彦 認知症の人の口を支える基礎知識第84回「調布在宅ケアの輪」定例会、2017年11月9日、東京
- 15) 平野浩彦 オーラルフレイルとは：老年学の視点から、文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム(健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成)選定事業「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」ー死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築ー平成29年度 連携シンポジウム、2017年11月11日、札幌
- 16) 平野浩彦 いまなぜオーラルフレイルが注目されるのかーこれからの臨床に役立つ知識を理解しようー、東京デンタルショー、2017年11月12日、東京
- 17) 平野浩彦 オーラルフレイル、東京大学IOG大学院講義、2017年11月14日、東京
- 18) 平野浩彦 認知症の方の口を支える基礎知識、第17回日本訪問歯科医学会、2017年11月12日、東京
- 19) 平野浩彦 オーラルフレイル予防、ささいな口のトラブルを見逃すな！、文京区介護予防研修会、2017年11月20日、東京
- 20) 平野浩彦 フレイル・オーラルフレイル、平成29年度神奈川県歯科医師会在宅歯科医療推進研修会、2017年11月26日、横浜
- 21) 平野浩彦 歯科医師のための認知症対応力向上研修、東京都歯科医師会、2017年11月27日、東京
- 22) 平野浩彦 認知症の口を支える基礎知識、小金井三師会学術講演会、2017年11月29日、東京
- 23) 平野浩彦 いまなぜオーラルフレイルが注目されるのか、鶴見大学短期大学部歯科衛生科保健学会、2017年12月2日、鶴見
- 24) 平野浩彦 歯科医師のための認知症対応力向上研修、茨城県歯科医師会、2017年12月17日、水戸
- 25) 平野浩彦 認知症の口を支える基礎知識、駒込病院NST研修会、2017年12月20日、東京
- 26) 平野浩彦 いまなぜオーラルフレイルが注目

されるのか、健康サポート薬局研修会、2018年1月10日、東京

- 27) 平野浩彦 認知症の人の食を支える基礎知識、日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座研修会、2018年1月12日、松戸
- 28) 平野浩彦 高齢者の口腔機能を支える新たな視点オーラルフレイル、徳島県歯科医師会研修会、2018年1月14日、徳島市
- 29) 平野浩彦 歯科医師の認知症対応力向上研修、福岡県歯科医師会、2018年1月21日、福岡県歯科医師会、小倉市
- 30) 平野浩彦 オーラルフレイル、統合医療ウィンターセミナー、2018年2月3日、東京
- 31) 平野浩彦 歯科医師の認知症対応力向上研修、相模原歯科医師会、2018年2月3日、相模原市
- 32) 平野浩彦 いまなぜオーラルフレイルが注目されるのか、口腔ケア研修会、秋田県歯科医師会、2018年2月4日、秋田市
- 33) 平野浩彦 認知症の人の食を支える基礎知識、海老名市歯科医師会、2018年2月10日、海老名市
- 34) 平野浩彦 認知症と歯科治療、東京歯科衛生士部会研修会、2018年2月18日、東京
- 35) 平野浩彦 認知症の口を支える基礎知識、平成29年度第2回介護認定審査会委員研修会、愛知県歯科医師会、2018年2月25日、名古屋市
- 36) 平野浩彦 歯科医師の認知症対応力向上研修、富山県歯科医師会、2018年3月4日、富山市
- 37) 平野浩彦 オーラルフレイル、高齢者歯科口腔機能健診研修会、町田市保健所、2018年3月10日、町田市
- 38) 平野浩彦 認知所の人への食支援、摂食嚥下研修会、中野区医師会、2018年3月12日、東京
- 39) 平野浩彦 健康長寿への第一歩 オーラルフレイル予防とは、大宮歯科医師会 第2回公開市民公開講座、2018年3月18日、大宮市
- 40) 平野浩彦 オーラルフレイルの概念、口腔機能低下症をどう測る？、診療所で行う口腔機能向上研修会、横浜市歯科医師会、2018年3月18日、横浜

●研究事業

- 1) 平野浩彦 (主任) 平成28年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 長寿・障害総合研究事業 長寿科学研究開発事業、認知症高齢者に対する歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究
- 2) 平野浩彦 (主任) 平成28年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 基盤C、アルツハイマ

ー病およびレビー小体型認知症の摂食嚥下障害への対応に関する調査研究

麻酔科

●学会・研究会発表

1. 江口彩子、日下部良臣、朝元雅明、折井亮、山田芳嗣. 脳神経外科の坐位開頭手術において空気塞栓による透過性亢進型肺水腫を発生し循環動態悪化を来した症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部 第57回合同学術集会、東京都、2017.9
2. 五十嵐健史、廣瀬佳代、小倉信、山田芳嗣：神経性食思不振症に重症肝硬変を合併した患者に対し全身麻酔を行った1例. 日本臨床麻酔学会第37回大会. 東京都、2017.11.4
3. 今野元之、小倉信. 当院における超高齢者の消化器手術麻酔の検討. 第30回日本老年麻酔学会. 香川県、2018.2.11

●単行書・報告書

1. 小倉信：認知症・パーキンソン病. 新合併症患者の麻酔スタンダード 他科依頼にいかに応えるか. 武田純三編, 克誠堂出版, 東京, pp246-52, 2017
2. 小倉信：28. 泌尿器科手術の麻酔. 29. 高齢者に対する麻酔. MGH 麻酔の手引第7版. 稲田英一 監訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, pp 471-85, 2017.

リハビリテーション科

●雑誌論文

- 1) Uchino S, Kobayashi T, Kanemaru A, Akaboshi T, Kato T, Kanemaru K: Rhythmic training improves gait performance in patients with Parkinson's disease. Music Therapy Today MFMT Journal 13(1): 554-555, 2017.
- 2) 小山照幸、齊藤陽子、正田奈緒子、加藤貴行、金丸晶子、太田隆：当センターにおけるがんのリハビリテーション. 板橋区医師会医学会誌 Vol.21: 133-136, 2017
- 3) Yagi M, Yasunaga H, Matsui H, Fushimi K, Fujimoto M, Koyama T, Fujitani J: Impact of rehabilitation on outcomes in patients with ischemic stroke: A nationwide retrospective cohort study in Japan. Stroke 48(3):740-746, 2017.
- 4) Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi SP: Femoral muscle mass relates to

physical frailty components in community-dwelling older people. *Geriatr Gerontol Int.* 17(10):1636-1641, 2017.

- 5) Sugie M, Harada K, Takahashi T, Nara M, Ishikawa Joji, Koyama T: Relationship between skeletal muscle mass and cardiac function during exercise in community dwelling older adults. *ESC Heart Fail.* 4(4):409-416, 2017.

●総説

- 1) 府川則子, 金丸晶子: 高齢循環器疾患における栄養食事療法. *Heart View* 21(6):52-56, 2017.
- 2) 金丸晶子, 荒木厚: 高齢者内科疾患のリハビリテーション. *治療* 99(5):682-688, 2017.
- 3) 小山照幸: 心大血管術後の脊髄梗塞に対するリハビリテーション. *MB Medical Rehabilitation* 218: 54-60, 2018.

●学会・研究会発表

- 1) 小宮山潤, 山口真依, 樋口和奏, 渡邊敬幸, 藤本静香, 太田隆, 金丸晶子: 人工膝関節全置換術の退院時における転倒恐怖感と歩行評価指標との関連-3軸加速度を用いた検討-. 第52回日本理学療法学会大会 幕張 5月13日, 2017.
- 2) 加藤貴行, 正田奈緒子, 小山照幸, 金丸晶子: 健常地域高齢者に対する運動レクササイズは認知機能, 健康関連 QOLに影響を与えるか. 第54回リハビリテーション医学会 岡山 6月8日, 2017.
- 3) 小山照幸: 保険診療におけるリハビリテーション関連医療費の動向. 第54回日本リハビリテーション医学会 岡山 6月9日, 2017.
- 4) 小山照幸: リハビリテーション料届出医療機関数の動向. 第54回日本リハビリテーション医学会 岡山 6月9日, 2017.
- 5) 金丸晶子, 加藤貴行, 小山照幸, 正田奈緒子, 齋藤陽子: 急性期 TRAHAD (Team-Round Against Hospital-Associated Disability: 廃用防止ラウンド) 開始2年の効果. 第54回リハビリテーション医学会 岡山 6月10日, 2017.
- 6) 本田拓也, 金丸晶子, 加藤貴行, 太田隆, 菅原康宏, 河地由恵, 中嶋梨江, 生井瞳: MCIを対象としたリハビリテーションプログラムの検討. 第54回リハビリテーション医学会 岡山 6月10日, 2017.
- 7) 江渕貴裕, 金丸晶子, 奥野由佳, 太田隆: 急性期病院におけるリハラウンドが主治医のリハに対する意識に与える影響. 第54回リハビリテーション医学会 岡山 6月10日, 2017.

- 8) 加藤貴行, 金丸晶子, 菅原康宏, 河地由恵, 平岡共, 牧田彩加, 岩本美由紀: Amnestic MCIのMoCA-Jカットオフ. 第59回日本老年医学会学術集会 名古屋 6月15日, 2017.
- 9) 金丸晶子, 加藤貴行, 菅原康宏, 河地由恵, 平岡共, 本田拓也, 中嶋梨江, 板倉彩, 山崎律, 太田隆: 軽度認知機能障害 (MCI) に対するリハビリテーションプログラムの検証: その1. 第59回日本老年医学会学術集会 名古屋 6月15日, 2017.
- 10) 中嶋梨江, 金丸晶子, 加藤貴行, 菅原康宏, 河地由恵, 本田拓也, 板倉彩, 太田隆, 山崎律子: 認知機能維持・改善を意識した運動プログラムは地域高齢者に恩恵をもたらすか. 第59回日本老年医学会学術集会 名古屋 6月15日, 2017.
- 11) 金丸晶子, 引地和佳, 生井瞳, 笹原みさと, 幸田留美子, 府川則子: 経口摂取開始チャート導入の取り組みが何をもたらしたか. 第59回日本老年医学会学術集会 名古屋 6月16日, 2017.
- 12) 小山照幸: リハビリテーション関連医療費の動向. 第59回日本老年医学会学術集会 名古屋 6月16日, 2017.
- 13) 小山照幸: 介護保険におけるリハビリテーション関連給付費の変化. 第59回日本老年医学会学術集会 名古屋 6月16日, 2017.
- 14) Uchino S, Kobayashi T, Kanemaru A, Akaboshi T, Kato T, Kanemaru K: Effects of rhythmic music therapy on gait performance in Parkinson's disease patients. *The 15th World Congress of Music Therapy. Tsukuba (Japan).* July 5, 2017.
- 15) Kobayashi T, Akaboshi T, Kanemaru A, Ishii K, Kanemaru K: Effects of music therapy for mild cognitive impairment. *The 15th World Congress of Music Therapy. Tsukuba (Japan).* July 7, 2017.
- 16) 奈良毬那, 杉江正光, 高橋哲也, 小山照幸, 大淵修, 原田 和昌, 許俊鋭, 井藤英喜: 四肢骨格筋量の変化は性, 年齢, 疾患を問わず大腿骨格筋量の変化と関連する. 第23回日本心臓リハビリテーション学会 岐阜 7月15日, 2017.
- 17) 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 小山照幸, 大淵修一, 高橋哲也, 許俊鋭, 井藤英喜: フレイルサイクルにおける MaxVO2 とフレイル (サルコペニア・カヘキシア) 関連因子との関係. 第23回日本心臓リハビリテーション学会 岐阜 7月15日, 2017.
- 18) 小山照幸: 心大血管疾患リハビリテーション料届出医療機関数の動向. 第23回日本心臓リハビリテーション学会 岐阜 7月16日, 2017.

- 19) 八木麻衣子、康永秀生、松居宏樹、伏見清秀、藤本雅史、小山照幸、藤谷順子：慢性心不全急性増悪に対する早期リハビリテーションと歩行自立度の関連。第23回日本心臓リハビリテーション学会 岐阜 7月16日, 2017.
- 20) 小山照幸：心大血管疾患リハビリテーション料届出医療機関の動向。第23回日本心臓リハビリテーション学会 岐阜 7月16日, 2017.
- 21) 小山照幸：診療報酬からみた心臓リハビリテーションの普及について。第23回日本心臓リハビリテーション学会 岐阜 7月16日, 2017.
- 22) Kanemaru A, Kato T, Sugawara Y, Kawaji Y, Hiraoka T, Honda T, Nakajima R, Makita A, Itakura A, Yamazaki R, Ota T, Kanemaru K: An Intervention Study of Rehabilitation Program Using Physical and Cognitive RecExercise for Mild Cognitive Impairment. AAIC17. London. July 16, 2017.
- 23) Kanemaru K, Kanemaru A, Nishina Y, Sengoku R, Murayama S, Tokumaru A: Relationship Between Cerebral Amyloid Angiopathy and CSF Biomarkers in Alzheimer's Disease. AAIC17. London. July 17, 2017.
- 24) 小山照幸、杉江正光、原田和昌、奈良毬那、高橋哲也：当センターにおける高齢者に対する運動療法の効果について－認知機能の変化－。第22回板橋区医師会医学会 東京 9月2日, 2017.
- 25) 田中春奈、西山千香子、加藤茉由子、齋藤尚子、植村ほのか、加藤貴行、金丸晶子：脳血管障害急性期に嚥下障害を呈する高齢者の実態。第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会。幕張 9月15日, 2017.
- 26) Nishiyama C, Kato M, Saito N, Tanaka H, Uemura H, Kato T, Kanemaru A: The results of needs assessment questionnaire for the family members of persons with primary progressive aphasia. Asia Pacific Conference of Speech, Language and Hearing. Narita, Sep 17, 2017.
- 27) Kanemaru A, Kato T, Sugawara Y, Kawaji Y, Hiraoka T, Honda T, Nagajima R, Makita A, Itakura A, Yamazaki R, Ota T: The effects of the intervention using physical exercise and cognitive training on the mental status of the elderly with mild cognitive impairment or mild dementia. XXIII WCN Kyoto. Sep 19, 2017.
- 28) Kato T, Kanemaru A, Sugawara Y, Kawaji Y, Hiraoka T, Honda T, Nagajima R, Makita A, Itakura A, Yamazaki R, Ota T: A combination intervention (cognitive training and physical exercise) could improve or maintain cognitive function in MCI subjects. XXIII WCN Kyoto. Sep 19, 2017.
- 29) 奥野由佳、江淵貴裕、秋元美穂、太田隆、金丸晶子：急性期廃用ラウンドが病棟看護師に与える影響。第51回日本作業療法士学会 東京 9月22日, 2017.
- 30) 板倉彩：A型ボツリヌス治療にカナダ作業遂行測定を取り入れた試み－主体的な治療参加を目指して－。第51回日本作業療法士学会 東京 9月23日, 2017.
- 31) 江淵貴裕、金丸晶子、小山照幸、石井正晃、太田隆：理学療法中に急変した体外設置型左室補助人工心臓装着症例。第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会 長野 9月23日, 2017.
- 32) 木村和哉、小田部夏子、糸数昌史、青木恭太、原田浩司：運動覚心像の形成に困難さを持つ読み書き障害児の関節位置覚の精査。第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会 長野 9月24日, 2017.
- 33) 工藤卓人、江淵貴裕、金丸晶子、正田奈緒子、太田隆：人工膝関節周囲骨折後のリハビリテーション。第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会。長野, 9月24日, 2017.
- 34) 齊藤陽子、正田奈緒子、全秀剛、小山照幸、加藤貴行、金丸晶子：装具療法と生活指導を行ったポストポリオ症候群(PPS)の一例。第67回日本リハビリテーション医学会関東地方会 東京 9月30日, 2017.
- 35) 小山照幸、齊藤陽子、正田奈緒子、全秀剛、加藤貴行、金丸晶子：維持血液透析を行っている高齢ポストポリオ症候群による対麻痺患者に対する大動脈弁置換術後のリハビリテーションの経験。第67回日本リハ医学会関東地方会 東京 9月30日, 2017.
- 36) 小山照幸：病院勤務療法士数の現状－リハビリテーションは足りているのか－。第56回全国自治体病院学会 幕張 10月19日, 2017.
- 37) 齊藤陽子、正田奈緒子、小山照幸、加藤貴行、金丸晶子：複合局所疼痛症候群(CRPS)I型の3例に対する多角的アプローチ。第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 大阪 10月28日, 2017.
- 38) 正田奈緒子、全秀剛、齊藤陽子、小山照幸、加藤貴行、金丸晶子：人工膝関節全置換術と短下肢装具の併用が歩行能力改善に有効であった視床出血後の不安定膝の1例。第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 大阪 10月29日, 2017.

- 39) 田中春奈, 齋藤尚子, 西山千香子, 加藤茉由子, 植村ほのか, 加藤貴行, 金丸晶子: アルツハイマー病または前頭側頭葉変性症による進行性失語例の発話の誤り方. 第36回日本認知症学会学術集会 金沢 11月24日, 2017.
- 40) 牧田彩加, 金丸晶子, 加藤孝行, 平岡共, 菅原康宏: 軽度認知機能障害に対する認知リハビリテーション教材『わくわくホームワーク』製作の試み. 第20回日本老年行動科学会 東京 11月26日, 2017.
- 41) 田中春奈, 吉野真理子: 急性期脳損傷者のコミュニケーション障害の特徴 - 会話分析を用いた検討 -. 第41回日本高次脳機能障害学会学術総会. 大宮 12月15日, 2017.
- 42) 西山千香子, 田中春奈, 植村ほのか, 加藤茉由子, 齋藤尚子, 森寛子, 加藤貴行, 金丸晶子: Progressive Aphasia Severity Scale (PASS) 日本語版作成のためのパイロット研究. 第41回日本高次脳機能障害学会学術総会. 大宮 12月15日, 2017.
- 43) 河地由恵, 中島恵子, 加藤茉由子, 奥野由佳, 正田奈緒子: 定年間近に脳梗塞を発症し、職場復帰を目指した症例の急性期病院における認知リハビリテーションの経過報告. 第41回日本高次脳機能障害学会学術総会 大宮 12月16日, 2017.
- 44) 小山照幸: 平成28年度診療報酬改定後のリハビリテーション関連医療費の動向. 第68回日本リハビリテーション医学会関東地方会 東京 2月4日, 2018.
- 45) 齊藤陽子, 正田奈緒子, 全秀剛, 小山照幸, 加藤貴行, 金丸晶子: ポストポリオ症候群(PPS)の一例. 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会板橋, 3月3日, 2018.
- 46) 全秀剛, 穴水依人, 大和志匡, 時村文秋, 広吉祐子, 齊藤陽子, 正田奈緒子, 加藤貴行, 小山照幸, 金丸晶子: 片麻痺で発症し脳梗塞が疑われた、頸髄の急性硬膜外血腫の一例. 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会 板橋, 3月3日, 2018.
- 47) 小山照幸: 人工腎臓慢性維持透析の医療費. 第8回日本腎臓リハビリテーション学会 仙台 3月17日, 2018.
- 講師等院外活動(講演・放送等)
- 1) 菅原康宏:(講演)～エール、中学生に向けて～(震災支援). 鹿折中学校開校記念講演会 宮城, 4月17日, 2017.
- 2) 樋口和奏:(講演)「ころぶんすなよ 海潮音体操～あんだもはまらいん～」. 介護予防大作戦 in 気仙沼, 気仙沼, 6月23日, 2017.
- 3) 樋口和奏:(講演)「ころぶんすなよ 海潮音体操～あんだもはまらいん～」. 出前健康相談会 気仙沼, 6月24日, 2017
- 4) 小山照幸:(講演) 周術期患者 (ICUでのリハ含む) に対するリハビリテーション. 急性期病棟におけるリハビリテーション医師研修会 日本リハビリテーション医学会主催 東京, 7月2日, 2017.
- 5) 齋藤尚子, 西山千香子: 平成29年度板橋区失語症会話パートナー養成入門講座. 板橋区おとしより保健福祉センター. 板橋区, 9月12・19日, 10月3日, 11月28日, 2017.
- 6) 河地由恵: 高次脳機能障害とリハビリテーション. 読売理工医療福祉専門学校 東京, 9月7日, 2017.
- 7) 金丸晶子:(講演)「古い」と向き合う ～フレイルとは～. 2017年度 第2回福寿荘介護予防啓発講座 フレイル予防大作戦 in 気仙沼. 気仙沼, 10月20日, 2017.
- 8) 牧田彩加:(実技指導1) 認知トレーニング体験講座～注意と記憶～. 2017年度 第2回福寿荘介護予防啓発講座 フレイル予防大作戦 in 気仙沼. 気仙沼, 10月20日, 2017.
- 9) 加藤貴行:(実技指導1) 運動レクササイズ(頭を使う体操). 2017年度 第2回福寿荘介護予防啓発講座 フレイル予防大作戦 in 気仙沼. 気仙沼, 10月20日, 2017.
- 10) 菅原康宏:(企画コーディネーター) 2017年度 第2回 福寿荘介護予防啓発講座: フレイル予防大作戦 in 気仙沼. 気仙沼, 10月20日, 2017.
- 11) 加藤貴行: 脳神経の基礎. 気仙沼市医師会附属高等看護学校・准看護学校講義 気仙沼支援・医療・福祉関係5団体/東京都健康長寿医療センター研究所協力 気仙沼, 10月20・21日, 2017.
- 12) 小山照幸:(講演) 急性期病院から在宅でのリハ連携. 豊島区, 11月2日, 2017
- 13) 菅原康宏: 発達障害? それとも個性? ちょっと気になるグレーゾーンの子どもたち. 保育系職員専門研修(気仙沼市保健福祉部子ども家庭課主催) 宮城, 11月4日, 2017
- 14) 菅原康宏: 気になる子をもつ保護者との懇談会・研修会. マザーズホーム専門研修(気仙沼市社会福祉協議会・マザーズホーム/気仙沼市社会福祉協議会共催) 宮城, 11月4日, 2017.
- 15) 金丸晶子:(講演) 糖尿病とフレイル. 第5回共助会医院糖尿病教室. 板橋, 11月11日, 2017.
- 16) 江淵貴裕:(講演) 糖尿病におけるフレイルの予防. 第5回共助会医院糖尿病教室. 板橋, 11月11日, 2017.

- 17) 金丸晶子：(講演) 無理なく、楽しく！認知症状の進行予防～頭の体操・身体の運動～. 第2回「認知症を予防する生活習慣と運動」 東京都健康長寿医療センター・ベネッセスタイルケア 3回シリーズ共催セミナー 板橋, 11月12日, 2017.
- 18) 菅原康宏：健康講話とリハビリ・健康相談. お達者出前講座 in 陸前高田(生出地区コミュニティ推進協議会主催) 宮城, 11月18日, 2017.
- 19) 小山照幸：(講演) がんのリハビリテーションの概要. 第4回がんのリハビリテーション研修会 東京都港区がんのリハビリテーション研修会主催 東京, 12月2日, 2017.
- 20) 菅原康宏：(司会・進行および助言) 保育園(所)や幼稚園での発達障害児ケア～何を目的にすべきか～. 第2回発達障害児ケア スキルアップ研修 主催：気仙沼支援 医療・福祉関係5団体、特定非営利活動法人CEセンター 気仙沼, 2月3日, 2018.
- 21) 金丸晶子：(講演) ミニ講座～毎日楽しくリハビリテーション～. 施設利用者との交流会(「心身レクササイズ」体験講座) 主催：「気仙沼支援・医療・福祉関係5団体」、東京都健康長寿医療センターリハビリ科 気仙沼, 2月4日, 2018.
- 22) 菅原康宏：(実技指導) 認知トレーニング体験講座～みかんの皮むきアート～. 施設利用者との交流会(「心身レクササイズ」体験講座) 主催：「気仙沼支援・医療・福祉関係5団体」、東京都健康長寿医療センターリハビリ科(お手伝い；センター薬剤科瀧澤・栄養科荒巻) 気仙沼, 2月4日, 2018.
- 23) 小山照幸：(講演) 心臓リハビリテーション. 病態別リハビリテーション 日本リハビリテーション医学会主催東京, 2月17日, 2018.

●単行書・報告書

- 1) 加藤貴行：5事故予防 3誤嚥、窒息を防ごう 1) 誤嚥、窒息の現状と課題. 健康長寿新ガイドライン エビデンスブック, 東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会(編・著), 東京都健康長寿医療センター研究所, 東京, pp55-57, 2017.
- 2) 金丸晶子：Chap4 Section2 各病棟での認知症ケアの実践. 実践の知恵“その人を見て”適切なリハビリ・ケアの提案につなげる. 認知症の人の「想い」からつくるケア 急性期編, 井藤英喜監修, 東京都健康長寿医療センター看護部伊東美緒・木村陽子編, インターメディカ, 東京, pp126-127, 2017.
- 3) 熊木陽平：Chap4 Section2 各病棟での認知症

ケアの実践. 実践の知恵 リハビリテーションにポジティブに取り組める工夫をする. 認知症の人の「想い」からつくるケア 急性期編, 井藤英喜監修, 東京都健康長寿医療センター看護部伊東美緒・木村陽子編, インターメディカ, 東京, pp128-129, 2017.

- 4) 菅原康宏：(集委員の一人) 復興を見つめて-東京都健康長寿医療センター東日本大震災被災者支援プロジェクト7年半の取り組み. 東京都健康長寿医療センター編, 東京法規出版, 東京, 3月19日, 2018.

リハビリテーション科 (理学療法担当)

●学会発表

1. 木村和哉、小田部夏子、糸数昌史、青木恭太、原田浩司：運動覚心像の形成に困難さを持つ読み書き障害児の関節位置覚の精査、第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会、長野、9月24日、2017
2. 江淵貴裕、金丸晶子、奥野由佳、太田隆：急性期病院におけるリハラウンドが主治医のリハに対する意識に与える影響. 第54回日本リハビリテーション医学会学術集会. 岡山, 6月10日, 2017.
3. 江淵貴裕、金丸晶子、小山照幸、石井正晃、太田隆：理学療法中に急変した体外設置型左室補助人工心臓装着症例. 第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 長野, 9月23日, 2017.
4. 小宮山潤、山口真依、樋口和奏、渡邊敬幸、藤本静香、太田隆、金丸晶子：人工膝関節全置換術の退院時における転倒恐怖感と歩行評価指標との関連
- 3軸加速度を用いた検討 -. 第52回日本理学療法学会学術大会, 千葉, 5月13日, 2017.
5. 工藤卓人、江淵貴裕、金丸晶子、正田奈緒子、太田隆：人工膝関節周囲骨折後のリハビリテーション. 第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 長野, 9月24日, 2017.

●講演

1. 江淵貴裕：糖尿病におけるフレイルの予防. 共助会医院糖尿病教室. 板橋, 11月11日, 2017.
2. 樋口奏：講演会「ころぶんすなよ 海潮音体操～あんだもはまらいん～」, 介護予防大作戦in 気仙沼, 気仙沼, 6月23日, 2017
3. 樋口奏：講演会「ころぶんすなよ 海潮音体操～あんだもはまらいん～」, 出前健康相談会, 気仙沼, 6月24日, 2017
4. 篠山絵里奈：講義「治療論II 理学療法」, 板橋

看護専門学校, 5月31日・6月7日, 2017

5. 篠山絵里奈: 講演会「生活習慣病と運動 ~今日から運動! 明日のために~」, 出前健康相談会, 気仙沼, 8月26日, 2017

リハビリテーション科 (作業療法担当)

●学会・研究会発表

1. 本田拓也, 金丸晶子, 加藤貴行, 太田隆, 菅原康宏, 河地由恵, 中嶋梨江, 生井瞳: MCIを対象としたリハビリテーションプログラムの検討. 第54回リハビリテーション医学会学術集会, 岡山, 6月10日, 2017
2. 板倉彩, 熊木陽平, 寺澤泉, 正田奈緒子, 齊藤陽子, 金丸昌子: A型ボツリヌス治療にカナダ作業遂行測定を取り入れた試み - 主体的な治療参加を目指して - 第51回日本作業療法士学会. 東京, 9月23日, 2017
3. 奥野由佳, 江淵貴裕, 秋元美穂, 太田隆, 金丸昌子: 急性期廃用ラウンドが病棟看護師に与える影響. 第51回日本作業療法士学会. 東京, 9月22日, 2017

●講師等院外活動 (講演・放送等)

1. 高橋佳子: 治療論II (作業療法). 板橋看護専門学校. 6月14日, 2017

リハビリテーション科 (言語聴覚担当)

●学会発表

1. 田中春奈, 西山千香子, 加藤茉由子, 齋藤尚子, 植村ほのか, 加藤貴行, 金丸晶子: 脳血管障害急性期に嚥下障害を呈する高齢者の実態. 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会. 千葉, 9月15日, 2017.
2. 西山千香子, 加藤茉由子, 齋藤尚子, 田中春奈, 植村ほのか, 加藤貴行, 金丸晶子: The results of needs assessment questionnaire for the family members of persons with primary progressive aphasia. Asia Pacific Conference of Speech, Language and Hearing. 千葉, 9月17日, 2017.
3. 田中春奈, 西山千香子, 加藤茉由子, 齋藤尚子, 植村ほのか, 加藤貴行, 金丸晶子: アルツハイマー病または前頭側頭葉変性症における進行性失語の発語の誤り方. 第36回日本認知症学会学術集会. 石川, 11月24日, 2017.
4. 田中春奈, 吉野眞理子 (筑波大学人間系): 急性期脳損傷者のコミュニケーション障害の特徴 - 会話分析を用いた検討 -. 第41回日本高次脳

機能障害学会学術総会. 埼玉, 12月15日, 2017.

5. 西山千香子, 田中春奈, 植村ほのか, 加藤茉由子, 齋藤尚子, 森寛子, 加藤貴行, 金丸晶子: Progressive Aphasia Severity Scale (PASS) 日本語版作成のためのパイロット研究. 第41回日本高次脳機能障害学会学術総会. 埼玉, 12月15日, 2017.

リハビリテーション科 (臨床心理担当)

●学会・研究会発表

1. 牧田彩加, 金丸晶子, 加藤貴行, 平岡共, 菅原康宏: 「軽度認知機能障害に対する 認知リハビリテーション教材『わくわくホームワーク』製作の試み」. 日本老年行動科学会. 東京, 11月26日, 2017. (口頭発表)
2. 河地由恵, 中島恵子, 加藤茉由子, 奥野由佳, 正田奈緒子: 「定年間近に脳梗塞を発症し、職場復帰を目指した症例の急性期病院における認知リハビリテーションの経過報告」. 日本高次脳機能障害学会. 埼玉, 12月16日, 2017. (ポスター発表)

●講師等院外活動 (講演・放送等)

1. 菅原康宏: (講演) 「開校記念講話 (震災支援) ~エール、中学生に向けて~」. 鹿折中学校開校記念講演会. 宮城, 4月14日, 2017.
2. 牧田彩加: (ミニ講座) 「脳も! 体も! 心身レクササイズ」. 東京都健康長寿医療センター・健康長寿リハビリテーション講演会. 東京, 7月29日, 2017.
3. 河地由恵: (講演) 「高次脳機能障害とリハビリテーション」. 読売理工医療福祉専門学校. 東京, 9月7日, 2017.
4. 牧田彩加: (講演) 実技指導①: 「心と頭のストレッチ~認知トレーニング体験講座~」. 福寿荘介護予防啓発講座. 宮城, 10月20日, 2017.
5. 菅原康宏: (総合司会・コメンテーター) 「気になる子をもつ保護者との懇談会・研修会」. マザーズホーム専門研修. 宮城, 11月4日, 2017.
6. 菅原康宏: (総合司会・コメンテーター) 「発達障害? それとも個性? ちょっと気になるグレーゾーンの子どもたち」. 保育系職員専門研修. 宮城, 11月4日, 2017.
7. 菅原康宏: (総合司会・心理相談) 「健康講話とリハビリ・健康相談」. お達者出前講座in陸前高田. 岩手, 11月18日, 2017.
8. 菅原康宏: (ミニ講座) 「認知トレーニング体験講座~みかんの皮むきアート~」. 施設利用者との交流会 (「心身レクササイズ」体験講座).

宮城, 2月4日, 2018.

●単行書・報告書

- 菅原康宏 (編集委員として参画) : 「復興を見つめて - 東京都健康長寿医療センター東日本大震災被災者支援プロジェクト5年半の取り組み」, 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター (編), 東京法規出版, 東京, 2018.

放射線診断科

●雑誌論文

- 1) Tamura Y, Kimbara Y, Yamaoka T, Sato K, Tsuboi Y, Kodera R, Chiba Y, Mori S, Fujiwara Y, Tokumaru AM, Ito H, Sakurai T, Araki A, White Matter Hyperintensity in Elderly Patients with Diabetes Mellitus Is Associated with Cognitive Impairment, Functional Disability, and a High Glycoalbumin/Glycohemoglobin Ratio, *Front Aging Neurosci.* 2017 Jul 6;9:220. doi: 10.3389/fnagi.2017.00220. eCollection 2017.
- 2) Sakurai K, Kanoto M, Nakagawa M, Shimohira M, Tokumaru AM, Kameyama M, Shimoji K, Morimoto S, Matsukawa N, Nishio M, Shibamoto Y, Dinosaur Tail Sign: A Useful Spinal MRI Finding Indicative of Cerebrospinal Fluid Leakage, *Headache.* 2017 Jun;57(6):917-925. doi: 10.1111/head.13075. Epub 2017 Apr 16.
- 3) Sakurai K, Tokumaru AM, Shimoji K, Murayama S, Kanemaru K, Morimoto S, Aiba I, Nakagawa M, Ozawa Y, Shimohira M, Matsukawa N, Hashizume Y, Shibamoto Y, Beyond the midbrain atrophy: wide spectrum of structural MRI finding in cases of pathologically proven progressive supranuclear palsy, *Neuroradiology.* 2017 May;59(5):431-443. doi: 10.1007/s00234-017-1812-4. Epub 2017 Apr 6. Review
- 4) Morimoto S, Hatsuta H, Komiya T, Kanemaru K, Tokumaru AM, Murayama S, Simultaneous skin-nerve-muscle biopsy and abnormal mitochondrial inclusions in intranuclear hyaline inclusion body disease, *J Neurol Sci.* 2017 Jan 15;372:447-449. doi: 10.1016/j.jns.2016.10.042. Epub 2016 Oct 27. No abstract available.
- 5) Sakurai K, Imabayashi E, Tokumaru AM, Ito K, Shimoji K, Nakagawa M, Ozawa Y, Shimohira M, Ogawa M, Morimoto S, Aiba I, Matsukawa N, Shibamoto Y, Volume of Interest Analysis of Spatially Normalized PRESTO Imaging to Differentiate between Parkinson Disease and Atypical Parkinsonian Syndrome, *Magn Reson Med Sci.* 2017 Jan 10;16(1):16-22. doi: 10.2463/mrms.mp.2015-0132. Epub 2016 Mar 21
- 6) Imai M, Tanaka M, Ishibashi K, Tokumaru A, Ishii K, Glucose Hypometabolism in Developmental Venous Anomaly Without Apparent Parenchymal Damage, *Clin Nucl Med.* 2017 May;42(5):361-363. doi: 10.1097/RLU.0000000000001594.
- 7) Wagatsuma K, Miwa K, Sakata M, Oda K, Ono H, Kameyama M, Toyohara J, Ishii K. Comparison between new-generation SiPM-based and conventional PMT-based TOF-PET/CT. *Phys Med.* 2017 Oct;42:203-210.
- 8) Iizuka T, Iizuka R, Kameyama M. Cingulate island sign temporally changes in dementia with Lewy bodies. *Sci Rep.* 2017 Nov 7;7(1):14745. doi:10.1038/s41598-017-15263-2. PubMed PMID: 29116145; PubMed Central PMCID:PMC5677123.
- 9) Wake T, Tabuchi H, Funaki K, Ito D, Yamagata B, Yoshizaki T, Kameyama M, akahara T, Murakami K, Jinzaki M, Mimura M. The psychological impact of disclosing amyloid status to Japanese elderly: a preliminary study on symptomatic patients with subjective cognitive decline. *Int sychogeriatr.* 2018 May;30(5):635-639. doi: 10.1017/S1041610217002204. Epub 2017 Nov 2. PubMed PMID:29094656.
- 10) Ishibashi K, Kameyama M, Tago T, Toyohara J, Ishii K. Potential Use of 18F-THK5351 PET to Identify Wallerian Degeneration of the Pyramidal Tract Caused by Cerebral Infarction. *Clin Nucl Med.* 2017 Dec;42(12):e523-e524. doi:10.1097/RLU.0000000000001868. PubMed PMID: 29076904.
- 11) Iizuka T, Kameyama M. Metabolic correlate of memory-deficit awareness in dementia with Lewy bodies: Implication in cortical midline structure. *Psychiatry Res Neuroimaging.* 2017 Nov 30;269:43-47. doi:10.1016/j.psychresns.2017.09.007. Epub 2017 Sep 13. PubMed PMID: 28938220.
- 12) Kameyama M, Umeda-Kameyama Y. A kinetic solution for the paradoxical difference between F-Dopa and methionine. *Eur J Nucl Med Mol Imaging.* 2017 Dec;44(13):2328-2330. doi:

- 10.1007/s00259-017-3796-z. Epub 2017 Aug 12. PubMed PMID: 28803435.
- 13) Sakurai K, Morimoto S, Kameyama M, Mase M. Dinosaur tail sign on spinal MRI in a patient with postdural puncture headache. *BMJ Case Rep.* 2017 Aug 2;2017. pii:bcr-2017-221447. doi: 10.1136/bcr-2017-221447. PubMed PMID: 28768677.
 - 14) Iizuka T, Morimoto K, Sasaki Y, Kameyama M, Kurashima A, Hayasaka K, Ogata H, Goto H. Preventive Effect of Rifampicin on Alzheimer Disease Needs at Least 450 mg Daily for 1 Year: An FDG-PET Follow-Up Study. *Dement Geriatr Cogn Dis Extra.* 2017 Jun 19;7(2):204-214. doi: 10.1159/000477343. eCollection 2017 May-Aug. PubMed PMID: 28690634; PubMed Central PMCID: PMC5498941.
 - 15) Umeda-Kameyama Y, Ishii S, Kameyama M, Kondo K, Ochi A, Yamasoba T, Ogawa S, Akishita M. Heterogeneity of odorant identification impairment in patients with Alzheimer's Disease. *Sci Rep.* 2017 Jul 6;7(1):4798. doi: 10.1038/s41598-017-05201-7. PubMed PMID: 28684764; PubMed Central PMCID:PMC5500500.
 - 16) Mashima K, Ito D, Kameyama M, Osada T, Tabuchi H, Nihei Y, Yoshizaki T, Noguchi E, Tanikawa M, Iizuka T, Date Y, Ogata Y, Nakahara T, Iwabuchi Y, Jinzaki M, Murakami K, Suzuki N. Extremely Low Prevalence of Amyloid Positron Emission Tomography Positivity in Parkinson's Disease without Dementia. *Eur Neurol.* 2017;77(5-6):231-237. doi: 10.1159/000464322. Epub 2017 Mar 11. PubMed PMID: 28285306.
 - 17) Iizuka T, Kameyama M. Cholinergic enhancement increases regional cerebral blood flow to the posterior cingulate cortex in mild Alzheimer's disease. *Geriatr Gerontol Int.* 2017 Jun;17(6):951-958. doi: 10.1111/ggi.12818. Epub 2016 May 23. PubMed PMID: 27215917.
 - 18) Sakurai K, Imabayashi E, Tokumaru AM, Ito K, Shimoji K, Nakagawa M, Ozawa Y, Shimohira M, Ogawa M, Morimoto S, Aiba I, Matsukawa N, Shibamoto Y. Volume of Interest Analysis of Spatially Normalized PRESTO Imaging to Differentiate between Parkinson Disease and Atypical Parkinsonian Syndrome. *Magn Reson Med Sci.* 2017 Jan 10;16(1):16-22.
 - 19) Goto M, Abe O, Hata J, Fukunaga I, Shimoji K, Kunimatsu A, Gomi T. Adverse effects of metallic artifacts on voxel-wise analysis and tract-based spatial statistics in diffusion tensor imaging. *Acta Radiol.* 2017 Feb;58(2):211-217.
 - 20) Abe H, Shimoji K, Nagamine Y, Fujiwara S, Izumi SI. Predictors of Recovery from Traumatic Brain Injury-Induced Prolonged Consciousness Disorder. *Neural Plast.* 2017;2017:9358092.
 - 21) Saito J, Hori M, Nemoto T, Katagiri N, Shimoji K, Ito S, Tsujino N, Yamaguchi T, Shiraga N, Aoki S, Mizuno M. Longitudinal study examining abnormal white matter integrity using a tract-specific analysis in individuals with a high risk for psychosis. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2017 Aug;71(8):530-541.
 - 22) Sakurai K, Tokumaru AM, Shimoji K, Murayama S, Kanemaru K, Morimoto S, Aiba I, Nakagawa M, Ozawa Y, Shimohira M, Matsukawa N, Hashizume Y, Shibamoto Y. Beyond the midbrain atrophy: wide spectrum of structural MRI finding in cases of pathologically proven progressive supranuclear palsy. *Neuroradiology* 2017 May;59(5):431-443.
 - 23) Takeda K, Matsumoto M, Ogata Y, Maida K, Murakami H, Murayama K, Shimoji K, Hanakawa T, Matsumoto K, Nakagome K. Impaired prefrontal activity to regulate the intrinsic motivation-action link in schizophrenia. *Neuroimage Clin.* 2017 Jul 4;16:32-42. doi:10.1016/j.nicl.2017.07.003.
 - 24) Morimoto S, Takao M, Nishina Y, Sakurai K, Komiya T, Kanemaru K, Murayama S. Spinocerebellar ataxia type 2 presenting with rapidly progressing muscle weakness and muscular atrophy *Geriatr Gerontol Int* 18(2): 361-364, 2018
 - 25) Nakagawa M, Ozawa Y, Nomura N, Inukai S, Shiba A, Sakurai K, Shimohira M, Shibamoto Y. Investigation of an appropriate contrast-enhanced CT protocol for young patients following the Fontan operation. *Jpn J Radiol* 2018 Jan 11. doi: 10.1007/s11604-018-0718-3. [Epub ahead of print]
 - 26) Madokoro Y, Sakurai K, Kato D, Kondo Y, Oomura M, Matsukawa N. Utility of T1- and T2-Weighted High-Resolution Vessel Wall Imaging for the Diagnosis and Follow Up of Isolated Posterior Inferior Cerebellar Artery

- Dissection with Ischemic Stroke: Report of 4 Cases and Review of the Literature. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 26(11): 2645-2651, 2017
- 27) Sekiguchi T, Nakagawa M, Miwa S, Shiba A, Ozawa Y, Shimohira M, Sakurai K, Shibamoto Y. Calcifying aponeurotic fibroma in a girl: MRI findings and their chronological changes *Radiology Case Reports* 12(3): 620-623, 2017
- 28) Tsuda Y, Oguri T, Sakurai K, Kajiguchi T, Kato H, Yuasa H. Low signal intensity lesions on brain susceptibility-weighted MRI in a patient with intravascular large B-cell lymphoma. *Rinsho Shinkeigaku* 57(9): 504-508, 2017
- 29) Sakurai K, Morimoto S, Kameyama M, Mase M. Dinosaur tail sign on spinal MRI in a patient with postdural puncture headache *BMJ case reports* Aug 2017. pii: bcr-2017-221447. doi: 10.1136/bcr-2017-221447.
- 学会・研究会発表
- 1) 櫻井圭太、徳丸阿耶ら：転移性脳腫瘍と原発性悪性神経膠腫瘍の鑑別. 第37回神経放射線ワークショップ. 岐阜県岐阜市. 6月29日-7月1日. 2017
- 2) 徳丸阿耶 櫻井圭太ら：シンポジウム22 認知症を呈する白質脳症 2.画像の視点から. 3.第36回日本認知症学会学術集会. 石川県金沢市. 11月24日-11月26日. 2017
- 3) 徳丸阿耶、櫻井圭太、村山繁雄ら：認知症診断における高齢者タウオパチーの重要性と臨床画像診断 - 前方視的に追跡した剖検84例の検討 -. 第47回日本神経放射線学会. 茨城県つくば市. 2月15日-2月17日. 2018
- 4) 櫻井圭太、徳丸阿耶ら：正常圧水頭症に特徴的な形態変化を呈した症例群の臨床及び病理学的検討. 第47回日本神経放射線学会. 茨城県つくば市. 2月15日-2月17日.
- 5) 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史、飯島健：神経変性疾患における核医学診断の有用性 - 形態画像を生業とする診断医からの視点 -. 第57回日本核医学会学術総会. 東京. 10月5日. 2017
- 6) 徳丸明日香、山下典生、徳丸阿耶、櫻井圭太、下地啓五、亀山征史、村山繁雄、藤ヶ崎純子、齊藤祐子：認知症鑑別診断技術の開発：海馬・扁桃体・嗅内野・迂回回トレース法. 第2回日本メディカルイラストレーション学会. 岡山県倉敷市. 12月3日. 2017
- 7) Kenji Ishibashi, Masashi Kameyama, Tetsuro Tago, Jun Toyohara, Kenji Ishii 18F-THK5351 PET imaging of Wallerian degeneration of the pyramidal tract after a cerebral infarction. The 12th Human amyloid imaging, Miami, USA, 2018/1/17-19
- 8) T. Iizuka, M. Kameyama PREVENTIVE EFFECT OF RIFAMPICIN ON ALZHEIMER'S DISEASE NEEDS AT LEAST 450 M G DAILY FOR ONE YEAR: AN FDG-PET FOLLOW-UP STUDY XXIII World Congress of Neurology, 2017 9/16-21, Kyoto, Japan FP47
- 9) M. Kameyama, K. Ishibashi, K. Sakurai, J. Toyohara, K. Wagatsuma, M. Sakata, Y. Umeda-Kameyama, K. Shimoji, T. Tago, K. Kanemaru, S. Murayama, A.M. Tokumaru, K. Ishii VOXEL-BASED SPECIFIC REGIONAL ANALYSIS SYSTEM FOR ALZHEIMER'S DISEASE (VSRAD) FOCUSING MEDIAL TEMPORAL LOBE ATROPHY HAS LIMITED CAPABILITY ON DETECTING AMYLOID XXIII World Congress of Neurology, 2017 9/16-21, Kyoto, Japan WCN17-0930110, PP54
- 10) Y. Umeda-Kameyama, S. Ishii, M. Kameyama, K. Kondo, A. Ochi, T. Yamasoba, S. Ogawa, M. Akishita DIVERSITY OF ODORANT IDENTIFICATION IMPAIRMENT IN PATIENTS WITH ALZHEIMER DISEASE AND LEWY BODY DISEASE XXIII World Congress of Neurology, 2017 9/16-21, Kyoto, Japan 067, PP72
- 11) M. Kameyama, K. Ishibashi, K. Sakurai, J. Toyohara, K. Wagatsuma, M. Sakata, Y. Umeda-Kameyama, K. Shimoji, T. Tago, K. Kanemaru, S. Murayama, A.M. Tokumaru, K. Ishii VOXEL-BASED Morphometry (VBM) FOCUSING MEDIAL TEMPORAL LOBE ATROPHY HAS LIMITED CAPABILITY ON DETECTING AMYLOID β Alzheimer's Association International Conference, 2017, 7/15-20, London, United Kingdom Alzheimer's & Dementia. 2017; 13(7suppl):
- 12) T. Iizuka, M. Kameyama PREVENTIVE EFFECT OF RIFAMPICIN ON ALZHEIMER'S DISEASE NEEDS AT LEAST 450 M G DAILY FOR ONE YEAR: AN FDG-PET FOLLOW-UP STUDY Alzheimer's Association International Conference, 2017, 7/15-20, London, United Kingdom Alzheimer's & Dementia. 2017;

- 13(7suppl):
- 13) Y. Umeda-Kameyama, S. Ishii, M. Kameyama, K. Kondo, A. Ochi, T. Yamasoba, S. Ogawa, M. Akishita DIVERSITY OF ODORANT IDENTIFICATION IMPAIRMENT IN PATIENTS WITH ALZHEIMER DISEASE Alzheimer's Association International Conference, 2017, 7/15-20, London, United Kingdom Alzheimer's & Dementia. 2017; 13(7suppl):
- 14) 小野貴史、我妻慧、伊藤希、宮崎剛、鈴木諭貴、海野泰、亀山征史: Evaluation of Metal Artifact Reduction Software on PET Quantification for Artificial Knee Joint. 東京核医学研究会. 東京. 3月28日. 2018
- 15) 伊藤希、我妻慧、小野貴史、宮崎海峰、工藤善朗、海野泰、亀山征史: SiPM搭載型PER/CTにおける18F-FDG-PET検査の最適収集時間の検討. 東京核医学研究会. 東京. 3月28日. 2018
- 16) 亀山征史、竹内壯介、石井伸弥、肥田あゆみ、櫛山暁史: 糖尿病性舞踏病の症例から血糖とHbA1cの関係まで. 日本老年医学会 第67回関東甲信越地方会. 東京. 3月3日. 2018
- 17) 和氣大成、田淵肇、船木佳、伊東大介、山縣文、吉崎崇仁、亀山征史、中原理紀、村上康二、陣崎雅弘、三村 將: 自覚的認知機能低下 (SCD) 患者に対するアミロイドPET発症前診断の結果告知の安全性. 第36回認知症学会. 金沢. 11月24日. 2017
- 18) 亀山征史: 脳核医学の最新情報. 日本放射線技術学会 第35回東京支部秋期学術大会 ランチオンセミナー. 東京. 11月23日. 2017
- 19) 亀山征史: IMPを用いた新しい脳血流量定量法. 第7回核医学画像解析研究会. 福島. 11月11日. 2017
- 20) 亀山征史、石橋賢士、櫻井圭太、豊原潤、我妻慧、坂田宗之、亀山祐美、下地啓五、多胡哲郎、金丸和富、村山繁雄、徳丸亜耶、石井賢二: Amyloid PETとVBMによる内側側頭葉萎縮検出の比較VBM Focusing Medial Temporal Lobe Atrophy has Limited Capability on Detecting Amyloid β 第57回日本核医学会学術総会. 横浜. 10月5日-7日. 2017
- 21) 櫻井圭太、亀山征史、徳丸阿耶、下地啓五、飯島健: 神経変性疾患における核医学診断の有用性-形態画像を生業とする診断医からの視点. 第57回日本核医学会学術総会. 横浜. 10月5日-7日. 2017
- 22) 岩淵雄、中原理紀、亀山征史、山田祥岳、橋本正弘、緒方雄史、松坂陽二、長田高志、田淵肇、陣崎雅弘: Fractal Dimensionを用いたドーパミントランスポーター SPECTの定量評価. Advanced Medical Imaging 2017 (SAMI2017). 大阪. 7月22日-23日. 2017
- 23) 岩淵雄、中原理紀、亀山征史、山田祥岳、橋本正弘、緒方雄史、松坂陽二、長田高志、田淵肇、陣崎雅弘: Fractal Dimensionを用いたDAT SPECTの定量評価. 第87回日本核医学会関東甲信越地方会. 東京. 7月8日. 2017. 優秀プレゼンテーション賞
- 24) Ryo Ueda, Masaaki Hori, Koji Kamagata, Keigo Shimoji, Michimasa Suzuki, Ryusuke Irie, Misaki Nakazawa, Pradeepa Ruwan, Moeko Horita, Yuki Takenaka, Asami Saito, Christina Andica, Aki Hattori, Atsushi Senoo, Shigeki Aoki. A comparative study of TBSS analysis of NODDI using single-shell and multi-shell DWI data. The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017.
- 25) 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史、飯島健 シンポジウム25 脳脊髄液漏出症の画像所見 (指名講演) 第37日本画像医学学会学術大会 2018/02/24 ステーションコンファレンス 東京
- 26) 櫻井圭太、徳丸阿耶 (教育講演) 変性認知症の形態画像診断 - 画像診断のポイント及び症例提示 - Novartis Alzheimer's disease Symposium 関東甲信越 2018/02/04 トラストカンファレンス丸の内
- 27) 櫻井圭太、徳丸阿耶 (教育講演) 認知症の画像診断 - 診断に有用な画像所見を得るために - Hi advanced MR セミナー in 関西 2018/02/03
- 28) 櫻井圭太 日常臨床で知っておきたい! 認知症臨床で注目すべきMRIのポイント (教育講演) 第22回ニューロイメージングカンファレンス 2018/01/27 キャッスルプラザ
- 29) 櫻井圭太、徳丸阿耶、飯島健 (教育講演) 変性認知症の画像診断 - アルツハイマー病や鑑別となる疾患を中心に - 第24回New Horizon for Neurosciences 2017/12/02 東京スクエアガーデン
- 30) 櫻井圭太、亀山征史、徳丸阿耶、下地啓五、飯島健 (教育講演) 神経変性疾患における核医学診断の有用性 - 形態画像を生業とする診断医の視点 - 第57回日本核医学会学術総会 2017/10/05 パシフィコ横浜
- 31) 櫻井圭太 提示症例の画像解説 他の病態に

- よる大脳皮質基底核症候群との比較を含めて
第4回パーキンソン症候群・認知症の臨床病理
フォーラム 2017/10/04 中野サンプラザ
- 32) 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史、飯島健 (シンポジウム) 認知症の画像診断 Up to date MRI による認知症の画像診断 第53回 日本医学放射線学会秋季臨床大会 2017/09/09 ひめぎんホール
 - 33) 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史 (指名講演) 神経変性疾患をはじめとした認知症の画像診断 - 基礎的な MRI 撮像法と画像所見を中心に - 埼玉県神経内科医会2017 2017/05/18 パレス大宮
 - 34) 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史 Diverse imaging finding of sporadic cerebral amyloid angiopathy (教育講演) Hemorrhagic and non-hemorrhagic lesions 第76回日本医学放射線学会総会 2017/04/15 パシフィコ横浜
 - 35) Sakurai K, Tokumaru AM, Shimoji K, Kameyama M, Murayama S, Kanemaru K, Morimoto S, Oguri T, Uchida Y, Hashizume Y, Yoshida M Educational presentation of multifaceted neuroimaging findings in pathologically proven TDP-43 proteinopathy patients 40th ESNR Annual Meeting, 2017, Clarion Hotel, Ma l mö, Sweden

●講師等院外活動 (講演・放送等)

- 1) 徳丸阿耶: 認知症の画像診断: 背景病理推定の意義. 第10回北海道NR懇話会. 北海道札幌市. 5月13日. 2017
- 2) 徳丸阿耶: ここまで解る 認知症の画像診断. 平成29年度関東甲信越診療放射線技師学術大会. 長野県・長野市. 6月24日. 2017
- 3) 徳丸阿耶: 認知症の画像診断-臨床、画像、病理連関の意義. 第23回先端医療用画像研究会. 兵庫県・神戸市. 7月7日. 2017
- 4) 徳丸阿耶: 白質脳症の最新知見. 8.京都府立医科大学放射線科モーニングレクチャー. 京都府・上京区. 2月21日. 2018
- 3) 栗田主一、徳丸阿耶ら: 年医学雑誌2018第二十九巻四号, 「認知症の画像疫学的研究」, 株式会社ワールドプランニング. pp391-401. 2018
- 4) Matsuda, Hiroshi, Asada, Takashi, Tokumaru, Aya Midori, Neuroimaging Diagnosis for Alzheimer's Disease and Other Dementias, Springer, 2017
- 5) 山本寛、佐塚まなみ、小林寿美子、籠尾南海夫、下地啓五、加藤貴行、東原真奈、櫻井圭太、新井富生、高田忠幸. CONFERENCE ROOM 間質性肺炎急性増悪の治療経過中に発熱・意識障害をきたした1例: 内科121巻1号167-180, 2018
- 6) 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、青木茂樹. 【PSPとCBD-その共通点と相違点】 進行性核上性麻痺(PSP). Clinical Neuroscience 35巻3号 277-280, 2017.
- 7) 徳丸阿耶、櫻井圭太、下地啓五、村山繁雄、藤ヶ崎純子、齊藤祐子. 【あらためて認知症を考える-Living Well with dementia】 診断学 検査の限界と留意点を考える MRI 臨床現場での意義と課題: 老年精神医学雑誌28巻増刊I 91-99, 2017.
- 8) 櫻井圭太、徳丸阿耶 認知症の画像診断 up to date MRIによる認知症の画像診断 臨床放射線 63(2): 131-139, 2018
- 9) 櫻井圭太 認知症の画像評価における数値化データ解釈上の注意点 【撮像条件, 関心領域の位置により数値が変動する等の注意点を押さえた上で活用する】 医事新報 4893(2): 56, 2018
- 10) 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史、飯島健入門講座 認知症の画像診断 MRI総合リハビリテーション 46(1): 45-51, 2018
- 11) 森壘、櫻井圭太、徳丸阿耶 【中枢神経系の新たな疾患カテゴリーとその画像所見】 TDP-43 proteinopathy 臨床画像 33(12): 1418-1424, 2017
- 12) 櫻井圭太、徳丸阿耶、村山繁雄 【中枢神経系の新たな疾患カテゴリーとその画像所見】 高齢者tauopathy 臨床画像 33(12): 1406-1417, 2017

●単行書

- 1) 青木茂樹、大場洋、徳丸阿耶ら: 第1章拡散強調画像. 画像診断2018年3月増刊号頭部の鑑別診断のポイント (画像診断増刊号). 学研メディカル秀潤社. (Vol.38No.4) pp22-29. 2018
- 2) 森 壘、徳丸阿耶ら: 臨床放射線 - 高齢者診療における画像診断 - 「特集: 高齢者の脳イメージング - 認知症診断への第一歩」, 金原出版, 2017年12月号(62巻 13号) pp1737-1751. 2017

●飯島健 後期研修医としての取得資格

2017年5月: 日本医師会認定産業医.
2017年5月: PET核医学認定医.
2017年8月: 放射線科専門医.

放射線治療科

山川は、2002年7月から勤務しており、各種がんの放射線治療成績について検討している。

2002年7月～2012年12月に放射線治療を施行し、5年以上生存した229例について検討した。ホームページに掲載予定である。

1) 年別5年生存者数

2002年：10例、2003年18例、2004年：28例、2005年：19例、2006年：24例、2007年：26例、2008年：23例、2009年：18例、2010年：23例、2011年：19例、2012年：21例であった。

2) 疾患別5年生存者数

多い順に、悪性リンパ腫：37例、肺癌：31例（うち定位放射線治療例が15例）、喉頭癌：30例、直腸がん：27例、子宮癌：21例、白血病（全身照射施行例）：17例、前立腺癌：11例、食道癌：6例、頭頸部癌：6例、その他であった。（子宮癌は以前使用していたラルストロンによる腔内照射が施行できた症例である。）

3) 年齢別5年生存者数

60歳未満：13例、60歳台：55例、70歳台：109例、80歳台46例、90歳台：6例で、70歳台が一番多かったが、90歳以上でも5年以上生存例がえられた。

消化器内科・内視鏡科

●論文

1. **Makoto Nishimura**, Jonas Woo, Yuko Fujii, Miho Matsukawa, Hiroto Kita. Could pre-operative NE-NBI finding be useful to determine accurate surgical margins in undifferentiated-type early gastric cancer patients? *Annals of Laparoscopic and Endoscopic SUrgery*. Ann Laparosc Endosc Surg 2017;2:10.
2. Matsuda Y, Furukawa T, Yachida S, **Nishimura M**, Seki A, Nonaka K, Aida J, Takubo K, Ishiwata T, Kimura W, Arai T, Mino-Kenudson M. The Prevalence and Clinicopathological Characteristics of High-Grade Pancreatic Intraepithelial Neoplasia: Autopsy Study Evaluating the Entire Pancreatic Parenchyma. *Pancreas*. 2017 May/Jun;46(5):658-664.
3. **Makoto Nishimura**, Miho Matsukawa, Yuko Fujii, Yoko Matsuda, Tomio Arai, Yasutoshi Ochiai, Takao Itoi, NaohisaYahagi. Effects of EUS-guided intratumoral injection of oligonucleotide STNM01 on tumor growth, histology, and overall survival in patients with unresectable pancreatic cancer. *Gastrointestinal Endoscopy*. Volume 87, Issue 4, April 2018,

Pages 1126-1131

4. **藤井悠子**, 西村誠, 武村拓也, 剛崎有加, 松岡順子, 松川美保, 潮靖子, 佐々木美奈, 吉田孝司, 松田陽子, 新井富生, 杉原毅彦, 上垣佐登子. EUS-FNAを施行した後腹膜発生Castleman病の1例. *Progress of Digestive Endoscopy*. 2017; 90(1):176-177.
5. **藤井悠子**, 西村誠, 武村拓也, 松岡順子, 松川美保, 潮靖子, 上垣佐登子. 当院における Pocket Creation Methodによる大腸ESDの検討. *Progress of Digestive Endoscopy*. 2017; 91(1):62-66.

●学会・研究会発表

1. **Yuko Fujii**, Makoto Nishimura, Yuka Kowazaki, Miho Matsukawa, Junko Matsuoka. Assessment of the Safety of Colorectal Endoscopic Submucosal Dissection in Very Elderly Patients. DDW, Chicago, 2017.5.8.
2. **藤井悠子**, 西村誠, 松川美保, 剛崎有加, 松岡順子, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子. 悪性リンパ腫重分類診断に対するEUS-FNAの有用性. 第93回日本内視鏡学会総会. 大阪.2017.5.12
3. **松川美保**, 西村誠, 藤井悠子, 剛崎有加, 松岡順子, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子. EUS-FNA検体を用いた次世代 シークエンサーによる膵腫瘍の遺伝子解析. 第93回日本内視鏡学会総会. 大阪. 2017.5.12
4. **武村拓也**, 西村誠, 藤井悠子, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子. 高齢者における大腸挿入困難例に対する受動湾曲型内視鏡の有用性. 第104回日本内視鏡学会関東地方会, 東京, 2017.6.10
5. **藤井悠子**, 西村誠, 松川美保, 武村拓也, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子. 当院における Pocket Creation Methodによる大腸ESDの検討. 第104回日本内視鏡学会関東地方会, 東京, 2017.6.10
6. **Takuya Takemura**, Makoto Nishimura, Hirota Akira, Yuko Fujii, Miho Matsukawa, Yasuko Usio, Satoko Uegaki, Usability of passive bending-type endoscope for elderly patients in the difficult cases of colonoscope insertion. APDW, Hong Kong, 2017.9
7. **Hirota Akira**, Makoto Nishimura, Takuya Takemura, Yuko Fujii, Miho Matsukawa, Yasuko Usio, Satoko Uegaki, Efficacy and safety of colorectal Stent in the elderly patients. APDW, Hong Kong, 2017.9
8. Junko Asida, Akiko Takahashi, Manabu Takeuchi, **Yuka Kowazaki**, Kaiyo Takubo,

Evaluation of lymph node metastasis in endoscopically and surgically resected superficial Barrett's carcinomas. OESO 2017.9.17

9. **Miho Matsukawa**, Makoto Nishimura, Yoko Matsuda, Yuko Fujii, Whole-genome sequencing of pancreatic tumor by next-generation sequencing using EUS-FNA specimens. UEGW, Barcelona, 2017.10.31.
10. **廣田旭亮**, 西村誠, 松川美保, 武村拓也, 藤井悠子, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子. 大腸病変を呈した高齢者におけるHenoch-Schonlein紫斑病の一例. 第105回日本内視鏡学会関東地方会, 東京, 2017.12.10
11. **藤井悠子**, 西村誠, 廣田旭亮, 武村拓也, 松川美保, 潮靖子, 上垣佐登子. Cap polyposis様の内視鏡像を呈したサイトメガロウイルス腸炎の1例. 第105回日本内視鏡学会, 関東地方会, 東京, 2017.12.10
12. **堀千沙**, 西村誠, 廣田旭亮, 武村拓也, 藤井悠子, 松川美保, 潮靖子, 上垣佐登子. 高齢者における虚血性小腸炎の2例. 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2017.3
13. **藤井悠子**, 西村誠, 廣田旭亮, 武村拓也, 松川美保, 潮靖子, 松田陽子, 新井富生, 上垣佐登子. EUS-FNAで診断した結核性リンパ節炎の1例. 都立病院の会.2018.3.3

●講師等院外活動（講演・放送等）

1. **Makoto Nishimura**, Naohisa Yahagi, Hironori Yamamoto, et al. ASGE-JGES Masters' Course in ESD with optional POEM add-on. (ハンズオンセミナーFaculty). 2017.7.28-30 ASGE learning center, Chicago
2. **西村誠**. 「消化管腫瘍に対するESDの新展開」手技と治療を考える会. 2017.9.4 東京都健康長寿医療センター
3. **西村誠**. 「エイジフレドリーな内視鏡治療について」. 第79回日本消化器内視鏡技師学会総会バンダープログラム. 2017.10.14 アクロス福岡
4. **西村誠**. 「消化管におけるESDの最前線とトレーニング法」. 東京北医療センター講演会.2017.11.8
5. **西村誠**. 「消化器疾患と最先端の治療内視鏡」. 板橋区医師会学術講演会. 2018.2.9西村誠：（特別講演）当院における潰瘍性大腸炎治療の実際. 田辺三菱潰瘍性大腸炎講演会.東京, 2017.3.8.
6. **西村誠**. 「高齢フレイル患者における内視鏡治療」. 消化器病フォーラム. 2018.2.28 東京都健康長寿医療センター

●科研費

1. 文部科学省科学研究費 基盤研究C. 西村誠. 超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診による膵腫瘍と膵嚢胞におけるエクソソームの解析. 2016.4.1-. Assessment of Exosome of pancreatic tumor and pancreatic cystic lesion using EUS-FNA sample.

化学療法科

●学会活動

1. 第57回リンパ網内系学会総会、東京
単施設におけるPrimary testicular non-Hodgkin's lymphoma(PTL)連続7症例の検討
原田丈太郎、宮本鋼ら

臨床検査科

●雑誌論文

1. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of STXBP2 as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study. Oncotarget 8: 33527-33535, 2017, IF=5.168.
2. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of C21orf59 and ATG2A as novel determinants of renal function-related traits in Japanese individuals by exome-wide association studies. Oncotarget 8: 45259-45273, 2017, IF=5.168.
3. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of rs7350481 at chromosome 11q23.3 as a novel susceptibility locus for metabolic syndrome in Japanese individuals by an exome-wide association study. Oncotarget 8: 39296-39308, 2017, IF=5.168.
4. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y,

- Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of six polymorphisms as novel susceptibility loci for ischemic or hemorrhagic stroke by exome-wide association studies. *Int J Mol Med* 39: 1477-1491, 2017, IF=2.341.
5. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of polymorphisms in 12q24.1, ACAD10, and BRAP as novel genetic determinants of blood pressure in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget* 8: 43068-43079, 2017, IF=5.168.
 6. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of eight genetic variants as novel determinants of dyslipidemia in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget* 8: 38950-38961, 2017, IF=5.168.
 7. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of five genetic variants as novel determinants of type 2 diabetes mellitus in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget* 8: 80492-80505, 2017, IF=5.168.
 8. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of EGFLAM, SPATC1L, and RNASE13 as novel susceptibility loci for aortic aneurysm in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Int J Mol Med* 39: 1091-1100, 2017, IF=2.341.
 9. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of TNFSF13, SPATC1L, SLC22A25, and SALL4 as novel susceptibility loci for atrial fibrillation by an exome-wide association study. *Mol Med Rep* 16: 5823-5832, 2017, IF=1.692.
 10. Dechamethakun S, Sato N, Ikeda S, Sawabe M, Mori S, Yamada Y, Tanaka M, Muramatsu M, Arai T: Association of macrophage capping protein (CAPG) Arg335His polymorphism and cancer susceptibility in the elderly. *J Gerontol Geriatr Res* 6: 2, 2017, IF=0.92.
 11. Kawakami K, Fujita Y, Matsuda Y, Arai T, Horie K, Kameyama K, Kato T, Masunaga K, Kasuya Y, Tanaka M, Mizutani K, Deguchi T, Ito M: Gamma-glutamyltransferase activity in exosomes as a potential marker for prostate cancer. *BMC Cancer* 17: 316, 2017, IF=3.288.
 12. Nishi K, Luo H, Nakabayashi K, Doi K, Ishikura S, Iwaihara Y, Yoshida Y, Tanisawa K, Arai T, Mori S, Sawabe M, Muramatsu M, Tanaka M, Sakata T, Shirasawa S, Tsunoda T: An alpha-kinase 2 gene variant disrupts F-actin localisation in the surface of colorectal cancer spheroids. *Anticancer Res* 37: 3855-3862, 2017, IF=1.937.
 13. Matsuda Y, Tanaka M, Sawabe M, Mori S, Muramatsu M, Naka-Miero M, Arai T: Relationship between pancreatic intraepithelial neoplasias, pancreatic ductal adenocarcinoma, and single nucleotide polymorphisms in autopsied elderly patients. *Genes Chromosomes Cancer* 57: 12-18, 2018, IF=4.041.
 14. Tanisawa K, Hirose N, Arai Y, Shimokata H, Yamada Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Hirano H, Suzuki H, Fujiwara Y, Ihara K, Taniguchi Y, Shinkai S, Sugaya M, Higuchi M, Arai T, Mori S, Sawabe M, Sato N, Muramatsu M, Tanaka M: Inverse association between height-increasing alleles and extreme longevity in Japanese women. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci* 73: 588-595, 2018, IF=5.957.
 15. Yoshitomo Morinaga, Norihiko Akamatsu, Junichi Matsuda, Hiroko Tateno, Takeshi Tomaru, Ai Tanaka, Sayuri Morita, Makoto Nakamura, Hideaki Kato, Megumi Annaka, Yoshishige Masuda, Yasutomo Itakura, Takashi Inamatsu, Katsunori Yanagihara: Diagnostic utilities of a fully automated molecular test for toxigenic *Clostridium difficile*. *J Infect Chemother* 24: 88-91, 2018.

●学会発表

1. 矢作和規, 野口穰, 古川友子, 浅見諒子, 小金丸博, 増田義重, 稲松孝思, 吉田敦, 井口成一, 鶴澤豊, 菊池賢: 肝硬変患者の血液培養より *Vibrio metschnikovii* が分離された1例. 第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 岐阜, 2月10日, 2018.
2. 野口穰, 矢作和規, 古川友子, 浅見諒子, 小金丸博, 増田義重, 稲松孝思, 鈴木弘倫, 岡本友紀, 鶴澤豊, 井口成一, 吉田敦, 菊池賢: 血液培養よりST耐性 *Nocardia farcinica* を検出した1例. 第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 岐阜, 2月9日, 2018.
3. 浅見諒子, 野口穰, 古川友子, 矢作和規, 小金丸博, 吉田敦, 井口成一, 鶴澤豊, 菊池賢, 増田義重, 稲松孝思: 血液培養より *Streptobacillus notomytis* が分離された1例. 第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 岐阜, 2月9日, 2018.
4. 浅見諒子, 野口穰, 古川友子, 小金丸博, 吉田敦, 増田義重, 稲松孝思, 高木明子, 御手洗聡: *Mycobacterium lentiflavum* 分離例の微生物的・臨床的検討. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 第64回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会. 東京, 11月1日, 2017.

輸血・細胞療法科

●学会参加:

- 1) 第5回日本臨床検査技師首都圏支部医学検査学会、東京都臨床検査技師会輸血研究班研修会参加、日本輸血細胞治療学会及び日本臨床衛生学検査技師会主催の輸血テクニカルセミナー参加

●学会発表:

- 1) 阿部真愛、谷田部元野、額賀さおり、奈良岡綾子、小倉和外、小林寿美子. 当センターにおける心臓外科手術時の手抗製剤準備量の改善に対する取り組み; 第65回日本輸血細胞治療学会総会 (千葉 幕張メッセ 2017.6.22-24)
- 2) 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会 第2寛解期の急性単球性白血病 (AML M5b) に対して臍帯血移植を行った高齢者の一例. 鶴田優希、小林寿美子、斎藤輔、小倉和外、宮腰重三郎 (2018.3.3 東京)
- 2) 馬場口紘成、小林寿美子、堀千紗、小倉和外、宮腰重三郎. 臍帯血移植後に胸水中にHHV-6が検出された難治性胸膜炎の一例. 第40回日本造血細胞移植学会総会. (2018.2.2-4 札幌)
- 3) 堀千紗、小林寿美子、小倉和外、関敦子、新井

- 富生、宮腰重三郎. CBT後に乳頭筋断裂による急性左心不全を発症し剖検にて *Aspergillus udagawae* 感染が原因と考えられた一例. 第40回日本造血細胞移植学会総会. (2018.2.2-4札幌)
- 4) 中島成己、奈良岡綾子、橋本麻耶、関口千尋、加藤菜生、齋藤睦、大川愛生、高橋裕季、福丸利憲、齋藤康太郎、上西陽子、新井明子、大池有紀子、佐々木ゆき子、森優子、赤川順子、島田義之、府川則子、浅見諒子、小林寿美子、亀谷由佳子、猪瀬景子. 移植時の提供食品における細菌混入の検証と栄養管理の緩和の可能性. 第40回日本造血細胞移植学会総会. (2018.2.2-4札幌)
 - 5) 伊藤真紀、羽田千恵、赤川順子、斎藤輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎. 同種造血幹細胞移植患者への栄養指導～独居高齢者2症例を通して～. 第40回日本造血細胞移植学会総会. (2018.2.2-4 札幌)
 - 6) Ogura K, Akagawa J, Kobayasi S, Miyakoshi S.: Comparison of TBI and TMG as conditioning regimen for CBT inpatients aged over 70 years 第79回日本血液学会学術集会
 - 7) Ogura K, Akagawa J, Saito T, Kobayasi S, Miyakoshi S.: Comparison of Flu/Mel/TBI and Flu/mel/TMG as conditioning regimen for CBT in elderly patients.: 第40回日本造血細胞移植学会総会
 - 8) 田中達郎、鷺足ひろみ、森淑子、赤川順子、斎藤輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎. 高齢者造血幹細胞移植におけるタクロリムスの初期投与量の検討; 第40回日本造血細胞移植学会総会
 - 9) 赤川順子、小山照幸、斎藤輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎: 臍帯血ミニ移植後の高齢患者における身体機能の変化: 第40回日本造血細胞移植学会総会

●論文:

- 1) Noriko Doki, Kazuhiko Kakihana, Masahiro Ashizawa, Masahiro Onoda, Chikako Ohwada, Sumiko Kobayashi, Moritaka Gotoh, Shin Fujisawa, Shinichiro Okamoto, for the Kanto Study Group for Cell Therapy. Clinical characteristics of calcineurin inhibitor-induced pain syndrome (CIPS) after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Journal of Hematopoietic Cell Transplantation* 6(2).115-119, 2017.
- 2) 小林寿美子, 十菱千尋, 下地啓吾, 原田和昌, 阿部吉倫, 橋爪貞史, 池田久美, 松田陽子, 中野雄

太, 三原現, 杉原毅彦. CONFERENCE ROOM 関節リウマチ経過観察中に突然の呼吸不全と発熱をきたした78歳女性の解剖例. **内科** 119:1037-1048, 2017.

●講演:

- 1) 小林寿美子. WT-1 マーカーによるMDSの予後予測:第7回MDS・分子標的療法研究会.(2017.7.7 東京)
- 2) 小林寿美子. 高齢者の血液がん、～あきらめるのはまだ早い、移植という選択肢～:第149回老年学・老年医学公開講座 (2018.2.5 東京)

病理診断科

●雑誌論文

1. 白幡浩人, 本間尚子, 小谷隆史, 今泉雅之, 浜島裕理, 江坂四季音, 木下真由美, 鈴木明美, 櫻井うらら, 新井富生. 高齢者における乳腺粘液癌の細胞学的検討と文献的考察. **日本臨床細胞学会雑誌** 56: 75-84, 2017.
2. Kawakami K, Fujita Y, Matsuda Y, Arai T, Horie K, Kameyama K, Kato T, Masunaga K, Kasuya Y, Tanaka M, Mizutani K, Deguchi T, Ito M. Gamma-glutamyltransferase activity in exosomes as a potential marker for prostate cancer. **BMC Cancer** 17:316, 2017.
3. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of *STXBP2* as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study. **Oncotarget** 8: 33527-33535, 2017.
4. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Yoshida H, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of *EGFLAM*, *SPATC1L*, and *RNASE13* as novel susceptibility loci for aortic aneurysm in Japanese individuals by exome-wide association studies. **Int J Mol Med** 39:1091-1100, 2017.
5. Matsuda Y, Furukawa T, Yachida S, Nishimura M, Seki A, Nonaka K, Aida J, Takubo K, Ishiwata T, Kimura W, Arai T, Mino-Kenudson M. The prevalence and clinicopathological characteristics of high-grade pancreatic intraepithelial neoplasia: autopsy study evaluating the entire pancreatic parenchyma. **Pancreas** 46: 658-664, 2017.
6. Seki A, Yoshida A, Matsuda Y, Kawata M, Nishimura T, Tanaka J, Misawa Y, Nakano Y, Asami R, Chida K, Kikuchi K, Arai T. Fatal fungal endocarditis by *Aspergillus udagawae*: an emerging cause of invasive aspergillosis. **Cardiovasc Pathol** 28: 14-17, 2017.
7. 大野安実, 千葉優子, 小寺玲美, 新井富生, 櫻井圭太, 橋爪貴史, 松田陽子, 金田大太, 佐々木美奈, 原田和昌. 歩行困難および意識障害を認め、誤嚥窒息後人工呼吸器管理となり、多発深部静脈血栓症を来した2型糖尿病の1例. **Geriatric Medicine** 55:557-566, 2017.
8. 松田陽子, 野中敬介, 柿崎元恒, 王坦, 関敦子, 鈴木明美, 新井富生. 病理技術 隣臓ホルマリン注入による組織自己融解の抑制と組織形態保持の向上 病理解剖検体を用いた検討. **病理と臨床** 35:482-484, 2017.
9. 小林寿美子, 十菱千尋, 下地啓吾, 原田和昌, 阿部吉倫, 橋爪貞史, 池田久美, 松田陽子, 中野雄太, 三原現, 杉原毅彦. CONFERENCE ROOM 関節リウマチ経過観察中に突然の呼吸不全と発熱をきたした78歳女性の解剖例. **内科** 119:1037-1048, 2017.
10. Hino H, Nishimura T, Usuki C, Sazuka M, Ito T, Seki A, Nitadori JI, Yamada H, Arai T, Yamamoto H, Nakajima J. Salvage surgery for primary lung cancer after chemotherapy in octogenarians. **Thorac Cancer** 8:271-27, 2017.
11. Dechamethakun S, Sato N, Ikeda S, Sawabe M, Mori S, Yamada Y, Tanaka M, Muramatsu M, Arai T. Association of Macrophage capping protein (CAPG) Arg335His polymorphism and cancer susceptibility in the elderly Japanese. **J Gerontol Geriatr Res** 6: 417, 2017.
12. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of six polymorphisms as novel susceptibility loci for ischemic or hemorrhagic stroke by exome-wide association studies. **Int J Mol Med** 39: 1477-1491, 2017.
13. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y,

- Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of eight genetic variants as novel determinants of dyslipidemia in Japanese individuals by exome-wide association studies. **Oncotarget** **8**: 38950-38961, **2017**.
14. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of rs7350481 at chromosome 11q23.3 as a novel susceptibility locus for metabolic syndrome in Japanese individuals by an exome-wide association study. **Oncotarget** **8**:39296-39308, **2017**.
 15. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of 12q24.1, *ACAD10*, and *BRAP* as novel genetic determinants of blood pressure in Japanese individuals by exome-wide association studies. **Oncotarget** **8**:43068-43079, **2017**.
 16. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of *C21orf59* and *ATG2A* as novel determinants of renal function-related traits in Japanese individuals by exome-wide association studies. **Oncotarget** **8**:45259-45273, **2017**.
 17. Nakano Y, Takahashi-Fujigasaki J, Sengoku R, Kanemaru K, Arai T, Kanda T, Murayama S. PML nuclear bodies are altered in adult-onset neuronal intranuclear hyaline inclusion disease. **J Neuropathol Exp Neurol** **76**:585-594, **2017**.
 18. Iketani M, Ohshiro J, Urushibara T, Takahashi M, Arai T, Kawaguchi H, Ohsawa I. Preadministration of hydrogen-rich water protects against lipopolysaccharide-induced sepsis and attenuates liver injury. **Shock** **48**:85-93, **2017**.
 19. Nishi K, Luo H, Nakabayashi K, Doi K, Ishikura S, Iwaihara Y, Yoshida Y, Tanisawa K, Arai T, Mori S, Sawabe M, Muramatsu M, Tanaka M, Sakata T, Shirasawa S, Tsunoda T. An alpha-kinase 2 gene variant disrupts filamentous actin localization in the surface cells of colorectal cancer spheroids. **Anticancer Res** **37**:3855-3862, **2017**.
 20. Tsuji M, Kawasaki T, Matsuda T, Arai T, Gojo S, Takeuchi JK. Sexual dimorphisms of mRNA and miRNA in human/murine heart disease. **PLoS One** **12**:e0177988, **2017**.
 21. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of five genetic variants as novel determinants of type 2 diabetes mellitus in Japanese individuals by exome-wide association studies. **Oncotarget** **8**:80492-80505, **2017**.
 22. Takigawa M, Masutomi H, Kishimoto Y, Shimazaki Y, Hamano Y, Kondo Y, Arai T, Lee J, Ishii T, Mori Y, Ishigami A. time-dependent alterations of vancomycin-induced nephrotoxicity in mice. **Biol Pharm Bull** **40**:975-983, **2017**.
 23. 藤井悠子, 西村 誠, 武村拓也, 松川美保, 松岡順子, 潮 靖子, 松田陽子, 新井富生 上垣佐登子. 当院におけるPocket Creation Methodによる大腸ESDの検討. **Progress of Digestive Endoscopy** **91**:62-66, **2017**.
 24. Zaw KT, Sato N, Ikeda S, Thu KS, Mieno MN, Arai T, Mori S, Furukawa T, Sasano T, Sawabe M, Tanaka M, Muramatsu M. Association of ZFH3 gene variation with atrial fibrillation, cerebral infarction, and lung thromboembolism: An autopsy study. **J Cardiol** **70**:180-184, **2017**.
 25. Nonaka K, Matsuda Y, Okaniwa A, Kasajima A, Sasano H, Arai T. Pancreatic gangliocytic paraganglioma harboring lymph node metastasis: a case report and literature review. **Diagn Pathol** **12**:57, **2017**.
 26. Suzuki O, Eguchi H, Chika N, Sakimoto T, Ishibashi K, Kumamoto K, Tamaru JJ, Tachikawa T, Akagi K, Arai T, Okazaki Y, Ishida H. Prevalence and clinicopathologic/molecular characteristics of mismatch repair-deficient colorectal cancer in the under-50-year-old Japanese population. **Surg Today** **47**:1135-1146, **2017**.
 27. Wang T, Matsuda Y, Seki A, Nonaka K, Kakizaki M, Kaneda D, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Arai T. Carbohydrate antigen 19-9-positive gastric adenocarcinoma: autopsy

- findings and review of the literature. **Case Rep Gastroenterol** 11:545–553, 2017.
28. 金 翔哲, 三井秀雄, 吉田孝司, 金澤伸郎, 黒岩厚二郎, 松田陽子, 橋本佳和, 松岡弘芳, 正木忠彦, 杉山政則. 術前に存在診断し腹腔鏡下に切除しえた小腸リンパ管腫の1例. **日本消化器外科学会雑誌** 50:745-753, 2017.
 29. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of *TNFSF13*, *SPATC1L*, *SLC22A25*, and *SALL4* as novel susceptibility loci for atrial fibrillation in Japanese individuals by an exome-wide association study. **Mol Med Rep** 16:5823-5832, 2017.
 30. Itabashi M, Nasierowska-Guttmejer A, Shimoda T, Majewski P, Rezner W, Sikora K, Śrutek E, Steplewska K, Swatek J, Szumilo J, Wierchniewska-Lawska A, Wronecki L, Zembala-Nożyńska E, Arai T, Fujita M, Kawachi H, Unakami M, Kamoshida T. The importance of the concept and histological criteria of “intraepithelial squamous cell carcinoma” of the esophagus: in comparison between Western and Japanese criteria. **Esophagus** 14:333-342, 2017.
 31. Silva ANS, Coffa J, Menon V, Hewitt LC, Das K, Miyagi Y, Bottomley D, Slaney H, Aoyama T, Mueller W, Arai T, Tan IB, Deng N, Chan XB, Tan P, Tsuburaya A, Sakamaki K, Hayden JD, Yoshikawa T, Zondervan I, Savola S, Grabsch HL. Frequent coamplification of receptor tyrosine kinase and downstream signaling genes in Japanese primary gastric cancer and conversion in matched lymph node metastasis. **Ann Surg** 267:114-121, 2018.
 32. Matsuda Y, Tanaka M, Sawabe M, Mori S, Muramatsu M, Mieno MN, Furukawa T, Arai T. Relationship between pancreatic intraepithelial neoplasias, pancreatic ductal adenocarcinomas, and single nucleotide polymorphisms in autopsied elderly patients. **Genes Chromosomes Cancer** 57:12-18, 2018.
 33. Parlayan C, Ikeda S, Sato N, Sawabe M, Muramatsu M, Arai T. Comprehensive association analysis of 30 single nucleotide polymorphisms related with metabolic syndrome on cancer susceptibility in Japanese population: A case-control study. **Health Sci J** 12:545, 2018.
 34. 佐塚まなみ, 山本寛, 日野春秋, 関敦子, 山田浩和, 新井富生. 心転移の鑑別にFDG-PETが有効だった肺扁平上皮癌の1例. **日本呼吸器学会誌** 7:15-19, 2018.
 35. Yamada Y, Sugimoto K, Yoshizawa Y, Arai Y, Otsuki Y, Arai T, Kobayashi Y, Sato Y, Hosoda Y. Mesenteric inflammatory veno-occlusive disease occurring during the course of ulcerative colitis: a case report. **BMC Gastroenterol** 18:9, 2018.
 36. Ishiwata T, Hasegawa F, Michishita M, Sasaki N, Ishikawa N, Takubo K, Matsuda Y, Arai T, Aida J. Electron microscopic analysis of different cell types in human pancreatic cancer spheres. **Oncol Lett** 15:2485-2490, 2018.
 37. Matsuda Y, Seki A, Nonaka K, Kakizaki M, Wang T, Aida J, Ishikawa N, Nakano Y, Kaneda D, Takata T, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Takubo K, Ishiwata T, Sawabe M, Arai T. Clinicopathological characteristics of distant metastases of adenocarcinoma, squamous cell carcinoma and urothelial carcinoma: An autopsy study of older Japanese patients. **Geriatr Gerontol Int** 18:211-215, 2018.
 38. Kinoshita M, Matsuda Y, Arai T, Soejima Y, Sawabe M, Honma N. Cytological diagnostic clues in poorly differentiated squamous cell carcinomas of the breast: Streaming arrangement, necrotic background, nucleolar enlargement and cannibalism of cancer cells. **Cytopathology** 29:22-27, 2018.
 39. Aoki Y, Aida J, Kawano Y, Nakamura KI, Izumiyama-Shimomura N, Ishikawa N, Arai T, Nakamura Y, Taniai N, Uchida E, Takubo K, Ishiwata T. Telomere length of gallbladder epithelium is shortened in patients with congenital biliary dilatation: measurement by quantitative fluorescence in situ hybridization. **J Gastroenterol** 53: 291-301, 2018.
 40. Ueda Y, Ishiwata T, Shinji S, Arai T, Matsuda Y, Aida J, Sugimoto N, Okazaki T, Kikuta J, Ishii M, Sato M. *In vivo* imaging of T cell lymphoma infiltration process at the colon. **Sci Rep** 8:3978, 2018.
- 総説
1. 新井富生, 松田陽子, 関敦子, 野中敬介, 柿崎元恒, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行. 【食道癌

- 診断・治療のupdate】 食道癌生検検体・内視鏡切除標本の病理診断. **消化器・肝臓内科** 1:337-343, 2017.
2. 新井富生. 食道の解剖用語. **胃と腸** 52: 528-530, 2017.
 3. 新井富生. 管状, 乳頭状, 絨毛状, 鋸歯状. **胃と腸** 52: 684, 2017.
 4. 新井富生. 病理診断に直結した組織学 小腸・十二指腸. **病理と臨床** 35臨時増刊号: 202-210, 2017.
 5. 新井富生, 松田陽子, 関敦子, 野中敬介, 柿崎元恒, 近藤福雄, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行. 【臨床医も知っておくべき免疫組織化学染色のすべて】 上皮性腫瘍に対する免疫組織化学染色 食道腫瘍の免疫染色. **胃と腸** 52:989-996, 2017.
 6. 新井富生, 松田陽子, 関敦子, 野中敬介, 柿崎元恒, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行. 【これでわかる!食道胃接合部疾患】 こうすればわかる食道胃接合部の病理. **消化器内視鏡** 29:1643-1651, 2017.
 7. 新井富生, 相田順子, 田久保海誉. Barrett食道/食道腺癌の病理学的診断. **消化器の臨床** 20:408-412, 2017.
 8. 新井富生, 松田陽子, 関敦子, 野中敬介, 柿崎元恒, 相田順子, 石川直, 田久保海誉, 石渡俊行. 【老化と病理学-最近の進歩-】 加齢に伴う局所的な炎症. **病理と臨床** 36:123-127, 2018.
 9. 石川直, 相田順子, 田久保海誉, 松田陽子, 新井富生, 石渡俊行. 【老化と病理学-最近の進歩-】 テロメア短縮と老化および高齢者に好発する疾患との関連. **病理と臨床** 36:102-109, 2018.
 10. 新井富生, 松田陽子, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行. 高齢者がんの臨床病理学的特徴. **腫瘍内科** 21: 212-220, 2018.
 11. 野中敬介, 柿崎元恒, 関敦子, 松田陽子, 新井富生. 緑膿菌感染症の3剖検例. 第106回日本病理学会総会. 東京, 4月27-29日, 2017.
 12. 王坦, 柿崎元恒, 野中敬介, 関敦子, 松田陽子, 新井富生. CA19-9陽性胃癌の一剖検例. 第106回日本病理学会総会. 東京, 4月27-29日, 2017.
 13. 石渡俊行, 吉村久志, 松田陽子, 石川直, 田久保海誉, 新井富生, 相田順子. 膵癌の増殖・浸潤における長鎖非コードRNAの役割の検討. 第106回日本病理学会総会. 東京, 4月27-29日, 2017.
 14. 柿崎元恒, 野中敬介, 関敦子, 松田陽子, 新井富生. 老人性全身性アミロイドーシスにおける, 心臓へのアミロイド沈着様式の検討. 第106回日本病理学会総会. 東京, 4月27-29日, 2017.
 15. 関敦子, 千田宏司, 杉山雄大, 北畑裕之, 浜松晶彦, 沢辺元司, 松田陽子, 野中敬介, 柿崎元恒, 新井富生. 高齢者の致死性AMI症例における冠状責任プラークでのプラーク内新血管と出血. 第106回日本病理学会総会. 東京, 4月27-29日, 2017.
 16. 秋山美知子, 松田陽子, 新井富生, 佐伯秀久. 粘膜メラノーマと皮膚のメラノーマの病理組織学的比較・検討. 第106回日本病理学会総会. 東京, 4月27-29日, 2017.
 17. 松田陽子. ワークショップ 病理学的治療効果判定の現状と今後の展望 膵癌における術前放射線化学療法の治療効果判定. 第106回日本病理学会総会. 東京, 4月27-29日, 2017.
 18. 松川美保, 松田陽子, 新井富生, 古川徹, 西村誠, 藤井悠子. EUS-FNA検体を利用した次世代シーケンサーによる膵嚢胞性腫瘍の遺伝子解析. 第93回日本消化器内視鏡学会総会. 大阪, 5月11-13日, 2017.
 19. 白幡浩人, 松田陽子, 今泉雅之, 江坂四季音, 木下真由美, 鈴木明美, 浜島裕理, 西村誠, 新井富生. EUS-FNAによる悪性リンパ腫診断の有用性. 第58回日本臨床細胞学会総会春期大会, 大阪, 5月27日, 2017. (ポスター演題優秀賞受賞)
 20. 江坂四季音, 松田陽子, 浜島裕理, 今泉雅之, 白幡浩人, 木下真由美, 鈴木明美, 西村誠, 新井富生. 画像診断にてIPMNが疑われた通常型膵癌2例のEUS-FNA細胞像. 第58回日本臨床細胞学会総会春期大会. 大阪, 5月28日, 2017.
 21. 松田陽子, 江坂四季音, 今泉雅之, 浜島裕理, 木下真由美, 白幡浩人, 松川美保, 鈴木明美, 西村誠, 新井富生. 膵臓の結節性および嚢胞性病変のEUS-FNA検体の細胞診像-組織像, 画像との対比の有用性. 第58回日本臨床細胞学会総会春期大会, 大阪, 5月28日, 2017.

●学会発表・研究会発表

1. Yoko Matsuda, Naotaka Izumiyama, Mutsunori Fujiwara, Naoshi Ishikawa, Junko Aida, Kaiyo Takubo, Toshiyuki Ishiwata, Tomio Arai. Telomere shortening in pancreatic cancer is correlated to KRAS mutation. Annual meeting of American Association for Cancer Research. Washington, DC, 4月1-5日, 2017.
2. 上田善文, 洪澤麻実, 進士誠一, 松田陽子, 杉本直俊, 石渡俊行, 佐藤守俊. 2光子顕微鏡生体内イメージングによる免疫を込みにしたがん浸潤転移の動態解明 大腸上皮がん浸潤の観察. 第106回日本病理学会総会. 東京, 4月27-29

14. 新井富生. International symposium. Pathological diagnosis of esophageal adenocarcinoma (EAC): The Japanese viewpoint. 第71回日本食道学会総会, 軽井沢, 6月15日, 2017.
15. 松田陽子, 西村誠, 中里徹矢, 田久保海誉, 石渡俊行, 木村理, 古川徹, Mino-Kenudson Mari, 新井富生. 膵嚢胞性腫瘍(IPMNを除く)に対する診断と治療の現状 膵嚢胞性病変と結節性病変の病理組織学的検討. 第48回日本膵臓学会総会. シンポジウム. 京都, 7月14-15日, 2017.
16. 新井富生, 大倉康男, 八尾隆史, 根本哲生, 河内洋, 眞能正幸, 向所賢一, 渡邊 玄, 柳澤昭夫. 臓器別シンポジウム13「それぞれの癌」: 診断・治療の現状と展望 - 食道 - 食道扁平上皮癌・腺癌の病理診断: 最近の話題. 第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 7月21日, 2017.
17. 石山泰三, 両角愛, 大川庭熙, 石川譲治, 武田和夫, 坪光雄介, 藤本肇, 原田和昌, 増田義重, 新井富生. 心不全で入院加療中に感染症によるDICを発症した高齢者の一例. 第66回日本老年医学会関東甲信越地方会. 川越, 9月30日, 2017.
18. 松田陽子, 三野-Kenudson真理, 谷内田真一, 古川徹, 田久保海誉, 石渡俊行, 木村理, 新井富生. 病理解剖症例における早期膵癌および非浸潤病変の臨床病理学的特徴の検討. 第76回日本癌学会学術総会. 横浜. 9月28-30日, 2017.
19. 上田善文, 進士誠一, 松田陽子, 新井富生, 相田順子, 石渡俊行. 免疫を有するマウスにおける悪性リンパ腫の大腸の粘膜層への浸潤・転移巣形成の動態可視化法の確立. 第76回日本癌学会学術総会. 横浜. 9月28-30日, 2017.
20. 児島宏哉, 木下真由美, 木曾有里, 浜島裕理, 江坂四季音, 白幡浩人, 今泉雅之, 鈴木明美, 松田陽子, 本間尚子, 新井富生. 男性乳腺非浸潤性乳管癌の一例. 第31回関東臨床細胞学会学術集会, さいたま, 9月30日, 2017.
21. 石渡俊行, 吉村久志, 松田陽子, 石川直, 田久保海誉, 新井富生, 相田順子. 膵癌における長鎖non-coding RNA, H19の発現と治療標的としての可能性. 第3回がんゲノム・エピゲノムセミナー, 札幌, 10月7日, 2017.
22. 松田陽子, 石渡俊行, 石川直, 相田順子, 田久保海誉, 新井富生. 膵臓の老化と発癌. 第3回がんゲノム・エピゲノムセミナー, 札幌, 10月7日, 2017.
23. 藤井悠子, 西村誠, 武村拓也, 剛崎有加, 松岡順子, 松川美保, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子, 松田陽子, 新井富生. 悪性リンパ腫亜分類診断に対するEUS-FNAの有用性. 第93回日本消化器内視鏡学会総会. 大阪, 11月11-13日, 2017.
24. 新井富生, 松田陽子, 関敦子, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行. (B 演説) 大腸腫瘍とそれに関連するマイクロサテライト不安定性を示す大腸癌の病理学的特徴. 第63回日本病理学会秋期特別総会, 東京, 11月3日, 2017.
25. 柿崎元恒, 松田陽子, 湯村和子, 野中敬介, 関敦子, 橋靖子, 板橋美津世, 武井卓, 新井富生. 顕微鏡的多発血管炎の診断13年後に間質性肺炎の急性増悪をきたし死亡した一例. 第22回日本血管病理研究会. 東京11月11日, 2017.
26. 今泉雅之, 浜島裕理, 江坂四季音, 白幡浩人, 木下真由美, 児島宏哉, 木曾有里, 鈴木明美, 西村 誠, 松田陽子, 新井富生. EUS-FNAで推定し得た神経内分泌腫瘍5例の細胞像. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 福岡, 11月18日, 2017.
27. 木曾有里, 鈴木明美, 浜島裕理, 木下真由美, 白幡浩人, 今泉雅之, 江坂四季音, 児島宏哉, 野中敬介, 相田順子, 倉田盛人, 松田陽子, 新井富生. 甲状腺内に認められた胸腺腫の一例. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 福岡, 11月18日, 2017. (ポスター演題優秀賞受賞)
28. Yoko Matsuda, Atsuko Seki, Keisuke Nonaka, Mototsune Kakizaki, Tan Wang, Naoshi Ishikawa, Junko Aida, Kaiyo Takubo, Toshiyuki Ishiwata, Tomio Arai. Clinicopathological Characteristics of Recurrent Pancreatic Cancer: Analysis of Autopsies. 48th Annual Meeting of the American Pancreatic Association. San Diego, 11月8-11日, 2017.
29. 藤井悠子, 西村誠, 廣田旭亮, 武村拓也, 松川美保, 潮靖子, 松田陽子, 新井富生, 上垣佐登子. Cap polyposis様の内視鏡像を呈したサイトメガロウイルス腸炎の1例. 第105回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京, 12月9-10日, 2017.
30. 廣田旭亮, 西村誠, 武村拓也, 藤井悠子, 松川美保, 潮靖子, 松田陽子, 新井富生, 上垣佐登子. 大腸病変を呈した高齢者におけるHenoch-Schonlein紫斑病の一例. 第105回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京, 12月9-10日, 2017.
31. Tomio Arai. Pathological diagnosis of adenocarcinoma of the esophagogastric junction. *In*, Symposium 1 "Diagnosis and treatment of esophagogastric junction cancer: current status". 第90回日本胃癌学会総会, 横浜, 3月8日, 2018.
32. Tan Wang, Yoko Matsuda, Atsuko Seki, Keisuke Nonaka, Mototsune Kakizaki, Junko Aida, Kaiyo Takubo, Toshiyuki Ishiwata,

Heike I Grabsch, Tomio Arai. Mutation of KRAS and BRAF genes and microsatellite status in gastric cancer in the elderly. 第90回日本胃癌学会総会, 横浜, 3月9日, 2018.

33. Yoko Matsuda, Motohiro Kojima, Yuki Fukumura, Kenichi Hirabayashi, Hiroshi Yamaguchi, Toshiyuki Ishiwata, Tomio Arai, Mari Mino-Kenudson. Concordance of tumor regression grade after neoadjuvant therapy for locally advanced/borderline resectable pancreatic cancer (LA-PDAC). The 107th Annual Meeting of the United States and Canadian Academy of Pathology. Vancouver, 3月17-23日, 2018.
34. Yoko Matsuda. Age related changes of the pancreas. The 11th Japan-Korea Gastrointestinal Pathology Seminar, Busan, 3月24日, 2018.
35. Tomio Arai. Pathological diagnosis of esophageal adenocarcinoma. The 11th Japan-Korea Gastrointestinal Pathology Seminar, Busan, 3月24日, 2018.

●講師等院外活動（講演・放送等）

1. 新井富生. 高齢者がんの病理学的特徴. 第6回日本比較病理研究会 2018.3.3, 東京（日本獣生命科学大学）

●報告書

1. 新井富生. 第9章 病理組織検査. 平成29年度第36回東京都衛生検査所精度管理事業報告書, 東京都健康安全研究センター精度管理室（編）, 東京都福祉保健局医療政策部, 東京, pp206-231, 2018.

薬剤科

●雑誌投稿

1. 瀧川正紀 : Time-dependent alterations of vancomycin-induced nephrotoxicity in mice. Biological and Pharmaceutical Bulletin. 2017;40 (7):975-983. 2017年

●講演会等

1. 森淑子 : 「そのお薬、飲み合わせ大丈夫？（多剤併用の安全性について）」. 知って安心、健康食品と薬の正しい知識. 東京都健康長寿医療センター, 11月11日, 2017年
2. 島崎良知 : 高齢者専門病院におけるポリファーマシー活動の現状と課題について. 東京都病院薬剤師会会員実務研究会. 新宿住友スカイラー

△Room 6・7・8, 11月16日, 2017年

●学会発表

1. 島崎良知 : 高齢者専門病院の耐性菌に対する薬剤師の役割. 第1回老年薬学会学術集会. 都市センターホテル, 5月, 2017年
2. 島崎良知 : ポリファーマシーの現状調査と今後の展望. 第59回老年医学会学術集会. 名古屋国際会議場, 6月, 2017年
3. 瀧川正紀 : Vancomycin-induced nephrotoxicity in mice. 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology 2017. 国立京都国際会館, 9月, 2017年
4. 早船美保子 : 当センターにおける腎機能低下患者への注射薬剤の適正使用に関する実態調査. 第11回日本腎臓薬物療法学会学術集会. 福岡国際会議場, 9月, 2017年
5. 早船美保子 : 当センターにおける病棟薬剤師の入退院に係る疑義照会の実態調査. 第21回医療薬学会年会. 幕張メッセ他, 11月, 2017年
6. 木内佳那子 : 病棟担当薬剤師の栄養に関する意識調査と疑義照会内容の現状調査. 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会. パシフィコ横浜他, 3月, 2018年
7. 平山晶子 : 当院の超高齢非弁膜症性心房細動患者に対するリバーロキサバンの使用状況調査. 日本薬学会第138年会. 石川県立音楽堂他, 3月, 2018年
8. 瀧川正紀 : ビタミンC によるバンコマイシン誘発薬剤性腎障害の予防効果. 日本薬学会第138年会. 石川県立音楽堂他, 3月, 2018年
9. 早船美保子 : 当センターにおける薬剤師の腎機能低下時の薬剤適正使用への関わり. 日本薬学会第138年会. 石川県立音楽堂他, 3月, 2018年

栄養科

●学会・研究会発表

1. 引地和佳子、笹原みさと、齋藤尚子、田中春奈、幸田留美子、羽根田千恵、府川則子、金丸晶子 第21回日本病態栄養学会「経口摂取開始チャート導入による変化」
2. 伊藤真紀、羽根田千恵、赤川順子、齋藤輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎 第40回日本造血細胞移植学会「同種造血幹細胞移植患者への栄養食事指導～独居高齢者2症例を通して」

●講師等院外活動（講演）

1. 羽根田千恵：板橋区健康教育講座「食事から考
える糖尿病予防」講師 平成29年11月27日

●単行書・参考書

1. 著者：荒木厚、府川則子、羽根田千恵、西元博
子、西郷友香
60歳からの血糖コントロールごはん
女子栄養大学出版部

臨床研究推進センター

●雑誌論文

1. Mori, S., Zhou, H., Yamaga, M., Takemoto, M., Yokote, K.: Femoral osteoporosis is more common than lumbar osteoporosis in patients with Werner syndrome. *Geriatr. Gerontol. Int.*, **17**: 854-856, 2017
2. Honma, N., Saji, S., Mikami, T., Yoshimura, N., Mori, S., Saito, Y., Murayama, S., Harada, N.: Estrogen-related factors in the frontal lobe of Alzheimer's disease patients and importance of body mass index. *Sci. Rep.*, **7**(1): 726, 2017
3. Tanisawa, K., Arai, Y., Hirose, N., Shimokata, H., Yamada, Y., Kawai, H., Kojima, M., Obuchi, S., Hirano, H., Yoshida, H., Suzuki, H., Fujiwara, Y., Ihara, K., Sugaya, M., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Sato, N., Muramatsu, M., Higuchi, M., Liu, Y.W., Kong, Q.P., Tanaka, M.: Exome-wide association study identifies CLEC3B missense variant p.S106G as being associated with extreme longevity in east Asian populations. *J. Gerontol. A. Biol. Sci. Med. Sci.*, **72**: 309-318, 2017
4. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of five genetic variants as novel determinants of type 2 diabetes mellitus in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget*, **8**: 80492-80505, 2017
5. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of TNFSF13, SPATC1L, SLC22A25, and SALL4 as novel susceptibility loci for atrial fibrillation by an exome-wide association study. *Mol. Med. Rep.*, **16**: 5823-5832, 2017
6. Tamura, Y., Kimbara, Y., Yamaoka, T., Sato, K., Tsuboi, Y., Kodera, R., Chiba, Y., Mori, S., Fujiwara, Y., Tokumaru, A. M., Ito, H., Sakurai, T., Araki, A.: White matter hyperintensity in elderly patients with diabetes mellitus is associated with cognitive impairment, functional disability, and a high glycoalbumin/glycohemoglobin ratio. *Front Aging Neurosci.*, **9**: 220, 2017
7. Nishi, K., Luo, H., Nakabayashi, K., Doi, K., Ishikura, S., Iwahara, Y., Yoshida, Y., Tanisawa, K., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Muramatsu, M., Tanaka, M., Sakata, T., Shirasawa, S., Tsunoda, T.: An alpha-kinase 2 gene variant disrupts F-actin localisation in the surface of colorectal cancer spheroids. *Anticancer Res.*, **37**: 3855-3862, 2017
8. Zaw, K.T.T., Sato, N., Ikeda, S., Thu, K.S., Mieno, M.N., Arai, T., Mori, S., Furukawa, T., Sasano, T., Sawabe, M., Tanaka, M., Muramatsu, M.: Association of ZFH3 gene variation with atrial fibrillation, cerebral infarction, and lung thromboembolism: an autopsy study. *J. Cardiol.*, **70**: 180-184, 2017
9. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of C21orf59 and ATG2A as novel determinants of renal function-related traits in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Oncotarget*, **8**: 45259-45273, 2017
10. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of 12q24.1, ACAD10, and BRAP as novel genetic determinants of blood pressure in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Oncotarget*, **8**: 43068-43079, 2017
11. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of eight genetic variants as novel determinants of

- dyslipidemia in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget*, **8**: 38950-38961, 2017
12. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of rs7350481 at chromosome 11q23.3 as a novel susceptibility locus for metabolic syndrome in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget*, **8**: 39296-39308, 2017
 13. Dechamethakun, S., Sato, N., Ikeda, S., Sawabe, M., Mori, S., Yamada, Y., Tanaka, M., Muramatsu, M., Arai, T.: Association of macrophage capping protein (CAPG) Arg335His polymorphism and cancer susceptibility in the elderly Japanese. *J. Gerontol. Geriatr. Res.*, **6(2)**: 417, 2017
 14. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of six polymorphisms as novel susceptibility loci for ischemic or hemorrhagic stroke by exome-wide association studies. *Int. J. Mol. Med.*, **39**: 1477-1491, 2017
 15. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Yoshida, H., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of EGFLAM, SPATC1L, and RNASE13 as novel susceptibility loci for aortic aneurysm in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Int. J. Mol. Med.*, **39**: 1091-1100, 2017
 16. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of STXBP2 as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget*, **8**: 33527-33535, 2017
 17. Matsuda, Y., Tanaka, M., Sawabe, M., Mori, S., Muramatsu, M., Naka-Mieno, M., Furukawa, T., Arai, T.: Relationship between pancreatic intraepithelial neoplasias, pancreatic ductal adenocarcinomas, and single nucleotide polymorphisms in autopsied elderly patients. *Genes Chromosomes Cancer*, **57**: 12-18, 2018
 18. Tanisawa, K., Hirose, N., Arai, Y., Shimokata, H., Yamada, Y., Kawai, H., Kojima, M., Obuchi, S., Hirano, H., Suzuki, H., Fujiwara, Y., Ihara, K., Taniguchi, Y., Shinkai, S., Sugaya, M., Highuchi, M., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Sato, N., Muramatsu, M., Tanaka, M.: Inverse association between height-increasing alleles and extreme longevity in Japanese women. *J. Gerontol. A. Biol. Sci. Med. Sci.*, **73**: 588-595, 2018
- 総説
1. 森聖二郎：血中IGFBP-1は骨粗鬆症性骨折の新規バイオマーカーか？ 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (80), 4, 2017
 2. 森聖二郎：総合診療医に求める骨粗鬆症の診療、内分泌専門医の立場から. *Gノート*, 4 (1), 101-107, 2017
 3. 森聖二郎：低アルブミン血症では骨粗鬆症のリスクが高い. 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (81), 27, 2017
 4. 森聖二郎：サルコペニアは脆弱性骨折のリスクファクターか？ 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (81), 27, 2017
 5. 森聖二郎：骨の老化. 老化と生体恒常性. *CLINICAL CALCIUM*, 27, 917-923, 2017
 6. 森聖二郎：老化細胞を死滅させると寿命が延長する？ 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (82), 31, 2017
 7. 森聖二郎：高齢男性では動物性蛋白摂取が大腿骨近位部骨折の予防に有効. 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (83), 31, 2017
 8. 森聖二郎：骨粗鬆症とdipeptidyl-peptidase 4 (DPP4)の密接な関係. 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (83), 31, 2017
 9. 森聖二郎：巻頭言 -和文原著論文の存在意義-. *日本臨床栄養学会雑誌*, 39 (4), 223, 2018
 10. 森聖二郎：高齢男性の転倒には低テストステロン血症も関係している？ 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (84), 27, 2018
 11. 森聖二郎：ウェルナー症候群. 産科と婦人科, 印刷中
- 学会・研究会発表
1. 周赫英, 森聖二郎, 山賀政弥, 竹本稔, 小寺玲美, 田村嘉章, 千葉優子, 荒木厚, 井藤英喜, 横手幸太郎：ウェルナー症候群に合併する骨粗鬆症の

臨床的特徴に関する研究, 第59回日本老年医学
会学術集会・総会, 名古屋, 2017.6.16

●講師等院外活動(講演・放送等)

1. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生
講義「臨床医学各論: 栄養障害と肥満、メタボ
リック症候群」平成29年4月21日(東京)
2. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生
講義「臨床医学各論: 糖尿病の発症機序」平成
29年4月28日(東京)
3. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生
講義「臨床医学各論: 糖尿病と合併症」平成29
年5月12日(東京)
4. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生
講義「臨床医学各論: 脂質代謝と脂質代謝異常
症」平成29年5月26日(東京)
5. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生
講義「臨床医学各論: 加齢性疾患、骨粗鬆症」
平成29年6月2日(東京)
6. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生
講義「臨床医学各論: 内分泌疾患」平成29年6月
30日(東京)
7. 森聖二郎: 気仙沼市医師会附属高等看護専門学
校講義「甲状腺疾患と骨粗鬆症」平成29年11月
17日(気仙沼)
8. 森聖二郎: 気仙沼市医師会附属高等看護専門学
校講義「糖尿病と高脂血症」平成29年11月18日
(気仙沼)
9. 森聖二郎: 板橋看護専門学校講義「甲状腺疾患
と骨粗鬆症」平成29年12月1日(東京)
10. 森聖二郎: 板橋看護専門学校講義「糖尿病と高
脂血症」平成29年12月14日(東京)
11. 森聖二郎: 骨粗鬆症治療Updateセミナーin徳島
「生活習慣病診療における骨粗鬆症への対応」
平成29年8月31日(徳島)
12. 森聖二郎: 東京都内科医会講演会~健康寿命と
骨折予防セミナー「生活習慣病診療における骨
粗鬆症への対応」平成29年9月15日(東京)
13. 森聖二郎: 板橋健康福祉センター糖尿病予防講
座「正しい知識で予防しよう糖尿病」平成29年
11月20日(東京)
14. 森聖二郎: 第3回整形外科医のためのナレッジ
セミナー「内科医から見た骨粗鬆症診療の現状
と将来展望」平成29年11月30日(東京)

●単行書・報告書

1. 森聖二郎: 転倒, すぐに使える高齢者総合診療
ノート改訂第2版(日本医事新報社)(大庭建三
編集), 190-194, 2018
2. 森聖二郎: ウェルナー症候群に合併する骨粗鬆

症に関する最新知見. 平成29年度厚生労働科学
研究費補助金, 難治性疾患等政策研究事業, 早
老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研
究, 分担研究報告書.

臨床試験管理センター

●学会・研究会発表

吉岡まみ、嶋村眞壽美、橋本美和、木所宏彰、
森淑子、山田浩和: 被験者組み入れ促進のため
の疾患啓蒙活動に関する報告. 第17回CRCと臨
床試験のあり方を考える会議2017 in 名古屋

高齢者バイオリソースセンター

●雑誌論文

1. Zhao Y, Perera G, Takahashi-Fujigasaki J,
Mash DC, Vonsattel JPG, Uchino A, Hasegawa
K, Nichols RJ, Holton JL, Murayama S, Dzamko
N and Glenda M. Halliday GM. Reduced
LRRK2 in association with retromer
dysfunction in postmortem brain tissue from
LRRK2 mutation carriers. Brain 2018, 141(2):
486-495.
2. Kakuda N, Miyasaka T, Iwasaki N, Nirasawa
T, Wada-Kakuda S, Takahashi-Fujigasaki J,
Murayama S, Ihara Y, Ikegawa M: Distinct
deposition of amyloid- β species in brains with
Alzheimer's disease pathology visualized with
MALDI imaging mass spectrometry. Acta
Neuropathologica Communications, 2017, 5(1):
73.
3. Mano T, Nagata K, Nonaka T, Tarutani A,
Imamura T, Hashimoto T, Bannai T, Koshi-
Mano K, Tsuchida T, Ohtomo R, Takahashi-
Fujigasaki J, Yamashita S, Ohyagi Y,
Yamazaki R, Tsuji S, Tamaoka A, Ikeuchi T,
Saido CT, Iwatsubo T, Ushijima T, Murayama
S, Hasegawa M, Iwata A: Neuron-specific
methylome analysis reveals epigenetic
regulation and tau-related dysfunction of
BRCA1 in Alzheimer's disease. Proc Natl Acad
Sci, U.S.A. 2017, 114(45): E9645-E9654.
4. Uchino A, Ogino M, Takahashi-Fujigasaki J,
Oonuma S, Kanazawa N, Kajita S, Ichinoe M,
Hasegawa M, Nishiyama K, Murayama S:
Pathological and immunoblot analysis of
phosphorylated TDP-43 in sporadic amyotrophic
lateral sclerosis with pallido-nigro-luysian
degeneration. Neuropathology. 2018, 38(2):

- 171-178.
- Hara N, Kikuchi M, Miyashita A, Hatsuta H, Saito Y, Kasuga K, Murayama S, Ikeuchi T, Kuwano R: Serum microRNA miR-501-3p as a potential biomarker related to the progression of Alzheimer's disease. *Acta Neuropathol Commun.* 2017; 31; 5 (1) :10.
 - Honma N, Saji S, Mikami T, Yoshimura N, Mori S, Saito Y, Murayama S, Harada N: Estrogen-Related Factors in the Frontal Lobe of Alzheimer's Disease Patients and Importance of Body Mass Index. *Sci Rep.* 2017; 7 (1): 726.
 - Kokubo Y, Banack S. A, Morimoto S, Murayama S, Togashi T, Metcalf J. S, Cox P. A, Kuzuhara S: beta-N-methylamino-l-alanine analysis in the brains of patients with Kii ALS/PDC. *Neurol.* 2017; 89(10): 1091-2.

●総説等

- 村山繁雄, 齊藤祐子: IV. 神経系 1. 末梢神経. *病理と臨床*, 2017; 35(臨時創刊号): 61-70

●学会・研究会発表

- Murayama S, Sengoku R, Shibukawa M, Kanemaru K, Sato N, Yanagisawa K: Annual Report of Bibank of aging research, a joint project of Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology (TMGHIG) and National Center of Gerontology and Geriatrics (NCGG).
- Murayama S, Sengoku R, Takada T, Matsubara T, Yamazaki M, Kobayashi M, Sakashita Y, Shibukawa M, Morimoto S, Motoyama R, Hiroyoshi Y, Higashihara M, Nishina Y, Kanemaru K, Yanagisawa K, Saito Y: The Brain Bank for Aging Research Project, Tokyo, Japan. 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan, 2017.9. 16-21
- Takata T, Haraguchi T, Yokota O, Chiba Y, Kamada M, zDeguchi K, Ueno M, Masaki T, Murayama S: A neuropathological report of familial Amyotrophic lateral sclerosis with an R521S *FUS/TLS* mutation. 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan, 2017.9. 16-21
- 小幡真希, 死後脳提供ドナー登録者の意識調査研究, 日本心理臨床学会: 2017.11.18-21, 横浜
- 小幡真希, 畠山幸子, 松原知康, 坂下泰浩, 小林万希子, 山崎幹大, 高田忠幸, 東原真奈, 仙石鍊平, 仁科裕史, 広吉祐子, 森島真帆, 金丸和富,

古田光, 新井富生, 村山繁雄, 「ブレインバンク」ドナー登録者の意識－高齢遺族のグリーフケアのための予備的研究－, 日本認知症学会: 2017.11. 24-26, 金沢

高齢者健康増進センター

●雑誌論文

- Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi SP, Harada K, Kyo S, Ito H. Femoral muscle mass relates to physical frailty components in community-dwelling older people. *Geriatr Gerontol Int.* 2017 Oct;17(10): 1636-1641. doi: 10.1111/ggi.12945.
- Sugie M, Harada K, Takahashi T, Nara M, Ishikawa J, Koyama T, Kim H, Tanaka J, Fujimoto H, Obuchi S, von Haehling S, Kyo S, Ito H. Relationship between skeletal muscle mass and cardiac function during exercise in community-dwelling older adults. *ESC Heart Fail.* 2017 Nov;4(4):409-416. doi: 10.1002/ehf2.12158.
- Sugie M, Harada K, Takahashi T, Nara M, Ishikawa J, Tanaka J, Koyama T, Fujimoto H, Obuchi S, Kyo S, Ito H. Relationship between hand grip strength and peak VO2 in community-dwelling elderly outpatients. *JCSM clinical Reports.* 2017. doi: http://dx.doi.org/10.17987/jcsm-cr.v3i1.48
- Nara M, Sugie M, Takahashi T, Koyama T, Sengoku R, Fujiwara Y, Obuchi S, Harada K, Kyo S, Ito H. Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment cut-off score to clarify improvement of mild cognitive impairment after exercise training in community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int.* 2018 Feb 2. doi: 10.1111/ggi.13253.

●学会・研究会発表

- 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 奈良毬那, 河合恒, 藤本肇, 大淵修一, 小山照幸, 許俊鋭, 井藤英喜: (一般演題)「通院高齢者のフレイル対策を目的とする当センターの「高齢者健康増進センター」が開発したコンビネーション・トレーニングの包括的フレイルへの有効性」, 第59回日本老年医学会学術集会, 愛知, 6月16日, 2017.
- 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 奈良毬那, 小山照幸, 藤本肇, 大淵修一, 金憲経, 許俊鋭, 井藤英喜: (一般演題)「地域在住高齢者におけ

- るフレイル関連因子とpeak VO₂ t の関係」, 第59回日本老年医学会学術集会, 愛知, 6月16日, 2017.
3. 奈良毬那, 杉江正光, 高橋哲也, 大淵修一, 小山照幸, 原田和昌, 許俊鋭, 井藤英喜: (一般演題) 「地域在住高齢者の運動参加頻度がフレイル関連指標に及ぼす影響」, 第59回日本老年医学会学術集会, 愛知, 6月16日, 2017.
 4. 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 小山照幸, 大淵修一, 高橋哲也, 許俊鋭, 井藤英喜: (一般演題) 「フレイルサイクルにおけるMaxVO₂とフレイル (サルコペニア・カヘキシア) 関連因子との関係」, 第23回日本心臓リハビリテーション学術集会, 岐阜, 7月15日, 2017.
 5. 奈良毬那, 杉江正光, 高橋哲也, 小山照幸, 大淵修一, 原田和昌, 許俊鋭, 井藤英喜: (一般演題) 「四肢骨格筋量の変化は性、年齢、疾患を問わず大腿骨格筋量の変化に関連する」, 第23回日本心臓リハビリテーション学術集会, 岐阜, 7月15日, 2017.
 6. Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi S, Harada K, Kyo S, Ito H. Development of reference value on peak VO₂ for community-dwelling older Japanese. 23rd annual congress of Japanese Association of Cardiac Rehabilitation. July 2017, Gifu. 心臓リハビリテーション学会 23回大会 (2017年)
 7. Sugie M, Harada K, Takahashi T, Nara M, Ishikawa J, Koyama T, Fujimoto H, Kyo S, Ito H. The relationship between peak VO₂ and each frailty-related factor. - Insight into frailty cycle-. European Society of Cardiology. August 2017, Barcelona (Spain)
- スモデル確立支援事業) 「公的保険外サービスとしての「健康寿命延伸プログラム」事業FC展開に向けて 群馬県富岡市 11月8日2017年
5. 杉江正光: 健康寿命延伸プログラム～東京都健康長寿医療センターの取り組み～ 県西地域未病資源活用促進事業 (株式会社ガイドフォワード) 11月12日, 2017. 神奈川県小田原市
 6. 奈良毬那: 健康寿命総合評価の重要性とその臨床的意義について 県西地域未病資源活用促進事業 (株式会社ガイドフォワード) 11月12日, 2017. 神奈川県小田原市

●講師等院内活動(講演)

1. 杉江正光 A new trail of health promotion program for elderly outpatients with frailty. Ageing Asia Innovation Forum参加者対象講演 9月28日, 2017年

●講師等院外活動(講演)

1. 杉江正光: 高齢者のための不健康寿命予防セミナー もみの樹練馬 (大和ハウス) 10月26日, 2017. 東京都練馬区
2. 奈良毬那: 高齢者のための不健康寿命予防セミナー もみの樹練馬 (大和ハウス) 10月26日, 2017. 東京都練馬区
3. 杉江正光: 健康増進センターの必要性 平成29年度健康寿命延伸産業創出推進事業 (地域の実情に応じたビジネスモデル確立支援事業) 「公的保険外サービスとしての「健康寿命延伸プログラム」事業FC展開に向けて 群馬県富岡市 11月8日2017年
4. 奈良毬那: 健康寿命総合評価の重要性とその臨床的意義について 平成29年度健康寿命延伸産業創出推進事業 (地域の実情に応じたビジネ

■病院部門課題研究費で行われた研究

指定研究 ①重点医療(血管病、高齢者がん、認知症)に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
糖尿病・代謝・内分泌内科	田村 嘉章	荒木 厚・小寺 玲美・大庭 和人・豊島 堅志・千葉 優子・森 聖二郎・徳丸 阿耶・下地 啓五	DTI解析を用いた、高齢糖尿病患者の脳白質障害とサルコペニアの関連についての研究
病理診断科	関 敦子	新井 富生	高齢者急性心筋梗塞における冠動脈責任病変の病理像
精神科	扇澤 史子	古田 光・岡本 一枝・今村 陽子・白取 絹恵・畠山 啓・齋藤 久美子・筒井 卓実・松井 仁美・市橋 雅典・松本 健二・久保田 真由・栗田 圭一	認知症スクリーニングに寄与する簡便な記憶評価法についての検討:HDS-R・MMSE終了後の3語再生課題のAD、MCI、WNLの比較
呼吸器外科	日野 春秋	西村 隆・関 敦子・新井 富生	高齢者間質性肺炎の臨床病理学的検討～急性増悪の予防・治療、肺癌合併のリスクファクター解明への取り組み～
循環器内科	石川 譲治	鳥羽 梓弓・二見 崇太郎・田中 旬・荒木 厚・原田 和昌	フレイル患者の至適血圧レベルに関する研究
腎臓内科	武井 卓	板橋 美津世	高齢者における推定糸球体濾過量の評価
循環器内科	青山 里恵	原田 和昌・武田 和大・石川 譲治・藤本 肇・坪光 雄介	脂質代謝異常への介入による短期及び長期血圧変動と冠動脈プラーク性状への影響について
循環器内科	藤本 肇		左主管部を責任病変とする高齢狭心症患者に対する経皮的冠動脈形成術の安全性と有効性についての検討
心臓外科	眞野 暁子	西村 隆・河田 光弘・村田 知洋	補助人工心臓(VAD)装着患者における脳出血に対する乾燥人血液凝固第IX因子複合体(PPSB-HT)のワーファリン作用拮抗効果に関する研究

指定研究 ②高齢者急性期医療の提供に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
麻酔科	廣瀬 佳代	小倉 信・金澤 伸郎・高橋 正時・日野 春秋・粕谷 豊・新井 富生	病的肺における肺血管張力調節因子としてのフォスフォジエステラーゼ
歯科口腔外科	森 美由紀	平野 浩彦	当院における抗血栓療法患者の抜歯後出血における検討

指定研究 ③地域連携の推進に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
リハビリテーション科	加藤 貴行	金丸 晶子・菅原 康宏・本田 拓也・河地 由恵・中嶋 梨江・板倉 彩・太田 隆	地域高齢者を対象とした運動レクササイズDVD教材(「ホームレクササイズ2015」)の生活場面での活用方法の検討

指定研究 ⑤安心かつ信頼できる質の高い医療に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
膠原病リウマチ科	杉原 毅彦	石崎 達郎・馬場 洋行	日本における高齢者関節リウマチ患者の前向き観察研究 一関節破壊進行の危険因子の解析、生物学的製剤の適応と有効性安全性の評価一

指定研究 ⑥患者サービスの一層の向上に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
高齢者バイオリソース	小幡 真希	村山 繁雄・新井 富生・高田 忠幸・松原 知康・金丸 和富・仁科 裕史・仙石 錬平・東原 真奈・古田 光	ブレインバンク事前同意登録を経て本登録した患者ご遺族の、グリーフケアに関する研究

萌芽的研究 独創的な発想に基づく挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
皮膚科	種井 良二	長谷川 康子	高齢者アトピー性皮膚炎の臨床的・病理組織学的研究
耳鼻咽喉科	大野 慶子	高橋 正時・西尾 綾子・新井 富生・松田 陽子・森 聖二郎	IgG4関連疾患の鼻粘膜病変の病態解析

Ⅱ 統 計

II 統 計

外来診療の状況

1. 診療科別外来患者数 …………… 216
2. 診療科・初診・再診別外来患者数 …………… 216
3. 外来初診予約時の状況 …………… 217
4. 救急患者取扱状況 …………… 219

入院退院の状況

5. 病床利用状況 …………… 220
6. 病床利用率 …………… 220
7. 月別入退院状況 …………… 221
8. 平均在院日数 …………… 221
9. 入院患者の年齢別内訳 …………… 222
10. 入院患者平均年齢（入院時） …………… 222
11. 地域別入院患者数 …………… 223
12. 退院者の在院期間 …………… 224

入院患者の死亡状況

13. 死亡者内訳及び剖検数 …………… 225
14. 年齢別死亡者数 …………… 226
15. 死亡原因別死亡者数 …………… 227
16. 死亡者の入院期間 …………… 227

部門別業務状況

17. 手術・麻酔件数 …………… 228
18. 疾病別手術件数 …………… 230
19. リハビリテーション取扱実績 …………… 234
20. 理学療法実施状況 …………… 235
21. 作業療法実施状況 …………… 235
22. 言語療法実施状況 …………… 235
23. 心理検査等取扱件数 …………… 235
24. 調剤実施状況 …………… 236
25. 製剤実施状況 …………… 236
26. 院外処方箋発行率 …………… 236
27. 薬品管理状況 …………… 237
28. 薬効別薬品使用比率（薬価） …………… 237
29. 麻薬取扱状況 …………… 238
30. 向精神薬・覚醒剤原料取扱業務 …………… 239
31. 外来服薬指導実施状況 …………… 239
32. 外来がん患者指導業務 …………… 239
33. 病棟業務実施状況 …………… 240
34. 無菌製剤（抗がん剤・TPN・末梢点滴混注）
処方箋取扱数 …………… 240
35. 医薬品情報業務 …………… 240

36. 輸血用血液およびアルブミン製剤取扱状況 … 241
37. 病理学的業務実施状況 …………… 242
38. 研究検査実施状況 …………… 243
39. 放射線部門取扱数 …………… 244
40. 給食実施状況 …………… 246
41. 再加工及び禁止・個人対応食の状況 …… 246
42. 個人栄養食事指導実施状況 …………… 247
43. 集団栄養食事指導実施状況 …………… 247
44. 在宅看護相談室の看護実施状況 …………… 248
45. 在宅酸素療法実績 …………… 249
46. 在宅人工呼吸療法実績 …………… 249
47. 病歴取扱状況 …………… 250
48. 医療相談室相談件数 …………… 251

診療費の収入状況

49. 診療実績 …………… 253
50. 診療実績：前年度比較 …………… 254
51. 診療実績（入院） …………… 256
52. 診療実績（外来） …………… 257
53. 入院患者（入院時）保険種別内訳 …… 258
54. 外来患者（新患）保険種別内訳 …… 259

経営分析

55. 退院患者の疾患内訳
（ICD10コードによる大分類） …………… 260
56. 退院患者の悪性新生物患者数内訳
（ICD10コードによる中分類） …………… 266

外来診療の状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位：人)

1. 診療科別外来患者数

※「婦人科」は休診中のため実績なし。

診療科	総合診療科	感染症内科	腎臓内科	内分泌・代謝内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	神経内科・脳卒中科	血液内科	化学療法科	緩和ケア内科	膠原病・リウマチ科	精神科	物忘れ外来	血管外科	心臓外科	脳神経外科	呼吸器外科	整形外科	脊椎外科	皮膚科	泌尿器科	婦人科	眼耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外科	リハビリテーション科	骨粗鬆症外来	フレイル外来	放射線診療科	救急科	合計	
外来患者数	2,854	1,213	6,737	16,089	33,357	9,372	15,458	15,265	4,193	2,610	1,053	8,812	7,274	1,883	2,198	1,293	3,605	663	11,499	4,245	9,164	13,988	0	18,087	8,031	1,457	12,731	4,193	3,739	570	3,274	5,608	238,600
延診療日数	244	96	196	2,444	244	244	244	244	194	195	244	244	216	244	148	148	244	148	244	46	193	195	0	244	244	145	244	220	148	244	488	365	293
1日平均数	11.7	12.6	34.4	6.6	136.7	38.4	63.4	62.6	21.6	134	4.3	36.1	33.7	7.7	14.9	8.7	14.8	4.5	47.1	92.3	47.5	71.7	0.0	74.1	32.9	100	52.2	19.1	25.3	2.3	6.7	15.4	814.3

※「フレイル外来」としては平成27年10月より計上している。

2. 診療科・初診・再診別外来患者数

診療科	総合診療科	感染症内科	腎臓内科	内分泌・代謝内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	神経内科・脳卒中科	血液内科	化学療法科	緩和ケア内科	膠原病・リウマチ科	精神科	物忘れ外来	血管外科	心臓外科	脳神経外科	呼吸器外科	整形外科	脊椎外科	皮膚科	泌尿器科	婦人科	眼耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外科	リハビリテーション科	骨粗鬆症外来	フレイル外来	放射線診療科	救急科	合計	比率(%)
初診	584	94	105	187	696	72	884	702	141	64	259	218	201	651	251	29	455	13	1,034	107	314	467	0	1,083	32	1,943	73	107	5	1,837	2,411	15,907	6.7
再診	2,270	1,119	6,632	15,902	32,661	9,300	14,574	14,563	4,052	2,546	794	8,594	7,073	1,232	1,947	3,150	650	10,465	4,138	8,850	13,521	0	17,004	7,444	10,788	4,120	3,632	565	1,437	3,197	222,693	93.3	
合計	2,854	1,213	6,737	16,089	33,357	9,372	15,458	15,265	4,193	2,610	1,053	8,812	7,274	1,883	2,198	1,293	3,605	663	11,499	4,245	9,164	13,988	0	18,087	8,031	14,577	4,193	3,739	570	3,274	5,608	238,600	100.0

年度別外来患者数の推移

年度	合計	初診再掲	1日当り
18年度	215,821	14,416	734
19年度	211,005	13,757	718
20年度	197,483	13,041	674
21年度	196,672	11,950	671
22年度	200,359	12,135	681
23年度	206,835	13,405	701
24年度	208,334	13,456	711
25年度	201,059	14,193	703
26年度	220,759	14,781	753
27年度	235,697	15,966	801
28年度	238,896	15,298	815
29年度	238,600	15,907	814

3. 外来初診予約時の状況

(1) 年齢別新規予約患者数

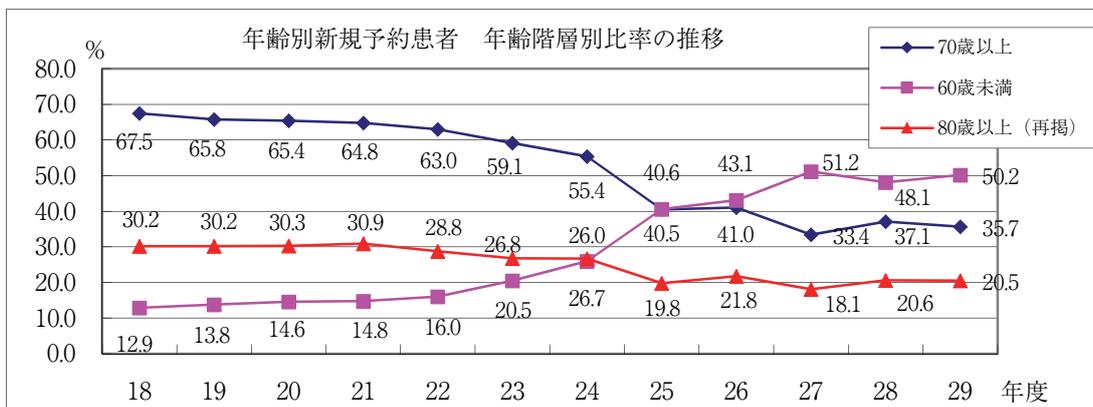
平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位：人)

区分 年齢階層	男	女	計
90歳以上	66	156	222
85～89歳	102	174	276
80～84歳	146	207	353
75～79歳	131	177	308
70～74歳	155	165	320
65～69歳	169	158	327
60～64歳	113	144	257
55～59歳	99	203	302
50～54歳	90	166	256
45～49歳	75	254	329
40～44歳	85	266	351
40歳未満	356	488	844
計	1,587	2,558	4,145

(2) 年齢別新規予約患者数の年度別推移

(上段：人、下段：比率%)

年度	60歳未満	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
18年度	954 12.9%	1,455 19.6%	2,763 37.3%	2,238 30.2%	7,410 100.0%
19年度	978 13.8%	1,441 20.4%	2,512 35.6%	2,134 30.2%	7,065 100.0%
20年度	935 14.6%	1,281 20.0%	2,256 35.2%	1,943 30.3%	6,415 100.0%
21年度	894 14.8%	1,229 20.4%	2,045 33.9%	1,863 30.9%	6,031 100.0%
22年度	991 16.0%	1,299 21.0%	2,110 34.2%	1,776 28.8%	6,176 100.0%
23年度	1,552 20.5%	1,536 20.3%	2,443 32.3%	2,022 26.8%	7,553 100.0%
24年度	2,233 26.0%	1,590 18.5%	2,463 28.7%	2,294 26.7%	8,580 100.0%
25年度	2,147 40.6%	996 18.8%	1,096 20.7%	1,047 19.8%	5,286 100.0%
26年度	1,852 43.1%	683 15.9%	827 19.2%	937 21.8%	4,299 100.0%
27年度	2,498 51.2%	752 15.4%	746 15.3%	883 18.1%	4,879 100.0%
28年度	1,845 48.1%	568 14.8%	631 16.5%	790 20.6%	3,834 100.0%
29年度	2,082 50.2%	584 14.1%	628 15.2%	851 20.5%	4,145 100.0%



(3) 新規予約患者の地域別患者数

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(1) 区部

区名	一般
千代田	3
中央	3
港	5
新宿	18
文京	36
台東	9
墨田	5
江東	7
品川	6
目黒	3
大田	7
世田谷	20
渋谷	5
中野	18
杉並	12
豊島	535
北	215
荒川	12
板橋	2,501
練馬	246
足立	24
葛飾	8
江戸川	9
区部計	3,707

(2) 市・郡・島しょ部

市名	一般
八王子	4
立川	1
武蔵野	2
三鷹	3
青梅	0
府中	3
昭島	3
調布	4
町田	3
小金井	2
小平	1
日野	5
東村山	1
国分寺	1
国立	0
福生	0
狛江	1
東大和	1
清瀬	1
東久留米	2
武蔵村山	0
多摩	1
稲城	0
羽村	0
あきる野	1
西東京	5
市部計	45
郡部	0
島しょ部	1
市・郡・島しょ部	46

(3) 他県

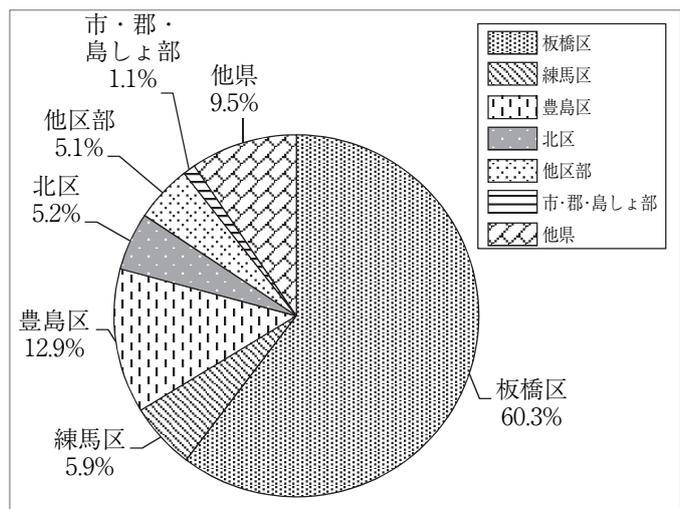
埼玉	200
神奈川	33
千葉	36
その他	123
他県計	392

総計	4,145
(1)+(2)+(3)	

新規予約患者の地域別患者数

平成29年4月1日～平成30年3月31日

地域	比率	人数
板橋区	60.3	2,501
練馬区	5.9	246
豊島区	12.9	535
北区	5.2	215
他区部	5.1	210
市・郡・島しょ部	1.1	46
他県	9.5	392
合計	100.0	4,145



(4) 新規予約患者の平均年齢

平成29年4月1日～平成30年3月31日

男	女	全体
59.1	58.1	58.5

4. 救急患者取扱状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位：人)

			総 数	
			うち入院	
全	時 間 内	救 急 車	1,536	856
		そ の 他	2,661	1,279
		計	4,197	2,135
体	時 間 外	救 急 車	2,961	1,558
		そ の 他	3,060	1,004
		計	6,021	2,562
計			10,218	4,697
休 日 (再 掲)	時 間 内	救 急 車	334	173
		そ の 他	637	137
		計	971	310
	時 間 外	救 急 車	507	257
		そ の 他	466	123
計			973	380
計			1,944	690

救急患者数の推移

(単位：人)

年 度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
総 数	8,672	8,174	7,802	7,305	6,607	7,365	8,012	7,974	9,200	10,102	9,860	10,218		
再 掲	入 院	4,373 (50.4)	4,031 (49.3)	3,872 (49.6)	3,444 (47.1)	3,105 (47.0)	3,587 (48.7)	3,799 (47.4)	3,507 (44.0)	4,293 (46.7)	4,709 (46.6)	4,492 (45.6)	4,697 (46.0)	
		救 急 車	3,534 (40.8)	3,357 (41.1)	3,258 (41.8)	2,906 (39.8)	2,618 (39.6)	2,971 (40.3)	3,447 (43.0)	3,434 (43.1)	3,986 (43.3)	4,371 (43.3)	4,399 (44.6)	4,497 (44.0)
			時 間 外	4,473 (51.6)	4,388 (53.7)	4,203 (53.9)	3,754 (51.4)	3,388 (51.3)	3,657 (49.7)	4,333 (54.1)	4,521 (56.7)	5,560 (60.4)	5,990 (59.3)	5,744 (58.3)
休 日	時 間 内	878	858	733	616	595	647	786	833	924	915	902	971	
		時 間 外	632	676	628	641	470	564	720	712	985	943	990	973
	計	1,510 (17.4)	1,534 (18.8)	1,361 (17.4)	1,257 (17.2)	1,065 (16.1)	1,211 (16.4)	1,506 (18.8)	1,545 (19.4)	1,909 (20.8)	1,858 (18.4)	1,892 (19.2)	1,944 (19.0)	

※ () は年度内の比率 (%) である。

入院退院の状況

5. 病床利用状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

診療科	項目	実稼働 病床数	延利用数	病床 利用率	入院者数	退院者数	死亡 (再掲)	病棟間移動		(再掲) 緊急入院	
								転入	転出		
		床	人	%	人	人	人	人	人	人	
総合診療科		13	4,975	153.7%	90	230	10	173	33	211	
感染症内科			2,604		40	155	8	123	10	147	
腎臓内科		10	3,988	109.3%	121	178	12	97	36	103	
糖尿病・代謝・内分泌内科		26	8,980	96.5%	235	519	14	322	41	324	
循環器内科		64	24,129	103.3%	1,396	1,659	64	350	92	940	
呼吸器内科		20	5,664	77.6%	256	368	22	125	20	164	
消化器内科		56	19,241	94.1%	2,021	2,502	62	562	83	726	
神経内科・脳卒中科		44	16,242	99.5%	589	871	25	355	83	604	
血液内科		26	7,129	75.1%	288	293	27	33	18	60	
化学療法科		10	3,481	95.4%	133	168	12	37	7	56	
緩和ケア内科		25	6,305	69.1%	196	265	217	70	2	108	
在宅医療連携病床		4	549	37.6%	47	43	0	0	6	0	
膠原病・リウマチ科		20	7,975	109.2%	255	359	17	127	16	175	
精神科		30	8,937	81.6%	244	257	2	15	6	39	
外科・血管外科		43	13,183	84.0%	1,021	1,121	20	77	73	227	
心臓外科		10	2,681	98.8%	48	69	9	28	10	31	
呼吸器外科			926		35	48	1	11	1	8	
脳神経外科		18	5,127	79.4%	317	348	17	64	35	235	
整形外科・脊椎外科		56	15,477	75.7%	717	738	1	44	33	218	
皮膚科		8	2,704	92.6%	148	162	2	23	11	67	
泌尿器科		12	3,338	76.2%	336	357	5	31	10	50	
婦人科		0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	
眼科		16	4,179	71.6%	2,134	2,144	0	1	1	7	
耳鼻咽喉科		4	912	62.5%	125	127	0	3	1	51	
歯科口腔外科		2	335	45.9%	104	104	0	0	0	3	
リハビリテーション科		11	796	19.8%	37	47	1	17	5	11	
救急科		4	2,626	179.9%	2,202	58	17	6	2,144	132	
放射線診療科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S	C	U	6	(再掲) 946	-	(再掲) 171	(再掲) 14	(再掲) 5	(再掲) 50	(再掲) 203	-
I	C	U	8	(再掲) 2,300	-	(再掲) 386	(再掲) 58	(再掲) 51	(再掲) 559	(再掲) 888	-
計		550	172,483	85.9%	13,135	13,190	565	2,694	2,777	4,697	

※「婦人科」は休診中のため実績なし。

※科別病床利用率は年度内における病床数変更を勘案して計算している。

6. 病床利用率

算定病床	実稼働病床	550
	(実稼働病床×366日)	200,750
B 延入院患者数		172,483
B/A 病床利用率		85.9%

$$\text{〔病床回転率〕} = \frac{365 \text{日}}{\text{平均在院日数}} = \frac{365}{12.1} = 30 \text{ 回}$$

〔病床利用率の推移〕

年度	延入院患者数	病床利用率 %	
		予算定床	実稼働病床
18年度	207,477	88.0	85.9
19年度	211,153	89.3	87.2
20年度	198,613	86.4	85.0
21年度	184,179	-	88.7
22年度	182,937	-	88.2
23年度	178,414	-	85.7
24年度	175,572	-	84.5
25年度	160,888	-	79.7
26年度	162,276	-	80.8
27年度	173,510	-	86.2
28年度	175,503	-	87.4
29年度	172,483	-	85.9

7. 月別入退院状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位：人)

月別	入院	退院			月末在籍患者数	延入院患者数
		一般		計		
		退院	死亡			
4月	1,072	1,035	53	1,088	424	14,293
5月	1,027	994	41	1,035	416	13,924
6月	1,122	1,096	48	1,144	394	13,101
7月	1,035	970	38	1,008	421	13,643
8月	1,159	1,072	50	1,122	458	15,083
9月	1,043	1,082	39	1,121	380	14,341
10月	1,140	1,041	60	1,101	419	14,031
11月	1,153	1,105	48	1,153	475	14,148
12月	1,092	1,159	43	1,202	365	15,028
1月	1,146	963	50	1,013	498	15,407
2月	1,066	1,020	49	1,069	495	14,275
3月	1,080	1,143	47	1,190	385	15,209
計	13,135	12,680	566	13,246	-	172,483
比率(%)	-	95.7	4.3	100.0	-	-

入退院患者数の年度別推移

(単位：人)

年度	入院	退院		
		生存退院	死亡	計
18年度	10,648	10,193	507	10,700
19年度	9,978	9,507	447	9,954
20年度	9,346	8,916	470	9,386
21年度	8,816	8,916	405	9,321
22年度	9,013	8,609	414	9,023
23年度	9,150	8,760	414	9,174
24年度	9,494	9,098	396	9,494
25年度	9,569	9,145	447	9,592
26年度	11,576	11,112	456	11,568
27年度	13,053	12,512	517	13,029
28年度	13,179	12,642	539	13,181
29年度	13,135	12,680	566	13,246

8. 平均在院日数

平成29年4月1日～平成30年3月31日

※平均在院日数 = 24時在院患者延数 / ((新入院患者数 + 退院患者数) / 2)

年度	一般病棟	精神病棟	眼科(再掲)	リハビリ(再掲)	病院全体
18年度	17.9	36.6	3.2	44.9	18.4
19年度	19.5	48.0	3.3	45.6	20.2
20年度	19.7	43.5	2.8	49.2	20.2
21年度	19.2	51.7	2.1	46.8	19.9
22年度	18.7	41.6	2.0	51.1	19.3
23年度	17.9	38.6	1.8	42.5	18.5
24年度	17.0	36.5	1.8	48.0	17.5
25年度	15.1	32.7	1.7	48.4	15.8
26年度	12.3	31.6	0.9	37.5	13.0
27年度	11.7	30.6	0.9	29.8	12.3
28年度	11.4	32.0	1.0	24.9	12.3
29年度	10.9	34.5	1.0	17.8	12.1

※平成29年度の施設基準平均在院日数は **13.9日** である。(平成23年度より7対1の施設基準日数)

9. 入院患者の年齢別内訳

平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位：人)

年齢階層	区分	男	女	計
90歳以上		461	915	1,376
85～89		936	1,239	2,175
80～84		1,228	1,671	2,899
75～79		1,260	1,325	2,585
70～74		930	782	1,712
65～69		645	486	1,131
60～64		310	180	490
55～59		164	112	276
50～54		103	56	159
50歳未満		172	160	332
計		6,209	6,926	13,135

入院患者の年齢別内訳年度別推移

(単位：上段・人、下段・%)

年度	60歳未満	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
24年度	305 3.2	1,145 12.1	3,178 33.5	4,860 51.2	9,488 100.0
25年度	356 3.7	1,177 12.3	3,326 34.8	4,693 49.1	9,552 100.0
26年度	501 4.3	1,308 11.3	4,117 35.6	5,650 48.8	11,576 100.0
27年度	669 5.1	1,538 11.8	4,428 33.9	6,418 49.2	13,053 100.0
28年度	723 5.5	1,755 13.3	4,163 31.6	6,538 49.6	13,179 100.0
29年度	767 5.8	1,621 12.3	4,297 32.7	6,450 49.1	13,135 100.0

10. 入院患者平均年齢（入院時）

平成29年4月1日～平成30年3月31日

男	女	計
76.2	79.1	77.7

11. 地域別入院患者数

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：人)

(1) 区部

区名	一般
千代田	2
中央	5
港	2
新宿	42
文京	95
台東	11
墨田	5
江東	12
品川	3
目黒	5
大田	12
世田谷	48
渋谷	5
中野	77
杉並	39
豊島	1,466
北	699
荒川	32
板橋	7,836
練馬	1,634
足立	49
葛飾	14
江戸川	14
区部計	12,107

(3) 他県

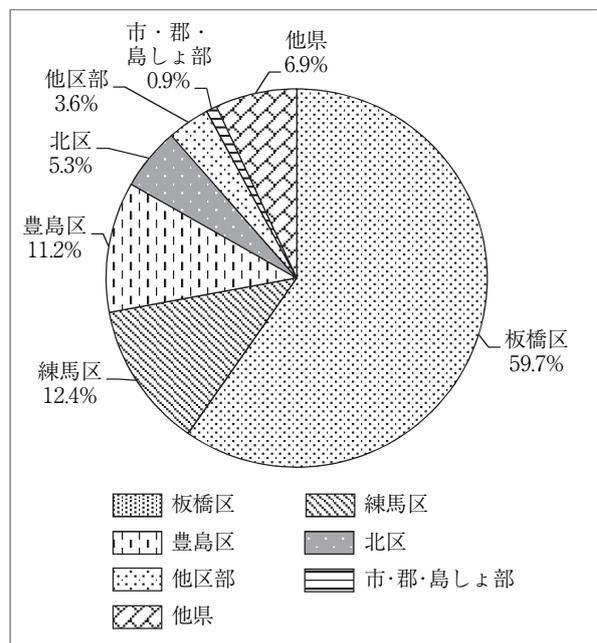
埼玉	679
神奈川	46
千葉	56
その他	126
他県計	907

(2) 市・郡・島しょ部

市名	一般
八王子	4
立川	1
武蔵野	11
三鷹	1
青梅	3
府中	5
昭島	5
調布	4
町田	5
小金井	2
小平	2
日野	10
東村山	6
国分寺	2
国立	0
福生	0
狛江	2
東大和	1
清瀬	12
東久留米	11
武蔵村山	0
多摩	4
稲城	0
羽村	0
あきる野	3
西東京	22
市部計	116
郡部	0
島しょ部	5
市・郡・島しょ部	121

総計	13,135
(1)+(2)+(3)	

地域	比率	人数
板橋区	59.7	7,836
練馬区	12.4	1,634
豊島区	11.2	1,466
北区	5.3	699
他区部	3.6	472
市・郡・島しょ部	0.9	121
他県	6.9	907
合計	100.0	13,135



12. 退院者の在院期間

平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位：人)

	内科系	リハビリ	外科系			歯科口腔外科	救急科	計	比率 (%)
			一般外科	眼科	外科計				
30日以下	6,707	33	2,531	2,144	4,675	104	50	11,569	87.7%
31日以上～60日以下	979	12	371	0	371	0	0	1,362	10.3%
61日以上～90日以下	145	1	47	0	47	0	0	193	1.5%
91日以上～180日以下	43	1	19	0	19	0	0	63	0.5%
181日以上～365日以下	0	0	1	0	1	0	0	1	0.0%
366日以上	0	0	2	0	2	0	0	2	0.0%
合 計	7,874	47	2,971	2,144	5,115	104	50	13,190	100.0%
比 率 (%)	59.7%	0.4%	22.5%	16.3%	38.8%	0.8%	0.4%	100.0%	-

退院者の在院期間年度別推移

(上段：人・下段：割合)

年 度	30日以下	31～60日	61日以上	計
18年度	8,502	1,578	620	10,700
	79.5%	14.7%	5.8%	100.0%
19年度	7,641	1,670	643	9,954
	76.8%	16.8%	6.5%	100.0%
20年度	7,164	1,723	696	9,583
	74.8%	18.0%	7.3%	100.0%
21年度	6,732	1,442	581	8,755
	76.9%	16.5%	6.6%	100.0%
22年度	7,035	1,361	566	8,962
	76.9%	16.5%	6.6%	100.0%
23年度	7,271	1,373	530	9,174
	78.5%	15.2%	6.3%	100.0%
24年度	7,619	1,419	454	9,492
	80.3%	14.9%	4.8%	100.0%
25年度	7,931	1,242	414	9,587
	82.7%	13.0%	4.3%	100.0%
26年度	10,068	1,241	259	11,568
	87.0%	10.7%	2.2%	100.0%
27年度	11,439	1,336	254	13,029
	87.8%	10.3%	1.9%	100.0%
28年度	11,540	1,362	279	13,181
	87.6%	10.3%	2.1%	100.0%
29年度	11,569	1,362	259	13,190
	87.7%	10.3%	2.0%	100.0%

入院患者の死亡状況

13. 死亡者内訳及び剖検数

平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位：人)

項目 月	一般患者		救急外来患者		計		他病院からの 受入件数
	死亡者数	うち剖検数	死亡者数	うち剖検数	死亡者数	うち剖検数	剖検数
4月	53	4	2	0	55	4	1
5月	40	6	3	0	43	6	0
6月	48	3	5	0	53	3	1
7月	38	5	1	0	39	5	0
8月	50	7	2	0	52	7	1
9月	39	3	3	0	42	3	0
10月	60	7	6	0	66	7	0
11月	48	8	4	0	52	8	1
12月	43	1	3	0	46	1	2
1月	50	3	4	0	54	3	3
2月	49	5	3	0	52	5	1
3月	47	2	3	0	50	2	2
合計	565	54	39	0	604	54	12
剖検率	9.6%		0.0%		8.9%		

死亡者、死亡率の年度別推移

年 度	退院患者数 (人)	死亡退院 患者数 (人)	合計	死亡率 (%)
21年度	8,425	405	8,830	4.6%
22年度	9,023	407	9,430	4.3%
23年度	8,760	414	9,174	4.5%
24年度	9,098	396	9,494	4.2%
25年度	9,145	447	9,592	4.7%
26年度	11,112	456	11,568	3.9%
27年度	12,512	517	13,029	4.0%
28年度	12,642	539	13,181	4.1%
29年度	12,625	565	13,190	4.3%

$$\text{死亡率} = \frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{退院患者合計数 (死亡退院も含む)}} \times 100$$

14. 年齢別死亡者数

平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位：人)

区分 年齢階層	計	比率
60歳未満	26	4.6%
60～64	13	2.3%
65～69	38	6.7%
70～74	51	9.0%
75～79	93	16.5%
80～84	122	21.6%
85～89	116	20.5%
90歳以上	106	18.8%
計	565	100.0%
平均年齢	80.5	

死亡者の平均年齢の推移

年度	計
18年度	81.4
19年度	82.0
20年度	82.0
21年度	82.3
22年度	81.6
23年度	82.3
24年度	82.0
25年度	80.6
26年度	80.4
27年度	80.3
28年度	79.8
29年度	80.5

年齢別死亡者数の推移

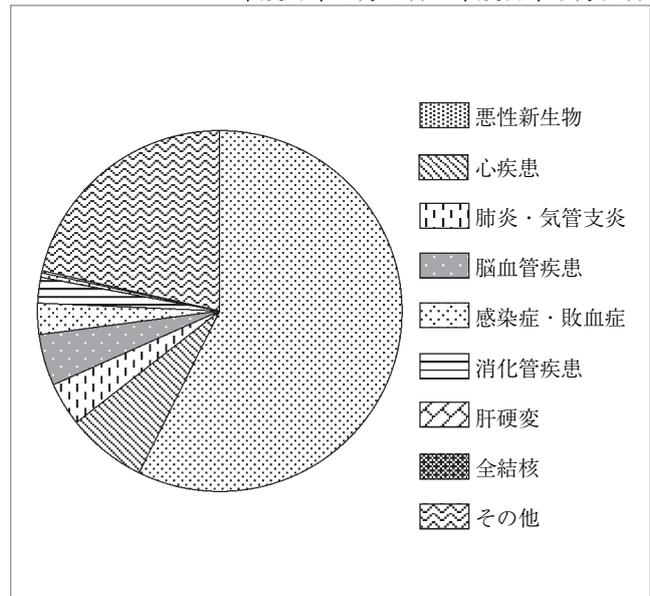
(単位：人)

年度	60歳未満		60～69歳		70～79歳		80歳以上		計	
18年度	4	0.8%	29	5.6%	169	32.5%	318	61.2%	520	100.0%
19年度	5	1.1%	32	6.7%	122	25.7%	288	60.6%	447	100.0%
20年度	7	1.5%	35	7.4%	133	28.0%	300	63.2%	475	100.0%
21年度	1	0.2%	27	6.5%	122	29.4%	265	63.9%	415	100.0%
22年度	9	2.2%	29	6.9%	105	25.1%	275	65.8%	418	100.0%
23年度	10	2.4%	29	7.0%	99	23.9%	276	66.7%	414	100.0%
24年度	14	3.6%	24	6.1%	95	24.2%	260	66.2%	393	100.0%
25年度	17	3.8%	45	10.0%	104	23.2%	282	62.9%	448	100.0%
26年度	20	4.4%	45	9.9%	115	25.2%	276	60.5%	456	100.0%
27年度	24	4.6%	51	9.9%	136	26.3%	306	59.2%	517	100.0%
28年度	30	5.6%	65	12.1%	110	20.4%	334	62.0%	539	100.0%
29年度	26	4.6%	51	9.0%	144	25.5%	344	60.9%	565	100.0%

15. 死亡原因別死亡者数

死因	死亡者数	比率 (%)
悪性新生物	324	57.3
心疾患	40	7.1
肺炎・気管支炎	22	3.9
脳血管疾患	26	4.6
感染症・敗血症	16	2.8
消化管疾患	13	2.3
肝硬変	2	0.4
全結核	1	0.2
その他	121	21.4
計	565	100.0

平成29年4月1日～平成30年3月31日



死亡原因比率の年度別推移

(単位：%)

死亡原因 \ 年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
悪性新生物	39.2	38.4	37.6	30.4	39.4	27.1	30.8	44.3	44.9	50.7	54.7	57.3
肺炎・気管支炎	20.1	19.2	22.2	11.6	7.9	7.7	6.8	7.1	7.2	11.8	7.6	3.9
心疾患	8.9	9.9	9.7	10.9	10.3	10.1	12.4	8.2	9.1	9.7	6.5	7.1
脳血管疾患	10.4	9.6	5.7	8.8	7.0	7.2	7.3	4.7	4.8	1.9	4.1	4.6
計	78.6	77.1	75.2	61.7	64.6	52.1	57.3	64.3	66	74.1	72.9	72.9

16. 死亡者の入院期間

(単位：人)

期間	計	比率
1日	26	4.6%
2日～7日	125	22.1%
8日～1ヶ月	252	44.6%
～3ヶ月	144	25.5%
～6ヶ月	16	2.8%
～1年	1	0.2%
～3年	1	0.2%
3年以上	0	0.0%
計	565	100.0%
平均在院期間	25.0	-

部門別業務状況

17. 手術・麻酔件数

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：人)

診療科		月 別												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
手術 件数	外科	52	41	54	44	39	43	40	42	55	44	54	31	539
	血管外科	18	19	27	20	17	18	25	30	33	24	22	26	279
	脳神経外科	15	20	26	9	17	18	19	20	19	23	23	32	241
	整形外科	35	33	26	28	36	18	35	26	27	26	27	24	341
	脊椎外科	12	11	12	8	11	11	10	9	10	11	11	14	130
	泌尿器科	22	21	24	15	28	19	20	20	21	21	19	31	261
	婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	眼科	190	214	228	162	170	143	178	191	146	169	182	167	2,140
	耳鼻咽喉科	6	6	5	8	9	8	10	3	6	12	4	9	86
	麻酔科	2	0	0	0	0	0	1	0	2	3	3	0	11
	精神科	32	26	37	29	33	21	24	31	36	11	16	13	309
	循環器科	13	6	5	7	10	8	16	7	13	12	11	8	116
	心臓外科	9	4	1	10	10	6	9	6	10	6	7	8	86
	呼吸器外科	4	2	3	4	6	1	6	5	3	4	2	2	42
	歯科口腔外科	0	1	1	0	0	0	1	2	0	2	0	2	9
	皮膚科	6	5	5	4	3	4	2	5	7	4	4	5	54
	消化器内科	2	1	2	1	0	1	1	0	2	1	1	2	14
	神経内科	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3
その他	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	5	
計		418	411	457	349	392	319	397	397	392	373	387	374	4,666
麻酔 件数	全身(吸入)	40	40	46	36	41	50	67	42	50	48	53	67	580
	全身(TIVA)	39	31	41	36	33	22	28	27	38	19	22	19	355
	全身(吸入)+	28	18	18	19	23	24	21	28	26	28	35	16	284
	全身(TIVA)+ 硬・脊・伝	10	11	12	9	14	2	5	3	4	3	6	4	83
	硬膜外(CSEA)	5	4	1	0	3	1	3	3	1	1	0	2	24
	硬膜外	2	0	0	1	0	0	0	0	4	0	2	0	9
	脊髄	33	27	27	23	39	25	29	25	23	24	22	18	315
	伝達	1	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	5
	局所	258	275	305	221	229	193	242	262	239	245	246	248	2,963
	その他	1	4	7	3	7	1	1	6	2	3	1	0	36
	計		417	410	457	348	390	318	397	396	389	371	387	374

※中央手術室での取扱件数(人)

※「婦人科」は休診中のため実績なし。

緊急手術・緊急麻酔件数 (再掲)

(単位：人)

診療科		月 別												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
緊急手術件数	外科	10	4	4	3	3	3	6	4	9	5	6	5	62
	血管外科	0	0	3	1	1	0	0	2	0	2	0	0	9
	脳神経外科	7	9	9	0	4	6	6	6	9	8	10	7	81
	整形外科	1	2	0	1	0	0	2	1	0	1	2	1	11
	脊椎外科	2	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	5
	泌尿器科	3	0	1	1	2	0	1	0	0	2	1	1	12
	婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	眼科	0	0	1	2	2	1	0	2	0	0	0	0	8
	耳鼻咽喉科	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	4
	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	循環器科	1	1	0	0	1	2	4	0	1	1	1	0	12
	心臓外科	2	2	0	0	3	1	2	2	3	3	2	1	21
	呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消化器内科	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		26	20	18	9	16	14	24	18	24	22	22	15	228
麻酔件数	全身(吸入)	9	11	3	3	4	5	8	3	12	9	13	6	86
	全身(TIVA)	0	0	0	0	1	0	1	2	0	1	1	0	6
	全身(吸入)+硬・脊・伝	4	1	1	1	2	0	2	2	0	1	1	0	15
	全身(TIVA)+硬・脊・伝	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	硬膜外(CSEA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	硬膜外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	脊髄	1	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	5
	伝達	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	局所	11	8	14	6	8	9	10	10	12	10	7	9	114
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		26	20	18	10	15	14	24	17	25	22	22	15	228

※「婦人科」は休診中のため実績なし。

18. 疾病別手術件数

平成29年1月1日～平成29年12月31日

外 科

部位	術式	件数	部位	術式	件数	
乳腺	悪性 乳房切除	23	肝・胆・膵	悪性 肝切除術（転移）	1	
胃・十二指腸	悪性 胃全摘術（残胃全摘含む）	10		胆嚢・胆管癌切除（含肝切除）	1	
	胃切除術	20		膵全摘術・体尾部切除術	3	
	腹腔鏡下胃切除	9	良性	胆嚢摘出術（開腹）	26	
	ESD	4		胆嚢摘出術（腹腔鏡）	27	
	GIST 腹腔鏡下胃切除	1		ヘルニア	鼠径ヘルニア根治術	82
	LECS（腹腔鏡・内視鏡合同手術）	3			大腿ヘルニア根治術	4
潰瘍 切除術、大網充填等	5	腹壁（瘢痕）ヘルニア根治術	5			
小腸	腸閉塞 小腸切除術	10	その他	腹腔鏡ヘルニア下根治術	7	
	癒着剥離術	2		閉鎖孔ヘルニア根治術	3	
	腹腔鏡下小腸切除	2		CVポート挿入術	22	
虫垂	虫垂炎 虫垂切除術	21		内視鏡下胃瘻造設	36	
	腹腔鏡下虫垂切除	4		局麻手術など	54	
結腸・直腸	悪性 結腸切除術	30	計		520	
	腹腔鏡下切除術	44	緊急手術 : 60例			
	（低位）前方切除術	10				
	腹腔鏡下前方切除術	6				
	腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術	5				
	良性 腹腔鏡下結腸切除術	2				
結腸切除・人工肛門造設・閉鎖	26					
肛門	直腸脱手術	6				
	内痔核	6				

脳神経外科（中央手術室、血管撮影室で行われた手術）

脳脊髄腫瘍	4 件	慢性硬膜下血腫	54 件
脳動脈瘤・脳動静脈奇形（開頭術）	3	外傷性疾患(血腫除去)	5
脳出血・脳梗塞（開頭術）	3	シャント・ドレナージ	9
頸動脈狭窄（頸動脈内膜剥離術）	1	脳血管バイパス術	1
脳動脈瘤ほか（血管内手術）	33	その他	9
頸動脈狭窄（血管内治療）	26	計	172 件
その他の血管内治療（急性期再開通）	24		

脳動脈瘤の血管内手術がほぼ倍増し、血管内治療は脳外科手術の48%を占めた。

皮膚科（中央手術室で行われた手術）

皮膚良性腫瘍切除術	39 件	その他	5 件
皮膚悪性腫瘍切除術	10		
		計	54 件

・皮膚悪性腫瘍切除術の対象疾患は有棘細胞癌、基底細胞癌、ボーエン病が多かった。

皮膚科（中央手術室以外で行われた手術）

皮膚良性腫瘍切除術	8 件	皮膚生検	65 件
皮膚悪性腫瘍切除術	0	その他	1
		計	74 件

整形外科（中央手術室で行われた手術） 平成29年4月1日～平成30年3月31日

大腿骨頸部骨折	
骨接合術	57
人工骨頭置換術	36
小計	93 件

その他の骨折	57 件 (手外科関連23件)
--------	--------------------

人工関節手術	
人工膝関節	88
人工膝関節（単顆型）	0
人工股関節	60
人工肩関節	0
小計	148 件

脊椎関連手術	
（頰椎）	28
（胸椎）	5
（腰椎）	68
（経皮的後弯矯正術）	6
（椎体生検）	2
小計	109 件

手外科手術	
手根管症候群	33
肘部管症候群	2
神経剥離・移植	1
腫瘍切除	6
デュプイトレン拘縮	0
腱	3
骨折	23
胸郭出口症候群	0
ばね指	5
その他	1
小計	74 件

デブリドマン	16 件
その他	17 件

計 491 件

泌尿器科（中央手術室で行われた手術）

膀胱癌	46 件	副腎腫瘍（原発性アルドステロン）	1 件
前立腺癌	11	精巣腫瘍	2
膀胱結石	2	前立腺生検	67
前立腺肥大	25	間質性膀胱炎膀胱水圧拡張術	2
腎腫瘍	6	尿管ステント交換	71
尿道カルンクラ	1	尿道狭窄	3
腎盂尿管腫瘍	9	精索腫瘍	1
尿管狭窄	9	背面切開	1
腎嚢胞	3	環状切除術	4
陰嚢水腫	3	膀胱結石碎石術	1
包茎	1	その他	5
尿管結石	17		
尿道狭窄	2		
腎盂尿管鏡	4		
腎瘻増設術	5		
逆行性腎盂造影	5		
		計	307 件

婦人科

婦人科は休止中のため、実績なし。

眼科（中央手術室で行われた手術）

白内障関連	1,650 件
硝子体関連	95 件
緑内障関連	13 件
外眼部関連	76 件
硝子体注射関連	336 件
計	2,170 件

眼科（中央手術室以外で行われた手術）

マルチカラーレーザー	310 件
ヤグレーザー	175 件
計	485 件

耳鼻咽喉科（中央手術室で行われた手術件数）

鼓室形成術	20 件	喉頭微細手術	7 件
乳突削開術	6	甲状腺腫瘍摘出術（含む悪性）	4
鼓膜形成術	2	耳下腺腫瘍摘出術（含む悪性）	1
内耳窓閉鎖術	2	頸部郭清術	1
外耳道腫瘍摘出術	1	中咽頭悪性腫瘍摘出術	1
内視鏡下鼻内手術	25	顎下腺腫瘍摘出術	3
粘膜下鼻甲介切除術	4	口腔悪性腫瘍手術（舌を含む）	1
鼻中隔矯正術	4	その他	1
頸部リンパ節生検	7		
気管切開術	11		
口蓋扁桃摘出術	10	計	111 件

耳鼻咽喉科（中央手術室以外で行われた手術）

鼓膜切開術	65 件
外耳道異物除去術	10
鼓膜チューブ挿入術	30
鼻腔粘膜焼灼術	25
計	130 件

平成29年4月1日～平成30年3月31日

歯科口腔外科（中央手術室で行われた手術）

顎骨嚢胞摘出術	6 件
良性腫瘍摘出術	1
埋伏抜歯術	1
計	8 件

歯科口腔外科（中央手術室以外で行われた手術）

抜歯術	699 件
難抜歯（智歯含む）	226
ドレナージ	19
その他	41
計	985 件

19. リハビリテーション取扱実績

平成29年4月1日～平成30年3月31日

項 目		患者数（人）	1ヶ月平均	
訓 練 内 訳	理 学 療 法 (P T)	入 院	27,426	2,286
		外 来	402	34
		計	27,828	2,319
	作 業 療 法 (O T)	入 院	11,283	940
		外 来	455	38
		計	11,738	978
	言 語 療 法 (S T)	入 院	4,999	417
		外 来	699	58
		計	5,698	475
	心 理 療 法	入 院	4,849	404
		外 来	887	74
		計	5,736	478
訓 練 計	入 院	48,557	4,046	
	外 来	2,443	204	
	計	51,000	4,250	
補 装 具 製 作	製 作	45	4	
	修 理	33	3	
	計	78	7	

20. 理学療法実施状況

		入院	外来	計
脳血管	人数	7,780	178	7,958
	単位	14,308	348	14,656
	加算	10,461		10,461
廃用	人数	2,362	2	2,364
	単位	4,204	4	4,208
	加算	2,513		2,513
運動器	人数	9,232	64	9,296
	単位	20,375	139	20,514
	加算	16,214		16,214
呼吸器	人数	1,981	2	1,983
	単位	3,596	2	3,598
	加算	2,703		2,703
心大血管	人数	4,439	156	4,595
	単位	8,235	351	8,586
	加算	6,262		6,262
がん患者	人数	1,035		1,035
	単位	1,671		1,671
緩和ケア	人数	597		597
	単位	809		809
患者数		27,426	402	27,828
単位数		53,198	844	54,042
早期加算件数		38,153		38,153

21. 作業療法実施状況

		入院	外来	計
脳血管	人数	6,302	240	6,542
	単位	11,353	496	11,849
	加算	8,659		8,659
廃用	人数	1,059	0	1,059
	単位	1,954	0	1,954
	加算	1,127		1,127
運動器	人数	1,504	215	1,719
	単位	3,215	533	3,748
	加算	2,033		2,033
呼吸器	人数	761	0	761
	単位	1,431	0	1,431
	加算	962		962
心大血管	人数	578	0	578
	単位	816	0	816
	加算	641		641
がん	人数	215		215
	単位	383		383
	加算	0		0
緩和	人数	864		864
	単位	1,551		1,551
	加算	0		0
患者数		11,283	455	11,738
単位数		20,703	1,029	21,732
早期加算件数		13,422		13,422

22. 言語療法実施状況

		入院	外来	計
脳血管	件数	4,122	699	4,821
	単位	6,702	1,606	8,308
	加算	5,238	2	5,240
廃用	件数	641	0	641
	単位	892		892
	加算	589		589
がん	件数	80		80
	単位	119		119
摂食嚥下	件数	156		156
合計件数		4,999	699	5,698
合計単位数		7,713	1,606	9,319

23. 心理検査等取扱件数

(単位：件)

項目	入院	外来	合計
知能検査（極複雑）	2	10	12
知能検査（複雑）	46	14	60
知能検査（容易）	341	93	434
人格検査（極複雑）	0	0	0
人格検査（複雑）	0	0	0
人格検査（容易）	0	0	0
その他の心理検査（極複雑）	5	0	5
その他の心理検査（複雑）	325	315	640
その他の心理検査（容易）	11	7	18
検査 計	730	439	1,169
心身医学療法	0	0	0
合計	730	439	1,169

24. 調剤実施状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

1 処方箋枚数	区 分	入院	外来	合計
	院内処方箋枚数	131,746	4,535	136,281
	院外処方箋枚数		137,824	137,824
	小計	131,746	142,359	274,105
	院外処方箋発行率		96.8%	
	注射処方箋枚数	93,563	11,054	104,617
	合計	225,309	153,413	378,722

2 調剤数		2-(1)処方調剤		入 院		外 来		合 計	
		区 分	件数	剤数	件数	剤数	件数	剤数	
内 用	散剤	17,916	123,939	252	3,587	18,168	127,526		
	錠剤	213,879	1,563,026	6,365	84,874	220,244	1,647,900		
	水剤	3,659	18,057	1,507	2,378	5,166	20,435		
	頓服	38,304	61,082	967	5,353	39,271	66,435		
	小 計	273,758	1,766,104	9,091	96,192	282,849	1,862,296		
外 用	湿布・含嗽・吸入・洗淨	12,085	77,846	390	7,748	12,475	85,594		
	軟膏・散剤・坐剤	16,041	316,013	325	6,491	16,366	322,504		
	点眼耳鼻剤	9,399	43,515	67	311	9,466	43,826		
	小 計	37,525	437,374	782	14,550	38,307	451,924		
注射剤（在宅注射等）		6	39	0	0	6	39		
計		311,289	2,203,517	9,873	110,742	321,162	2,314,259		
2-(2)注射処方せんによる調剤									
個人セット調剤		283,482	524,765	15,402	25,725	298,884	550,490		
調剤計		594,771	2,728,282	25,275	136,467	620,046	2,864,749		

25. 製剤実施状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

内 用	散 剤 500g	5,706 剤	外 用	軟 膏 500g	3,582 剤
	水 剤 500ml	2		点眼・耳鼻 5mlまたは5g	159
	頓 剤 1回分	26,128		小 計	4,306
	小 計	31,836	滅菌外用剤 50ml	11,300	
外 用	散 剤 500g	30	注 射 剤 50ml	118	
	水 剤 500ml	535	合 計	47,560	

26. 院外処方箋発行率

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度
院外処方箋枚数	129,978	136,104	139,757	137,824
外来処方箋総枚数	133,904	140,650	144,221	142,359
院外処方箋発行率 (%)	97.1%	96.8%	96.9%	96.8%

27. 薬品管理状況

(1) 採用薬品品目数

平成29年4月1日～平成30年3月31日

区分	26年度	27年度	28年度	29年度
注射薬	505	552	566	578
内用薬	703	722	712	735
外用薬	264	265	261	256
その他	0	0	0	0
計	1,472	1,539	1,539	1,569

※ 緊急購入薬品は含まない

※ 平成22年度より薬価未収載薬品も含め、保険薬事典に準じた区分とする。

(2) 薬品入出庫状況

区分	26年度	27年度	28年度	29年度
入庫件数	20,677	22,955	23,930	23,214
出庫件数	280,154	286,463	279,411	273,360

28. 薬効別薬品使用比率（薬価）

平成29年4月1日～平成30年3月31日

薬効名	金額（薬価）	比率（%）
精神神経用剤	55,104,013.00	3.8%
循環器用剤	58,730,792.00	4.0%
呼吸器用剤	10,389,421.00	0.7%
消化器用剤	29,265,445.00	2.0%
外皮用剤	5,686,639.00	0.4%
ビタミン剤	3,947,358.00	0.3%
滋養強壮剤	18,486,052.00	1.3%
血液・体液用剤	141,225,089.00	9.6%
抗悪性腫瘍剤	475,326,033.00	32.4%
抗生物質・抗菌剤	120,106,194.00	8.2%
生物学的製剤	142,154,248.00	9.7%
その他	408,887,240.00	27.8%
合計	1,469,308,524.00	100%

29. 麻薬取扱状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

区分	品名	単位	26年度	27年度	28年度	29年度
注射薬	オピスタン注 35mg	A	33	26	8	0
	ペチジン塩酸塩注射液 35mg	A	0	0	5	8
	塩酸モルヒネ注 10mg	A	708	1,058	780	407
	塩酸モルヒネ注 50mg	A	1,240	789	452	586
	塩酸モルヒネ注 200mg	A	0	602	1,871	891
	フェンタニル注 0.1mg	A	8,438	8,789	9,801	8,091
	アルチバ静注用 2mg	V	923	1,076	936	1,197
	オキファスト注 10mg	A	1,718	2,349	1,276	1,659
	オキファスト注 50mg	A	557	1,137	1,488	1,313
	ケタラール静注用 50mg	A	652	461	342	78
	ケタラール静注用 200mg	V	0	0	0	0
	ケタラール筋注用 500mg	V	9	15	72	27
内用剤	アブストラル舌下錠 100 μ g	T	35	260	401	504
	アブストラル舌下錠 200 μ g	T	40	332	208	392
	MSコンチン錠 10mg	T	1,477	2,368	1,538	1,088
	MSコンチン錠 30mg	T	202	161	785	329
	オキシコンチン錠 5mg	T	3,727	8,651	7,438	9,953
	オキシコンチン錠 20mg	T	573	799	2,753	1,874
	オキシコンチン錠 40mg	T	-	140	1,073	1,506
	オプソ内服液 5mg	包	3,547	1,106	687	425
	オプソ内服液 10mg	包	-	80	880	205
	タペンタ錠 25mg	T	-	194	46	0
	タペンタ錠 100mg	T	-	294	66	0
	メサペイン錠 5mg	T	-	231	258	274
	メサペイン錠 10mg	T	-	-	-	1,599
	ナルサス錠 2mg	T	-	-	-	105
	ナルサス錠 12mg	T	-	-	-	21
	ナルサス錠 24mg	T	-	-	-	47
	ナルラビド錠 4mg	T	-	-	-	30
	オキノーム散 2.5mg	包	1,856	2,561	3,136	3,689
	オキノーム散 5mg	包	2,174	1,639	2,507	1,382
	オキノーム散 10mg	包	143	189	264	927
オキノーム散 20mg	包	123	126	1,691	438	
モルペス細粒 2% (10mg0.5g)	包	0	80	0	70	
コカイン塩酸塩	g	0	0	0	0	
コデインリン酸塩散 10%	g	421	588	491.9	528	
モルヒネ塩酸塩水和物	g	0	2	4.28	0	
モルヒネ塩酸塩水和物 1%	g	13.5	24.1	297.8	15.0	
外用剤	アンペック坐剤 10mg	個	181	16	28	151
	デュロテップMTパッチ 2.1mg	枚	25	62	28	11
	デュロテップMTパッチ 4.2mg	枚	15	45	36	0
	デュロテップMTパッチ 8.4mg	枚	0	19	-	-
	デュロテップMTパッチ 16.8mg	枚	0	-	-	-
	フェントステープ 1mg	枚	866	1,299	2,245	1,811
	フェントステープ 2mg	枚	696	710	930	1,438
フェントステープ 4mg	枚	224	391	456	357	

30. 向精神薬・覚醒剤原料取扱業務

平成29年4月1日～平成30年3月31日

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
向精神薬取扱件数	内用・外用	1,071	1,037	909	837	939
	注射	1,852	2,386	2,917	2,973	2,616
覚醒剤原料取扱件数	内用・外用	19	24	36	129	80

31. 外来服薬指導実施状況

(1) 月別患者数

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：人)

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
患者数	314	353	394	362	410	379	348	436	405	447	367	320	4,535

(2) 項目別相談件数

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：件)

総合相談	薬の変更	薬効	用法	副作用	院外説明	その他	合計
0	0	3,656	4,136	366	0	560	8,718

32. 外来がん患者指導業務

平成29年4月1日～平成30年3月31日

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
指導件数	48	55	43	37	63	58	63	67	60	64	56	57	671
がん患者指導管理料3算定件数	28	16	9	13	17	22	20	15	12	11	13	10	186
抗がん剤電話サポート件数	4	3	1	2	7	1	8	10	1	0	1	4	42

33. 病棟業務実施状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
服薬指導回数	1,687	1,735	1,788	1,523	1,847	1,662	1,752	1,636	1,716	1,572	1,542	1,940	20,400
薬剤管理指導料													
325点算定件数	574	535	564	489	622	585	649	546	542	474	470	525	6,575
380点算定件数	702	749	712	653	739	661	631	655	668	673	663	785	8,291
麻薬加算件数	21	42	32	21	19	25	22	17	9	19	10	29	266
退院時薬剤情報管理 指導料算定件数	296	282	306	289	289	326	316	310	317	238	295	355	3,619

*薬剤管理指導実施病棟：

ICU/CCU、SCU

5東（心臓外科、呼吸器外科、循環器内科）

5西（循環器内科）

6東（整形外科、脊椎外科）

6西（地域包括ケア病棟、総合内科、リハビリテーション科、在宅医療連携）

7東（眼科、外科）

7西（外科、血管外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科）

8東（膠原病・リウマチ科、消化器内科）

8西（消化器内科）

9東（呼吸器内科、総合診療科、感染症内科）

9西（腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科）

10東（脳神経外科、皮膚科、歯科口腔外科、神経内科、脳卒中科）

10西（神経内科、脳卒中科）

11東（精神科）

11西（血液内科、化学療法科、輸血・免疫療法科）

12階（緩和ケア内科）

34. 無菌製剤（抗がん剤・TPN・末梢点滴混注）処方箋取扱数

(位：枚)

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度
枚数	6,789	7,461	6,839	7,416

35. 医薬品情報業務

(単位：件)

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度
情報収集件数	1,901	1,139	711	553
情報提供件数	264	887	832	739
情報誌発行件数	0	5	5	5
薬事委員会取扱件数	599	463	405	371

36. 輸血用血液およびアルブミン製剤取扱状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

製 剤 名	取扱数(延べ)	取扱数(実数)	使用数	使用率(%)
赤血球濃厚液	7,591	6,681	6,663	99.7
洗浄赤血球	0	0	0	0.0
新鮮凍結血漿	2,317	1,839	1,783	97.0
濃厚血小板	14,195	14,085	14,075	99.9
HLA適合血小板	345	335	335	100.0
自己血	387	389	312	80.2
輸血用血液 合計	24,835	23,329	23,168	99.3
5%アルブミン (本)	589	627	574	91.5
20%アルブミン (本)	1,356	1,350	1,313	97.3
25%アルブミン (本)	2	2	2	100.0
アルブミン製剤 合計	1,947	1,979	1,889	95.5

- ・輸血用血液は200mlを1単位として算出した。
- ・各製剤ごとの使用数の比較では、赤血球製剤および新鮮凍結血漿5%減、自己血は5%増加がみられた。
- ・高張アルブミン製剤を25%→20%に変更したことにより、全アルブミン製剤の使用グラム数は33%減の20,330gであった。

37. 病理学的業務実施状況

(1) 病理解剖

項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
件数	59	77	63	82	66
作製ブロック数 (個)	2,972	4,343	4,348	5,125	7,339
ガラス標本数 (枚)	7,878	10,652	12,090	12,076	21,662
肉眼・顕微鏡写真 (枚)	2,383	3,315	4,721	4,525	5,406

・板橋ナーシングホーム内で死亡した患者分を含まない。平成28年度以前は神経病理分を含まない。

(2) 手術・生検組織学的検査

項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
件数	2,635	3,289	3,565	3,336	3,441
作製ブロック数 (個)	6,834	7,711	8,915	8,542	8,261
ガラス標本数 (枚)	16,195	18,815	21,232	20,396	26,366
肉眼・顕微鏡写真 (枚)	2,104	2,875	3,608	3,830	5,312

(3) 細胞診

項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
件数	1,505	1,401	1,627	1,757	1,798
ガラス標本数 (枚)	4,460	3,980	4,976	4,964	4,295
顕微鏡写真 (枚)	966	1,895	2,097	2,357	2,086

(4) 診療科別剖検率一覧 (暦年)

	平成25年			平成26年			平成27年			平成28年			平成29年		
循環器内科	5	/	56 (8.9%)	17	/	73 (23.3%)	9	/	65 (13.8%)	8	/	57 (14.0%)	10	/	64 (15.6%)
神経内科	10	/	34 (29.4%)	12	/	38 (31.6%)	8	/	33 (24.2%)	12	/	37 (32.4%)	6	/	25 (24.0%)
呼吸器内科	3	/	44 (6.8%)	3	/	51 (5.9%)	2	/	24 (8.3%)	3	/	50 (6.0%)	3	/	22 (13.6%)
消化器内科	3	/	41 (7.3%)	3	/	33 (9.1%)	4	/	57 (7.0%)	6	/	55 (10.9%)	5	/	62 (8.1%)
血液内科	4	/	21 (19.0%)	2	/	24 (8.3%)	4	/	30 (13.3%)	6	/	26 (23.1%)	4	/	40 (10.0%)
総合診療科・ 感染症内科	2	/	24 (8.3%)	2	/	20 (10.0%)	0	/	22 (0.0%)	3	/	16 (18.8%)	3	/	17 (17.6%)
糖尿病・ 内分泌内科	4	/	19 (21.1%)	2	/	18 (11.1%)	4	/	18 (22.2%)	4	/	12 (33.3%)	3	/	14 (21.4%)
緩和ケア科*				2	/	117 (1.7%)	0	/	190 (0.0%)	2	/	198 (1.0%)	5	/	217 (2.3%)
外科	0	/	28 (0.0%)	3	/	16 (18.8%)	4	/	23 (17.4%)	5	/	28 (17.9%)	0	/	21 (0.0%)
心臓外科*				6	/	6 (100.0%)	11	/	15 (73.3%)	10	/	13 (76.9%)	4	/	9 (44.4%)
脳外科*				4	/	14 (28.6%)	0	/	8 (0.0%)	2	/	13 (15.4%)	3	/	17 (17.6%)
泌尿器科*				3	/	8 (37.5%)	5	/	10 (50.0%)	3	/	5 (60.0%)	0	/	5 (0.0%)
その他	18	/	168 (10.7%)	4	/	26 (15.4%)	2	/	11 (18.2%)	3	/	17 (17.6%)	8	/	52 (15.4%)
院内合計	49	/	435 (11.3%)	63	/	444 (14.2%)	53	/	506 (10.5%)	67	/	527 (12.7%)	54	/	565 (9.6%)
総計**	59			77			63			82			66		

※「データは平成26年以降のみ」挿入

※総計には救急外来患者と外部医療機関からの委託解剖を含む。

38. 研究検査実施状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：件)

区分	検査名	総件数
一般	尿定性	31,820
	尿沈渣（鏡検）	21,606
	糞便検査	1,377
	穿刺液	479
	小計	55,282
血液	末梢血液一般	110,923
	血液像（鏡検）	35,839
	出血・凝固検査	34,076
	骨髓像検査	276
	細胞採取液（鏡検）	27
	穿刺液	234
	穿刺液（鏡検）	221
	その他（混和試験・凝集能等）	2
	小計	181,598
	臨床化学	128,133
	免疫血清	12,809
一般細菌	泌尿器系	2,856
	呼吸器系	3,205
	消化器系	770
	血液・骨髓血	6,245
	穿刺液	427
	その他の部位	905
迅速	尿中抗原	1,497
	インフルエンザ	1,987
抗酸菌	抗酸菌培養	1,401
	結核PCR	283
	MACPCR	316
	小計	19,892

区分	検査名	総件数
生理機能	心電図	23,033
	自律神経	605
	血圧脈波	3,201
	運動負荷	359
	肺機能	1,608
	SAS	91
	脳波	438
	筋・神経	234
	心エコー	6,871
	腹部エコー	2,909
機能	体表エコー	1,156
	頸動脈エコー	1,367
	血管エコー	2,084
	平衡機能	100
	耳鼻科	3,345
	小計	47,401

輸血	A B O 血液型	3,390
	交差（血液型）	2,942
	交差適合試験	3,336
	Coombs試験（直接）	218
	Coombs試験（間接）	182
	不規則抗体（血液型）	3,398
	不規則抗体（交差）	2,817
	小計	16,283

採血業務	(外来採血) 70,555
総件数	531,953

39. 放射線部門取扱数

平成29年4月1日～平成30年3月31日

区 分		患 者 数						件 数						保険点数
					再掲						再掲			
		計	入院	外来	ポータブル	時間外	デジタル	計	計	入院	外来	ポータブル	時間外	
単 純	(1)単純一般	53,703	23,411	30,292	12,324	7,483	0	129,947	44,660	85,287	19,664	14,363	0	0
	(2)断層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(3)MG法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(4)パノモ・セファロー	1,019	260	759	0	5	0	1,100	288	812	0	6	0	0
	(5)骨塩定量	2,976	377	2,599	0	0	0	8,214	1,019	7,195	0	0	0	0
	(6)その他	6,849	2,226	4,623	0	373	0	0	0	0	0	0	0	0
	(7)歯科	987	152	835	0	6	0	1,704	412	1,292	0	14	0	0
	(8)小計	65,534	26,426	39,108	12,324	7,867	0	140,965	46,379	94,586	19,664	14,383	0	0
造 影	(9)上部消化管	171	137	34	0	6	0	1,118	862	256	0	23	0	0
	(10)下部消化管	144	123	21	0	24	0	937	685	252	0	95	0	0
	(11)消化管小計	315	260	55	0	30	0	2,055	1,547	508	0	118	0	0
	(12)肝胆膵	263	260	3	0	15	0	1,553	1,542	11	0	68	0	0
	(13)腎膀胱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(14)脊髄造影	56	56	0	0	0	0	537	537	0	0	0	0	0
	(15)子宮卵管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(16)神経根ブロック	148	27	121	0	1	0	171	34	137	0	1	0	0
	(17)その他	179	173	6	0	7	0	217	206	11	0	13	0	0
(18)消化管以外小計	646	516	130	0	23	0	2,478	2,319	159	0	82	0	0	
(19)小計	961	776	185	0	53	0	4,533	3,866	667	0	200	0	0	
血 管 造 影	(20)脳血管	155	155	0	0	54	0	14,780	14,780	0	0	6,271	0	0
	(21)心臓血管	946	939	7	0	139	0	23,870	23,742	128	0	2,790	0	0
	(22)胸腹血管	59	59	0	0	7	0	1,504	1,504	0	0	208	0	0
	(23)四肢血管	96	96	0	0	9	0	2,401	2,401	0	0	146	0	0
	(24)小計	1,256	1,249	7	0	209	0	42,555	42,427	128	0	9,415	0	0
診	(25)頭頸部単純	6,413	1,828	4,585	0	1,409	0	204,070	55,960	148,110	0	43,090	0	0
	(26)頭頸部造影	125	52	73	0	3	0	13,580	5,680	7,900	0	340	0	0
	(27)頭頸部小計	6,538	1,880	4,658	0	1,412	0	217,650	61,640	156,010	0	43,430	0	0
	(28)躯幹部単純	7,195	2,275	4,920	0	1,168	0	684,190	215,240	468,950	0	111,850	0	0
	(29)躯幹部造影	3,671	984	2,687	0	359	0	825,860	232,710	593,150	0	75,960	0	0
	(30)躯幹部小計	10,866	3,259	7,607	0	1,527	0	1,510,050	447,950	1,062,100	0	187,810	0	0
	(31)四肢単純	319	83	236	0	26	0	22,941	5,870	17,071	0	2,025	0	0
	(32)四肢造影	2	1	1	0	1	0	400	200	200	0	200	0	0
	(33)四肢小計	321	84	237	0	27	0	23,341	6,070	17,271	0	2,225	0	0
	(34)小計	17,725	5,223	12,502	0	2,966	0	1,751,041	515,660	1,235,381	0	233,465	0	0
断	(35)頭部単純	5,265	984	4,281	0	491	0	526,600	98,400	428,200	0	49,100	0	0
	(36)頭部造影	288	100	188	0	1	0	28,800	10,000	18,800	0	100	0	0
	(37)頭部小計	5,553	1,084	4,469	0	492	0	555,400	108,400	447,000	0	49,200	0	0
	(38)躯幹部単純	1,781	344	1,437	0	16	0	178,100	34,400	143,700	0	1,600	0	0
	(39)躯幹部造影	250	63	187	0	3	0	25,000	6,300	18,700	0	300	0	0
	(40)躯幹部小計	2,031	407	1,624	0	19	0	203,100	40,700	162,400	0	1,900	0	0
	(41)四肢単純	151	35	116	0	1	0	15,100	3,500	11,600	0	100	0	0
	(42)四肢造影	21	5	16	0	0	0	2,100	500	1,600	0	0	0	0
	(43)四肢小計	172	40	132	0	1	0	17,200	4,000	13,200	0	100	0	0
	(44)小計	7,756	1,531	6,225	0	512	0	775,700	153,100	622,600	0	51,200	0	0
透 視	(45)単純透視	268	254	14	0	56	0	1,755	1,742	13	0	451	0	0
	(46)造影透視	53	53	0	0	11	0	158	158	0	0	35	0	0
	(47)小計	321	307	14	0	67	0	1,913	1,900	13	0	486	0	0
(48)合計	93,553	35,512	58,041	12,324	11,674	0	2,716,707	763,332	1,953,375	19,664	309,149	0	0	

区分		患者数			時間外 (再掲)	件数				保険点数
		計	入院	外来		計	入院	外来	時間外 (再掲)	
核医学	(49)試料測定invitro	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(50)体外測定(形態検査)	3,555	567	2,988	4	199,719	199,719	0	122	0
	(51)体外測定(機能検査)	7	0	7	0	16	16	0	0	0
	(52)RI治療	1	0	1	0	1	1	0	0	0
	(53)その他	25	0	25	3	470	470	0	0	0
	(54) 小計	3,588	567	3,021	7	200,206	200,206	0	122	0
放射線治療	(55)高エネルギーX線	2,080	1,207	873	0	4,252	2,406	1,846	0	2,164,910
	(56)高エネルギー電子線	103	8	95	0	103	8	95	0	83,160
	(57)密封小線源	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(58)温熱療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(59)その他	1	1	0	0	1	1	0	0	1,000
	(60)放射線治療管理料	315	168	147	0	160	97	63	0	607,670
	(61) 小計	2,499	1,384	1,115	0	4,516	2,512	2,004	0	2,856,740
(62) 総合計	99,640	37,463	62,177	11,681	2,921,429	966,050	1,955,379	309,271	2,856,740	

血管造影IVR 再掲分	患者数			件数		
	計	入院	外来	計	入院	外来
(63)脳血管	24	24	0	1,756	1,756	0
(64)心臓血管	307	306	1	8,083	8,058	25
(65)胸腹血管	24	24	0	485	485	0
(66)四肢血管	34	31	3	443	390	5
(67) 合計	389	385	4	10,767	10,689	78

放射線治療業務 再掲分	患者数			件数		
	計	入院	外来	計	入院	外来
(68)シミュレーター	5	5	0	5	5	0
(69)計画用CT	219	162	57	19,326	13,887	5,439
(70)リニアックグラフィー	203	141	62	340	208	132
(71)線量分布計算	234	180	54	215	157	58
(72)全身照射	15	15	0	27	27	0
(73)定位放射線治療	13	6	7	120	55	65
(74)固定器具加算	2	1	1	2	1	1
(75)血液照射	0	0	0	0	0	0
(76)その他	0	0	0	0	0	0
(77) 合計	691	510	181	20,035	14,340	5,695

区分	入院		外来		合計		保険点数
	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	
(78)画像診断	35,512	763,332	58,041	1,953,375	93,553	2,716,707	0
(79)核医学	567	200,206	3,021	0	3,588	200,206	0
(80)放射線治療	1,384	2,512	1,115	2,004	2,499	4,516	2,856,740
(81) 合計	37,463	966,050	62,177	1,955,379	99,640	2,921,429	2,856,740

	患者数	件数	撮影料(点数換算)
乳がん検診 再掲分	1,705	5,208	44,631

40. 給食実施状況

区分	食 種 名	平成29年度			平成28年度			
		食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)	
一 般 食	常 食	127,028	348.0	31.1	138,850	380.4	33.3	
	軟 食	75,933	208.0	18.6	81,071	222.1	19.5	
	流 動 食	3,575	9.8	0.9	3,113	8.5	0.7	
	計	206,536	565.9	50.6	223,034	611.1	53.5	
特 別 食	加 算	塩分エネルギー調整食	78,194	214.2	19.2	71,957	197.1	17.3
		エネルギーたんぱく調整食	6,367	17.4	1.6	6,635	18.2	1.6
		たんぱく調整食	2,188	6.0	0.5	3,213	8.8	0.8
		肝 臓 食	5,907	16.2	1.4	5,857	16.0	1.4
		潰 瘍 食	1,850	5.1	0.5	1,380	3.8	0.3
		上部消化管術後食	1,669	4.6	0.4	2,233	6.1	0.5
		検 査 食	127	0.3	0.0	271	0.7	0.1
		低 繊 維 食	148	0	0	60	0.2	0.0
		透 析 食	7,149	19.6	1.8	7,581	20.8	1.8
		嚥 下 導 入 食	4,739	13.0	1.2	2,880	7.9	0.7
	そ の 他	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	
	小 計	108,338	296.8	26.6	102,067	279.6	24.5	
	非 加 算	塩分エネルギー調整食	6,272	17.2	1.5	7,999	21.9	1.9
低 繊 維 食		5,893	16.1	1.4	4,945	13.5	1.2	
濃 厚 流 動 食		13,471	36.9	3.3	16,009	43.9	3.8	
嚥 下 導 入 食		46,443	127.2	11.4	42,682	116.9	10.2	
そ の 他		20,972	57.5	5.1	19,745	54.1	4.7	
小 計	93,051	254.9	22.8	91,380	250.4	21.8		
特別食計	201,389	551.8	49.4	193,447	530.0	46.3		
合 計	407,925	1,117.6	100.0	416,481	1,141.0	100.0		

41. 再加工及び禁止・個人対応食の状況

区 分	平成29年度			平成28年度		
	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)
再加工食	109,954	301.2	27.0	106,180	290.9	25.5
禁止・個別対応食	122,703	336.2	30.1	111,660	305.9	26.8

42. 個人栄養食事指導実施状況

(単位：件)

指導名		平成29年度			平成28年度		
		入院	外来	合計	入院	外来	合計
算 定	糖尿病	278	1,542	1,820	296	1,632	1,928
	腎臓病	74	497	571	60	407	467
	心臓・高血圧	199	398	597	193	346	539
	肝臓病	11	24	35	10	29	39
	胃腸病	36	57	93	31	73	104
	肥満	0	35	35	4	38	42
	脂質異常症	4	157	161	8	147	155
	がん	102	43	145	56	25	81
	摂食・嚥下	41	7	48	48	1	49
	低栄養	16	10	26	7	4	11
	その他	12	5	17	6	5	11
小計		773	2,775	3,548	719	2,707	3,426
算定外		209	149	358	167	182	349
合計		982	2,924	3,906	886	2,889	3,775

43. 集団栄養食事指導実施状況

		平成29年度			平成28年度		
		回数	人数		回数	人数	
			算定	算定外		算定	算定外
集 団 指 導	糖尿病(入院)	41	110	24	46	150	21
	糖尿病(外来)	(5)	6	0	(5)	7	0
	小計	41	116	24	46	157	21
糖尿病教室		3	0	113	2	0	95
その他		3	0	35	2	0	35
合 計		47	116	172	50	157	151
			288			308	

44. 在宅看護相談室の看護実施状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

1 相談内容と業務内容件数

項目		延件数
相談内容	病状相談	10,343
	介護相談	9,981
	介護用品	4,723
	地域サービス	10,365
	受診相談	258
	入院相談	604
	合計	36,274
業務内容	連絡調整	10,313
	退院調整	10,364
	情報収集	10,427
	病状確認	10,327
	カンファレンス	245
	その他	8
連携	院内職員との連携	8,695
	地域関係者との連携	10,340
合計		29,027
利用者	患者・家族	9,764
	院内職員	8,170
	地域関係者	9,700
合計		27,634
方法	電話	8,791
	面談	10,978
	その他	0
合計		19,769

2 調整内容別件数

自宅退院・在宅調整（入院・外来）	611
転院調整	1
介護相談	611
退院前合同カンファレンス	245
合計	1,468

3 退院支援計画書作成件数：185件

4 退院前合同カンファレンス件数

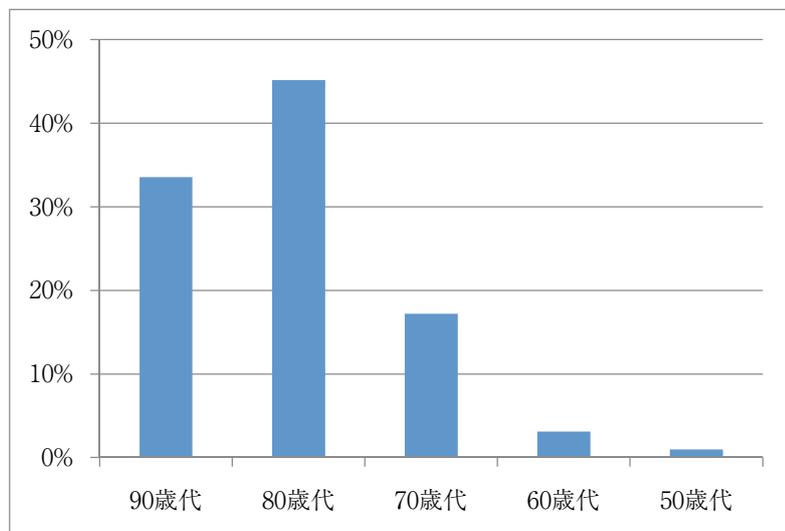
合同カンファレンス	245
共同指導料算定（再掲）	137
介護支援連携加算（再掲）	245

5 退院前後訪問件数

退院前	-
退院当日	83
退院後	2
外泊	-
合計	85

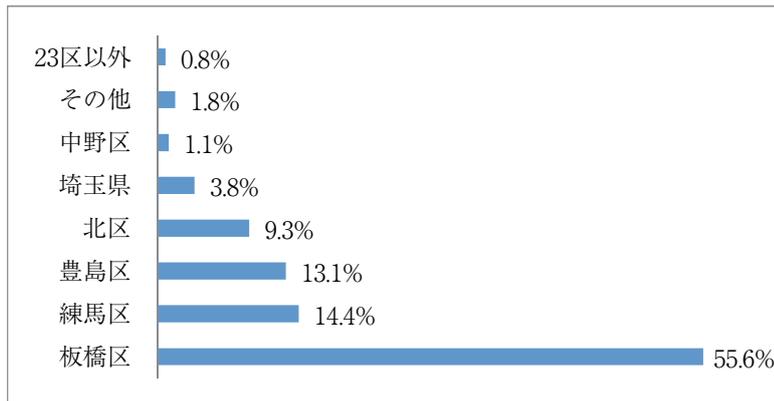
6 調整及び相談ケースの内訳

(1) 年齢別



年齢	人数	割合
90歳代	205	33.6%
80歳代	276	45.2%
70歳代	105	17.2%
60歳代	19	3.1%
50歳代	6	1.0%
合計	611	100.0%

(2) 居住地域別



	件数	%
板橋区	340	55.6%
練馬区	88	14.4%
豊島区	80	13.1%
北区	57	9.3%
埼玉県	23	3.8%
中野区	7	1.1%
その他	6	1.1%
23区以外	5	0.8%
合 計	611	100.0%

(3) 疾患別 (重複あり)

疾患名	件数
ガン (ターミナル含む)	83
呼吸器 (肺炎含む)	60
認知症	80
脳血管障害	70
糖尿病	117
循環器	90
神経難病	73
整形外科	-
その他 (皮膚疾患・膠原病等)	40
合 計	613
ターミナルのみ (再掲)	83

(4) 退院後に必要な医療処置 (重複あり)

処置	件数
吸引	60
在宅酸素	40
褥瘡等処置	30
疼痛管理 (麻薬)	10
バルーン	30
胃ろう	20
気管切開	5
HPN (在宅IVH)	25
人工呼吸器 (NIP・AC等)	5
インシュリン注射	80
ストマ	20
末梢点滴	10
その他 (IOE・PTCD等ドレーン管理等)	10

45. 在宅酸素療法実績

新規導入者

月	29年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	計
人数	3	5	3	2	6	1	6	3	0	2	2	2	35

46. 在宅人工呼吸療法実績

新規導入者

月	29年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	計
人数	0	0	1	0	1	2	0	2	1	1	1	0	9

47. 病歴取扱状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

項目 月別	取扱件数			貸出件数
	一般退院	死亡退院	計	死亡者カルテ
4月	1,035	53	1,088	12
5月	995	40	1,035	3
6月	1,096	48	1,144	3
7月	970	38	1,008	10
8月	1,072	50	1,122	7
9月	1,082	39	1,121	50
10月	1,041	60	1,101	1
11月	1,049	48	1,097	43
12月	1,159	43	1,202	6
1月	963	50	1,013	7
2月	1,020	49	1,069	26
3月	1,143	47	1,190	39
計	12,625	565	13,190	207

48. 医療相談室相談件数

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(1) 診療科目別

診療科目		入 院			外 来		
		新 規	継 続	入院計	新 規	継 続	外来計
内 科 系	内科	59	405	464	20	3	23
	腎臓内科	48	358	406	13	22	35
	内分泌科	95	689	784	11	4	15
	循環器科	211	2,046	2,257	20	31	51
	呼吸器科	79	494	573	26	19	45
	消化器科	226	2,452	2,678	25	74	99
	神経内科	292	2,240	2,532	41	64	105
	血液科	21	149	170	9	11	20
	感染症科	14	82	96	2	0	2
	膠原病・リウマチ科	54	1,177	1,231	2	16	18
	緩和ケア病棟入院相談	8	9	17	18	66	84
	緩和ケア内科	32	399	431	6	185	191
	小 計	1,139	10,500	11,639	193	495	688
	外 科 系	外科	129	1,705	1,834	19	49
脳外科		100	826	926	7	20	27
整形外科		159	1,855	2,014	30	14	44
心臓血管外科		14	291	305	0	0	0
皮膚科		24	235	259	2	4	6
泌尿器科		13	217	230	21	29	50
脊椎外科		22	378	400	0	0	0
眼科		0	0	0	3	0	3
耳鼻咽喉科		0	42	42	6	2	8
放射線科		0	0	0	1	0	1
在宅療養病床		7	8	15	0	0	0
歯科		0	0	0	0	0	0
血管外科		1	21	22	0	0	0
麻酔科		1	12	13	1	0	1
小 計	470	5,590	6,060	90	118	208	
リハビリテーション科	13	79	92	17	15	32	
精 神 科	0	4	4	4	2	6	
化 学 療 法 科	20	184	204	3	10	13	
合 計	33	267	300	24	27	51	
未 受 診 ・ 他	0	0	0	387	410	797	
総 合 計	1,642	16,357	17,999	694	1,050	1,744	

(2) 対象別

本人	5,094
家族	20,048
友人・知人	321
院内・事務職員	31,688
医療機関	28,585
区市役所・保健所	849
老人保健施設	1,938
老人ホーム等	785
ケアマネージャー	1,469
その他	1,141
計	91,918

(3) 方法別

面接	25,444
電話	62,751
文書	877
訪問	7
その他	3,020
計	92,099

(4) 対応別

情報提供・連絡	46,825
情報収集	20,802
観察・状況把握	11,666
方針協議	7,812
問題整理・心理援助	4,899
直接援助	95
計	92,099

(5) 主訴別

受診	1,242	
入院	8,499	
退院	5,961	
転院	55,012	
自宅	4,916	
施設	長期	2,216
	短期・中期	3,492
	障害、他	11
療養上	4,624	
家族	65	
経済	773	
日常生活	201	
福祉制度一般	4,160	
就労	11	
心理的問題	550	
その他	366	
計	92,099	

(7) その他業務

クライアント処遇会議	1,463	
ボランティア調整	0	
会議	院内	634
	院外	36
研修	院内	244
	院外	11
社会資源収集	68	
実習生関連	0	
見学者	0	
他職オリエンテーション	0	
講演・講義	0	
調査・研究	0	
業務統計	1,876	
学会・研究会	0	

(6) 新ケースの紹介経路

病 院 内	医師	1,318
	看護婦	321
	リハビリ	21
	事務	14
	インテーク	0
	その他	16
	小計	1,690
病 院 外	本人	42
	家族	248
	友人・知人	19
	医療機関	280
	区市役所・保健所	2
	老人保健施設	2
	老人ホーム等	1
	ケアマネージャー	39
	都関係	0
	その他	13
小計	646	
計	2,336	

	入院	外来	未・他	計
新規	1,642	307	387	2,336
継続	16,357	640	410	17,407
計	17,999	947	797	19,743

診療費の収入状況

49. 診療実績

(単位：点)

項 目		入院	外来	合計	比率 (%)
基本料等	初 診 料	765,240	/	/	/
	外 来 診 療 料	—	/	/	/
	入 院 料 等	690,240,783	—	690,240,783	/
計		691,006,023	19,281,939	710,287,962	55.9%
投 薬 料		9,604,255	8,811,401	18,415,656	1.4%
注 射 料		12,004,792	57,249,873	69,254,665	5.5%
処 置 料		7,149,998	7,918,105	15,068,103	1.2%
手 術 料		212,217,739	9,098,867	221,316,606	17.4%
検 査 料		12,418,697	93,756,984	106,175,681	8.4%
画 像 診 断 料		3,602,188	56,521,625	60,123,813	4.7%
諸 収 入		31,283,385	38,561,393	69,844,778	5.5%
合 計		979,287,077	291,200,187	1,270,487,264	100.0%
(歯科口腔外科再掲)		1,412,203	5,822,262	7,234,465	
延 べ 人 数		172,483	238,600	411,083	
1人1日平均点数		5,677.6	1,220.5	3,090.6	
レセプト枚数		16,944	142,480	159,424	

50. 診療実績：前年度比較

(単位：円)

区 分		入 院		
		平成28年度	平成29年度	増 (△) 減
診 療 実 績 (円)		9,673,230,826	9,792,870,815	119,639,989
年間延患者数 (人)		175,503	172,483	△ 3,020
稼 動 日 数 (日)		365	365	0
一日一人当収入 (円)		55,117	56,776	1,659
収 入 内 訳	基 本 料	6,878,035,547	6,910,060,238	32,024,691
	投 薬 料	114,997,038	96,042,557	△ 18,954,481
	注 射 料	118,642,381	120,047,928	1,405,547
	処 置 料	70,944,965	71,499,985	555,020
	手 術 料	1,994,878,280	2,122,177,393	127,299,113
	検 査 料	125,769,856	124,186,972	△ 1,582,884
	画 像 診 断 料	32,867,862	36,021,883	3,154,021
	諸 収 入	337,094,897	312,833,859	△ 24,261,038

※ 室料差額は含まない。

(単位：円)

区 分		外 来		
		平成28年度	平成29年度	増 (△) 減
診 療 実 績 (円)		2,703,737,211	2,912,001,911	208,264,700
年間延患者数 (人)		238,896	238,600	△ 296
稼 動 日 数 (日)		293	293	0
一日一人当収入 (円)		11,318	12,205	887
収 入 内 訳	基 本 料	192,505,972	192,819,398	313,426
	投 薬 料	62,095,523	88,114,016	26,018,493
	注 射 料	471,557,162	572,498,734	100,941,572
	処 置 料	54,583,191	79,181,055	24,597,864
	手 術 料	81,072,335	90,988,678	9,916,343
	検 査 料	921,319,094	937,569,845	16,250,751
	画 像 診 断 料	551,537,545	565,216,255	13,678,710
	諸 収 入	369,066,389	385,613,930	16,547,541
院外処方(再掲)		88,925,760	87,377,144	△ 1,548,616

※ 保険外は「諸収入」に含めて計上している。

51. 診療実績（入院）

平成29年4月1日～平成30年3月31日（単位：円、人、枚）

	基本料		投薬料	注射料	処置料	手術料	検査料	画像診断料	諸収入	合計	延人数	レセプト数
	初診料 (再掲)											
4月	640,240	574,525,023	7,341,860	8,045,710	6,819,030	192,201,990	9,983,100	2,169,680	25,587,761	826,674,154	14,293	1,392
5月	567,210	554,043,431	7,048,647	8,266,468	6,469,278	144,407,060	9,300,432	3,066,452	26,563,947	759,165,715	13,924	1,335
6月	499,120	524,145,292	6,418,417	9,982,668	4,912,725	136,911,635	10,432,708	2,448,857	27,130,817	722,383,119	13,101	1,397
7月	635,400	544,390,009	6,691,006	11,936,480	5,640,859	172,683,330	9,825,638	2,565,010	23,622,502	777,354,834	13,643	1,335
8月	626,713	595,338,861	7,590,472	9,042,392	5,906,477	194,551,508	11,393,814	3,324,991	28,754,797	855,903,312	15,083	1,433
9月	632,700	568,473,092	6,469,602	10,819,023	4,934,741	175,981,718	9,876,229	2,866,108	24,579,121	803,999,634	14,341	1,385
10月	680,780	567,252,429	9,602,766	10,812,721	4,562,844	204,287,236	10,565,417	3,102,927	27,699,665	837,886,005	14,031	1,428
11月	690,040	575,995,948	8,726,394	8,932,624	6,472,630	166,302,270	10,791,764	3,621,505	25,443,818	806,286,953	14,148	1,456
12月	705,510	608,165,949	9,081,851	8,827,396	6,956,436	191,998,653	10,776,066	3,472,850	26,498,995	865,778,196	15,028	1,466
1月	750,420	611,298,014	8,579,884	11,985,150	6,106,872	173,926,430	10,568,580	3,557,620	24,303,920	850,326,470	15,407	1,410
2月	598,670	576,915,089	7,974,318	8,397,406	5,066,587	188,723,663	9,784,360	2,518,383	24,409,962	823,789,768	14,275	1,451
3月	625,600	609,517,101	10,517,340	12,999,890	7,651,506	180,201,900	10,888,864	3,307,500	28,238,554	863,322,655	15,209	1,456
合計	7,652,403	6,910,060,238	96,042,557	120,047,928	71,499,985	2,122,177,393	124,186,972	36,021,883	312,833,859	9,792,870,815	172,483	16,944
歯科再掲	2,590	9,434,714	110,890	232,320	22,310	2,498,540	1,206,890	138,590	477,776	14,122,030	335	104

※ 室料差額は含まない。

52. 診療実績 (外来)

平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位:円、人、枚)

	基本料		投薬料	注射料	処置料	手術料	検査料	画像診断料	諸収入	合計	院外処方 (再掲)	延人数	レポート 枚数
	初診料 (再掲)	外来診療料 (再掲)											
4月	3,725,625	11,946,124	6,523,970	37,939,005	5,902,870	7,503,770	77,796,603	48,448,146	30,721,126	230,598,719	7,333,529	19,805	12,009
5月	3,991,830	11,832,560	6,883,750	49,049,465	6,398,730	8,245,410	76,994,082	45,537,173	31,971,070	241,041,290	7,134,628	19,492	11,731
6月	4,059,795	12,630,493	8,061,533	40,100,355	6,760,085	7,303,520	81,919,464	50,416,889	33,020,623	244,501,457	7,598,540	20,942	12,337
7月	3,642,510	11,685,993	6,369,910	44,442,070	6,942,553	7,374,980	74,931,266	45,517,187	31,049,796	232,002,005	6,856,430	19,177	11,432
8月	4,054,020	12,121,293	8,097,400	46,399,760	6,643,005	6,954,007	78,679,776	46,165,286	32,451,698	241,657,725	7,537,014	20,024	11,849
9月	3,738,850	11,970,500	7,081,360	47,513,280	6,391,810	6,630,662	78,062,278	47,115,776	31,622,968	240,262,604	7,085,410	19,604	11,855
10月	4,095,380	12,439,063	8,009,287	49,270,070	6,542,908	7,883,675	80,172,970	48,942,197	34,223,144	251,848,934	7,541,017	20,725	12,302
11月	4,074,240	11,985,198	8,793,330	52,052,020	6,577,761	7,890,410	78,259,184	46,839,510	32,222,268	248,874,081	7,224,348	20,000	11,884
12月	3,702,490	12,377,207	9,217,588	50,837,190	6,555,161	7,519,150	76,666,138	46,678,319	31,562,547	245,250,910	7,584,956	20,575	12,063
1月	3,925,325	11,425,254	6,980,501	50,847,514	6,800,635	8,166,026	77,633,612	44,257,903	31,313,551	241,530,481	7,032,483	18,954	11,515
2月	3,933,803	11,358,212	5,322,217	48,529,345	6,256,623	6,452,903	74,842,554	45,601,512	31,787,286	234,219,575	6,923,632	18,883	11,422
3月	3,925,700	12,412,273	6,773,170	55,518,660	7,408,914	9,064,165	81,611,918	49,696,357	33,667,853	260,214,130	7,525,157	20,419	12,081
合計	46,869,568	144,184,170	88,114,016	572,498,734	79,181,055	90,988,678	937,569,845	565,216,255	385,613,930	2,912,001,911	87,377,144	238,600	142,480
歯科再掲	5,067,533	5,521,136	262,720	51,150	4,831,430	20,529,340	3,900,900	6,760,933	11,297,479	58,222,621	1,144,865	12,731	6,573

※ 保険外は「諸収入」に含めて計上している。

54. 外来患者（新患）保険種別内訳

平成29年4月1日～平成30年3月31日（単位：人）

	社会保険					国民健康保険					後期高齢者 (再掲) 公費負担				退職者 保険	生保	原簿医 療法 (一般)	児童 福祉法	労災	公務災 害	自賠	自費	計	比率 (%)				
	本人	家族	精神通院	身体障害者	ひとり親	乳幼児	義務教育就学児	本人	家族	難病	身体障害者	ひとり親	乳幼児	義務教育就学児											原簿(一般)	B型・C型肝炎	難病	身体障害者
39歳以下	382	132			3	11	10	84	79		5	4	3					20				1	1	5	8	276	988	26.7
40～49	150	30					33	24		1	4						14							2	403	656	17.7	
50～59	138	31			1		50	26		3	2						5								278	528	14.3	
60～64	60	11	1	1			41	17									14					1	1	1	85	238	6.4	
65～69	42	15	1	1			98	29	1	5							25								70	279	7.5	
70～74	26	8					105	52		2							12							2	56	263	7.1	
75～79																	23								25	251	6.8	
80歳以上																	16								31	498	13.5	
計	798	227	1	2	4	11	10	411	227	1	11	4	3				129				2	2	5	13	1,224	3,701	100.0	
比率 (%)	21.6	6.1	0.0	0.1	0.1	0.3	0.3	11.1	6.1	0.0	0.3	0.1	0.1				3.5				0.1	0.0	0.1	0.4	33.1	100.0		

経営分析

55. 退院患者の疾患内訳 (ICD10コードによる大分類)

平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位:人)

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
感染症及び寄生虫症	A00-B99	136	182	318	289	284	573
新生物	C00-D48	1,680	1,227	2,907	912	722	1,634
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	D50-D89	45	50	95	226	276	502
内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-E90	178	198	376	1,556	1,402	2,958
精神及び行動の障害	F00-F99	36	128	164	282	347	629
神経系の疾患	G00-G99	259	302	561	413	482	895
眼及び付属器の疾患	H00-H59	811	1,299	2,110	85	129	214
耳及び乳様突起の疾患	H60-H95	19	93	112	29	52	81
循環器系の疾患	I00-I99	1,143	992	2,135	2,911	2,814	5,725
呼吸器系の疾患	J00-J99	538	439	977	804	501	1,305
消化器系の疾患	K00-K93	705	803	1,508	1,185	1,247	2,432
皮膚及び皮下組織の疾患	L00-L99	63	86	149	106	110	216
筋骨格系及び結合組織の疾患	M00-M99	168	508	676	341	698	1,039
腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	234	256	490	692	475	1,167
妊娠、分娩及び産じょく	O00-O99	0	0	0	0	0	0
先天性奇形、変形及び染色体異常	Q00-Q99	4	13	17	27	40	67
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	13	19	32	383	372	755
損傷、中毒及びその他の外因の影響	S00-T98	150	307	457	161	235	396
傷病及び死亡の外因	V01-Y98	0	0	0	0	0	0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	Z00-Z99	51	55	106	282	304	586
合 計		6,233	6,957	13,190	10,684	10,490	21,174

〔内訳〕 (ICD10コード中分類)

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
感染症及び寄生虫症	A00-B99	136	182	318	289	284	573
腸管感染症		2	6	8	20	12	32
結核		10	13	23	21	14	35
主として性的伝播様式をとる感染症		1	0	1	2	0	2
皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症		16	21	37	16	12	28
ウイルス肝炎		5	15	20	61	51	112
その他のウイルス疾患		7	7	14	5	15	20
真菌症		8	2	10	41	32	73
感染症及び寄生虫症の続発・後遺症		0	0	0	21	19	40
その他の感染症及び寄生虫症		87	118	205	102	129	231
新生物	C00-D48	1,680	1,227	2,907	912	722	1,634
胃の悪性新生物		160	80	240	56	20	76
結腸の悪性新生物		170	172	342	36	38	74
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物		131	66	197	24	11	35
肝及び肝内胆管の悪性新生物		39	17	56	19	10	29
気管,気管支及び肺の悪性新生物		185	108	293	68	27	95
乳房の悪性新生物		2	47	49	0	24	24
子宮の悪性新生物		0	15	15	0	2	2
悪性リンパ腫		123	91	214	19	18	37
白血病		75	66	141	23	22	45
その他の悪性新生物		409	187	596	446	289	735
良性新生物及びその他の新生物		386	378	764	221	261	482
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	D50-D89	45	50	95	226	276	502
貧血		24	24	48	158	215	373
その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害		21	26	47	68	61	129

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
内分泌,栄養及び代謝疾患	E00-E90	178	198	376	1,556	1,402	2,958
甲状腺障害		0	3	3	54	157	211
糖尿病		116	115	231	614	432	1,046
その他の内分泌,栄養及び代謝障害		62	80	142	888	813	1,701
精神及び行動の障害	F00-F99	36	128	164	282	347	629
血管性及び詳細不明の認知症		20	38	58	213	254	467
精神作用物質使用による精神及び行動の障害		4	8	12	18	4	22
統合失調症,統合失調症型障害及び妄想性障害		1	14	15	21	13	34
気分 [感情] 障害 (躁うつ病を含む)		10	62	72	19	46	65
神経症性障害,ストレス関連障害及び身体表現性障害		0	6	6	10	23	33
精神遅滞		0	0	0	1	1	2
その他の精神及び行動の障害		1	0	1	0	6	6
神経系の疾患	G00-G99	259	302	561	413	482	895
パーキンソン病		23	28	51	64	83	147
アルツハイマー病		39	51	90	102	163	265
てんかん		31	35	66	32	41	73
脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群		1	0	1	8	10	18
自律神経系の障害		12	16	28	9	3	12
その他の神経系の疾患		153	172	325	198	182	380
眼及び付属器の疾患	H00-H59	811	1,299	2,110	85	129	214
結膜炎		0	0	0	4	5	9
白内障		586	1,065	1,651	13	21	34
屈折及び調節の障害		0	1	1	4	0	4
その他の眼及び付属器の疾患		225	233	458	64	103	167
耳及び乳様突起の疾患	H60-H95	19	93	112	29	52	81
外耳炎		0	1	1	2	2	4
その他の外耳疾患		0	0	0	1	0	1

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
中耳炎		6	9	15	5	3	8
その他の中耳炎及び乳様突起の疾患		0	4	4	0	1	1
メニエール病		7	66	73	4	26	30
その他の内耳疾患		1	0	1	0	0	0
その他の耳疾患		5	13	18	17	20	37
循環器系の疾患	I00-I99	1,143	992	2,135	2,911	2,814	5,725
高血圧性疾患		10	11	21	898	892	1,790
虚血性心疾患		377	184	561	367	192	559
その他の心疾患		287	338	625	917	1,026	1,943
くも膜下出血		4	13	17	1	1	2
脳内出血		53	25	78	11	5	16
脳梗塞		130	117	247	59	64	123
脳動脈硬化（症）		34	13	47	56	45	101
その他の脳血管疾患		9	48	57	15	53	68
動脈硬化（症）		62	22	84	72	34	106
痔核		32	71	103	144	206	350
低血圧（症）		5	6	11	14	5	19
その他の循環器系の疾患		140	144	284	357	291	648
呼吸器系の疾患	J00-J99	538	439	977	804	501	1,305
急性鼻咽頭炎症（かぜ）		1	4	5	1	2	3
急性咽頭炎及び急性扁桃炎		5	4	9	2	1	3
その他の急性上気道感染症		51	51	102	21	12	33
肺炎		213	178	391	112	91	203
急性気管支炎及び急性細気管支炎		10	18	28	6	15	21
アレルギー性鼻炎		0	0	0	5	2	7
慢性副鼻腔炎		7	5	12	13	10	23

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
急性または慢性と明示されない気管支炎		1	5	6	7	9	16
慢性閉塞性肺疾患		17	6	23	165	48	213
喘息		2	12	14	78	61	139
その他の呼吸器系の疾患		231	156	387	394	250	644
消化器系の疾患	K00-K93	705	803	1,508	1,185	1,247	2,432
う蝕		14	10	24	9	5	14
歯肉炎及び歯周疾患		10	7	17	7	6	13
その他の歯及び歯の支持組織の障害		29	32	61	17	13	30
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍		29	29	58	64	31	95
胃炎及び十二指腸炎		57	116	173	189	233	422
アルコール性肝疾患		10	0	10	35	0	35
慢性肝炎（アルコール性のものを除く）		12	18	30	12	13	25
肝硬変（アルコール性のものを除く）		3	10	13	19	33	52
その他の肝疾患		11	15	26	84	45	129
胆石症及び胆のう炎		80	81	161	57	61	118
膵疾患		19	18	37	27	22	49
その他の消化器系の疾患		431	467	898	665	785	1,450
皮膚及び皮下組織の疾患	L00-L99	63	86	149	106	110	216
皮膚及び皮下組織の感染症		30	38	68	19	14	33
皮膚炎及び湿疹		6	6	12	35	23	58
その他の皮膚及び皮下組織の疾患		27	42	69	52	73	125
筋骨格系及び結合組織の疾患	M00-M99	168	508	676	341	698	1,039
炎症性多発性関節障害		22	85	107	67	134	201
関節症		27	202	229	7	72	79
脊椎障害（脊椎症を含む）		76	99	175	99	116	215
椎間板障害		3	1	4	7	1	8

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類		ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
			男	女	計	男	女	計
頸腕症候群			1	0	1	0	0	0
腰痛症及び坐骨神経痛			1	6	7	10	9	19
その他の脊柱障害			0	3	3	0	5	5
肩の傷害			0	0	0	3	3	6
骨の密度及び構造の障害			2	3	5	64	213	277
その他の筋骨格系及び結合組織の疾患			36	109	145	84	145	229
腎尿路生殖器系疾患		N00-N99	234	256	490	692	475	1,167
糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患			36	52	88	26	28	54
腎不全			74	47	121	248	163	411
尿路結石症			11	13	24	10	16	26
その他の尿路系の疾患			79	138	217	197	257	454
前立腺肥大（症）			21	0	21	202	0	202
その他の男性生殖器の疾患			13	0	13	6	0	6
月経障害及び閉経周辺障害			0	0	0	0	1	1
乳房及びその他の女性生殖器の疾患			0	6	6	3	10	13
妊娠、分娩及び産じょく		O00-O99	0	0	0	0	0	0
その他の妊娠、分娩及び産じょく			0	0	0	0	0	0
先天性奇形、変形及び染色体異常		Q00-Q99	4	13	17	27	40	67
心臓の先天奇形			1	3	4	6	10	16
その他の先天奇形			3	10	13	21	30	51
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		R00-R99	13	19	32	383	372	755
損傷、中毒及びその他の外因の影響		S00-T98	150	307	457	161	235	396
骨折			59	194	253	71	129	200
頭蓋骨内損傷及び内臓の損傷			24	18	42	16	9	25
熱傷及び腐食			0	1	1	2	1	3
中毒			5	4	9	0	0	0
その他の損傷及びその他の外因の影響			62	90	152	72	96	168
傷病及び死亡の外因		V01-Y98	0	0	0	0	0	0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用		Z00-Z99	51	55	106	282	304	586

56. 退院患者の悪性新生物患者数内訳 (ICD10コードによる中分類)

平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位:人)

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	C00-C14	7	2	9	9	5	14
消化器の悪性新生物	C15-C26	645	428	1,073	177	102	279
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	C30-C39	189	111	300	70	28	98
骨及び関節軟骨の悪性新生物	C40-C41	0	0	0	0	0	0
皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物	C43-C44	5	5	10	1	7	8
中皮及び軟部組織の悪性新生物	C45-C49	3	7	10	6	3	9
乳房の悪性新生物	C50-C50	2	47	49	0	24	24
女性生殖器の悪性新生物	C51-C58	0	20	20	0	4	4
男性生殖器の悪性新生物	C60-C63	129	0	129	72	0	72
尿路の悪性新生物	C64-C68	71	39	110	35	5	40
眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物	C69-C72	3	1	4	0	1	1
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	C73-C75	0	2	2	0	5	5
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物	C76-C80	38	25	63	277	237	514
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	C81-C96	200	157	357	44	40	84
独立した(原発性)多部位の悪性新生物	C97-C97	0	0	0	0	0	0
上皮内新生物	D00-D09	2	5	7	0	0	0
合 計		1,294	849	2,143	691	461	1,152

〔内訳〕 (ICD10コード中分類)

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	C00-C14	7	2	9	9	5	14
口唇の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
舌根〈基底〉部の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の舌の悪性新生物		1	1	2	0	1	1
歯肉の悪性新生物		2	0	2	0	0	0
口腔底の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
口蓋の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の口腔の悪性新生物		1	0	1	0	0	0
耳下腺の悪性新生物		1	0	1	0	0	0
その他及び部位不明の大唾液腺の悪性新生物		0	1	1	0	2	2
扁桃の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
中咽頭の悪性新生物		1	0	1	5	0	5
鼻〈上〉咽頭の悪性新生物		1	0	1	0	0	0
梨状陥凹〈洞〉の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
下咽頭の悪性新生物		0	0	0	4	1	5
その他及び部位不明の口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物		0	0	0	0	1	1
消化器の悪性新生物	C15-C26	645	428	1,073	177	102	279
食道の悪性新生物		48	10	58	20	3	23
胃の悪性新生物		160	80	240	56	20	76
小腸の悪性新生物		0	3	3	2	2	4
結腸の悪性新生物		170	172	342	36	38	74
直腸S状結腸移行部の悪性新生物		7	12	19	1	2	3
直腸の悪性新生物		124	54	178	23	9	32
肛門及び肛門管の悪性新生物		0	2	2	0	0	0
肝及び肝内胆管の悪性新生物		39	17	56	19	10	29
胆のう〈嚢〉の悪性新生物		26	8	34	10	2	12
その他及び部位不明の胆道の悪性新生物		27	19	46	5	10	15

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類		ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
			男	女	計	男	女	計
膵の悪性新生物			43	50	93	5	6	11
その他及び部位不明確の消化器の悪性新生物			1	1	2	0	0	0
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物		C30-C39	189	111	300	70	28	98
鼻腔及び中耳の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
副鼻腔の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
喉頭の悪性新生物			4	2	6	2	1	3
気管の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物			185	108	293	68	27	95
胸腺の悪性新生物			0	1	1	0	0	0
心臓、縦隔及び胸膜の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明確の呼吸器系及び胸腔内臓器の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
骨及び関節軟骨の悪性新生物		C40-C41	0	0	0	0	0	0
(四) 肢の骨及び関節軟骨の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の骨及び関節軟骨の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物		C43-C44	5	5	10	1	7	8
皮膚の悪性黒色腫			1	1	2	0	0	0
皮膚のその他の悪性黒色腫			4	4	8	1	7	8
中皮及び軟部組織の悪性新生物		C45-C49	3	7	10	6	3	9
中皮腫			3	4	7	5	0	5
カポジ〈kaposi〉肉腫			0	0	0	1	0	1
末梢神経及び自律神経系の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
後腹膜及び腹膜の悪性新生物			0	3	3	0	0	0
その他の結合組織及び軟部組織の悪性新生物			0	0	0	0	3	3
乳房の悪性新生物		C50	2	47	49	0	24	24
乳房の悪性新生物			2	47	49	0	24	24

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
女性生殖器の悪性新生物	C51-C58	0	20	20	0	4	4
外陰（部）の悪性新生物		0	1	1	0	0	0
膣の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
子宮頸（部）の悪性新生物		0	6	6	0	1	1
子宮体部の悪性新生物		0	8	8	0	1	1
子宮の悪性新生物、部位不明		0	1	1	0	0	0
卵巣の悪性新生物		0	4	4	0	2	2
その他及び部位不明の女性生殖器の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
胎盤の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
男性生殖器の悪性新生物	C60-C63	129	0	129	72	0	72
陰茎の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
前立腺の悪性新生物		129	0	129	72	0	72
精巣（睾丸）の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の男性生殖器の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
尿路の悪性新生物	C64-C68	71	39	110	35	5	40
腎盂を除く腎の悪性新生物		7	6	13	8	2	10
腎盂の悪性新生物		12	8	20	1	1	2
尿管の悪性新生物		9	9	18	5	0	5
膀胱の悪性新生物		43	16	59	21	2	23
その他及び部位不明の尿路の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物	C69-C72	3	1	4	0	1	1
眼及び付属器の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
髄膜の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
脳の悪性新生物		3	1	4	0	1	1
脊髄、脳神経及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物		0	0	0	0	0	0

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	C73-C75	0	2	2	0	5	5
甲状腺の悪性新生物		0	2	2	0	5	5
副腎の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
その他の内分泌腺及び関連組織の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物	C76-C80	38	25	63	277	237	514
その他及び部位不明確の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物		3	2	5	16	38	54
呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物		14	6	20	207	134	341
その他の部位の続発性悪性新生物		2	7	9	51	62	113
部位の明示されない悪性新生物		19	10	29	3	3	6
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	C81-C96	200	157	357	44	40	84
ホジキン病		2	2	4	1	1	2
ろ〈濾〉胞性[結節性]非ホジキンリンパ腫		6	5	11	2	2	4
びまん性非ホジキンリンパ腫		75	56	131	4	7	11
末梢性及び皮膚T細胞リンパ腫		9	3	12	1	0	1
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型		31	25	56	11	8	19
悪性免疫増殖性疾患		2	0	2	2	0	2
多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物		11	30	41	10	10	20
リンパ性白血病		7	6	13	2	2	4
骨髄性白血病		50	27	77	10	10	20
単球性白血病		2	0	2	0	0	0
細胞型の明示されたその他の白血病		1	0	1	0	0	0
細胞型不明の白血病		4	3	7	1	0	1
リンパ組織、造血組織及び関連組織のその他及び詳細不明の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
独立した（原発性）多部位の悪性新生物	C97	0	0	0	0	0	0

第三部 研究部門

(平成29年度 活動報告)

I チーム研究等

チーム研究

研究系	研究チーム名	研究テーマ	チームリーダー
自然科学系	老化機構	分子機構 老化バイオマーカー プロテオーム	伊藤 雅史
	老化制御	健康長寿ゲノム探索 分子老化制御 生体環境応答	石神 昭人
	老化脳神経科学	自律神経機能 記憶神経科学 神経生理	遠藤 昌吾
	老年病態	血管医学 生活習慣病 運動器医学	重本 和宏
	老年病理学	高齢者がん 神経病理学（高齢者ブレインバンク）	石渡 俊行
	神経画像	脳機能 PET画像診断	石井 賢二
社会科学系	社会参加と地域保健	社会参加・社会貢献の促進 老化・虚弱の一次予防と地域保健	藤原 佳典
	自立促進と介護予防	筋骨格系の老化予防の促進 介護予防の促進 認知症・うつ予防と介入の促進	栗田 圭一
	福祉と生活ケア	在宅療養支援方法の開発 要介護化の要因解明と予測 終末期ケアのあり方	石崎 達郎

老化機構研究チーム

チームリーダー：伊藤 雅史

1 研究チームの概要・目的

分子の発現変化と修飾およびそれに伴う機能変化に着目し、老化および老化関連疾患の分子メカニズムの解明およびバイオマーカーと治療標的の同定を目指している。これらの実現に向け、先進的な方法論、概念を取り入れた基盤研究を進め、高齢者の健康増進、健康長寿に寄与することを目的とする。

2 今後の展望

第三期中期計画においては、チームは分子機構・プロテオーム・細胞機能研究グループから構成され、分子機構は糖鎖、プロテオームはタンパク質、細胞機能は細胞間情報伝達に着目し、老化および老化関連疾患のメカニズムの解明およびバ

イオマーカーの同定を目指す。これらの実現に向け、先進的な方法論、概念を取り入れた基礎・応用研究を進めるとともに、他の研究グループに基盤技術を提供し、高齢者の健康増進、健康長寿に寄与する。チーム内共同研究により、各テーマの研究計画をサポートあるいは一部分担することで、有機的かつ効率的に研究を展開する体制をつくる。そのために、チームセミナーや、テーマ間合同のセミナーを通して、普段から研究の進捗状況や問題点について議論し、他テーマの研究者の専門的知識と経験を研究に活かすように努める。特に、プロテオームに導入されている質量分析装置を使ったテーマ間の共同研究は本チームの研究の核であり、第二期中期計画では共同研究の重要な成果発表に貢献した。本年度に新しい装置が導入されたことにより、共同研究のさらなる発展が期待される。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

分子機構

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
認知症における糖鎖の解析	APP代謝と糖鎖の関連を解明し、アルツハイマー病（AD）の新たな治療および予防法の開発を目指す。これまでに、AD脳で発現が変化する糖鎖遺伝子を複数見出し（ブレインバンクとの共同研究）、糖転移酵素GnT-IIIにA・産生抑制作用があることを明らかにしていることから、糖鎖の発現を変化させることでAPP代謝を制御する可能性を検討する。	Aβ産生と糖鎖遺伝子について細胞レベルで解析	糖鎖変化によるAPP代謝変化のメカニズムの解析	糖鎖遺伝子の発現をコントロールする化合物の探索	化合物による糖鎖遺伝子の発現変化のメカニズムの解明	ADモデルマウスおよび老化マウスを用いた糖鎖遺伝子変化とAPP代謝との関連の検証
モデルマウスを用いた老化機構の解明	klothoマウスを用いて老化関連疾患の分子機構の解明を目指す。これまでにklothoタンパク質の欠損により肺と腎臓特異的に糖鎖異常を示すことを見いだしており、老人肺や腎障害の分子機構およびklothoタンパク質の機能解明を目的とする。	klothoマウスの肺における糖鎖変化の生化学的解析	klothoマウスの腎臓における糖鎖変化のメカニズムの解析	klothoマウスの肺と腎臓における糖鎖変化のメカニズムと病態klothoタンパク質の機能との関連について細胞レベルでの分子機構解析	klothoマウスの肺と腎臓における糖鎖変化のメカニズムと病態との関連について個体および細胞レベルでの解析	老人肺、腎障害の病態とklothoタンパク質および糖鎖機能との関連の検討
筋形成維持に関連する糖鎖機能の解明	筋疾患に関与する2つの糖転移酵素POMTとPOMGnT1を発見し、これらの酵素に合成されるOマンノース型糖鎖の筋機能における重要性を明らかにしてきた。そこで本糖鎖の合成機構や生理機能を明らかにし、筋疾患や加齢に伴う神経異常・筋萎縮の病態解明を目指す。	Oマンノース型糖鎖によるタンパク質相互作用の生化学的解析	筋疾患モデルマウスおよび老化モデルマウスにおける糖鎖変化と病態の解析	モデルマウスにおける糖鎖変化による生化学的影響（タンパク質相互作用の変化など）の解析と関連酵素の機能解析	モデルマウスにおける糖鎖変化および関連酵素の異常と病態・機能低下との関連の解析	遺伝子組換え細胞を用いた糖鎖改変システムによる病態の分子機構および糖鎖機能の解析

老化バイオマーカー

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
認知症等高齢者疾患の新規診断マーカーの探索	認知症等高齢者疾患の組織・体液等の病理・臨床検体を用いた解析により、体液中の遺伝子・タンパクによる診断の可能性を探る。	認知症等の疾患の組織中のマイクロRNAの網羅的発現解析	認知症等の疾患の組織中で発現変化を示すマイクロRNAの同定	認知症等の疾患の組織中で発現変化を示すマイクロRNAの組織内局在の確認	認知症等の疾患の組織中で発現変化を示すマイクロRNAの機能解析	認知症等の疾患の組織中で発現変化を示すマイクロRNAの体液中診断バイオマーカーとしての可能性の検討
高齢者疾患の新規診断マーカーと治療標的の探索	疾患のモデル細胞から分泌される遺伝子・タンパクとエクソソームに着目し、高齢者疾患の新規体液中診断マーカーおよび治療標的の同定を目指す。	前立腺がん細胞から分泌される遺伝子・タンパク等の検討	ミトコンドリア機能低下により細胞から分泌される遺伝子・タンパク等の検討	膀胱がん細胞から分泌される遺伝子・タンパク等の検討	酸化ストレス・炎症により細胞から分泌される遺伝子・タンパク等の検討	体液中バイオマーカーの高齢者医療への応用の可能性の検討

プロテオーム

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
動脈老化に関するプロテオーム解析	大動脈中膜組織サンプルを用いてプロテオミクス解析を行い、動脈老化の一つである動脈中膜変性症において変動するタンパク質を明らかにする。	サンプルの収集	タンパク質の抽出及び標識化に関する条件検討	二次元電気泳動及び安定同位体標識法によるプロテオミクス解析	プロテオミクス解析で得られた成果の生化学的及び免疫組織学的検証	研究成果の還元
糖尿病に関するプロテオーム解析	糖尿病患者サンプル及び糖尿病モデルラットを用いて、OGlcNAc関連酵素の変動解析やOGlcNAcプロテオミクス解析を行い、糖尿病及び関連合併症マーカーを探索する。	サンプルの収集及びOGlcNAc関連酵素の変動解析	OGlcNAcプロテオミクス解析のためのOGlcNAcペプチド濃縮法の開発	OGlcNAcペプチド濃縮法の応用	糖尿病モデルラット腎組織におけるプロテオミクス解析とOGlcNAcプロテオミクス解析	糖尿病腎症臨床サンプルのプロテオミクス解析及びOGlcNAcプロテオミクス解析
健康長寿に関するプロテオーム解析	1.超百寿者血漿サンプルを用いて、グライコプロテオミクスによる解析を行う。 2.長期縦断コホートをを用いて、認知機能低下や運動機能低下に関する血漿プロテオミクス解析を行い、社会的因子との相関を調べる。	1.レクチンマイクロアレイを用いた超百寿者特異的変動レクチンの解析	1.グライコミクスによる超百寿者特異的に変動する糖鎖の解析 2.サンプルの抽出(各年齢ごと)	1.超百寿者に増加した高シアル酸含有糖鎖に対する新奇分析法の開発 2.初期の認知機能低下に関するプロテオーム解析	1.新奇シアル糖鎖分析法の超百寿者血漿糖鎖解析への応用 2.初期の認知機能低下に関するバイオマーカー候補タンパク質の絞り込みと翻訳後修飾解析	1.グライコプロテオミクスによる超百寿者特異的に変動する糖タンパク質の解析 2.初期の認知機能低下に関するバイオマーカー候補タンパク質に対する高感度検出法の開発

分子機構

構成メンバー

テーマリーダー：萬谷博

研究員：赤阪啓子、今江理恵子

1 第二期中期計画の研究成果

認知症（アルツハイマー病）、肺気腫、腎疾患、筋ジストロフィー症、網膜色素変性症のそれぞれの疾患に特異的に関わる糖鎖を明らかにし、糖鎖変化が老化や老化関連疾患に関わることを示してきた。

アルツハイマー病（AD）の脳では、N型糖鎖や

O型糖鎖の修飾に関わる糖転移酵素遺伝子の発現が変化することを明らかにした。N型糖鎖に関しては、AD脳においてバイセクト型糖鎖とその合成酵素GnT-IIIが増加しており、その糖鎖変化によりAβ産生酵素であるBACE1の細胞内局在が変化することで、Aβ産生が増加することが示唆された。O型糖鎖に関しては、O型糖鎖修飾開始酵素の一つであるGALNT6がAD脳で増加しており、GALNT6はアミロイド前駆体タンパク質（APP）の特定のアミノ酸のO型糖鎖修飾を増加させることで、Aβ産生を抑制することが明らかとなった。本研究によりAPP代謝に糖鎖修飾が直接影響することが示されたことで、糖鎖によってAPP代謝をコントロール

するような予防薬や治療薬の開発に応用できる可能性がある。

老化モデルマウス (α -Klothoマウス、自然老化マウス) の解析から、肺と腎臓に特異的な異常糖鎖の発現を見出した。これらの糖鎖変化は α -Klothoの変異による欠失と加齢による α -Klothoの減少に連動していたことから、肺気腫と腎疾患に関わることが予想された。異常糖鎖の発現機構を調べることで、 α -Klothoの機能や病態の解明に繋がることを期待される。

筋疾患の研究から、神経と筋組織の形成や機能維持に関わる重要な糖鎖 (*O*-マンノース型糖鎖) を発見し、この糖鎖の完全な構造と合成機構を解明した。この糖鎖は哺乳類で初めて見つかった構造であり、この糖鎖の合成に関わる糖転移酵素は全て先天性筋ジストロフィー症の原因遺伝子産物であった。この糖鎖は完全に欠損すると先天性筋ジストロフィー症となるが、変異遺伝子のタイプにより完全に糖鎖が欠損しないような場合は、成人後に網膜色素変性症を発症する可能性があることを示した。この結果は、*O*-マンノース型糖鎖も加齢などの影響で構造が変化し、加齢性の筋疾患や機能低下に関わる可能性を示している。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜認知症における糖鎖の解析＞

老化バイオマーカー、プロテオーム、神経病理学 (高齢者ブレインバンク)、理化学研究所、首都大学東京、Columbia Univ. Med. Center

＜モデルマウスを用いた老化機構の解明＞

老化バイオマーカー、プロテオーム、分子老化制御、病理診断科、神戸薬科大学、京都大学大学院、首都大学東京、北海道大学

＜筋形成維持に関連する糖鎖機能の解明＞

老化バイオマーカー、プロテオーム、運動器医学、血管医学、神戸大学、高エネルギー加速器研究機構、野口研究所、京都大学、三重大学、国立精神・神経医療研究センター神経研究所、杏林大学、北海道大学、名古屋大学、東海大学、帝京大学、東京大学、理化学研究所、大阪府立母子保健総合医療センター、鳥取大学、Peking University First Hospital、Peking Union Medical College、Baylor College of Medicine、McGill University Health Centre、Hadassah-Hebrew University Medical Center、Radboud University Medical Center

3 今後の展望

APP代謝における糖鎖の役割を明らかにし、糖

鎖を利用したAPP代謝制御の可能性を検討することで、アルツハイマー病の予防や治療への応用を目指す。また、加齢や環境・遺伝的要因による糖鎖変化と加齢に伴う機能低下や老化関連疾患との関係を明らかにし、糖鎖変化の生じるメカニズムと機能低下や疾患を発症するメカニズムの解明を目指す。

4 その他

(1) 共同研究者の遠藤玉夫所長代理が日本学士院賞を受賞 (受賞課題: 福山型筋ジストロフィーを含めた糖鎖合成異常症の系統的な解明と新しい糖鎖の発見)。先天性筋ジストロフィー症の発症に関わる糖鎖「*O*-マンノース型糖鎖」の発見から、その構造と合成経路の解明に至る一連の研究において、当研究テーマは中心的役割を果たし、先天性筋ジストロフィー症の病態解明に貢献した。

(2) *O*-マンノース型糖鎖に関する成果の重要性は世界的に認知されており、国内外の雑誌から総説が依頼されている。最新は2017年出版の *Biochim. Biophys. Acta* (Elsevier)、生化学 (日本生化学会)、日本結晶学会誌 (日本結晶学会)。

(3) 公益財団法人水谷糖質科学振興財団の国際グラント助成における成果 (2015年度度採択課題: Many H., The biosynthetic mechanism of *O*-mannosyl glycan diversity) が25周年記念誌に掲載。

(4) 学会活動や招待講演を通して基礎研究の発展に貢献するとともに、研究機関としての東京都健康長寿医療センターの知名度の向上にも努めた。日本薬学会ファルマシア委員 (萬谷博)、日本糖質学会評議員 (萬谷博)、2017年度生命科学系学会合同年次大会 ConBio2017ワークショップ「非典型糖鎖の糖鎖生物学」オーガナイザー (萬谷博)。

(5) 連携大学院の講義や研究生の指導を通して若手研究者の育成および研究テーマの推進力向上に努めた。東京農工大学客員准教授 (萬谷博)、首都大学東京非常勤講師 (萬谷博)、東京家政大学非常勤講師 (赤阪啓子)。

老化バイオマーカー

構成メンバー

テーマリーダー: 伊藤雅史

研究員: 川上恭司郎、藤田泰典

非常勤研究員: 菅谷麻希

1 第二期中期計画の研究成果

ミトコンドリア病のモデル細胞を出発点とした基礎研究からGDF15を新規診断マーカーとして同定した。特許出願後、企業と連携し診断薬としての実用化を目指した取り組みを行い、臨床性能試験まで進めた。また、センターの高齢者コホートをを用いた研究により、GDF15を日本人高齢者の死亡を予測するマーカーとして確立した。

泌尿器科疾患を対象に、ドセタキセル耐性前立腺がんの治療標的としてmiR-130aを、ゲムシタピン耐性膀胱がんの治療標的として前立腺がんの治療薬である抗アンドロゲン剤エンザルタミドを同定した。エクソソームに着目した研究においては、前立腺がん関連のエクソソームマーカーとして、PSMA(前立腺特異的マーカー)・P-gp(抗がん剤耐性マーカー)・ITGB4(悪性化マーカー)・GGT1(前立腺肥大との鑑別マーカー)を報告した。さらに、腎がんの病理診断マーカーであるCA9を発現するエクソソームが、腎がん細胞から分泌され、血管新生を促進することを報告し、エクソソーム上のCA9がバイオマーカー・治療標的になる可能性を示唆した。さらに、臨床上高齢者で特に重要である尿路感染症と無症候性細菌尿の鑑別診断に尿中エクソソームが有用であることを見出し、特許出願した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜GDF15のバイオマーカーとしての有用性＞

臨床検査科、久留米大学小児科、豊橋技術科学大学、社会参加と地域保健

＜泌尿器がんのエクソソーム解析・泌尿器がんの治療標的の同定・尿路感染症のエクソソーム診断＞

プロテオーム、病理診断科、泌尿器科、岐阜大学大学院医学研究科泌尿器科

＜脳エクソソーム・miRNA解析＞

高齢者バイオリソースセンター、神経病理学、記憶神経科学、分子機構

＜膵がんのエクソソーム解析＞

内視鏡科、病理診断科

＜内分泌疾患のエクソソーム解析＞

帝京大学内分泌代謝・糖尿病科

＜間質性膀胱炎のmiRNA解析＞

東京大学大学院医学研究科泌尿器科

＜加齢に伴う膀胱機能障害＞

東京大学大学院医学研究科コンチネンス医学、自律神経機能

3 今後の展望

細胞・臓器間情報伝達の観点から老化および老

化関連疾患の分子メカニズムの解明とバイオマーカーの同定を目指す。具体的には、認知症・がん等の老化関連疾患の新規バイオマーカーとなる細胞外小胞の同定とその検出システムの構築および慢性炎症が老化関連疾患の病態に及ぼす影響の検討と新規炎症関連因子の同定を行う。

4 その他

第二期中期計画では、細胞から分泌されるタンパク・miRNA・エクソソームに着目して老化・老化関連疾患のバイオマーカー・治療標的の探索と同定を行った。ミトコンドリア病の新規診断マーカーとして報告したGDF15については、従来のものと比較し最も有用なマーカーとして国際的に認知された。企業と連携しGDF15の血清中濃度測定法を開発し、その測定キットの臨床性能試験を実施したところであり、近い将来診断薬としての実用化が期待される。エクソソーム診断については、主に泌尿器がんを対象に複数の候補マーカーを同定した。今後、がんおよび認知症を対象に、エクソソーム診断の実用化に向けた取り組みを行っていく予定である。

プロテオーム

構成メンバー

チームリーダー：三浦ゆり

研究員：津元裕樹、岩本真知子

1 第二期中期計画の研究成果

本テーマでは、第二期中期計画を通じてプロテオーム解析という探索的アプローチを軸に（1）動脈老化、（2）糖尿病、（3）健康長寿に焦点を当てて研究を行った。主な研究成果は、A.タンパク質の翻訳後修飾をターゲットにした新たな分析法を開発したこと、B.プロテオーム解析と糖鎖解析を組み合わせたバイオマーカー探索のストラテジーを構築したこと、C.老化や疾患のメカニズムを明らかにしたこと、である。

特に今年度は、グライコプロテオミクス解析を行い、超百寿者特異的に変動する糖ペプチドを調べた。その結果、ハプトグロビンのAsn207とAsn211を含む糖ペプチドにおけるシアル酸含有3本鎖糖鎖が、超百寿者に特徴的に多いことを明らかにした。

また昨年、長期縦断コホート(SONIC)を用いた初期の認知機能低下のプロテオーム解析を行ったが、今年度はさらに、変動したタンパク質スポットのインゲル糖鎖解析を行った。ゲルから抽出した糖鎖のMALDI-TOF/MSによる糖鎖解析により、

発現変動したタンパク質の糖鎖構造を明らかにした。以上より、同一人の罹患前後のプロテオーム比較と糖鎖解析を組み合わせることで、より精度の高いバイオマーカー探索が可能になることを見出した。

また、糖尿病腎症モデルラットのプロテオーム解析から得られた成果について、メカニズムの解明を行い、糖尿病腎症における線維化のメカニズムを明らかにした。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜動脈老化に関するプロテオーム解析＞

東京医科歯科大学、センター病理診断科

＜糖尿病に関するプロテオーム解析＞

センター糖尿病・代謝・内分泌内科、杏林大学、芝浦工業大学

＜健康長寿に関するプロテオーム解析＞

老年病態研究チーム（血管医学）、自立促進と介護予防研究チーム（認知症・うつ予防と介入の促進）、福祉と生活ケア研究チーム（在宅療養支援方法の開発）、慶応大学百寿総合研究センター、国立医薬品食品衛生研究所、島津製作所、大阪大学、湘南工科大学

＜認知症における糖鎖の解析＞

＜モデルマウスを用いた老化機構の解明＞

＜筋形成維持に関連する糖鎖機能の解明＞

老化機構研究チーム（分子機構）

＜前立腺がんエクソソームのプロテオーム解析＞

老化機構研究チーム（老化バイオマーカー）

＜MuSK タンパク質の解析＞

老年病態研究チーム（運動器医学）

＜正常老化過程における脳ミトコンドリア機能低下の機構解析＞

老化制御研究チーム（生体環境応答）

＜プロテオーム解析による脱分化誘導剤処理した膀胱癌細胞に特異的な糖タンパク質の同定＞

老年病態研究チーム（血管医学）

＜血しょう GDF15 の解析＞

社会参加と地域保健研究チーム（老化・虚弱の一次予防と地域保健）

老化機構研究チーム（老化バイオマーカー）

＜神経突起変性関連タンパク質の同定＞

芝浦工業大学

＜脱メチル化、脱アセチル化酵素阻害剤の創成＞

京都府立医科大学

＜新規肥満応答因子 Wwpl の機能解析＞

東京理科大学

＜唾液エクソソームのプロテオーム解析＞

帝京平成大学

＜糖転移酵素ノックアウトマウス血しょうのプロテオーム解析＞

理化学研究所

＜Pin1 タンパク質の質量分析＞

名古屋市立大学

3 今後の展望

第二期中期計画で開発した定量的 O-GlcNAc 化プロテオーム解析法を利用して、臨床検体の O-GlcNAc 化プロテオーム解析を行い、ヒト糖尿病性腎症などの病態を解明する。

島津製作所との共同研究で開発した「シアル酸結合様式特異的アルキルアミド化(SALSA)法」を、糖鎖分析法から糖ペプチド分析法に発展させる。さらに、超百寿者血漿などの臨床検体に応用し、タンパク質に結合したシアル酸含有糖鎖の健康長寿における生物学的意義を明らかにする。

大規模縦断調査の血漿サンプルを利用し、バイオマーカー探索の戦略に沿って、超高齢社会においてバイオマーカーを必要としている様々な状態に関するバイオマーカーの策定を計る。

4 その他

○「プロテオーム」がテーマとして主体的に進めるそれぞれの研究は、1.オリジナリティの高い分析手法の開発と応用 2.容易に入手できない貴重なサンプルの解析 3.社会貢献を見据えた出口戦略 を軸に進めている。

動脈老化に関するプロテオーム解析

ヒト大動脈中膜組織サンプルを用いてプロテオーム解析を行い、動脈老化の一つである動脈中膜変性症において変動するタンパク質について明らかにする。ヒト大動脈中膜組織を用いることで、動脈老化の機序解明、大動脈解離症の病因の解明、予防、診断、治療法の開発に繋がる。

糖尿病に関するプロテオーム解析

糖尿病患者サンプル及び糖尿病モデルラットを用いて、タンパク質の O-GlcNAc 化に的を絞った O-GlcNAc 化プロテオーム解析を行い、糖尿病合併症マーカーを探索する。新たな分析手法の開発に取り組み、汎用性の高い特異的な O-GlcNAc 化ペプチド濃縮法を武器に新たな機能プロテオミクス的手法を開発する。

健康長寿に関するプロテオーム解析

超百寿者や長期縦断研究 SONIC のサンプルを用いて、健康長寿に関与する因子の解明や初期の認知機能低下に関するバイオマーカーの探索を行う。新たな分析手法を開発しバイオマーカー探索への応用を図るほか、縦断調査の強みを

活かし、遺伝的背景や生活習慣など個人差によるばらつきを抑えた効率の良いプロテオーム解析を行う。本研究の成果は、MCIの診断マーカー候補の発見や初期認知機能低下の病態解明に貢献する。

- 「プロテオーム」は、タンパク質の網羅的解析に関する分析技術の他にも、翻訳後修飾などのタンパク質に関する様々な分析を行う装置と技術を有しており、これらを研究所内外の共同研究に供している。平成29年度は、プロテオーム解析の研究支援として、14件の共同研究を行った。
- 外部研究生を積極的に受け入れ、若手研究者の育成と研究テーマの推進力増加に努めている。(平成29年度:研究生 3名)

論文・学会発表

分子機構

1 学会発表

(1) 海外

1. Kuwabara, N., Manya, H., Yamada, T., Tateno, H., Kanagawa, K., Kobayashi, K., Akasaka-Manyu, K., Hirose, Y., Mizuno, M., Ikeguchi, M., Toda, T., Hirabayashi, J., Senda, T., Endo, T., Kato, R. : Carbohydrate-binding domain of the POMGnT1 stem region modulates O-mannosylation sites of α -dystroglycan. 24th International Symposium on Glycoconjugates (GlycoXXIV), Jeju Island, Korea (ICC Jeju), 2017.8.27-9.1

(2) 国内

1. 今江理恵子、三谷昌平、新井洋由：「非対称分裂におけるホスファチジルイノシトールのsn-1位の脂肪酸組成の役割」第69回日本細胞生物学会大会、宮城県仙台市（仙台国際センター）、2017. 6. 13-15
2. Akasaka-Manyu, K., Manya, H., Endo, T.: Alteration of urinary glycoprotein expression associated with aging in mice. 第40回日本基礎老化学会大会、愛知県名古屋市（名古屋国際会議場）、2017.6.14-16
3. 萬谷博、山口芳樹、金川基、小林千浩、田尻道子、赤阪-萬谷啓子、川上宏子、水野真盛、和田芳直、戸田達史、遠藤玉夫：筋ジストロフィー症原因遺伝子産物TMEM5によるジストログリカンの機能糖鎖修飾。第36回日本糖質学会年会、北海道旭川市（旭川市民文化会館）、2017.7.19-21
4. 長江雅倫、Sushil K. Mishra、根谷崎牧子、大井里香、池田明美、松垣直宏、明石知子、萬谷博、水野真盛、矢木宏和、加藤晃一、千田俊哉、遠藤玉夫、禾晃和、山口芳樹：ジストログリカノパチー原因遺伝子産物Protein O-Mannosyl Kinase (POMK)の構造生物学的研究。第36回日本糖質学会年会、北海道旭川市（旭川市民文化会館）、2017.7.19-21
5. 桑原直之、萬谷博、金川基、今江理恵子、田中智博、小林千浩、戸田達史、水野真盛、遠藤玉夫、加藤龍一：Fukutin-related protein (FKRP)の結晶構造と基質認識機構解析。第36回日本糖質学会年会、北海道旭川市（旭川市民文化会館）、2017.7.19-21

6. 赤阪-萬谷啓子、萬谷博、遠藤玉夫：GalNAcT-6によるO型糖鎖修飾のAPP代謝への影響。第40回日本神経科学大会、千葉県千葉市（幕張メッセ）、2017.7.20-23
7. 萬谷博、山口芳樹、金川基、小林千浩、田尻道子、赤阪-萬谷啓子、川上宏子、水野真盛、和田芳直、戸田達史、遠藤玉夫： α -ジストログリカノパチー原因遺伝子産物TMEM5によるジストログリカン糖鎖の修飾。第3回日本筋学会学術集会、東京都小平市（国立精神・神経医療研究センター）、2017.8.4-5
8. 遠藤玉夫、萬谷博、赤阪-萬谷啓子、今江理恵子： α -ジストログリカノパチーの病態解明と糖鎖による治療法の開発研究。精神・神経疾患研究開発費平成29年度西野班班会議、東京、2017.12.3-4
9. 萬谷博：新規O-マンノース型糖鎖の発見とその異常による先天性筋ジストロフィー症。2017年度生命科学系学会合同年次大会（ConBio2017）、兵庫県神戸市（神戸ポートアイランド）、2017.12.6-9
10. 赤阪-萬谷啓子、萬谷博、遠藤玉夫：老化マウスにおける尿中糖タンパク質の発現変化。2017年度生命科学系学会合同年次大会（ConBio2017）、兵庫県神戸市（神戸ポートアイランド）、2017.12.6-9
11. 今江理恵子、三谷昌平、新井洋由：ホスファチジルイノシトールのsn-1位の脂肪酸組成は上皮細胞のアピカルジャンクション形成に重要である。2017年度生命科学系学会合同年次大会（ConBio2017）、兵庫県神戸市（神戸ポートアイランド）、2017.12.6-9
12. 桑原直之、萬谷博、山田健之、館野浩章、金川基、小林千浩、赤阪-萬谷啓子、弘瀬友理子、水野真盛、池口満徳、戸田達史、平林淳、千田俊哉、遠藤玉夫、加藤龍一：POMGnT1の構造解析による筋ジストロフィー疾患発症機序解明2017年度生命科学系学会合同年次大会（ConBio2017）、兵庫県神戸市（神戸ポートアイランド）、2017.12.6-9
13. 桑原直之、萬谷博、今江理恵子、遠藤玉夫、千田俊哉、加藤龍一：哺乳類細胞発現系によるFukutin-related protein (FKRP)の大量精製と結晶構造決定。2017年度量子ビームサイエンスフェスタ（第9回MLFシンポジウム／第35回PFシンポジウム）、茨城県水戸市（茨城県立県民文化センター）、2018.3.2-4
14. 赤阪-萬谷啓子、萬谷博、遠藤玉夫：加齢による非硫酸化HNK-1糖鎖の増加と腎機能低下との関連。日本薬学会第138年会、石川県金沢市（石川県立音楽堂他金沢駅周辺施設）、2018.3.25-28
15. 今江理恵子、萬谷博、津元裕樹、田中智博、水野真盛、金川基、小林千浩、戸田達史、遠藤玉夫：筋ジストロフィー症原因遺伝子産物フクチンはジストログリカン糖鎖にグリセロールリン酸を導入する活性を有する。日本薬学会第138年会、石川県金沢市（石川県立音楽堂他金沢駅周辺施設）、2018.3.25-28

2 誌上发表

(1) 原著

1. Nagae, M., Mishra, SK., Neyazaki, M., Oi, R., Ikeda, A., Matsugaki, N., Akashi, S., Manya, H., Mizuno, M., Yagi, H., Kato, K., Senda, T., Endo, T., Nogi, T., Yamaguchi, Y.: 3D structural analysis of Protein O-Mannosyl Kinase POMK, a causative gene product of dystroglycanopathy. Genes Cells, 22(4), 348-359, 2017 (IF: 1.993, 2016)
2. Kanagawa, M., Manya, H.: Tatsushi Toda and Tamao Endo win 107th Japan Academy Prize. Glycobiology,

27(7), 599-600, 2017 (IF: 3.112, 2016)

3. Yamashita, K., Kuwabara, N., Nakane, T., Murai, T., Mizohata, E., Sugahara, M., Pan, D., Masuda, T., Suzuki, M., Sato, T., Kodan, A., Yamaguchi, T., Nango, E., Tanaka, T., Tono, K., Joti, Y., Kameshima, T., Hatsui, T., Yabashi, M., Manya, H., Endo, T., Kato, R., Senda, T., Kato, H., Iwata, S., Ago, H., Yamamoto, M., Yumoto, F., Nakatsu, T.: Experimental phase determination with selenomethionine or mercury-derivatization in serial femtosecond crystallography. *IUCrJ*, 4, 639-647, 2017 (IF: 5.8, 2016)
4. Nishihara, R., Kobayashi, K., Imae, R., Tsumoto, H., Manya, H., Mizuno, M., Kanagawa, M., Endo, T., Toda, T.: Cell endogenous activities of fukutin and FKRK coexist with the ribitol xylosyltransferase, TMEM5. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 497(4), 1025-1030, 2018 (IF: 2.466, 2016)

(2) 総説

1. Manya, H., Endo, T.: Glycosylation with ribitol-phosphate in mammals: New insights into the *O*-mannosyl glycan. *Biochim. Biophys. Acta.*, 1861(10), 2462-2472, 2017 (IF: 4.702, 2016)
2. 萬谷博、遠藤玉夫: 哺乳類におけるリビトールリン酸含有糖鎖の発見と*O*-マンノース型糖鎖の生合成機構の解明. *生化学*, 89(5), 605-612, 2017
3. 桑原直之、加藤龍一、萬谷博、遠藤玉夫: POMGnT1の構造解析による筋ジストロフィー疾患発症機序解明, *日本結晶学会誌*, 59(2,3), 114-120, 2017

3 著書等

1. 萬谷博: 新刊紹介「ぜったい成功する! はじめての学会発表 (化学同人)」。*ファルマシア*, 53(12), 1194, 2017
2. Manya, H.: The biosynthetic mechanism of *O*-mannosyl glycan diversity. In Commemoration of The 25th Anniversary of Mizutani Foundation for Glycoscience, 104-105, 2017

老化バイオマーカー

1 学会発表

(1) 海外

1. Mizutani K, Kawakami K, Fujita Y, Horie K, Kameyama K, Ito M, Deguchi T. Proteomic analysis of prostate cancer related exosomes isolated by anti-PSMA antibody beads. AACR Annual Meeting 2017, Washington, D.C., USA, 2017. 4.1-5
2. Ito M, Kawakami K, Horie K, Fujita Y, Matsuda Y, Arai T, Kameyama K, Kato T, Masunaga K, Kasuya Y, Tanaka M, Deguchi T, Mizutani K. Gamma-glutamyltransferase activity in exosomes as a marker for prostate and renal cell cancers. International Society for Extracellular Vesicles 2017, Toronto, Canada, 2017.5.18-21
3. Fujita Y, Taniguchi Y, Tanaka M, Shinkai S, Ito M. Serum GDF15 predicts all-cause mortality in a general population of Japanese elderly. The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, USA, 2017.7.22-27
4. Ito M, Horie K, Kawakami K, Fujita Y, Deguchi T, Mizutani K. Promotion of angiogenesis by exosomes expressing carbonic anhydrase 9. ASEM 2017 Annual

Meeting, Monterey, USA, 2017.10.8-12

5. Mizutani K, Horie K, Shirahama T, Akiyama N, Kawakami K, Fujita Y, Kameyama K, Ito M, Deguchi T. Induction of Akt in urinary exosome by bacterial infection. The 37th Congress of Société Internationale d'Urologie, Lisbon, Portugal, 2017.10.19-22

(2) 国内

1. 伊藤雅史 尿路性器癌研究の最前線: Identification of novel biomarkers and therapeutic targets for urological cancer (シンポジウム) 泌尿器科学セミナー、岐阜、2017.4.26
2. 水谷晃輔、川上恭司郎、藤田泰典、堀江憲吾、亀山紘司、伊藤雅史、出口隆 Immunocapture法を使用した前立腺癌関連エクソソームの解析 第105回日本泌尿器科学会総会、鹿児島、2017.4.21-24
3. 川上恭司郎、藤田泰典、伊藤雅史 エクソソームを用いた前立腺がん診断法の開発 第6回TOBIRA研究交流フォーラム、東京、2017.5.12
4. 水谷晃輔、川上恭司郎、藤田泰典、堀江憲吾、亀山紘司、伊藤雅史、出口隆 尿路感染の診断におけるエクソソームの有用性について 泌尿器科共同研究会、岐阜、2017.7.1
5. 川上恭司郎、藤崎健人、藤田泰典、吉田雅幸、伊藤雅史 脳エクソソーム単離法の改良とアミロイドβの検出 第9回日本RNAi研究会・第4回日本細胞外小胞学会、広島、2017.8.30-9.1
6. 大庭和人、田村嘉章、館鼻彩、山岡巧弥、小寺玲美、豊島堅志、千葉優子、石川譲治、森聖二郎、藤田泰典、伊藤雅史、田中雅嗣、井藤英喜、荒木厚 高齢糖尿病患者における血中GDF15値測定の意義の検討 第32回日本糖尿病合併症学会、東京、2017.10.27-29
7. 川上恭司郎、藤田泰典、伊藤雅史 前立腺癌の診断におけるエクソソーム上γ-グルタミルトランスフェラーゼ活性の有用性 首都大バイオコンファレンス2017、東京、2017.11.17
8. 水谷晃輔、川上恭司郎、藤田泰典、堀江憲吾、亀山紘司、伊藤雅史、出口隆 尿路感染症の診断における尿中エクソソームの有用性について 第67回日本泌尿器科学会中部総会、大阪、2017.11.24-27
9. 宮崎優輝、藤田泰典、川上恭司郎、永田喜三郎、伊藤雅史 マクロファージRAW264.7細胞から放出されるエクソソームの定量プロテオーム解析 2017年度生命科学系学会合同年次大会 (第40回日本分子生物学会年会)、神戸、2017.12.6-9
10. 藤崎健人、川上恭司郎、藤田泰典、吉田雅幸、伊藤雅史 脳エクソソーム単離法の改良とアミロイドβの検出 2017年度生命科学系学会合同年次大会 (第40回日本分子生物学会年会)、神戸、2017.12.6-9
11. 水谷晃輔、川上恭司郎、藤田泰典、堀江憲吾、亀山紘司、伊藤雅史、出口隆 尿エクソソームを用いた尿路感染症診断法 第2回Liquid biopsy研究会、東京、2018.1.18-19
12. 堀江憲吾、水谷晃輔、出口隆、川上恭司郎、藤田泰典、伊藤雅史 腎細胞癌における血清エクソソーム上γ-グルタミルトランスフェラーゼ活性の有用性 第27回泌尿器科分子・細胞研究会、東京、2018.2.2-3

2 誌上发表

(1) 原著

1. Murakami Y, Ito M, Ohsawa I. Molecular hydrogen

protects against oxidative stress-induced SH-SY5Y neuroblastoma cell death through the process of mitohormesis. *PLoS One* 12:e0176992, 2017. (査読あり) (IF : 2.806, 2016)

2. ©Kawakami K, Fujita Y, Matsuda Y, Arai T, Horie K, Kameyama K, Kato T, Masunaga K, Kasuya Y, Tanaka M, Mizutani K, Deguchi T, ★Ito M. Gamma-glutamyltransferase activity in exosomes as a potential marker for prostate cancer. *BMC Cancer* 17:316, 2017. (査読あり) (IF : 3.288, 2016)
3. Horie K, Ito S, Hatazaki K, Yasuda M, Nakano M, Kawakami K, Fujita Y, Ito M, Ezaki T, Deguchi T. 'Haemophilus quentini' in the urethra of men complaining of urethritis symptoms. *J Infect Chemother* pii: S1341-321X(17)30186-1, 2017. (査読あり) (IF : 1.826, 2016)
4. Horie K*, ©Kawakami K*, Fujita Y, Sugaya M, Kameyama K, Mizutani K, Deguchi T, ★Ito M. Exosomes expressing carbonic anhydrase 9 promote angiogenesis. *Biochem Biophys Res Commun* 492:356-361, 2017. (査読あり) (IF : 2.466, 2016) *Equal contribution

プロテオーム

1 学会発表

(1) 海外

1. Akimoto, Y., Kunimasa Y., Miura, Y., Toda, T., Fukutomi, T., Sugahara, D., Kudo, A., Hart, G.W., Endo, T., Kawakami, H. : Change of localization of the O-GlcNAcylated actin accompanied with diabetic nephropathy, 24th International Symposium on Glycoconjugates (Glyco24), Jeju Island, Korea, 2017.8.27-9.1

(2) 国内

1. 三浦ゆり, 橋井則貴, 太田悠葵, 鈴木淳也, 高倉大輔, 津元裕樹, 阿部由紀子, 新井康通, 川崎ナナ, 広瀬信義, 遠藤玉夫 : 血漿タンパク質の糖ペプチド解析による健康長寿に特徴的な糖鎖修飾の探索、日本薬学会第138年会、金沢、2018.3.25-28
2. 津元裕樹, 西風隆司, 橋井則貴, 阿部由紀子, 新井康通, 広瀬信義, 石井明子, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一, 三浦ゆり, 遠藤玉夫 : 超百寿者血漿タンパク質のN結合型糖鎖解析による健康長寿マーカー探索、日本薬学会第138年会、金沢、2018.3.25-28
3. 今江理恵子, 萬谷博, 津元裕樹, 田中智博, 水野真盛, 金川基, 小林千浩, 戸田達史, 遠藤玉夫 : 筋ジストロフィー原因遺伝子産物フクチンはジストログリカン糖鎖にグリセロールリン酸を導入する活性を有する、日本薬学会第138年会、金沢、2018.3.25-28
4. 後藤芳邦, 小川裕子, 津元裕樹, 三浦ゆり, 中村孝博, 小川健司, 服部明, 秋元義弘, 川上速人, 遠藤玉夫, 矢ノ下良平, 辻本雅文 : ERAP1結合型エキソソームによるマクロファージの古典的活性化、2017年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017)、神戸、2017.12.6-9
5. 三浦ゆり, 岩本真知子, 稲垣宏樹, 増井幸恵, 石岡良子, 津元裕樹, 樺山 舞, 杉本 研, 阿部由紀子, 新井康通, 神出 計, 池邊一典, 石崎達郎, 権藤恭之, 高橋龍太郎, 遠藤玉夫 : 高齢者の縦断調査血液サンプルを用いた初期の認知機能低下に関するプロテオミクス解析、第68回日本電気泳動学会総会、広島、2017.11.24-25
6. 早川敦子, 津元裕樹, 岩本真知子, 福井浩二, 秋元義弘,

遠藤玉夫, 三浦ゆり : GKラット腎臓のプロテオーム変化と組織の線維化、第68回日本電気泳動学会総会、広島、2017.11.24-25

7. 鈴木秀行, 津元裕樹, 岩本真知子, 野田義博, 西風隆司, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一, 武藤昌岡, 遠藤玉夫, 三浦ゆり : マウス血漿N結合型糖鎖に及ぼすシアル酸投与の影響、第61回日本薬学会関東支部大会、東京、2017.9.16
8. 福井浩二, 沖廣俊介, 大淵優花, 津元裕樹, 三浦ゆり : 過酸化水素添加で生じる神経突起変性時に変動する突起特異的タンパク質の解析、第25回日本過酸化脂質・抗酸化物質学会、仙台、2017.8.19
9. 三浦ゆり, 橋井則貴, 太田悠葵, 鈴木淳也, 高倉大輔, 津元裕樹, 阿部由紀子, 新井康通, 川崎ナナ, 広瀬信義, 遠藤玉夫 : 日本人超百寿者に特徴的な血漿タンパク質糖鎖の解析、日本プロテオーム学会2017年大会、大阪、2017.7.26-28
10. 沢辺元司, 三浦ゆり, 津元裕樹, 岩本真知子, 副島友莉恵, 吉田祥子, 新井富生, 濱松晶彦, 遠藤玉夫 : 第49回日本動脈硬化学会総会・学術集会、広島、2017.7.6-7
11. 福井浩二, 沖廣俊介, 大淵優花, 津元裕樹, 三浦ゆり, N1E-115細胞における神経突起の単離方法の確立と過酸化水素添加時の神経突起変性タンパク質の同定、第70回日本酸化ストレス学会、プログラム・抄録集、p105、つくば、2017.6.28-29
12. Fukui, K., Shirai, M., Hirano, A., Hosono, A., Takatsu, H., Miura, Y., Shinkai, T., Urano, S. : Long-term vitamin E-deficient and aged mice exhibit cognitive dysfunction via brain oxidation, 第40回日本基礎老化学会大会、名古屋、2017.6.14-16
13. Tsumoto, H., Nishikaze, T., Hashii, N., Abe, Y., Arai, Y., Iwamoto, S., Ishii-Watababe, A., Hirose, N., Tanaka, K., Miura, Y., Endo, T. : MALDI-TOF MS analysis of N-glycans on plasma proteins from Japanese semi-supercentenarians, 第40回日本基礎老化学会大会、名古屋、2017.6.14-16
14. 津元裕樹, 西風隆司, 阿部由紀子, 新井康通, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一, 三浦ゆり, 遠藤玉夫 : MALDI-TOF MSとシアル酸結合様式特異的誘導体化法を用いた血漿中遊離糖鎖解析法の開発、第65回質量分析総合討論会、つくば、2017.5.17-19

2 誌上发表

(1) 原著

1. Nishihara, R., Kobayashi, K., Imae, R., Tsumoto, H., Manya, H., Mizuno, M., Kanagawa, M., Endo, T., Toda, T. : Cell endogenous activities of fukutin and FKRP coexist with the ribitol xylosyltransferase, TMEM5, *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 497, 1025-1030, 2018. (査読あり), (IF 2.466: 2016)
2. ©Tsumoto, H., Akimoto, Y., Endo, T., ★Miura, Y. : Quantitative analysis of O-GlcNAcylation in combination with isobaric tag labeling and chemoenzymatic enrichment, *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 27, 5022-5026, 2017. (査読あり), (IF 2.454: 2016)
3. Mellini, P., Itoh, Y., Tsumoto, H., Li, Y., Suzuki, M., Tokuda, N., Kakizawa, T., Miura, Y., Takeuchi, J., Lahtela-Kakkonen, M., Suzuki, T. : Potent mechanism-based sirtuin-2-selective inhibition by an in-situ-generated occupant of the substrate-binding site,

- in Japanese semisuper cente⁺-binding site, Chem. Sci., 8, 6400-6408, 2017, (査読あり), (IF 8.668: 2016)
4. Kobayashi, M., Takeda, K., Narita, T., Nagai, K., Okita, N., Sudo, Y., Miura, Y., Tsumoto, H., Nakagawa, Y., Shimano, H., Higami, Y. : Mitochondrial intermediate peptidase is a novel regulator of sirtuin-3 activation by caloric restriction, FEBS Lett. 591, 4067-4073, 2017, (査読あり), (IF 3.623: 2016)

老化制御研究チーム

チームリーダー：石神 昭人

1 研究チームの概要・目的

老化制御研究チームでは、健康長寿を達成するための科学的根拠を明らかにし、その方法論を開発する。その目的を達成するために多様な生物種（ヒト・マウス・線虫）を研究対象とし、得られた研究成果をヒトへ外挿する。これらの研究対象は、それぞれ独立したものではなく、相互に研究成果を応用して研究内容を深めている。最終的にヒトでの効果を確認し、健康寿命の延伸に寄与する。また、研究内容は、高齢者疾患の予防や診断、治療にまで拡充し、高齢者の健康水準向上を図る。

2 今後の展望

老化制御研究チームでは、各研究テーマによる研究成果を他領域に応用することを推進する。特に健康長寿を達成するため、ヒトへの介入研究や高齢者疾患を早期に検知する測定系の臨床研究が予定されている。倫理指針に基づいたヒト臨床試験が円滑に行えるように努力する。また、引き続き、社会系フィールドワークにおける研究成果の応用や技術協力をチームとして推進する。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

健康長寿ゲノム探索

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
ホルモン依存性がんの新たな診断・治療法を開発する。	ホルモン依存性がんである前立腺がん、乳がんは社会の高齢化とともに患者数が急増しており、より効果的な診断・治療法の開発が必要とされる。本テーマでは、ゲノム解析、エピゲノム解析の最新手法を活用し、新たながんの進展メカニズムを明らかにし、診断、治療法を開発し、健康長寿に貢献することを目的とする。				近年、社会の高齢化とともに患者数が急増している前立腺がんの診断・治療標的を同定し、その病態メカニズムを明らかにするとともに、がん増殖ならびに治療抵抗性の抑制方法を検討する。	近年、社会の高齢化とともに患者数が急増している前立腺がん及び乳がんの診断・治療標的を同定し、その病態メカニズムを明らかにするとともに、がん増殖ならびに治療抵抗性の抑制方法を検討する。

分子老化制御

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
老化や老年病に及ぼす活性酸素の機能解明に関する研究とアスコルビン酸（ビタミンC）などの抗酸化物質の摂取が高齢者の健康増進や老年病の予防に有効であるかの検証を目指す。	老化の原因のひとつは細胞や組織での過剰な活性酸素の増加およびその蓄積によるためと考えられている。しかし、活性酸素そのものが老化の進行に直接的に関与する科学的証明はまだない。活性酸素が老化の原因であることを明らかにするため、強力な抗酸化物質であるビタミンCや抗酸化酵素、SODを欠損させたノックアウトマウスを用いて、活性酸素が関与する老化機構の解明と食品からの抗酸化物質の摂取が老化制御に有効かを検証する。	ビタミンC合成不全 SMP30/GNL ノックアウトマウスを用いてビタミンC不足により、細胞や組織の活性酸素が増加するか明らかにする。	ビタミンC合成不全 SMP30/GNL ノックアウトマウスと抗酸化酵素、SODを欠損させたノックアウトマウスを掛け合わせダブルノックアウトマウスを作製する。このマウスを用いて活性酸素と老化との関係を明らかにする。	ビタミンC合成不全 SMP30/GNL & SODダブルノックアウトマウスを用いて活性酸素が酸化ストレスの影響を受けやすい脂質代謝系に及ぼす影響を明らかにする。	ビタミンC合成不全 SMP30/GNL ノックアウトマウスを用いて活性酸素が脂質代謝異常以外の加齢疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、腎疾患など）に及ぼす影響を明らかにする。	ビタミンCやその他の抗酸化物質を多く含む食品の摂取が高齢者の健康増進や老年病の予防に繋がるかを疫学的調査や介入試験により明らかにする。

シトルリン化タンパク質やシトルリン化タンパク質を生成する酵素、ペプチジルアルギニンデアミナーゼ (PAD) を指標とした認知症や老年病の早期臨床検査診断薬の開発、及び臨床検査診断薬の保険適用や市販化に向けた取り組みを目指す。	アルツハイマー型認知症患者の脳ではシトルリン化タンパク質と総称される異常なタンパク質が早期に出現し、病状の進行程度に応じてその量が増加する。また、関節リウマチやがんでもシトルリン化タンパク質が疾患の発症に関与することが報告されている。そこで、シトルリン化タンパク質やPADを指標とした臨床診断薬を開発し、認知症や老年病の早期診断薬になりうるか検討する。また、その有用性を確かめるため、臨床試験も実施する。	認知症や老年病の早期診断を行う臨床検査診断薬を構築するため、シトルリン化タンパク質やシトルリン化タンパク質を生成する酵素、ペプチジルアルギニンデアミナーゼ (PAD) に特異的なモノクローナル抗体を多数、作製する。	認知症や老年病の早期診断を行う臨床検査診断薬を完成させるため、シトルリン化タンパク質やシトルリン化タンパク質を生成する酵素、ペプチジルアルギニンデアミナーゼ (PAD) を構築する。	高齢者ブレイクバンクやバイオリソースセンターの生体試料を用いて、認知症や老年病の早期診断を行う臨床検査診断薬の有用性や特異性を確認する。	センター倫理委員会の承認後に認知症や老年病の患者さんの血清や脳脊髄液を用いた臨床試験を実施し、臨床検査診断薬の有用性や特異性を確認する。	臨床検査試薬を販売する企業と協力して、認知症や老年病の早期臨床検査診断薬の保険適用や市販化に向けた取り組みを行う。
--	--	---	---	--	--	---

生体環境応答

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
I. ミトコンドリア機能制御による抗老化の研究とミトコンドリア健康法の開発：高齢者におけるエネルギー産生低下と酸化ストレス増大を引き起こすミトコンドリアの機能異常について、分子レベルの反応が個体に影響を及ぼすメカニズムを明らかにし、これに基づいてミトコンドリア機能を維持・向上させる方法を探ること、科学的論拠に基づく老化と老年疾患の予防・治療法を開発する。	水素分子等の応用による新しい酸化ストレス防御法を開発し、効果的にミトコンドリア機能を維持・向上させる方法を探ること健康長寿に貢献することを目的とする。その過程で、運動や食事が酸化ストレスの生成、消去、回復に及ぼす影響を動物やヒトで生体内イメージング法等を用いて解析し、老化過程への関与を明確にする。一方、ミトコンドリア機能と活性酸素種の生成に関与する因子を超高解像度顕微鏡などを用いて分子レベルから解析し、これが細胞死や個体寿命などに及ぼす影響を調べる。	細胞レベルで水素分子作用機序検討(高解像度顕微鏡を用いた細胞膜やミトコンドリアの機能変化を解析)。水素分子の疾患予防・治療効果の検討(動物モデル:がん治療における抗がん剤の副作用等)。	細胞・動物レベルで水素分子作用機序検討(酸化ストレス可視化動物や重水素の応用)。水素分子の疾患予防・治療効果の検討(動物モデル:がん治療における放射線治療の副作用や腎疾患等)。	細胞・動物レベルで水素分子作用機序検討(細胞レベルで水素分子が直接作用する分子の探索及びホルミシス効果の検証)。水素分子の疾患予防・治療効果の検討(動物モデルに基づく臨床研究の提案)。	細胞・動物レベルで水素分子作用機序検討(動物レベルで水素分子が直接作用する分子の探索及びホルミシス効果の検証)。水素分子の疾患予防・治療効果の検討(臨床レベルでの共同研究)。	水素分子の分子レベルでの作用機序と疾患モデル治療の検証結果に基づく、水素治療が最も効果的な疾患とその投与方法の提案及び普及活動。臨床レベルでの共同研究継続。
II. 老化制御におけるミトコンドリア機能の関与を解明し、高齢者の健康長寿を実現するための方策の科学的根拠を確立する: コエンザイムQ (CoQ) はミトコンドリア呼吸鎖の主要構成因子であり、活性酸素の最大の発生源でもある。少量のCoQしか産生しないclk-1トランスジェニックマウスの老化過程と寿命を解析するとともに、ミトコンドリアに到達可能な水溶性CoQを生体に投与することにより、CoQを介したミトコンドリア機能の老化への関与を解明する。	ヒトがなぜ老化するかについては諸説ある。その中で有力視されているのは、代謝仮説と、酸化傷害仮説であり、両者に深く関わっているのがミトコンドリアである。本研究では、少量のCoQしか産生せずミトコンドリア機能が低下したclk-1トランスジェニックマウスを用い、寿命および老化制御におけるミトコンドリア機能の関与を明らかにすることを目的とする。	CoQ産生量が少なくミトコンドリア機能の低下しているclk-1トランスジェニックマウスの寿命を解析し、ミトコンドリア機能が寿命に与える影響について解析する。	clk-1トランスジェニックマウスは野生型マウスに比べ、低体重である。そこで、老化との関連が指摘されているインシュリン様成長因子1 (IGF-1) を中心とした代謝経路の解析を行う。	clk-1トランスジェニックマウスでは、ミトコンドリア機能の低下に伴い、エネルギー代謝がどのように変化するかを個体及び細胞レベルで解析する。	clk-1トランスジェニックマウスは最大の発生源であるCoQを少量しか産生しない。そこでこのモデルマウスでは、活性酸素による生体高酸化傷害が減少しているかを解析する。	ミトコンドリア機能が異常あるいは低下したモデルマウスまたはヒト細胞に水溶性CoQを投与し、ミトコンドリア機能を回復させた場合の抗老化作用を検証する。

<p>Ⅲ. 組織活性酸素の生成のダイナミズム解析技術開発 酸化ストレスは老化と疾患の一因とされてきたが、近年はその関与について異論もある。また、活性酸素を毒性因子として捉える酸化ストレス理論をその生理的な意義をもって再構築する必要性もでてきた。しかし、活性酸素は一般の物質のように測定することはできない。本研究は活性酸素とその背景因子を評価するための方法論を確立して、老化メカニズムの解明や科学的根拠に基づく老化制御・健康増進への応用のための研究に対する基盤支援とする。</p>	<p>老化や疾患関連に加えて生理的な活性酸素生成機構の解明を目的として、活性酸素の動的画像化法にその背景因子の計測法を融合した方法論の確立を目的とする。また、「還元ストレス理論」を実証することで、老化、疾患の酸化ストレス理論の再構築を目指す。これをもって、老化メカニズムの解明や科学的根拠に基づく老化制御・健康増進への応用のための理論的基盤支援とする。</p>	<p>・放射線-化学発光計測と酸素とレドックス計測との複合計測法の開発。 ・供給性・需要性低酸素の緩和時の活性酸素の生成の測定。 ・組織還元指標の測定法の確立。</p>	<p>・放射線-化学発光計測と酸素とレドックス計測との複合計測法の開発。 ・供給性低酸素の緩和時の活性酸素の生成と背景因子の関係の解析。 ・組織還元指標の測定法の確立。</p>	<p>・放射線-化学発光計測と酸素とレドックス計測との複合計測法の評価研究。 ・需要性低酸素の緩和時の活性酸素の生成と背景因子の関係の解析。 ・老化モデル動物における組織酸化傷害と還元指標との関係の解析。</p>	<p>・放射線-化学発光計測と酸素とレドックス計測との複合計測法の評価研究。 ・老化モデル動物における組織酸化傷害と還元指標との関係の解析。</p>	<p>・老化モデル動物における組織酸化傷害と還元指標との関係の解析。 ・老化や疾患の酸化ストレス理論と還元ストレスの関係について総括する。</p>
---	--	--	--	--	--	---

健康長寿ゲノム探索

構成メンバー

テーマリーダー：井上聡

研究員：東浩太郎、高山賢一

1 第二期中期計画の研究成果

我々は、女性・男性ホルモンシグナルとその制御ネットワークの視点を中心に据え、高齢男性に多い前立腺がんや女性の健康を脅かす乳がんの悪性化メカニズムおよび加齢性運動器疾患の病態の解明とその新規診断・治療・予防法への応用を目指した研究を行っている。第二期中期計画期間中の前半3年間は東京大学医学部附属病院にて抗加齢医学講座を担当しており、その際の成果を中期計画後半の2年間に繋げる前提としての参考のため記載する。後半2年間は、本研究所で新たな研究室を立ち上げ、中期計画に沿って研究を進展させた。

前立腺がんに関して、長鎖非コードRNA *CTBPI-AS* を介する新たな悪性化メカニズム (*EMBO J* 2013) およびマイクロRNAを介するTET2抑制とDNA修飾変化によるエピゲノム異常を介する新規治療抵抗性獲得メカニズム (*Nat Commun* 2015) の解明という前任機関の成果をもとに、本研究所での中期計画後半2年間では以下の研究を展開した。転写因子Oct1とその標的ACSL3の治療抵抗性耐性獲得における役割を示し (*Cancer Sci* 2017b)、そのゲノム作用を阻害する新規小分子ポリアミド創薬を推進した (*Oncogene* 2016)。がん悪性化を担う新規長鎖非コードRNAを複数同定し、役割を明らかにした (*J Biol Chem* 2016; *Cancer Sci* 2017a)。p53の局在変化をおこ

すG3BP2によるがん悪性化の新たなメカニズムを提唱した (*Oncogene* 印刷中)。直近では、RNA結合タンパク質PSF/NONOががん治療抵抗性獲得に際しスプライシング異常を起こしそこが新規診断・治療標的となることを解明した (*PNAS* 2017)。

女性がんに関して、前任機関の前半3年間では乳がんのホルモン療法薬耐性に関わる複数のマイクロRNA (*Sci Rep* 2015a; *Sci Rep* 2015b) を同定し、本研究所での中期計画後半2年間で、乳がん新規予後因子としてTACC2 (*Cancer Med* 2016) とNF-κB経路活性化因子TRIM44を発見した (*Int J Mol Sci* 2017)。

加齢性運動器疾患について、前任機関でエストロゲン応答因子COX7RPの運動耐久能向上作用とミトコンドリア呼吸鎖超複合体形成能を解明した (*Nat Commun* 2013)。本研究所の中期計画後半2年で、超複合体の糖代謝作用メカニズム (*Sci Rep* 2017) と筋肉におけるミトコンドリア因子抑制が女性ホルモン作用を担う新たなメカニズム (*BBRC* 2016) を示した。加齢性疾患の診断・治療標的として、前任機関で脂肪量と筋肉量と関連する*SLC25A24*および*PRDM16* (*J Clin Endocrinol Metab* 2015; *Aging Cell* 2014) をゲノムマーカーとして見出し、本研究所での中期計画後半2年間ではその応用を進めるとともに、バイオマーカーと閉経後女性の健康指標との関連を報告した (*J Bone Miner Metab* 2017; *J Bone Miner Metab* 印刷中)。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<ロコモティブ症候群のバイオマーカー探索>

臨床研究推進センター、国立健康栄養研究所、

順天堂大学、東京大学大学院医学系研究科
＜前立腺がんの悪性化メカニズムの解明と新規治療法の開発＞

実験動物施設、東京大学医学部附属病院、日本大学医学部附属板橋病院、東北大学医学部、東京大学先端科学研究センター、東京大学大学院医学系研究科、千葉大学大学院医学研究院、理化学研究所、米国ノースウエスタン大学、独国フライブルグ大学

＜乳がん・子宮内膜がんにおける悪性化メカニズムの解明と新規治療法の開発＞

実験動物施設、埼玉医科大学国際医療センター、埼玉医科大学ゲノム医学研究センター、虎の門病院、東北大学医学部、千葉大学大学院医学研究院、順天堂大学、米国ノースウエスタン大学、独国カールスルーエ工科大学

＜性ホルモン・ビタミンKによる加齢性運動器疾患の予防・治療効果の解明＞

東京大学医科学研究所、順天堂大学、埼玉医科大学ゲノム医学研究センター、神戸薬科大学、米国ハーバード大学、米国カリフォルニア大学アーバイン校、独国ダルムシュタット工科大学

3 今後の展望

(1) 高齢者の健康長寿を損なう前立腺がんの新たな悪性化メカニズムの解明と新規治療法の開発

この5年間に我々の研究室で解明してきたアンドロゲンによる前立腺がん悪性化の新規メカニズム、前立腺がんの治療抵抗性獲得に関する新しいメカニズムの知見を活用し、診断・治療・予防標的として、予後因子・バイオマーカーとしての応用ならびに新規治療法の開発・創薬に結び付け、実地高齢者医療に研究成果を還元したいと考えている。

具体的には、より臨床がんに近いふるまいを示す三次元培養、特に患者組織から樹立した細胞の三次元培養とその動物モデルも活用し、これまでに同定してきたがん悪性化に関わる遺伝子群や非コード転写産物の治療法と治療法選択について検証を進める。また、転写因子の作用を阻害する新規薬剤として核酸製剤とポリアミドに着目しており、薬剤・創薬としての応用を目指してトランスレーショナルリサーチを展開していきたい。

本課題に関しては、第二期中期計画期間に、診断・治療標的を複数同定し、その病態メカニズムを明らかにするとともに、がん増殖および治療抵抗性の抑制方法を検討することを目標とし、十分目標を達成したと考えている。第三期

には、さらに発展させ、患者由来の組織や動物モデルを活用しながら、臨床応用に向けての研究を加速していることを計画している。

(2) 女性の健康を脅かす乳がん・子宮内膜がんの新たな悪性化メカニズムの解明と新規治療法の開発

乳がん、子宮内膜がんの研究に関しては、複数の診断・治療標的を既に同定しており、そのメカニズムの解析を通じて、新たな乳がんの悪性化メカニズムを解明していきたい。その成果を踏まえ、新規バイオマーカー・治療法として臨床応用に繋げたいと考えている。上記(1)の男性の、また女性のがんは都民の関心が高い分野で情報を広く発信していく。

本課題に関して、第二期中期計画期間の最終年度に、乳がんの解析を加え、診断・治療標的を同定し、その病態メカニズムを明らかに、がん増殖および治療抵抗性の抑制方法を検討することを目標とし目標を達成した。引き続き複数の悪性化・治療抵抗性に関わる因子を解析中でさらなる成果が期待できる。第三期には、本課題を継続し、前立腺がんでの成果と比較しつつ女性がん患者由来の組織由来モデル系も活用して臨床応用に繋げる研究を展開していきたい。

(3) 性ホルモン・ビタミンKによる加齢性運動器疾患の予防・治療効果の解明

性ホルモン・ビタミンKとロコモティブ症候群に関しては、上記研究で培ってきた技術と独自のホルモン応答性遺伝子と非コードRNA群も活用し、生理的あるいは病態で骨・筋における作用メカニズムを細胞・組織・個体レベルで検討する。特に、エストロゲン応答遺伝子として同定し機能を解明したミトコンドリア呼吸鎖超複合体形成因子COX7RPの老化・サルコペニアにおける役割を関連遺伝子の遺伝子改変動物を用いて解析する。ビタミンKとロコモティブ症候群に関して、同様に新規作用メカニズムとその応用について研究を進めていく。ロコモティブ症候群やビタミン・ホルモンは都民の関心が高い分野で情報を発信していく。

本研究は、第二期中期計画には含まれていないが、筋肉に対するエストロゲン効果のように、第二期中期計画期間に得られた成果もある。加齢性運動器疾患は、高齢者の健康寿命延伸を阻む重要な要因であり、高齢者の健康と福祉に貢献するという本センターの使命を鑑み、第三期以降の計画には本課題を含めていきたい。

4 その他

平成30年4月1日（第三期中期計画）より、テー

マ名を「健康長寿ゲノム探索研究」から「システム加齢医学研究」へ変更する。

分子老化制御

構成メンバー

テーマリーダー：石神昭人

研究員：近藤嘉高、石井智子

非常勤研究員：滝野有花、半田節子

1 第二期中期計画の研究成果

老化の原因のひとつは、細胞や組織での過剰な活性酸素の増加およびその蓄積によるためと考えられている。しかし、活性酸素が老化の進行に直接的に関与する科学的証明はまだない。平成25年度、ビタミンCが不足したビタミンC合成不全SMP30遺伝子欠損（SMP30-KO）マウスの組織中活性酸素種（ROS）の量を測定した。その結果、調べたすべての組織でROSが有意に高値を示した。また、ビタミンCの不足が肝臓での遺伝子発現にどのような影響を及ぼすかをDNAマイクロアレイで解析した。その結果、酸化還元プロセスに関連する遺伝子群の発現が高くなっていることを明らかにした。平成26、27年度、ビタミンCと抗酸化酵素、SOD1を欠損させたSMP30/SOD1二重欠損（SMP30/SOD1-DKO）マウスを初めて作出した。このマウスの解析により、レドックスバランスの不均衡は、非アルコール性脂肪肝（NAFLD）の発症に深く関与する新しい知見を得た。平成28年度、ヒトの臨床研究により、慢性閉塞性呼吸器疾患（COPD）患者の血漿ビタミンC濃度は、健常者に比べて顕著に低いことを明らかにした。日本人のCOPD患者での初めての報告である。また、SMP30-KOマウスと脂溶性抗酸化物質であるビタミンEの細胞内輸送能が欠損した α TTP遺伝子欠損マウスを掛け合わせ、新規にSMP30/ α TTP-DKOマウスを作出した。行動解析実験の結果、ビタミンCとEの同時不足は、不安様行動が増加し、運動能力および記憶学習能力が低下することを明らかにした。平成29年度、ビタミンCとEの同時不足は、肝臓での脂質代謝に影響を及ぼすことを明らかにした。

アルツハイマー病（AD）患者の脳では、シトルリン化タンパク質が早期に出現する。我々は、シトルリン化タンパク質や生成酵素、PADを指標とした認知症の早期臨床診断薬を開発する。平成25年度、タンパク質中のシトルリンを化学修飾し、化学修飾シトルリンに特異的な抗体を得ることに成功した。平成26年度、シトルリン化したグリア線維性酸性タンパク質（GFAP）に特異的な抗体を

作成し、ELISA（酵素免疫測定）システムを構築した。平成27年度、ヒトアストロサイト培養細胞（U-251MG細胞）を用いて、PADの発現誘導物質を探索し、細胞膜透過性cAMP誘導体dibutyryl cAMPにより、PAD2とPAD3の発現が顕著に誘導されることを発見した。平成28年度、AD患者の脳でシトルリン化したAD関連タンパク質（シトルリン化X）を初めて同定した。また、シトルリン化Xを定量化する臨床診断薬の開発にも成功した。平成29年度、シトルリン化Xを定量する臨床診断薬の有用性を確認するため、臨床試験の準備を進めている。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<関節リウマチの早期診断と発症機構の解明>

膠原病リウマチ科、東京女子医科大学、富士レビオ

<バンコマイシンによる薬剤性腎障害発生機序と加齢変化>

薬剤科、病理診断科、腎臓内科、東邦大学

<シトルリン化タンパク質を指標としたアルツハイマー病早期臨床検査試薬の開発>

生体環境応答、富士レビオ

<高齢者の血漿ビタミン及びカロテノイド濃度と筋力及び運動との関係>

自立促進と介護予防研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、横浜市立大学、カゴメ

<SMP30&SODダブルノックアウトマウスの解析>
実験動物施設、千葉大学

<アロマターゼノックアウトマウスの解析>

実験動物施設、京都府立医科大学、順天堂大学、高知大学

<SMP30& α -TTPダブルノックアウトマウスの解析>

実験動物施設、老化脳神経科学研究チーム、東京大学、順天堂大学、東京医科歯科大学

<klothoマウスの腎臓におけるシトルリン化タンパク質の動態解析>

老化機構研究チーム

<慢性閉塞性肺疾患（COPD）とビタミンCのヒトにおける臨床関連解析>

順天堂大学、東邦大学、カゴメ

<関節リウマチ早期診断薬の開発>

筑波大学、富士レビオ

<シトルリン化タンパク質とプリオン病>

Hallym University

<脳におけるSMP30の機能解明、加齢変化>

Pusan National University

<SMP30の構造、機能解析>

高エネルギー加速器研究機構

<加齢にともなう雌ラットのKNDyニューロンの発現変化>

日本医科大学

<筋肉におけるビタミンCの役割解明>

順天堂大学

3 今後の展望

(1) 活性酸素が老化の原因であることを明らかにし、強力な抗酸化物質であるビタミンC等を用いて、活性酸素が関与する老化機構の解明と、食品からの抗酸化物質の摂取が老化制御に有効かを検証する。

研究目標（第三期中期計画期間終了時に達成しようとする、研究成果の目標）

活性酸素が老化の原因のひとつであるのか、その科学的根拠を得るに至っていない。我々は、体内の活性酸素の量を高めることが可能な3種類のモデル動物を作出した。

① ビタミンCを体内で合成できないSMP30-KOマウス

② SMP30-KOマウスとSOD1-KOマウスを掛け合わせたSMP30/SOD1-DKOマウス

③ SMP30-KOマウスと α TTP-KOマウスを掛け合わせたSMP30/ α TTP-DKOマウス

これらモデル動物を用いて、第三期中期計画では活性酸素が老化の原因のひとつであるか、科学的根拠を得るため、研究を継続する。

研究のねらい（研究成果によって得られるアウトカム）

未解明な活性酸素と老化との関係を明らかにし、老化機構の解明に繋げる。

研究開発のアプローチ

活性酸素の増加やその蓄積が、寿命や加齢疾患に及ぼす影響を3種類のモデル動物を用いて調べる。加齢疾患については、活性酸素の増加が脂質代謝異常を引き起こすことが明らかになったことから、この点を重点的に解析する。また、老齢個体に存在する老化細胞を同定するため、次世代シーケンサーを用いた1細胞解析を実施する。

予想される問題点とその解決策

生体内での活性酸素の量をリアルタイムに測定する方法が未だ開発されていない。現在、最終酸化産物を測定するのみであり、得られた結果が原因なのか結果なのか、判断しにくい。生体内での活性酸素の量をリアルタイムに測定するイメージングシステムの開発も模索する。

(2) シトルリン化タンパク質やペプチジルアルギニンデイミナーゼを指標とした認知症等の早

期臨床検査診断薬の開発を目指す。

研究目標（第三期中期計画期間終了時に達成しようとする、研究成果の目標）

第二期中期計画期間内に以下の臨床検査診断薬を開発した。

① シトルリン化タンパク質及びその自己抗体の検出（シトルリン化X、シトルリン化X自己抗体、シトルリン化GFAP、シトルリン化GFAP自己抗体）

② PAD及びその自己抗体の検出（PAD2、PAD2自己抗体、PAD4、PAD4自己抗体）

これら臨床検査診断薬の有用性を確認するため、ヒト血清を用いた臨床試験を実施する。

研究のねらい（研究成果によって得られるアウトカム）

シトルリン化タンパク質やPADを指標とした認知症の早期診断を行う臨床検査診断薬を開発する。

研究開発のアプローチ

測定検体として、『H28年高島平こころとからだの健康調査、認知症と共に暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業』で採取した血清、及び、高齢者ブレインバンクに保存されている髄液を用いる。測定は、倫理委員会承認後に行う。

予想される問題点とその解決策

認知症の早期診断薬を開発するためには、被験者を長期間に渡り調査する縦断的研究が必要である。幸い、『H28年高島平こころとからだの健康調査、認知症と共に暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業』は、長期間の調査が予定されている。

生体環境応答

構成メンバー

チームリーダー：大澤郁朗

研究員：高橋真由美、池谷真澄

1 第二期中期計画の研究成果

水素分子等の応用による新規酸化ストレス防御法の開発を目的に研究を進めた。水素分子の作用機序に関しては二つの発見があった。細胞研究から、水素分子刺激によるミトコンドリア機能亢進とそれに伴う軽度の酸化ストレスが抗酸化経路を活性化させることを示した。また、動物モデルでは水素水を予め飲用させたマウスは敗血症に対する抵抗力が増すという、水素水の疾患予防効果を示す結果を得た。これらは水素分子が酸化ストレスに対する適応応答を引き起こすことを示唆している。水素分子の疾患抑制効果を探索する動物モ

デルでは、マウスの抗がん剤ゲフィチニブ副作用モデルで、水素水による重篤な肺傷害の抑制を確かめた。この時、水素水は抗がん剤の薬効を阻害することはなかった。また、ラットを用いた白内障超音波乳化吸引術のモデルでは、超音波で生じるヒドロキシラジカルを水素分子が抑制し、角膜の混濁が抑制された。移植臓器での効果検証では、水素含有灌流液を用いると冷凍保存したラット肝臓の再灌流時における肝機能低下が抑制された。ヒト臨床研究ではAPOE4の軽度認知症患者で、水素水の飲用によりADAS-cogで有意な改善が見られた。また、2型糖尿病患者では、水素水によりインシュリンが有意に変動して炎症マーカーが減少する傾向にあった。さらに水素含有懸濁液によるヒト精子の前進運動率改善を確認している。

ミトコンドリア内部構造の研究では、超解像G-STED顕微鏡を用いて生きた細胞のクリステ構造を観察することに成功した。クリステはサブ秒の短時間で形態を激しく変化させていた。これによりミトコンドリア内部の構造機能相関が解析可能となった。

コエンザイムQ (CoQ) に関する研究では、線虫で発見された寿命関連遺伝子*clk-1* (CoQ合成酵素遺伝子) が哺乳動物でも寿命に関与するか、*clk-1* トランスジェニック (Tg) マウスで解析した。Tgマウスは雌雄共に長寿で、マウスでも*clk-1* 遺伝子は寿命を制御していた。また、マウスの正常老化過程でヒト40歳代相当の早期から脳のミトコンドリア機能が低下し、パーキンソン病に特徴的なリン酸化 α シヌクレインの運動皮質での増加と、動作緩慢などの運動障害発症を見出した。これらの加齢変化は水溶性CoQを飲水投与することで全て若齢マウスレベルまで改善された。加齢に伴う脳ミトコンドリア機能低下は呼吸鎖複合体IVへのOPA1の結合減少を伴い、水溶性CoQの投与でこの結合は回復した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜水素分子の作用機序解明に向けた包括的研究＞
分子老化制御、老化バイオマーカー、病理診断科、東洋大学生命科学、茨城県立中央病院、伊藤園
＜水素水の肺疾患への応用研究＞

日本医科大学病理、東洋大学生命科学、北里大学薬

＜水素点眼薬の基礎・臨床研究＞

日本医科大学眼科

＜水素分子の生殖医療に関する研究＞

実験動物施設、山下湘南夢クリニック

＜水素水による糖尿病臨床研究＞

会津中央病院、メロディアン(株)、かわぐち心臓呼吸器病院

＜細胞内オルガネラとその内部構造及び機能の解明＞

健康長寿ゲノム探索、臨床検査科、北里大学薬、東京農工大学工

＜コエンザイムQと加齢脳の研究＞

神経生理、プロテオーム

3 今後の展望

(1) ミトコンドリア機能改善による新規老化制御法の探索

本研究項目は、第三期への展開で、水素分子の研究とミトコンドリア内部構造の研究に分けて研究管理を行う。

水素分子の作用機序解明と臨床応用に向けた研究

【研究目標】健康長寿に向けた水素分子の応用を促進する。多様な病態改善効果を示す水素分子の作用機序を分子レベルで解明する。また、水素分子による予防・治療効果が最も顕著な病態と疾患を明確にする。

【研究のねらい】水素分子が直接作用する分子を同定し、作用機序を明確にすることで、効果的かつ安全な水素分子の利用が可能になる。また、最も顕著な効果を示す疾患を明らかにすることで、投与量や投与方法などの最適化を図り、普及のための基礎となる知見を提示する。

【研究開発のアプローチ】作用機序の解明では水素分子添加後1時間以内の短期的変化に着目し、細胞ではミトコンドリアを中心に脂質と機能分子の相互作用変化を、動物では急激な血流改善効果の分子機構を解明する。その下流については免疫系と細胞老化の制御を解析する。また、炎症や血流障害が顕著な疾患に着目し、動物モデルから臨床研究まで実施する。

【問題点と解決策】明確な受容体を持たないガス状分子は生命科学の研究者だけでは作用機序解明に困難が予想される。無機物やソフトマターの物性に詳しい専門家の知恵を借りながら研究を進める。また、大規模な臨床研究を行うことは我々だけでは困難である。研究所内外の連携を模索する。

ミトコンドリア内部構造変化に関する研究

【研究目標】ミトコンドリア内膜クリステ構造のリモデリングを動的変化として解析し、構造機能相関を明らかにすることで、生体制御に関する新たな研究視点を提供する。

【研究のねらい】老化制御の中心的オルガネラであるミトコンドリアの内部で、どのようにクリステが生まれ、発達し、さらには退縮するのか、

全く知られていないこの形態変化を明らかにし、ミトコンドリア加齢変化との相関を示す。

【研究開発のアプローチ】クリステを安定的に蛍光ラベルし、エネルギー代謝と細胞死を制御することで生じるクリステのリモデリングを超解像G-STED顕微鏡で経時的に捉え、詳細な構造を走査電顕で解析する。

【問題点と解決策】クリステの安定的蛍光ラベル法開発が課題であるが、すでに確立した方法でも動的解析は可能で、研究技術上の大きな問題はない。

(2) コエンザイムQを介したミトコンドリア機能の老化への関与解明

【研究目標】コエンザイムQ (CoQ) の抗老化作用機構解明とヒトへの臨床応用を目指す。

【研究のねらい】水溶性CoQは飲水投与すると脳血管関門を通過し、細胞さらにミトコンドリア内に取り込まれ抗老化作用を発揮する。これをヒトでの健康長寿促進に応用する。

【研究開発のアプローチ】高齢マウス脳を用いてミトコンドリア内膜上におけるタンパク質間相互作用の加齢変化と、その制御機構を解明する。この加齢変化に対する水溶性CoQの抑制効果を示すことで健康長寿に向けた基礎データを提供する。

【問題点と解決策】臨床応用研究は我々だけでは困難である。パーキンソン病などの臨床研究者と共同してヒトでの研究を進める。

論文・学会発表

健康長寿ゲノム探索

1 学会発表

(1) 海外

1. Okumura T, Ikeda K, Sato W, Okamoto K, Horie-Inoue K, Takeda S, Inoue S: Proteasome subunit PSMD1 participates in p53 degradation and regulates proliferation of breast cancer cells. AACR Annual Meeting 2017, Washington, D.C., USA, 2017.4.1-5
2. Azuma K, Horie-Inoue K, Inoue S: Identification of novel estrogen responsive genes in osteoblastic cells. Keystone Symposia, Aging and Mechanism of Aging-Related Disease, Yokohama, Japan, 2017.5.15-19
3. Ikeda K, Mitobe Y, Horie K, Inoue S: Identification of hormone-dependent lncRNAs that mediate estrogen signaling pathway in breast cancer. The 43rd Naito Conference, Noncoding RNA: Biology, Chemistry, & Diseases. CHÂTERAISÉ Gateaux Kingdom SAPPORO, Sapporo, Japan, 2017.6.27-30
4. Urano T, Shiraki M, Kuroda T, Tanaka S, Urano F, Uenishi K, Inoue S: Preventive effects of Selective Estrogen Receptor Modulators and bisphosphonates

treatment on age-related weight loss in postmenopausal women. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics 2017, San Francisco, USA, 2017.7.23-27

5. Nagai S, Ikeda K, Horie-Inoue K, Nagasawa S, Takeda S, Inoue S: Estrogen modulates musculoskeletal physiology in female mice. ASBMR 2017 Annual Meeting, Colorado Convention Center, Denver, Colorado, USA, 2017.9.8-11
6. Inoue S: [Invited Talk] Targeting genomic bindings of androgen-receptor collaborating factors for prostate cancer therapy. 3rd International Conference on Translational Research: Applications in Human Health and Agriculture. Amity University, Kolkata, India, 2017.9.23-25
7. Inoue S, Azuma K, Ikeda K, Horie K: Identification of hormone-dependent lncRNAs that associated with estrogen signaling pathway in breast cancer. Advances in Breast Cancer Research, AACR meeting. Loews Hollywood Hotel, Hollywood, USA, 2017.10.7-10
8. Kawabata H, Azuma K, Ikeda K, Sugitani I, Kinowaki K, Fujii T, Osaki A, Saeki T, Horie-Inoue K, Inoue S: TRIM44 is a possible poor prognostic factor for breast cancer patients and positively regulates NF- κ B signaling pathway. San Antonio Breast Cancer Symposium 2017, Henry B. Gonzalez Convention Center, San Antonio, USA, 2017.12.5-8
9. Ikeda K, Horie-Inoue Kuniko, Inoue S: Mitochondrial supercomplex formation promotes proliferation and hypoxia resistance in cancers. Tumor Metabolism, Keystone Symposia, Snowbird, USA, 2018.1.21-25.
10. Horie-Inoue K, Ikeda K, Mitobe Y, Inoue S: [Moderated Presidential Poster] An Estrogen-Regulated Long Noncoding RNA That Modulates Breast Cancer Growth, The Endocrine Society 2018, McCormick Place West, Chicago, USA, 2018.3.16-20

(2) 国内

1. 井上聡: [シンポジウム]アンドロゲンを介した遺伝子発現制御とシグナルカスケード:RNAを介した新しい発現制御システム、第90回日本内分泌学会、ロームシアター京都・京都市勧業館みやこめっせ (京都)、2017.4.21
2. 東浩太郎、井上聡: TRIM47の乳がんにおける新規予後マーカーとしての役割とそのメカニズム、TOBIRA第6回研究交流フォーラム、ソラシティ (東京)、2017.5.12
3. 高山賢一、井上聡: 前立腺がんならびにアンドロゲンシグナルを制御する長鎖非コードRNAの同定とその役割、TOBIRA第6回研究交流フォーラム、ソラシティ (東京)、2017.5.12
4. 東浩太郎、山賀亮之助、堀江公仁子、井上聡: 未分化骨芽細胞における新規エストロゲン応答遺伝子Tmem86aの機能解析、第17回日本抗加齢医学会総会、東京国際フォーラム (東京)、2017.6.2-4
5. 井上聡: [シンポジウム]ビタミン K とロコモティブ症候群、第69回日本ビタミン学会、横浜市開港記念会館 (横浜)、2017.6.9-10
6. 高山賢一、田中知明、井上聡: 網羅的なタンパク質複合体解析による新規前立腺癌予後因子G3BP2が介するアンドロゲン依存的なp53翻訳後修飾機構の同定、日本アンドロロジー学会第36回学術大会、倉敷市芸文館 (倉敷)、2017.6.30-7.1
7. 長澤さや、池田和博、堀江公仁子、長谷川幸清、竹田省、

- 井上聡: RNAシーケンスによって明らかにされた卵巣がん臨床検体のサブタイプ特異的遺伝子プロファイル、第18回ホルモンと癌研究会、群馬大学昭和キャンパス内刀城会館(群馬県前橋市)、2017.6.23-24
8. 池田和博、堀江公仁子、井上聡: [優秀ポスター発表受賞] 呼吸鎖超複合体形成はがん増殖能・低酸素抵抗性を促進させる、第5回がん代謝研究会、北海道大学医学部学友会館(北海道札幌市)、2017.7.13-14
 9. 池田和博、井上聡、エストロゲンの筋骨格系における作用とそのメカニズム、第17回 東京骨関節フォーラム、東京大学山上会館(東京都文京区)、2017.07.15
 10. 長井咲樹、池田和博、堀江公仁子、長澤さや、竹田省、井上聡、筋肉組織・細胞におけるエストロゲンの作用に関するマイクロアレイを用いた解析、日本筋学会第3回学術集会、国立精神・神経医療研究センター(東京都小平市)、2017.8.4-5
 11. Ikeda K, Miyazaki T, Horie-Inoue K, Inoue S: Exosome-mediated cancer immune escape exerted by EBAG9 protein (エキソソームを介するEBAG9によるがんの免疫逃避)、第76回日本癌学会学術総会、パシフィック横浜(神奈川県横浜市)、2017.9.28-30
 12. Azuma K, Ikeda K, Suzuki T, Osaki A, Saeki T, Horie K, Inoue S: Increased expression of TRIM 47 as a novel prognostic factor related to tamoxifen resistance of breast cancer patients. TRIM47 (蛋白質の発現増加は乳がんのタモキシフェン耐性に関する新たな予後因子となりうる)、第76回日本癌学会学術総会、パシフィック横浜(神奈川県横浜市)、2017.9.28-30
 13. Kawabata H, Azuma K, Ikeda K, Sugitani I, Osaki A, Saeki T, Horie K, Inoue S: Expression of TRIM44 in breast cancer is a novel prognostic factor affecting cellular growth and motility (乳がんにおけるTRIM44の発現は細胞の増殖と運動能にかかわる新規予後因子である)、第76回日本癌学会学術総会、パシフィック横浜(神奈川県横浜市)、2017.9.28-30
 14. 大日方大亮、Mitchell Lawrence、Shahneen Sandhu、Luke Selth、高山賢一、藤原恭子、井上聡、Gail Risbridger、高橋悟: [学術集会奨励賞受賞] 新規多剤耐性去勢抵抗性前立腺癌細胞の樹立、第三回日本泌尿器腫瘍学会、東京コンファレンスセンター(東京都品川区)、2017.10.22
 15. 井上聡: [ランチョンセミナー] 女性ホルモンと筋肉・ロコモティブシンドローム、第7回運動器抗加齢医学研究会、大宮ソニックシティ国際会議場(埼玉県さいたま市)、2017.11.12
 16. 東浩太郎、池田和博、井上聡、乳がんに対するホルモン療法耐性予測因子TRIM47の作用メカニズム、首都大バイオコンファレンス 2017、首都大学東京 南大沢キャンパス、2017.11.17
 17. 井上聡、前立腺がんアンドロゲン: [state-of-Art Lecture] がん増殖と悪性化におけるシグナルネットワーク、第25回ステロイドホルモン学会学術集会、一橋大学一橋講堂(東京都千代田区)、2017.11.18
 18. 水戸部悠一、堀江公仁子、池田和博、高木清司、鈴木貴、井上聡: 乳がんの増殖と生存に関わるエストロゲン応答性長鎖非コードRNAの役割、第25回ステロイドホルモン学会学術集会、一橋大学一橋講堂(東京都千代田区)、2017.11.18
 19. 池田和博、長井咲樹、堀江公仁子、長澤さや、竹田省、井上聡: 骨格筋のミトコンドリア機能制御におけるエストロゲンの役割、第25回ステロイドホルモン学会学術集会、

一橋大学一橋講堂(東京都千代田区)、2017.11.18

20. 池田和博、堀江公仁子、井上聡: [シンポジウム] ブルーネイティブ電気泳動によるミトコンドリア呼吸鎖複合体の解析: スーパー複合体形成促進因子COX7RPの解析を中心として、第68回日本電気泳動学会総会、広島大学広仁会館(広島県広島市)、2017.11.24-25
21. 井上聡: [ワークショップ] Roles of mitochondrial respiratory supercomplexes in muscle, brown adipose tissues and glucose metabolism (ミトコンドリア呼吸鎖超複合体形成と筋肉、褐色脂肪ならびに糖代謝)、第40回日本分子生物学会年会conbio 2017、神戸ポートアイランド(兵庫県神戸市)、2017.12.6-9
22. 堀江公仁子、井上聡: [ワークショップ] Long noncoding RNAs that associate with estrogen receptor signaling and contribute to the pathophysiology of endocrine therapy-resistant breast cancer (エストロゲン受容体シグナルに関連し治療抵抗性乳がんの病態に関わる長鎖非コードRNA)、第40回日本分子生物学会年会conbio 2017、神戸ポートアイランド(兵庫県神戸市)、2017.12.6-9
23. 池田和博、井上聡: [ワークショップ] Regulatory mechanisms of mitochondrial respiratory supercomplex and metabolism in hormone-dependent cancers (ホルモン依存性がんにおけるミトコンドリア呼吸鎖超複合体と代謝の制御メカニズム)、第40回日本分子生物学会年会conbio 2017 神戸ポートアイランド(兵庫県神戸市)、2017.12.6-9
24. 高山賢一、井上聡: [ワークショップ] The regulatory mechanisms of androgen-receptor-regulated signaling by miRNAs, lncRNAs and RNA-binding proteins. (miRNA, lncRNAおよびRNA結合タンパク質を介するアンドロゲン受容体シグナルの新規制御メカニズム)、第40回日本分子生物学会年会conbio 2017、神戸ポートアイランド(兵庫県神戸市)、2017.12.6-9
25. 井上聡: [シンポジウム] エストロゲンの筋骨格系への作用メカニズムとロコモティブ症候群第11回日本性差医学・医療学会学術集会 パビオン24 福岡県福岡市、2018.1.20-21

2 誌上発表

(1) 原著

1. Ashikari D, *©Takayama K, Obinata D, Takahashi S, ★Inoue S: CLDN8, an androgen-regulated gene, promotes prostate cancer cell proliferation and migration. *Cancer Sci* 108(7), 1386-1393, 2017 and highlighted "In This Issue", (査読あり), (3,974, 2016)
2. Ashikari D, *©Takayama K, Tanaka T, Suzuki Y, Obinata D, Fujimura T, Urano T, Takahashi S, ★Inoue S: Androgen induces G3BP2 and SUMO-mediated p53 nuclear export in prostate cancer. *Oncogene* 36(45), 6272-6281, 2017, 2017, (査読あり), (7,519, 2016/2017)
*コファーストオーサーです
3. Nakazawa H, Ikeda K, Shinozaki SI, Kobayashi M, Ikegami Y, Fu M, Nakamura T, Yasuhara S, Yu Y, Martyn J.A.J, Tompkins R, Shimokado K, Ito H, Inoue S, Kaneki M: Burn-induced muscle metabolic derangements and mitochondrial dysfunction are associated with activation of HIF-1 α and mTORC1: Role of protein farnesylation. *Sci Rep* 7(1), 6618, 2017, (査読あり), (4,259, 2016/2017)
4. Urano T, Shiraki M, Kuroda T, Tanaka S, Urano F,

- Uenishi K, ★Inoue S: Low serum osteocalcin concentration is associated with incident type 2 diabetes mellitus in Japanese women. *J Bone Miner Metab* (in press), 2017, (査読あり), (2.423, 2016/2017)
- Shiba S, Ikeda K, Horie-Inoue K, Nakayama A, Tanaka T, ★Inoue S: Deficiency of COX7RP, a mitochondrial supercomplex assembly promoting factor, lowers blood glucose level in mice. *Sci Rep*. (査読あり), (4.259, 2016/2017)
 - Yamashiro K, Mori K, Honda S, Kano M, Yanagi Y, Obara A, Sakurada Y, Sato T, Nagai Y, Hikichi T, Kataoka Y, Hara C, Koyama Y, Koizumi H, Yoshikawa M, Miyake M, Nakata I, Tsuchihashi T, Horie-Inoue K, Matsumiya W, Ogasawara M, Obata R, Yoneyama S, Matsumoto H, Ohnaka M, Kitamei H, Sayanagi K, Ooto S, Tamura H, Oishi A, Kabasawa S, Ueyama K, Miki A, Kondo N, Bessho H, Saito M, Takahashi H, Xue Tan, Azuma K, Kikushima W, Mukai R, Ohira A, Gomi F, Miyata K, Takahashi K, Kishi S, Iijima H, Sekiryu T, Iida T, Awata T, Inoue S, Yamada R, Matsuda F, Tsujikawa A, Negi A, Yoneya S, Iwata T, Yoshimura N: A prospective multicenter study on genome wide associations to ranibizumab treatment outcome for age-related macular degeneration. *Sci Rep* 7(1), 9196, 2017, (査読あり), (4.259, 2016/2017)
 - Migita T, Takayama K, Urano T, Obinata D, Ikeda K, Soga T, Takahashi S, ★Inoue S: ACSL3 promotes intratumoral steroidogenesis in prostate cancer cells. *Cancer Sci* 108(10), 2011-2021, 2017, (査読あり), (3.974, 2016)
 - Kawabata H, * © Azuma K, Ikeda K, Sugitani I, Kinowaki K, Fujii T, Osaki A, Saeki T, Horie-Inoue K, ★Inoue S: TRIM44 Is a Poor Prognostic Factor for Breast Cancer Patients as a Modulator of NF-κB Signaling. *Int J. Mol. Sci* 18(9). pii: E1931, 2017, (査読あり), (3.226, 2016) * コファーストオーサーです
 - © Takayama K, Suzuki T, Fujimura T, Yamada Y, Takahashi S, Homma Y, Suzuki Y, ★Inoue S: Dysregulation of spliceosome gene expression in advanced prostate cancer by RNA-binding protein PSF. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 114(39), 10461-10466, 2017, (査読あり), (9.661, 2016/2017)
 - Okumura T, Ikeda K, Ujihira T, Okamoto K, Horie-Inoue K, Takeda S, ★Inoue S: Proteasome 26S subunit PSMD1 regulates breast cancer cell growth through p53 protein degradation. *J Biochem* 163(1), 19-29, 2018 Jan 1. (査読あり), (2.082, 2016/2017)

(2) 総説

- © Takayama K, Misawa A, ★Inoue S: Androgen-regulated microRNAs in the development of hormone-refactory prostate cancer. Significance of microRNAs in Androgen Signaling and Prostate Cancer Progression. *Cancers* 9(8). pii:E102, 2017, (査読あり), (5.12, 2015/2016)
- Misawa A, Takayama K, ★Inoue S: Long Non-coding RNA and Prostate Cancer. *Cancer Sci* 108(11), 2107-2114, 2017, and highlighted "In This Issue", 2017, (査読あり), (3.974, 2016)

3 著書等

- © Azuma K, ★Inoue S: Vitamin K, SXR, and GGCX. *Vitamin K2 - Vital for Health and Wellbeing*. InTech, Rijeka, Croatia, pp. 21-32, 2017
- © Takayama K, ★Inoue S: Investigation of androgen receptor signaling pathways with epigenetic machinery in prostate cancer. *Molecular Oncology: Underlying Mechanisms and Translational*. (edited by Farooqi A and Muhammad I) Springer International, pp.205-222, 2017
- 池田和博、井上聡：核内受容体、遺伝子発現制御機構：クロマチン、転写制御、エピジェネティクス、(田村隆明・浦聖恵 編：全215ページ)、東京化学同人、pp176-184, 2017

分子老化制御

1 学会発表

(1) 海外

- Kobayashi M, Tsuzuki T, Yoshihara T, Ishigami A, Yasuhara S, Naito H, Kaneki M. : Immobilization induced partial denervation of neuromuscular junction in mice: A possible role in muscle wasting. American Society of Anesthesiologists (ASA), Boston's Massachusetts General Hospital, Boston, USA, 2017. 10. 21-25
- Takigawa M, Masutomi H, Shimazaki Y, Kondo Y, Ishii T, Mori Y, Ishigami A. : Vancomycin-induced nephrotoxicity in mice. The 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT 2017), Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan, 2017.9. 24-27.
- Ishigami A. : Vitamin C deficiency leads to skeletal muscle atrophy. 2017 Aging Seminar between Korea and Japan, College of Pharmacy, Pusan National university, Busan, South Korea, 2017.8.24-25 (Invited Lecture)
- Shimoyoshi S, Takemoto D, Masutomi H, Kishimoto Y, Amano A, Ono Y, Shibata H, Ishigami A. : Sesamin and Sesamin Combined with Alpha-tocopherol Improve Age-related Kidney Dysfunction. IAGG 2017, Moscone West and the San Francisco Marriott Marquis, San Francisco, California, USA, 2017.7.23-27
- Kondo Y, Takisawa S, Noda Y, Machida S, Aigaki T, Ishigami A. : Vitamin C Deficiency Leads to Skeletal Muscle Atrophy and Muscle Fiber Transformation. IAGG 2017, Moscone West and the San Francisco Marriott Marquis, San Francisco, California, USA, 2017.7.23-27
- Kondo Y, Takisawa S, Noda Y, Machida S, Aigaki T, Ishigami A. : Vitamin C deficiency in skeletal muscle switches muscle fiber types from slow to fast. ICFSR 2017, Hotel Crowne Plaza Barcelona, Barcelona, Spain, 2017.4.27-29
- Funakoshi T, Ohta K, and Machida S. : Localization of damage in the rat quadriceps femoris muscle induced by downhill running. The 3rd Congress, International Academy of Sportology. Century Tower, Juntendo University, Tokyo Japan, 2017. 10.14 Tokyo

(2) 国内

- 石神昭人:健康長寿に必要なビタミンC. 北区シニア連健

- 康教室「介護予防講習会」, 北区滝野川会館, 東京, 2018.2.1
2. 石神昭人: ビタミンCの不足は老化を加速. 第148回老年学・老年医学公開講座, 北とびあさくらホール, 東京, 2017.11.29
 3. 石神昭人: 『世界有数の長寿社会日本から「寝たきり」を減らすために』 - 私はこう考える - . 第182期 消費者大学公開シンポジウム, 糖業会館2階ホール, 東京, 2017.10.30
 4. 石神昭人: 薬学③栄養と老化 ビタミンCが不足すると老化が進む?. 東京理科大学生涯学習センター 講座, 東京理科大学 神楽坂/森戸記念館, 東京, 2017.10.15
 5. 石神昭人: 抗酸化ビタミンC, Eによるアンチエイジング. 日本ビタミン学会第69回大会 シンポジウム「ビタミン・バイオフィクターでアンチエイジング」, 横浜市開港記念会館, 横浜, 2017.6.9
 6. 石神昭人: 老化指標と健康寿命を延ばす栄養素の探索. 第71回日本栄養・食糧学会大会ランチョンセミナー, 沖縄コンベンションセンター, 沖縄, 2017.5.21
 7. 近藤嘉高, 石神昭人: アルツハイマー病診断薬の開発. TOBIRA第6回研究交流フォーラム, ソラシティカンファレンスセンター内ソラシティホール, 東京, 2017.5.12
 8. 近藤嘉高, 青木仁史, 笹原由雅, 成田昂平, 滝沢晶子, 石神昭人: タンパク質摂取量の違いが中高齢マウスの筋再生に及ぼす影響. 第71回日本栄養・食糧学会, 沖縄コンベンションセンター, 沖縄, 2017.5.19-21
 9. 河島早紀, 近藤安訓, 永田喜三郎, 吉田雅幸, 石神昭人: ヒト培養表皮を用いた紫外線照射による細胞傷害に対するアスコルビン酸の抑制効果. 日本ビタミン学会第69回大会, 横浜市開港記念会館, 横浜, 2017.6.9-10
 10. 滝沢晶子, 近藤嘉高, 町田修一, 相垣敏郎, 石神昭人: ビタミンCの欠乏が骨格筋に及ぼす影響. 日本ビタミン学会第69回大会, 横浜市開港記念会館, 横浜, 2017.6.9-10
 11. 成田昂平, 近藤嘉高, 野田義博, 町田修一, 吉田雅幸, 石神昭人: Peptidylarginine deiminase 2 (PAD2) in mouse skeletal muscle. 日本基礎老化学会第40回大会, 名古屋国際会議場, 名古屋, 2017.6.14-16
 12. 丸岡弘, 金村尚彦, 田中健一, 林弘之, 善田聡史, 小川明宏, 石神昭人: 虚血モデルマウスにおける血管新生やミトコンドリアから見た運動の影響. 第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 長良川国際会議場, 岐阜, 2017.7.15-16
 13. 石神昭人, 滝沢晶子, 近藤嘉高: ビタミンC欠乏が骨格筋に及ぼす影響. 第153回ビタミンC研究委員会, 近畿大学東京センター, 東京, 2017.7.21
 14. 丸岡弘, 金村尚彦, 田中健一, 林弘之, 善田督史, 小川明宏, 石神昭人: 虚血モデルマウスにおける血管新生から見た運動やビタミンC摂取の影響について. 日本心臓リハビリテーション学会 第2回関東甲信越支部地方会, まつもと市民芸術館, 長野, 2017.9.16
 15. 鈴木洋平, 佐藤匡, 杉本昌隆, Hario Baskoro, 鳥谷恵子, 三井亜樹, 荒野直子, 児玉裕三, 佐藤文平, 平野伸一, 黒川亮介, 石神昭人, 瀬山邦明, 高橋和久: 水素分子が慢性タバコ煙曝露によるマウス肺組織傷害に与える影響. 第7回日本分子状水素医学生物学会大会, ホテル名古屋ガーデンパレス, 名古屋, 2017.10.29-30
 16. 滝沢晶子, 相垣敏郎, 石神昭人: ビタミンCの欠乏が骨格筋に及ぼす影響. 首都大バイオコンファレンス2017, 首都大学東京, 東京, 2017.11.17
 17. 掛川奈央, 佐藤麻美, 石神昭人, 小林芳郎, 永田喜三郎:

ネクローシス細胞により誘導される炎症応答の終息と好酸球の関わり. ConBio2017, 神戸ポートアイランド, 神戸, 2017.12.6-9

18. 河島早紀, 滝野有花, 近藤嘉高, 永田喜三郎, 齊藤紀, 大澤肇, 栗田克己, 佐藤安訓, 吉田雅幸, 石神昭人: ヒト培養表皮を用いたアスコルビン酸の紫外線による細胞傷害抑制効果および関連遺伝子発現への影響. ConBio2017, 神戸ポートアイランド, 神戸, 2017.12.6-9
19. 近藤嘉高, 青木仁史, 笹原由雅, 滝野有花, 杉原伸郎, 石神昭人: タンパク質摂取量の違いが中高齢マウスの血漿アミノ酸濃度に及ぼす影響. ConBio2017, 神戸ポートアイランド, 神戸, 2017.12.6-9
20. 滝沢晶子, 近藤嘉高, 滝野有花, 船越智子, 町田修一, 相垣敏郎, 石神昭人: 雌雄マウスでのアスコルビン酸欠乏が骨格筋に及ぼす影響. ConBio2017, 神戸ポートアイランド, 神戸, 2017.12.6-9
21. 石神昭人, 河島早紀: ヒト培養表皮を用いた紫外線傷害に対するビタミンCの効果 (続報). 第155回ビタミンC研究委員会, 近畿大学東京センター, 東京, 2018.3.2
22. 瀧川正紀, 近藤嘉高, 島崎良知, 石井敏浩, 森淑子, 石神昭人: ビタミンCによるバンコマイシン誘発薬剤性腎障害の予防効果. 第138回日本薬学会, 金沢, 2018.3.25-28

2 誌上发表

(1) 原著

1. Kodama, Y., Kishimoto, Y., Muramatsu, Y., Tatebe, J., Yamamoto, Y., Hirota, N., Itoigawa, Y., Atsuta, R., Koike, K., Sato, T., Aizawa, K., Takahashi, K., Morita, T., Homma, S., Seyama, K., ★Ishigami, A.: Antioxidant nutrients in plasma of Japanese patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD), asthma-COPD overlap syndrome, and bronchial asthma. Clin. Repir. J. 11(6), 915-924. 2017. (査読あり) (impact factor 2.356, 2016)
2. Jang B, Ishigami A., Kim YS, Choi EK.: The Peptidylarginine Deiminase Inhibitor CI-Amidine Suppresses Inducible Nitric Oxide Synthase Expression in Dendritic Cells. Int J Mol Sci. 18(11). pii:E2258. 2017. (査読あり) (impact factor 3.226, 2016)
3. Takahashi K, Ishigami A.: Anti-aging effects of coffee. Aging (Albany NY). 9(8):1863-1864. 2017. (査読あり) (impact Factor: 4.867, 2016)
4. Suzuki Y, Sato T, Sugimoto M, Baskoro H, Karasutani K, Mitsui A, Nurwidya F, Arano N, Kodama Y, Hirano SI, Ishigami A., Seyama K, Takahashi K.: Hydrogen-rich pure water prevents cigarette smoke-induced pulmonary emphysema in SMP30 knockout mice. Biochem Biophys Res Commun. 492(1):74-81. 2017. (査読あり) (impact Factor: 2.371, 2015)
5. Sase T, Arito M, Onodera H, Omoteyama K, Kurokawa MS, Kagami Y, Ishigami A., Tanaka Y, Kato T.: Hypoxia-induced production of peptidylarginine deiminases and citrullinated proteins in malignant glioma cells. Biochem Biophys Res Commun. 482(1):50-56. 2017. (査読あり) (impact Factor: 2.371, 2015)
6. Nishijima K, Ohno T, Amano A, Kishimoto Y, Kondo Y., Ishigami A., Tanaka S.: Bone Degeneration and Its Recovery in SMP30/GNL-Knockout Mice. J Nutr Health Aging. 21(5):573-578. 2017. (査読あり) (impact factor 2.996, 2015)

7. Jang B, Jeon YC, Shin HY, Lee YJ, Kim H, Kondo Y, Ishigami A, Kim YS, Choi EK. : Myelin Basic Protein Citrullination, a Hallmark of Central Nervous System Demyelination, Assessed by Novel Monoclonal Antibodies in Prion Diseases. *Mol Neurobiol*. doi:10.1007/s12035-017-0560-0. 2017 (査読あり) (impact factor 5.397, 2015)
8. ©Amano A, Kondo Y, Noda Y, Ohta M, Kawanishi N, Machida S, Mitsuhashi K, Senmaru T, Fukui M, Takaoka O, Mori T, Kitawaki J, Ono M, Saibara T, Obayashi H, ★Ishigami A. : Abnormal lipid/lipoprotein metabolism and high plasma testosterone levels in male but not female aromatase-knockout mice. *Arch Biochem Biophys*. 622, 47-58. 2017. (査読あり) (impact factor 3.073, 2015)
9. Nakabo S, Hashimoto M, Ito S, Furu M, Ito H, Fujii T, Yoshifuji H, Imura Y, Nakashima R, Murakami K, Kuramoto N, Tanaka M, Satoh J, Ishigami A, Morita S, Mimori T, Ohmura K. : Carbamylated albumin is one of the target antigens of anti-carbamylated protein antibodies. *Rheumatology*. 56(7):1217-1226. 2017. (査読あり) (impact factor 4.524, 2015)
10. ©Takahashi K, Yanai S, Shimokado K, ★Ishigami A. : Coffee consumption in aged mice increases energy production and decreases hepatic mTOR levels. *Nutrition*. 38:1-8. 2017. (査読あり) (impact Factor: 2.839, 2015)
11. ©Takigawa M, Masutomi H, Kishimoto Y, Shimazaki Y, Hamano Y, Kondo Y, Arai T, Lee J, Ishii T, Mori Y, ★Ishigami A. : Time-Dependent Alterations of Vancomycin-Induced Nephrotoxicity in Mice. *Biol Pharm Bull*. 40(7):975-983. 2017. (査読あり) (impact factor 1.574, 2015)
12. ©Takahashi K, Takisawa S, Shimokado K, Kono N, Arai H, ★Ishigami A. : Age-related changes of vitamin E: *a*-tocopherol levels in plasma and various tissues of mice and hepatic *a*-tocopherol transfer protein. *Eur J Nutr*. 56(3):1317-1327. 2017. (査読あり) (impact factor 3.239, 2015)
13. Sato Y, Uchida E, Aoki H, Hanamura T, Nagamine K, Kato H, Koizumi T, ★Ishigami A. : Acerola (*Malpighia emarginata* DC.) Juice Intake Suppresses UVB-Induced Skin Pigmentation in SMP30/GNL Knockout Hairless Mice. *PLoS One*. 12(1):e0170438. 2017. (査読あり) (impact factor 3.057, 2015)
14. Umeda N, Matsumoto I, Tanaka Y, Kawaguchi H, Ebe H, Kagami Y, ★Ishigami A, Sumida T. : Anti-cyclic citrullinated glucose-6-phosphate isomerase peptide -7 (CCG-7) antibodies were suppressed by biologics treatment and deposited to citrullinated proteins in CD68-positive cells in the RA synovium. *Mod Rheumatol*. 27(5):914-916. 2017. (査読あり) (impact Factor: 1.843, 2015)
15. Kunimura Y, Iwata K, Ishigami A, Ozawa H. : Age-related alterations in hypothalamic kisspeptin, neurokinin B, and dynorphin neurons and in pulsatile LH release in female and male rats. *Neurobiol Aging*. 50:30-38. 2017. (査読あり) (impact Factor: 5.153, 2015)
16. ©Masutomi H, Kawashima S, Kondo Y, Uchida Y, Jang B, Choi EK, Kim YS, Shimokado K, ★Ishigami A. : In-

duction of peptidylarginine deiminase 2 and 3 by dibutyryl cAMP via cAMP-PKA signaling in human astrocytoma U-251MG cells. *J Neurosci Res* 95(7):1503-1512. 2017 (査読あり) (impact factor 2.689, 2015)

(2) 総説

1. 西島和俊、大野民生、天野晶子、岸本祐樹、近藤嘉高、石神昭人、田中愼 : SMP30/GNLノックアウトマウスにおける骨変性とその修復. *ビタミン* 91: 652-654. 2017.
2. 小泉美和子、近藤嘉高、伊坂亜友美、石神昭人、鈴木恵美子 : 不安様行動およびストレス誘発性食欲不振に与えるビタミンCの影響. *ビタミン* 91: 649-651 (2017)
3. ©★石神昭人 : カロリー制限はやはりアカゲザルの健康長寿に効果がある. *ビタミン* 91:569-572. 2017.
4. 内尾隆正、広瀬義隆、室崎伸二、山本佳弘、★石神昭人 : 高用量ビタミンC の摂取は加齢に伴う胸腺の萎縮を抑制して免疫細胞数の維持に寄与する. *ビタミン* 91:352-354. 2017.

3 著書等

1. ©Kondo Y, Choi E.K, Kim Y.S, ★Ishigami A. : Update on Deimination in Alzheimer's Disease. In: Protein Deimination in Human Health and Disease. Nicholas A, Bhattacharya S, Thompson P. R. (Eds), Springer, 293-315. 2017.
2. ©★石神昭人 : 6 健康食品やサプリメント(2.2)ビタミンC と老化、健康寿命新ガイドラインエビデンスブック. 67-69. 2017.

生体環境応答

1 学会発表

(1) 海外

1. Masumi Iketani, Taisei Kamata, Takuya Urushibara, Mayumi Takahashi, Hideo Kawaguchi, Ikuroh Ohsawa. Preventive effects of Hydrogen-dissolved water on lipopolysaccharide-induced sepsis with attenuation of liver injury. Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology. Yokohama, Japan, 2017.5.15-19.
2. Nishimaki K, Kamimura N, Ohsawa I, Yokota T, Ohta S. Drinking hydrogen water prevents the progression of dementia in transgenic model mice with age-dependent memory impairment. Euromit 2017, Cologne, Germany, 2017.6.11-15.
3. Ikuroh Ohsawa. 招待講演. Molecular hydrogen functions as a mitohormetic effector against oxidative stress. The molecular hydrogen 10th year anniversary conference. Guangzhou, China, 2017.9.15.
4. Yoshihiro Noda, Taeko Nemoto-Miyauchi, Kumiko Nakata, Tamao Endo, Naoki Yamashita, Ikuroh Ohsawa. Molecular hydrogen improves the oxidative stress-induced low motility of mouse sperm. 68th AALAS National Meeting. Austin, TX, USA. 2017.10.15-19

(2) 国内

1. 池谷真澄、高橋真由美、大澤郁朗. 超解像G-STED顕微鏡を用いた生細胞ミトコンドリア内部構造の可視化. 第6回TOBIRA研究交流フォーラム. 東京、2017.5.12
2. Masumi Iketani, Takuya Urushibara, Jumi Ohshiro, Mayumi Takahashi, Hideo Kawaguchi, Ikuroh Ohsawa. Preadministration of H₂-water protects mice against

- LPS-induced liver injury with HO-1 expression. 第40回日本基礎老化学会大会. 名古屋、2017.6.14-16.
- 鎌田太生、池谷真澄、高橋真由美、川口英夫、大澤郁朗. 生体内における移動と反応についての重水素分子と水素分子の差異検証. 第7回日本分子状水素医学生物学会年会. 名古屋、2017.10.29-30.
 - 池谷真澄、鎌田太生、関本香奈子、漆原拓也、高橋真由美、川口英夫、大澤郁朗. 予防的水素水投与による敗血症肝障害抑制の分子機構. 第7回日本分子状水素医学生物学会年会. 名古屋、2017.10.29-30.
 - 大澤郁朗. 教育講演. 分子状水素の疾患予防効果. 第7回日本分子状水素医学生物学会年会. 名古屋、2017.10.29-30.
 - 大澤郁朗、池谷真澄、村上弥生、高橋真由美. 水素分子のミトホルミシス効果. 第17回日本ミトコンドリア学会年会. 京都、2017.11.22-23.
 - 高橋真由美、大澤郁朗、白澤卓二、高橋和秀. OPA1はコエンザイムQによる脳ミトコンドリア呼吸鎖複合体IVの活性調節に関与する. 第40回日本分子生物学会大会. 神戸、2017.12.6-9

2 誌上発表

(1) 原著

- ◎Takahashi K, Ohsawa I, Shirasawa T, ★Takahashi M. Optic atrophy 1 mediates coenzyme Q-responsive regulation of respiratory complex IV activity in brain mitochondria. *Exp Gerontol*. 98:217-223, 2017. (査読あり) (IF : 3.350、2015)
- ◎Murakami Y, Ito M, ★Ohsawa I. Molecular hydrogen protects against oxidative stress-induced SH-SY5Y neuroblastoma cell death through the process of mitohormesis. *PLoS One*. 12(5):e0176992, 2017. (査読あり) (IF : 3.057、2015)
- Nishimaki K, Asada T, Ohsawa I, Nakajima E, Ikejima C, Yokota T, Kamimura N, Ohta S. Effects of molecular hydrogen assessed by an animal model and a randomized clinical study on mild cognitive impairment. *Curr Alzheimer Res*. 2017 doi:10.2174/1567205014666171106145017. (査読あり) (IF : 3.145、2015)

3 著書等

- ◎★大澤郁朗. 水素水研究からサプリメントを考える. 健康長寿新ガイドライン・エビデンスブック. (発行、東京都健康長寿医療センター研究所) p72-73. 2017.
- 新開省二、★大澤郁朗、石神昭人、伊藤雅史、金憲経、青柳幸利、清野諭、横山友里. パンフレット：健康食品やサプリメントの利用の目安 (社会保険出版社) 2017
- ◎★高橋真由美. 健康長寿に向けたアンチエイジングにおけるコエンザイムQの役割. 「パトス」(ポリッシュ・ワーク) 2017

受賞

健康長寿ゲノム探索

- 高山賢一、常勤研究員、日本内分泌学会 研究奨励賞、アンドロゲン受容体が制御するタンパク質および非コードRNAを介する新規エピゲノム制御機構の解析、2017年4月21日
- 池田和博、協力研究員、第5回がんと代謝研究会 優秀ポスター発表賞、呼吸鎖超複合体形成はがん増殖能・低

- 酸素抵抗性を促進させる、2017年7月13日
- 東浩太郎、常勤研究員、2017年度日本骨粗鬆症学会 研究奨励賞、GGCXを介するビタミンKの骨保護作用の解明と新規非Gla化バイオマーカーの探索、2017年10月21日

老化脳神経科学研究チーム

チームリーダー：遠藤 昌吾

1 研究チームの概要・目的

脳神経系は、痛みや排泄のような基本的な機能に加え運動や記憶のような高次の機能を支えている。それゆえ、老化、疾病、外傷等により引き起こされる脳神経系の機能障害は、患者の日常生活に極めて重大な問題を引き起こす。様々な生理機能を支える脳神経の役割は不明な点が多く残され、その役割解明は疾病の治療や薬物療法のために重要である。

基盤研究グループに属する本研究チームでは、「脳・神経系に生じる障害を克服して、超高齢化社会におけるサクセスフルエイジングを達成する」ことを目的として、**老化研究や疾病研究の基盤となる成果を目指し、その臨床応用も視野に入れて研究を行った。**

本中期計画中に遂行した基盤研究をもとに、**自律神経からは「夜間排尿回数軽減ローラーの製品化」、神経生理からは「常同行動を緩和する薬物の発見」、記憶神経からは「シロスタゾールの臨床治験」と、基盤的研究を臨床へ結びつける大きな結果が得られ、チームとして極めてプロダクティブであり充実した中期計画の研究となった。**

3テーマが扱う主な研究内容は以下の通りである。

自律神経機能

a. 自律神経機能の老化とその制御

自律神経機能の加齢変化の特徴を、動物実験において明らかにし、自律神経系の活動を制御する方法を究明することを目的としている。

b. 脳内コリン作動系機能とその制御

コリン作動性ニューロン及びコリン作動性受容体の役割を明らかにし、加齢に伴うコリン作動性機能の低下を予防・改善する方法を見つけることを目的としている。

神経生理

a. 大脳皮質—大脳基底核—視床連関動態の生理学的解析

皮質—大脳基底核—視床連関の生理学的性質を明らかにし、パーキンソン病などにおける記憶・学習能力低下の病態やその他の精神神経疾患の病態を明らかにすることを目的とする。

b. 神経精神疾患の病態生理研究

病態モデルマウスの解析を通じて病気の発症のメカニズムの解明、さらには治療法策定への貢献を目指す。

記憶神経科学

a. アルツハイマー病の研究

アルツハイマー病の原因と考えられているABオリゴマーによる遺伝子発現異常が引き起こすニューロン変性の機構を解明する。そして、その遺伝子異常発現の抑制を介した病気の進行阻止をめざしている。

b. 記憶・学習機構の研究

記憶や記憶を支える神経可塑性の機構を融合的研究で解析し、記憶障害の治療そして記憶の基礎的理解を目指している。特に、記憶に重要なcAMP系の研究を推進している。

2 今後の展望

本研究チームでは、若手研究者が順調に育っており、業績発表や研究費獲得も極めて順調である。若い研究者を育てることは今後の老化研究発展のため極めて重要である。自律神経機能や神経生理が有する電気生理学的な脳機能解析、神経科学が有する行動科学的解析を行うことができる研究室は日本では激減しており、これらの分野から優秀な若手研究者が輩出されることを望みたい。また、兼ねてからの懸案であった、3テーマでの連携について、「身体リハビリテーションの効率化の研究」を設定して共同で挑むこととした。連携を通じて基礎研究からリハビリテーションの現場に生かせる結果を目指したい。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

自律神経機能

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
自律神経機能の老化とその制御	自律神経反応の研究により、内臓機能を司る自律神経機能の加齢変化とその制御法としての様々な物理療法の有効性の検証およびメカニズムの解明を目指す。	高齢者に多い慢性痛の実験モデルの開発、および痛みと内臓機能との関連性の解析	慢性の痛みによる内臓機能障害の特徴とその機序としての自律神経系の可塑的変化の解析	慢性の痛みで生じる自律神経系の可塑的変化の機序および神経系との相互作用の解析	慢性痛における自律神経障害に対する物理療法の影響の解析とその機序としての脳脊髄シグナル伝達の解析	老齢に伴う自律神経系の可塑的変化と慢性痛・内臓機能障害との関連性の解析と物理療法の有用性の解析
認知機能に関わる脳内コリン作動性ニューロンの機能とその制御	認知機能に重要な大脳皮質や海馬にアセチルコリンを放出する前脳基底部コリン作動性ニューロンの機能、および賦活法の開発とそのメカニズムの解明を目指す。	脳内コリン作動系の賦活法として咀嚼の有用性の解析と体性感覚刺激との相違の解析	脳局所血流を指標とした咀嚼に伴うコリン作動系活性化の特徴とそのメカニズムの解析	咀嚼に伴うコリン作動系活性化に関わる体性感覚と前脳基底部の血管制御メカニズムの解析	脳局所血流や脳血管径のリアルタイム観察によるコリン作動系の血管制御メカニズムの解析	脳局所血流調節における前脳基底部コリン作動系活性化と抗認知症薬の関連性の解析

記憶神経科学

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
記憶改善治療	認知症等の高齢者疾患により障害を受ける記憶に着目して新たな視点から解析し、記憶改善治療に資する研究を目指す。	記憶評価法の確立、および、細胞内情報伝達系活性化薬の標的分子に関する研究	細胞内情報伝達系活性化薬の分子・細胞機構の研究、および、記憶への効果の研究	細胞内情報伝達系活性化薬の記憶への効果、および、病態モデル動物への影響に関する研究	細胞内情報伝達系活性化薬の病態モデル動物への影響に関する研究	細胞内情報伝達系活性化薬の効果の分子機構に関する研究
記憶の基礎機構	老化により大きな影響を受ける記憶に着目し、その細胞機構、分子機構を解析し、記憶改善治療に資することを目指す。	小脳依存性記憶モデルの確立、および、遺伝子改変動物作出のための研究	小脳依存性記憶モデルにおける記憶の操作法の確立、および、遺伝子改変動物作出のための研究	遺伝子改変動物の作出と小脳依存性記憶に関する分子の生化学的・細胞生物学的解析	遺伝子改変動物の作出、小脳依存性記憶の解析および、記憶に参与する分子の生化学的・細胞生物学的解析	遺伝子改変動物を用いた記憶の分子機構の解析および、記憶障害改善の標的分子候補に関する研究
認知症バイオマーカー	認知症の発症機構の解析と認知症の進行度を示すバイオマーカーの探索	可溶性βアミロイドによる細胞内情報伝達系の変化を解析する。	可溶性βアミロイドによる細胞内情報伝達系の変化の解析と、神経変性の分子機構の解明	髄液バイオマーカー候補分子の高感度検出方法の開発：単クローン抗体の作成	髄液バイオマーカー候補分子の高感度検出方法の開発：単クローン抗体の作成とポリクローナル抗体の作製	髄液バイオマーカー候補分子の高感度検出方法を使った患者髄液でのバイオマーカーの測定

神経生理

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
線条体の局所神経回路とドーパミン、アセチルコリンの病態生理	常同行動モデル動物を作製し、神経レベルで調べることで、皮質下認知症や行動異常の病態解明と治療法策定に役立てる。	行動異常を示すモデル動物を作製し、組織学的に妥当性を検討する。	行動異常モデル動物の線条体投射ニューロンへのドーパミンの作用を調べる。	コリン作動性ニューロンに対するニコチン受容体作動薬の効果調べる。	行動異常の神経活動に調べる、病態に関連する線条体機能領域を明らかにする。	神経活動の変化を是正することで行動異常が回復するかを調べる。
新たなドーパミンシグナル伝達系と行動変化	新たなドーパミンシグナル伝達系が神経活動に及ぼす影響を調べ、認知症の新たな治療法策定に役立てる。	持続的にドーパミンシグナルを活性化させた動物の神経活動を調べる。	神経活動の変化をもたらすイオンメカニズムを明らかにする。	イオンチャネルの変化をもたらすシグナル伝達経路を調べる。	シグナル経路を修飾することで、神経活動と行動が回復するかを調べる。	
認知機能障害をもたらす「正常圧水頭症」関連物質LRG1とシナプス可塑性	認知機能障害をもたらすかつ治療可能な正常圧水頭症の関連物質LRG1の作用機序を調べ、診断治療に役立てる。	正常圧水頭症可関連物質LRG1の過剰発現の影響を調べる。	LRG1過剰による海馬可塑性の変化と学習障害を検索する。	LRG1と相互作用する分子の探索と可塑性の関係を調べる。	LRG1の過剰発現モデルを長期間観察し、水頭症の発生の有無を調べる。	LRG1に関連したシグナル伝達経路の異常による疾患を広く検索する。
吸入麻酔の作用機序と副作用の病態生理	麻酔導入時の興奮期、覚醒後の逆行性健忘などの病態を調べ、副作用の予防軽減に役立てる。	吸入麻酔薬の作用を調べる実験系を確立する。	麻酔導入時の興奮期のメカニズムを調べる。	吸入麻酔薬のコリン作動性ニューロンへの効果を調べる。	虚血時の保護作用とKATPチャネルへの影響を調べる。	吸入麻酔薬が虚血耐性をもたらすかを調べる。

自律神経機能

構成メンバー

テームリーダー：堀田晴美

研究員：内田さえ、渡辺信博

非常勤研究員：飯村佳織、遠田明子

1 第二期中期計画の研究成果

研究項目(1) 自律神経機能の老化とその制御の解析：高齢者で問題となりやすい泌尿器、循環器、内分泌などの機能に着目し、皮膚や筋を刺激する物理療法の作用、疼痛刺激による身体的ストレス応答、それらの機序を明らかにした。

- ① 動物モデルにおいて、ローラーによる軽い皮膚刺激が排尿反射を抑制する中枢性・末梢性機序を解明した。同ローラー刺激は高齢者の夜間頻尿を緩和することを証明した。
- ② 疼痛刺激に伴う心血管反応を指標として、皮膚タッチによる疼痛抑制の中枢性・末梢性機序を解明した。同皮膚刺激は前帯状皮質を賦活することをPET検査で示した。
- ③ 卵巣からのホルモン分泌（エストラジオール、テストステロン）が交感神経性に抑制されること、疼痛による身体的ストレスが交感神経性に卵巣ホルモン分泌を抑制することを証明した。
- ④ 甲状腺からのホルモン分泌（カルシトニン、T3、T4、パラソルモン）が、交感神経や副交感神経により調節されることを証明した。新規 Neuromodulation 治療の開発研究が進んだ。

研究項目(2) 認知機能に関わる脳内コリン作動性ニューロンの機能とその制御の解明：脳血流増加、神経成長因子（NGF）分泌亢進に関わる脳内コリン作動性神経機構を解明し、コリン作動性神経を賦活する皮膚・筋刺激効果を、成熟及び高齢動物で証明した。

- ① 大脳皮質のNGF分泌が皮膚への擦過刺激で増加すること、この反応はマイネルト核コリン作動性神経の活性化に起因することを証明した。
- ② 皮膚や筋刺激で起こる大脳皮質コリン作動系の活性化反応は、高齢ラットでも維持されることを証明した。皮膚・筋刺激が高齢者の認知症予防に役立つ可能性を示した。
- ③ 二光子顕微鏡を用いた脳動脈観察技術により、マイネルト核の活性化は、コリン作動性神経終末密度の違いにより、脳深部の動脈の層特異的な拡張をもたらすことを証明した。
- ④ 嗅球へのコリン作動性神経の刺激は、嗅球でアセチルコリン放出を高めることを証明した。コリン作動性脳血管拡張反応は、嗅球よりも新皮

質で顕著であることを明らかにした。コリン作動性脳血管拡張反応をマウスでも確認し、認知症モデルマウスでの研究につなげた。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜軽微な皮膚刺激を利用した頻尿対策＞

センター泌尿器科、自立促進と介護予防研究チーム、帝京平成大学

＜膀胱機能の老化＞

老化バイオマーカー、東京大学

＜甲状腺の神経性調節＞

Case Western Reserve Univ、GlaxoSmithKline

＜慢性痛と自律神経機能＞

Univ. du Québec à Trois-Rivières

＜大脳皮質血管の調節機構＞

慶応大学、電気通信大学、東京有明医療大学、

Univ. du Québec à Trois-Rivières

＜アルツハイマー病モデルマウスを用いた大脳皮質血流の調節機構＞

実験動物施設、千葉大学

3 今後の展望

(1) 自律神経機能の老化とその制御の解析

物理療法の有効性の検証という大きな目標を掲げ、第二期の研究成果をもとに、自律神経機能の解明を進めることで薬物に代替しうる又はより有効な非薬物療法を生み出すことを目指す。具体的には、慢性背筋痛モデル動物を使った研究を展開させ、慢性痛で自律神経機能に変化するメカニズムを解明する。慢性痛患者でも見られる前帯状皮質の萎縮と自律神経機能との関係も明らかとなる。軽微な皮膚刺激や筋の圧刺激の自律神経に及ぼす効果が、老化によりどのような影響を受けるか明らかにする。皮膚の老化やサルコペニアと自律神経異常との関係が明らかになり、効果的な予防法の開発につながる。甲状腺に分布する交感神経（頸部交感神経）と副交感神経（上喉頭神経）の電気刺激で、カルシトニン・T3・T4・PTH分泌を調節できる発見をもとに、嚥下と代謝調節ホルモン分泌との関係を解明することで、口から食べる重要性の新たな側面を明らかにする。

(2) 認知機能に関わる脳内コリン作動性ニューロンの機能とその制御の解明

認知機能に重要な大脳皮質や海馬、嗅球にアセチルコリンを放出する前脳基底部コリン作動性ニューロンの機能の老化過程、およびコリン作動性神経系を賦活する臨床応用可能な手法の開発とそのメカニズムの解明を目指す。第二期における

コリン作動性神経の研究をもとに、認知症の具体的な予防法や客観的嗅覚検査法の開発につなげる。

①脳内コリン作動系の賦活法の開発

脳内コリン作動系を賦活する非薬物的手段として、皮膚や筋を刺激する物理療法の効果や、咀嚼や嚥下などの日常生活動作の重要性を明らかにする。NGF分泌反応や脳局所血流を指標としたコリン作動系活性化の特徴の解析、コリン作動系活性化に関わる体性運動系と前脳基底部とを結ぶ神経回路の解析、脳局所血流や脳血管径のリアルタイム観察による血管制御メカニズムの解析を行う。

②認知症の早期に低下する嗅覚機能を担う、嗅球コリン作動系機能の解明

嗅覚調節に関わる嗅球には、認知機能調節を司る新皮質や記憶調節に重要な海馬と共通して、前脳基底部に起始するコリン作動性神経が投射する。嗅覚機能が認知症のごく初期に顕著に低下する臨床所見との関連を念頭に、嗅球のコリン作動性神経機能の老化過程を新皮質や海馬と比較することにより、嗅覚機能と認知機能の関連を解明する。

記憶神経科学

構成メンバー

テーマリーダー：遠藤昌吾

研究員：五味不二也、柳井修一

技術員：新崎智子

1 第二期中期計画の研究成果

(1) 記憶改善薬の研究

記憶に必須であり、かつ、加齢により機能が低下するcAMP系に着目した。cAMPを分解するPDE3の阻害剤シロスタゾールの効果について以下のことを明らかにした。

- 1) 記憶を強化すること
- 2) 加齢に伴う記憶の低下を食い止めること
- 3) 加齢で低下した記憶を回復させること
- 4) BBB機能を改善すること
- 5) 転写因子CREB活性化を引き起こすこと

臨床治験への基礎データを提供し、本研究の大きなゴールを達成した。

(2) 記憶の分子機構の研究

A) 老化に伴い機能が低下するERK1/2系に着目した。ERK遺伝子改変マウスを用いて以下のことを明らかにした。

- 1) 10-20%のERK2量減少が記憶障害を引き起こすこと
- 2) ERK2量を70-100%減少させると致死となること

3) ERK1欠損は致死とはならないこと

4) ERK1欠損マウスの記憶は正常であること

さらに、ERK2の欠損が、

- 1) 蝸牛有毛細胞死を引き起こすこと
- 2) 心筋異常、浮腫を引き起こすこと
- 3) 社会行動異常を引き起こすこと
- 4) 自閉症様の症状を引き起こすこと

ERK2が記憶に関わり、さらに加齢性ERK2量減少が上記諸症状に関わる可能性を示した。

B) 身体リハビリテーションに重要な小脳依存性記憶（短期、長期）の解析方法を確立した。また、“悪玉”であるROS(活性酸素種)–8-ニトロ-cGMP系が小脳依存性記憶と神経可塑性に重要であることを明らかにした。

(3) 認知症バイオマーカーの研究

アルツハイマー病（AD）で増加するAβオリゴマーにより発現が変化する遺伝子群、キネシン軽鎖1E（KLC1E）、NSP3（Novel SH2-containing protein 3）、カルシネニン3について以下のことを明らかにした。

1) KLC1EとKLC1H/Dは競争的に膜小胞に結合すること

AD脳では、KLC1H/Dを介した膜小胞輸送をKLC1Eが阻害して細胞死を引き起こす可能性を報告した。

2) NSP3はCas系を介さずにRap1を活性化して細胞死を招くこと

3) AD脳やADモデルマウス脳でカルシネニン3の分解が阻害されてCTFが蓄積されること

4) CTFの分解産物であるp3を定量するELISAを確立したこと

CTF蓄積はCTFの分解阻害、すなわちp3量減少を意味する。p3をAD初期のバイオマーカーとして利用できる可能性を見出した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<記憶改善薬の研究>

センター脳機能、福島県立医大、大塚製薬

<記憶の分子機構の研究>

防衛医科大学校、京都大学、京都橘大学

<認知症バイオマーカーの研究>

センターブレインバンク、センター神経内科、国立病院機構 鳥取医療センター

3 今後の展望

(1) 記憶改善薬の研究

第二期中期計画において、若齢動物、老化動物、遺伝子改変動物などにおいて記憶を感度よくかつ

正確に評価し、さらに、一般の行動解析をも含む行動解析テストバッテリー (PRECISE, PREclinical Comprehensive & Intensive Scheme for cognitive Evaluation) を確立した。若齢から高齢マウス、そして、老化促進モデルマウスなどの行動と、記憶を改善するcAMP系薬物 (シロスタゾール) の効果とその分子機構を明らかにした。我々そして他の研究室からの結果を基にして、シロスタゾール臨床治験が開始されている。第二期で得られた多くの結果を基礎として、第三期の中期計画では、

- a) **ヒト型アルツハイマー病モデル動物**などの病態モデルを用いてシロスタゾールが記憶を改善するかを検討する。さらに、
- b) 現在使われている**記憶改善薬とシロスタゾールとの併用**による記憶の維持・改善効果を、老化マウスや病態モデルを用いて詳細に解析する。そして、その分子基盤を明らかにして、**記憶改善のための次の標的を同定**する。
- c) 予備的な研究により低容量ドネペジルと低容量シロスタゾールの併用が有効である結果を得ている。

これらの研究により、これまで記憶障害治療に用いられていない薬物併用治療の前臨床知見を得ることで臨床応用への道を探る。

(2) 記憶の分子機構の研究

(1) に述べたcAMP系、そして、ERK2の記憶における重要性の研究は、第一期の研究を基にして第二期で大きく展開することができた。ERK2系を介したシグナル伝達は老化によりその機能が低下することが知られている。そこで、

- a) **ERK2系の機能を回復させる食品成分等**がいくつか知られているので、老化マウスに対してそれらの成分の効果等を検討する。
- b) cAMP系とERK系はほぼすべての細胞に存在する重要なシグナル伝達系である。老化に伴い機能が低下する両系の機能を改善する方法について、これまで我々が効果を明らかにしてきた**PDE阻害剤シロスタゾールそしてERK2系を回復させる食品成分**などの組み合わせを検討して、**老化に伴う記憶の低下防止方法**を検証する。

また、小脳依存性の記憶について、これまでは生体にとっての毒性分子として考えられてきた。**活性酸素種 (ROS) が小脳依存性記憶に関与**することを明らかにしつつある。老化やシグナル伝達のパラダイムシフトを迫るこのユニークな研究も着実に前進させたい。

(3) 認知症バイオマーカーの研究

第二期中期計画において、A β により発現が誘導されるキネシン軽鎖1E、NSP3、そしてカルシネニン3について研究を推進した。これらの分子の発現により神経細胞死が誘導されるという興味深い結果が得られた。そこで、

- a) キネシン軽鎖-1EあるいはNSP3のC末端に結合する化合物は、**A β による神経細胞死を阻止する可能性**があり、その探索を積極的に進めて、アルツハイマー病による神経細胞死阻止の薬物シーズとして育てる。
- b) p3については測定系のさらなる高感度化を進めて、血中のp3を定量できる方法を開発することが実用化への課題である。抗体を用いたELISAのみならず、様々な方法を用いた**定量方法を考えて、臨床応用へと結びつけて**いきたい。

神経生理

構成メンバー

テーマリーダー：三浦正巳

研究員：井上律子

非常勤研究員：中内さくら

1 第二期中期計画の研究成果

加齢にともなう認知機能の低下は、アルツハイマー病にかぎらず、様々な原因で引き起こされる。そのため認知機能障害といっても、各個人には多彩な症状が現れる。第二期中期計画ではテーマの特色を考慮し、以下の点に着目して研究を進めた。

- 1) ドーパミン、アセチルコリン系に関連した行動異常としての「常同行動」
- 2) 治る認知症である「正常圧水頭症」に関わる分子LRG1

「常同行動」は前頭側頭型認知症の症状の一つで、皮質下の線条体神経回路が責任病巣と考えられている。またドーパミンとアセチルコリンが主要な調節因子であり、「常同行動」のみならず、多くの疾患の病態に関わると考えられている。

「正常圧水頭症」は回復可能な認知機能低下を起こすが、認知機能低下の機序はよくわかっていない。また実臨床での診断に苦慮する例も少なくない。

それぞれの病態モデル動物の作製・解析から、第二期中期計画では以下の成果を得た。

- 1) 線条体の機能領域の興奮性の不均衡が「常同行動」の病態にある
- 2) 新たに同定されてドーパミンシグナル伝達系は情動と行動に関わる

- 3) 「正常圧水頭症」関連物質LRG1は加齢にともなう認知機能低下に関わる
- 4) 吸入麻酔薬はtonic GABA電流と I_h 電流を介して線条体の興奮性に寄与する

これらは6編の原著論文として発表し、さらに2編を発表する予定である。それらの一部は臨床系雑誌の総説として発表した。

臨床応用につながる試みとしては以下のことを行っている。

- 1) ニコチン受容体関連薬による「常同行動」の緩和
- 2) 大脳皮質運動野の加齢変化と運動機能低下のメカニズム解明

特に、皮質機能低下と運動機能低下は高齢者に少なからず存在すると推測されるが、実体は明らかではないため臨床的な取り組みは始まったばかりである。その病態解明が求められると考える。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<線条体の局所神経回路とドーパミン、アセチルコリンの病態生理>

同志社大学

<線条体の局所神経回路とドーパミン、アセチルコリンの病態生理>

名古屋大学

<認知機能障害をもたらす「正常圧水頭症」関連物質LRG1とシナプス可塑性>

順天堂大学

<吸入麻酔の作用機序と副作用の病態生理>

順天堂大学

3 今後の展望

(1) 認知症の多彩な症状に関わる神経回路の解析

認知症では多彩な症状を呈する。第二期中期計画では、線条体の機能領域（ストリオソーム・マトリックス）とドーパミン・アセチルコリン系に着目して、「常同行動」の病態を調べた。その結果、線条体の機能領域間でニューロンの興奮の変化を見出した。また共同研究により、機能領域間で排他的に分布する分子が、ドーパミンD1受容体シグナルを担う分子であることが示された。第三期ではこれらを元にして以下の目標を設定する。

- 1) 興奮性の違いをもたらすイオンチャネル機構
- 2) 常同行動モデルでのシグナル伝達分子の変化

実験が複雑になるほど、より記録しやすいモデル動物を導入しないと実験自体が困難になる。こ

れまで使ってきたモデル動物は、4～5週以上の長期の記録に適さない。そのためにいくつかの遺伝子改変動物を試みる必要があるが、まずは既存の動物の組み合わせで試していく。

ドーパミン、アセチルコリンの異常をともなう疾患は少なくない。「常同行動」の病態解明はそれらの疾患にも応用できることが期待される。

(2) 加齢に伴う運動機能低下の解析

正常な運動機能には、運動器に加えて中枢神経系の制御が必要である。第二期中期計画では、正常老化動物に運動機能低下と、大脳皮質運動野のシナプス伝達の減弱があることを見出した。さらにこれらの加齢性変化は、ミトコンドリアの補酵素となる物質を一定の期間、与えることで回復することも確認にしている。それらを元に第三期計画では以下の目標を設定する。

- 1) 補酵素の急性投与によるシナプス伝達の改善
- 2) 運動機能低下を回復する方法の検索

高齢動物では、電気記録にかぎらず、実験が困難である。若いモデル動物があればいいが、正常老化といった定義から遠ざかるため工夫が必要となるが、早老動物での検討は行う価値があると考ええる。

神経疾患や脳血管障害では、中枢性の運動機能低下は当然起こりうると考えられている。しかし、加齢にともなう運動機能低下は、運動器の機能低下によるとみなされてきた。近年、ドーパミン枯渇のないパーキンソンニズムが、DAT SPECT 検査の普及により明らかになってきた。正常老化の範囲内とされてきた高齢者でも、回復可能な運動機能低下があるかもしれない。高齢者の運動機能低下の認識に変化をもたらすことが期待される。

論文・学会発表

自律神経機能

1 学会発表

(1) 海外

1. Uchida S. Neural mechanisms involved in the noxious stress-induced inhibition of ovarian estradiol secretion. The 10th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience (ISAN), Nagoya, August 30-September 2, 2017 [Symposium: Interaction between pain and autonomic nervous system]
2. Hotta H, Onda A, Suzuki H, Milliken P, Sridhar A. Stimulation of the superior laryngeal nerve promotes calcitonin and thyroxine secretion, without changes in parathormone secretion, from the thyroid and parathyroid glands. The 10th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience (ISAN), Nagoya, August 30-September 2, 2017

3. Watanabe N, Hotta H. Cardiac sympathetic nerve activity increase mediated by mechanical pressure stimulation is exaggerated in acutely inflamed muscles. The 10th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience (ISAN), Nagoya, August 30-September 2, 2017
4. Onda A, Uchida S, Suzuki H, Hotta H. Systematic study of the contribution of cutaneous afferent A β , A δ , and C fiber groups on the inhibition of the rhythmic micturition contractions of the urinary bladder in rats. The 10th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience (ISAN), Nagoya, August 30-September 2, 2017
5. Kagitani F, Uchida S. Sympathetic regulation of ovarian functions under chronic estradiol treatment in rats. The 10th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience (ISAN), Nagoya, August 30-September 2, 2017
6. Hotta H. Age-related changes in neuromodulatory control of bladder micturition contractions originating in the skin. The 70th Japan Society of Neurovegetative Research (JSNR) Congress in 2017, Nagoya, August 31-September 1, 2017 [Symposium: Scientific evidence for the effects of acupuncture, massage and thermal stimulation]

(2) 国内

1. 遠田明子, 鈴木はる江, 内田さえ, 堀田晴美. 膀胱の排尿収縮に関わる皮膚求心性神経線維の解明. 第66回全日本鍼灸学会学術大会, 東京, 2017年6月10-11日
2. 内田さえ, 鍵谷方子. Mechanism of cerebral blood flow regulation via nicotinic acetylcholine receptors. 日本基礎老化学会第40回大会, 名古屋, 2017年6月14-16日
3. 渡辺信博, 堀田晴美. Heart rate responses to mechanical pressure stimulation of non-inflamed and inflamed skeletal muscles. 日本基礎老化学会第40回大会, 名古屋, 2017年6月14-16日
4. 堀田晴美. 鍼が循環系に与える影響. 予防医療臨床研究会, 東京, 2017年7月9日
5. 堀田晴美, 鈴木はる江, 飯村佳織, 渡辺信博. Age-related changes in inhibition of bladder contractions produced by activation of skin afferent A β , A δ , and C- fibers. 第40回日本神経科学大会, 幕張, 2017年7月20-23日
6. 内田さえ, 鍵谷方子. Physiological function of basal forebrain cholinergic fibers in the olfactory bulb. 第40回日本神経科学大会, 幕張, 2017年7月20-23日
7. 渡辺信博, 堀田晴美. Carrageenan-induced myositis enhances tachycardiac responses to mechanical pressure stimulation of hindlimb muscles in isoflurane-anesthetized rats. 第40回日本神経科学大会, 幕張, 2017年7月20-23日
8. 堀田晴美. 軽微な機械的皮膚刺激は、脊髄オピオイド系を介して、脊髄における排尿反射の上行性と下行性の両方の伝達を減少させることによって排尿収縮を抑制する. 第70回日本自律神経学会総会, 名古屋, 2017年8月31日
9. 堀田晴美. 微小刺激の効果とそのメカニズムの研究. 第45回日本伝統鍼灸学会学術大会, 金澤, 2017年10月15日
10. 内田さえ, 鍵谷方子. ニコチン受容体を介する大脳皮質血流増加反応の解析. 第45回自律神経生理研究会, 東京,

2017年12月2日

11. 飯村佳織, 堀田晴美, 鈴木はる江, 遠田明子. 麻酔下ラットの咽頭部への触刺激が甲状腺ホルモン(T4)分泌に与える影響. 第45回自律神経生理研究会, 東京, 2017年12月2日
12. 堀田晴美. 膀胱の働きに及ぼす鍼灸刺激の神経性機序について. 予防医療臨床研究会, 東京, 2018年1月28日
13. 堀田晴美. 認知症予防の最新動向、身体活動と脳活性化の関係. 認知症予防セミナー, 札幌, 2018年2月2日
14. 堀田晴美. マイクロコロンと生理学. 第2回地域疼痛ケア協会総会, 東京, 2018年2月10日
15. 飯村佳織, 遠田明子, 鈴木はる江, 堀田晴美. 甲状腺からのサイロキシン (T4) 分泌は、麻酔下ラットにおける咽頭への触刺激によって促進される. 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2018年3月3日
16. 渡辺信博, 佐々木慧, 正本和人, 堀田晴美. ニューロン活動時の脳血管調節に対するギャップ結合の関与. 第13回環境生理学プレコンgres, 高松, 2018年3月27日
17. 飯村佳織, 遠田明子, 鈴木はる江, 堀田晴美. 麻酔下ラットにおける咽頭への触刺激は甲状腺からのサイロキシン (T4) およびカルシトニン分泌を促進する. 第13回環境生理学プレコンgres, 高松, 2018年3月27日
18. 伊藤芳恵, 鍵谷方子, 内田さえ. 大脳新皮質血流のニコチン性コリン作動性調節の解析. 第13回環境生理学プレコンgres, 高松, 2018年3月27日
19. 堀田晴美, 鈴木はる江, 飯村佳織, 渡辺信博. 皮膚刺激による膀胱の排尿収縮の抑制性調節の加齢変化. 第95回日本生理学会大会, 高松, 2018年3月28-30日
20. 内田さえ, 鍵谷方子. 嗅球と大脳皮質に投射する前脳基底部コリン作動性神経機能の解析. 第95回日本生理学会大会, 高松, 2018年3月28-30日
21. 谷口博志, 伊藤芳恵, 鍵谷方子, 内田さえ. 麻酔ラットにおいて、鍼様刺激による大脳皮質血流の分節性修飾. 第95回日本生理学会大会, 高松, 2018年3月28-30日

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Hotta H, Suzuki H, Imura K, Watanabe N. Age-Related Changes in Neuromodulatory Control of Bladder Micturition Contractions Originating in the Skin. *Front Neurosci* 12 : 117, 2018 (査読あり) (IF : 3.566, 2016)
2. Kamei J, Ito H, Aizawa N, Hotta H, Kojima T, Fujita Y, Ito M, Homma Y, Igawa Y. Age-related changes in function and gene expression of the male and female mouse bladder. *Sci Rep*. 8(1):2089, 2018 (査読あり) (IF : 4.259, 2016)
3. ★◎Hotta H, Onda A, Suzuki H, Milliken P, Sridhar A. Modulation of Calcitonin, Parathyroid Hormone, and Thyroid Hormone Secretion by Electrical Stimulation of Sympathetic and Parasympathetic Nerves in Anesthetized Rats. *Front Neurosci* 11: 375, 2017 (査読あり) (IF : 3.566, 2016)
4. Touj S, Houle S, Ramla D, Jeffrey-Gauthier R, Hotta H, Bronchti G, Martinoli MG, Piché M. Sympathetic regulation and anterior cingulate cortex volume are altered in a rat model of chronic back pain. *Neuroscience*. 352: 9-18, 2017 (査読あり) (IF : 3.277, 2016)
5. ★ ◎ Uchida S, Kagitani F. Mechanism of physical stress-induced inhibition of ovarian estradiol secretion in

anesthetized rats. *Auton Neurosci* 206: 63-66, 2017 (査読あり) (IF: 2.225, 2016)

6. ★ ◎ Uchida S, Kagitani F. Effect of basal forebrain stimulation on extracellular acetylcholine release and blood flow in the olfactory bulb. *J Physiol Sci* 68:415-423, 2018 (査読あり) (IF: 2.075, 2016)
7. ★ ◎ 内田さえ, 鍵谷方子, 堀田晴美, 渡辺さおり, 三澤日出巳. 麻酔下マウスの脳局所血流に及ぼす橈骨神経電気刺激の影響. *自律神経*, 54(1): 26-33, 2017 (査読あり)
8. ◎ Watanabe N, ★Hotta H. Heart Rate Changes in Response to Mechanical Pressure Stimulation of Skeletal Muscles are Mediated by Cardiac Sympathetic Nerve Activity. *Front Neurosci*, 10: 614, 2017 (査読あり) (IF: 3.566, 2016)
9. ◎ Uchida S, Bois S, Guillemot JP, Leblond H, Piché M. Systemic blood pressure alters cortical blood flow and neurovascular coupling during nociceptive processing in the primary somatosensory cortex of the rat. *Neuroscience*, 343: 250-259, 2017. (査読あり) (IF: 3.277, 2016)

(2) 総説

1. ★ ◎ 堀田晴美. 高齢者における疼痛コントロール: 感覚情報伝達調節と老化. *基礎老化研究*, 42(1): 37-41, 2018 (査読あり) (IF値なし)
2. ★ ◎ Uchida S, Kagitani F, Sato-Suzuki I. Somatoautonomic reflexes in acupuncture therapy: A review. *Auton Neurosci*, 203: 1-8, 2017 (査読あり) (IF: 2.225, 2016)
3. ★ ◎ 堀田晴美, 飯村佳織, 宮崎彰吾, 渡邊信博. 軽微な皮膚刺激が膀胱機能に与える影響に関する基礎および臨床研究. *自律神経*, 54(2): 124-129, 2017 (査読あり) (IF値なし)
4. ★ ◎ 堀田晴美, 渡辺信博, 飯村佳織, 遠田明子. 軽微な皮膚刺激による侵害性自律反応の抑制. *神経内科*, 87(1): 46-53, 2017 (査読なし) (IF値なし)
5. ★ ◎ 内田さえ. 自律神経による卵巣ホルモン分泌調節. *日本女性医学学会雑誌*, 24(2): 228-231, 2017 (査読なし) (IF値なし)
6. ★ ◎ 内田さえ. 痛みと自律神経—鍼灸治療効果に期待して—. *現代鍼灸学*, 17: 59-67, 2017 (査読なし) (IF値なし)
7. ★ ◎ 内田さえ. 体性刺激が消化器機能に及ぼす影響. *全日本鍼灸学会雑誌*, 67(2): 78-91, 2017 (査読なし)
8. ★ ◎ 内田さえ. 鍼灸刺激がラットの脳循環に及ぼす影響—基礎研究のup to date—. *自律神経*, 54(3): 185-189, 2017 (査読あり) (IF値なし)
9. ★ ◎ 堀田晴美. 物理刺激が女性の子宮・卵巣および中枢機能に及ぼす効果について. *現代鍼灸学*, 17: 115-119, 2017 (査読なし) (IF値なし)

3 著書等

1. ★◎堀田晴美. 鍼が循環系に与える影響. 『医師による東洋医学—西洋医学・東洋医学(漢方・鍼灸)併用へのアプローチ』p191-210, 予防医療臨床研究会, 2017. 8

記憶神経科学

1 学会発表

(1) 国内

1. 柳井修一, 新崎智子, 遠藤昌吾. シロスタゾール投与とマウスを用いたPRECISEによる行動解析. TOBIRA第6回

研究交流フォーラム, 東京, 2017.05.12.

2. 遠藤昌吾. cAMP系増強薬と記憶障害の治療—既存薬再開発の応用— (特別講演), OYC バイオシンポジウム「老化と加齢性疾患」, 東京, 2017.06.06.
3. F.Gomi, Y.Uchida, S.Endo. Is Cst-3 p3 peptide a candidate for a CSF biomarker of Alzheimer's disease? 第40回日本基礎老化学会大会, 名古屋, 2017.06.14-06.16
4. S.Yanai, T.Arasaki, S.Endo. Cilostazol administration ameliorates the impaired conditioned fear in senescence-accelerated mouse prone 8 (SAMP8). 第40回日本基礎老化学会大会, 名古屋, 2017.06.14-06.16.
5. S.Yanai, J.Toyohara, K.Ishiwata, T.Arasaki, S.Endo. Cilostazol, a phosphodiesterase 3 inhibitor, improves blood-brain barrier integrity and ameliorates memory decline in senescence-accelerated mouse prone 8 (SAMP8). 第40回日本神経科学大会, 千葉, 2017.07.20-07.23.
6. Y.Kishimoto, S.Yanai, S.Endo, T.Akaike, H.Ihara. The effect of 8-nitro-cGMP on SNARE complex assembly and memory. 第60回日本神経化学大会, 仙台, 2017.09.07-09.09.

2 誌上发表

(1) 原著

1. S.Yanai, J.Toyohara, K.Ishiwata, H.Ito, ★S.Endo. Long-term cilostazol administration ameliorates memory decline in senescence-accelerated mouse prone 8 (SAMP8) through a dual effect on cAMP and blood-brain barrier. *Neuropharmacology*, 116, 247-259, 2017. (査読あり) (IF 5.012, 2016)
2. ◎K.Takahashi, S.Yanai, K.Shimokado, ★A.Ishigami. Coffee consumption in aged mice increased energy production and decreased hepatic mTOR content. *Nutrition*, 38, 1-8, 2017. (査読あり) (IF 3.420, 2016)
3. ◎S.Yanai, H.Ito, ★S.Endo. Long-term cilostazol administration prevents age-related decline of hippocampus-dependent memory in mice. *Neuropharmacology*, 129, 57-68, 2017b. (査読あり), (IF 5.012, 2016)
4. S.Yamazaki, Y.Tanaka, H.Araki, A.Kohda, F.Sanematsu, T.Arasaki, X.Duan, F.Miura, T.Katagiri, R.Shindo, H.Nakano, T.Ito, Y.Fukui, S.Endo, and H.Sumimoto. The AP-1 transcription factor JunB is required for Th17 cell differentiation. *Sci Rep*, 7, 17402, 2017. (査読あり), (IF 4.259, 2016)

(2) 総説

1. ◎柳井修一, ★遠藤昌吾. cAMP系増強薬と認知症の治療—既存薬再開発の応用—. *Geriatric Medicine*, 55, 23-26, 2017. (査読あり) (IFなし)

3 著書等

1. S.Yanai, S.Endo. "Old drugs learn new tricks.". *Atlas of Science*, October 11, 2017.

神経生理

1 学会発表

(1) 国内

1. 井上律子, 中内さくら, 三浦正巳. 老化マウス運動野の

fEPSPsにコエンザイムQ投与が及ぼす影響 Effect of exogenous coenzyme Q treatment on fEPSPs of the motor cortex of aged mice、第95回日本生理学会大会 香川県高松市・サンポートホール高松、高松シンボルタワー、2018.3.28-30.

2. 三浦正巳、線条体におけるオピオイドの作用と局所神経回路、第11回パーキンソン病：運動障害疾患コンgres、品川プリンスホテル、2017.10.26-28.
3. 福田征孝、安藤望、菅澤祐介、低酸素環境下での幼若脳線条体における吸入麻酔薬セボフルランの影響、日本小児麻酔学会第23回大会、九州大学医学部、2017.10.7-8.
4. 福田征孝、安藤望、井上律子、中内さくら、三浦正巳、西村欣也、Volatile anesthetic pretreatment alleviates the hypoxia-induced depolarization through ATP-sensitive potassium channels in the striatal medium spiny neurons of mice、第40回日本神経科学大会、幕張メッセ、2017.7.20-23.
5. 三浦正巳、福田征孝、安藤望、井上律子、中内さくら、西村欣也、Protective effects of volatile anesthetic on depolarization by ischemia in the striatal neurons、第40回日本基礎老化学会大会、名古屋国際会議場、2017.6.14-16.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ©Sugasawa Y、Fukuda M、Ando N、Inoue R、Nakauchi S、Miura M、Nishimura K. Modulation of hyperpolarization-activated cation current I_h by volatile anesthetic sevoflurane in the mouse striatum during postnatal development. *Neurosci Res.* S0168-0102(17): 30402-9. 2017、(査読あり)、(IF 2.060: 2016-17)
2. ©Akiba C、Nakajima M、Miyajima M、Ogino I、Miura M、Inoue R、Nakamura E、Kanai F、Tada N、Kunichika M、Yoshida M、Nishimura K、Kondo A、Sugano H、Arai H. Leucine-rich $\alpha 2$ -glycoprotein overexpression in the brain contributes to memory impairment. *Neurobiol Aging.* 60:11-19. 2017、(査読あり)、(IF 5.117: 2016-17)

受賞

自律神経機能

1. 飯村佳織、非常勤研究員、代田賞「Effects of a Gentle, Self-Administered Stimulation of Perineal Skin for Nocturia in Elderly Women: A Randomized, Placebo-Controlled, Double-Blind Crossover Trial. (PLoS One, 11(3): e0151726, 2016)」、本賞は過去40年間の歴史上8件しか受賞論文がなく、鍼灸関連分野における最高の賞とされる。患者自身で行う物理的刺激が、過活動膀胱による夜間頻尿に対し一定の臨床効果をもたらすことを、厳密な臨床試験で明らかにした。物理療法の効果を証明する手本となる優れた臨床研究として高く評価された。平成29年9月25日
2. 堀田晴美、研究部長、日本自律神経学会賞（基礎系）「Gentle mechanical skin stimulation inhibits micturition contractions via the spinal opioidergic system and by decreasing both ascending and descending transmissions of the micturition reflex in the spinal cord. (PLoS One, 10: e0135185, 2015)」、ローラー（ソマプレーン）を用いた軽微な皮膚刺激が排尿反射を抑制する中枢機序を麻酔動物で調べた。会陰部ローリング刺激が、脊

髄オピオイド系を活性化し脊髄における排尿反射の上行性および下行性伝達の両方を抑制して、膀胱と脳幹の排尿中枢との間の正のfeedbackを遮断することで排尿反射を抑制することを示した。この中枢機序は、軽微な皮膚刺激が、過活動膀胱に適用しうる科学的基盤を示す。平成29年8月31日

老年病態研究チーム

チームリーダー：重本 和宏

1 研究チームの概要・目的

東京都においては、全国平均を上回る人口高齢化（2005-25年：38%増、85万人増）が進行している。さらに、平成27年度厚労省資料によると、東京都は都道府県別健康寿命で男性が37位で女性が42位と下位に留まっている。高齢者疾患および介護の原因となるサルコペニア・フレイルの発症機構を解明して、その学術的な成果を科学的根拠に基づく予防・治療法の開発へ発展させて、高齢者の健康増進および健康長寿の推進を目標とする。

2 今後の展望

老年病態研究チームは第3期中期計画に中核的な研究課題として掲げられているサルコペニア・フレイルの研究に注力する。元々、身体的フレイルはサルコペニアと強い因果関係がある。加えて、

心血管の老化はサルコペニアと身体的フレイルの両方のメカニズムを統合的に理解する上で必須の領域である。以上のことから、老年病態研究チームは第3期中期計画の中核的な研究分野として骨格筋・心血管の老化に焦点を定める。

第2期中期計画から第3期に移行するに当たりチーム編成が大きく変わる。まず、生活習慣病（森聖二郎研究部長）がテーマからはずれ、筋老化再生医学研究が新テーマとして創設される。2017年1月から運動器医学に加わった上住聡専門副部長と上住円研究員の二人が、新テーマに所属する。また、血管医学は研究員の構成は変わらないが、心血管老化再生医学研究へと改名する。筋老化再生医学研究は参加する以前から進めていた研究をさらに発展させる。運動器医学のテーマ編成に大きな変化はないが、第2期の研究成果を新たな段階へ飛躍させることを目標とする。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

血管医学

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
血管病の病因・病態・治療・予防の研究	超高齢社会において増えてくる心血管病に対する新たな治療法として再生医療を行うことを目指し、基礎・臨床両面から克服すべき課題に取り組む。	・心血管疾患に対する幹細胞移植医療実現化に向けた基盤研究を行う。 ・心血管病の病態解明、治療法開発のための研究を行う。	・幹細胞の品質評価に関する基盤研究を行う。 ・高齢者心血管病の疾患モデル構築にむけた研究を行う。	・幹細胞移植医療における安全性評価に関する基盤研究を行う。 ・疾患モデルによる心血管病の病態機能解析研究を行う。	・幹細胞移植医療における有効性評価を臨床部門と連携して行う。 ・疾患モデルによる心血管病の病態機能解析研究を行う。	・幹細胞移植の臨床研究に向けたプロトコルを臨床部門と連携して進める。 ・疾患モデルによる心血管病の治療・予防法の開発研究を行う。

生活習慣病

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
疾患関連遺伝子研究1	バイオバンク・ジャパン構築	DNA・臨床情報登録	DNA・臨床情報登録	DNA・臨床情報登録	DNA・臨床情報登録	DNA・臨床情報登録
疾患関連遺伝子研究2	骨折リスク予測システム開発	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	成果公表、先進医療申請
疾患関連遺伝子研究3	ワーファリン維持量決定システム開発	症例登録・追跡	症例登録・追跡	成果公表、先進医療申請	成果公表、先進医療申請	成果公表、先進医療申請
疾患関連遺伝子研究4	Geriatric E-WAS	遺伝子多型探索、バリデーション、論文発表	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	成果公表、先進医療申請
血清バイオマーカー研究	血清マイオカイン測定の臨床的有用性の確立	MuSK測定系樹立、症例横断解析開始	各種マイオカイン測定系樹立(irisin、IGF-1、IL-6、IL-15)、コホート横断解析開始	コホート縦断解析開始、マイオカイン測定系臨床導入	臨床研究開始、MuSK機能解析開始	臨床研究継続、MuSK機能解析継続

運動器医学

テーマ	研究目標・目的	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
サルコペニア・筋萎縮の分子機構解明	高齢者の運動器疾患のメカニズムの解明と、科学的根拠に基づいた予防・診断・治療法を開発して成果を社会へ還元することを目的としている。後期高齢者で要介護認定者が激増し原因は衰弱、転倒・骨折、認知症が占める。高齢者の運動器疾患は認知症とも密接な因果関係があるにも関わらず、定義と診断法の科学的根拠は乏しく、発症メカニズムも未解明であることから中期計画の主要な課題の一つとして取り組む。	老化・疾患モデルマウスを使い、分子機構に関する基盤研究を行い、高齢者の健康長寿や老年病の予防法・診断法の研究を行う。	老化・疾患モデルマウスを使い、分子機構に関する基盤研究と診断・予防・治療法の研究を行う。臨床部門と連携して診断・予防・治療法の研究を行う。	老化・疾患モデルマウスを使い、分子機構に関する基盤研究と診断・予防・治療法の研究を行う。臨床部門と連携して診断・予防・治療法の研究を行う。	老化・疾患モデルマウスを使い、分子機構に関する基盤研究と診断・予防・治療法の研究を行う。臨床部門と連携して診断・予防・治療法の研究を行う。	老化・疾患モデルマウスを使い、分子機構に関する基盤研究と診断・予防・治療法の研究を行う。臨床部門と連携して診断・予防・治療法の研究を行う。

血管医学

構成メンバー

テーマリーダー：豊田雅士

研究員：佐々木紀彦、板倉陽子

1 第二期中期計画の研究成果

血管医学研究テーマでは、血管病に対する病因・病態における基礎研究ならびに再生医療の実施に向けた基盤研究を行った。

血管病に対する病因・病態における基礎研究では、心疾患発症とその重症化の根源に、血管が持つ多様な機能の役割とその変化・破綻があると考え、血管内膜層を覆う血管内皮細胞機能に焦点をあて研究を進めた。大動脈血管内皮細胞を用い、主に細胞表面に発現しており、多彩な機能を担っている「糖鎖」に着目した解析を進めた。その結果、細胞老化に伴い膜上の機能領域であるラフトに存在する糖脂質ガングリオシドGM1の発現が増大していることを見出し、それがインスリン抵抗性を誘導していることを明らかにした。さらに、個体老化における種々の疾患の要因となっている炎症作用の影響について検討し、実験系として炎症性サイトカインTNF α 刺激による急性および慢性炎症の*in vitro*モデルを構築し、GM1が制御するインスリン抵抗性の分子機構として新たな知見を得た。また組織再生における幹細胞ならびに幹細胞の機能を支える線維芽細胞での老化過程で起こる細胞生物学的研究では、線維芽細胞が老化に伴って細胞表層に存在するタンパク質上の糖鎖修飾であるシアル酸が全体として減少していることを明らかにした。そしてこの糖鎖構造の変化が、線維芽細胞の活性化に関与していることを見出し、組織の線維化に関与していることを示唆する新たな知見を得た。さらに老化に伴う細胞内代謝の変化を捉えるため、細胞内外の糖鎖分布が老化に伴い変化することを明らかにした。

再生医療に関する基盤研究では、実用化に必要な課題に取り組んだ。当テーマでは、今後の再生医療を見込んで、安全性を担保する幹細胞の品質評価手法の開発を行うとともに、再生医療等製品の製造工程における簡易型細胞培養加工施設(CPF: Cell Processing Facility)のあり方として、ランニングコストを抑制しつつ設置評価基準を満たすための施設について、関連学会、企業、センターなどと協議を重ね、一定の方向性を打ち出した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<血管機能の解析>

東北大学

<心臓組織再生に関する研究>

(病院部門) 外科、血管外科、心臓外科、病理診断科

国立成育医療研究センター、京都府立医科大、横浜市立大学医学部、防衛医大、早稲田大学、慶應義塾大学医学部、宮崎大学農学部

<糖鎖解析技術を用いた基盤研究>

産業技術総合研究所、上海交通大学

<超高齢者血清バイオマーカーの探索>

老化機構研究チーム (プロテオーム)

<高齢者がんに関する研究>

老年病理学研究チーム (高齢者がん)

3 今後の展望

研究課題 (研究項目): (1) 心血管病の病因・病態の解明に向けた基礎研究および (2) 再生医療実用化に向けた基盤研究の推進。

(1) 心血管病の病因・病態の解明に向けた基礎研究

疾患研究では、細胞及び疾患モデル動物による研究が行われているが、複雑な発症機構の解明に

至るには一筋縄ではいかず、細胞と個体レベルの実験をどう結び付けていくかが鍵となるが、それを解く鍵は未だ明らかでない。

第三期中期計画では、これまで中心として進めてきた細胞レベルでの実験から得られた知見を生体内の微小空間で起こる細胞機能変化と捉え、それが最終的に（個体）疾患として現れるまでの分子機序解明を目指した新たな段階となる研究を展開していく。

心血管病の病因・病態の解明に向けた血管機能に関する研究では、細胞間相互作用、組織間ネットワークなど時空間制御の分子機序を明らかにしていく。そのためのin vitro疾患モデルをより発展させた実験系の開発を進める。また動物モデルによる個体レベルでの実験を有機的にリンクさせた検討を行う。

心臓再生研究においては、心臓組織の加齢変化で得られたデータを基盤として、変化領域の部位と疾患発症との関連性を詳細に検討していく。その上で組織機能の維持・修復、さらにその低下に伴う疾患発症までのプロセスの分子メカニズムの解明を目指す。また組織内に存在する幹細胞の機能を維持・活性化させる、再生医療の新たな治療につながる研究へとつなげていく。

細胞から組織の複雑系ネットワークを理解することによって、複雑な要因からなる心血管病の病因・病態の解明につなげ、さらには治療・診断、また予防法の開発の足がかりを構築する。

(2) 再生医療実用化に向けた基盤的研究

再生医療などの先端医療は、治療効果、安全性を担保するだけでなく、実用性、持続性、そして採算性が伴って初めて都民、国民にとって還元されることになる。

再生医療の動向は、急激に変化してきている。国内ではアカデミア中心で行われているが、海外では製造コスト、採算性を見込んだベンチャー企業が積極的に治験を進めている。また対象疾患も難治性疾患以外にも広がりつつある。さらに実用化にむけた指針の見直しも行われている。こうした国内外の動向を見極めつつ、再生医療が都民（国民）に恩恵が及ぶ本当に役立つ医療となるよう、臨床部門や関連学会・企業などと協議を重ねた。

生活習慣病

構成メンバー

テーマリーダー：森聖二郎
非常勤研究員：周赫英

1 第二期中期計画の研究成果

生活習慣病グループは「第二期中期計画期間における年度別研究計画」に示すとおり、大きく二つの研究テーマを設定して研究を実施した。一つは疾患関連遺伝子研究であり、もう一つは血清バイオマーカー研究である。疾患関連遺伝子研究は4つのサブテーマ、すなわちバイオバンク・ジャパン構築、骨折リスク予測システム開発、ワーファリン維持量決定システム開発、Geriatric E-WASからなる。

バイオバンク・ジャパン構築については、平成15年度から29年度にかけて「オーダーメイド医療の実現プログラム」の協力医療機関として「バイオバンクの構築と臨床情報データベース化-DNAサンプルおよび臨床情報の収集-」を実施した（中核機関：東京大学医科学研究所）。本プログラムで当センターは「骨粗鬆症」を疾患テーマとして担当し、バイオバンク・ジャパンに登録された閉経後骨粗鬆症患者を対象に、脊椎骨折と有意に関連する4 SNPsを選定し、遺伝子多型リスクスコア（genetic risk score; GRS）を開発した。本研究は論文化され（Bone Rep 5: 168-172, 2016）、第6回アジア太平洋骨粗鬆症会議においてThe Best Oral Communication Awardを受賞した。

骨折リスク予測システム開発は、中期計画第一期（平成21～24年度）から第二期（平成25～29年度）にかけて取り組んできた主要プロジェクトである。第一期では骨粗鬆症関連遺伝子の探索が主要テーマであり、候補遺伝子アプローチによって7種類の遺伝子（*THSD4*, *THSD7A*, *CA8*, *CA10*, *PBX1*, *TGFBI*, *ER2*）上に存在する遺伝子多型と骨粗鬆症との関連を明らかにした。並行して我が国では初となるGWASを、バイオバンク・ジャパン試料を用いて実施し、骨粗鬆症新規遺伝子として*FONG*のクローニングに成功した。第二期では骨粗鬆症関連遺伝子の臨床応用を主要テーマに設定した。当センター連続剖検例DNAサンプルならびにバイオバンク・ジャパン試料を用いて、現在までに報告されている70種類以上の骨粗鬆症関連遺伝子上に存在する約1,000種類の非同義置換SNPの中から、脊椎骨折ならびに大腿骨骨折に強く関連するSNPを4種類ずつ選定し、それらのSNPを用いたGRSを開発した（J Bone Miner Metab 34: 685-691, 2016）。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<疾患関連遺伝子研究-1: バイオバンク・ジャパン構築>
理化学研究所、東京大学

<疾患関連遺伝子研究-2: 骨折リスク予測システム開発>

要介護化の要因解明グループ、整形外科、糖尿病・代謝・内分泌内科、理化学研究所、東邦大学
<疾患関連遺伝子研究-3: ワーファリン維持量決定システム開発>

循環器内科、理化学研究所
<疾患関連遺伝子研究-4: Geriatric E-WAS>
病理診断科、臨床検査科、三重大学、慶応大学、東京医科歯科大学、自治医科大学、国立健康・栄養研究所

<血清バイオマーカー研究: 血清マイオカイン測定の有効性の確立>

運動器医学グループ、筋骨格系の老化予防の促進グループ、老化・虚弱の一次予防グループ、糖尿病・代謝・内分泌内科、国立健康・栄養研究所、順天堂大学

3 今後の展望

生活習慣病グループのテマリーダーである森聖二郎は、平成30年3月一杯で当センターの常勤職をリタイアするため、第三期中期計画には参画できない。従い、本項目への記載事項はない。

運動器医学

構成メンバー

テマリーダー: 重本和宏
専門副部長: 上住聡芳
研究員: 森秀一、本橋紀夫、上住円
非常勤研究員: 高嶋留美、水之江雄平

1 第二期中期計画の研究成果

本テーマは、「サルコペニア」の臨床的定義が曖昧な第一期中期計画当初から「サルコペニアのメカニズム解明、早期診断・治療法の開発」というチャレンジングな目標を掲げ少人数編成でスタートして第二期に入った。

① 神経筋シナプスの維持に必須の細胞外蛋白が、プロテアーゼで筋から切断され血中に遊離することを質量分析装置で同定。筋萎縮より早期にシナプスの形態変化が起きる疾患モデルマウス(老化、ALS(筋萎縮側索硬化症)、坐骨(運動)神経線維挫滅、廃用性筋萎縮、MuSK抗体重症筋無力症)を使いバイオマーカーとして利用できることを発見した。

さらに、ヒト血中の上記バイオマーカーを高感度測定できる第2世代の測定系の開発に成功した。生活習慣病、社会科学系と国立栄養研の異なる三種類のコホートのサンプルを使い臨床

的有用性を検討したところ、血清バイオマーカー値が骨格筋機能を反映する指標となる可能性が示された。加えて、重症筋無力症の自己抗原としてヒト血中で検出された。

② 超解像度顕微鏡を使い、神経筋シナプスのプレシナプス(神経終末)に存在するアクティブゾーン(神経伝達分子の放出部位)に集積する分子構造を解明、サルコペニアに伴う分子構造の変化を発見して論文発表、認知症とサルコペニアの因果関係の可能性を示した。

③ 米国NIHから招待され重症筋無力症のpreclinical studyのプロトコルの標準化・出版に参加した。抗LRP4抗体で発症する重症筋無力症マウスの作成に成功し論文発表した。

④ サルコペニア・フレイルの本質的な分子機構として、骨格筋自体と脳を含む他臓器との代謝連関及びその可塑性低下にあるとの概念を明確し公表した(J Phys Fitness Sports Med.2015)。第一期で作成した4種類の骨格筋線維が異なる蛍光蛋白で光るマウス(MusColour™マウス)から得た幹細胞株を使い、代謝リプログラミング(代謝変換)を誘導する多数の生体内因子を同定した。特に血中蛋白Xは加齢と共に血管内皮細胞から遊離してマウス血中で顕著に増加、投与実験により筋力低下と萎縮と遅筋線維を誘導、筋代謝能の低下を誘導することを発見した。Xは肥満研究でも注目されており、受容体Yを介した新シグナル経路を見出した。

平成28年度1月より、筋幹細胞と間葉型前駆細胞の専門家2名が加わり研究テーマの重層化・深化が進んだ。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<サルコペニア・筋萎縮症の分子機構解明>

横浜理研免疫研、大阪大学、長崎大学、国立精神・神経センター、Kansas大学(USA)

<科学的根拠に基づく介護予防及びサルコペニアの診断、予防・治療法の研究>

生活習慣病(老年病態研究チーム)、社会参加と地域保健研究チーム、自立促進と介護予防研究チーム、東京都健康長寿医療センター(神経内科、リハビリテーション科)、東京都医学総合研究所、首都大学東京、千葉大学神経内科、国立健康・栄養研究所

<神経筋難病による筋萎縮の発症機構、診断・予防・治療法の研究>

老化機構研究チーム(プロテオーム)、京都がくさい病院、国立病院機構宇多野病院、千葉大学神経内科、東京都健康長寿医療センター(神経内科)、

東邦大学医療センター佐倉病院, 慶応大学医学部 (神経内科)、神経内科千葉病院、帝京大学医学部 (神経内科)

3 今後の展望

(1) サルコペニア・筋萎縮のバイオマーカーの研究

- ① 第二期で、高齢者と非高齢者においては血中のバイオマーカーとしての変動の意義が異なることがわかった。臨床導入を目指して次期中期計画においても臨床研究と基礎研究の両輪で研究を継続する。さらに、MusColor技術™で同定した生体内因子Xなど複数のヒト血中の測定値をAI(機械学習)でサルコペニア・フレイルを解析(診断)する新技術の開発を検討する。
- ② 第二期で抗MuSK抗体重症筋無力症患者の血中のMuSK蛋白の定量測定の解析結果を得た。今年度末に導入される新型質量分析装置を使い血中蛋白を同定し、論文発表を行う。患者病態の新しい診断技術として実装化を企業と連携して行う。
- ③ 各種疾患モデルマウスを使った血中のバイオマーカー解析目標は、既に第二期で目標を殆ど達成しており、第三期に論文発表を順次達成する。また、血中バイオマーカーに着目した創薬研究を継続して行う。
- ④ STED超解像度顕微鏡を使った神経筋シナプスの分子解析を発展・継続して行う。

(2) 骨格筋代謝の可塑性に基づくサルコペニア・フレイルの解明

- ① 第二期で、MusColour™技術によるスクリーニングで発見した筋の代謝変換誘導因子(X)の第一報の論文発表を目標に研究を継続する。続けて、バイオマーカーとしての可能性、Xの受容体Yの活性化を抑制する物質を見出しており、その他の候補分子と一緒にサルコペニアの予防・治療効果を検討する。またサルコペニア肥満との関連性についても検討する。
- ② 驚くことに、X以外にも多数の筋の代謝変換誘導する生体内因子を同定している。MusColour™技術は、筋線維変化を指標にした代謝変換誘導能の発見を可能にした。生体内因子はパラクライン、オートクライン、ホルモンとして筋代謝(機能)を制御していると予想され、その意義についてマンパワーが許す限り研究を発展させたい。
- ③ 萌芽段階だが、生体内の代謝産物が筋線維の代謝変換誘導を誘導することをMusColour™技術で発見している。糖、アミノ酸や脂肪酸などの中間代謝産物がシグナルとして代謝変換制御

に関わる可能性を考えている。入手できる分子をかき集めMusColour™技術でマンパワーが許す限り探索する。

(3) 筋幹細胞と間葉系前駆細胞を標的としたサルコペニアの発症機序の解明

サルコペニアのメカニズム研究を目標と掲げた第一期中期計画から、骨格筋の筋幹細胞とそのニッチに関する研究との連携の重要性を認識していた。平成28年度1月からこの領域の専門家2名(上住ら)が運動器Gに加わり、サルコペニアの発症メカニズムを統合的に進める体制が整った。上住は骨格筋内の間葉系前駆細胞を世界で最初に同定しており(Nat Cell Biol, 2010)、筋幹細胞と筋管細胞(成熟した筋線維)の維持に重要な役割を果たすことを見出した。間葉系前駆細胞を欠失したマウスはサルコペニア筋と類似した表現系を示し、原因の候補遺伝子を既に絞り込んでおり次期中期計画で研究を発展させる。

論文・学会発表

血管医学

1 学会発表

(1) 海外

1. Sasaki N, Itakura Y, Toyoda M. Ganglioside contributes to regulation of insulin resistance in human aortic endothelial cells after TNF α stimulation. The 12th International Congress on Innovations in Coronary Artery Disease, Venice, 2017.10.14-17.
2. Nagai-Okatani C, Kakuda S, Zou X, Yoshida M, Sato T, Matsuda A, Hagiwara K, Kiyohara K, Itakura Y, Noro E, Toyoda M, Tao SC, Zhang Y, Narimatsu H, Kuno A. A comprehensive analysis of glycome profiles on formalin-fixed paraffin-embedded mouse tissue sections. 16th Human Proteome Organization World Congress (HUPO2017), Dublin, 2017-9.17-21.
3. Itakura Y, Sasaki N, Toyoda M. Comparison of membrane with cytoplasmic glycan profile changing with cellular senescence and human aging. 24th International Symposium on Glycoconjugates, Jeju, Korea, 2017.8.27-9.1.
4. Itakura Y, Nakamura-Tsuruta S, Kominami J, Tateno H, Hirabayashi J. Novel features of sugar-binding properties of hevein family chitin-binding proteins. 24th International Symposium on Glycoconjugates, Jeju, Korea, 2017.8.27-9.1.
5. Itakura Y, Sasaki N, Toyoda M. The cell surface and intracellular glycan profiling with the cellular senescence and the human aging. Keystone Symposia Aging and Mechanisms of Aging-Related Disease, Yokohama, 2017.5.15-19.
6. Sasaki N, Itakura Y, Toyoda M. Sialic acids play functionally important roles in human skin fibroblasts. Keystone Symposia Aging and Mechanisms of Aging-Related Disease, Yokohama, 2017.5.15-19.

(2) 国内

1. 佐々木紀彦, 板倉陽子, 豊田雅士. ガングリオシドGM1はTNF \cdot による血管のインスリン抵抗性に関与する. 第25回日本血管生物医学会学術集会, 大阪, 2017.12.8-10.
2. Takasawa K, Arai Y, Yamazaki-Inoue M, Toyoda M, Akutsu H, Umezawa A, Nishino K. DNA methylation induced human telomerase reverse transcriptase gene expression via lamin B1. 第72回藤原セミナー 国際シンポジウム, 苫小牧, 2017.9.13-15.
3. Nagai-Okatani C, Kakuda S, Zou X, Yoshida M, Sato T, Matsuda A, Hagiwara K, Kiyohara K, Itakura Y, Noro E, Toyoda M, Zhang Y, Narimatsu H, Kuno A. Mouse tissue glycome mapping by laser microdissection and lectin microarray. 日本プロテオーム学会2017年大会 (JHUP0第15回大会), 大阪, 2017.7.26-29.
4. 石川直, 豊田雅士, 石渡俊行. Telomere dynamics during "lifelong" culture of human diploid cell strains at chromosome level: Lesson from iPS cells. 第40回日本基礎老化学会大会, 名古屋, 2017.6.14-16.
5. 板倉陽子, 中村・鶴田祥子, 小南淳子, 舘野浩章, 平林淳. キチン系レクチンの網羅的特異性解析で分かったこと. 2017年度比較グライコム研究会, 福岡, 2017.6.10.
6. 板倉陽子, 佐々木紀彦, 吉川友理香, 豊田雅士. 組織糖鎖の解析から老化に関わる新たな疾患解明の可能性を探る. 第6回TOBIRA研究交流フォーラム, 東京, 2017.5.12.
7. 豊田雅士. 老化と疾患の研究: 心血管病の発症を理解するために. 科学技術週間参加行事, 東京, 2017.4.19.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ©Sasaki N, Ishiwata T, Hasegawa F, Michishita M, Kawai H, Matsuda Y, Arai T, Ishikawa N, Aida J, Takubo K, ★Toyoda M. Stemness and anti-cancer drug resistance in ABCG2 highly expressed pancreatic cancer is induced on 3D-culture condition. *Cancer Sci.*, 109(4):1135-1146, 2018. (査読あり) [IF:3.974, 2016]
2. Yoshimura H, Matsuda Y, Yamamoto M, Michishita M, Takahashi K, Sasaki N, Ishikawa N, Aida J, Takubo K, Arai M, Ishiwata T. Reduced expression of the H19 long non-coding RNA inhibits pancreatic cancer metastasis. *Lab Invest.*, in press. (査読あり) [IF:4.857, 2016]
3. ©Sasaki N, Itakura Y, ★Toyoda M. Ganglioside GM1 contributes to extracellular/intracellular regulation of insulin resistance in human aortic endothelial cells after short- or long-term exposure to TNF α . *Oncotarget*, 9(5):5562-5577, 2018. (査読あり) [IF:5.168, 2016]
4. Takasawa K, Arai Y, Yamazaki-Inoue M, Toyoda M, Akutsu H, Umezawa A, Nishino K. DNA hypermethylation enhanced telomerase reverse transcriptase expression in human induced stem cells. *Human Cell*, 31(1):78-86, 2018. (査読あり) [IF: 1.93, 2016]
5. Ishiwata T, Hasegawa F, Michishita M, Sasaki N, Ishikawa N, Takubo K, Matsuda Y, Arai T, Aida J. Electron microscopic analysis of different cell types in human pancreatic cancer spheres. *Oncology Letters*, 15(2):2485-2490, 2018. (査読あり) [IF 1.39, 2016]
6. Ando Y, Saito M, Machida M, Yoshida-Noro C, Akutsu H, Takahashi M, Toyoda M, Umezawa A. Can human embryonic stem cell-derived stromal cells serve a

starting material for myoblasts? *Stem Cells Int.*, 2017:7541734, 2017. (査読あり) [IF:3.540, 2016]

7. Ikemoto Y, Takayama Y, Fujii K, Masuda M, Kato C, Hatsuse H, Fujitani K, Nagao K, Kameyama K, Ikehara H, Toyoda M, Umezawa A, Miyashita T. Somatic mosaicism containing double mutations in PTCH1 revealed by generation of induced pluripotent stem cells from nevoid basal cell carcinoma syndrome. *J. Med. Genet.*, 54(8):579-584, 2017. (査読あり) [IF:5.451, 2016]
8. Zou X, Yoshida M, Nagai-Okatani C, Iwaki J, Matsuda A, Tan B, Hagiwara K, Sato T, Itakura Y, Noro E, Kaji H, Toyoda M, Zhang Y, Narimatsu H, Kuno A. A standardized method for lectin microarray-based tissue glycome mapping. *Sci. Rep.*, 7:43560, 2017. (査読あり) [IF: 4.259, 2016]
9. ©Itakura Y, Nakamura-Tsuruta S, Kominami J, Tateno H, Hirabayashi J. Sugar-binding profiles of chitin-binding lectins from the hevein family: a comprehensive study. *Int. J. Mol. Sci.*, 18(6):1160, 2017. (査読あり) [IF:3.226, 2016]
10. ©Sasaki N, Itakura Y, ★Toyoda M. Sialylation regulates myofibroblast differentiation of human skin fibroblasts. *Stem Cell Res. Ther.*, 8(1):81, 2017. (査読あり) [IF:4.211, 2016]

(2) 総説

1. ★豊田雅士, 幹細胞の種類と特徴、看護技術、63(8):54-56, 2017. (査読なし)

生活習慣病

1 学会発表

(1) 国内

1. 周赫英, 森聖二郎, 山賀政弥, 竹本稔, 小寺玲美, 田村嘉章, 千葉優子, 荒木厚, 井藤英喜, 横手幸太郎: ウェルナー症候群に合併する骨粗鬆症の臨床的特徴に関する研究, 第59回日本老年医学会学術集会・総会, 名古屋, 2017.6.16

2 誌上発表

(1) 原著

1. ©Mori S, Zhou H, Yamaga M, Takemoto M, Yokote K. Femoral osteoporosis is more common than lumbar osteoporosis in patients with Werner syndrome. *Geriatr. Gerontol. Int.*, 17: 854-856, 2017 (査読有り) [IF: 2.351, 2016]
2. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of five genetic variants as novel determinants of type 2 diabetes mellitus in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget*, 8: 80492-80505, 2017 (査読有り) [IF: 5.168, 2016]
3. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of TNFSF13, SPATC1L, SLC22A25, and SALL4 as novel susceptibility loci for atrial fibrillation by an exome-wide association study. *Mol. Med. Rep.*, 16: 5823-5832, 2017 (査読あり) [IF: 1.692, 2016]

4. Tamura, Y., Kimbara, Y., Yamaoka, T., Sato, K., Tsuboi, Y., Kodera, R., Chiba, Y., Mori, S., Fujiwara, Y., Tokumaru, A. M., Ito, H., Sakurai, T., Araki, A.: White matter hyperintensity in elderly patients with diabetes mellitus is associated with cognitive impairment, functional disability, and a high glycoalbumin/glycohemoglobin ratio. *Front Aging Neurosci.*, 9: 220, 2017 (査読あり) [IF: 4.504, 2016]
5. Nishi, K., Luo, H., Nakabayashi, K., Doi, K., Ishikura, S., Iwahara, Y., Yoshida, Y., Tanisawa, K., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Muramatsu, M., Tanaka, M., Sakata, T., Shirasawa, S., Tsunoda, T.: An alpha-kinase 2 gene variant disrupts F-actin localisation in the surface of colorectal cancer spheroids. *Anticancer Res.*, 37: 3855–3862, 2017 (査読あり) [IF: 1.937, 2016]
6. Zaw, K.T.T., Sato, N., Ikeda, S., Thu, K.S., Mieno, M.N., Arai, T., Mori, S., Furukawa, T., Sasano, T., Sawabe, M., Tanaka, M., Muramatsu, M.: Association of ZFH3 gene variation with atrial fibrillation, cerebral infarction, and lung thromboembolism: an autopsy study. *J. Cardiol.*, 70: 180–184, 2017 (査読あり) [IF: 2.732, 2016]
7. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of C21orf59 and ATG2A as novel determinants of renal function-related traits in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Oncotarget*, 8: 45259–45273, 2017 (査読有り) [IF: 5.168, 2016]
8. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of 12q24.1, ACAD10, and BRAP as novel genetic determinants of blood pressure in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Oncotarget*, 8: 43068–43079, 2017 (査読有り) [IF: 5.168, 2016]
9. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of eight genetic variants as novel determinants of dyslipidemia in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget*, 8: 38950–38961, 2017 (査読あり) [IF: 5.168, 2016]
10. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of rs7350481 at chromosome 11q23.3 as a novel susceptibility locus for metabolic syndrome in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget*, 8: 39296–39308, 2017 (査読有り) [IF: 5.168, 2016]
11. Dechamethakun, S., Sato, N., Ikeda, S., Sawabe, M., Mori, S., Yamada, Y., Tanaka, M., Muramatsu, M., Arai, T.: Association of macrophage capping protein (CAPG) Arg335His polymorphism and cancer susceptibility in the elderly Japanese. *J. Gerontol. Geriatr. Res.*, 6(2): 417, 2017 (査読有り) [IF: 2.086, 2016]
12. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of six polymorphisms as novel susceptibility loci for ischemic or hemorrhagic stroke by exome-wide association studies. *Int. J. Mol. Med.*, 39: 1477–1491, 2017 (査読有り) [IF: 2.341, 2016]
13. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Yoshida, H., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of EGFLAM, SPATC1L, and RNASE13 as novel susceptibility loci for aortic aneurysm in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Int. J. Mol. Med.*, 39: 1091–1100, 2017 (査読有り) [IF: 2.341, 2016]
14. Honma, N., Saji, S., Mikami, T., Yoshimura, N., Mori, S., Saito, Y., Murayama, S., Harada, N.: Estrogen-related factors in the frontal lobe of Alzheimer's disease patients and importance of body mass index. *Sci. Rep.*, 7(1): 726, 2017 (査読有り) [IF: 4.259, 2016]
15. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of STXBP2 as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget*, 8: 33527–33535, 2017 (査読有り) [IF: 5.168, 2016]
16. Tanisawa, K., Arai, Y., Hirose, N., Shimokata, H., Yamada, Y., Kawai, H., Kojima, M., Obuchi, S., Hirano, H., Yoshida, H., Suzuki, H., Fujiwara, Y., Ihara, K., Sugaya, M., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Sato, N., Muramatsu, M., Higuchi, M., Liu, Y.W., Kong, Q.P., Tanaka, M.: Exome-wide association study identifies CLEC3B missense variant p.S106G as being associated with extreme longevity in east Asian populations. *J. Gerontol. A. Biol. Sci. Med. Sci.*, 72: 309–318, 2017 (査読有り) [IF: 5.957, 2016]
17. Nagai, A., Hirata, M., Kamatani, Y., Muto, K., Matsuda, K., Kiyohara, Y., Ninomiya, T., Tamakoshi, A., Yamagata, Z., Mushiroda, T., Murakami, Y., Yuji, K., Furukawa, Y., Zembutsu, H., Tanaka, T., Ohnishi, Y., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group*, Kubo, M., *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Overview of the BioBank Japan Project: Study design and profile. *J. Epidemiol.*, 27: S2–S8, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
18. Hirata, M., Kamatani, Y., Nagai, A., Kiyohara, Y., Ninomiya, T., Tamakoshi, A., Yamagata, Z., Kubo, M., Muto, K., Mushiroda, T., Murakami, Y., Yuji, K., Furukawa, Y., Zembutsu, H., Tanaka, T., Ohnishi, Y., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group*, Matsuda, K., *Members of medical institutions cooperating on the

- BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Cross-sectional analysis of BioBank Japan clinical data: A large cohort of 200,000 patients with 47 common diseases. *J. Epidemiol.*, 27: S9–S21, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
19. Hirata, M., Nagai, A., Kamatani, Y., Ninomiya, T., Tamakoshi, A., Yamagata, Z., Kubo, M., Muto, K., Kiyohara, Y., Mushiroda, T., Murakami, Y., Yuji, K., Furukawa, Y., Zembutsu, H., Tanaka, T., Ohnishi, Y., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*; Matsuda K, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Overview of BioBank Japan follow-up data in 32 diseases. *J. Epidemiol.*, 27: S22–S28, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
 20. Okada, E., Ukawa, S., Nakamura, K., Hirata, M., Nagai, A., Matsuda, K., Ninomiya, T., Kiyohara, Y., Muto, K., Kamatani, Y., Yamagata, Z., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*; Tamakoshi A, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Demographic and lifestyle factors and survival among patients with esophageal and gastric cancer: The BioBank Japan Project. *J. Epidemiol.*, 27: S29–S35, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
 21. Tamakoshi, A., Nakamura, K., Ukawa, S., Okada, E., Hirata, M., Nagai, A., Matsuda, K., Kamatani, Y., Muto, K., Kiyohara, Y., Yamagata, Z., Ninomiya, T., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*; *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Characteristics and prognosis of Japanese colorectal cancer patients: The BioBank Japan Project. *J. Epidemiol.*, 27: S36–S42, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
 22. Ukawa, S., Okada, E., Nakamura, K., Hirata, M., Nagai, A., Matsuda, K., Yamagata, Z., Kamatani, Y., Ninomiya, T., Kiyohara, Y., Muto, K., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*; Tamakoshi A, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Characteristics of patients with liver cancer in the BioBank Japan project. *J. Epidemiol.*, 27: S43–S48, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
 23. Nakamura, K., Ukawa, S., Okada, E., Hirata, M., Nagai, A., Yamagata, Z., Ninomiya, T., Muto, K., Kiyohara, Y., Matsuda, K., Kamatani, Y., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*; Tamakoshi A, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Characteristics and prognosis of Japanese male and female lung cancer patients: The BioBank Japan Project. *J. Epidemiol.*, 27: S49–S57, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
 24. Nakamura, K., Okada, E., Ukawa, S., Hirata, M., Nagai, A., Yamagata, Z., Kiyohara, Y., Muto, K., Kamatani, Y., Ninomiya, T., Matsuda, K., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*; Tamakoshi, A., *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Characteristics and prognosis of Japanese female breast cancer patients: The BioBank Japan project. *J. Epidemiol.*, 27: S58–S64, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
 25. Ukawa, S., Nakamura, K., Okada, E., Hirata, M., Nagai, A., Yamagata, Z., Muto, K., Matsuda, K., Ninomiya, T., Kiyohara, Y., Kamatani, Y., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*; Tamakoshi A, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Clinical and histopathological characteristics of patients with prostate cancer in the BioBank Japan

- project. *J. Epidemiol.*, 27: S65–S70, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
26. Hata, J., Nagai, A., Hirata, M., Kamatani, Y., Tamakoshi, A., Yamagata, Z., Muto, K., Matsuda, K., Kubo, M., Nakamura, Y.; Biobank Japan Cooperative Hospital Group.*; Kiyohara, Y., Ninomiya, T.; Collaborator., *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Risk prediction models for mortality in patients with cardiovascular disease: The BioBank Japan project. *J. Epidemiol.*, 27: S71–S76, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
 27. Yokomichi, H., Noda, H., Nagai, A., Hirata, M., Tamakoshi, A., Kamatani, Y., Kiyohara, Y., Matsuda, K., Muto, K., Ninomiya, T., Kubo, M., Nakamura, Y.; Biobank Japan Cooperative Hospital Group.*; Yamagata Z, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Cholesterol levels of Japanese dyslipidaemic patients with various comorbidities: BioBank Japan. *J. Epidemiol.*, 27: S77–S83, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
 28. Yokomichi, H., Nagai, A., Hirata, M., Tamakoshi, A., Kiyohara, Y., Kamatani, Y., Muto, K., Ninomiya, T., Matsuda, K., Kubo, M., Nakamura, Y.; Biobank Japan Cooperative Hospital Group.*; Yamagata Z, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Statin use and all-cause and cancer mortality: BioBank Japan cohort. *J. Epidemiol.*, 27: S84–S91, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
 29. Yokomichi, H., Nagai, A., Hirata, M., Kiyohara, Y., Muto, K., Ninomiya, T., Matsuda, K., Kamatani, Y., Tamakoshi, A., Kubo, M., Nakamura, Y.; Biobank Japan Cooperative Hospital Group.*; Yamagata, Z., *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Serum glucose, cholesterol and blood pressure levels in Japanese type 1 and 2 diabetic patients: BioBank Japan. *J. Epidemiol.*, 27: S92–S97, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
 30. Yokomichi, H., Nagai, A., Hirata, M., Kiyohara, Y., Muto, K., Ninomiya, T., Matsuda, K., Kamatani, Y., Tamakoshi, A., Kubo, M., Nakamura, Y.; Biobank Japan Cooperative Hospital Group.*; Yamagata Z, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Survival of macrovascular disease, chronic kidney disease, chronic respiratory disease, cancer and smoking in patients with type 2 diabetes: BioBank Japan cohort. *J. Epidemiol.*, 27: S98–S106, 2017 (査読有り) [IF: 2.447, 2016]
 31. Tanisawa, K., Hirose, N., Arai, Y., Shimokata, H., Yamada, Y., kawai, H., Kojima, M., Obuchi, S., Hirano, H., Suzuki, H., Fujiwara, Y., Ihara, K., Taniguchi, Y., Shinkai, S., Sugaya, M., Highuchi, M., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Sato, N., Muramatsu, M., Tanaka, M.: Inverse association between height-increasing alleles and extreme longevity in Japanese women. *J. Gerontol. A. Biol. Sci. Med. Sci.*, 73: 588-595, 2018i (査読あり) [IF: 5.957, 2016]
 32. Matsuda, Y., Tanaka, M., Sawabe, M., Mori, S., Muramatsu, M., Naka-Mieno, M., Furukawa, T., Arai, T.: Relationship between pancreatic intraepithelial neoplasias, pancreatic ductal adenocarcinomas, and single nucleotide polymorphisms in autopsied elderly patients. *Genes Chromosomes Cancer*, 57: 12-18, 2018 (査読あり) [IF: 3.696, 2016]
 33. 山岡巧弥, 田村嘉章, 小寺玲美, 坪井由紀, 佐藤謙, 千葉優子, 森聖二郎, 井藤英喜, 荒木厚: 高血糖高浸透圧症候群(HHS)を発症した高齢者の背景因子と臨床的特徴の検討. *日老医誌*, 54, 349-355, 2017 (査読有り) [IFなし]
 34. 小寺玲美, 千葉優子, 田村嘉章, 種井良二, 森聖二郎, 井藤英喜, 荒木厚: 糖尿病治療中に水疱性類天疱瘡を発症した高齢2型糖尿病症例の臨床的特徴についての検討—主にDPP-4阻害薬との関連について—. *日老医誌*, 印刷中 (査読有り) [IFなし]

(2) 総説

1. 森聖二郎: 血中IGFBP-1は骨粗鬆症性骨折の新規バイオマーカーか? 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (80), 4, 2017
2. ★◎森聖二郎: 総合診療医に求める骨粗鬆症の診療, 内分泌専門医の立場から. *Gノート*, 4 (1), 101-107, 2017
3. ★◎森聖二郎: 低アルブミン血症では骨粗鬆症のリスクが高い. 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (81), 27, 2017
4. ★◎森聖二郎: サルコペニアは脆弱性骨折のリスクファクターか? 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (81), 27, 2017
5. ★◎森聖二郎: 骨の老化. 老化と生体恒常性. *CLINICAL CALCIUM*, 27, 917-923, 2017
6. ★◎森聖二郎: 老化細胞を死滅させると寿命が延長する? 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (82), 31, 2017
7. ★◎森聖二郎: 高齢男性では動物性蛋白摂取が大腸骨近

位部骨折の予防に有効. 最新研究情報. Aging&Health, 26 (83), 31, 2017

8. ★◎森聖二郎: 骨粗鬆症とdipeptidyl-peptidase 4 (DPP4)の密接な関係. 最新研究情報. Aging&Health, 26 (83), 31, 2017
9. ★◎森聖二郎: 巻頭言 - 和文原著論文の存在意義 -. 日本臨床栄養学会雑誌, 39 (4), 223, 2018
10. ★◎森聖二郎: 高齢男性の転倒には低テストステロン血症も関係している? 最新研究情報. Aging&Health, 26 (84), 27, 2018
11. ★◎森聖二郎: ウェルナー症候群. 産科と婦人科, 印刷中

3 著書等

1. ★◎森聖二郎: 転倒. すぐ使える高齢者総合診療ノート改訂第2版 (日本医事新報社) (大庭建三編集), 190-194, 2018

運動器医学

1 学会発表

(1) 海外

1. Mori S, Motohashi N, Takashima R, Kishi M and Nishimune H and Shigemoto K. Mouse Model of LRP4-MG. 13th International Conference on Myasthenia Gravis and Related Disorders conference. New York, USA. May 15-17, 2017
2. Shigemoto K, Mori S, Motohashi N, Takashima R, Kishi M and Nishimune H. Impairment of presynaptic functions and structures of NMJ in mice with Lrp4 induced myasthenia. XXII World Congress of Neurology. Kyoto. Sep 16-20, 2017
3. Kishi M, Mori S, Shigemoto K, Nishimura H, Takahasni R, sakakibara R, Tuyusaki Y, Tateno F and Aiba Y. Low-density lipoprotein receptor-related protein 4 (LRP4) antibody positive myasthenia gravis: XXII World Congress of Neurology. Kyoto. Sep 16-20, 2017
4. Motohashi N, Mori S, Takashima R and Shigemoto K. Identification of novel factors influencing muscle fiber type transition, 2017 Keystone Symposia Conference; Aging and Mechanisms of Aging-Related Disease, Yokohama, Japan. 2016.5.17
5. Uezumi A. Maintenance of skeletal muscle by interstitial mesenchymal progenitors. Keystone Symposia. Yokohama, Japan. May 15-19, 2017
6. Ikemoto-Uezumi M. MFG-E8 aberrantly accumulates at the arteries and the neuromuscular junction with age. Keystone Symposia. Yokohama, Japan. May 15-19, 2017

(2) 国内

1. 重本和宏, 抗MusK抗体および抗LRP4抗体の重症筋無力症モデルを使った発症メカニズムの研究, 第16回関東甲信越重症筋無力症研究会 招待講演, 東京, 2017.10.21.
2. 重本和宏, 神経筋接合部からみたサルコペニアのメカニズム研究について, 第3回日本筋学会 シンポジウム, 東京 (小平), 2017.8.4
3. 重本和宏, サルコペニア発症のメカニズム, 第17回日本抗加齢医学会総会 シンポジウム, 東京, 2017年6月4日
4. 重本和宏, フレイルのメカニズム研究の現状について, 第30回日本老年学会/第40回日本基礎老化学会大会 合同シンポジウム, 名古屋, 2017年6月15日

5. 森秀一, 本橋紀夫, 高嶋留美, 岸雅彦, 西宗裕史, 重本和宏. 抗Lrp4抗体陽性重症筋無力症の自己免疫動物モデルの作成, 第40回日本神経科学大会, 千葉県幕張市, 2017年7月20-23日
6. 森秀一, 本橋紀夫, 高嶋留美, 岸雅彦, 重本和宏. Lrp4の機能抑制による神経筋刺激伝達の変化, 愛媛県松山市, 2017年9月16-18日
7. 本橋 紀夫, 朝倉 淳, 森 秀一, 高嶋 留美, 上住 円, 上住 聡芳, 重本 和宏 骨格筋代謝制御因子の同定, 第3回日本筋学会, 東京 (小平), 2017.8.4
8. 本橋 紀夫, 朝倉 淳, 森 秀一, 高嶋 留美, 重本 和宏 骨格筋代謝制御因子の同定, 第72回日本体力医学会大会, 愛媛 (松山), 2017.9.18
9. 本橋 紀夫, 朝倉 淳, 森 秀一, 高嶋 留美, 上住 円, 上住 聡芳, 重本 和宏 新規骨格筋代謝制御因子の同定, 第5回若手による骨格筋細胞研究会, 兵庫 (神戸), 2017.11.14
10. 上住聡芳, ヒト骨格筋由来幹・前駆細胞を利用した筋疾患の治療法開発, 第17回日本再生医療学会総会 シンポジウム, 横浜, 2018年3月21日
11. 上住聡芳, 間質の間葉系前駆細胞による骨格筋組織の維持機構, 第5回お茶の水サイエンス倶楽部, 東京, 2018年2月5日
12. 上住聡芳, Maintenance of skeletal muscle by interstitial mesenchymal progenitors, TMU Bio-conference 2017, 東京, 2017.11.17
13. 上住聡芳, 間質の間葉系前駆細胞が司る骨格筋組織の維持機構, 第5回若手による骨格筋細胞研究会, 神戸, 2017年11月14日
14. 上住聡芳, 筋間質の間葉系前駆細胞による骨格筋の健全性維持機構, 日本宇宙生物科学会 第31回大会 シンポジウム, 前橋, 2017年9月21日
15. 上住聡芳, 筋間質の間葉系前駆細胞による筋組織の維持機構, 第18回運動器科学研究会, 呉, 2017年9月1-2日
16. 上住聡芳, 筋間質の間葉系前駆細胞による骨格筋組織維持機構, 第30回日本老年学会/第40回日本基礎老化学会大会 合同シンポジウム, 名古屋, 2017年6月14日
17. 上住 円, 上住聡芳, 血管・神経筋接合部の加齢変化から解き明かすサルコペニアの発症機序, 第5回 若手による骨格筋細胞研究会, 神戸, 2017年11月13-14日
18. 上住 円, 血管や神経筋接合部の加齢変化から解き明かすサルコペニアの発症機序, 第18回 運動器科学研究会, 呉, 2017年9月1-2日
19. 上住 円, MFG-E8 aberrantly accumulates at the arteries and the neuromuscular junction with age, 日本筋学会第3回学術集会, 東京, 2017年8月4-5日

2 誌上発表

(1) 原著

1. Hashimoto N, Kiyono T, Okamura K, Goto Y, Matsuo M, Ikemoto-Uezumi M, Nagata Y. Interleukin-1beta (IL-1 β)-induced Notch ligand Jagged1 suppresses mitogenic action of IL-1 β on human dystrophic myogenic cells. PLoS One. 12(12): e0188821, 2017. (査読有) (IF: 2.806, 2016)
2. ◎ Mori S, Motohashi N, Takashima R, Kishi M, Nishimune H, ★Shigemoto K. Immunization of mice with LRP4 induces myasthenia similar to MuSK-associated myasthenia gravis. Exp Neurol, 297, 158-167, 2017. (査読あり), (IF: 4.706, 2017)
3. ◎Ikemoto-Uezumi M, Matsui Y, Hasegawa M, Fujita R,

- Kanayama Y, Uezumi A, Watanabe T, Harada A, Poole AR, Hashimoto N. Disuse Atrophy Accompanied by Intramuscular Ectopic Adipogenesis in Vastus Medialis Muscle of Advanced Osteoarthritis Patients. Am J Pathol. in press. 2017. (査読有) (IF: 4.057, 2016)
4. Kasai T, Nakatani M, Ishiguro N, Ohno K, Yamamoto N, Morita M, Yamada H, Tsuchida K, ★Uezumi A. Promethazine Hydrochloride Inhibits Ectopic Fat Cell Formation in Skeletal Muscle. Am J Pathol. in press. 2017. (査読有) (IF: 4.057, 2016)
 5. Takei D, Nishi M, Fukada S, Doi M, Okamura H, Uezumi A, Zhang L, Yoshida M, Miyazato M, Ichimura A, Takeshima H. Gm7325 is MyoD-dependently expressed in activated muscle satellite cells. Biomed Res. 38(3):215-219. 2017. (査読有) (IF: 0.912, 2016)
 6. Sakai H, ©Fukuda S, Nakamura M, Uezumi A, Noguchi YT, Sato T, Morita M, Yamada H, Tsuchida K, Tajbakhsh S, Fukada SI. Notch ligands regulate the muscle stem-like state ex vivo but are not sufficient for retaining regenerative capacity. PLoS One. 12(5):e0177516. 2017. (査読有) (IF: 2.806, 2016)

(2) 総説

1. 重本和宏、「老年医学Q & A」、日本老年医学会雑誌、54巻 (1)、97-98、(査読無)、(IF値:無、2017)
2. 重本和宏, 森秀一, 本橋紀夫, 高嶋留美. サルコペニアの概念とその診断方法. 病理と臨床, Vol.36, No.2, p128-134, (IF値:無、2018)

3 著書等

1. 重本和宏 (新井 秀典監修)、第二章サルコペニアについて知ろう、Q7 どのようなメカニズムで起こるのか? サルコペニア概論,p26-27, 2017、ライフサイエンス出版

受賞

血管医学

1. 板倉陽子、研究員、Glyco24 Poster award, “Comparison of membrane with cytoplasmic glycan profile changing with cellular senescence and human aging”, 24th International symposium on glycoconjugates、韓国・済州、2017.9.1.

運動器医学

1. 上住 円、研究員、東京都健康長寿医療センター研究所 理事長研究奨励費、血管・神経筋接合部の加齢変化から解き明かすサルコペニアの発症機序、2017年5月

老年病理学研究チーム

チームリーダー：石渡 俊行

1 研究チームの概要・目的

本研究チームは老化の機序を研究するとともに、老化に伴って発生、増加する老年性疾患についてその病因を解明し、早期に発見する方法と新たな治療法の開発を目指して研究を行っている。特に、老化とがん化や高齢者疾患との間の病因的関係の解明、皮質下認知症のメカニズム解明、高齢者ブレインバンクを用いた神経病理学的研究への応用について研究を行ってきた。ヒトの老化・老年病の基礎的、基盤的研究を基に、より臨床に近い医学生物学研究や病理診断学的研究を行っている点と、高齢者ブレインバンクなどの公的な研究基盤推進事業を行っている点が本研究チームの特徴である。

本研究チームの多くの研究員は、病院の業務（病理組織診断、剖検診断、神経内科診療）に参加し、常に医療センターの診療の向上を目指し、医療センターと研究所をつなぐ役割を担っている。このため、研究所の「神経病理・ブレインバンク」と「高齢者がん」そして病院の「病理診断科」の3者が密に連絡をとり、協力しながら研究を進めている。

本チームの研究には臨床的な研究も多く、医療

センターの医師も多数参加し、共同研究を進めている。高齢者を対象とする研究施設と診療施設の両者を備える本センターの利点を活かし、ヒトの老化のメカニズムと老化の過程で生じてくる疾患を研究し、その予防法と治療法の発見、開発を行ってきた。

これらの成果は、英文論文として広く国際的に報告するとともに国内外の学会にて発表し、講演会などで都民をはじめ社会への広報活動も積極的に進めてきた。

2 今後の展望

高齢者を対象とする研究施設と診療施設の両者を備える当センターの特徴を活かし、ヒトの老化のメカニズムと老化の過程で生じてくる疾患について研究し、予防法、早期診断法と新規治療法の発見、開発を目指す。「神経病理・ブレインバンク」と「高齢者がん」および「病理診断科」が協力して研究を行い、研究成果を英文論文として報告する。講演会や公開講座などを通じて、都民をはじめとした社会へ、これらの研究成果を広く還元する活動も積極的に進める。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

高齢者がん

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
加齢と癌を含む老年性疾患の関係の解析することにより、老化を遅延する因子（生活習慣など）を解明する。	3大死因はほぼ加齢に伴い増加する。このうち、悪性新生物など主に外科的な疾患については、加齢に伴う染色体の不安定性が癌発生と密接な関係があることがわかってきた（第1期中期計画）。しかし、内科系疾患（血管病変を中心とする脳、心疾患、認知症）については疾患単位で研究され、加齢との関係は議論が多いが比較的研究は少ない。また、個体の老化と細胞老化との関係も最近になって報告がでてきている。そこで、老年疾患と言える糖尿病、動脈硬化、認知症と細胞老化との関係を明らかにする。	第1期中期計画の主要対象であった癌の発生母地に加えて、内科系疾患と大きな関係のある臓器、特に内分泌臓器（副甲状腺、膵の各細胞）の老化を検討する。特に血管の老化と密接な関係のある糖尿病について検討する。早老症由来の細胞やiPS細胞の老化について解析する。老年期の各種臓器における性ステロイドホルモン動態も解析項目とする。	癌の発生母地と、内分泌臓器（骨粗鬆症と関連する副甲状腺、糖尿病と関連する膵ランゲルハンス島 α 、 β 細胞）の老化を検討する。早老症由来の細胞やiPS細胞の老化について解析する。癌、骨粗鬆症などの加齢性疾患と性ステロイドホルモンの関係を、濃度、受容体等、多方面から解析する。	前年度までの研究を続行すると同時に、第2期中期計画の中間年あたり、研究の成果と研究方針について見直す。	前年度までの研究に加えて、認知症など神経変性疾患患者における脳の構成細胞の老化について解析する。脳の性ステロイドホルモン動態との関係も解析する。	前年度までの研究に加えて認知症など神経変性疾患患者における神経細胞とグリア細胞の老化について解析する。さらに、第2期中期計画の最終年あたり、5年間の臓器、組織の検索について総括的に検討する。

神経病理学（ブレインバンク）

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
神経病理学（高齢者ブレインバンク）	1. 高齢者ブレインバンクの構築を通じ、遺伝子発現研究にも使用可能な高品位リソースを蓄積し、全国の神経科学研究者を共同研究することで、老化に関わる運動・機能障害の、病因の解明に貢献する。 2. 高齢者ブレインバンクプロジェクトを通じ、臨床診断基準の作成、治療の有効性の検討、病因の追求を行うことで、臨床への直接的還元を試みる。	剖検診断確定例を用いた、生前採取髄液バイオマーカーの診断上の有用性の検討。	剖検診断確定例を用いた、既往外科材料の、レビー小体型認知症診断への有用性の検討。	剖検診断確定例を用いた、VSRAD 新版の、アルツハイマー病における有用性の検討。	剖検診断確定例を用いた、生前撮像アミロイドベットの、アルツハイマー病早期診断における有用性の検討。	剖検診断確定例の生前撮像MRI、SPECTを用いた、嗜銀顆粒性認知症の画像診断基準の作成。

高齢者がん

構成メンバー

テーマリーダー：石渡俊行

研究員：相田順子、石川直

非常勤研究員：田久保海誉、寺井政憲、仲村賢一、長谷川文雄、長谷川康子

1 第二期中期計画の研究成果

「加齢とがんを含む老年性疾患の関係を解析し、老化を遅延する因子（生活習慣など）を解明する」ことを目指し、第二期中期研究を行った。5年間にわたり多くの臓器の組織を用いて研究を展開し、がんに加え内科的疾患も対象とした。具体的な研究目標として示した、「加齢に伴って増加する3大疾患について、加齢が果たす役割について解明する」ことについて、十分な成果を挙げられたものとする。

第一に、「加齢に伴う染色体不安定性の、がん発生と進展における関与」について染色体末端に存在し、細胞分裂とともに約100塩基対減少するテロメア長について研究を行ってきた。定量性にすぐれているサザンブロット法に加え、組織切片や分裂中期染色体標本を対象に、独自に開発した定量的FISH法を用いてテロメア長を測定した。消化器系を中心に、さまざまながんとがん周囲の非がん組織のテロメアを測定し、がん周囲の非がん部には形態的に異常がなくても、すでにテロメア長が短縮し染色体が不安定になっている「前がん状態」の細胞があることを明らかにした。肉眼や組織像で認識できるがんの発生しやすい病変を前がん病変と呼ぶが、前がん状態は通常よりもがんの発生しやすい状態を言う。両者をテロメア短縮と染色体の不安定性を持つ状態（過度に老化の進んだ状態とも換言できる）と再定義した。これらは、がんの予備状態ともいえる細胞であり、今後、前がん状態の細胞を早期に検出することでがんの早期診断や予防に繋がる可能性がある。生活習慣としては、アルコールの過剰摂取が食道上皮細胞のテ

ロメア長を高度に短縮することを報告した。

次に加齢に伴う、各臓器の細胞のテロメア長の解析を行った。同一人のテロメア長は、各臓器の細胞でほとんど差がないことがわかり、老化の程度を血液細胞のテロメア長を用いて測定するなど、今後の健診に繋がる可能性がある結果が得られた。さらに、大部分の正常細胞は加齢とともに短縮するが、脳の神経細胞や下垂体後葉細胞など加齢によってテロメア長が短縮しない細胞を明らかにした。

リーダー交代後には、代表的な高齢者がんである難治性の膀胱がんについて、がん幹細胞マーカーのネスチンの活性化を抑制することで、増殖、転移を抑えることができることを報告した。膀胱がんのスフェア（浮遊細胞塊）の超微細構造を走査電子顕微鏡で撮影することに成功し、がん幹細胞と分化したがん細胞の形態的特徴を明らかにした。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<iPS細胞の研究>

血管医学研究、慶應義塾大学老年病科、理化学研究所

<剖検、手術、生検検体の臨床病理学的研究>

病理診断科、パイロイト大学病理学、マサチューセッツ総合病院

<膀胱の研究>

内分泌科、日赤医療センター検査部

<副甲状腺の研究>

糖尿病・代謝・内分泌内科、病理診断科、日赤医療センター検査部

<内視鏡切除検体の研究>

内視鏡科、病理診断科、虎の門病院

<肝移植細胞の研究>

自治医大移植外科、日本医大肝胆膵外科

<膵管細胞・膵内分泌細胞の老化>

病理診断科、自治医大外科、相澤病院

<バレット食道の定義研究>

福祉と生活ケア研究チーム、病理診断科、バイ

ロイト大学病理学
<内視鏡超拡大観察と病理組織像の研究>
埼玉医科大学
<バレット癌の深達度、その他の臨床病理組織学的
所見と予後との関連性に関する多施設共同研究>
福祉と生活ケア研究チーム、消化器内科、病理
診断科、埼玉県立がんセンター消化器内科、がん
研有明病院、東京医歯大食道胃外科、東海大外科、
佐久医療センター、新潟大消化器内科
<バレット食道マウスモデルとヒトバレット食道
の比較について>
東京大学外科
<胸膜悪性中皮腫と石綿曝露例胸膜中皮のセルブ
ロックによるテロメア長解析>
国際医療福祉大学三田病院病理
<アルコール症患者におけるバレット食道と食道
静脈瘤に関する研究>
国立病院機構久里浜医療センター内科、川崎市
立井田病院内視鏡科
<フローサイトによる膵癌の癌幹細胞の分離同定>
血管医学研究、病理診断科
<線維芽細胞増殖因子(FGFR4)の抑制による膵癌
治療の研究>
血管医学研究、日本獣医生命科学大学獣医病理
<長鎖非コードRNAの制御による膵癌治療の基礎
研究>
血管医学研究、日本獣医生命科学大学獣医保健
看護
<イヌ、ネコ乳癌の癌幹細胞の同定と治療法開発>
日本獣医生命科学大学獣医病理
<イヌ乳腺癌の長鎖非コードRNA>
日本獣医生命科学大学獣医保健看護
<癌免疫療法に対する生体内癌動態可視化>
東京大学教養学部
<膵癌におけるStat 5の生物学的役割とそのシグナ
ル伝達経路について>
日本医科大学消化器外科
<循環血液中癌細胞の新たな検出方法の検討>
日本医科大学消化器外科
<膵癌の新たなバイオマーカーの探索>
静岡県立大学薬学部
<膵組織幹細胞の老化機序解明による疾患発症機
序の解明>
病理診断科、金沢大学がん進展制御研究所腫瘍
制御分野
<骨髄異形成症候群と多発生骨髄腫の初代培養細
胞における各染色体のテロメア長>
日赤医療センター検査科
<大脳組織の老化に関する研究>
日赤医療センター病理部

<Notch-1 KOマウスの作製と発癌に関する研究>
東京医科歯科大学歯学部口腔病理
<癌幹細胞マーカー、ネスチン陽性膵癌の糖鎖発現
解析>
血管医学研究

3 今後の展望

(1) 前がん病変と発がんにおけるテロメアの役割の解明

現在のテロメア長測定は、サザンブロット法に加え、組織切片や分裂中期染色体標本をFISH法で測定している。定量性にすぐれているサザンブロットについて実験方法の簡略化と、精度の向上に取り組んでいる。またテロメア長を制御するテロメラーゼを組織切片上で定量可能な、branched in situ hybridization法の技術開発を進めている。さらに、多数例のテロメア長を測定できる方法として世界的に定量的PCR法が用いられており、正確性についてはサザンブロット法や定量的FISH法に比し劣るものの、より正確に測定できる可能性を模索している。また生活習慣や環境要因として発がんを促進する因子についてテロメアとの関連性を探る意味において、胃がんとヘリコバクター感染、喫煙と肺腺がんの関係や、バレット食道とバレットがんなどの検索を行う予定である。研究対象となる検体の入手方法が問題となるが本センターの剖検例を含む病理検体の利用を予定している。

(2) 加齢とがん以外の老年疾患におけるテロメア解析

現在までに当研究グループでは消化管、呼吸器、神経系の各臓器について加齢とテロメアの関連性について検討してきた。今後はがん以外の老年性疾患として注目されている認知症、サルコペニア、フレイル、循環器系疾患（血管）についても、老化による影響とテロメアの関連について検討を行う予定である。これらの研究を行う上で、これまで検討してこなかった血管・筋組織などの間葉系組織や、副腎などの内分泌臓器における加齢とテロメアの関連性について検討する必要がある。また、認知症以外でもうつなどの精神疾患や、ストレスとの関係が世界的に注目されており、アプローチを試みる。認知症に関しては、ブレインバンクによる協力を仰ぐ予定である。さらに、手法として(1)でも記載した定量的PCR法などが可能となれば社会科学系研究グループとの共同研究を行うことで、これまでの研究成果を活用する幅が広がることが予想される。

(3) 膵がんのがん幹細胞の解析

予後が極めて悪い高齢者がんの、膵がん研究についてがん幹細胞に着目した研究を進展させる予定である。①がん幹細胞の分化誘導と脱分化による新たな治療法の開発を目指している。すでに膵がん細胞を形態的、機能的に脱分化させ、がん幹細胞へと変化させる物質を発見しており、これを用いて、脱分化、分化によって効果的な抗がん剤を選択する。②がん幹細胞マーカーのネスチンは細胞内に存在するため、通常フローサイトメーターで分離して、膵がん幹細胞を採取することはできない。このため、ネスチンのレポーターベクターを遺伝子導入し、膵がんのがん幹細胞を選択的に採取する。がん幹細胞に特異的なRNA、タンパク質、糖鎖を同定し、膵がんの早期診断マーカーや治療標的とする。

4 その他

本テーマでは加齢に伴うテロメア長の短縮と染色体の不安定性について、各臓器で細胞レベルの研究を行ってきた。また、がんを中心に加齢に伴って発症する高齢者疾患について、テロメア長の短縮に着目して研究を行った。がんにおいては、形態異常が起こる前にすでにテロメア長が過度に短縮した機能的な「前がん状態」となっていることを明らかにした。これらの研究成果は今後、がんの予防や早期診断に繋がるのが期待される。また、高齢者に急増している難治性の膵がんについて、「がん幹細胞」に着目し、新たな観点からの早期診断法と新規治療法の開発を目指した研究を行ってきた。

神経病理学 (ブレインバンク)

構成メンバー

テーマリーダー：村山繁雄 (神経内科・高齢者バイオリソースセンター部長兼務)
室長 藤ヶ崎純子

研究員：高田忠幸、松原知康 (高齢者バイオリソースセンター)

技術員：木村有希

非常勤研究員：鈴木衣子、高尾昌樹、高梨雅史、
小林万希子、内野彰子、初田裕幸、
伊藤慎治

非常勤職員：原田三枝子、森島真帆、直井信子、
岡本京子、後藤博、厚澤祐太郎、
畠山幸子、今井佐知子

1 第二期中期計画の研究成果

超高齢化社会を迎えるにあたり、認知症をはじめとする高齢者の神経疾患の克服は重要な社会的課題である。疾患の真の原因を見極め対処するためには、ヒト脳を用いた研究が必須であり死後脳研究で得られた研究成果は重要な意義を持つ。テーマ神経病理(高齢者ブレインバンク)では、第二期中期の主要な目標として以下の2つを掲げて研究を推進し成果を得た。

めとする高齢者の神経疾患の克服は重要な社会的課題である。疾患の真の原因を見極め対処するためには、ヒト脳を用いた研究が必須であり死後脳研究で得られた研究成果は重要な意義を持つ。テーマ神経病理(高齢者ブレインバンク)では、第二期中期の主要な目標として以下の2つを掲げて研究を推進し成果を得た。

I. 高齢者ブレインバンクの拡充

当センターにおける開頭剖検症例に立ち会い、半脳凍結を原則として脳リソースを蓄積し、国際基準に従った神経病理診断を付した。神経病理診断項目をデータベース化し、匿名化のもと基本的臨床情報、生前採取バイオマーカー情報と連結し、高齢者神経疾患の研究に広く活用される高品位の脳リソースを構築した。当センターを核に高齢者ブレインバンクネットワークを全国規模で展開し、希少例を含めた脳リソース蓄積を拡充した。脳リソースはコホート・生体試料支援プラットフォーム、日本ブレインバンクネットを通じて多数の研究に提供され、神経疾患の病態解明のための研究成果に繋がった。

II. 高齢者ブレインバンクプロジェクトを通じた臨床診断基準の作成、疾患病態の追求

病院と研究所が併設する当センターの特質と高い剖検率を活かし、剖検で得られた神経病理診断と、それまでに蓄積された臨床情報、生前採取バイオマーカーを照らし合わせ、年度別計画に従って高齢者神経疾患の臨床診断精度を向上させるための研究を行った。

(1) 精密な神経放射線画像解析、髄液蛋白の測定が神経疾患診断のための生前バイオマーカーとして有用であることを明らかにした。

(2) レビー小体型認知症の診断において皮膚生検、消化管外科材料の検索が有用であることを明らかにした。

(3) 高齢者の主要な認知症であるアルツハイマー病、嗜銀顆粒性認知症の鑑別に有用なMRI、アミロイドPET、SPECTによる画像検査の基準を作成した。

その他の成果として、海外機関との国際共同研究として、国際パーキンソン病研究、人種・文化差が老年性変化に与える影響に関する国際共同研究等を展開した。新たな高齢者認知症、成人型神経核内封入体に着目し、その病態解明と診断基準の作成に貢献した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<パーキンソン病診断のための皮膚生検>
高齢者ブレインバンク、神経内科

＜認知症のsurrogate biomarker確立にむけての「バイオリソース」データベース構築の検討＞

高齢者ブレインバンク、神経内科、神経画像研究チーム

＜筋萎縮性側索硬化症の臨床生理学的診断基準の確立＞

高齢者ブレインバンク、神経内科

＜3D-SPGR画像統計解析に基づく認知症の早期診断、鑑別の有用性＞

高齢者ブレインバンク、神経内科、放射線診断科

＜神経変性疾患の新規バイオマーカー。治療標的となるmicroRNAの同定とその有用性の評価＞

高齢者ブレインバンク、老化機構研究チーム

＜脳パラフィン包埋切片ARG試験によるPET用タウプローブ^[18F]THK5351のメラニン含有細胞結合性の検討＞

高齢者ブレインバンク、神経画像研究チーム

高齢者ブレインバンク外部機関共同研究（42件）は高齢者ブレインバンクホームページに記載。

3 今後の展望

(1) 高齢者ブレインバンクプロジェクトの推進

研究目標：第二期までに構築された高齢者ブレインバンクを発展させ、オールジャパンブレインバンクネットワークのコアとしてより一層の拡充を計る。高齢者精神・神経疾患の臨床拠点たる病院部門と連携し、バイオバンクの構築を推進する。さらに国際的研究を支える質の高い脳リソースを構築し、当センターの国際的老化神経科学研究の拠点化に貢献する。

研究のねらい：高齢者コホート在宅支援総合医療センターとしての病院部門、板橋医師会と合同の神経難病検診を通じ、認知症、神経難病の患者に最後まで寄り添い、本人及び介護者の生活の質を上げる努力を行うとともに、包括研究本人同意のもとバイオバンク、生前献脳同意登録の推進による早期診断・治療を含む臨床縦断実証研究、死亡時ご遺族同意に基づくブレインバンク構築により、高齢者神経科学研究の下支えを行う。また日本全体にブレインバンク運動を広め、病院診断病理部と共同し、神経病理学会専門医研修医コースを構築、次世代の育成に貢献する。国立長寿医療研究センターと共同で老化研究業績のアウトプットを加速させる。現在行っている国際共同研究として、ブラジルサンパウロ大学、ワシントン大学、オーストラリアシドニープリンスオブウェールズ研究所に加え、オランダブレインバンクとの連携による

epigenetics研究等発展させる。

研究のアプローチ：当施設の特色である、臨床・病理・研究部門のシームレスな結合を活かし、高齢者・神経難病への貢献をベースに、バイオバンク・ブレインバンクを構築し、それに基づく研究を推進する。サロゲートバイオマーカーによる診断を可能にするために、神経学的、神経心理学的、神経生理学的、放射線診断画像、PET画像所見に一流の臨床研究者を配置する。患者への貢献の過程で包括研究同意に基づき、髄液・血液を含む全てを研究リソースとして構築する。生前献脳同意登録を促進、登録者には治験を含む早期診断・治療の実証研究を最終病理診断で裏打ちし、新しい診断・治療の開発に貢献する。文科省新学術日本神経科学ブレインバンクネットワーク、AMED融合脳日本ブレインバンクネットの老化認知症拠点、AMED認知症ゲノム病理拠点、国立長寿医療研究センター委託費高齢者バイオバンク・ブレインバンクの構築、国立精神・神経医療研究センター委託費生前同意ブレインバンクオールジャパン展開分担班員等により、日本全体の神経病理コアとして、神経病理後期研修医コースを神経内科後期研修医コースと組み合わせることで、若手の人員の育成を図る。

予想される問題点とその解決策：センター全体での独自の人員・資金運営が必要である。病院・研究所を効率よく連携する体制を模索する。

(2) 実験神経病理研究

研究目標：高齢者ブレインバンクのヒトの神経病理データを背景に、実験神経病理部門、特にマーマーモセット、iPS研究での貢献を図る。

研究のねらい：AMED革新脳マーマーモセット研究、文科省iPS研究より外部資金を得、高齢者ブレインバンクの持つデータ、ノウハウを活かすことで、病理学的サポートを提供する。

研究のアプローチ：京大マーマーモセット研究、iPS細胞研究に協力し、疾患の根治療法開発への貢献を図る。

予想される問題点とその解決策：実験神経病理研究を可能とする設備と体制を構築する。

論文・学会発表

高齢者がん

1 学会発表

(1) 海外

1. Ishiwata T, Yoshimura H, Matsuda Y, Ishikawa N, Takubo K, Arai T, Aida J. A long non-coding RNA, H19 as a novel therapeutic target for pancreatic cancer

- metastasis, American Association for Cancer Research Annual Meeting 2017, Washington DC, USA, 2017.4.1-6
- Matsuda Y, Izumiyama N, Fujiwara M, Ishikawa N, Aida J, Takubo K, Ishiwata T, Arai T. Telomere shortening in pancreatic cancer is correlated to KRAS mutation, American Association for Cancer Research Annual Meeting 2017, Washington DC, USA, 2017.4.1-6
 - Matsuda Y, Seki A, Nonaka K, Kakizaki M, Wan Tan, Ishikawa N, Aida J, Takubo K, Ishiwata T, Arai T. Clinicopathological Characteristics of Recurrent Pancreatic Cancer: Analysis of Autopsies. American Pancreatic Association Meeting 2017, San Diego, USA
 - Aida J, Inoshita N, Takahashi A, Takeuchi M, Kowazaki Y, Takubo K. Evaluation of lymph node metastasis in endoscopically and surgically resected superficial Barrett's carcinomas. The 14th World Conference of World Organization for Specialized Studies on Diseases of the Esophagus (OESO) 2017, Geneva, Switzerland, 2017.9.2-5
 - Matsuda Y, Kojima M, Fukumura Y, Hirabayashi K, Yamaguchi H, Ishiwata T, Arai T, Mino-Kenudson M. Concordance of tumor regression grade after neoadjuvant therapy for locally advanced/borderline resectable pancreatic cancer (LA-PDAC). The United States and Canadian Academy of Pathology (USCAP) 2018, Vancouver, Canada, 2018.3.17-23
 - Aida J, Takubo K, Ishikawa N, Matsuda Y, Arai T, Ishiwata T. Distinction between ductal involvement and invasive nests in esophageal squamous cell carcinoma. The United States and Canadian Academy of Pathology (USCAP) 2018, Vancouver, Canada, 2018.3.17-23

(2) 国内

- 石渡俊行. (特別講演) 膵癌の癌幹細胞と上皮間葉転換—その役割と治療応用の可能性—. 第104回 神奈川県病理医会. 伊勢原, 2017.1.7
- Aida J, Shimomura N, Nakamura K, Ishikawa N, Takubo K, Ishiwata T. Barrett's adenocarcinoma arise from intestinal or cardiac-type mucosae? Telomere measurement by using quantitative fluorescence in situ hybridization. 第5回 日本比較病理学研究会. 東京, 2017. 2.18
- 石渡俊行. 膵癌の癌幹細胞研究の現状と今後の可能性. 第3回 老年病理学セミナー. 東京, 2017.3.14
- 相田順子, 石崎達郎, 田久保海誉, 新井富生, 石渡俊行. 表在型Barrett癌の組織学的な予後因子—多施設共同研究. 第106回 日本病理学会総会. 東京, 2017.4.27-29
- 富田健一郎, 相田順子, 泉山七生貴, 仲村賢一, 石川直, 新井富生, 石渡俊行, 熊坂利夫, 藤原睦憲, 田久保海誉. 大脳神経細胞及びグリア細胞の加齢によるテロメア長変化. 第106回 日本病理学会総会. 東京, 2017.4.27-29
- 石渡俊行, 吉村久志, 松田陽子, 石川直, 田久保海誉, 新井富生, 相田順子. 膵癌の増殖、浸潤における長鎖非コードRNAの役割の検討. 第106回 日本病理学会総会. 東京, 2017.4.27-29
- 上田善文, 洪澤麻実, 進士誠一, 松田陽子, 杉本直俊, 石渡俊行, 佐藤守俊. 2光子顕微鏡生体内イメージングによる免疫を込みにしたがん浸潤転移の動態解明—大腸上皮下がん浸潤の観察. 第106回 日本病理学会総会. 東京, 2017.4.27-29
- 相田真介, 相田順子, 直井美穂, 加藤舞, 津浦幸夫, 田久保海誉. Q-FISH法による胸水中皮細胞のテロメア長の測定とその意義の検討. 第106回 日本病理学会総会. 東京, 2017.4.27-29
- 石渡俊行, 松田陽子, 石川直, 田久保海誉, 新井富生, 相田順子. 膵癌の動物移植による早期癌バイオマーカーの開発. 第6回 TOBIRA 研究交流フォーラム. 東京, 2017.5.12
- 相田順子, 新井富生, 石渡俊行, 田久保海誉. LSBEはS S B Eより癌化しやすいか: 定量的FISH法による表在癌例のテロメア長測定. 第71回日本食道学会学術集会 軽井沢, 2017.6.14-16
- 田久保海誉, 新井富生, 石渡俊行, 相田順子. バレット食道とバレット癌の病理. 第71回日本食道学会学術集会 (平成29年度教育セミナー). 軽井沢, 2017.6.14
- Naoshi ISHIKAWA, Masashi TOYODA, Toshiyuki ISHIWATA. Telomere dynamics during "lifelong" culture of human diploid cell strains at chromosome level: Lesson from iPS cells. 第40回日本基礎老化学会大会. 名古屋, 2017. 6. 16
- 森美由紀, 奥村拓真, 日置沙希, 斉藤美香, 相田順子, 大鶴洋, 山口雅庸, 平野浩彦. 双極性障害を有する患者に対し口底癌の切除術を施行した一例. 第28回日本老年歯科医学会学術大会 名古屋, 2017.6.14-16
- 松田陽子, 西村誠, 中里徹矢, 田久保海誉, 石渡俊行, 木村理, 古川徹, Mino-Kenudson Mari, 新井富生. 膵嚢胞性病変と結節性病変の病理組織学的検討 (ミニパネルディスカッション. 膵嚢胞性疾患 (IPMNを除く) に対する診断と治療の現状). 第48回 日本膵臓学会大会. 京都, 2017.7.14, 15.
- 道下正貴, 齋藤那美香, 野澤聡司, 古本莉奈, 中川貴之, 佐藤稲子, 片山欣哉, 田崎弘之, 石渡俊行, 高橋公正. ガスクロマトグラフィー解析を用いた犬乳癌由来sphere形成細胞の代謝プロファイル分析. 第76回日本癌学会学術総会. 横浜. 2017. 9.28-30.
- 松田陽子, 三野-Kenuds真理, 谷内田真一, 古川徹, 田久保海誉, 石渡俊行, 木村理, 新井富生. 病理解剖症例における早期膵癌および非浸潤病変の臨床病理学的特徴の検討. 第76回日本癌学会学術総会. 横浜. 2017. 9.28-30.
- 上田善文, 進士誠一, 松田陽子, 新井富生, 相田順子, 石渡俊行. 免疫を有するマウスにおける悪性リンパ腫の大腸の粘膜層への浸潤、転移巣形成の動態可視化法の確立. 第76回日本癌学会学術総会. 横浜. 2017. 9.28-30.
- 今井一貴, 上田詩歩, 原雄大, 石渡俊行, 益子高. ヒト膵臓癌表面分子とエクソソームの網羅的解析. 第76回日本癌学会学術総会. 横浜. 2017. 9.28-30.
- 石渡俊行, 吉村久志, 松田陽子, 石川直, 田久保海誉, 新井富生, 相田順子. 膵癌における長鎖non-coding RNA, H19の発現と治療標的としての可能性. 第3回がんゲノム・エピゲノムセミナー, 札幌. 2017. 10.7
- 松田陽子, 石渡俊行, 石川直, 相田順子, 田久保海誉, 新井富生. 膵臓の老化と発癌. 第3回がんゲノム・エピゲノムセミナー, 札幌. 2017. 10.7
- 新井富生, 松田陽子, 関敦子, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行. 大腸髓様癌とそれに関連するマイクロサテライト不安定性を示す大腸癌の病理学的特徴. 第63回日本病理学会秋期特別総会 B演説. 東京, 2017.11.3
- 進士誠一, 上田善文, 石渡俊行, 山田岳史, 小泉岐博, 横山康行, 高橋吾郎, 堀田正啓, 岩井拓磨, 原敬介, 武

- 田幸樹、内田英二. Stage II結腸癌における予後規定因子としての周術期リンパ球数の意義. 第6回日本比較病理学研究会. 東京, 2018. 3. 3
23. 石渡俊行、佐々木紀彦、長谷川文雄、道下正貴、石川直、田久保海誉、松田陽子、新井富生、相田順子. 低真空走査型電子顕微鏡による膵癌の癌幹細胞探索. 第6回日本比較病理学研究会. 東京, 2018. 3. 3
24. 相田順子、石川直、田久保海誉、石渡俊行. 組織切片を用いたQ-FISH法によるテロメア長測定とその応用. 第6回日本比較病理学研究会. 東京, 2018. 3. 3
25. 伊井辰仁、石渡俊行、進士誠一、松田陽子、新井富生、相田順子、道下正貴、高橋公正、上田善文. マウスin vivoイメージングを用いた動的病理学. 第6回日本比較病理学研究会. 東京, 2018. 3. 3

2 誌上発表

(1) 原著

- ★©Ishiwata T, Hasegawa F, Michishita M, Sasaki N, Ishikawa N, Takubo K, Matsuda Y, Arai T, Aida J. Electron microscopical analysis of different cell types in human pancreatic cancer spheres. *Oncol Letters*, in press. (査読あり)(IF: 1.554)
- Matsuda Y, Seki A, Nonaka K, Kakizaki M, Wang T, Aida J, Ishikawa N, Nakano Y, Kaneda D, Takata T, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Takubo K, Ishiwata T, Sawabe M, Arai T. Clinicopathological characteristics of distant metastases of adenocarcinoma, squamous cell carcinoma and urothelial carcinoma: An autopsy study of older Japanese patients. *Geriatr Gerontol Int*. 2017 Sep 15. (査読あり)(IF:2.351)
- Yokoyama A, Hirata K, Nakamura R, Omori T, Mizukami T, Aida J, Maruyama K, Yokoyama T. Presence of columnar-lined esophagus is negatively associated with the presence of esophageal varices in Japanese alcoholic men. *World J Gastroenterol*. 2017; 23(39): 7150-7159 (査読あり) (IF: 3.365)
- Kishimoto TE, Yashima S, Nakahira R, Onozawa E, Azakami D, Ochiai K, Ishiwata T, Takahashi K, Michishita M. Identification of tumour-initiating cells derived from a canine rhabdomyosarcoma cell line. *The Journal of Veterinary Medical Science* 79(7):1155-1162, 2017 (査読あり)(IF: 0.822)
- Yoshimura H, Yamamoto M, Moriya M, Endo T, Sugiura N, Kato T, Matsuda Y, Ishiwata T, Kajigaya H, Kamiya S. Teratoma of the ovary in a free-ranging Japanese raccoon dog (*nyctereutes procyonoides viverrinus*). *J Zoo Wildl Med*. 2017 ;48 :265-268. (査読あり)(IF: 0.421)
- Matsuda Y, Furukawa T, Yachida S, Nishimura M, Seki A, Nonaka K, Aida J, Takubo K, Ishiwata T, Kimura W, Arai T, Mino-Kenudson M. The Prevalence and Clinicopathological Characteristics of High-Grade Pancreatic Intraepithelial Neoplasia: Autopsy Study Evaluating the Entire Pancreatic Parenchyma. *Pancreas*. 2017;46:658-664. (査読あり) (IF: 2.738)
- Michishita M, Katori Y, Sasaki H, Obara R.D., Furumoto R, Kato M, Nakahira R, Yoshimura H, Soeta S, Ishiwata T, Takahashi K. Cutaneous Angiolymphoid Hyperplasia in a Dog. *Journal of Comparative Pathology*, Jul;157(1): 57-60, 2017 (査読あり) (IF: 1.173)
- Terabe F, Aikou S, Aida J, Yamamichi N, Kaminishi M,

- Takubo K, Seto Y, Nomura S. Columnar metaplasia in three types of surgical mouse models of esophageal reflux. *Cellular and Molecular Gastroenterology and Hepatology* 2017;4:115-123 (査読あり) (IF: 未)
- Kumagai Y, Takubo K, Kawada K, Higashi M, Ishiguro T, Sobajima J, Fukuchi M, Ishibashi KI, Mochiki E, Aida J, Kawano T, Ishida H. A newly developed continuous zoom-focus endocytoscope. *Endoscopy*. Feb;49(2):176-180, 2017 (査読あり) (IF: 5.634)
 - Ishimori M, Michishita M, Yoshimura H, Azakami D, Ochiai K, Ishiwata T and Takahashi K. Disseminated histiocytic sarcoma with hemophagocytosis in a rabbit. *J Vet Med Sci Sep* 12;79(9):1503-1506, 2017. (査読あり) (IF: 0.845)
 - Hagiwara K, Michishita M, Yoshimura H, Ochiai K, Azakami D, Ishiwata T, Takahashi K. Pancreatic Colloid Carcinoma in an Elderly Cat. *Journal of Comparative Pathology* Nov;157(4):266-269, 2017. (査読あり) (IF: 1.214)
 - Aoki Y, Aida J, Kawano Y, Nakamura K, Izumiya-Shimomura N, Ishikawa N, Arai T, Nakamura Y, Taniai N, Uchida E, Takubo K, ★Ishiwata T. Telomere length of gallbladder epithelium is shortened in patients with congenital biliary dilatation: measurement by quantitative fluorescence in situ hybridization. *Journal of Gastroenterology*, Feb;53(2):302-303, 2018. (査読あり), (IF: 4.493)
 - Ueda Y, Ishiwata T, Shinji S, Arai T, Matsuda Y, Aida J, Sugimoto N, Okazaki T, Kikuta J, Ishii M, Sato M. In vivo imaging of T cell lymphoma infiltration process at the colon. *Sci Rep*. Mar 5;8(1):3978, 2018 (IF:4.259).
 - Sasaki N, ★Ishiwata T, Hasegawa F, Michishita M, Kawai H, Matsuda Y, Arai T, Ishikawa N, Aida J, Takubo K, Toyoda M. Stemness and anti-cancer drug resistance in ABCG2 highly expressed pancreatic cancer is induced on 3D-culture condition. *Cancer Sci*(in press), (IF:3.974).
 - Yoshimura H, Matsuda Y, Yamamoto M, Michishita M, Takahashi K, Sasaki N, Ishikawa N, Aida J, Takubo K, Arai T, ★Ishiwata T. Reduced expression of the H19 long non-coding RNA inhibits pancreatic cancer metastasis. *Lab Invest*. (in press), (IF: 4.857)
 - Matsuda Y, Suzuki A, Esaka S, Hamashima Y, Imaizumi M, Kinoshita M, Shirahata H, Kiso Y, Kojima H, Matsukawa M, Fujii Y, Ishikawa N, Aida J, Takubo K, Ishiwata T, Arai T. Telomere length determination by the fluorescent in situ hybridization distinguish malignant and benign cells in cytological specimens. *Cytopathology* (in press) (IF: 2.38)

(2) 総説

- 新井富生, 松田陽子, 関敦子, 野中敬介, 柿崎元恒, 近藤福雄, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行. 食道癌生検検体・内視鏡切除標本の病理診断. *消化器・肝臓内科* 2017;1(4):337-343. (査読なし) (IFなし)
- 新井富生, 松田陽子, 関敦子, 野中敬介, 柿崎元恒, 近藤福雄, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行. 食道上皮性腫瘍に対する免疫組織化学染色 1) 食道腫瘍の免疫染色. *胃と腸* 52(8) : 496-504, 2017 (査読なし) (IFなし)
- ★©Ishiwata T. Role of fibroblast growth factor re-

ceptor-2 splicing in normal and cancer cells. *Frontiers in Bioscience*, 23, 626-639, 2018 (査読あり)(IF: 2.484)

4. Yoshimura H, Matsuda Y, Yamamoto M, Kamiya S, ★ Ishiwata T. Expression and role of long non-coding RNA H19 in carcinogenesis. *Frontiers in Bioscience*, 23, 614-625, 2018 (査読あり)(IF: 2.484)
5. 新井富生、松田陽子、関敦子、野中敬介、柿崎元恒、相田順子、田久保海誉、石渡俊行. こうすればわかる食道接合部の病理 消化器内視鏡2017; 29(9): 1643-1651 (査読なし) (IF なし)
6. 寺井政憲. 再生医療はインプラント治療を凌駕できるか? 日本顎顔面インプラント学会誌 16(1):11-17 2017年4月 (査読あり) (IF なし)
7. ★◎石川直、相田順子、田久保海誉、松田陽子、新井富生、石渡俊行. テロメア短縮と老化および高齢者に好発する疾患との関連 病理と臨床 2018; 36(2): 102-119 (査読なし) (IF なし)
8. 新井富生、松田陽子、関敦子、野中敬介、柿崎元恒、相田順子、石川直、田久保海誉、石渡俊行. 加齢に伴う局所的な炎症 病理と臨床 2018; 36(2): 123-127_ (査読なし) (IF なし)
9. 新井富生、松田陽子、相田順子、田久保海誉、石渡俊行. 高齢者がんの臨床病理学的特徴 月刊「腫瘍内科」2018; 21(2) (査読なし) (IF なし)

3 著書等

1. Takbuo K. Pathology of the Esophagus. Color atlas and textbook. 2017.7. Wiley Tokyo, Tokyo.

神経病理学 (ブレインバンク)

1 学会発表

(1) 海外

1. Murayama S, Motoyama R, Shimizu T, Nakano Y, Fujigasaki J, Sengoku R, Sato K, Takao M: Neuropathological study of two cases with false positive real time quack-induced conversion result of cerebrospinal fluid for prion protein. 93st American Association of Neuropathologists. Garden Grove, CA USA, 2017.6.8-11
2. Murayama S, Sengoku R, Shibukawa M, Kanemaru K, Sato N, Yanagisawa K: Annual Report of Bibank of aging research, a joint project of Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology (TMGHIG) and National Center of Gerontology and Geriatrics (NCGG). Alzheimer's Association International Conference (AAIC 2017). London, England, 2017. 7. 16-20
3. Kuwano R, Hara N, Kikuchi M, Miyashita A, Hatsuta H, Saito Y, Kasuga K, Murayama S, Ikeuchi T: Identification of serum microRNA as a potential biomarker related to the prgression of Alzheimer's disease. Alzheimer's Association International Conference (AAIC 2017). London, England, 2017. 7. 16-20
4. Yamada M, Hamaguchi T, Taniguchi Y, Sakai K, Kitamoto T, Takao M, Murayama S, Iwasaki Y, Yoshida M, Shimizu H, Naiki H, Sanjo N, Mizusawa H: Possible Human-to-Human transmission of cerebral β -Amyloidosis via cadaveric dura matter grafting. Alzheimer's Association International Conference (AAIC 2017). London, England, 2017. 7. 16-20
5. Sengoku R, Shibukawa M, Yamazaki M, Eguchi K, Higashihara M, Kaneda D, Nishina Y, Kanemaru K,

Murayama S: Where Are The Main Lesions That Cause Orthostatic Hypotension In Parkinson's Disease ? 21st International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders. Vancouver Convention Centre, Vancouver, Canada 2017. 6.4-8

6. Shibukawa M, Sengoku R, Yamazaki M, Nishina Y, Kanemaru K, Murayama S : Cathecholamine levels and cardiac MIBG scintigraphy in patients with Parkinson disease without and with orthostatic hypotension. International Society for Autonomic Neuroscience 2017. Winc Aichi, Nagoya, Japan 2017.8.30-9.2
7. Murayama S: The establishment of the next generation brain bank and biobank system for aging research. Advanced School of Neuroscience: the epigenome in aging and neurodegenerative diseases: current state and approaches for a new path to gene discovery and understanding disease mechanism. August 30 to September 6, 2017, San Paulo.
8. Murayama S, Sengoku R, Takada T, Matsubara T, Yamazaki M, Kobayashi M, Sakashita Y, Shibukawa M, Morimoto S, Motoyama R, Hiroyoshi Y, Higashihara M, Nishina Y, Kanemaru K, Yanagisawa K, Saito Y: The Brain Bank for Aging Research Project, Tokyo, Japan. 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan, 2017.9.16-21
9. Sengoku R, Shibukawa M, Morimoto S, Motoyama R, Sunakawa M, Kaneda D, Nishina Y, Kanemaru K, Murayama S: The color of the iris in patients with neuronal intranuclear hyaline inclusion disease will change. 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan, 2017.9.16-21
10. Takata T, Haraguchi T, Yokota O, Chiba Y, Kamada M, Deguchi K, Ueno M, Masaki T, Murayama S: A neuropathological report of familial Amyotrophic lateral sclerosis with an R521S *FUS/TLN3* mutation. 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan, 2017.9.16-21
11. Kanemaru K, Sengoku R, Nishina Y, Murayama S. Relationship between cerebral amyloid angiopathy and CSF biomarkers in Alzheimer's disease. 23th World Congress of Neurology 2017, Kyoto 2017.9.16-21
12. Higashihara M, Sonoo M, Imafuku I, Fukutake T, Sengoku R, Murayama S. Neuralgic Amyotrophy: Different clinical pictures in Japan. 23th World Congress of Neurology 2017, Kyoto 2017.9.16-21
13. Izumi Y, Takata T, Miyamoto R, Kawarai T, Saito Y, Murayama S, Kaji R: AN AUTOPSIED CASE WITH NOVEL MUTATED HEREDITARY DIFFUSE LEUKOENCEPHALOPATHY WITH SPHEROID (HDLS). 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan, 2017.9.16-21
14. Motoyama R, Morimoto S, Tanaka J, Murayama S: Transthoracic echocardiography is useful to detect right-to-left shunt in the elderly. 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan 2017.9.16-21
15. Yamazaki M, Sengoku R, Kanemaru K, Murayama S: Validation of the simple smell identification test for evaluation of olfactory dysfunction in patients with Parkinson's disease. 23th World Congress of Neurology. Kyoto, Japan, 2017.9.16-21
16. Kobayashi M, Shimojima N, Kamba S, Takahashi-Fujigasaki J, Sumiyama K, Enteric nervous system

visualization of Hirschsprung's disease using confocal laser endomicroscopy: ex vivo human trial. DDW 2017, Chicago

17. Murayama S: The Japanese Brain Bank Network and α -synucleinopathy; The spread of Lewy body pathology in the peripheral autonomic nervous system. Seoul National University Hospital Brain Bank Symposim. Seoul, Korea, 2017.12.1
18. Murayama S: Lewy body pathology includes olfactory cells in Parkinson's and related diseases. Seoul National University Hospital Brain Bank Symposim. Seoul, Korea, 2017.12.1

(2) 国内

1. 村山繁雄: Atheromatous Embolization の源流を探る～大動脈血管内視鏡の挑戦～Session I 「Atheromatous Embolizationの概念は大動脈内視鏡でどう変わるか」 I-I 大動脈内視鏡で同定される大動脈プラークの臨床的意義. THE 11th TRANS CATHETER IMAGING FORUM, 大阪, 2017.4.21-22
2. 小林雅邦, 炭山和毅, 樺俊介, 下島直樹, 藤ヶ崎純子: Hirschsprung病における共焦点内視鏡を使った消化管神経叢の可視化に関する検討. 第93回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017. 05.11-13
3. 下島直樹, 小林雅邦, 樺俊介, 藤村匠, 家入里志, 広部誠一, 黒田達夫, 藤ヶ崎純子, 炭山和毅. 共焦点内視鏡によるヒルシュスプルング病腸管の神経ネットワーク可視化に関する研究. 第54回日本小児外科学会学術集会 仙台. 2017. 05.11-13
4. 村山繁雄: アルツハイマー病の神経病理診断基準. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
5. 小林万希子, 平田秀爾, 能重歩, 村山繁雄: 家族性脊髄小脳変性症の家系に発生した、経過2年の進行性筋力低下を示した43歳男性剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
6. 白石朋敬, 仙石鍊平, 土田真吏奈, 高田忠幸, 徳丸阿耶, 金丸和富, 村山繁雄: 誤嚥性肺炎で入院し、急速な意識障害を呈し死亡したパーキンソン病の90歳女性剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
7. 国仲伸男, 佐藤裕子, 梅戸克之, 村山繁雄, 齊藤祐子: 改良ガリアス・ブラーク簡易法のキット化の検討. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
8. 国仲伸男, 佐藤裕子, 梅戸克之, 村山繁雄, 齊藤祐子: ボディン染色に適したプロテイン銀の開発と有用性. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
9. 本山りえ, 中野雄太, 藤ヶ崎純子, 仙石鍊平, 石井賢二, 佐藤克也, 村山繁雄: RT-QuIC法陽性で孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病 (sCJDMV2K) が疑われた前頭側頭型変性症 (FTLD-TDP) の一部剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
10. 藤ヶ崎純子, Nascimento C, Leite Renata EP, Pasqualucci Carlos A, Grinberg Lea T, Jacob-Filho W, Nagahashi M, Suely K, 和泉唯信, 村山繁雄: Neuropathological findings of the 47 autopsied brains from Japanese Brazilians. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
11. 渋川茉莉, 仙石鍊平, 高梨成彦, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 徳丸阿耶, 金丸和富: 特発性正常圧水頭症神経病理検索

システムの構築. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3

12. 金田大太, 高田忠幸, 中野雄太, 石井賢二, 徳丸阿耶, 金丸和富, 仙石鍊平, 島田斉, 佐原成彦, 須原哲也, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄: 進行性核上性麻痺の臨床画像病理関連. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
13. 竹内亮子, 荒木邦彦, 片多史明, 佐藤進, 柴山秀博, 村山繁雄, 福武敏夫: 歩行障害で発症し、進行性核上性麻痺の臨床像を呈した淡蒼球黒質ルイ体萎縮症 (PNLA) の一部剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
14. 中野雄太, 渋川茉莉, 小林万希子, 高田忠幸, 仙石鍊平, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: 徐々に拡大する広範脳梗塞を呈した真性多血症86歳男性剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
15. 永迫友規, 藤野悟央, 内尾直裕, 平賢一郎, 那須涼, 寺尾安生, 清水潤, 辻省次, 國松聡, 高橋美和子, 百瀬敏光, 池村雅子, 村山繁雄, 齊藤祐子: 盗汗で発症し、治療後再発に至った中枢神経浸潤を伴うBurkitt Lymphomaの78歳男性の1剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
16. 栗原正典, 森正也, 櫻井靖久, 佐野輝典, 齊藤祐子, 村山繁雄: EGFRチロシンキナーゼ阻害薬中止後、急速な経過で進行する粟粒性脳転移を認めた1剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
17. 金田大太, 高田忠幸, 中野雄太, 石井賢二, 徳丸阿耶, 金丸和富, 仙石鍊平, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄: 歩行障害と認知症を呈し、病理学的に嗜銀顆粒性変化と進行性核上性麻痺様変化 (PSP-like change) を認めた86歳男性解剖例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
18. 兼坂岳志, 小川倫弘, 赤津裕康, 谷口知恵, 山本左近, 山本孝之, 高尾昌樹, 村山繁雄, 橋詰良夫: 福祉村Brain Bank 2016年次報告. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
19. 田野光敏, 田村未来, 佐藤愛海, 青柳真一, 飯島仁美, 谷津隆之, 諏訪部桂, 木村浩晃, 高橋陽子, 相澤勝健, 赤津裕康, 村山繁雄, 高尾昌樹, 美原盤, 美原恵里, 美原樹: 美原記念病院ブレインバンクからの年次報告 (2016年度). 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
20. 齊藤祐子, 村山繁雄, 柿田明美, 吉田真理, 入谷修司, 横田修, 寺田修司, 大島健一, 矢部博興, 國井泰人, 井上悠輔, 田中紀子, 村田美穂, 水澤英洋: 国立精神・神経医療研究センターブレインバンク 年次報告. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
21. 村山繁雄, 仙石鍊平, 小幡真希, 森島真帆, 高田忠幸, 中野雄太, 藤ヶ崎純子, 齊藤祐子: 高齢者ブレインバンク年次報告. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
22. 北村明日香, 平賢一郎, 新井富生, 池村雅子, 中村文彦, 岩田淳, 清水潤, 村山繁雄, 辻省次: 経過11年の時間的分散や軸索再生像を伴ったアミロイドニューロパチーの76歳男性剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
23. 高田忠幸, 原口俊, 横田修, 鎌田正紀, 出口一志, 村山繁雄: FUS/TLS遺伝子変異 (R521S) を認めた筋萎縮性側索硬化症の親子剖検例の病理学的評価. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3

24. 平田秀爾, 能重歩, 小林万希子, 村山繁雄: MJD家系のALS剖検例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
25. 和泉唯信, 高田忠幸, 宮本亮介, 瓦井俊孝, 齊藤祐子, 村山繁雄, 梶龍児: CSFIR新規変異を認めたhereditary diffuse leukoencephalopathy with spheroid (HDLS) の1例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
26. 山崎幹大, 仙石鍊平, 中野雄太, 徳丸阿耶, 金丸和富, 村山繁雄: 大脳皮質基底核症候群を呈し, 剖検でアルツハイマー病と診断された1例. 第58回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 2017.6.1-3
27. 山崎幹大, 白石朋敬, 仙石鍊平, 小林万希子, 新井富生, 村山繁雄: 脳幹病変で発症後, 約1ヶ月の急速な経過で亡くなった血管内大細胞型B細胞リンパ腫の81歳男性剖検例. 第221回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017.6.3
28. 和泉唯信, 高田忠幸, 織田雅也, 立山義朗, 渡辺千種, 齊藤祐子, 村山繁雄: 無症候の脳梁欠損・脳回形成異常に筋萎縮性側索硬化症を合併した1例. 第116回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.7.1
29. 洪川茉莉, 仙石鍊平, 高田忠幸, 金丸和富, 最勝寺純子, 新井富生, 村山繁雄: 皮膚生検でLewy小体病理を認め, 剖検でパーキンソン病と確定診断しえた86歳男性例. 第116回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.7.1
30. 小林雅邦, 炭山和毅, 樺俊介, 下島直樹, 藤ヶ崎純子: 共焦点内視鏡を用いたHirschsprung病における腸管神経叢の観察. 第104回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2017.6.10-11
31. 白石朋敬, 仙石鍊平, 山崎幹大, 小林万希子, 藤ヶ崎純子, 新井富生, 村山繁雄: 脳幹病変で発症し, 約1ヶ月の経過で急速に進行し死亡した血管内大細胞型B細胞性リンパ腫の81歳男性剖検例. 第116回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.7.1
32. 村山繁雄: (教育講演) 剖検における神経・筋病理の検査法、高齢者ブレインバンクの経験より. 第91回Neuromuscular Conference (NMC), 東京, 2017.7.29
33. Murayama S, Saito Y: Pathogenic mechanism on propagation of alpha-synuclein, a pathological point of view. 第60回日本神経化学学会大会, 仙台, 2017.9.7-9
34. Takahashi-Fujigasaki J: Nuclear domains in neurodegenerative disorders pathologically characterized by presence of nuclear inclusions. シンポジウム「RNA代謝関連細胞小器官と神経疾患」第40回日本神経科学大会. 東京, 2017. 07.20-23
35. Obata M, Murayama S, Takao M, Akatsu Y, Saito Y: 2016 Annual Report of Japanese Brain Bank for Neuroscience Research. The 40th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, 千葉市, 2017.7.20-23
36. 小幡真希, 仙石鍊平, 新井富生, 金丸和富, 村山繁雄: ブレインバンクプロジェクトと在宅医療. 第22回板橋区医師会医学会, 東京, 2017.9.2
37. 白石朋敬, 仙石鍊平, 仁科裕史, 久保田暁, 清水潤, 園生雅弘, 金丸和富, 村山繁雄: 約7年の経過で球症状と筋力低下が緩徐に進行し, ミトコンドリア異常を伴う多発筋炎の診断に至った72歳女性例. 第222回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017.9.2.
38. 松原知康, 織田雅也, 井藤聖, 倉重毅志, 渡邊千種, 立山義朗, 村山繁雄, 和泉唯信: SOD1遺伝子Leu26Ser変異を認めた家族性筋萎縮性側索硬化症の1剖検例. 第45回臨床神経病理懇話会, 米子市, 2017.11.4-5
39. 村山繁雄 (特別講演): 全身疾患としてのレビー小体病、いつ、どこから、どこまで?. 第17回近畿神経変性疾患研究会, 大阪市, 2017.11.10
40. 村山繁雄 (教育講演): プリオン病の神経病理Update. 第35回日本神経治療学会総会. さいたま市, 2017.11.16-18
41. 小幡真希: 死後脳提供ドナー登録者の意識調査研究-病理剖検後にブレインバンク登録したことが高齢遺族のグリーフケアに与える影響 (予備的研究) -. 日本心理臨床学会第36回秋季大会, 横浜市, 2017.11.18-21
42. 村山繁雄: 「Alzheimer's disease: phenotypic variability and its molecular backgrounds」Neuropathological variations in Alzheimer's disease. 第36回日本認知症学会NINPRO-JSDR2017 Joint International Symposium, 金沢市, 2017.11.24-26
43. 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 下地啓五, 亀山征史, 村山繁雄, 齊藤祐子: 認知症を呈する白質脳症: 画像の観点から. 第36回日本認知症学会, 金沢市, 2017.11.24-26
44. 小幡真希, 畠山幸子, 松原知康, 坂下泰浩, 小林万希子, 高田忠幸, 東原真奈, 仙石鍊平, 仁科裕史, 広吉祐子, 森島真帆, 金丸和富, 古田光, 新井富生, 村山繁雄: 「ブレインバンク」ドナー登録者の意識-高齢遺族のグリーフケアにかかる予備的研究-. 第36回日本認知症学会, 金沢市, 2017.11.24-26
45. 金丸和富, 金丸晶子, 仁科裕史, 仙石鍊平, 村山繁雄: レビー小体病における認知機能低下とCSFバイオマーカーとの関連. 第36回日本認知症学会, 金沢市, 2017.11.24-26
46. 土田剛行, 坂内太郎, 野間達雄, 永田健一, 山下聡, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄, 西道隆臣, 牛島俊和, 辻省次, 岩田淳: 神経細胞特異的DNAメチローム解析によるレビー小体病の新規病態の探索. 第36回日本認知症学会, 金沢市, 2017.11.24-26
47. 山崎幹大, 小林万希子, 櫻井圭太, 川嶋乃里子, 仙石鍊平, 村山繁雄: 66歳で発症し経過17年の意味性認知症、83歳男性剖検例-臨床・画像・病理. 第223回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017.12.2.
48. 村山繁雄 (教育講演): オールジャパンブレインバンクネットワークと神経病理専門研修コースの創設-広島拠点の構築に向けて. 第8回日本神経病理学会 中国・四国地方会, 広島市, 2017.12.9
49. 大崎裕亮, 高田忠幸, 森敦子, 宮本亮介, 和泉唯信, 村山繁雄, 梶龍児: Man-in-the-barrel syndromeを併発したsensory neuronopathyの一剖検例. 第8回日本神経病理学会 中国・四国地方会, 広島市, 2017.12.9
50. 小幡真希, 畠山幸子, 木村有希, 松原知康, 坂下泰浩, 小林万希子, 高田忠幸, 山崎幹大, 東原真奈, 広吉祐子, 仙石鍊平, 仁科裕史, 石井賢二, 金丸和富, 古田光, 新井富生, 村山繁雄: 高齢者ブレインバンクプロジェクトと地域医療との連携. 第13回東京都福祉保健医療学会, 東京, 2017.12.14
51. 白石朋敬, 松原知康, 仙石鍊平, 高田忠幸, 山崎幹大, 坂下泰浩, 小林万希子, 藤ヶ崎純子, 多胡哲郎, 豊原潤, 石井賢二, 金丸和富, 村山繁雄: 18F-THK5351 PETで錐体路に沿った集積を認めた膠芽腫の一剖検例. 第117回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.12.16
52. 和泉唯信, 高田忠幸, 宮本亮介, 野寺裕之, 瓦井俊孝, 川上秀史, 村山繁雄, 梶龍児: 高齢発症のOptineurin E478G変異を認める筋萎縮性側索硬化症の1例. 第117回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.12.16

53. 山寺みさき, 齊藤利雄, 藤村晴俊, 村山繁雄: 経過61年の脊髄性筋萎縮症II型男性例, 第117回関東臨床神経病理懇話会. 東京, 2017.12.16
54. 福本竜也, 赤池瞬, 徳本健太郎, 戸村正樹, 田島和江, 竹内亮子, 片多史明, 佐藤進, 柴山秀博, 村山繁雄, 福武敏夫: 特発性CD4陽性リンパ球減少症に進行性多巣性白質脳症を合併した経過約10年の66歳男性剖検例. 第117回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.12.16
55. 白石朋尊, 坂下泰浩, 仁科裕史, 仙石鍊平, 石井賢二, 徳丸阿耶, 金丸和富, 村山繁雄: V1801変異Creutzfeldt-Jakob病の86歳女性剖検例-18F THK5351PETによる検討. 第224回日本関東・甲信越地方会, 東京, 2018.3.3
56. 金丸和富, 仙石鍊平, 仁科裕史, 村山繁雄. レビー小体型認知症における脳アミロイドアンギオパチーと脳脊髄液バイオマーカーとの関連. 第43回日本脳卒中学会学術集会. 福岡. 2018. 3. 16
57. 高田忠幸, 広吉祐子, 坂下泰浩, 松原知康, 山崎幹大, 仙石鍊平, 金丸和富, 村山繁雄: 息切れ, 易疲労感で発症し, 急速に呼吸困難が進行した筋萎縮性側索硬化症の一例. 第118回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2018.3.17
58. 松原知康, 中地亮, 諏訪園秀吾, 熱海恵理子, 渡嘉敷崇, 城戸美和子, 瓦井俊孝, 和泉唯信, 梶龍兒, 吉田眞理, 村山繁雄: 沖縄型神経原性筋萎縮症 (HMSN-P) の一剖検例. 第118回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2018.3.17
59. 坂下泰浩, 大熊秀彦, 宇崎崎宏, 福里利夫, 園生雅弘, 村山繁雄: 急速進行性の認知機能低下を呈し, 診断基準上 probable CJDを満したが, プリオン蛋白免疫染色で陽性所見を認めなかった一例. 第118回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2018.3.17
- in patients with amyotrophic lateral sclerosis/parkinsonism-dementia complex from the kii peninsula, Japan. *Brain Pathol* 2018 Mar;28(2):287-291. doi: 10.1111/bpa.12500.
6. Morimoto S, Hatsuta H, Komiya T, Kanemaru K, Tokumaru A. M, Murayama S: Simultaneous skin-nerve-muscle biopsy and abnormal mitochondrial inclusions in intranuclear hyaline inclusion body disease. *J Neurol Sci* 2017; 372: 447-449. doi: 10.1016/j.jns.2016.10.042.
7. Morimoto S, Takao M, Hatsuta H, Nishina Y, Komiya T, Sengoku R, Nakano Y, Uchino A, Sumikura H, Saito Y, Kanemaru K, Murayama S: Homovanillic acid and 5-hydroxyindole acetic acid as biomarkers for dementia with Lewy bodies and coincident Alzheimer's disease: An autopsy-confirmed study. *PLoS One* 2017; 12(2): e0171524. doi: 10.1371/journal.pone.0171524. eCollection 2017.
8. Kokubo Y, Banack SA, Morimoto S, Murayama S, Togashi T, Metcalf JS, Cox PA, Kuzuhara S: beta-N-methylamino-l-alanine analysis in the brains of patients with Kii ALS/PDC. 2017, *Neurology* 89(10): 1091-1092.
9. Murayama S: The Brain Bank for Aging Research. Retrieved July 5, 2017, from www.mci.gr.jp/BrainBank/.
10. Sabbagh MN, Schauble B, Anand K, Richards D, Murayama S, Akatsu H, Takao M, Rowe CC, Masters CL, Barthel H, Gertz HJ, Peters O, Rasgon N, Jovalekic A, Sabri O, Schulz-Schaeffer WJ and Seibyl J: Histopathology and Florbetaben PET in Patients Incorrectly Diagnosed with Alzheimer's Disease. *J Alzheimers Dis* 2017; 56(2): 441-446. doi: 10.3233/JAD-160821.
11. Sakurai K, Tokumaru AM, Shimoji K, Murayama S, Kanemaru K, Morimoto S, Aiba I, Nakagawa M, Ozawa Y, Shimohira M, Matsukawa N, Hashizume Y and Shibamoto Y: Beyond the midbrain atrophy: wide spectrum of structural MRI finding in cases of pathologically proven progressive supranuclear palsy. *Neuroradiology*. 2017; 59(5): 431-443. doi: 10.1007/s00234-017-1812-4
12. Sano K, Atarashi R, Satoh K, Ishibashi D, Nakagaki T, Iwasaki Y, Yoshida M, Murayama S, Mishima K, Nishida N : Prion-Like Seeding of Misfolded alpha-Synuclein in the Brains of Dementia with Lewy Body Patients in RT-QUIC. *Mol Neurobiol*. 2018 May;55(5):3916-3930. doi: 10.1007/s12035-017-0624-1
13. Yamamoto T, Murayama S, Takao M, Isa T, Higo N : Expression of secreted phosphoprotein 1 (osteopontin) in human sensorimotor cortex and spinal cord: Changes in patients with amyotrophic lateral sclerosis. *Brain Res*; 2017; 1655: 168-175. DOI: 10.1016/j.brainres.2016.10.030
14. Kobayashi M, Sumiyama K, Shimojima N, Shimojima N, Ieiri S, Okano H, Kamba S, Fujimura T, Hirobe S, Kuroda T, Takahashi-Fujigasaki J : Technical Feasibility of Visualizing Myenteric Plexus Using Confocal Laser Endomicroscopy. *J Gastroenterol Hepatol*. 2017 Sep;32(9):1604-10
15. Araki W, Hattori K, Kanemaru K, Yokoi Y, Omachi Y, Takano H, Sakata M, Yoshida S, Tsukamoto T, Murata M, Saito Y, Kunugi H, Goto Y, Nagaoka U, Nagao M, Komori T, Arima K, Ishii K, Murayama S, Matsuda H, Tachimori H, Araki YM, Mizusawa H: Re-evaluation of soluble APP-alpha and APP-beta in cerebrospinal fluid

2 誌上発表

(1) 原著

1. Akasaka-Manyu K, Kawamura M, Tsumoto H, Saito Y, Kitazume S, Hatsuta H, Miura Y, Hisanaga S, Murayama S, Hashimoto Y, Manyu H, Endo T: Excess APP O-glycosylation by GalNAc-T6 decreases A β production. *J Biochem*. 2017, 161 (1): 99-111. doi: 10.1093/jb/mvw056.
2. Dzamko N, Gysbers AM, Bandopadhyay R, Bolliger MF, Uchino A, Zhao Y, Takao M, Wauters S, van de Berg WD, Takahashi-Fujigasaki J, Nichols RJ, Holton JL, Murayama S, Halliday GM: LRRK2 levels and phosphorylation in Parkinson's disease brain and cases with restricted Lewy bodies. *Mov Disord*. 2017; 32(3): 423-432. doi: 10.1002/mds.26892.
3. Hara N, Kikuchi M, Miyashita A, Hatsuta H, Saito Y, Kasuga K, Murayama S, Ikeuchi T, Kuwano R: Serum microRNA miR-501-3p as a potential biomarker related to the progression of Alzheimer's disease. *Acta Neuropathol Commun*. 2017; 5(1):10. doi: 10.1186/s40478-017-0414-z
4. Honma N, Saji S, Mikami T, Yoshimura N, Mori S, Saito Y, Murayama S, Harada N: Estrogen-Related Factors in the Frontal Lobe of Alzheimer's Disease Patients and Importance of Body Mass Index. *Sci Rep*. 2017; 7 (1): 726. doi: 10.1038/s41598-017-00815-3.
5. Morimoto S, Hatsuta H, Kokubo Y, Nakano Y, Hasegawa M, Yoneda M, Hirokawa Y, Kuzuhara S, Shiraiishi T, Murayama S: Unusual tau pathology of the cerebellum

- as potential biomarkers for early diagnosis of dementia disorders. *Biomark Res.* 2017; 5: 28.
16. Wang T, Matsuda Y, Seki A, Nonaka K, Kakizaki M, Kaneda D, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Arai T:(2017). "Carbohydrate antigen 19-9- positive gastric adenocarcinoma: autopsy findings and review of the literature. *Case Rep Gastroenterol.* 2017; 11(3): 545-553.
 17. Matsuda Y, Seki A, Nonaka K, Kakizaki M, Wang T, Aida J, Ishikawa N, Nakano Y, Kaneda D, Takata T, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Takubo K, Ishiwata T, Sawabe M, Arai T: Clinicopathological characteristics of distant metastases of adenocarcinoma, squamous cell carcinoma and urothelial carcinoma: An autopsy study of older Japanese patients. *Geriatr Gerontol Int.* 2018 Feb;18(2):211-215. doi: 10.1111/ggi.13165
 18. Uchino A, Ogino M, Takahashi-Fujigasaki J, Oonuma S, Kanazawa N, Kajita S, Ichinoe M, Hasegawa M, Nishiyama K, Murayama S: Pathological and immunoblot analysis of phosphorylated TDP-43 in sporadic amyotrophic lateral sclerosis with pallido-nigro-luysian degeneration. *Neuropathology.* 2018 Apr;38(2):171-178. doi: 10.1111/neup.12430.
 19. Morimoto S, Hatsuta H, Motoyama R, Kokubo Y, Ishiura H, Tsuji S, Kuzuhara S, Murayama S: Optineurin Pathology in the Spinal Cord of Amyotrophic Lateral Sclerosis/Parkinsonism-Dementia Complex Patients in Kii Peninsula, Japan." *Brain Pathol.* 2017 Sep 27. doi: 10.1111/bpa.12558. [Epub ahead of print] No abstract available. PMID: 28960710
 20. Kimura H, Takao M, Suzuki N, Kanemaru K, Mihara B, Murayama S: Pathologic Study of Intracranial Large Artery Atherosclerosis in 7260 Autopsy Cases. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 2017 Dec;26(12):2821-2827. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2017.06.056.
 21. Mano T, Nagata K, Nonaka T, Tarutani A, Imamura T, Hashimoto T, Bannai T, Koshi-Mano K, Tsuchida T, Ohtomo R, Takahashi-Fujigasaki J, Yamashita S, Ohyagi Y, Yamazaki R, Tsuji S, Tamaoka A, Ikeuchi T, Saido CT, Iwatsubo T, Ushijima T, Murayama S, Hasegawa M, Iwata A: Neuron-specific methylome analysis reveals epigenetic regulation and tau-related dysfunction of BRCA1 in Alzheimer's disease. *Proc Natl Acad Sci U S A.*, 2017 Nov 7;114(45):E9645-E9654. doi: 10.1073/pnas.1707151114.
 22. Kakuda N, Miyasaka T, Iwasaki N, Nirasawa T, Wada-Kakuda S, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Ihara Y, Ikegawa M : Distinct deposition of amyloid-beta species in brains with Alzheimer's disease pathology visualized with MALDI imaging mass spectrometry. *Acta Neuropathol Commun .* 2017; 5(1): 73.
 23. Zhao Y, Perera G, Takahashi-Fujigasaki J, Mash DC, Paul J, Vonsattel G, Uchino A, Hasegawa K, Nichols RJ, Holton JL, Murayama S, Dzamko N, Halliday GM : Reduced LRRK2 in association with retromer dysfunction in postmortem brain tissue from LRRK2 mutation carriers. *Brain*, 141(2): 486-495. 2018; 10.292(2017)
 24. Nishioka M, Bundo M, Ueda J, Katsuoka F, Sato Y, Kuroki Y, Ishii T, Ukai W, Murayama S, Hashimoto E, Nagasaki M, Yasuda J, Kasai K, Kato T, Iwamoto K: Identification of somatic mutations in postmortem hu-

man brains by whole genome sequencing and their implications for psychiatric disorders. *Psychiatry Clin Neurosci* 2018 Apr;72(4):280-294. doi: 10.1111/pcn.12632.

25. 長谷川文雄, 村山繁雄: 成人型エオジン好性核内封入体病の診断電子顕微鏡所見の有用性. *検査と技術*, 2014; 45(11): 1286-1290

(2) 総説

1. 村山繁雄, 齊藤祐子: IV. 神経系 1. 末梢神経. *病理と臨床*, 2017; 35 (臨時創刊号) : 61-70

3 著書

1. 岩瀬博太郎, 岡田隆夫, 川上嘉明, 小林武彦, 村山繁雄: 「死」と「生」の境界線 死とは何か? 寿命をのばすことは可能なのか?. *ムック Newton*, 2017(9月); 37 (13): 114-121

受賞

高齢者がん

1. 新井富生, 松田陽子, 関敦子, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行 (協力研究員、専門副部長、非常勤研究員、研究部長)日本病理学会B演説、大腸癌様癌とそれに関連するマイクロサテライト不安定性を示す大腸癌の病理学的特徴、平成29年11月3日

神経画像研究チーム

チームリーダー：石井 賢二

1 研究チームの概要・目的

ポジトロン断層法（PET）を用いて加齢及び高齢者特有の疾患、特に認知症の脳の病態生理を明らかにすること、また、がんの病態を適切に診断するため、これまで開発してきたPET診断法をベースにして新しい診断法を開発することを目的とする。これらの研究は認知症の早期診断・病態診断や高齢者ががんの病態診断、また様々な介入や治療効果に科学的根拠を与えるなど、センターの重点医療に貢献する。

脳機能研究テーマでは、主に新規PET薬剤の開発と初期臨床試験と応用、有用な薬剤の導入とそれらの新しい臨床課題への応用、PETデータ解析法の開発等を行う。

本中期計画では、アミロイドイメージング・タウイメージングに加えて、認知機能と関連が深いとされる神経伝達機能や神経炎症、神経可塑性・神経保護作用に着目したトレーサーの新規開発ならびに導入を行い、認知症や神経・精神疾患の病態生理研究へ展開する。また、がん診断に関しては、4DSTによるDNA合成能イメージングの多施設共同研究を進め、実用化と普及を目指したフッ素18標識化合物によるDNA合成能イメージング剤の開発を行う。さらに、高齢者ががんの病態に深く関与すると考えられる性ホルモンに着目したトレーサー、ミクログリア活性亢進を検出するトレーサー、薬剤耐性などに関与するp-glycoproteinを標識するトレーサーなどの新規開発を行い、病態生理研究へ展開する。

一方、PET画像診断テーマでは、臨床的に有用性が確立されたPET診断法を、センター病院や外部の医療研究機関等と連携し、一般診療への橋渡しになり、かつ直接的に成果が社会に還元されるような研究を担う。

本中期計画では、認知症の超早期診断および発症予防を可能とする画像バイオマーカーを確立す

る。アルツハイマー病に対しては、アミロイドPETを軸とし、軽度認知障害レベルでの診断を確立する。病院神経内科・放射線診断科・ブレインバンクと密接に連携し、臨床画像病理相関研究として展開する。また、前臨床期での発症予測法を開発するために、健常者の追跡及びバイオリソース蓄積を行う。非アルツハイマー型認知症疾患として頻度の高いLewy小体病、タウオパチーの評価法を標準化し、早期診断や治療法開発に寄与する。

2 今後の展望

神経画像研究チームは、常勤研究スタッフ6名の小さな研究グループであるが、放射性薬剤開発研究、動物を用いた基礎研究、撮像技術研究、データ解析研究、臨床応用研究と、専門性の異なるスタッフがPET科学の全分野をカバーし、迅速に研究を計画展開できることが特徴であり、国内でも有数の研究PET施設として高い研究アクティビティを維持している。

PETはトレーサー（診断薬）開発の自由度が高く、モデル動物・ヒト・病理標本を同じトレーサーを用いて評価することが可能であり、様々な臓器の病態生理研究を基礎から臨床へつなぐプラットフォームとして、研究を加速することができる。重点医療を中心とした研究テーマに基礎・臨床および病理研究グループと連携を取りながら研究を進める。

近年認知症の病態研究と疾患修飾薬開発が加速しており、その前提となるアミロイドイメージング、タウイメージングなどの画像バイオマーカーを確立する研究とアミロイド β やタウなどを標的とした疾患修飾薬開発にも積極的に取り組む。また、オリジナルのDNA合成イメージング剤である4DSTの実用化研究、性ホルモンや薬剤耐性機序を標的としたトレーサーの新規開発なども行い、高齢者ががん診断や各種病態生理研究への展開を図る。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

脳機能

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
認知症トレーサーの新規開発・導入	TSPOリガンド開発	TSPOリガンド選択	TSPO臨床使用開始	TSPO定量的解析法確率	TSPO臨床研究（加齢・変性疾患）	TSPO診断意義解明
	ITMM-mGluR1イメージング	ITMM定量解析法確立・加齢研究	ITMM臨床研究（加齢・変性疾患）	ITMM臨床研究（変性疾患）	ITMM診断意義の解明	ITMM応用（他疾患）
	新規リガンドの探索・導入	新規リガンドの探索	新規リガンド選択	新規リガンド（初期評価）	新規リガンド（有効性評価）	新規リガンド（前臨床）

がん診断用 トレーサー の新規開 発・導入	4DST臨床研究	4DST臨床研究	4DST臨床研究	4DST臨床研究	4DST臨床研究	4DST臨床研究
	F-4DST開発	F-4DST合成研究	F-4DST評価研究	F-4DST候補化合 物選択	F-4DST有効性評 価	F-4DST前臨床
	FES臨床開始	FES製造法確立	FES臨床承認	FES初期臨床	FES定量解析方確 立	FES臨床研究（乳 がん）
	ステロイドリガンド 開発	ステロイドリガンド 合成研究	ステロイドリガンド 評価研究	ステロイドリガンド 候補化合物選択	ステロイドリガンド 有効性評価	ステロイドリガンド 前臨床

PET画像診断

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1. 認知症の 超早期診断 および発症 予防を可能 とする画像 バイオマー カーの確立	1. 認知症発症阻止に向けた 超早期診断法・発症予測法の 確立と早期病態研究	・ ¹⁸ F標識アミロ イド診断薬の臨 床導入 ・アミロイドPE T画像病理対応 の検討 ・健常老年者追 跡	・ ¹⁸ F標識アミロ イド診断薬による AD臨床研究 ・MCI due to AD診断法確立 ・健常老年者追 跡	・ ¹⁸ F標識アミロ イド診断薬による AD臨床研究 ・健常老年者追 跡	・ ¹⁸ F標識アミロ イド診断薬による AD臨床研究 ・健常者におけ るAD発症予測 法の開発	・認知症の発症 予測及び早期診 断の総合的診断 体系化
	2. 老年者で頻度の高い非アル ツハイマー病疾患の診断 体系を構築する。	・Lewy小体病と タウオパチーの 評価法標準化	・Lewy小体病と タウオパチー症 例蓄積と解析	・Lewy小体病と タウオパチー症 例蓄積と解析	・Lewy小体病と タウオパチーの 診断体系化	・認知症の発症 予測及び早期診 断の体系化
2. PET診断 技術の臨床 研究への応 用	1. PET診断技術を、老化や 老年病臨床研究の中核的技 術としてセンター内外と共 同研究を推進。またチャレン ジングな症例に対する診断 法として提供。	・アミロイドPET、FDG-PET、ドパミンPET、などを活用した高度診断技術の提供 ・探索的病態研究や老化研究への応用 ・他のモダリティ診断技術のPETによるvalidation ・新しい治療法や予防介入法の効果判定				
3. アルツハ イマー病克 服に向けた 国際研究に 参画する。	1. アミロイドイメージング の多施設研究を推進。特に評 価法の標準化や臨床使用ガ イドラインの策定などを推 し進める。	・国内の認知症画像研究の推進 ・普及型アミロイド診断薬・根本治療薬治験の促進 ・World-Wide ADNIにおける多施設国際認知症研究に参画（J-ADNI1、J-ADNI2、 AMEDプレクリニカルAD研究、DIAN-J研究の遂行）				

脳機能

構成メンバー

テーマリーダー：豊原潤

研究員：坂田宗之、多胡哲郎

非常勤研究員：石渡喜一、三品雅洋、日浦幹夫、
木村裕一、成相直、山本由美

1 第二期中期計画の研究成果

認知症トレーサーの研究では、神経炎症に伴い活性化するミクログリアで発現が亢進するミトコンドリア外膜に発現する膜タンパク質（TSPO）に対するリガンドCB184の世界初の臨床応用を達成し、健常成人男性での定量解析と被ばく線量評価の後、神経炎症を対象とした臨床研究を実施した。現在までのところ、TSPO診断意義の解明には至っていない。ITMM mGluR1イメージングは、健常成人における加齢変化と性差に関する検討を行い、女性ではmGluR1密度の加齢変化は認められず、男性では、加齢に伴い小脳や海馬などでmGluR1密度が増大する事を見出した。脊髄小脳変性症ではmGluR1の

密度が低下する事を見出し、その感度がFDGやMRIより優れる事を明らかにした。また、パーキンソン病では小脳半球と頭頂葉・側頭葉でmGluR1密度の低下を認めるが、運動症状との関連を認めない事を見出した。ITMM mGluR1イメージングの診断意義は、小脳における変性疾患の鋭敏なマーカーであると考えられた。認知症の新規リガンドとして、¹⁸F標識アミロイドトレーサー[¹⁸F]Flutemetamolと[¹⁸F]AV-45、タウイメージング剤として[¹¹C]PBB3、[¹⁸F]THK5351を導入した。さらに次世代タウイメージング剤として[¹⁸F]MK6240の導入に着手した。PET薬剤の製造体制のグローバル化を目指し、学会製造施設認証、米国DIAN基準の製造施設承認、治験薬GMP準拠施設として受託製造施設承認を得た。新規リガンドの探索では、アデノシンA_{2A}受容体リガンド¹¹C-preladenantの世界初のヒトでの臨床応用を達成した。また、糖尿病を伴う高齢者の認知症診断を目的としたPET診断用の脳血流イメージング剤 [¹¹C]MMP、血液脳関門のP糖タンパク質（P-gp）機能亢進を画像化するリガンド（R）-[¹¹C]Emopamilと¹⁸F標識薬剤の[¹⁸F]MC225、神経変性疾

におけるエピジェネティックな変化を捉えるマーカーとして、HDAC6結合リガンドのTubastatinA誘導体の開発を行った。高齢者ブレインバンク・神経病理と共同でヒト死後脳を用いたPET薬剤の集積機序の解明や薬剤開発を実施した。がん診断用トレーサーの新規開発・導入では、DNA合成イメージング剤4DSTの多施設共同研究を進め、脳腫瘍、頭頸部癌、肺癌、多発性骨髄腫、腎癌での有用性を見出した。一方、4DSTの¹⁸F標識化合物については臨床使用に至る化合物を見いだすことはできなかった。エストロゲン受容体を画像化する[¹⁸F]FESの臨床使用を可能としたが、臨床応用には至らなかった。また、新規ステロイドリガンドとして7位標識エストロゲンならびにアンドロゲン誘導体の開発を試み新規化合物として特許出願を行った。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜認知症トレーサーの新規開発導入：TSPO リガンド開発＞

PET画像診断研究、記憶神経科学研究、福島県立医大生体機能イメージング講座、筑波大学医学医療系、都立駒込病院脳神経内科

＜認知症トレーサーの新規開発導入：ITMM mGluR1イメージング＞

PET画像診断研究、福島県立医大生体機能イメージング講座、放射線医学総合研究所標識薬剤開発部、日本医科大学脳病態解析学講座、東京医科歯科大学長寿・健康人生推進センター、都立駒込病院脳神経内科

＜認知症トレーサーの新規開発導入：新規リガンドの探索・導入＞

PET画像診断研究、神経病理学研究、薬剤科、神経内科、脳卒中科、放射線診断科、福島県立医大生体機能イメージング講座、東北大学加齢医学研究所、東北大学サイクロトロンラジオアイソトープセンター、東北医科薬科大学医学部、放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部、フローニンゲン大学医療センター

＜がん診断用トレーサーの新規開発・導入：4DST臨床研究＞

国立国際医療研究センター病院放射線核医学科、総合南東北病院放射線科、香川大学医学部放射線医学教室、東京医科歯科大学脳神経機能外科

＜がん診断用トレーサーの新規開発・導入：F-4DST開発＞

株式会社ナード研究所コーポレート研究部

＜がん診断用トレーサーの新規開発・導入：FES臨床開始＞

福島県立医大生体機能イメージング講座

＜がん診断用トレーサーの新規開発・導入：ステロイドリガンド開発＞

国立国際医療研究センター研究所代謝疾患研究部、福島県立医大生体機能イメージング講座

3 今後の展望

認知症トレーサーの新規開発導入：新規リガンドの探索・導入

第三期計画期間においても引き続き治験薬GMP準拠施設として、アルツハイマー病治療薬の治験のためのバイオマーカーとしてのFMM（PET治験薬）の製造と出荷を行う。

タウイメージング剤のoff-target bindingの問題を解決するため、off-target bindingが極めて少ない[¹⁸F]MK6240を導入し、国際共同研究への貢献をする。また、アルツハイマー病治療薬のグローバル治験に対応するため、治験薬GMPでの製造法を確立する。

第二期中期計画の期間中に開始し臨床使用が可能となったアデノシンA_{2A}受容体リガンド[¹¹C]preladenantのPET計測法におけるバリデーション（test-retest試験、薬剤負荷試験）を行い、受容体占拠率の測定など製薬企業との共同研究の方向性を探る。

第二期中期計画の期間中に開始した血液脳関門のP糖タンパク質（P-gp）機能亢進を画像化する[¹⁸F]MC225のPET薬剤委員会での承認と世界初の臨床試験（first-in human study）を達成する。本研究はオランダとの国際共同研究として展開する。

TMIGオリジナル研究の、糖尿病を伴う高齢者の認知症診断を目的としたPET診断用の脳血流イメージング剤[¹¹C]MMPならびに神経変性疾におけるエピジェネティックな変化を捉えるマーカー（HDAC6）に着目したPET薬剤の基礎研究を進め、臨床使用可能な候補化合物を得る。候補化合物が得られた時点で、特許化ならびにPET診断薬メーカーとの共同開発の方向性を探る。

高齢者ブレインバンク・神経病理と共同で引き続きヒト死後脳を用いたPET薬剤の集積機序の解明や薬剤開発を継続する。

平成28年度より継続中のJST委託事業「新規PETリガンド開発のプラットフォームとしての新しい標識合成技術の開発」を継続し、PET薬剤自動合成装置の実用化（製品化）を企業と共同で行う。

PET画像診断

構成メンバー

テームリーダー：石井賢二

研究員：石橋賢士、我妻慧

非常勤研究員：織田圭一、鈴木幸久、稲次基希、
三浦清美（看護師）、
横山きみ子（看護師）、
佐藤弘子（事務）

1 第二期中期計画の研究成果

アミロイドイメージング実用化研究を推進した。わが国初の[C-11]PiB画像病理相関解析を報告し、視覚的読影法と定量解析法を確立した。[F-18]Florbetabenのグローバル治験に参画し画像病理解析と読影法の最適化を行った。[F-18]Flutemetamolと[F-18]Florbetapirを用いた臨床研究を開始し、診療における適正使用と普及を促進した。

縦断的加齢画像データベース構築の目的で、233名の健常老年者に延べ1330件のFDG-PET/3D MRI検査を実施した。10年・8回以上の経時画像観察を実施した被験者が100名を超え、継続中である。経過中に認知機能が低下した被験者の後方視的解析から、わずかな認知機能低下が検出される3年前からFDG-PETでは既に代謝低下が認められ、発症予測の可能性が示唆された。心理・生活指標との相関解析から、歩行速度や外出頻度の低下は前頭葉機能低下と相関する等、フレイルの背景に脳機能低下が先行することを明らかにした。また、ボランティア活動による介入は海馬萎縮の進行を抑制することを見出した。

非アルツハイマー(AD)型認知症の診断体系構築の目的で、タウPET診断薬 [C-11]PBB3と[F-18]THK5351を導入し臨床研究を開始した。PBB3は感度と特異性が悪く、用途はアミロイド陰性が確認された非AD疾患評価に限定される。THK5351はMAO-Bへの非特異的結合があるため、やはりタウ結合特異性は低いが、グリアマーカーとして新たな病態評価に使えることが分かった。これらより優れた性質を持つタウPET診断薬 [F-18]MK6420の導入準備を始めた。

各種脳疾患の病態研究にPETの応用を図り、糖代謝と認知機能の関連を明らかにするなど多くの成果を得た。病院整形外科、膠原病科、放射線診断科と共同でトランスレーショナルリサーチを実施した。

わが国の認知症研究のリーダーとして、多施設研究やグローバル治験に積極的に参画した。オールジャパン認知症観察研究であるJ-ADNI/J-ADNI2、AMEDプレクリニカル研究、DIAN-J研究では石井がアミロイドPET主任研究者として研究を推進した。疾患修飾薬治験では、3種の抗アミロイド抗体、2種のBACE阻害剤のグローバル治験を実施。FDG-PETの認知症診断に対する適用拡大を目指す先進医療B（SDAF-PET研究）にも参画している。

現状の認知症診療におけるアミロイドPET診断の適正使用を図る目的で、「アミロイドPETイメージング剤適正使用ガイドライン」を石井が座長として3学会（日本認知症学会、日本神経学会、日本核医学会）合同で取り纏め発表した（2015年4月20日に初版、2017年10月5日に改訂第2版）。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜認知症トレーサーの新規開発・導入：¹¹C-CB184の臨床研究＞

脳機能、筑波大学、駒込病院

＜認知症トレーサーの新規開発・導入：¹¹C-ITMMの臨床研究＞

脳機能、放射線診療科、放射線医学総合研究所、日本医科大学、東京医科歯科大学、駒込病院

＜認知症トレーサーの新規開発・導入：¹¹C-Preladenantの臨床研究＞

脳機能、Groningen医療センター、福島県立医科大学、日本医科大学、東京慈恵会医科大学

＜認知症臨床画像病理連携＞

脳機能、神経病理（ブレインバンク）、神経内科、脳卒中科、精神科、放射線診断科

＜¹¹C-PBB3によるタウイメージング臨床研究＞

脳機能、神経病理（ブレインバンク）、神経内科、脳卒中科、放射線医学総合研究所

＜認知症診断薬の新規開発・導入：¹⁸F-THK5351の臨床研究＞

脳機能、神経病理（ブレインバンク）、薬剤科、脳卒中科、神経内科、放射線診療科、東北大学

＜SDAF-PET試験：FDG-PETの認知症診断への有用性を検証する先進医療B＞

脳機能、神経内科、脳卒中科、放射線診断科、国立長寿医療研究センター

＜AMEDプレクリニカルAD研究＞

脳機能、神経病理（ブレインバンク）、神経内科、脳卒中科、放射線診断科、大阪市立大学ほか全国40機関

＜AMED DIAN-J研究＞

脳機能、大阪市立大学、弘前大学、東京大学、新潟大学、先端医療センター

＜AMED認知症レジストリー研究＞

脳機能、社会参加、老化予防、国立長寿医療研究センター

＜AMED血液バイオマーカー研究＞

脳機能、国立長寿医療研究センター、近畿大学

＜高齢者画像追跡研究＞

社会参加と地域保健研究チーム、自立促進と介護予防研究チーム

＜Na[¹⁸F]Fの整形外科領域への応用（TR課題）＞

脳機能、整形外科、放射線診断科
 <PET撮像技術の開発研究>
 放射線診断科
 <PETの脳神経外科領域への応用>
 脳機能、東京医科歯科大学脳神経外科、東京脳神経センター病院脳神経外科、新百合ヶ丘総合病院脳神経外科
 <PETの神経内科領域への応用>
 脳機能、日本医科大学、東京慈恵会医科大学、昭和大学、順天堂大学、筑波大学、東京女子医科大学
 <PETの神経眼科領域への応用>
 脳機能、東京医科歯科大学、井上眼科病院
 <PETの脳生理学研究への応用>
 脳機能、法政大学、東京医科歯科大学
 <点線源を用いたPET性能試験法の開発>
 北里大学
 <PET画像再構成法が診断に及ぼす影響の研究>
 国際医療福祉大学
 <糖尿病性認知症の研究>
 脳機能、東京医科大学
 <NAT（脳波3次元パワー解析）とPETの比較>
 脳機能研究所

3 今後の展望

(1) 認知症の超早期診断および発症予防を可能とする画像バイオマーカーの確立

① [F-18]標識のアミロイドPET診断薬を用いた早期診断法の開発を引き続き行う。研究に広く使われた[C-11]PiBと診断薬として販売されている[F-18]Florbetapir、[F-18]Flutemetamol、[F-18]Florbetabenの3剤は、陽性/陰性の視覚判定により、アルツハイマー病と病理診断できるレベルの老人斑が存在するかどうかを見ており、その意義だけが確立されている。しかしそれよりも早期あるいは、複数の治療介入ポイントを設定する場合には、より感度の高い診断薬を用い、定量評価と病理との対応関係を確立する必要がある。各種アミロイドPET画像の所見と臨床症状、病理診断の両面から相関を検討する。これまでの臨床・病理データを活用できる一方で、新たなアミロイドPET診断薬の画像データおよび剖検症例を蓄積する必要がある。

② 非アルツハイマー型認知症の診断体系の構築としてタウイメージング診断技術の実用化と検証を行う。感度の高い[F-18]MK6240を導入し臨床研究を開始する。非ADタウオパチーに感度・特異性の優れた診断薬であるかどうかを検討する。タウ病理は、神経細胞だけではなくグリア細胞にも多彩に存在する。このため、

これまで神経細胞機能の評価一辺倒であったPET診断を、グリア機能評価の観点で再構築する。ミクログリアの活性をみるTSPO診断薬の臨床開発を続けると共に、アストロサイト活性を反映する[F-18]THK5351を活用して病態診断を行う。

③ 健常高齢者100名の追跡は、可能な限り継続して行う。既に取得したデータの詳細な解析を行い、縦断的な画像データから加齢変化を明らかにする。これまでボランティアベースであったため、被験者の7割が女性であった。男性を追加し、年齢性別のバランスを考慮して再構築すると共に、アミロイドPETを含めたバイオマーカー情報を付加する。バイオマーカー情報のある被験者のリソースは貴重であり、さまざまな探索的研究や介入研究と連携できるように、倫理的課題とリソースの管理体制を調整し、研究を推進する。

(2) PET診断技術の臨床研究への応用

これまで脳疾患を中心とした臨床研究を実施してきたが、今後も脳画像研究は当テーマの主要課題であり、関連臨床科と連携して高齢者に頻度の高い血管障害、腫瘍、てんかん等の病態解明や治療法開発に直結する診断技術の応用を目指す。また、病院放射線診断科と連携して、全身の診断への応用にも研究を展開し、フレイル研究の基盤技術を提供できるようにする。

(3) 認知症克服に向けた国際研究に参画

引き続き国の認知症多施設共同研究（AMEDプレクリニカルAD研究、AMED DIAN-J研究、AMEDレジストリー研究）、グローバル治験に積極的に参加する。これに合わせ、「アミロイドPET適正使用ガイドライン」の改訂も含め、新しい診断・治療技術を適切に日常臨床へ落とし込み、普及させるための検討も行う。

論文・学会発表

脳機能

1 学会発表

(1) 海外

1. Hiura, M., Sakata, M., Ishii, K., Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Tago, T., Toyohara, J., Muta, A., Nariai, T.: Regional cerebral blood flow correlated with changes in blood pressure evoked by dynamic exercise: A study using oxygen-15-labeled water with PET. Brain 2017, Berlin, 2017.4.14
2. Tago, T., Hayashi, K., Sakai, M., Ishii, K., Toyohara, J.: Radiosynthesis of carbon-11- and fluorine-18-labeled

- Tubastatin A derivatives for PET imaging of histone deacetylase 6. ISRS2017, Dresden, 2017.5.14-19
3. Toyohara, J., Furumoto, S., Tago, T.: Fully automated radiosynthesis of [¹⁸F]THK-5351 for clinical use. ISRS2017, Dresden, 2017.5.14-19
 4. Hiura, M., Muta, A., Sakata, M., Wagatsuma, K., Tago, T., Toyohara, J., Ishibashi, K., Ishii, K., Nariai, T.: Cerebral blood flow during dynamic exercise correlates with blood pressure in autonomic brain regions. ACSM's 64th Annual Meeting, Denver, 2017.5.30-6.3
 5. Yamamoto, Y., Mitamura, K., Norikane, T., Toyohara, J., Nishiyama, Y.: The use of 4'-[methyl-¹¹C]thiothymidine PET/CT to differentiate recurrence from treatment-induced necrosis in high-grade gliomas. SNMMI 2017 Annual Meeting, Denver, 2017.6.10-14
 6. Yamamoto, Y., Mitamura, K., Norikane, T., Toyohara, J., Nishiyama, Y.: Correlation of 4'-[methyl-¹¹C]thiothymidine uptake on PET/CT with proliferation and survival in patients with newly diagnosed gliomas. SNMMI 2017 Annual Meeting, Denver, 2017.6.10-14
 7. Mitamura, K., Yamamoto, Y., Norikane, T., Toyohara, J., Nishiyama, Y.: 4'-[methyl-¹¹C]thiothymidine PET/CT for assessment of disease control of chemoradiotherapy for head and neck squamous cell carcinoma: comparison with FDG PET/CT. SNMMI 2017 Annual Meeting, Denver, 2017.6.10-14
 8. Toyohara, J., Tago, T., Okamoto, M., Ishiwata, K., Ishii, K.: Development of a novel cerebral blood flow PET tracer for diagnosis of dementia with diabetes mellitus. SNMMI 2017 Annual Meeting, Denver, 2017.6.10-14
 9. Wagatsuma, K., Sakata, M., Oda, K., Sasaki, M., Ishii, K.: Validation study of new cross calibration method using NIST traceable 68Ge/68Ga source kit. SNMMI 2017 Annual Meeting, Denver, 2017.6.10-14
 10. Hiura, M., Nariai, T., Sakata, M., Muta, A., Maehara, T., Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Tago, T., Toyohara, J., Ishii, K.: Correlation between cerebral blood flow and blood pressure during and post exercise is presented in central autonomic network; A positron emission tomography study using oxygen-15-labeled water. 22th Annual Congress of the ECSS, MetropolisRuhr, 2017.7.5-8.
 11. Kameyama, M., Ishibashi, K., Sakurai, K., Toyohara, J., Wagatsuma, K., Sakata, M., Umeda-Kameyama, Y., Shimoji, K., Tago, T., Kanemaru, K., Murayama, S., Tokumaru, A., Ishii, K.: Voxel-Based Morphometry (VBM) Focusing Medial Temporal Lobe Atrophy Has Limited Capability on Detecting Amyloid β . Alzheimer's Association International Conference 2017, London, 2017.7.16-20
 12. Mishina, M., Ishii, K., Ishibashi, K., Sakata, M., Toyohara, J., Ishiwata, K., Kimura, K.: Regional difference of brain β -amyloid accumulation between in subtype of Lewy body disease and in Alzheimer's disease. The Alzheimer's Association International Conference 2017, London, 2017.7.16-20
 13. Hiura, M., Nariai, T., Takahashi, K., Muta, A., Sakata, M., Ishibashi, K., Toyohara, J., Wagatsuma, K., Tago, T., Ishii, K., Maehara, T.: Dynamic exercise elicits dissociated changes between tissue oxygenation and cerebral blood flow in the prefrontal cortex: a study using NIRS and PET. ISOTT 2017, Halle, 2017.8.19-23
 14. Tago, T., Hayashi, K., Sakai, M., Ishii, K., Toyohara, J.: Development of PET probes for imaging of histone deacetylase 6. FASMI 2017, Seoul, 2017.8.25-26
 15. Hiura, M., Nariai, T., Muta, A., Sakata, M., Ishibashi, K., Toyohara, J., Wagatsuma, K., Tago, T., Ishii, K., Maehara, T.: Alteration of regional cerebral blood flow evoked by dynamic exercise among patients with ischemic cerebrovascular diseases; A Study using oxygen-15-labeled water with PET. 40th ESNR Annual Meeting, Malmo, 2017.9.13-17
 16. Mishina, M., Suzuki, M., Ishii, K., Sakata, M., Wagatsuma, K., Ishibashi, K., Toyohara, J., Zhang, M.R., Kimura, K., Ishiwata, K.: Density of metabotropic glutamate receptors subtype 1 in Parkinson's disease compared to healthy elderly - A ITMM PET study -. The 23rd World Congress of Neurology 2017, Kyoto, 2017.9.16-21
 17. Mishina, M., Suzuki, M., Ishii, K., Sakata, M., Wagatsuma, K., Ishibashi, K., Toyohara, J., Zhang, M.R., Kimura, K., Ishiwata, K.: Relationship between density of metabotropic glutamate receptors subtype 1 and asymmetrical parkinsonism in Parkinson's disease - A ITMM PET study -. The 23rd World Congress of Neurology 2017, Kyoto, 2017.9.16-21
 18. Kameyama, M., Ishibashi, K., Sakurai, K., Toyohara, J., Wagatsuma, K., Sakata, M., Umeda-Kameyama, Y., Shimoji, K., Tago, T., Kanemaru, K., Murayama, S., Tokumaru, A.M., Ishii, K.: Voxel-based specific regional analysis system for Alzheimer's disease (VSRAD) focusing medial temporal lobe atrophy has limited capability on detecting amyloid. The 23rd World Congress of Neurology 2017, Kyoto, 2017.9.16-21
 19. Ishibashi, K., Miura, Y., Wagatsuma, K., Toyohara, J., Ishii, K.: PET imaging of type 1 metabotropic glutamate receptors in a family with spinocerebellar ataxia type 6. The 23rd World Congress of Neurology 2017, Kyoto, 2017.9.16-21
 20. Ishibashi, K., Miura, Y., Wagatsuma, K., Toyohara, J., Ishii, K.: Type 1 metabotropic glutamate receptor availability in hereditary ataxia. AOCNMB 2017, Yokohama, 2017.10.5-7
 21. Imai, M., Ishii, K., Tanaka, M., Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Sakata, M., Tago, T., Toyohara, J., Maruno, H., Murayama, S., Shimada, H., Higuchi, M., Suhara, T.: Tau imaging using ¹¹C-PBB3 in clinical variants of Alzheimer's disease. AOCNMB 2017, Yokohama, 2017.10.5-7
 22. Toyohara, J., Garcia-Varela, L., Kakiuchi, T., Ohba, H., Nishiyama, S., Tago, T., Vallez-Garcia, D., Boellaard, R., Elsinga, P., Tsukada, H., Luurtsema, G.: Head to head comparison of (*R*)-[¹¹C]verapamil and [¹⁸F]MC225 in the brain of conscious monkeys. AOCNMB 2017, Yokohama, 2017.10.5-7
 23. Toyohara, J., Garcia-Varela, L., Kakiuchi, T., Ohba, H., Nishiyama, S., Tago, T., Vallez-Garcia, D., Boellaard, R., Elsinga, P.H., Tsukada, H., Luurtsema, G.: Head to head comparison of (*R*)-[¹¹C]verapamil and [¹⁸F]MC225 in non-human primates; tracers for measuring P-gp function at the blood-brain barrier. EANM'17, Vienna, 2017.10.21-25
 24. Tago, T., Toyohara, J., Harada, R., Furumoto, S., Oka-

- mura, N., Kudo, Y., Takahashi-Fujigasaki, J., Murayama, S., Ishii, K.: In vitro characterization of [¹⁸F]THK5351 binding to melanin-containing cells. EANM'17, Vienna, 2017.10.21-25
25. Sakata, M., Wang, X., Ishii, K., Kimura, Y., Wagatsuma, K., Ishibashi, K., Toyohara, J., Yata, N., Manabe, Y.: Relationship between image and clinical indices in the differential diagnosis of dementia using ¹⁸F-FDG-PET images and machine learning. EANM'17, Vienna, 2017.10.21-25
26. Mishina, M., Suzuki, M., Ishii, K., Ishibashi, K., Sakata, M., Wagatsuma, K., Toyohara, J., Zang, M., Kimura, K., Ishiwata, K.: Relation of motor and non-motor symptoms with density of metabotropic glutamate receptors subtype 1 measured with ¹¹C-ITMM PET in de novo Parkinson's disease. Neuroscience 2017, Washington DC, 2017.11.11-15
27. Tago, T., Toyohara, J., Harada, R., Furumoto, S., Okamura, N., Kudo, Y., Takahashi-Fujigasaki, J., Murayama, S., Ishii, K.: Preclinical evaluation of ¹⁸F-THK5351 off-target binding to melanin-containing cells. 12th Human Amyloid Imaging, Miami, 2018.1.17-19.
28. Ishibashi, K., Kameyama, M., Tago, T., Toyohara, J., Ishii, K.: Potential use of ¹⁸F-THK5351 PET to identify gliosis: Wallerian degeneration of the pyramidal tract after a cerebral infarction. 12th Human Amyloid Imaging, Miami, 2018.1.17-19.
29. Wagatsuma, K., Miwa, K., Sakata, M., Ishibashi, K., Oda, K., Tago, T., Toyohara, J., Ishii, K.: Optimization of reconstruction conditions for tau PET imaging using [¹⁸F]THK5351. WFNMB 2018, Melbourne, Australia, 2018.4.20-24.
30. Inaji, M., Nariai, T., Hayashi, S., Wagatsuma, K., Toyohara, J., Ishii, K., Maehara, T.: Metabotropic glutamate receptor subtype 1 PET imaging in medial temporal lobe epilepsy patients with hippocampal sclerosis. WFNMB 2018, Melbourne, Australia, 2018.4.20-24.
31. Yamamoto, H., Toyohara, J., Tago, T., Ibaraki, M., Kinoshita, T.: Automated radiosynthesis and biodistribution of fluorine-18 labelled D-allose. WFNMB 2018, Melbourne, Australia, 2018.4.20-24.
- 17回放射線医薬品・画像診断薬研究会 第1回日本核医学会分科会放射性医薬品化学研究会, 京都, 2017.9.9
6. 豊原潤, 多胡哲郎, 垣内岳春, 大庭弘行, 西山慎吾, 塚田秀夫, Lara Garcia Varela, David Vallez Garcia, Ronald Boellaard, Philip Elsinga, Gert Luurtsema: 新規P糖タンパク質機能イメージング剤[¹⁸F-18]MC225のサル脳における動態:(R)-[¹¹C-11]verapamilとの比較. 第17回放射線医薬品・画像診断薬研究会 第1回日本核医学会分科会放射性医薬品化学研究会, 京都, 2017.9.9
7. 多胡哲郎, 豊原潤, 酒井昌成, 林薫平, 石井賢二: ヒストンデアセチラーゼ6のPETイメージングを目的とした放射性標識ツバスタチンA誘導体の開発. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
8. 山本浩之, 豊原潤, 多胡哲郎, 茨木正信, 木下俊文: ¹⁸F標識D-アロースの自動合成装置による製造. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
9. 安賀文俊, 田中賢一, 福田有子, 山本由佳, 豊原潤, 西山佳宏: 治療前神経腫における¹¹C-4DST PETとガドリニウム造影MRIの比較. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
10. 多胡哲郎, 豊原潤, 原田龍一, 古本祥三, 岡村信行, 工藤幸司, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄, 石井賢二: [¹⁸F]THK5351のメラニン含有細胞への結合性評価. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
11. 坂田宗之, 王小宇, 石井賢二, 木村裕一, 我妻慧, 石橋賢士, 豊原潤, 矢田紀子, 眞鍋佳嗣: 機械学習を用いた認知症自動鑑別におけるFDG画像とMR画像の比較. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
12. 三品雅洋, 鈴木正彦, 石井賢二, 石橋賢士, 坂田宗之, 我妻慧, 豊原潤, 張明榮, 木村和美, 石渡喜一: ¹¹C-ITMM PETを用いた未治療パーキンソン病におけるmGluR1密度と症状との関係. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
13. 日浦幹夫, 成相直, 牟田光孝, 坂田宗之, 我妻慧, 多胡哲郎, 石橋賢士, 豊原潤, 石井賢二: 虚血性脳血管障害の患者群における運動負荷に対する脳血流変化の特性: H215Oを用いたPET研究. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
14. 亀山征史, 石橋賢士, 櫻井圭太, 豊原潤, 我妻慧, 坂田宗之, 亀山祐美, 下地啓五, 多胡哲郎, 金丸和富, 村山繁雄, 徳丸阿耶, 石井賢二: Amyloid PETとVBMによる内側側頭葉萎縮検出の比較. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7.

(2) 国内

1. 豊原潤: 施設認証の必要項目の詳細(1)PET薬剤の製造の基礎. 第17回日本核医学会春季大会(教育講演), 東京, 2017.4.22-23
2. 日浦幹夫, 成相直, 牟田光孝: 脳血管障害後リハビリテーションにおける有酸素運動の神経生理学的背景について: ¹⁵O-H₂Oを用いたPET研究の知見から. 第8回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会(シンポジウム), 富山, 2017.4.22-23
3. Tago, T., Hayashi, K., Sakai, M., Ishii, K., Toyohara, J.: Development of PET probes for imaging of histone deacetylase 6. 第12回日本分子イメージング学会総会, 横浜, 2017.5.25-26
4. 豊原潤: 次世代PET薬剤 Post FDG PET in Oncology. PETサマーマセミナー2017 in 奈良, 奈良, 2017.8.25-27
5. 多胡哲郎, 豊原潤, 原田龍一, 古本祥三, 岡村信行, 工藤幸司, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄, 石井賢二: ¹⁸F-THK5351のメラニン含有細胞結合性評価と構造活性相関研究. 第17回放射線医薬品・画像診断薬研究会 第1回日本核医学会分科会放射性医薬品化学研究会, 京都, 2017.9.9
6. 多胡哲郎, 豊原潤, 酒井昌成, 林薫平, 石井賢二: ヒストンデアセチラーゼ6のPETイメージングを目的とした放射性標識ツバスタチンA誘導体の開発. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
7. 山本浩之, 豊原潤, 多胡哲郎, 茨木正信, 木下俊文: ¹⁸F標識D-アロースの自動合成装置による製造. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
8. 安賀文俊, 田中賢一, 福田有子, 山本由佳, 豊原潤, 西山佳宏: 治療前神経腫における¹¹C-4DST PETとガドリニウム造影MRIの比較. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
9. 多胡哲郎, 豊原潤, 原田龍一, 古本祥三, 岡村信行, 工藤幸司, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄, 石井賢二: [¹⁸F]THK5351のメラニン含有細胞への結合性評価. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
10. 坂田宗之, 王小宇, 石井賢二, 木村裕一, 我妻慧, 石橋賢士, 豊原潤, 矢田紀子, 眞鍋佳嗣: 機械学習を用いた認知症自動鑑別におけるFDG画像とMR画像の比較. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
11. 三品雅洋, 鈴木正彦, 石井賢二, 石橋賢士, 坂田宗之, 我妻慧, 豊原潤, 張明榮, 木村和美, 石渡喜一: ¹¹C-ITMM PETを用いた未治療パーキンソン病におけるmGluR1密度と症状との関係. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
12. 日浦幹夫, 成相直, 牟田光孝, 坂田宗之, 我妻慧, 多胡哲郎, 石橋賢士, 豊原潤, 石井賢二: 虚血性脳血管障害の患者群における運動負荷に対する脳血流変化の特性: H215Oを用いたPET研究. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
13. 亀山征史, 石橋賢士, 櫻井圭太, 豊原潤, 我妻慧, 坂田宗之, 亀山祐美, 下地啓五, 多胡哲郎, 金丸和富, 村山繁雄, 徳丸阿耶, 石井賢二: Amyloid PETとVBMによる内側側頭葉萎縮検出の比較. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7.
14. 多胡哲郎: Structure-activity relationship of 2-arylquinolines as PET imaging tracers for tau pathology in Alzheimer disease. 第57回日本核医学会学術総会(第14回日本核医学会研究奨励賞受賞講演), 横浜, 2017.10.5-7.
15. 我妻慧, 坂田宗之, 三輪建太, 石橋賢士, 石井賢二: SiPM-PET/CT装置における脳FDG検査の最適画像再構成条件の決定. 第37回日本核医学会技術学術総会, 横浜, 2017.10.5-7.
16. 石橋賢士, 三浦義治, 今村顕史, 豊原潤, 石井賢二: HIV関連小脳炎におけるミクログリアイメージング. 第22回日本神経感染症学会総会, 北九州, 2017.10.14
17. 坂田宗之: FDG-PETと機械学習による認知症自動鑑別システムの開発. NCGG-TMIG 合同セミナー(国立長寿医療研究センター&東京都健康長寿医療センター研究交流会), 愛知, 2017.11.14
18. 田村郁, 稲次基希, 林志保里, 荻島隆浩, 成相直, 石井賢二, 豊原潤, 前原健寿: WHO2016改定分類に基づい

- た神経膠腫のintegrated diagnosisと^[11C]methionine-PETの関係.第76回日本脳神経外科学会総会, 名古屋, 2017.10.12-14.
20. 稲次基希, 橋本聡華, 林志保里, 我妻慧, 豊原潤, 石井賢二, 前田純, 樋口真人, 前原健寿:Detection of Epileptogenic lesion using PET with multitracers. 第76回日本脳神経外科学会総会, 名古屋, 2017.10.12-14.
 21. 稲次基希, 橋本聡華, 石井賢二, 豊原潤, 前田純, 樋口真人, 前原健寿:新規PETトレーサーを用いた焦点診断の試み.第51回日本てんかん学会学術集会, 京都, 2017.11.3-5.
 22. 山内崇弘, 田村郁, 林志保里, 荻島隆浩, 稲次基希, 成相直, 石井賢二, 豊原潤, 前原健寿:^[11C]methionine-PETの集積とWHO2016改定分類に基づいたgliomaの分類の比較検討. 第35回日本脳腫瘍学会学術集会, 高松, 2017.11.26-28.
 23. 白石朋敬, 松原知康, 仙石鍊平, 高田忠幸, 山崎幹大, 坂下泰浩, 小林万希子, 藤ヶ崎純子, 多胡哲郎, 豊原潤, 石井賢二, 金丸和富, 村山繁雄:^{18F}-THK5351 PETで髄体路に沿った集積を認めた膠芽腫の一部検例.第117回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.12.16
 24. 稲次基希, 林志保理, 我妻慧, 豊原潤, 石井賢二, 成相直, 前原健寿:てんかん焦点診断における,^{18F}FDGPET, ^[11C]flumazenil-PET SPM統計画像解析.第41回日本脳神経CI学会, 新潟, 2018.3.2-3.
 25. 稲次基希, 成相直, 林志保理, 原祥子, 我妻慧, 豊原潤, 石井賢二, 田中洋次, 前原健寿:脳循環代謝計測における,¹⁵O-gasPETの必要性. 第41回日本脳神経CI学会, 新潟, 2018.3.2-3.
 26. 多胡哲郎: 新規βアミロイドプローブ合成法の検討. PET化学ワークショップ2018, 葉山, 2018.2.2-4
 27. 坂田宗之:脳FDG-PETの機械学習を用いた認知症自動鑑別の試み. 第27回関東甲信越核医学画像処理研究会, 上野, 2018.2.3
 28. 藤牧諒, 多胡哲郎, 豊原潤, 田中浩士:ネオペンチル型標識基を有する^[18F]PET Aβトレーサーの合成とその機能評価.日本化学会第98春季年会, 船橋, 2018.3.20-23
 29. Wagatsuma, K., Miwa, K., Sakata, M., Ishibashi, K., Oda, K., Ishii, K.: Optimal reconstruction condition of tau PET imaging using ^[18F]THK5351. 第74回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2018.4.12-15.
 30. 豊原潤: PET施設認証セミナー PET薬剤製造コース 1. 施設認証の必須項目の詳細(1)PET薬剤の製造の基礎. 第18回日本核医学会春季大会, 虎ノ門, 2018.5.12-13.
 31. 我妻慧, 三輪建太, 坂田宗之, 織田圭一, 石井賢二. SiPM-PET装置における^{18F}標識アミロイドPETイメージングの撮像時間の検討:ファントム実験. 第72回東京支部春季学術大会, 東京, 2018.5.19.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Yanai, S., Toyohara, J., Ishiwata, K., Ito, H., Endo, S.: Long-term cilostazol administration ameliorates memory decline in senescence-accelerated mouse prone 8 (SAMP8) through a dual effect on cAMP and blood-brain barrier. *Neuropharmacology*, 116, 247-259, 2017, (査読有り), (IF = 5.012, 2016)
2. Ishibashi, K., Miura, Y., Toyohara, J., Ishii, K., Ishiwata, K.: Comparison of imaging using ¹¹C-ITMM and ¹⁸F-FDG for the detection of cerebellar ataxia. *J. Neurol. Sci.*, 375, 97-102, 2017, (査読有り), (IF = 2.295, 2016)
3. Zhou, X., Boellaard, R., Ishiwata, K., Sakata, M., Dierckx, R.A., de Jong, J., Nishiyama, S., Ohba, H., Tsukada, H., de Vries, E.F., Elsinga, P.H.: In vivo evaluation of ^[11C]prelabeled for PET-imaging of adenosine A_{2A} receptors in the conscious monkey. *J. Nucl. Med.*, 58(5), 762-767, 2017, (査読有り), (IF = 6.464, 2016)
4. Yamane, T., Ishii, K., Sakata, M., Ikari, Y., Nishio, T., Ishii, K., Kato, T., Ito, K., Senda, M.; J-ADNI Study Group: Inter-rater variability of visual interpretation and comparison with quantitative evaluation of ¹¹C-PiB PET amyloid images of the Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative (J-ADNI) multicenter study. *Eur. J. Nucl. Med. Mol. Imaging*, 44(5), 850-857, 2017, (査読あり), (IF = 7.277, 2016)
5. Matsuo, Y., Ogawa, T., Yamamoto, M., Shibamoto, A., Säenz, J.R., Yokoyama, M., Kanda, Y., Toyohara, J., Sakaki, K.: Evaluation of peri-implant bone-metabolism under immediate loading using high-resolution Na¹⁸F-PET. *Clin. Oral Invest.*, 21(6), 2029-2037, 2017, (査読有り), (IF = 2.308, 2016)
6. Sakata, M., Toyohara, J., Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Ishii, K., Zhang, M.R., Ishiwata, K.: Age and gender effects of ¹¹C-ITMM binding to metabotropic glutamate receptor type 1 in healthy human participants. *Neurobiol. Aging*, 55, 72-77, 2017, (査読有り), (IF = 5.117, 2016)
7. Mishina, M., Ishii, K., Kimura, Y., Suzuki, M., Kitamura, S., Ishibashi, K., Oda, K., Kimura, K., Ishiwata, K.: Adenosine A₁ receptors measured with ¹¹C-MPDX PET in early Parkinson's disease. *Synapse*, 71(8), e21979, 2017, (査読あり), (IF = 2.132, 2016)
8. Ishibashi, K., Miura, Y., Matsumura, K., Kanemasa, Y., Nakamichi, K., Saijo, M., Toyohara, J., Ishii, K.: PET imaging of ¹⁸F-FDG, ¹¹C-methionine, ¹¹C-flumazenil, and ¹¹C-4DST in progressive multifocal leukoencephalopathy: a case report. *Intern. Med.*, 56(10), 1219-1223, 2017, (査読あり), (IF = 0.815, 2016)
9. Sakata, M., Ishibashi, K., Imai, M., Wagatsuma, K., Ishii, K., Zhou, X., de Vries, E.F.J., Elsinga, P.H., Ishiwata, K., Toyohara, J.: Initial evaluation of an adenosine A_{2A} receptor ligand, ¹¹C-prelabeled, in healthy human subjects. *J. Nucl. Med.*, 58(9), 1464-1470, 2017, (査読有り), (IF = 6.464, 2016)
10. Sakata, M., Ishibashi, K., Imai, M., Wagatsuma, K., Ishii, K., Hatano, K., Ishiwata, K., Toyohara, J.: Assessment of safety, efficacy, and dosimetry of a novel 18-kDa translocator protein ligand, ^[11C]CB184, in healthy human volunteers. *EJNMMI Res.*, 7(1), 26, 2017, (査読有り), (IF = 2.033, 2016)
11. Sakurai, R., Ishii, K., Tasunaga, M., Takeuchi, R., Murayama, Y., Sakuma, N., Sakata, M., Oda, K., Ishibashi, K., Ishiwata, K., Fujiwara, Y., Montero-Odasso, M.: The neural substrate of gait and executive function relationship in elderly women: a PET study. *Geriatr. Gerontol. Int.*, in press, (査読あり), (IF = 2.351, 2016)
12. Hayashi, S., Inaji, M., Nariai, T., Oda, K., Sakata, M., Toyohara, J., Ishii, K., Ishiwata, K., Maehara, T.: Increased binding potential of brain adenosine A₁ receptor in chronic stages of patients with diffuse axonal injury measured with [1-methyl-¹¹C]8-dicyclopropylmethyl-1-methyl-3-propylxanthine PET imaging. *J. Neurotrauma*,

in press, (査読有り), (IF = 5.190, 2016)

13. Wagatsuma, K., Oda, K., Miwa, K., Inaji, M., Sakata, M., Toyohara, J., Ishiwata, K., Sakai, M., Ishii, K.: Effects of a novel tungsten-impregnated rubber neck shield on the quality of cerebral images acquired using ¹⁵O-labeled gas. *Radiol. Phys. Technol.*, 10(4), 422-430, 2017, (査読有り), (IFなし, 2016)
14. Ishibashi, K., Kameyama, M., Tago, T., Toyohara, J., Ishii, K.: Potential use of ¹⁸F-THK5351 PET to identify Wallerian degeneration of the pyramidal tract caused by cerebral infarction. *Clin. Nucl. Med.*, 42(12), e523-e524, 2017,(査読あり),(IF = 4.563, 2016)
15. Wagatsuma, K., Miwa, K., Sakata, M., Oda, K., Ono, H., Kameyama, M., Toyohara, J., Ishii, K.: Comparison between new-generation SiPM-based and conventional PMT-based TOF-PET/CT. *Phys. Med.*, 42, 203-210,(査読あり),(IF = 1.999, 2016)
16. Ishibashi, K., Miura, Y., Imamura, A., Toyohara, J., Ishii, K.: Microglial activation on ¹¹C-CB184 PET in a patient with cerebellar ataxia associated with HIV infection. *Clin. Nucl. Med.*, 43(3), e82-e84, 2018,(査読あり),(IF = 4.563, 2016)
17. Mishina, M., Kimura, Y., Sakata, M., Ishii, K., Oda, K., Toyohara, J., Kimura, K., Ishiwata, K.: Age-related decrease in male extra-striatal adenosine A1 receptors measured using ¹¹C-MPDX PET. *Front. Pharmacol.*, 8, 903, 2017,(査読あり),(IF = 4.400, 2016)
18. Kawamura, N., Yokota, T., Hontani, H., Sakata, M., Kimura, Y.: Parametric PET image reconstruction via regional spatial bases and pharmacokinetic time activity model. *Entropy*, 19(11), 629, 2017,(査読あり),(IF = 1.821, 2016)
19. Hiura, M., Nariai, T., Sakata, M., Muta, A., Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Tago, T., Toyohara, J., Ishii, K., Maehara, T.: Response of cerebral blood flow and blood pressure to dynamic exercise: A study using PET. *Int.J. Sports Med.*, 39(3), 181-188, 2018,(査読あり),(IF = 2.084, 2016)
20. Harada, R., Ishiki, A., Kai, H., Sato, N., Furukawa, K., Furumoto, S., Tago, T., Tomita, N., Watanuki, S., Hiraoka, K., Ishikawa, Y., Funaki, Y., Nakamura, T., Yoshikawa, T., Iwata, R., Tashiro, M., Sasano, H., Kitamoto, T., Yanai, K., Arai, H., Kudo, Y., Okamura, N.: Correlations of ¹⁸F-THK5351 PET with post-mortem burden of tau and astrogliosis in Alzheimer's disease. *J. Nucl. Med.*, in press, (査読有り), (IF = 6.464, 2016)
21. ★◎多胡哲郎, 豊原潤, 酒井昌成, 林薫平, 石井賢二.: ヒストンデアセチラーゼ6のイメージングを目的としたPETプローブの開発. *JSMI Report*, 11(1), 25-28, 2017, (査読有り), (IFなし, 2016)

(2) 総説

1. ★◎日浦幹夫, 成相直, 牟田光孝, 稲次基希, 豊原潤, 坂田宗之, 石井賢二, 石橋賢士, 我妻慧, 織田圭一, 石渡喜一: PETイメージングを活用した運動負荷時の脳機能解析: 脳血流量と神経受容体計測の実際. *脳循環代謝*, 28, 297-302, 2017,(査読なし),(IFなし)
2. ★◎Tago, T., Toyohara, J.: Advances in the development of PET ligands histone deacetylases for the assessment of neurodegenerative diseases. *Molecules*, 23, E300, 2018,(査読あり),(IF = 2.861, 2016)

3 著書等

1. Hiura, M., Nariai, T.: Changes in Cerebral Blood Flow During Steady-State Exercise (Chapter 8), In: Watson R (ed). *Physical activity and the aging brain*. 77-84, 2017,(査読なし), (IFなし)

PET画像診断

1 学会発表

(1) 海外

1. Hiura, M., Sakata, M., Ishii, K., Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Tago, T., Toyohara, J., Muta, A., Nariai, T.: Regional cerebral blood flow correlated with changes in blood pressure evoked by dynamic exercise: A study using oxygen-15-labeled water with PET. *Brain* 2017, Berlin, 2017.4.1-4
2. Tago, T., Hayashi, K., Sakai, M., Ishii, K., Toyohara, J.: Radiosynthesis of carbon-11- and fluorine-18-labeled Tubastatin A derivatives for PET imaging of histone deacetylase 6. *ISRS2017*, Dresden, 2017.5.14-19
3. Hiura, M., Muta, A., Sakata, M., Wagatsuma, K., Tago, T., Toyohara, J., Ishibashi, K., Ishii, K., Nariai, T.: Cerebral blood flow during dynamic exercise correlates with blood pressure in autonomic brain regions. *ACSM's 64th Annual Meeting*, Denver, 2017.5.30-6.3
4. Toyohara, J., Tago, T., Okamoto, M., Ishiwata, K., Ishii, K.: Development of a novel cerebral blood flow PET tracer for diagnosis of dementia with diabetes mellitus. *SNMMI 2017 Annual Meeting*, Denver, 2017.6.10-14
5. Yamaguchi, S., Wagatsuma, K., Miwa, K., Ishii, K., Inoue, K., Fukushi, M.: Suppression of edge artifacts using a Bayesian penalized-likelihood reconstruction algorithm for oncological PET/CT imaging. *SNMMI 2017 Annual Meeting*, Denver, 2017.6.10-14
6. Wagatsuma, K., Sakata, M., Oda, K., Sasaki, M., Ishii, K.: Validation study of new cross calibration method using NIST traceable ⁶⁸Ge/⁶⁸Ga source kit. *SNMMI 2017 Annual Meeting*, Denver, 2017.6.10-14
7. Hiura, M., Nariai, T., Sakata, M., Muta, A., Maehara, T., Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Tago, T., Toyohara, J., Ishii, K.: Correlation between cerebral blood flow and blood pressure during and post exercise is presented in central autonomic network; A positron emission tomography study using oxygen-15-labeled water. *22th Annual Congress of the ECSS, MetropolisRuhr*, 2017.7.5-8.
8. Kameyama, M., Ishibashi, K., Sakurai, K., Toyohara, J., Wagatsuma, K., Sakata, M., Umeda-Kameyama, Y., Shimoji, K., Tago, T., Kanemaru, K., Murayama, S., Tokumaru, A., Ishii, K.: Voxel-Based Morphometry (VBM) Focusing Medial Temporal Lobe Atrophy Has Limited Capability on Detecting Amyloid β . *Alzheimer's Association International Conference 2017*, London, 2017.7.16-20
9. Mishina, M., Ishii, K., Ishibashi, K., Sakata, M., Toyohara, J., Ishiwata, K., Kimura, K.: Regional difference of brain β -amyloid accumulation between in subtype of Lewy body disease and in Alzheimer's disease. *The Alzheimer's Association International Conference 2017*, London, 2017.7.16-20
10. Koyama, S., Hasegawa, T., Miyatake, H., Inoue, Y.,

- Kikuchi, K., Wagatsuma, K., Miyaji, N., Watabe, H., Shidahara, M., Watanuki, S., Tsuda, K., Muramatsu, Y., Yanagisawa, K., Wada, Y., Oda, K., Sato, Y., Yamada T.: Validation of a novel calibration method using a traceable $^{68}\text{Ge}/^{68}\text{Ga}$ point-like source on eleven types of PET scanners. The 60th Annual Meeting of American Academy of Physicists in Medicin, Nashville, 2017.7.30-8.3
11. Hiura, M., Nariai, T., Takahashi, K., Muta, A., Sakata, M., Ishibashi, K. Toyohara, J., Wagatsuma, K., Tago, T., Ishii, K. Maehara, T.: Dynamic exercise elicits dissociated changes between tissue oxygenation and cerebral blood flow in the prefrontal cortex: a study using NIRS and PET. ISOTT 2017, Halle, 2017.8.19-23
 12. Tago, T., Hayashi, K., Sakai, M., Ishii, K., Toyohara, J.: Development of PET probes for imaging of histone deacetylase 6. FASMI 2017, Seoul, 2017.8.25-26
 13. Ishii, K.: The role of neuronuclear imaging in the diagnosis of Lewy body diseases. ISAN2017 (Annual Meeting of International Society of Autonomic Nervous System 2017), Nagoya, 2017.8.30
 14. Hiura, M., Nariai, T., Muta, A., Sakata, M., Ishibashi, K., Toyohara, J., Wagatsuma, K., Tago, T., Ishii, K. Maehara, T.: Alteration of regional cerebral blood flow evoked by dynamic exercise among patients with ischemic cerebrovascular diseases; A Study using oxygen-15-labeled water with PET. 40th ESNR Annual Meeting, Malmo, 2017.9.13-17
 15. Mishina, M., Suzuki, M., Ishii, K., Sakata, M., Wagatsuma, K., Ishibashi, K., Toyohara, J., Zhang, M.R., Kimura, K., Ishiwata, K.: Density of metabotropic glutamate receptors subtype 1 in Parkinson's disease compared to healthy elderly - A ITMM PET study -. The 23rd World Congress of Neurology 2017, Kyoto, 2017.9.16-21
 16. Mishina, M., Suzuki, M., Ishii, K., Sakata, M., Wagatsuma, K., Ishibashi, K., Toyohara, J., Zhang, M.R., Kimura, K., Ishiwata, K.: Relationship between density of metabotropic glutamate receptors subtype 1 and asymmetrical parkinsonism in Parkinson's disease - A ITMM PET study -. The 23rd World Congress of Neurology 2017, Kyoto, 2017.9.16-21
 17. Hanyu, H., Takenoshita, N., Fukasawa, R., Shimizu, S., Umahara, T., Sakurai, H., Ishii, K., Shimada, H., Higuchi, M., Suhara, T. Diabetes-related dementia is associated with tau pathology rather than amyloid pathology. The 23rd World Congress of Neurology 2017, Kyoto, 2017.9.16-21
 18. Araki, W., Araki, Y., Hattori, K., Kanemaru, K., Yokoi, Y., Takano, H., Sakata, M., Yoshida, S., Tsukamoto, T., Murata, M., Saito, Y., Kunugi, H., Goto, Y.I., Nagaoka, U., Nagao, M., Komori, T., Ishii, K., Tachimori, H., Matsuda, H., Mizusawa, H.: Secreted APPA and APPA in cerebrospinal fluid correlate with phosphorylated tau and are potentially useful biomarkers for early diagnosis of dementia disorders. The 23rd World Congress of Neurology 2017, Kyoto, 2017.9.16-21
 19. Kameyama, M., Ishibashi, K., Sakurai, K., Toyohara, J., Wagatsuma, K., Sakata, M., Umeda-Kameyama, Y., Shimoji, K., Tago, T., Kanemaru, K., Murayama, S., Tokumaru, A.M., Ishii, K.: Voxel-based specific regional analysis system for Alzheimer's disease (VSRAD) focusing medial temporal lobe atrophy has limited capability on detecting amyloid. The 23rd World Congress of Neurology 2017, Kyoto, 2017.9.16-21
 20. Ishibashi, K., Miura, Y., Wagatsuma, K., Toyohara, J., Ishii, K. PET imaging of type 1 metabotropic glutamate receptors in a family with spinocerebellar ataxia type 6. The 23rd World Congress of Neurology 2017, Kyoto, 2017.9.16-21
 21. Ishibashi, K., Miura, Y., Wagatsuma, K., Toyohara, J., Ishii, K.: Type 1 metabotropic glutamate receptor availability in hereditary ataxia. AOCNMB 2017, Yokohama, 2017.10.5-7
 22. Iamai, M., Ishii, K., Tanaka, M., Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Sakata, M., Tago, T., Toyohara, J., Maruno, H., Murayama, S., Shimada, H., Higuchi, M., Suhara, T.: Tau imaging using ^{11}C -PBB3 in clinical variants of Alzheimer's disease. AOCNMB 2017, Yokohama, 2017.10.5-7
 23. Ishii, K.: Experience of NeuroPET with GE Discovery MI. GE Molecular Imaging Products Digital Symposium. Seoul, 2017.10.12
 24. Tago, T., Toyohara, J., Harada, R., Furumoto, S., Okamura, N., Kudo, Y., Takahashi-Fujigasaki, J., Murayama, S., Ishii, K.: In vitro characterization of [^{18}F]THK5351 binding to melanin-containing cells. EANM'17, Vienna, 2017.10.21-25
 25. Sakata, M., Wang, X., Ishii, K., Kimura, Y., Wagatsuma, K., Ishibashi, K., Toyohara, J., Yata, N., Manabe, Y.: Relationship between image and clinical indices in the differential diagnosis of dementia using ^{18}F -FDG-PET images and machine learning. EANM'17, Vienna, 2017.10.21-25
 26. Iwatsubo, T., Iwata, A., Suzuki, K., Ihara, R., Arai, H., Ishii, K., Senda, M., Ito, K., Ikeuchi, T., Kuwano, R., Matsuda, H., for the Japanese ADNI and Sun, C-K., Beckert, L., Aisen, P., Donohue, M., for the ADNI. Japanese ADNI: Clinical, neuroimaging, and biomarker profiles in comparison with ADNI. 10th Conference Clinical Trials on Alzheimer's Disease, Boston, 2017.11.1-4
 27. Ihara, R., Iwata, A., Suzuki, K., Iwatsubo, T., Arai, H., Ishii, K., Senda, M., Ito, K., Ikeuchi, T., Kuwano, R., Matsuda, H., for the Japanese ADNI. Clinical and psychometric characteristics of participants with preclinical Alzheimer's disease in Japanese ADNI. 10th Conference Clinical Trials on Alzheimer's Disease, Boston, 2017.11.1-4
 28. Iwata, A., Iwatsubo, T., Suzuki, K., Ihara, R., Arai, H., Ishii, K., Senda, M., Ito, K., Ikeuchi, T., Kuwano, R., Matsuda, H., for the Japanese ADNI. Longitudinal cognitive and functional changes are influenced by educational history in the J-ADNI MCI individuals. 10th Conference Clinical Trials on Alzheimer's Disease, Boston, 2017.11.1-4
 29. Suzuki, K., Ihara, R., Iwata, A., Iwatsubo, T., Arai, H., Ishii, K., Senda, M., Ito, K., Ikeuchi, T., Kuwano, R., Matsuda, H., for the Japanese ADNI. CSF and genetic biomarkers in MCI and AD subjects in J-ADNI for predicting future outcome. 10th Conference Clinical Trials on Alzheimer's Disease, Boston, 2017.11.1-4
 30. Mishina, M., Suzuki, M., Ishii, K., Ishibashi, K., Sakata, M., Wagatsuma, K., Toyohara, J., Zang, M., Kimura, K., Ishiwata, K. Relation of motor and non-motor symptoms with density of metabotropic glutamate receptors

- subtype 1 measured with ^{11}C -ITMM PET in de novo Parkinson's disease. Neuroscience 2017, Washington DC, 2017.11.11-15
31. Ishibashi, K., Onishi, A., Fujiwara, Y., Ishiwata, K., Ishii, K. Which factor has a stronger effect on cerebral ^{18}F -FDG distribution in cognitively normal older subjects, plasma glucose level or insulin resistance? Neuroscience 2017, Washington DC, 2017.11.11-15
 32. Hara, S., Hori, M., Inaji, M., Maehara, T., Ishii, K., Aoki, S., Nariai, T. Correlation between brain microstructure revealed by neurite orientation dispersion and density imaging and cerebral hemodynamics and metabolism measured with positron emission tomography in patients with moyamoya disease. Neuroscience 2017, Washington DC, 2017.11.11-15
 33. Tago T, Toyohara J, Harada R, Furumoto S, Okamura N, Kudo Y, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Ishii K. Preclinical evaluation of ^{18}F -THK5351 off-target binding to melanin-containing cells. 12th Human Amyloid Imaging, Miami, 2018.1.17-19.
 34. Ishibashi K., Kameyama M, Tago T, Toyohara J, Ishii K. Potential use of ^{18}F -THK5351 PET to identify gliosis: Wallerian degeneration of the pyramidal tract after a cerebral infarction. 12th Human Amyloid Imaging, Miami, 2018.1.17-19.
 35. Motoki Inaji, Tadashi Nariai, Masae Kuroha, Shihori Hayhi, Yoji Tanaka, Kenji Ishii, Taketoshi Maehara. ^{11}C -methionine PET images of curious benign brain tumors. 2018.01.31-02.02 The 8th international Mt.BANDAI symposium for neuroscience Hawaii
- ## (2) 国内
1. Wagatsuma, K., Miwa, K., Hiratsuka, S., Tanaka, M., Koike E., Masuko, H., Ishii, K.: Quantitative evaluation of ^{11}C -PiB β -amyloid in PET images from Japanese patients with Alzheimer's disease using Centiloid scale, 日本放射線技術学会第73回総会学術大会, 横浜, 2017.4.13-16.
 2. Yamaguchi, S., Wagatsuma, K., Miwa, K., Ishii, K., Inoue, K., Fukushi, M.: Evaluation of edge artifact reduction by a Bayesian penalized likelihood reconstruction at different sphere-to-background ratios of radioactivity, 日本放射線技術学会第73回総会学術大会, 横浜, 2017.4.13-16.
 3. 石井賢二: アミロイド・タウイメージング最近の話題. 日本脳神経核医学研究会脳PETワークショップ. 横浜, 2017.4.14
 4. 石井賢二: Florbetapir アミロイドイメージングの意義、使用ガイドライン. 第17回日本核医学会春季大会、東京、2017.4.22
 5. 石井賢二: Flutemetamol アミロイドイメージングの意義、使用ガイドライン. 第17回日本核医学会春季大会、東京、2017.4.22
 6. 石井賢二: Florbetaben アミロイドイメージングの意義、使用ガイドライン. 第17回日本核医学会春季大会、東京、2017.4.22
 7. 石井賢二: 脳腫瘍・てんかん・認知症. 第17回日本核医学会春季大会、東京、2017.4.22
 8. 坂田宗之, 多胡哲郎, 我妻慧, 石橋賢士, 豊原潤, 石井賢二: 脳機能イメージングのための新規PETトレーサーの開発とその臨床応用. 第6回TOBIRA 研究交流フォーラム、東京、2017.5.12
 9. Tago, T., Hayashi, K., Sakai, M., Ishii, K., Toyohara, J.: Development of PET probes for imaging of histone deacetylase 6. 第12回日本分子イメージング学会総会, 横浜, 2017.5.25-26
 10. 石井賢二: 認知症診断における機能画像の役割 最近の話題を含めて. 第4回国立南京都病院認知症関連疾患診断と対策勉強会、京都、2017.5.27
 11. 我妻慧: 核医学技術におけるPETの最前線. 第220回東京支部技術フォーラム、東京、2017.7.7.
 12. 石井賢二: 認知症診療におけるアミロイドPET診断のインパクト. 第13回認知症ファイヤーカンファレンス、名古屋、2017.7.8
 13. 我妻慧: Discover MIの使用経験～脳領域における技師の立場から～. PETサマーセミナー2017 in 奈良, 奈良, 2017.8.25.
 14. 我妻慧: アミロイドPETに求められるもの. PETサマーセミナー2017 in 奈良, 奈良, 2017.8.26.
 15. 我妻慧: SiPM-PET/CT Discovery MIの性能評価と基礎検討. PETサマーセミナー2017 in 奈良, 奈良, 2017.8.26
 16. 石井賢二: SiPM-PET/CT Discovery MIの使用経験～脳神経領域を中心に～. PETサマーセミナー2017 in 奈良, 奈良, 2017.8.26
 17. 石橋賢士, 石井賢二. 血糖値が脳内のFDG分布に与える影響. PETサマーセミナー2017、奈良、2017年8月27日
 18. 石井賢二: AD診療と治療薬開発におけるアミロイドPET診断薬承認のインパクト. 221AD301 Investigator's Meeting, 東京, 2017.9.3
 19. 石井賢二: アミロイドおよびタウPETの臨床応用. 第53回日本医学放射線学会秋季臨床大会 シンポジウム3 認知症の画像up to date, 松山, 2017.9.9
 20. 多胡哲郎, 豊原潤, 原田龍一, 古本祥三, 岡村信行, 工藤幸司, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄, 石井賢二: ^{18}F -THK5351のメラニン含有細胞結合性評価と構造活性相関研究. 第17回放射性医薬品・画像診断薬研究会 第1回日本核医学会分科会放射性医薬品化学研究会, 京都, 2017.9.9
 21. 涌谷陽介, 田中美枝子, 小林洋平, 石井賢二. 機械学習版 Neuronal Activity Topography による認知症患者の経過予測の可能性. 第8回認知症予防学会学術集会, 岡山, 2017.9.22-24
 22. 日浦幹夫, 成相直, 牟田光孝, 坂田宗之, 我妻慧, 多胡哲郎, 石橋賢士, 豊原潤, 石井賢二: 虚血性脳血管障害の患者群における運動負荷に対する脳血流変化の特性: H_2^{15}O を用いたPET研究. 第57回日本核医学会学術総会. 横浜, 2017.10.5-7
 23. 坂田宗之, 王小宇, 石井賢二, 木村裕一, 我妻慧, 石橋賢士, 豊原潤, 矢田紀子, 眞鍋佳嗣: 機械学習を用いた認知症自動鑑別におけるFDG画像とMR画像の比較. 第57回日本核医学会学術総会. 横浜, 2017.10.5-7
 24. 亀山征史, 石橋賢士, 櫻井圭太, 豊原潤, 我妻慧, 坂田宗之, 亀山祐美, 下地啓五, 多胡哲郎, 金丸和富, 村山繁雄, 徳丸阿耶, 石井賢二: Amyloid PETとVBMによる内側側頭葉萎縮検出の比較. 第57回日本核医学会学術総会. 横浜, 2017.10.5-7
 25. 三品雅洋, 鈴木正彦, 石井賢二, 石橋賢士, 坂田宗之, 我妻慧, 豊原潤, 張明榮, 木村和美, 石渡喜一: ^{11}C -ITMM PETを用いた未治療パーキンソン病における mGluR1密度と症状との関係. 第57回日本核医学会学術総会. 横浜, 2017.10.5-7
 26. 多胡哲郎, 豊原潤, 酒井昌成, 林薫平, 石井賢二: ヒス

- トンデアセチラーゼ6のPETイメージングを目的とした放射性標識ツバスタチン A誘導体の開発. 第57回日本核医学会学術総会. 横浜, 2017.10.5-7
27. 多胡哲郎, 豊原潤, 原田龍一, 古本祥三, 岡村信行, 工藤幸司, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄, 石井賢二: ^{18}F]THK5351のメラニン含有細胞への結合性評価. 第57回日本核医学会学術総会. 横浜, 2017.10.5-7
 28. 竹野下尚仁, 深澤雷太, 廣瀬大輔, 清水聰一郎, 馬原孝彦, 羽生春夫, 石井賢二, 島田斉, 樋口真人, 須原哲也: 糖尿病性認知症におけるタウ集積パターンの解析. 第57回日本核医学会学術総会. 横浜, 2017.10.5-7
 29. 我妻慧, 坂田宗之, 三輪建太, 石橋賢士, 石井賢二: SiPM-PET/CT装置における脳FDG検査の最適画像再構成条件の決定. 第37回日本核医学会技術学術大会. 横浜, 2017.10.5-7
 30. 上高祐人, 我妻慧, 小池笑也, 平塚勢哉, 南本亮吾, 石井賢二, 三輪建太: 脳PETに対するpenalized likelihood reconstruction法の至適 β 値の検討. 第37回日本核医学会技術学術大会. 横浜, 2017.10.5-7
 31. 平塚勢哉, 木村周平, 我妻慧, 増渕正輝, 上高祐人, 三輪建太. ^{11}C -PiBアミロイドPETに対するCentiloid scaleの機種依存性の検討. 第37回日本核医学技術学会総会学術大会, 横浜, 2017.10.5-7.
 32. 小野遥香, 我妻慧, 増渕正輝, 根本玲央, 小野貴史, 伊藤希, 山口正太郎, 三輪建太. 新しいSiPM-based TOF-PET装置と従来のPMT-based TOF-PET装置の性能比較. 第37回日本核医学技術学会総会学術大会, 横浜, 2017.10.5-7.
 33. 長谷川智之, 小山翔司, 宮武比呂樹, 菊池敬, 井上優介, 佐藤泰, 我妻慧, 織田圭一, 和田康弘, 三輪建太. トレーサブル点状線源を用いる定量性評価校正法の開発状況報告. 第57回日本核医学学術総会, 横浜, 2017.10.5-7.
 34. 小山翔司, 長谷川智之, 井上優介, 菊池敬, 宮武比呂樹, 我妻慧, 宮司典明, 渡部浩司, 志田原美保, 四月朔日聖一, 津田啓介, 村松禎久, 柳澤かおり, 和田康弘, 織田圭一, 佐藤泰. トレーサブル $^{68}\text{Ge}/^{68}\text{Ga}$ 点状線源を用いるPET装置の校正法. 第37回日本核医学技術学会総会学術大会, 横浜, 2017.10.5-7.
 35. 石橋賢士, 三浦義治, 今村顕史, 豊原潤, 石井賢二. HIV関連小脳炎におけるミクログリアイメージング. 第22回日本神経感染症学会総会, 北九州, 2017年10月14日
 36. 石井賢二: 分子イメージングによる認知症の臨床診断. 平成29年度日本医師会生涯教育講座(新潟会場), 新潟, 2017.10.20
 37. 冨田陽也, 我妻慧, 市川泰崇, 牧浩昭, 佐久間肇. 膀胱付近の病変におけるTime-of-Flight PETによる定量評価の改善: A Phantom Study. 第45回日本放射線技術学会秋季学術大会. 広島, 2017.10.19-21.
 38. 増渕正輝, 我妻慧, 小野遥香, 根本玲央, 木村周平, 三輪建太. 新しいSiPM-Based TOF-PET/CT装置によるサブセンチ微小球の検出能の評価. 第45回日本放射線技術学会秋季学術大会. 広島, 2017.10.19-21.
 39. 石井賢二: 認知症診療と研究におけるアミロイドイメージングの最新情報. 第51回宮崎県核医学研究会. 宮崎, 2017.10.27
 40. 石井賢二: アミロイドイメージングの現状と展望. シンポジウム9 アルツハイマー病の分子イメージング. 第36回日本認知症学会学術集会, 金沢, 2017.11.24-26
 41. 石井賢二: アミロイドイメージングを認知症診療にどう役立てるか. 第36回日本認知症学会学術集会, 金沢, 2017.11.24-26
 42. 石井賢二: 認知症画像診断の最前線. 第36回日本認知症学会学術集会, 金沢, 2017.11.24-26
 43. 田村郁, 稲次基希, 林志保里, 荻島隆浩, 成相直, 石井賢二, 豊原潤, 前原健寿. WHO2016改定分類に基づいた神経膠腫のintegrated diagnosisと ^{11}C]methionine-PETの関係. 第76回日本脳神経外科学会総会. 2017年10月12日-14日 名古屋
 44. 稲次基希, 橋本聡華, 林志保里, 我妻慧, 豊原潤, 石井賢二, 前田純, 樋口真人, 前原健寿. Detection of Epileptogenic lesion using PET with multitracers. 第76回日本脳神経外科学会総会. 2017年10月12日-14日 名古屋
 45. 原祥子, 田中洋次, 林志保里, 稲次基希, 石井賢二, 前原健寿, 成相直. 2つのpostlabeling delayを用いたASL-MRIによるもやもや病の脳血流・血流遅延の無侵襲評価. 第76回日本脳神経外科学会総会. 2017年10月12日-14日 名古屋
 46. 稲次基希, 橋本聡華, 石井賢二, 豊原潤, 前田純, 樋口真人, 前原健寿. 新規PETトレーサーを用いた焦点診断の試み. 第51回日本てんかん学会学術集会. 2017年11月3日-5日 京都
 47. 山内崇弘, 田村郁, 林志保里, 荻島隆浩, 稲次基希, 成相直, 石井賢二, 豊原潤, 前原健寿. ^{11}C]methionine-PETの集積とWHO2016改定分類に基づいたgliomaの分類の比較検討. 第35回日本脳腫瘍学会学術集会. 2017年11月26日-28日 高松
 48. 稲次基希, 橋本聡華, 林志保里, 石井賢二, 樋口真人, 前原健寿. てんかんにおける核医学検査の現状-脳神経外科の立場から. 第47回日本臨床神経生理学会. 2017年11月29日-12月1日 横浜
 49. 三輪建太, 増渕正輝, 我妻慧, 根元玲央: SiPM-based TOF-PET/CT装置におけるサブセンチ微小球の検出能に寄与する因子と検出限界. 第64回関東支部研究発表大会, 甲府, 2017.12.9-10.
 50. 白石朋敬, 松原知康, 仙石鍊平, 高田忠幸, 山崎幹大, 坂下泰浩, 小林万希子, 藤ヶ崎純子, 多胡哲郎, 豊原潤, 石井賢二, 金丸和富, 村山繁雄: ^{18}F -THK5351 PETで錐体路に沿った集積を認めた膠芽腫の一例. 第117回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.12.16
 51. 石井賢二: 認知症診療と研究におけるアミロイドイメージングの最新情報. 第70回静岡神経疾患懇話会. 静岡, 2018.2.2
 52. 石井賢二: アミロイドイメージング 認知症診療へのインパクトと今後の課題. AD研究会画像診断サブコミッティ. 東京. 2018.2.3
 53. 稲次基希, 成相直, 黒羽真砂恵, 林志保里, 田村郁, 田中洋次, 石井賢二, 前原健寿. 良性髄内腫瘍の ^{11}C methionine PETイメージ. 2018年2月16-17日. 第47回神経放射線学会. 筑波
 54. 石井賢二: 実臨床で有益な診断法を考える. 画像診断の立場から. Alzheimer's Disease Frontier 2018. 東京. 2018.2.17
 55. 稲次基希, 林志保理, 我妻慧, 豊原潤, 石井賢二, 成相直, 前原健寿. てんかん焦点診断における, ^{18}F]FDGPET, ^{11}C]flumazenil-PET SPM統計画像解析. 2018年3月2-3日. 第41回日本脳神経CI学会. 新潟
 56. 稲次基希, 成相直, 林志保理, 原祥子, 我妻慧, 豊原潤, 石井賢二, 田中洋次, 前原健寿. 脳循環代謝計測における, ^{15}O -gasPETの必要性. 2018年3月2-3日. 第41回日本脳神経CI学会. 新潟

57. 我妻慧：半導体 (SiPM) PET/CT装置の初期検討と有用性. 第27回関東甲信越核医学画像処理研究会, 上野, 2018.2.3
58. 大内翔悟、富所康志、清水眸、石井賢二、樋口真人、島田斉、須原哲也、玉岡晃：性格変化・行動異常で発症し、顕著なすくみ足が出現した60歳女性例. 第224回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京、2018.3.3
59. 白石朋敬、坂下泰浩、仁科裕史、仙石鍊平、石井賢二、徳丸阿耶、金丸和富、村山繁雄：V180I変異Creutzfeldt-Jakob病の86歳女性剖検例 - ¹⁸F THK5351 PETによる検討. 第224回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京、2018.3.3

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Ishibashi K, Tago T, Kameyama M, Toyohara J, Ishii K. Potential use of 18F-THK5351 PET to identify Wallerian degeneration of the pyramidal tract caused by cerebral infarction. *Clin Nucl Med* 2017 Oct 26. doi: 10.1097/RLU.0000000000001868. (査読あり), (IF = 4.563, 2016)
2. Sakata M, Ishibashi K, Imai M, Wagatsuma K, Ishii K, Zhou X, de Vries EFJ, Elsinga PH, Ishiwata K, Toyohara J. Initial evaluation of adenosine A2A receptor ligand, 11C-prelabeled, in healthy human subjects. *J Nucl Med*. 2017 Sep;58(9):1464-1470. (査読あり), (IF = 6.464, 2016)
3. Sakurai R, Ishii K, Sakuma N, Yasunaga M, Suzuki H, Murayama Y, Nishi M, Uchida H, Shinkai S, Fujiwara Y. Preventive effects of an intergenerational program on age-related hippocampal atrophy in older adults: The REPRINTS study. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2018 Feb; 33(2):e264-e272. (査読あり), (IF = 2.868, 2016)
4. ★◎Ishibashi K, Miura Y, Matsumura K, Kanemasa Y, Nakamichi K, Saijo M, Toyohara J, Ishii K. PET imaging of 18F-FDG, 11C-methionine, ¹⁴C-flumazenil, and ¹⁴C-4DST in progressive multifocal leukoencephalopathy: a case report. *Internal Medicine*. 2017 May;56(10): 1219-1223. (査読あり), (IF = 0.91, 2016)
5. Araki W, Hattori K, Kanemaru K, Yokoi Y, Omachi Y, Takano H, Sakata M, Yoshida S, Tsukamoto T, Murata M, Saito Y, Kunugi H, Goto Y, Nagaoka U, Nagao M, Komori T, Arima K, Ishii K, Murayama S, Matsuda H, Tachimori H, Araki YM, Mizusawa H. Re-evaluation of soluble App- α and APP- β in cerebrospinal fluid as potential biomarkers for early diagnosis of dementia disorders. *Biomarker Research* 2017 May;5:28-36. (査読あり), (IF = なし, 2016)
6. ★◎Ishibashi K, Onishi A, Fujiwara Y, Ishii K. Effects of glucose, insulin, and insulin resistance on cerebral 18F-FDG distribution in cognitively normal older subjects. *PLoS ONE* 2017 July 12(7):e0181400 DOI 10.1371/journal.pone.0181400 (査読あり), (IF = 2806, 2016)
7. Imai M, Tanaka M, Ishibashi K, Tokumaru A, Ishii K. Glucose hypometabolism in developmental venous anomaly without apparent parenchymal damage. *Clin Nucl Med* 2017 May; 42(5):361-363. (査読あり), (IF = 4.563, 2016)
8. ★◎Ishibashi K, Miura Y, Toyohara J, Ishii K, Ishiwata K. Comparison of imaging using ¹¹C-ITMM and 18F-FDG for the detection of cerebellar ataxia. *J Nucl Med* 2017 Apr 15;37:97-102. (査読あり), (IF = 2.295, 2016)
9. Sakata M, Ishibashi K, Imai M, Wagatsuma K, Ishii K, Hatano K, Ishiwata K, Toyohara J. Assessment of safety, efficacy, and dosimetry of a novel 18kDa translocator protein ligand [¹⁴C]CB184, in healthy human volunteers. *EJNMMI Res*. 2017 Dec;7(1):26. (査読あり), (IF = 2.033, 2016)
10. Mishina M, Ishii K, Kimura Y, Suzuki M, Kitamura S, Ishibashi K, Sakata M, Oda K, Kobayashi S, Kimura K, Ishiwata K. Adenosine A1 receptors measured with ¹⁴C-MPDX PET in early Parkinson's disease. *Synapse* 2017 Aug;71(8), e21979, 2017. (査読あり), (IF = 2.132, 2016)
11. 宮司典明, 三輪建太, 茂木一樹, 梅田拓朗, 我妻慧, 深井翔平, 滝口智洋, 寺内隆司, 小泉満. 骨SPECT定量における異なる校正用線源の相互校正の精度. *日本放射線技術学会雑誌* 2017;73(6):443-450. (査読あり), (IFなし)
12. Hayashi S, Inaji M, Nariai T, Sakata M, Toyohara J, Ishii K, Ishiwata K, Maehara T. Increased binding potential of brain adenosine A1 receptor in chronic stages of patients with diffuse axonal injury measured with [1-methyl-11C]8-dicyclopropylmethyl-1-methyl-3-propylxanthine PET imaging. *J Neurotrauma* 2017 Jul 20. doi: 10.1089/neu.2017.5006. (査読あり), (IF = 5.190, 2016)
13. Kokubo Y, Ishii K, Morimoto S, Mimuro M, Sasaki R, Murayama S, Kuzuhara S. Dopaminergic positron emission tomography study on amyotrophic lateral sclerosis / parkinsonism - dementia complex in Kii, Japan. *J Alzheimers Dis Parkinsonism* 2017, 7:2 DOI: 10.4172/2161-0460.1000311 (査読あり), (IF = 3.42, 2016)
14. Sakurai R, Fujiwara Y, Yasunaga M, Suzuki H, Kanosue K, Montero-Odasso M, Ishii K. Association between hypometabolism in the supplementary motor area and fear of falling in older adults. *Front Aging Neurosci* 2017 Jul 28;9:251. doi: 10.3389/fnagi.2017.00251. (査読あり), (IF = 4.504, 2016)
15. ★◎Ishibashi K, Miura Y, Wagatsuma K, Ishiwata K, Ishii K. Changes in brain amyloid β accumulation after donepezil administration. *J Clin Neurosci* 2017 Aug 29. pii: S0967-5868(17)30896-2. doi: 10.1016/j.jocn.2017.08.025. (査読あり), (IF = 1.557, 2016)
16. ◎Wagatsuma K, Oda K, Miwa K, Inaji M, Sakata M, Toyohara J, Ishiwata K, Sasaki M, ★Ishii K. Effects of a novel tungsten-impregnated rubber neck shield on the quality of cerebral images acquired using ¹⁵O-labeled gas. *Radiol Physics and Technology* 2017 Aug 19. doi: 10.1007/s12194-017-0414-5. (査読あり), (IF = なし, 2016)
17. 中澤脩人, 梅田拓朗, 宮司典明, 三輪建太, 我妻慧, 茂木一樹, 滝口智洋, 寺内隆司, 小泉満, 白井桂介, 笹井啓資. 呼吸同期PET/CTを用いた横隔膜境界における肉眼的腫瘍体積の算出能の評価. *日本放射線技術学会雑誌* 2017;73(8):617-625. (査読あり), (IFなし)
18. Hara S, Tanaka Y, Ueda Y, Hayashi S, Inaji M, Ishiwata K, Ishii K, Maehara T, Nariai T. Noninvasive evaluation of CBF and perfusion delay of Moyamoya disease using arterial spin-labeling MRI with multiple postlabeling delays: comparison with ¹⁵O-Gas PET and DSC-MRI. *Am J Neuroradiol* 2017 (in press) (査読あり), (IF = 3.55, 2016)

19. Yamane T, Ishii K, Sakata M, Ikari Y, Nishio T, Ishii K, Kato T, Ito K, Senda M and J-ADNI Study Group. Inter-rater variability of visual interpretation and comparison with quantitative evaluation of ¹¹C-PiB PET amyloid images of the Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative (J-ADNI) multicenter study. *Eur J Nucl Med Mol Imaging*. 2017 May;55(5): 850-857. (査読あり), (IF = 7.277, 2016)
20. Shimada H, Ishii K, Makizako H, Ishiwata K, Oda K, Suzukawa M. Effects of exercise on brain activity during walking in older adults: a randomized controlled trial. *J Neuroeng Rehabil* 2017 May 30;14(1):50. (査読あり), (IF = 3.516, 2016)
21. Sakata M, Toyohara J, Ishibashi K, Wagatsuma K, Ishii K, Zang MR, Ishiwata K. Age and gender effects of ¹¹C-ITMM binding to metabotropic glutamate receptor type 1 in healthy human participants. *Neurobiol Aging* 2017 Jul;55:72-77. (査読あり), (IF = 5.117, 2016)
22. ★◎Wagatsuma K, Miwa K, Sakata M, Oda K, Ono H, Kameyama M, Toyohara J, Ishii K. Comparison between new-generation SiPM-based and conventional PMT-based TOF-PET/CT. *Phys Med*. 2017;42:203-210. (査読あり), (IF=1.999, 2016)
23. 多胡哲郎, 豊原潤, 酒井昌成, 林薫平, 石井賢二. ヒストンデアセチラーゼ6のイメージングを目的としたPETプローブの開発. *JSMI Report*, in press. (査読有り), (IFなし, 2016)
24. Umeda T, Miwa K, Murata T, Miyaji N, Wagatsuma K, Motegi K, Terauchi T, Koizumi M. Optimization of a shorter variable-acquisition time for legs to achieve true whole-body PET/CT images. *Australas Phys Eng Sci Med*. 2017. [Epub ahead of print]. (査読あり), (IF=1.171, 2016)
25. 梅田拓朗, 宮司典明, 中澤脩人, 三輪建太, 我妻慧, 茂木一樹, 滝口智洋, 小泉満. 223Raイメージングにおける異なるコリメータを用いた総合感度と総合空間分解能の実測比較. *日本放射線技術学会雑誌* 2017;73(11):1132-1139. (査読あり), (IFなし)
26. Mishina M, Kimura Y, Sakata M, Ishii K, Oda K, Toyohara J, Kimura K and Ishiwata K: Age-Related Decrease in Male Extra-Striatal Adenosine A1 Receptors Measured using ¹¹C-MPDX PET. *Front Pharmacol*. 8 (12 Article 903), 1-7, 2017 (査読あり), (IF = 4.400)
27. Koshiishi A, Hamaji H, Wada Y, Ito K, Wagatsuma K, Ishii K, Kanetaka M, Kaneko S, Uezono S, Shoda N, Anamizu Y, Tokimura F, Miyazaki T. Revision with Locking Plate and Sliding Inlay Bone Graft for Hypertrophic Nonunion after Combined Treatment of Ender Nails and Teriparatide for Atypical Femoral Stress Fracture A Unique Case Report. *J Orthop Rheumatol*. 2017;4(2):6. (査読あり), (IFなし)
28. Hiura M, Nariai T, Sakata M, Muta A, Ishibashi K, Wagatsuma K, Tago T, Toyohara J, Ishii K, Maehara T. Response of cerebral blood flow and blood pressure to dynamic exercise: a study using PET. *Int. J of Sports Med.*, 39(3):181-188, 2018 (査読あり), (IF = 2.084, 2016).
29. ★◎Ishibashi K, Miura Y, Imamura A, Toyohara J, Ishii K. Microglial activation on ¹¹C-CB184 PET in a patient with cerebellar ataxia associated with HIV infection. *Clin Nucl Med*. 2018. 43(3):e82-e84. (査読あり), (IF = 4.563, 2016)
30. Nakamura A, Kaneko N, Villemagne VL, Kato T, Doecke J, Doré V, Fowler C, Li QX, Martins R, Rowe C, Tomita T, Matsuzaki K, Ishii K, Ishii K, Arahata Y, Iwamoto S, Ito K, Tanaka K, Masters CL, Yanagisawa K. High performance plasma amyloid- β biomarkers for Alzheimer's disease. *Nature*. 2018 Feb 8;554(7691):249-254. (査読あり), (IF = 40.137, 2017)

(2) 総説

- ◎石井賢二：アルツハイマー病治療戦略におけるアミロイドPET. *BRAIN and NERVE* 2017 Jul;69(7):809-818. (査読あり), (IF = 0.32, 2016)
- 嶋田裕之、東海林幹夫、池内健、鈴木一詩、千田道雄、石井賢二、松田博史、岩田淳、井原涼子、岩坪威、武藤香織、中澤栄輔、関島良樹、森悦朗、池田学、池田将樹、川勝忍、中西亜紀、橋本衛、布村明彦、松原悦朗、福井充、白戸朋代、平井香織、坂本昌子、藤井比佐子、森啓：DIAN/DIAN-J/DIAN-TU. *BRAIN and NERVE* 2017 Jul;69(7):701-709. (査読あり), (IF = 0.32, 2016)
- 日浦幹夫、成相直、牟田光孝、稲次基希、豊原潤、石井賢二、石橋賢士、我妻慧、坂田宗之、織田圭一、石渡喜一、前原健寿：PETイメージングを活用した運動負荷時の脳機能解析：脳血流量と神経受容体計測の実験。脳循環代謝, 28, 297-302, 2017.(査読なし), (IFなし)
- 三輪建太、小池笑也、平塚勢哉、田中雅之、我妻慧、山口正太郎：Q.Clearの原理と最新情報. *GEToday* 2107, Vol. 50, 24-26. (査読なし), (IFなし)
- 三輪建太, 我妻慧, 山尾天翔, 上高祐人, 松原佳亮, 赤松剛, 今林悦子. アミロイドPETの定量解析に関する研究. *日本放射線技術学会雑誌*, 2017;73(11):1165-1174. (査読なし), (IFなし)
- ★◎我妻慧、坂田宗之、石井賢二、三輪建太、小野遥香：Discovery MIの性能評価と脳FDG検査. *GEToday* 2017, Vol. 51, 25-27. (査読なし), (IFなし)
- ★◎石井賢二：認知症診断におけるPET分子イメージングの応用. *脳神経外科* 2017;45(12): 1109-1119. (査読なし), (IFなし)
- ★◎石井賢二：アミロイドおよびタウPETの臨床応用. *臨床放射線* 2018;63(2): 157-165 (査読なし) (IFなし)
- ★◎石井賢二：認知症と画像診断 アミロイドおよびタウPETの役割. *Rad Fan* 2018; 16(3): 74-77 (査読なし) (IFなし)

3 著書等

- 石井賢二：今後期待される検査（遺伝子検査も含めて）、「精神科治療学」編集委員会編、『高齢者のための精神科医療（精神科治療学第32巻増刊号）』、星和書店、東京、2017
- 石井賢二：脳核医学の将来展望.西村恒彦編著, 核医学融合画像 基礎と臨床 pp230-237, 金原出版株式会社, 東京, 2017

受賞

脳機能

- 多胡哲郎、研究員、第14回日本核医学会研究奨励賞、対象論文：Structure-activity relationship of 2-arylquinolines as PET imaging tracers for tau pathology in Alzheimer disease (Tago, T., Furumoto, S., Okamura, N.,

- Harada, R., Adachi, H., Ishikawa, Y., Yanai, K., Iwata, R., Kudo, Y.: Journal of Nuclear Medicine 2016; 57:608-614)、2017.10.7
2. 豊原潤、研究副部長、2017年久田賞銀賞 (Annals of Nuclear Medicine 論文賞)、対象論文: Preclinical and first-in-human studies of [¹¹C]CB184 for imaging the 18-kDa translocator protein by positron emission tomography (Toyohara, J., Sakata, M., Hatano, K., Yanai, S., Endo, S., Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Ishii, K., Ishiwata, K.: Annals of Nuclear Medicine 2016; 30:534-543)、2017.10.7
 3. 豊原潤、研究副部長、第56回日本核医学会賞、核医学の研究・診療・教育の分野において、その発展に多大な寄与をする傑出した業績を有する者に贈られる、2017.10.7
 4. 多胡哲郎、研究員、FASMI Young Investigator Travel Award (日本分子イメージング学会)、対象演題: Development of PET probes for imaging of histone deacetylase 6. Tago, T., Hayashi, K., Sakai, M., Ishii, K., Toyohara, J., 2017.5.26
 5. 多胡哲郎、研究員、2017 Alavi-Mandell Publication Awards (Journal of Nuclear Medicine若手対象論文賞)、対象論文: Structure-Activity Relationship of 2-Arylquinolines as PET Imaging Tracers for Tau Pathology in Alzheimer Disease (Tago, T., Furumoto, S., Okamura, N., Harada, R., Adachi, H., Ishikawa, Y., Yanai, K., Iwata, R., Kudo, Y.: Journal of Nuclear Medicine 2016; 57:608-614)、2017.6.10
 6. 多胡哲郎、研究員、ISRS Travel Bursary Award、対象演題: Radiosynthesis of carbon-11 and fluorine-18 labeled Tubastatin A derivatives for histone deacetylase 6 PET imaging. Tago, T., Hayashi, K., Sakai, M., Ishii, K., Toyohara, J., 2017.5.14

社会参加と地域保健研究チーム

チームリーダー：藤原 佳典

1 研究チームの概要・目的

当研究チームは、高齢者人口のほぼ8割を占める“生活機能の自立した”高齢者を主な対象とし、ICFモデルに示された「参加」、「活動」の増進に向けた追跡研究および地域でアクションリサーチを行い、健康日本21（第二次）で掲げられている「健康寿命（余命）の延伸」と「健康格差の縮小」に寄与することを目的としている。

二つのテーマ研究（TR）からなり、社会参加・社会貢献の促進TR(以降、社会参加G)では、「参加」が健康余命に及ぼす影響を明らかにするとともに、持続可能な高齢社会の実現に向けて諸課題の解決に寄与する社会貢献プログラムを開発し、それを広く地域で展開する。もって、「参加」、「活動」の増進や社会的孤立予防など健康格差の縮小のための政策立案に寄与する。また、老化・虚弱の一次予防と地域保健TR(以降、地域保健G)では、独自に開発した虚弱スケールなどを用いて、高齢期の虚弱化プロセスの解明を行うとともに、虚弱化を予防/先送りする新しい社会システムを開発し、それを広く地域で展開する。もって、健康余命の延伸と健康格差の縮小のための政策立案に寄与する。

なお、2015年10月から新開が副所長に、藤原がチームリーダーに就任した。新開が担ってきた地域保健Gの新しいチームリーダーは、2015年1月着任した北村部長のもと中期計画が引き継がれたが、2016年度以降は、大田区を主なフィールドとして「虚弱・介護予防」「生活支援」の大都市部での実装研究を開始した。さらに、2017年4月から小林が専門副部長に昇格した。小林は、これまで貴重

な全国/首都圏縦断調査を統括してきた。とりわけ、前者は既存の社会科学系大規模縦断研究としては我が国最長（25年間）と希少である。第三期中期計画に向けて、小林が中心となり、データベースの有効活用に努めていく。

2 今後の展望

第三期中期計画に向けて、両テーマとも第二期中期計画を継続・発展することを基盤に研究を推進する。

社会参加・社会貢献テーマは3つの目標【1】多様な社会参加の機会の増加、【2】社会参加による健康維持・増進効果、【3】世代間の相互理解・互助の促進、を設定する。これらの達成に向けて、（A）社会参加が高齢者に与える健康影響について、各種調査や実験の両面から検討し、その背景にある心身社会的メカニズムについて明らかにする。また、（B）プロダクティブエイジングの実現に資する各種プログラム・システムを開発する。

また、次年度から小林専門副部長が、(仮称)大都市高齢者基盤研究テーマを率い、全国縦断調査を統括する。

老化・虚弱の一次予防と地域保健テーマは【1】虚弱化のプロセスの解明として、都市部高齢者への応用可能性を検討し、【2】虚弱化を先送りする大都市モデルを推進する。【3】健康余命を延伸することの社会経済的評価として、総医療費・総介護費の内訳を詳細に分析する。また、【4】身体活動・運動のガイドライン作成（中之条研究）を推進する。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

社会参加・社会貢献の促進

テーマ	研究目標・目的	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
社会参加・社会貢献の促進とその効果に関する研究	1) 高齢者のウェルビーイング(幸福)を促進・阻害する社会的要因の解明	長期縦断研究の継続：データセットの構築	長期縦断研究の継続：データの分析	長期縦断研究の継続：成果の公表	長期縦断研究の継続：データセットの構築・分析	長期縦断研究の継続：まとめ
	2) ①世代間交流(IG)・②ソーシャルキャピタル(SC)醸成の効果検証	介入研究の継続：過去データの分析	介入研究の継続：過去データの分析	介入研究の継続：成果の公表	介入研究の継続：過去データの分析	介入研究の継続：まとめ
	3) 高齢者の多様なニーズに応える有償・無償の社会貢献プログラムの開発	アクションリサーチの実施：過去データの分析	アクションリサーチの実施：成果の公表	アクションリサーチの実施：過去データの分析	アクションリサーチの実施：成果の公表	政策提言
	4) 社会的孤立の予防に向けた重層的な地域包括ケアシステムの開発	アクションリサーチの実施：過去データの分析	アクションリサーチの実施：過去データの分析	アクションリサーチの実施：過去データの分析	アクションリサーチの実施：成果の公表	政策提言

老化・虚弱の一次予防と地域保健の研究

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
虚弱化のプロセスの解明と予防システムの開発	1) 虚弱化のプロセスの解明 ①高齢期の虚弱化のパターンの解明	縦断研究の継続、過去データの分析	縦断研究の継続、成果の公表	縦断研究の継続、過去データの分析	縦断研究の継続、成果の公表	縦断研究の継続、まとめ
	②異なるパターンの虚弱化の学際的原因解明	同上	同上	同上	同上	同上
	2) 虚弱化を予防/先送りする社会システムの開発	アクションリサーチの実施	アクションリサーチの実施	成果の公表	他地域への展開	政策提言
	3) 健康余命を延伸することの社会経済的評価	データセットの構築	データセットの構築	データセットの分析	データセットの分析	成果の公表
青柳G	4) 身体活動・運動のガイドライン作成（中之条研究）	日常身体活動と体温、睡眠、免疫、動脈硬化との関係	日常身体活動とうつ、生活機能との関係	日常身体活動と体温、睡眠、筋骨格系疾患との関係	日常身体活動と体温、睡眠、運動機能との関係	予防医学システムを開発、ガイドラインの作成

社会参加・社会貢献の促進

構成メンバー

テーマリーダー：藤原佳典

研究員：小林江里香、鈴木宏幸、野中久美子、
桜井良太、倉岡正高

非常勤研究員：村山陽、小川将、村山幸子、
高橋知也、山口淳、飯塚あい、
田中元基、根本裕太、小林桃子、
長谷部雅美、村山洋史、

1 第二期中期計画の研究成果

(1) 高齢者のウェルビーイング(WB)を促進・阻害する社会的要因の解明

平成25年度以降、全国と首都圏における18,000人規模(一部多世代含む)の希少なデータベースを整備した。これらを用いて、健康・WBの促進・阻害要因について解析を進めた。これらの知見を踏まえて、健康長寿新ガイドラインにおいて「1日1回以上の外出」、「週1回以上の友人・知人との交流」、「月1回以上の社会参加」の重要性を提示した。

(2) ①世代間交流(IG)および②ソーシャルキャピタル(SC)醸成の効果検証

①世代間交流(IG)研究については、(a)学校ボランティアREPRINTS研究の最長7年間に亘る長期介入の結果、高齢者ボランティアの海馬の萎縮抑制、心身機能が維持することが示された。多面的評価として中高校生のQOLや地域のソーシャルキャピタルへの効果が見られた。WHO world reports(2015)に優良事例として紹介された。(b)世代間関係を評価する二つの尺度「地域の子育て支援行動尺度」と「世代間ふれあい感情尺度」を開発した。

②SC研究については、厚労科研の研究班を立ち

上げ、保健師向けSC活用マニュアルを作成した。

(3) 高齢者の多様なニーズに応える有償・無償の社会貢献プログラムの開発

①有償－就労研究：都内の就業支援センターの求職高齢者および地域高齢者の縦断調査を実施した。高齢者就労研究会(通称：ESSENCE)を隔月主催しており、WEBサイトを開設した。得られた知見として、退職は精神的健康、生活機能の順に低下することや、事務職を除けば、高齢者の再就職は比較的容易であること等がわかった。一方、介護や育児事業所において、高齢者の利点を生かした雇用を行う事例が散見された。

②無償－生涯学習型ボランティア研究：絵本の読み聞かせ法の習熟による認知症予防を導入としたボランティアプログラムを開発してきた。3か月間の集中介入により、エピソード記憶課題が有意に改善した。介入地区にてボランティアグループの立ち上げにも成功し、10区市からの受託・協働事業に発展した。

(4) 社会的孤立の予防に向けた重層的な地域包括ケアシステムの開発

平成25年度以降、大田区、北区等において、地域包括支援センターを支援する住民・地域資源との連携システムを、①「ツール」②「ひと(人材育成)」③「場(サロン)」の開発を軸として推進中である。例えば①については、見守りチェックシートの開発、見守りキーホルダー、人感センサーの評価を行った。平成28年度以降、北区、川崎市多摩区、大田区と協働し、JST-RISTEX等大型研究費により、産官学による多世代型生活互助システムの開発に着手した。

以上の成果を学術・マスコミ発表に加えて、各種書籍・マニュアル(6件)、内閣府はじめ自治体

審議会提言した(15件)。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜高齢者のウェルビーイング(幸福)を促進・阻害する社会的要因の解明＞

老化・虚弱、福祉と生活ケア研究チーム、東京大学、ミシガン大学、桜美林大学、早稲田大学、慶応義塾大学、鎌倉女大学、和光市、大田区

＜世代間交流およびソーシャルキャピタル醸成の効果検証＞

老化・虚弱、自立促進と介護予防研究チーム、神経画像研究チーム、兵庫県立大学、日本大学、岡山大学、ハリム大学、国立保健医療科学院、滋賀県、中央区、文京区、横浜市、川崎市

＜高齢者の多様なニーズに応える有償・無償の社会貢献プログラムの開発＞

老化・虚弱、自立促進と介護予防研究チーム、浜松医科大学、東邦大学、米国ジョーンズホプキンス大学、米国ドレクセル大学、米国ペンシルバニア州立大学、ダイヤ高齢社会研究財団、大田区、板橋区、豊島区、北区、杉並区

＜社会的孤立の予防に向けた重層的な地域包括ケアシステムの開発＞

老化・虚弱、自立促進と介護予防研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、桜美林大学、大田区、北区、多摩市、和光市、川崎市、近江八幡市、板橋区、板橋区社会福祉協議会

＜その他：認知機能尺度・マーカーの探索＞

老化・虚弱、神経画像研究チーム、自立促進と介護予防研究チーム、糖尿病・代謝・内分泌内科、精神科、循環器科、フレイル外来、もの忘れ外来、帝京大学、フロリダ国際大学

3 今後の展望

(1) 高齢者のウェルビーイング(幸福)を促進・阻害する社会的要因の解明

第二期における研究結果によれば、健康・ウェルビーイングの促進・阻害要因は性別、年齢、出生コホートによっても異なっており、高齢者は多様である。今後は、高齢者の適切なセグメント化と各集団の特性やニーズに合った社会参加の促進方法の解明をさらに進める必要がある。また、高齢者の就業率の上昇は今後も続くことが予想されることから、就労を継続しながらの地域活動への参加や、就労・地域活動のどのようなバランスがウェルビーイングを高めるのかといった、複数の活動への参加を考慮に入れた研究を進めたい。そのためには、JAHEAD、CAPITAL研究等の縦断研究を継続し、最大限に

活用するとともに、65歳以上の人だけでなく、仕事引退前の60歳前後の人々を対象としたデータの蓄積も行う必要がある。

(2) ①世代間交流(IG)および②ソーシャルキャピタル(SC)醸成の効果検証

下記(4)の多世代型交流・互助システムの構築に向けたプロジェクトは平成30～31年度に北区、大田区、川崎市多摩区において介入効果の評価を目的として地域住民を対象とする追跡調査を予定している。介入内容は「情緒的支援」「社会参加支援」「手段的支援」の三層の支援戦略とその戦術である「ひと(人材育成)=まち・人・くらしプロモーター」、「場(多世代交流サロン)」、「ツール(多世代こえかけキャンペーン)」の導入である。本プロジェクトは以上の戦略と戦術を通して地域のソーシャルキャピタルを醸成しようとするものである。第三期ではその介入効果の評価するとともに、これら三層の支援と3つの戦術がソーシャルキャピタルの醸成に及ぼすメカニズムを解明する予定である。一方、3つの戦術についての導入についての自治体や関連団体のニーズは高いため、これらの実践手法についてのマニュアルや研修を逐次、作成・公表していく予定である。

(3) 高齢者の多様なニーズに応える有償・無償の社会貢献プログラムの開発

(A) 就労(有償型)研究については、これまでのエビデンスを踏まえた外部識者・実務者を交えた(通称:ESSENCE)研究会からの提言に基づき、高齢者が「感謝されやすい働き方」を探求する。具体的な職種として例えば、保育補助員・介護補助員があり、自治体と連携してこれらの就労支援プログラムを開発する。

(B) 生涯学習(無償型)研究については、いわゆる「健康無関心層」へのアプローチとして有用と考える。よって、生涯学習であるが副次的に介護予防・健康維持増進が期待できる優良事例を全国調査する。加えて、市民の関心が極めて高い認知症予防講座を導入とした各種ボランティアプログラムを引き続き開発・普及させていく。①絵本の読み聞かせプログラムについては、多数の遠方自治体のニーズに応えるために、今年度、北秋田市で試行中の現地指導者の養成システムを開発する。②試行中の囲碁プログラムについては、対象者を増やしてRCTによる効果検証を行う。③生涯学習型活動からの離脱要因として歩行機能低下がある。長期継続を支援するために下肢機能低下が見られるフレイル高齢者にもその維持・向上が期待されるノルディックウォークを用いた継続支援プログラムを

開発する。

(4) 社会的孤立の予防に向けた重層的な地域包括ケアシステムの開発

平成28年度より開始した多世代型交流・互助システムの構築に向けたプロジェクトはJST-RISTEX助成終了後(平成30年9月)も北区、大田区、川崎市多摩区と協働し継続予定である。

その際に、(A)住民向けには多世代の交流・互助に資するスマートホンを活用したワンコインマッチングシステムを試作中であるが実装化に向けてかなりの改善が必要である。生活支援マッチングに付加した社会参加コンテンツを併用した開発を行う。(B)地域包括支援センター等の専門職向けには生活支援・社会参加に資する地域資源(店舗、貸しスペース、スポーツ・学習施設等)のWebによる見える化サイトの開設について民間企業や専門職らと検討会を開始しており、高齢者への情報提供を効率化するシステムの開発を目指す。

老化・虚弱の一次予防と地域保健の研究

構成メンバー

テーマリーダー：北村明彦

研究員：青柳幸利、清野諭、谷口優、西真理子、
横山友里、天野秀紀

非常勤研究員：成田美紀、朴晟鎮、池内朋子、
田中泉澄、遠峰結衣、高橋信、
趙善英

1 第二期中期計画の研究成果

(1) 虚弱化のプロセスの解明

コミュニティベースの長期縦断研究(TMIG-LISA、草津研究)のデータを用いて、高齢期の心身機能の加齢変化パターンごとに、総死亡リスク、要介護リスク、認知症発症リスクを明らかにした。また、身体機能および認知機能の加齢変化パターンを規定する要因の解明を行った。これにより、高齢期に心身機能が低下しているものを早期発見し、介入により機能向上を図ることの重要性を示すとともに、虚弱の発生には、生活習慣病等の疾病の影響だけではなく、高次生活機能や栄養状態、心理社会的な状態が相互に作用することが示唆され、中年期から高齢期にかけての健康づくりの推進により、虚弱化が予防または先送りできる可能性が示された。

(2) 虚弱化を先送りする社会システムの開発

地域社会において実施可能な高齢者の虚弱化を予防または先送りするための一次～三次予防システムを開発した。埼玉県鳩山町では特定の

目的をもった機能的コミュニティを形成することによる「大都市近郊型モデル」、兵庫県養父市では、小学校区単位での地域のコミュニティを基盤とする「中山間地域モデル」を構築した。その過程で機能的健康度のセルフケア力をアップさせるための「セカンドライフの健康づくり応援手帳」等のツールを開発し、全国販売につながった。また、「大都市モデル」開発のため、東京都大田区との共同研究事業として「大田区元気シニア・プロジェクト」を立ち上げ、現在、区内の特性に応じたアクションリサーチをICTの活用を含め大々的に展開中である。

(3) 健康余命を延伸することの社会経済的評価

草津研究の調査データと、総医療費、総介護費データをリンケージした解析結果より、高齢者の機能的健康度を高めることにより、社会保障給付費(医療費、介護費)の増加抑制に結びつく根拠となるデータを示した。

(4) 身体活動・運動のガイドライン作成(中之条研究)

高齢者における日常身体活動を加速度センサー付き体動計により客観的かつ精確に評価した結果を分析し、1日の歩数と中強度活動時間の組み合わせ別に生活習慣病の予防効果と健康寿命延伸効果を示し、当研究所の健康長寿新ガイドライン体力・身体活動編に反映させた。

以上の本テーマに関連する業績として、5年間計で誌上発表186件、学会発表305件、著書139件、主な競争的研究資金獲得計約1億1千万円等の成果を挙げた。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<虚弱化のプロセスの解明>

社会参加・社会貢献、老化機構研究チーム(老化バイオマーカー)、自立促進と介護予防研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、臨床研究推進センター、東京大高齢社会総合研究機構、桜美林大学、東京農業大学、群馬県草津町、埼玉県鳩山町、兵庫県養父市

<虚弱化を予防または先送りする社会システムの開発>

社会参加・社会貢献、群馬県草津町、埼玉県鳩山町、兵庫県養父市、東京都大田区、地域医療振興協会、女子栄養大学、東邦大学、国立長寿医療研究センター

<健康余命の社会経済的評価>

福祉と生活ケア研究チーム、地域医療振興協会、内閣府、東京大疫学・生物統計学

<身体活動・運動のガイドライン作成(中之条研

究) >

東京大心療内科、共立女子大家政学科

3 今後の展望

第二期中期計画の研究を継続、発展させることを目的として以下の研究を行いたい。

(1) 虚弱化のプロセスの解明

①都市部高齢者への応用可能性

都市部高齢者における虚弱化プロセスを分析するために、鳩山町研究および大田区研究のデータを用いた解析を行う。また、研究所全体で計画している高島平研究にも参画する。そして、TMIG-LISA、草津町研究での結果と比較することにより、地域差や都市部での虚弱化の特徴を明らかにする。

②フレイルの変化パターンの解明と、追跡期間中に変動する虚弱化要因の検討

FreedらやRockwoodらの定義でフレイルを定義し、その発現頻度や程度について、変化パターンおよび予測因子を明らかにする。そのために、草津町研究・鳩山町研究等のデータを統合し、比較的大きなサンプルサイズで追跡期間を延長して解析を行う。

また、第二期中期計画では、虚弱化の関連因子の検討としてベースライン時点の調査変数を用いた解析を行ったが、生活習慣病等の疾病の発生や心身機能が低下する過程が虚弱化プロセスに影響することから、個人内の経時的な変動を加味した詳細な解析を行う必要がある。

(2) 虚弱化を先送りする社会システムの開発

現在継続中の虚弱化を先送りする大都市モデル「大田区元気シニア・プロジェクト」を推進する。

平成28～30年度の3年間のプロジェクト（フェーズ1）を総括して、介入3地区において、虚弱の先送りにつながる社会システム（大都市モデル）のプロトタイプを創る。また、中間評価として、約12,000名を対象とした郵送による追跡調査をおこない、介入地区と対照地区におけるフレイル該当率や運動実践率、食品摂取多様性、外出・社会参加状況を比較してアウトカム評価をおこない、有効性を検証する。

平成31年度以降は、フェーズ2として概ね年間3地区のペースで段階的に実装地区を増やしていき、5年間（平成35年度まで）での区内の全18地区への展開を目指す。並行して、3年ごとに郵送による追跡調査を行うとともに、要介護認定率と健康余命をモニタリングすることによって、介入による効果を検証する。これらを

もって虚弱化を先送りする大都市モデルを完成させることが最終的な目標である。

また、第三期では、これまで兵庫県養父市で社会実装をすすめてきた中山間地域モデル（養父モデル）を埼玉県加須市へ実装するプロジェクトを推進する。すでに住民を対象とした研修が開始されており、埼玉県全域への展開も視野に入れている。

(3) 健康余命を延伸することの社会経済的評価

第二期中期計画期に得られた興味深い知見をもとに、第三期では、総医療費・総介護費の内訳を詳細に分析することで、内科・歯科・調剤等の科別や、外来・入院、施設介護・在宅介護別の費用分析を行う。これにより、高齢者の機能的健康度を高めることで、介護予防の目的である入院医療費や施設介護費を削減できるのかどうかを明らかにする。

(4) 身体活動・運動のガイドライン作成（中之条研究）

第三期中期計画研究では、健康長寿新ガイドラインにも掲載されたが、生活習慣病の予防のため、1日あたりの歩数が8,000歩以上、中強度活動が20分以上含まれていると効果的であるという点を確認するため、個々人の心身の健康の変化の追跡調査を行う。すなわち、心身の健康に影響を及ぼす要因としてライフイベントや疾病などの関連性を明らかにし、身体活動と死亡率の関係性を明確にする。また、それらの原因の一つとして、高齢者の栄養摂取状況と乳酸菌飲料摂取などの健康に関する疫学調査も行う。

論文・学会発表

社会参加・社会貢献の促進

1 学会発表

(1) 海外

1. Amano H, Kitamura A, Nishi M, Taniguchi Y, Seino S, Yokoyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S: Multivariate Trajectories of Cognitive Decline in Old Age: Clusters and Risk Factors. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
2. Fujiwara Y, Murayama Y, Hasebe M, Yamaguchi J, Yasunaga M, Nonaka K, Murayama H: Influence of intergenerational programs on social capital in local community The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics. San Francisco, CA, USA, 2017.7.23-27.
3. Kawai H, Ihara K, Yoshida H, Hirano H, Fujiwara Y, Obuchi S: Influence of statin use on the physical function among community-dwelling older Japanese adults, The

- 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, USA, 2017. 7.23-27.
4. Ikeuchi T, Kobayashi E, Fujiwara Y: The Role of Social Contact in the Association of Age and Well-Being. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
 5. Ihara K, Tanaka M, Hashizume M, Morinobu S, Hirano H, Fujiwara Y, Hachisu M, Kojima M, Kawai H, Obuchi S: Exome-wide association study identifies the association between depression, height and DOCK3, The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017), Saitama, Japan, 2017.8.19-22.
 6. Kitamura A, Taniguchi Y, Seino S, Yokoyama Y, Nishi M, Amano H, Fujiwara Y, Shinkai S. Impact of frailty on the incidence of loss of independence in community-dwelling older Japanese: the Kusatsu town study. The 21st International Epidemiological Association, World Congress of Epidemiology, Saitama, Japan. 2017.8.19-22.
 7. Kobayashi E, Harada K, Murayama H, Fukaya T, Liang J. Social isolation among older Japanese: Do regional attributes matter?. The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics. San Francisco, CA, USA, 2017.7.23-27.
 8. Kuraoka M: Designing Multigenerational Co-creation Community: Developing community-based interventions and the practice in JapanGenerations UnitedMilwaukee2017.6.13-16.
 9. Kuraoka M: Valuing Vaccinations Across Generations Japan. Generations United, Milwaukee 2017.6.13-16.
 10. Kuraoka M, Hasebe M, Nonaka K, Yasunaga M, Fujiwara Y: Effective Community-Based Program for Multigenerational Cyclical Support System. IAGGSan Francisco2017.7.23-27.
 11. Murayama H, Liang J, Bennett JM, Shaw BA, Botosaneanu A, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S. Trajectories of body mass index and their association with mortality among older Japanese. The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics. San Francisco, CA, USA, 2017.7.23.
 12. Murayama Y, Hasebe M, Takahashi T, Murayama S, Yamaguchi J, Yasunaga M, Fujiwara Y: The association between positive emotional experience and self-esteem in older adults. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
 13. Nonaka K, Hasebe M, Koike T, Suzuki H, Fukaya F, M, Fujiwara Y: Differences in health outcome among married, never-married, and separated/divorced elderly in Japan. IAGG. San Francisco2017.7.23-27.
 14. Sakurai R, Kanosue K, Fujiwara Y: Deficits in motor imagery of gait among older adults predict future development of fear of falling. 2017 ISPGR World Congress Fort Lauderdale, 2017. 6. 25-29
 15. Sakurai R, Bartha R, Montero-Odasso M: Atrophy of the entorhinal cortex is associated with increased dual-task gait cost among MCI older adults. IAGG 21th World Congress of Gerontology & Geriatrics, San Francisco, 2017. 7. 23-27.
 16. Seino S, Kitamura A, Tomine Y, Tanaka I, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. Associations of participation in social activity with physical activity and sedentary time among older adults living in metropolitan areas in Japan: a cross-sectional study. The 21st International Epidemiological Association, World Congress of Epidemiology, Saitama, Japan. 2017.8.19-22.
 17. Shinkai S, Taniguchi Y, Seino S, Nishi M, Yokoyama Y, Amano H, Fujiwara Y, Kitamura A. Kusatsu Longitudinal Study on Aging and Health. The 3rd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, Seoul, Korea. 2017.10.27-28. (invited speaker)
 18. Shinkai S, Yokoyama Y, Narita M, Nishi M, Taniguchi Y, Seino S, Amano H, Fujiwara Y, Kitamura A. Dietary Variety and Changes in Lean Mass and Physical Performance in Community-Dwelling Older Japanese. The 3rd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, Seoul, Korea. 2017.10.27-28. (invited speaker)
 19. Taniguchi Y, Seino S, Yokoyama Y, Nishi M, Amano H, Fujiwara Y, Kitamura A, Shinkai S. Trajectory Pattern of Arterial Stiffness and Mortality Risk in a General Population of Older Japanese. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
 20. Taniguchi Y, Murayama H, Seino S, Nishi M, Amano H, Fujiwara Y, Kitamura A, Shinkai S. Prospective Study of Trajectories of Physical Performance and All-Cause Mortality. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
 21. Watanabe S, Fujiwara Y, Nonaka K, Kuraoka M, Kobayashi E, Minami U. Determinants of Job-Seeking Status Among the Elderly in Tokyo. The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics. San Francisco, CA, USA, 2017.7.23-27.
 22. Fujiwara Y. Research on promoting suicide countermeasures by boosting social capital with senior volunteers. The 2nd International Forum on Suicide Prevention Policy. Tokyo, Japan, 2018.1.20.

(2) 国内

1. 天野秀紀、西真理子、谷口優、清野諭、横山友里、北村明彦、吉田裕人、藤原佳典、新開省二. 高齢者の認知機能推移パターンと認知症状態・周辺症状発生リスクとの関係—草津町研究—. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等：鹿児島市). ポスター. H.29.10.31-11.2.
2. 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 杉山美香, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 岡村毅, 村山洋史, 大淵修一, 藤原佳典, 金憲経, 井原一成, 河合恒, 渡邊裕, 平野浩彦, 栗田主一: オーラルフレイルと認知機能、抑うつ傾向の関連, 第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 京都, 2017.10.14-15.
3. 江尻愛美, 藤原佳典, 河合恒, 井原一成, 平野浩彦, 小島基永, 大淵修一: 都市高齢者における社会的孤立の予測要因の解明: 前向きコホート研究, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
4. 藤原佳典: シンポジウム フレイルの社会的側面とその介入第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
5. 藤原佳典: 教育講演: 専門職の仕事に活かすソーシャル

- キャピタル日本災害看護学会 第19回年次大会, 鳥取, 2017.8.25.
6. 藤原佳典: 特別講演: 高齢者の社会参加が導く、持続可能な互助コミュニティ第22回聖路加看護学会学術大会, 東京, 2017.9.16.
 7. 藤原佳典: 生活モデル型認知症予防のエビデンスと実践, 第4回国際生活習慣病フォーラム 東京, 2017.9.10.
 8. 藤原佳典, 倉岡正高: 大都市部における育児と介護のダブルケアとソーシャルキャピタルの関連, 日本世代間交流学会第8回大会, 熊本, 2017.10.7.
 9. 藤原佳典: シンポジウム 高齢者支援と子ども・子育て支援の連携によるソーシャルキャピタル戦略-多世代型互助システムの構築-導入編, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島2017.10.31-11.2.
 10. 藤原佳典, 北村明彦, 谷口優, 天野秀紀, 清野諭, 横山友里, 西真理子, 箕浦明, 鈴木宏幸, 新開省二: 地域高齢者における就労状況の変化と心身・社会的特徴の関連第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 11. 藤原佳典, 西真理子, 長谷部雅美, 村山陽, 小池高史, 野中久美子, 鈴木宏幸, 安永正史, 小林江里香: 独居の男性高齢者は健康弱者か?、社会的弱者か?—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITALstudy) より, 第59回日本老年社会科学会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 12. 藤原佳典, 野中久美子, 倉岡正高, 松永博子, 村山幸子, 田中元基, 根本裕太, 村山洋史, 渡辺修一郎, 松永佳子, 福島富士子, 小林江里香: 大都市部におけるダブルケアの実態と多世代間の支援の関連, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
 13. 藤原佳典, 高橋知也, 野中久美子, 松永博子, 長谷部雅美, 根本裕太, 村山洋史, 小池高史, 南潮, 深谷太郎, 村山陽, 小林江里香, 高齢者における就労理由の差異からみた心身社会的特徴—ESSENCE研究より—第12回日本応用老年学会大会, 東京, 2017.10.22"
 14. 藤原佳典, 高橋知也, 野中久美子, 松永博子, 長谷部雅美, 根本裕太, 村山洋史, 小池高史, 南潮, 深谷太郎, 村山陽, 小林江里香, 高齢者における就労理由の差異からみた心身社会的特徴—ESSENCE研究より—第12回日本応用老年学会大会, 東京, 2017.10.22"
 15. 藤原佳典: 高齢者の社会参加と健康—そのエビデンスとシームレスな支援策の視点から第21回日本精神保健・予防学会学術集会那覇, 2017.12.9.
 16. 藤原佳典, 井原一成, 端詰勝敬, 河合恒, 鈴木宏幸, 小川将, 桜井良太, 平野浩彦, 渡邊裕, 大淵修一, 蜂須貢: 地域高齢者における血清BDNF値が簡易検査による認知機能低下におよぼす影響, 第28回日本疫学会総会, 福島, 2018.2.1-3.
 17. 深谷太郎, 小林江里香, 鈴木宏幸, 西真理子, 小池高史, 長谷部雅美, 村山陽, 野中久美子, 斉藤雅茂, 藤原佳典: 社会的孤立が2年後・4年後の健康等に与える影響—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防 (CAPITALstudy) より—, 日本老年社会科学会第59回大会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 18. 深谷太郎, 菅原陽子, 杉澤秀博, 小林江里香: インターネット・電子メールの利用と生活満足度の関係, 日本社会福祉学会第65回秋季大会, 東京, 2017.10.21-22.
 19. 橋本由美子, 渡辺修一郎, 野中久美子, 小池高史, 長谷部雅美, 村山陽, 鈴木宏幸, 深谷太郎, 小林江里香, 藤原佳典: 独居高齢者の類型別にみた身体的および精神的健康状態の比較—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study) より—, 日本老年社会科学会第59回大会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 20. 長谷部雅美, 村山陽, 西真理子, 箕浦明, 松永博子, 根本裕太, 小林江里香, 深谷太郎, 成田美紀, 藤原佳典: 高齢者における社会貢献活動への参加意向の変化とその関連要因, 第59回日本老年社会科学会大会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 21. 長谷部雅美, 野中久美子, 高橋知也, 松永博子, 根本裕太, 村山洋史, 小池高史, 深谷太郎, 村山陽, 鈴木宏幸, 小林江里香, 藤原佳典: 地域高齢者における社会参加の種類が生活機能の良好さに及ぼす影響, 第75回日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017.10-11.31-2.
 22. 橋本由美子, 渡辺修一郎, 野中久美子, 小池高史, 長谷部雅美, 村山陽, 鈴木宏幸, 深谷太郎, 小林江里香, 藤原佳典: 独居高齢者の配偶者関係からみた類型が2年間の健康状態の変化に及ぼす影響: 首都圏高齢者の地域包括的孤立研究 (CAPITAL study) より, 第12回日本応用老年学会大会, 東京, 2017.10.22.
 23. 飯塚あい, 石川譲治, 鳥羽梓弓, 田中旬, 田村嘉章, 千葉優子, 安永正史, 藤原佳典, 原田和昌, 荒木厚: フレイル外来受診者における運動機能分析装置 (zaRitz) の得点と体幹バランス、起立移動能力の関連, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 24. 飯塚あい, 鈴木宏幸, 小川将, 高橋知也, 小林キミ, 安永正史, 藤原佳典: 絵本読み聞かせプログラム中高年参加者の知的活動状況と認知機能の関連, 第59回日本老年社会科学会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 25. 飯塚あい, 鈴木宏幸, 小川将, 根本裕太, 武林亨, 藤原佳典: 施設入居者に対する「囲碁」を活用した認知機能低下抑制プログラムの開発と評価, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
 26. 解良武士, 河合恒, 平野浩彦, 小島基永, 藤原佳典, 井原一成, 大淵修一: 地域に在住する肥満高齢者の縦断的観察に関する研究 1年間後の肥満からサルコペニア肥満への進展の要因についての検討, 第52回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.12-14.
 27. 河合恒, 井原一成, 解良武士, 鈴木宏幸, 平野浩彦, 藤原佳典, 大淵修一: 地域高齢者における継続的なスタチン服用の運動機能、抑うつ、認知機能への影響, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
 28. 河合恒, 解良武士, 平山亮, 平野浩彦, 藤原佳典, 井原一成, 小島基永, 大淵修一: 超音波画像計測による地域高齢者の大腿四頭筋の形態的特徴の分類 運動機能及びサルコペニアとの関係, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 29. 河合恒, 西村悟史, 西村拓一, 吉田康行, 江尻愛美, 本島安純, 安永正史, 藤原佳典, 大淵修一, 豊島研究グループ: 知識発現を用いた介護予防リーダー支援のためのプロセス知識の抽出と構造化, 第12回日本応用老年学会大会, 東京, 2017.10.22.
 30. 河合恒, 大淵修一, 藤原佳典, 平野浩彦, 渡邊裕, 荒木厚, 小山照幸, 杉江正光, 小島基永, 中田晴美, 鈴木隆雄: コーディネーターのかかわりによる私的社会的統制を強めない住民協働の介護予防の推進効果, 当事者主体の地域包括ケアを目指して, 日本老年学会総会合同シンポジウム, 名古屋, 2017.6.14-16.
 31. 川崎采香, 佐久間尚子, 大神優子, 屋沢萌, 鈴木宏幸, 小川将: アクティブ高齢者における10年間の追跡研究 (3) RBMT「物語の記憶」の1年目と10年目の比較, 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.19-22.
 32. 北村明彦, 谷口優, 天野秀紀, 清野諭, 横山友里, 西真

- 理子, 藤原佳典, 新開省二: 地域高齢者の健康余命に及ぼす糖尿病とフレイルの交互影響. 第59回日本老年医学会学術集会(名古屋国際会議場:名古屋市)口演. H.29.6.14-16.
33. 北村明彦, 谷口優, 天野秀紀, 清野諭, 西真理子, 横山友里, 濱口奈緒美, 岡部たづる, 干川なつみ, 藤原佳典, 新開省二: 要介護状態の発生要因に関する疫学的検討ー草津町研究ー. 第76回日本公衆衛生学会総会(宝山ホール等:鹿児島市). 口演. H.29.10.31-11.2.
34. 小林江里香: 観察研究からみた独居高齢者の多様性(合同シンポジウム「大独居時代の地域支援に向けて」). 日本老年社会学会第59回大会, 名古屋, 2017.6.14-16.
35. 小林江里香, 野中久美子, 倉岡正高, 松永博子, 村山幸子, 田中元基, 根本裕太, 村山洋史, 渡辺修一郎, 松永佳子, 藤原佳典: 性・年齢層別にみた地域の子育て支援行動の実施状況と関連要因. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
36. 倉岡正高, 藤原佳典: 子育て支援行動を受けた経験と地域に対する意識について. 日本世代間交流学会第8回全国大会, 熊本学園大学, 2017.10.7
37. 倉岡正高, 野中久美子, 村山幸子, 田中元基, 根本裕太, 渡辺修一郎, 藤原佳典: 多世代共助システム(よりあい)の開発と社会実装の検証に向けて. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
38. 松永博子, 箕浦明, 南潮, 野中久美子, 小池高史, 鈴木宏幸, 小林江里香, 藤原佳典: 高齢者就労支援施設来所者の求職理由による類型とその特徴高齢者就労支援プロジェクト「ESSENCE」より. 日本老年社会学会 第59回大会および第30回日本老年学会総会, 名古屋, 2017.6.14-16
39. 松永博子, 鈴木章一, 中村桃美, 西山裕也, 渡邊修也, 遠座俊明, 崎山みゆき, 渡辺修一郎, 長田久雄, 河合恒, 大淵修一, 藤原佳典: その2 健康調査から見た高齢者の就労状況と職業能力判定項目(高齢者用)および身体・認知機能との関連. 日本応用老年学会 第12回大会, 東京, 2017.10.22
40. 三上友里江, 渡邊裕, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 本橋佳子, 大須賀洋祐, 平野浩彦, 金憲経, 北村明彦, 藤原佳典, 大淵修一, 石崎達郎, 新開省二, 栗田主一. 高島平Study(8)都市部在住高齢者の外出頻度の減少と口腔機能低下との関連. 第76回日本公衆衛生学会総会(宝山ホール等:鹿児島市). ポスター. H.29.10.31-11.2.
41. 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 井原一成, 田中弥生, 金憲経, 藤原佳典, 大淵修一, 河合恒, 平野浩彦, 渡邊裕: オーラルフレイルと食事・栄養の関わり, 第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 京都, 2017.10.14-15.
42. 村山幸子, 小林江里香, 倉岡正高, 野中久美子, 安永正史, 田中元基, 根本裕太, 箕浦明, 松永博子, 村山洋史, 藤原佳典: ジェネラティブティの構成要因と関連要因についての探索的検討ー都市部高齢者を対象とした郵送調査の結果からー. 第59回日本老年社会学会大会, 名古屋, 2017.6.14-16
43. 村山幸子, 倉岡正高, 野中久美子, 田中元基, 根本裕太, 安永正史, 小林江里香, 村山洋史, 藤原佳典: 児童・生徒の挨拶習慣が居住地の暮らしやすさと援助行動へ及ぼす影響. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
44. 村山陽: 地域における世代間交流の可能性と課題, 日本老年社会学会第59回大会, 名古屋, 2017.6.16.
45. 成田美紀, 北村明彦, 清野諭, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二: 在宅高齢者の食品摂取多様性と身体的、社会的、精神的健康の関連. 第59回日本老年社会学会大会(名古屋国際会議場:名古屋市)口演. H.29.6.14-16. (優秀演題受賞)
46. 成田美紀, 北村明彦, 西真理子, 長谷部雅美, 村山陽, 松永博子, 根本裕太, 深谷太郎, 小林江里香, 藤原佳典: 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒する者の背景要因: CAPITAL studyより. 第52回日本アルコール・アディクション医学会学術総会(パシフィコ横浜:横浜市). ポスター. H.29.9.8-9.
47. 小原由紀, 渡邊裕, 平野浩彦, 白部麻樹, 枝広あや子, 本川佳子, 河合恒, 藤原佳典, 大淵修一, 遠藤圭子: 地域在住高齢者における歯科保健指導経験の有無に関連する因子の検討, 日本歯科衛生学会第12回学術大会, 東京, 2017.9.16-18.
48. 根本裕太, 野中久美子, 長谷部雅美, 小池高史, 南潮, 桜井良太, 村山陽, 村山洋史, 小林江里香, 藤原佳典: 地域自立高齢者における社会参加活動への新規参加ならびに脱落の関連要因の検討: 縦断研究. 第59回日本老年医学会学術集会および第30回日本老年学会総会, 名古屋, 2017.6.14-16
49. 根本裕太, 長谷部雅美, 村山陽, 松永博子, 西真理子, 深谷太郎, 成田美紀, 箕浦明, 小林江里香, 藤原佳典: 運動実施ならびにスポーツグループ参加が精神的健康状態に与える影響: 世代間比較. 日本老年社会学会第59回大会および第30回日本老年学会総会, 名古屋, 2017.6.14-16
50. 根本裕太, 長谷部雅美, 村山陽, 松永博子, 西真理子, 深谷太郎, 成田美紀, 箕浦明, 小林江里香, 藤原佳典: 地域活動実施者における社会的孤立と精神的健康状態の関連の検討: CAPITAL studyより. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
51. 野中久美子, 村山洋史, 倉岡正高, 村山幸子, 田中元基, 安永正史, 根本裕太, 松永博子, 渡辺修一郎, 小林江里香, 藤原佳典: 有償生活支援サービスのニーズと生活機能の関連. 第58回日本老年社会学会大会, 名古屋, 2017.6.14~6.16
52. 野中久美子, 高橋知也, 長谷部雅美, 松永博子, 根本裕太, 村山洋史, 小池高史, 深谷太郎, 村山陽, 鈴木宏幸, 小林江里香, 藤原佳典: 「高齢者見守りキーホルダー」システムの新規登録者の特徴: 健康との関連から. 日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
53. 野中久美子: 多世代型相互扶助モデル「くらしシェア」の概要. 日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
54. 小川将, 鈴木宏幸, 村山幸子, 飯塚あい, 高橋知也, Kimi E Kobayashi-Cuya, 藤原佳典: 地域在住高齢者を対象とした筆記表現法における完遂者・未完遂者の関連要因. 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.19-22
55. 小川将: ストレスマネジメント手法としての筆記表現法の有用性と有効性「徹底検証!!音楽介入・筆記表現・読み聞かせ・脳トレ/ポケモンGOの本当の効果: 日常生活の工夫・介入による認知機能・精神的健康の維持・向上」. 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.19-22
56. 小川将, 鈴木宏幸, 高橋知也, 飯塚あい, 小林キミ, 藤原佳典: 自治体事業における絵本の読み聞かせによる精神的健康の向上効果の検討. 第59回日本老年社会学会大会, 名古屋, 2017.6.14-16.
57. 小川将, 鈴木宏幸, 山内美紗子, 飯塚あい, 高橋知也, 藤原佳典: ホームワーク形式での筆記表現法の介入効果.

- 第32回日本老年精神医学会, 名古屋, 2017.6.14-16.
58. 小川将, 鈴木宏幸, 飯塚あい, 松永博子, 藤原佳典: メンタルヘルス不調の早期発見手段としての簡易認知機能検査-MoCA-Jを用いた検討-. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2"
 59. 佐久間尚子, 稲垣宏樹, 小川まどか, 鈴木宏幸, 枝広あや子, 宇良千秋, 杉山美香, 宮前史子, 渡邊裕, 栗田主一: 会場健診に参加する都市部在住高齢者のMMSE-Jの得点分布. 第32回日本老年精神医学会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 60. 佐久間尚子, 鈴木宏幸, 小川将, 屋沢萌, 川崎采香, 大神優子: アクティブ高齢者における10年間の追跡研究(1)認知機能の加齢変化. 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.19-22
 61. 佐久間尚子, 大神優子, 鈴木宏幸, 安永正史, 桜井良太, 藤原佳典: 健常高齢者のRBMT「物語の記憶」と「生活健忘チェックリスト」の10年間の変化, 第41回高次脳障害学会総会, 大宮, 2017.12.15-16.
 62. 佐久間尚子, 稲垣宏樹, 小川まどか, 枝広あや子, 宇良千秋, 杉山美香, 宮前史子, 鈴木宏幸, 渡邊裕, 栗田主一: 高島平study (2)大都市在住高齢者の会場調査と訪問調査のMMSE-J得点. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
 63. 桜井良太, Manuel Montero-Odasso: 軽度認知障害高齢者におけるアポリポ蛋白E遺伝子型と加齢に伴う歩行機能変化の関連. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16
 64. 桜井良太, 藤原佳典, 安永正史, 村山陽, 鈴木宏幸, 石井賢二: 高齢者における安静時脳糖代謝量と5年後の歩行速度の関連. 第72回日本体力医学会, 愛媛, 2017.9.16-18
 65. 桜井良太, 河合恒, 金憲経, 鈴木宏幸, 小川将, 渡邊裕, 平野浩彦, 井原一成, 大淵修一, 藤原佳典: 高齢者の自転車運転時の転倒に関連する要因: 横断および縦断的検討. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
 66. 清野諭, 北村明彦, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 成田美紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二: 大都市在住高齢者におけるフレイル関連要因の網羅的検討. 第59回日本老年医学会学術集会(名古屋国際会議場: 名古屋市)ポスター. H.29.6.14-16.
 67. 清野諭, 北村明彦, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 成田美紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二: 高齢者において運動実践仲間の存在はフレイルと予防的に関連するか? 第59回日本老年社会学会大会(名古屋国際会議場: 名古屋市)ポスター. H.29.6.14-16.
 68. 清野諭, 北村明彦, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 成田美紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二: 高齢者の社会活動参加は身体機能と関連するか~個人および地域レベルによる検討-. 第20回日本運動疫学会学術集会(神戸大学医学部会館等: 神戸市)ポスター. H.29.6.7-18.
 69. 谷口優, 北村明彦, 清野諭, 村山洋史, 野藤悠, 横山友里, 西真理子, 天野秀紀, 藤原佳典, 新開省二. 脈波伝播速度の加齢変化パターンと死因別死亡に関する前向き研究. 第59回日本老年医学会学術集会(名古屋国際会議場: 名古屋市)口演. H.29.6.14-16.
 70. 谷口優, 北村明彦, 野藤悠, 石崎達郎, 清野諭, 横山友里, 村山洋史, 光武誠吾, 天野秀紀, 西真理子, 干川なつみ, 濱口奈緒美, 岡部たづる, 藤原佳典, 新開省二. 高次生活機能の加齢変化パターンと医療費及び介護費との関連-草津町研究-. 第76回日本公衆衛生学会総会(宝山ホール等: 鹿児島市). ポスター. H.29.10.31-11.2.
 71. 新開省二, 谷口優, 横山友里, 清野諭, 西真理子, 天野秀紀, 成田美紀, 田中泉澄, 池内朋子, 濱口奈緒美, 岡部たづる, 干川なつみ, 藤原佳典, 北村明彦. 一般高齢者における低栄養が余命および健康余命に及ぼす影響-草津町研究-. 第76回日本公衆衛生学会総会(宝山ホール等: 鹿児島市). 口演. H.29.10.31-11.2.
 72. 菅原育子, 小林江里香: 高齢者の家庭内外での社会的活動の類型化とその関連要因: 潜在クラス分析による活動類型の検討. 日本社会心理学会第58回大会, 広島, 2017.10.28-29
 73. 鈴木宏幸, 小川将, 高橋知也, 飯塚あい, Kimi E Kobayashi-Cuya, 安永政史, 藤原佳典: 自治体事業における絵本の読み聞かせを題材とした認知機能低下抑制プログラム-事業形態による参加者の基本属性および認知機能への介入効果の相違. 第58回日本老年社会学会大会, 名古屋, 2017.6.14-16
 74. 鈴木宏幸, 小川将, 飯塚あい, 藤原佳典: 認知機能検査MoCAに含まれるTMT-B簡易版の実行機能評価課題としての有効性. 第32回日本老年精神医学会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 75. 鈴木宏幸, 佐久間尚子, 小川将, 屋沢萌, 川崎采香, 大神優子: アクティブ高齢者における10年間の追跡研究(2)語想起課題の生成時間に着目した検討. 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.19-22
 76. 鈴木宏幸: 高齢期における世代間交流の効果と意義-地域介入研究の知見から シンポジウム「「老い」と生きる-長寿社会における「老いる」ことの意味と共生を考える」, 日本発達心理学会第29回大会, 仙台, 2018.3.23-25
 77. 鈴木宏幸: 生活型認知介入プログラム-絵本の読み聞かせ方法の習得を題材とした 認知機能低下抑制プログラムの本当の効果「徹底検証」音楽介入・筆記表現・読み聞かせ・脳トレ/ポケモンGOの本当の効果: 日常生活の工夫・介入による認知機能・精神的健康の維持・向上」, 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.19-22
 78. 高橋知也, 鈴木宏幸, 小川将, 飯塚あい, 小林キミ, 安永正史, 藤原佳典: 互助的な関係構築の機会を持つ社会参加プログラムへの参加が被援助志向性に与える影響. 日本老年社会学会第59回大会, 愛知, 2017.6.21-23
 79. 高橋知也: 独居高齢者における被援助志向性に関する研究. 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.19-22
 80. 高橋知也, 小池高史, 安藤孝敏: 高齢期の被援助志向性に影響を与えるライフイベントの検討 -内容分析SCATによる分析-. 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.19-22
 81. 高橋知也, 野中久美子, 松永博子, 長谷部雅美, 根本裕太, 村山洋史, 小池高史, 南潮, 深谷太郎, 村山陽, 小林江里香, 藤原佳典: 高齢者の社会的孤立は予測可能か: 地域在住高齢者を対象とした縦断調査の結果から. 第12回日本応用老年学会大会, 東京, 2017.10.22
 82. 高橋知也, 野中久美子, 松永博子, 長谷部雅美, 根本裕太, 村山洋史, 小池高史, 南潮, 深谷太郎, 村山陽, 鈴木宏幸, 小林江里香, 藤原佳典: 高齢者における就労理由の差異に基づく就労形態および諸変数の比較 ~ESSENCE研究より~. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2"
 83. 田中元基, 小林江里香, 野中久美子, 村山洋史, 倉岡正高, 村山幸子, 安永正史, 根本裕太, 松永博子, 箕浦明, 藤原佳典: 高齢者間の世代差から見た他世代との日常生活における支援の授受の検討. 第59回日本老年社会科学

会大会, 名古屋, 2017.6.14-16

84. 田中元基, 野中久美子, 倉岡正高, 村山幸子, 根本裕太, 藤原佳典: 介護予防・日常生活支援総合事業における多様な関係主体から成る協議体の分析: 意思決定プロセスの質的分析. 第12回日本応用老年学会大会, 東京, 2017.10.22
85. 田中元基, 野中久美子, 倉岡正高, 村山幸子, 根本裕太, 石井義之, 安永正史, 箕浦明, 松永博子, 渡辺修一郎, 松永佳子, 福島富士子, 藤原佳典: 多様な立場・専門領域を持つ人々から成る協議体における議案進行方法の特徴. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
86. 谷口優, 北村明彦, 清野諭, 村山洋史, 野藤悠, 横山友里, 西真理子, 天野秀紀, 藤原佳典, 新開省二. 脈波伝播速度の加齢変化パターンと死因別死亡に関する前向き研究. 第59回日本老年医学会学術集会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) 口演. H.29.6.14-16.
87. 海渡翔, 谷口優, 北村明彦, 横山友里, 清野諭, 西真理子, 天野秀紀, 横川博英, 藤原佳典, 新開省二. 地域在宅高齢者における共食の頻度と筋力との関連-草津町研究-. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等: 鹿児島市). 口演. H.29.10.31-11.2.
88. 渡辺修一郎, 藤原佳典, 小林江里香, 野中久美子, 倉岡正高, 箕浦明, 松永博子, 村山幸子, 南潮, 小池高史, 稲葉陽二: 都市部高齢者の就労および求職状況と高次生活機能との関連. 日本老年社会学会第59回大会, 名古屋, 2017.6.14-16.
89. 屋沢萌, 佐久間尚子, 鈴木宏幸, 小川将, 川崎采香, 大神優子: アクティブ高齢者における10年間の追跡研究 (4) 老いの意識に対するpilot study. 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.19-22
90. 安永正史, 村山陽, 西真理子, 鈴木宏幸, 高橋知也, 藤原佳典: 高齢者の文化系社会活動への参加が日常的な活動量に及ぼす効果-高齢者ボランティアによる絵本読み聞かせ活動“REPRINTS”より-. 第59回日本老年社会学会大会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) 口頭 (優秀演題発表). H.29.6.14-16.
91. 北村明彦, 谷口優, 野田愛, 天野秀紀, 清野諭, 横山友里, 西真理子, 藤原佳典, 新開省二: 地域高齢者の要介護認知症発生に及ぼす関連因子の検討: 草津町研究. 第28回日本疫学会総会, (コラッセ福島: 福島市) 示説. 2018.2.1-3.
92. 天野秀紀, 北村明彦, 谷口優, 西真理子, 清野諭, 横山友里, 藤原佳典, 新開省二: 要介護認知症の発症前認知機能に基づく類型化と類型別危険因子の検討-草津町研究-. 第28回日本疫学会総会, (コラッセ福島: 福島市) 示説. 2018.2.1-3.
93. 藤原佳典, 井原一成, 端詰勝敬, 河合恒, 鈴木宏幸, 小川将, 桜井良太, 平野浩彦, 渡邊裕, 大淵修一, 蜂須貢. 地域高齢者における血清BDNF値が簡易検査による認知機能低下におよぼす影響. 第28回日本疫学会総会, (コラッセ福島: 福島市) 示説. 2018.2.1-3.
94. Kobayashi K, Sakurai R, Suzuki H, Ogawa S, Takebayashi T, Fujiwara Y. Finger dexterity is associated with executive function in Japanese middle-aged and older adults. 第28回日本疫学会総会, (コラッセ福島: 福島市) 示説. 2018.2.1-3.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★©Fujiwara Y, Nishi M, Fukaya T, Hasebe M, Nonaka K, Koike T, Suzuki H, Murayama Y, Saito M, Kobayashi E: Synergistic or independent impacts of low frequency of going outside the home and social isolation on functional decline: A 4-year prospective study of urban Japanese older adults. *Geriatrics & Gerontology International*, 17(3), 500-508 2017. (査読あり) (IF:2.351、2016) First published: 22 January 2016. Doi: 10.1111/ggi.12731
2. Hachisu M, Hashidume M, Yshida H, Kawai H, Hirano H, Kojima M, Fujiwara Y, Obuchi S, Ihara K: Relationships between serum BDNF concentration and parameters for health score in community dwellings of elderly people. *Geriatrics & Gerontology International*, Accept 28-Sep-2017:2017 (査読あり) (IF:2.351、2016)
3. 橋本由美子, 渡辺修一郎, 野中久美子, 小池高史, 長谷部雅美, 村山陽, 鈴木宏幸, 深谷太郎, 小林江里香, ★藤原佳典: 独居高齢者の配偶者関係からみた類型別の高次生活機能および精神的健康状態の比較-首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study) より-. 応用老年学, 11 (1): 27-35, 2017 (査読あり)
4. Hoshi T, Kobayashi M, Nakayama N, Kubo M, Fujiwara Y, Sakurai N, Wisham SM: The Relationship between Caring for Pets and the Two-Year Cumulative Survival Rate for Elderly in Japan. *American Journal of Medicine and Medical Sciences*, 7(3):156-164, 2017 (査読あり)
5. ◎飯塚あい, 倉岡正高, 鈴木宏幸, 小川将, 村山幸子, 安永正史, ★藤原佳典: 囲碁を活用した世代間交流プログラムの開発と評価-世代間交流観察スケール「CIOS-E, CIOS-C」を用いて-日本世代間交流学会誌6(1号):未定, (印刷中) (査読あり)
6. Kawai H, Kera T, Hirayama R, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kojima M, Obuchi S: Morphological and qualitative characteristics of the quadriceps muscle of community-dwelling older adults based on ultrasound imaging: classification using latent class analysis. *Ageing Clinical and Experimental Research*, 02 June 2017:4, 2017 (査読あり) (IF:1.394、2016)
7. Kera T, Kawai H, Hirano H, Kojima M, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S: Differences in body composition and physical function related to pure sarcopenia and sarcopenic obesity: A study of community-dwelling older adults in Japan. *Geriatrics & Gerontology International*, 2017 Jun 28; 2017 (査読あり) (IF:2.351、2016)
8. Kera T, Kawai H, Hirano H, Kojima M, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S: Relationships among peak expiratory flow rate, body composition, physical function, and sarcopenia in community-dwelling older adults. *Ageing Clinical and Experimental Research*, 42885; 2017 (査読あり) (IF:1.394、2016)
9. Kera T, Kawai H, Yoshida H, Hirano H, Kojima M, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S: Classification of frailty using the Kihon checklist: a cluster analysis of elderly individuals in urban areas. *Geriatric & Gerontology International*, 17(1), 69-77 (First published: 21 January 2016. DOI:10.1111/ggi.1267 (査読あり) (IF:2.351、2016)
10. 北村明彦, 新開省二, 谷口優, 天野秀紀, 清野諭, 横山友里, 西真理子, 藤原佳典. 高齢期のフレイル、メタボ

- リックシンドロームが要介護認定情報を用いて定義した自立喪失に及ぼす中長期的影響：草津町研究。日本公衛誌 in press. (査読あり)
11. Motokawa K, Watanabe Y, Eda Hiro A, Shirobe M, Murakami M, Kera T, Kawai H, Obuchi S, Fujiwara Y, Ihara K, Tanaka Y, Hirano H: Frailty severity and dietary variety in Japanese older persons: A cross-sectional study, *The Journal of Nutrition, Health & Aging*, in press. (査読あり) (2.772、2017)
 12. ©村山陽, 長谷部雅美, 山口淳, 高橋知也, 村山幸子, ★藤原佳典：世代間援助における互恵性の検討－地域高齢者からの育児サポート受領経験と高齢期における若中年者へのサポート提供－日本世代間交流学会誌6(1号)：7,15-21, 2018 (査読あり)
 13. ©Nonaka K, Suzuki H, Murayama H, Hasebe, M, Koike T, Kobayashi E, ★Fujiwara Y：For how many days and what types of group activities should older Japanese adults be involved in to maintain health? A 4-year longitudinal study, *Plos One*, 2017 (IF:2.806、2016)
 14. ★©Sakurai R, Ishii K, Yasunaga M, Takeuchi R, Murayama Y, Sakuma N, Sakata M, Oda K, Ishibashi K, Ishiwata K, Fujiwara Y, Montero-Odasso M: The neural substrate of gait and executive function relationship in elderly women: A PET study. *Geriatrics & Gerontology International*. 2017 Nov;17(11):1873-1880. DOI:10.1111/ggi.12982 (査読あり) (IF:2.351、2016)
 15. ©Sakurai R, ★Montero-Odasso M: Apolipoprotein E4 allele and gait performance in mild cognitive impairment: Results from the Gait and Brain Study. *Journal of Gerontology. Series A: Biological Sciences and Medical Sciences*. 2017 Nov 9;72(12):1676-1682. DOI:10.1093/gerona/glx075. (査読あり) (IF:5.957、2016)
 16. ©Sakurai R, Ishii K, Sakuma N, Yasunaga M, Suzuki H, Murayama Y, Nishi M, Uchida H, Shinkai S, ★Fujiwara Y: Preventive effects of an intergenerational program on age-related hippocampal atrophy in older adults: The REPRINTS study. *International Journal of Geriatric Psychiatry*. 2018 Feb;33(2):e264-e272. DOI:10.1002/gps.4785 (査読あり) (IF:3.018、2016)
 17. ★©Sakurai R, Fujiwara Y, Yasunaga M, Suzuki H, Kanosue K, -Odasso M, Ishii K: Association between hypometabolism in the supplementary motor area and fear of falling in older adults. *Frontiers in Aging Neuroscience*, 2017 28:9:251. DOI:10.3389/fnagi.2017.00251. eCollection 2017. (査読あり) (IF:4.504、2016)
 18. ★©Sakurai R, Fujiwara Y, Ishihara M, Yasunaga M, Ogawa S, Suzuki H, Imanaka K: Self-estimation of physical ability in stepping over an obstacle is not mediated by visual height perception: a comparison between young and older adults. *Psychological Research*, 2017 81(4):740-749. DOI:10.1007/s00426-016-0779-9 (査読あり) (IF:3.119、2016)
 19. ★©Sakurai R, Suzuki H, Ogawa S, Kawai H, Yoshida H, Hirano H, Ihara K, Obuchi S, Fujiwara Y: Fear of falling, but not gait impairment, predicts subjective memory complaints in cognitively intact older adults. *Geriatrics & Gerontology International*, 2017 17(7):1125-1131. DOI: 10.1111/ggi.12829 (査読あり) (IF:2.351、2016)
 20. ★©Sakurai R, Fujiwara Y, Yasunaga M, Suzuki H, Sakuma N, Imanaka K, Montero-Odasso M: Older adults with fear of falling show deficits in motor imagery of gait. *The Journal of Nutrition Health and Aging*, 2017 21(6):721-726. DOI:10.1007/s12603-016-0811-1. (査読あり) (IF:2.772、2016)
 21. ★©Sakurai R, Suzuki H, Fujiwara Y, Yasunaga M, Takeuchi R, Murayama Y, Kobayashi K, Kanosue K, Ishii K: Neural basis for the relationship between frequency of going outdoors and depressive mood in older adults. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, 2017 32(6):589-595. (査読あり) DOI:10.1002/gps.4497. (IF:3.018、2016)
 22. Seino S, Nishi M, Murayama H, Narita M, Yokoyama Y, Taniguchi Y, Amano H, Kitamura A, Shinkai S: Effects of a multifactorial intervention comprising resistance exercise, nutritional, and psychosocial programs on frailty and functional health in community-dwelling older adults: a randomized, controlled, crossover trial. *Geriatrics & Gerontology International*. First published: 10 April 2017 (in press) web上で閲覧可能 (査読あり) (IF:2.351、2016)
 23. Tabuchi T, Murayama H, Hoshino T, Nakayama T: An out-of-pocket cost removal intervention on fecal occult blood test attendance. *American Journal of Preventive Medicine*. 2017 Aug;53(2):e51-e62. (in press) (査読あり) (IF:4.02、2017)
 24. Taniguchi Y, Kitamura A, Seino S, Murayama H, Amano H, Nofuji Y, Nishi M, Yokoyama Y, Shinozaki T, Yokota I, Matsuyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S: Gait Performance Trajectories and Incident Disabling Dementia Among Community-Dwelling Older Japanese. *Journal of the American Medical Directors Association*. 2017 Feb 1;18(2):192.e13-192.e20 (in press) (査読あり) (IF:6.616、2015)
 25. Taniguchi Y, Kitamura A, Murayama H, Amano H, Shinozaki T, Yokota I, Seino S, Nofuji Y, Nishi M, Yokoyama Y, Matsuyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S: Mini-Mental State Examination Score Trajectories and Incident Disabling Dementia Among Community-Dwelling Older Japanese. *Geriatrics & Gerontology International*. 2017 Mar 14. doi:10.1111/ggi.12996. (in press) (査読あり) (IF:2.351、2016)
 26. Vogelsang EM, Raymo JM, Liang J, Kobayashi E, Fukaya T: Population aging and health trajectories at older ages. *The Journals of Gerontology, Series B: Psychological Sciences and Social Sciences*: 2017 (査読あり) (IF:3.064、2016)
 27. Yokoyama Y, Nishi M, Murayama H, Amano H, Taniguchi Y, Nofuji Y, Narita M, Matsuo E, Seino S, Kawano Y, Shinkai S: Dietary variety and decline in lean mass and physical performance in community-dwelling older Japanese: A 4-year follow-up study. *Journal of Nutrition, Health and Aging* 2017; 21(1):11-16. (査読あり) (IF:2.772、2016)
 28. Yamada Y, Nanri H, Watanabe Y, Yoshida T, Yokoyama K, Itoi A, Date H, Yamaguchi M, Miyake M, Yamagata E, Tamiya H, Nishimura M, Fujibayashi M, Ebine N, Yoshida M, Kikutani T, Yoshimura E, Ishikawa-Takata K, Yamada M, Nakaya T, Yoshinaka Y, Fujiwara Y, Arai H, Kimura M: Prevalence of Frailty Assessed by Fried and Kihon Checklist Indexes in a Prospective Cohort Study:

- Design and Demographics of the Kyoto-Kameoka Longitudinal Study., *Journal of the American Medical Directors Association*, 18(8):733.e7-733.e152017 (査読あり) (IF: 5.775)
29. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of polymorphisms in 12q24.1, ACAD10, and BRAP as novel genetic determinants of blood pressure in Japanese by exome-wide association studies., *Oncotarget*, 8(26):43068-43079, 2017 (査読あり) (IF: 5.168)
 30. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of six polymorphisms as novel susceptibility loci for ischemic or hemorrhagic stroke by exome-wide association studies., *International Journal of Molecular Medicine*, 39(6):1477-1491, 2017 (査読あり) (IF: 2.341)
 31. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of eight genetic variants as novel determinants of dyslipidemia in Japanese by exome-wide association studies., *Oncotarget*, 8(24):38950-38961, 2017 (査読あり) (IF: 5.168)
 32. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of rs7350481 at chromosome 11q23.3 as a novel susceptibility locus for metabolic syndrome in Japanese individuals by an exome-wide association study., *Oncotarget*, 8(24):39296-39308, 2017 (査読あり) (IF: 5.168)
 33. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of C21orf59 and ATG2A as novel determinants of renal function-related traits in Japanese by exome-wide association studies., *Oncotarget*, 8(28):45259-45273, 2017 (査読あり) (IF: 5.168)
 34. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of STXBP2 as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study., *Oncotarget*, 8(20):33527-33535, 2017 (査読あり) (IF: 5.168)
 35. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of EGFLAM, SPATC1L and RNASE13 as novel susceptibility loci for aortic aneurysm in Japanese individuals by exome-wide association studies., *International Journal of Molecular Medicine*, 39(5):1091-11002017 (査読あり) (IF: 2.341)
 36. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of five genetic variants as novel determinants of type 2 diabetes mellitus in Japanese by exome-wide association studies., *Oncotarget*, 8(46):80492-80505, 2017 (査読あり) (IF: 5.168)
 37. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of TNFSF13, SPATC1L, SLC22A25 and SALL4 as novel susceptibility loci for atrial fibrillation by an exome-wide association study, *Molecular Medicine Reports*, 16(5):5823-5832, 2017 (査読あり) (IF: 1.692)
 38. Taniguchi Y, Kitamura A, Shinozaki T, Seino S, Yokoyama Y, Narita M, Amano H, Matsuyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Trajectories of Arterial Stiffness and All-Cause Mortality Among Community-Dwelling Older Japanese. *Geriatrics & Gerontology International* 2017. in press (査読あり) (IF:2.35, 2017)
 39. Seino S, Kitamura A, Tomine Y, Tanaka I, Nishi M, Nonaka K, Nofuji Y, Narita M, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. A community-wide intervention trial for preventing and reducing frailty among older adults living in metropolitan areas: Design and baseline survey for a study integrating participatory action research with cluster trial. *J Epidemiol*, in press. (査読あり), (IF:2.447, 2016)
 40. Kera T, Kawai H, Hirano H, Kojima M, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S: Comparison of body composition and physical and cognitive function between older Japanese adults with no diabetes, prediabetes, and diabetes: A cross-sectional study in community-dwelling Japanese older people, *Geriatrics & Gerontology International*, in press (査読あり) (IF:2.35, 2017)
 41. ★◎村山陽、山口淳、山崎幸子、藤原佳典. 高齢者における慢性型ストレスの特徴. *Journal of Health Psychology Research*, 未定, (印刷中) (査読あり)
 42. ★◎村山陽: ベールがかかっている状態にある中高年女性との面接過程. *文京学院大学臨床心理相談センター紀要*, 16:21-31, 2017 (査読あり)
- ## (2) 総説
1. ★◎藤原佳典: 高齢者の社会参加が導く持続可能な互助コミュニティ 聖路加看護学会誌未定, 2017 (査読なし) 21(2)
 2. ★◎藤原佳典: 高齢者のシームレスな社会参加と健康の関連 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要 21-34, 2017 (査読あり) 29(1)
 3. ★◎小林江里香: 「長寿社会における中高年者の暮らし方の調査」-全国高齢者の健康と生活に関する長期縦断研究の裏側から, *日本世論調査協会報「よろん」*, 120号:46-51, 2017 (査読なし)
 4. ★◎Kobayashi K, Sakurai R, Ogawa S, Takebayashi T, Fujiwara Y: Observational evidence of the association between handgrip strength, hand dexterity and cognitive performance in community-dwelling older adults: a systematic review, *Journal of Epidemiology* (In Press: web上で閲覧可能 First published: March 2017.) (査読あり)

あり) (IF:2.447)

5. ★◎村山陽: 地域における世代間交流の可能性と課題. 老年社会科学40(1号):39(4):460-466, 2018 (査読なし)
6. ★◎倉岡正高: 多世代循環型社会の構築に向けて一仕組みと仕掛けの社会実装—. 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要: 29:99-108, 2017 (査読あり)
7. ★◎鈴木宏幸, 桜井良太: 高齢者における抑うつおよび脳機能と身体活動との関連性. 体育の科学, 67(5):297-301, 2017 (査読なし)
8. ★◎鈴木宏幸, 藤原佳典: 今、認知症予防に必要な視点とは何か—診断基準に基づく予防的アプローチの重要性. 新医療, 44(9):18-21, 2017 (査読なし)

3 著書等

1. 野中久美子, 倉岡正高, 村山幸子, 田中元基, 藤原佳典: 科学技術振興機構JST-RISTEX (社会技術研究開発) 受託事業・戦略的創造研究推進事業『持続可能な多世代共創社会のデザイン研究開発領域』. 平成27年採択 プロジェクト開発調査報告書「ジェネラティブティで紡ぐ重層的な地域多世代共助システムの開発」(研究代表者: 藤原佳典), 2017.4.
2. 野中久美子, 倉岡正高, 藤原佳典: 日本学術振興会受託事業『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』(実社会対応プログラム). 平成27年度採択研究報告書「多世代協働による生活支援モデルの開発と社会実装に向けた研究」(研究代表者: 藤原佳典), 2017.4.
3. 藤原佳典: 第6章. 高齢者を取り巻くシームレスな社会参加『世界標準としての世代間交流のこれから』草野篤子, 溝邊和成, 内田勇人, 安永正史 (編著), pp203-219, 三学出版, 2017.10
4. 藤原佳典: 社会参加—外出・交流・活動で人やまちとつながろう. 『健康長寿新ガイドラインエビデンスブック』東京都健康長寿医療センター研究所 (編), p28, 社会保険出版社, 2017.6.
5. 藤原佳典: 地域力—広げよう地域の輪. 地域力でみんな元気に!. 『健康長寿新ガイドラインエビデンスブック』東京都健康長寿医療センター研究所 (編), p74-75, 社会保険出版社, 2017.6.
6. 藤原佳典: 高齢者就業の新たな調整型支援システムの構築に関する総合的研究 (基盤研究(B)特設, 2013~2016年) 科学研究費助成事業研究成果報告書2017.6.
7. 小林江里香: 社会活動の種類と健康維持への効果—全国調査の分析結果から『健康長寿新ガイドラインエビデンスブック』東京都健康長寿医療センター研究所 (編), p29-32, 社会保険出版社, 2017.6.
8. 小林江里香: 高齢者の若年世代への態度と支援に関する研究 (挑戦的萌芽研究, 2013~2016年) 科学研究費助成事業研究成果報告書2017.6.
9. 小林江里香: 高齢者の社会関係・社会活動. 松田修 (編) 「最新老年心理学—老年精神医学に求められる心理学とは—」, ワールドプランニング (印刷中)
10. 村山洋史, 野中久美子, 箕浦明, 南潮, 池内朋子, 藤原佳典: 第6章 労働市場・雇用政策と健康. 『社会疫学 Social Epidemiology』高尾総司, 藤原武男, 近藤尚己 (編), 大修館, (印刷中)
11. 村山陽: 7. 地域力 3. 世代間交流でつながろう. 「健康長寿新ガイドラインエビデンスブック」東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会 編・著. p80-83. 2017.
12. 村山陽: 高齢期の慢性型ストレスおよびコーピング 評価尺度の開発. 「中小企業における健康確保・災害防止に関する調査研究報告書」(平成28年度 日本フルハップ調査研究助成) 2017.10.
13. 村山陽: 世代間援助の円環モデルに基づく多世代共生型事業の開発 (基盤研究(B), 2013~2016年) 科学研究費助成事業研究成果報告書2017.7.
14. 村山陽: 第7章. 子どもとふれ合うことによる高齢者の感情体験. 『世界標準としての世代間交流のこれから』草野篤子, 溝邊和成, 内田勇人, 安永正史 (編著), pp220-233, 三学出版, 2017.10.
15. 村山陽, 藤原佳典, 長谷部雅美ほか: 第6章. 事業・活動の評価 『保健福祉職のための地域の健康づくり入門』, ミネルバ書房 (京都), (印刷中), 2018.
16. 野中久美子: 無理なく、がんばり過ぎないでボランティア・趣味・けいこを楽しもう. 「健康長寿新ガイドラインエビデンスブック」東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会 編・著. 34-35. 2017.
17. 野中久美子: チェックシートではかる見守りの力. 「健康長寿新ガイドラインエビデンスブック」東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会 編・著. 78-80. 2017.
18. 藤原佳典, 小林江里香, 安永正史, 野中久美子, 南潮, 箕浦明: 健康長寿新ガイドライン「4つのカギで人やまちとつながろう」. 東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編. 社会保険出版社 (東京), 2017.
19. 藤原佳典, 村山洋史, 村山陽, 鈴木宏幸, 野中久美子: 健康長寿新ガイドライン「地域力でみんな元気に!」. 東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編. 社会保険出版社 (東京), 2017.
20. Sugihara S, Ikemoto Y, Imamura I, Yoshida H, Taniguchi Y, Murayama H, Nishi M, Fujiwara Y, Kitamura A, Shinkai S. Measuring the Output of Long-Term Care Services. New ESRI Working Paper No.41. 内閣府経済社会総合研究所 (東京), 2017.
21. Sugihara S, Ikemoto Y, Imamura I, Yoshida H, Taniguchi Y, Murayama H, Nishi M, Fujiwara Y, Kitamura A, Shinkai S. State Dependence of Long-Term Care and Preventive Effects of Care Expenditures. New ESRI Working Paper No.42. 内閣府経済社会総合研究所 (東京), 2017.
22. 高橋知也: 第4章. 都市部の新規分譲住宅における多世代交流プログラム導入の試み. 『世界標準としての世代間交流のこれから』草野篤子, 溝邊和成, 内田勇人, 安永正史 (編著), pp186-194, 三学出版, 2017.10.
23. 鈴木宏幸: コミュニケーションにおける情報の変容. 『よくわかる心理学実験実習』村上香奈, 山崎浩一 (編), ミネルヴァ書房, 2018.3.

老化・虚弱の一次予防と地域保健の研究

1 学会発表

(1) 海外

1. Aoyagi Y, Park S, Shephard R. Interrelationships among physical activity, body temperature, sleep and lifestyle-related diseases in 1645 community-dwelling people aged 0-100 years: the Nakanojo Study. International Conference on Ambulatory Monitoring of Physical Activity and Movement 2017(ICAMPAM). Bethesda, Maryland, USA. 2017.6.21-23.

2. Park H., Park S., Shephard R.J., Aoyagi Y., Association between the yearlong physical activity and perceived residential environment: the Nakanajo Study, The 2017 International Conference on Ambulatory Monitoring of Physical Activity and Movement, Bethesda, Maryland, USA, 2017.6.21-6.23.
3. Park H., Park S., Shephard R.J., Aoyagi Y., Synergistic association of objectively measured physical activity and diet quality in older Japanese adults: the Nakanajo Study, The 2017 International Conference on Ambulatory Monitoring of Physical Activity and Movement, Bethesda, Maryland, USA, 2017.6.21-6.23.
4. Kitamura A., Jinnouchi H, Kakihana H, Imano H, Kiyama M, Iso H. The association between chronic low back and/or knee pain and overweight in Japanese elderly. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
5. Taniguchi Y., Seino S., Yokoyama Y., Nishi M., Amano H., Fujiwara Y., Kitamura A., Shinkai S. Trajectory Pattern of Arterial Stiffness and Mortality Risk in a General Population of Older Japanese. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
6. Taniguchi Y., Murayama H, Seino S., Nishi M., Amano H., Fujiwara Y., Kitamura A., Shinkai S. Prospective Study of Trajectories of Physical Performance and All-Cause Mortality. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
7. Amano H., Kitamura A., Nishi M., Taniguchi Y., Seino S., Yokoyama Y., Fujiwara Y., Shinkai S. Multivariate Trajectories of Cognitive Decline in Old Age: Clusters and Risk Factors. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
8. Seino S., Kitamura A., Nishi M., Murayama H, Narita M., Yokoyama Y., Nofuji Y, Shinkai S. A Multifactorial Intervention for Improving Frailty Status: Exploring Short- and Long-Term Effects. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
9. Yokoyama Y., Kitamura A., Nishi M., Murayama H, Amano H., Taniguchi Y., Seino S., Shinkai S. Dietary diversity and lean mass in community-dwelling elderly Japanese: implications for dietary strategies to prevent sarcopenia. The 12th International Academy on Nutrition and Aging, San Francisco, USA, 2017.7.23.
10. Ikeuchi T., Kobayashi, E, Fujiwara Y. The Role of Social Contact in the Association of Age and Well-Being. Late Breaker Poster Session, The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
11. Ikeuchi T., Lang, FR, Osada, H. Future Time Perspective of Older Germans and Japanese Living Alone. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
12. Shinkai S, Yokoyama Y., Narita M., Taniguchi Y., Seino S., Amano H., Murayama H, Kitamura A. Nutritional Status and Active Life Expectancy in a General Population of Older Japanese. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
13. Shinkai S, Taniguchi Y., Amano H., Murayama H, Seino S., Nishi M., Yokoyama Y., Kitamura A. Trajectory Pattern of Mini-Mental State Examination Score and Dementia in KLSAH. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
14. Kitamura A., Taniguchi Y., Seino S., Yokoyama Y., Nishi M., Amano H., Fujiwara Y., Shinkai S. Impact of frailty on the incidence of loss of independence in community-dwelling older Japanese: the Kusatsu town study. The 21st International Epidemiological Association, World Congress of Epidemiology, Saitama, Japan. 2017.8.19-22.
15. Seino S., Kitamura A., Tomine Y., Tanaka I., Taniguchi Y., Yokoyama Y., Amano H., Narita M., Ikeuchi T., Fujiwara Y., Shinkai S. Associations of participation in social activity with physical activity and sedentary time among older adults living in metropolitan areas in Japan: a cross-sectional study. The 21st International Epidemiological Association, World Congress of Epidemiology, Saitama, Japan. 2017.8.19-22.
16. Yokoyama Y. Dietary Management of the Elderly in Japan. The Korean Society of Community Nutrition annual conference-2017, Korea-Japan Symposium, Seoul, Korea. 2017.10.27. (invited speaker)
17. Shinkai S, Taniguchi Y., Seino S., Nishi M., Yokoyama Y., Amano H., Fujiwara Y., Kitamura A. Kusatsu Longitudinal Study on Aging and Health. The 3rd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, Seoul, Korea. 2017.10.27-28. (invited speaker)
18. Shinkai S, Yokoyama Y., Narita M., Nishi M., Taniguchi Y., Seino S., Amano H., Fujiwara Y., Kitamura A. Dietary Variety and Changes in Lean Mass and Physical Performance in Community-Dwelling Older Japanese. The 3rd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, Seoul, Korea. 2017.10.27-28. (invited speaker)
19. Fujita Y, Taniguchi Y., Tanaka M, Shinkai S, Ito M. Prospective study of Serum GDF15 and all-cause mortality in a general population of older Japanese. The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-27.
20. Muraki I, Tanigawa T, Yamagishi K, Umesawa M, Hayama-Terada M, Kitamura A., Ohira T, Imano H, Cui R, Kiyama M, Iso H. Associations of Sleep-Disordered Breathing in relation to incident Atrial Fibrillation and change in serum NT-proBNP levels among Japanese: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). American Heart Association EPI/LIFESTYLE 2018 Scientific Sessions, New Orleans, USA, 2018.3.20-23.

(2) 国内

1. 新開省二、北村明彦、金憲経、大淵修一、石崎達郎. 東京都健康長寿医療センター研究所が行っている長期縦断疫学研究－各コホートの特徴と保存生体試料－. TO-BIRA第6回研究交流会（ソラシティカンファレンスセンター：東京）ポスター. H.29.5.12
2. 北村明彦、谷口優、天野秀紀、清野諭、横山友里、西真理子、藤原佳典、新開省二. 地域高齢者の健康余命に及

- はす糖尿病とフレイルの交互影響. 第59回日本老年医学学会学術集会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) 口演. H.29.6.14-16.
3. 清野諭, 北村明彦, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 成田美紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二. 大都市在住高齢者におけるフレイル関連要因の網羅的検討. 第59回日本老年医学学会学術集会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) ポスター. H.29.6.14-16.
 4. 谷口優, 北村明彦, 清野諭, 村山洋史, 野藤悠, 横山友里, 西真理子, 天野秀紀, 藤原佳典, 新開省二. 脈波伝播速度の加齢変化パターンと死因別死亡に関する前向き研究. 第59回日本老年医学学会学術集会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) 口演. H.29.6.14-16.
 5. 横山友里, 清野諭, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 天野秀紀, 成田美紀, 池内朋子, 北村明彦, 新開省二. 大都市在住高齢者における食事回数とBody Mass Indexおよび体重減少との関連. 第59回日本老年医学学会学術集会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) 口演. H.29.6.14-16.
 6. 藤原佳典, 北村明彦, 谷口優, 天野秀紀, 清野諭, 横山友里, 西真理子, 箕浦明, 鈴木宏幸, 新開省二. 地域高齢者における就労状況の変化と心身・社会的特徴の関連. 第59回日本老年医学学会学術集会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) ポスター. H.29.6.14-16.
 7. 清野諭, 北村明彦, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 成田美紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二. 高齢者において運動実践仲間の存在はフレイルと予防的に関連するか? 第59回日本老年社会学会大会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) ポスター. H.29.6.14-16.
 8. 谷口優, 清野諭, 田中泉澄, 遠峰結衣, 北村明彦, 新開省二. 大都市部の在宅都市部高齢者における犬または猫オーナーの身体・心理・社会的特徴. 第59回日本老年社会学会大会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) ポスター. H.29.6.14-16.
 9. 成田美紀, 北村明彦, 清野諭, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二. 在宅高齢者の食品摂取多様性と身体的、社会的、精神的健康の関連. 第59回日本老年社会学会大会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) 口演. H.29.6.14-16. (優秀演題受賞)
 10. 池内朋子, 北村明彦, 横山友里, 清野諭, 成田美紀, 西真理子, 村山洋史, 新開省二. 未来時間展望と社会的ネットワークの異質性および同質性との関連. 第59回日本老年社会学会大会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) ポスター. H.29.6.14-16.
 11. 安永正史, 村山陽, 西真理子, 鈴木宏之, 高橋知也, 藤原佳典. 高齢者の文化系社会活動への参加が日常的な活動量に及ぼす効果—高齢者ボランティアによる絵本読み聞かせ活動“REPRINTS”より—. 第59回日本老年社会学会大会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) 口頭 (優秀演題発表). H.29.6.14-16.
 12. 藤原佳典, 西真理子, 長谷部雅美, 村山陽, 深谷太郎, 小池高史 (九州産業大学), 野中久美子, 鈴木宏幸, 安永正史, 斉藤雅茂, 小林江里香. 独居の男性高齢者は健康弱者か? 社会的弱者か?—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study) より—. 第59回日本老年社会学会大会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) 口頭 (優秀演題発表). H.29.6.14-16.
 13. 長谷部雅美, 村山陽, 西真理子, 箕浦明, 松永博子, 根本裕太, 小林江里香, 深谷太郎, 成田美紀, 藤原佳典. 高齢者における社会貢献活動への参加意向の変化とその関連要因—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study) より—. 第59回日本老年社会学会大会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) ポスター. H.29.6.14-16.
 14. 深谷太郎, 小林江里香, 鈴木宏幸, 西真理子, 小池高史, 長谷部雅美, 村山陽, 野中久美子, 斉藤雅茂, 藤原佳典. 社会的孤立が2年後・4年後の健康等に与える影響—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study) より—. 第59回日本老年社会学会大会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) ポスター. H.29.6.14-16.
 15. 根本裕太, 長谷部雅美, 箕浦明, 村山陽, 松永博子, 西真理子, 深谷太郎, 成田美紀, 小林江里香, 藤原佳典. 運動実施ならびにスポーツグループ参加が精神的健康状態に与える影響: 世代間比較—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study) より—. 第59回日本老年社会学会大会 (名古屋国際会議場: 名古屋市) 優秀演題発表 (口頭). H.29.6.14-16.
 16. 清野諭, 北村明彦, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 成田美紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二. 高齢者の社会活動参加は身体機能と関連するか—個人および地域レベルによる検討—. 第20回日本運動疫学会学術集会 (神戸大学医学部会館等: 神戸市) ポスター. H.29.6.7-18.
 17. 木村仁美, 山岸良匡, 池田愛, 梅澤光政, 崔仁哲, 羽山実奈, 村木功, 今野弘規, 山海知子, 岡田武夫, 北村明彦, 木山昌彦, 磯博康. 中年期、老年期Body mass indexと要介護認知症の発症との関連: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). 第53回日本循環器病予防学会学術集会 (芝蘭会館: 京都市) 口演. H.29.6.16.
 18. 板垣孝洋, 山岸良匡, 丸山広達, 池田愛, 梅澤光政, 崔仁哲, 羽山実奈, 村木功, 今野弘規, 山海知子, 岡田武夫, 北村明彦, 木山昌彦, 磯博康. 菓子類摂取量と要介護認知症の発症との関連: The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). 第53回日本循環器病予防学会学術集会 (芝蘭会館: 京都市) 口演. H.29.6.16.
 19. 遠峰結衣, 清野諭, 田中泉澄, 北村明彦, 新開省二. 高齢者の運動習慣形成のためのスクワット・チャレンジの構築, マルチメディア, 分散協調とモバイルシンポジウム 2017 (札幌市) デモ発表, 2017.6.29. (2017 野口賞, 表現賞受賞)
 20. 成田美紀, 北村明彦, 西真理子, 長谷部雅美, 村山陽, 松永博子, 根本裕太, 深谷太郎, 小林江里香, 藤原佳典. 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒する者の背景要因: CAPITAL studyより. 第52回日本アルコール・アディクション医学学会学術総会 (パシフィコ横浜: 横浜市). ポスター. H.29.9.8-9.
 21. 横山友里, 成田美紀, 新開省二. 地域在住高齢者における食事パターンと通常歩行速度との横断的関連. 第64回日本栄養改善学会学術総会 (アスティとくしま: 徳島市). 口演. H.29.9.13-15.
 22. 成田美紀, 田中泉澄, 横山友里, 新開省二. 在宅高齢者における食品摂取の多様性(2)欠食および共食者との関連—東京都大田区高齢者調査より—. 第64回日本栄養改善学会学術総会 (アスティとくしま: 徳島市). 口演. H.29.9.13-15.
 23. 田中泉澄, 成田美紀, 横山友里, 川野因, 新開省二. 在宅高齢者における食品摂取の多様性(1)孤食頻度との関連—東京都大田区高齢者調査より—. 第64回日本栄養改善学会学術総会 (アスティとくしま: 徳島市). 口演. H.29.9.13-15.
 24. 新開省二, 横山友里, 成田美紀. 全世代を通じたバラ

- スの良い食生活の提唱～主食・主菜・副菜、多様な食品摂取と栄養素密度～. 第64回日本栄養改善学会学術総会 (アスティとくしま:徳島市). シンポジウム口演. H.29.9.13-15.
25. 清野諭、角公一郎、成田美紀、横山友里、芦田欣也、北村明彦、新開省二. 12週間のレジスタンス運動と乳たんぱく質・微量栄養素補給が血漿アミノ酸濃度に及ぼす影響:ランダム化比較試験の二次解析. 第72回 日本体力医学会大会 (松山大学文京キャンパス:松山市). ポスター. H.29.9.16-18.
 26. 青柳幸利、食品による腸内細菌への介入による抗高血圧作用の最新知見、第40回日本高血圧学会総会、愛媛県ひめぎんホール、2017年10月21日
 27. 池内朋子、北村明彦、天野秀紀、谷口優、成田美紀、横山友里、清野諭、西真理子、新開省二. Lower cognitive performance related to feeling younger: The Kusatsu Longitudinal Study on Aging and Health. 第12回日本応用老年学会大会 (桜美林大学 四谷キャンパス:千駄ヶ谷). 口頭発表. H.29.10.22.
 28. 北村明彦、谷口優、天野秀紀、清野諭、西真理子、横山友里、濱口奈緒美、岡部たづる、干川なつみ、藤原佳典、新開省二. 要介護状態の発生要因に関する疫学的検討－草津町研究－. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). 口演. H.29.10.31-11.2.
 29. 清野諭、北村明彦、遠峰結衣、田中泉澄、西真理子、新開省二. 大都市在住高齢者のフレイル予防のための地域介入研究 (1): 概要と進捗. 第76回日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). ポスター. 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
 30. 谷口優、北村明彦、野藤悠、石崎達郎、清野諭、横山友里、村山洋史、光武誠吾、天野秀紀、西真理子、干川なつみ、濱口奈緒美、岡部たづる、藤原佳典、新開省二. 高次生活機能の加齢変化パターンと医療費及び介護費との関連－草津町研究－. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). ポスター. H.29.10.31-11.2.
 31. 横山友里、西真理子、村山洋史、天野秀紀、谷口優、清野諭、成田美紀、池内朋子、北村明彦、新開省二. 地域在住高齢者におけるPFCバランスとフレイルとの関連－鳩山コホート研究－. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). 口演. H.29.10.31-11.2.
 32. 西真理子、横山友里、成田美紀、池内朋子、清野諭、谷口優、天野秀紀、村山洋史、北村明彦、新開省二. 地域在住高齢者における虚弱発生の関連要因－鳩山コホート研究－. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). ポスター. H.29.10.31-11.2.
 33. 天野秀紀、西真理子、谷口優、清野諭、横山友里、北村明彦、吉田裕人、藤原佳典、新開省二. 高齢者の認知機能推移パターンと認知症状態・周辺症状発生リスクとの関係－草津町研究－. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). ポスター. H.29.10.31-11.2.
 34. 池内朋子、北村明彦、西真理子、横山友里、清野諭、成田美紀、谷口優、天野秀紀、村山洋史、新開省二. Future Time Perspective and Health Behavior: The Hatoyama Cohort Study. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). ポスター. H.29.10.31-11.2.
 35. 成田美紀、北村明彦、清野諭、田中泉澄、遠峰結衣、西真理子、谷口優、横山友里、天野秀紀、池内朋子、新開省二. 高齢者の飲酒習慣と孤立、近隣信頼、地域貢献の関連: 大田区元気シニア・プロジェクト. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). ポスター. H.29.10.31-11.2.
 36. 田中泉澄、北村明彦、清野諭、遠峰結衣、西真理子、成田美紀、谷口優、横山友里、天野秀紀、池内朋子、新開省二. 高齢の孤食習慣者における食品摂取多様性の関連要因:大田区元気シニア・プロジェクト. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). ポスター. H.29.10.31-11.2.
 37. 新開省二、谷口優、横山友里、清野諭、西真理子、天野秀紀、成田美紀、田中泉澄、池内朋子、濱口奈緒美、岡部たづる、干川なつみ、藤原佳典、北村明彦. 一般高齢者における低栄養が余命および健康余命に及ぼす影響－草津町研究－. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). 口演. H.29.10.31-11.2.
 38. 海渡翔、谷口優、北村明彦、横山友里、清野諭、西真理子、天野秀紀、横川博英、藤原佳典、新開省二. 地域在宅高齢者における共食の頻度と筋力との関連－草津町研究－. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). 口演. H.29.10.31-11.2.
 39. 清野諭、遠峰結衣、田中泉澄、西真理子、北村明彦、新開省二. 東京での健康づくり: 大田区元気シニア・プロジェクト. 第5回日本介護福祉・健康づくり学会大会 (朝日大学:瑞穂市) シンポジウムA「地域の特性を踏まえた健康づくりの実践例」. 口演. H.29.11.11-12.
 40. 本橋佳子、渡邊裕、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、三上友里江、大須賀洋祐、平野浩彦、金憲経、北村明彦、藤原佳典、大淵修一、石崎達郎、新開省二、粟田圭一. 高島平Study (7) 大都市部在住高齢者における口腔への関心に関連する因子の検討. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). ポスター. H.29.10.31-11.2.
 41. 三上友里江、渡邊裕、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、本橋佳子、大須賀洋祐、平野浩彦、金憲経、北村明彦、藤原佳典、大淵修一、石崎達郎、新開省二、粟田圭一. 高島平Study (8) 都市部在住高齢者の外出頻度の減少と口腔機能低下との関連. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). ポスター. H.29.10.31-11.2.
 42. 北村明彦. メタボ予防とフレイル予防. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). 自由集会「地域における高齢者保健のあり方」. H.29.11.1.
 43. 羽山実奈、岡田武夫、村木功、今野弘規、崔仁哲、磯博康、北村明彦、大平哲也、山岸良匡、梅澤光政、佐藤真一、本田瑛子、手塚一秀、清水悠路、木山昌彦. 耐糖能異常者の尿蛋白所見と将来の腎機能低下. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). 口演. H.29.10.31-11.2.
 44. 崔仁哲、山岸良匡、村木功、羽山実奈、梅澤光政、今野弘規、李媛英、Ehab S Eshak、大平哲也、木山昌彦、岡田武夫、北村明彦、谷川武、磯博康. 地域一般住民における動脈硬化度のマーカーと心房細動との関連. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). 口演. H.29.10.31-11.2.
 45. 磯博康、今野弘規、野口緑、小島寿美、西連地利己、田中麻理、絹田皆子、斉藤功、小橋元、北村明彦、横山徹爾. 生活習慣病重症化予防のための戦略研究: JHARPの主解析結果. 第76回 日本公衆衛生学会総会 (宝山ホール等:鹿児島市). 口演. H.29.10.31-11.2.
 46. 田中麻理、今野弘規、野口緑、小島寿美、西連地利己、絹田皆子、斉藤功、小橋元、北村明彦、横山徹爾、磯博康. 生活習慣病重症化予防のための戦略研究: 保健指導実施状況別にみた医療機関受診受療率. 第76回 日本公

- 衆衛生学会総会（宝山ホール等：鹿児島市）。口演。H.29.10.31-11.2.
47. 小島寿美、野口緑、今野弘規、西連地利己、田中麻理、絹田皆子、小橋元、齊藤功、北村明彦、横山徹爾、磯博康. 生活習慣病重症化予防のための戦略研究：受療率に影響する保健指導者の条件. 第76回 日本公衆衛生学会総会（宝山ホール等：鹿児島市）。口演。H.29.10.31-11.2.
 48. 野口緑、小島寿美、今野弘規、西連地利己、田中麻理、絹田皆子、小橋元、齊藤功、北村明彦、横山徹爾、磯博康. 生活習慣病重症化予防のための戦略研究：2年間の健診継続受診者のリスク因子の変化. 第76回 日本公衆衛生学会総会（宝山ホール等：鹿児島市）。口演。H.29.10.31-11.2.
 49. 李嘉奇、崔仁哲、Ehab S Eshak、山岸良匡、梅澤光政、劉克洋、今野弘規、村木功、大平哲也、木山昌彦、岡田武夫、北村明彦、谷川武、磯博康. 地域住民における喫煙習慣とAugmentation Indexとの関連：CIRCS. 第76回 日本公衆衛生学会総会（宝山ホール等：鹿児島市）。示説。H.29.10.31-11.2.
 50. 岡田武夫、村木功、羽山実奈、清水悠路、手塚一秀、大平哲也、今野弘規、北村明彦、佐藤眞一、木山昌彦. 健診受診者に見る腎機能低下の危険因子について. 第76回 日本公衆衛生学会総会（宝山ホール等：鹿児島市）。示説。H.29.10.31-11.2.
 51. 北村明彦. わが国の脳心血管病予防と介護予防の観点からみたリスク評価. 日本総合健診医学会第46回大会（ウインクあいち：名古屋市）。教育講演。H.30.1.26.
 52. 北村明彦、谷口優、野田愛、天野秀紀、清野諭、横山友里、西真理子、藤原佳典、新開省二. 地域高齢者の要介護認知症発生に及ぼす関連因子の検討：草津町研究. 第28回日本疫学会総会、(コラッセ福島：福島市) 示説。H.30.2.1-3.
 53. 成田美紀、横山友里、北村明彦、新開省二. 一般高齢者向け早期低栄養リスクアセスメントツールにおける予測妥当性の検討：草津町研究. 第28回日本疫学会総会、(コラッセ福島：福島市) 示説。H.30.2.1-3.
 54. 天野秀紀、北村明彦、谷口優、西真理子、清野諭、横山友里、藤原佳典、新開省二. 要介護認知症の発症前認知機能に基づく類型化と類型別危険因子の検討－草津町研究－. 第28回日本疫学会総会、(コラッセ福島：福島市) 示説。H.30.2.1-3.
 55. 成田美紀、横山友里、北村明彦、新開省二. 一般高齢者向け早期低栄養リスクアセスメントツールにおける予測的妥当性の検討. 第28回日本疫学会総会（コラッセふくしま：福島市）。ポスター。H30.2.1-3.
 56. 崔美善、Cui Renzhe、Liu Keyang、Dong Jia-Yi、今野弘規、羽山実奈、村木功、木山昌彦、岡田武夫、北村明彦、梅澤光政、山岸良匡、大平哲也、磯博康. 喫煙と血管内皮機能障害との関連. 第28回日本疫学会総会、(コラッセ福島：福島市) 示説。H.30.2.1-3.
 57. 鄭松伊、大久保善郎、大須賀洋祐、清野諭、重松良祐、金康浩、若葉京良、田中喜代次. 介護予防教室参加者の運動継続に向けた郵送支援の有益性－2年間の追跡結果－. 第19回日本健康支援学会年次学術大会（京都橋大学：京都市）。ポスター。H30.3.9-10.
 58. 北村明彦. 私が歩んできた公衆衛生学. 第88回日本衛生学会学術総会（東京工科大学蒲田キャンパス：大田区）。シンポジウム。H.30.3.23.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎[Kitamura A](#), Yamagishi K, Imano H, Kiyama M, Cui R, Ohira T, Umesawa M, Muraki I, Sankai T, Saito I, Iso H, on behalf of the CIRCS Investigators. Impact of Hypertension and Subclinical Organ Damage on the Incidence of Cardiovascular Disease Among Japanese Residents at the Population and Individual Levels — The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *Circ J* 2017; 81(7):1022-1028. (査読あり)、(IF:3.544、2016)
2. ★◎[北村明彦](#)、[新開省二](#)、[谷口優](#)、[天野秀紀](#)、[清野諭](#)、[横山友里](#)、[西真理子](#)、[藤原佳典](#). 高齢期のフレイル、メタボリックシンドロームが要介護認定情報を用いて定義した自立喪失に及ぼす中長期的影響：草津町研究. *日本公衛誌*. 64:593-606, 2017. (査読あり)
3. ◎[Jinnouchi H](#), [Kitamura A](#), Yamagishi K, Kiyama M, Imano H, Okada T, Cui R, Umesawa M, Muraki I, Hayama-Terada M, Kawasaki R, Sankai T, Ohira T, ★[Iso H](#); for the CIRCS Investigators. Retinal Vascular Changes and Prospective Risk of Disabling Dementia: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *J Atheroscler Thromb*. 2017; 24:687-695. (査読あり)、(IF:2.422、2016)
4. ★◎[羽山実奈](#)、[村木功](#)、[今野弘規](#)、[北村明彦](#)、[清水悠路](#)、[岡田武夫](#)、[木山昌彦](#)、[大平哲也](#)、[梅澤光政](#)、[山岸良匡](#)、[佐藤眞一](#)、[崔仁哲](#)、[磯博康](#). 高齢者における食習慣と循環器疾患発症に関するコホート研究. *日循予防誌*. 52:74-81, 2017. (査読あり)
5. ★◎[Yamagishi K](#), [Ikeda A](#), [Chei CL](#), [Noda H](#), [Umesawa M](#), [Cui R](#), [Muraki I](#), [Ohira T](#), [Imano H](#), [Sankai T](#), [Okada T](#), [Tanigawa T](#), [Kitamura A](#), [Kiyama M](#), [Iso H](#); CIRCS Investigators. Serum α -linolenic and other ω -3 fatty acids, and risk of disabling dementia: Community-based nested case-control study. *Clin Nutr*. 2017 Jun;36(3):793-797. (査読あり)、(IF:4.548、2016)
6. ◎[Liu K](#), [Cui R](#), [Eshak ES](#), [Cui M](#), [Dong JY](#), [Kiyama M](#), [Okada T](#), [Kitamura A](#), [Umesawa M](#), [Yamagishi K](#), [Imano H](#), [Ohira T](#), ★[Iso H](#). Associations of central aortic pressure and brachial blood pressure with flow mediated dilatation in apparently healthy Japanese men: The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *Atherosclerosis*. 2017; 259:46-50. (査読あり)、(IF:4.239、2016)
7. ◎[Hori M](#), [Kitamura A](#), [Kiyama M](#), [Imano H](#), [Yamagishi K](#), [Cui R](#), [Umesawa M](#), [Muraki I](#), [Okada T](#), [Sankai T](#), [Ohira T](#), [Saito I](#), [Tanigawa T](#), ★[Iso H](#). Fifty-year time trends in blood pressures, body mass index and their relations in a Japanese community: The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *J Atheroscler Thromb*. 2017; 24:518-529. (査読あり)、(IF:2.422、2016)
8. ★◎[Takagi D](#), [Watanabe Y](#), [Eda Hiro A](#), [Ohara Y](#), [Murakami M](#), [Murakami K](#), [Hironaka S](#), [Taniguchi Y](#), [Kitamura A](#), [Shinkai S](#), [Hirano H](#). Factors affecting masticatory function of community-dwelling older people: Investigation of the differences in the relevant factors for subjective and objective assessment. *Gerodontology*. 2017; 34:357-364. (査読あり)、(IF:1.681、2016)
9. ★◎[Seino S](#), [Nishi M](#), [Murayama H](#), [Narita M](#), [Yokoyama Y](#), [Nofuji Y](#), [Taniguchi Y](#), [Amano H](#), [Kitamura A](#), [Shinkai S](#). Effects of a multifactorial intervention com-

- prising resistance exercise, nutritional, and psychosocial programs of frailty and functional health in community-dwelling older adults: A randomized, controlled, crossover trial. *Geriatrics & Gerontology International* 2017; 17:2034-2045. (査読あり)、(IF:2.351、2017)
10. ★◎Seino S, Sumi K, Narita M, Yokoyama Y, Ashida K, Kitamura A, Shinkai S. Effects of low-dose dairy protein plus micronutrient supplementation during resistance exercise on muscle mass and physical performance in older adults: A randomized, controlled trial. *Journal of Nutrition, Health & Aging*. 2018; 22:59-67. (査読あり)、(IF:2.772、2017)
 11. ◎Okubo Y, Nemoto M, Osuka Y, Jung S, Seino S, Figueroa R, Vinyes-Pares G, Offord E, Shevlyakova M, Breuille D, ★Tanaka K. Development of the Nutrition and Functionality Assessment (NFA) among older adults in Japan. *The Journal of Frailty and Aging*. in press. (査読あり)、(IF:なし、in press)
 12. ◎Cabral MMS, ★Bos AJ, Amano H, Seino S, Shinkai S. Relationship between skin color, sun exposure, UV protection and fish intake and serum levels of vitamin D in Japanese community-dwelling older adults. *Nutrition and Food Science*. In press. (査読あり)、IF:(1.49、in press)
 13. ◎飯田路佳、江藤幹、大須賀洋祐、辻本健彦、清野諭、大久保善郎、大山下圭吾、★田中喜代次. リズム系運動の習慣者における健康体力水準－肥満者および一般の非肥満者との比較から－. *日本女子体育連盟学術研究* 33:19-27, 2017. (査読あり)、(なし、2017)
 14. ◎金泰浩、大久保善郎、鄭松伊、大須賀洋祐、藪下典子、清野諭、根本みゆき、★田中喜代次. 地域在住高齢者における膝痛および腰痛と運動習慣の関連. *健康支援* 19(2): 147-155, 2017. (査読あり)、(なし、2017)
 15. ★◎Taniguchi Y, Kitamura A, Seino S, Murayama H, Amano H, Nofuji Y, Nishi M, Yokoyama Y, Shinozaki T, Yokota I, Matsuyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Gait Performance Trajectories and Incident Disabling Dementia Among Community-Dwelling Older Japanese. *Journals of the American Medical Directors Association* 2017; 18(2):192.e13-192.e20 (査読あり)、(IF:5.77、2017)
 16. ★◎Taniguchi Y, Kitamura A, Murayama H, Amano H, Shinozaki T, Yokota I, Seino S, Nofuji Y, Nishi M, Yokoyama Y, Matsuyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Mini-Mental State Examination Score Trajectories and Incident Disabling Dementia Among Community-Dwelling Older Japanese. *Geriatrics & Gerontology International* 2017; 17:1928-1935. doi.10.1111/ggi.12996. (IF:2.35、2017)
 17. ★◎谷口優. 身体機能と将来の認知症との関連. *日本老年社会科学* 2017; 39(1):72-78. (査読なし) (2017)
 18. ★◎Kojima G, Iliffe S, Taniguchi Y, Shimada H, Rakugi H, Walters K. Prevalence of Frailty in Japan. A Systematic Review and Meta-analysis. *Journal of Epidemiology* 2017; 27(8):347-353. (査読あり)、(IF:2.44、2017)
 19. ★◎Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of TNFSF13, SPATC1L, SLC22A25 and SALL4 as novel susceptibility loci for atrial fibrillation by an exome-wide association study. *Molecular Medicine Reports* 2017; 16:5823-5832. (査読あり)、(IF:1.55、2017)
 20. ★◎Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of C21orf59 and ATG2A as novel determinants of renal function-related traits in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget* 2017; 8(28):45259-45273. (査読あり)、(IF:5.16、2017)
 21. ★◎Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of polymorphisms in 12q24.1, ACAD10, and BRAP as novel genetic determinants of blood pressure in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget* 2017; 8(26):43068-43079. (査読あり)、(IF:5.16、2017)
 22. ★◎Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of eight genetic variants as novel determinants of dyslipidemia in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget* 2017; 8(24):38950-38961. (査読あり)、(IF:5.16、2017)
 23. ★◎Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of rs7350481 at chromosome 11q23.3 as a novel susceptibility locus for metabolic syndrome in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget* 2017; 8(24):39296-39308. (査読あり)、(IF:5.16、2017)
 24. ★◎Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of six polymorphisms as novel susceptibility loci for ischemic or hemorrhagic stroke by exome-wide association studies. *International Journal of Molecular Medicine* 2017; 39(6):1477-1491. (査読あり)、(IF:2.34、2017)
 25. ★◎Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of STXBP2 as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget* 2017; 8(20):33527-33535. (査読あり)、(IF:5.16、2017)
 26. ★◎Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of EGFLAM, SPATC1L and RNASE13 as novel susceptibility loci for aortic aneurysm in Japanese individuals by exome-wide association studies. *International Journal of Molecular Medicine* 2017; 39(5):1091-1100. (査読あり)、(IF:2.34、2017)
 27. ★◎Tanisawa K, Hirose N, Arai Y, Shimokata H,

- Yamada Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Hirano H, Suzuki H, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Shinkai S, Ihara K, Sugaya M, Higuchi M, Arai T, Mori S, Sawabe M, Sato N, Muramatsu M, Tanaka M. Inverse Association Between Height-Increasing Alleles and Extreme Longevity in Japanese Women. *The Journals of Gerontology Medical Science* 2017. in press (査読あり)、(IF:5.95、2017)
28. Wang X, Dalmeijer GW, den Ruijter HM, Anderson TJ, Britton AR, Dekker J, Engström G, Evans GW, de Graaf J, Grobbee DE, Hedblad B, Holewijn S, Ikeda A, Kauhanehan J, Kitagawa K, Kitamura A, Kurl S, Lonn EM, Lorenz MW, Mathiesen EB, Nijpels G, Okazaki S, Polak JF, Price JF, Rembold CM, Rosvall M, Rundek T, Salonen JT, Sitzer M, Stehouwer CD, Tuomainen TP, Peters SA, Bots ML. Clustering of cardiovascular risk factors and carotid intima-media thickness: The USE-IMT study. *PLoS One* 2017; 12(3):e0173393. doi: 10.1371.
29. ★◎横山友里、北村明彦、川野因、新開省二：国民健康・栄養調査からみた日本人高齢者の食物摂取状況と低栄養の現状。日本食育学会誌。12(1):33-40, 2018 (査読あり)
30. ◎Sakurai R, Ishi K, Imano H, Sakuma N, Yasunaga M, Suzuki H, Murayama Y, Nishi M, Uchida H, Shinkai S, ★Fujiwara Y. Preventive effects of an intergenerational program on age-related hippocampal atrophy in older adults: The REPRINTS study. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2017 Aug 31. doi: 10.1002/gps.4785. (査読あり)、(IF:3.018, 2017)
31. ◎Shephard RJ, Park H, Park S, ★Aoyagi Y. Objective Longitudinal Measures of Physical Activity and Bone Health in Older Japanese: the Nakanojo Study. *Journal of the American Geriatrics Society*. 2017; 5(4):800-807. (査読あり)、(IF:4.388, 2017)
32. ★◎Aoyagi Y, Park S, Matsubara S, Honda Y, Amamoto R, Kushiro A, Miyazaki K, Shephard RJ, Habitual intake of fermented milk products containing *Lactobacillus casei* strain Shirota and a reduced risk of hypertension in older people. *Beneficial Microbes*.7:8(1):23-29. 2017. (査読あり)。 (IF:2.923, 2017)
33. ★◎Taniguchi Y, Kitamura A, Shinozaki T, Seino S, Yokoyama Y, Narita M, Amano H, Matsuyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Trajectories of Arterial Stiffness and All-Cause Mortality Among Community-Dwelling Older Japanese. *Geriatrics & Gerontology International* 2017. in press (査読あり)、(IF:2.35、2017)
34. ★◎Seino S, Kitamura A, Tomine Y, Tanaka I, Nishi M, Nonaka K, Nofuji Y, Narita M, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. A community-wide intervention trial for preventing and reducing frailty among older adults living in metropolitan areas: Design and baseline survey for a study integrating participatory action research with cluster trial. *J Epidemiol*, in press. (査読あり)、(IF:2.447、2016)
35. Jung S, Okubo Y, Osuka Y, Seino S, Park J, Nho H, Tanaka K. Korean adults have lower physical function despite longer exercise times compared with their Japanese counterparts: A Japan-Korea comparative study. *Geriatrics Gerontology International*. (査読あり)、(IF:2.351、2017)

(2) 総説

- ★◎北村明彦、野田愛. 頸動脈プラークと動脈硬化危険因子・心血管合併症との関連. *Current Therapy (カレントセラピー)*. 2017; 35(4):33-37. (査読なし)
- ★◎横山友里、新開省二. フレイル予防と栄養. *月刊公衆衛生情報*. 2017; 47(5):6-7.
- ★◎横山友里、成田美紀、本川佳子、新開省二. 栄養疫学調査の方法論に関する展望. *食と医療*. 2017; 1:55-64.
- ★◎清野諭、遠峰結衣、田中泉澄、西真理子、北村明彦、新開省二. 大田区元気シニア・プロジェクト. *介護福祉・健康づくり*. 2017; 4:130-134. (査読なし) (IF:なし、2017)
- 野藤悠、清野諭. フレイルとは：概念や評価法について. *月間地域医療学*. 2017; 32: 48-56.
- ★◎北村明彦. 東京都健康長寿医療センター研究所の高齢者コホート研究. *医学のあゆみ*. 2018; 264(4):323-28.

3 著書等

- Sugihara S, Ikemoto Y, Imamura I, Yoshida H, Taniguchi Y, Murayama H, Nishi M, Fujiwara Y, Kitamura A, Shinkai S. Measuring the Output of Long-Term Care Services. *New ESRI Working Paper No.41*. 内閣府経済社会総合研究所 (東京)、2017.
- Sugihara S, Ikemoto Y, Imamura I, Yoshida H, Taniguchi Y, Murayama H, Nishi M, Fujiwara Y, Kitamura A, Shinkai S. State Dependence of Long-Term Care and Preventive Effects of Care Expenditures. *New ESRI Working Paper No.42*. 内閣府経済社会総合研究所 (東京)、2017.
- 北村明彦. 生活習慣病. 新開省二、健康長寿新ガイドライン策定委員会編. *ジェロントロジー (老年学) における健康長寿に関する研究の動向と今後の展望*. P.34-37. *ライフサイエンス振興財団 (東京)*、2017.
- 北村明彦. 日本人の高齢者に多い脳卒中タイプに罹らないようにするためには. 東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編著. *健康長寿新ガイドラインエビデンスブック*. P.109-111. *社会保険出版社 (東京)*、2017.
- 北村明彦、井藤英喜、石川譲治、吉村典子、新開省二. *健康長寿新ガイドライン「生活習慣病」リーフレット*. 東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編. *社会保険出版社 (東京)*、2017.
- 清野諭. 身体活動・体力. 新開省二、健康長寿新ガイドライン策定委員会編. *ジェロントロジー (老年学) における健康長寿に関する研究の動向と今後の展望*. P.15-18. *ライフサイエンス振興財団 (東京)*、2017.
- 清野諭. 高齢期の身体組成と健康長寿. 東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編著. *健康長寿新ガイドラインエビデンスブック*. P.16-19. *社会保険出版社 (東京)*、2017.
- 清野諭、横山友里. 筋量・身体機能と乳たんぱく・微量栄養素補給. 東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編著. *健康長寿新ガイドラインエビデンスブック*. P.65-67. *社会保険出版社 (東京)*、2017.
- 清野諭. フレイル・サルコペニア予防特論. *介護予防主任運動指導員テキスト*. *社会保険出版社 (東京)*、印刷中.
- 清野諭. フレイルの評価方法. 荒井秀典編. *フレイルのみかた*. *中外医学社 (東京)*、印刷中.
- 谷口優. 認知症だけじゃない！知っておきたい認知機能

- 低下と、日々の食事の大切さ。東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編著。健康長寿新ガイドラインエビデンスブック。P.97-98。社会保険出版社（東京）、2017。
12. 横山友里。環境要因（2）食・栄養。新開省二、健康長寿新ガイドライン策定委員会編。ジェロントロジー（老年学）における健康長寿に関する研究の動向と今後の展望。P.12-15。ライフサイエンス振興財団（東京）、2017。
 13. 横山友里。食品摂取の多様性とサルコペニア。東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編著。健康長寿新ガイドラインエビデンスブック。P.8-11。社会保険出版社（東京）、2017。
 14. 成田美紀。健康長寿を支える食の在り方を問う～生活機能に応じた食の支援の観点から～。Dia News, No.89, 8-9。ダイヤ高齢社会研究財団（東京）、2017。（4月27日発行）
 15. 成田美紀。運動器をじょうぶにする栄養指導第5回 タンパク質・エネルギー不足はロコモにつながる—高齢者の低栄養状態への対処方法。Osteoporosis Japan Plus, 2017, 2(2), 48-50。（6月7日発行）
 16. 成田美紀。食品摂取の多様性スコア(DVS)。東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編著。健康長寿新ガイドラインエビデンスブック。P.6-8。社会保険出版社（東京）、2017。（6月13日発行）
 17. 成田美紀。ロコモティブシンドローム運動と食事で予防「骨を強くするレシピ」「筋肉を強くするレシピ」。NHKきょうの健康2017年9月号。P.60-61。NHK出版（東京）、2017。（8月21日発行）
 18. 成田美紀。運動器をじょうぶにする栄養指導第6回 大腿骨近位部骨折後のリハビリテーション栄養—リハビリ効果を高める栄養とは。Osteoporosis Japan Plus, 2017, 2(3), 62-64。（9月19日発行）
 19. 池内朋子。その他の課題（3-1）健康長寿を支える先端テクノロジーの可能性。新開省二、健康長寿新ガイドライン策定委員会編。ジェロントロジー（老年学）における健康長寿に関する研究の動向と今後の展望。P.38-40。ライフサイエンス振興財団（東京）、2017。
 20. 新開省二、成田美紀、横山友里、渡邊裕、本川佳子。健康長寿新ガイドライン「食生活」リーフレット。東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編。社会保険出版社（東京）、2017。
 21. 新開省二、栗田圭一、谷口優、島田裕之、稲垣宏樹。健康長寿新ガイドライン「認知症」リーフレット。東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編。社会保険出版社（東京）、2017。
 22. 新開省二、金憲経、村山洋史、野藤悠、清野諭、大須賀洋祐、青柳幸利。健康長寿新ガイドライン「体力・身体活動」リーフレット。東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編。社会保険出版社（東京）、2017。
 23. 新開省二、大澤郁朗、石上昭人、伊藤雅史、金憲経、青柳幸利、清野諭、横山友里。健康長寿新ガイドライン「健康食品やサプリメント」リーフレット。東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編。社会保険出版社（東京）、2017。
 24. 新開省二、清野諭、河野あゆみ、荒木厚。健康長寿新ガイドライン「フレイル」リーフレット。東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編。社会保険出版社（東京）、2017。
 25. 村山洋史、野中久美子、箕浦明、南潮、池内朋子、藤原佳典：第6章 労働市場・雇用政策と健康。『社会疫学 Social Epidemiology』高尾総司、藤原武男、近藤尚己（編）、大修館、（印刷中）
 26. 池内朋子。新開省二：第3章—6 社会状況の評価。『高齢者理学療法学』島田裕之、牧迫飛雄馬、山田実（編）、pp162-168。医歯薬出版株式会社（東京）、2017。
 27. 成田美紀。年末年始 高齢の親の食事を応援！。NHKきょうの健康2017年12月号。P.102-107。NHK出版（東京）、2017。（11月21日発行）
 28. 成田美紀。運動器をじょうぶにする栄養指導第7回 高齢者糖尿病—患者背景を考慮して、おいしい食事の継続を。Osteoporosis Japan Plus, 2017, 2(4), 60-62。（12月18日発行）
 29. 成田美紀。運動器をじょうぶにする栄養指導第8回 高齢者高血圧—無理のない範囲で生活習慣の修正を。Osteoporosis Japan Plus, 2018, 3(1), 56-58。（3月18日発行）
 30. 成田美紀。ずっと元気にご長寿レシピ「もっと肉を食べよう！」。NHKきょうの健康2018年4月号。P.23-27。NHK出版（東京）、2018。（3月21日発行）
 31. 青柳幸利。「してはいけない運動」「しなくていい運動」、Walking PLUS、一般社団法人日本ポールウォーキング協会、2017年、p.5
 32. 青柳幸利。エビデンス（科学的根拠）があるからお勧めできる！ 健康増進の目標は、1日8,000歩、そのうち速歩き20分、ばらんす、予防健康社、2017年春号、pp.10-11
 33. 青柳幸利。健康寿命の延伸に 一日8000歩・速歩き20分、全薬Journal No.280、全薬販売株式会社、2017年4月、pp.10-11
 34. 青柳幸利。早歩きや大股歩きで効果アップ、へるすあっぷ21 特集 ストレスチェック制度 1年目の課題と今後、株式会社法研、2017年4月号、p.53
 35. 青柳幸利。意外と走れるかも—その勘違いが命取り 大ブームに医師が警告 40過ぎでのマラソンは「自殺行為」、週刊現代、講談社、2017年4月15日号、pp.176-181
 36. 青柳幸利。「意味がないどころか害悪」と医者が警告 実はラジオ体操は「膝」と「腰」を痛めます、週刊現代、講談社、2017年6月24日号、pp.150-153
 37. 青柳幸利。あなたの歩行寿命はまだまだ延びます！、女性セブン、小学館、2017年7月13日号、pp.47-49
 38. 青柳幸利。〈高齢者5000人の17年追跡調査で判明！〉その「歩き方」のあなた！一歩一歩寿命が縮んでますよ！、週刊ポスト、小学館、2017年7月14日号、pp.52-56
 39. 青柳幸利。強度を測ってウォーキングを、すべてがわかる認知症2017 週刊朝日MOOK、朝日新聞出版、2017年8月15日、pp.30-31
 40. 青柳幸利。朝早く起きて散歩—それ、寿命を縮めかねない「1日1万歩」「ラジオ体操」ほか 誤解だらけの「シニアの運動」、週刊ポスト、小学館、2017年8月18日号、pp.78-79
 41. 青柳幸利（監修）、ポイントは2つ！ウォーキングで健康生活、マミークラン9月号、2017年9月1日、pp.8-11
 42. 青柳幸利。あらゆる病気は歩くだけで治る！東京、SBクリエイティブ出版、2017年10月6日
 43. 青柳幸利。おすすめのウォーキングは「8000歩/早歩き20分」、おとなの健康 Vol.5、オレンジページ、2017年10月16日、pp.30-35
 44. 青柳幸利。「一日八〇〇〇歩」と「ややハードな二〇分の運動」で健康に、月刊清流、清流出版株式会社、2017年11月号、pp.20-22
 45. 青柳幸利。ウォーキングを万能薬にするには、1日8000歩うち20分速歩きが新常識、「歩く」はすごい！日経BP

受賞

社会参加・社会貢献の促進

1. 小川将、非常勤研究員、老年社会科学会第59回大会、優秀演題、自治体事業における絵本の読み聞かせによる精神的健康の向上効果の検討、2017.6.14
2. 高橋知也、非常勤研究員、老年社会科学会第59回大会優秀演題、互助的な関係構築の機会を持つ社会参加プログラムへの参加が被援助志向性に与える影響—絵本読み聞かせを題材としたボランティア養成プログラムへの参加前後における比較から—、2017.6.14
3. 藤原佳典、研究部長、老年社会科学会第59回大会 優秀演題、独居の男性高齢者は健康弱者か、社会的弱者か？首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究（CAPITAL study）より、2017.6.14
4. 村山幸子、非常勤研究員、第76回日本公衆衛生学会総会ポスター賞、児童・生徒の挨拶習慣が居住地域の暮らしやすさと援助行動へ及ぼす影響、2017.11.2
5. 村山陽、非常勤研究員、平成29年度日本老年社会科学会奨励賞、地域における世代間交流の可能性と課題、2017.6.16
6. 村山陽、非常勤研究員、老年社会科学会第59回大会、優秀演題、地域における世代間援助の受領および提供と高齢者の精神的健康との関連—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究（CAPITAL study）より—、2017.6.14

老化・虚弱の一次予防と地域保健の研究

1. 成田美紀、北村明彦、清野諭、遠峰結衣、田中泉澄、谷口優、横山友里、天野秀紀、池内朋子、藤原佳典、新開省二：「在宅高齢者の食品摂取多様性と身体的、社会的、精神的健康の関連」、第59回日本老年社会科学会大会優秀演題賞、2017.6.14-16
2. 遠峰結衣、清野諭、田中泉澄、北村明彦、新開省二：「高齢者の運動習慣形成のためのスクワット・チャレンジの構築」、マルチメディア、分散協調とモバイルシンポジウム2017野口賞、表現賞、2017.6.29

自立促進と介護予防研究チーム

チームリーダー：粟田 圭一

1 研究チームの概要・目的

高齢者が尊厳をもって、健やかに、安全に暮らすことができる社会を創造するには、老年期に好発する老年症候群や老年病を予防するとともに、たとえ疾病に罹患しても、障害をもって、必要な支援やサービスを活用しながら、可能な限り住み慣れた地域の中で、自立した生活を継続することを可能とする社会システムを構築する必要がある。研究チームでは、サルコペニア、膝痛、尿失禁、口腔機能低下、低栄養、転倒・骨折、認知機能低下、精神的健康度低下、生活機能低下などを含む老年症候群の予防をめざした介入プログラムを開発するとともに、国、地方公共団体、関係する組織・団体・機関と連携しながら、たとえ認知症になっても、障害をもって、希望と尊厳をもって暮らすことができる社会システムの創出をめざしている。

研究チームは、以下の3つのテーマ別にグループをつくり、研究を行っている。

- ① 筋骨格系の老化予防の促進：サルコペニア、膝痛、尿失禁、転倒・骨折、身体的フレイル、認知的フレイル、サルコペニア肥満 (Sarcopenic Obesity) の実態を把握するとともに、その改善を図る介入研究 (RCT) を実施している。
- ② 介護予防の促進：新生活機能指標の開発と応用、高齢者食生活支援の枠組みと包括的支援プログラムの考案および検証、認知症高齢者の摂食嚥下機能障害及び口腔乾燥とうつ病との関連に関する調査研究を実施している。

- ③ 認知症・うつ予防と介入：認知症の早期診断・初期支援システムの構築、地域在住高齢者や生活困窮者の精神疾患の早期発見・対応、災害時の老年精神医学対応、被災地や離島における認知症の支援体制づくり、認知症医療連携体制の強化と社会資源整備に関する研究、病院部門と連携した臨床研究を実施している。

2 今後の展望

第3期中期計画では、チーム名を「自立促進と精神保健研究チーム」に改め、チームを構成する各テーマ名も、「フレイルと筋骨格系の健康研究」、「口腔保健と栄養研究」、「認知症と精神保健研究」とした上で、チーム全体で、筋骨格系、口腔・栄養、認知機能、精神機能、社会機能の機能低下および脆弱性を含む高齢者のフレイル全般の実態解明と介入プログラムの開発研究に取り組む予定である。特に、フレイルと筋骨格系の健康研究では、「サルコペニア」と「重複フレイル」にフォーカスをあて、口腔保健と栄養研究では、「高齢者食生活支援」と「認知症高齢者の摂食嚥下障害への支援」にフォーカスをあてた研究を行う。また、認知症と精神保健研究では、デメンシア・フレンドリー・コミュニティーとRights-Based Approachをキーワードにして、認知症の有無に関わらず、障害の有無に関わらず、希望と尊厳をもって暮らすことができる地域社会の創出をめざした総合的研究を行う予定である。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

筋骨格系の老化予防の促進

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
Sarcopenic obesity (SO) 予防のためのRCT介入研究	SO予防に効果的な包括的介入プログラムを開発する	地域在住SO選定のための包括的健診実施、特性分析	SOと認知機能との関連性検討、RCT介入研究実施	SOと膝痛との関連性検討、RCT介入研究実施	SOと尿失禁・転倒との関連性検討、RCT介入研究	SOと複数徴候との関連性検討、プログラム提案
筋骨格系老化の予知因子	筋骨格系老化に関連する要因を究明する	骨格筋量減少要因解明	筋力低下要因解明	歩行機能低下要因解明	膝痛関連要因解明	転倒関連要因解明

介護予防の促進

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1. 現代高齢者における生活機能障害のスクリーニングを目的とした新生活機能指標の応用研究	現代の高齢者の生活環境や生活スタイルの変化を考慮した新活動指標を活用し、生活機能障害を予防するためのスクリーニング法への応用について検討する。	新活動能力指標の妥当性の検討、老年症候群のスクリーニング可能性の検討	地域在住の中高齢者・前期高齢者における新指標活用の検討（認知機能・身体機能との関連について）	施設入所者等の虚弱高齢者における新指標活用の検討（認知機能・身体機能との関連について）	新活動指標の短期的な縦断変化の検討および生活機能障害の予測因子としての検討	新活動指標の検討結果についてのまとめ
2. 高齢者食生活支援の枠組みと包括的支援プログラムの考案および検証を目的とした調査研究	高齢者における食と栄養の支援を口腔、運動機能を含む包括的な視点からの探索し、プログラム考案・検証を行う。	地域在住・要支援・要介護（在宅療養含む）高齢者を対象に、横断・追跡調査実施	横断・追跡調査結果解析結果に基づく包括的支援プログラムプログラム案作成	プログラム案を用いた介入調査	プログラム最終案の作成	プログラムの周知 オーラルフレイル予防プログラムの実装
3. 認知症高齢者の摂食・嚥下機能障害および口腔乾燥とうつ病との関連に関する調査研究	認知症の摂食・嚥下障害および、ドライマウスの背景因子の把握（うつ病との関連性含む）し支援プログラムを考案する。	横断調査実施、蓄積したデータの解析を行い支援プログラム案作成	プログラム案を用いた介入調査	前年度までの結果に基づいたプログラムのブラッシュアップ	プログラム案を用いた介入調査	プログラム最終案の作成および周知

認知症・うつの予防と介入の促進

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
認知症の早期診断・支援システムの確立	認知症の早期診断・支援システムを確立し、その効果を検証する。	尺度開発、認知症の初期支援体制の確立。	認知症のQOL維持・改善をめざした介入研究。	介入研究の効果評価（事業の質の評価）	認知症初期支援モデルの提案	支援モデルの普及
高齢者精神疾患の早期発見・支援システムの確立	高齢者精神疾患の早期発見・支援システムを確立し、その効果を検証する。	尺度開発、介入プログラムの考案	介入研究の実施	介入研究の効果評価（事業の質の評価）	精神疾患をもつ生活困窮高齢者の支援モデルの提案	支援モデルの普及
災害時の認知症支援	災害時の指針を作成する。	日本老年精神医学会と連携して、災害時の老年精神医学的支援に関する指針を作成する。				
認知症疾患医療サービスの強化と連携体制の構築	認知症医療サービス強化と連携体制構築の政策科学的研究を行う。	法人内の病院（認知症疾患医療センター）および国、東京都、板橋区、医師会等と連携して、認知症の医療サービス強化と地域包括ケアシステム構築に関する政策科学的研究を遂行する。				
高齢者難治性精神障害病態と治療法開発	難治性精神障害の病態解明と治療法開発に向けた臨床研究を行う。	法人内の病院（精神科）と連携して、うつ病、妄想性障害、緊張病性障害、器質性精神障害等の高齢者の難治性精神障害の病態解明と治療法の開発に関する臨床研究を遂行する。				

筋骨格系の老化予防の促進

構成メンバー

テーマリーダー：金憲経

研究員：小島成実、大須賀洋祐、藤野健

非常勤研究員：チーム費：田中喜代次、大蔵倫博

外部資金：上田由美子、高橋美和子、金子芳江

1 第二期中期計画の研究成果

(1) RCT介入研究

①サルコペニア肥満(以下SO)関連研究：都市部在住高齢女性1,213名を対象に総合健診を行い、DXA法による体脂肪率32.0%以上、骨格筋量指数5.46kg/m²以下、握力17.0kg未満、通常歩行速度1.0m/sec未満をSOと操作的に定義し、該当者307名を選定した。SO改善プログラムの効果を検証するために行ったRCT介入データを詳細に分析し、JAMDA (17: 1011-1019, 2016) に掲載した。

②フレイル改善RCT介入結果公表：75歳以上のフ

レイル女性131名をRCTにより運動+MFGM、運動+Placebo、MFGM、Placebo群に分け、3ヶ月間のRCT介入研究を実施した。その4カ月後に追跡調査を行い、得た結果をまとめて、PLoS One (Doi: 10.1371/journal.pone.0116256, 2015) に掲載した。

③RCT介入研究の長期効果の検証：介入参加者と不参加者について、介入4年後の追跡調査を行い、4年間の変化量を介入参加群と不参加群で比較し、Geriatr Gerontol Int (16: 175-181, 2016) に掲載した。

④認知機能低下者に対する栄養補充の効果検証：平成27年度お達者健診受診者の中から、MMSE 23-26点の者277名を抽出した。包含基準と除外基準を適用し、介入適格者89名を対象に「乳製品摂取が認知機能に及ぼす影響」を検証するためのRCT前半介入（平成28年4月28日～8月4日）、追跡調査10月、後半介入（10月27日～平成29年2月2日）を実施した。現在データ分析が完了し、投稿準備中である。

（2）筋骨格系老化の予知因子の解明研究

①骨格筋量減少関連要因の解明：4年間の縦断データを用いて解析したサルコペニア予知因子は年齢、BMI、下腿三頭筋周囲、骨粗鬆症既往、TUGであり、重症サルコペニアの予知因子は年齢、BMI、下腿三頭筋周囲、BMD、TUG、Cystatin CであることをJAMDA (16(1): 85.e1-85.e8, 2015) に掲載した。

②下肢筋力低下と関連する要因の解明：2008年コホートの2012年追跡データ（女性575名）を分析し、膝伸展力の縦断変化に関連する要因は大豆製品、緑黄色野菜の摂取であることを検出し、PLoS One (10(7): e0132523, 2015) 誌に掲載した。

③客観的に評価した高齢者の睡眠の質と身体機能との関連性について分析し、Geriatr Gerontol Int (15: 1040-1048, 2015) 誌に公表した。

④高齢者の睡眠・覚醒パターンと身体組成との関係について分析し、J Sleep Res (24: 639-647, 2015) 誌に公表した。

⑤後期高齢女性の変形性膝関節症の発症に關与する要因を横断的/縦断的に分析し、Arch Gerontol Geriatr (73: 125-132, 2017) 誌に掲載した。

⑥後期高齢女性1,082名を対象に4年間の縦断データに基づいて17の運動種目とIADL低下との関連性を検討した結果、「体操」の実践は、4年後のIADL低下の発生率を有意に抑制することをまとめ、Preventive Medicineに投稿し、現在査読中（major revision）である。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜サルコペニア肥満の解析＞

病院部門（糖尿病・代謝・内分泌内科）、生活習慣病研究チーム、花王株式会社、味の素株式会社、桜美林大学

＜重複フレイルの解析＞

認知症予防、介護予防、国立長寿医療研究センター研究所、桜美林大学

＜サルコペニア介入の長期効果の解明＞

介護予防、国立長寿医療研究センター研究所

＜認知機能改善を目指すRCT介入効果の解明＞

国立長寿医療研究センター研究所、介護予防

＜骨格筋障害と関連する要因の解明＞

国立長寿医療研究センター研究所、介護予防

＜運動習慣と生活機能との関連性解析＞

国立長寿医療研究センター研究所、介護予防

＜複数回転倒と関連する要因の解析＞

国立長寿医療研究センター研究所、介護予防

＜認知機能変化の登録及び変化の解析＞

国立長寿医療研究センター、国立長寿医療研究センター研究所

＜尿失禁の解析＞

病院部門（泌尿器科）、老化制御研究チーム

＜介護予防の解析＞

福祉と生活ケア研究チーム、筑波大学

＜歩行障害改善のためのRCT介入研究の解析＞

花王株式会社

＜食欲の解析＞

味の素株式会社

3 今後の展望

1. サルコペニア研究

（1）骨格筋量減少に対する介入効果の解明：運動と栄養の複合介入によるサルコペニア改善・予防研究に関するエビデンスは世界的にみても不十分である。第三期では、近年、骨格筋への有効性が期待されている機能的栄養補助食品 beta-hydroxy-beta-methylbutyrate (HMB) に一早く着目し、筋力強化運動とHMB摂取の複合プログラムが、筋量が少ない高齢女性の骨格筋関連アウトカムに及ぼす影響について明らかにすることを目的に臨床試験を実施する予定である。東京都板橋区に在住する65歳以上の高齢女性を対象に行った包括的健診参加者より骨格筋量が少ない高齢女性160名を抽出し、対象者を4群（運動+HMB群、運動+プラセボ群、健康教育+HMB群、健康教育+プラセボ群）に無作為に割り付け、二重盲検下で3か月の介入を平成30年度に実施し、その後追跡調査及びクロスオーバ

一介入を実施する。運動は2回/週、筋力運動を提供し、HMB (1.2 g) またはプラセボ食品を毎日摂取するよう求める。筋量を主要評価項目とし、筋力、パフォーマンス、血液検査値、アンケート等を副次評価項目とし、介入効果を総合的に検証し、骨格筋量減少予防に効果的なプログラムを提案する。

2. フレイル研究

(1) 重複フレイルの特徴・関連要因の解明：最近、フレイルを身体的、社会的、精神的、オーラルフレイルに分けて検討しようとする潮流が形成されつつある。身体的フレイルは、社会的、オーラル、精神的フレイルと密接に関わり、お互いに影響する可能性は高いと考えられる。過去のお達者健診データによれば、身体的フレイルとオーラルフレイルの重複は36.7% (109/297) と高く、重複フレイル者はIADL障害、転倒、外出頻度減少、生活に充実感がないと答えた者の割合は高かった。一方、身体的フレイルと認知的フレイル重複者は、身体的フレイルあるいは認知的フレイル単独より、身体機能や認知機能、口腔機能が一層悪くなる傾向が観察された。しかし、地域在住高齢者におけるフレイルの重複を問題化せず、対策あるいは解消を目的とした研究は殆ど行われていないのが現状である。これらの背景を踏まえ、第三期中期計画では、重複フレイルに焦点を当て、重複フレイルの特徴や関連要因を解明するための研究を行う。

(2) 重複フレイルの改善を目指す介入研究の効果検証：地域在住高齢者における重複フレイル改善を目的とした多面的支援プログラム（筋力強化運動、有酸素運動、コグニサイズ、社会活動促進支援、口腔機能改善支援）を開発し、その短期効果を検証するために、3カ月間のRCT介入研究を行う。その後、追跡調査を実施し、長期効果を検証するための研究を行う計画である。

3. 筋骨格系筋障害と関連する要因の解明

各種食品の摂取頻度が筋骨格系障害の発生に与える効果を縦断的に検討する。特に、細分化された各種大豆製品の摂取状況が変形性膝関節症をはじめとする骨関節疾患にどのような効果をもたらしているのか、疫学的裏付けを得ることを目標とする。

4. 運動習慣と生活機能との関連性の解明

これまで高齢期の運動習慣に関する観察研究は、運動の量（運動強度×頻度×時間）と健康予後との関連性に着目して検討されてきた。一方で、運動の種目と健康予後に着目した研究は少なく、どのような運動種目が高齢期の生活機能の低下

を防ぐ上で有効か世界的にも十分に検討されていない。この研究では、地域の高齢者が普段実践している運動習慣の実態を明らかにするとともに、多様な運動種目の運動時間、頻度、継続年数等を詳細に調査した上で、高齢期における様々な健康関連アウトカム（生活機能、フレイル、サルコペニアなど）との特異的な関連性について検討し、各アウトカムに有効な運動種目を明らかにする予定である。

4 その他

Best presentation award

Osuka Y, Suzuki T, Kojima N, Fujino K, Kim HK. Predictive validity of a novel comprehensive assessment tool for sarcopenia (sarcopenia scale): A relationship with the onset of instrumental activity of daily living decline. 3rd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. Seoul, Korea. 2017.10.27-28.

介護予防の促進

構成メンバー

テーマリーダー：栗田圭一

研究員：渡邊裕、本川佳子、吉田祐子

非常勤研究員：鈴木隆雄、那須郁夫、村上正治、小原由紀、森下志保、本橋佳子、三上友里江、早川美知、高橋知佳

1 第二期中期計画の研究成果

現代高齢者における生活機能障害のスクリーニングを目的とした新生活機能指標の応用研究

現代高齢者の高次生活機能を測定するツールとして開発された、JST-ICの妥当性の検討は終了した。またJST-ICは軽度認知障害と関連することが示唆されており、利用マニュアルの第一版も完成し、概ね計画通り遂行できている。

フレイルリスクに影響する要因の解明については、オーラルフレイルの定義を初めて確立した。特に約2,000名の4年間のコホートデータから、オーラルフレイルがフレイル、サルコペニア、身体機能障害、死亡のそれぞれの発現に関与しているという結果は、今後の地域包括ケア、高齢者口腔保健活動に大きな影響を与えるものと考えられる。また、食欲の指標の開発も含め多くの知見が得られており、後期高齢者の歯科健診システム（厚労省）の構築にも大きく寄与できた。

高齢者食生活支援の枠組みと包括支援プログラムの考案および検証を目的とした調査研究

要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライ

ンを作成し（厚労科研）、当該分野の課題整理を行った意義は大きい。これにより、高齢者食生活支援の効果指標の開発検証を行い、有用な指標を複数提示できたことは、当該分野の研究推進に大きく寄与すると考える。さらに、包括支援プログラムの効果検証を目的とした無作為化比較試験を施設入所・施設退所・通所利用の要介護高齢者、二次予防対象・オーラルフレイル該当・軽度認知機能低下の地域在住高齢者といった幅広い対象で6試験も実施できたことは大きな成果と考える。また大規模介入研究の準備も行われており、今後さらなる成果が期待される。

認知症高齢者の摂食嚥下機能障害および口腔乾燥とうつ病との関連に関する調査研究

本研究は認知症の予防と認知症になっても望む暮らしを支援するための知見を得ることを目的としている。認知症の病態に応じた、エビデンスに基づく適切な歯科診療を含む口腔管理及び栄養ケアマネジメントに関するガイドラインの作成（AMED）も順調に進行しており、介護保険施設やグループホーム、もの忘れ外来の調査から、食欲や食行動関連障害に関する興味ある知見が得られ論文化している。得られた知見は新オレンジプランにおける認知症対応力向上研修カリキュラム作成にフィードバックされた。また、口腔乾燥とうつ病の追跡調査研究、認知機能が軽度低下した地域在住高齢者に対する介入調査も開始となり、今後の成果が期待される。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜現代高齢者における生活機能障害のスクリーニングを目的とした新生活機能指標の応用研究＞

福祉と生活ケア研究チーム、神奈川県庁、後期高齢者医療広域連合、神奈川県歯科医師会、鳥取県歯科医師会、福島県立医科大学、東京大学高齢社会総合研究機構、東京医科歯科大学、昭和大学歯学部、日本歯科大学、新潟大学大学院医歯学総合研究科

＜高齢者食生活支援の枠組みと包括支援プログラムの考案および検証を目的とした調査研究＞

日本歯科医師会、全国老人保健施設協会、日本老年歯科医学会、日本在宅栄養管理学会、愛知県歯科衛生士会、国立長寿医療研究センター、新潟大学大学院医歯学総合研究科、東京医科歯科大学、駒沢女子大学、東北福祉大学、筑波大学、九州歯科大学、日本大学歯学部

＜認知症高齢者の摂食嚥下機能障害および口腔乾燥とうつ病との関連に関する調査研究＞

日本歯科医師会、日本歯科衛生士会、山梨県歯科医師会、鳥取県歯科医師会、日本歯科総合研究機構、日本老年歯科医学会、広島大学大学院医歯薬保健学研究院、新潟大学大学院医歯学総合研究科、神戸常盤大学短期大学、高知学園短期大学、日本歯科大学、東京医科歯科大学、大阪大学歯学部、東北福祉大学、九州大学大学院歯学研究院、日本大学松戸歯学部、東京歯科大学、国立保健医療科学院、国立長寿医療研究センター

3 今後の展望

現代高齢者における生活機能障害のスクリーニングを目的とした新生活機能指標の応用研究

第二期で開発し、その妥当性を検証したJST-ICについては、非常勤研究員の鈴木が行う日本の大規模コホートを統合した長寿コホートの総合的研究において、我が国の老化・老年病に関する基盤的研究プラットフォームの主要評価項目として位置づけることを目標に、引き続きデータの蓄積と検証を行っていく。すでに12の長期コホートが基盤的研究プラットフォームの構築に向け、JST-ICを包含した調査を実施しており、今のところ問題は認められていない。

高齢者食生活支援の枠組みと包括的支援プログラムの考案および検証を目的とした調査研究

オーラルフレイルについては、日本だけでなく、アジアへの普及を目標に、さらなる定義の確立のためデータの集積、オーラルフレイル予防改善プログラムの効果検証を行っていく。日本老年歯科もオーラルフレイルに関するデータの収集、予医学会を通して、台湾老年歯科学会と啓発活動を行っていく予定となっており、台湾において予防プログラムの検証を行っていく。

予防改善プログラムの開発検証では、歯科専門職が歯科医院で行う専門的なプログラムと、地域で高齢者自身がオーラルフレイルサポーターとして行うプログラムにわけて開発し検証する。2つのプログラムは地域で相互に連動させ、効果の検証だけでなく、プログラムの質やリスク管理の状況、サポーターの増加、継続率など地域への普及効果についても検証していく。平成29年度から神奈川県全域の歯科医院において歯科専門職によるオーラルフレイル予防改善プログラムの効果検証を目的とした無作為化比較試験を実施している。平成30年度からは特定地域への大規模な介入研究を予定している。また神奈川県では、県庁、歯科医師会、当センターを含む研究機関が合同でオーラルフレイルの普及、啓発を行う準備を行っており、医療介護費や地域への効果についての検証も行っていく。

またAMED事業において西東京市、杉並区、江戸川区、国立市において、オーラルフレイルによる口腔機能向上支援事業を展開する予定である。

要介護高齢者に対する食生活支援の包括的支援プログラムの検証については、第二期に開発検証した、食欲の指標、自発摂食力評価を中心に、これまでと同様に施設入所、施設退所、通所利用の要介護高齢者といった幅広い対象で介入較試験を継続していく。また、死亡、誤嚥性肺炎、施設内・自宅での看取り、在宅療養の継続、QOL、栄養といったアウトカムについても検証していく。これにより身体機能だけでなく、生活機能や環境に応じた、介入指標とアウトカムを明らかにして、現場に実装可能なシームレスな食生活支援の包括的支援プログラムを提案でき、より広く普及させることができると考える。

認知症高齢者の摂食嚥下機能障害および口腔乾燥とうつ病との関連に関する調査研究

平成30年度中に認知症の病態に応じた、エビデンスに基づく適切な歯科診療を含む口腔管理及び栄養ケアマネジメントに関するガイドラインを完成させる。これを基に新オレンジプランにおける歯科医師の認知症対応力向上研修カリキュラム内容を改訂する予定である。

平成28年度に認知症発症および重度化予防の介入調査のためのベースライン調査を実施した高島平地区の地域在住高齢者の2年後調査を実施し、口腔機能および栄養状態の変化が認知機能、生活機能、社会機能に及ぼす影響を検討する。平成29年度から認知症発症予防のための歯科保健指導プログラムの効果検証を目的に高島平地区の地域在住高齢者80名を対象に1年間の無作為化比較対照試験を開始した。平成30年度からはお達者健診の介入対象地域においても同様の無作為化比較対照試験を開始する予定としている。

8年継続している横手市大森町圏域の要介護高齢者の悉皆コホート調査は、死亡、要介護度の推移、介護サービス利用状況、在宅療養の継続、医療介護費などのデータを収集し、口腔と栄養の状態の変化との関連を検討する。

もの忘れ外来受診者調査については、認知症の病態別の食行動関連障害や摂食嚥下障害の発現、栄養状態の変化を明らかにするためデータ収集を継続する。

認知症・うつの予防と介入の促進

構成メンバー

テーマリーダー：栗田主一

研究員：岡村毅、稲垣宏樹、佐久間尚子、宇良千秋、杉山美香、枝広あや子、宮前史子、小川まどか

非常勤研究員：新川祐利、岩佐一、釘宮由紀子、岡村睦子、森倉三男、新名正弥、見城澄子

1 第二期中期計画の研究成果

認知症になっても、住み慣れた地域の中で、希望と尊厳をもって暮らし続けることができる社会を実現することをめざして、第二期中期計画では、認知症の初期段階に、地域の中で、質の高い診断や診断後支援（統合的なサービスの調整）を可能とする初期支援システムを構築し、これを公的事業として政策化することを第一の研究課題に定めた。まず、認知症初期に本人が“気づき”、専門職が“総合アセスメント”を実施するツールとして、「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」と「地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート（DASC-21）」を開発した。次にこれらを活用した多職種協働による認知症初期支援システムを区市町村に実装し、事業を担う専門職の人材育成と事業評価を行う体制を整備した。これらの研究成果は国のレベルでは認知症初期集中支援推進事業、都のレベルでは認知症早期発見・早期診断推進事業（現：認知症支援コーディネーター事業）に反映されている。

ところで、平成20年度に、認知症の早期診断を担う専門医療サービスとして認知症疾患医療センターが全国に設置されたが、研究グループでは、その機能格差が顕著であること、質の管理が不十分であることを明らかにし、認知症疾患医療センターの機能評価指標と事業評価の手引き書を作成した。この評価指標は、現在、国の認知症施策の中で活用されている。

老年期には、認知症だけではなく、うつ病や睡眠障害など多様な精神障害の出現頻度が高まる。研究グループでは、地域在住高齢者や生活困窮者を対象とする一連の横断調査と縦断調査によって、認知機能低下、日常生活動作能力低下、身体機能低下、社会的孤立、生活困窮、住まいの欠如、精神的健康度低下、自殺関連行動が相互に密接に関連することを明らかにした。また、これらの知見に基づき、認知機能低下や精神的健康度低下を含む総合的な初期支援システムの構築をめざし、日本語版WHO-5簡略版を作成し、これを含む包括的

生活機能評価尺度「こころとからだの健康調査」を開発した。この尺度を用いて、東京都千代田区では「郵送法による生活機能評価」と、これに連動する「郵送調査回答未返送の後期高齢者に対する訪問調査」と「ハイリスク高齢者に対する見守り支援」を事業化させた。

平成23年の東日本大震災に際しては発災直後に認知症高齢者の生活実態調査を行い、津波に逃げ遅れて多くの認知症高齢者が犠牲になったこと、避難所などで死亡リスクを高めたことを報告した。この知見を踏まえて、認知症支援体制構築を進めるとともに、日本老年精神医学会と連携し「高齢社会における災害時への備えと緊急時への備え」を出版した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜認知症の早期診断・支援システムの確立＞

筋骨格系の老化予防の促進、介護予防の促進、社会参加と地域保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、認知症疾患医療センター、認知症支援推進センター、精神科、放射線診断科、内分泌・代謝・糖尿病科、国立長寿医療研究センター、山形大学、福島県立医科大学、筑波大学、認知症介護研究・研修大府センター、山梨大学、大阪大学、愛媛大学、砂川市立病院、南魚沼市立ゆきぐに大和病院、認知症介護研究・研修東京センター、東京都、板橋区、足立区、千代田区、町田市、山梨県、日本認知症本人ワーキンググループ

＜高齢者の精神疾患早期発見・支援システムの確立＞

精神科、NPO法人ふるさとの会、大正大学、千代田区

＜認知症疾患医療サービスと連携体制の構築＞

認知症疾患医療センター、認知症支援推進センター、東京都、板橋区、板橋区医師会、国立長寿医療研究センター

＜災害時の認知症支援＞

福祉と生活ケア研究チーム、東北大学、石巻市
＜高齢者難治性精神障害の病態解明と治療法の開発＞

精神科

3 今後の展望

1) 認知症とともに暮らせる社会（Dementia Friendly Community）に向けた総合的研究

Dementia Friendly Community (DFC)とは、認知症の有無に関わらず、障害の有無に関わらず、希望と尊厳をもって暮らせる社会を象徴する用語である（栗田、老年精神医学雑誌

28: 458-465、2017）。

第三期中期計画研究では、第二期中期計画研究の目標であった、(1)認知症の早期診断・支援システムの確立、(2)高齢者精神疾患の早期発見・支援システムの確立、(4)認知症疾患医療センターの強化と連携体制の構築を発展させて、「認知症とともに暮らせる社会—DFC」の実現に向けた総合的な研究に発展させたいと考えている。

具体的には、東京都板橋区高島平の研究プロジェクトを中核にして、病院部門と研究部門（自然科学系、社会科学系）が協働し、高齢者のWellbeingとLiving Well with Dementiaをメイン・アウトカムとする観察研究（コホート研究）と介入研究を実施する計画である。

ところで、DFCは、権利ベースのアプローチ（栗田、精神医学59: 709-712、2017）を指向するものであり、そこでは、行政、専門家、公的制度によるトップダウンのシステム構築とともに、当事者や地域住民の参画によるボトムアップの地域づくりが求められる。こうしたことから、研究グループでは、地域の多様な組織・機関・団体（ステークホルダー）との協働による複合的なアクション・リサーチを構想している。

2) 若年性認知症に関する総合的研究

上記の研究と連動して、若年性認知症の人の自立生活を支援する社会科学研究を実施する予定である。若年性認知症では、就労、経済、子の養育など、高齢者とは異なる社会的な課題が存在する。また、高齢者の認知症に比して、早期診断が可能な医療資源は限定されており、生活支援のための社会資源も少ない。こうしたことから、国および東京都と連携して、若年性認知症の有病率と生活実態調査を行うとともに、多元的データ共有システム（レジストリ）を開発し、多施設共同で臨床的・社会科学研究を実施する予定である。

3) 認知症疾患医療センターのQuality Controlに関する研究

第二期中期計画研究の中で実施された認知症疾患医療センターの機能評価指標の開発と都道府県における事業評価支援に関する研究は、第三期においては、認知症疾患医療センターの継続的な機能評価システムの開発と事業の質を担保するための仕組みづくり（例：全国規模の協議会の設置、全国合同研修会の開催など）に向けた研究に発展させる予定である。

4) 病院部門との連携による研究

第二期は、病院部門との連携による臨床研究を十分に遂行することができなかった。今日の高齢者医療、特に認知症の臨床では、心理・社会的なアプローチが不可欠の要素となっている。しかし、わが国における認知症医療の心理・社会科学研究は、自然科学領域の研究に比して著しく遅れている。

当センターには、精神保健福祉、臨床心理士など、この領域で活躍する優れた実践家は多い。こうしたスタッフが、将来的にわが国の高齢者医療の心理・社会科学研究をリードする人材になることを視野に入れた基盤整備が必要かと考えている。

論文・学会発表

筋骨格系の老化予防の促進

1 学会発表

(1) 海外

1. Kim H. Screening and intervention for sarcopenia in community-dwelling elderly. Konkuk University Medical Center Senior Friendly Hospital Symposium, Seoul, Korea, 2017. 2. 24.
2. M Tieland, R Franssen, C Dullemeijer, C van Dronkelaar, Kim H, T Ispoglou, K Zhu, R.L Prince, L.J.C van Loon, L.C.P.G.M de Groot: OC54-THE IMPACT OF DIETARY PROTEIN OR AMINO ACID SUPPLEMENTATION ON MUSCLE MASS AND STRENGTH IN ELDERLY PEOPLE:INDIVIDUAL PARTICIPANT DATA AND META-ANALYSIS OF RCT'S. International Conference on Frailty & Sarcopenia Research, Barcelona, Spain, 2017. 4. 27-28
3. Kim H: Effect of exercise and nutritional intervention in community-dwelling elderly sarcopenic women. 2017 annual meeting of the Korean society of sarcopenia, Seoul Korea, 2017.8.19 (Symposium)
4. Kim H: Exercise and nutritional supplementation on community-dwelling elderly Japanese women with sarcopenic obesity. 13th Euro Obesity and Endocrinology Congress, Zurich Switzerland, 2017. 9. 18-20 (Keynote form)
5. Kojima N, Kim M, Saito K, Yoshida H, Hirano H, Obuchi S, Suzuki T, Kim H. Predictors of Knee Osteoarthritis In Community-Dwelling Older Women: a 4-Year Longitudinal Study, IAGG 2017, サンフランシスコ, 2017. 7. 23-27
6. Kojima N, Kim M, Saito K, Yuko Yoshida, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T, Kim H. Effect of Dietary Habit on the Change of Activities of Daily Living in Community-Dwelling Older Women: A 4-year Longitudinal Study, 3RD ASIAN CONFERENCE FOR FRAILTY AND SARCOPENIA, ソウル, 2017. 10. 27-28
7. Abe T, Soma Y, Kitano N, Jindo T, Sato A, Tsunoda K, Tsuji T, Okura T. Physical sign for detecting cognitive decline in community-dwelling older adults. The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, USA, July 2017, Poster presentation.
8. Seol JH, Fujii Y, Abe T, Joho K, Okura T. Effects of reallocating time in sedentary behavior with physical activities on sleep in elderly. The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, USA, July 2017, Poster presentation.
9. Joho K, Abe T, Seol JH, Fujii Y, Fujii K, Okura T. Examining physical functioning in older adults: A comparison of two stretching practice methods. The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, USA, July 2017, Poster presentation.
10. Fujii Y, Jindo T, Kitano N, Fujii K, Seol JH, Joho K, Okura T. Gender differences in an ideal exercise partner for the mental health of older Japanese adults. The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, USA, July 2017, Poster presentation.
11. Yamazaki N, Sakamoto K, Ando S, Takigawa R, Kobayashi A, Tsurugano S, Tanaka K, Ohkawara K. Comparing the effects of intrinsic and extrinsic motivational support on physical activity level during exercise. ACSM's 64th Annual Meeting, Denver Colorado, USA, 5.30-6.3. 2017. Poster presentation.
12. Takigawa R, Sakamoto K, Ando S, Yamazaki N, Kobayashi A, Tsurugano S, Tanaka K, FACSMM, Kazunori Ohkawara. Variation In Daily Physical Activity During An Exercise Intervention Period In Older Adult Japanese. ACSM's 64th Annual Meeting, Denver Colorado, USA, 5.30-6.3. 2017. Poster presentation.
13. Ito R, Ando S, Takigawa R, Sakamoto K, Kobayashi A, Tsurugano S, Tanaka K, Ohkawara K. Improvement of cognitive function by dual-task exercise. ACSM's 64th Annual Meeting, Denver Colorado, USA, 5.30-6.3. 2017. Poster presentation.
14. Hoshino H, Takigawa R, Miyachi M, Murakami H, Tanaka S, Kawakami R, Nakae S, Tanaka K, FACSMM, Kazunori Ohkawara. A Decision-tree Model For Classifying Physical Activity Types Using A Three-axis Accelerometer In Japanese Adults. ACSM's 64th Annual Meeting, Denver Colorado, USA, 5.30-6.3. 2017. Poster presentation.
15. Kitamura K, Katayama Y, Tanaka K, FACSMM. Effects Of Participating In Sports Events Through Exercise Class On The Establishment Of Exercise Habits. ACSM's 64th Annual Meeting, Denver Colorado, USA, 5.30-6.3. 2017. Poster presentation.
16. Yoshikawa T, Kumagai H, Myoenzono K, Kaneko T, Tsujimoto T, Tanaka K, FACSMM, Maeda S. Vigorous-Intensity Physical Activity May Improve Central Aortic Pressure Response to Glucose Loading in Overweight/Obese Men. ACSM's 64th Annual Meeting, Denver Colorado, USA, 5.30-6.3. 2017. Poster presentation.
17. SO R, Matsuo T, Tanaka K, FACSMM. A Useful Equation For Predicting Visceral Adipose Tissue Volume From Anthropometric Measurements. ACSM's 64th Annual Meeting, Denver Colorado, USA, 5.30-6.3. 2017. Poster presentation.
18. Kumagai H, Yoshikawa T, Myoenzono K, Kaneko T, Tsujimoto T, Tanaka K, Maeda S Effects Of Lifestyle

- Modifications On Serum Testosterone Levels In Overweight And Obese Men. ACSM's 64th Annual Meeting, Denver Colorado, USA, 5.30-6.3. 2017. Poster presentation.
19. Okumatsu K, Tsujimoto T, Seki A, Yamauchi T, Yamauchi H, Tanaka K. Effect of a combined diet plus exercise intervention on weight loss, physical fitness, and cancer-related fatigue among Japanese women with breast cancer. American Society of Clinical Oncology, Chicago, 6.2-6.6. 2017. Publication Only.
 20. Jung S, Okubo Y, Osuka Y, Kim T, Hiroyuki, Kobayashi H, Lee S, Shimada H, Tanaka K. Long-term effect of exercise on muscle quality and intermuscular adipose tissue among community-dwelling older Japanese adults. ACFS 2017 3rd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, Korea, 10.27-28, 2017.
 21. Tanaka K, Mizushima R, Zuo X, Wang Z, Okumatsu K, Umemura T, Hoshina K, Wakaba K. A Requiem for Body-Mass Index in Obese Middle-Aged and Older Japanese Men and Women. Washington, DC, USA. ObesityWeek 2017, 10-29-11.2, 2017.
 22. Osuka Y, Suzuki T, Kojima N, Fujino K, Kim HK. Predictive validity of a novel comprehensive assessment tool for sarcopenia (sarcopenia scale): A relationship with the onset of instrumental activity of daily living decline. 3rd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. Seoul. Korea. 2017.10.27-28. *Best Presentation Award*.
 23. Osuka Y, Kojima N, Fujino K, Kim HK. Predictive validity of a novel comprehensive assessment tool for sarcopenia (sarcopenia scale): A relationship with the incidence of falls, International Conference on Frailty & Sarcopenia Research, Miami, Florida, USA, 2018年3月1-3日
 24. Wakaba K, Ueda M, Murakami S, Tanaka K. Effects of the FiNC-Style Weight-Loss Program on Weight Loss Among Japanese Adults. The Obesity Society Annual Meeting (Obesity Week) 2017, Maryland Washington D.C., USA. 2017-10.
 25. Kim B, So R, Tsujimoto T, Oh S, Kim J, Tanaka K: Effects of aerobic or resistance exercise on body composition and strength in men with obesity. 8th Asia Conference on Kinesiology in conjunction with 18th World Congress for Kinesiologists, Daegu, Korea, 2017-11.
 26. Okumatsu K, Tsujimoto T, Seki A, Kotake R, Yamauchi T, Yamauchi H, Tanaka K: Effects of a combined exercise plus diet intervention on cardiorespiratory fitness among Japanese women with breast cancer: a feasibility study. 40th San Antonio Breast Cancer Symposium, Texas, USA. 2017-12.
- (2) 国内
1. 金憲経：サルコペニア・フレイル、第28回日本老年医学会四国地方会、香川県、2017.2.12
 2. 金憲経：サルコペニアからのアプローチ。第54回リハビリテーション医学会学術集会、岡山県、2017.6.8-10（シンポジウム）
 3. 金憲経、小島成実、藤野健、大須賀洋祐、吉田祐子、渡邊裕、井原一成、平野浩彦：都市部に在住の後期高齢女性における認知機能低下の関連要因－2年後の追跡調査より－。第59回日本老年医学会学術集会、愛知県、2017.6.14-16
 4. 小島成実、金美芝、齋藤京子、吉田祐子、平野浩彦、大淵修一、鳥田裕之、鈴木隆雄、金憲経：食習慣が地域在住高齢女性の日常生活動作の変化に及ぼす影響：4年間の縦断研究。第59回日本老年医学会学術集会、愛知県、2017.6.14-16
 5. 杉江正光、原田和昌、高橋哲也、奈良毬那、小山照幸、藤本肇、大淵修一、金憲経、許俊鋭、井藤英喜：地域在住高齢者におけるフレイル関連因子とpeakVO2との関係。第59回日本老年医学会学術集会、愛知県、2017.6.14-16
 6. 金憲経、原田敦、荒井秀典：サルコペニア診断ガイドライン－治療－。第59回日本老年医学会学術集会、愛知県、2017.6.14-16（シンポジウム）
 7. 金憲経、原田敦、荒井秀典：サルコペニア診断ガイドライン－治療－。第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会、京都府、2017.10.14-15（シンポジウム）
 8. 本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、井原一成、田中弥生、金憲経、藤原佳典、大淵修一、河合恒、平野浩彦、渡邊裕：オーラルフレイルと食事・栄養の関わり。第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会、京都府、2017.10.14-15
 9. 枝広あや子、本川佳子、白部麻樹、小原由紀、杉山美香、稲垣宏樹、宇良千秋、宮前史子、岡村毅、村山洋史、大淵修一、藤原佳典、金憲経、井原一成、河合恒、渡邊裕、平野浩彦、栗田主一：オーラルフレイルと認知機能、抑うつ傾向の関連。第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会、京都府、2017.10.14-15
 10. 上田由美子、小島成実、藤野健、平野浩彦、吉田祐子、大須賀洋祐、渡邊裕、金憲経：大都市部に在住後期高齢女性におけるサルコペニアの発症率と予知因子について－4年間の追跡データより－。第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会、京都府、2017.10.14-15
 11. 青木登紀子、小島成実、藤野健、平野浩彦、吉田祐子、大須賀洋祐、金憲経：大都市部に住身体的フレイル高齢者の関節疾患の特徴について。第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会、京都府、2017.10.14-15
 12. 大須賀洋祐、小島成実、藤野健、金憲経：サルコペニアの包括的評価ツール「サルコペニアスケール」の併存的妥当性-手段的自立との横断的関連性-。第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会、京都府、2017.10.14-15
 13. 金憲経：サルコペニアに対する複介介入。第19回日本骨粗鬆症学会、大阪府、2017.10.20-22（シンポジウム）
 14. 桜井良太、河合恒、金憲経、鈴木宏幸、小川将、渡邊裕、平野浩彦、井原一成、大淵修一、藤原佳典：高齢者の自転車運転時の転倒に関連する要因：横断および縦断的検討。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017.10.31-11.2
 15. 井原一成、端詰勝敬、長谷川千絵、天野雄一、小山明子、飯田浩毅、小島光洋、金憲経：高齢女性の夕食の準備方法と幼少期における遊びや運動の技能との関係。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017.10.31-11.2
 16. 稲垣宏樹、栗田主一、佐久間尚子、金憲経、枝広あや子、杉山美香、白部麻樹、本川佳子、宇良千秋、小川まどか、宮前史子、渡邊裕、新開省二：高島平Study(1)大都市部認知症高齢者の生活実態調査の方法と課題に関する検討。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017.10.31-11.2

17. 金憲経、粟田主一、渡邊裕、小島成実、藤野健、大須賀洋祐、本川佳子、佐久間尚子、稲垣宏樹、杉山美香、小川まどか、枝広あや子、新開省二：高島平Study(3) 大都市部在住高齢者における重複フレイルの特徴と関連要因。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017.10.31-11.2
18. 枝広あや子、杉山美香、稲垣宏樹、小川まどか、宇良千秋、佐久間尚子、宮前史子、本川佳子、本橋佳子、渡邊裕、岡村毅、金憲経、新開省二、粟田主一：高島平Study(4) 大都市在住高齢者の食欲低下に関連する要因の検討。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017.10.31-11.2
19. 杉山美香、宮前史子、佐久間尚子、稲垣宏樹、宇良千秋、小川まどか、枝広あや子、本川佳子、岡村毅、渡邊裕、金憲経、新開省二、粟田主一：高島平Study(5) 認知機能低下がみられる地域在住高齢者の生活支援ニーズ。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017.10.31-11.2
20. 本川佳子、渡邊裕、平野浩彦、枝広あや子、本橋佳子、白部麻樹、三上友里江、大須賀洋祐、佐久間尚子、宇良千秋、稲垣宏樹、小川まどか、金憲経、新開省二、粟田主一：高島平Study(6) 大都市在住高齢者における認知機能と栄養指標との関連。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017.10.31-11.2
21. 本橋佳子、渡邊裕、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、三上友里江、大須賀洋祐、平野浩彦、金憲経、北村明彦、藤原佳典、大淵修一、石崎達郎、新開省二、粟田主一：高島平Study(7) 大都市部在住高齢者における口腔への関心に関連する因子の検討。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017.10.31-11.2
22. 三上友里江、渡邊裕、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、本橋佳子、大須賀洋祐、平野浩彦、金憲経、北村明彦、藤原佳典、大淵修一、石崎達郎、新開省二、粟田主一：高島平Study(8) 都市部在住高齢者の外出頻度の減少と口腔機能低下との関連。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017.10.31-11.2
23. 白部麻樹、渡邊裕、本川佳子、本橋佳子、三上友里江、大須賀洋祐、枝広あや子、平野浩彦、小川まどか、稲垣宏樹、河合恒、大淵修一、金憲経、粟田主一、新開省二：高島平Study(9) 大都市在住高齢者のかかりつけ歯科医院への受診と口腔・栄養の関連。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017.10.31-11.2
24. 大藏倫博。高齢者のメンタルヘルスにおける運動・身体活動の意義：かさまスタディから得られた知見を中心として。第72回日本体力医学会大会シンポジウム。松山。2017年9月。
25. 大藏倫博。高齢女性の生活機能と性差 - 心身機能・活動・社会参加の観点から。第72回日本体力医学会大会シンポジウム。松山。2017年9月。
26. 大藏倫博。高齢者の身体活動。運動促進戦略の現状と課題。第20回日本運動疫学会学術総会シンポジウム。神戸。2017年6月。
27. 水島諒子、笹井浩行、中田由夫、左折雨、前田清司、田中喜代次。住民主導型減量教室への参加に伴う同居家族の食行動の変化。第71回日本栄養・食糧学会大会、沖縄、2017.5.19-21。ポスター発表。
28. 呉世旭、田中喜代次、正田純一。運動療法実施における脂肪肝および肝病態治療効果：肥満改善とは独立した影響。第53回日本肝臓学会総会、広島、2017。6.8-10。口頭発表。
29. 田中喜代次。骨格筋代謝からみた肥満の減量指導。第35回日本肥満症治療学会学術集会、盛岡、2017。6.23-24。シンポジウム。
30. 田中喜代次。EIMを考える。第35回日本肥満症治療学会学術集会、盛岡、2017。6.23-24。ワークショップ。
31. 田中喜代次、大月直美、根本みゆき。認知症のケア：予防効果・進行抑制効果が期待できるエクササイズ。第2回日本高齢者ケアリング学研究会学術集会、茨城、2017.8.30。実演（市民公開講座）。
32. 保科健太、飯田路佳、堀内宏美、松本智宏、田中喜代次。特別養護老名ホームにおけるリズム体操導入可能性の検討。第2回日本高齢者ケアリング学研究会学術集会、茨城、2017.8.30。ポスター発表。
33. 梅村貴、田中喜代次、若葉京良、辻本健彦、飯田路佳。BI法に基づく身体組成推定機器の筋肉量と骨格筋量に着目した比較検討。第72回日本体力医学会大会、愛媛、2017.9.16-18。ポスター発表。
34. 左折雨、水島諒子、中田由夫、田中喜代次。住民主導型減量教室の参加継続とPOMSによる感情・気分の関連。第72回日本体力医学会大会、愛媛、2017.9.16-18。ポスター発表。
35. 保科健太、飯田路佳、田中喜代次。特別養護老名ホームにおけるリズム体操の実践効果～注意機能に着目して～。第72回日本体力医学会大会、愛媛、2017.9.16-18。ポスター発表。
36. 奥松功基、辻本健彦、若葉京良、王震男、関晶南、固武利奈、山内照夫、山内英子、田中喜代次。内分泌療法中の乳がん患者における食習慣改善および運動実践が活力年齢に及ぼす影響。第72回日本体力医学会大会、愛媛、2017.9.16-18。口頭発表。
37. 妙園園香苗、吉川徹、熊谷仁、辻本健彦、田中喜代次、前田清司。肥満男性の食習慣改善による血中BCAA濃度および体組成指標の変化の関連。第72回日本体力医学会大会、愛媛、2017.9.16-18。口頭発表。
38. 保科健太、飯田路佳、田中喜代次。特別養護老名ホームにおけるリズム体操の実践回数の違いが注意機能におよぼす効果。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017.10.31-11.2。ポスター発表。
39. 鄭松伊、大久保善郎、大須賀洋祐、重松良祐、小林裕幸、金泰浩、若葉京良、李成喆、田中喜代次。介護予防教室終了後の運動継続に対する郵送支援の効果。第5回日本介護福祉健康づくり学会、岐阜、2017。11.11-12。口頭発表。
40. 熊谷仁、吉川徹、妙園園香苗、小崎恵生、赤澤暢彦、膳法(宮木) 亜沙子、辻本健彦、田中喜代次、前田清司。男性機能の低下は中心動脈ステイフネスの増大と関連する。第5回日本介護福祉健康づくり学会、岐阜、2017。11.11-12。口頭発表。
41. 大須賀洋祐、金憲経。手段的自立の低下を抑制する運動種目 - 都市部在住後期高齢女性1083名を対象とした4年間の前向き研究 -。日本体育学会第68回大会。静岡。2017.9.8-10。
42. 大須賀洋祐、小島成実、藤野健、金憲経。近隣の身体活動環境と歩行時間との関連 - 都市部在住後期高齢女性325名を対象とした横断研究 -。第72回日本体力医学会大会。松山。2017.9.16-17。
43. 長島克弥、門根秀樹、大須賀洋祐、鄭松伊、中山敬太、大島博、落合龍史、正田純一、田中喜代次、山崎正志。アスリートにおける長期臥床後の歩容・平衡機能の変化に関する解析。日本整形外科学会基礎学会。沖縄(宜野湾市) 2017.10.26-27。
44. 鄭松伊、大久保善郎、大須賀洋祐、重松良祐、小林裕幸、金泰浩、若葉京良、李成喆、田中喜代次。介護予防教室終

了後の運動継続に対する郵送支援の効果. 第5回日本介護福祉健康づくり学会, 岐阜, 2017.11.11-12.

45. 金泰浩, 大須賀洋祐, 鄭松伊, 大久保善郎, 田中喜代次: 慢性膝・腰痛を有する高齢者における長期間な運動実践の効果-痛み・体力・身体活動量に及ぼす影響-. 19回日本健康支援学会年次学術大会, 京都, 2018年3月.
46. 鄭松伊, 大久保善郎, 大須賀洋祐, 清野諭, 重松良祐, 金泰浩, 若葉京良, 田中喜代次: 介護予防教室参加者の運動継続に向けた郵送支援の有益性-2年間の追跡結果-. 19回日本健康支援学会年次学術大会, 京都, 2018年3月.
47. 早川美知, 渡邊裕, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 大須賀洋祐, 金憲経, 新開省二, 栗田主一, 高島平Study食品摂取多様性に関連する因子の検討. 第37回食事療法学会. 沖縄県. 2018.3.3-4.
48. 田中喜代次: メディカルフィットネス (Medical Fitness) の醸成を願って. 第5回日本介護福祉健康づくり学会, 岐阜, 2017年11月.
49. 辻本健彦, 田中喜代次, 前田清司, 若葉京良, 王震男, 吉川徹, 水島諒子, 妙園園香苗, 熊谷仁. 行動変容理論を活用した低頻度開催型運動プログラムの長期的効果. 第19回日本健康支援学会年次学術大会, 京都, 2018年3月.
50. 押田夏海, 呉世祝, 染谷典子, 中村優希, 野田彩佳, 丸山剛, 田中喜代次, 正田純一. 長期的3次元加速度トレーニングによる非アルコール脂肪性肝疾患の病態改善効果について. 第19回日本健康支援学会年次学術大会, 京都, 2018年3月.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Yoshimura Y, Wakabayashi H, Yamada M, Kim H, Harada A, Arai H: Interventions for Treating Sarcopenia: A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Studies. *J Am Med Dir Assoc*, 18(6):553.e1-553.e16, 2017 (査読有) (IF:5.775、2016)
2. ★◎Kojima N, Kim M, Saito K, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T, Kim H: Predictor of self-reported knee osteoarthritis in community-dwelling older women in Japan: A cross-sectional and longitudinal cohort study. *Arch Gerontol Geriatr*, 73:125-132, 2017 (査読有) (IF:2.086、2016)
3. Kim M, Suzuki T, Kojima N, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Won CW, Kim H: Association Between Serum β 2-Microglobulin Levels and Prevalent and Incident Physical Frailty in Community Dwelling Older Women. *J Am Geriatr Soc*, 65(4):e83-e88, 2017 (査読有) (IF:4.388、2016)
4. Tokudome Y, Okumura K, Kumagai Y, Hirano H, Kim H, Morishita S, Watanabe Y: Development of the Japanese version of the Council on Nutrition Appetite Questionnaire and its simplified versions, and evaluation of their reliability, validity, and reproducibility. *J Epidemiol*, 27(11):524-530, 2017 (査読有) (IF:2.447、2016)
5. ★◎Kim H, Kojima N, Hosoi E, Yoshida H, Shinkai S. Reply to Gulistan Bahat: Significance of population differences and the methodology in determining the muscle mass cut-off points for sarcopenia. *Geriatr Gerontol Int*, 17(3), 520-521, 2017 (査読有) (IF:2.351、2016)
6. Somekawa S, Mine T, Ono K, Hayashi N, Obuchi S, Yoshida H, Kawai H, Fujiwara Y, Hirano H, Kojima M, Ihara K, ★Kim H: Relationship between sensory perception and frailty in a community-dwelling elderly population. *J Nutr Health Aging*, In Press, doi:10.1007/s12603-016-0836-5 (査読有) (IF:2.772、2016)
7. Takagi D, Hirano H, Watanabe Y, Edahiro A, Ohara Y, Yoshida H, Kim H, Murakami K, Hironaka S. Relationship between skeletal muscle mass and swallowing function in patients with Alzheimer's disease. *Geriatr Gerontol Int*, 17(3), 402-409, 2017 (査読有) (IF:2.351、2016)
8. Tieland M, Franssen R, Dullemeijer C, Van Dronkelaar C, Kim H, Ispoglou T, Zhu K, Prince RL, Van Loon LJC, De Groot LCPGM: The impact of dietary protein on amino acid supplementation on muscle mass and strength in elderly people: Individual participant data and meta-analysis of RCTs. *J Nutr Health Aging*, doi:10.1007/s12603-017-0896-1, 2017 (査読有) (IF:2.772、2016)
9. ★◎Osuka Y, Jung S, Kim T, Okubo Y, Kim E, Tanaka K. Does attending an exercise class with a spouse improve long-term exercise adherence among people aged 65 years and older: A 6-month prospective follow-up study. *BMC Geriatrics*, 17: 170, 2017. (査読有) (IF: 2.61、2016)
10. ★◎Osuka Y, Matsubara M, Hamasaki A, Hiramatsu Y, Ohshima H, Tanaka K. Development of low-volume, high-intensity, aerobic-type interval training for elderly Japanese men: a feasibility study. *Eur Rev Aging Phys Act*, 14: 14, 2017. (査読有) (IF: 2.15、2016)
11. ★◎Osuka Y, Fujita S, Kitano N, Kosaki K, Seol JH, Sawano Y, Shi HH, Fujii Y, Maeda S, Okura T, Kobayashi H, Tanaka K. Effects of aerobic and resistance training combined with fortified milk on muscle mass, muscle strength, and physical performance in older adults: a randomized controlled trial. *J Nutr Health Aging*, 21-10: 1349-1357, 2017. (査読有) (IF: 2.77、2016)
12. Tsuji T, Yoon J, Kitano N, Okura T, Tanaka K. Effects of N-acetyl glucosamine and chondroitin sulfate supplementation on knee pain and self-reported knee function in middle-aged and older Japanese adults: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial. *Aging Clinical and Experimental Research* (in press) (査読有) (IF:1.394、2016)
13. Jindo T, Tsunoda K, Kitano N, Tsuji T, ABE T, Muraki T, Hotta K, Okura T. Pedometers affect changes in lower-extremity physical function during a square-stepping exercise program in older Japanese adults. *Journal of Geriatric Physical Therapy* (in press) (査読有) (IF:1.51、2016)
14. Tsunoda K, Kitano N, Kai Y, Tsuji T, Soma Y, Jindo T, Yoon J, Okura T. Transportation mode usage and physical, mental and social functions in older Japanese adults. *Journal of Transport & Health* (in press) (査読有) (IF:1.718、2016)
15. Tsunoda K, Soma Y, Kitano N, Tsuji T, Mitsuishi Y, Yoon JY, Okura T. Age and gender differences in correlations of leisure-time, household, and work-related physical activity with physical performance in older Japanese adults. *Geriatr Gerontol Int*, (in press) (査読有)

- 有) (IF:2.351、2016)
16. Kosaki K, Kamijo-Ikemori A, Sugaya T, Tanahashi K, Kumagai H, Sawano Y, Akazawa N, Osuka Y, Tanaka K, Kimura K, Shibagaki Y, Maeda S. Urinary liver-type fatty acid-binding protein is associated with subendocardial viability ratio in middle- and older-aged adults. *Clinical and Experimental Hypertension*, 40: 244-250, 2018 (査読有) (IF: 1.16、2016)
 17. Okubo Y, Nemoto M, Osuka Y, Jung S, Seino S, Figueroa R, Vinyes-Pases G, Elizabeth Offord E, Shevlyakova M, Breuille D, Tanaka K. Development of the Nutrition and Functionality Assessment (NFA) among older adults in Japan. *Journal of Frailty & Aging*, in press. (査読有) (IF: 新規発行雑誌のためIFなし)
 18. Jung S, Okubo Y, Osuka Y, Seino S, Park J, Nho H, Tanaka K. Older Korean adults have lower physical function despite longer exercise times compared to their Japanese counterparts: A Japan-Korea comparative study. *Geriatr Gerontol Int*, in press. (査読有) (IF: 2.351、2016)
 19. Kosaki K, Kamijo-Ikemori A, Sugaya T, Tanahashi K, Kumagai H, Sawano Y, Osuka Y, Tanaka K, Kimura K, Shibagaki Y, Maeda S. Association between muscular strength and intrarenal vascular resistance in middle-aged and older individuals. *Experimental Gerontology*, 91: 72-78, 2017. (査読有) (IF: 3.34、2016)
 20. Shen S, Abe T, Tsuji T, Fujii K, Ma J, Okura T. The Relationship between Ground Reaction Force in Sit-to-stand Movement and Lower Extremity Function in Community-dwelling Japanese Older Adults Using Long-term Care Insurance Services. *Journal of Physical Therapy Science* 29(9): 1561-1566, 2017. (査読有) (IF: なし)
 21. Jung E, Kim B, Kim K, Choi H, Park J, Tanaka K, Jung S, Nho H. Development of longevity fitness age for successful aging in elderly. *Korean Journal of Sport Science*. 28(1): 26-36, 2017. (査読有) (IF: なし)
 22. Kim B, Tsujimoto T, So R, Zhao X, Oh S, Tanaka K. Changes in muscle strength after diet-induced weight reduction in adult men with obesity: a prospective study. *Diabetes, Metabolic Syndrome and Obesity: Targets and Therapy* : 187-194, 2017 (査読有) (IF: なし)
 23. Kumagai H, Yoshikawa T, Zempo-Miyaki A, Myoenzono K, Tsujimoto T, Tanaka K, Maeda S. Vigorous Physical Activity is Associated with Regular Aerobic Exercise-Induced Increased Serum Testosterone Levels in Overweight/Obese Men. *Horm Metab Res*. 2017 (査読有) (IF: 2.268)
 24. ★◎金憲経、青木登紀子: 地域在住フレイル高齢者に対する介入は転倒リスクを減らせるのか. *日転倒予会誌*. 3(3): 21-26, 2017 (査読有) (IF: なし)
 25. ★◎金憲経、大須賀洋祐、藤野健、青木登紀子、小島成実: サルコペニアに対する栄養介入. *日本サルコペニア・フレイル学会雑誌* 1(1): 38-47, 2017 (査読有) (IF: なし)
 26. Abe T, Soma Y, Kitano N, Jindo T, Sato A, Tsunoda K, Tsuji T, Okura T. Change in hand dexterity and habitual gait speed reflects cognitive decline over time in healthy older adults: a longitudinal study. *Journal of Physical Therapy Science* (in press) (査読有) (IF: なし)
 27. 佐藤文音, 藤井啓介, 辻大士, 神藤隆志, 北濃成樹, 金美珍, 堀田和司, 大藏倫博. 高齢ボランティアが運営する運動サークルへの参加が地域在住女性高齢者の下肢機能に与える影響. *教育医学*. (印刷中) (査読有) (IF: なし)
 28. 慎少帥, 藤井啓介, 馬せい宇, 阿部巧, 辻大士, 藤井悠也, 大藏倫博. 要支援・要介護高齢者を対象とした椅子立ち上がり時の床反力と下肢筋力, 日常生活動作能力との関連性. *理学療法科学*. (印刷中) (査読有) (IF: なし)
 29. 佐藤文音, 神藤隆志, 藤井啓介, 辻大士, 北濃成樹, 堀田和司, 大藏倫博. 高齢ボランティアが運営する運動サークルへの参加が地域在住女性高齢者の身体機能に与える影響—自治体主催の専門家による運動教室修了後の検討—. *日本プライマリ・ケア連合学会誌* (印刷中) (査読有) (IF: なし)
 30. 阿部巧, 北濃成樹, 辻大士, 相馬優樹, 金美珍, 尹之恩, 大藏倫博. ロコチェックと身体パフォーマンスとの関連. *体育測定評価研究* (印刷中) (査読有) (IF: なし)
 31. ★◎大須賀洋祐, 鄭松伊, 金泰浩, 大久保善郎, 金ウンピ, 田中喜代次. 高齢期における配偶者との運動教室参加が夫婦の関係満足度に及ぼす影響. *体育学研究*, 62(1): 71-81, 2017. (査読有) (IF: なし)
 32. 濱崎愛, 大須賀洋祐, 窪田大, 川手雄二, 小林裕幸, 田中喜代次. 栄養補助食品と運動実践の組合せが中高齢者の活力年齢に及ぼす効果. *健康支援* 19(2): 127-136. 2017. (査読有) (IF: なし)
 33. 飯田路佳, 江藤幹, 大須賀洋祐, 辻本健彦, 清野諭, 大久保善郎, 大山下圭悟, 田中喜代次. リズム系運動の習慣者における健康体力水準—肥満者および一般の非肥満者との比較から—. *日本女子体育連盟学術研究*, 33: 19-27, 2017. (査読有) (IF: なし)
 34. 相羽達弥, 大須賀洋祐, 大久保善郎, 鄭松伊, 金泰浩, 田中喜代次. 全身振動刺激を用いた運動プログラムが高齢者の体組成に及ぼす効果. *介護福祉・健康づくり研究*, 印刷中. (査読有) (IF: なし)
 35. 薛載勲, 藤井悠也, 北濃成樹, 大須賀洋祐, 田中喜代次, 大藏倫博. 高齢者における身体活動の実践時間帯と主観的な睡眠との関連性. *体力科学*, 印刷中. (査読有) (IF: なし)
 36. 若葉京良, 辻本健彦, 趙暁光, 王震男, 田中喜代次. 集団型減量教室への参加に伴う社会的支援状況の変化が減量効果に及ぼす影響—教室参加者と援助者の関係性に着目して—. *健康支援* (in press). (査読有) (IF: なし)
 37. 濱崎愛, 大須賀洋祐, 窪田大, 川手雄二, 小林裕幸, 田中喜代次. 栄養補助食品と運動実践の組合せが中高齢者の活力年齢に及ぼす影響. *健康支援*. (in press). (査読有) (IF: なし)
 38. 金泰浩, 大久保善郎, 鄭松伊, 大須賀洋祐, 根本みゆき, 金美芝, 清野諭, 藪下典子, 田中喜代次. 地域在住高齢者における運動種目と膝痛の関連. *健康支援* 19(2): 147-155, 2017 (査読有) (IF: なし)
 39. 田中喜代次, 奥松功基, 辻本健彦, 若葉京良, 王震男, 谷口亮介, 梅村貴, 平山智志, 関晶南, 固武利奈, 山内英子. 乳がん患者の内省報告・感想「健康づくり教室に参加して」. *介護福祉・健康づくり研究*. (In press) (査読有) (IF: なし)
 40. 田中喜代次, 蘇リナ, 松尾知明. Single-slice法による腹部内臓脂肪体積の推定. *体力科学* 66(5) 335-344, 2017. (査読有) (IF: なし)
 41. ★◎Osuka Y, Suzuki T, Kim MJ, Kojima N, Fujino K, Yoshida Y, Hirano H, Kim HK. Association between

- exercise type and the decline in instrumental activities of daily living in community-dwelling older women: A 4-year prospective study. Preventive Medicine, in press, 査読あり, IF値=3.434
42. ★◎Kojima N, Kim M, Saito K, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T, Kim H. Predictors of self-reported knee osteoarthritis in community-dwelling older women in Japan: A cross-sectional and longitudinal cohort study. Arch Gerontol Geriatr. Nov;73:125-132. 2017, 査読あり, IF値=2.086
 43. 金泰浩, 大須賀洋祐, 鄭松伊, 大久保善郎, 田中喜代次. 長期的な運動の習慣化が高齢者の膝痛に及ぼす影響. 高齢者ケアリング学研究会誌, 8(1): 1-10, 2017. 原著/査読有 (IF=0)
 44. Yoshikawa T, Kumagai H, Myoenzono K, Zempo-Miyaki A, Tsujimoto T, Tanaka K, Maeda S. Effects of dietary modification with weight loss on central blood pressure during oral glucose tolerance test in overweight/obese men. Artery Research 20: 27-34, 2017-12.
 45. Zhao X, Tsujimoto T, Kim B, Katayama Y, Ogiso K, Takenaka M, Tanaka K: Does weight reduction impact foot structure and the strength of the muscles that move the ankle in obese Japanese adults? The Journal of Foot & Ankle Surgery. 57(2):281-284, 2018-3.
 46. Wang Z, Tsujimoto T, Sasai H, Tanaka K: Associations of various exercise types with self-rated health status: A secondary analysis of Sports-Life Data 2012. The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine. 7(2):95-102, 2018-3.
 47. Tanaka K, Sasai H, Wakaba K, Murakami S, Ueda M, Yamagata F, Sawada M, Takekoshi K: Professional dietary coaching within a group chat using a smartphone application for weight loss: a randomized controlled trial. Journal of Multidisciplinary Healthcare (in press)
 48. 金泰浩, 大須賀洋祐, 鄭松伊, 大久保善郎, 田中喜代次: 長期的な運動の習慣化が高齢者の膝痛に及ぼす影響. 高齢者ケアリング学研究会誌, 8-1, 1-10, 2017年10月.
 49. 薛載勳, 藤井悠也, 北濃成樹, 大須賀洋祐, 田中喜代次, 大藏倫博: 高齢者における身体活動の実践時間帯と主観的な睡眠との関連性. 体力科学, 66-6, 417-426, 2017年11月.
 50. 小澤多賀子, 田中喜代次, 栗盛須雅子, 清野諭, 小室明子, 大田仁史: 高齢ボランティアによる介護予防体操の普及活動が要介護認定状況に及ぼす影響. 厚生の指標, 64-13, 9-15, 2017年11月.
 51. 三宅眞理, 根本みゆき, 藪下典子, 小澤多賀子, 三島伸介, 西山利正, 田中喜代次: 高齢期のダンス実践が認知機能と主観的健康観に及ぼす効果. 認知症予防学会誌, 7-2, 2018年2月.
 52. 奥松功基, 辻本健彦, 若葉京良, 関晶南, 固武利奈, 山内照夫, 平山智, 小林弘幸, 坂東裕子, 山内英子, 田中喜代次. 日本人乳がんサバイバーの体力水準. 体力科学, 67(2):169-176, 2018年3月.
 53. Sugie M, Harada K, Takahashi T, Nara M, Ishikawa J, Koyama T, Kim H, Tanaka J, Fujimoto H, Obuchi S, von Haehling S, Kyo S and Ito H: Relationship between skeletal muscle mass and cardiac function during exercise in community-dwelling older adults. ESC Heart Failure, 4:409-416, 2017 (査読有)
 54. Somekawa S, Mine T, Ono K, Hayashi N, Obuchi S,

Yoshida H, Kawai H, Fujiwara Y, Hirano H, Kojima M, Ihara K, ◎Kim H: Relationship between sensory perception and frailty in a community-dwelling elderly population. J Nutr Health Aging, 21(6):710-714, 2017 (査読有)(IF:2.772、2016)

(2) 総説

1. ★◎金憲経, 青木登紀子: サルコペニアの診断基準、疫学. Geriatric Medicine 55 (1): 11-17, 2017 (査読無) (IF: なし)
2. ★◎金憲経: 高齢者のさまざまな徴候への効果. 総合リハビリテーション. 45(3): 225-231, 2017 (査読無) (IF: なし)
3. ★◎金憲経: 歩ける体を維持するために -60歳過ぎたら筋トレを. 明日の友. 226(242), 20-23.2017 (査読無) (IF: なし)
4. 鈴木隆雄, 飯島勝矢, 金憲経, 松井康素: ロコモ・フレイルをめぐる. 最近の展開. LOCO CURE 3(2): 1-7, 2017 (査読無) (IF: なし)
5. ★◎金憲経, 青木登紀子: 高齢期の移動能力とロコモ. 予防対策と地域包括ケアのあり方. LOCO CURE 3(2): 46-51, 2017 (査読無) (IF: なし)
6. ★◎金憲経, 青木登紀子: サルコペニアとタンパク質. 食と医療SPRING- SUMMMER: 86-95, 2017 (査読無) (IF: なし)
7. ★◎金憲経: 運動によるフレイル予防策とその効果. 公衆衛生情報47(5): 4-5, 2017 (査読無) (IF: なし)
8. ★◎金憲経: サルコペニアへの介入と成果. Pharma Medica 35(10) pp37-41 (査読無) (IF: なし)
9. 田中喜代次, 中田由夫. 減量しながら筋肉量および基礎代謝量をも高めることは可能か? 体力科学66 (3) 209-212. 2017. (教育講座) (査読無) (IF: なし)
10. 田中喜代次. 運動・スポーツ習慣の定着を企図した健幸華齢支援プログラムの開発-第1報-平成28年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告II. 2017. (査読無) (IF: なし)
11. 鄭松伊, 大須賀洋祐, 大久保善郎, 笹井浩行, 田中喜代次. 長期間の運動継続が高齢者の抑うつ(メンタルヘルス)尺度に及ぼす影響-運動教室終了後の郵送支援によるランダム化比較試験-. 第32回(2015年度)若手研究者のための健康科学研究助成. 35-40. 2017. (査読無) (IF: なし)
12. Tomohiro Okura, Taishi Tsuji, Kenji Tsunoda, Naruki Kitano, Ji-Yeong Yoon, Mahshid Saghadzadeh, Yuki Soma, Jieun Yoon, Mijin Kim, Takashi Jindo, Shaoshuai Shen, Takumi Abe, Ayane Sato, Shoko Kunika, Keisuke Fujii, Haruka Sugahara, Miki Yano, Yasuhiro Mitsuishi. Study protocol and overview of the Kasama Study: Creating a comprehensive, community-based system for preventive nursing care and supporting successful aging". Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 6(1):49-57, 2017. (査読無) (IF: なし)
13. 相羽達弥, 大須賀洋祐, 大久保善郎, 鄭松伊, 金泰浩, 田中喜代次. 全身振動刺激を用いた運動プログラムが高齢者の体組成に及ぼす効果. 介護福祉・健康づくり研究 印刷中. (査読無) (IF: なし)
14. 薛載勳, 藤井悠也, 北濃成樹, 大須賀洋祐, 田中喜代次, 大藏倫博. 高齢者における身体活動の実践時間帯と主観的な睡眠との関連性. 体力科学, 66: 417-426, 2017. (査読無) (IF: なし)
15. 重松良祐, 鄭松伊, 大久保善郎, 大須賀洋祐, 田中喜代次,

運動教室終了後の運動継続を促す郵送支援：混合研究法を用いた有効性に関する要因の抽出。体育学研究 印刷中。(査読無)(IF: なし)

16. 田中喜代次：運動・スポーツ習慣の定着を企図した健康華齢支援プログラムの開発-第1報-平成28年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告Ⅱ。2017年。(査読無)(IF: なし)
17. 鄭松伊, 大須賀洋祐, 大久保喜郎, 笹井浩行, *田中喜代次：長期間の運動継続が高齢者の抑うつ(メンタルヘルス)尺度に及ぼす影響-運動教室終了後の郵送支援によるランダム化比較試験-。第32回(2015年度)若手研究者のための健康科学研究助成。35-40。2017年。(査読無)(IF: なし)
18. 田中喜代次：健康支援の本質を探る。高齢者ケアリング学研究学会誌, 8-1: 35-45, 2017年10月。(レクチャー)(査読無)(IF: なし)
19. 根本みゆき, 田中喜代次, 新井哲明：認知症に対する運動療法。介護福祉・健康づくり, 4-2, 139-142, 2017年12月。(査読無)(IF: なし)
20. 田中喜代次, 後藤勝正：がん：検診, ケア, 予防, 運動習慣化の意義を考える。67(2):129, 2018年3月。(査読無)(IF: なし)
21. ★◎金憲経：サルコペニアの治療、運動。臨床栄養:132(1): 49-55, 2018.1 (査読無)(IF: なし)
22. ★◎金憲経：日経おとなのOFF、中高年の危機回避策健康編、11(199):90-91, 2017.11 (査読無)(IF: なし)
23. ★◎金憲経：みんなのスポーツ、第58回全国スポーツ推進委員研究協議会「ファンスポーツ」シンポジウム 第2分科会「誰もがどこでも楽しく」、40(1):16-17, 2018.1 (査読無)(IF: なし)

3 著書等

1. 金憲経：健康長寿新ガイドラインエビデンスブック：pp21-24,63-65
2. 金憲経, 他32名：サルコペニア(概論)がいろいろ(監修：荒井秀典)、Q19運動療法の意義は? pp.56-57、Q30筋量・筋力アップのためのトレーニング法は? pp.80-81、Q31筋肉を増やすために必要な栄養素は? pp.82-83、Q32いくつかになっても筋肉は鍛えられるか? pp.84-85、ライフサイエンス出版株式会社、2017
3. L. カッチ, W. D. マッカードル, F. I. カッチ(著), 田中喜代次, 西平賀昭, 征矢英昭, 大森肇(監訳)。運動生理学大事典 健康・スポーツ現場で役立つ理論と応用, 西村書店, 2017.9
4. 大須賀洋祐, 田中喜代次, サルコペニアがいろいろ。ライフサイエンス出版。東京, 2017.
5. 金憲経：サルコペニック・オベシティ早期予防を目的とした総合的支援システム構築と効果検証。平成28年度科学研究費助成金事業(主任研究者：金憲経)研究実績報告書、2017(報告書)
6. 金憲経：大都市部コホートの追跡調査から認知機能の維持者及び軽度低下者の登録と関連要因の探索。平成28年度AMED(分担研究者：金憲経)研究実績報告書、2017(報告書)
7. 大須賀洋祐, 身近な人を巻き込んで、からだを一緒に動かそう。研究トピックス。東京都健康長寿医療センター研究所NEWS, 280: 2-3, 2017. 執筆記事/査読無
8. 大須賀洋祐, 金憲経, 小島成実：総合健康推進財団「都市部在住後期高齢者のフレイルと近隣環境要因との関連」報告書2018.1

9. 金憲経(サルコペニア診療ガイドライン作成委員会)：サルコペニア診療ガイドライン2017年版、CQ作成、キーワード選択、日本サルコペニア・フレイル学会・ライフサイエンス出版株式会社、2017.12

介護予防の促進

1 学会発表

(1) 海外

1. Ayako Eda, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Yuki Ohara, Keiko Motokawa, Maki Shirobe, Jun Yasuda, Shuichi Awata, Eating Dysfunction Accompanying Deterioration of AD on the Basis of Functional Assessment Staging, IAGG, San Francisco. 2017.
2. Keiko Motokawa, Ayako Eda, Hirohiko Hirano, Maki Shirobe, Jun Yasuda, Hirohiko Hirano, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Yutaka Watanabe, Relationship Between Frailty and Dietary Variety Among Older Adults, IAGG, San Francisco. 2017.
3. Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Masaharu Murakami, Ayako Eda, Keiko Motokawa, Maki Shirobe, Jun Yasuda, Relationship Between Sarcopenia and Chewing Ability in Japanese Community-Dwelling Elderly, IAGG, San Francisco. 2017.
4. Yutaka Watanabe, Hidenori Arai, Hirohiko Hirano, Yuki Ohara, Ayako Eda, Hiroyuki Shimada, Takeshi Kikutani, Takao Suzuki, Identifying Oral Function as an Indexing Parameter for Detection of Mild Cognitive Impairment, IAGG, San Francisco. 2017.
5. Maki Shirobe, Rena Nakayama, Yuki Ohara, Keiko Endo, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Chiyoko Hakuta, Effect of Oral Health Care on Hypersensitivity Syndrome Among the Elderly in Long-Term Care, Maki Shirobe, Rena Nakayama, Yuki Ohara, Keiko Endo, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Chiyoko Hakuta, IAGG, San Francisco. 2017.
6. Jun Yasuda, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Ayako Eda, Maki Shirobe, Keiko Motokawa, Shuichi Awata, A Role of MNA-SF as a Predictor for 30-Month Mortality in a Nursing Home in Japan, IAGG, San Francisco. 2017.
7. Kota Tsutsumimoto, Takehiko Doi, Hyuma Makizako, Ryo Hotta, Sho Nakakubo, Keitaro Makino, Takao Suzuki, Hiroyuki Shimada, Social Frailty has Negative Impact on Cognitive Function Among Older People, IAGG, San Francisco. 2017.
8. Narumi Kojima, Miji Kim, Kyoko Saito, Hideyo Yoshida, Hirohiko Hirano, Shuichi Obuchi, Takao Suzuki, Hunkyung Kim, Predictors of Knee Osteoarthritis in Community-Dwelling Older Women: A 4-Year Longitudinal Study, IAGG, San Francisco. 2017.
9. Takehiko Doi, Joe Verghese, Hyuma Makizako, Kota Tsutsumimoto, Ryo Hotta, Sho Nakakubo, Takao Suzuki, Hiroyuki Shimada, Effects of Cognitive Leisure Activity Programs on Cognition in MCI: A Randomized Controlled Trial, IAGG, San Francisco. 2017.
10. Hiroto Yoshida, Taketo Furuna, Hyuma Makizako, Tomomi Akanuma, Kaori Yokoyama, Takao Suzuki, Impact of Healthy Aging on Medical and Long-Term Care Expenditures in the Last Year of Life, IAGG, San Francisco. 2017.

11. Chiyoe Murata, Tami Saito-Kokusho, Takao Suzuki, Katsunori Kondo, Does Social support Protect Against Cognitive Decline Among the Old? : A 10-Year Follow-Up Study, IAGG, San Francisco. 2017.
- (2) 国内
1. 渡邊裕, 本川佳子, 枝広あや子, 平野浩彦, 田中弥生. 特別養護老人ホーム入所要介護高齢者の食欲と死亡との関係: 1年間の縦断調査 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 2018.2.23 横浜
 2. 本川佳子, 枝広あや子, 平野浩彦, 田中弥生, 渡邊裕 地域在住高齢者のフレイル重症度と栄養関連指標の検討 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会 シンポジウム7サルコペニア・フレイルの評価とリハビリテーション栄養 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 2018.2.23 横浜
 3. 早川美知, 渡邊裕, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 大須賀洋祐, 金憲経, 新開省二, 栗田主一 高島平Study 食品摂取多様性に関連する因子の検討 第37回食事療法学会, 2018.3.3 沖縄
 4. 本川佳子, 枝広あや子, 平野浩彦, 白部麻樹, 大瀨修一, 河合恒, 田中弥生, 渡邊裕 地域在住高齢者のフレイル重症度と食品摂取多様性の関わり 第37回食事療法学会, 2018.3.4 沖縄
 5. 渡邊裕, 論文を書くために押さえておくべきポイントについて, 読者目線のやさしい論文作成法, 第34回日本障害者歯科学会総会・学術大会, 教育講演, 福岡, 2017.10.28
 6. 小原由紀, 渡邊裕, 平野浩彦, 白部麻樹, 枝広あや子, 本川佳子, 河合恒, 藤原佳典, 大瀨修一, 遠藤圭子, 地域在住高齢者における歯科保健指導経験の有無に関連する因子の検討, 日本歯科衛生学会第12回学術大会, 東京, 2017.09.16-18
 7. 白部麻樹, 小原由紀, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 村上正治, 本川佳子, 河合恒, 大瀨修一, 地域在住高齢者における咀嚼能力指標に関する実態調査, 日本歯科衛生学会第12回学術大会, 東京, 2017.09.16-18
 8. 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 井原一成, 田中弥生, 金憲経, 藤原佳典, 大瀨修一, 河合恒, 平野浩彦, 渡邊裕, オーラルフレイルと食事・栄養の関わり, 第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 京都, 2017.10.14-15
 9. 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 小原由紀, 杉山美香, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 岡村毅, 村山洋史, 大瀨修一, 藤原佳典, 金憲経, 井原一成, 河合恒, 渡邊裕, 平野浩彦, 栗田主一. オーラルフレイルと食事・栄養の関わり, 第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 京都, 2017.10.14-15
 10. 渡邊裕, フレイル, オーラルフレイルの疫学, 日本歯周病学会60周年記念京都大会, シンポジウムIV「超高齢社会を生き抜く歯周病予防・治療の考え方」京都, 2017.12.15-17
 11. 吉田祐子, 岩佐一, 増井幸恵, 稲垣宏樹. 農村部高齢者におけるJST版活動能力指標の得点分布および交差妥当性の検討. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
 12. 稲垣宏樹, 栗田主一, 佐久間尚子, 金憲経, 枝広あや子, 杉山美香, 白部麻樹, 本川佳子, 宇良千秋, 小川まどか, 宮前史子, 渡邊裕, 新開省二. 高島平Study (1) 大都市部認知症高齢者の生活実態調査の方法と課題に関する検討. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
 13. 佐久間尚子, 稲垣宏樹, 栗田主一, 小川まどか, 枝広あや子, 宇良千秋, 杉山美香, 宮前史子, 鈴木宏幸, 渡邊裕, 栗田主一. 高島平Study (2) 大都市部在住高齢者の会場調査と訪問調査のMMSE-J得点. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
 14. 金憲経, 栗田主一, 渡邊裕, 小島成実, 藤野健, 大須賀洋祐, 本川佳子, 佐久間尚子, 稲垣宏樹, 杉山美香, 小川まどか, 枝広あや子, 新開省二. 高島平Study (3) 大都市部在住高齢者における重複フレイルの特徴と関連要因. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
 15. 枝広あや子, 杉山美香, 稲垣宏樹, 小川まどか, 宇良千秋, 佐久間尚子, 宮前史子, 本川佳子, 本橋佳子, 渡邊裕, 岡村毅, 金憲経, 新開省二. 高島平Study (4) 大都市部在住高齢者の食欲低下に関連する要因の検討. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
 16. 杉山美香, 宮前史子, 佐久間尚子, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 小川まどか, 枝広あや子, 本川佳子, 岡村毅, 渡邊裕, 金憲経, 新開省二, 栗田主一. 高島平Study (5) 認知機能低下がみられる地域在住高齢者の生活支援ニーズ. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
 17. 本川佳子, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 本橋佳子, 白部麻樹, 三上友里江, 大須賀洋祐, 佐久間尚子, 宇良千秋, 稲垣宏樹, 小川まどか, 金憲経, 新開省二, 栗田主一. 高島平Study (6) 大都市部在住高齢者における認知機能と栄養指標との関連. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
 18. 本橋佳子, 渡邊裕, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 三上友里江, 大須賀洋祐, 平野浩彦, 金憲経, 北村明彦, 藤原佳典, 大瀨修一, 石崎達郎, 新開省二, 栗田主一. 高島平Study (7) 大都市部在住高齢者における口腔への関心に関連する因子の検討. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
 19. 三上友里江, 渡邊裕, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 本橋佳子, 大須賀洋祐, 平野浩彦, 金憲経, 北村明彦, 藤原佳典, 大瀨修一, 石崎達郎, 新開省二, 栗田主一. 高島平Study (8) 都市部在住高齢者の外出頻度の減少と口腔機能低下との関連.
 20. 渡邊裕, 査読のポイント, 論文の書き方について, 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2017年9月
 21. 枝広あや子, 渡邊裕, 平野浩彦, 小原由紀, 田中弥生, 安藤雄一, 荒井秀典. 介護保険施設の経口摂取支援に関する研修効果. 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2017年9月
 22. 渡邊裕, 論文を書くために押さえておくべきポイントについて, 読者目線のやさしい論文作成法, 第34回日本障害者歯科学会総会・学術大会, 福岡, 2017.10.28
 23. 渡邊裕, 地域で望む暮らしを支援するために必要なオーラルフレイル対策とは, 第28回在宅医療学会, 東京, 2017.09.18
 24. 小原由紀, 渡邊裕, 平野浩彦, 白部麻樹, 枝広あや子, 本川佳子, 河合恒, 藤原佳典, 大瀨修一, 遠藤圭子, 地域在住高齢者における歯科保健指導経験の有無に関連する因子の検討, 日本歯科衛生学会第12回学術大会, 東京, 2017.09.16-18
 25. 白部麻樹, 小原由紀, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 村上正治, 本川佳子, 河合恒, 大瀨修一, 地域在住高齢者における咀嚼能力指標に関する実態調査, 日本歯科衛生学会第12回学術大会, 東京, 2017.09.16-18

26. 渡邊裕, フレイル研究の現状及び展望 オーラルフレイル研究の現状および展望, 第59回老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.
27. 金憲経, 小島成実, 藤野健, 大須賀洋祐, 吉田祐子, 渡邊裕, 井原一成, 平野浩彦, 都市部在住の後期高齢女性における認知機能低下の関連要因—2年後の分析結果より—, 第59回老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.
28. 小島成実, 金美芝, 斎藤京子, 吉田祐子, 平野浩彦, 大淵修一, 島田裕之, 鈴木隆雄, 金憲経, 食習慣が地域在住高齢女性の日常生活動作の変化に及ぼす影響: 4年間の縦断研究, 第59回老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.
29. 本川佳子, 枝広あや子, 村上正治, 白部麻樹, 田中弥生, 河合恒, 大淵修一, 平野浩彦, 渡邊裕, 地域在住高齢者における咀嚼機能と栄養素・食品群別摂取量および低栄養との関わり, 第59回老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.
30. 小島成実, 金美芝, 斎藤京子, 吉田祐子, 平野浩彦, 大淵修一, 島田裕之, 鈴木隆雄, 金憲経, 食習慣が地域在住高齢女性の日常生活動作の変化に及ぼす影響 4年間の縦断研究, 第59回日本老年医学会, 名古屋, 2017.6.14-16.
31. 金憲経, 小島成実, 藤野健, 大須賀洋祐, 吉田祐子, 渡邊裕, 井原一成, 平野浩彦, 都市部在住の後期高齢女性における認知機能低下の関連要因 2年後の追跡分析より, 第59回日本老年医学会, 名古屋, 2017.6.14-16.
32. 森下志穂, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 村上正治, 糸田昌隆, 介護老人保健施設退所後の在宅療養継続に影響する因子の検討, 第28回老年歯科医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.
33. 永島圭悟, 古屋裕康, 渡邊裕, 大島克郎, 田村文誉, 菊谷武, 通所施設における栄養改善および口腔機能向上サービスの実施体制に関する調査, 第28回老年歯科医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.
34. 古屋裕康, 永島圭悟, 岩淵信, 石黒幸枝, 久保山裕子, 渡邊裕, 大島克郎, 田村文誉, 菊谷武, 通所介護施設での口腔機能低下及び低栄養に対する食支援モデルの検討, 第28回老年歯科医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.
35. 本橋佳子, 平野浩彦, 櫻井孝, 櫻井薫, 市川哲雄, 高野直久, 深井獲博, 武井典子, 大塚礼, 山田律子, 田中弥生, 野原幹司, 渡邊裕, 枝広あや子, 認知症高齢者に対する口腔管理と経口摂取支援に関するGL作成の試み予備文献検索, 第28回老年歯科医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.
36. 堀部耕広, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 大淵修一, 大神浩一郎, 上田貴之, 櫻井薫, Frailtyへの移行に咀嚼機能の低下が及ぼす影響, 第28回老年歯科医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.(合同ポスター)
37. 須磨紫乃, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 白部麻樹, 本川佳子, 木村藍, 松下健二, 荒井秀典, 櫻井孝, アルツハイマー型認知症(AD)とレビー小体型認知症(DLB)の食行動特性の比較検討, 第28回老年歯科医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.(合同ポスター)
38. 松原ちあき, 白部麻樹, 渡邊裕, 尾花三千代, 本川佳子, 村上正治, 枝広あや子, 平野浩彦, 古屋純一, 地域在住高齢者の唾液中潜血に関連する因子の検討, 第28回老年歯科医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.(優秀ポスター)
39. 白部麻樹, 平野浩彦, 枝広あや子, 小原由紀, 森下志穂, 本川佳子, 村上正治, 村上浩史, 高城大輔, 渡邊裕, アルツハイマー型認知症高齢者の嚥下機能低下に関連する予知因子の検討, 第28回老年歯科医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.(優秀ポスター)
40. 釘宮嘉浩, 渡邊裕, 平野浩彦, 本川佳子, 堀部耕広, 小野高裕, 上田貴之, 櫻井薫, 都市部在住高齢者の咀嚼機能および食品摂取の多様性の低下と認知機能との関係, 第28回老年歯科医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.(優秀ポスター)
41. 五十嵐憲太郎, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 梅木賢人, 伊藤誠康, 河相安彦, 小野高裕, 都市部在住高齢者のフレイルと口腔機能低下との関連に関する検討, 第28回老年歯科医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月.(優秀ポスター)
42. 渡邊裕, 「人工呼吸器関連肺炎予防のための気管挿管患者の口腔ケア実践ガイド」 歯科医からみたケア実施上の留意点, 第13回日本クリティカルケア看護学会学術集会 交流集会, 仙台, 2017.6.10-11
43. 渡邊裕, フレイル研究の現状及び展望 オーラルフレイル研究の現状および展望, 第30回老年学会総会, 名古屋, 2017.06.14-16

2 誌上発表

(1) 原著

1. ©Watanabe Y, Arai H, Hirano H, Morishita S, Ohara Y, Eda Hiro A, Murakami M, Shimada H, Kikutani T, Suzuki T. Oral function as an indexing parameter for mild cognitive impairment in elderly people. Geriatr Gerontol Int. 2018 Jan 30. doi:10.1111/ggi.13259. 査読あり, (IF=2.351)
2. Ohara Y, Yoshida N, Kawai H, Obuchi S, Mataki S, Hirano H, Watanabe Y. Response to comments on: Development of an oral health-related self-efficacy scale for use with older adults. Geriatr Gerontol Int. 2018 Mar;18(3):514-515. doi: 10.1111/ggi.13274. 査読あり, (IF=2.351)
3. Iwasa H, Yoshida Y. Psychometric evaluation of the Japanese version of Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) among middle-aged and elderly adults: Concurrent validity, internal consistency and test-retest reliability. Cogent Psychology. 5(1) Jan 24, 2018. DOI: 10.1080/23311908.2018.1426256. 査読あり
4. Horibe Y, ★Watanabe Y, Hirano H, Eda Hiro A, Ishizaki K, Ueda T, Sakurai K. Relationship between Masticatory Function and Frailty in Community-Dwelling Japanese Elderly. Aging Clin Exp Res. 2017 Dec 28. doi:10.1007/s40520-017-0888-3. 査読あり, (IF=1.394)
5. Tanaka T, Takahashi K, Hirano H, Kikutani T, Watanabe Y, Ohara Y, Furuya H, Tsuji T, Akishita M, Iijima K. Oral Frailty as a Risk Factor for Physical Frailty and Mortality in Community-Dwelling Elderly. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2017 Nov 17. doi: 10.1093/gerona/glx225. 査読あり, (IF=5.957)
6. ©Motokawa K, ★Watanabe Y, Eda Hiro A, Shirobe M, Murakami M, Kera T, Kawai H, Obuchi S, Fujiwara Y, Ihara K, Hirano H. Frailty severity and dietary variety in Japanese older persons: A cross-sectional study. Journal of Nutritional Health and Aging, 2018;22(3): 451-456. 査読あり, (IF=2.772)
7. Ohara Y, Yoshida N, Kawai H, Obuchi S, Yoshida H, Mataki S, Hirano H, Watanabe Y. Development of an oral health-related self-efficacy scale for use with older adults. Geriatr Gerontol Int. 2017 Oct;17(10):1406-1411. 査読あり, (IF=2.351)

8. ◎★本川佳子, 田中弥生, 菅洋子, 細山田洋子, 枝広あや子, 平野浩彦, 渡邊裕, 認知症グループホームにおける認知症重症度と栄養状態の関連, 日本在宅栄養管理学会誌, 4(2), 1-7, 2017, 査読あり
9. Takagi D, ★Watanabe Y, Edahiro A, Ohara Y, Murakami M, Murakami K, Hironaka S, Taniguchi Y, Kitamura A, Shinkai S, Hirano H. Factors affecting masticatory function of community-dwelling older people: Investigation of the differences in the relevant factors for subjective and objective assessment. *Gerodontology*. 34(3), 387-394, 2017, 査読あり, (IF=1.681)
10. 森下志穂, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 小原由紀, 白部麻樹, 後藤百合, 柴田雅子, 長尾志保, 三角洋美, 通所介護事業所利用者に対する口腔機能向上および栄養改善の複合サービスの長期介入効果, 日本歯科衛生学会雑誌, 12(1), 36-46, 2017, 査読あり
11. Umeki K, ★Watanabe Y, Hirano H, Relationship between Masseter Muscle Thickness and Skeletal Muscle Mass in Elderly Persons Requiring Nursing Care in North East Japan. *Int J Oral-Med Sci*, 15(3), 152-159, 2017, 査読あり
12. 白部麻樹, 中山玲奈, 平野浩彦, 小原由紀, 遠藤圭子, 渡邊裕, 白田千代子, 顔面および口腔内の過敏症状を有する要介護高齢者の口腔機能および栄養状態に関する実態調査, 日本公衆衛生雑誌, 64(7), 351-358, 2017, 査読あり
13. Tokudome Y, Okumura K, Kumagai Y, Hirano H, Kim H, Morishita S, Watanabe Y, Development of the Japanese version of the Council on Nutrition Appetite Questionnaire and its simplified versions, and evaluation of their reliability, validity, and reproducibility. *J Epidemiol*. 27(11), 524-530, 2017, 査読あり, (IF=2.447)
14. Doi T, Shimada H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Vergheze J, Suzuki T, Motoric Cognitive Risk Syndrome: Association with Incident Dementia and Disability. *J Alzheimers Dis*. 59(1), 77-84, 2017, (IF=3.731)
15. Makizako H, Shimada H, Doi T, Tsutsumimoto K, Lee S, Lee SC, Harada K, Hotta R, Nakakubo S, Bae S, Harada K, Yoshida D, Uemura K, Anan Y, Park H, Suzuki T. Age-dependent changes in physical performance and body composition in community-dwelling Japanese older adults. *J Cachexia Sarcopenia Muscle*. 8(4), 607-614, 2017, 査読あり, (IF=9.697)
16. Makizako H, Shimada H, Doi T, Tsutsumimoto K, Yoshida D, Suzuki T. Effects of a community disability prevention program for frail older adults at 48-month follow up. *Geriatr Gerontol Int*. 2017 Dec;17(12):2347-2353. 査読あり, (IF=2.351)
17. Iwasa H, Masui Y, Inagaki H, Yoshida Y, Shimada H, Otsuka R, Kikuchi K, Nonaka K, Yoshida H, Suzuki T. Assessing competence at a higher level among older adults: development of the Japan Science and Technology Agency Index of Competence (JST-IC). *Aging Clin Exp Res*, 2017 Jun 23. doi:10.1007/s40520-017-0786-8. 査読あり, (IF=1.394)
18. Makino K, Makizako H, Doi T, Tsutsumimoto K, Hotta R, Nakakubo S, Suzuki T, Shimada H. Fear of falling and gait parameters in older adults with and without fall history. *Geriatr Gerontol Int*. 2017 Dec;17(12):2455-2459. 査読あり, (IF=2.351)
19. Harada K, Lee S, Shimada H, Lee S, Bae S, Anan Y, Harada K, Suzuki T. Distance to screening site and older adults' participation in cognitive impairment screening. *Geriatr Gerontol Int*. 2018 Jan;18(1):146-153. 査読あり, (IF=2.351)
20. Kojima N, Kim M, Saito K, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T, Kim H. Predictors of self-reported knee osteoarthritis in community-dwelling older women in Japan: A cross-sectional and longitudinal cohort study. *Arch Gerontol Geriatr*. 2017 Nov;73:125-132. 査読あり, (IF=2.086)
21. Hotta R, Makizako H, Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Makino K, Suzuki T, Shimada H. Healthy Behaviors and Incidence of Disability in Community-Dwelling Elderly. *Am J Health Behav*. 2018 Jan 1;42(1):51-58. 査読あり, (IF=1.84)
22. Makino K, Makizako H, Doi T, Tsutsumimoto K, Hotta R, Nakakubo S, Suzuki T, Shimada H. Impact of fear of falling and fall history on disability incidence among older adults: Prospective cohort study. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2018 Apr;33(4):658-662. 査読あり, (IF=3.018)
23. Shimada H, Makizako H, Doi T, Park H, Tsutsumimoto K, Vergheze J, Suzuki T. Effects of Combined Physical and Cognitive Exercises on Cognition and Mobility in Patients With Mild Cognitive Impairment: A Randomized Clinical Trial. *J Am Med Dir Assoc*. 2017 Nov 16. pii: S1525-8610(17)30542-X. 査読あり, (IF=5.775)
24. Nakakubo S, Doi T, Shimada H, Ono R, Makizako H, Tsutsumimoto K, Hotta R, Suzuki T. The Association Between Excessive Daytime Sleepiness and Gait Parameters in Community-Dwelling Older Adults: Cross-Sectional Findings From the Obu Study of Health Promotion for the Elderly. *J Aging Health*. 2018 Feb;30(2):213-228. 査読あり, (IF=2.168)
25. Bae S, Shimada H, Park H, Lee S, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Anan Y, Suzuki T. Association between body composition parameters and risk of mild cognitive impairment in older Japanese adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2017 Nov;17(11):2053-2059. 査読あり, (IF=2.351)
26. Tsutsumimoto K, Doi T, Makizako H, Hotta R, Nakakubo S, Makino K, Suzuki T, Shimada H. Association of Social Frailty With Both Cognitive and Physical Deficits Among Older People. *J Am Med Dir Assoc*. 2017 Jul 1;18(7):603-607. 査読あり, (IF=5.775)
27. Tsutsumimoto K, Makizako H, Doi T, Hotta R, Nakakubo S, Makino K, Shimada H, Suzuki T. Subjective Memory Complaints are Associated with Incident Dementia in Cognitively Intact Older People, but Not in Those with Cognitive Impairment: A 24-Month Prospective Cohort Study. *Am J Geriatr Psychiatry*. 2017 Jun;25(6):607-616. 査読あり, (IF=2.868)
28. Nakakubo S, Makizako H, Doi T, Tsutsumimoto K, Lee S, Lee S, Hotta R, Bae S, Suzuki T, Shimada H. Impact of poor sleep quality and physical inactivity on cognitive function in community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2017 Nov;17(11):1823-1828. 査読あり, (IF=2.351)
29. Tsutsumimoto K, Doi T, Makizako H, Hotta R, Nakakubo S, Makino K, Suzuki T, Shimada H. The as-

- sociation between anorexia of aging and physical frailty: Results from the national center for geriatrics and gerontology's study of geriatric syndromes. *Maturitas*. 2017 Mar;97:32-37. 査読あり, (IF=3.255)
30. Bae S, Shimada H, Lee S, Makizako H, Lee S, Harada K, Doi T, Tsutsumimoto K, Hotta R, Nakakubo S, Park H, Suzuki T. The Relationships Between Components of Metabolic Syndrome and Mild Cognitive Impairment Subtypes: A Cross-Sectional Study of Japanese Older Adults. *J Alzheimers Dis*. 2017;60(3):913-921. 査読あり, (IF=3.731)
 31. Okawa Y, Hirata S, Nasu I, Hirata Y. Intentions and Factors Regarding Selection of Workplace by Postgraduate Dental Trainees after Clinical Training. *Bull Tokyo Dent Coll*. 2017;58(1):33-40. 査読あり, (IF=0.47)
 32. Kim M, Suzuki T, Kojima N, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Won CW, Kim H. Association Between Serum $\beta 2$ -Microglobulin Levels and Prevalent and Incident Physical Frailty in Community-Dwelling Older Women. *J Am Geriatr Soc*. 65(4), 83-88, 査読あり, (IF=4.388)
 33. 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 土井剛彦, 堤本広大, 堀田亮, 中窪翔, 牧野圭太郎, 鈴木隆雄, 地域在住日本人高齢者に適したShort Physical Performance Battery の算出方法の修正, *理学療法学*, 44(3), 197-206, 2017, 査読あり
 34. ◎吉田祐子, 岩佐一, 熊谷修, 鈴木隆雄, 栗田圭一, 吉田英世, 高齢者における継続的な運動習慣と抑うつに関連, *精神神経学雑誌*, 119(4), 221-226, 2017, 査読あり
 35. 田口千恵子, 小林良喜, 加藤志奈, 有川量崇, 内山敏一, 那須郁夫, 歯科診療室内の浮遊微粒子群がTHP-1細胞に与える影響, *日大口腔科学* 43(1), 35-40, 2017, 査読あり
 36. 川村孝子, 遠藤孝子, 山口柳子, 甫仮貴子, 菅原彰将, 加藤洋介, 森下志穂, 渡邊裕, 二次予防事業における口腔機能向上の取り組みについて, *秋田県公衆衛生学雑誌* 13(1), 8-11, 2017, 査読あり

(2) 総説

1. ◎★渡邊裕, 高齢者の口腔機能の低下とフレイル. 地域リハビリテーション. 12 (2) :187-192 2018. 査読なし
2. 森美由紀, ★渡邊裕, 口の粘膜疾患の基礎知識, *臨床栄養*, 130(4), 434-440, 2017, 査読なし
3. ◎★渡邊裕, 歯科との連携をどうする - 高齢者の生活を支えるために - 2. オーラルフレイル, *PROGRESS IN MEDICINE*, 37, 1139-1143. 査読なし
4. ◎★本川佳子, 歯科との連携をどうする - 高齢者の生活を支えるために - 9. 栄養と歯科の連携によるシナジー効果, *PROGRESS IN MEDICINE*, 37, 37, 1185-1189. 査読なし
5. ◎★渡邊裕, 周術期のオーラルマネジメント 周術期における医科歯科連携と看護師の役割 看護技術. 63 (14) : 4-7, 2017. 査読なし
6. 鈴木隆雄 【実施診療のための最新認知症学 - 検査・治療・予防・支援 -】 認知症予防 活力ある高齢期の実現 認知症予防と高齢者の若返り, *日本臨床*, 76 (増刊1 実施診療のための最新認知症学 検査・治療・予防・支援), 201-207, 2018
7. 鈴木隆雄, 飯島勝矢, 金憲経, 松井康素, ロコモ/フレイルをめぐる最近の展開, *Loco Cure*, 3(2), 93-99, 2017, 査読なし
8. 鈴木隆雄, 老年科: 高齢者の日光浴 - メリットとデメリット, どちらが大きい? 【皮膚障害作用回避とビタミンD生成作用のいずれをとるか】, *日本医事新報*, 4850, 64-65, 2017, 査読なし
9. 鈴木隆雄, ロコモと地域包括ケアOverview, *Loco Cure*, 3(2), 103, 2017, 査読なし
10. 横山友里, 成田美紀, 本川佳子, 新開省二, 栄養疫学調査の方法論に関する展望, *食と医療*, 1, 55-59, 2017, 査読なし
11. 鈴木隆雄 【健康長寿の秘訣】 高齢期の生活機能の維持 *Aging & Health*26(4)19-21, 2018. 査読なし
12. 鈴木隆雄 【「サルコペニア診療ガイドライン2017」の要点】 サルコペニアの予防 栄養と運動 *臨床栄養*132(1) 38-42, 2018. 査読なし
13. 鈴木隆雄 ガイドライン 転倒予防 日本骨粗鬆症学会雑誌3(4)357-360, 2017. 査読なし
14. 鈴木隆雄 【ビタミンD Update】 エルデカルシトールと転倒 *Clinical Calcium*27(11) 1595-1600, 2017. 査読なし
15. 土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 鈴木隆雄 軽度認知機能障害を有する高齢者の認知機能向上のための複合的運動プログラム 日本運動疫学会プロジェクト研究 “介入研究によるエビデンス提供” 運動疫学研究: Research in Exercise Epidemiology19(2)102-109, 2017. 査読なし
16. 鈴木隆雄 【高齢者のフレイル対策】 地域高齢者のフレイルの実態と対策 *地域保健*48(4)16-19, 2017. 査読なし
17. 鈴木隆雄 【ビタミンDと健康 - ビタミン不足の落とし穴 -】 ビタミンDの意義と課題 特にビタミンD不足の影響について *日本栄養士会雑誌*60(6)4-9, 2017. 査読なし
18. 小原由紀, 【歯科との連携をどうする - 高齢者の生活を支えるために -】 歯科衛生士との連携 病院内連携, *Progress in Medicine*, 37 (10), 1191-1195, 2017

3 著書等

1. 本川佳子, 食べることへの支援と実際 サービス付き高齢者住宅, 第一出版, 印刷中
2. 渡邊裕 著分担, オーラルフレイルQ&A, 医学情報社, 2017
3. 渡邊裕 著分担, 第5版ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策④ 歯科衛生士国家試験対策検討会編, 2018
4. 渡邊裕 著分担, 健康寿命延伸に寄与する老年歯科医療 高齢者の現状と近未来, 松風クラブ, 2-27, 2018

認知症・うつ予防と介入の促進

1 学会発表

(1) 海外

1. Awata S: Impact of long-term care insurance system on dementia and mental health policy in late life: Experiences in Japan. The 12th Annual Meeting of Taiwanese Society of Geriatric Psychiatry. 2017.3.12. Taipei (Keynote Speech).
2. Awata S: Recent earthquake in Japan and personal experiences. The 32nd International Conferences of Alzheimer's Disease International. 2017.4.26-4.29, Kyoto (Symposium).
3. Awata S: To realize society where people can live well with dementia. The 32nd International Conferences of Alzheimer's Disease International. 2017.4.26-4.29, Kyoto (Sponsor's Meeting).
4. Awata S: Strengthening health systems for dementia and NCD co-morbidities: successful approaches for integrated care. The 32nd International Conferences of Alzheimer's Disease International. 2017.4.26-4.29, Kyoto

- (Symposium).
5. Awata S: Prevention and intervention of dementia and depression in Japan. The 21st International Epidemiological Association, World Congress of Epidemiology. 2017.8.19-22, Omiya (Symposium).
 6. Awata S: Dementia strategy in Japan and Tokyo Metropolis. Recent Trends. The 10th Anniversary of the Seoul Dementia Management Project. 2017.9.13. Seoul (Keynote Speech).
 7. Sugiyama M, Murayama H, Inagaki H, Ura C, Miyamae F, Edahiro A, Okamura T, Awata S: The Relationship Between Childhood Socioeconomic Disadvantage And Cognitive Impairment Among Old Japanese. IAGG Congress 2017, San Francisco, USA. 2017.7.23-28
 8. Hiroshi Murayama, Mika Sugiyama, Hiroki Inagaki, Chiaki Ura, Fumiko Miyamae, Ayako Edahiro, Tsuyoshi Okamura, Keiko Motokawa, Shuichi Awata: Does neighborhood affect a likelihood of dementia? A cross-sectional study in Metropolitan Tokyo area. IAGG Congress 2017, San Francisco, USA. 2017.7.23-28
 9. Inagaki H, Sugiyama M, Ura C, Miyamae F, Edahiro A, Motokawa K, Murayama H, Awata S: Association with mental health and physical, cognitive, social factor in community-dwelling elderly. IAGG Congress 2017, San Francisco, USA. 2017.7.23-28
 10. Ura C, Okamura T, Yamazaki S, Ishiguro T, Miyazaki M, Ibe M, Kubota A, Kawamuro Y: Rice-farming care for people with dementia; A novel way of social participation for the elderly. The 21th IAGG (International Association of Gerontology and Geriatrics) World Congress, San Francisco, USA, 2017.7.23-28
 11. Gondo Y, Hirose N, Masui Y, Inagaki H, Arai Y: Paradoxical Association between Longevity-Related Personality Traits and Mortality in Centenarians. Symposium 5025: Understanding Direct and Indirect Contributors Toward Longevity of the Oldest Old. The 21th IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics, San Francisco, USA, 2017.7.23-27
 12. Iwasa H, Masui Y, Gondo Y, Inagaki H, Yoshida Y: Personality and All-Cause Mortality: Combined Analysis Between Neuroticism and Extraversion. The 21th IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics, San Francisco, USA, 2017.7.23-27
 13. Masui Y, Inagaki H, Gondo Y, Kurinobu T, Ikebe K, Kamide K, Arai Y, Ishizaki T: Premorbid Personality and the Occurrences of the Risk of MCI After 3 Years in Japanese Elderly. The 21th IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics, San Francisco, USA, 2017.7.23-27
 14. Edahiro A, Hirano H, Watanabe Y, Ohara Y, Motokawa K, Shirobe M, Yasuda J, Awata S: Eating Dysfunction Accompanying Deterioration of AD on the Basis of Functional Assessment Staging, The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (IAGG), Sun Francisco, USA, 2017.7.23-27.
 15. Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Maki Shirobe, Jun Yasuda, Hirohiko Hirano, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Yutaka Watanabe. Relationship between frailty and dietary variety among older adults. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (IAGG), Sun Francisco, USA, 2017.7.23-27.
 16. Yutaka Watanabe, Hidenori Arai, Hirohiko Hirano, Yuki Ohara, Ayako Edahiro, Hiroyuki Shimada, Takeshi Kikutani, and Takao Suzuki. Identifying oral function as an indexing parameter for detection of Mild Cognitive Impairment in elderly people. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (IAGG), Sun Francisco, USA, 2017.7.23-27.
 17. Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Masaharu Murakami, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Maki Shirobe, Jun Yasuda. Relationship between sarcopenia and chewing ability in Japanese community-dwelling elderly. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (IAGG), Sun Francisco, USA, 2017.7.23-27.
 18. Jun Yasuda, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Ayako Edahiro, Maki Shirobe, Keiko Motokawa, Hideyo Yoshida, Shuichi Awata. Predicting Factors Associated with Exiting Nursing Homes: Role of Eating Ability and Nutrition State. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (IAGG), Sun Francisco, USA, 2017.7.23-27.
 19. Ryo Hirayama, Madoka Ogawa, Tomoko Wakui: A Dyadic Approach to the Relational Context of Spousal Caregiving. 2017 NCFR Annual Conference, Orlando, USA. 2017.11.15-18
 20. Midori Takayama, Yoshiko Ishioka, Ikuko Sugawara, Yukie Masui, Maki Sukanuma, Madoka Ogawa: Social Capital, Health, and Subjective Wellbeing in the Very Old: The K2 Study. IAGG Congress 2017, San Francisco, USA. 2017.7.23-28
 21. Ikuko Sugawara, Midori Takayama, Yoshiko Ishioka, Maki Sukanuma, Yukie Masui, Madoka Ogawa: Neighborhood Social Support and Companionship Among the Very Old Living in an Urban Area in Japan. IAGG Congress 2017, San Francisco, USA. 2017.7.23-28
- ## (2) 国内
1. 栗田 主一: 災害後の認知症高齢者支援と Dementia Friendly Community. 第36回日本社会精神医学会, 東京, 2017.3.3-34 (シンポジウム).
 2. 栗田 主一: Dementia Friendly Communityをめざして. 第36回日本社会精神医学会, 東京, 2017.3.3-34 (シンポジウム)
 3. 栗田 主一: 「認知症と共に生きる」ために必要な教育的支援と地域活動: 認知症専門医の立場から. 第18回日本認知症ケア学会, 宜野湾市, 2017.5.26-27 (自主企画).
 4. 島山啓, 古田光, 酒井遼, 木村陽子, 大垣二郎, 扇沢史子, 市川幸子, 栗田 主一: ヒト免疫不全ウイルス疾患から若年性認知症と診断された患者への退院支援: 入院を契機に家族の再構築化となった事例. 第18回日本認知症ケア学会, 宜野湾市, 2017.5.26-27 (ポスター).
 5. 杉山美香, 稲垣宏樹, 栗田 主一: 介護予防把握のため郵送調査と回答未返送高齢者を対象にした訪問看護師による訪問調査—ソーシャルサポートについての検討. 第18回日本認知症ケア学会, 沖縄コンベンションセンター, 宜野湾市, 2017. 5.26-27 (ポスター)
 6. 岡村毅, 宇良千秋, 宮前史子, 杉山美香, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 本川佳子, 村山洋史, 栗田 主一: 認知症になった際の医療・介護に関する不安を持つ地域在住高齢者の特徴. 第18回日本認知症ケア学会, 沖縄コンベンションセンター, 宜野湾市, 2017. 5.26-27 (ポスター)

7. 枝広あや子, 杉山美香, 栗田圭一:二次医療圏域ごとの認知症疾患医療センター配置状況の分析.第18回日本認知症ケア学会,沖縄コンベンションセンター,宜野湾市, 2017.5.26-27 (ポスター)
8. 宮前史子, 杉山美香, 栗田圭一:高齢者の生活支援ニーズリストの作成の試み.第18回日本認知症ケア学会,沖縄コンベンションセンター,宜野湾市, 2017.5.26-27 (ポスター)
9. 岡村毅, 宇良千秋, 宮前史子, 杉山美香, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 本川佳子, 村山洋史, 栗田圭一:与えるサポートと受けるサポートはどちらがこころの健康に有用かー都市部地域在住高齢者の調査からー第18回認知症ケア学会,宜野湾市, 2017.5.26-27 (ポスター)
10. 宇良千秋, 岡村毅, 山崎幸子, 石黒太一, 宮崎眞也子, 井部真澄, 久保田あゆみ, 鳥島佳祐, 栗田圭一, 川室優:認知症の人の社会参加を促す稲作ケアの試みー認知症ケアのパラダイムシフトを目指してー第18回認知症ケア学会,宜野湾市, 2017.5.26-27 (口演)
11. 扇澤史子, 古田光, 岡本一枝, 今村陽子, 市川幸子, 高岡陽子, 竹部裕香, 西垣綾峰, 畠山啓, 筒井卓実, 松井仁美, 市橋雅典, 松本健二, 久保田真由, 栗田圭一:ADのスクリーニングに寄与する簡便な記憶評価法の有用性の検討:HDS-R終了後の3語再生とWMS-Rの論理的記憶Iの相関より.第32回日本老年精神医学会,名古屋市, 2017.6.14-16 (ポスター).
12. 岡本一枝, 古田光, 扇澤史子, 今村陽子, 市川幸子, 高岡陽子, 竹部裕香, 西垣綾峰, 筒井卓実, 松井仁美, 市橋雅典, 松本健二, 久保田真由, 酒井遼, 栗田圭一:アルコールによる認知機能障害についての検討:HDS-R及びMMSEを用いた健常者,アルツハイマー型認知症との比較検討.第32回日本老年精神医学会,名古屋市, 2017.6.14-16 (ポスター).
13. 今村陽子, 扇澤史子, 岡本一枝, 古田光, 市川幸子, 竹部裕香, 高岡陽子, 西垣綾峰, 筒井卓実, 松本健二, 松井仁美, 久保田真由, 市橋雅典, 栗田圭一:初期のアルツハイマー型認知症における模写課題の誤りの質的検討.第32回日本老年精神医学会,名古屋市, 2017.6.14-16 (ポスター).
14. 菊地和則, 伊集院陸雄, 栗田圭一, 鈴木隆雄:認知症の徘徊による行方不明の実態:全国調査からわかったこと.第59回日本老年医学会,名古屋市, 2017.6.14-16 (シンポジウム).
15. 横手幸太郎, 栗田圭一, 荒木厚, 井藤英喜:認知機能・ADLの評価と手法.第59回日本老年医学会,名古屋市, 2017.6.14-16 (シンポジウム).
16. 栗田圭一:認知症の総合アセスメントと診断後支援.第59回日本老年医学会,名古屋市, 2017.6.14-16 (ランチョンセミナー).
17. 杉山美香, 稲垣宏樹, 栗田圭一:訪問看護ステーションにおける認知症等ハイリスク高齢者の予防的ケアとしての見守り支援.第32回日本老年精神医学会,名古屋市, 2017.6.14-16
18. 小川まどか, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 杉山美香, 宮前史子, 枝広あや子, 佐久間尚子, 金野倫子, 栗田圭一:地域在住高齢者の睡眠習慣と精神健康との関係.第59回日本老年社会科学大会,名古屋市, 2017.6.14-16 (ポスター優秀演題)
19. 枝広あや子, 杉山美香, 栗田圭一:我が国の認知症疾患医療センターの質のコントロールの現状.第30回日本老年医学会,名古屋市, 2017.6.14-16 (ポスター)
20. 本川佳子, 枝広あや子, 村上正治, 白部麻樹, 田中弥生, 河合恒, 大淵修一, 平野浩彦, 渡邊裕, 地域在住高齢者における咀嚼機能と栄養素・食品群別摂取量および低栄養との関わり, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2017.6.16 (ポスター)
21. 本橋佳子, 平野浩彦, 櫻井孝, 櫻井薫, 市川哲雄, 高野直久, 深井獲博, 武井典子, 大塚礼, 山田律子, 田中弥生, 野原幹司, 渡邊裕, 枝広あや子, 認知症高齢者に対する口腔管理と経口摂取支援に関するガイドライン作成の試み (予備文献検索), 第28回日本老年歯科医学会, 名古屋市, 2017.6.15 (ポスター)
22. 渡邊裕, 本川佳子, 白部麻樹, 村上正治, 枝広あや子, 平野浩彦, [日本老年学会合同シンポジウム:フレイル研究の現状及び展望] オーラルフレイル研究の現状および展望, 第30回日本老年学会総会, 名古屋市, 2017.6.15 (シンポジウム)
23. 枝広あや子, 平野浩彦, 本川佳子, 白部麻樹, 村上正治, 渡邊裕, [日本老年学会合同シンポジウム:認知症の人と家族を支える医療とケア] 認知症の方の美味しく安全な食への支援, 第30回日本老年学会総会, 名古屋市, 2017.6.14 (シンポジウム)
24. 枝広あや子, 舌口底癌による重度の摂食嚥下障害から経口摂取可能となった1例 [摂食機能療法専門歯科医師認定ポスター], 第28回日本老年歯科医学会, 名古屋市, 2017.6.14.
25. 森下志穂, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 村上正治, 糸田昌隆, 介護老人保健施設退所後の在宅療養継続に影響する因子の検討, 第28回日本老年歯科医学会, 名古屋市, 2017.6.15. (優秀口演賞)
26. 白部麻樹, 平野浩彦, 枝広あや子, 小原由紀, 森下志穂, 本川佳子, 村上正治, 村上浩史, 高城大輔, 渡邊裕, アルツハイマー型認知症高齢者の嚥下機能低下に関連する予知因子の検討, 第28回日本老年歯科医学会, 名古屋市, 2017.6.14. (優秀衛生演題賞)
27. 五十嵐憲太郎, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 本川佳子, 梅木賢人, 伊藤誠康, 河相安彦, 小野高裕, 都市部在住高齢者のフレイルと口腔機能低下との関連に関する検討, 第28回日本老年歯科医学会, 名古屋市, 2017.6.14 (優秀演題賞)
28. 堀部耕広, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 大淵修一, 大神浩一郎, 上田貴之, 櫻井薫, Frailtyへの移行に咀嚼機能の低下が及ぼす影響, 第28回日本老年歯科医学会, 名古屋市, 2017.6.15 (ポスター)
29. 松原ちあき, 白部麻樹, 渡邊裕, 尾花三千代, 本川佳子, 村上正治, 枝広あや子, 平野浩彦, 古屋純一, 地域在住高齢者の唾液中潜血に関連する因子の検討, 第28回日本老年歯科医学会, 名古屋市, 2017.6.14 (ポスター)
30. 須磨磨乃, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 白部麻樹, 本川佳子, 木村藍, 松下健二, 荒井秀典, 櫻井孝, アルツハイマー型認知症(AD)とレビー小体型認知症(DLB)の食行動特性の比較検討[老年学会総会合同ポスター], 第28回日本老年歯科医学会, 名古屋市, 2017.6.14.
31. 佐久間尚子, 稲垣宏樹, 小川まどか, 鈴木宏幸, 枝広あや子, 宇良千秋, 杉山美香, 宮前史子, 渡邊裕, 栗田圭一:会場健診に参加する都市部在住高齢者のMMSE-Jの得点分布ー速報版.第32回日本老年精神医学会, 名古屋国際会議場, 2017.6.14-16
32. 宇良千秋:教育講演「これからの認知症予防とケア:QOLを長く保つために」(招聘) 第32回日本老年精神医学会, 名古屋, 2017.6.14-16 (教育講演)
33. 江口洋子, 広瀬信義, 新村秀人, 喜田恒, 稲垣宏樹, 新井

- 康通, 三村将: ACE-IIIを用いた90歳以上高齢者の認知機能に関する検討. 第32回日本老年精神医学会, 名古屋, 2017.6.14-16
34. 増井幸恵, 池邊一典, 権藤恭之, 神出計, 新井康通, 栗延孟, 小川まどか, 稲垣宏樹, 石崎達郎, 前田芳信: 会場招待型調査を脱した後期高齢者の身体機能と精神的健康の縦断的变化—訪問調査データを用いた80歳参加者と90歳参加者の比較—参加第59回日本老年社会学会大会, 名古屋, 2017.6.14-16
35. 岡村毅, 宇良千秋. 上越地域における認知症と稲作ケア. 認知症の人のQOL向上のための稲作ケアのフィジビリティスタディー. 医療連携の統合を目指す医療政策研究フォーラム, 軽井沢, 2017.7.6.
36. 横山達士, 岡村毅, 近藤伸介. 不思議の国のアリス症候群を伴った反復性うつ病の1例: 機能画像と精神病理. 第23回 臨床精神病理ワークショップ東京 2017/9/2
37. 栗田圭一: 認知症高齢者をめぐる諸問題. 第22回板橋区医師会医学会, 2017.9.2-3, 東京 (教育講演).
38. 斎藤久美子, 古田光, 畠山啓, 扇澤史子, 今村陽子, 岡本一枝, 湊理恵, 白取絹恵, 栗田圭一: A区における認知症アウトリーチチームの現状と課題, ソーシャルワークの視点から. 第22回板橋区医師会医学会, 2017.9.2-3, 東京 (指定口演).
39. 扇澤史子, 古田光, 松本健二, 畠山啓, 木村陽子, 山本輝美, 今村陽子, 岡本一枝, 久保田真由, 白取絹恵, 栗田圭一: FTDのBPSDに対する多職種アプローチ, 切れ目のないケアを目指して. 第22回板橋区医師会医学会, 2017.9.2-3, 東京 (指定口演).
40. 岡村毅. 宗教者と医療者の協働の可能性—医療者の立場から— 日本宗教学会第76回学術大会 東京 2017.9.17.
41. 枝広あや子, 平野浩彦, 本川佳子, 白部麻樹, 村上正治, 本橋佳子, 渡邊裕, [シンポジウム: 高齢者への食支援—サルコペニア・フレイルの予防から認知症ケアまで—] 認知症高齢者の食にまつわる口腔機能支援を通じた協働, 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 千葉市, 2017.9.16.
42. 枝広あや子, 渡邊裕, 平野浩彦, 小原由紀, 田中弥生, 安藤雄一, 荒井秀典, 介護保険施設の経口摂取支援に関する研修効果, 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 千葉市, 2017.9.15.
43. 杉山美香, 岡村毅, 釘宮由紀子, 宮前史子, 小川まどか, 枝広あや子, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 飯塚あい, 佐久間尚子, 栗田圭一: 認知症支援のための地域づくり「高島平ココからステーション」の実践. 第7回日本認知症予防学会学術集会, 岡山市, 2017.9.22-24.
44. 鈴木宏幸, 佐久間尚子, 小川将, 屋沢萌, 川崎采香, 大神優子, アクティブ高齢者における10年間の追跡研究: (2) 語想起課題の生成時間に着目した検討, 日本心理学会第81回大会, 久留米, 2017.9.20-22
45. 川崎采香, 佐久間尚子, 大神優子, 屋沢萌, 鈴木宏幸, 小川将, アクティブ高齢者における10年間の追跡研究: (3) RBMT「物語の記憶」の1年目と10年目の比較, 日本心理学会第81回大会, 久留米, 2017.9.20-22
46. 屋沢萌, 佐久間尚子, 鈴木宏幸, 小川将, 川崎采香, 大神優子, アクティブ高齢者における10年間の追跡研究: (4) 老いの意識に対するpilot study, 日本心理学会第81回大会, 久留米, 2017.9.20-22
47. 佐久間尚子, 鈴木宏幸, 小川将, 屋沢萌, 川崎采香, 大神優子, アクティブ高齢者における10年間の追跡研究: (1) 認知機能の加齢変化 日本心理学会第81回大会, 久留米, 2017.9.20-22
48. 増井幸恵, 権藤恭之, 中川威, 小川まどか, 石岡良子, 小園麻里菜, 蔡羽淳, 安元佐織, 小野口航, 稲垣宏樹: 地域在住前期高齢者における老年的超越の発達—SONIC研究70歳コホート6年間の縦断データを用いた検討— 日本心理学会第81回大会, 久留米大学, 2017.9.20-22
49. 石岡良子, 高山緑, 菅原育子, 増井幸恵, 小川まどか, 菅沼真樹: 後期高齢者の生活に対する将来展望と認知機能との関連—K2studyデータを用いて— 日本心理学会第81回大会, 久留米大学, 2017.9.20-22
50. 鳥島佳祐, 宇良千秋, 岡村毅, 石黒太一, 井部真澄, 宮崎眞也子, 森橋恵子, 川室優. 認知機能障害をもつ高齢者への稲作ケアの試み—チームアプローチによる高齢者との共同作業— 第6回日本精神科医学会学術大会 広島 2017.10.12.
51. 佐久間尚子, 鈴木宏幸, 安永正史, 小川将, 桜井良太, 藤原佳典, 健常高齢者のTMTの10年間の変化: TMT-AとTMT-Bの比較, 第41回日本神経心理学学会総会, 東京, 2017.10.12-13
52. 栗田圭一: Dementia Friendly Communityとは何か. 第18回日本早期認知症学会, 2017.10.14-10.15, 東京 (教育講演).
53. 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 小原由紀, 杉山美香, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 岡村毅, 村山洋史, 大淵修一, 藤原佳典, 金憲経, 井原一成, 河合恒, 渡邊裕, 平野浩彦, 栗田圭一, [シンポジウム: いまなぜオーラルフレイルが重要なのか] オーラルフレイルと認知機能, 抑うつ傾向の関連, 第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 京都市, 2017.10.14.
54. 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 井原一成, 田中弥生, 金憲経, 藤原佳典, 大淵修一, 河合恒, 平野浩彦, 渡邊裕, オーラルフレイルと食事・栄養の関わり, 第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 京都市, 2017.10.14.
55. 栗田圭一: 認知症とともに暮らせる地域社会とは何か. 第76回日本公衆衛生学会, 2017.10.31-11.2, 鹿児島 (シンポジウム).
56. 佐久間尚子, 稲垣宏樹, 小川まどか, 枝広あや子, 宇良千秋, 杉山美香, 宮前史子, 鈴木宏幸, 渡邊裕, 栗田圭一, 高島平Study(2)大都市部在住高齢者の会場調査と訪問調査のMMSE-J得点, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
57. 稲垣宏樹, 栗田圭一, 佐久間尚子, 金憲経, 枝広あや子, 杉山美香, 白部麻樹, 本川佳子, 宇良千秋, 小川まどか, 宮前史子, 渡邊裕, 新開省二: 高島平Study(1)大都市部認知症高齢者の生活実態調査の方法と課題に関する検討. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
58. 枝広あや子, 杉山美香, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 小川まどか, 佐久間尚子, 宮前史子, 本川佳子, 本橋佳子, 渡邊裕, 金憲経, 新開省二, 栗田圭一: 高島平Study(4)大都市部認知症高齢者の食欲低下に関連する要因の検討. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
59. 杉山美香, 宮前史子, 佐久間尚子, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 小川まどか, 枝広あや子, 本川佳子, 岡村毅, 渡邊裕, 新開省二, 栗田圭一: 高島平Study(5)認知機能低下がみられる地域在住高齢者の生活支援ニーズ 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2
60. 吉田祐子, 岩佐一, 稲垣宏樹, 増井幸恵: 農村部高齢者におけるJST版活動能力指標の得点分布および交差妥当性の検証. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.

31-11.2

61. 扇澤史子, 古田光, 岡本一枝, 今村陽子, 畠山啓, 筒井卓実, 松井仁美, 市橋雅典, 久保田真由, 栗田圭一: 正常範囲, MCI, アルツハイマー型認知症の認知機能と生活機能の重症度別特徴. 第36回日本認知症学会, 2017.11.22-26, 金沢 (ポスター).
 62. 古田光, 久保田真由, 市橋雅典, 松井仁美, 筒井卓実, 栗田圭一: レビー小体型認知症に対する維持電気けいれん療法. 第36回日本認知症学会, 2017.11.22-26, 金沢 (ポスター).
 63. 三浦ゆり, 岩本真知子, 稲垣宏樹, 増井幸恵, 石岡良子, 津元裕樹, 樺山舞, 杉本研, 阿部由紀子, 新井康通, 神出計, 池邊一典, 石崎達郎, 榎藤恭之, 高橋龍太郎, 遠藤玉夫: 高齢者の縦断調査血液サンプルを用いた初期の認知機能低下に関するプロテオミクス解析. 第68回日本電気泳動学会総会, 広島, 2017.11.24-25
 64. 佐久間尚子, 大神優子, 鈴木宏幸, 安永正史, 桜井良大, 藤原佳典: 健常高齢者のRBMT「物語の記憶」と「生活健忘チェックリスト」の10年間の変化, 第41回日本高次脳機能障害学会学術総会, 大宮, 2017.12.15-16
 65. 宇良千秋: その人らしいライフスタイルと地域の文化に根ざした認知症ケア. 第10回上越「和・道」医療福祉グループ学会, 上越, 2018.2.23. (特別講演)
 66. 宇良千秋: 大都会で認知症とともに生きることを考える: 高島平スタディから学んだこと (大会企画シンポジウム「『老い』と生きる: 長寿社会における『老い』ことの意味と共生を考える」). 日本発達心理学会第29回大会, 仙台, 2018.3.23-25. (シンポジウム)
- ## 2 誌上発表
- ### (1) 原著
1. Yokoyama T, Okamura T, Takahashi M, Momose T, Kondo S. A case of recurrent depressive disorder presenting with Alice in Wonderland syndrome: psychopathology and pre- and post-treatment FDG-PET findings. *BMC Psychiatry*. 17:150, 2017 (査読あり) (IF:2.613, 2016)
 2. ◎★Okamura T, Awata S, Ito K, Takiwaki K, Matoba Y, Niikawa H, Tachimori H, Takeshima T. Elderly men in Tokyo homeless shelters who are suspected of having cognitive impairment. *Psychogeriatrics* 17: 206-207, 2017 (査読あり) (IF : 1.693, 2016)
 3. ◎Niikawa H, Okamura T, Ito K, Ura C, Miyamae F, Sakuma N, Ijuin M, Inagaki H, Sugiyama M, ★Awata S. Association between polypharmacy and cognitive impairment in an elderly Japanese population residing in an urban community. *Geriatr Gerontol Int* 17(9):1286-1293, 2017 (査読あり) (IF : 2.351, 2016)
 4. ◎Sakuma N, Ura C, Miyamae F, Inagaki H, Ito K, Niikawa H, Ijuin M, Okamura T, Sugiyama M, ★Awata S. Distribution of Mini-Mental State Examination scores among urban community-dwelling older adults in Japan. *Int J Geriatr Psychiatry*, 32, 718-725, 2017, (査読あり), (IF : 3.018, 2016)
 5. Sakurai R, Ishii K, Sakuma N, Yasunaga M, Suzuki H, Murayama Y, Nishi M, Uchida H, Shinkai S, Fujiwara Y., Preventive effects of an intergenerational program on age-related hippocampal atrophy in older adults: The REPRINTS study, *Int J Geriatr Psychiatry*, 2017 Aug 31. doi: 10.1002/gps.4785. [Epub ahead of print], (査読あり), (IF : 3.018, 2016)
 6. Sakurai R, Ishii K, Yasunaga M, Takeuchi R, Murayama Y, Sakuma N, Sakata M, Oda K, Ishibashi K, Ishiwata K, Fujiwara Y, Montero-Odasso M. The neural substrate of gait and executive function relationship in elderly women: A PET study, *Geriatr Gerontol Int.*, 2017 Feb 11. doi: 10.1111/ggi.12982. [Epub ahead of print], (査読あり), (IF : 2.351, 2016)
 7. Sakurai R, Fujiwara Y, Yasunaga M, Suzuki H, Sakuma N, Imanaka K, Montero-Odasso M., Older Adults with Fear of Falling Show Deficits in Motor Imagery of Gait. *J Nutr Health Aging*, 21, 721-726. 2017, (査読あり), (IF : 2.772, 2016)
 8. Takagi D, ★Watanabe Y, Edahiro A, Ohara Y, Murakami M, Murakami K, Hironaka S, Taniguchi Y, Kitamura A, Shinkai S, Hirano H. Factors affecting masticatory function of community-dwelling older people: Investigation of the differences in the relevant factors for subjective and objective assessment. *Gerodontology*;34(3):357-364. 2017. (査読あり), (IF : 1.681, 2016)
 9. ◎★Ura C, Okamura T, Yamazaki S, Ishiguro T, Ibe M, Miyazaki M, Kawamuro Y. Rice-farming care for the elderly people with cognitive impairment in Japan: A case series. *International Journal of Geriatric Psychiatry*. in press (査読あり) (IF : 3.018, 2016)
 10. 扇沢史子, 栗田圭一, 古田光, 岡本一枝, 今村陽子, 白取絹恵, 畠山啓, 齊藤久美子, 千田亜希子, 佐々木優子, 井藤佳恵, 須田潔子, 筒井卓実, 松井仁美, 山邊義彬, 市橋雅典, 市川幸子, 竹部裕香, 松下正明: 認知症本人による認知機能障害・生活障害・行動心理症状についての自覚的体験内容と受診ニーズの特徴. *生存科学*, 28: 170-177, 2017. (査読あり)
 11. ◎★宇良千秋, 岡村毅, 山崎幸子, 石黒太一, 井部真澄, 宮崎眞也, 鳥島佳祐, 川室優. 認知機能障害をもつ高齢者の社会的包摂の実現に向けた農業ケアの開発: 稲作を中心としたプログラムのフィージビリティの検討. *日本老年医学会雑誌*, 55: 106-116, 2018 (査読あり)
 12. Takada K, Ura C, Takei N, Takeda K, Morishima S, Ishii T, Ishikawa M, Miyagawa Y, Miyamae F, Takahashi R: Effects of oral self-care on oral, cognitive, and daily performance functions in rural community-dwelling older people with mild cognitive impairment. *Asian Journal of Gerontology & Geriatrics*. in press (査読あり) (IFなし)
 13. Okamura T, Ura C, Miyamae F, Sugiyama M, Inagaki H, Edahiro A, Murayama H, Motokawa K, Awata S. To give or to receive: Relationship between social support giving/receiving and psychometrics in a large-scale survey. *International Journal of Geriatric Psychiatry In Press* (査読あり) (IF : 3.018, 2016)
 14. Horibe Y, Watanabe Y, Hirano H, Edahiro A, Ishizaki K, Ueda T, Sakurai K. Relationship between masticatory function and frailty in community-dwelling Japanese elderly. *Aging Clin Exp Res*. 2017 Dec 28. [Epub ahead of print](IF : 1.394, 2016)
 15. Watanabe Y, Arai H, Hirano H, Morishita S, Ohara Y, Edahiro A, Murakami M, Shimada H, Kikutani T, Suzuki T. Oral function as an indexing parameter for mild cognitive impairment in older adults. *Geriatr Gerontol*

- Int. 2018 Jan 30. [Epub ahead of print](IF : 2.351, 2016)
16. Motokawa K, Watanabe Y, Edahiro A, Shirobe M, Murakami M, Kera T, Kawai H, Obuchi S, Fujiwara Y, Ihara K, Tanaka Y, Hirano H. Frailty Severity and Dietary Variety in Japanese Older Persons: A Cross-Sectional Study. J Nutr Health Aging. 2018;22(3): 451-456.(IF : 2.996, 2016)
 17. Ryuno H, Kamide K, Gondo Y, Kabayama M, Oguro R, Nakama C, Yokoyama S, Nagasawa M, Maeda-Hirao S, Imaizumi Y, Takeya M, Yamamoto H, Takeda M, Takami Y, Itoh N, Takeya Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Nakagawa T, Yasumoto S, Ikebe K, Inagaki H, Masui Y, Takayama M, Arai Y, Ishizaki T, Takahashi R, Rakugi H. : Longitudinal association of hypertension and diabetes mellitus with cognitive functioning in a general 70-year-old population: the SONIC study. Hypertension Research, 40(7): 665-670, 2017 (IF : 3.581, 2016)
 18. Iwasa H, Masui Y, Inagaki H, Yoshida Y, Shimada H, Otsuka R, Kikuchi K, Nonaka K, Yoshida H, Yoshida H, Suzuki T. : Assessing competence at a higher level among older adults: development of the Japan Science and Technology Agency Index of Competence (JST-IC). Aging Clinical and Experimental Research, 2017 (IF : 1.394, 2016/2017)
 19. Okubo H, Inagaki H, Gondo Y, Kamide K, Ikebe K, Masui Y, Arai Y, Ishizaki T, Sasaki S, Nakagawa T, Kabayama M, Sugimoto K, Rakugi H, Maeda Y; SONIC Study Group. : Association between dietary patterns and cognitive function among 70-year-old Japanese elderly: a cross-sectional analysis of the SONIC study. Nutrition Journal, 16(1), 2017 (IF : 3.211, 2016/2017)

(2) 総説

1. ◎★栗田主一：認知症の人の視点を重視した生活実態調査と施策への反映方法に関する研究。老年精神医学雑誌, 28 (増刊号 I) : 34-40, 2017. (査読なし)
2. ◎★栗田主一：認知症が及ぼす影響と今後の認知症ケアの方向性。薬局, 68(5): 2195-2201, 2017. (査読なし)
3. ◎★栗田主一：認知症介護・支援における現状と課題について教えてください。Geriatr. Med. 55: 639-642, 2017. (査読なし)
4. ◎★栗田主一：Dementia Friendly Communityの理念と世界の動き。老年精神医学雑誌28: 458-465, 2017. (査読なし)
5. ◎★栗田主一：国連障害者権利条約と権利ベースのアプローチ。特集にあたって。精神医学59: 709-712, 2017. (査読なし)
6. ◎★栗田主一：認知症支援にかかわる医療職の人材育成。地域包括ケアシステムの理念とアウトカムに方向づけられた人材育成。日本認知症ケア学会誌。16: 409-416, 2017. (査読なし)
7. ◎★栗田主一：新オレンジプランとこれからの認知症ケア。日本在宅医学会雑誌。18: 227-229, 2017. (査読なし)
8. ◎★栗田主一：災害後の認知症高齢者支援とDementia Friendly Community。日社精医誌26: 220-225, 2017. (査読なし)
9. ◎★栗田主一：高齢者をとりまく社会環境。精神科治療学, 32増刊号 : 28-33, 2017. (査読なし)
10. ◎★栗田主一, 枝広あや子, 杉山美香：認知症疾患医療センター。精神科治療学, 32増刊号 : 169-173, 2017. (査読なし)
11. ◎★栗田主一：認知症の医療・看護・介護・権利擁護と地域生活支援。序文。Geriatric Medicine 55: 1067-1068, 2017. (査読なし)
12. 扇沢史子, 栗田主一, 古田光, 岡本一枝, 今村陽子, 白取絹恵, 畠山啓, 齊藤久美子, 千田亜希子, 佐々木優子, 井藤佳恵, 須田潔子, 筒井卓美, 松井仁美, 山邊義彬, 市橋雅典, 市川幸子, 竹部裕香, 松下明：家族介護者が高齢者にも忘れ外来受診を促す理由についての検討：正常範囲, 軽度認知障害および主な認知症の比較。生存科学, 28: 163-170, 2017. 栗田主一：高齢者をとりまく社会環境。精神科治療学, 32増刊号 : 28-33, 2017. (査読なし)
13. 扇沢史子, 栗田主一, 古田光, 岡本一枝, 今村陽子, 白取絹恵, 畠山啓, 齊藤久美子, 千田亜希子, 佐々木優子, 井藤佳恵, 須田潔子, 筒井卓美, 松井仁美, 山邊義彬, 市橋雅典, 市川幸子, 竹部裕香, 松下明：認知症本人による認知機能障害・生活障害・行動心理症状についての自覚的体験内容と受診ニーズの特徴。生存科学, 28: 170-177, 2017. (査読なし)
14. ◎★岡村毅。高齢者の日中の眠気。Pharma Medica 35 巻3月号p15-17, 2017年 (査読なし)
15. ◎★岡村毅, 栗田主一。認知症を理解し, よりよい社会をつくるために。刑政第128巻第9号p12-25, 2017年 (査読なし)
16. ◎★岡村毅。精神科医から見たホームレスの現状。こころと社会 48巻2号p117-123, 2017年 (査読なし)
17. ◎★岡村毅。複雑化する援助希求と行政職員が直面する課題－質問紙調査による困難事例の探索－精神保健政策研究第26巻印刷中 (査読なし)
18. ◎★岡村毅。双極性障害の過剰診断と過剰治療。精神科治療学 32巻1299-1303 2017年 (査読なし)
19. 石岡良子, 稲垣宏樹：認知加齢研究からみた百寿者研究。老年社会科学, 39(1): 44-53, 2017. (査読なし)
20. ◎★杉山美香：訪問看護ステーションによる認知症高齢者相談支援(見守り支援)事業－東京都千代田区の取り組み。認知症の最新医療, 7(1):20-23, 2017 (査読なし)
21. ◎★枝広あや子, 村上正治, 特集1 最期まで「口から食べたい」の願いを叶える支援の実際。在宅看取りでの歯科の位置づけと口腔ケアの実際, エンド・オブ・ライフケア Vol.1 No.1, 26-31, 2017. (査読なし)
22. ◎★枝広あや子, 歯科医院でもできる！認知症患者さんのチェックと対応, デンタルハイジーン Voi.37 No.8, 868-873, 2017. (査読なし)
23. ◎★枝広あや子, 特集嚥下機能を考慮した薬物治療実践メソッド 疾患別の対応 認知症患者への対応のポイント, 月刊薬事Vol.59 No.9, 1821-1825,2017.
24. 平野浩彦・枝広あや子, 歯科医師の認知症対応力向上に向けて～最近の認知症を取り巻く動向～, 日本歯科医師会雑誌Vol.70 No.4,305-314,2017. (査読なし)
25. 吉田祐子, ★岩佐一, 熊谷修, 鈴木隆雄, 栗田主一, 吉田英世：高齢者における継続的な運動習慣と抑うつとの関連, 精神神経学雑誌 2017, 119: 221-226. (査読あり)
26. ◎★枝広あや子。第5章疾患各論, 4) その他の精神疾患－高齢発症と高齢による変化－ 11食行動および口腔における問題：精神科治療学, 32巻増刊号, P364-369,2017 (査読なし)
27. ◎★栗田主一：Dementia Friendly Communityをめざして。日本社会精神医学雑誌26: 332-336, 2017.
28. ◎★栗田主一：認知症と共に暮らせる社会をつくる。特

集にあたって. Dementia Japan, 32: 72-73, 2018.

29. ◎★岡村毅, 川室優. 貧困、孤独、絶望にある人の終末期を支える. 精神科2018年32巻2号106-110
30. ◎★岡村毅. 宗教者と医療者の協働の可能性—医療者の立場から—. 宗教研究第91巻別冊 p.93-94
31. ◎★枝広あや子. 特集 身体疾患の発症につながる歯のトラブル 高齢者の口腔の特徴と身体疾患への影響: コミュニティケア19巻11月号, P10-15, 2017
32. ◎★枝広あや子. 認知症患者に適した食具の選び方: DENTAL DIAMOND第43巻第4号, P118-120, 2018

3 著書等

1. ◎★栗田主一: 4. Dementia Friendly Community. 東京都健康長寿医療センター研究所健康長寿新ガイドライン策定委員会編・著: 健康長寿新ガイドラインエビデンスブック. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター, 2017, 東京, p103-p105.
2. ◎★栗田主一: もの忘れ外来のとりくみ. 井藤英喜監修, 伊藤美緒編著: 認知症の人の「想い」からつくるケア. インターメディカ, 2017, 東京, p72-p75.
3. ◎★栗田主一: 認知症疾患医療センターの機能と役割は何か. 日本神経学会監修, 「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会編集: 認知症疾患診療ガイドライン2017. 医学書院, 2017, 東京, p170-p172.
4. ◎★栗田主一: 認知症者の判断能力や意思決定能力を評価することは可能か. 日本神経学会監修, 「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会編集: 認知症疾患診療ガイドライン2017. 医学書院, 2017, 東京, p183-p185.
5. ◎★栗田主一: 成年後見制度は, 認知症患者の権利擁護にどのように活用されているか. 日本神経学会監修, 「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会編集: 認知症疾患診療ガイドライン2017. 医学書院, 2017, 東京, p186-p188.
6. ◎★栗田主一: 高齢者虐待防止法は, 認知症者の虐待防止にどのように役立てられているか. 日本神経学会監修, 「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会編集: 認知症疾患診療ガイドライン2017. 医学書院, 2017, 東京, p189-p191.
7. ◎★岡村毅. 警告うつ病. 精神医学症候群 (第2版) 日本臨牀I. 560-563, 2017
8. ◎★稲垣宏樹: 認知症と社会的つながり. 健康長寿新ガイドラインエビデンスブック (東京都健康長寿医療センター研究所, 健康長寿新ガイドライン策定委員会編著), 102-103, 社会保険出版社, 東京, 2017
9. ◎★Inagaki H, Arai Y, Gondo Y and Hirose N: Tokyo Centenarian Study and Japan Semi-supercentenarian Study. Encyclopedia of Geropsychology, (Nancy A Pachana (ed.)), 2401-2406, Springer, Singapore, 2017
10. ◎★枝広あや子 (共著), 第3章各疾患におけるフレイル予防 1. 口腔疾患におけるフレイル予防, 「プライマリケア医のための実践フレイル予防塾めざせ健康長寿」荒井秀典編著, P22-31, 日本医事新報社, 東京, 2017.10.
11. ◎★枝広あや子 (共著), 第9章認知症高齢者の口腔健康管理 1. 認知症とは, 「疾患を有する高齢者の口腔健康管理」下山和弘・羽村章編集, P177-198, 口腔保健協会, 東京, 2017.7.
12. ◎★枝広あや子 (共著), 第9章認知症高齢者の口腔健康管理 2. 歯科治療時・口腔ケア時・摂食機能訓練時の注意点「疾患を有する高齢者の口腔健康管理」下山和弘・羽村章編集, P198-210, 口腔保健協会, 東京, 2017.7.

13. ◎★枝広あや子 (共著), 第3章診察時にできる老嚥と摂食嚥下障害の評価, 6. 診察時にできる認知症の摂食嚥下障害の評価, 「高齢者の摂食嚥下サポート—老嚥・オーラルフレイル・サルコペニア—認知症—」若林秀隆編著, P93-98, 新興医学出版社, 東京, 2017.2.
14. ◎★栗田主一: アルツハイマー型認知症. 1. 概念, 疫学, 病態, 治療. 三村将企画: 老年精神医学, 診断と治療のABC, 最新医学別冊, 最新医学社, p68-74, 2018, 大阪.
15. ◎★宇良千秋 (共同監修): 健康長寿ノート. 朝日新聞出版, 2018, 東京.

受賞

筋骨格系の老化予防の促進

1. Osuka Y, Suzuki T, Kojima N, Fujino K, Kim HK. Predictive validity of a novel comprehensive assessment tool for sarcopenia (sarcopenia scale): A relationship with the onset of instrumental activity of daily living decline. 3rd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. Seoul. Korea. 2017.10.27-28. Best presentation award.

介護予防の促進

1. 渡邊裕, 日本老年歯科医学会 老年歯科医学会賞, 2017年6月
2. 森下志穂, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 村上正治, 糸田昌隆, 第28回老年歯科医学会学術集会課題口演賞, 2017年6月.
3. 白部麻樹, 平野浩彦, 枝広あや子, 小原由紀, 森下志穂, 本川佳子, 村上正治, 村上浩史, 高城大輔, 渡邊裕, 第28回老年歯科医学会学術集会優秀ポスター賞, 2017年6月.
4. 五十嵐憲太郎, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 梅木賢人, 伊藤誠康, 河相安彦, 小野高裕, 第28回老年歯科医学会学術集会優秀ポスター賞, 2017年6月.

認知症・うつ予防介入

1. 枝広あや子 (森下志穂, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 村上正治, 糸田昌隆), 研究員 (共著): 第28回日本老年歯科医学会優秀口演賞, 介護老人保健施設退所後の在宅療養継続に影響する因子の検討, 2017.6.15.
2. 枝広あや子 (白部麻樹, 平野浩彦, 枝広あや子, 小原由紀, 森下志穂, 本川佳子, 村上正治, 村上浩史, 高城大輔, 渡邊裕), 研究員 (共著): 第28回日本老年歯科医学会優秀衛生演題賞, アルツハイマー型認知症高齢者の嚥下機能低下に関連する予知因子の検討, 2017.6.15.
3. 枝広あや子 (五十嵐憲太郎, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 本川佳子, 梅木賢人, 伊藤誠康, 河相安彦, 小野高裕), 研究員 (共著): 第28回日本老年歯科医学会優秀演題賞, 都市部在住高齢者のフレイルと口腔機能低下との関連に関する検討, 2017.6.15.
4. 宮前史子 (宮前史子, 宇良千秋, 佐久間尚子, 新川祐利, 稲垣宏樹, 伊集院睦雄, 岡村毅, 杉山美香, 栗田主一), 研究員, 第24回日本老年医学会優秀論文賞, 自記式認知症チェックリストの開発 (2): 併存的妥当性と弁別的妥当性の検討, 2017.6.15.

福祉と生活ケア研究チーム

チームリーダー：石崎 達郎

1 研究チームの概要・目的

当チームは、要支援・要介護状態にある高齢者や後期・超高齢期高齢者における生活機能、精神的健康状態、生活の質、そして生活環境向上に資する研究の実践と社会への成果還元をチーム研究の目的とする。対象は高齢者ケアに関わるすべての人々や組織とし、居宅・施設・地域における高齢者ケアの支援のあり方やケアの質の向上に資する研究を推進している。

3つの研究テーマが、①在宅療養環境の改善に関する研究、②要介護者の地域包括ケアシステムに係る医療・介護の連携に関する研究と家族介護者研究、③終末期ケアを支える仕組み作りと普及に関する研究、に取り組んでいる。各テーマでの研究遂行を通じ、研究所・チームのミッションである高齢者の地域生活支援に資するべく、学術・実務の両面にわたって学際的な研究活動を展開し

ている。

2 今後の展望

当研究チームは、Aging in Place実現に向けた研究実践を目的として、「介護予防研究」、「医療・介護システム研究」、そして「介護・エンドオブライフ研究」を推進する。

「介護予防研究」では、介護予防の基盤開発、共助の互助化を目的とする介護予防プログラムの社会実装を目指す。「医療・介護システム研究」では、高齢者・介護者を支える医療・介護システムの実現をゴールとして、地域単位で医療・介護システムを分析し、地域包括ケアシステムに係る課題とその対応策を提言する。「介護・エンドオブライフ研究」では、衰える過程においても、本人の意思に基づくケア実践を可能とする支援ツールや教育方法の開発を行う。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

在宅療養支援方法の開発

テーマ	研究目標・目的	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
在宅療養環境の改善に関する研究	在宅療養環境を改善するための、リハビリテーション、看護技術、心理社会的支援、権利擁護、自治体の支援について研究する。	在宅療養高齢者を対象とした、研究フィールドを構築する。	在宅療養高齢者を対象とした、生活機能低下を起さないための、リハビリテーション、心理社会、生活指導、権利擁護の必要性について実態調査を行う。	在宅療養高齢者を対象とした、生活機能低下を起さないための、リハビリテーション、心理社会、生活指導、権利擁護の必要性について実態調査を行う。	在宅療養環境を改善するための自治体の支援をリハビリテーション、心理社会、生活指導、権利擁護実態調査にもとづいて行う。	在宅療養環境を改善するための自治体の支援をリハビリテーション、心理社会、生活指導、権利擁護実態調査にもとづいて行う。

要介護化の要因解明

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
継続性・包括性の高い長期ケアの提供に関する研究開発	医療や介護サービスを必要とする虚弱高齢者が、生活場所・療養場所を移動する時に生じる医療・介護上の課題について現状把握・要因分析や先事例の収集等を行う研究を基盤として、ケアの継続性と包括性が保証され、高齢者が安心して医療・介護を利用できるサービス提供プログラムを研究開発することを目的とする。	医療介護レセプトデータベースと自治体の介護ニーズ調査等を分析し、地域包括ケアシステム導入に係る課題とその対応策を明らかにする。	地域単位で医療・介護ニーズを分析・検討し、地域包括ケアシステム導入に係る課題とその対応策を検討する。	地域単位で医療・介護ニーズを分析・検討し、地域包括ケアシステムに係る課題とその対応策を検討する。	地域単位で医療・介護ニーズを分析・検討し、地域包括ケアシステムに係る課題とその対応策を検討する。	地域単位で医療・介護ニーズを分析・検討し、地域包括ケアシステムに係る課題とその対応策を提言する。

終末期ケアのあり方の研究

研究項目	研究目標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
終末期ケアを支える仕組み作りと普及に関する研究	良質な看取りケアが提供できる体制づくり、本人の希望に沿って終末期ケアを提供する体制づくりに関する研究を中心として、本人の終末期医療に関する意思を事前に書き残す取り組みなど、本人、家族、医療・福祉サービス提供者等、関係者間の合意に基づくケア実践を支える研究を進める。	終末期ケア実践支援に関する研究成果の整理と課題に関する議論	終末期ケア実践支援プログラムの開発、試行と汎用性向上に向けた実践者との討論	終末期ケア実践支援プログラムの試行を通じた実践及び制度上の課題分析	終末期ケア実践支援プログラムの評価	終末期ケア実践支援プログラムの普及と定着に向けた提案

在宅療養支援方法の開発

構成メンバー

テーマリーダー：大淵修一

研究員：伊東美緒、河合恒、菊地和則、増井幸恵

非常勤研究員：解良武士

1 第二期中期計画の研究成果

在宅療養支援研究テーマでは、在宅療養環境を改善するためのリハビリテーション（以下、リハ）、看護技術、心理的社会的支援、権利擁護、自治体の支援について研究することを目的とした。

リハについては、医学的リハを提供している施設を対象に、標準的算定日数を超えるリハ患者の調査を行った。標準的算定日数を越えたものは合併症により標準的なりハが行えず遅延し、かつ医学的処置が必要であることがわかった。そこで、介護保険によるリハの調査をしたところ、介護保険によるリハでは医療機関と診療記録や各種検査データの連携がなされておらず医学的処置の必要度が高い患者の受け入れは困難であった。さらに従事者は容態が急変した際の医療機関での受け入れ体制に不安があった。この結果については厚生労働省の老人保健事業の報告書としてまとめ国に提言した。

看護技術については、認知症の周辺症状を改善する可能性のあるユマニチュードケアについて、療養型病院で対照試験をおこない効果を確認した。その後、多施設において検証を行い一定の改善効果を確認した。さらに1回2時間の直接指導と教材の定期的郵送による在宅でのケア支援方法を開発し、福岡市において周辺症状の改善効果を確認した。

心理社会的支援については、老年人的超越と呼ばれる、超高齢期の新たな適応について評価表を作成し、老年人的超越が疾病や心身機能が低下時の精神的健康の低下を食い止めることを縦断データで明らかにした。この結果から、超高齢期に「感謝」、「自己肯定」、「思いやり」を強調することが老年人的超越を促し、心身機能の衰えが著明となる超高

齢期のよい適応をもたらすと考えられた。これに基づき在宅での老年人的超越を促すプログラムを作成し亀岡市において検証に着手した。

権利擁護については、認知症高齢者の徘徊による死亡の要因について研究した。厚生労働省から提供された認知症高齢者の行方不明死亡者の状況について分析したところ、行方不明による死亡は午後に行方不明となった例が6割以上あり、1日目での死亡が約4割と最も多く、死因は溺死と低体温症が多かった。発見場所は自宅周囲、それより離れた場所で大きな差はなく、場所の推定は難しいことがわかった。これらのことから当然のことであるが早期発見が重要であり特に冬場は1日以内に発見できる地域体制の構築が課題であると考えられた。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<在宅療養環境を改善するリハに関する研究>

埼玉医科大学、弘前大学

<在宅療養環境を改善する看護技術に関する研究>

東京医療センター

<在宅療養環境を改善する心理的社会的支援に関する研究>

大阪大学

<在宅療養環境を改善する権利擁護に関する研究>

自立促進と介護予防研究チーム、桜美林大学、県立広島大学

<在宅療養環境を改善する地域づくりに関する研究>

東京都介護予防推進支援センター、医療経済研究機構、京都大学大学院医学研究科

3 今後の展望

(1) 在宅療養環境を改善する地域づくりに関する研究（共助の互助化）

在宅療養環境を改善するには、地域包括ケアシステムの構築が欠かせない、医療と介護の連携についての課題もあるが、地域のケアシステムの中

に住民が関与していくことが必要になる。一方、無計画な関与は、地域の私的統制を高め、在宅療養者が社会的に排除されやすくなることも危惧される。また、住民の関与を持続可能な社会システムとするには、関与によって生じる様々な課題の調停機能が必要となる。この課題の解決には、(1)教育プログラム、(2)ケアプランとの連携、(3)利用者への影響評価、(4)関与者への影響評価、(5)地域への影響評価を行い、住民が関与することが社会的に有効であることを示さなくてはならない。

平成27年度の介護保険制度の改定により、要支援の財源が自治体に移管され、地域の合議のもと、様々な在宅療養を支援するサービスの構築が可能となった。本研究ではその仕組みを活用し、まず通所サービスにおいて、専門職の支援を受けながら住民がサービスを提供するモデルを構築しその効果を明らかにする。これにおいて望ましい効果が確認されたなら訪問サービスに拡大して影響評価を行う。

在宅療養支援研究テーマでは、テーマ内でのサブテーマの設定に課題を指摘されていたが、第三期での研究では、すべての研究員でこの課題に取り組みたい。

要介護化の要因説明

構成メンバー

テーマリーダー：石崎達郎

研究員：涌井智子、森寛子、光武誠吾

非常勤研究員：寺本千恵、藤本修平、土屋瑠見子、天野方一

1 第二期中期計画の研究成果

地域単位で医療・介護ニーズを分析・検討し、地域包括ケアシステムに係る課題とその対応策を検討し、質の高いケアのための方策を提言することを目的として、①医療ニーズに関する研究、②介護ニーズに関する研究、③医療と介護の連携に関する研究について研究を進めてきた。①医療ニーズに関する研究としては、平成25年度、相馬市の医療・介護レセプトデータを用いて、死亡前1年間における療養場所の移動と累積入院日数を把握し論文発表した。平成26年度後半から東京都後期高齢者医療広域連合レセプトデータのデータベース構築を開始し、翌年2月に慢性疾患・多病の有病状況（3種類の慢性疾患の組み合わせ）を把握した（論文執筆中である）。平成27年度は、東京都の後期高齢者の慢性疾患の有無データと健診データを突合し、後期高齢者の健康診査のあり方を

検討するとともに、東京都の後期高齢者（130万人）を対象とする多剤処方疫学研究を進めている。これらの実績から、平成28年度・29年度に厚労省の検討会に構成員として参画し、新しい保健事業の導入に取り組んでいる。他方、東京都の在宅医療実態把握に関する研究を開始し、在宅医療実施者の地域比較、退院支援に係る診療行為の頻度を把握し、厚労省・東京都へ報告した。平成27年秋から東京大学在宅医療拠点・東京大学高齢社会総合研究機構との共同研究を開始し、千葉県柏市の医療・介護レセプトデータベースの開発に着手、平成28年3月までに医科レセプト・介護レセプト・介護保険料区分・介護認定調査（1次）を統合したデータベースを開発した。平成28年度はこのデータを用いて、③医療と介護の連携に関する研究として、療養場所移行に伴うリハビリテーションの継続性に関する研究を開始した（論文投稿中）。平成29年度は、3種類のレセプトデータ（東京都後期高齢者医療、相馬市医療介護、柏市医療介護）を用いて、多病・多剤処方の疫学研究、在宅医療の実態把握、移行期におけるリハビリテーション継続に関する研究を継続している。②介護ニーズに関する研究では、介護者研究として、国民生活基礎調査個票データと米国のナショナルデータ（National Health and Trends Study、National Study of Caregiving）を用いて家族介護に係る日米比較研究を推進している。論文発表に向けて順当な進行であったが、平成29年度夏から主担当研究員の産休・育休のため、現在は研究を中断している。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<後期高齢者における多病の有病状況とパターンの解明>

理事長、医療経済研究機構、京都大学大学院医学研究科

<移行期ケアに関する研究>

医療経済研究機構

<切れ目のないリハビリテーションのあり方に関する研究>

医療経済研究機構

<在宅医療患者におけるリハビリテーションの実施状況>

筑波大学医学医療系、東京大学高齢社会総合研究機構、東京大学高齢社会総合研究機構

<日本の家族介護の変遷と家族介護力についての将来予測>

東京大学、筑波大学、早稲田大学

<家族介護実態の日米比較に関する研究>

3 今後の展望

研究課題1：高齢者の特性に応じた保健事業の開発と評価

研究目標 後期高齢者の特性に適合した保健事業の一つとして多剤処方者に対する服薬管理・指導の社会実装をゴールとして、多剤処方スクリーニング法の開発、地域における服薬指導プログラムの開発を目標とする。

研究のねらい 後期高齢者の多くは複数の慢性疾患（多病）を抱え、数多くの薬剤が処方されており（多剤処方）、多剤処方は高齢者医療の重要課題である。多剤処方対策は臨床上のみならず公衆衛生上の課題でもある。後期高齢者の保健事業・健康診査は、高齢者の特性に適合した内容が求められていることから、フレイルや低栄養、口腔と併せて、多剤処方者に対する服薬指導・管理が準備されている。保健事業として服薬指導を実施する際、地域の中から多剤処方者を抽出する必要がある、それには多剤処方ハイリスク者のスクリーニングが必要である。本研究に着手することで、多剤処方ハイリスク者のスクリーニング法を開発すると同時に、医師や薬剤師等の医療職と連携する服薬指導プログラムを開発する。

研究開発のアプローチ 後期高齢者を対象とする健診実施の際、受診者一人ひとりの疾患や処方薬に係る健康情報を網羅的に把握する問診票を開発し、そこで収集した情報を保健指導に活かすことが重要である。本研究ではレセプトデータや国が実施する公的統計情報を分析し、対象者のスクリーニング法や保健指導プログラムを開発する。

予想される問題点とその解決策 多剤処方の定義が定まっていないため、複数の定義を操作的に設定し、その中で多剤処方割合やスクリーニング予測能を比較することで、最良の予測能を示す定義を選択する。処方薬剤数のカウント方法については、処方日数を考慮して継続服用薬剤を定義し、継続服用薬剤に限定して薬剤数をカウントすることも検討している。

研究課題2：移行期における医療・介護サービス利用に関する研究

研究目標 療養場所を移動する移行期において、移動後も必要な医療・介護サービスが継続して提供されているか検証し、ケア提供の継続性が保証される医療・介護システムの構築方法を検討する。

研究のねらい 第三期開始直後は現在取り組んでいるリハビリテーションの継続に着目した研究を継続し、入院中にリハビリテーションを受けた高

齢患者を対象に、入院前と退院後のリハビリテーションの実施の有無を把握し、退院後の療養場所を把握し、療養場所ごとにリハビリテーション継続の有無を分析する。

研究開発のアプローチ 入院前後の移行期において、高齢者に必要とされる医療・介護サービスが継続的に利用されているのか、レセプトデータ等を用いて同定する。その際、要介護認定調査情報やレセプト情報を用いて対象者のリハビリテーションニーズを捉える。療養場所別（居宅、居住系施設、医療施設、介護保険施設等）に、リハビリテーションの利用状況やその後の入院・入所イベント発生の有無を捉え、リハビリテーションの効果を検討する。

予想される問題点とその解決策 医療レセプトと介護レセプトの両者が利用可能で、かつ、要介護認定情報が揃っているデータは、現時点では1市しかない。第三期においては、これらデータの利用可能な自治体を増やし、レセプトデータベースを拡大する必要がある。

終末期ケアのあり方の研究

構成メンバー

テーマリーダー：島田千穂

研究員：平山亮、中里和弘

非常勤研究員：高橋龍太郎

1 第二期中期計画の研究成果

本テーマでは、1) 高齢者本人の終末期に関する事前の意思表示支援の方法、2) 代理意思決定を担う家族への準備支援ニーズ、3) 介護・看護職による看取りケア態勢整備の3つの研究課題を設定した。第二期には、良質な終末期ケアを目指す上での課題を明確にすることができ、来期の実装研究に進めるための基礎的資料が獲得できた。

1) については、ライフデザインノートを作成し、地域の高齢者を対象とした試行的研究を行ったところ、ノートに対する肯定的評価が得られたものの、意思表示への効果は限定的であった。インタビュー調査結果から、高齢者は、家族の意向を汲み入れて自らの意思を形成する可能性が示唆された。本人の意思表示においては家族内のコミュニケーション促進を含む、意思を引き出すための長期の支援過程が課題となることが明確になった。

2) については、65歳以上の親を持つ子を対象にした調査から、以下の点が明らかとなった。親子間のコミュニケーション成立は、子の必要性

認識と情緒的回避の二つの要因があり、コミュニケーションを促進する介入プログラムにおいては、これら二側面を考慮する必要があることがわかった。子の意思決定パターンは、本人優先型、家族中心型、医療者依存型、バランス志向型の4類型に分かれた。社会経済的地位が低いと、医療者依存型に類型化される確率が高くなることから、代理意思決定支援の必要性が高い可能性がある。在宅での看取り後の遺族を対象とした調査結果からは、代理意思決定支援を受けたと認識している遺族ほど、受けたケアの評価が高く、達成感が高くなり、最終的な看取りの満足度が高かった。代理意思決定支援は、家族支援において重要な要素であることが確認できた。

3) については、介護・看護職が中心となる高齢者介護施設のうち、最重度の要介護者を入所者とする特別養護老人ホームを対象として、看取りケア態勢に関連する要因について析出した。調査結果から、能動的に医療の選択支援に関与する看護師のいる特別養護老人ホームほど、看取り期における積極的医療行為が少なくなる傾向があることが示され、看護職の看取りへの関与が看取りケア内容に影響する可能性を明らかにした。介護・看護職によるケア態勢整備のための方法論として、施設内で体系的に振り返りを行うプログラム(反照的習熟プログラム)を開発・実施し、言語化、内省、概念化といったプロセスで実践から知識を獲得する経験学習が促進されることを質的分析により確認するとともに、そのプロセスが参加者の認識変容に影響されることを計量的に示した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<高齢者本人の終末期に関する事前の意思表明に伴う課題>

自立促進と介護予防研究チーム、センター緩和ケアチーム、東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター、東京女子医科大学看護学部、国際医療福祉大学医療福祉経営専攻医療経営管理分野

<代理意思決定を担いする家族への準備支援ニーズの明確化>

福祉と生活ケア研究チーム要介護化の要因解明、青森県立保健大学

<介護・看護職による看取りケア態勢整備>

福祉と生活ケア研究チーム在宅療養支援方法の開発、四條畷学園大学看護学部、名古屋市立大学看護学部、千葉大学大学院看護学研究科、早稲田

3 今後の展望

全体目標

研究目標は、「衰える過程において、本人の意思に基づくケアを可能とする支援ツールや教育方法の開発を行う」ことである。家族もケアの対象としながら、衰える過程にある本人の意思に基づく支援方法やケア提供者への教育方法を提案する。

(1) 認知症高齢者のエンドオブライフケアに関する意思表明を漸次的に支援する方法の開発と表明される意思の変化のプロセス

<研究目標>

認知症を有する高齢者本人の意思に基づくケアが提供できるよう、その表明を支援する方法を開発する。

<研究のねらい>

短期的には高齢者本人が、終末期に関する意思を事前に表明できる支援ができること、長期的には高齢者本人が終末期ケアを受ける時に、意思に基づく決定がなされることである。

<研究開発のアプローチ>

ケアマネジャーを通じて、この地域に住む軽度認知症の高齢者から追跡データが収集できる対象者集団を確保する。また、認知症高齢者の意思表明支援とエンドオブライフケアにおける意思決定に関する課題を、公的統計や全国調査のデータ分析に基づくマクロな動向に照らして明確化しつつ、課題解決に向けた研究に取り組む。

<予想される問題点>

長期的な効果について、追跡が不十分になる可能性がある。

(2) 認知症高齢者を介護する家族の介護負担軽減を意図した教育介入

<研究目標>

認知症高齢者を介護する家族の負担軽減のための具体的方法論を開発し、その方法の効果を検証する。

<研究のねらい>

認知症家族介護に関する課題と実践的アプローチの社会的意義の明確化のため、日本及び東京都や高島平地区の高齢者の世帯・親族状況や、認知症介護ニーズ等の全体像を把握する。開発する支援方法がその全体像に合致していることを確認しつつ、具体的な方法論を開発し、研究に取り組む。

<研究開発のアプローチ>

認知症高齢者の介護ニーズに関する調査を行う。家族介護を困難にする認知症高齢者のBPSD、認知

症高齢者が混乱しやすい居住環境について把握する。その上で、家族を対象とした教育介入方法を開発し、教育介入研究を行う。アウトカム指標は、介護者の介護負担感、及び認知症高齢者のBPSDの程度とする。

<予想される問題点>

長期的な効果について、追跡が不十分になる可能性がある。

(3) エンドオブライフにおける状態変化を把握するためのデータベース構築と変化パターンの類型化を用いた状態把握共有ツールの開発

<研究目標>

重度要介護者の機能について経時的にデータ収集を行い、その変化の軌跡のパターンを分析する。類型化されたパターンを用いて、ケアチームの状態把握のずれを明確化し、状態変化を共有するためのツールを開発する。

<研究のねらい>

重度要介護者の状態変化予測をケアチーム内で共有するツールを開発する。

<研究開発のアプローチ>

ケアマネジャーを通じて、この地域に住む重度要介護状態の高齢者から追跡データが収集できる対象者集団を確保し、在宅ケアチームとの研究協力体制を構築する。

<予想される問題点>

研究ネットワーク構築に時間が必要である。

論文・学会発表

在宅療養支援方法の開発

1 学会発表

(1) 海外

1. Hisashi Kawai: Measurement of walking speed in daily living / quality of measurement instruments, New initiatives, the 21th combined meeting of CEN/TC 122/WG 4 'Biomechanics' and ISO/TC 159/SC 3/WG 4 'Human physical strength -Manual handling and force limits', Sevilla, Spain, 2017.10.30-31.
2. Kazushige Ihara, Masashi Tanaka, Masashi Hashizume, Shigeru Morinobu, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Mitsugu Hachisu, Motonaga Kojima, Hisashi Kawai, and Shuichi Obuchi: Exome-wide association study identifies the association between depression, height and DOCK3, The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017), Saitama, Japan, 2017.8.19-22.
3. Hisashi Kawai, Kazushige Ihara, Hideyo Yoshida, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, and Shuichi Obuchi: Influence of statin use on the physical function among community-dwelling older Japanese adults, The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Sanfrancisco, USA, 2017. 7.23-27.

4. Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Maki Shirobe, Jun Yasuda, Hirohiko Hirano, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, and Yutaka Watanabe: Relationship between frailty and dietary variety among older adults, The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Sanfrancisco, USA, 2017. 7.23-27.
5. Ken Nishihara, Hisashi Kawai, Kazuhiko Hara, and Fumihiko Hoshi: Relationship between ultrasonic echo intensities of the skeletal muscle and liver in elderly and young individuals, The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Sanfrancisco, USA, 2017. 7.23-27.
6. Mio Ito, Miwako Honda, Chiho Shimada, Improvement of behavioral and psychological symptoms of dementia (BPSD) by teaching basic comprehensive standardized care methodology to family caregivers, 13th International Congress of the European Union Geriatric Medicine Society, Nice France, September 20-22, 2017
7. Miwako Honda, Mio Ito, Yves Gineste, 2-hour interactive workshop for family caregivers followed by weekly instruction with postcard for 12 weeks reduced burden of caregivers and improved behavioral psychological symptoms of dementia (BPSD) of care receivers, 13th International Congress of the European Union Geriatric Medicine Society, Nice France, September 20-22, 2017
8. Chiho Shimada, Ryo Hirayama, Tomoko Wakui, Mio Ito, What Leads Care Managers to Engage in End-of-Life Discussions With Older Clients in Japan? An Examination on the Effect of Clients' Use of Home-Visiting Medical Care Services, 13th International Congress of the European Union Geriatric Medicine Society, Nice France, September 20-22, 2017
9. Mio Ito, Ruth Campbell, Akiko Kan, Noriko Miyamoto, Sakaei Tsuboyama, Yukiko Kurokawa, The possibility of Couple Life Story Project Reducing Caregivers Burden, IAGG2017, San Francisco, July 23-27 2017
10. Mio Ito, Chiho Shimada, Kazunori Kikuchi, Hisashi Kawai, Yukie Masui, Shuichi Obuchi, "Stroll to the Park" program for persons with dementia, 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, Kyoto, 2017.4.26-29
11. Iwasa H., Masui Y., Gondo Y., Inagaki H., Yoshida Y.: Personality and All-Cause Mortality: Combined Analysis Between Neuroticism and Extraversion, The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, 2017.6.23-27.
12. Masui Y., Inagaki H., Gondo Y., Kurinobu T., Ikebe K., Kamide K., Arai Y., Ishizaki T.: Premorbid Personality and the Occurrences of the Risk of MCI After 3 Years in Japanese Elderly, The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, 2017.6.23-27.
13. Arai Y., Hirata T., Takayama M., Abe Y., Ishizaki T., Masui Y., Kamide K., Gondo Y.: Urinary Albumin-to-Creatinine Ratio and Carotid Atherosclerosis in the Very Old, The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, 2017.6.23-27.
14. Takayama M., Ishioka Y., Sugawara I., Masui Y., Saganuma M., Ogawa M.: Social Capital, Health, and Subjective Well-Being in the Very Old: The K2 Study, The 21th IAGG World Congress of Gerontology and

Geriatrics, San Francisco, 2017.6.23-27.

15. Kabayama M., Kamide K., Gondo Y., Sugimoto K., Masui Y., Ishizaki T., Arai Y., Rakugi H.: The Association of Blood Pressure With Frailty Among Community-Dwelling Older People, The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, 2017.6.23-27.
16. Sugawara I., Takayama M., Ishioka Y., Sugauma M., Masui Y., Ogawa M.: Neighborhood Social Support and Companionship Among the Very Old Living in an Urban Area in Japan, The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, 2017.6.23-27.
17. Gondo Y., Hirose N., Masui Y., Inagaki H., Arai Y.: Paradoxical Association Between Longevity-Related Personality Traits and Mortality in Centenarians, The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, 2017.6.23-27.

(2) 国内

1. 本川佳子, 渡邊裕, 枝広あや子, 平野浩彦, 白部麻樹, 大瀨修一, 河合恒, 田中弥生: 地域在住高齢者のフレイル重症度と食品摂取多様性の関わり, 第37回食事療法学会, 沖縄, 2018.3.3-4.
2. 藤原佳典, 井原一成, 端詰勝敬, 河合恒, 鈴木宏幸, 小川将, 桜井良太, 平野浩彦, 渡邊裕, 大瀨修一, 蜂須貢: 地域高齢者における血清BDNF値が簡易検査による認知機能低下におよぼす影響, 第28回日本疫学会総会, 福島, 2018.2.1-3.
3. 河合恒, 井原一成, 解良武士, 鈴木宏幸, 平野浩彦, 藤原佳典, 大瀨修一: 地域高齢者における継続的なスタチン服用の運動機能、抑うつ、認知機能への影響, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
4. 関口晴子, 河合恒, 解良武士, 江尻愛美, 伊藤久美子, 本島安純, 大瀨修一: 介護予防リーダー講座によって活動を実践する自信が向上した者の特性, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
5. 本橋佳子, 渡邊裕, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 三上友里江, 大須賀洋祐, 平野浩彦, 金憲経, 北村明彦, 藤原佳典, 大瀨修一, 石崎達郎, 新開省二, 栗田主一: 高島平Study(7)大都市部在住高齢者における口腔への関心に関連する因子の検討, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
6. 三上友里江, 渡邊裕, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 本橋佳子, 大須賀洋祐, 平野浩彦, 金憲経, 北村明彦, 藤原佳典, 大瀨修一, 石崎達郎, 新開省二, 栗田主一: 高島平Study(8)都市部在住高齢者の外出頻度の減少と口腔機能低下との関連, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
7. 白部麻樹, 渡邊裕, 本川佳子, 本橋佳子, 三上友里恵, 大須賀洋祐, 枝広あや子, 平野浩彦, 小川まどか, 稲垣宏樹, 河合恒, 大瀨修一, 金憲経, 栗田主一, 新開省二: 高島平Study(9)大都市部在住高齢者のかかりつけ歯科医院への受診と口腔・栄養との関連, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
8. 森倉三男, 河合恒: 都市近郊戸建て住宅居住者の近隣相互の支え合いに関する意識調査, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
9. 桜井良太, 河合恒, 金憲経, 鈴木宏幸, 小川将, 渡邊裕, 平野浩彦, 井原一成, 大瀨修一, 藤原佳典: 高齢者の自転車運転時の転倒に関連する要因の検討: 横断および縦断的検討, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
10. 伊藤久美子, 河合恒, 江尻愛美, 大瀨修一: デイサービスでの教育が地域住民のサービス提供の自信に与える効果, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
11. 江尻愛美, 本島安純, 河合恒, 大瀨修一: 住民主体の実践を目的とした介護予防体操の開発プロセスと効果の検証, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017.10.31-11.2.
12. 河合恒, 西村悟史, 西村拓一, 吉田康行, 江尻愛美, 本島安純, 安永正史, 藤原佳典, 大瀨修一, 豊島研究グループ: 知識発現を用いた介護予防リーダー支援のためのプロセス知識の抽出と構造化, 第12回日本応用老年学会大会, 東京, 2017.10.22.
13. 松永博子, 鈴木章一, 中村桃美, 西山裕也, 渡邊修也, 遠座俊明, 崎山みゆき, 渡辺修一郎, 長田久雄, 河合恒, 大瀨修一, 藤原佳典: 健康調査からみた高齢者の就労状況と職業能力判定項目および身体・認知機能との関連, 第12回日本応用老年学会大会, 東京, 2017.10.22.
14. 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 杉山美香, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 岡村毅, 村山洋史, 大瀨修一, 藤原佳典, 金憲経, 井原一成, 河合恒, 渡邊裕, 平野浩彦, 栗田主一: オーラルフレイルと認知機能、抑うつ傾向の関連, 第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 京都, 2017.10.14-15.
15. 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 井原一成, 田中弥生, 金憲経, 藤原佳典, 大瀨修一, 河合恒, 平野浩彦, 渡邊裕: オーラルフレイルと食事・栄養の関わり, 第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 京都, 2017.10.14-15.
16. 小原由紀, 渡邊裕, 平野浩彦, 白部麻樹, 枝広あや子, 本川佳子, 河合恒, 藤原佳典, 大瀨修一, 遠藤圭子: 地域在住高齢者における歯科保健指導経験の有無に関連する因子の検討, 日本歯科衛生学会第12回学術大会, 東京, 2017.9.16-18.
17. 白部麻樹, 小原由紀, 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 村上正治, 本川佳子, 河合恒, 大瀨修一: 地域在住高齢者における咀嚼能力指標に関する実態調査, 日本歯科衛生学会第12回学術大会, 東京, 2017.9.16-18.
18. 河合恒, 解良武士, 平山亮, 平野浩彦, 藤原佳典, 井原一成, 小島基永, 大瀨修一: 超音波画像計測による地域高齢者の大腿四頭筋の形態的特徴の分類 運動機能及びサルコペニアとの関係, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
19. 江尻愛美, 藤原佳典, 河合恒, 井原一成, 平野浩彦, 小島基永, 大瀨修一: 都市高齢者における社会的孤立の予測要因の解明: 前向きコホート研究, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
20. 本川佳子, 枝広あや子, 村上正治, 白部麻樹, 田中弥生, 河合恒, 大瀨修一, 平野浩彦, 渡邊裕: 地域在住高齢者における咀嚼機能と栄養素・食品群別摂取量および低栄養との関わり, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
21. 河合恒, 大瀨修一, 藤原佳典, 平野浩彦, 渡邊裕, 荒木厚, 小山照幸, 杉江正光, 小島基永, 中田晴美, 鈴木隆雄: コーディネーターのかかりによる私的社会的統制を強めない住民協働の介護予防の推進効果, 当事者主体の地域包括ケアを目指して, 日本老年学会総会合同シンポジウム, 名古屋, 2017.6.14-16.
22. 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 奈良毬那, 河合恒, 藤本肇, 大瀨修一, 小山照幸, 許俊鋭, 井藤英喜: 退院高齢者

- のフレイル対策を目的とする当センターの「高齢者健康増進センター」が開発したコンビネーショントレーニングの包括的フレイルへの有効性、第59回日本老年医学会学術集会、名古屋、2017.6.14-16.
23. 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 奈良毬那, 小山照幸, 藤本肇, 大淵修一, 金憲経, 許俊鋭, 井藤英喜: 地域在住高齢者におけるフレイル関連因子とpeak VO2との関連, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 24. 奈良毬那, 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 大淵修一, 小山照幸, 許俊鋭, 井藤英喜: 地域在住高齢者の運動参加頻度がフレイル関連指標に及ぼす影響, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 25. 小島成実, 金美芝, 齋藤京子, 吉田祐子, 平野浩彦, 大淵修一, 島田裕之, 鈴木隆雄, 金憲経: 食習慣が地域在住高齢女性の日常生活動作の変化に及ぼす影響: 4年間の縦断研究, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 26. 解良武士, 河合恒, 平野浩彦, 小島基永, 藤原佳典, 井原一成, 大淵修一: 地域に在住する肥満高齢者の縦断的観察に関する研究 1年間後の肥満からサルコペニア肥満への進展の要因についての検討, 第52回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.12-14.
 27. 伊藤久美子, 安斎紗保理, 河合恒, 大淵修一: リハビリテーション専門職が新しい総合事業における多様なサービスCの実施に至るまでの検討プロセス, 第52回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.12-14.
 28. 伊東美緒, 本田美和子, 島田千穂: 強いBPSDを呈する超高齢患者への包括的ケア技法を用いた長期的介入の効果, 第1回日本エンドオブライフケア学会, 東京, 2017.9.16-17.
 29. 伊東美緒: ケアによって生じるBPSDをケアの力で回避する一不同意メッセージという考え方の提案一, 日本認知症ケア学会2017年度関東地域大会, 千葉, 2017.10.29.
 30. 伊東美緒: 認知症高齢者を対象としたプロフェッショナルの音楽療法を最大限に有効活用するためのビデオとチェックシートの併用の効果, 平成29年度全国老人福祉施設研究会議, 高知, 2017.10.17-18.
 31. 松浦知子, 遠藤淳子, 宗形初枝, 伊東美緒, 本田美和子: 療養病棟における患者の日常生活拡大に向けての取り組み～「立つ支援」に対する職員の意識調査, 福島県看護学会, 郡山, 2017.10.18.
 32. 伊東美緒, 本田美和子, 島田千穂, 大淵修一: 認知機能が低下した人との基本的コミュニケーション方法の介護家族への伝達, 日本老年看護学会第22回学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 33. 上村大輔, 西川由花, 桂原ゆかり, 安藤可奈, 伊東美緒: 高齢者が認識しやすいピクトグラムを用いて安静度別リハビリプログラムを提示した効果, 日本老年看護学会第22回学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 34. 舘山愛, 堀敬子, 覚知現, 三崎春奈, 伊東美緒: 急性期病院から回復期リハビリテーション病院への退院サマリーのあり方に関する研究, 日本老年看護学会第22回学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 35. 西川つぐみ, 鉄谷祥子, 亀井めぐみ, 伊東美緒: 高齢者専門病院に勤務する看護師の経験に基づくせん妄予測と発症予防の言語化に関する研究, 日本老年看護学会第22回学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 36. 島田千穂, 伊東美緒, 原沢優子, 平山亮: 特別養護老人ホームの看取りケア内容と看取り期における看護職の関与の仕方と関連, 日本老年看護学会第22回学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 37. 島田千穂, 伊東美緒, 原沢優子: 特別養護老人ホームの医療体制と看取りケア実施状況, 第59回日本老年医学会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 38. 島田千穂, 堤福子, 木村陽子, 奥田あゆみ, 千田真子, 伊東美緒: 地域包括ケアシステムに求められる急性期看護とは何か, 日本老年看護学会第22回学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 39. 伊東美緒, 島田千穂, 涌井智子, 大枝真弓, 松家まゆみ, 松原弘子, 天野友貴, 菅野美加子, 坪むつみ, 児玉寛子: 介護支援専門員が認知症高齢者の在宅生活の継続を困難と判断する要因, 第18回日本認知症ケア学会大会, 沖縄, 2017.5.26-27.
 40. 島田千穂, 伊東美緒, 涌井智子, 大枝真弓, 松家まゆみ, 松原弘子, 天野友貴, 菅野美加子, 坪むつみ, 児玉寛子: 介護支援専門員の介護規範意識と認知症高齢者の在宅継続断念の判断と関連, 第18回日本認知症ケア学会大会, 沖縄, 2017.5.26-27.
 41. 菅家穰, 齊藤治美, 中野目あゆみ, 宗形初枝, 原寿夫, 伊東美緒, 本田美和子: スタンディングマシンを活用した認知症の人への立位時間を確保した事例報告(1), 第18回日本認知症ケア学会大会, 沖縄, 2017.5.26-27.
 42. 伊藤和子, 遠藤淳子, 香山壮太, 宗形初枝, 原寿夫, 伊東美緒, 本田美和子: スタンディングマシンを活用した認知症の人への立位時間を確保した事例報告(2), 第18回日本認知症ケア学会大会, 沖縄, 2017.5.26-27.
 43. 大内和代, 松浦知子, 香山壮太, 宗形初枝, 原寿夫, 伊東美緒, 本田美和子: スタンディングマシンを活用した認知症の人への立位時間を確保した事例報告(3), 第18回日本認知症ケア学会大会, 沖縄, 2017.5.26-27.
 44. 菅亜希子, 伊東美緒, 管偉辰, 柏井美晴, 渡邊雅也: 認知症高齢者を対象とした音楽療法を最大限に有効活用するためのビデオの活用, 第18回日本認知症ケア学会大会, 沖縄, 2017.5.26-27.
 45. 管偉辰, 柴田萌, 青山菜月, 安東美代子, 田村孝司, 伊東美緒, 菅亜希子: 参加型音楽プログラム出席者の要介護度に関するコホート研究 一3年8か月のプログラム実施を通じて一, 第18回日本認知症ケア学会大会, 沖縄, 2017.5.26-27.
 46. 伊東美緒, 大堀耕太郎, 佐藤陽, 島田千穂, 田中とも江, 橋田浩一, 松井くにお: 標準ケアオントロジーの構築に向けて, 2017年度人工知能学会全国大会, 名古屋, 2017.5.23.
 47. 増井幸恵, 池邊一典, 権藤恭之, 神出計, 新井康通, 栗延孟, 小川まどか, 稲垣安樹, 石崎達郎, 前田芳信: 会場招待型調査を脱落した後期高齢者の身体機能と精神的健康の縦断的变化 一訪問調査データを用いた80歳参加者と90歳参加者の比較一, 第59回日本老年社会学会大会, 愛知, 2017.6.14-16.
 48. 石岡良子, 高山緑, 菅原育子, 増井幸恵, 小川まどか, 菅沼真樹: 都市部に在住する後期高齢者の家庭での役割行動の評価尺度 一K2 study データを用いて一, 第59回日本老年社会学会大会, 愛知, 2017.6.14-16.
 49. 蔡羽淳, 権藤恭之, 中川威, 増井幸恵, 安元佐織, 神出計, 池邊一典, 石崎達郎, 高橋龍太郎, 新井康通: 高齢者の主観的幸福感に影響を与える要因に関する研究 一感謝感情に注目して一, 第59回日本老年社会学会大会, 愛知, 2017.6.14-16.
 50. 後藤扶美香, 権藤恭之, 安元佐織, 増井幸恵, 中川威, 神出計, 池邊一典, 石崎達郎, 新井康通: 非親族との社

- 会関係が高齢期の主観的幸福感に与える影響 —「弱いつながり」に着目して—, 第59回日本老年社会学会大会, 愛知, 2017.6.14-16.
51. 高山緑, 石岡良子, 孫怡, 菅原育子, 増井幸恵, 小川まどか, 菅沼真樹: 後期高齢期における幸福感, 地域への意識, 地域環境との関係性 —K2 study データを用いて—, 第59回日本老年社会学会大会, 愛知, 2017.6.14-16.
 52. 権藤恭之, 増井幸恵: 百寿者に学ぶ健やかなエイジング百寿者の心理, 第32回日本老年精神医学会, 愛知, 2017.6.14-16.
 53. 澤山泰佳, 樺山舞, 龍野洋慶, 杉本研, 権藤恭之, 増井幸恵, 新井康通, 石崎達郎, 樂木宏実, 神出計, 生活習慣病を有する地域一般住民高齢者における喫煙が認知機能に与える影響について SONIC研究, 第59回日本老年医学会学術集会, 愛知, 2017.6.14-16.
 54. 高山緑, 石岡良子, 孫怡, 菅原育子, 増井幸恵, 小川まどか, 菅沼真樹: 後期高齢期における幸福感, 地域への意識, 地域環境との関係性 K2 studyデータを用いて, 第59回日本老年医学会学術集会, 愛知, 2017.6.14-16.
 55. 澤山泰佳, 樺山舞, 権藤恭之, 龍野洋慶, 関口敏彰, 清重映里, 赤木優也, 山本浩一, 杉本研, 池邊一典, 新井康通, 増井幸恵, 石崎達郎, 樂木宏実, 神出計: 地域一般住民高齢者における喫煙と認知機能 生活習慣病の関与 SONIC研究, 第53回日本循環器病予防学会学術集会, 京都, 2017.6.16-17.
 56. 増井幸恵: 高齢期の身体的な問題を乗り越える心のあり方とその発達 (シンポジウム: より良い加齢のために重要な心理的資源とは: 人生後半期を対象とする学際的研究から), 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.20-22.
 57. 増井幸恵, 権藤恭之, 中川威, 小川まどか, 石岡良子, 小園麻里菜, 蔡羽淳, 安元佐織, 小野口航, 稲垣宏樹: 地域在住前期高齢者における老年的超越の発達 —SONIC研究70歳コホート6年間の縦断データを用いた検討—, 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.20-22.
 58. 小野口航, 福川康之, 樺山舞, 権藤恭之, 増井幸恵, 石崎達郎, 安元佐織, 松本清明: 高齢者におけるソーシャル・キャピタルの地域差と年代差 —SONIC研究の横断的データから—, 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.20-22.
 59. 石岡良子, 高山緑, 菅原育子, 増井幸恵, 小川まどか, 菅沼真樹: 後期高齢者の生活に対する将来展望と認知機能との関連 —K2 studyデータを用いて—, 高齢者におけるソーシャル・キャピタルの地域差と年代差 —SONIC研究の横断的データから—, 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.20-22.
 60. 菊地和則, 伊集院陸雄, 栗田圭一, 鈴木隆雄: 認知症の徘徊による行方不明の実態 —全国調査からわかったこと—, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16.
 61. 菊地和則, 池田恵利子, 川端伸子: 養介護施設従事者等による高齢者虐待への市区町村の対応能力向上に関する研究, 第14回日本高齢者虐待防止学会, 松戸, 2017.7.15.
 62. 菊地和則: 認知症の行方不明対策に関連する要因に関する研究 —認知症の徘徊による行方不明者の全国調査から—, 日本社会福祉学会第65回秋季大会, 東京, 2017.10.21-22.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Mo-

- tonaga Kojima, Yutaka Watanabe, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi: Comparison of body composition and physical and cognitive function between older Japanese adults with no diabetes, prediabetes, and diabetes: A cross-sectional study in community-dwelling Japanese older people, *Geriatr Gerontol Int*, 2018, in press. (*査読あり*), (*IF:2.351、2017*)
2. Shuichi P. Obuchi, Shuichi Tsuchiya, Hisashi Kawai: Test-retest reliability of daily life gait speed as measured by smartphone global positioning system, *Gait and Posture*, 61, 282-286, 2018. (*査読あり*), (*IF:2.347、2017*)
 3. 江尻愛美, 河合恒, 藤原佳典, 井原一成, 平野浩彦, 小島基永, 大淵修一: 都市高齢者における社会的孤立の予測要因: 前向きコホート研究, *日本公衆衛生雑誌*, 65(3), 125-133, 2018. (*査読あり*)
 4. Yuki Ohara, Naomi Yoshida, Hisashi Kawai, Shuichi Obuchi, Shiro Mataka, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe: Response to comments on: Development of an oral health-related self-efficacy scale for use with older adults, *Geriatr Gerontol Int*, 2017, in press. (*査読あり*), (*IF:2.351、2017*)
 5. Hisashi Kawai, Kazushige Ihara, Takeshi Kera, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Masashi Tanaka, Motonaga Kojima and Shuichi Obuchi: Association between statin use and physical function among community-dwelling older Japanese adults, *Geriatr Gerontol Int*. 2017 Dec 26. doi: 10.1111/ggi.13228. [Epub ahead of print]. (*査読あり*), (*IF:2.351、2017*)
 6. 橋本和明, 竹内武昭, 中村祐三, 井原一成, 大淵修一, 平野浩彦, 藤原佳典, 河合恒, 小島基永, 端詰勝敬: 都市部高齢者の不眠症状とその関連因子, *不眠研究*2017, 19-23, 2017. (*査読あり*)
 7. Mitsugu Hachisu, Masataka Hashidume, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi and Kazushige Ihara: Relationships between serum BDNF concentration and parameters for body-health score in community dwellings of elderly people, *Geriatrics and Gerontology International*, in press. (*査読あり*), (*IF:2.351、2017*)
 8. Kumpei Tanisawa, Nobuyoshi Hirose, Yasumichi Arai, Hiroshi Shimokata, Yoshiji Yamada, Hisashi Kawai, Motonaga Kojima, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano, Hiroyuki Suzuki, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Yu Taniguchi, Shoji Shinkai, Maki Sugaya, Mitsuru Higuchi, Tomio Arai, Seijiro Mori, Motoji Sawabe, Noriko Sato, Masaaki Muramatsu, and Masashi Tanaka: Inverse association between height-increasing alleles and extreme longevity in Japanese women, *Journal of Gerontology: Biological Sciences*, in press. (*査読あり*), (*IF:5.957、2017*)
 9. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seijiro Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka: Identification of five genetic variants as novel determinants of type 2 diabetes mellitus in Japanese individuals by exome-wide association studies, *Oncotarget*, 8 (46), 80492-80505, 2017. (*

- 査読あり*)、(*IF:5.168、2017*)
10. ©Hisashi Kawai, Takeshi Kera, Ryo Hirayama, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Motonaga Kojima, Shuichi Obuchi: Morphological and qualitative characteristics of the quadriceps muscle of community-dwelling older adults based on ultrasound imaging: Classification using latent class analysis, *Aging Clin Exp Res*. 2017 Jun 2. doi: 10.1007/s40520-017-0781-0. [Epub ahead of print] (*査読あり*)、(*IF:1.394、2017*)
 11. ©Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi: Relationship among peak expiratory flow rate, body composition, physical function, and sarcopenia in community-dwelling older adults, *Aging Clin Exp Res*. 2017 May 30. doi: 10.1007/s40520-017-0777-9. [Epub ahead of print](*査読あり*)、(*IF:1.394、2017*)
 12. Keiko Motokawa, Yutaka Watanabe, Ayako Eda, Maki Shirobe, Masaharu Murakami, Takeshi Kera Hisashi Kawai, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Yayoi Tanaka, Hirohiko Hirano: Frailty severity and dietary variety in Japanese older persons: A cross-sectional study, *The Journal of Nutrition, Health & Aging*, in press. (*査読あり*)、(*IF:2.772、2017*)
 13. ©Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, and the TOSHIMA Research Group: Differences in body composition and physical function related to pure sarcopenia and sarcopenic obesity: a study of community-dwelling older adults in Japan, *Geriatrics and Gerontology International*, in press. (*査読あり*)、(*IF:2.351、2017*)
 14. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka: Identification of TNFSF13, SPATC1L, SLC22A25, and SALL4 as novel susceptibility loci for atrial fibrillation in Japanese individuals by an exome-wide association study, *Mol Med Rep*, 16, 5823-5832, 2017. (*査読あり*)、(*IF:1.692、2017*)
 15. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka: Identification of polymorphisms in 12q24.1, ACAD10, and BRAP as novel genetic determinants of blood pressure in Japanese by exome-wide association studies, *Oncotarget*, 8 (26), 43068-43079, 2017. (*査読あり*)、(*IF:5.168、2017*)
 16. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka: Identification of eight genetic variants as novel determinants of dyslipidemia in Japanese individuals by exome-wide association studies, *Oncotarget*, 8 (24), 38950-38961, 2017. (*査読あり*)、(*IF:5.168、2017*)
 17. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka: Identification of six polymorphisms as novel susceptibility loci for ischemic or hemorrhagic stroke by exome-wide association studies, *Int J Mol Med*, 39, 1477-1491, 2017. (*査読あり*)、(*IF:2.341、2017*)
 18. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka: Identification of rs7350481 at chromosome 11q23.3 as a novel susceptibility locus for metabolic syndrome in Japanese individuals by an exome-wide association study, *Oncotarget*, 8 (24), 39296-39308, 2017. (*査読あり*)、(*IF:5.168、2017*)
 19. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka: Identification of C21orf59 and ATG2A as novel determinants of renal function-related traits in Japanese individuals by exome-wide association studies, *Oncotarget*, 8 (28), 45259-45273, 2017. (*査読あり*)、(*IF:5.168、2017*)
 20. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka: Identification of STXPB2 as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study, *Oncotarget*, 8 (20), 33527-33535, 2017. (*査読あり*)、(*IF:5.168、2017*)
 21. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka: Identification of EGFLAM, SPATC1L, and RNASE13 as novel susceptibility loci for aortic aneurysm in Japanese individuals by exome-wide association studies, *Int J Mol Med*, 39, 1091-1100, 2017. (*査読あり*)、(*IF:2.341、2017*)
 22. Takeshi Arai, Shuichi Obuchi, Yoshitaka Shiba: A novel clinical evaluation method using maximum angular velocity during knee extension to assess lower extremity muscle function of older adults, *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 73, 143-147, 2017. (*査読あり*)、(*IF:2.086、2017*)
 23. Okubo H., Inagaki H., Gondo Y., Kamide K., Ikebe K., Masui Y., Arai Y., Ishizaki T., Sasaki S., Nakagawa T., Kabayama M., Sugimoto K., Rakugi H., Maeda Y; SONIC

- Study Group: Association between dietary patterns and cognitive function among 70-year-old Japanese elderly: a cross-sectional analysis of the SONIC study, *Nutrition Journal*, 16(1), 56, 2017. (*査読あり*), (*IF:3.211, 2017*)
24. Tada S, Ikebe K, Kamide K, Gondo Y, Inomata C, Takeshita H, Matsuda K, Kitamura M, Murakami S, Kabayama M, Oguro R, Nakama C, Kawai T, Yamamoto K, Sugimoto K, Shintani A, Ishihara T, Arai Y, Masui Y, Takahashi R, Rakugi H, Maeda Y: Relationship between atherosclerosis and occlusal support of natural teeth with mediating effect of atheroprotective nutrients: From the SONIC study, *PLoS One*, 12(8), 2017, (*査読あり*), (*IF:2.806, 2017*)
 25. Ryuno H, Kamide K, Gondo Y, Kabayama M, Oguro R, Nakama C, Yokoyama S, Nagasawa M, Maeda-Hirao S, Imaizumi Y, Takeya M, Yamamoto H, Takeda M, Takami Y, Itoh N, Takeya Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Nakagawa T, Yasumoto S, Ikebe K, Inagaki H, Masui Y, Takayama M, Arai Y, Ishizaki T, Takahashi R, Rakugi H: Longitudinal association of hypertension and diabetes mellitus with cognitive functioning in a general 70-year-old population: the SONIC study. *Hypertens research*, 40(7), 665-670, 2017, (*査読あり*), (*IF:3.581, 2017*)
 26. Ogawa T, Uota M, Ikebe K, Arai Y, Kamide K, Gondo Y, Masui Y, Ishizaki T, Inomata C, Takeshita H, Mihara Y, Hatta K, Maeda Y. Longitudinal study of factors affecting taste sense decline in old-old individuals, *Journal of Oral Rehabilitation*, 44(1), 22-29, 2017, (*査読あり*), (*IF:2.098, 2017*)
 27. 安元佐織, 榎藤恭之, 中川威, 増井幸恵: 百寿者にとっての幸福の構成要素、老年社会科学、39(3)、365-373、2017. (*査読あり*)

(2) 総説

1. ◎河合恒: コーディネーターのかかわりによって私的社会保障を強めない住民協働の介護予防の推進効果, 老年社会科学, 39(4), 2017, 掲載決定. (*査読なし*)
2. ◎伊東美緒、日常的なケアへの拒否と同意: 不同意メッセージとユマニチュードから考える、看護管理、27(6)、p458-462、2017、(*査読なし*)
3. ◎伊東美緒、認知機能が低下した患者から発せられる「不同意メッセージ」の捉え方とその対応、総合診療、27(5)、p628-629、2017、(*査読なし*)
4. ◎伊東美緒、身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること: 第1回地域での生活を回復するための急性期病院の看護、看護のチカラ、p58-59、2017、(*査読なし*)
5. ◎増井幸恵、榎藤恭之: 健康長寿の延伸には何ほどの程度重要となるのか? 健康長寿研究(SONIC研究)からみえること (Part3)心理学的視点からの報告 健康長寿の要因の探求(解説)、歯界展望、130(1)、2017. (*査読なし*)

3 著書等

1. 河合恒, 大淵修一: 虚弱高齢者, エビデンスに基づく理学療法 実践版クイックリファレンス (内山靖 編), 医歯薬出版, 118-124, 2017.
2. 監修: 日本転倒予防学会、編著: 武藤芳照、原田敦、鈴木みずえ、認知症者の転倒予防とリスクマネジメント

—病院・施設・在宅でのケア—、伊東美緒、ユマニチュードと転倒予防、p 383-386、日本医事新報社、東京、2017.10.

3. 監修: 井藤英喜、編集: 東京都健康長寿医療センター看護部、伊東美緒、木村陽子、認知症の人の「想い」からつくるケア—急性期病院編、p14-38、94-107、154-155、株式会社インターメディカ、東京、2017.7.
4. 監修: 井藤英喜、編集: 伊東美緒、認知症の人の「想い」からつくるケア—在宅ケア、介護施設、療養型要因編、p 16-47、54-55、90-101、106-115、132-141、148-149、156-159、株式会社インターメディカ、東京、2017.7.
5. 栗田圭一、朝田隆、二宮利治、角間辰之、小長谷陽子、池田学、宮永和夫、藤本直規、谷向知、北村明彦、徳丸阿耶、稲垣宏樹、菊地和則、若年性認知症の有病率及び大都市における認知症有病率に関する調査研究事業報告書、平成28年度老人保健事業推進費等補助金報告書、1-49、2017.

要介護化の要因解明

1 学会発表

(1) 海外

1. Wakui T, Agree EM & Kai I. Impacts of Changing Families on Public Long-Term Care Insurance Program in Japan. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23-27, 2017.
2. Agree EM & Wakui T. Caregiving Networks and Benefits of Caregiving: Differences by Race and Ethnicity. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23-27, 2017.
3. Shimada C, Hirayama R, Nakazato K & Wakui T. What Encourages Japanese Adult Children to Initiate End-of-Life Discussion With Aging Parents?, The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23-27, 2017.
4. Nakazato K, Hirayama R, Wakui T & Shimada C. The Relational Nature of Children's Perceptions of Parental Aging: Findings From a Japanese Sample. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23-27, 2017.
5. Hirayama R, Shimada C, Wakui T & Nakazato K. Intergenerational Solidarity and Parent-Child Discussion on End-of-Life Care in Japan. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23-27, 2017.
6. M. Kabayama; K. Kamide; Y. Gondo; K. Sugimoto; Y. Masui; T. Ishizaki; Y. Arai; H. Rakugi: THE ASSOCIATION OF BLOOD PRESSURE WITH FRAILTY AMONG COMMUNITY-DWELLING OLDER PEOPLE The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23-27, 2017.
7. Y. Masui; H. Inagaki; Y. Gondo; T. Kurinobu; K. Ikebe; K. Kamide; Y. Arai; T. Ishizaki: PREMORBID PERSONALITY AND THE OCCURRENCES OF THE RISK OF MCI AFTER 3 YEARS IN JAPANESE ELDERLY The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23-27, 2017.

8. H. Ryuno; K. Kamide; M. Kabayama; K. Sugimoto; T. Ishizaki; Y. Arai; Y. Gondo; H. Rakugi : ASSOCIATION OF GENETIC VARIATION OF TOMM40 WITH COGNITIVE DECLINE IN OLDER ADULTS: THE SONIC STUDY The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23- 27, 2017.
9. E. Kiyoshige; M. Kabayama; K. Sugimoto; Y. Arai; T. Ishizaki; Y. Gondo; H. Rakugi; K. Kamide : INVESTIGATION ABOUT ASSOCIATED ILLNESS WITH DISABILITY IN COMMUNITY DWELLING OLDER POPULATION The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23- 27, 2017.
10. T. Sekiguchi; K. Kamide; K. Ikebe; M. Kabayama; Y. Arai; T. Ishizaki; Y. Gondo; H. Rakugi : ASSOCIATION BETWEEN PROTEIN INTAKE AND CHANGE IN RENAL FUNCTION AMONG JAPANESE GENERAL OLD SUBJECTS The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23- 27, 2017.
11. T. Ishizaki; S. Mitsutake; T. Yamaoka; C. Teramoto; S. Shimizu; H. Ito : ASSOCIATION BETWEEN INDIVIDUAL CHRONIC DISEASES AND POLYPHARMACY AMONG ELDERLY PATIENTS IN JAPAN The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23- 27, 2017.
12. Y. Arai; T. Hirata; M. Takayama; Y. Abe; T. Ishizaki; Y. Masui; K. Kamide; Y. Gondo : URINARY ALBUMIN-TO-CREATININE RATIO AND CAROTID ATHEROSCLEROSIS IN THE VERY OLD. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. San Francisco, California, USA. July. 23- 27, 2017.
13. Hirayama R, Ogawa M, & Wakui T. (2017). A Dyadic Approach to the Relational Context of Spousal Caregiving. 2017 National Conference of Family Relations Annual Conference. Orlando, Florida, USA. November 15-18, 2017.

(2) 国内

1. 相田順子、石崎達郎、田久保海誉、新井富生、石渡俊行、表在性Barrett癌の組織学的な予後因子 —多施設共同研究 Histopathologic features for prognostication of superficial Barrett's carcinoma: a multicenter study、第106回日本病理学会総会、東京、2017年4月27日～29日
2. 涌井智子、中里和弘、児玉寛子、島田千穂. 看取りを終えたポスト介護者の介護経験汎用に関する研究. 第59回日本老年社会科学大会、名古屋、愛知. 2017年6月14-16日.
3. 栗延孟、涌井智子、石崎達郎. 定年退職者が仕事をはじめたきっかけと生きがいの関連 —再就職した高齢者に対するインタビュー調査から—第59回日本老年社会科学大会、名古屋、愛知. 2017年6月14-16日.
4. 森寛子、内藤真理子、中根綾子、戸原玄、診療報酬改訂による経管栄養新規造設と摂食機能療法の診療件数の変化：社会医療診療別統計の二次解析、第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会、千葉、2017年9月15-16日
5. 森寛子、菅原康宏、大淵修一、高橋龍太郎、東日本大震災で通所系介護事業所の避難行動決定過程と災害亜急性期に果たした役割、災害情報学会第19回学会大会、京都、2017年10月21-22日
6. 森寛子、胃ろう造設患者の摂食嚥下リハビリテーションによる在宅介護者への心理的支援、第34回日本障害者歯科学会総会および学術大会、福岡、2017年10月27-29日
7. 西山千香子、田中春奈、植村ほのか、加藤菜由子、齋藤尚子、加藤貴行、森寛子、金丸晶子、Progressive Aphasia Severity Scale (PASS) 日本語版作成のためのパイロット研究、第41回日本高次脳機能障害学会学術総会、大宮、2017年12月15-16日
8. 光武誠吾、石崎達郎、田宮菜奈子、入院でリハビリテーションを利用した高齢者における療養場所移行パターンの実態、第52回日本理学療法学会学術大会、千葉、2017年5月12日～5月14日
9. 光武誠吾、石崎達郎、東京都の後期高齢者における外来維持期リハ患者の実態把握、第36回東京都理学療法学会学術大会、東京、2017年6月18日
10. 石崎達郎、光武誠吾、寺本千恵、高齢者の保健事業における服薬指導対象者抽出方法の検討：多剤処方の関連要因、第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017年10月31日～11月2日
11. 光武誠吾、寺本千恵、石崎達郎、後期高齢者における多病の有病状況 —3疾患の併存状況に着目した分析—、第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017年10月31日～11月2日
12. 前田恵、福田治久、石崎達郎、後期高齢者における多病の有病状況 —3疾患の併存状況に着目した分析—、第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017年10月31日～11月2日
13. 石崎達郎、モニタリングレポート委員会グループリーダ—報告：高齢者グループの活動. 第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017年10月31日～11月2日【委員会活動報告】
14. 三上友里江、渡邊裕、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、本橋佳子、大須賀洋祐、平野浩彦、金憲経、北村明彦、藤原佳典、大淵修一、石崎達郎、新開省二、栗田圭一. 高島平Study 都市部在住高齢者の外出頻度の減少と口腔機能低下との関連. 第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017.10.31-11.2
15. 本橋佳子、渡邊裕、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、三上友里江、大須賀洋祐、平野浩彦、金憲経、北村明彦、藤原佳典、大淵修一、石崎達郎、新開省二、栗田圭一. 高島平Study 大都市部在住高齢者における口腔への関心に関連する因子の検討. 第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017.10.31-11.2
16. 谷口優、北村明彦、野藤悠、石崎達郎、清野諭、横山友里、村山洋史、光武誠吾、天野秀紀、西真理子、干川なつみ、濱口奈緒美、岡部たづる、藤原佳典、新開省二. 高次生活機能の加齢変化パターンと医療費及び介護費との関連 草津町研究. 第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017.10.31-11.2
17. 石崎達郎、多病とガイドライン. 平成28年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療ガイドラインの担う新たな役割とその展望に関する研究」公開班会議、東京、2017.1.7.
18. 石崎達郎、光武誠吾、多病の実態を反映したガイドラインの必要性. 第1回日本臨床知識学会学術集会、東京、2017.1.28-1.29. 【シンポジウム】
19. 光武誠吾、石崎達郎、田宮菜奈子. 要介護状態にある在宅医療患者へのリハビリテーション提供状況. 第3回日本地域理学療法学会フォーラム. 名古屋、2017.2.12.
20. 増井幸恵、池邊一典、権藤恭之、神出計、新井康通、栗

- 延孟, 小川まどか, 稲垣宏樹, 石崎達郎, 前田芳信: 会場招待型調査を脱落した後期高齢者の身体機能と精神的健康の縦断的变化 —訪問調査データを用いた80歳参加者と90歳参加者の比較—, 第59回日本老年社会科学学会大会, 愛知, 2017.6.14-16.
21. 蔡羽淳, 権藤恭之, 中川威, 増井幸恵, 安元佐織, 神出計, 池邊一典, 石崎達郎, 高橋龍太郎, 新井康通: 高齢者の主観的幸福感に影響を与える要因に関する研究 —感謝感情に注目して—, 第59回日本老年社会科学学会大会, 愛知, 2017.6.14-16.
 22. 後藤扶美香, 権藤恭之, 安元佐織, 増井幸恵, 中川威, 神出計, 池邊一典, 石崎達郎, 新井康通: 非親族との社会関係が高齢期の主観的幸福感に与える影響 —「弱いつながり」に着目して—, 第59回日本老年社会科学学会大会, 愛知, 2017.6.14-16.
 23. 澤山泰佳, 樺山舞, 権藤恭之, 龍野洋慶, 関口敏彰, 清重映里, 赤木優也, 山本浩一, 杉本研, 池邊一典, 新井康通, 増井幸恵, 石崎達郎, 楽木宏実, 神出計: 地域一般住民高齢者における喫煙と認知機能 生活習慣病の関与 SONIC研究, 第53回日本循環器病予防学会学術集会, 京都, 2017.6.16-17.
 24. 小野口航, 福川康之, 樺山舞, 権藤恭之, 増井幸恵, 石崎達郎, 安元佐織, 松本清明: 高齢者におけるソーシャル・キャピタルの地域差と年代差 —SONIC研究の横断的データから—, 日本心理学会第81回大会, 福岡, 2017.9.20-22.
 25. 三浦ゆり, 岩本真知子, 稲垣宏樹, 増井幸恵, 石岡良子, 津元裕樹, 樺山舞, 杉本研, 阿部由紀子, 新井康通, 神出計, 池邊一典, 石崎達郎, 権藤恭之, 高橋龍太郎, 遠藤玉夫: 高齢者の縦断調査血液サンプルを用いた初期の認知機能低下に関するプロテオミクス解析, 第68回日本電気泳動学会総会, 広島, 2017.11.24-25.
 26. 石崎達郎, 光武誠吾, 寺本千恵, 山岡巧弥, 清水沙友里, 井藤英喜, 後期高齢者の受診医療機関数と多剤処方に関連, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-6.16.
 27. 清重映里, 樺山舞, 龍野洋慶, 杉本研, 池邊一典, 新井康通, 石崎達郎, 権藤恭之, 楽木宏実, 神出計, 地域在住高齢者における要介護認定と生活習慣病・慢性疾患の関連性の検討 SONIC研究, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-6.16.
 28. 田中健太郎, 樺山舞, 龍野洋慶, 杉本研, 池邊一典, 新井康通, 石崎達郎, 権藤恭之, 楽木宏実, 神出計, 地域一般住民高齢者を対象にした尿酸と心血管病との関連について SONIC研究, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-6.16.
 29. 樺山舞, 神出計, 龍野洋慶, 権藤恭之, 山本浩一, 杉本研, 増井幸恵, 新井康通, 石崎達郎, 楽木宏実, 高齢者における血圧値と認知機能の年代別関連性の検討 SONIC研究, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-6.16.
 30. 関口敏彰, 神出計, 池邊一典, 龍野洋慶, 樺山舞, 杉本研, 新井康通, 石崎達郎, 権藤恭之, 楽木宏実, 地域一般高齢者における腎機能保持とたんぱく質摂取量との関連について SONIC studyを用いた縦断研究, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-6.16.
 31. 前田聡美, 竹屋泰, 赤坂憲, 山本浩一, 杉本研, 権藤恭之, 石崎達郎, 新井康通, 神出計, 楽木宏実, 高齢地域住民におけるA/G比と認知機能との関連 SONIC研究, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-6.16.
 32. 澤山泰佳, 樺山舞, 龍野洋慶, 杉本研, 権藤恭之, 増井

幸恵, 新井康通, 石崎達郎, 楽木宏実, 神出計, 生活習慣病を有する地域一般住民高齢者における喫煙が認知機能に与える影響について SONIC研究, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-6.16.

33. 金澤伸郎, 黒岩厚二郎, 新開省二, 石崎達郎, 吉田孝司, 三井秀雄, 荒木厚, 井藤英喜, 許俊鋭, 高齢者外科手術の限界フレイルと手術適応 術前リスク評価としての位置づけ, 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-6.16.
34. 兄玉寛子, 涌井智子, 中里和弘, 島田千穂: 家族介護者における介護経験の活用可能性に関する探索的研究, 第20回日本老年行動科学学会, 東京, 2017.11.26.
35. 樺山舞, 神出計, 龍野洋慶, 権藤恭之, 赤坂憲, 山本浩一, 杉本研, 池邊一典, 稲垣宏樹, 増井幸恵, 新井康通, 石崎達郎, 楽木宏実, 高齢者における血圧値と認知機能の関連性(SONIC研究) 年代およびフレイル別検討, 第40回日本高血圧学会総会, 松山, 2017.10.20-10.22.
36. 赤木優也, 神出計, 樺山舞, 龍野洋慶, 赤坂憲, 山本浩一, 杉本研, 池邊一典, 増井幸恵, 石崎達郎, 新井康通, 権藤恭之, 楽木宏実, 地域在住高齢者における長寿関連遺伝子SIRT1, FOXO3A遺伝子多型と動脈硬化の関連性の検討 SONIC研究, 第40回日本高血圧学会総会, 松山, 2017.10.20-10.22.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Ogawa T, Uota M, Ikebe K, Arai Y, Kamide K, Gondo Y, Masui Y, Ishizaki T, Inomata C, Takeshita H, Mihara Y, Hatta K, Maeda Y. Longitudinal study of factors affecting taste sense decline in old-old individuals. **Journal of Oral Rehabilitation**, 44(1), 22-29, 2017. (査読あり) (IF : 2.098, 2016)
2. ★◎Ishizaki T, Shimmei M, Fukuda H, Oh EH, Wakui T, Mori H, Takahashi R. Cumulative number of hospital bed days among older adults in the last year of life: a retrospective cohort study. **Gerontology and Geriatrics International**, 17(5), 737-743, 2017(査読あり) (IF : 2.351, 2016)
3. Fujiki S, Ishizaki T, Nakayama T. Variations in status of preparation of personal protective equipment for preventing norovirus gastroenteritis in long-term care facilities for the elderly. **Journal of Evaluation on Clinical Practice**, (in press). (査読あり) (IF : 1.250, 2016)
4. Okubo H, Inagaki H, Gondo Y, Kamide K, Ikebe K, Masui Y, Arai Y, Ishizaki T, Sasaki S, Nakagawa T, Kabayama M, Sugimoto K, Rakugi H, Maeda Y; SONIC Study Group. Association between dietary patterns and cognitive function among 70-year-old Japanese elderly: a cross-sectional analysis of the SONIC study. **Nutr J**. 2017 Sep 11;16(1):56. (査読あり) (IF : 3.211, 2016)
5. Ryuno H, Kamide K, Gondo Y, Kabayama M, Oguro R, Nakama C, Yokoyama S, Nagasawa M, Maeda-Hirao S, Imaizumi Y, Takeya M, Yamamoto H, Takeda M, Takami Y, Itoh N, Takeya Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Nakagawa T, Yasumoto S, Ikebe K, Inagaki H, Masui Y, Takayama M, Arai Y, Ishizaki T, Takahashi R, Rakugi H. Longitudinal association of hypertension and diabetes mellitus with cognitive functioning in a general 70-year-old population: the SONIC study. **Hypertens Res**. 2017 Jul;40(7):665-670. (査読あり) (IF : 3.508, 2016)
6. Ryuno H, Kamide K, Gondo Y, Kabayama M, Sugimoto

K, Ikebe K, Ishizaki T, Arai Y, Rakugi H. Reply to 'Differences in the association between high blood pressure and cognitive functioning among the general Japanese population aged 70 and 80 years'. **Hypertens Res.** 2017 Mar;40(3):302-303. (査読あり) (IF : 3.508、2016)

7. 太田美緒, 甲斐一郎, 石崎達郎, 30代女性の14年間における介護選択, 愛情, 扶養義務感の変化 —2000~2001年および2014年のパネル調査による2地区の比較—. 厚生学の指標, 64(8), 20-27, 2017 (査読あり)
8. 藤本修平, 小向佳奈子, 光武誠吾, 杉田翔, 小林資英, リハビリテーション分野における自費診療を行っている病院・施設のWebサイトの質の評価, 理学療法学, 2017 (印刷中) (査読あり)
9. 小向佳奈子, 藤本修平, 杉田翔, 光武誠吾, 輪達弘樹, 小林資英, リハビリテーション分野における社会参加の定義と評価指標について: 定性的システムティックレビュー, 理学療法科学, 2017 (印刷中) (査読あり)
10. Sugiyama T., Tamiya N, Watanabe T., Wakui T., Shibayama T., Moriyama Y., Yamaoka Y. & Noguchi H. Association of care recipients' care-need level with family caregiver participation in health check-ups in Japan. *Geriatrics & Gerontology International.* (in press). (2017). (査読有). (IF1.575)
11. ★光武誠吾, ◎石崎達郎, 寺本千恵, 東京都の後期高齢者における在宅医療の実態把握, 平成28年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業) 報告書, 2017[査読なし]
12. 寺本千恵, ◎石崎達郎, 光武誠吾, 大都市圏における二次医療圏域別にみた各種指標と在宅医療患者割合の関係, 平成28年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業) 報告書, 2017[査読なし]
13. ★Mori H., Sugawara Y, Obuchi SP, Shimmei M, Takahashi R. Evacuation Decision Making and Expanded Roles of Adult Daycare Services in the Great East Japan Earthquake: Qualitative Analysis Using Semistructured Interviews. *Journal of Public Health Management and Practice.* 2018 Mar;24(2):129-136. (査読あり) (IF 1.258)
14. 杉原毅彦, 伊賀祥子, 石崎達郎, 高齢発症関節リウマチに対する低疾患活動性を目標とした治療において身体機能低下に関連する因子の解析, 東京都健康長寿医療センター院内課題研究報告書2016-2017, 2017年4月(査読なし)

(2) 総説

1. ★◎涌井智子, 身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること: 第3回 —高齢者が高齢者を支えるということ, 看護のチカラ, 472, 72-73. (2017). (査読無)
2. ★◎涌井智子, 変わりゆく介護の姿: 第12回 —これからの介護を支える病院スタッフの役割— 話し合いの支え手として, 看護のチカラ, 466, 58-60. (2017). (査読無)

3 著書等

1. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター編. 監修: 井藤英喜, 新開省二, 高橋龍太郎. 執筆代表: 森寛子. 復興を見つめて —東京都健康長寿医療センター東日本大震災被災者支援プロジェクト5年半の取り組み, 2018. 東京法規出版.

終末期ケアのあり方の研究

1 学会発表

(1) 海外

1. Nakazato, K., Hirayama, R., Wakui, T., Shimada, C.: The Relational Nature of Children's Perceptions of Parental Aging: Findings from a Japanese Sample. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, 2017. 7.23-27.
2. Hirayama, R., Shimada, C., Wakui, T., & Nakazato, K.: Intergenerational solidarity and parent-child discussion on end-of-life care in Japan. The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics. San Francisco, USA. July 24, 2017.
3. Harasawa, Y., Hirayama, R., Shimada, C., Ito, M.: Developing expertise in end-of-life care through collaborative reflection; A qualitative inquiry. The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics. San Francisco, USA. July 23-27, 2017.
4. Shimada, C., Hirayama, R., Nakazato, K., Wakui, T. What Encourages Japanese Adult Children to Initiate End-of-Life Discussion With Aging Parents? The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics. San Francisco, USA. July 23-27, 2017.
5. Shimada, C., Hirayama, R., Wakui, T., Ito, M. What Leads Care Managers to Engage in End-of-Life Discussions with Older Clients in Japan? An Examination on the Effect of Clients' Use of Home-Visiting Medical Care Services. 13th International Congress of the European Union Geriatric Medicine Society, Nice France, September 20-22, 2017
6. Hirayama, R., Ogawa, M., Wakui, T.: A dyadic approach to the relational context of spousal caregiving. 2017 National Council on Family Relations Annual Conference. Orlando, US. November 14-18, 2017.

(2) 国内

1. 中里和弘, 島田千穂, 舞鶴史絵, 水雲京, 佐藤眞一: 在宅の看取りケアにおける意思反映が家族の適応に及ぼす影響. 第59回日本老年社会科学学会大会, 名古屋, 2017.6.14-16.
2. 涌井智子, 中里和弘, 児玉寛子, 島田千穂: 看取りを終えたポスト介護者の介護経験汎用に関する研究. 第59回日本老年社会科学学会大会, 名古屋, 2017.6.14-16.
3. 中里和弘, 島田千穂, 片山史絵, 水雲京, 佐藤眞一: 支援者から見た遺族訪問の実態と意義. 第19回日本在宅医学会大会, 名古屋, 2017.6.17-18.
4. 島田千穂, 伊東美緒, 原沢優子: 特別養護老人ホームの医療体制と看取りケア実施状況. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16
5. 島田千穂, 伊東美緒, 原沢優子, 平山亮: 特別養護老人ホームの看取りケア内容と看取り期における看護職の関与の仕方との関連. 日本老年看護学会第22回学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16
6. 平山亮: 『介護する息子たち』プリクリエル. 国際ジェンダー学会2017年大会, 東京(明星大学), 2017.9.2-3.
7. 島田千穂, 伊東美緒: 人生最期に向けたケアの選択に関する事前の話し合いに関わるケアマネジャーの特徴. 日本エンドオブライフケア学会第一回学術集会, 東京(一橋講堂), 2017.9.16-17.
8. 中里和弘: 終末期がん患者の「スピリチュアルペインのアセスメントとケア」の現状と展望. 第81回日本心理学

会大会, 久留米, 2017.9.20-22.

9. 河村諒, 中里和弘: 高齢者施設における宗教的な関わりについての研究. 第81回日本心理学会大会, 久留米, 2017.9.20-22.
10. 児玉寛子, 涌井智子, 中里和弘, 島田千穂: 家族介護者における介護経験の活用可能性に関する探索的研究. 第20回日本老年行動科学学会, 東京, 2017.11.26.
11. 島田千穂: 終末期の代理意思決定に向けた心理的準備への支援方法の開発. 第25回ニッセイ財団高齢社会ワークショップ, 東京, 2017.12.1.
12. 島田千穂: 生活の場での看取り; 最後までここを居場所として生きる. 第22回アムニティーフォーラム, 滋賀, 2018.2.9-11

2 誌上発表

(1) 原著

1. Nakazato, K., Shiozaki, M., Hirai, K., Morita, T., Tataru, R., Ichihara, K., Sato, S., Simizu, M., Tsuneto, S., Shima, Y., Miyasita, M.: Verbal communication of families with cancer patients at end of life: A questionnaire survey with bereaved family members. *Psycho-oncology*, 27(1), 155-162. (査読あり) (IF: 3.095, 2016)
2. Kawai, H., Kera, T., Hirayama, R., Hirano, H., Fujiwara, Y., Ihara, K., Kojima, M., Obuchi, S.: Morphological and qualitative characteristics of the quadriceps muscle of community-dwelling older adults based on ultrasound imaging; Classification using latent class analysis. *Aging Clinical and Experimental Research*, (in press) doi: 10.1007/s40520-017-0781-0 (査読あり) (IF: 1.394)

(2) 総説

1. 島田千穂: 終末期ケアの現状. *健康保険*, 71(8), 22-27, 2017 (査読なし)
2. 平山亮: 息子介護に見るケア経験のジェンダー非対称性. *季刊家計経済研究*, 113, 30-39, 2017. (査読なし)
3. 島田千穂: 身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること; エンドオブライフの視点からの超高齢者への急性期医療・看護のチカラ, 22(470), 76-77, 2017. (査読なし)
4. 平山亮: 身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること; 決められない・決めたくない「困った」息子から見えてくるもの. *看護のチカラ*, 22(474), 44-45, 2017. (査読なし)
5. 中里和弘: 身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること; 在宅からの終末期の認知症患者の受け入れと家族対応. *看護のチカラ*, 22(476), 54-55, 2017. (査読なし)
6. 島田千穂: 療養病棟で最期を看取るとのこと. *看護のチカラ*, 22 (479), 27-34, 2017. (査読なし)
7. 島田千穂: 身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること; エンドオブライフケアの視点からみる衰える過程に寄り添う急性期看護とは. *看護のチカラ*, 22(481), 62-63, 2017. (査読なし)
8. 中里和弘: 身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること; 在宅からつながった患者の看取りを次に活かす情報共有とデスカンファレンスの意義. *看護のチカラ*, 22(483), 46-47, 2017. (査読なし)
9. 平山亮: 息子介護者をどのように見るか. *教育心理学年報*, 56, 286-287, 2017. (査読なし)
10. 平山亮: 増加する「息子介護」; 妻が何とかしてくれる

とっていたら…。講談社現代ビジネス, <http://gendai.ismedia.jp/articles/-/52676>, 2017. (査読なし)

11. 平山亮: 「名もなき家事」の、その先へ; “気づき・思索し・調整する” 労働のジェンダー不均衡; vol.1 見えないケア責任を語る言葉を紡ぐために. *けいそうビブリオフィル*, <http://keisobiblio.com/2017/11/20/namonakikaji01/>. (査読なし)
12. 平山亮: 身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること; 「その人らしいケア」に唯一の正解はあるのか. *看護のチカラ*, 23(485), 60-61, 2018. (査読なし)
13. 平山亮: 「名もなき家事」の、その先へ; “気づき・思索し・調整する” 労働のジェンダー不均衡; vol.3 SAには「先立つもの」が要る——「お気持ち」「お人柄」で語られるケア覆い隠すこと. *けいそうビブリオフィル*, <http://keisobiblio.com/2017/11/20/namonakikaji01/>. (査読なし)

3 著書等

1. 島田千穂: 認知症の人の最期と看取りケアの基本 (Chapter3-Section 1-3) 井藤英喜監修 伊藤美緒編 認知症の人の「想い」からつくるケア —在宅ケア・介護施設・療養型病院編—. *インターメディカ*, 170-188, 2017.7.
2. 島田千穂: 終末期を見据えた認知症ケア (Chapter6-Section1). 井藤英喜監修 伊藤美緒・木村陽子編 認知症の人の「想い」からつくるケア —急性期病院編—. *インターメディカ*, 168-169, 2017.7.
3. 中里和弘: 長期にわたるケアの末の家族の立場 (Chapter6-Section2). 遺族・スタッフのためのグリーフケア (Section3). 井藤英喜監修 伊藤美緒・木村陽子編 認知症の人の「想い」からつくるケア —急性期病院編—. *インターメディカ*, 170-191, 2017.7.
4. 中里和弘: 第6章その他の問題 —5. 死別反応. *精神科治療学編集委員会編 高齢者のための精神科医療 (精神科治療学 第32巻増刊号)*. 星和書店, 401-406, 2017.

受賞

在宅療養支援方法の開発

1. 増井幸恵、研究員、日本老年社会学会第59回大会優秀演題発表 (口演)、会場招待型調査を脱した後期高齢者の身体機能と精神的健康の縦断的变化 —訪問調査データを用いた80歳参加者と90歳参加者の比較—、2017.6.14.
2. 河合恒、研究員、平成28年度日本老年医学会雑誌優秀論文賞、化粧ケアが地域在住高齢者の主観的健康感へ及ぼす効果 —傾向スコア法による検証、2017.6.15.

要介護化の要因解明

1. 涌井智子、研究員、2017年日本老年社会学会奨励賞、多様化する家族介護の現状と今後の介護を支えるシステムについて考える、2017年6月14日.
2. 光武誠吾 (研究員)、石崎達郎 (研究部長)、寺本千恵 (非常勤研究員). 第76回日本公衆衛生学会総会優秀ポスター賞、「後期高齢者における多病の有病状況 —3疾患の併存状況に着目した分析—」、2017年10月31日

研究支援施設等

トランスレーショナルリサーチ推進室

1 施設紹介

施設長：遠藤玉夫（所長代理：事務取扱）、
新開省二（副所長：事務取扱）
研究員：山川直美(主任)、深谷太郎(主任)

トランスレーショナルリサーチ推進室は研究部門及び病院部門のシーズを育成するとともに、その臨床応用や実用化を着実に促進するため、研究助成金による研究支援、周辺特許調査、実験支援、論文調査・作成支援、技術セミナーの開催などの活動を行っている。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

当施設は研究部門と病院部門との連携を基軸とした実用化支援活動を行っている。研究所からは基礎研究から派生した実用化見込みのあるシーズを育成し、また、病院部門からは臨床現場での課題を研究所の基礎技術で解決、実用化するなどの支援を行っている。

3 活動概要

- 1) シーズ課題の掘り起こし、実用化課題の提案、また、実用化促進のための技術支援
- 2) 研究支援
 - ・ゲノム解析、統計解析などの実験支援、及び研究計画立案、実験プロトコルの作成支援
- 3) 特許関連支援
 - ・保有特許ライセンス支援、特許申請支援、周辺特許調査（パテント・クリアランス）
- 4) 技術セミナーの企画及び開催
 - ・平成29年度1回実施
- 5) 活動状況の周知に向けた所内情報誌「CrossLink」の発行
- 6) 研究助成の実施とその進行管理
 - ・平成29年度は5課題に対して研究助成を実施
- 7) トランスレーショナルリサーチ推進会議の運営

4 今後の展望

シーズの育成から実用化まで、継続して行っていくとともに、製品化に至った技術の普及を行う。

5 業績

(1) 原著論文 全 2 件

(国外)

1. Murayama H, Liang J, Shaw BA, Botosaneanu A, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S. : Changes in health behaviors and the trajectory of body mass index among older Japanese: A 19-year longitudinal study. Geriatr Gerontol Int. 2017 Nov;17(11):2008-2016.

(国内)

1. 橋本由美子、渡辺修一郎、野中久美子、小池高史、長谷部雅美、村山陽、鈴木宏幸、深谷太郎、小林江里香、藤原佳典：独居高齢者の配偶者関係からみた類型別の高次生活機能および精神的健康状態の比較 - 首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究(CAPITAL study)より -、応用老年学 第11巻第1号、27-35、2017.8.31.

(2) 特許 全 1 件

1. 特願2017-209534 (2017年10月30日出願)、発明の名称：次世代シーケンサーを用いるDNAメチル化分析方法および特定DNA断片群の濃縮方法、発明者:山川直美

(3) 学会 全 15 件

(国外)

1. E. Kobayashi, K. Harada, H. Murayama, T. Fukaya, J. Liang : Social Isolation Among Older Japanese: Do Regional Attributes Matter?, 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, 米国サンフランシスコ、2017.7.23-27

(国内)

1. 藤原佳典、西真理子、長谷部雅美、村山陽、深谷太郎、小池高史、野中久美子、鈴木宏幸、安永正史、斉藤雅茂、小林江里香：独居の男性高齢者は健康弱者か、社会的弱者か？ 首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究（CAPITAL study）より、第59回日本老年社会学会大会、名古屋、2017.6.14-16
2. 長谷部雅美、村山陽、西真理子、箕浦明、松永博子、根本裕太、小林江里香、深谷太郎、成田美紀、藤原佳典：高齢者における社会活動への参加意向の変化とその関連要因 首都圏高齢

- 者の地域包括的孤立予防研究(CAPITAL study)より、第59回日本老年社会科学大会、名古屋、2017.6.14-16
3. 深谷太郎、小林江里香、鈴木宏幸、西真理子、小池高史、長谷部雅美、村山陽、野中久美子、齊藤雅茂、藤原佳典：社会的孤立が2年後・4年後の健康等に与える影響 ―首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究(CAPITAL study)より―、第59回日本老年社会科学大会、名古屋、2017.6.14-16
 4. 根本裕太、長谷部雅美、箕浦明、村山陽、松永博子、西真理子、深谷太郎、成田美紀、小林江里香、藤原佳典：運動実施ならびにスポーツグループ参加が精神的健康状態に与える影響：世代間比較 ―首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究(CAPITAL study)より―、第59回日本老年社会科学大会、名古屋、2017.6.14-16
 5. 橋本由美子、渡辺修一郎、野中久美子、小池高史、長谷部雅美、村山陽、鈴木宏幸、深谷太郎、小林江里香、藤原佳典：独居高齢者の類型別にみた身体的および精神的健康状態の比較 ―首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究(CAPITAL study)より―、第59回日本老年社会科学大会、名古屋、2017.6.14-16
 6. 成田美紀、北村明彦、西真理子、長谷部雅美、村山陽、松永博子、根本裕太、深谷太郎、小林江里香、藤原佳典：生活習慣病のリスクを高める量を飲酒する者の背景要因：CAPITAL studyより、第52回日本アルコール・アディクション医学会学術総会、横浜、2017.9.8-9
 7. 深谷太郎、杉原陽子、杉澤秀博、小林江里香、インターネット・電子メールの利用と生活満足度の関係、日本社会福祉学会第65回秋季大会、東京、2017/10/21-22
 8. 高橋知也、野中久美子、松永博子、長谷部雅美、根本裕太、村山洋史、小池高史、南潮、深谷太郎、村山陽、小林江里香、藤原佳典：高齢者の社会的孤立は予測可能か：地域在住高齢者を対象とした縦断調査の結果から、第12回日本応用老年学会大会、東京、2017.10.22
 9. 藤原佳典、高橋知也、野中久美子、松永博子、長谷部雅美、根本裕太、村山洋史、小池高史、南潮、深谷太郎、村山陽、小林江里香：高齢者における就労理由の差異からみた心身社会的特徴 ～ESSENCE研究より～、第12回日本応用老年学会大会、東京、2017.10.22
 10. 橋本由美子、渡辺修一郎、野中久美子、小池高史、長谷部雅美、村山陽、鈴木宏幸、深谷太郎、小林江里香、藤原佳典：独居高齢者の配偶者関係からみた類型が2年間の健康状態の変化に及ぼす影響：首都圏高齢者の地域包括的孤立研究(CAPITAL study)より、第12回日本応用老年学会大会、東京、2017.10.22
 11. 野中久美子、高橋知也、長谷部雅美、松永博子、根本裕太、村山洋史、小池高史、深谷太郎、村山陽、鈴木宏幸、小林江里香、藤原佳典：「高齢者見守りキーホルダー」システムの登録者の特徴：健康との関連から、第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017.10.31-11.2
 12. 根本裕太、長谷部雅美、村山陽、松永博子、西真理子、深谷太郎、成田美紀、小林江里香、藤原佳典：地域活動参加者における社会的孤立と精神的健康状態の関連の検討：CAPITAL studyより、第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017.10.31-11.2
 13. 高橋知也、野中久美子、松永博子、長谷部雅美、根本裕太、村山洋史、小池高史、深谷太郎、村山陽、鈴木宏幸、小林江里香、藤原佳典：高齢者における就労理由の差異に基づく就労形態および諸変数の比較、第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島、2017.10.31-11.2
 14. 村山洋史、Jersey Liang、Benjamin A. Shaw、Anda Botosaneanu、小林江里香、深谷太郎、新開省二：社会経済状態と高齢期の生活機能の軌跡パターン、第28回日本疫学会学術総会、福島、2018.2.1-3

アイソトープ施設

1 施設紹介

施設長（安全管理責任者）：功刀正行
放射線取扱主任者（研究副部長）：三浦ゆり（兼務）

アイソトープ施設の目標は、放射線障害防止に関連した法律を遵守し、利用者や公衆の安全を確保する一方、放射線・放射性同位元素の利用促進と施設の維持管理を行うことである。放射線・放射性同位元素を利用する研究手法は、老化研究の進展に大きく貢献するものであり、本施設はその安全利用のための維持管理を行う。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

- ・放射線業務従事者に対する教育訓練を病院部門と共同で実施した。

3 活動概要

放射線業務従事者の管理について

- ・教育訓練を実施した。
 - 初期教育訓練 4月11日、4月27日、5月18日、6月5日、6月8日
 - 放射線安全講習(再教育訓練) 3月6日、3月22日、3月29日
- ・健康診断（問診、血液検査）を2回実施した。
 - 前期：6月19～23日、後期：12月6～8日

施設管理について

- ・作業環境測定を行った（毎月1回 / 12回）。
- ・自主点検を2回実施した（前期9月15日、後期3月7日）。
- ・排気系フィルターの交換を行った（7月1日）。
- ・RI管理総合システム保守点検（11月27～30日）。

RI管理について

- ・有機廃液の集荷を行った（8月3日、2月5日）。

法令対応について

- ・許可使用に関する軽微な変更に関わる変更届を提出
- ・原子力規制委員会に平成28年度放射線管理状況報告書を提出した(6月8日)。
- ・医療法の監査に対応した（8月9日）。
- ・放射線障害防止法改定説明会に参加（原子力規制委員会主催）。

4 今後の展望

今後ともアイソトープ施設は、放射線業務従事者の安全を確保し、放射線・放射性同位元素の利用促進のための維持及び管理を行う。

実験動物施設

1 施設紹介

施設長：遠藤玉夫

研究員：野田義博、根本妙子

実験動物施設概要

実験動物施設はセンター研究所棟5階に位置する。管理区域は、清浄区域と準清浄区域に分かれている。前者は、マウス飼育室4室、ラット飼育室1室、共用実験室4室、実験室6室、処置室2室、胚操作関連室3室など、より構成される。後者は、検査室、処置室、ウサギ飼育室、検査室、洗浄室などで構成される。この両区域はP1Aレベルの拡散防止措置がとられている。管理区域の床は全域においてUV硬化樹脂フロアコートを施工し、滑りにくく、清掃消毒効果を向上させ、労働安全衛生に配慮した清浄度の高い飼育環境を維持することを可能にした。

マウスとラットについては、特定の病原体を統御し、動物を感染症から防御するため、IVC (Individually Ventilated Caging) システムラックにより飼育されている。

施設の収容能力は、マウス21,700匹(4,340ケージ)、ラット840匹(280ケージ)、ウサギ9匹(9ケージ)である。飼養、保管されているマウスの大部分が遺伝子組換えマウスであり、約80系統が維持されている。また、実験動物施設は、マウス(C57BL/6NcrSlc, C57BL/6J JAX)、ラット(Wistar, F344/DuCrlCrlj)について、生涯飼育による老化動物育成事業を推進している。現在までにマウスで153ロット、Fischerラットで139ロット、Wistarラットで152ロットの老化動物を育成し続け、老年学および老年医学研究の推進において重要な役割を担っている。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

老化機構研究チーム、老化制御研究チーム、老化脳神経科学研究チーム、老年病態研究チーム、老年病理学研究チーム、千葉大学大学院医学研究院 先進加齢医学寄附講座、近畿大学生物理工学部 先端技術総合研究所 生物工学技術センター、実験動物中央研究所、東京大学大学院医学系研究科 加齢医学講座、東京大学医学部付属病院 老年病科、山下湘南夢クリニック 高度生殖医療研究所、シーエル研究所、ダイセルオルネクス株式会社

3 活動概要

施設管理業務は、老化動物育成供給を含む実験動物の準備供給、新規購入動物の発注、実験動物の飼育管理、実験動物感染症対策としての検疫検査、微生物学的クリーニング、生殖工学技術による研究支援、その他、動物実験全般に渡る技術支援、空調設備を始めとする設備機器の維持管理、施設運営予算の管理、購買物品の検収作業、また、実験動物飼育管理および建物管理を業務委託し、各社への指揮監督など多岐にわたる。これらの業務の内、特に、病原体感染事故と空調関連の事故を防止することを最優先課題とし、研究活動が円滑に行われるよう、運営している。また、厚生労働省の所管する実施機関として厚生労働省動物実験基本指針に従い、動物愛護の観点に配慮しつつ、科学的観点に基づく適正な動物実験が実施されるよう、情報収集に努め、教育訓練等で利用者への周知徹底を行っている。

以下、2017年度の主な活動を述べる。

1. 動物実験委員会、教育訓練（実験動物講習会）の開催

動物実験委員会

第1回：2017.5.8 第4回：2018.3.19

第2回：2017.12.15

第3回：2018.2.13

教育訓練

実験動物施設利用者講習会(2017.5.16、2017.5.9、2017.6.22、2017.7.19)、参加者95名
動物実験セミナー(2018.1.12)「動物実験における危機管理の実際」上條信一、参加者49名
実験動物慰霊祭と共催(2018.2.20)「脳の健康を支える嗅覚-その解剖学的特徴と役割-」横須賀誠、参加者63名

2. 実験動物使用数

動物実験委員会にて審査され、機関長により承認された85件の動物実験が実施された。実験動物使用数を表1に病原微生物検査数を表2に示した。

3. 生殖工学技術を応用した研究支援業務

体外受精または凍結胚融解・胚移植による実験個体の作製(19件)。

体外受精・胚凍結による凍結胚の作製(14件)。

マイクロインジェクション法による遺伝子改変マウス、ゲノム編集マウスの作製(3件)。

4 厚労省基本指針への対応

当センターは、「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本方針」(以下厚労省指針)に従い、動物実験実施規定を定めている。さらに、これら管理体制の厚労省指針への適合性について、自己点検ならびに評価を実施している。2017年1月30日には、第三者機構の調査を受け、厚労省指針への適合性に関してヒューマンサイエンス振興財団の動物実験実施施設認証センターより認証された。

5 業績

(1) 誌上発表

1. Akiko Amano, Yoshitaka Kondo, Yoshihiro Noda, Mitsuhiro Ohta, Noriaki Kawanishi, Shuichi Machida, Kazuteru Mitsunashi, Takafumi Senmaru, Michiaki Fukui, Osamu Takakaoka, Taisuke Mori, Jo Kitawaki, Masafumi Ono, Toshiji Saibara, Hiroshi Obayashi, Akihito Ishigami
Abnormal lipid/lipoprotein metabolism and high plasma testosterone levels in male but not female aromatase-knockout mice
Archives of Biochemistry and Biophysics Volume 622, 15 May 2017, Pages 47-58
2. 野田義博
適正な動物実験のための実験計画書の審査と承認
日本実験動物技術者協会 関東支部会報 No.182 30-31, 2017

(2) 学会・講演会発表

1. Yoshitaka Kondo, Shoko Takisawa, Yoshihiro Noda, Shuichi Machida, Toshiro Aigaki, Akihito Ishigami
Vitamin C deficiency in skeletal muscle switches muscle fiber types from slow to fast
International Conference on Frailty and Sarcopenia Research 2017 Barcelona April 27-28, 2017
2. 野田義博, 根本妙子, 田藤文大, 竹迫清之, 田中裕一, 高橋洋子, 遠藤玉夫
実験動物施設床面における転倒抑制フロアコートの有用性
第64回日本実験動物学会総会, 福島, 2017.5.25-27
3. 小笠原里奈, 小橋朱里, 東里香, 折杉卓哉, 西村愛美, 野田義博, 中川隆生, 小木曾力, 鷺津朱理, 細井美彦, 安齋政幸

L-carnitine添加体外成熟培地が体外成熟由来卵子におけるCpt2遺伝子へ与える影響

第64回日本実験動物学会総会, 福島, 2017.5.25-27

4. 小木曾力, 折杉卓哉, 東里香, 小橋朱里, 西村愛美, 野田義博, 中川隆生, 小笠原里奈, 鷺津朱理, 細井美彦, 安齋政幸
 β -Nicotinamide mononucleotide添加修正TaM培地を用いた体外成熟由来卵子への遺伝子発現に与える影響
第64回日本実験動物学会総会, 福島, 2017.5.25-27
5. 鷺津朱理, 東里香, 小笠原里奈, 小木曾力, 野田義博, 久保盛恵, 野々上範之, 細井美彦, 安齋政幸
当研究室で保管されている老化動物種から樹立した筋組織由来繊維芽細胞の評価系の確立
第64回日本実験動物学会総会, 福島, 2017.5.25-27
6. Yoshihiro Noda, Taeko Miyauchi-Nemoto, Naoko Maekawa-Anzai, Yoko Takahashi, Tamao Endo
Breeding environment of aged animal
第40回日本基礎老化学会大会, 愛知, 2017.6.14-16
7. Kouhei Narita, Yoshitaka Kondo, Yoshihiro Noda, Syuichi Machida, Masayuki Yoshida, Akihito Ishigami
Peptidylarginine deiminase 2 (PAD2) in mouse skeletal muscle
第40回日本基礎老化学会大会, 愛知, 2017.6.14-16
8. Yoshitaka Kondo, Shoko Takisawa, Yoshihiro Noda, Shuichi Machida, Toshiro Aigaki, Akihito Ishigami
Vitamin C Deficiency Leads to Skeletal Muscle Atrophy Like Sarcopenia
International Association of Gerontology and Geriatrics 2017 San Francisco July 23-27, 2017
9. 東里香, 野田義博, 久保盛恵, 野々上範之, 鷺津朱理, 小笠原里奈, 小木曾力, 細井美彦, 安齋政幸
高齢動物より樹立した線維芽細胞の老化評価マーカーおよび細胞機能評価法の検討
第23回日本野生動物医学学会大会, 東京, 2017.9.1-3
10. 鈴木秀行, 津元裕樹, 岩本真知子, 野田義博, 西風隆司, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一, 武藤昌国, 遠藤玉夫, 三浦ゆり
マウス血漿N結合型糖鎖に及ぼすシアル酸投

与の影響

第61回日本薬学会 関東支部大会, 東京, 2017.9.16

11. Masayuki Anzai, Rika Azuma, Masami Nishimura, Yoshihiro Noda, Akari Obashi, Rina Ogawasara, Akari Washizu, Chikara Kogiso, Yoshihiko Hosoi

Effect of in vitro maturation medium containing L-carnitine on gene expression during in vitro maturation of mouse embryos

第110回日本繁殖生物学会大会, 沖縄, 2017.9.25-26

12. Yoshihiro Noda, Taeko Nemoto, Kumiko Nakata, Tamao Endo, Naoki Yamashita, and Iku-roh Ohsawa

Molecular hydrogen improves the oxidative stress-induced low motility of mouse sperm

68th American Association for Laboratory Animal Science National Meeting 2017 Austin October 15-19, 2017

13. 滝沢晶子, 近藤嘉高, 滝野有花, 船越智子, 野田義博, 町田修一, 相垣敏郎, 石神昭人
雌雄マウスでのアスコルビン酸欠乏が骨格筋に及ぼす影響

2017年度生命科学系学会合同年次大会 第40回日本分子生物学会年会 第90回日本生化学会大会, 神戸, 2017.12.6-9

表1. 2017年度実験動物使用数

(ケージ)

		マウス		ラット	ウサギ
		一般	組換え		
実験動物施設	研究チーム	2,888	1,605	71	—
	老化動物	805	—	81	—
合計		3,693	1,605	152	—
		5,298			

* マウスは5匹/ケージ、ラット3匹/ケージ

表2. 2017年度病原微生物検査数

(匹)

	定期検査	検疫	合計
マウス	110	0	110
ラット	23	0	23
合計	133	0	133

所内研究会開催

名称・主催者	形式	演者	対象	年月日
動物実験セミナー・野田義博	講演	上條信一 (株式会社ライフィル 代表取締役、日本実験動物技術者協会 関東支部顧問)	所員	2018.1.12
平成29年度実験動物慰霊祭 記念講演・野田義博	講演	横須賀誠 (日本獣医生命科学大学 獣医学部 教授)	所員	2018.02.20

高齢者健康増進事業支援室

1 施設紹介

施設長：大淵修一

研究員：河合恒

非常勤研究員：関口晴子、本島安純、西田和正、
鶴田陽和、河出卓郎、中田晴美、
坂井志麻

非常勤事務員：高島明子、佐藤遼太郎、
佐藤由紀子

高齢者健康増進事業支援室では、高齢者の介護予防・健康増進を目的として、1) 地域における介護予防活動の発展を目指した区市町村等への事業支援及びその効果検証、2) 介護予防の専門職である介護予防主任運動指導員、介護予防運動指導員の効果的な養成とフォローアップ、3) 民間企業との共同研究を行っている。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

- ・ 東京都介護予防推進支援センター
- ・ 自立促進と介護予防研究チーム
- ・ 社会参加と地域保健研究チーム
- ・ 福祉と生活ケア研究チーム
- ・ 健康増進センター

3 活動概要

1) 地域における介護予防活動の発展を目指した区市町村等への事業支援及びその効果検証（自治体支援プロジェクト）

小金井市、千葉県浦安市「介護予防機能強化推進事業」、多摩市、東大和市「介護予防リーダー養成講座」、北区「介護予防事業評価」などの事業を受託し、自治体の介護予防事業支援を実施した。

また、平成26～28年度まで日本医療研究開発機構委託費（AMED）を受け実施した、豊島区菊かおる園地域包括支援センター所管地域における住民協働の介護予防のまちづくりの効果検証研究について、郵送による追跡調査を行った。

2) 介護予防主任運動指導員、介護予防運動指導員の効果的な養成とフォローアップ

システム改修による効果的な更新・フォローアップ体制の整備、専用ホームページによる定期的な情報提供、平成30年度に向けたテキスト

改訂、主任運動指導員指定事業者との協力による学会や展示会での普及活動を行った。

3) 民間企業との共同研究

株式会社インフォデリバ「AI等を活用したシニア向け健康増進アプリケーション開発」、羽立工業株式会社「地域づくりによる介護予防の実証実験」、ローム株式会社「歩行動作のAIを用いた解析による早期認知症の発見」など民間企業との共同研究を行った。

4 今後の展望

高齢者健康増進事業支援室は、1年から5年の短中期の課題に着眼し、研究所のエビデンスを活かして区市町村等の支援を行う。また、民間企業との共同研究にも積極的に取り組み、地域が一丸となって、健康寿命の延伸に取り組むことができるようにする。

5 業績（誌上発表）

1. Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yutaka Watanabe, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi: Comparison of body composition and physical and cognitive function between older Japanese adults with no diabetes, prediabetes, and diabetes: A cross-sectional study in community-dwelling Japanese older people, *Geriatr Gerontol Int*, 2018, in press.
2. Shuichi P Obuchi, Shuichi Tsuchiya, Hisashi Kawai: Test-retest reliability of daily life gait speed as measured by smartphone global positioning system, *Gait and Posture*, 61, 282-286, 2018.
3. 江尻愛美, 河合恒, 藤原佳典, 井原一成, 平野浩彦, 小島基永, 大淵修一: 都市高齢者における社会的孤立の予測要因: 前向きコホート研究, *日本公衆衛生雑誌*, 65(3), 125-133, 2018.
4. Yuki Ohara, Naomi Yoshida, Hisashi Kawai, Shuichi Obuchi, Shiro Matakai, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe: Response to comments on: Development of an oral health-related self-efficacy scale for use with older adults, *Geriatr Gerontol Int*, 2017, in press.
5. Hisashi Kawai, Kazushige Ihara, Takeshi Kera, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Masashi

- Tanaka, Motonaga Kojima and Shuichi Obuchi: Association between statin use and physical function among community-dwelling older Japanese adults, *Geriatr Gerontol Int.* 2017 Dec 26. doi: 10.1111/ggi.13228. [Epub ahead of print].
6. 橋本和明, 竹内武昭, 中村祐三, 井原一成, 大淵修一, 平野浩彦, 藤原佳典, 河合恒, 小島基永, 端詰勝敬: 都市部高齢者の不眠症状とその関連因子, *不眠研究*2017, 19-23, 2017.
 7. Mitsugu Hachisu, Masataka Hashidume, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi and Kazushige Ihara: Relationships between serum BDNF concentration and parameters for body-health score in community dwellings of elderly people, *Geriatr Gerontol Int.* 2017 Dec 8. doi: 10.1111/ggi.13210. [Epub ahead of print].
 8. Kumpei Tanisawa, Nobuyoshi Hirose, Yasumichi Arai, Hiroshi Shimokata, Yoshiji Yamada, Hisashi Kawai, Motonaga Kojima, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano, Hiroyuki Suzuki, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Yu Taniguchi, Shoji Shinkai, Maki Sugaya, Mitsuru Higuchi, Tomio Arai, Seiji Mori, Motoji Sawabe, Noriko Sato, Masaaki Muramatsu, and Masashi Tanaka: Inverse association between height-increasing alleles and extreme longevity in Japanese women, *J Gerontol A Biol Sci Med Sci.* 2017 Aug 21. doi: 10.1093/gerona/glx155. [Epub ahead of print].
 9. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka: Identification of five genetic variants as novel determinants of type 2 diabetes mellitus in Japanese individuals by exome-wide association studies, *Oncotarget*, 8 (46), 80492-80505, 2017.
 10. Hisashi Kawai, Takeshi Kera, Ryo Hirayama, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Motonaga Kojima, Shuichi Obuchi: Morphological and qualitative characteristics of the quadriceps muscle of community-dwelling older adults based on ultrasound imaging: Classification using latent class analysis, *Aging Clin Exp Res.* 2017 Jun 2. doi: 10.1007/s40520-017-0781-0. [Epub ahead of print]
 11. Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi: Relationship among peak expiratory flow rate, body composition, physical function, and sarcopenia in community-dwelling older adults, *Aging Clin Exp Res.* 2017 May 30. doi: 10.1007/s40520-017-0777-9. [Epub ahead of print]
 12. Keiko Motokawa, Yutaka Watanabe, Ayako Eda, Maki Shirobe, Masaharu Murakami, Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Yayoi Tanaka, Hirohiko Hirano: Frailty severity and dietary variety in Japanese older persons: A cross-sectional study, *J Nutr Health Aging.* 2018;22(3):451-456. doi:10.1007/s12603-018-1000-1.
 13. Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, and the TOSHIMA Research Group: Differences in body composition and physical function related to pure sarcopenia and sarcopenic obesity: a study of community-dwelling older adults in Japan, *Geriatr Gerontol Int.* 2017 Jun 28. doi: 10.1111/ggi.13119. [Epub ahead of print].
 14. Takeshi Arai, Shuichi Obuchi, Yoshitaka Shiba: A novel clinical evaluation method using maximum angular velocity during knee extension to assess lower extremity muscle function of older adults, *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 73, 143-147, 2017.

研究情報管理室

1 施設紹介

室長：遠藤玉夫

研究員：森澤拓

兼務研究員：坂田宗之

(神経画像研究チームネットワーク担当)

非常勤研究員：久保田ゆかり

研究情報管理室は、研究所LANの運用・管理、セキュリティの確保等を行い、研究所における情報環境を整え、「情報」というキーワードのもと研究活動を支援しています。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

東京都健康長寿医療センター、経営企画課情報管理係とネットワーク管理を連携

東京都健康長寿医療センター病院、放射線診療科とネットワーク管理を連携

3 活動概要

1) 研究所LANの運用・セキュリティ管理

東京都健康長寿医療センター研究所LANの運用を行っています。インターネットに1Gbpsで接続し、電子メール利用などの管理を行っています。全フロアに無線アンテナを設置し、モバイル機器への対応を行っています。さらに研究所LANのセキュリティの確保、セキュリティを確保した病院との連携のために、研究情報ネットワーク情報セキュリティ実施手順、及び神経画像研究ネットワーク情報セキュリティ実施手順の運用を行っています。

2) 共同利用パーソナルコンピューター・大判プリンター機器等の運用・管理

共用のWindowsパソコン、MACパソコン、カラーレーザープリンター、B0対応大判プリンター等の運用管理を行っています。また、共用のノートパソコンの貸出もを行っています。一部機器は、病院、事務からの利用要望にも対応しています。

3) 統計処理等アプリケーションソフトウェアの管理

共用パソコンに統計処理ソフトウェアSASを導入し、共同利用サービスを行っています。その他代表的なパソコン用ソフトウェアも導入し、サービスを行っています。

4) 薬品管理支援サーバ、老研瓦版サーバ、共用ファイルサーバの運用

薬品管理支援サーバは、毒物及び劇物の適正な管理、その他各種薬品の適正な管理支援のために導入されており、運用管理を行っています。老研瓦版サーバは、研究所内のお知らせ掲示板として、実験動物施設からの動物管理情報など、研究所内部の連絡のためのホームページとして、東京都健康長寿医療センターのお知らせホームページの補完的役割を担い運用管理を行っています。さらに、共用ファイルサーバを運用管理しており、各種委員会連絡等に用いられています。

5) 文献検索

PsycINFO、AGELINE、医学中央雑誌などの文献検索データベースについて、インターネットから利用できる方式で契約を行い、管理運用を行っています。

6) その他

研究用コンピューターシステムの導入相談、パソコンの利用トラブル相談等に対応しています。

4 今後の展望

情報漏えい対策等ネットワークセキュリティの強化を図ると共に、研究所スタッフのセキュリティ意識の向上を図っていく予定です。

東京都介護予防推進支援センター

1 施設紹介

施設長：大淵修一
研究員：中村睦美、安永正史、江尻愛美、
白部麻樹、伊藤久美子
技術員：三木明子
非常勤研究員：植田拓也

東京都介護予防推進支援センターでは、区市町村内での住民主体の介護予防に取り組む規範的統合を促し、地域の実情や取組段階に応じた専門的知識の付与と、実情に合わせた技術的な支援を区市町村に対して提供することにより、介護予防活動の普及に向けた取り組みを支援していく。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

- ・高齢者健康増進事業支援室
- ・自立促進と介護予防研究チーム
- ・社会参加と地域保健研究チーム
- ・福祉と生活ケア研究チーム
- ・東京女子医科大学
- ・首都大学東京

3 活動概要

1) 人材育成

- ①研修会：介護予防の基礎を学ぶ「総論編」と通いの場の立ち上げから継続支援までを実践的に学ぶ「実践編」「ワークショップ1・2・3」「実践報告会」からなる一連の研修会を開催した。
- ②連絡会：各区市町村における介護予防の取組状況や課題を共有するために「介護予防による地域づくり推進員連絡会」「地域づくりリハ専門職連絡会」を実施した。
- ③情報交換会、大交流会：介護予防活動に係わる住民が、活動に対する意欲を高め、主体的に活動を継続・拡大するための支援として「情報交換会」「大交流会」を開催した。

2) 派遣調整

各区市町村において、地域づくりにつながる介護予防活動等をリハ専門職と協働して進めることができるよう、区市町村からの要望内容に応じて、東京都介護予防推進センターからリハ専門職（アドバイザーもしくは地域のリハ専門

職）の派遣調整を実施した。

3) 相談支援

東京都健康長寿医療センター研究所におけるこれまでの研究成果やノウハウを活かし、各区市町村において介護予防事業を進めていく上で課題解決を支援するため、知識・技術を有する研究職が相談への助言や必要性に応じた現地での直接的支援を実施した。

4) 事業評価・効果検証

地域づくりによる介護予防のプロセス評価チェックリストの作成、「通いの場」継続支援方法の構築のための活動実態調査、2025年に向けた壮年期への「通いの場」づくり意識調査を実施した。

4 今後の展望

東京都介護予防推進支援センターでは、東京都の全ての自治体が、人と人とのつながりを通じて参加者や通いの場が継続的に拡大していくような「地域づくりによる介護予防」に取り組めるよう支援していく。

具体的には、コンセプトに沿った「住民運営の通いの場」への参加率を2025年までに都内高齢者人口の10%にすることを目標とする。

5 業績（著書等）

1. 大淵修一，中村睦美，安永正史，江尻愛美，白部麻樹，伊藤久美子，三木明子：東京都介護予防推進支援センター事業案内パンフレット，2017.6
2. 大淵修一，中村睦美，安永正史，江尻愛美，白部麻樹，伊藤久美子，三木明子：介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修総論編テキスト，2017.7
3. 大淵修一，中村睦美，安永正史，江尻愛美，白部麻樹，伊藤久美子，三木明子：介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修実践編テキスト，2017.9
4. 大淵修一，中村睦美，安永正史，江尻愛美，白部麻樹，伊藤久美子，三木明子：介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修ワークショップ1テキスト，2017.10
5. 大淵修一，中村睦美，安永正史，江尻愛美，白部麻樹，伊藤久美子，三木明子，植田拓也：介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護

予防研修ワークショップ2テキスト, 2017.12

6. 大淵修一, 中村睦美, 安永正史, 江尻愛美, 白部麻樹, 伊藤久美子, 三木明子, 植田拓也: 介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修ワークショップ3テキスト, 2018.1
7. 大淵修一, 中村睦美, 安永正史, 江尻愛美, 白部麻樹, 伊藤久美子, 三木明子, 植田拓也: 介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修実践報告会テキスト, 2018.3
8. 大淵修一, 中村睦美, 安永正史, 江尻愛美, 白部麻樹, 伊藤久美子, 三木明子, 植田拓也: 介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修総論編DVD, 2018.3
9. 大淵修一, 中村睦美, 安永正史, 江尻愛美, 白部麻樹, 伊藤久美子, 三木明子, 植田拓也: 介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修実践編DVD, 2018.3
10. 大淵修一, 中村睦美, 安永正史, 江尻愛美, 白部麻樹, 伊藤久美子, 三木明子, 植田拓也: 介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修ワークショップ1DVD, 2018.3
11. 大淵修一, 中村睦美, 安永正史, 江尻愛美, 白部麻樹, 伊藤久美子, 三木明子, 植田拓也: 介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修ワークショップ2DVD, 2018.3
12. 大淵修一, 中村睦美, 安永正史, 江尻愛美, 白部麻樹, 伊藤久美子, 三木明子, 植田拓也: 介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修ワークショップ3DVD, 2018.3
13. 大淵修一, 中村睦美, 安永正史, 江尻愛美, 白部麻樹, 伊藤久美子, 三木明子, 植田拓也: 介護予防でつながる!ひろがる!大交流会DVD, 2018.2
14. 大淵修一, 中村睦美, 安永正史, 江尻愛美, 白部麻樹, 伊藤久美子, 三木明子, 植田拓也: 東京都介護予防推進支援センターだより, 2018.3.15

II 長期縦断研究等

SONIC研究

プロジェクトリーダー：石崎 達郎

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目・研究目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
前期高齢者から100歳以上高齢者までの高齢期全体の集団を対象とした身体・生理機能、認知機能、感情状態、心理的well-beingの経年変化と関連要因に関する総合的・包括的検討	79-81歳コホート第1回調査1,000名、100歳コホート第1回調査前半100名	89-91歳コホート第1回調査400名、100歳コホート第1回調査後100名	69-71歳コホート第2回調査1,000名	79-81歳コホート第2回調査973名、100歳コホート第2回調査前半100名	89-91歳コホート第2回調査300名、100歳コホート第2回調査後半100名
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	69-71歳コホート第3回調査	79-81歳コホート第3回調査、100歳コホート第3回調査	89-91歳コホート第3回調査	69-71歳コホート第4回調査	79-81歳コホート第4回調査

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
福祉と生活ケア研究チーム 石崎達郎	福祉と生活ケア研究チーム 増井幸恵、小野口航、高橋龍太郎 自立促進と介護予防研究チーム 粟田圭一、稲垣宏樹、小川まどか、吉田裕子 老化機構研究チーム 三浦ゆり 副所長 遠藤玉夫	慶応義塾大学 新井講師、平田助教、広瀬特別招聘教授、高山教授、石岡助教 大阪大学 権藤准教授、池邊准教授、神出教授、樺山助教 神戸大学 片桐准教授 日本学術振興会海外特別研究員・University of Zurich 中川研究員 国立保健医療科学院 大久保研究官

3 第二期中期計画の研究成果

SONIC研究の主たる目的は、①前期高齢期から超高齢期に至る高齢期全般の心身機能と健康度の年齢差、および縦断的变化の解明、②後期高齢期および超高齢期の諸機能の個人差、諸機能の年齢差および加齢変化の個人差についての関連要因の解明（健康長寿要因の解明）、の2点であり、これまで(1)医学的変数、(2)歯学・栄養学的変数、(3)心理・社会的変数と、包括的な側面から研究を実施してきた。

第2期中期計画期間（平成25年度～29年度）は平成25年度の70歳群第2波調査、平成26年度の80歳群第2波調査、平成27年度の90歳群第2波調査、平成28年度の70歳群第3波調査、平成29年度の80歳群第3波調査の実施が終了し、70歳群および80歳群では3回、6年間の追跡が可能となり、90歳群では2回、3年間の追跡が可能となった。これらの横断データおよび縦断データを用いて上記の課題の検討を行っている。また、80歳群、90歳群の第2波追跡調査（平成26年、27年）、70歳群、80歳群の第3波追跡調査（平成28年、29年）におい

ては未受診者への訪問調査もしくは郵送調査を実施し、追跡調査の未受診者の特性を検討した。

調査は70歳群、80歳群では初回調査において1,000人前後のコホートを立ち上げ、その後、2回の追跡調査（会場調査ならびに訪問調査）を実施し、参加率は65～75%となっている。90歳群では平成24年、平成27年にそれぞれ300人弱のコホートを立ち上げ、平成24年コホートについては3年後の1回目の追跡調査を行い、参加率は44.1%であった。

主な研究成果については、医学変数については、プロテオミクス解析による初期の認知機能低下マーカーの探索、高血圧と認知機能の関連および因果関係に関する研究、高血圧に関連する遺伝子の解明がある。歯学・栄養学変数については、口腔機能、食物・栄養摂取、諸機能の3要因の関連性の解明、前期高齢者・後期高齢者における味覚の感受性の横断的・縦断的検討を行ってきた。心理・社会的変数については、高齢期における心理特性の発達と精神的健康・幸福感との関連性の解明、高齢期の認知機能の関連要因の解明などで成果をあげている。

4 今後の展望

(1) 後期高齢期・超高齢期の健康指標の標準値と健康関連要因の解明

これまで収集したSONIC研究80歳群、90歳群のデータを用いて、これまで標準値を定めることが困難であった血圧、動脈硬化、口腔機能、食品・栄養摂取量、運動機能、生活機能、認知機能、精神的健康（幸福感）など諸変数の標準値を定め、後期高齢期、超高齢期の包括的な健康のあり方を策定する。また、後期高齢期や超高齢期における各健康指標の関連要因を詳細に検討していく。その際に、医学変数、歯学・栄養学変数、心理・社会学変数が包括的にどのように関わっていくかのモデルを検討していく。

これらの検討を可能にするためには、特に90歳代高齢者のサンプル（現在597件）を増やす必要があるため、平成24年度、平成27年度に引き続き90歳高齢者の新規コホート（300名程度）を立ち上げ、90歳サンプルを900件以上まで増やし、日本有数の超高齢者のデータベースを構築していく。

(2) 後期高齢期から超高齢期の生き残り要因および健康維持要因の解明

SONIC70歳群、80歳群については、これまで3年ごとに追跡調査を実施し、両群とも平成29年度までに6年間、3時点の調査を行うことができた。第3期中期計画期間中にはこの両群について、12年間の追跡を行うことが可能となり、前期高齢期から後期高齢期、後期高齢期から超高齢期に至る追跡が完了する。この追跡データおよび脱落者の生存や機能状態の確認データを用いて、後期高齢期から超高齢期の生き残り要因および健康維持要因を解明する。

(3) 初期の機能低下によるタンパク質変動に関する解析

平成26年度から開始した初期の認知機能低下によるタンパク質変動に関する解析においては、MCIの診断マーカー候補となる可能性のあるタンパク質を明らかできた。これについても、同一人物の認知機能低下前と低下後を比較することができるため、ばらつきの原因となる因子を抑えた効率的なプロテオミクス解析が可能となっている。現在、絞り込んだスポットの翻訳後修飾について検討している。また、今後は認知機能低下のみならず、虚弱に繋がる運動機能の低下についても同様の分析をおこなっていく。今後は抗体などを用いた高感度かつハイスループット検出法を構築し、初期の認知機能、運動機能の低下に関するバイオ

虚弱 (frailty) の予防戦術の解明を目的とした長期縦断研究

プロジェクトリーダー：北村 明彦

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目・研究目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
後期高齢期の虚弱化の予防戦術の立案	草津縦断調査 同悉皆調査	草津縦断調査	草津縦断調査	草津縦断調査 同悉皆調査	草津縦断調査
	鳩山コホート 簡易調査	鳩山コホート 詳細調査	鳩山コホート 簡易調査	鳩山コホート 詳細調査	鳩山コホート 簡易調査
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	草津縦断調査	草津縦断調査 同悉皆調査	草津縦断調査	草津縦断調査	草津縦断調査 同悉皆調査
	鳩山コホート 詳細調査	鳩山コホート 簡易調査	鳩山コホート 詳細調査	鳩山コホート 簡易調査	鳩山コホート 詳細調査

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
社会参加と地域保健研究チーム 北村明彦	副所長 新開省二 社会参加と地域保健研究チーム 西真理子、谷口優、天野秀紀、田中泉澄、清野諭、横山友里、池内朋子、成田美紀、遠峰結衣、藤原佳典、鈴木宏幸、桜井良太 自立促進と介護予防研究チーム 栗田圭一、渡邊裕、枝広あや子、本川佳子、大須賀洋祐 福祉と生活ケア研究チーム 石崎達郎、大淵修一 老化制御研究チーム 石神昭人 老化機構研究チーム 伊藤雅史、藤田泰典 老年病態研究チーム 重本和宏	臨床研究推進センター 森聖二郎、周赫英 臨床検査科 田中雅嗣 歯科口腔外科 平野浩彦 早稲田大学 鈴木克彦 桜美林大学 渡辺修一郎、田中千晶 東北文化学園大学 吉田裕人 内閣府 杉原茂 地域医療振興協会 野藤悠 国立長寿医療研究センター 李相倫 日本補綴歯科学会 窪木拓男、玉置勝司 日本医科大学 陣内裕成 順天堂大学 野田愛 UCL 児島剛太郎

3 第二期中期計画の研究成果

(1) 草津調査

第二期中期計画期間に、65歳以上住民を対象に詳細健診（会場型健診）を毎年実施した。受診者数は平成25年の608名以後増加傾向を示し、平成29年は715名であった。同町での過去16年間の健診受診者実人数は計2,023名（同町の平成29年の在宅高齢者人口は約2,200名）、延べ受診者数は9,493名となり、長期の縦断的分析が可能ながわが国で唯一の高齢者コホート研究を確立した。

また、在宅高齢者全員に対する悉皆調査を平成26年に実施し1,743名の応答を得た（応答率88.2%）。平成29年も約2,200名に対して同様の調査を実施した。さらに、異動情報、医療費・介護費データを平成27年分まで収集し、詳細健診、悉皆調査デー

タと突合して多様な分析を行った。

同町の介護予防対策の効果分析の結果、70歳時健康余命の上昇、要介護新規認定率の上昇抑制が認められ、町全体の介護費の上昇も抑制され、介護保険料基準額の引き下げにつながった。同様の環境をもつ他地域での介護予防対策のモデルの一つとなると考えられる。

(2) 鳩山調査

平成22年に開始した高齢者742名のコホート研究を継続して実施し、郵送調査と詳細調査（会場型健診）による追跡調査を毎年交互に実施し、いずれも約80～90%の高い応答率を得た。さらに、平成28年と29年には詳細な栄養摂取調査を行った。同時に異動情報、医療費・介護費のデータを平成27年分まで収集し、費用効果分析を開始した。

また、平成23年～平成26度にかけて、虚弱の予防・改善を目的としたプログラム（運動・栄養・社会機能の向上を目指す内容で構成）の介入研究を実施し、同プログラムの短期的、中期的、長期的効果を明らかにした。このプログラムは現在、様々な場で活用されている。

（3）共同研究

当研究所がこれまでに実施してきた複数の地域コホートのデータを統合し、大規模なサンプルサイズのもとで日本人高齢者の体力標準値を検討した。その結果から成る「体力チェックシート」は、当センターのフレイル外来、及び複数の地域での体力測定に実装された。さらに、統合データをもとに、日本人高齢者の体組成基準値を求め日本人高齢者向けのサルコペニア簡易チェックシステムを開発した。

さらに、草津調査、鳩山調査のデータを活用した所内外の関係機関との共同研究として、新規バイオマーカーに関する共同研究、加齢黄斑変性の栄養疫学研究、日本補綴歯科学会との共同研究等を幅広く実施した。

4 今後の展望

（1）草津調査

草津町と東京都健康長寿医療センター研究所の間で、2001年より実施中の共同研究事業をさらに5年間継続させ、長期縦断データを積み上げる。これにより、分析対象者数約2,200人（延べ約1万3千人）、平均追跡年数14年というわが国では類を見ない高齢者の研究コホートが構築される。大規模な縦断データセットをもとに、経時的にフレイル、要介護状態、死亡に至る加齢変化パターンを解明し、異なるパターンを形成する要因の分析を一層進めたい。

また、地域レベルでの機能的健康度や要介護認定率の時代的变化を継続して観察し、それらのアウトカムに関連する要因を生態学的に解明することも重要と考える。同町においては、近年、要支援含む軽度の要介護の認定率が次第に上昇しつつあることが示されていることから、今後、その背景を明らかにし、その課題に対処すべく介護予防対策の内容をシフトしていく必要があると考えられる。

その一環として、草津調査への参加者のメリットの拡大と満足度の向上につながり、かつ新しい視点からの研究が可能となるよう調査内容のバージョンアップを図りたい。すなわち、高齢者の関心の高い項目（例えば、骨密度検査、ロコモティ

ブシンドローム関連検査、詳細な生理学的検査等）の導入を検討する。

（2）鳩山調査

鳩山調査の第三期中期計画は、第二期計画までに収集した約7年間の追跡調査データをもとに同町におけるフレイル、要介護状態の要因の分析を進めたい。鳩山町で開発した虚弱予防のための「大都市近郊型モデル」の効果判定、特に社会参加活動の効果についても検討する。

また、第三期では、コホート追跡型の調査から、悉皆的調査や後期高齢者健診の場の活用などにより全町的な調査へと発展させ、同町が県内で健康寿命第1位となっている原因や今後の課題を明確化したい。

さらに、食物摂取頻度調査や食事記録法により収集してきた食事調査データを活用するとともに、新たな研究課題として、現在の日本人高齢者の食事摂取状況の評価を簡便かつ適切に行うため、当研究所のオリジナリティである食品摂取多様性尺度の改良版の開発と有用性の検討を行う。これにより、高齢者の健康寿命の延伸に効果的な栄養・食事に関するエビデンスの確立を目指す。

（3）共同研究

① 統合研究

第二期中期計画にて統合コホート研究データを基に開発した高齢者の体力評価システムの実装化をさらに進める。日本人高齢者向けのサルコペニア簡易チェックシステムについてはその妥当性を検証する。また、統合データを用いての食品摂取多様性と機能的健康度との関連等、栄養疫学的知見を積み重ねていきたい。

② その他の共同研究

所内外の関連部門、関連機関との共同研究を継続して実施し、基礎医学、臨床医学、歯科等の多面的な分野からの知見を創出する等、独創性の高い研究を継続して推進する。具体的なテーマとしては、高齢者の低栄養リスクを評価する簡易アセスメントツールの開発、高齢者の腎機能低下パターンの解明とその関連因子、腸内細菌叢と機能的健康度との関連、認知症のスクリーニング検査法の開発、ロコモティブシンドロームの改善研究などが挙げられる。

高齢期の健康と自立の維持と要介護予防のための 新たな検診システムの開発

プロジェクトリーダー：吉田 英世（平成28年8月まで）
金 憲経（平成28年9月から）

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目・研究目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
高齢期、特に後期高齢期における健康と自立の維持を阻害する因子の把握し、これらに基づいて老年症候群を予防するための新たな検診システムの開発を試みる。	※新規コホート(2011年コホート)初回調査	※2011年、既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年、既存コホート(対象者追加)追跡調査	※既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年コホート(対象者追加)追跡調査
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	※既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年コホート(対象者追加)追跡調査	※既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年コホート(対象者追加)追跡調査	※2011年コホート、既存コホート追跡調査

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
自立促進と介護予防研究チーム 金憲経	自立促進と介護予防研究チーム 渡邊裕、枝広あや子、吉田祐子、小島成実 大須賀洋祐、藤野健 福祉と生活ケア研究チーム 大淵修一 社会参加と地域保健研究チーム 藤原佳典、鈴木宏幸 老化制御研究チーム 石神昭人 高齢者健康増進事業支援室 河合恒 長期縦断研究 清水洋子、村上政治	糖尿病・代謝・内分泌内科 荒木厚 歯科口腔外科 平野浩彦 桜美林大学 鈴木隆雄 国立長寿医療センター研究所 島田裕之 人間総合科学大学 熊谷修 札幌医科大学 古名丈人 東邦大学 井原一成 東京医療学院大学 小島基永 東京医科歯科大学 小原由紀

3 第二期中期計画の研究成果

- 1) 板橋区2006年コホートの11年追跡調査（既存コホート）：2006年お達者健診受診者957名の追跡調査を行い、2007年640名、2009年569名、2011年766名、2013年644名、2015年度689名を調査した。2017年10月31日～11月3日に11年後の追跡調査を行う予定である。本コホートの追跡調査より、排尿障害健診システム構築に活用可能な知見を得る。
- 2) 板橋区2008年コホートの8年追跡調査（既存コホート）：ベースライン調査である平成20年度の受診者1,289名に対して受診票を発送し、会場

招待型健診を行い、平成22年737名、平成24年569名、平成26年487名を調査した。8年追跡調査を平成28年9月26日～10月5日（10/1土曜日、2日日曜日を除く）の計7日間実施し、83歳以上の高齢女性325名のデータを収集した。会場調査不参加者964名を対象に郵送調査を行い、435名のデータを収集した。追跡者数は、郵送（435名）+会場（325名）=760名、追跡率は59.0%である。本コホートの追跡調査より、サルコペニア健診システムの構築に繋がる知見を得る。

- 3) 板橋区2011年コホート追跡調査（7回目の調査）：2011年お達者健診受診者913名（男性363名、女性550名）である。これまで2012年835名（男

性350名、女性485名)、2013年793名(男性340名、女性453名)、2014年762名(男性313名、女性449名)、2015年639名(男性265名、女性374名)、2016年831名の会場招待型の健診を行った。本年は7回目の調査となり、継続受診者1,510名、65歳新規対象者495名に案内状を郵送し、平成29年9月24日～10月3日(中8日間)調査で761名(継続受診者719名、新規42名)のデータを収集した。

4) 新期コホートの調査開始：2006年コホートの11年追跡調査を平成29年10月31日～11月3日(81歳～95歳)に行い、コホート追跡調査を終了する予定である。また、2008年コホートの10年追跡調査(85歳～95歳)を平成30年に行い、終了予定である。終了背景は、両コホート共に対象者の高齢化が進み、参加率の低下や10年間の追跡に達したことである。2006年と2008年の両コホートの代わりのコホートとして、2017年度に新たなコホートを立ち上げ、平成29年10月9日～23日(中13日間)に調査を行い1,035名のデータを収集した。新コホートについては、今後10年間追跡する予定である。本コホートについて、長期的に追跡調査を行うことにより、身体的・社会的・認知的・オーラルフレイル健診システム構築に寄与できる知見を得ることを目的とする。

4 今後の展望

(1) 既存コホートの追跡調査

①2008年コホート：平成20年度に大都市部在住75歳以上の高齢女性1,289名を対象に会場招待型健診を行い、その後平成22年737名、平成24年569名、平成26年487名、平成28年325名、計4回の会場型追跡調査を実施した。平成30年度に10年の追跡調査を会場招待型健診+郵送調査を実施する予定である。10年間のデータを基にサルコペニア早期発見が可能な健診システムを構築する計画である。

②2011年コホート：2011年お達者健診受診者913名(男性363名、女性550名)について、2012年835名(男性350名、女性485名)、2013年793名(男性340名、女性453名)、2014年762名(男性313名、女性449名)、2015年639名(男性265名、女性374名)、2016年831名、2017年761名の会場招待型の健診データを収集した。今後も、会場招待型の健診を続けて行い、データを収集する計画である。これらのデータを基に認知機能の変化や関連要因、オーラルフレイルと身体的フレイルとの関連、食欲とフレイルとの関連性の解明に有効な健診システムを構築する計画である。

(2) 2017年コホートの追跡調査

平成29年10月お達者健診に参加した65歳～80歳の高齢女性1,035名について、平成31年、平成33年、平成35年、平成37年、平成39年度に追跡調査を行う計画である。平成29年度に初回調査を行った新コホートについて、10年間追跡し、身体的・社会的・認知的・オーラルフレイルの特徴解明、関連要因の解明に有効な「総合的フレイル健診システム」を構築し、提案する。

(3) Stepping trail making test (S-TMT) による認知機能評価の解明

簡単な体力測定より妥当性・信頼性・客観性が担保される認知機能評価法を開発するために、2008年コホートの8年追跡調査時に、310名のS-TMTデータを収集した。データの分析結果、S-TMTが遅くなるほどMMSE点数が下がる傾向が観察され、認知機能の低下の独立した予測因子となる可能性を検証した。S-TMTと認知機能との関連性をより明確にするために、平成28年度に板橋区高島平調査時に70歳以上の男女1,223名、平成29年度板橋新コホート調査時に65歳以上の女性1,035名について、データを収集した。収集したデータを詳細に分析し、S-TMTによる認知機能評価の妥当性・信頼性・客観性を検証する。

(4) 総死亡に関連する要因の解明

平成20年度に大都市部在住75歳以上の高齢女性を対象に行った会場調査参加者1,289名の転帰調査を平成27年度行い、1,127名のデータを収集した。その結果によれば、生存1,014名、死亡113名である。説明変数として、前フレイル・フレイル、前サルコペニア・サルコペニア、重症サルコペニア、握力、歩行速度、骨格筋量指数投入し、死亡関連要因を生存分析より解明する。

(5) うつと認知機能低下との関連性の解明

2008年度コホートの4年度の追跡調査(2012年)のデータに基づき、MMSEによる認知機能と基本チェックリストによるうつの関連性を分析した結果、認知機能低下はうつと密接に関連する可能性が強く示唆された。第三期中期計画ではうつと認知機能低下との関連性について詳細な解析を行う。

都市高齢者の社会・経済・健康格差を乗り越える研究

プロジェクトリーダー：大瀧 修一

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目・研究目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
都市高齢者の社会、 経済の変化に伴う健康格差を明らかにする	予備調査（対象地区の選定、自治体との連携準備等）	基礎調査（センター周辺の9丁目7,000名への郵送調査）	追跡調査（郵送調査4,200名、訪問調査100名）	追跡調査（郵送調査4,200名、訪問調査200名）	追跡調査（郵送調査4,200名、訪問調査300名）
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	追跡調査（郵送調査4,200名、訪問調査400名）	追跡調査（郵送調査4,200名、訪問調査500名）	追跡調査（郵送調査4,200名、訪問調査600名）	追跡調査（郵送調査4,200名、訪問調査700名）	追跡調査（郵送調査4,200名、訪問調査800名）

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
A系、B系幹部研究員による共同執行体制（提案責任者） 福祉と生活ケア研究チーム 大瀧修一	老化制御研究チーム 石神昭人 自立促進と介護予防研究チーム 金憲経、渡邊裕 社会参加と地域保健研究チーム 藤原佳典 福祉と生活ケア研究チーム 石崎達郎、大瀧修一 高齢者健康増進事業支援室 河合恒	臨床検査科 田中雅嗣 糖尿病・代謝・内分泌内科 荒木厚 歯科口腔外科 平野浩彦 リハビリテーション科 小山照幸 循環器内科 杉江正光 桜美林大学老年学総合研究所 鈴木隆雄所長 東京女子医大地域看護学 中田晴美准教授 東京医療学院大学 小島基永教授

3 第二期中期計画の研究成果

この研究では、都市高齢者の社会・経済・健康による格差を長期縦断研究によって明らかにし施策を提言することを目的とする。このため追跡調査で脱落するものに着目し訪問調査によって転帰を追跡する。また、中間年以降は介入地域に対して追跡調査で明らかになった要因について都市の資源を活用しながら介入を行い、最終年に介入地域と観察地域の差を比較する。

2012年に研究所近隣の板橋区9丁目の65歳以上86歳未満6,944人に郵送調査によるベースライン調査を行った。3,744名（53.9%）がこの調査に回答した。この研究では今後の脱落の要因を明らかにすることが目的なので、初年度にベースライン調査に応答した者を追跡対象とした。回答者而非回答者は回答者で女性の割合が有意に高く、回答者は男性で年齢が有意に高かったが、女性では差がなかった。2014年の追跡調査に回答した者（64.1%）、フォローアップの郵送調査に回答した者（12.6%）、

はがき調査に回答した者（6.3%）、訪問調査に応じた者（4.2%）、いずれも不参加の者（2.7%）と追跡調査の困難度で操作的に脱落者を分類したところ、脱落者では健康度自己評価、老研式活動能力指標、外出頻度が低く、追跡困難度と直線的に関係していることがわかった。追跡困難度によって参加している社会活動の種類が異なる傾向も見られた。さらに深掘りを行っていく。また、この間数多くの横断分析を行った。

縦断分析の結果を受けて健康度自己評価を高める介入として、化粧ケアに着目し介入を行った。化粧ケアに参加を希望した地域在住高齢者113名に月2回、3ヶ月間の化粧ケアを実施し本フィールドからPropensity Score Method法によりマッチングした対照群を設定した。その結果、健康度自己評価は対照群では有意に悪化したのに対し介入群では維持し、交互作用は統計的に有意であった（ $p<.001$ ）。また抑うつ度（SDS）は対照群が悪化したのに対し介入群では改善し、交互作用は統計的に有意であった（ $p<.001$ ）。

現在、フレイルを予防するCommunity As Partnerモデルを使った地域介入試験に着手中である。このモデルは専門職により地域住民に対して健康課題(この場合、フレイル)を理解するワークショップを繰り返し、地域住民の決めた解決策を支援していくモデルである。地域住民が私的社會統制を高めずにフレイルの発生を抑制することができるかどうかをエンドポイントとしている。

4 今後の展望

この研究は病院部門、自然科学系研究部門、社会科学系研究部門を超えた目的志向の研究チームの共同執行体制による進行が行われている。病院部門、自然科学系研究部門においては、長期縦断研究の経験が少なかったが、この長期縦断研究を通して研究所をあげたコホート研究体制が構築できたと考えている。また、この研究は金研究部長がリーダーとなっている会場招待型の長期縦断研究とも連動している。今後は操作的な定義に基づく社会、経済、健康格差をアウトカム（表現型）として、医学的コンディション、身体機能、認知機能、精神機能、バイオマーカとの関連について分析を深めていく。

(1) 医学的コンディションと社会、経済、健康格差に関する分析（病院部門研究者を中心に）

ベースラインデータには健康寿命を短縮すると考えられる、慢性疾患の既往、受療状況についてのデータがある。これらのデータとアウトカムとの関係を明らかにするとともに、経年的な受療状況の変化が、その後の疾病の発生に関係するのにかについても分析を行う。

(2) 身体、認知、精神機能と社会、経済、健康格差に関する分析（社会科学系研究者を中心に）

これまでの長期縦断研究で歩行速度はその後の健康状態をよく予測することがわかっているが、その他の要因については必ずしも明確な関与が認められない。研究グループでは、これを歩行速度が最終共通路になっているが、歩行速度の低下をもたらす前駆状態として、認知、精神、社会機能が関与すると仮説している。人工知能(AI)を活用して各調査年度のこれらの要因をノード（ニューロン）として捉え、どのようなノードの関係性（経路）によってアウトカムが影響を受けるのかを網羅的に分析する。この結果をもとにロジスティック回帰モデルを作り検証を行う。

(3) バイオマーカと社会、経済、健康格差に関する

分析（自然科学系研究者を中心に）

金研究部長のコホートと連動によりベースライン時のバイオマーカが測定されている。従来のバイオマーカは病気を表現型として捉えそれらとの関連を調査したが、この研究ではフレイルなどの健康格差、閉じこもりなどの社会的格差を表現型としてバイオマーカとの関連を調べる。また、バイオマーカの経年変化から操作的に加齢のパターンを定義し、このパターンとその後の健康格差、社会的格差との関連を調査する。

(4) 地域介入の効果に関する研究（全員と都市高齢者の健康長寿医療研究会メンバによる）

前述のごとく、フレイルを予防するCommunity As Partnerモデルを使った地域介入試験に着手中である。国立長寿医療研究センターの荒井秀典が代表の長寿医療研究開発費の研究と連動し、国内3つの地域介入試験とその効果の差を検討する計画である。我々の興味は客観的、主観的健康度が高くなることに加えて、地域づくりに伴う私的社會統制を高めないところにある。他の地域介入と比べて我々の介入の優位性を示すことができれば、今後の地域での健康づくりに示唆を与えることになる。

東日本大震災被災者支援プロジェクト

プロジェクトリーダー：大渕 修一

表1. 東日本大震災被災者支援プロジェクト研究実施体制

研究所所属職員	役職	本研究における担当内容
大渕 修一	研究部長 「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」副代表	統括
新開 省二	副所長	支援
粟田 圭一	研究部長	石巻市網地島支援
石崎 達郎	研究部長	支援
藤原 佳典	研究部長	支援
森 寛子	研究員	調査集計
菊池 和則	研究員	支援
伊東 美緒	研究員	支援・会計
江尻 愛美	研究員	支援
倉岡 正高	研究員	支援
菅原 康宏	主任(東京都健康長寿医療センター・研究所兼務) 「気仙沼地域被災地支援コーディネータ」◎ 「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」事務長	子ども支援◎ 気仙沼市との調整 5団体支援活動の企画・調整
所属職員以外	役職	所属機関等
井藤 英喜	理事長	東京都健康長寿医療センター
高橋 龍太郎	院長 「けせんぬま復興アドバイザー」◎ 「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」代表	多摩平の森の病院
金丸 晶子	部長 「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」副代表	東京都健康長寿医療センター
平野 浩彦	部長	東京都健康長寿医療センター
加藤 貴行	副部長	東京都健康長寿医療センター
樋口 和奏	主事	東京都健康長寿医療センター
小島 基永	教授	東京医療学院大学
塩満 芳子	講師	鹿児島純心女子大学
新名 正弥	研究員	未来工学研究所
児玉 寛子	准教授	青森県立保健大学

◎気仙沼市からの任命あるいは依頼に拠る役職・役割

※「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」では、このほか日本老年行動科学会会長の大川一郎氏（筑波大学大学院教授）と医療法人社団つくしんぼ会理事長の鈺 裕和氏が副代表を務めている。

※「気仙沼市 医療・福祉関係5団体」は下記で構成されている。

主催団体……「東京都健康長寿医療センター研究所」「日本老年医学会」「日本老年行動科学会」「医療法人社団つくしんぼ会」「獨協医科大学越谷病院子どもこのころ診療センター」「鶴見大学歯学部」「特定非営利活動法人 CEセンター（NPO Child-rearing & Education support Center）」

共催団体……「気仙沼市」「一般社団法人気仙沼市医師会」「気仙沼地区地域医療委員会」「気仙沼市社会福祉協議会」「気仙沼・南三陸介護サービス法人連絡協議会」「一般社団法人気仙沼歯科医師会」

表2. 2017年度 当センターが代表幹事を担う5団体支援 研修等企画

企画テーマ	講師等	日付	会場	窓口
震災支援に関する講演 「開校記念講話（震災支援）」～エール、中学生に向けて～	菅原	4月17日(月)	気仙沼市立鹿折中学校	同中学 教頭
介護予防サポーター養成講座①	江尻	5月26日(金)	気仙沼市役所ワンテン大ホール	包括
介護予防サポーター養成講座①	江尻	6月2日(金)	気仙沼市役所ワンテン大ホール	包括
社協系研修① 『福寿荘介護予防啓発講座』 ①「あたらしい健康づくりの目標について」 新しい目標への対応策・地域づくりによる介護予防 ②「ころぶんすなよ！海潮音体操あんだもはまらいん！」	大瀨 樋口 菅原	6月23日(金)	気仙沼市老人福祉センター「福寿荘」	同左 (社協)
気仙沼市医師会附属高等看護学校 特別講義「看護学生のためのリハビリテーション講習」	太田	6月23日(金)	気仙沼市医師会附属高等看護学校	高等看護 学校
介護家族研修会・交流会① ①「介護者のストレスと解消法」 ②家族の交流会	米山 菅原	6月24日(土)	市民健康管理センター「すこやか」	包括
健康相談会①(唐桑地区) ①「あたまとからだのリハビリ～レクササイズと海潮音（みしおね）体操～」 ②「言葉づかい～思いやりの一言～」 ③つくしんぼ会によるウォーキング教室	高橋 菅原 米山 浅川 鈴木 中嶋 樋口 榎戸 軽部 山本	6月24日(土)	唐桑保健福祉センター「燦さん館」	包括
気仙沼市医師会附属准看護学校講義 「生体防御」	稲松	7月7日(金)	気仙沼市医師会附属准看護学校	准看護学 校
市民公開講座① 「これからの認知症予防とケア」	宇良	8月25日(金)	市民健康管理センター「すこやか」	健康 増進課
市民公開講座② 「知っていますか？高齢者に多い「誤嚥性肺炎」とその予防～口腔ケアと食べる力を維持するポイント～」	飯田 金澤 稲松	8月26日(土)	市民健康管理センター「すこやか」	健康 増進課
介護家族研修会・交流会② 「老後を健康に生きるコツ」	鈿 菅原	8月26日(土)	市民福祉センター「やすらぎ」	包括
健康相談会①(鹿折地区) ①「高齢者の孤独と孤立」 ②「生活習慣病と運動～今日から運動明日のために～」	高橋 篠山 熊木 鈿 菅原 浅川	8月26日(土)	市民福祉センター「やすらぎ」	包括
気仙沼市医師会附属高等看護学校講義 「脳神経」	加藤	10月20日(金)	気仙沼市医師会附属高等看護学校	高等看護 学校

企画テーマ	講師等	日付	会場	窓口
社協系研修② 『福寿荘フレイル予防啓発講座』 ①「古い」と向き合う～フレイルとは～ ②「心と頭のストレッチ～認知トレーニング体験講座～」 ③「運動レクササイズ(頭を使う体操)」	金丸 牧田 加藤 菅原	10月20日(金)	気仙沼市老人福祉センター「福寿荘」	同左 (社協)
気になる子を持つ保護者との懇談会 ①「音楽と遊ぼう」 ②保護者の相談会	作田 鈴木Ⓐ 持丸、 浅川、 鈴木Ⓑ 菅原 山崎	11月4日(土)	気仙沼市マザーズホーム	同左 (社協)
スキルアップ研修(発達障害) 『発達障害? それとも個性? 一ち よっと気になる「グレーゾーン」の子 どもたち～』 ①「ちょっと気になる子どもたち:二 次障害を予防する支援のポイント」 ②「事例検討会」	作田 鈴木Ⓐ 持丸、 浅川、 鈴木Ⓑ 菅原	11月4日(土)	市民健康管理センター「すこやか」	子ども家 庭課
地域活動リーダー研修 「元気が何より ～からだイキイキ、 こころワクワク～」	山崎	11月4日(土)	気仙沼市役所ワンテン大ホール	包括
気仙沼市医師会附属看護学校講師研修 会 「高齢者医療の現場で求められる看護 実践能力と教育」	黒坂	11月10日(金)	気仙沼プラザホテル	准看・ 高看
気仙沼市医師会附属高等看護学校講義 「内分泌」	森	11月17日(金) 11月18日(土)	気仙沼市医師会附属高等看護学校	高等看護 学校
気仙沼市医師会附属高等看護学校講義 「自律神経」	高橋	11月17日(金) 11月18日(土)	気仙沼市医師会附属高等看護学校	高等看護 学校
医療系職員のスキルアップ研修 「感染症治療における多剤耐性菌につ いて」	稲松	11月17日(金)	市民健康管理センター「すこやか」	医師会
介護予防大作戦 in 気仙沼 「健康長寿と栄養-少食・粗食では長 生きできない-」 「りつこ式レクササイズ」	新開 山崎 菅原	11月17日(金)	気仙沼市老人福祉センター「福寿荘」	同左 (社協)
通所事業所等職員研修 「高齢者の余暇 ～今すぐできるレク リエーション活動～」	山崎	11月17日(金)	気仙沼市役所ワンテン大ホール	包括
お達者出前相談会(健康相談会)③ (陸前高田・生出地区) 「健康長寿-動ける幸せ・食べれる幸 せ・ツナガル幸せ」	高橋 稲松 熊木 本田 菅原 山崎 浅川 米山 谷口	11月18日(土)	陸前高田市生出地区コミュニティセ ンター	同左

企画テーマ	講師等	日付	会場	窓口
『遠野まごころネット』との交流研修会(情報交換会)	高橋 稲松 熊本 本田 菅原 浅川 米山 谷口	11月18日(土)	『遠野まごころネット』遠野駅前事務所	同左
認知症ケア研修会・認知症家族交流会 「認知症の症状をやわらげるコミュニケーションのコツ」	伊東	11月20日(月)	唐桑保健福祉センター「燦さん館」	包括
介護予防サポーター情報交換会	江尻	2月2日(金)	気仙沼市役所ワンテン大ホール	包括
市民公開講座② 「お化粧のチカラを生かし介護予防～高齢期こそ、お化粧&身だしなみを～」	大淵	2月2日(金)	気仙沼市役所ワンテン大ホール	健康増進課
認知症予防講座 「地域ぐるみで始めよう！ 認知症予防大作戦」	新開	2月3日(土)	気仙沼市役所ワンテン大ホール	包括
発達障害児ケア スキルアップ研修 ①「障害児の親になるということ～子どもと家族のフォローアップ～」 ②「発達障害児を含めた保育・教育の環境づくり～実践編～」 ③グループ討議「保育園や幼稚園での発達障害児ケア～何を目的にすべきか～」	菅原 岡村 野田 浅川	2月3日(土)	市民福祉センター「やすらぎ」	子ども家庭課
施設利用者との交流会 (「心身レクササイズ」体験講座) ①毎日を楽しくリハビリテーション ②運動レクササイズ(頭を使う体操) ③認知トレーニング体験講座～みかんの皮むきアート～	金丸 荒牧 秋山 菅原 高橋	2月4日(日)	ケアハウス・ソレイユの丘	同左
「復興を見つめて ―東京都健康長寿医療センター東日本大震災被災者支援プロジェクト5年半の取り組み」	大淵 (責任者)	3月9日発売 全国の書店 から注文可能	東京都健康長寿医療センター(編集), 井藤 英喜 新開 省二 森 寛子 高橋 龍太郎(監修) 東京法規出版	

網掛けの部分はセンター職員

【その他の支援】

◀2017年度 お達者出前講座(日本老年行動科学会・東日本大震災支援特別委員会)▶

第1回

日時 7月2日〈日〉午前10時から12時
地区 気仙沼
会場 太田2区自治会館
担当 上野・岡本

第2回

日時 8月26日〈土〉午後1時30分から3時30分
地区 新月
会場 新月公民館
担当 山崎・斎藤・箕浦・岡本

第3回

日時 9月9日〈土〉午後1時30分から3時30分
地区 鹿折
会場 市民福祉センター「やすらぎ」
担当 上野・岡本・峯尾

(このほか、特別企画として、9月10〈日〉に浪板地区の老人会を対象に実施)

第4回

日時 9月17日〈日〉午後1時30分から3時30分
地区 大島
会場 大島公民館
担当 山崎・峯尾・岡本

◆個別支援 富永、浅川、桐山 8月2日(水)～7日(月) おひさま保育園、気仙沼市マザーズホーム他

◆個別支援 渡邊 9月14日(木)～16日(土) 気仙沼市マザーズホーム

1 目的と意義

東日本大震災の被災地においては、地域保健福祉システムの再建・機能強化を目指した、中期的な支援活動が必要となっている。本研究は、従来から続く課題への取り組みに加えて、高齢者を中心とする保健福祉システムの再建・機能強化に資するため、要援護者・高齢者を支える福祉・介護スタッフへの支援と応急仮設住宅などに暮らす高齢者への支援を通して、継続的な支援のための拠点づくりをめざすとともに、これまでに得られた知見を首都圏防災に役立てることを目的とする。

2 支援対象地域と対象者

支援対象地域と対象者：宮城県気仙沼市、石巻市網地島、岩手県陸前高田市に在住する高齢者や一般市民および現地の施設・在宅サービスに関わる医療・福祉専門職

調査対象：宮城県気仙沼市在住の高齢者および保健・医療・福祉従事者

3 第二期中期計画の研究成果

<支援の内容>

宮城県気仙沼市においては、「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」の代表を務める機関として、他の支援組織と共同で活動を行ってきた。具体的には、①医療・福祉サービスの復旧を担う専門職や気仙沼市地域包括支援センターの支援を目的とした包括的な研修講座の開催、②仮設住宅を含む地域の住民を対象とした市民健康講座の開催、介護予防体操普及サポーターの養成と自主グループ化の支援、③気仙沼市や岩手県陸前高田市におけるお達者出前講座、健康相談会の開催、④介護予

防体操の普及と介護予防支援プログラムの実施、などである。今年度は、表2に示すように気仙沼市地域包括支援センターの後方支援を軸とした企画が多かった。また、気仙沼市医師会付属准看護学校、高等看護学校からの依頼でセンター病院部門医師を中心に一般臨床医学の教育を行った。

<支援の成果>

1. 震災後の市民の運動量減少に着目し、身体を動かす心地よさや健康づくりの大切さを改めて実感してもらおうと、市民とともに『ころぶんすなよ！海潮音体操あんだもはまらいん！』を制作し、これが交流サロン等を通じて広く普及していった。この成果は、気仙沼フィールドにおける住民リーダー支援が、市民の体力向上などに成果をあげているとされ、平成28年度スマートみやぎ健民優良賞（市町村部門）を受賞することにつながった。また、平成30年度からは、この『海潮音体操』が気仙沼ケーブルネットワーク（K-NET）を通じて市政情報番組の一つとして定期的に放映されることが決まった。
2. 気仙沼市では、多職種協働によるネットワークづくり、地域リーダーの養成、コーディネーター機能などの重要性が理解された結果、1)地域包括支援センターが4カ所に増えたこと、2)医師会内に地域医療委員会ができたこと、3)多職種による「気仙沼在宅ワーキンググループ」が設立されたことなど、地域資源の不足をネットワークの強化で補う施策や動きにつながった。この考え方は子育て支援にも活かされ、気仙沼市子育て世代包括支援センター「すこやか」、鹿折認定こども園や気仙沼児童センター（気仙沼図書館に併設）など、子育て支援に関わる新たな施設の開設につながった。また、5団体の子育て支援チームによるこれまでの座学型研修が

見直され、「発達障害」「児童虐待」「愛着障害」などをテーマにした研修に加え、多職種連携を前提とした事例検討会や対話的問題解決・技能習得型研修の開催が増えた。

3. 石巻市の網地島で開始された認知症の初期集中支援システム、認知症者に対するネットワーク支援は、2013年より石巻市の沿岸地域に波及し、石巻市保健福祉センター牡鹿支所および同センター本庁においても、関連職種が集う事例検討会が定期的開催されるようになった。

4. 出版物の発行

復興のプロセスを観察するとともに、医療福祉専門職に対してインタビュー調査を行い、報告書として関連団体に送付した。また、この報告書を基にして、研究所がこれまで行ってきた支援の概要をまとめ、『復興を見つめて—東京都健康長寿医療センター—東日本大震災被災者支援プロジェクト5年半の取り組み』（東京法規、2018年3月）を出版した。

<支援の特徴>

これらの支援地域は従来型の縦割り政策運営から脱しておらず、震災以前より地域保健福祉資源が乏しかった。震災後、様々なボランティア団体による支援が行われ一次的に資源が多い状態になったが、そうした支援が終了した後の機能的維持が大きな課題となっている。そこで、現地の医療介護従事専門職への知識や技術の提供によるエンパワメントおよび住民主体の活動の立ち上げ支援を行うという点に特徴がある。

<支援のプロセス>

現地にコーディネータを配置し、様々な専門機関からなる「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」を組織し、実践的な情報および技術を提供した。また、地域住民の有志とともに住民主体で普及が可能な介護予防体操を開発し、その普及啓発を行った。また、石巻市網地島においては、認知症の初期集中支援システムの構築を支援し、震災後に現れた認知機能低下者へ対応した。

<首都圏防災に役立てる—首都圏調査—>

こうした現地支援のほかに、首都圏防災への還元を想定し、東京都内の介護サービス事業者に東日本大震災の影響に関する調査を行った。都内においても災害関連死を疑われる者が少なからずおり、首都圏防災上の大きな課題と考えられた。一方、通所サービス事業所によって一次的に保護されていた要援護者においては、災害関連死が少ないことがわかった。このことから、要援護者にと

っては、自治体が定める福祉避難所等に先立って通所サービス事業所が災害支援場所となりうるのではないかと考えた。そこで通所サービス事業者に対するフォーカスグループインタビューを行い、想定される支援パターンを作成した。さらに、通所サービス事業所に対して意向調査を行った結果、6割の通所サービス事業所で、利用している要援護者はもちろんであるが、普段利用していない要援護者の受け入れも可能であると判断していることがわかった。今後は調査結果を自治体に周知し、来るべき震災時の通所サービス事業所による支援を早急に検討する必要がある。

4 今後の展望

東日本大震災被災者支援プロジェクトは平成30年度で終了するが、「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」による支援はボランティアベースで今後も継続される。

プロジェクトの最終年（平成30年度）は、これまでの支援内容に加え、気仙沼フィールドにおいては、全国の自治体で初となる「健康長寿新ガイドライン専門研修」が実施されることになっており、「健康ポイント」システムの導入、「ウォーキングマップ」の作成に関する支援を行う。さらに、これまでの7年間の支援を振り返り、『復興を見つめて—東京都健康長寿医療センター—東日本大震災被災者支援プロジェクト5年半の取り組み』の出版（3月）に加えて、11月には当センターを会場にして、気仙沼市長、同市医師会会長および同市医師会附属高等看護学校校長（医師会理事）、気仙沼歯科医師会在宅歯科医療連携室室長（前気仙沼歯科医師会会長）を招いて、シンポジウム（「東日本大震災から学ぶ復興期の福祉・保健・医療のあり方」）を開催する。

現在、気仙沼市をはじめ被災地域が「協働」へと大きく舵を切ろうとしている重要な時期である。次年度は、当センターと被災地との双方で協働関係のあり方を検討し、あらたなパートナーシップへと発展させることも大きな課題である。

III 普及活動等

1 新聞・雑誌・テレビ等

チーム名	概要	情報提供者	取材機関
社会科学系副所長	新しい健康長寿の道しるべ	新開 省二	社会保険出版社
	親の健康で子供が注意すべき点について	新開 省二	保健同人社
	健康寿命を延ばす 大人こそ肉食のススメ	新開 省二	ハルメク
	高齢期の低栄養とその対策について	新開 省二	KADOKAWA
	高齢者の低栄養	新開 省二	社会新報
	高齢期の低栄養とその対策について	新開 省二	家庭栄養研究会
	フレイルとその予防法	新開 省二	夕刊フジ
	一人暮らし高齢者のリスクについて	新開 省二	朝日新聞社
	高齢者の低栄養とその予防について	新開 省二	日経メディカル開発
	シニア世代の食生活 あなたの親は大丈夫？	新開 省二	NHK
	高齢者のみなさん 低栄養になっていませんか	新開 省二	新婦人しんぶん
	これだ！健康長寿の食生活	新開 省二	公益社団法人日本歯科衛生士会
	高齢期の健康維持（持病のコントロール）について	新開 省二	高齢者住宅新聞社
	新常識「粗食」でなく「多様食」	新開 省二	しんぶん赤旗
	健康長寿と栄養について	新開 省二	ソーシャルサービス
	健康長寿の新ガイドライン 都センター策定、出版	新開 省二	共同通信社
	定年退職後の健康管理	新開 省二	BS11
	高齢者の食事	新開 省二	NHK総合
	高齢期の低糖質の危険性	新開 省二	ベターホーム協会
	心も体も元気であり続けるために	新開 省二	練馬区
	フレイル予防について	新開 省二	主婦と生活社
	健康長寿の都道府県格差について	新開 省二	光文社
	乳酸菌B240の風邪予防効果	新開 省二	日経BP社
	健康長寿食	新開 省二	小学館
フレイルに負けるな	新開 省二	朝日新聞出版	
老化機構研究チーム	血漿タンパク質糖鎖からみた健康長寿の秘訣	三浦 ゆり	朝日放送
	血漿タンパク質糖鎖からみた健康長寿の秘訣	三浦 ゆり	テレビ朝日
老化制御研究チーム	ビタミンCについて	石神 昭人	日経BP社
	水素ビジネスについて	大澤 郁朗	データ・マックス
	若さとミトコンドリア	大澤 郁朗	NHK
老化脳神経科学研究チーム	高齢者と夜間頻尿、オピオイドの関係	堀田 晴美	テレビ朝日
	皮膚刺激によるNGFの分泌促進	堀田 晴美	テレビ朝日
	過活動膀胱の対策について	堀田 晴美	わかさ出版
	皮膚刺激によるNGFの分泌促進	堀田 晴美	未来公房
	咀嚼と神経との関わりについて	堀田 晴美	文化放送
	過活動性膀胱による夜間頻尿対策	堀田 晴美	ベースボール・マガジン社
	歩行と皮膚刺激の関係について	堀田 晴美	北海道医療新聞社
	「歩く」と「脳」の密接な関係	堀田 晴美	プラネットライツ
	鍼刺激による血液循環改善作用の反射メカニズムについて	堀田 晴美	日本経済新聞
	ローラーの皮膚刺激による夜間頻尿の緩和	堀田 晴美	NHK
	東洋医学の最前線	内田 さえ	NHK
	老年病態研究チーム	逃れられない「老化」	重本 和宏
血漿タンパク質糖鎖からみた健康長寿の秘訣		豊田 雅士	朝日放送

チーム名	概要	情報提供者	取材機関
老年病理学研究チーム	高齢者ブレインバンクについて	村山 繁雄	毎日新聞社
	生命の不思議“テロメア” 健康寿命はのばせる！	相田 順子	NHK
	テロメアについて	相田 順子	NHK出版
	テロメア研究の現状と今後の課題	相田 順子	韓国EBSテレビ
	テロメアとがん	相田 順子	テレビ朝日
社会参加と地域保健研究チーム	孤立して死なない	藤原 佳典	朝日新聞出版
	「ソーシャル・ウォーキング」で認知症予防	藤原 佳典	読売新聞社
	りぷりんとかわさき 読み聞かせ活動10年～多摩地区で「三方よし」実現	藤原 佳典	タウンニュース
	「多様化するデイサービス」～世代間交流型と学校型	藤原 佳典	TBS
	社会参加で健康ライフ	藤原 佳典	潮出版社
	高齢者 社会参加を	藤原 佳典	朝日新聞
	「ジュニア訪問員」～世代を超えた楽しい交流	藤原 佳典	江戸川区
	認知症に◎歩いて、社会参加する！話題の『ソーシャル・ウォーキング』	藤原 佳典	小学館
	制度を整えることで、住民自身が、それぞれに動き出す	藤原 佳典	芳林社
	100歳ショック	藤原 佳典	EBS
	認知症予防図る～食事、運動、学習で予防を	藤原 佳典	読売新聞社
	さわやかな汗、ソーシャル・ウォーキングを体験、静岡・掛川	藤原 佳典	読売新聞社
	認知症を考える	藤原 佳典	神奈川県情報公開広聴課
	全世代支え合う地域づくりを	藤原 佳典	北日本新聞社
	社会参加や健康増進の観点からの絵本の読み聞かせボランティア活動	藤原 佳典	公明新聞
	絵本読み聞かせで、若返ろう！	藤原 佳典	NHKラジオ
	「人のため」で老後いきいき	藤原 佳典	朝日新聞
	ソーシャル・ウォーキング～堺・大仙公園で体験会	藤原 佳典	読売新聞
	BMIと生存率について	北村 明彦	日本テレビ
	社会的フレイルの予防に向け“地域での場づくり”を	北村 明彦	埼玉県鳩山町
	要介護リスクフレイル2倍、メタボより影響大一	北村 明彦	毎日新聞社
	高齢者のメタボとフレイルはどちらが危険？	北村 明彦	日本医事新報社
	メタボとフレイルの影響	北村 明彦	朝日新聞出版
	高齢者の健康余命とフレイル、メタボリックシンドロームの影響	北村 明彦	食品科学新聞
	地域高齢者の健康・虚弱を調査	北村 明彦	健康産業流通新聞
	高齢者の健康余命にメタボではなくフレイルが関連	北村 明彦	日経BP社
	長期化する老後と高齢者の幸福について	小林 江里香	NHK
	高齢者の運動のしすぎと病気のリスク	青柳 幸利	講談社
	ウォーキングの新常識	青柳 幸利	テレビ朝日
	運動と健康、歩いてのばそう健康寿命	青柳 幸利	日本テレビ
	高齢歩行者の事故原因について	桜井 良太	テレビ東京
	認知症予防について	谷口 優	文藝春秋
	生活の中で習慣にしたいこと	谷口 優	テレビ東京
いきがい就労の効果について	鈴木 宏幸	文京区民チャンネル	
地域在住高齢者の低栄養・食事摂取状況について	横山 友里	文藝春秋	

チーム名	概要	情報提供者	取材機関	
社会参加と地域保健研究チーム	「低栄養」を防ぐには	横山 友里	毎日新聞社	
	おたっしや料理教室について	成田 美紀	NHK	
	親の食事支援	成田 美紀	NHK出版	
	動ける体をつくる食事	成田 美紀	NHK出版	
	栄養について	成田 美紀	TBS	
自立促進と介護予防研究チーム	どう生きる？認知症時代	栗田 圭一	BS11	
	認知症・本人の思い	栗田 圭一	北海道新聞	
	肩こりについて	金 憲経	テレビ朝日	
	頻尿になっている人の末路	金 憲経	日経BP	
	筋肉量の減少予防	金 憲経	Qlife	
	サルコペニアについて	金 憲経	NHKラジオ	
	超高齢社会を迎えるにあたって、高齢者を中心に口腔ケアをどのように進めていくのか	渡邊 裕	ラジオ日本	
	「生涯現役」50歳の健康はじめ	宇良 千秋	世界文化社	
	「稲作プログラム」研究始まる 共同の作業 心豊かに	宇良 千秋	上越タイムス社	
	稲作通し認知症ケア	宇良 千秋	新潟日報社	
	高齢者と趣味活動について	小川 まどか	一般社団法人百歳万歳	
	認知症とともに暮らせる社会に向けた地域づくりについて	小川 まどか	文化放送	
	講演会「認知症とお口のトラブル」について	枝広 あや子	北海道新聞社	
	生涯を通じての口腔健康管理について	枝広 あや子	ドクターズプラザ	
	AMED研究 若年性認知症の有病率・生活実態調査について	枝広 あや子	毎日新聞社	
	認知症予防について	杉山 美香	NHKラジオ	
	「稲作プログラム」研究始まる 共同の作業 心豊かに	岡村 毅	上越タイムス社	
	稲作通し認知症ケア	岡村 毅	新潟日報社	
	福祉と生活ケア研究チーム	後期高齢者が抱える慢性疾患の種類と多剤処方との関連	石崎 達郎	読売新聞社
		相手目線で介護効果アップ…認知症ケア「ユマニチュード」	伊東 美緒	読売新聞社
認知症ケアに関する日本と大牟田市の取り組みについて		伊東 美緒	シージャービジョン	
超高齢者の看取りケア実線		島田 千穂	マガジンハウス	
化粧ケアについて		河合 恒	中京テレビ	
「息子介護」に問題が多い理由		平山 亮	ウェッジ	
著書「介護する息子たち」について		平山 亮	マガジンハウス	
「生きづらさ」を強調する「男性学」にかけている視点とは		平山 亮	週刊金曜日	
ケア労働と男性研究について		平山 亮	株式会社サイゾー	
ハラスメントや暴力とジェンダーの問題について		平山 亮	株式会社サイゾー	
息子介護が増加した社会的背景		平山 亮	講談社	
介護をはじめとするケア労働に対する男性の態度について		平山 亮	講談社	

2 プレス発表

	プレス発表日	チーム名	氏名	件名
1	平成29年6月13日	副所長	新開 省二	健康長寿新ガイドラインを策定！
2	平成29年9月8日	老化制御研究チーム 研究部長	井上 聡	より悪性化した前立腺がんの診断、治療の新しい標的PSFの発見-悪性男性ホルモン受容体V7をつくる司令塔をターゲットとした治療
		老化制御研究チーム 研究員	高山 賢一	
3	平成29年9月14日	社会参加と地域保健研究チーム 研究部長	藤原 佳典	絵本読み聞かせボランティア活動で加齢に伴う海馬の委縮が抑制
		社会参加と地域保健研究チーム 研究員	桜井 良太	
4	平成29年11月13日	社会参加と地域保健研究チーム 研究部長	北村 明彦	高齢者の健康余命にフレイルが大きく関与、メタボリックシンドロームの影響は認められず-地域高齢者の長期追跡研究より判明-
5	平成30年3月8日	老化脳神経科学研究チーム 研究部長	堀田 晴美	加齢により特定タイプの皮膚神経活動が低下することで、膀胱の収縮が抑制されにくくなることを発見

3 老年学・老年医学公開講座等

回	テーマ・講演者	日程	会場	参加者数
146	『認知症、でも大丈夫』 【講演者】 (司会 遠藤玉夫副所長) ・『脳卒中の予防で、認知症も予防』 金丸和富 (脳卒中科部長) ・『認知症を治す薬はできるのか?』 石井賢二 (研究部長) ・『認知症になっても、幸せに暮らす』 栗田主一 (研究部長)	平成29年 6月2日 (金)	練馬文化センター	719
147	『高齢期こころ豊かに～百寿者からのメッセージ～』 【講演者】 (司会 新開省二副所長) ・『百寿者の世界』 権藤恭之 (大阪大学大学院人間科学研究科 臨床死生学・老年行動学講座准教授) ・『認知機能～百歳までと百歳から～』 稲垣宏樹 (研究員) ・『高齢期のうつとその対策』 古田光 (精神科部長)	平成29年 10月3日 (火)	文京シビックホール	694
148	『健康長寿に必要なビタミンC! D! K!』 【講演者】 (司会 遠藤玉夫所長代理) ・『ビタミンDで転倒予防』 鈴木隆雄 (桜美林大学老年学総合研究所所長 (大学院教授)) ・『ビタミンKとロコモティブ症候群』 井上聡 (研究部長) ・『ビタミンCの不足は老化を加速』 石神昭人 (研究部長)	平成29年 11月29日 (水)	北とぴあ	797
149	『がんになっても寿命をまっとうできる時代がきた』 【講演者】 (司会 原田和昌副院長) ・『もしもわたしが肺がんになったら -高齢者が「がん」と上手に付き合うためのヒント-』 山本寛 (呼吸器内科部長) ・『消化管における早期がんに対する内視鏡治療』 落合康利 (慶應義塾大学医学部腫瘍センター助教) ・『高齢者の血液がん、あきらめるのはまだ早い、 移植という選択肢』 小林寿美子 (輸血・細胞療法科部長)	平成30年 2月5日 (月)	板橋区立文化会館	519

科学 参加技術 週間	・講演 『「細胞」を知り、「老化」を考える』 藤田泰典 (研究員) ・ポスター発表 各研究チームによるポスター発表	平成29年 4月19日 (水)	板橋区立文化会館	280
サイエンス カフェ	『～夏休み研究体験～ 集まれ! 未来の科学者たち』 ・研究体験 Aコース: 『探検! タンパク質のせかい ～タンパク質の大きさをしらべよう～』 津元裕樹 (研究員) Bコース: 『からだの働きを知ろう! -飲み込む機能・みる機能-』 (前半): 中里和弘 (研究員)、枝広あや子 (研究員) (後半): 柳井修一 (研究員) ・カフェタイム	平成29年 8月29日 (火)	東京都健康長寿医療センター	21
友の会 交流会	・講演 『よく噛み、よく話し、よく笑い、 健康寿命を延ばしましょう!』 渡邊 裕 (専門副部長) ・講演 『今日からはじめる健口 (けんこう) 長寿のイ・ロ・ハ』 枝広 あや子 (研究員) ・質疑応答 ・ポスター見学	平成30年 3月16日 (金)	東京都健康長寿医療センター	91

4 友 の 会

「東京都老人総合研究所 友の会」は、老化、老年病、高齢者問題の最新成果をお知らせし、民間企業や個人との情報交換や交流、老年学に関する知識の共有および研究所の活動にご支援・ご賛同いただくことを目的とした会員制度。平成14年4月より開始。

1. 活動内容

- ・研究所と会員との交流および会員相互の親睦
- ・研究所の主催する行事への招待
- ・講演会、セミナー等の開催
- ・会員のための情報の提供
- ・その他本会の目的を達成するために必要な事業

2. 会員特典

- 1 会員相互の交流の場の提供
- 2 会員向け機関誌の提供
- 3 東京都健康長寿医療センター研究所発行「研究所NEWS」の提供
- 4 研究所が開催する講演会、セミナーに関する情報の提供
- 5 老年学情報センターの図書閲覧（平日9時～17時）
- 6 東京都健康長寿医療センター研究所発行の出版物の会員割引（2割引）

3. 年会費

- ・個人会費：年会費 一口3,000円で一口以上
- ・法人会員（団体含む）：一口10,000円で二口以上

4. 会員構成（平成30年3月31日現在）

個人会員：310名
法人会員：6社

5. 友の会交流会

(1) 平成30年3月16日（金）に実施

- ① 場所 東京都健康長寿医療センター
- ② 参加者 個人会員91名
- ③ 内容

- ・講演『よく嘔み、よく話し、よく笑い、健康寿命を延ばしましょう！』
渡邊 裕（専門副部長）
- ・講演『今日からはじめる健口（けんこう）長寿のイ・ロ・ハ』
枝広 あや子（研究員）
- ・質疑応答
- ・ポスター見学

第四部 補助金等

研究補助金・助成金等受入状況

1 受託研究

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	委託申請者
1	研究部門	社会参加と地域保健研究チーム	文化系活動グループに対する介入研究：ついでにウォークの実証	株式会社博報堂
2		自立促進と介護予防チーム	認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業	東京都
3			認知症早期発見業務	東京都千代田区
4			平成29年度 介護予防把握事業	東京都千代田区
5			足立区介護予防・認知症郵送調査評価事業	東京都足立区
6			認知症支援サービス推進調査業務	東京都千代田区

2 共同研究

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
1	研究部門	老化機構研究チーム	老化関連疾患や健康長寿マーカー探索に向けた糖鎖・糖ペプチド解析法の開発	株式会社 島津製作所
2		老化制御研究チーム	健康長寿を達成するため、筋力維持に最適な栄養バランスの探索	株式会社ニチレイフーズ
3			アセロラ果汁に含まれるビタミンCが人体に効率的に取り込まれる機序の解明	株式会社ニチレイフーズ
4			老年病態研究チーム	生理的条件下における筋量調節機構の解明
5		神経画像研究チーム	脳PET研究における半導体 (SiPM) PET装置の有用性の検証	GEヘルスケア・ジャパン株式会社
6			糖尿病性認知症の病態に関する研究	学校法人東京医科大学
7			「アミロイドPETイメージングの適正使用と普及」のための実臨床における運用評価と専門医向け資材作成	日本イーライリリー株式会社
8			大田区 元気シニア・プロジェクト	大田区
9		副所長 (社会科学系)	高齢者の低栄養リスクを評価する簡易アセスメントツールの開発とその応用	一般社団法人 糧食研究会
10			高齢期の歯科口腔・嚥下機能がQOL及び健康寿命に及ぼす影響	(公) 日本補綴歯科学会
11		社会参加と地域保健研究チーム	AIを用いた高齢者の暮らしの変化の分析	日本放送協会
12			鳩山町健康なまちづくり共同研究事業	鳩山町
13			地域在宅高齢者における犬または猫の飼育経験が健康余命に及ぼす影響	一般社団法人ペットフード協会
14		自立促進と介護予防研究チーム	筋力強化運動とHMB摂取が骨格筋の量と機能に及ぼす影響	株式会社協和、筑波大学
15			高齢者のフレイルと認知機能に関する疫学研究	花王株式会社
16			面圧分布センサーを用いた簡易咬合力計測に関する研究	住友理工株式会社
17			福祉と生活ケア研究チーム	歩行動作のAIを用いた解析による早期認知症の発見

3 奨学寄附

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題等	寄附申出者
1	研究部門	副所長	健康長寿新ガイドラインの普及	石井フミ
2		老化機構研究チーム	泌尿器疾患領域に関する研究	アステラス製薬
3		老化制御研究チーム	女性がんと男性がんの治療抵抗性メカニズムの解明とその治療への応用	第一三共株式会社
4			糖尿病領域における研究	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
5			老化制御研究チーム健康長寿ゲノム探索研究に対する研究助成	武田薬品工業株式会社
6			加齢に伴う骨・筋肉疾患の病態解明に関する研究	塩野義製薬株式会社
7			女性ホルモンシグナルの骨粗鬆症・ロコモティブ症候群における役割の解明とその応用	帝人ファーマ株式会社
8			分子老化制御に関する研究	ハウスウェルネスフーズ株式会社
9			血液及び造血管器疾患に関する研究	アステラス製薬
10			分子状水素の機能性に関する研究	株式会社伊藤園中央研究所
11			「高齢マウスにおけるパーキンソン様症状の出現とコエンザイムQによる改善」	白澤 卓二
12			マウス正常老化過程における脳ミトコンドリア機能低下の機構解明	株式会社伊藤園中央研究所
13		老化脳神経科学研究チーム	記憶関連の研究	株式会社ADEKA
14		老年病態研究チーム	疾患関連遺伝子研究（骨折リスク予測システム開発）と血清バイオマーカー研究（マイオカイン・プロジェクト）	中外製薬株式会社
15		社会参加と地域保健研究チーム	高齢者の社会参加・社会貢献の促進に関する研究	一般社団法人 東京都交友会
16	病院部門	副院長	循環器内科に対する研究助成	武田薬品工業株式会社
17			高齢者心不全におけるフレイルに関する研究	鳥居薬品株式会社
18			心筋虚血の非侵襲的評価に関する臨床的研究	日本メジフィジックス株式会社
19			循環器疾患におけるフレイル評価の意義に関する研究	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
20		内科総括部長	高齢者糖尿病におけるフレイルと関連するバイオマーカーの研究	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
21		放射線内科	PET/CT検査における最適な撮像条件の検討	日本メジフィジックス株式会社
22		血液内科	高齢者臍帯血移植の安全性に関する研究移植前処置にリコモジュリンの併用効果について	大日本住友製薬株式会社
23			高齢者臍帯血キメリズムの解析	旭化成ファーマ株式会社
24			高齢者血液悪性疾患に対する臍帯血移植の安全性	中外製薬株式会社
25			血液内科への研究助成：高齢者血液疾患症例に対する臍帯血移植後の感染症の研究	塩野義製薬株式会社

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題等	寄附申出者	
26	病院部門	血液内科	70歳以上の血液悪性疾患に対する臍帯血ミニ移植の安全性の確認	一般社団法人日本血液製剤機構	
27			血液内科に対する研究助成：70歳代の高齢者移植における適切な移植前処置の検討	武田薬品工業株式会社	
28		腎臓内科	高齢慢性腎臓病患者の危険因子の探索	中外製薬株式会社	
29			高齢慢性腎臓病患者と認知症の関連性	鳥居薬品株式会社	
30		血液透析科	高齢透析患者における導入時ダイアライザーの検討	中外製薬株式会社	
31		泌尿器科	陰茎癌に関する研究	協和発酵キリン株式会社	
32			高齢者BPHの外科的治療効果の検討	旭化成ファーマ株式会社	
33			泌尿器科(金属酵素阻害剤<MMP阻害剤:BE16627B>によるヒト腎細胞癌培養株を用いた細胞増殖、細胞周期、各サイクリンに及ぼす影響検討)	サノフィ株式会社	
34			高齢者前立腺肥大症における外科的治療効果の検討	日本新薬株式会社	
35			高齢者BPHの外科的治療効果の検討	あすか製薬株式会社	
36			泌尿器科に対する研究助成	武田薬品工業株式会社	
37			泌尿器科への研究助成：高齢者の結石性急性腎盂腎炎に関する研究	塩野義製薬株式会社	
38			神経内科	中枢神経に関する研究：特発性正常圧水頭症の包括的縦断研究	協和発酵キリン株式会社
39			外科	高齢者における人工肛門の管理と、その重要性	ヤクルト本社
40			心臓外科	「高齢者における心臓弁膜症疾患に対する外科的治療の検討」	エドワーズライフサイエンス株式会社
41		高齢者の外科的治療の戦略		ニプロ株式会社	
42		高齢者における重症心不全に対する外科的治療の検討		テルモ株式会社	
43		高齢者における心臓大血管疾患に対する外科的治療の検討		日本ライフライン株式会社	
44		整形外科		PETを用いた骨内インプラント周囲の骨代謝活性動態の解明	ジンマー・バイオメット合同会社
45			「NaF-PETを用いた人工関節術後インプラント周囲の骨代謝活性の検討」に関する研究	スミス・アンド・ネフュー株式会社	
46			PETを用いた骨内インプラント周囲の骨代謝活性動態の解明	帝人ファーマ株式会社	
47			超高齢者の大腿骨頸部骨折に対するセメントレス人工骨頭ステムの初期固定性の検討	ビー・ブラウンエースクラップ株式会社	
48		眼科	眼科 ぶどう膜炎の治療に関する研究	サノフィ株式会社	
49			糖尿病などの高血糖に伴うラット虹彩毛様体、脈絡膜、血糖透過性の差異について	HOYA株式会社	
50			眼科研究：ぶどう膜炎の診断と治療に関する研究	エイエムオー・ジャパン株式会社	
51			眼科研究：ぶどう膜炎の診断と治療に関する研究(1)	日本アルコン株式会社	

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題等	寄附申出者
52	病院部門	眼科	眼科研究：ぶどう膜炎の診断と治療に関する研究（2）	日本アルコン株式会社
53			眼科研究：ぶどう膜炎の診断と治療に関する研究	千寿製薬株式会社
54			眼科臨床研究	株式会社コダメメディカル
55			ぶどう膜炎の治療に関する研究	参天製薬株式会社
56		皮膚科	高齢者の痒み疾患の診断と治療	大鵬薬品株式会社
57			皮膚科領域における臨床研究	鳥居薬品株式会社
58		輸血・細胞療法科	がんに関する研究：高齢者造血幹細胞移植の成績向上に向けたフレイル評価の取り組み	協和発酵キリン株式会社
59			G8ならびにフレイル評価に基づいた高齢者同種造血幹細胞移植の予後予測に関する研究	中外製薬株式会社
60			高齢者同種造血幹細胞移植の成績向上に向けたフレイル評価の取り組み	一般社団法人日本血液製剤機構
61		化学療法科	骨髄患者の免疫に関する研究	協和発酵キリン株式会社
62			高齢者悪性リンパ腫及び骨髄腫症例に対する治療適応に関する研究	中外製薬株式会社
63			高齢者悪性リンパ腫瘍及び骨髄腫症例に対する治療適応に関する研究	ムンディーファーマ株式会社
64			骨髄腫患者の新規薬剤による免疫機能への影響に関する研究	全薬工業株式会社
65			骨髄腫患者の免疫コントロールに関する研究	帝人ファーマ株式会社
66			高齢者血液疾患症例における分子標的治療の適応に関する研究	ヤクルト本社

4 国庫補助

No.	部門	研究チーム	所管省庁等	研究課題
1	研究部門	社会参加と地域保健研究チーム	厚生労働省	介護予防につながる社会参加活動等の事例の分析と一般介護予防事業へつなげるための実践的手法に関する調査研究事業
2				地域の高齢者の状況を正確に把握し、虚弱のリスクのある高齢者を社会資源とマッチングするなど、保険者が政策形成や事業展開につなぐための調査研究事業
3		自立促進と介護予防研究チーム		摂食嚥下機能低下者への介護保険施設等における食事提供及び退院退所時等における連携の実態等、嚥下調整食の提供のあり方に関する調査研究事業
4				認知症診断直後等における認知症の人の視点を重視した支援体制構築推進のための調査研究事業

5 民間助成金

No.	部門	研究チーム・診療科	研究担当者	助成機関	研究課題
1	研究部門	老化制御研究チーム	近藤 嘉高	公益財団法人喫煙科学研究財団	microRNAによる新しいCOPD治療を目指した気道分泌型エクソソーム解析
2			井上 聡	公益財団法人武田科学振興財団	超分子複合体解析と可視化技術から捉える革新的ミトコンドリアシステム制御と疾患応用研究
3				公益財団法人三井生命厚生財団	女性ホルモン作用とミトコンドリア呼吸鎖スーパー複合体を標的としたFrailの予防
4			高山 賢一	公益財団法人武田科学振興財団	アンドロゲン応用性マイクロRNAを介した前立腺癌悪性化メカニズムの解明
5				公益財団法人ノバルティス科学振興財団	前立腺癌におけるRNAタンパク質PSFを介したゲノムワイドでの転写、翻訳制御機構
6			東 浩太郎	一般社団法人日本骨粗鬆症学会	GGCXを介するビタミンKの骨保護効果の解明と新規非Gla化バイオマーカーの探索
7				公益財団法人中富健康科学振興財団	筋骨格系の維持に関わる新規ビタミンK作用の解明
8				公益財団法人山口内分泌疾患研究振興財団	子宮内膜癌におけるエストロゲン作用
9		老化脳神経科学研究チーム	三浦 正巳	公益財団法人喫煙科学研究財団	尾側線条体の機能領域とニコチン受容体の調節作用
10			内田 さえ	公益財団法人喫煙科学研究財団	認知症予防法の確立に向けた新皮質・嗅球・海馬コリン作動系機能の比較
11		老年病態研究チーム	佐々木 紀彦	大和証券ヘルス財団	癌幹細胞特異的糖鎖による膀胱の早期発見と癌幹細胞標的治療法の開発
12				上住 聡芳	公益財団法人アステラス病態代謝研究会
13			公益財団法人三越厚生事業団		筋間質の間葉系前駆細胞による骨格筋維持機構の解明とサルコペニア予防への応用
14			上住 円	公益財団法人中富健康科学振興財団	CXCL16に着目した老化筋再生能力低下機序の解明とそれを利用した治療法の開発
15			豊田 雅士	公益財団法人テルモ生命科学芸術財団	心臓組織再生を支える非心筋細胞の機能解明
16			森 聖二郎	ファイザー株式会社	筋骨格系疾患に関する研究
17			本橋 紀夫	公益財団法人上原記念生命科学財団	筋繊維タイプ変換に基づいた新規筋萎縮治療法の開発
18				公益財団法人武田科学振興財団	骨格筋代謝メカニズムの解明および新規筋萎縮治療法の開発
19		神経画像研究チーム	石橋 賢士	公益財団法人先進医薬研究振興財団	精神疾患におけるマイクログリアイメージング：新規TSPOリガントによる探索研究
20				公益財団法人臨床薬理研究振興財団	パーキンソン病におけるアデノイシンA2A受容体の病態解析
21			多胡 哲郎	ノバルティスファーマ株式会社	タウオパチーの鑑別診断法確立を目的としたタウPET プローブの病変選択性解明
22		社会参加と地域保健研究チーム	遠峰 結衣	一般財団法人 YS市庭コミュニティ財団	高齢者の運動習慣形成に向けた“スクワット・チャレンジ・プロジェクト”
23			成田 美紀	一般社団法人Jミルク	高齢者の牛乳・乳製品摂取及び食品摂取の多様性とフレイル・サルコペニアの予防に関する研究

No.	部門	研究チーム・診療科	研究担当者	助成機関	研究課題
24	研究部門	社会参加と地域保健研究チーム	北村 明彦	公益財団法人 日本中小企業福祉事業財団	高齢者の健康余命に及ぼすフレイル、生活習慣病の影響の検討
25			清野 諭	公益財団法人健康・体力づくり事業財団	大都市における住民主体の健康・体力づくり活動を創出するための社会システムの構築：アクションリサーチ
26				公益財団法人杉浦記念財団	地域ぐるみでフレイルを先送りする大都市モデルの構築：地域介入研究
27				公益財団法人長寿科学振興財団	大都市在住高齢者のフレイル予防・改善のための地域介入研究：クラスター比較試験
28			野中 久美子	公益財団法人杉浦記念財団	ICTを活用した生活支援サービスマッチングシステムの開発とケアプランへの応用：互助で表出したニーズを共助へつなぐシステムの開発
29		自立促進と介護予防研究チーム	岡村 毅	公益財団法人損保ジャパン日本興亜損保福祉財団	認知症の人の社会的包摂を実現するための稲作ケアの試み
30				公益財団法人日本生命財団	貧困と孤独にある高齢者を地域社会に包摂するための社会実装
31			大須賀 洋祐	公益財団法人三井住友海上福祉財団	新規簡易型認知パフォーマンステストと自動車運転能力関連指標との関連-都市部在住後期高齢者を対象とした研究-
32		福祉と生活ケア研究チーム	伊東 美緒	公益財団法人三井住友海上福祉財団	地域で生活する認知症高齢者の混乱を誘発する環境要因と対策
33				公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団	施設介護職の看取りの熟達を支援する目標段階別教育プログラムの開発
34				島田 千穂	公益財団法人三菱財団
35			公益財団法人トヨタ財団		治療優位の価値の再考：高齢者の急性期医療の決定に伴う医療者のジレンマから
36	平山 亮		公益財団法人トヨタ財団	性的マイノリティとして老いること——多様な生／性を受け容れる高齢社会の実現に向けて	
37	病院部門	糖尿病・代謝・内分泌内科	田村 嘉章	一般社団法人日本老年医学会	高齢者サルコペニアの成因における脳白質統合異常と新規バイオマーカーMusk、GDF15の関与-筋肉・脳連関の解明-
38		循環器内科	原田 和昌	ファイザー株式会社	循環器疾患に関する研究
39		泌尿器科	粕谷 豊	ファイザー株式会社	泌尿器疾患に関する研究
40		眼科	沼賀 二郎	ファイザー株式会社	眼疾患に関する研究
41				アルコンファーマ	後期高齢者、特に超高齢者の眼科疾患の診断・治療での問題点に対する検討
42		麻酔科	小倉 信	ファイザー株式会社	精神疾患に関する研究
43		病理診断科	新井 富生	公益財団法人喫煙科学研究財団	高齢者がんと遺伝子多型、喫煙の関連：病理解剖例を用いた遺伝子多型解析
44		臨床研究推進センター	森 聖二郎	ファイザー株式会社	筋骨格系疾患に関する研究

6 受託事業

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容	
1	研究部門	社会科学系副所長	新開 省二	公益財団法人いきいき埼玉	フレイル予防のための教材（指南書・動画）作成業務	
2		社会参加と地域保健研究チーム	鈴木 宏幸	豊島区	絵本読み聞かせ講演会及び講座委託	
3				板橋区	板橋区シニアの絵本読み聞かせ事業業務委託	
4				北区	絵本読み聞かせ教室の運営委託	
5				文京区	絵本の読み聞かせ講座運営委託	
6				秋田県	りぶりんと講座運営委託	
7				北村 明彦	草津町	平成29年度 国庫補助事業 草津町介護予防事業対象者把握業務委託
8		草津町	平成29年度 国庫補助事業 草津町にっこり健診結果報告会の開催			
9		草津町	平成29年度 町単事業 第7期草津町老人福祉・介護保険事業計画策定業務委託			
10		株式会社サンキュードラッグ	フレイル対策プログラム実施による効果検証、並びに監修委託			
11		藤原 佳典	Generations United	世代間で予防接種を大切にしよう（英語名 Value Vaccination Across Generations）日本キャンペーン2017		
12		自立促進と介護予防研究チーム	渡邊 裕	株式会社三菱総合研究所	平成29年度歯科保健サービスの効果実証事業（認知症重症化予防等）における研究計画の策定支援、研究参加者の選定・確保、介入プログラムの実施等の研究	
13			金 憲経	ふじみ野市	筋力アップトレーニング事業運動プログラム等業務委託	
14		福祉と生活ケア研究チーム	増井 幸恵	亀岡市	高齢期の幸福度に関する調査に係る分析業務委託	
15			伊東 美緒	港区	高齢者介護家族サポーター養成事業委託	
16			大湖 修一	多摩市	介護予防リーダー養成講座実施業務委託	
17				東大和市	リーダー養成講座論文指導	
18		高齢者健康増進事業支援室	大湖 修一	北区	北区介護予防事業評価業務委託	
19		介護予防推進支援センター	大湖 修一	東京都	平成29年度東京都介護予防推進支援センター運営業務委託	
20		病院部門	認知症支援推進センター	栗田 圭一	東京都福祉保健局	認知症支援推進センター設置事業委託
21					東京都福祉保健局	平成29年度東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅱの実施委託契約
22			脊椎外科	穴水 依人	メドトロニックソファモアダネック(株)	トレーニングコースの実施

7 学術指導

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容	
1	研究部門	老年病態研究チーム	上住 聡芳	サントリーウエルネス株式会社	PDGFR α 陽性細胞、および筋関連細胞の単離・培養における指導・助言	
2		老年病理学研究チーム	村山 繁雄	大日本住友製薬株式会社	ブレインバンク・バイオバンクの見学と利活用に関する意見交換及び指導	
3		老化制御研究チーム	石神 昭人	ハウスウェルネスフーズ株式会社	ビタミンCに関する店頭POP、WEBサイト、社内資料における助言・指導	
4				ハウスウェルネスフーズ株式会社	ビタミンCに関する媒体における助言・指導	
5		神経画像研究チーム	豊原 潤	住重加速器サービス株式会社	PET薬剤に用いる、薬剤合成についての研修委託	
6		社会参加と地域保健研究チーム	鈴木 宏幸	株式会社キャピタルメディカ	MCIスクリーニングテストMoCA日本語版の実施に関するメールおよび口頭指導	
7				一般社団法人 元気人	映像教材ならびに問題集の作成指導	
8				藤原 佳典	株式会社博報堂	認知症予防キャンペーンに関する指導
9				北村 明彦	味の素株式会社	「特定のアミノ酸組成物の継続摂取が食事量の低下した高齢者の栄養状態及び身体機能に与える効果の検証試験」における助言・指導
10		自立促進と介護予防研究チーム	金 憲経	株式会社 第一興商	「転倒予防」及び「尿失禁予防」に関する映像の制作に伴う指導、助言及び監修	
11		福祉と生活ケア研究チーム	大淵 修一	小金井市	デイサービス元気づくり拠点化事業委託	
12		高齢者健康増進事業支援室	大淵 修一	羽立工業株式会社	地域づくりによる介護予防の実証実験の指導	
13				浦安市	「浦安市サブスタッフ養成事業」学術指導委託	
14		実験動物施設	野田 義博	株式会社ラボテック	マウス生殖工学技術における学術指導	

8 科学研究費

(1) 文部科学省：科学研究費助成事業 【研究代表者】

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究(A)	藤原 佳典	社会参加と地域保健	大都市求職高齢者の実態解明およびシームレスな社会参加支援に向けた研究
	田中 雅嗣	老化制御（協力研究員）	世界の瞬発系・持久系選手の全ゲノム塩基配列解析による運動能力関連遺伝子の解明
	新開 省二	社会科学系副所長	全国高齢者代表標本におけるフレイルの出現率と心理・社会・経済的資源による格差
基盤研究(B)	遠藤 昌吾	老化脳神経科学	抗酸化物質が運動記憶へ及ぼす影響の解析とその分子機構の解明
	石神 昭人	老化制御	ビタミンC、Eの同時不足が記憶、学習行動、脂質代謝、老化、加齢疾患に及ぼす影響
	重本 和宏	老年病態	骨格筋の代謝変換の機構に基づくサルコペニアの病態解明
	大澤 郁朗	老化制御	分子状水素による抗炎症メカニズムの解明とその臨床応用のための基盤研究
	鈴木 宏幸	社会参加と地域保健	高齢期の認知機能低下を適切に評価するための心理検査開発に係る包括的研究

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究(B)	伊藤 雅史	老化機構	エクソソームによる前立腺がんの質的診断システムの開発
	高山 賢一	老化制御	前立腺癌のホルモン療法抵抗性獲得に至るエピゲノム調節機構の統合的解明と臨床応用
	金 憲経	自立促進と介護予防	フレイル重層化の早期予防を目的とした多面的支援システムの構築と効果検証
	小林江里香	社会参加と地域保健	高齢期における就労、地域、家庭内活動のバランスとコンフリクト
	北村 明彦	社会参加と地域保健	高齢者の健康余命に及ぼすフレイルと生活習慣病の中長期的影響の解明
	萬谷 博	老化機構	O-マンノース型糖鎖の構造多様性とその決定機構の解明
	西村 隆	老年病態 (協力研究員)	心拍同期制御を用いた補助人工心臓による広範囲心筋梗塞に対する新しい治療法の確立
	涌井 智子	福祉と生活ケア	地域循環型家族介護支援システムの構築に関する研究
基盤研究 (C)	船越 智子	老化制御	骨格筋幹細胞の老化：転写因子の局在変化を基盤とした筋分化・再生制御機構の解明
	周 赫英	老年病態	神経筋シナプス活動を反映する血中新規バイオマーカーを用いた身体活動性の予後評価
	増井 幸恵	福祉と生活ケア	高齢期のライフイベントへの心理的適応過程－老年的超越の役割の縦断的検討－
	内田 さえ	老化脳神経科学	嗅球コリン作動性神経系機能の発達・成長・老化
	石川 直	老年病理学	テロメア長を調節する分子機構の解明：iPS化のリプログラム現象を解析に活用して
	石崎 達郎	福祉と生活ケア	高齢者の慢性疾患併存パターンの実態把握と疾病管理法の研究開発
	下地 啓五	神経画像 (協力研究員)	複雑ネットワーク解析による認知症初期像の検討
	坂田 宗之	神経画像	脳FDG-PETおよびMRIと機械学習を用いた高精度な認知症自動鑑別診断
	宮崎 剛	老年病態 (協力研究員)	骨メカニカルストレス応答における骨細胞-破骨細胞の細胞間制御メカニズムの解明
	稲垣 宏樹	自立促進と介護予防	他者評価法による認知症高齢者の精神的健康度の評価
	森 秀一	老年病態	神経筋シナプスを標的としたサルコペニアのバイオマーカー確立に向けた研究
	三浦 ゆり	老化機構	健康長寿の指標となる糖鎖構造とその生物学的意義の解明
	河合 恒	福祉と生活ケア	スタチン誘発性ミオパチーの初期症状は高齢期の生活機能低下に影響するか
	三浦 正巳	老化脳神経科学	尾側線条体の新規機能領域と扁桃体入力 of 生理的意義－安全信号学習と恐怖条件付け
	津元 裕樹	老化機構	2段階クリック反応を利用した新規O-GlcNAc化プロテオーム解析法の開発と応用
	遠藤 玉夫	副所長 (自然科学系)	O-マンノース型糖鎖合成経路の解明
	新井 富生	老年病理学 (協力研究員)	高齢者胃癌の病理学的特徴とその発生に関連する遺伝子変化の解析
	川上恭司郎	老化機構	神経炎症におけるエクソソーム上ヒストンの役割の解明

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究 (C)	西村 誠	老年病理学 (協力研究員)	超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診による膵腫瘍と膵嚢胞におけるエクソソームの解析
	仙石 鍊平	老年病理学 (協力研究員)	Lewy小体病 (パーキンソン病) の病理学的アプローチによるバイオマーカーの確立
	徳丸 阿耶	老年病理学 (協力研究員)	画像統計解析と剖検所見に基づく認知症の鑑別診断
	平野 浩彦	自立促進と介護予防 (協力研究員)	アルツハイマー病およびレビー小体型認知症の摂食嚥下障害への対応に関する調査研究
	石渡 俊行	老年病理学	新たな膵癌分子標的のFGFR-4に対する個別化治療の研究
	渡邊 裕	自立促進と介護予防	ミラーニューロンシステムによる認知症食行動関連障害改善法の確立
	佐々木紀彦	老年病態	血管疾患に対するGM1を標的とした新たな予防・治療法開発に向けた基盤研究
	渡邊 信博	老化脳神経科学	疼痛性循環反応の可塑的变化に関する神経性機序の解明
	上住 円	老年病態	Pro-IGF-II シグナルを利用した安全性の高い老化筋再生促進治療法の開発
	時村 文秋	老年病態 (協力研究員)	整形外科領域における手術部位感染予防に関する多施設共同研究
	東 浩太郎	老化制御	乳癌悪性化を担うTRIMファミリー蛋白質の作用メカニズムと臨床応用
	藤田 泰典	老化機構	腸内細菌由来OMVの生理・病理的役割の解明
	島田 千穂	福祉と生活ケア	認知症高齢者の生活と医療の選択を支える終末期の段階的事前準備の方法の開発
	森 寛子	福祉と生活ケア	摂食・嚥下リハビリテーションの経口摂取改善要因と介護者の心理的支援に関する研究
	野田 義博	実験動物施設	酸化ストレスによって障害を受けた精子機能に対する分子状水素の改善効果
	堀田 晴美	老化脳神経科学	嚥下に伴う甲状腺からのホルモン分泌促進メカニズムの解明とフレイル予防への応用
	相田 順子	老年病理学	5年以上追跡されたバレット食道例のテロメア長とバレット癌の発生予測
	石井 賢二	神経画像	異なるタウイメージングトレーサーの同一被験者における直接比較と画像病理検証
松田 陽子	老年病理学 (協力研究員)	幹細胞における老化機序解明と組織再生へ向けた試み	
若手研究 (A)	本橋 紀夫	老年病態	骨格筋細胞における代謝変換誘導因子の探索
	涌井 智子	福祉と生活ケア	社会保障システムの継続性に資する家族・保険制度・地域社会の相互関係に関する研究
	桜井 良太	社会参加と地域保健	高齢者における歩行機能低下と認知機能低下の因果関係の解明
若手研究 (B)	小川まどか	自立促進と介護予防	高齢者が暮らす居宅の温熱環境が血圧・認知機能に及ぼす影響に関するフィールド研究
	清野 諭	社会参加と地域保健	サルコペニア予防に向けた通信型運動・栄養支援プログラムの開発
	池谷 真澄	老化制御	炎症反応と酸化ストレス応答のクロストークから探る分子状水素の抗炎症メカニズム解明
	中里 和弘	福祉と生活ケア	在宅における終末期ケアとの連続性から捉えたグリーフケア

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
若手研究 (B)	近藤 嘉高	老化制御	ビタミンC、Eの同時不足がエストロゲン欠乏マウスの皮膚に及ぼす影響
	板倉 陽子	老年病態	健康長寿を目指す高齢者心疾患における治療および予防のための糖鎖関連老化因子の解明
	櫻井 圭太	神経画像 (協力研究員)	「不均衡なクモ膜下腔の拡大」は正常圧水頭症に特異的か? 既病理確定例による検討
	村上 正治	自立促進と介護予防	サルコペニア概念を参考にした高齢者口腔機能低下モデルの検討に関する調査研究
	枝広あや子	自立促進と介護予防	認知症の摂食嚥下障害の多様性に配慮した経口摂取支援の検討
	井上 律子	老化脳神経科学	常同行動の神経基盤-線条体局所神経回路の生理的役割
	今江理恵子	老化機構	ホスファチジルイノシトール特徴的脂肪酸組成の生物学的意義の解明
	大須賀洋祐	自立促進と介護予防	高齢期における認知機能の低下を予測する新たなパフォーマンステストの開発
	平山 亮	福祉と生活ケア	非正規雇用の成人子における介護離職リスクの分析:「介護レディネス」に着目して
	谷口 優	社会参加と地域保健	高齢者における身体機能の加齢変化パターンの類型化及び早期身体機能低下の要因の解明
石橋 賢士	神経画像	新規mGluR1リガンドITMMの脊髄小脳変性症における診断薬としての有用性	
挑戦的萌芽研究	大澤 郁朗	老化制御	老化過程におけるミトコンドリア・クレスト構造のリアルタイムイメージング
	石神 昭人	老化制御	シトルリン化蛋白質を指標としたアルツハイマー病早期臨床検査試薬の開発
	鈴木 宏幸	社会参加と地域保健	囲碁を用いた認知機能低下抑制プログラムの開発と介入効果に関する総合的研究
挑戦的研究 (萌芽)	伊藤 雅史	老化機構	Mitochondrial particleを介した細胞間クロストークの解明
	宇良 千秋	自立促進と介護予防	認知症の人の包括的QOLに対する稲作ケアの効果
	岩本真知子	老化機構	糖尿病合併症としての認知症に関する診断指標の開発と予防戦略への発展
研究活動スタート支援	横山 友里	社会参加と地域保健	地域在住高齢者における食事摂取パターンとフレイルの関連に関する栄養疫学研究
	菅谷 麻希	老化機構	エクソソームによる集合管機能の新規評価システムの開発
	多胡 哲郎	神経画像	プロテインオパチ-発症機序解明のためのHDAC6選択的PETプローブの開発
	水之江雄平	老年病態	サルコペニアにおける筋繊維タイプ変化・代謝変換とオートファジー相互作用機構の解明

(2) 厚生労働省：厚生労働科学研究費補助金 【研究代表者・研究分担者】

研究事業	代表・分担の別	氏名	所属研究チーム	研究課題
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	研究分担者	新開 省二	社会科学系	健康に与えるロコモティブシンドロームの影響に関する研究
地域医療基盤開発推進研究事業	研究代表者	石崎 達郎	福祉と生活ケア	大都市圏における在宅医療の実態把握と提供体制の評価に関する研究
	研究分担者	光武 誠吾	福祉と生活ケア	
	研究分担者	石崎 達郎	福祉と生活ケア	健診ガイドラインの担う新たな役割とその展望に関する研究
長寿科学政策研究事業	研究代表者	枝広あや子	自立促進と介護予防	要介護高齢者の経口摂取支援のための歯科と栄養の連携を推進するための研究
	研究代表者	渡邊 裕	自立促進と介護予防	介護保険施設における利用者の口腔・栄養管理の充実に関する調査研究
難治性疾患等政策研究事業	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学	神経変性疾患領域における基盤的調査研究
	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学	プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究
	研究分担者	森 聖二郎	臨床研究推進センター	早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究
	研究分担者	田中 雅嗣	老化制御	ミトコンドリア病の調査研究
	研究分担者	杉原 毅彦	膠原病・リウマチ科	難治性血管炎に関する調査研究
認知症政策研究事業	研究代表者	栗田 圭一	自立促進と介護予防	若年性認知症の人の生活実態調査と大都市における認知症の有病率及び生活実態調査
政策科学総合研究事業	研究分担者	石崎 達郎	福祉と生活ケア	医療費適正化に向けた生活保護受給者の医薬品処方および生活習慣病の実態調査：大規模レセプト分析

9 日本医療研究開発機構委託研究開発 【研究代表者・研究分担者】

研究事業	代表・分担の別	氏名	所属研究チーム	研究課題
次世代がん医療創成研究事業	研究代表者	井上 聡	老化制御研究チーム	がん関連RNA結合タンパク質複合体を標的とした革新的治療法の開発
長寿・障害総合研究事業 長寿科学研究開発事業	研究代表者	平野 浩彦	歯科口腔外科	認知症高齢者に対する歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究
難治性疾患実用化研究事業	研究代表者	上住 聡芳	老年病態研究チーム	遺伝性筋疾患に対する新たな高効率細胞移植治療法の開発
	研究分担者	村山 繁雄	神経内科	進行性核上性麻痺及び類縁疾患を対象とした多施設共同コホート研究によるバイオマーカー開発と自然歴の解明
	研究分担者	田中 雅嗣	臨床検査科	①新規バイオマーカーGDF15の体外診断薬としての開発研究 ②ミトコンドリア病の生化学的解析・診断技術の開発 ③ミトコンドリア病の遺伝学的解析・診断技術の開発 ④ミトコンドリア病の診断・治療アルゴリズムの策定

研究事業	代表・分担の別	氏名	所属研究チーム	研究課題
難治性疾患実用化研究事業	研究分担者	村山 繁雄	神経内科	剖検例を用いた、紀伊ALS/PDC 診療ガイドラインの作製と臨床研究の推進
認知症研究開発事業	研究代表者	栗田 圭一	自立促進と介護予防研究チーム	若年性認知症の有病率・生活実態把握と多角的データ共有システムの開発
臨床ゲノム情報統合データベース整備事業	研究分担者	村山 繁雄	神経内科	認知症臨床ゲノム情報データベース構築に関する開発研究
臨床研究・治験推進研究事業	研究代表者	田中 旬	循環器内科	治験の実施に関する研究 [エプレレノン]
革新的先端研究開発支援事業	研究分担者	萬谷 博	老化機構研究チーム	筋萎縮モデルにおける機械受容・応答の分子基盤の解析
再生医療実用化研究事業	研究分担者	豊田 雅士	老年病態研究チーム	糖鎖マーカーに着目した細胞の長期保存後における細胞特性の解析
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	研究分担者	村山 繁雄	神経内科	脳卒中後てんかんの急性期診断・予防・治療指針の策定
長寿・障害総合研究事業 認知症研究開発事業	研究分担者	荒木 厚	糖尿病・代謝・内分泌内科	糖尿病とフレイル、および脳画像解析
	研究分担者	栗田 圭一	自立促進と介護予防研究チーム	認知症の人のQOL測定指標の妥当性およびその臨床応用の検討
	研究分担者	石井 賢二	自立促進と介護予防研究チーム	大都市部コホートの追跡調査から認知機能の維持者及び軽度低下者の登録と関連要因の探索
	研究分担者	金 憲経	神経画像研究チーム	適切な医療を目指した前臨床期アルツハイマー病および軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究
	研究分担者	石井 賢二	神経画像研究チーム	プレクリニカルADに対するMRI, PET画像診断とバイオマーカー・遺伝子解析
	研究分担者	石井 賢二	神経画像研究チーム	若年性優性遺伝性アルツハイマー病に関する多角的臨床データ収集と共有化による効率的な病態解明 (DIANJ)
	研究分担者	伊東 美緒	福祉と生活ケア研究チーム	BPSDの解決につなげる各種評価法とBPSDの包括的予防・治療指針の開発～笑顔で穏やかな生活を支えるポジティブケア
	研究分担者	石井 賢二	神経画像研究チーム	各種のリガンドを用いたアミロイドPETおよび髄液 $\alpha\beta$ と、血液バイオマーカーとの定量的相関関係の解析
	研究分担者	渡邊 裕	自立促進と介護予防研究チーム	要介護高齢者半減を目指した日常生活動作指標の開発とテラーメイド型介入方法の検証
研究分担者	増井 幸恵	福祉と生活ケア研究チーム	高齢者の自立度を測定する効果的調査票の開発と検証	
難治性疾患実用化研究事業	研究分担者	萬谷 博	老化機構研究チーム	CDP-リビトール補充療法の開発
	研究分担者	村山 繁雄	神経内科	神経筋難病の病態解明のためのトランスクリプトーム解析
脳科学研究戦略推進プログラム	研究分担者	村山 繁雄	神経内科	老化・認知症拠点の構築
臨床ゲノム情報統合データベース整備事業	研究分担者	新井 富生	病理診断科	ゲノム創薬・医療を指向した全国規模の進行固形がん、及び、遺伝性腫瘍臨床ゲノムデータストレージの構築

10 研究委託費

事業名等	事業実施機関 (委託者)	研究担当者	研究チーム ・診療科	研究課題
研究成果展開事業 (先端計測分析技術・機器開発プログラム)	科学技術振興機構 /東京工業大学	豊原 潤	神経画像研究チーム	PETプローブの小型シンプル自動合成装置の開発
戦略的創造推進事業	日本学術振興会	藤原 佳典	社会参加と地域保健研究チーム	ジェネラティビティで紡ぐ重層的な地域多世代共助システムの開発
先導的人社事業	日本学術振興会	藤原 佳典	社会参加と地域保健研究チーム	『課題設定による先導的人文学・社会科学的研究推進事業』(実社会対応プログラム)「多世代協働による生活支援モデルの開発と社会実装に向けた研究」
革新的自殺研究推進プログラム 研究事業	自殺総合対策推進センター	藤原 佳典	社会参加と地域保健研究チーム	高齢者ボランティアと協働するソーシャル・キャピタル強化による自殺対策の推進に向けた研究
オーダーメイド医療の実現プログラム	東京大学	森 聖二郎	臨床研究推進センター	バイオバンクの構築と臨床情報データベース化」(DNAサンプル及び臨床情報の収集)
成育医療研究開発費	国立成育医療研究センター	豊田 雅士	老年病態研究チーム	成育疾患に対する再生医療に関する研究
精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療センター	遠藤 玉夫	副所長(自然科学系)	筋ジストロフィー関連疾患の分子病態解明とそれに基づく診断法・治療法開発
		村山 繁雄	神経内科	NCNPブレインバンクの運営および生前登録システムの推進
		上住 聡芳	老年病態研究チーム	ジストロフィン欠損モデル動物を基盤とした筋ジストロフィーの新しい治療法開発
長寿医療研究開発費	国立長寿医療研究センター	栗田 圭一	自立促進と介護予防研究チーム	認知症の救急医療の課題解決に向けた研究
		荒木 厚	内科総括部長	要介護高齢者、フレイル高齢者、認知症高齢者に対する栄養療法、運動療法、薬物療法に関するガイドライン作成に向けた調査研究
		荒木 厚	内科総括部長	高齢者における認知症や脳血管障害の発症に脳小血管病が関与する臨床的意義の解明
		荒木 厚	内科総括部長	フレイル高齢者のレジストリ研究及び地域高齢者におけるフレイル予防プログラムの開発・検証
		大淵 修一	福祉と生活ケア研究チーム	
		仙石 錬平	脳卒中内科	国立長寿医療研究センター・東京都健康長寿医療センターの共同事業による長寿バイオリソースの構築並びに認知症の発症病態研究
		金 憲経	自立促進と介護予防研究チーム	長寿コホートの総合的研究
		藤原 佳典	社会参加と地域保健研究チーム	
		北村 明彦	社会参加と地域保健研究チーム	
		大淵 修一	福祉と生活ケア研究チーム	
渡邊 裕	自立促進と介護予防研究チーム			

事業名等	事業実施機関 (委託者)	研究担当者	研究チーム ・診療科	研究課題
-	公益財団法人 日本糖尿病財団	荒木 厚	内科総括部長	2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制 のための強化療法と従来治療とのランダム化 比較試験 (J- DOIT3)

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター年報

平成30年9月発行

この年報について、ご意見・お問い合わせ等がございましたら、下記までお寄せください。

編集・発行 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
経営企画局事務部総務課

〒173-0015 東京都板橋区栄町35番2号

☎03 (3964) 1141 (代)

印刷 有限会社太平印刷

〒171-0051 東京都豊島区长崎6-22-10

☎03 (3957) 3911

石油系溶剤を含まないインキを使用しています



古紙配合率70%再生紙を使用しています